飯塚市新体育館等建設工事

実施設計図

（意匠図）

令 和　元 年 11 月

株式会社　梓設計 九州支社

物件名称：飯塚市新体育館等建設工事

一連番号	図面番号	図面名称	一連番号	図面番号	図面名称	一連番号	図面番号	図面名称	一連番号	図面番号	図面名称
01	A－001	図面リスト	51	A－050	水廻り詳細図(3)	100	A－100	オペレーターシステム図(2)	148	G－001	外構工事 工区 区割り平面図
02	A－002	建築工事特記仕様書（１）	52	A－051	水廻り詳細図(4)	101	A－101	オペレーターシステム図(3)	149	G－002	1工区-A 施設・植栽平面図
03	A－003	建築工事特記仕様書（２）	53	A－052	水廻り詳細図(5)	102	A－102	オペレーターシステム図(4)	150	G－003	1工区-A 雨水排水平面図
04	A－004	建築工事特記仕様書（３）	54	A－053	耐火構造詳細図・壁種別図	103	A－103	オペレーターシステム図(5)	151	G－004	1工区-B 施設・雨水排水平面図
05	A－005	建築工事特記仕様書（４）	55	A－054	雨水排水計画図(1)	104	A－104	オペレーターシステム図(6)	152	G－005	施設構造図-1(全工区共通)
06	A－006	建築工事特記仕様書（５）	56	A－055	雨水排水計画図(2)	105	A－105	部分詳細図(1)	153	G－006	施設構造図-2(全工区共通)
07	A－007	建築工事特記仕様書（６）	57	A－056	雨水排水計画図(3)	106	A－106	部分詳細図(2)	154	G－007	施設構造図-3(全工区共通)
08	A－008	建築工事特記仕様書（７）	58	A－057	雨水排水計画図(4)	107	A－107	部分詳細図(3)	155	G－008	施設構造図-4(1工区-A・3工区)
09	A－009	建築工事特記仕様書（８）	59	A－058	1階平面詳細図(1)	108	A－108	部分詳細図(4)	156	G－009	第一駐車場入口部歩道改良図
10	A－010	建築工事特記仕様書（９）	60	A－059	1階平面詳細図(2)		A－109	部分詳細図(5)			
11	A－011	建築工事補足仕様書（１）	61	A－060	1階平面詳細図(3)	109	A－110	部分詳細図(6)			
12	A－012	建築工事補足仕様書（２）	62	A－061	1階平面詳細図(4)	110	A－110－2	部分詳細図(6-2)			
13	A－013	建築工事補足仕様書（３）	63	A－062	2階平面詳細図(1)	111	A－110－3	部分詳細図(6-3)	157	L－001	1階法チェック図
14	A－014	建築工事補足仕様書（４）	64	A－063	2階平面詳細図(2)	112	A－111	屋根詳細図(1)	158	L－002	2階法チェック図
15	A－015	建築工事補足仕様書（５）	65	A－064	2階平面詳細図(3)	113	A－112	屋根詳細図(2)	159	L－003	トラス階法チェック図
16	A－016	建築工事補足仕様書（６）	66	A－065	2階平面詳細図(4)	114	A－113	車いす駐車場用底詳細図			
17	A－017	耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図	67	A－066	展開図(1)	115	A－114	キャノピー詳細図(1)			
18	A－018	配置図・案内図	68	A－067	展開図(2)	116	A－115	キャノピー詳細図(2)			
19	A－019	現況敷地図	69	A－068	展開図(3)	117	A－116	鋼製床組詳細図(1)			
20	A－020	敷地求積図	70	A－069	展開図(4)	118	A－117	鋼製床組詳細図(2)			
21	A－021	平均地盤面算定図	71	A－070	展開図(5)		A－118				
22	A－022	建物求積図・面積表	72	A－071	展開図(6)	119	A－119	移動式観覧席詳細図(1)			
23	A－023	外部仕上表・内部仕上表(1)	73	A－072	展開図(7)	120	A－120	移動式観覧席詳細図(2)			
24	A－024	内部仕上表（２）	74	A－073	1階天井伏図	121	A－121	移動式観覧席詳細図(3)			
25	A－025	ピット階平面図	75	A－074	2階天井伏図	122	A－122	固定式観覧席詳細図(1)			
26	A－026	1階平面図	76	A－075	トラス階天井伏図	123	A－123	固定式観覧席詳細図(2)			
27	A－027	2階平面図	77	A－076	1階建具キープラン	124	A－124	カーテン・ロールスクリーンレール詳細図(1)			
28	A－028	PH階平面図	78	A－077	2階建具キープラン	125	A－125	カーテン・ロールスクリーンレール詳細図(2)			
29	A－029	トラス階平面図	79	A－078	PH階建具キープラン	126	A－126	吊りバトン詳細図(1)			
30	A－030	R階平面図	80	A－079	トラス階建具キープラン	127	A－127	吊りバトン詳細図(2)			
31	A－031	立面図(1)	81	A－080	建具工事特記仕様書	128	A－128	メインアリーナコート配置図			
32	A－032	立面図(2)	82	A－081	建具表(1)	129	A－129	メインアリーナ基礎配置図			
33	A－033	断面図(1)	83	A－082	建具表(2)	130	A－130	多目的ホール コート配置図・基礎配置図・畳配置図			
34	A－034	断面図(2)	84	A－083	建具表(3)	131	A－131	セパレーターネット図			
35	A－034-2	断熱範囲図	85	A－084	建具表(4)	132	A－132	1階サインキープラン			
36	A－035	矩計図(1)	86	A－085	建具表(5)	133	A－133	2階サインキープラン			
37	A－036	矩計図(2)	87	A－086	建具表(6)	134	A－134	PH階サインキープラン			
38	A－037	矩計図(3)	88	A－087	建具表(7)	135	A－135	外構サインキープラン			
39	A－038	矩計図(4)	89	A－088	建具詳細図(1)	136	A－136	サイン詳細図(1)			
40	A－039	矩計図(5)		A－089	建具詳細図(2)	137	A－137	サイン詳細図(2)			
41	A－040	矩計図(6)	90	A－090	建具詳細図(3)	138	A－138	サイン詳細図(3)			
42	A－041	矩計図(7)	91	A－091	建具詳細図(4)	139	A－139	昇降機詳細図(1)			
43	A－042	矩計図(8)	92	A－092	建具詳細図(5)	140	A－140	昇降機詳細図(2)			
44	A－043	階段詳細図(1)	93	A－093	建具詳細図(6)	141	A－141	家具詳細図（１）			
45	A－044	階段詳細図(2)	94	A－094	建具詳細図(7)	142	A－142	家具詳細図（２）			
46	A－045	階段詳細図(3)	95	A－095	建具詳細図(8)	143	A－143	家具詳細図（３）			
47	A－046	階段詳細図(4)	96	A－096	建具詳細図(9)	144	A－144	家具詳細図（４）			
48	A－047	階段詳細図(5)	97	A－097	建具詳細図(10)	145	A－145	仮設計画図(1)			
49	A－048	水廻り詳細図(1)	98	A－098	建具詳細図(11)	146	A－146	仮設計画図(2)			
50	A－049	水廻り詳細図(2)	99	A－099	オペレーターシステム図(1)	147	A－147	仮設計画図(3)			

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 幸	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 001	
図面リスト	縮尺 1/1:non A3:non	日付 2019・11・15	

Ⅰ. 設計概要

一般事項

建物名称	飯塚市新体育館	所在地	飯塚市鯰田1560番地5
建築主	飯塚市	用途	観覧場、体育館
工事種目	⊖新築 ・増築 ・改築 ・改修 ・その他（ ）		
用途地域	第一種中高層住居専用地域	防火地域	22条地域
その他の地域地区	・特別用途地区		
建ぺい率	60 %	容積率	200 %
工期	着工：平成 年 月 日 ― 竣工：平成 年 月 日		
既成工期	着工：平成 年 月 日 ― 竣工：平成 年 月 日		

建築概要

敷地面積	28,499.55 ㎡		
総建築面積	7,828.03 ㎡	建ぺい率	27.47 %
延べ床面積	9,032.63 ㎡	容積率	31.47 %
容積率対象床面積	8,967.80 ㎡	容積対象外床面積	64.83 ㎡
道路種別	42条、1項、1号	道路幅員	9.8m
敷地状況	解体、造成済、更地		

線別概要

線名	① 体育館	② 車いす駐車場用庇	③ キャノピー
階数	2	1 階	1 階
軒高	16.030	3.200	2.502
最高の高さ	16.810	3.310	2.622
基礎下端	1.65	1.38	0.60
構造種別	⊖耐震構造・免震構造	⊖耐震構造・免震構造	⊖耐震構造・免震構造
地業	直接基礎	直接基礎	
建築面積	7,528.67	210.60	68.16
	消防法別表1（普通・無窓）	消防法別表1（普通・無窓）	消防法別表1（普通・無窓）
構造制限	⊖耐火 ・準耐火 ・制限無	⊖耐火 ・準耐火 ⊖制限無	⊖耐火 ・準耐火 ⊖制限無
各階床面積 PH階	30.89 ㎡ 項（普・無）	㎡ 項（普・無）	㎡ 項（普・無）
各階床面積 2階	2,632.07 ㎡ 項（普・無）	㎡ 項（普・無）	㎡ 項（普・無）
各階床面積 1階	6,231.57 ㎡ 項（普・無）	117.50 ㎡ 項（普・無）	- ㎡ 項（普・無）
各階床面積 合計	8,894.53 ㎡ 項	117.50 ㎡ 項	- ㎡ 項

線名	④ 防災車屋(1)	⑤ 防災車屋(2)	
階数	1 階	1 階	
軒高	2.340 m	2.340 m	m
最高の高さ	3.047 m	3.047 m	m
基礎下端	0.65 m	0.65 m	
構造種別	⊖耐震構造・免震構造	⊖耐震構造・免震構造	・耐震構造・免震構造
地業	直接基礎	直接基礎	
建築面積	10.30 ㎡	10.30 ㎡	㎡
	消防法別表1（普通・無窓）	消防法別表1（普通・無窓）	消防法別表1（普通・無窓）
構造制限	・耐火 ・準耐火 ⊖制限無	・耐火 ・準耐火 ⊖制限無	・耐火 ・準耐火 ・制限無
各階床面積 階	㎡ 項（普・無）	㎡ 項（普・無）	㎡ 項（普・無）
各階床面積 1階	10.30 ㎡ 項（普・無）	10.30 ㎡ 項（普・無）	㎡ 項（普・無）
各階床面積 合計	10.30 ㎡ 項	10.30 ㎡ 項	㎡ 項
外部仕上げ	仕上げ表による		
内部仕上げ	仕上げ表による		

注：以下、⊖のついたものを適用する。

電気設備

方式	設備概要
受電設備	⊖ 3φ 3W 6600V 60Hz ・屋内形 ⊖屋外形
発電設備	⊖ 3φ 3W 210V 60Hz
	⊖ディーゼル機関 ・ガスタービン （⊖キュービクル形 ・開放形 ・ ）
電力貯蔵設備	・直流電源装置 （ ・鉛 ・アルカリ ）
	・交流無停電電源装置（ ・鉛 ・アルカリ ）
幹線設備	⊖動力（ 3φ 3W 200V ）⊖電灯（ 1φ 3W 200V/100V ）
通信・情報設備	⊖構内情報通信網設備（⊖配管 ⊖ケーブル ⊖ネットワーク機器 ）⊖構内交換設備（⊖デジタルPBX ・VoIP）
	⊖情報表示設備（・マルチサイン装置 ・出退表示装置 ⊖時刻表示装置 ）⊖映像音響設備
	⊖拡声設備（ ・業務用 ・非常用 ⊖業務用非常用兼用 Ⅱ 回線 ）
	⊖誘導支援設備 ・音声誘導装置 ・インターホン（・保守用 ・外部受付用 ・ ）
	⊖トイレ等呼出装置 ・受付呼出装置
	⊖テレビ共同受信設備（⊖UHF ⊖BS ・CS ⊖110°CS ・124°128°CS ）
	・テレビ電波障害防除設備 ⊖監視カメラ設備（・アナログ伝送 ⊖ネットワーク伝送）
	・駐車場管制設備 ⊖防犯・入退室管理設備（⊖防犯装置 ・入退室管理装置）
自動火災報知設備	⊖P型 級 回線（・単独 ・複合 ） ・自動閉鎖装置 ・ｶﾞｽ漏れ
雷保護設備	・JIS A4201-1992 ・JIS A4201-2003（・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ） ・受雷部（・笠木 ・突針 ・棟上導体）
警報監視制御設備	・警報盤 ・簡易型監視制御装置 ・監視制御装置

給排水衛生設備

上水供給方式	・水道直結式 ・増圧給水方式 ・高置水槽式 ⊖加圧ポンプ式
雑用水(中水)	・水源（・処理水 ⊖雨水 ・井水）｜・供給方法（・高置水槽式⊖加圧ポンプ式・ ）
給湯方式	・中央（・貯湯式・瞬間式 ・ガス・電気）｜⊖個別式（⊖貯湯式・瞬間式）（・ガス ⊖電気）
排水方式	⊖直接放流 ・浄化槽 ・屋内（⊖分流式・合流式）・屋外（⊖分流式・合流式）
消火設備	⊖屋内消火栓・屋外消火栓⊖スプリンクラー・不活性ガス・泡消火・連結送水管・
ガス設備	・都市ガス ・液化石油ガス（・ボンベ ・バルク）

空気調和設備

エネルギー	⊖電気 ・ガス（・都市 ・液化石油ガス） ・油（・重油 ・灯油） ・廃熱利用
熱源方式	⊖中央熱源 ⊖個別空調 ・地域熱源
熱源機器	・冷凍機 ・ボイラー（温水発生器含） ⊖ヒートポンプ冷凍機 ・冷温水発生機
	・蓄熱槽 ・氷蓄熱ユニット ・コジェネレーション
配管方式	⊖冷温水配管（⊖2管式 ・4管式） ⊖冷媒配管（⊖2管式 ・3管式）
空調ｼｽﾃﾑ方式	⊖単一ダクト ・単一ダクト＋ファンコイルユニット ・ファンコイルユニット
	・パッケージ形空調機（床置） ⊖空冷ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟﾊﾟｯｹｰｼﾞ（⊖マルチタイプ ・セパレート）
	・ガスエンジンヒートポンプユニット ・氷蓄熱ヒートポンプユニット ・小型水熱源ヒートポンプユニット
換気方式	⊖中央 ⊖個別 ⊖第1種 ⊖第2種 ⊖第3種 ⊖自然換気システム
排煙方式	⊖自然 ・機械 ⊖告示免除 ・避難安全検証法
自動制御	・電気 ・電子（・デジタル調節器） ⊖デジタル（⊖DDC、中央監視装置）

昇降機設備

エレベーター	⊖乗用 ・車椅子兼用 ・荷物用（ kg） ⊖ 13人乗 ⊖ 45m/分 ⊖ 1台
	⊖乗用 ・車椅子兼用 ・荷物用（ kg） ・ 人乗 ・ m/分 ・ 台
非常用エレベーター	・ ・ 人乗 ・ m/分 ・ 台
エスカレーター	・ ・幅 mm ・ 基

機械駐車備

乗り入れ方式	・
適用車種（収容台数）	・大型車用（ 台） ・中型車用（ 台） ・中小型車用（ 台）

注：以下、記入値及び ※、⊖のついたものを適用する。

設計気象条件

気象条件 外気温湿度	夏：31.9 ℃、 77 % 冬：1.0 ℃、 71 %
積雪量	0.25 m（ 2 kg/㎡・cm） 多雪区域の指定 ・指定あり ⊖指定なし
凍結深度	0 cm
最多降水量	29 mm/10min
風向	年間最多：南南東 冬：南南東
風圧力	建築基準法に基づき定められた風速（Vo）⊖34.0m/s 地表面粗度区分：・Ⅰ ・Ⅱ ⊖Ⅲ ・Ⅳ
耐風性能分類 設計条件	耐風性能分類（「官庁施設の基本的性能基準」に準ずる）（W:風圧力,再現期間）
構造体	・Ⅰ(1.3W,200年) ⊖Ⅱ(1.15W,100年) ※Ⅲ(1.0W,50年:建基法) ・
建築非構造部材	・Ⅰ(1.3W,200年) ※Ⅱ(1.15W,100年) ・Ⅲ(1.0W,50年:建基法) ・
建築設備	・Ⅰ(1.3W,200年) ※Ⅱ(1.15W,100年) ・Ⅲ(1.0W,50年:建基法) ・
その他	・風洞実験による ・時刻歴応答解析による ・

騒音規制

	昼間	朝・夕	夜間
第種地域	60 dB以下	50 dB以下	50 dB以下
第種地域	昼間	朝・夕	夜間
	dB以下	dB以下	dB以下

耐震安全性の分類他

「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」耐震安全性の分類に準ずる

施設分類等	
構造体	・Ⅰ⊖Ⅱ・Ⅲ
建築非構造部材	⊖A ・B
建築設備	・甲 ⊖乙
	⊖特定 ・一般
エレベーターの耐震クラス	・S ⊖A
エスカレーターの耐震処置	・

※ 昇降機の耐震処置は「昇降機技術基準の解説」2016年版による

設計水平震度

※耐震構造の水平震度は以下による

建築非構造部材の水平震度は下表による

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
A類	1.0	1.0	0.6
B類	1.0	0.6	0.4

建築設備の水平震度は下表による

イ 重要機器(水槽類を除く,防振支持の機器については、括弧内の数字)

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
特定	2.0 (2.0)	1.5 (1.5)	1.0 (1.0)
一般	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)

ロ 一般機器(水槽類を除く,防振支持の機器については、括弧内の数字)

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
特定	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
一般	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

ハ 重要水槽

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
特定	2.0	1.5	1.5
一般	1.5	1.0	1.0

ニ 一般水槽

分類	上層階、屋上及び塔屋	中間階	1階及び地階
特定	1.5	1.0	1.0
一般	1.0	0.6	0.6

■注意事項
①建築非構造部材の定義
1,外壁及びその仕上げ
2,建具及びガラス
3,間仕切り及び内装材
4,天井及び床材
5,屋根材
6,造り付けの家具及び事務機器類
7,外構その他
②建築設備の重要機器等の指定は、電気・機械設備工事特記仕様書による。
③鉛直震度は各々の水平震度の1/2とする。

場所		建物(棟名) ①	②	③
上層階、屋上及び塔屋	上層階の定義 ・2～6階建の場合は最上階 ・7～9階建の場合は上層2階 ・10～12階建の場合は上層3階 ・13階建以上の場合は上層4階	屋上及び塔屋 階 ～ 3 階	屋上及び塔屋 階 ～ 階	屋上及び塔屋 階 ～ 階
中間階	上記以外、下記以外	2 階 ～ 1 階	階 ～ 階	階 ～ 階
1階及び地階	地階 但し、1階＝1階の床面のみ	1階及び地階	1階及び地階	1階及び地階

Ⅱ. 工事発注形態

Ⅲ. 工事区分

注：該当項目は番号に◯印の付いたものを適用する。区分は⊖印か、※印のない場合は※印のついたものを適用する。

分類	項目	建築	電気	空調	衛生	昇降	機駐	土木	別途
1 共通	1. 工事用電力、上下水道、ガス引込み工事（引込み負担金を含む）	※							
	2. 工事用電力、上下水道、ガス使用料金（基本料金を含む）	※	※	※	※	※	※		
	3. 本設電力引込み工事		※						
	4. 本設上水引込み工事				※				
	5. 本設下水引込み工事				※				
	6. 本設ガス引込み工事				※				
	7. 本設電力引込み負担金		・						※
	8. 本設上水引込み負担金				・				※
	9. 本設下水引込み負担金				・				※
	10. 本設ガス引込み負担金				・				※
	11. 本設受電後引き渡し迄の基本料金	※	※	※	※	※	※		・
	本設受電後引き渡し迄の使用料金	※	※	※	※	※	※		
	12. 本設後引き渡し迄の上水基本料金	※	※	※	※	※	※		・
	本設後引き渡し迄の上水使用料金	※	※	※	※	※	※		
	13. 本設後引き渡し迄の下水基本料金	※	※	※	※	※	※		・
	本設後引き渡し迄の下水使用料金	※	※	※	※	※	※		
	14. 本設後引き渡し迄のガス基本料金	※	※	※	※				・
	本設後引き渡し迄のガス使用料金	※	※	※	※				
	15. 本設電話引込み工事	※	※						
	16. 本設電話引込み負担金		・						※
	17. 工事上の各種申請、届出費用	※	※	※	※	※	※		
	18. 既存上下水道、ガス管の撤去及び手続き（届出費用を含む）	※			・				
	19. 工事施工に関する電波障害調査	・							
	20. 工事施工に関する電波障害対策工事	・							
2 機械基礎	1. 大規模な機器類の基礎の製作及び設置	※	・	・	・				
	2. 同上アンカーボルトの箱入れ、埋込み設置	・	※	※	※				
	3. 小規模な機器類の基礎や架台の製作及び設置	・	※	※	※				
	4. 外灯基礎の製作及び設置		※						
	5. 設備機器類の取付け用インサート及び吊りボルトの製作及び設置		※	※	※	※	※		
	6. S造の設備機器類吊り下げ用取付け金物の製作及び設置	※							
3 躯体貫通	1. 地中梁の連通管、通気管及び人通孔の製作、設置及び補強	※							
	2. 地下室等の二重壁内の水抜き管の製作及び設置	※							
	3. S、SRC造梁貫通鋼管スリーブの製作、設置及び補強	※							
	4. RC造梁貫通スリーブの製作及び設置	※	※	※	※	※	※		
	5. 同上補強	※							
	6. 床や壁の貫通及び半貫通部分のスリーブ、箱等の製作及び設置	※	※	※	※	※	※		
	7. 同上補強	※							
	8. 各貫通穴あけ箇所の空隙充填及び補修	※	・	・	・	・	・		
	9. 梁貫通予備スリーブの孔塞の製作、設置及び耐火被覆	※	・	・	・	・	・		
	10. 防火区画、排煙区画床、壁貫通部処理	※	※	※	※	※			
4 躯体以外の開口・貫通	1. 工場製作の床パネル、間仕切り壁類の開口、取付け枠の製作、設置及び補強	※							
	2. 現場製作の床、間仕切り壁類の開口、取付け枠の製作、設置及び補強	※	※	※	※	※	※		
	3. 間仕切り壁開口部の空隙充填及び補修	※	※	※	※	※	※		
	4. 天井付各種機器類の取付け用の開口、取付け枠の製作、設置及び補強（吹出口、吸込口等を含む）	※							
	5. 床や壁の直付け各種器具類の取付け枠の製作、設置及び補強	※	※	※	※	※	※		
	6. ブロック、れんがへの設備機器取付け用開口、取付け枠の製作、設置及び補強	※							
	7. ALC版、押出し成形セメント板、PC版類の設備機器取付け用開口、取付け枠の製作、設置及び補強	※							
	8. 床や壁の石材面の設備機器取付け用開口の製作	※							
5 ピット・マンホール・水槽等	1. 湧水槽、蓄熱槽等の各種水槽の躯体断熱層、内外の防水及び仕上げ	※							
	2. 同上マンホール蓋及びタラップの設置	※							
	3. 屋内の排水溝、配管ピット及び配線ピットの内外の防水及び仕上げ	※					・		
	4. 同上付属蓋類の設置	※	・	・	・				
	5. 同上内設備配管類の架台の製作及び設置		※	※	※				
	6. 屋内の電気引込み用マンホール及びタラップの設置	※							
	7. 電気設備用ハンドホール及びマンホール蓋の設置		※						
	8. 屋内マンホールの躯体、鋳鉄蓋及び化粧蓋の設置	※	※						
	9. 屋外マンホールの躯体、鋳鉄蓋の設置	※	※	※	※				
	10. 屋外マンホールの化粧蓋の設置	※	※	※	※				
	11. 同上化粧蓋の仕上	※							
	12. 浄化槽設備の躯体、内外防水及び仕上げ	※			・				
	13. 同上用マンホール蓋及びタラップの設置	※			・				
	14. 排水槽、浄化槽等の内外装置の設置				※				
	15. 湧水槽、蓄熱槽等用液面電極取付け座の設置		※	※	※				
	16. 同上用各種濁減水警報、液面電極棒取付け		※		※				
	17. 同上用電気配管配線		※						
6 点検口・ガラリ	1. 設備機器及び配管配線用の床、壁及び天井の点検口の製作及び設置	※	・	・	・	・	・		
	2. 外壁に取りつく給排気用ガラリの製作及び配置（接続用アングル、防鳥ネットを含む）	※		・					
	3. 同上外壁ガラリのウェザーカバー及びチャンバーの製作及び設置	・		※					
	4. 内壁等に取りつく吹出口、吸込口のガラリ等の製作及び設置			※					
	5. 同上化粧用特殊ガラリの製作及び設置	※							
	6. 各室建具ガラリの製作及び設置	※							
7 雨水排水工事	1. ルーフドレイン類、軒樋及び縦どいの設置	※							
	2. 同上凍結防止ヒーター装置の設置		※						
	3. 同上縦どいの第一桝への配管接続	※			・				
	4. 同上第一桝の製作及び設置	※			・				
	5. 雨水利用時、貯留槽への流入配管接続	※			・				
	6. 同上貯留槽への流入遮断弁の設置								
	7. 同上貯留槽からのオーバーフロー管の設置								
	8. 同上貯留槽以降の雨水利用設備								
8 便所・浴室・湯沸室等	1. 流し台、ガス台、戸棚及びフードの製作及び設置	※			・				
	2. 同上給排水管及び排水金物の接続				※				
	3. 同上フードへのダクト接続			※	・				
	4. 洗面化粧台の製作及び設置	※			・				
	5. 同上給排水管接続				※				
	6. 同上陶製洗面器の設置				※				
	7. 既製浴槽の設置	※							
	8. ユニットバス・ユニットシャワー類の設置	※							
	9. 同上給排水管接続				※				
	10. 同上ダクト接続			※					
	11. 同上一次側電気配管配線		※						
	12. 既製化粧鏡の設置	・			※				
	13. 特注化粧鏡の設置	※			・				
	14. 大便器等水平区画の耐火区画の製作及び設置				※				
	15. 手すり、ベビーベット、ベビーチェアー	※							
9 防火設備（防火戸等）	1. 防火（煙）シャッターの製作・設置及び自動閉鎖装置の製作及び設置	※							
	2. 同上用連動制御盤と感知器との製作と設置及び配管、配線工事		※						
	3. 防火戸の扉、枠の製作・設置（自動閉鎖装置用切り込み補強共）	※							
	4. 同上用自動閉鎖装置、連動制御盤及び感知器の製作と設置及び配管、配線工事		※						
	5. 可動式防煙壁の製作・設置及び自動降下装置蓄電装置の製作及び設置	※							
	6. 同上用連動制御盤、感知器の製作・設置及び配管配線工事		※						
	7. 電動式排煙窓の開放装置の製作、設置及び二次側配管配線工事	※							
	8. セキュリティー区画等に用いる扉の配管配線用ボックスの製作及び設置	※							
	9. 同上用配管工事		※						
	10. 同上用配線及び装置の製作及び設置		・					※	
	11. 防火区画、排煙区画床、壁貫通部処理	※	※	※	※	※			
	12. 機械排煙口、排煙ダンパーの製作・設置及び手動開閉装置の製作及び設置	・		※					
	13. 同上用配管、配線工事（受信機～機械排煙口）		※						
	14. 同上用配管、配線工事（機械排煙口～手動開閉装置）			※					
	15. 防煙ダンパーの製作、設置及び自動開鎖装置の製作及び設置			※					
	16. 同上用連動制御盤、感知器の製作、設置及び配管配線工事		※						
10 設備工事等	1. 自家発電設備用オイルタンク及びサービスタンク迄の油配管工事		※	・	・				
	2. サービスタンク用防油堤躯体及び仕上げ	※							
	3. 自家発電設備用一次側給排水配管工事				※				
	4. 自家発電運転用給排気設備工事		※	・					
	5. ユニットバス・ユニットシャワーの換気扇の設置	・	・	※					
	6. 一般換気扇の設置	・	・	※					
	7. 同上用の取付枠の製作及び設置	※	・	・	・				
	8. 機器類付属制御盤とその二次側配管配線工事		※	※	※	※	※		
	9. 自動制御などの現場盤への電源接続		※						
	10. 設備用機器、付属制御盤への電源接続及び接地工事		※						
	11. 生産設備用機器、付属制御盤などの取付及び二次側配管配線工事								※
	12. 電動ブラインド、電動カーテン、電動シャッター、自動ドアなどの制御盤及び二次側配管配線工事	※							
	13. ガス漏れ警報設備		※						
	14. 制御用の電極棒の設置		・	・					
	15. 制御用のフロートスイッチの設置		・	・	※				
	16. 光天井などの照明器具用箱付及び下面仕上材料（ルーバー等）の設置	※							
11 昇降機	1. 機械室の床開口設置及び補強	※							
	2. 機械室の床配管ピット及び蓋の製作及び設置	・			※				
	3. 巻揚機周囲のチェッカープレートの製作及び設置				※				
	4. 昇降路内ピットの防水、集水桝及び点検用タラップの製作及び設置	※							
	5. 各階出入り口開口の設置及び補強	※							
	6. 出入り口三方枠取付け用下地鉄骨の設置	・				・			
	7. 出入り口扉三方枠の製作及び設置					※			
	8. 三方枠取付け と枠廻り空隙の充填及び補修	・				※			
	9. 軌条、中間ビーム、ブラケット等昇降路内の鋼製部材一式の製作及び設置	・				※			
	10. ⑨のうち中間ビームの製作及び設置	・				・			
	11. ⑨のうち軌条取付け用下地鉄骨の製作及び設置	・							
	12. 機械室天井フックの製作及び設置	※							
	13. ホール押し釦、インジケーター、調常等の躯体開口の設置及び補強	※							
	14. 昇降路、ピット内の保守用コンセントの設置		※						
	15. 昇降路外の遠方操作又は警報監視インターホン用配管配線工事		※						
	16. 遠方操作盤、警報監視盤及インターホンの設置及び調整（警報盤DC電源共）					※			
	17. 一次側電源供給工事		※						
	18. 機械室内非常電源と商用電源切替え開閉装置の製作及び設置					※			
	19. 同上インターホン本体及び取り付け					※			
12 機械駐車設備	1. 機器類設置用フックの製作						※		
	2. 機器類設置用フックの設置	※							
	3. ターンテーブルピット内の防水と仕上げ	※							
	4. ターンテーブルピット内の排水管工事	※							
	5. 一次側電源供給工事		※						
	6. 非常用電源設備工事（バッテリー）						※		
	7. 消火設備工事						※		
	8. カーブミラーの製作及び設置	※					・		
13 外構関係	1. 外構範囲の整地、舗装、マーキング工事	※						・	
	2. 外構範囲の雨水排水設備（桝、配管等）	※						・	
	3. 外構範囲の雨水排水抑制設備、調整池工事	※							
	4. 外構範囲の汚水・雑排水設備工事（桝、配管）				※				
	5. 外灯設備、弱電設備（ITVその他）の配線工事		※						
	6. 外灯設備、弱電設備（ITVその他）の基礎工事		※						
	7. 外灯設備、弱電設備（ITVその他）の埋設配管		※						
	8. 外構範囲の敵水栓設備（埋設管含む）					※			
	9. 外構範囲のサイン工事（基礎含む）	※							
	10. 上記サイン工事までの電気設備工事		※						
	11. 門扉設置工事（基礎含む）	※							
	12. 先行土木工事部分の仕上げ復旧工事	※						・	
14 太陽光	1. 太陽電池アレイの製作及び設置	・	・						
	2. 接続箱の製作及び設置	・	・						
	3. 太陽電池アレイ架台の基礎の製作及び設置	※	・						
	4. パワーコンディショナー及び系統連係保護装置の製作及び設置	・	・						
	5. データ計測装置の製作及び設置	・	・						
	6. 表示装置の製作及び設置	・	・						
	7. 日射計・気温計の製作及び設置	・	・						
	8. 電気配線・配管工事（太陽電池アレイ～接続箱）	・	・						
	9. 電気配線・配管工事（接続箱～パワーコンディショナー）	・	※						
	10. 電気配線・配管工事（パワーコンディショナー～データ計測装置・日射計・気温計・表示装置・受電設備等）	・	※						
15 その他	1. 屋外キュービクル等のネットフェンスの設置	※	・						
	2. 煙突工事（内部ライニング、タラップ、掃除口扉及び水抜き管、煙導接続口の設置を含む）	※							
	3. 同上煙導の製作及び設置		※	※	※				
	4. クレーン及びホイストの製作及び設置	・							※
	5. 同上クレーンレールの製作及び設置	・							・
	6. 同上電源盤以降の配管配線工事		・						※
	7. 消火器の設置（諸官庁手続き共）	⊖							※
	8. 同上設置用ボックス	※							
	9. 高調波対策		・	・		・			

注：該当項目は番号に◯印の付いたものを適用する。区分は⊖印か、※印のない場合は※印のついたものを適用する。

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A ― 002	
建築工事特記仕様書（1）	縮尺 1/1	日付 2019・11・15	

改訂：2016.09.01（2018.04.10 一部改訂）

Ⅳ. 建 築 工 事 特 記 仕 様 書

項　目	特　記　事　項
①. 共通仕様	a. 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成３１年版（以下「標準仕様書」という）及び粁設計建築工事詳細く仕様書平成31年版（以下「補仕」という）による。 b. 「標準仕様書」において「監督職員」とある場合はすべて係員と読み替える。
②. 特記事項	a. 項目は番号に○印の付いたものを適用する。 b. 特記事項は◉印の付いたものを適用する。⊙印の付かない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と㊒印の付いた場合は共に適用する。 c. 特記事項に記載の（　．．）内の表示番号は「標示」の当該項目、当該図及び当該表を示し、（補　　）内の表示番号は「補仕」の当該項目、当該図及び当該表を示す。 d. 特記事項で「図示」とあるは、設計図面記載事項を意味する。 e. ㊒ 印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。
③. 適用基準等	• 建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成28年版）・参考 • 工事写真の撮り方（改訂第2版）建築編（建築大臣官房官庁営繕部監修）
④. 設計図書の優先順位	設計図書に関する優先順位は次による。 1）質疑応答書及び補足訂正追加事項 2）現場説明書 3）特記仕様書 4）図面 5）標準仕様書・同監理指針 6）「標示」、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築工事監理指針平成28年版 7）建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修平成28年版）

1章　一 般 共 通 事 項

①. 建築材料等	本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監理者の承認を受ける。 ※石綿(アスベスト)含有建材は使用を禁止する。
②. 特別な材料の工法	「共仕」及び「補仕」に記載されていない特別な材料の工法は監理者の承認を受けて、当該製品の指定工法によることができる。
③. 施工条件	⊙時期により工事範囲が異なる（仮設計画図参照）　(1.3.5) ⊙既設地下貯留施設等あり（敷地現況図参照）
④. 発生材の処理等	引き渡しを要するもの　•　(1.3.11(b)(1)) 特別管理産業廃棄物　⊙なし　(1.3.11(b)(1)) •あり　名　称（　　） 処理方法（　　） 汚染土壌　土壌汚染調査　⊙行う（調査費は本工事に含む）　•調査済み 汚染土壌の処置　•処置対策を行う（対策費は本工事に含む）　•処置済み 汚染物質の種類（　　） 汚染物質の処置対策　•図示 現場において再利用を図るもの　•　(1.3.11(b)(2)) 再資源化を図るもの　•　(1.3.11(b)(2))
⑤. 着工時・中間時及び完成時の提出書類	提出書類は「工事に関する書類作成要領-施工者が提出する書類-」による。 ※工事写真の撮り方建築編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修） •着工時に設計図をＡ３版に縮小を行い、白焼き製本を提出する。 ※３部　•　部
⑥. 竣工写真等	a. 竣工写真の提出は、次によるほか、「提出書類作成要領」による。 1)提出写真カット数　外観（２５）　室内（５０）　航空写真（５） 2)カラープリント提出部数等

区分	提出先	アルバムの形式	提出部数
•アルバム１	発注者	※フォトブック形式 •台紙アルバム形式	２
•アルバム２	監理者	※フォトブック形式	３

注）１.フォトブックは下記程度とし、写真のサイズ、レイアウト等詳細は、発注者及び監理者と協議する。その他詳細は「提出書類作成要領」による。
サイズ　：※内面260mm×260mm　•
装丁　：※ハードカバータイプ　フルフラット製本
紙質等　：※シルク紙高画質印刷　•印画紙
参考　：エスエス企画　建築写真PRO26スクエア　程度
２.フォトブック形式のアルバムを作成した場合は、フォトブックのPDFデータ(高品質、200pixel/inch以上)も提出する。（発注者用 1部、監理者用 1部）
３.台紙アルバム形式の詳細は、「提出書類作成要領」による。

b. 竣工写真のデジタル画像データ等は、次による。
1)提出部数　2部　（発注者提出用１部、監理者提出用１部）
2)解像度　キャビネ判フルカラー400dpi（長辺方向2,600pixel）以上
フォトブックの体裁にかかわらず、データはキャビネ版サイズのものとする。また、提出するデータにおいて、各画像が横向きとならないようにする。
3)ファイル形式　※TIFF（圧縮　LZW）　•JPG（圧縮　最高画質）
4)カラーモード　RGB
5)記録媒体　CD-R、DVD-R等
フォルダ形式及びファイル名は、監理者の指示による。
6)その他　通し番号と標題及び名写真の撮影者を記した写真一覧表のExcel等のデータを添付する。やむを得ず画像データが上記仕様を満たすことができない場合は、画像データのほか、キャビネ版カラープリントによるバラ写真全数(1部)を監理者に提出する。
c. 撮影者は次による。
※監理者の承認する撮影者　•建築写真専門家
d. 撮影時期その他撮影条件は次による。
⊙外構工事（別工事）　完了後(2022春ごろ)

⑦. 完成時の提出図書	工事完成時の提出図書は下記による。　(1.7.1)(補1.7.1)(補1.7.2) 完成図　※工事完成後１ヶ月以内に下記の図面などを提出する。　(1.7.2)(補1.7.1) •原図一式（新規に作成、又は原図訂正） ⊙ＣＡＤ図面データ（◉一般図　⊙指定図（原図訂正、製作図　　）） •マイクロフィルム（マスターフィルム　※１部　•　部） •２つ折り製本　部　•折り込み製本（A4版全文字入り）　部 ⊙Ａ３縮小原図及び２つ折り白焼き製本　３部
⑧. 工事区分等	図示によるほか、工事区分による（○印により適用する）。但し、疑義を生じた場合は工事着手前に質疑応答書をもって確認する。 設備工事など他の工事との取合わせ部分は、補強納まり仕上げなどを検討した施工図を提出して監理者の承認を受ける。
⑨. 総合図等	作成図面の種別　(補1.5.1)

種　類	作成図・縮尺				
	⊙平面図	⊙天井伏図	•天井内伏図	⊙展開図	•
⊙総合図	※1/ 50 • 1/100	※1/ 50 •	• 1/ 50（指定室） •	※1/ 50（指定室） ⊙展開図のある室全て	•
•総合施工図	• 1/ 50 ※1/ 20	※1/ 50 •	※1/ 50（指定室） •	※1/ 50（指定室） •	•

各工事間の相互調整完了後の総合図、総合施工図（詳細寸法等を記述した図面）の監理者による取扱い。
※確認を行う　•承認を行う
⊙各工事業者は主体的に施工図、総合図等を調整し、監理者による確認を受ける。 |
10. 起工式・上棟式等に要する費用	※工事請負金額に含む（起工式　式　式）　•含まない
11. 契約	本工事の契約は民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款による。 民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款に規定する工事瑕疵が発生した場合は、すみやかに修補する。 ⊙本工事の契約は飯塚市建設工事請負契約約款による。
12. 建設工事保険等	受注者は本工事の全ての物件に対して、建設工事保険等に加入し、それらの証書の写しを契約後すみやかに監理者を経て建築主に提出する。 建設工事保険会社　※工事費見積要項書による。
13. 施工者による自主的な品質管理	受注者は当該工事の施工管理にあたり、日常工事に直接係わる現場作業所職員の構成とは別に、施工品質の自主的管理を目的とする自主施工管理者を選任し、この者を含めた自主施工管理体制を組織し、品質管理を徹底すること。当該自主施工管理者は、品質管理上の重要な事項と時期及び監理者の指示する事項について、施工品質の確保のための指導、監督を実施すること。尚、指導、監督を実施した事項は、記録し監理者に報告すること。　(補1.7.5)
14. 現場情報の電子的な情報交換	工事期間中、施工品質の管理と現場の円滑な運用を目的として、工程表・工事写真・議事録・その他、現場情報をインターネットを使用して情報交換が可能とすること。
15. 電気保安技術者	(1.3.3) ※適用する　•適用しない
16. 技能士	適用工事種別　(1.5.2)

工事種目	技能職種	工事種目	技能職種
鉄筋工事	⊙鉄筋施工（鉄筋組立て作業）	金属工事	⊙内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業）
コンクリート工事	⊙型枠施工		
鉄骨工事	⊙とび	左官工事	⊙左官
ブロック及びALC	•ブロック建築	建具工事	⊙サッシ施工
EPSパネル工事	⊙ALCパネル施工		⊙ガラス施工
防水工事	防水施工	カーテンウォール工事	⊙カーテンウォール施工
	⊙アスファルト防水工事作業	塗装工事	⊙塗装（建築塗装作業）
	•合成ゴム系シート防水工事作業	内装工事	内装仕上げ施工
	•シーリング防水工事作業		•プラスチック系床仕上げ工事作業
	•ウレタンゴム系塗膜防水工事作業		⊙ボード仕上げ工事作業
石工事	•石材施工（石張り作業）		⊙表装（壁装作業）
タイル工事	⊙タイル張り		•カーペット系床仕上げ工事作業
木工事	⊙建築大工	鋼装工事	•造園
屋根及びとい工事	⊙建築板金（内外装板金作業） •かわらぶき		

※各工事種目の技能士資格は１級を原則とする。
※タイル工事施工計画書作成にあたり、左官工事との整合を図ると共に１級技能士による内容確認を行う。 |

17. 性能試験	性能試験の範囲及び内容は、各工事特記仕様書の性能試験の項目による。 (要する費用は工事請負金額に含む。) 構造関係の試験は、建築工事特記仕様書(10)(11)＜構造関係(1)(2)＞の各項目による。
18. 試験及び検査の立会い	試験及び検査の立会いに要する費用（交通費及び宿泊費）で工事負担金額に含まれるもの。 ※工事現場外での試験及び検査　•
19. 設計G.L	※図示　•設計G.L＝現状G.L（　　）
20. 作品の対外発表	施工業者又は関係者が、本工事に関する内容を新聞雑誌等に発表する際には、工事期間中及び建物完成後を問わず、事前に発表の企画内容を建築主及び粁設計に通知して、その了承を得ること。また、仕上り原稿について建築主及び粁設計の最終承認を得るものとする。
21. 化学物質を発生する建築材料等	本工事に使用する建築材料等の選定にあたっては、環境への配慮を行う。　(1.4.1) 化学物質の濃度測定は特記による。　(1.5.9(a)) 仕上げユニットの材料選定にあたっては、環境への配慮を行う。　(1.4.1) 仕上げユニットの化学物質濃度の測定は特記による。　(1.5.9(a))
22. 合法木材の証明書等	本工事に使用する木材は、持続可能な森林から産出された合法木材であることとし証明書等を監理者に提出する。
23. 技術検査	工事施工中の技術検査　•実施する　(1.6.2(a)) •実施回数（　　） •実施段階（　　） •実施しない
24. 建築物省エネ法対応	建築物省エネ法　※適合　•届出　•対象外 省エネ計算の方式　⊙モデル建物法　•標準入力法 ※適合の場合は、省エネ基準工事監理報告書において確認の必要な資料（納入仕様書、自主検査記録書、試験成績書等）を作成し監理者の指示により整理し提出すること。

2章　仮 設 工 事

①. 仮囲い	危険防止及び保安上支障のないものとし、工事現場周囲に体裁よく設ける。 ⊙鋼板製　(塗ペイント仕上　•塗装なし　高さ　※3m　•　m 程度) ⊙既設フェンス等を利用する場合は、メッシュシートを施す。 •有刺鉄線張(高さ　m程度)
②. 監理者事務所	※設ける　規模　•10㎡　•20㎡　•35㎡　⊙65㎡　•100㎡　•　㎡ 程度　(2.3.1(a)) •設けない
③. 監理者事務所の備品	備品　⊙机、椅子、書棚、ホワイトボード、掛時計、寒暖計　(2.3.1(b)(1)) ⊙ゴム長靴、雨合羽、防寒服、保護帽、懐中電灯、安全帯、安全靴 ⊙電話機、ファクシミリ、コピー機（通信費、複写費、工事連絡便を含む） ⊙衣類ロッカー、冷暖房機器、消火器、温沸器、掃除具 ⊙パソコン機器一式（⊙外付け記憶装置　⊙アプリケーションソフト　⊙印刷装置　•LAN設備　⊙インターネット設備　•　を含む） 数量　⊙監理者人数と必要に応じた数量とする。（平時5名、検査10名程度）
④. 工事用水	構内既存の施設　※利用できない　•利用できる（※有償　•無償）
⑤. 工事用電力	構内既存の施設　※利用できない　•利用できる（※有償　•無償）
⑥. 障害物の処理	※現場説明事項によるほか、工事上搬去移設を要する軽微なものは本工事の範囲とする。
⑦. 工事用看板	※粁設計工事用看板を設ける。設置する看板や仕様等は「補仕」とし、製作者は下記による。　(補2.5.1) •監理者の指示による。　•
⑧. 仮設計画書	建物位置と敷地との相対関係、搬出入方法と敷地内外の条件、足場の危険防止、衛生、安全計画書等を作成し監理者に提出する。（建設省営繕発第１３号（平成７年５月２５日）「建築工事安全施工技術指針」・建設省経建発第１号（平成５年１月１２日）「建設工事公衆災害防止対策要綱」を厳守すること。）

3章　土 工 事

①. 埋戻し及び盛土	種別　•A種　⊙B種　•C種　•D種　建築汚泥から再生した処理土　㊒ C種の場合建設発生土受入量（　）㎥発生場所　(3.2.3(b))(表3.2.1) ※土壌改良は現場で掘削土の調査確認をした上で混合量を調整する。
②. 建設発生土の処理	※構外に搬出し関係法令等に従い適切に処理する。 （残土処理事業許可通知書の写しを提出すること）　(3.2.5) •構内指示の場所に敷均す。 •構内指示の場所に堆積する。 •構外指定場所に処分（搬出調書等を監理者に提出する。）
3. 山留めの搬去	山留め　•撤去　(3.3.3) •存置

4章　地 業 工 事

①. 床下防湿層等	防湿層・断熱層　(4.6.5(a))

種別	防湿層材料	断熱層材料	適用箇所
•A種	ポリエチレンフィルム厚0.15mm	—	
⊙B種	ポリエチレンフィルム厚0.15mm	ポリスチレンフォーム厚　30mm	図示
•C種	—	木繊セメント板　厚　mm	

注）木繊セメント板は寒冷地、凍結の恐れのある箇所では使用しないこと。 |

＊ここに記載以外は建築工事特記仕様書(10)＜構造関係(1)＞参照

5章　鉄 筋 工 事

建築工事特記仕様書(10)＜構造関係(1)＞参照

6章　コンクリート工事

①. コンクリートの仕上り	コンクリートの打放し仕上げの程度　(6.2.5(b)(1))(表6.2.4)

せき板の種別	仕上がりの程度		適用箇所	
⊙合板	⊙A種	化粧打放し仕上げ	⊙クリア塗装、素地仕上の面	
	◉B種	打放し仕上げ	※仕上げ塗材仕上げ面	
	⊙C種	打放しのまま	⊙ピット	
•	⊙化粧打放し仕上げ（OSBボード型枠）		⊙図示	

 |
| ②. 型　枠 | 材料　(6.8.3)

せき板の種別		規　格	厚さmm	適用箇所
⊙木製	⊙合板	⊙JAS規格　(表面加工品)	※12　•	
		⊙JAS規格　B-C	※12　•	
	⊙合板以外			
•金属製	•床	※鉄骨工事(7.2.7)による（構造特記7.2）		
	•壁			
•断熱材兼用		※セラミック粉混入木毛セメント板	•30・40・50	

注）ＪＡＳ規格とは「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」を表す。
せき板面気泡緩衝材張り（ＭＣＲ工法用シート）　(6.8.3(e))
•使用する　※難燃性ポリエチレン気泡シート
※コンクリート増打厚　10m/m
•使用しない
スリーブの材種　⊙構造図による　(6.8.3(1))(表6.9.1)

材　種	寸　法	箇所数	適用箇所
•鋼管	※図示　•	※図示　•	
•硬質塩化ビニル管	※図示　•	※図示　•	
•溶融亜鉛めっき鋼板	※図示　•	※図示　•	
•つば付き鋼管	※図示　•	※図示　•	
•紙チューブ	※図示　•	※図示　•	

注）鉄骨部分の貫通孔は構造図による。 |
| ③. 耐震スリット | スリットの種別（設置位置、形状は構造図による。）

方向		耐火性能	防水性能
⊙垂直方向	※完全(完貫通型)スリット	•耐火型	•有り
	•	•非耐火型	•無し
⊙水平方向	※完全(完貫通型)スリット	•耐火型	•有り
	•	•非耐火型	•無し

※外壁に面する部分は、防水性能ありとする。
※防火区画に面する部分は、耐火型とする。
目地の種別

方向	内壁	外壁
⊙目地材	•シーリング材（見え掛かりのみ）	•シーリング材（内外とも）
⊙目地寸法（mm）	※20×10　•	※20×10　•

※耐火壁の箇所は耐火目地材を充填すること。 |
| ④. 土間コンクリート | 壁際伸縮調整目地　※設ける　（•材料　厚さ　mm）
•設けない |
| ⑤. その他 | ⊙化粧打放しコンクリート仕上げ部はすべて、型枠剤付、型枠止付けくぎ位置、セパ剤付、目地付割、設備器具位置調整を行った施工図を作成の上、管理者の承認を得る。
⊙露出部となるコンクリートの打ち継ぎ位置は、目地位置にあわせること。
⊙化粧打放しコンクリートの型枠の入隅部は止めて組むものとする。
⊙化粧打放しコンクリートの梁水刻については、色合い確認のため現物見本を作成、管理者の承認の上施工を行う。
⊙スイッチ、コンセント、カードリーダーボックス、排煙オペレーター等の設備機器は、壁埋込とする。
⊙RC施工時の目地縞はビニル被覆を施した木製とする。（プラスチック製は使用しない。） |

＊ここに記載以外は建築工事特記仕様書(10)＜構造関係(1)＞参照

7章　鉄 骨 工 事

①. 耐火被覆 耐火構造	耐火被覆材料及び耐火性能　(7.9.2)

構造区分	耐火性能	適用箇所	種　類	[認定番号]	厚さmm
屋根	30分	図示	デッキプレート 耐火野地板	[　　] [　　]	
床	1時間	階床～　階床	コンクリートスラブ	[　告示　] [　　]	
	2時間	階床～　階床		[　　] [　　]	
梁	1時間	階床梁～　階床梁	コンクリート梁	[　告示　] [　　]	
	1時間	階床梁～　階床梁		[　　] [　　]	
	2時間	階床梁～　階床梁		[　　] [　　]	
斜材 水平材	1時間	階床～　階床		[　　] [　　]	
斜材 鉛直材	1時間	階　～　階		[　　] [　　]	
柱	1時間	外部大底	耐火シート	[FP060CN-0009]	
外壁 延焼恐れ	1時間	階～　階		[　　] [　　]	
外壁 上記以外	30分	階～　階	コンクリート壁 木毛セメント板複合パネル ALCパネル	[　告示　] [FP060ME-0184] [　告示　]	
非耐力壁 合成耐火壁	1時間			[　　] [　　]	
間仕切壁	1時間			[　　] [　　]	

注）外壁欄の「延焼恐れ」とは、「延焼の恐れのある部分」を表し、又「上記以外」とは「上記以外の部分」を表す。 |

＊ここに記載以外は建築工事特記仕様書(11)＜構造関係(2)＞参照

| | | | |

8章　コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

①. 建築用コンクリートブロック

補強コンクリートブロック造　(8.2)

材料　ブロック　種類　➡図示　※空洞ブロック１６（Ｃ種普通ブロック）　(8.2.2(1))
正味厚さ　➡
モデュール呼び寸法　➡

モルタル調合　※表8.2.1　➡　(8.2.3)

まぐさを受ける間口部両側のブロックのモルタル及びコンクリートの充填範囲　(8.2.8(4))
➡図示　➡200　➡

表8.2.2以外のコンクリート設計基準強度（Ｆc）　※21 N/mm²　➡

各部の配筋　※図示

コンクリートブロック帳壁及び塀　(8.3)

材料　ブロック　種類　※表8.3.1による　➡図示　(8.3.2(1)(7))(表8.3.1)
正味厚さ　➡100 mm　⊕120 mm　➡150 mm　➡190 mm
モデュール呼び寸法　⊕390×190
圧縮強さ　➡

塀の厚さ　➡図示　(8.3.2(1)(イ))
※塀の高さが2ｍ以下の場合120mm、2ｍを超える場合150mm

各部の配筋　※図示　➡　(8.3.4(2))

壁鉄筋の継手定着及び末端部の折り曲げ形状　※図示　➡　(8.3.4(1)(イ))

②. ALCパネル

材料　(8.4.2(1))(補8.4.2)

区　分	表面形状	単位荷重 N/㎡	厚さ mm	幅 mm	長さ mm	耐火性能等
⊕外壁パネル	フラット			100		告示
➡外壁大型パネル						－
➡間仕切壁パネル						－
➡屋根パネル						－
➡床パネル						－

外壁パネル構法　(8.4.3)(表8.4.2)

壁種別	建物高さ18m以下	建物高さ18m超31m以下
縦壁	※A種　➡	※A種　➡
横壁	※B種　➡	※B種　➡
風圧力	※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。	

間仕切壁パネル構法　(8.4.4)(表8.4.3)

壁種別	階層が連続する場合	スラブ間に用いる場合
縦壁	※C種　➡E種　➡	➡D種　➡E種　➡
横壁	※D種　➡	※D種　➡

屋根パネル構法　※敷設筋構法　➡　(8.4.5)(補8.4.3)
床パネル構法　※敷設筋構法　➡　(8.4.5)(補8.4.3)
外壁パネルのパネル幅、最小限度　※300mm　➡　(8.4.3(4))
外壁パネルの短辺小口相互の接合部の伸縮調整目地幅　※10mm～20mm　➡　(8.4.3(6))
外壁パネルの出隅、入隅部の伸縮調整目地幅　※10mm～20mm　➡　(8.4.3(7))

パネルコーナー部の処理　外壁パネル　※図示　➡
間仕切壁パネル　※図示　➡

間仕切壁パネルの伸縮調整目地　➡設ける（図示）⊕設けない
パネル接合部シーリング　※特記仕様書9.12 による
耐火目地材　※ロックウール　➡セラミックファイバー　(8.4.3(8))　(8.4.2(6))
取付け金物の耐火被覆　※半湿式ロックウール吹付け　➡　(補8.4.4(b))
溶接技能者　※JIS Z 3801の基本級以上　(補8.4.4(c))
ALCパネルにタイル張りを施す場合　※特記仕様書11.2による

３．押出成形セメント板（ECPパネル）

材料　(8.5.2(1))(8.5.3(1))(8.5.3(2))(8.5.4(1))(表8.5.1)(表8.5.2)(補8.5.2)(補8.5.4)

施工箇所	種　類	表面形状	幅	厚さ mm	取付工法
➡外壁					➡A種
					➡B種
	風圧力：※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。				➡D種
➡間仕切壁					➡B種 ➡C種

外壁パネル相互の目地幅　※長辺8mm 短辺15mm以上　➡　(8.5.3(6))
外壁パネルの出隅、入隅部の伸縮調整目地幅　※15mm程度➡　(8.5.3(7))
パネルコーナー部の処理　外壁パネル　※図示　➡
間仕切壁パネル　※図示　➡
パネル開口の限度を超える開口部の補強　※補8.5.5による　➡図示　(8.5.5(4))(補8.5.5)
開口部の箇所数　➡図示　➡
開口部の補強　➡図示　➡
パネルの取扱い　※8.5.3及び補8.5.3による　(8.5.3)(補8.5.3)
施工図　※補8.5.7による　(補8.5.7)
耐火性能　※図示　(補8.5.6(a))
中空充填材（外壁は除く）　※ロックウール　(補8.5.6(b))
耐火目地材　※ロックウール　➡セラミックファイバー　(補8.5.6(c))
耐火構造以外の目地材　※製造所の仕様　➡　(8.5.3(10))
取付け金物の耐火被覆　※半湿式ロックウール吹付け　➡　(補8.5.6(d))
パネル接合部シーリング　※特記仕様書9.11 による

４．繊維補強セメントコンクリート複合材

材料　(補8.6.2)(補8.6.4)

材　料	➡CFRC	➡GRC	➡
表面仕上げ材			
表面形状			
添加剤			
添加量（％）			
複合材圧縮強度（N/mm²）			
複合材曲げ強度（N/mm²）			
かさ比重			
製法	➡プレミックス法　➡	➡ダイレクトスプレー法　➡プレミックス法	➡　➡
適用箇所			

タイル・石型枠先付工法における耐久性能　(補8.6.3)
低アルカリ性セメント　➡適用する　➡適用しない
耐火性能　➡1 時間（適用箇所：　）　(補8.6.5)
➡2 時間（適用箇所：　）
耐火目地材　※ロックウール　➡セラミックファイバー
耐火構造以外の目地材　※製造所の仕様　➡
取付け金物の耐火被覆　※半湿式ロックウール吹付け　➡
パネル接合部シーリング　※特記仕様書9.11 による

５．穴あきPC板

材料　(補8.7.2(a))

種類	板厚	呼幅	板長	配筋種別	表面形状	表面仕上	区分
➡壁板	x	x		➡３０種板 ➡４５種板			➡常備品 ➡注文品
➡	x	x		➡３０種板 ➡４５種板			➡常備品 ➡注文品
➡	x	x		➡３０種板 ➡４５種板			➡常備品 ➡注文品

工法　(補8.7.6)

部　位		工　法	層間変位量
外壁	➡縦張り	※層間変位対応工法　➡固定取付け工法	
	➡横張り	※層間変位対応工法　➡固定取付け工法	
間仕切	➡縦張り	➡層間変位対応工法　➡固定取付け工法 上部ロックウール充填高さ　※50 mm　➡　mm	
	➡横張り	➡層間変位対応工法　➡固定取付け工法	
床	➡普通床	※現場溶接工法　➡置きスラブ工法	
	➡構造床	➡水平力負担床工法　➡合成床板工法	

パネル接合部シーリング　※特記仕様書9.11 による　(補8.7.3(d))
開口部の箇所数　➡図示　➡　(補8.7.7(a))
開口部の補強方法　➡図示　➡　(補8.7.7(b))
耐火性能　➡図示　➡　(補8.7.8(a))
耐火目地材　※ロックウール　➡　(補8.7.8(b))
取付け金物の耐火被覆　※半湿式ロックウール吹付け　➡成形板張付け　(補8.7.8(c))
コーナー部の材種　➡RC　➡SUS304　➡

9章　防　水　工　事

①. アスファルト防水

種別　(9.2.3(表9.2.3)～(表9.2.8)

工　法	種　別	施工箇所
※熱工法	AI-2	屋根
➡常温工法		
➡トーチ工法		

⊕改質アスファルトルーフィングシート種類　※非露出複層防水用Ｒ種　厚さ⊕1.0mm以上
➡露出複層防水用Ｒ種　厚さ➡　mm以上　(9.2.2(3)(ｵ))

部分粘着層付改質アスファルト　種類　※非露出複層防水用Ｒ種　➡
ルーフィングシート　厚さ　※1.5mm以上　➡　(9.2.2(3)(ｶ))

露出防水工法の端部押え金物　(9.2.2(6)(9.2.4(4)(ｳ)(ｃ))
材　種　※アルミニウム製　➡
形状寸法　※L-30×15×2.0（mm）➡

保護防水工法の端部押え金物　(9.2.4(4)(ｳ)(a))
⊕設ける　材　種　※アルミニウム製　➡SUS製
形状寸法　※FB-20×2.5（アルミニウム製）　➡L-30×12×2.0（SUS製）
➡設けない

保護防水断熱工法用断熱材　(9.2.2(8))
※JIS A 9521 押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ(スキン層付き)(厚さ⊕ 50 mm)
東西アスファルト事業協同組合ＲＢボード及び日本アスファルト防水工業協同組合
ＢＫボード或いは同等品以上（厚さ➡　mm）
(9.2.2(9))

露出防水断熱工法用断熱材　➡　mm
➡JIS A 9521(透湿係数を除く）硬質ウレタンフォーム断熱材２種１号（厚さ➡　mm）
➡JIS A 9521(透湿係数を除く）硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号（厚さ　）

絶縁用シート　(9.2.2(10))

屋根保護防水密着工法または屋根保護防水絶縁工法
※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm　➡
屋根保護防水密着断熱工法または屋根保護防水絶縁断熱工法
※フラットヤーンクロス（70 g/㎡程度）➡

保護コンクリート（平場）の厚さ　(9.2.5(4)(ｲ))
※80 mm(こて仕上）➡60mm（タイル張り等）　➡図示

保護コンクリート以外の平場保護材料
➡図示　➡

立上り部の保護材料　(9.2.2(14))(9.2.2(15))(9.2.3(ｶ)～(ｴ))(9.2.5(5))
➡れんが（※JIS R 1250　➡　）　➡コンクリート　➡
⊕モルタル　⊕乾式保護材（　）

D種・ＤⅠ種の脱気装置　(9.2.3(ｵ))(9.2.3(a))
平　場　材種　※SUS製　➡錆鉄製
数量　※防水層平場70㎡程度毎に１箇所　➡
立上り部　材種　※SUS製　➡錆鉄製　➡塩ビ製
数量　※防水層立上り部長さ10m程度毎に１箇所　➡
（但し、平場部脱気型の数量により設けないことができる。）

D種・ＤⅠ種の仕上塗料　種類➡　使用量　※製造所の仕様　➡　(9.2.3(ｵ))(b))

屋内防水密着工法の保護層　➡設ける　➡設けない　(9.2.3(ｷ))
防水層の下地　(9.2.4(1))
平　場　※コンクリート直均し　➡モルタル塗り（適用箇所　）
立上り部　※コンクリート打放し　➡モルタル塗り（適用箇所　）
ルーフドレイン回り及び立上り部周辺の断熱材の張じまい位置　※図示　➡　(9.2.4(4)(g))
屋上排水溝　形状、寸法　※図示　(9.2.5(7))
ひび割れ防止金網　※溶接金網2.6φ50×50　➡平ラスF500（JIS A 5505）
伸縮調整目地　※特記仕様書9.11シーリングによる
水勾配　※図示　➡1/200以上

２．改質アスファルトシート防水

種別　(9.2.3(1))(表9.3.1)

工法	種別	施工箇所
屋根露出防水密着工法	➡AS-T1	
	➡AS-T2	
屋根露出防水絶縁工法	➡AS-T3	
	➡AS-T4	
	➡AS-J1	
屋根露出防水絶縁断熱工法	➡ASI-T1	
	➡ASI-J1	

改質アスファルトシートの種類・厚さ　※表9.3.1～表9.3.3　➡　(9.3.2(1)(ｱ))
粘着層付改質アスファルトシート及び　(9.3.2(1)(ｲ))
部分粘着層改質アスファルトシートの種類・厚さ　※表9.3.1～表9.3.3　➡
押え金物の材質、形状及び寸法　※アルミニウム製L-30×15×2.0(mm)　(9.3.2(3)(ｲ))

屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材の種類　(9.3.2(3)(ｳ))
➡JIS A 9521(透湿係数を除く）硬質ウレタンフォーム断熱材２種１号（厚さ➡　mm）
➡JIS A 9521(透湿係数を除く）硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号（厚さ➡　mm）

仕上塗料　種類➡　使用量　※製造所の仕様　➡　(9.3.3(ｱ)(ｲ)(ｵ))
絶縁工法・絶縁断熱工法の脱気装置　(9.3.3(ｲ)(ｳ))
種類　※製造所の指定➡　設置数量　※製造所の指定　➡
絶縁断熱工法の防湿用シート　➡設ける　➡設けない　(9.3.3(ｳ))

③. 合成高分子系ルーフィングシート防水

種別　(9.4.3)

	工法	種別	施工箇所
	接着工法	➡S-F1	
		➡S-F2	
	機械的固定工法	➡S-M1	
		➡S-M2	
		➡S-M3	
断熱工法	接着工法	➡S1-F1	
		➡S1-F2	
	機械的固定工法	➡S1-M1	
		⊕S1-M2	屋根
屋内	屋内保護密着工法	➡S-C1	

ＡＬＣパネル下地の場合は接着工法とする
S-C1はALCパネル下地及びプレキャストコンクリート下地には適用しない。
ルーフィングシートの種類・厚さ　※表9.4.1,表9.4.2,表9.4.3　(9.4.2(1)(ｱ))
➡　mm以上
絶縁用シート　※発泡ポリエチレンシート➡　(9.4.2(2))
固定金具の材質、形状及び寸法　※9.4.2(3)(ｲ)　➡　(9.4.2(3)(ｲ))
断熱工法に用いる断熱材・材質　※9.4.2(3)(ｴ)(a)(b)　➡　(9.4.2(3)(ｴ))
厚さ➡　mm
立上り面のシート厚さ　※1.5mm　➡　mm　(9.4.3(1)(2))(表9.4.1)(表9.4.2)
断熱工法の防湿用フィルム　➡設ける　➡設けない　(表9.4.2)
仕上塗料　種類➡　使用量　※製造所の仕様　➡　(9.4.3(1)(2))(表9.4.1)(表9.4.2)
屋内保護密着工法のモルタル塗り　厚さ➡　mm　(9.4.3(1)(2))(表9.4.3)
接着工法の脱気装置　※製造所の仕様　➡(種類➡　数量➡　個／ｍ)　(9.4.3(2))

プレキャストコンクリート部材下地の目地処理　(9.4.4(4))
※図示　➡
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り(S-F1,S1-F1)　(9.4.4(5)(ｲ))
※図示　➡
機械式固定工法の設計風圧力　(9.4.4(6)(ｲ)(a))
※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による　➡
立上り部の保護モルタル塗厚　※ 7mm以下　➡　mm　(9.4.4(10)(ｲ))

④. 塗膜防水

種別　(9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
➡Ｘ－１		➡Ｙ－１	
⊕Ｘ－２	パラペット天端,シャワー室	➡Ｙ－２	

仕上塗料　種類➡　使用量　※製造所の仕様　➡　(9.5.3(1)(ｱ))
Ｘ－１種の脱気装置　(9.5.3(1)(ｲ))
平場　材種　※SUS製　➡錆鉄製
数量　※防水層平場50㎡程度毎に１箇所

Ｙ－２種の保護層材料　(9.5.3(2)(ｲ))
絶縁用シート　➡ポリエチレンフィルム　➡フラットヤーンクロス
保護材　➡保護コンクリート（厚　mm）➡保護モルタル（厚　mm）

⑤. ケイ酸質塗布防水

種別及び適用部位　(9.6.1(2))

種別	適用部位
※Ｃ－ＵⅠ	ピット内水槽
➡Ｃ－ＵＰ	表9.6.1　➡

防水層の下地　壁及び天井部　※コンクリート打放し仕上げ巾木　➡　(9.6.4(1)(4))
コンクリートの打継ぎ箇所の処理　※9.6.4(2)(ｱ)　➡　(9.6.4(2)(ｱ))
特殊な下地処理　※図示　➡　(9.6.4(2)(ｴ))

６．複合防水

種別　(補9.7)

種　別	仕　様	施工箇所
➡［塗膜］＋［FRP］系		
➡［改質アス］＋［FRP］系		
➡［改質アス］＋［塗膜］系		
➡［改質アス］＋［塗膜］補層系		
➡［シート］＋［塗膜］系		
➡［シート］＋［FRP］系		

７．金属シート防水

材料　(補9.8)

材料・厚さ　mm	仕上げ	下葺き材・厚さ　mm	下地材・厚さ　mm
※SUS304　※0.4	※2D　➡2B	※軟質発泡ポリスチレン	※木毛セメント板➡15➡20➡25
➡SUS316　➡	➡カラーSI系	※4　➡4+10	➡硬質木片セメント板　➡18➡25
	➡カラーF系	➡	➡パーライトM+木毛セメント複合板
	➡鋼めっき	➡	➡20➡25➡30➡40➡50

８．セメント質系防水

種別

種　別	仕　様	施工箇所
➡ポリマーセメントペースト系（水和凝固型）		
➡モルタル防水		

９．外壁防水

種別　(補9.9)

種　別	仕上げ	工　法	施工箇所
➡アクリルゴム系	➡ふっ素樹脂系	➡吹付け	
	➡アクリルシリコン系	➡ローラー	

10．地下外壁防水

種別

種　別	仕　様	施工箇所
➡		

⑪. 超遅硬化ウレタン防水

⊕外部デッキ、階段部分に適用　露出密着工法平場　:UPM-10 同等品
露出密着工法立上り　:UPM-10L 同等品
保護コンクリート仕上げ　:UPM-10C 同等品
断熱＋保護コンクリート仕上げ:UPM-10CF 同等品

⑫. 責任施工の保証

受注者、施工業者及び材料製造者は保証期間中に施工上の過失又は使用材料の不良などにより事故を生じた場合、無償にて補償復旧をなすものとする。

防水の種別	竣工後保証期間	防水の種別	竣工後保証期間
➡アスファルト防水（保護防水）	※10年間　➡	➡アスファルト防水（露出防水）	※10年間　➡
➡合成高分子系ルーフィングシート防水	※10年間　➡	➡複合防水	※10年間　➡
		➡セメント質系防水	※5年間　➡
➡金属シート防水	※10年間　➡	➡外壁防水	※10年間　➡
➡塗膜防水	※10年間　➡	➡改質アスファルトシート防水	※10年間　➡

※屋上緑化部分には耐根層を設け、屋上緑化部分防水の保証期間は耐根層を設けた場合を原則とする。

⑬. シーリング

材料　(9.7.2(2))(表9.7.1)

工法・部位・構成材				シーリングの種類 SR-1 HM	SR-1 LM	SR-2	IB-2	WS-2	WS-1 LM	PS-2	PU-2	AC-1
カーテンウォール	ガラス・マリオン形式	➡ガラスとめ				※						
		➡方立、無目ジョイント 方立目地はSR-2（シリコーン系）に区分				※						
	金属パネル形式	➡ガラスとめ				※						
		➡パネル目地				※						
	PC板形式 ➡石打込みPC	➡PC板周目地						※				
	（大理石以外）	➡サッシ廻り目地						※				
	➡タイル打込みPC	➡ガラスとめ				※						
	➡吹付け塗装PC											
各種外装パネル	➡塗装金属板	➡パネル目地						※				
	➡アルミニウム板	➡サッシ廻り目地						※				
	➡GRC板	➡板周目地	➡仕上あり					※			➡	
			➡仕上なし					※				
	➡押出成形セメント板	➡サッシ廻り	➡仕上あり					※			➡	
		目地	➡仕上なし					※				
	ALCパネル	➡ALCパネル	➡仕上あり								※	
	（スライド工法）	目地	➡仕上なし					※				
	（ロッキング工法）	➡サッシ廻り	➡仕上あり								※	
		目地	➡仕上なし					※				
	石張り（乾式工法）	➡石目地						※				
	（大理石以外）	➡石下駄体目地									※	
		➡サッシ廻り目地						※				
ガラス	ガラス廻り	⊕ガラスとめ		※				◯（先触媒に接する部分）				
		➡ガラス圏目地		※								
	SSG構法（※ｻｯｼ及びｶﾞﾗｽﾒｰｶと協議する）	➡ガラスとめ										
		➡ガラス圏目地										
	DPG構法（ＭＰＧ構法）	➡ガラスとめ				※						
		➡ガラス圏目地				※						
金属建具	サッシ廻り	➡水切り、直板目地						※				
		➡シーリング材受								※		
笠木	金属製笠木	➡笠木廻目地				※						
	石材笠木（大理石以外）	➡笠木廻目地						※				
	PC製笠木	➡笠木廻目地						※				
コンクリート壁	RC壁	➡打ち継ぎ	➡仕上あり							➡	※	
		伸縮目地	➡仕上なし					※		➡		
		➡サッシ廻り	➡仕上あり							➡	※	
		目地	➡仕上なし					※		➡		
		➡PCコンクリート廻り目地						※				
		➡ALCパネル	➡仕上あり								※	
		廻り目地	➡仕上なし					※				
		➡押出成形セメント板廻り目地						※				
	石張り（湿式工法） 大理石以外	➡石目地						※				
		➡石下駄体目地									※	
		➡サッシ廻り目地						※				
	大理石	➡石目地								※		
		➡サッシ廻り目地								※		
	タイル張り	➡タイル目地							➡	※		
		➡タイル下駄体目地									※	
		➡サッシ廻り目地						※	➡	※		
内装	石張り（乾式工法）	➡石目地								※		
	（大理石）	➡サッシ廻り目地								※		
	遮音壁取合い部	➡遮音壁取合い部廻り目地										※
水回り	浴室・浴槽	➡目地	※									
	キッチン・キャビネット	➡目地	※									
	洗面・化粧台	➡目地	※									
各種外装汚染防止	ﾀｲﾙ・石・ｶﾞﾗｽ・金属ﾊﾟﾈﾙ	➡目地					※					
		➡										
		➡										
		➡										

シーリング材の種類・耐久性区分

材料記号	シーリング材の種類	耐久性区分
SR-1HM	1成分形シリコーン系（高モジュラス形）	9030G
SR-1LM	1成分形シリコーン系（低モジュラス形）	10030
SR-2	2成分形シリコーン系	10030
IB-2	2成分形ポリイソブチレン系（目地周辺汚染防止用）	10030
WS-2	2成分形変成シリコーン系	9030
WS-1LM	1成分形変成シリコーン系(50%モジュラス、0.2 N/mm²以下)	8020
PS-2	2成分形ポリサルファイド系	9030
PU-2	2成分形ポリウレタン系	8020
AC-1	1成分形アクリル系	7020

目地　寸法　※図示　➡9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)　(9.7.3(1))
適用箇所　※図示　➡

※「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に該当する場合のシーリング防水の保証条件は、日本シーリング工事業協同組合連合会・日本シーリング材工業会発刊の「品確法に対するシーリング防水の保証条件と補償範囲について」による

⑭. 性能試験

(補1.8.1(c)(1))(9.7.5(b))

試験の方法		試験箇所
⊕漏水試験		1箇所　監理者との協議による
⊕塗膜厚試験		1箇所　監理者との協議による
⊕金属シート防水漏水試験		1箇所　監理者との協議による
➡金属シート防水真空試験		
➡シーリングの接着性試験	※簡易接着性試験	
	➡引張接着性試験	

改訂：2019.09.01

10章　石工事

1. 共通事項

石材の割付け　※図示　(10.1.3(1))
石材の加工　(10.1.3(2)(7))
粗面仕上げの合端の見え隠れ、のみ込み部分及び周囲見掛り部分の納まり
※図示　・
便所、浴室等の水がかりの部分に使用する大理石の穴処理
※透明樹脂にて穴埋め処理　・

2. 材　料

岩石の等級　(10.2.1(1)(7))
床　用　※2等品　・
床用以外　※1等品　・
(10.2.1(1))(表10.2.1.2)(補表10.2.1)

石材の種類・表面仕上げ　(10.3,2)(10.4.2)(10.5.2)(10.6.2)(10.6.3)(10.7.2)(10.7.3)(10.7.4)

種類・産地・名称	厚さmm	仕上げの種類	適用箇所

石材の形状及び寸法　※図示　・10.2.1(1)(4)による　(10.2.1(1)(4))

テラゾブロック及びテラゾタイルの種石の種類・表面仕上げ　(10.2.1(2))(表10.2.2)

種石の種類	種石の大きさmm	板厚mm	仕上げの種類	適用箇所
※大理石	※1.5～12		※本磨き　・	
・				

テラゾブロックの形状による区分、仕上げ面による区分及び寸法　(10.2.1(2)(5)(6a))
※図示　・
テラゾタイルの寸法による区分
※図示　・　(10.2.1(2)(5)(6b))

取付け金物　(10.2.2)
外壁湿式工法及び内壁空積工法用金物　(10.2.2(1))(表10.2.3)
受金物の材質形状及び寸法　※10.2.2(1)(4)による・図示
乾式工法用金物　種類、形状、寸法　※表10.2.4　・　(10.2.2(2))(表10.2.4)
方式　・スライド方式　・ロッキング方式
特殊部位用金物
引金物　だぼ　かすがい及び受金物　(10.2.2(3)(7))
※10.2.2(1)による　・
吊金物、化粧用ボルト　※10.2.2(3)(9)による　・　(10.2.2(3)(9))
ファスナー　種類、形状、寸法　※表10.2.4に準ずる　・図示　(10.2.2(3)(4))
方式　・スライド方式　・ロッキング方式
アンカーの材質、寸法　・図示　・　※10.2.2(4)による　・　(10.2.2(4))
あと施工アンカーの材質、寸法　※図示　・　(10.2.2(5))
その他の金物の材質、形状及び寸法　※図示　・　(10.2.2(6))

その他の材料　(10.2.3)
取付け用モルタル　※専門工事業者の指定する製品　・　(10.2.3(1)(2))
既調合の目地用モルタル　※専門工事業者の指定する製品　・　(10.2.3(1)(4))
石裏面処理材　※専門工事業者の指定する製品　・　(10.2.3(2))
裏打ち処理材　※専門工事業者の指定する製品　・　(10.2.3(3))
外壁湿式工法に使用するドレンパイプの材質　※図示　(10.2.3(5))
金物の固定に使用する充填材料　※専門工事業者の指定する製品　・　(10.2.3(6))

3. 外壁湿式工法

石材の厚さ　※図示　・有効25mm以上・　(10.3.2)
石裏面処理　(10.3.2(2)(9))
※行う（小口とも）（適用箇所　）・行わない
石裏打ち処理　10.3.2(2)(9))
・行う　（適用箇所　）・行わない
下地ごしらえ　(10.3.3(2))
※流し筋工法　・あと施工アンカー工法　・あと施工アンカー横筋流し工法
(10.2.3(5))

目地　(9.7.3(1)(9))(10.3.3(5))(表11.1.1)

目地種類	目地位置	目地材料	目地幅mm
一般目地	・図示	※シーリング・	※6　・
伸縮調整目地	・図示　・10.3.3(5)(イ)※表11.1.1	※シーリング・	※9.7.3・

注）シーリングは特記仕様書9章12による。
ドレインパイプの材質
※ステンレスSUS304　・樹脂ネット製　・
白華防止用混和材　・使用する　・使用しない

4. 内壁湿式工法

石材厚さ　※有効20mm以上・　(10.4.2(1))
石裏打ち処理　(10.4.2(2)(4))
・行う　（適用箇所　）　・行わない
下地ごしらえ　(10.4.3(2)(7))
※あと施工アンカー・横筋流し工法　・あと施工アンカー工法
※床面から300mm 全てとろ工法

目地　(10.4.3(5))

目地種類	目地位置	目地材料	目地幅mm
一般目地	・図示	※シーリング・	※6　・
伸縮調整目地	・図示 ※6m程度ごと	※シーリング・	※9.7.3・

注）1. シーリングは特記仕様書9章12による。
注）2. 内壁空積工法のねむり目地はテフロンテープを縞目地合端の上端に2か所貼り付けること。

5. 乾式工法

石材厚さ　※有効30mm以上(内壁25mm以上)・
石のだぼ穴位置　※10.5.2(2)(7)による・図示　(10.5.2(2)(7))
だぼ穴径　※8 mm　・　mm　(補10.5.2(c)(2))
だぼピン径　※6 mm　・　mm　(補10.5.2(c)(2))
構造体のコンクリート増し打ち　※20mm　・　mm　(補10.5.2(a)(1))
耐風圧性能　(10.5.3(1))(補10.5.1(c))
性能値　※建築基準法施行令第82条の5及び建設省告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
風圧力：※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。
耐震性能　※設計震度(K)　水平方向Kw=1.0　鉛直方向Kv=0.5　(補10.5.1(c))
乾式工法の耐衝撃　・破損防止　・1 段目の石まで砕石、モルタル裏込め
乾式工法の巾木上端部分　※防水処理　※ドレインパイプ

目地　(10.5.3(6))

目地位置	目地材料	目地幅mm及び深さ
・図示・	※シーリング・	※8　・

注）シーリングは特記仕様書9章12による。

6. 床及び階段の石張り

床及び階段石張りの裏面処理　・行う（適用箇所　）(10.6.2(1)(イ))(10.6.3(1)(ア))
・行わない
目地　(10.6.2(5))(10.6.3(4))

目地種類	目地位置	目地材料	目地幅 mm
一般目地	・図示	・モルタル ・シーリング	屋内 ※3～6 ・ 屋外 ※4 以上 ・
伸縮調整目地	※図示 ・10.6.2(5)(イ)	・モルタル ・シーリング	・

屋内床本磨きのワックス　・行う（適用箇所　）・行わない　(10.1.5(3))

7. 特殊部位の石張り

特殊部位の石張り　(10.7.1)(10.7.2)(10.7.3)(10.7.4)

部　位	石材の種類	表面仕上げ	形状・厚さmm
・アーチ			・図示
・上げ裏			・図示
・笠　木			・図示
・甲　板			・図示
・隔　板			・図示
			・

石裏面処理　(10.7.2(1)(ア))(10.7.3(1)(ア))
・行う（適用箇所：　）・行わない
石裏打ち処理　(10.7.2(1)(ア))
・行う（適用箇所：　）・行わない
一般目地及び伸縮調整目地の位置及び寸法　(10.7.2(5)(ア)(a))(10.7.2(5)(イ)(b))
・図示　・

目地　(10.7.2(5))(10.7.3(5))

目地種類	目地位置	目地材料	目地幅 mm	適用箇所
一般目地	※図示 ・		・図示 ※6 ・8	・
伸縮調整目地	・図示 ※10.7.2(5)(イ)	※シーリング	・図示 ※10・	・

笠木、甲板等の乾式工法の場合の取付け代　(10.7.3(2)(イ))
※10.5.3(2)による　・
笠木、甲板等の乾式工法の場合の石裏補強用モルタル　(10.7.3(4)(イ))
・行う　・行わない
隔板の厚さ　※40mm　・　(10.7.4(1)(ア))
※その他乾式工法に関する仕様は特記仕様書10.3壁の石張り工法に準ずる。

8. タイル状花崗岩類及び大理石

石及び仕上げの種類

石の種類	形状、寸法	仕上げの種類	工　法	適用箇所
・	・	・	・	・

9. 性能試験

(補1.8.1(c)(2))(補1.8.1(c)(11))

試験の方法	試験箇所	試験の方法	試験箇所
・吸水率試験 ・圧縮強さ試験		・あと施工アンカー引抜き試験	

11章　タイル工事

① 共通事項・材料

タイルの種類　(11.2.2)(11.3.2)

形状寸法	きじの質	成形法	色調	釉薬	役物	耐凍害性	耐滑り性	面状	備考
⊙300×300	⊙磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ⊙乾式	⊙標準 ・注文	⊙無釉 ・施釉	・有 ⊙無	・有 ⊙無	⊙有 ・無	・	
⊙50×50	⊙磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ⊙乾式	⊙標準 ・注文	⊙無釉 ・施釉	・有 ⊙無	・有 ⊙無	⊙有 ・無	・	
⊙25×25	⊙磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ⊙乾式	⊙標準 ・注文	・無釉 ⊙施釉	・有 ⊙無	・有 ⊙無	・有 ⊙無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・	

耐滑り性有の場合の基準　⊙C.S.R≧4.00　⊙C.S.R・B≧　0.7
※有機系接着材による外壁陶磁器タイル張り用タイルは専用タイルとする。
※タイルは社団法人全国タイル業協会加入のメーカーの製品とする。

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地　(11.1.3)

適用箇所	壁目地	床目地
目地の材料	※特記仕様書9章12シーリングによる	・
目地の位置	・表11.1.1　※図示	※図示　・
目地の寸法	※11.1.3(3)　・	・幅25mm、深さ25mm　・図示

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地に接するタイルの側面の形状及び仕上げ
※図示　・
※張付けモルタル（既調合モルタル）　(11.2.3(3))
まぐさ等のはく落防止用引き金物　(11.2.2(2))(11.2.4(1))
※使用する　タイルの種類　※小口タイル以上二丁掛け以下　・
適用箇所　・まぐさ　・ひさし先端下部　・
タイルの試験張り　・行う（　程度）・行わない　(11.2.2(3))(11.3.2)(11.4.2)
タイルの見本焼き　・行う（　回）㎡　・行わない　(11.2.2(3))(11.3.2)(11.4.2)

② セメントモルタルによるタイル張り

壁タイル張り工法　(11.2.7(3)(ア))(表11.2.3)

タイルの種類	タイルの寸法	工　法	
内装タイル	・	・改良積上げ張り	・壁タイル接着剤張り
	・	・	
外装タイル	・小口以上二丁掛け以下	※密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り	・改良積上げ張り
	・	・	
ユニットタイル（内装タイル以外）	・25mm角を超え小口タイル未満	・マスク張り ・ユニットタイルパイプレーション工法（シート張り）	・
	・25mm角以下	※モザイクタイル張り	・
外装タイル	・	・その他の工法 （建築工事監理指針11.3.4）	

ALCパネルにタイル張りを行う場合は、下記に準拠すること。
※「ALCパネル工場タイル張り工法指針（案）・同解説（改定版）」（日本建築仕上学会）
・
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理　(11.2.7(1)(ア))

③ 有機系接着剤によるタイル張り

工　法　※目荒し工法(超高圧水洗150pa以上)・MCR工法　・立体繊維材料張り工法
適用箇所　・
床タイル張り工法　(補11.3.3(b))

工　法	適用箇所	工法選択の目安（備考）
⊙敷きモルタル張り	外部デッキ、屋外階段	大型タイル、張付け面積小
⊙下地モルタル張り	シャワー室	一般タイル、ユニットタイル
・圧着張り		重量物通過

⊙外部モルタル使用の部分には、白華防止剤を見込むこと。

壁タイル張り工法　(11.3.7(2)(ア))(表11.3.2)

タイルの種類	タイルの大きさ	工法	裏足高さと裏面反り	備考
⊙内装タイル	⊙ 25×25 ・	内装タイル接着剤張り	・	
・外装タイル	※小口以上二丁掛け以下 ・	外装タイル接着剤張り	・裏あし高さ0.9mm以下かつ裏面反り±0.7mm以下 ・上記以外	
・ユニットタイル（内装タイル以外）	※小口未満	外装タイル接着剤張り	・裏あし高さ0.9mm以下かつ裏面反り±0.7mm以下 ・上記以外	

内装タイル接着剤張りに使用する有機質接着剤の　(11.3.3(1))
ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・
外壁壁タイル接着剤張りの目地のシーリング材　(11.3.4(1))
打ち継ぎ目地及びひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系　・
伸縮調整目地・その他の目地　※変成シリコーン系・
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理　(11.3.7(1)(ア)(4))
工法　・目荒し工法(超高圧水洗)　・MCR工法

④ 陶磁器質タイル先付けPC部材

種類　・タイルシート法　・目地嵌法　・タイル単体法
仕様等の適用基準　※国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築工事監理指針」最新版
タイル工事タイル型枠先付けPC部材に準拠する。

⑤ 特殊タイル

タイルの種類

形状寸法	きじの質	成形法	色調	釉薬	役物	用途 屋内外	用途 部位	耐凍害性	滑り抵抗性	面状	備考
⊙600×600	⊙磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ⊙乾式	⊙標準 ・注文	⊙無釉 ・施釉	・有 ⊙無	・屋外 ⊙屋内	⊙床・壁	・有 ⊙無	⊙有 ・無	・	汚垂タイル
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無	・	
・	・磁器・陶器 ・せっ器	・湿式 ・乾式	・標準 ・注文	・無釉 ・施釉	・有 ・無	・屋外 ・屋内	・床 ・壁	・有 ・無	・有 ・無	・	

滑り抵抗性有の場合の基準　・C.S.R≧　・C.S.R・B≧
・
特殊タイル張り工法

6. 性能検査

(11.1.5(3))(表11.1.2)(補1.8.1(c)(3))

試験の方法	適用箇所
※接着力試験	

7. その他（外壁タイル）

・社団法人全国タイル業協会編「陶磁器質タイル張り工事標準仕様書」
・社団法人全国タイル業協会編「設計上の配慮事項」「施工管理上の注意事項」

12章　木工事

① 表面仕上げ

機械加工　⊙A種 ・B種 ・C種　(12.1.4(7)(イ))(表12.1.1)(表12.1.2)
手加工仕上　・H－A種　※H－B種(内部造作材)　※H－C種（下地材）
適用箇所は図示
含水率　※A種 ・B種　(12.2.1(1)(イ)(1))(表12.2.1)

② 木材

「製材の日本農林規格」による製材　(12.2.1(2)(ア))

区分	樹種	寸法	等級	形状	含水率	保存処理	材面の品質
下地用 針葉樹製材	・	・	・1級 ※2級	・目付材 ・押角	・　%以下	・	・
造作用 針葉樹製材	・	・	※見掛かり上小節 それ以外小節 ・	・板類 ・角類	・　%以下	・	・
広葉樹製材	・	・	※1等 ・	・	・10 %以下	・	・

「製材の日本農林規格」以外の製材　(12.2.1(2)(イ))(表12.2.2)

区分	樹種	寸法	材面の品質	防虫処理	含水率
下地	・	・	・	・	・　%以下
造作	・	・	※A種 ・B種	・	・　%以下
仕上げ	・	・	・	・	・　%以下

「集成材の日本農林規格」による造作用集成材等　(12.2.1(3)(ア))

区分	品名	樹種	見付け材面の品質	化粧薄板の厚さ
造作用集成材	・	・	・ （仕上材に限る）	・
化粧ばり造作用集成材	・	・	・	・
化粧ばり構造用集成柱	・	・	・	・

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材等　(12.2.1(3)(イ))

区分	樹種	寸法	見付け材面の品質	化粧薄板の厚さ	含水率
造作用集成材	・	・	・ （仕上材に限る）	・	※15%以下 ・
化粧ばり造作用集成材	薄板・ 芯材・	・	・	・	※15%以下 ・
化粧ばり構造用集成柱	薄板・ 芯材・	・	・	・	※15%以下 ・

「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材　(12.2.1(4)(ア))

品名	寸法	表面の品質	防虫処理
・	・	・表面の化粧加工有（・天然木化粧　・塗装） ・表面の化粧加工無（・　※1等）	・

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材　(12.2.1(4)(イ))

寸法	表面の品質	含水率	防虫処理
・	・表面の化粧加工有（・天然木化粧　・塗装） ・表面の化粧加工無（・　※1等）	※14%以下 ・	・

「直交集成板の日本農林規格」に基づく直交集成板　(12.2.1(5))

品名	曲げ強度（強度等級）	種別	接着強度	樹種	寸法
・	・	・	・	・	・

普通合板　(12.2.1(6)(ア)(a))

品名	厚さ	接着の程度	板面の品質	単板の樹種	防虫処理
・	※5.5mm ・	※1類 ・	※2等以上(広葉樹) ※C-D以上（針葉樹）	・ ・	・

構造用合板　(12.2.1(6)(ア)(a))

品名	厚さ	接着の程度	等級	板面の品質	単板の樹種	保存処理
・	※12mm ・	※1類 ・特類（湿潤）	※2級以上 ・	※C-D以上 ・	・ ・	

構造用合板の防虫処理　・　(12.2.1(6)(ア)(b))
構造用合板の強度等級　・　(12.2.1(6)(ア)(b))

化粧張り構造用合板　(12.2.1(6)(イ))

品名	厚さ	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
・	・	・	・特類（湿潤状態） ・	・

天然木化粧合板　(12.2.1(6)(ウ))

厚さ	接着の程度	化粧板に使用する単板の樹種名	防虫処理
・	・	・	・

特殊加工化粧合板　(12.2.1(6)(エ))

品名	厚さ	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
・	・	・	・	・オーバーレイ・プリント ・塗装　・	・

パーティクルボード　(12.2.1(6)(オ))

厚さ	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分
※15mm ・	・	・　※13	・　・M（一般） ・P（耐水）	・普通 ・難燃2級・難燃3級

構造用パネル　品名・　厚さ・　mm　(12.2.1(6)(キ))

ミディアムデンシティファイバーボード（MDF）　(12.2.1(6)(ク))

厚さ	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
・	・	・	・　・M（一般） ・P（耐水）	・難燃2級 ・難燃3級

造作材の化粧面を釘打ち　※隠し釘打ち・釘頭埋め木・釘頭埋め木　(12.2.2(1))
・つぶし頭釘打ち　・釘頭現し
諸金物の形状、寸法、材質　※表12.2.3～表12.2.5　・　(12.2.2(2))

③ 接合具等

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・　(12.2.2(3))
諸金物　(12.2.2(2)(ア))

	形　状	寸　法	材　質
かすがい	・　※表12.2.3	・	・※鉄鋼亜鉛めっきF種程度
座金	・　※表12.2.4	・	・　※
箱金物及び短冊金物	・　※表12.2.5	・	・　※

④ 木れんが

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・　(12.2.2(3))

⑤ 防腐・防蟻処理

下地木材への防腐・防蟻処理　(12.3.1)
・薬剤による防腐・防蟻処理を省略できる製材（適用部材　）
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理（適用部材・　性能区分・　）
・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理（処理方法※12.3.1(イ)(b)　・　）
表面処理用保存剤の適用　・有　・無
薬剤の種類　・　適用部材・
・薬剤の接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理（処理方法　・　）

⑥ 防虫処理

防虫処理　・行う ・行わない　(12.3.2)

⑦ 鉄筋コンクリート等の内部間仕切軸組及び床組

木材　(12.4.1)

部位	樹種等
・間仕切軸組	※杉又は松・
・床組	※杉又は松・
・土圏スラブの類の場合の土台，転ばし大引及び転ばし根太	※ひのき又は保存処理木材

⑧ 窓、出入口その他

木材　(12.5.1)

部位	樹種等
・吊元枠，水掛りの下枠及び敷居	※ひのき　・
・上記以外	※松又は杉・

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants
株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事
建築工事特記仕様書（4）

設計番号 16779
図面番号 A — 005
縮尺 1/ A1:non A3:non
日付 2019・11・15

改訂：2019.09.01

9．床板張り　　縁甲板及び上がりかまちに用いる木材　※ひのき　→　(12.6.1)

10．壁及び天井下地　　下地木材　※杉又は松　→　(12.6.1)

11．性能試験　　→含水率試験　（試験箇所　　）　(補1.8.1(c)(4))

⑫．木材産地　　⊙木を利用する工事に際して優先的に筑豊地域材、県産材の採用を考慮すること。

13章　屋根及びとい工事

①．長尺金属板葺

材料　→塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル　(13.2.2(1))(表13.2.1)
→溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
→塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
→溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
→ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯のＡ種、SG
→冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
→塗装ステンレス鋼板及び鋼帯
→その他

塗膜の耐久性の種類　⊙ポリウレタン系樹脂塗装　(13.2.2(1))
めっき付着量　→　(13.2.2(1))
金属板の板厚　→0.4mm ⊙0.5mm →0.6mm →0.8mm →　mm　(13.2.2(1))
下葺材料　→アスファルトルーフィング940　→　(13.2.2(3))(表13.2.2)
⊙改質アスファルトルーフィング下葺材
（→一般タイプ　→複層基材タイプ　⊙粘着層付タイプ）
断熱材　※あり（材種→　厚さ→　mm）⊙なし
屋根葺形式　→瓦棒葺（心木無し）　→平葺　→横葺　⊙図示　(13.2.3(1))
耐風圧性能　(13.2.3(2))
性能値　建築基準法施行令第82条の5及び建設告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
風圧力：　※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。
耐積雪性能　※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件の積雪荷重に対して安全であること。　(13.2.3(2))
屋根葺工法　⊙嵌合立平葺　(13.2.3(3))
雪止め　→設置する（工法　※図示　→　）→設置しない　(13.2.3(4)(3))

②．折板葺

材料　→塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル　(13.3.2(2))(表13.2.1)
→溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
→塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
→溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯の屋根用コイル
→ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯のＡ種、SG
→冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
→塗装ステンレス鋼板及び鋼帯
→その他
金属板の板厚　→0.6mm →0.8mm →　mm　(13.3.2(1))
塗膜の耐久性の種類　→　(13.2.2(1))
めっき付着量　→　(13.2.2(1))
形式　→重ね形　→はぜ締め形　→かん合形　→　(13.3.2(1))
寸法　→山高（　mm）　→山ピッチ（　mm）　(13.3.2(1))
耐力　→等分布荷重　N/㎡　(13.3.2(1))
ボルト材料　※SUS304（ナット共）
屋内のタイトフレーム材料　→Ｆ種　→Ｅ種　→　(13.3.2(3))
面戸板　※軒先面戸及び２重面戸は図示　(13.3.2(5))
断熱材　※あり（材種→　厚さ→　mm　防火性能→　）(13.3.2(7))
→なし
耐火性能　※30分耐火　→なし　(13.3.2(7))
風圧力・積雪荷重　※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。　(13.3.3(1))
折板のけらば納め　※けらば包み　→図示　→　(13.3.3(2)(1))

③．シングル葺

種別

種　別	施工箇所
→アスファルトシングル葺	
→不燃シングル葺	
→金属箔シングル葺	

責任施工の保証期間（竣工期日以降）※10年間

④．粘土瓦葺

材料　種類　※Ｊ型　→　→　(13.4.2(1)(7))
大きさ　※53A　→　→
産地　→　→　→
役物瓦の種類　→　(13.4.2(1)(4))
雪止め瓦の使用　→使用する　→使用しない　(13.4.2(1)(4))
凍害試験　→行う　→行わない　(13.4.2(1)(9))
瓦桟木　材質※杉　→　寸法※幅21×高さ15（mm）以上　→　(13.4.2(2))
棟補強用心材　材質※杉　→　寸法※幅40×高さ30（mm）以上　→　(13.4.2(3))
棟補強等に使用する金物等　材質　→ステンレス製→溶融亜鉛めっき処理鋼製　→
形状　※図示→　寸法　※図示→　留付け方法　※図示→
風圧力・積雪荷重　※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。　(13.4.3(1))
木材以外の野地板　材料　→
留付け工法　→　(13.4.3(3)(4))
桟木の留付け工法　→　(13.4.3(4))
棟の工法　→７寸丸伏せ棟　→Ｆ形用冠瓦伏せ棟　→のし積み棟　(13.4.3(4))

⑤．とい

材種　たてどい　※配管用鋼管　⊙非鉄金属（・SUS ・アルミ）　(13.5.2(1))(表13.5.1)
→ステンレス管　⊙アルミ管（内面耐食塗装）
→硬質ポリ塩化ビニル管（→VP →RF-VP）→耐火被覆硬質塩化ビニル管　→
軒どい　※図示　→
製造所：　（製品名：　）(表13.5.1)
軒どいの伸縮継手　※設ける　→設けない
伸縮継手の間隔　※10m以内　→図示
オーバーフローの水抜　材種　※SUS304　→　形状→
金属屋根のドレイン部ゴミ除去金網　※設ける　→設けない
材料　※ステンレスメッシュ　→
ルーフドレンなど　(表13.5.1)
排水方法　⊙竪引　⊙横引
寸法　→80　⊙100　⊙125　⊙150　⊙(サイホン式ドレン　長谷川鐵工所SPSドレン同等)
材種　◎鋳鉄製　→SUS製　→
とい受金物及び受金物の機種、形状及び取付け間隔　※表13.5.2による

⊙SPSドレン施工にあたっては、以下に留意すること。
雨水排水施工図を作成の上、管摩擦抵抗の再計算を行い管径の確認を行うこと。
横引き配管は順勾配とし、1/200以上の勾配とすること。
曲がり部において衝撃が生じる恐れがある場合には、大曲りベンド又は45°エルボを使用すること。
配管の支持・取付にあたっては、騒音・振動を防止する処置を行うこと。
排水升への放流は横引き配管を在来方式と同程度の管サイズとし、エルボ折り返し等により下向きに放流すること。

⑥．性能試験

多雪地域の適用　→適用する　→適用しない　(13.5.2(2))
防露　※行う　→行わない　(13.5.2(3))(表13.5.3)(表13.5.5)
材料　※表13.5.3による（寒冷地の保温材厚さ　mm）
工法　※表13.5.4による　→図示
防露材のホルムアルデヒドの放散量
※Ｆ☆☆☆☆
掃除口　※設ける　→設けない

試験の種類	試験箇所
⊙とい漏水試験	

14章　金属工事

1．あと施工アンカー

設計用引張強度は下の表による
※引抜き耐力確認試験　(14.1.3(b)(4))(補1.8.1(b)(11))

あと施工アンカー種別	施工箇所	設計用引張強度	備考
→	→	→　N/㎟	→
→	→	→　N/㎟	→
→	→	→　N/㎟	→

②．表面処理

ステンレスの表面仕上げ　(14.2.1)(補14.2.1)

種　別	施工箇所	備　考
⊙HL仕上	図示	鏡面仕上の板厚は2mm以上
→No2B程度		
→エッチング仕上		
→鏡面エッチング仕上		
⊙鏡面仕上（No.8）⊙バフ仕上（No.7）	図示	
→カラーステンレス（　仕上）		
⊙パイプレーション仕上		

アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　(14.2.2(1))(表14.2.1)
→陽極酸化皮膜　JISH8601

表面処理	種　別	皮膜厚μm	色　合	施工箇所
無着色陽極酸化皮膜	→AB-1種	※15	※標準	
	→AC-1種	※ 6	→標準　→標準外	
着色陽極酸化皮膜	→AB-2種	※15	※標準	
	→AC-2種	※ 6	→標準　→標準外	

⊙陽極酸化塗装複合皮膜　JISH8602

表面処理	種　別	複合被膜の種類	色　合	塗装の艶	表面仕上（ダイスライン）（なし：梨地処理）	施工箇所
無着色陽極酸化塗装複合皮膜	→BA-1種	A2	※標準	→有 ※無	※標準（あり） →標準外（なし）	
	→BB-1種	B	※標準	→有 ※無	※標準（あり） →標準外（なし）	
	→BC-1種	C	※標準	→有 ※無	※標準（あり） →標準外（なし）	
着色陽極酸化塗装複合皮膜	⊙KA-2種	A2	※標準(着色) →標準外(ホワイト)	→有 ※無	※標準（あり） →標準外（なし）	
	→BB-2種	B	※標準(着色) →標準外(ホワイト)	→有 ※無	※標準（あり） →標準外（なし）	
	→BC-2種	C	※標準(着色) →標準外(ホワイト)	→有 ※無	※標準（あり） →標準外（なし）	

JISH8602 改正規格の種類（性能規格）				
種類	複合耐食性		耐候性	
	紫外線蛍光ランプ耐候性試験	キャス試験	キセノンランプ式促進耐候性試験	サンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験
	試験時間 h			
A1	240	120	4000	3000
A2	240	120	2000	1500
B	240	72	1000	750
C	160	—	350	250
備考	紫外線蛍光ランプ耐候性試験を行った後、キャス試験を実施する。		キセノンランプ式促進耐候性試験又はサンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験のいずれか1つを実施する。	

A1 過酷な環境で、かつ、紫外線露光量の多い地域の屋外
A2 過酷な環境の屋外
※B 一般的な環境の屋外
C 屋内
→過酷な環境とは、腐食・劣化の激しい地域で海浜及び沿岸
→一般的な環境とは、工業地域、都市地域及び田園地域
→海浜とは、海岸線から300m以内の地域
→沿岸とは、海岸線から300mを超えて2km以内の地域
→紫外線露光量の多い地域とは、亜熱帯海洋性気候に類似した地域（南西諸島等）

⊙着色塗装皮膜

表面処理	種　別	塗装厚	仕上がり	施工箇所
着色塗装皮膜	→B-FE(P)	→　μm	→ソリッド→メタリック	
	⊙B-FE(F)	→　μm	→ソリッド→メタリック	
	→	→		

注）B-FE(P)：高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り　B-FE(F)：中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り

着色陽極酸化皮膜の着色方法　※二次電解着色　(14.2.2(2))
→自然発色
→その他の電解着色（　）

鉄鋼の亜鉛めっき　(14.2.3(1))(表14.2.2)

表面処理方法	種　別	施工箇所
溶融亜鉛めっき	⊙A種（HDZ55）	手摺
	→B種（HDZ45）	
	→C種（HDZ35）	
電気亜鉛めっき	→D種　5級	
	→E種　4級	
	→F種　3級	
表面処理	→JIS G 3302※1	
亜鉛めっき鋼板	→JIS G 3313※2	
常温亜鉛めっき	→ZRC工法　※3	

注）＊1：溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
＊2：電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
＊3：ZRC乾燥皮膜厚76μm以上塗布

亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の焼付塗装仕上げ　(補14.9)

塗装種別	素地材料	仕上がり	表面処理	塗膜厚（μm）	施工箇所
→高温焼付形ふっ素樹脂エナメル(B-FE(P))	→	→	→化成皮膜	→	→
→中温焼付形ふっ素樹脂エナメル(B-FE(F))	→	→	→	→	→
→	→	→	→	→	→

③．軽量鉄骨天井下地

天井材の単位面積当たりの質量が20kg/㎡を超える天井，傾斜，段差，曲面等の水平でない天井，システム天井　※図示　→
天井高6m以上で面積200㎡を超える天井　※図示　⊙なし
野縁の種類　屋内　※19形　→25形　(14.4.2(2))(表14.4.1)
屋外　→19形　※25形
屋外下地の形式及び寸法　(14.4.3(1)(2))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。
吊りボルトの間隔が900を超える補強方法　※図示　(14.4.4(5)(7))
天井ふところ1.5m以上（3m以下）の補強方法　(14.4.4(8))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。
耐震性を考慮した補強　(14.4.4(10))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。
屋外の軒天井，ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強　(14.4.4(11))
※「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。

特殊軽量鉄骨天井下地　製造所、工法（　同等品，使用部位：　）
→図示

④．軽量鉄骨壁下地

スタッド及びランナーの種類　→50形　⊙65形　⊙90形　⊙100形　(14.5.3(1))(表14.5.1)
高さ5.0mを超えるスタッド　※図示

特殊軽量鉄骨壁下地　製造所、工法（　同等品，使用部位：　）
→図示
出入口及びこれに準ずる開口部の補強　※表14.5.4（5）→

⑤．金属成形板張り

天井の金属成形板　(14.6.2(1))

種　別	⊙スパンドレル形	→パネル形	→
製　法	→押出し　→ロール	→プレス	→
材　種	⊙アルミニウム	→	→
表面処理・仕上	→	→	→
寸　法　mm	⊙910	→	→
板　厚　mm	⊙1.0	→	→
施工箇所	⊙大底	→	→

取付け用下地　※14.4（軽量鉄骨天井下地）による　→図示　(14.6.3(1))
長尺ものの伸縮調整継手　→設けない　※設ける（施工箇所は図示による）　(14.6.3(5))

壁の金属成形板

種　別	→折板	→サイディング類	→金属成形断熱パネル	→
製　法	→	→	→	→
材　種	→	→	→	→
表面処理・仕上	→	→	→	→
寸　法　mm	→	→	→	→
板　厚　mm	→	→	→	→
施工箇所	→	→	→	→
外装パネル工法	多雪区域の指定 風圧力	※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。		

⑥．アルミニウム製笠木

笠木本体の材料　※アルミニウム押出形材　→アルミニウム合金押出形材　(14.7.2(1))
笠木部材の種類　→250形　→300形　→350形　(補14.7.1)
伸縮調整継手　→設ける（　m以内）　→設けない
役物の種類及び工法　※主材製造所の仕様　→　(14.7.2(2))
表面処理　→AB－1種　→BB－1種　→　(14.7.2(3)(7))(表14.2.1)
風圧力　建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。　(14.7.3(1)(7))

多雪地域と指定された地域における笠木の固定金具の取付方法　(14.7.3(1))
※図示

⑦．手すり

材料の種別　※図示　→鉄鋼　→SUS304　→アルミニウム　(14.8.2(1)(7))

⑧．タラップ

材料の種別・表面処理　※SUS304（※HL　→　）(14.8.3(1)(7))(14.8.3(1)(4))
→鉄鋼　（※C種　→　）

⑨．エキスパンションジョイント

ＥＸＰＪカバー可動量（Ｘ，Ｙ方向）
※下表による　→図示

可動量				
屋根	外壁	床	内壁	天井
※ 50% →100%	※ 50% →100%	※ 50% →100%	※ 50% →100%	※ 50% →100%

可動量50%の場合であっても、耐震安全性分類のＡ類は、屋根の止水帯と各部位の耐火帯は、可動量100%に追従すること。
安全機構
※可動量を100%としない場合は安全機構を設ける。　(補14.11.1)
床カバーの安全機構の設置　※図示　→

構造クリアランス、仕様　(補14.11.2)
※下表による　→図示
（構造躯体の層間変形角　→ＲＣ造，ＳＲＣ造：1/200　→Ｓ造：1/100　→計算：1/　.1/　）

階	階高 mm	IFLからの床高さmm	床クリアランスmm以上	床可動量mm以上	耐火帯	止水帯（床）	断熱材	遮音帯
パラペット					→無	※有	→有	→有
階					→無	→有	→有	→有
8階					→無	→有	→有	→有
7階					→無	→有	→有	→有
6階					→無	→有	→有	→有
5階					→無	→有	→有	→有
4階					→無	→有	→有	→有
3階					→無	→有	→有	→有
2階					→無	→有	→有	→有
1階					→無	→有	→有	→有

耐火帯　※特記なき限り有り
耐火帯は防火区画の壁、床においては建築基準法施行令第107条2項に規定する「1時間遮熱性能」、外壁、屋根部分においては同第107条3項に規定する「30分遮熱性能」（延焼のおそれのある部分については1時間）とし、仕様は製造所の仕様による。
止水帯　※止水帯は外壁、屋根部分に施し、仕様は製造所の仕様による。また、その他の部分で止水帯を施す場合は上表による。

断熱材　※特記なき限り無し
→断熱材（仕様　）
遮音帯　※特記なき限り無し
→遮音帯（仕様　）

主材料・仕上
※下表による　→図示

部位	屋根	外壁	床	内壁	天井
主材料	→	→	→	→	→
仕上	→	→	→	→	→

耐荷重性能
床　※下表による　→図示

適用箇所
→軽歩行用
→重歩行用
→車両用　T-5
→車両用　T-14
→車両用　T-25

屋根・外壁の耐風圧力・耐積雪量
※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。

⑩．パンチングメタル

材質	打抜型	板厚（mm）	孔径（mm）	芯々距離（mm）	施工箇所
ST	千鳥	1.6	2.0	3.5	手すり

⑪．エキスパンドメタル

種　類	品　番	施工箇所
ST		SD外-07

⑫．ステンレス鋼板の曲げ加工　　工法　※普通曲げ　→角出し曲げ（→Ａ角　→Ｂ角　→Ｃ角）　(補14.10.1)

13．性能試験　　(補1.8.1(c)(6))(補14.9.7(b))

試験の方法	試験箇所
→アルミニウム表面処理の皮膜及び塗膜の品質試験	→
→溶融亜鉛めっきの亜鉛の付着量試験	→
→電気亜鉛めっきの皮膜厚さ試験及び塩水噴霧試験	→
→金属素地上の焼付け塗装の塗膜厚試験	→
→金属素地上の焼付け塗装の品質試験	→

15章　左官工事

①．防火材料　　防火材料　※屋内の壁及び天井の仕上塗材は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた防火材料とする。

②．下地

直張り工法の場合のラス系下地の種類　→ラスモルタル下地　→ラスシートモルタル下地　(15.2.4(2)(7))
上記の場合で外張断熱工法とする場合の通気工法　→行う　→行わない　(15.2.4(2)(7))
建築基準法に基づく指定の有無　→耐力壁　→防火構造　→準耐火構造　→指定なし　(15.2.4(2)(4))
ラス及び補強用平ラスの仕様　(15.2.4.3(7))
→通気工法二層下地　※2種波形ラス700　→
→通気工法単層下地　※2種防水紙付きリブラス800　→
→図示
ラスシートの山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチによる区分　(15.2.4.3(3)(4))
→ＬＳ１　→ＬＳ２　→ＬＳ３　※ＬＳ４（耐力壁）→図示
ステープルの形状・寸法　(15.2.4.3(3))
→リブラス　※L925T-S　→　→波型ラス：※L1019J-S　→　、→図示
換気口部の措置　※「公共建築木造工事標準仕様書」11.4.3(2)(ｶ)　(15.2.4(4)(7)②④)
→図示
耐力壁の場合のラスシートの施工　※図示　(15.2.4(4)(3)(c))
→せっこうボード　種類→　厚さ→　(15.2.5(2)(7))
→せっこうラスボード種類→　厚さ→
→木質系セメント板　種類→　厚さ→　※15m
耐力壁の場合のこまい下地の適用範囲　※図示　(15.2.5(1))
木ずり下地の木ずり用小幅板の樹種　※杉心去り材　→図示　(15.2.7(2)(7))

③．モルタル塗り

モルタルの材料　→現場調合材料　→15.3.2.(1)(ｱ)　(15.3.2(1))
→既調合材料（　）→図示　(15.3.2(1)(4))
既製目地材　※使用する　形状　→図示　→　(15.3.2(6))
適用箇所　→
床の目地　⊙設置する　目地工法　※押し目地　→　(15.3.5(3)(5))
施工箇所
外壁タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験　(15.3.5(4)(c)⑧)
→行う　→行わない

⑤．セルフレベリング材塗り

種類及び品質　→せっこう系　※セメント系　(15.5.2(1))(表15.5.1)
塗り厚　※10mm　→
施工箇所　⊙不陸等が著しい場合。

6．仕上塗材仕上げ

仕上塗材の種類、仕上げ形状及び工法　(15.6.2(1)(4))(表15.6.1)(15.6.6)

種　類	呼び名	仕上の形状	工法	施工箇所
→薄付け仕上塗材 JIS A 6909	→外装薄塗材S1	→砂壁状 →ゆず肌状	吹付け	
		→ゆず肌状 →さざ波状	ローラー	
	→可とう形外装薄塗材S1	→砂壁状 →ゆず肌状	吹付け	
		→ゆず肌状 →さざ波状	ローラー	
	→外装薄塗材E	→砂壁状 →ゆず肌状	吹付け	
		※平たん状 ※凹凸状	こて塗り	
		→ゆず肌状 →さざ波状	ローラー	
		→着色骨材砂壁状	→吹付け	
			→こて塗り	
	→可とう形外装薄塗材E	→砂壁状 →ゆず肌状	吹付け	
		※平たん状 ※凹凸状	こて塗り	
		→ゆず肌状 →さざ波状	ローラー	
	→防水形外装薄塗材E	→ゆず肌状 →さざ波状	ローラー	
		※凹凸状	吹付け	
	→外装薄塗材S	※砂壁状	吹付け	
	→内装薄塗材C →内装薄塗材L	※凹凸状	吹付け	
		※平たん状 ※凹凸状	こて塗り	
		→ゆず肌状 →さざ波状	ローラー	
	→内装薄塗材S1 →内装薄塗材E	→砂壁状じゅらく →ゆず肌状	吹付け	
		※平たん状 ※凹凸状	こて塗り	
		→ゆず肌状 →さざ波状	ローラー	
	→内装薄塗材Ｗ	※京壁状じゅらく	吹付け	
		→ゆず肌状		
		※平たん状 ※凹凸状	こて塗り	

改訂：2019.09.01

・厚付け仕上塗材 JIS A 6909	・外装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	吹付け		
		※平たん状 ※凹凸状 ・ひき起し ・かき落とし	こて塗り		
	・外装厚塗材S1 ・外装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理	吹付け		
		※平たん状 ※凹凸状 ・ひき起し	こて塗り ローラー		
	・内装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	吹付け		
		※平たん状 ※凹凸状 ・ひき起し ・かき落とし	こて塗り		
	・内装厚塗材L	※平たん状 ※凹凸状 ・ひき起し ・かき落とし	こて塗り		
	・内装厚塗材G	※平たん状 ※凹凸状 ・ひき起し ・かき落とし	こて塗り		
	・内装厚塗材S1 ・内装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理	吹付け		
		※平たん状 ※凹凸状 ・ひき起し	・こて塗り ・ローラー		
・複層仕上塗材 JIS A 6909	・複層塗材CE ・複層塗材S1 ・複層塗材E ・複層塗材RE	・凸部処理 ・凹凸模様	吹付け		
		※ゆず肌状	ローラー		
	・可とう形複層塗材CE	・凸部処理 ・凹凸模様	吹付け		
		※ゆず肌状	ローラー		
	・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RE	・凸部処理 ・凹凸模様	吹付け		
		※ゆず肌状	ローラー		
・軽量骨材仕上塗材 JIS A 6909	・吹付用軽量塗材	※砂壁状	吹付け		
	・こて塗用軽量塗材	※平たん状	こて塗り		

外装厚塗材S1・E　上塗材の適用　・有　・無
外装厚塗材C　上塗材　※セメントスタッコ　・

内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　(15.6.2(1)(7))
内装薄塗材，内装厚塗材の吸放湿性　・有（　）・無　(15.6.2(1)(2))
複層仕上塗材の耐候性　※耐候形3種　・耐候形2種　・耐候形1種　(15.6.2(1)(3))
複層仕上塗材の上塗材　(15.6.2(1)(9))
溶媒　※水系　・溶剤系　・弱溶剤系　(表15.6.2)
樹脂　※アクリル系・アクリルシリコン系（低汚染型）・ふっ素系（低汚染型）・シリカ系　・ポリウレタン系
外観　※つやあり　・つやなし　・メタリック

下地処理　ALCパネルの内壁目地部の形状　※V形　・　(15.6.4(4)(7))
装飾仕上塗材　※下表による　・図示による

仕上塗材の名称	施工箇所	使用材料（商品名）
・		同等品とする
・		同等品とする
・		同等品とする

7. マスチック塗材塗り

種別　・A種　・B種　(15.7.2(1))(表15.7.1)

8. せっこうプラスター塗り

下塗り及び中塗り　・既調合プラスター　・現場調合プラスター　(15.7.2(1))
上塗り　・既調合プラスター　・しっくい塗り　(15.7.3(2))

9. ドロマイトプラスター塗り

・適用　・

10. しっくい塗り

下地　※木ずり、こまい土壁塗り、せっこうラスボード、又はせっこうボード　(15.10.1)
・
材料　・現場調合材料　・既調合材料（しっくい塗材の種類　※図示　・　)
(15.10.2(1)(4))
調合及び各層の塗厚　※表15.10.1（木ずり下地）、表15.10.2（こまい土壁下地）・
(15.10.3)　(表15.10.1)　(表15.10.2)

11. こまい壁塗り

土壁用のりの種類　※つのまた　・ふのり　・ぎんなんそう　・粉末海藻　・
(15.11.2(5)(7))
砂壁用ののりの種類※ふのり　・つのまた　・こんにゃくのり　・にかわ　(15.11.2(5)(4))
・合成高分子系混和剤　・
土物仕上げに用いる色土の種類　・　(15.11.2(6)(7))
大津仕上げに用いる色土の種類　・　(15.11.2(6)(4))
色砂の種類　・天然砂　・岩石の砕砂　・人工色　(15.11.2(8))
下塗りの調合　※表15.11.2　・　(15.11.3(1))　(表15.11.2)
塗厚　※表15.11.8　・　(15.11.4)(表15.11.8)
耐力壁の指定　・有　・無
工程の種別　※A種　・B種　(15.11.5(1))(表15.11.9)
土物仕上げ工法の種類　(15.11.7(1)(7)(4)(9))
・土物仕上げ工法（水こね土物１工法）・土物仕上げ工法（水こね土物２工法）
・土物仕上げ工法（のりさし土物工法）・土物仕上げ工法（のりごね土物工法）
・砂壁仕上げ工法　・切返し仕上げ工法
大津仕上げ工法の種類　・普通大津仕上げ工法　・大津みがき仕上げ工法　(15.11.8(1)(7)(4))

12. ロックウール吹付(半乾式及び乾式工法)

ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆・　(15.12.2(1)(4))
仕上げ吹付け厚さ　(15.12.3(2))

施工箇所	吹付け厚さ	備　考
・	・　mm	
・	・　mm	
・	・　mm	

13. 薄塗り工法

工法の種別　(補15.8.2)(補表15.8.1)

種別	A　種	B　種	C　種
施工箇所	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・

C種の種類　・1種　・2種　・3種　(補15.8.3(b)(1))(補表15.8.2)

14. 特殊仕上げ

・耐摩耗床　材料　工法　厚さ　mm
・耐薬品床　材料　工法　厚さ　mm

16章　建具工事

建具工事特記仕様書・建具表（１）参照

17章　カーテンウォール工事

1. 見本の製作

実物大見本　・製作する　（範囲　※図示　・　）　(補17.1.5(a))
・製作しない
模型　・製作する　（範囲　※図示　・　）　(補17.1.5(a))
（縮尺　※図示　・　）
（材料　※図示　・　）
・製作しない
各部材の組立て試験　・行う　・行わない　(補17.1.5(c))

2. 実大試験

・行う　（範囲・規模　※図示　・　）　(補17.1.6)
・行わない

3. 性能

耐風圧性能　(17.1.3(1))(補17.1.3(a))
性能値　※建築基準法施行令第82条の5及び建設告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
風圧力　※建築工事特記仕様書（１）の設計気象条件による。
主要部材のたわみ　(補17.1.3(a))

支点間距離 h	たわみ量	状　態
※4m以下	※±(1/150)xh かつ絶対量20 mm以下	※各部の破損、残留変形、有害な変形が起こらないこと
※4mを超える	※1/200以下	

耐震性能（層間変位追従性能）　(17.1.3(1))(補17.1.3(b))
設計震度　水平方向(Kh)　※1.0　・
鉛直方向(Kv)　※0.5　・
(補17.1.3(b))
層間変位追従性能　H:階高

⊕（Ⅰ）	いっさいの補修なしに継続使用できる限界　±H/300
・（Ⅱ）	カーテンウォール部材に破損、脱落、及び残留変形の何れも起こらず、シーリング材の補修のみで継続使用できる限界　±H/200
・（Ⅲ）	カーテンウォール部材に破損及び脱落が起こらない限界　±H/150 かつ ±25mm以上

水密性能　はめ殺し部分　・1500 Pa　⊕0.5Pかつ1500 Pa　(17.1.3(1))(補17.1.3(c))
・0.75Pかつ2250 Pa　P：耐風圧性能に用いた最大の正圧値
可動部分　⊕1000 Pa以上

気密性能　はめ殺し部分　⊕8 m³/m²h　・　m³/m²h　(17.1.3(1))(補17.1.3(d))
可動部分　⊕8 m³/m²h　・2 m³/m²h　・0.5 m³/m²h　・　m³/m²h
・　m³/m²h

耐火性能　合成耐火構造　※図示　・　(17.1.3(1))(補17.1.3(e))
防火区画　※図示　・

耐温度差性能（熱安定性能）　(17.1.3(1))(補17.1.3(f))
許容温度差　直射日光の当たる暗色の金属材　※80℃　・
直射日光の当たる明色の金属材　※70℃　・
その他の部材　※60℃　・

遮音性能　平均透過損失　⊕T-2等級線　・T-3等級線　・T-4等級線　(17.1.3(1))(補17.1.3(g))

断熱性能　熱貫流抵抗　⊕H-3等級　・H-4等級　・H-5等級　(17.1.3(1))(補17.1.3(h))

撥音対策　※予測される風圧力、躯体の変形、外気温の変化に起因して発生する撥音や摩擦音は最小限に抑えるようにする。　(補17.4.7(e))

4. 性能試験

実大試験の項目　(17.1.3)(補1.8.1(c)(8))(補17.1.7)
・カーテンウォールユニットの耐風圧性能試験
・カーテンウォールユニットの層間変位追従性能試験
・カーテンウォールユニットの水密性能試験
・カーテンウォールユニットの等圧性能確認試験
・カーテンウォールユニットの排水経路確認試験

5. メタルカーテンウォール

金属材料の種類　(17.2.2(1))(補17.2.2)
⊕アルミニウム及びアルミニウム合金材　(補17.2.2(a))
押出形材の厚さ　※溶接部4.0mm以上、非溶接部2.5mm以上　(補17.2.2(a)(1))
・
板材の厚さ　※2.5mm以上　・　(補17.2.2(a)(2))
表面処理　(16.2.4(4))(表14.2.2)(補17.2.2(a)(3))
・陽極酸化皮膜　JISH8601

表面処理	種　別	皮膜厚μm	皮膜種類	色　合	施工箇所
無着色陽極	・AB-1種	※15	AA15	※標準	
酸化皮膜	・AC-1種	※ 6	AA6	・標準　・標準外	
着色陽極	・AB-2種	※15	AA15	※標準	
酸化皮膜	・AC-2種	※ 6	AA6	・標準　・標準外	

・陽極酸化塗装複合皮膜　JISH8602

表面処理	種　別	複合皮膜の種類	色　合	塗装の艶	表面仕上（ダイスライン）（なし：製処処理）	施工箇所
無着色陽極酸化塗装複合皮膜	・BA-1種	A2	※標準	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
	・BB-1種	B	※標準	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
	・BC-1種	C	※標準	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
着色陽極酸化塗装複合皮膜	・BA-2種	A2	※標準（着色） ・標準外（ホワイト）	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
	・BB-2種	B	※標準（着色） ・標準外（ホワイト）	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	
	・BC-2種	C	※標準（着色） ・標準外（ホワイト）	・有 ※無	※標準（あり） ・標準外（なし）	

JISH8602 改正規格の種類（性能規格）

種類	複合耐食性 紫外線蛍光ランプ耐候性試験	複合耐食性 キャス試験	耐候性 キセノンランプ式促進耐候性試験	耐候性 サンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験
	試験時間 h			
A1	240	120	4000	3000
A2	240	120	2000	1500
B	240	72	1000	750
C	—	—	350	250
備考	紫外線蛍光ランプ耐候性試験を行った後、キャス試験を実施する。		キセノンランプ式促進耐候性試験又はサンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験のいづれかを実施する。	

A1 過酷な環境で、かつ、紫外線露光量の多い地域の屋外
A2 過酷な環境の屋外
※B 一般的な環境の屋外
C 屋内
・過酷な環境とは、腐食・劣化の激しい地域で海浜及び沿岸
・一般的な環境とは、工業地域、都市地域及び田園地域
・海浜とは、海岸線から300m以内の地域
・沿岸とは、海岸線から300mを超えて2km以内の地域
・紫外線露光量の多い地域とは、亜熱帯海洋性気候に類似した地域（南西諸島等）

⊕着色塗装皮膜

表面処理	種　別	塗装厚	仕上がり	施工箇所
着色塗装皮膜	⊕B-FE(P)	⊕　65 μm	・ソリッド ・メタリック	
	・B-FE(F)	・　μm	・ソリッド ・メタリック	
	・	・		

注）B-FE(P)：高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り　B-FE(F)：中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り

⊕鋼材　(17.2.2(1))(補17.2.2(b))
材料の厚さ　※1.6mm以上　・　(補17.2.2(b)(2))
表面処理　※表14.2.2の溶融亜鉛めっきの　種　・　(補17.2.2(b)(3))
仕上げ　※図示　・　(17.2.3(2))(補17.2.3(b))

・ステンレス鋼材　(17.2.2(1))(補17.2.2(c))
種類　※SUS304　・　(補17.2.2(c)(1))
材料の厚さ　※鏡面仕上げ2.0mm以上、その他1.5mm以上　(補17.2.2(c)(2))
表面処理　※図示　・　(補17.2.2(c)(3))
仕上げ　※図示　・　(17.2.3(2))(補17.2.3(c))

・耐候性鋼材　(17.2.2(1))(補17.2.2(d))
表面処理　※図示　・　(補17.2.2(d))
仕上げ　※図示　・　(17.2.3(2))(補17.2.2(d))

シーリング材の種類　(17.2.2(2))(補17.2.2(g))
⊕不定形シーリング材　種類　※特記仕様書9.12シーリング材による　(補17.2.2(g)(1))
・定形シーリング材　種類　・　(補17.2.2(g)(2))

ガラス取付け材料　(17.2.2(4))(補17.2.2(f)(2))
⊕シーリング材　種類　※特記仕様書9.12シーリング材による　(17.2.2(d)(1))
・構造用ガスケット　材質　※図示　・　(17.2.2(4)(4))(補17.2.2(f)(2))
形状　※図示　・

断熱材料　種類　※図示　・　厚さ　※図示　・　mm　(17.2.2(5))
製品の寸法許容差　(17.2.3(1))(表17.2.1)
メタルカーテンウォール（アルミニウム合金鋳物によるものを除く）製品の寸法許容差　(17.2.3(1))(表17.2.1)

区分		項　目	寸法許容差 mm
単一形材	長さ	・1.5m以下	※±1.0　・
		・1.5mを超え4m以下	※±1.5　・
		・4m　を超えるもの	※±2.0　・
	曲がり		※JIS H4100（アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材）による
	ねじれ		
単一パネル材	辺長	・1.5m以下	※±1.5　・
		・1.5mを超え4m以下	※±2.0　・
		・4m　を超えるもの	※＋2.0、-3.0　・
	見込み深さ		※±1.0　・
	対角線長の差		※＋3.0、0　・
	平面度		※　2/1000　・
組立ユニット	外法寸法	・1.5m以下	※±2.0　・
		・1.5mを超え4m以下	※＋2.0、-3.0　・
		・4m　を超えるもの	※＋2.0、-4.0　・
	対角線長の差		※＋3.0、0　・

⊕アルミニウム合金鋳物カーテンウォール製品の寸法許容差　(補17.2.3)(補表17.2.1)

項　目	寸法許容差 mm	項　目	寸法許容差 mm
辺長	※＋2～-4　・	ねじれ、反り	※　4　・
対角線長の差	※　5　・	曲がり	※　3　・
板厚	※－2　・	見込み深さ	※±2　・
開口部内法寸法	±3　・	ボルトピッチ	※±3　・

注）製品の大きさは、長辺≦4000mm、短辺≦2000mmの範囲内とする。

ガラス溝の寸法、形状　※カーテンウォール製作所の仕様による　・　(17.2.3(4))

躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差　(17.2.5(1)(4))(表17.2.2)

方　向	寸法許容差 mm
鉛直方向	※±10　・
水平方向	※±25　・

接合部工法　⊕二重シールによるクローズドジョイント　(補17.4.6)
・等圧オープンジョイント
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差（　）mm　(17.2.5(2)(4))(表17.2.3)(補17.2.5(b))(補表17.2.2)

項　目	メタルカーテンウォール	アルミニウム合金鋳物カーテンウォール
目地の幅	※±3　・	※±5　・
目地心の通り	※＋2、0　・	※　3　・
目地面側の段差	※＋2、0　・	※　4　・
各階の基準墨から各部材までの距離	※±3　・	※±5　・

構造用ガスケットを用いるガラスの取付け　※図示　・　(17.2.6)

6. PCカーテンウォール

コンクリート
種類　・軽量コンクリート（表6.10.1の1種）　・普通コンクリート　(6.3.1)
(17.3.2(1)(7))
品質　(17.3.2(1)(4))

設計基準強度	スランプ	気乾比重	単位水量	配　筋
※30 N/mm²	※12cm	※6.2.3［気乾単位容積質量］(1)による	※185kg/m³	※図示（計算書を提出）
・	・	・	・	・

繊維補強セメント・コンクリート複合材　(補17.3.2(a)(2))
材料　※図示　・CFRC　・GRC　(補8.6.3)(補表8.6.1)
かさ比重　・
設計基準強度　圧縮強度　・　N/mm²
曲げ強度　・　N/mm²
脱型強度　・　N/mm²
鉄筋の種類　※SD295A　・　(17.3.2(2))
補強鉄線の寸法　径　※径3.2　以上　・　(17.3.2(3))
網目寸法　・
シーリング材の種類　(17.3.2(4))
・不定形シーリング材　種類　※特記仕様書9.12シーリング材による
・定形シーリング材　種類　・
耐火目地材　※図示　・　(17.3.2(5))
断熱材　種類　※図示　・　厚さ　※図示　・　mm　(17.3.2(6))

7. 大型ガラスの支持方式

先付け仕上材、建具枠、ゴンドラ用ガイドレール等　※図示　・　(17.3.2(11)(2))
PCカーテンウォール製品の寸法許容差　(17.3.3(1))(表17.3.1)

項　目	寸法許容差 mm	項　目	寸法許容差 mm
辺長	※±3　・	ねじれ、反り	※＋5、0　・
対角線長の差	※＋5、0　・	曲がり	※＋3、0　・
板厚	※±2　・	面の凹凸	※＋3、0　・
開口部内法寸法	※±2　・	先付け金物の位置	※＋5、0　・

PCカーテンウォールの仕上げ　※図示　・　(17.3.3(2))(補17.3.3(b))

構造用ガスケット　アンカー溝の寸法　※図示　・　(17.3.3(4))
寸法許容差　・
配筋　・図示　・　(17.3.4(2)(7))

躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差　(17.3.5(1))(表17.2.2)

方　向	寸法許容差 mm
鉛直方向	※±10　・
水平方向	※±25　・

接合部工法　・二重シールによるクローズドジョイント　(補17.4.6)
・等圧オープンジョイント

カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差　(17.3.5(2)(7))(表17.3.2)

項　目	寸法許容差 mm
目地の幅	※±5　・
目地心の通り	※＋3、0　・
目地両側の段差	※＋4、0　・
各階の基準墨から各部材までの距離	※±5　・

構造用ガスケットを用いるガラスの取付け　※図示　・　(17.3.6)

工法　・SSG工法　⊕DPG工法　・MPG工法
・ガラスリブ工法（・ガラス吊下げ工法　・ガラス方立工法　・併用工法）
・テンションマリオン工法

飛散防止フィルム貼り　※特記仕様書16.14による。

18章　塗装工事

1. 材料

※屋内の壁及び天井の仕上げ材で塗料を使用する場合のホルムアルデヒド放散量は JIS 等で規定されている場合　※F☆☆☆☆　・　(18.1.3(1))
※屋内の壁及び天井の塗装仕上げ材で、防火材料は建築基準法に基づく指定または認定を受けたものとする。　(18.1.3(2))
※ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆

2. 塗装業者

※日本塗装工業会の会員　・監理者の承認する業者

3. 素地ごしらえ

種別　(表18.2.1)～(表18.2.7)(補18.10.2)(補18.11.2)

素地面種別	素地ごしらえ種別	仕上塗料種別
木部	表18.2.1 ・A種	※不透明塗料塗り
	⊕B種	※透明塗料塗り（・CL　⊕UC　⊕WP）
鉄鋼面	表18.2.2 ・A種	※製作工場塗装
	⊕B種	※製作工場塗装 ・2-FUE ・2-ASE ⊕DP
	※C種	⊕SOP
亜鉛めっき鋼面	表18.2.3 ⊕A種	※製作工場塗装 ・2-ASE ・2-FUE ⊕DP ⊕リン酸化成被膜処理
	・B種	※鋼製建具面（・SOP　・　）
	⊕C種	A種B種以外（⊕SOP ・FE ・EP-T）
モルタル及びプラスター面	表18.2.4 ・A種	・
	※B種	⊕EP-G ⊕EP ・EP-T ・NAD
コンクリート面	表18.2.5 ・A種	・DP
	※B種	⊕EP-G ・EP ・EP-T ・NAD
	表18.2.6 ・A種	・DP ・2-ASE ・
	⊕B種	・FUC ⊕ASC
ALCパネル	表18.2.5 ・A種	・
	※B種	・NAD
押出成形セメント板（7節）	表18.2.6 ・A種	・DP ・
	※B種	⊕EP-G ・EP ・EP-T ・NAD
せっこうボード その他ボード面	表18.2.7 ⊕A種	※継目処理工法　（⊕EP-G ⊕EP ・EP-T）
	・B種	※その他の目地処理（・EP-G ・EP ・EP-T）

4. 錆止め塗料塗り

塗料種別　鉄鋼面　EP－Gの場合　・A種　※B種　(18.3.2(1))(表18.3.1)
亜鉛めっき鋼面　※A種・B種　(18.3.2(2))(表18.3.2)
EP－Gの場合　※C種
錆止め塗料塗りの種別　(18.3.3)(表18.3.3)(表18.3.4)

素地面種別	種　別	仕上塗料種別
鉄鋼面	表18.3.3 ・A種	※見掛り部分　⊕SOP ・FE ・EP-G
		※他の部分　・EP-T
	・B種	※見隠れ部分　⊕SOP ・EP-G
亜鉛めっき鋼面	表18.3.4 ・A種	※鋼製建具面　⊕SOP ・FE ・EP-T
	・B種	・現場塗装　⊕SOP ・FE ・EP-T
	・C種	・現場塗装　・EP-G　・

鉄骨工事における鉄鋼面錆止め塗料塗りは、建築工事特記仕様書(11)＜構造関係(2)＞の7章 鉄骨工事による。

5. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）

塗料種類　※1種　・　(18.4.2)
木部合成樹脂調合ペイント塗り　屋外※A種　・B種　(18.4.3)(表18.4.1)
屋内・A種　※B種
鉄鋼面合成樹脂調合ペイント塗り　・A種　※B種　(18.4.4)(表18.4.2)

6. クリヤラッカー塗り（CL）

種別　・A種　※B種　(18.5.2)(表18.5.1)

7. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD）

種別　・A種　※B種　(18.6.2)(表18.6.1)

| | | | | |

⑧. 耐候性塗料塗り（DP）
下地 ⊙亜鉛めっき鋼面 ⊙鋼鉄面 (18.7.2)(18.7.3)(18.7.4)
・コンクリート面及び押出成型セメント板面
上塗り塗料 ⊙1級 ・2級 ・3級 (18.7.2)(18.7.3)(18.7.4)(表18.7.1)(表18.7.2)(表18.7.3)
・コンクリート面及び押出成形セメント板面の種別
・A種 ・B種 ・C種

9. アクリルシリコン樹脂エナメル塗り（2-ASE）
塗料種別 ・一般形 ・低汚染形 (補18.10.5)
シリコン系浸透性吸水防止材の材料規格 ※補18.10.5(b)
※上塗り塗料製造所の指定品 ・ (補表18.10.6)

⑩. 常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り（2-FUE）
塗料種別 ・一般形 ※低汚染形 (補18.11.4)
種別 金属系素地 ※補18.11.4(b)

⑪. つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G）
種別 コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面
鉄鋼面 (18.8.2)(表18.8.1)
・A種 ※B種

⑫. 合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）
種別 コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面
・A種 ※B種 (18.9.2)(表18.9.1)

13. 合成樹脂エマルション模様塗料塗り（EP-T）
種別 屋内のコンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面
・A種 ※B種 (18.10.2)(表18.10.1)

⑭. ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）
種別 一般床 ・A種 ※B種
体育館弾性床 ⊙補19.12.4(e)による (18.11.2)(表18.11.1)

15. オイルステイン塗り 塗料 ・ (18.12.2)

16. 木材保護塗料塗り（WP）
種別 ・A種 ※B種 (18.13.2)(表18.14.1)

17. アクリルシリコン樹脂クリヤ塗り（ASC）
塗料種別 ・一般形 ・低汚染形 (補18.10.6)
シリコン系浸透性吸水防止材の材料規格 (補18.10.6(b))(補表18.10.7)
※上塗り塗料製造所の指定品 ・

⑱. 常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗り（FUC）
塗料種別 ・一般形 ⊙低汚染形 (補18.11.5)
シリコン系浸透性吸水防止材の材料規格 (補18.11.5(b))
※上塗り塗料製造所の指定品 ・

⑲. 防塵用塗料塗り
材料 水性アクリル系樹脂系塗料（※標準色 ）・
仕上種別 コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量 主剤2回塗りとし、総塗布量は0.25kg/㎡以上とする。

20. 性能試験
・塗り厚試験 試験を行う塗料 ・DP
試験を行う箇所 ・外壁 (補1.8.1(c)(9))

㉑. 光触媒ｺｰﾃｨﾝｸﾞ ⊙石原産業 光触媒コーティング剤 同等品

19章 内装工事

①. 防火材料
屋内の壁及び天井の仕上げ材は、特記により防火材料の指定がある場合は建築基準法に基づく指定又は認定を受けたものとする。
・

②. 健康障害への対策
※低ホルムアルデヒド等の材料及び工法
内装工事に使用する下地材及び仕上材は、その材料の製造工程及び施工工程において、品質・性能上等で支障なき場合、当該特記仕様書に特記された事項以外でも、ホルムアルデヒド等の揮発性有機化合物（VOC）を放散しないもの、又は極力低濃度の材料及び工法とすること。又、接着剤の使用に際しては、固有の使用規定に基づいてオープンタイム（乾燥期間）を確保できる工程管理を実施する。
壁紙、ビニル床シート、ビニル床タイル及びそれらの貼り付けに使用する接着剤等の製品中の可塑剤は、分子量300g/mol以上の難揮発性可塑剤とする。
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 F☆☆☆☆
使用する建材が含有する成分量の確認のため、施工に先立ちメーカーの規格証明書、試験結果等を監理者に提出する。
※施工中の室内換気
内装仕上げを行った室内は、常に換気に注意し、仕上げ材等から初期に放散されるホルムアルデヒド、その他の揮発性物質を、室内に滞留させないようにする。
※揮発性有機化合物の室内濃度の測定 (1.5.9(a))
図示した室の揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、報告すること。
測定法
パッシブ型採取機器を用い、下記の要領で測定する。

1．対象室の全ての窓を開放し、３０分間換気する。作り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を開放。
2．対象室の全ての窓を５時間閉鎖。作り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放のまま。
５時間後にパッシブ型採取機器を設置。
3．測定時間は２４時間。（工程等の都合で２４時間測定が行えない時は８時間）
８時間測定の場合は午後２時から３時が測定時間の中央となるよう、１０時３０分から１時３０分までの時間帯で測定。
測定終了後、パッシブ型採取機器を回収。
4．測定回数は１回。
＊１．の３０分換気開始から測定終了の間は、換気設備機、空気調和施設を稼動させたままとする。
5．測定対象化合物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する。
6．測定結果が厚生労働省の基準を超えていた場合は、発散源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度上記測定要領により測定を行う。
測定箇所数
測定箇所数は、次による。また、全ての測定箇所において、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度測定を行う。

(1.5.9(2))

室の面積(㎡)	A≦50	50＜A≦200	200＜A≦500	500＜A
測定個所数	1	2	3	4
測定箇室	0 箇室	2 箇室	1 箇室	1 箇室

報告書の様式等については、監理者の指示による。

③. ビニル床シート張り
材料 (19.2.2)(19.2.3)(補19.2.1(a))

種類	記号	色柄	厚さmm	熱溶接工法	備考（製品名等）
⊙発泡層なし 複層	※FS	⊙無地 ⊙柄物	※2.0	・有 ・無	
単層	・TS				
⊙発泡層有り 発泡複層	⊙HS	⊙無地 ⊙柄物	⊙4.5	・有 ・無	タラフレックス同等品
ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱ	・KS				

・施工用接着剤（19章3～7 項に共通 ホルムアルデヒドの放散量 F☆☆☆☆）
(19.2.2(6))

4. ビニル床タイル張り
材料 (19.2.2)(19.2.3)(補19.2.1(b))

種類	記号	色柄	寸法	厚さmm	備考（製品名等）
・コンポジションビニル床タイル	KT			※2.0・	
・ホモジニアス単層ビニル床タイル	TT			・	
・ホモジニアス複層ビニル床タイル	FT			・	
・置敷きビニル床タイル	FOA			・	
・薄型置敷きビニル床タイル	FOB			・	
				・	

ホモジニアスビニル床タイルの目地棒工法 ・あり ・なし

⑤. 特殊機能床材
・帯電防止床シート、床タイル 種類・ (19.2.2(3)(ア))
性能・ (19.2.2(3)(イ))
厚さmm・
・視覚障害者用床タイル 種類・ (19.2.2(3)(ウ))
形状・
⊙耐動荷重性床シート 種類 ⊙ビニル床シート (19.2.2(3)(エ))
厚さmm ⊙2.0
⊙防滑性床シート、床タイル 種類 ⊙ビニル床シート (19.2.2(3)(オ)・(カ))
性能・ (19.2.2(3)(キ))
厚さmm ⊙2.0
・その他の床材

⑥. ビニル幅木
材料 (19.2.2(4))

種類	高さ mm	厚さ mm	備考（製品名等）
⊙軟質ビニル	※60 ・75 ・	※1.5 ・2 ・	
・硬質ビニル	・60 ・75 ・	・1.5 ・2 ・	

7. ゴム床タイル
材料 (19.2.2(5))

種類	色柄	種類	厚さmm	寸法	備考（製品名・製品名等）
・天然ゴム					
・合成ゴム					

8. 接着剤
接着剤のホルムアルデヒド放散量による区分 ※F☆☆☆☆ ・ (19.2.2(6))
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外 ・ (19.2.2(6))

⑨. カーペット敷き
・繊じゅうたん（JIS L 4404） (19.3.2(1))(19.3.3)(表19.3.1)

織り方の種別	パイル形状	品質種別・パイル長mm	色柄	備考
・ウィルトンカーペット	・カット ・ループ	・A種 ・B種 ・C種	・標準品 ・特注品	
・アキストミンスター	・カット ・ループ	・A種 ・B種 ・C種	・標準品 ・特注品	
・緞通	・カット ・ループ	・A種 ・B種 ・C種	・標準品 ・特注品	
・				
・				

繊じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 ・手縫いで周につづり縫い

・タフテッドカーペット（JIS L 4405） 19.3.2(2))(19.3.3)(表19.3.2)

パイル形状	パイル長mm	色柄	工法	備考
・カット ・ループ	・	・標準品 ・特注品	・グリッパー工法 ・全面接着工法	
・				
・				

・ニードルパンチカーペット (19.3.2(2))(表19.3.2)

パイル形状	厚さmm	備考
・	・	

⊙タイルカーペット（JIS L 4406） (19.3.2(4))(表19.3.2)

パイル形状	品質種別	寸法mm	総厚	色柄	電気抵抗値Ω	敷き方	備考
※ループ ・カット	※一種 ・二種	※500角	※6.5 ・	⊙標準品 ・特注品	※適用しない ⊙10^8Ω以下	・市松(※平場・) ⊙縦縞流し(※階段・)	
・							
・							
・							

・その他のカーペット

敷き方の種別	パイル形状	パイル長mm	色柄	工法	備考
・					
・					

⊙帯電性 (19.3.2.(1) 2(イ))

カーペットの種別	帯電性（人体帯電圧）	備考
・ウィルトンカーペット	※3kv以下 ・	
・タフテッドカーペット	※3kv以下 ・	
・ニードルパンチカーペット	※3kv以下 ・	
⊙タイルカーペット	・2kv以下 ・1kv以下 ⊙0.5kv以下	
・		

接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
⊙下敷き材 ※反毛フェルト第2種2号 厚さ8mm (19.3.2(5))
・黄麻フェルト厚さ8mm
⊙取付け用付属品 見切、押え金物 材質・ 種類・ 形状・ (19.3.2(6))

⑩. 合成樹脂塗床
材料及び工法 (19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1)～(表19.4.8)

種類	仕上げの種類	備考（施工箇所）
⊙弾性ウレタン樹脂系塗床材	※平滑仕上げ	観客席
	・防滑仕上げ	
	・つや消し仕上げ	
⊙エポキシ樹脂系塗床材	・薄膜流しのべ仕上げ （※平滑・防滑）	
	・厚膜流しのべ仕上げ （※平滑・防滑）	
	・樹脂モルタル仕上げ （※平滑・防滑）	
	⊙防滑仕上げ	器具庫、機械室、PS
⊙ステイン系カラー塗床		通路

弾性ウレタン樹脂系塗床材、エポキシ樹脂系塗床材及び薄膜型塗床材のホルムアルデヒドの放散量(JIS K 5970) ※F☆☆☆☆

⑪. フローリング張り
材料及び工法 ⊙下表 ・図示 (19.5.2)～(19.5.6)(表19.5.1)～(表19.5.6)

工法	・単層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	・複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	樹種	備考
・根太張り工法（釘留め工法）	※表19.5.1（ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ根太張用）	・A種 ・B種 ・C種（・一般 ・防湿）	※なら ・	
・直張り工法（釘留め工法）	※表19.5.3（ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ直張用）	・A種 ・B種 ・C種	※なら ・	
⊙接着工法	⊙表19.5.5 ・表19.5.5 ・	※表19.5.6 ⊙B種	※なら ⊙オーク	

フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※19.5.2 ・ (19.5.2)
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ (19.5.5)
・フローリングブロック 樹種・ 厚さ・ 大きさ・ (19.5.5(3)(ロ))
⊙接着工法の裏面緩衝材 ※合成樹脂発砲シート ・ (19.5.5(7)(ﾛ))
⊙現場塗装仕上げ ※ウレタン樹脂ワニス塗り (19.5.6(イ))
・オイルステイン塗り
・生地のままワックス塗り
裏面緩衝材付きフローリングの遮音性能
軽量衝撃音 ⊙L-45 ・L-50 ・L-55

11. 畳敷き
種別 (19.6.1)(19.6.2)(表12.5.1)(表12.6.1)(補19.10.1)(補19.11又は19.12)

適用箇所	種別
・表12.6.1による床組又は住宅用乾式遮音二重床下地	・A種 ※B種 ・C種 ・D種
・ポリスチレンフォーム床下地	※C種 ・D種

D種における畳床 ・KT-Ⅰ ・KT-Ⅱ ・KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N(t 55)
畳床（縁わら畳床、縁わらサンドイッチ畳床）の防虫処理
※誘電加熱処理（防虫処理後の畳床の含水率は15%以下とする。）
・防虫加工紙の適用（※ピレスロイド系薬剤使用のもの）
建材畳床
※普通合板（※F☆☆☆☆ ） ・

⑫. せっこうボード その他ボード及び合板張り
材料 (19.7.2)(表19.7.1)

種類	記号	厚さmm、規格等
木質系 ⊙木毛セメント板	—	・15 ・20 ・25 ⊙18 ・HW ・NW
ｾﾒﾝﾄ板 ・木片セメント板	—	・15 ・20 ・25 ・ ・HF ・NF
⊙けい酸カルシウム板（繊維強化セメント版）	⊙0.8FK ・1.0FK	タイプ2（無石綿）⊙6 ・8 ・10 ・
⊙ロックウール化粧吸音板	DR	※フラットタイプ（※9 ・12 ・)(※厚) ・凹凸タイプ（※12 ・15 ・19 ・)(※厚)
・ロックウール化粧吸音板（軒天井用）	—	※フラットタイプ9（不燃） ・凹凸タイプ（※12 ・15 ） (※燃)
⊙せっこうボード	GB-R	⊙9.5（準不燃）⊙12.5（不燃） ・
⊙シージングせっこうボード	GB-S	・9.5（準不燃）⊙12.5（準不燃）
⊙強化せっこうボード	GB-F	・12.5（不燃） ⊙15.0（不燃） ⊙21.0(不燃)
・せっこうラスボード	GB-L	・9.5 （不燃）
⊙化粧せっこうボード	GB-D	⊙9.5 （※準不燃 ⊙不燃）
⊙化粧せっこうボード（木目）		12.5（不燃）幅440程度 模様（※縦目 ・板目）専用下地材付
⊙メラミン樹脂化粧板	—	JIS K 6903による 厚さ1.2
⊙普通合板（難燃処理）		
・化粧パーティクルボード		JIS A 5908による
⊙天然木化粧版(難燃処理)		有孔シナ合板
・特殊加工化粧合板		
・火山性ガラス質複層版		JIS A 5440
⊙窯業系サイディングボード		

◎パーティクルボード、MDF、ハードボード、インシュレーションボードのホルムアルデヒドの放散量 パーティクルボード及びMDF合板 ※F☆☆☆☆
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆

⑬. 吸音材・遮音材
吸音材料 (19.7.2)(表19.7.1)

種類	・ボード (RW-B)	・1号	・	
・ロックウール吸音材 JIS A 6301	・フェルト (RW-F)	・ —	・	
	・ブランケット (RW-BL)	・1号	・	
⊙グラスウール吸音材 JIS A 6301	⊙ボード (GW-B)	⊙2号32K	⊙25	図示
	⊙フェルト (GW-F)	⊙2号16K	⊙25	図示
・				

ガラスクロス包みの適用 ⊙あり ・なし

遮音材料

種類			厚さmm	施工箇所
・鉛遮音板	・遮音用鉛板		・	
	・鉛複合板	・鉛板＋せっこうボード	・ +	
		・鉛板＋合板	・ +	
・				

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※アクリル系シーリング材 (19.7.2(8))
・ジョイントコンパウンド

⑭. 合板
天井及び壁に使用する合板のホルムアルデヒド放散量※(19.7.2(3)) ・ (19.7.2(3))
天井及び壁に使用する合板 (19.7.2(C))

区分	厚さmm	接着の程度	防虫処理	難燃処理	防炎処理
⊙普通合板	⊙図示	・1類(水掛り) ⊙2類	・	・	・
⊙天然木化粧合板	⊙図示	・1類(水掛り) ⊙2類	・	・	・
・特殊加工化粧合板	・図示	・1類(水掛り) ・2類	・	・	・

⊙普通合板の表板の樹種 ・ラワン程度 ⊙しな程度(不透明仕上) (19.7.2(3)(ア))
・普通合板の裏面の品質 ・ (19.7.2(3)(イ))
⊙天然木化粧合板の化粧板の樹種 ・ナラ (19.7.2(3)(ｲ))
・特殊加工化粧合板の化粧加工 ・オーバーレイ ・プリント ・塗装 (19.7.2(3)(ｳ))
・特殊加工化粧合板の表面性能 ・メラミン、ポリ (19.7.2(3)(ｳ))

⑲. ボード類の工法
下地 ※19.7.3(1)(ア)～(イ)による ・ (19.7.3(1))
合板類の張付け工法 (19.7.3(5)(ｳ))(表19.7.3)

張付け種別	合板類の種類	適用箇所
・A種		
※B種		

⑯. 壁紙張り
せっこうボードの目地工法 (19.7.3(7))(表19.7.5)

目地処理の種類	せっこうボードのエッジの種類	適用箇所
⊙継目処理工法	テーパーエッジ、ベベルエッジ	一般部
・突付け工法	ベベルエッジ、スクェアエッジ	下地切り替え部
⊙目透かし工法		

材料 ⊙下表 ・図示 (19.8.2)

施工箇所	壁紙の種類					防火性能の認定区分	品質等
	紙	繊物	ビニル	化学繊維	無機質		
図示	・	・	⊙	・	・	⊙不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	

※壁紙は、ISW（日本壁装材料協会の規格でInterior Safety Materialの略）の品質保証のある製品（当該規定類が適用される範囲の製品）とする。

素地ごしらえ コンクリート面 ・A種 ※B種 (19.8.3(1))(表18.2.4)
せっこうボード面、その他ボード面 ・A種 ※B種 (19.8.3(2))(表18.2.7)

壁紙及び施工用接着剤 ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ (19.8.2(1))

⑰. 断熱材・防露材
材料 (19.9.2)(19.9.3)

種類		厚さmm	品質等	施工箇所
板状発泡プラスチック断熱材 JIS A 9521				
⊙押出法ポリスチレンフォーム断熱材	※2種b	※25	特定フロンを使用しないもの	⊙一般部
		⊙30	※A種1	⊙ピット上部スラブ面
		⊙50	※A種1	⊙RC屋根外断熱部
	※3種b（ｽｷﾝ層付）	※25		・
		⊙30		⊙土層接地スラブ下面
⊙硬質ウレタンフォーム断熱材	・	⊙25	・	⊙断熱材補修部分
	・	・	・	⊙一般部
・ポリエチレンフォーム断熱材	・	・	・	・
	・	・	・	・
・フェノールフォーム断熱材	・	・	・	・
	・	・	・	・
現場発泡断熱材 JIS A 9526				
・吹付硬質ウレタンフォーム断熱材（現場発泡断熱材）	・	※ノンフロン ※難燃性を有すもの		※断熱材補修部分 ・一般部
・A種1	・	・		・
・A種1H		製造所：監理者の承認する製造所		
・木繊セメント板（ストロングボード）	・50	・熱伝導率0.058W/(m・k)		・土層接地スラブ下面
・ゼオライト混入木繊セメント板	・			
・		製造所：日本セクセン板協会加入の製造所		
人造鉱物繊維断熱材 JIS A 9521				
・ロックウール（RW）	・	熱伝導率 ・ w/(m・k)以下		・
・グラスウール（GW-2）	⊙50			⊙耐湯・耐場際壁部ﾊﾛﾝ界壁
・グラスウールボード	⊙25			⊙機械室
・強化複合断熱パネル	⊙20 ・			⊙屋根

ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆
フェノールフォーム断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ ・

⑱. 浴室天井材
種別（市販品）

材質	表面仕上げ	性能	幅 mm	備考
⊙アルミニウム製	⊙焼付け塗装品 ・アルマイト処理品	準不燃品	・200 ⊙100	回り縁は額付とし、製造所の標準品とする。
・硬質塩ビ製	・塗装品 ・木目調		・300 ・100	

19. ポリスチレンフォーム床下地材 (補19.10.3)

種別	厚さ mm	施工箇所
・畳下パネル	※40 ・65 ・80	
・フローリング類下パネル（共付）	※80 ・95	

20. 住宅用乾式遮音二重床下地材
種別 (補19.11.2)

種別	床高 mm	ベースパネルの厚さmm	捨板合板の有無	施工箇所
・A種		※25 ・20	・有 ・無	
・B種(水廻り)		※25 ・20	・有 ・無	

ベースパネルのパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 (補19.11.3)
・Uタイプ（※F☆☆☆☆） ・Pタイプ（※F☆☆☆☆）
捨板合板のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ (補19.11.3)

㉑. 弾性床
・塗り床 (補19.12.2)

種類	厚さ mm	施工箇所
・ゴムチップ弾力層＋ネオプレン保護層塗り床	・13 ・15 ・18	
・ゴムチップ弾力層＋ウレタン仕上層塗り床	・15 ・18	
・ウレタン厚塗り床	・5 ・8 ・10	

工法 ・コンクリート直塗り
・鋼製床下地合板二重張り床
合板 厚さ mm（ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F☆☆☆☆）

⊙張り床 (補19.12.3)

種類	厚さ mm	施工箇所
⊙ビニル床シート（⊙発泡 ・非発泡）	⊙5.5 ・6.2 ・9.2	図示
・合成ゴム系シート	・5 ・	
・	・	

工法 ⊙コンクリート直塗り
・鋼製床下地合板二重張り床
合板 厚さ mm（ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F☆☆☆☆）

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 008
建築工事特記仕様書（７）	縮尺 1/	日付 2019・11・15

改訂：2019.09.01

⊙木造床 (補19.12.4)

種類		厚さ mm	施工箇所
⊙フローリングボード		⊙15 ・18	図示
⊙複合フローリングボード	・ボード形式	・15 ・18	
	⊙大型積層形式	⊙18 ・27 ・30	図示
⊙集成フローリング		⊙18 ・21 ・24 ・30	図示
・		・	

複合フローリングボードのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄ放散量 ※F☆☆☆☆

樹種 フローリングボード又は ⊗カバ ・アサダ ・イタヤ ・ブナ ・ナラ ◯
複合フローリングボード ・
集成フローリング ⊙さくら ・なら ・ひのき ・すぎ ⊙マツ

工法 ※接着剤併用隠し釘打ち脳天ビス留め (・二重張り ・直張り)
⊙接着剤併用隠し釘打ち (・二重張り ⊙直張り)

二重張り工法の下張り材
合板 厚さ15.18㎜(ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄ放散量 ※F☆☆☆☆)

塗装 ⊗ポリウレタン樹脂(・2液反応型 ⊙湿気硬化型 ・油変性型)
・酸硬化アミノアルキッド樹脂 ・水性ウレタン樹脂
・無塗装 ⊙ワックスがけ

⊙鋼製床下地(JIS A 6519) (補19.12.5)
構成区分 ⊙組床式(F) ⊙置床式(S)
使用区分 ⊙一般体育館用(G) ・柔道場用(R)
・剣道場用(K) ⊙柔剣道場用(R・K)
⊙集中荷重2ｔタイプ
床上換気口 材種 ⊙アルミニウム製 ・SUS製 ・鋼製
形状 ⊙パンチングタイプ ・開閉式パンチングタイプ
寸法 ・グレーチングタイプ
⊙図示

22. 遮音性能

・室間音圧レベル差、内外音圧レベル差

遮音等級	適用箇所	遮音等級	適用箇所
D-		D-	
D-		D-	

・床衝撃音レベル

遮音等級		適用箇所
軽量衝撃音 L-	重量衝撃音 L-	
軽量衝撃音 L-	重量衝撃音 L-	
軽量衝撃音 L-	重量衝撃音 L-	

・室内騒音レベル

騒音等級	適用箇所	騒音等級	適用箇所
N-		N-	
N-		N-	

23. 性能試験 (補1.8.1(c)(10))

試験項目	試験箇所
・外周壁遮音測定	
・室間遮音測定	
・床衝撃音測定	
室内 ・騒音レベル	
音響 ⊙残響測定	メインアリーナ、多目的ホール
測定 ・明瞭度測定	
・給排水音測定	

20章 ユニット及びその他の工事

1. ユニット工事に使用する材料等

ユニット工事に使用する集成材又は単板積層材は(12.2.2)に準拠する。
ユニット工事に使用する材料等の健康障害への対策については本特記仕様書19章2及び補足仕様書19章13節に準拠する。

2. フリーアクセスフロア

材料及び工法 (20.2.2)

性能項目		・フリーアクセスフロア	⊙OAフロア
床パネル	主材料	・アルミニウム合金ダイカスト ・鋼製(・無機質材充填) ・	⊙鋼製
	規格寸法(縦*横*厚mm)	・	⊙500*500
	表面仕上げ材料	・帯電防止ビニルタイル(厚 mm) ・タイルカーペット(厚 mm) ・メラミン化粧板 ・	⊙タイルカーペット t6.5
	帯電防止性能	・U≧0.6 (一般事務室等) ・U≧1.2 (電子計算機室等)	⊙U≧0.6
	漏えい抵抗	※低抗値 ≧1.0×10⁸Ω	⊙低抗値 ≧1.0×10⁸Ω
	備考		
支持脚	床パネル支持型式	・支持脚分離型 ・	・支持脚一体型(置敷型) ⊙支持脚分離型 ・配線、床機能分離型
	床高(mm)	・	⊙100
	耐震性能 耐震強度	※500Kg/m2 補20.2.2(b)(5) (地震時水平力1.0G) ・	
	耐震性能 耐震工法	・パネル押え ・大型支持脚 ・支持脚横つなぎ ・斜材補強	
	備考		

⊙耐荷重性能 ※20.2.2(2)(イ)(a) ・ (20.2.2(2)(イ))
⊙耐衝撃性能 ※20.2.2(2)(イ)(b) ・
⊙ローリングロード性能 ※20.2.2(2)(イ)(c) ・
⊙耐燃焼性能 ※20.2.2(2)(イ)(d) ・
⊙寸法精度 ※20.2.2(2)(オ) ・ (20.2.2(2)(オ))
・ウイスカ対策 ・ウイスカ対策品 ・

3. 可動間仕切

スロープ及びポーダー ※製造所の標準仕様 ・図示
コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様(コンセント本体は別途設備工事)
コンセントの箇所数 ※図示 ・ 箇所/㎡
配線用取出し用開口 ※対応品又は工場加工品(施工箇所は図示) ・図示
空調用吹出しパネル ※なし
・あり(※固定式 ・可変式 :施工箇所は図示)
製造所 ・ (製品名:)
下地面の防塵処理 ⊙行う(材料)
・行わない

形式 ※パネル式 ⊙スタッド式 ・スタンド式
品質・性能 (20.2.3)

性能による区分	厚さmm	表面材	表面仕上げ	施工箇所
⊙遮音タイプ (遮音性能・40dB/500Hz)	図示	※鋼板 ・	⊙焼付け塗装 ・壁紙張り ・	トレーニングルーム
・吸音タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り ・	
・不燃タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り ・	喫煙室①、喫煙室② 近的弓道場

表面仕上げの壁紙張りの品質 ・
製造所 ・ (製品名:)
パネルの材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
パネル内に取り付ける建具 寸法 ⊙図示
形状 ⊙図示

4. 移動間仕切

開閉形式 ⊙引き戸式(スライディング) ・折れ戸式(フォールディング)
・伸縮式(アコーディオン)
品質・性能 (20.2.4)

性能による区分	厚さ	表面材	表面仕上げ	施工箇所
・一般タイプ	図示	※鋼板 ・図示	・焼付け塗装 ・壁紙張り ・メラミン樹脂化粧板	
⊙遮音タイプ (遮音性能・)	図示	※鋼板 ・図示	・焼付け塗装 ・壁紙張り ⊙図示	図示

表面仕上げの壁紙張りの品質
パネル圧接装置の操作方法 ・ (20.2.4(3)(ア))
ハンガーレール取付け下地補強 ※ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの ・ (20.2.4(3)(ウ))
パネルをランナーに取り付ける部品 ※ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの ・ (20.2.4(3)(エ))
ハンガーレール ※ランナーを取り付けた状態でパネル重量の5倍の荷重(20.2.4(3)(オ))をパネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して支障なし
・
ランナー ※パネル重量の5倍の荷重をパネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して支障なし(20.2.4(3)(カ))
・
ハンガーレール取付け下地の防振・防音 ⊗行う 方法 ※図示 ・防振ゴム
・行わない
あと施工アンカー 材質 ※図示 (20.2.4(4)(イ))
寸法 ※図示
製造所 ⊙小松ウォール工業同等 (製品名:小松ライニング同等)
パネル圧接装置の操作方法 ⊙ハンドル固定式

5. トイレブース

表面仕上げ材 ⊙メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 (20.2.5)
ブースパネル形状 ※図示
足形状 ※幅木型 ⊙足金物型
ドアエッジの材質 ・標準色アルミ製コーナー ※焼付塗装アルミ製コーナー
・製造所の仕様
工法 ※製造所の仕様
製造所 ⊙小松ウォール工業同等 (製品名:TB-GPR,SB-GPR,TB-YP,SB-AP)
パネルの材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆

6. 洗面カウンター

表面仕上げ材 ・メラミン樹脂板ポストフォーム ⊙人造大理石(品質 ※図示)
形状・寸法 ※図示 ・
製造所 ⊙TOTO同等 (製品名:ML45、ML60同等)

7. 滑り止めコーナービードその他

⊙階段滑り止め 材種 ⊗SUS304 ・硬質アルミニウム ・磁器製 (20.2.6(1))
形状 ※ビニルタイヤ入り ・図示
両端フラットエンド ・なし ⊙あり(※ビニル製 ・SUS304)
幅 ※35 mm ・ mm
工法 ※接着工法 ・埋込工法 (20.2.6(b))
⊙床目地棒 材種 ※SUS304 ・塩化ビニル ・ (20.2.7)
寸法 ※6×12 ・
⊙コーナービード 材種 ※SUS304 ・塩化ビニル
高さ ※天井まで ・床から まで ・
⊙コーナーガード 壁(柱) ⊙図示
床 ・
⊙天井回り縁 材種 ・アルミニウム 焼付塗装(外部) ⊙塩ビ ・
形状寸法 ※図示 ・
⊙ピクチャーレール 材種 ⊙アルミニウム ・SUS304
・黒板 形状寸法 ※図示 ・
区分 ※焼付け (20.2.8(1))
種類 ・鋼製黒板 ・ほうろう黒板
形状 ・平面 ・曲面 ・上げ下げ ・内部映写スクリーン内蔵型
枠等 ※アルミニウム製枠(チョーク溝、チョーク入れ、チョーク納入れ付)
・ホワイトボード 枠等 ・アルミニウム製枠(マーキングペン受け付) (20.2.8(2))
・
⊙掲示板 材種 ⊙図示(ホワイトボード) 形状 ⊙図示
枠 ⊙アルミニウム 色彩 ・
⊙鏡 縁 ※なし(防湿性) ・あり (20.2.9)
形状寸法 ※図示 ・
厚さ ※5 mm ・ mm

8. 表示

⊙衝突防止表示 形状、寸法、材質 ※図示 (20.2.10(1))
・市販品(※SUS304 径約30)
・非常用進入口表示 形状等 ※消防法適合の市販品 ・ (20.2.10(2))
取付箇所 ※図示 ・ ヶ所

9. 煙突ライニング

・煙突用成形ライニング材 形状、寸法 ※図示 ・ (20.2.11(1)(ア))
材質 ※ゾノトライト系けい酸カルシウムライニング材
・
適用安全使用温度 ・
製造所 ・ (製品名:)
・キャスタブル耐火材 (20.2.11(1)(イ))
製造所 ・ (製品名:)

10. ブラインド

・ブラインド (20.2.12)

形式	材料(スラット)	開閉方式	スラット幅	適用箇所
※縞形	※アルミニウム合金 ・硬質塩化ビニル	※ギヤ式 ・操作棒式 ・コード式 ・電動式	・15 ※25 ・35 ・	
・縦形	・アルミ(焼付塗装) ・ガラス繊維 ・クロス(化繊、麻)	※2本操作コード式 ・操作棒式 ・電動式	・100 ・80 ・	
・ロールブラインド	・ガラス繊維 ・クロス(化繊、麻)	・手動式 ・電動式		
・特殊タイプ				

・ヘッドボックス 材種 ※鋼製 ・アルミニウム(押出し型材) ・
内法寸法 深さ ・ mm 幅 ・ mm
仕上げ ・
・ボトムレール 材種 ※鋼製 ・アルミニウム(押出し型材) ・
・ヘッドレール 材種 ※アルミニウム合金製

11. ロールスクリーン

⊙ロールスクリーン (20.2.13)

形式	材種・品質	開閉方式	幅及び高さ	適用箇所
⊙ロールスクリーン	⊙ガラス繊維 ・クロス(化繊、麻)	⊙手動式 ⊙電動式	・幅 mm 高さ mm	図示

巻き取りパイプ、ウェイトバー操作コードその他材料 ※製造所の仕様 ・
製造所 ・ (製品名:)

12. カーテン及びカーテンレール

⊙カーテン (20.2.14)(表20.2.1)

施工箇所	形式 片引	形式 引分	装置 電動	装置 ひも	装置 手引	きれ地の品質、種別 柄、色合、組織	ひだの種類
図示	・	⊙	⊙	・	・	暗幕カーテン	1.5倍ひだ
図示	・	⊙	・	・	⊙	金網カーテン	
アリーナ上部	・	・	・	・	⊙		
	・	・	・	・	・		

製造所 ・ (製品名:)

⊙カーテンレール 強さによる区分 ※10-90 (20.2.14(2)(イ))
材種 ※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材(アルマイト)
・SUS304
形状 ※角型 ・C型 ・D型
種別 ⊙シングル掛け ・ダブル掛け
・レール交差掛け(・シングル ・ダブル)
取付け方法 ⊙直付け ・中空吊り下げ
引分け装置 ⊙手動 ⊙電動
⊙暗幕用カーテン 両端及び召合わせの重ねかけ (20.2.14(3)(ア))
※300以上 ・
⊙カーテンボックス 材種 ⊙鋼板 ・アルミニウム(押出し形材)
・
内法寸法 深さ ・ mm 幅 ・ mm ⊙図示
仕上げ ⊙焼付塗装

13. 情報障害対応誘導用材料・装置

誘導用床材・注意喚起床材

材料		寸法	適用箇所	製造所
・ビニル床タイル	・既製品 ・特注品			
⊙コンクリート平板	⊙既製品 ・特注品		図示	
⊙金属鋲	⊙既製品 ・特注品		図示	
・				

⊙室名札、ピクトグラフ、案内板等 (20.2.10(2))
種別 ⊙図示 ・下表

名称	材種及び仕上げ	長さx幅x厚さ	設置箇所	数量	備考
・室名札	・アクリル樹脂板 文字シルク印刷 ・				・受金物(SUS) ・差込み式 (片持出) ・正面付
・室名 文字	・ペイント書				
	・アクリル板				・貼付け
	・ステンレス切板 文字鏡面仕上				・貼付け
	・				
・階数表示			・各階踊場 ・		
・銘板	・ステンレス板 腐蝕仕上文字鏡面仕上 ・				
・定礎板	・花こう岩 (程度) ・				・定礎箱銅板0.8 内箱は桐製 銘板入り
・案内板					
・看板					
・屋外案内板					
・屋外掲示板					
・					
・					

注)上記に使用される文字は何れも指定書体とする。
・免震建築物であることの表示「平成12年建設省告示第2009号第4の五」
形状、寸法、材質 ※図示 ・
・免震エキスパンションジョイント注意喚起表示
形状、寸法、材質 ※図示 ・

点字表示

適用箇所	寸法	内容
・案内板		
⊙手すり		⊙階数表示 ⊙上り下り
・室名		
⊙押しボタン		図示

その他の誘導装置
誘導鈴 設置場所 ・ (製造所:)
⊙音声ガイド 設置場所 ⊙図示 (製造所:)
音声触知案内板 設置場所 ・ (製造所:)

14. 流し台ユニット

種別 ・図示 ・下表

種類	寸法L=	材質	規格・品質等	適用内容
⊙流し台	・1200	※SUS ・	※優良住宅部品(BL型) ・	※ドラムトラップ付
・コンロ台	・600	※SUS ・		※バックガード付
⊙吊り戸棚	・1200 ・	※SUS ・		※耐震取っ手付き
・水切り棚	・1200 ・			耐火性 ※有り ・無

製造所 ・ (製品名:)

15. 浴槽

材種 ・SUS304 ・ほうろう ・ガラス繊維強化ポリエステル ・
形態 ・単槽 ・ユニット ・ハーフユニット ・
寸法 ・

16. ユニットバス

形状、寸法 ※図示 ・
附属設備 ※図示 ・
製造所 ・ (製品名:)

17. ユニットシャワー

形状、寸法 ※図示 ・
附属設備 ※図示 ・
製造所 ・ (製品名:)

18. ユニットトイレ

形状、寸法 ※図示 ・
附属設備 ※図示 ・
製造所 ・ (製品名:)

19. 配管化粧カバー(配管用ライニング)

天板材種 ・メラミン樹脂化粧板ポストフォーム ⊙人造大理石 ・ステンレス板 ・
立上り仕上 ⊙メラミン樹脂化粧合板 ・耐水合板塗装仕上 ・化粧フィルム板 ・

20. 防災器具等

種別

名称	形式・寸法・仕上げ等	設置箇所
・非常用放命袋	・傾斜式 ・鉛直式	
・緩降器		
・バルコニー用避難器具	※マンホール組込伸縮式金属避難吊り下げハシゴ ・	
⊙埋込み消火器ボックス	材種 ⊙鋼板 ・SUS304	図示
・		

注)上記防災器具類は、消防法規定合格品とする。

21. 郵便受け

材種 ※SUS304 ・
形状、寸法 ⊙図示 個数 ・1
製造所 ・田島メタルワーク同等 (製品名:)

22. 靴拭きマット

材種 マット本体 ・SUS304 ・硬質アルミ ・ゴム ・合成樹脂 ・
受枠 ・SUS304 ・硬質アルミ ・
寸法 ・
排水 ・設ける ・設けない

23. 止水板

材種 ・塩化ビニル製 ⊙非加硫ブチルゴム 寸法 ⊙ 200㎜
適用箇所 ⊙地下RC打継部

24. 換気孔

材種 ・図示 ・下表

材種	寸法	適用箇所
・鋼鉄製 錆止め塗装 防虫網付(SUS304)		
・硬質塩化ビニル管 防虫網付		

25. 家具書架・実験台書架その他付器等

合板、木質系建材等及び塗材を使用して作られたものは、
ホルムアルデヒドの放散量を発散しないか、極めて少ないものとする。

26. 屋内溝ふた

種別 ⊙図示 ・下表

種類		寸法	形式・品質・仕様	設置箇所
・縞鋼板				
・SUS304				
・グレーチング	・鋼板			
	・SUS製			
・				

27. 鋳鉄製マンホール(屋内)

マンホールふた種別 ・図示 ⊙下表

種類	寸法	安全荷重kN	設置箇所
⊙密閉形 完全防水、防臭形	600	⊙15 ・	図示
・簡易密閉形(パッキン式) 簡易防水、防臭形		・15 ・	
・断熱形 完全防水、防臭形		・15 ・	
・			

化粧ふた(充填用)種別 ・図示 ・下表

種類	目地	寸法	安全荷重kN	設置箇所
・一般形	・SUS目地 ・L型SUS目地		・15 ・	
・二重ふた形	・SUS目地 ・L型SUS目地	※600*600	・15 ・	

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号	

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 009
建築工事特記仕様書(8)	縮尺 1/	日付 2019・11・15

改訂:2019.09.01

㉙. 点検口

種別

区分	材　種	形式・仕様	寸法	数　量
天井用	※アルミニウム ・	※額縁タイプ枠　⊙目地タイプ枠	㊟600×600 ⊙	・　ヶ所　⊙図示
床　用	※アルミニウム ⊙SUS304	⊙充填用　・貼物用　⊙裏面断熱 ⊙鍵付　⊙防水型　⊙防臭型	※600×600 ・	・　ヶ所　・図示
二重壁用	※GRC ・		※400×400 ・	・　ヶ所　・図示
壁　用	※図示（建具表）			

＊区画貫通部は床・壁同等の耐火性能を確保すること。

㉙. 丸環　　材種　※SUS304　　吊下げ強度　⊙荷重　300　N

30. 簡易ゴンドラ　　固定用受金物　材　種　※SUS304　　形状、寸法　※図示
箇所数　・図示　・　ヶ所
吊下げ用金物　材　種　※SUS304
吊下げ用金物及びゴンドラ（１人用）　　形状、寸法　※図示
設置台数　・　セット
製 造 所　・　　（製品名：　　）

31. 旗竿　・旗竿　　材種　※アルミニウム合金製　・鋼製（仕上げ：　　）
形式　※テーパー型　・同一断面型
滑車　・内装形　・外装形
高さ　・　m　　数量　・　本
・竿受け金物　材種　※SUS304　・　　数量　・　箇所
形式　※着脱式　・固定式

㉜. 特殊内外装材

材　種	形式、寸法	仕様・品質	適用箇所
・結晶化ガラス			
・大型陶板			
⊙再生木デッキ	鋼製床下地組、H100～	コイン落下防止タイプ、帯電防止タイプ	図示

33. トップライト　　形状、仕様　※図示　・
製 造 所　・　　（製品名：　　）

㉞. プレキャストコンクリート（小規模）　　適用部位　・手すり　・段板　・ルーバ　・　　⊙縁受け石　(20.3.1)
調合　脱型圧縮強度　※12N/㎟ 以上　・　(20.3.3(1))
28日圧縮強度　※30N/㎟ 以上　・
強度上の水セメント比　※55 %　以下　・
単位セメント量　※300 kg/㎥以上　・
補強鉄線　・JIS G 3532（補強鉄線）　・JIS G 3551（溶接金網）　(20.3.2(3))
※径3.2 mm以上
網目寸法　・
型枠　※鋼製　・木製（　　）
取付け方法　※図示　・　(20.3.4(3))
原寸試作品　・作成する　・作成しない
配筋　※計算書を提出

35. 囲知石及びコンクリート囲知ブロック積み　　囲知石　材種　・　　面の寸法　・300×300　mm　(20.4.2(1))
コンクリート囲知ブロック　面の寸法　・300×300　mm　(20.4.2(3))
質量区分　・300～350 kg/㎡　・350 kg/㎡ 以上
工法　積み方　※谷積み　・布積み　(20.4.3(3)(7))
目塗り　・行う　・行わない　(20.4.3(3))
伸縮調整目地　材種　・　　厚さ　・　mm　(20.4.3(3)(9))

㊴. 敷地境界石標　　石標の種別　・A種（花こう岩）類　※B種（コンクリートブロック製）
・真鍮製　　⊙嵌打ち　・

37. 外構フェンス　　高さ　・　m
金網　・ビニル被覆10#56　mm 目　・
控柱　・H=1500以上は控柱付、控柱間隔は柱1本おき　・
種別　・軸部鋼板加工、合成樹脂塗料焼付既製品

㊳. 性能試験　　⊙後付けアンカー引抜き試験　(補1.8.1(c)(11))
試験箇所　⊙使用目的ごとに１か所

㊴. その他　　防球ネット　防矢ネット　舞台機構設備　移動観覧席　固定観覧席
コートライン引き　バスケットゴール　自動ドア引き込み防止柵
体育器具支柱金物　ほか

⊙合成ゴム既製品　王子ゴム化成(株)　カーストッパーCSD中空タイプ同等品

㊵. 自動扉　　⊙W900×H1100　フルテック(株)　フィックスサイドガードⅡ同等品

21章　排 水 工 事

①. 材料　　排水管用材料　(21.2.1)(表21.2.1)

材　種	種類・記号	管形状（接合方法）
・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※1 種　・　）	B形（ゴム接合）
⊙硬質ポリ塩化ビニル管	・VP　⊙VU　・RS-VU	
・硬質ポリ塩化ビニル管継手	・DV　・VU継手	

形状、呼び径　※図示

側塊、排水桝及びふた　　種類、形状、寸法　※図示　(21.2.1(4)(5))

鋳鉄製マンホールふた　(21.2.1(5))

種　類	適用荷重				形状寸法（）	施工箇所
	・T-2用	・T-6用	・T-14用	・T-20用		
・水封形	・	・	・	・		
・密閉形（ﾃｰﾊﾟｰﾊﾟｯｷﾝ式）	・	・	・	・		
・簡易密閉形（ﾊﾟｯｷﾝ式）	・	・	・	・		
・中ふた付密閉形	・	・	・	・		
・断熱型	・	・	・	・		

グレーチングふた　(21.2.1(6))

材　質	形　式	用　途	適用荷重	メインバーピッチ	上面形状
⊙鋼製	※受枠付き	⊙溝ふた用	⊙歩行用	※細目	※凹凸形
⊙SUS製	・	⊙桝ふた用	⊙T-2用	※普通目	※平形
	ボルト固定	・かさ上げ用	・T-6用		
	※無し	・U字溝用	・T-14用	・細目	・凹凸形
	・図示		・T-20用		

床化粧マンホールふた

種　類	安全荷重 kN
・簡易密閉形（パッキン式）　・密閉形（ボルト・パッキン式）	⊙60　・15

インターロッキング用化粧マンホールふた

種　類	安全荷重 kN
・簡易密閉形（パッキン式）	⊙60

現場打ちの場合のコンクリート　(21.2.1(8))
コンクリートの種類　※普通コンクリート　・
設計基準強度　※18N/㎟　・
スランプ　・15cm　・18cm　・
現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　※SD245A　・
凍上抑制層　※砂　（粒度は表21.2.2）　・　(21.2.1(10))(表21.2.2)
砂の粒度試験　・行う　・行わない
埋戻し土　表3.2.1　・A種　※B種　・C種　・D種　(21.2.1(12))
・建設汚泥から再生した処理土G

②. 施工　　管路敷設の工法　(21.2.2)
※21章2節21.2.2施工による
・上記以外の地盤　※図示
内法が600mmを超え、かつ深さ1.2mを超える排水桝の足掛け金物（現場打ち）　(21.2.2(f)(a))
・SUS　・鋼製　・合成樹脂被膜加工
遠心力鉄筋コンクリート管基床　厚さ・　mm　種類・　(21.2.2(7))
硬質ポリ塩化ビニル管基床　厚さ・　mm　種類・　(21.2.2(8))
継手　※接着剤　・ゴム輪　(21.2.2(8)(4))

③. 街きょ、縁石及び側溝　　縁石の形状　㊟図示　・種類　・寸法　・形状　(21.3.1(1))(表21.3.1)
側溝の形状　㊟図示　・種類　・寸法　・形状　(21.3.1(1))(表21.3.1)
側溝の蓋

種別	形状・寸法	強度	設置箇所
・鋼鋼板			
⊙PC板			
⊙グレーチング	図示	図示	図示
・鋳鉄製			

砂利地業の厚さ　㊟100mm　・　(21.3.2(1))

22章　舗 装 工 事

①. 路床　　⊙盛り土用材料　・A種　⊙B種　・C種　・D種　・建設汚泥から再生した処理土Ⓖ　(22.2.3(1))(表3.2.1)
・凍上抑制層　材料　※砂　・火山灰　・火山礫　・切込み砂利　(22.2.2(1)(7))(22.2.3(2))
厚さ　・図示・　mm　(21.2.1(10))
⊙透水性舗装に用いるフィルター層　(22.2.2(1)(4))
材料　㊟砂　・火山灰　・火山礫　・切込み砂利　(22.2.3(2))(21.2.1(10))
厚さ　・図示⊙　100 mm
⊙路床安定処理（強度不足の場合）　(22.2.3(3))(表22.2.1)
方法　※添加材料による安定処理　(22.2.2(1)(9))
材料　・普通ポルトランドセメント・フライアッシュセメントB種・高炉セメントB種
・生石灰（・特号　・1号）　・消石灰（・特号　・1号）
添加量　・　50～100 kg/㎥（配合試験に応じて決定）
厚さ　300mm（目標CBR 5以上）　・　(22.2.2(1)(9))

②. 路盤　　路盤　厚さ　㊟図示　・　(22.3.2(1))
材料　・クラッシャラン（植栽帯から▶▶敷調整砕石　(22.3.3(1))(表22.3.1)
・クラッシャラン鉄鋼スラグ
⊙再生クラッシャラン Ⓖ　・再生粒度調整砕石
・粒度調整鉄鋼スラグ　・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

③. アスファルト舗装　カラー舗装　　舗装の構成、厚さ、仕上がり　(22.4.2(1))(22.6.2(1))(表22.6.1)

舗装の種類		厚さ	構成
⊙アスファルト舗装		㊟図示	※図示
⊙カラー舗装		㊟図示	※図示
⊙加熱系	⊙アスファルト混合物		
	⊙石油樹脂系混合物（顔料添加量）		
・常温系	・樹脂系混合物	※表22.6.1	着色部の下部
	・ニート工法（配合図示）	・	・アスファルト舗装
	・ゴムチップ混合物（弾性）		・コンクリート舗装
	・スラリー混合物		
	・塗布工法（配合図示）		
	・		

カラー舗装用材料　顔料　㊟無機系　・有機系　(22.6.3)
着色骨材　・有色骨材（焼成）　・着色骨材（樹脂皮覆）・自然石
カラー舗装厚さの許容差　※22.4.2(3)・　(22.6.2(2)(9))
舗装の平たん性　㊟適行の支障となる水たまりを生じない程度　・　(22.4.2(4))
アスファルト　※再生アスファルト　種類　・60～80　・80～100　(22.4.3)
⊙ストレートアスファルト
再生加熱アスファルト混合物及び加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.4)(表22.4.4)

	一般地域	寒冷地域
表層	㊟密粒度アスファルト混合物（13）	※密粒度アスファルト混合物（13F）
	※細粒度アスファルト混合物（13）	※
基層	※粗粒度アスファルト混合物（20）	

骨材　㊟ＪＩＳ Ａ5001によるもの　(22.4.3(3)(7))
・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ再生骨材Ⓖ
・再生クラッシャランⒼ
・道路用鉄鋼スラグⒼ

シールコート　㊟行わない　・行う（施工範囲　）　(22.4.5(e))
シールコート用乳剤　・PK-1　・PK-2　(22.4.3(5))
カラー舗装の配合　加熱系混合物の結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料の添加量　・　(22.6.4(a)(2))
常温系工法の配合その他　※図示・　(22.6.4(b))

④. コンクリート舗装　　コンクリート舗装の構成及び厚さ　車道部　※150mm　・　(22.5.2(1))
歩道部　※　70mm　・
寒冷地の縁部立下がり寸法　・　(22.5.2(1))
コンクリート舗装に使用するコンクリート　※6章14節による　(22.5.3(1))(表22.5.1)
コンクリートの種類　※普通コンクリート　・

設計基準強度　※表22.5.1　・　(22.5.3(1))
スランプ　※表22.5.1　・
粗骨材の最大寸法　※表22.5.1　・
早強ポルトランドセメントの使用　※使用しない　・使用する　(22.5.3(1))
注入目地材料　※加熱施工式低弾性タイプ　(22.5.3(4))(表22.5.2)
・加熱施工式高弾性タイプ
コンクリート目地　種類及び間隔　※表22.5.3　・　(22.5.4(5))
構造※図22.5.1　・

5. 透水性アスファルト舗装　　舗装の構成　※図示　・
舗装の厚さ　※図示　・30mm　(22.7.2(1))
舗装の平たん性　※　(22.7.2(2)(4))

6. ブロック系舗装　　・コンクリート平板舗装　(22.8.3(1))(22.8.2(1)(7))

種　類	寸法　mm	厚さ　mm	目地材
※普通平板(N)　・カラー平板(C)	※300角	※60	※砂
・流出平板(W)　・擬石平板(S)			・モルタル

・インターロッキングブロック舗装　(22.8.3(2))

種　類	厚さ　mm	曲げ強度	色彩及び表面加工等
※普通ブロック　(N-　)	車道部　※80　・	※5.0N/㎟・	※標準品
・透水性ブロック　(P-　)	歩道部　※60　・	※3.0N/㎟・	・
・植生用ブロック　(G-　)	※80　・100	・	
・視覚障害者誘導用ブロック		・	

製造所・　（製品名：　）

・舗石舗装　(22.8.3(3))

種類	厚さ mm	施工方法	規格品
※小舗石（花こう岩）	※80～100　・	※うろこ張り	※2等品
・	・	・	

舗石舗装の基層　・アスファルト混合物50mm　・コンクリート版　70mm
コンクリート平板舗装及び舗石舗装のクッション材　※砂　・空練りモルタル
ブロック系舗装の仕上がり面の平たん性　(22.8.2(2))
※歩行に支障となる段差がないこと（舗装材間の段差3mm以内とする。）・

⑦. 砂利敷き　　砂利敷き種別　(22.9.2)(表22.9.1)
通路　㊟A種　⊙2F北側デッキ
建物周囲その他　※B種　・

⑧. 区画線　　材料　・路面表示用塗料（トラフィックペイント、JIS K 5665）

種別	・1種（常温）	・2種（加熱）	㊟3種（溶融）
規格	※1号　・2号	※1号　・2号	㊟1号　・2号

色彩　㊟白色　・黄色
ライン引きの幅　㊟150mm　・図示
塗布厚さ　㊟1.0mm　・

⑨. 車止め　　材料　※図示　・
形状　※図示　・
寸法　※図示　・
数量　※図示　・

⑩. 性能試験　　(22.2.5(1)(2)(3)(4))(22.3.5)(22.4.6(3))(22.7.6(3))(表22.4.6)

試験の方法・概要	試験箇所
路床土の支持力比（CBR）試験	車道部
⊙行う（※乱した土　・乱さない土）　・行わない	
路床締固め度の試験　㊟行う　・行わない	
現場CBR試験　⊙行う　・行わない	
路盤締固め度の試験　※行う	
アスファルト混合物の抽出試験	
・アスファルト舗装　・行う　㊟行わない	
・透水性舗装　・行う　㊟行わない	

23章　植 栽 工 事

①. 植栽基盤整備　　※行う　・行わない　(23.2.2)(23.2.3)(23.2.4)(表23.2.1)(表23.2.2)

樹高	有効土層の厚さ cm	工法	整備範囲
・12m以上	※100　・120　・150	※A種	※植込み部分
・7～12m	※80　・100	・B種	・葉張りの範囲
・3～7m	※60　・80	・C種	（植高7m以上）
・3m以下	※50　・60	・D種	・図示
⊙芝、地被類	㊟20	※B種・C種・D種	※植栽範囲

注）工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

雨水排水の工法　※図示　・暗きょ　・開きょ　・排水層　(23.2.2(3))
・縦穴排水

②. 材料　　植込み用土　㊟現場発生土の良質土　(23.2.3(1))
・客土　種類　※畑土　・黒土
範囲　※植込み部分　・図示
土壌改良材　適　用　※する　・しない　(23.2.2(5))(23.2.3(2))
種　別　・バーク堆肥Ⓖ　・
・発酵下水汚泥コンポストⒼ
施工範囲　※植込み部分　・図示
特殊基盤整備・

③. 植樹　　樹木の樹種、寸法、株立数及び刈込みものの適用、数量　※図示・　(23.3.2(2))
支柱の形状　※図示　・添え柱形　・鳥居形　・ハッ掛け形　(23.3.3(4))
・布掛け形　・ワイヤ掛け形　・地下埋設形
材料　・杉焼丸太(園伐材)Ⓖ　・竹　・金属　・ワイヤー（防錆処理品）(23.3.2(3))
※加圧式防腐処理丸太
支柱の耐風強度※風速30ｍ/ｓ程度に充分耐える強度とする。
幹巻き用材料　※幹巻き用テープ　・わら　・こも　(23.3.2(4))
新植樹木の枯補償の期間　(23.3.4)
※引渡しの日から1年間　・
移植樹木の枯補償の期間　(23.3.6)
※引渡しの日から1年間　・

④. 芝張り、吹付けは種及び地被類　　・芝の種類　※コウライシバ　・ノシバ　(23.4.2(1))
芝張り工法　平地　※目地張り　・　(23.4.3(1))
法面　※べた張り　・
・
客土　※行わない　・行う（※畑土　・黒土）
⊙吹付けは種　種子の量　※25 g/㎡　・　(23.4.2(3))
種子の種類　※洋芝類　⊙クローバー
被覆養生　※行う　・行わない
・地被類　植物の種類・　芽立数・　径・　(23.4.2(4))
株数・　/㎡

5. 屋上緑化Ⓢ　　屋上等の緑栽　(23.5.1)
植栽基盤　・屋上緑化システム　(23.5.2(1))
土壌層の厚さ・　cm　・図示
※防水保護層
・屋上緑化軽量システム
排水層　・軽量骨材（厚さ・　mm）・板状成形品　(23.5.3(1)(b))
土壌層　・人口軽量土　・改良土
植栽工法　※耐風圧性能　(23.5.4)
性能値　※建築基準法施行令第82条の5及び建設告示第1458号に定められた風圧力に対して安全であること。
耐風圧対策　・
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数並びに刈込みものの適用、数量　※図示　・
見切り材　※図示　・　(23.5.3(5))
舗装材　※図示　・
排水孔　※図示　・
マルチング材　※図示　・　(23.5.3(5))
支柱　※図示　・　(23.5.4(5))
自動潅水　・行う（※図示）・行わない　(23.5.4(6))

6. 性能試験　　土壌の水素イオン濃度指数(pH)　・行う　・行わない　(23.1.3(1))
電気伝導度(EC)の試験　・行う　・行わない

7. 既存樹林調査　　・行う（樹勢、根回り）　・行わない

24章　ゴンドラ設備工事

1. 設置目的　　※外壁清掃用，点検及び補修等
・その他の目的（　　）

2. 種別　　形式　・電動式台車型アーム俯仰型　・電動式台車型アーム固定型
・
走行方式　・軌道式　・片軌道式　・無軌道式

3. 仕様　　ゲージ積載荷重　・　N/台
サクションファン　・あり　・なし

4. 安全性能　　耐風圧性能
作業時風速　※水平方向16m/s　垂直方向8m/s
・
格納時風速・風圧力　※建築工事特記仕様書（1）の気象条件による。
耐震性能　※水平加速度1.0G（作業時、格納時共）
・
風速計　※設置する

5. 材料、仕上げ　　ゴンドラ本体　・鋼板焼付塗装　・
ゲージ　・鋼板焼付塗装　・
レール　※溶接部亜鉛めっきA種　・塗装（　　）
※走行部の処理は適切に行う　・下階への騒音対策（　　）

6. 避雷設備　　避雷設備　・あり　・なし

7. 規格基準　　※ｺﾝﾄﾞﾗの構造及び安全装置は以下の法令等に適合すること
「労働安全衛生法・同施工及び規則」
「ｺﾝﾄﾞﾗ安全規則（厚生労働省令を含む）」
「ｺﾝﾄﾞﾗ構造規格（厚生労働省告示）」
「その他の関係法令等」

8. 製造の許可及び検査、届出　　※製造所は設計図書に示されたｺﾝﾄﾞﾗの製造及び労働安全法に関し、所轄の都道府県労働安全局長の製造許可・製造検査を受け、検査済証の交付を受ける。また、労働安全法による設置届けを監理者の指示により行う

9. 承認　　※工事着手前に施工計画書・施行図・製作図を作成し、監理者の承認を得る

10. 調整試験・検査報告　　※据付完了後の試験運転調整及び工事完了時の試験及び検査の計画書を作成し、その試験報告書を監理者に提出する

その他

①. ﾒｰｶｰ名及び製品名　　⊙図面に記載のメーカー名及び製品名は参考であるが、同等品を採用する場合には監理者の承認を受けること。

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者					法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号			第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子		椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 010
建築工事特記仕様書（９）	縮尺 1/	日付 2019・11・15

改訂：2019.09.01

梓設計　建築工事補足仕様書　（平成２８年版）

梓設計建築工事補足仕様書(以下「補仕」という。)は、全て社団法人公共建築協会編「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款に適合した工事共通仕様書平成28年版(建築工事編）」（以下「共仕」という）に対して構成されている。

特記補足仕様書

１章　一般共通事項

補５節　施　　工

補1.5.1　総　合　図　等

（ａ）総合図は、施工者が建築、設備、その他関連する工事の概要を把握し、施工図の作成の適正化と効率化のために、一つの図面に建築、電気設備、機械設備その他関連する器具、機械類、アウトレット類を網羅し記入することにより、工事の全体概要と相互関係を把握し、各工事相互の調整、整合を図り、工事の円滑な進行に資することを目的とし作成する。作成する図面の種類と範囲及び縮尺は特記による。

（ｂ）総合図は、建物用途や機能等により、更に詳細な内容や詳細な寸法が必要な場合は、総合施工図として作成する。

（ｃ）総合施工図(以下総合施工図は総合図を含め総合図等という。)の作成は総合図の作成に準拠し、作成の適用及び作成する図面の種類と範囲ならびに縮尺等は特記による。

（ｄ）総合図等の作成は、次による他、総合図等の作成例ならびに記入する機器類等の詳細は、「梓設計工事監理要領」による。

（１）総合図等作成の主体
総合図等は、建築工事施工者が総合図等作成の元図を作成し、各関連工事施工者がこれに記入して作成する。

（２）総合図等の指示と調整
総合図等の作成は、監理者の指示により、各施工者間で調整する。設計図書の不整合、設計変更が発生した場合は、監理者が調整を行う。

（３）総合図等作成の手順と方法
（ⅰ）作成手順
工事の工程における総合図等の作成は、工事別施工図の作成開始前に完成する。
（ⅱ）作成要領
基本的に総合図等は、全体的把握が目的であるので、表現は必要最小限としわかり易いことを旨とする。

（４）総合図等に記入する機器類等
総合図等には、各工事に含まれる機器、器具類、アウトレット類を原則として全て、元図となる平面図、展開図、天井伏図等に記入する。別途発注になる家具、機器類も記入する。

（５）総合図の確認と承認
（２）による調整の完了した総合図等に対する監理者による承認の必要性の有無は、特記による。特記がなければ、監理者の調整完了の確認により、各工事別施工図の作成に活用する。確認の場合の手順等に関しては、監理者と協議の上、決定する。

補７節　完成図等

補1.7.1　工事完成図等

ＣＡＤ図面データに関する規定は、下記による他、事前に監理者と打合せを行い、その内容を確認する。

（１）完成図の作成に際して、梓設計作成のＣＡＤ設計図データを使用する場合には梓設計所定の「ＣＡＤデータ使用契約書」により両社において契約を締結する。

（２）ＣＡＤデータを提出する場合、梓設計が受領したＣＡＤデータの使用権は、梓　設計が有するものとする。

（３）ＣＡＤソフトはＡｕｔｏＣＡＤを標準とし、データ形式は、ＡｕｔｏＣＡＤの標準フォーマットであるＤＷＧ形式とする。(尚、ＡｕｔｏＣＡＤは米国オートディスク社の登録商標です。)ＤＷＧ形式への対応ができない場合に限り、ＤＸＦ形式を認める。

（４）ファイル名、レイヤ名、線種、文字スタイル、ペン種別等に関しては、監理者との打ち合わせによる。

（５）ＣＡＤデータの受渡しに際しては、「梓設計工事監理要領」で規定する媒体の　種類、仕様により作成する。

補1.7.2　竣工データファイル

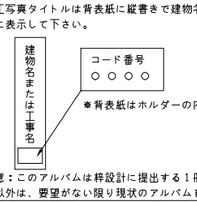
ディスク(記録媒体)による竣工データファイルの作成に関しては、次による他、事前に監理者と打合わせを行い、その内容を確認する。ﾒﾃﾞｨｱｽｸ(記録媒体)：DVD-R(ｗｉｎｄｏｗｓﾌｫｰﾏｯﾄ4.7GB以上)

（１）竣工引渡し書類中のディスク化対象書類
（ⅰ）建築概要・設計要旨
（ⅱ）完成図
設計図及び各種計算書の引渡し時の状態を表現したものとする。
＊具体的な対象図面・書類名称については、「特記仕様書７．完成時の提出書類」による。
（ⅲ）施工図
構造躯体図、カーテンウォール製作図の他、総合図を含む建物維持管理に必要な施工図
（ⅳ）竣工引渡し書類
① 維持管理上必要な図書
② 工事契約上の書類
③ 官公署関連の許可・認可等の書類
＊ ①～③の具体的な書類名称については、「梓設計工事監理要領」による。
（ⅴ）竣工写真
竣工写真アルバムと同じカットを収録する。

（２）ディスク作成仕様
ディスク化を行う対象の資料は、スキャナーから読込みデジタル化を行う。
（ⅰ）(１)・(ⅰ)～(ⅳ)のデジタル化仕様（下記①、②を収録する）
①ＴＩＦＦファイル形式
データ形式：ＴＩＦＦ(インテルアーキテクチャを標準とする)Ｖ5.0以上、１ファイル１画像
解像度：400dpi(Ａ3を超えるものは200dpi)
色彩：モノクロ　　＊カラーの場合はフルカラー
サイズ：原稿原寸
データ圧縮形式：ＬＺＷ
②ＰＤＦファイル形式
上記①の仕様にてスキャナーから読み込んだＴＩＦＦファイルを一つのＰＤＦファイルに変換し同ＣＤ－ＲＯＭに格納する。ＴＩＦＦ形式データにおけるフォルダ、ファイルの階層構造を同様に設定しＰＤＦファイルの“しおり”に置き換える。建物規模が大きく図面の数が多い場合は、監理者と打ち合わせの上、建築・電気・給排水・空調・その他工事のようにカテゴリー毎にそれぞれ一つのＰＤＦファイルとして格納する。（詳細な仕様に関しては「梓設計工事監理要領」による。）
（ⅱ）竣工写真のデジタル化仕様
データ形式：TIFF（インテルアーキテクチャーを標準とする）Ｖ5.0以上、１ファイル１画像
色　彩　　：フルカラー
サイズ　　：原稿原寸
データー圧縮形式：Ｇ4ＭＭＲ
（ⅲ）ディスクには各種ピュワーソフトの格納は行わない。
（ⅳ）その他詳細な仕様については「梓設計工事監理要領」による。

補1.7.3　竣　工　写　真

（ⅰ）撮影者、撮影箇所、撮影日時などについては監理者と詳細に協議する。
（ⅱ）設備工事などが分離発注されている場合も、監理者と協議のうえ、各工事協調して撮影からアルバム製作に至る作業を１本化する。
（ⅲ）提出部数、装丁などは下記を標準とする。

	発注者提出用	梓設計受領用⑤～⑨
部数	特記仕様書による部数	
装丁	監理者の指示による	監理者の指示による写真サイズ
写真サイズ	特記仕様書による	特記仕様書による
その他	① 第1頁に建物概要を挿入する。 ② 各写真に標題（撮影箇所の説明）を付ける。 ③ 各写真にネガ照合番号を付ける。 ④ 最終頁に撮影者（名称・住所・電話番号） ネガの所在・版権の所在などを表示する。 ⑤ アルバムには市販のA4版30穴クリアファイル・ホルダーを使用して下さい。 （カラーは黒を使用のこと） ＊ 写真枚数に合わせて最適な厚さと、耐久性のあるものを選定して下さい。 ⑥ 写真用ポケットは下記製品、または同様の他社製品を使用して下さい。 建築概要、写真リスト等、キャビネ以上のサイズの写真を入れる場合は通常のA4クリアファイル、または下記製品のA4/1ポケットを使用して下さい。 ＊サンプルが必要な場合は情報システム部へ請求して下さい。 （TEL　03-6710-0364） ＊ 透明ポケット２ファイル(A4-L・30穴)　品番S-842 メーカー名：コレクト(株) 東京都台東区元浅草3-19-2 TEL:03-3844-7151 ⑦ 写真サイズは原則としてキャビネ版とし、写真の脱落防止のため中厚の台紙を入れ、１ポケット裏・表に１枚ずつ、計４枚の写真をセットして下さい。 ＊ ポケットNo・カット名・ネガNoを台紙左上に、テプラ等による表示して下さい。 （その際はベースの薄いものを使用のこと） ⑧ ページ構成は次の順でセットして下さい。 １）建物概要　２）設計主旨　　３）図面　　４）竣工写真 ５）写真リスト　　＊ﾈｶﾞﾎﾟｹｯﾄNo、ｶｯﾄNo、ﾈｶﾞNo ＊案内、配置、各階平面、立面、断面図 撮影者名、ｶﾒﾗﾏﾝ名、住所、TEL・FAX ⑨ 竣工写真タイトルは背表紙に縦書きで建物名を、コードNoを横書きで下記の位置に表示して下さい。  ⑩ 注意：このアルバムは梓設計に提出する１冊のみの体裁です。 それ以外は、要望がない限り現状のアルバムを使用してください。	

注）「その他」の③④項は、後日（場合によっては10年～数10年後）梓設計または発注者から焼増注文を行う際のために必要な事項なので、必ず記載する。

（ⅳ）アルバムの表紙および背の表示内容は監理者の指示による。
（ⅴ）建物概要作成仕様は監理者の指示による。
（ⅵ）竣工写真（カラー）のデジタル化は「補足仕様書1.7.2」による。

補1.7.4　保全に関する資料

保全に関する資料の作成は「共仕」による他、次による。

（１）「建築物等の保守に関する説明書」に記載事項
（ⅰ）建物の主要な構造部及び外構についての説明
（ⅱ）建物を使用する上での注意事項
（ⅲ）建物に設置されている家具、機器類の概要説明
（ⅳ）建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点
（ⅴ）建物等の清掃の要点
（ⅵ）建物に使用されている主要材料の製造者名、所在地及び連絡先ならびに非常時の連絡体制等に関する一覧表
注）作成に当たっては、別契約の関連設備工事にかかわる説明書等との内容の調整を十分に行い、建物全体及び各部の機能が耐用年数の間、十分に発揮できるようなものとする。

（２）数量調書
数量調書は、建物完成後の維持管理の保全並びに更新段階に必要となる、建物各部の数量をまとめたもので、工事期間中の設計変更、追加工事等の内容を反映し、建物完成時の状態を表現するものとする。
作成する項目、範囲に関しては特記仕様書 1.7[完成時の提出図書]による他、監理者の指示による。

補1.7.5　施工者による自主的な品質管理

（ａ）請負者は、施工品質の自主的管理を実施するために自主施工管理者を選任した施工管理体制を組織し、自主施工管理者による指導及び監理を実施し、品質管理を徹底する。

（ｂ）自主施工管理者が、その者の責任において実施する指導及び監理者の重点管理項目は、次に掲げる時期及び事項を標準とする。

（１）品質管理の時期
（ⅰ）品質保証活動の方針決定段階
施工者は、工事着手時に設計監理者が設計説明会において、建築主の基本的要求品質や設計者の設計意図及び工事監理者による工事監理方針等、設計で意図した要求品質を確保するための方針を受けて、工事目的物を要求性能通りに完成させるために、工事運営計画書を作成する。工事運営計画書は、施工運営方針、基本施工計画、基本施工管理計画により、施工者側の心構え、施工のやり方、品質管理のルールの原則を明確にする。
（ⅱ）合意品質のつくり込みの段階
自主施工監理者と施工者は、設計品質を具体的に品質の目標を定めた合意品質としてつくり込むために、総合的な各工事間の調整を行い、施工図、施工計画書、施工品質管理計画書に反映させる。
施工品質管理計画書に反映させる品質管理の内容は、次の事項を標準とする。
① 品質管理の方針
② 施工中の品質管理
管理項目、管理水準(規準)、管理分担、管理方法、管理限界を外れた場合の処置
③ 施工完了時の検査
検査項目、検査方法、検査体制
（ⅲ）品質保証活動の確認の段階
施工者は、「合意品質のつくり込み」で具体的に計画した活動を実施し、その結果が目標レベルでの許容範囲内に入っているかどうか確認するため工事中間時及び工事完成時に性能、機能検査を含めた品質検査を行い、記録、報告する。

（２）品質管理の対象事項
（ⅰ）品質管理を実施する事項は、「共仕」の基本要求 品質に関する事項及び建築工事監理指針(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修平成25年版)による各章の基本要求品質及び、施工計画書記載事項のうち、品質計画に関する事項とする。各章の項目に表示されている項目は補表1.7.1による。

補表1.7.1　建築工事監理指針による基本要求品質及び施工計画書に記載する品質計画

章	工事項目	基本要求品質	施工計画書に記載する品質計画
３	土工事	3.1.2	3.1.1(ｃ)
４	地業工事	4.1.2	4.1.1(ｃ)既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭地業 4.4.1(ｃ)鋼杭地業 4.5.1(ｃ)場所打ちｺﾝｸﾘｰﾄ杭地業
５	鉄筋工事	5.1.2	5.1.1(ｃ)
６	ｺﾝｸﾘｰﾄ工事	6.1.2	6.1.1(ｃ) 6.5.1～6.5.5普通ｺﾝｸﾘｰﾄの品質管理 6.9.1～6.9.2型枠 6.11.3～6.11.5軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ 6.12.3　寒中ｺﾝｸﾘｰﾄ 6.13.3～ﾏｽｺﾝｸﾘｰﾄ 6.14.3無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ 6.15.2～6.15.5高強度ｺﾝｸﾘｰﾄ 6.16.3高炉ｾﾒﾝﾄB種を用いる普通ｺﾝｸﾘｰﾄ 6.17.5流動化ｺﾝｸﾘｰﾄ 6.17.5流動化ｺﾝｸﾘｰﾄ
７	鉄骨工事	7.1.2	7.1.5(ａ)～(ｅ)
８	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ ALCﾊﾟﾈﾙ･押出 成形ｾﾒﾝﾄ板工事	8.1.2	8.2.1(ｃ)補強ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造 8.3.1(ｃ)ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ帳壁及び塀 8.4.1(ｄ)ALCﾊﾟﾈﾙ
９	防水工事	9.1.2	9.2.1(ｃ)(３)ｱｽﾌｧﾙﾄ防水 9.3.1(ｃ)(２)改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ防水 9.4.1(ｃ)合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水 9.5.1(ｃ)塗膜防水 9.6.1(ｃ)ｼｰﾘﾝｸﾞ
１０	石工事	10.1.2	10.1.1(ｄ)
１１	タイル工事	11.1.2	11.3.1(ｂ)陶磁器質ﾀｲﾙ張り 11.4.1(ｂ)陶磁器質ﾀｲﾙ型枠先付け
１２	木工事	12.1.2	12.1.1(ｃ)
１３	屋根及びとい工事	13.1.2	13.2.1(ｃ)長尺金属板葺 13.3.1(ｃ)折板葺 13.4.1(ｃ)粘土瓦葺 13.5.1(ｂ)とい
１４	金属工事	14.1.2	14.4.1(ｃ)軽量鉄骨天井下地 14.5.1(ｃ)軽量鉄骨壁下地 14.6.1(ｃ)金属成形板張り 14.7.1(ｃ)ｱﾙﾐﾆｳﾑ製笠木 14.8.1(ｃ)手すり及びﾗﾗﾝﾌﾟ
１５	左官工事	15.1.2	15.2.1(ｃ)ﾓﾙﾀﾙ塗り 15.4.1(ｃ)ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材塗り 15.5.1(ｃ)仕上塗材仕上げ 15.6.1(ｃ)せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ塗り
１６	建具工事	16.1.2	17.1.3(ａ)～(ｄ)
１７	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	17.1.2	18.1.1(ｃ)
１８	塗装工事	18.1.2	18.1.1(ｃ)
１９	内装工事	19.1.2	19.2.1(ｃ)ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ、ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ及びｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ張り 19.3.1(ｃ)ｶｰﾍﾟｯﾄ敷き 19.4.1(ｃ)合成樹脂塗り床 19.5.1(ｃ)ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ張り 19.6.1(ｃ)畳敷き 19.7.1(ｃ)せっこうﾎﾞｰﾄﾞ、その他ﾎﾞｰﾄﾞ及び合板張り 19.8.1(ｃ)壁紙張り 19.9.2(ｃ)断熱・防露
２０	ﾕﾆｯﾄ及びその他の工事	20.1.2	20.3.1(ｄ)ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ工事
２１	排水工事	21.1.2	21.1.1(ｆ)
２２	錺装工事	22.1.2	22.1.1(ｄ)
２３	植栽工事	23.1.2	23.1.1(ｃ)

注）基本要求品質欄の番号は、平成25年版「共仕」の項目番号を示し、施工計画書に記載する品質計画欄の番号は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築工事監理指針平成25年版」の項目番号を示す。

（ｃ）自主施工管理者の実施する重点管理項目は、(ｂ)による事項について、施工者は監理者との協議により、当該工事の品質管理上必要な事項を重点管理項目に選定して、運用する。

補８節　性能試験

補1.8.1 性能試験

（ａ）材料や施工の品質及び性能の確認のために実施する性能試験を要する工事の内「共仕」に記載されたものを除いた試験は次により、その適用は、特記による。

（ｂ）試験の項目

（１）防水工事　　漏水試験(防水一般)
塗膜厚試験(塗膜防水)
漏水試験(金属シート防水)
真空試験(金属シート防水)

（２）石工事　　圧縮強さ試験

（３）タイル工事　　接着力試験
吸水率及びひび割れ試験

（４）木工事　　含水率試験

（５）屋根及びとい工事　　とい漏水試験

（６）金属工事　　金属素地上の焼付け塗装の塗膜厚試験
金属素地上の焼付け塗装の品質試験

（７）建具工事　　耐風圧性能試験
気密性能試験
水密性能試験
遮音性能試験
断熱性能試験
耐震性能試験

（８）カーテンウォール工事　　ユニットの耐風圧性能試験
ユニットの層間変位追従性能試験
ユニットの水密性能試験

（９）塗装工事　　塗り厚試験

（10）内装工事　　床遮音性能試験

（11）ユニット及びその他の工事　　音環境測定試験
後付けアンカー引抜き試験

（ｃ）試験の工程

（１）　防水工事
（ⅰ）屋外（屋根等）漏水試験は、原則として3日間水張り試験とし、水張り深さは水上で10cm以上とする。但し、荷重条件等により水張り試験が困難な場合には、監理者と協議の上、放水試験に替えることができる。
（ⅱ）屋内(浴室、厨房等)漏水試験は、原則として24時間水張り試験とする。
（ⅲ）外壁防水層の厚さの試験は、製造所監理者の報告による。
（ⅳ）金属シート防水の試験の種別は次による。
① 真空試験：各継手交点を行う。
② 漏水試験：防水工事に倣う。

（２）石工事
試験は、JIS A5003(石材)の規定により、種別は次による。
① 吸水率試験
② 圧縮強さ試験

（３）タイル工事
吸水率及びひび割れ試験：寸法及び形状がJIS A5209(陶磁器質タイル)の規格にないものは、吸水率及びひび割れ試験(オートクレーブ試験器)を行う。吸水率は3%以下、ひび割れ試験圧力は1N/mm2を標準とする。

（４）木工事
含水率試験：工事現場に搬入時とし、測定方法は全乾重量法又は高周波水分計法とする。

（５）屋根及びとい工事
とい　屋根の排水管は満水試験を行う。

（６）金属工事
（ⅰ）金属素地上の合成樹脂塗料の焼付け塗装の試験は、JIS K 5980（金属素地上の合成樹脂塗料の焼付け塗膜）の規定により、種別は次による。
① 外観試験
② 塗膜厚の測定
（ⅱ）金属素地上の合成樹脂塗料の焼付け塗装の仕上がり塗膜の品質試験は補14.9.7[検査]の補表14.9.14[仕上がり塗膜の性能]の試験項目及び試験条件による。

（７）建具工事
（ⅰ）性能及び区分は下表とし、JIS A 4706(サッシ)の規定による。
（ⅱ）試験方法は、JISの規定により、種別は次による。但し、カーテンウォール製品は、カーテンウォール性能基準(JCMA基準)を適用する。
① 耐風圧性能試験JIS A 1515(建具の耐風圧性試験方法)
② 気密性能試験　JIS A 1516(建具の気密性試験方法)
③ 水密性能試験　JIS A 1517(建具の水密性試験方法)
④ 遮音性能試験　JIS A 1416(実験室における音響透過損失測定方法)
⑤ 断熱性能試験　JIS A 4710(建具の断熱性試験方法)
⑥ 耐震性能試験　JIS A 1521(片開きドアセットの面内変形追随性試験方法)
⑦ 耐風圧性能試験JIS A 4705（重量シャッター構成部材）
⑧ 耐風圧性能試験JIS A 4704（軽量シャッター構成部材）
⑨ 耐風圧性能試験JIS A 4715（オーバーヘッドドア構成部材）

補表1.8.1　耐風圧性能(Pa)

耐風圧性能の等級	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6	S-7	S-8
JISによる対応値	800	1200	1600	2000	2400	2800	3600	U

補表1.8.2　気密性能(等級線)

気密性能の等級	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
JISによる対応値	12	30	8	2	U

補表1.8.3　水密性能(Pa)

水密性能の等級	W-1	W-2	W-3	W-4	W-5	W-6
JISによる対応値	100	150	250	350	500	U

補表1.8.4　遮音性能(等級線)

遮音性能の等級	T-1	T-2	T-3	T-4	T-5
JISによる対応値	25	30	35	40	U

補表1.8.5　断熱性能(㎡･K/W)

断熱性能の等級	H-1	H-2	H-3	H-4	H-5	H-6
JISによる対応値	0.215	0.246	0.287	0.344	0.430	U

補表1.8.6　面内変位追随性能(rad)

面内変位追随性能の等級	D-1	D-2	D-3	D-4
JISによる対応値	1/300	1/150	1/120	U

補表1.8.7　耐風圧性能（Pa）
重量シャッター耐風圧性能等級は削除、(社)日本ｼｬｯﾀｰ･ﾄﾞｱ協会「ｼｬｯﾀｰ･ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ耐風圧強度計算基準」による。

補表1.8.8　耐風圧性能（Pa）
軽量シャッター耐風圧性能等級は削除、(社)日本ｼｬｯﾀｰ･ﾄﾞｱ協会「ｼｬｯﾀｰ･ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ耐風圧強度計算基準」による。

補表1.8.9　耐風圧性能（Pa）
オーバーヘッドドア耐風圧性能等級は削除、(社)日本ｼｬｯﾀｰ･ﾄﾞｱ協会「ｼｬｯﾀｰ･ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ耐風圧強度区分」による。

注）Ｕ：JIS規格を超えるもの。数値を指定する場合は特記とする。

（８）カーテンウォール工事
性能及び区分は補表1.8.10～補表1.8.12とし、社団法人日本カーテンウォール工業会のカーテンウォールの性能基準（ＪＣＭＡ基準）の規定による。試験方法はJIS A 1414(建築用構成材(パネル)及びその構造部分の性能試験方法)及びＪＣＭＡ基準を適用する。
① ユニットの耐風圧性能試験
② ユニットの層間変位追従性能試験
③ ユニットの水密性能試験

補表1.8.10　耐風圧性能グレード

荷重(Pa)	2400		2800		3600		5000	
性能グレード	1	2	3	4	5			

補表1.8.11　層間変位追従性能グレード

層間変位角(rad.)	条件1				1/400		1/300	
	条件2		1/200		1/200		1/150	1/100
性能グレード	1		2		3		4	5

注）条件１：健全で再使用できる程度
条件２：主要部が破損しない程度

補表1.8.11　層間変位追従性能グレード

圧力差(Pa)	可動部	350		500		650		1000
	はめ殺し部	650		1000		1500		2000
性能グレード	1		2		3		4	5

（９）塗装工事
塗料一般の試験は、JIS K 5400(塗料一般試験方法)の規定により、塗り厚試験の項目は、次による。
① 外観試験
② 塗装厚の測定
③ 試験を行う塗料の種類及び適用箇所は、特記による。

改訂：2016.09.01

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers&Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 011
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		建築工事補足仕様書（１）	縮尺 1/	日付 2019・11・15

(10) 内装工事
（ｉ）フローリング張り床、弾性床及び遮音床の遮音性能試験測定方法及び、評価方法は、次のJIS
の規定及び日本建築学会推奨測定基準による。又、測定対象は、軽量衝撃音及び重量衝撃音とし、適
用は特記による。
① JIS A 1418(建築物の現場における床衝撃音レベルの測定方法)
② JIS A 1419(建築物の遮音等級)
（ⅱ）音環境測定試験
① 測定方法及び、評価方法は、次のJISの規定及び日本建築推奨測定基準による。
（イ）JIS A 1409（残響室法吸音率の測定方法）
（ロ）JIS A 1417（建築物の現場における音圧レベル差の測定方法）
（ハ）JIS A 1418（建築物の現場における床衝撃音レベルの測定方法）
（ニ）JIS A 1419（建築物の遮音試験等級）
（ホ）JIS A 1520（建具の遮音試験方法）
（ヘ）JIS Z 8731（騒音レベル測定方法）
② 測定項目は、次により、項目の適用及び測定対象室等の適用箇所は、特記による。
（イ）外周壁遮音測定
（ロ）室間遮音測定
（ハ）床衝撃音測定
（ニ）室内音響測定　室内騒音レベル測定、室内残響測定、室内明瞭度測定
（ホ）給排水音測定

(11) ユニット及びその他の工事
後付けアンカー引抜き試験
① 非破壊試験は、設計用引張強度の1.3倍の荷重を検査荷重とした引張加力試験を行う。
② 試験本数は、全本数の3%かつ3本以上とし、不合格が発生した場合には全本数の20%を試する。
その中で不合格が生じた場合は全数試験をする。
③ 不合格となったものは、切断の上新たに施工し直すことを原則とする。

2章　仮設工事

補5節　工事用看板

補2.5.1　工事用看板
（ａ）工事現場の適切な場所に、下記仕様の枠設計工事用看板「社名看板」、「外部足場上部用看板」、「監理事務局（監理事務所）用看板」を設ける。
（ｂ）「社名看板」
（１）工事現場に掲示する看板は、工事現場の歩道側に設け、看板中心の高さは目の高さ(1,500mm)とする。
（２）掲示する箇所数は、敷地に面する前面道路(幅員 5,500mm以上)に対して、最低1個所掲示する。敷地に面する道路（幅員5,500mm以上）が２以上ある場合は、掲道距離がそれぞれ10m以上ある場合に限り、それぞれ1個所掲示する。
（３）看板の大きさは、Ｂ－１版(800mm×1,100mm)とする。
（ｃ）「外部足場上部用看板」
（１）設置について、設置場所・時期などは監理者の指示による。
（２）看板の大きさは、(780mm×780mm×５枚)とする。
（ｄ）「監理事務局（監理事務所）用看板」
（１）設置について、採否・設置場所などは監理者の指示による。
（２）看板の大きさは、(450mm×320mm)とする。
選択については監理者の指示による。
（ｅ）上記看板の色彩は各々2種類が指定されています、設置場所・背景等を考慮して何れかを選択する。
注記）「設計・監理」の文字は設計・監理業務の形態により「設計」のみの業務又は「監理のみの業務に応じて表記文字を変更し、寸法を合わせる。
（ｆ）工事用看板の製作者は、特記による。
（ｇ）各仕様は「枠設計工事監理要領」による。

8章　ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾟﾛｯｸ・ALCﾊﾟﾈﾙ 押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事

補4節　ＡＬＣパネル

補8.4.1　ＡＬＣパネル
この節は、建築基準法により認定されたＡＣＬパネルを間仕切壁、屋根(非歩行用)、床及び外壁に用いる工事に適用する。ここに規定のないものは、「共仕]8章4節［ＡＬＣパネル］による。

補8.4.2　材　　料
（ａ）外壁パネルのパネル形状、表面形状等は次により、適用は特記による。
（１）パネル形状
（ⅰ）一般パネル（平パネル）、（ⅱ）コーナーパネル
（２）表面形状等
（ⅰ）フラットパネル、（ⅱ）デザインパネル、（ⅲ）プレコートパネル、（ⅳ）撥水パネル
（ｂ）間仕切壁パネルのパネル形状、表面形状等は次により、適用は特記による。
（１）パネル形状
（ⅰ）一般パネル（平パネル）、（ⅱ）コーナーパネル
（２）表面形状等
（ⅰ）フラットパネル、（ⅱ）デザインパネル、（ⅲ）撥水パネル

補8.4.3　屋根及び床パネル構法
屋根及び床パネル構法は「共仕]8.4.5[屋根及び床パネル構法]に指定された構法を、敷設筋構法と称す。

補8.4.4　耐火性能
（ａ）パネルの耐火性能は、特記による。
（ｂ）耐火目地材は、特記による。特記がなければロックウールとする。
（ｃ）取付け金物の耐火被覆は、特記による。特記がなければ半湿式ロックウール吹付けとする。

補5節　押出成形セメント板(ECP)

補8.5.1　押出成形セメント板(ECP)
この節は、外壁及び間仕切壁に用いる押出成形セメント板(以下、ECPパネルという)の工場製品に適用する。
ここに規定のないものは、「共仕]8章5節[押出成形セメント板]による。

補8.5.2　材　　料
ECPパネルのうち壁用パネルの種類、表面形状等は、次により、適用は特記による。
（１）種　　類
（ⅰ）常備品、（ⅱ）受注生産品、（ⅲ）特注品
（２）表面形状
（ⅰ）フラットパネル、（ⅱ）標準リブパネル、（ⅲ）特注規模パネル、（ⅳ）タイルパネル、（ⅴ）タイル下地パネル、（ⅵ）塗装化粧パネル、（ⅶ）コーナーパネル

補8.5.3　パネルの取扱い
（ａ）種類、長さなどの異なるパネルは、原則として混合して積上げてはならない。

補8.5.4　外壁パネル工法
外壁パネル工法は「共仕]8.5.4［外壁パネル工法］の表8.5.1［外壁パネルの取付け工法種別］にＤ種を追加する。
Ｄ種の工法は補表8.5.1による。

補表8.5.1　外壁パネルの取付け工法種別

種　別	取　付　け　工　法
Ｄ　種	（大型パネル工法） （１）工場組立とする。 （２）性能は、建築基準法施行令又は建設省告示第1458号(平成12年5月31日)に定められた風圧に対して安全なものとし、層間変位追従性等の性能について満足するものとする。 （１）性能などを証明する計算書等の資料を提出すること。 （２）所定の取付け順序及び方法によって建込み、仮止め後取付け位置を調整し、本締めを行う。 現場溶接を行った場合には、「共仕]表18.3.1[鉄鋼面錆止め塗料の種別]のＢ種の錆止め塗装を行う

補8.5.5　溝掘り及び開口部の補強
（ａ）切断加工(欠込み及び孔あけ)は原則として工場加工とし、パネル製造所の基準に基づいて行う。切断部は必要に応じて補修材にて充填を行う。
（ｂ）開口部の補強は、特記による。特記がなく、地上高さが16m以下の部分で軽微な場合は次による。
（１）外壁パネル縦張り工法

補表8.5.2　開口補強材

開口幅　Ｗ　mm	縦　　材	横　　材
Ｗ≦1000	Ｌ－50×50×6	Ｌ－50×50×6
1000＜Ｗ≦1800	Ｌ－65×65×6	Ｌ－65×65×6
1800＜Ｗ≦2400	Ｌ－75×75×6	Ｌ－75×75×6

（２）外壁パネル横張り工法

補表8.5.3　開口補強材

開口幅　Ｗ　mm	縦　　材	横　　材
Ｗ≦1500	Ｌ－75×75×6	Ｌ－50×50×6
1500＜Ｗ≦2400	Ｌ－75×75×9	Ｌ－65×65×6

（３）間仕切壁パネル工法

補表8.5.4　開口補強材

開口幅　Ｗ　mm	縦　　材	横　　材
Ｗ≦1000	Ｌ－50×50×6	Ｌ－50×50×6
1000＜Ｗ≦1800	Ｌ－65×65×6	Ｌ－65×65×6
1800＜Ｗ≦2400	Ｌ－75×75×6	Ｌ－75×75×6

補8.5.6　耐火性能
（ａ）耐火性能は、特記による。
（ｂ）ECPパネルの中空充填材（外壁は除く）はロックウールとし、適用は特記による。
（ｃ）本実継ぎ以外の目的は耐火目地材を充填する。耐火目地材は、特記による。特記がなければロックウールとする。
（ｄ）ECP取付け金物の耐火被覆は、特記による。特記がなければ半湿式ロックウール吹付けとする。

補8.5.7　施　工　図
（ａ）ECPパネルの割付図を作成する。
（ｂ）ECPパネル幅の最小限度は、原則として補表8.5.5による。

補表8.5.5　ECPパネル幅の最小限度

パネル長さ　Ｌ　mm	Ｌ≦2000	2000＜Ｌ≦3000	3000＜Ｌ≦5000
最小幅　mm	200	250	300

補6節　繊維補強セメント・コンクリート複合材

補8.6.1　適　用　範　囲
この節は、各種繊維により補強されたセメント・コンクリートの工場製品に適用する。

補8.6.2　種　　別
（ａ）繊維補強セメント・コンクリート複合材の種別は次による。
（１）炭素繊維補強セメント複合材　ＣＦＲＣ(Carbon Fiber Reinforced Concrete)
（２）ガラス繊維補強セメント複合材　ＧＲＣ(Glass Fiber Reinforced Concrete)
（３）鋼繊維補強セメント複合材　ＳＦＲＣ(Steel Fiber Reinforced Concrete)
（４）合成繊維補強セメント複合材 ＰＦＲＣ(Plastic Fiber Reinforced Concrete)
（５）ビニロン繊維補強コンクリート板ＶＦＲＣ (Vinilon Fiber Reinforced Concrete)
（ｂ）繊維補強セメント・コンクリート複合材の標準的な適用は次により、その適用は特記による。
（１）一般的な建築内外装材は、ＣＦＲＣ又は、ＧＲＣを適用する。
（２）外溝及び土木用の部材は、ＳＦＲＣを適用する。
（３）強度及び耐火性能等をそれほど必要としない備品的な成形品は、ＰＦＲＣを適用する。

補8.6.3　材　　料
繊維補強セメント・コンクリート複合材を構成する材料は、セメント、骨材(砂、人工軽量骨材)、繊維により構成され、使用するセメントによるパネルの物性その他特徴は、補表8.6.1により、その適用は、特記による。

補表8.6.1　使用するセメントによるパネルの物性その他

物性その他	普通ポルトランドセメント	低アルカリセメント
アルカリ性	PH－12～12.5	PH－10.5～11
インサート類	電気亜鉛めっき程度	ステンレス
吸水率	6～9%	12～18%
塗装性	密実なので塗装ののりが良い	ポーラスであるので、塗装には下地 処理が必要
乾燥収縮率	$600\sim800\times10^{-6}$	$300\sim400\times10^{-6}$
模様	角欠けしにくく模様の再現性が良い	脱型時にやわらかいため模様の再現性は劣る
表面仕上げ材	打放し品に適する塗装	塗装・タイル・石打込み、長大・細長品に適する
耐久性	タイル・石型枠先付けの場合、版の「そり」が発生しやすい	乾燥収縮率が小さいので耐久性が高い
コスト	-	セメント、取付け金物とも高価

補8.6.4　工　　法
繊維補強セメント・コンクリート複合材パネルの製造法は次により、その適用は特記による。
（１）ダイレクトスプレー法（ＧＲＣに限る）
薄板上で、複雑なパターンの模様、形状等を持つパネル製品の成形に適している。レリーフ、くり形等の表現の際内部を空洞化し、軽量化できる。セメントモルタルをスプレーガンで吹付け加工しながら同時に繊維をチョッパーガンで一定の長さに切断しながら吹付けていく方法。ＦＲＰ製品の製法に近く、高強度で軽量なパネルが得られる。
（２）プレミックス法
セメントと、あらかじめ適当な長さに切断された繊維をミキサー内で混合し、形枠に流込む工法。混合時のガラス繊維の損傷で成形が困難である等の難点があったが、流込み技術の改善により採用が増えている。ＰＣ板の製法に近く、ダイレクトスプレー法に比べ厚肉で重量も大となる。補強筋(線)により強度を付加する場合が多い。

補8.6.5　耐　火　性　能
（ａ）パネルの耐火性能は、特記による。
（ｂ）耐火目地材は、特記による。特記がなければロックウールとする。
（ｃ）取付け金物の耐火被覆は、特記による。特記がなければ半湿式ロックウール吹付けとする。

補7節　穴あきＰＣ板

補8.7.1　適　用　範　囲
この節は、建築基準法により認定された、空洞プレストレストコンクリートパネル(以下穴あきＰＣ板と称す)を外壁及び間仕切壁のうちの非耐力壁と屋根及び床に用いる工事に適用する。

補8.7.2　材　　料
（ａ）穴あきＰＣ板は、JIS A 6511(空洞プレストレストコンクリートパネル)の規格品とし、種類、寸法、配筋による種別、表面形状、表面仕上げ材、常備品及び特注品等の区分は、特記による。
（ｂ）鋼材の種類
（１）JIS G 3536(ＰＣ鋼線及びＰＣ鋼より線)に規定するＰＣ鋼より線並びにこれに準ずるもの
（２）JIS G 3109(ＰＣ鋼棒)に規定するＰＣ棒鋼
（３）鉄筋の種別は「共仕]表5.2.1[鉄筋]により、径は板厚に適応したものを使用する。
（４）JIS G 3101(一般構造用圧延鋼材)に規定する平鋼
（５）JIS G 3532(鉄線)に規定する普通鉄線
（６）JIS G 3551(溶接金鋼)に規定する溶接金鋼
（ｃ）取付け金物
（１）ボルト、ナット及び座金の形状寸法等は、JIS B 1180(六角ボルト)、JIS B 1181(六角ナット)及びJIS B1256(平座金)による。
（２）取付け金物及び開口部補強鋼材はJIS G 3101(一般構造用圧延鋼材)のSS400とする。
（３）その他の金物は、穴あきＰＣ板製造所の指定する製品とする。
（ｄ）金物の表面処理
ボルト、ナット、座金及びその他の取付け金物、開口部補強鋼材及び溶接部には「共仕]表18.3.1[鉄鋼面錆止め塗料の種別]のＢ種の錆止め塗装を行う。
（ｅ）コンクリート
（１）コンクリートの強度は材齢28日で40N/mm2以上とする。
（２）ＰＣ鋼材のコンクリートかぶり厚は20mm以上とする。

補8.7.3　その他の材料
（ａ）モルタル用材料は、「共仕]15.2.2[材料]により、調合は穴あきＰＣ板製造所の指定する調合比とする。
（ｂ）モルタルに使用する混和剤は、穴あきＰＣ板製造所の指定する製品とする。
（ｃ）穴あきＰＣ板の補修に用いる材料は、穴あきＰＣ板製造所の指定する製品とする。
（ｄ）穴あきＰＣ板相互の接合部に用いるシーリング材は、特記仕様書9.12[シーリング]による。

補8.7.4　穴あきＰＣ板の取扱い
穴あきＰＣ板の積上げには、据れ、反り、及び曲がり等が生じない様に、所定の位置に正確に銅いものを銅い、積上げ高さは板の長さが5m未満の場合は10枚、5m以上の場合は7枚以下とする。

補8.7.5　施　工　図
（ａ）パネルの割付図及び施工図を作成する。
（ｂ）穴あきＰＣ板の板幅の最小限は原則として壁用500mmとする。

補8.7.6　工　　法
（ａ）外壁縦張り工法
（１）取付け工法は、層間変位対応工法とし、層間変位量は、特記による。
（２）パネルを所定位置にレベル調整のうえ建込む。
（３）位置を決定したパネルを、上端2ヶ所以上下端2ヶ所以上の埋込み金物に、取付けピース(ファスナー)金物を当てがい、躯体に現場溶接で取付ける。
（４）ファスナーは、製造所の指定するものを使用する。
（ｂ）外壁横張り工法
（１）取付け工法は、層間変位対応工法とし、層間変位量は、特記による。
（２）パネルを所定位置にレベル調整のうえ建込む。
（３）位置を決定したパネルを、上端2ヶ所以上下端2ヶ所以上の埋込み金物に、取付けピース(ファスナー)金物を当てがい、躯体に現場溶接で取付ける。
（４）ファスナーは、製造所の指定するものを使用する。
（ｃ）間仕切壁縦張り工法
（１）取付け工法の種類は、層間変位対応工法又は固定取付け工法とし、種別は、特記による。
（２）パネルを所定位置にレベル調整のうえ建込む。
（３）層間変位対応工法の上部は、片側の通しアングルに1枚当たり2ヶ所のアングルピースでパネルをはさみ込み、現場溶接で取付ける。又、パネル上部にロックウールを充填し、充填高さは、特記により、特記がなければ50mm以上とする。
（４）固定取付け工法は、位置を決定したパネルを片側の通しアングルに上端2ヶ所、下端2ヶ所でアングルピースを当てて躯体に現場溶接で取付ける。
（ｄ）間仕切り壁横張り工法
（１）取付け工法の種類は、層間変位対応工法又は固定取付け工法とし、種別は、特記による。
（２）パネルを所定位置にレベル調整のうえ建込む。
（３）層間変位対応工法は、パネルの上端2ヶ所下端2ヶ所の埋込み金物に取付け金物(ルーズホール付)を当てがい、躯体に現場溶接で取付ける。又、取付け金物及び固定工法は、製造所の仕様による。
（ｅ）普通床工法
（１）取付け工法の種類は、現場溶接工法及び置きスラブ工法とし、種別は、特記による。特記がなければ現場溶接工法とする。
（２）パネルを所定位置に敷込む。
（３）現場溶接工法では、位置を決定したパネルを左右4ヶ所のアンカーに溶接する。
（４）置きスラブ工法では、位置を決定したパネルの周辺をモルタルで充填する。
（ｆ）水平力負担床工法
（１）鉛直荷重及び水平荷重を負担する床工法に適用する。
（２）パネルを所定位置に敷込む。
（３）位置を決定したパネルを、シャチ目地及びシャチ金物で補強して、左右4ヶ所のアンカーに溶接する。
（ｇ）合成床板工法
（１）鉛直荷重及び水平荷重を負担する床工法に適用する。
（２）パネルを所定位置に敷込む。
（３）パネルには、現場打ちコンクリートと一体となるよう製造所の仕様による
（４）スラブ鉄筋コンクリートには、「共仕]6章[コンクリート工事]による。

補8.7.7　穴あけ及び開口補強
（ａ）切断加工(切込み及び穴あけ)は、原則として図示し、工場加工とする。
（ｂ）壁及び床の開口部の補強は図示による。
（ｃ）切断加工によりＰＣ鋼より線のプレストレスが解除されることが予測される場合には、製造所の保証する工法で補強を行う。

補8.7.8　耐　火　性　能
（ａ）パネルの耐火性能は、特記による。
（ｂ）耐火目地材は、特記による。特記がなければロックウールとする。
（ｃ）取付け金物の耐火被覆は、特記による。特記がなければ半湿式ロックウール吹付けとする。

9章　防水工事

補8節　複合防水

補9.7.1　適　用　範　囲
この節は、異なる2種類以上の屋根用防水材を複合させ、それぞれの性能を生かし、防水層を構成した複合防水に適用する。

補9.7.2　材　　料
（ａ）ウレタン系塗膜防水材(塗膜防水)
塗膜を形成する材料は、JIS A 6021(屋根用塗膜防水材)により、種類はウレタンゴム系1類、ウレタンゴム系2類とし、使用部位による区分は、平場は一般用、立上がり部は立上がり用とする。超速硬化ウレタンの場合は、平場・立上がり部は共用とする。
（ｂ）ＦＲＰ系塗膜防水材(ＦＲＰ防水)
塗膜を形成する材料は合成樹脂(ポリエステル樹脂等)と補強材(無機のガラス繊維あるいは不織布)で、製造所の指定する製品とする。
（ｃ）改質アスファルトシート材(改質アスファルト防水)
不織布付き改質アスファルトシートは、通気性及び下地亀裂抵抗性を有し、製造所の指定する製品とする。
（ｄ）合成高分子系ルーフィングシート防水材(シート防水)
使用する合成高分子系ルーフィングシートは、合成ゴム系とし、接着または機械的固定を行う。
（ｅ）その他材料
プライマー、補強布、接着剤、この節でいうシーリング材、仕上塗料等は、主材料製造所の指定する製品とする。

補9.7.3　種別及び工法
種別及び工法は、補表9.7.1により、適用は特記による。又、工法及び仕様は、製造所の仕様による。

補表9.7.1　複合防水の種別

種　別	工　法	用　途
[改質アス]＋[ＦＲＰ]系	不織布付き改質アスファルトシートを下地に粘着させ、ポリエステル樹脂を 塗重ねる。	歩行可能床
[改質アス]＋[塗膜]系	改質アスファルトシートを接着、粘着で下地に貼付け、上面にウレタン系塗 膜防水を塗布する。	露出屋根 湿潤下地
[塗膜]＋[ＦＲＰ]系	ウレタンゴム系塗膜防水を 2mm程度下地に塗布し、その上にポリエステル樹脂を1～2層塗りつける。	駐車場 屋上庭園 屋上遊興施設床
[塗膜]＋[改質アス] 積層系	改質アスファルトシートを常温液状ゴム化アスファルトで張付け、用途により積層することもできる。	耐久性を要する人工地盤等
[シート]＋[塗膜]系	合成ゴムシートを接着、又は機械的固定して、その上にウレタン系塗膜防水材を塗布、または超速硬化型ウレタン系塗膜防水材を吹き付ける。	露出屋根 湿潤屋根
[シート]＋[ＦＲＰ]系	合成ゴムシートを接着、又は機械固定し、その上にポリエステル樹脂を1～2 層塗付ける。	歩行可能床 湿潤下地

補9.7.4　施　　工
（ａ）防水層の下地
（１）防水層の下地は、「共仕]9.2.4(ａ)による。ただし、入隅は直角に、出隅は丸面に仕上げる。
（２）ルーフドレイン、便器、配管等と防水下地材との取合いは、シーリング材で処理する。
（ｂ）プライマー塗りは、「共仕]9.3.4(ｂ)による。
（ｃ）下地の補強
（１）コンクリートの打継ぎ箇所及び著しいひび割れ箇所は、U形にはつり、シーリング材を充填した上、幅100mm以上の補強布を用い、補強塗りを行う。
（２）ルーフドレイン、配管等の取合い、出隅及び入隅は、それぞれ100mm以上を、補強布を用い補強塗りを行う。
（ｄ）防水材塗り
（１）防水材は、製造所の仕様により、可使時間に見合った量及び方法で塗混ぜる。
（２）防水材塗りは、材料に見合った方法で均一に塗付ける。

| | | |

補９節　金属シート防水

補9.8.1　適 用 範 囲
　この節は、建築の屋根、ベランダ、床及び水槽類などに施工する金属シート防水に適用する。

補9.8.2　材　　料
（ａ）ステンレスシートは、JIS G 4305(冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯)のSUS 304又はSUS 316とし、その他の金属シートを含めて、使用材料は、特記による。ステンレスシート板厚は、特記がなければ0.4mmとする。
（ｂ）つり子の材料は、SUS 304又はSUS 316とし、監理者の承認を得る。固定金物は、SUS 304とし、タッピングビス及びセルフドリリングビス類などの切削ねじ込み式固定金物は、SUS 410とする。
（ｃ）落し口は、ドレインに屋根材の平板を一体成形した溶接工法専用の部材とし、材質は防水層と同一とする。
（ｄ）水切り取合い等シーリング材を用いる場合には、特記使用書9.12[シーリング]による。
（ｅ）金属シートの仕上げは、特記による。
（ｆ）下地と金属シートの間に、断熱材あるいは整形のための下葺き材を用いる場合は、特記による。特記がなければ軟質発泡ポリスチレンシート4mm厚とする。
（ｇ）勾配屋根で屋根面がよく見えるもの及び雨音について特に留意する屋根では、軟質発泡ポリスチレンシート4mm厚を全面に敷込みさらに同シート10mm厚をシーム間の空隙に充填する。
（ｈ）下地材は、自走式シーム溶接機が走行可能な強さを有し、作業員が歩行する場合は、その荷重に耐えるものとする。又、母屋及び垂木等の構造材に必要な強度が得られるよう固定する。

補9.8.3　工　　法
（ａ）施工法については、防水施工者の責任施工とし、施工者は工事に先立って工事概要、材料、仕様、剖付け図、納まり詳細等の施工図、施工法、養生方法、安全管理体制及び工程表等を記載した施工計画書を作成し、監理者の承認を得る。
（ｂ）降雨時及び降雪時には溶接作業をしてはならない。又、強風により防水層のばたつき、折れ、及び飛散等が予想される場合には作業をしてはならない。
（ｃ）金属シート面は、常に清掃し、錆の原因となる砂、金属片及び釘等を除去すること。

補１０節　外壁防水

補9.9.1　適 用 範 囲
　この節は、外壁用アクリルゴム防水材をＲＣ壁、ＰＣ壁及びＡＬＣパネル壁を下地とする壁に塗布する工法に適用する。
補9.9.2　工　　程
　工程は補表9.9.1による。

補表9.9.1　外壁防水の工程

工程	材　　料	塗布量kg/㎡	備　　考
1	プライマー塗り	0.2～0.4	PC版0.2、ALC版0.4
2	外壁用アクリルゴム防水材塗り	1.7	
3	模様吹付け	0.5	
4	化粧材塗り	0.3	ｼﾝﾅｰを含まず、2回塗り

注）① ＡＬＣパネルはＡＬＣ用ﾌｨｰラーで目どめを行う。
　　② 成膜後の防水層の厚さは平均1.0mm程度必要とする。

補9.9.3　材　　料
（ａ）塗膜を形成する材料は、JIS A 6021(屋根用塗膜防水材)の規格品とし、固形分が70～75%(重量)のものとする。
（ｂ）プライマー及び化粧材は主材料製造所の指定する製品とする。

補9.9.4　工　　法
（ａ）工法は、主材料製造所の仕様による。
（ｂ）仕上げの種類は、特記による。
（ｃ）工法は吹付けかローラーとし、適用は、特記による。

補9.9.5　保　　証
　外壁防水の施工は、責任施工とし、その保証期間は、特記による。特記がなければ10年間とする。

１０章　石 工 事

補２節　材　　料

補10.2.1　適 用 範 囲
　この節は、「共仕]10.2.1[石材]の石材の表面仕上げに、新たな種類を追加する。ここの規定のないものは、「共仕」表10.2.1[石材の粗面仕上げの種類]による。

補10.2.2　材　　料
　追加した仕上げの種類とその工法は、補表10.2.1により、その適用は、特記による。尚、ジェットポリッシュ仕上げは大理石には適用しない。

補表10.2.1　追加した仕上げの種類と工法

仕上げの種類	仕　上　げ　の　程　度
つつき	荒削りした表面を、一様につつき工具で突いて凹凸を付け、仕上げた状態
こぶたし	石表面にこぶ状の粗い凹凸面を作る仕上げの状態で、原石に最初に施すもの。こぶの大きさで大中小の3種類がある。
げんのうこづき	原石の切り出し面にげんのうで一様に凹凸をつけて仕上げた状態
ｼﾞｪｯﾄﾎﾟﾘｯｼｭ	ジェットバーナー仕上げを終えた石に、化学繊維ポリッシャー又はバフをかけて研磨し、色彩と肌触りを良くして仕上げた状態

補５節　乾式工法

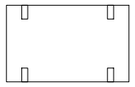
補10.5.1　適 用 範 囲
（ａ）この節に規定のないものは、「共仕」10章１節「一般事項」、2節「材料」、5節「乾式工法」、及び7節「特殊部位の石張り」による。
（ｂ）この節で規定する乾式工法の適用下地は、地震時等の変形量が小さいＲＣ造及びＳＲＣ造のコンクリート壁とし、それ以外の鉄骨下地等に石材を取付ける場合は、特記による。
（ｃ）乾式工法に使用する乾式工法用金物、アンカー及び石材等は、地震力、風圧力及び熱伸縮や躯体の変形等に安全に対応できる機構にするため、各部材等の強度計算を行い、計算書を監理者に提出する。
（ｄ）(ｃ)による耐震性能及び耐風圧性能は、特記による。

補10.5.2　施　　工
（ａ）下地ごしらえ
　（１）ファスナー取付け用アンカーをコンクリートに打込む場合を除いて、あと施工アンカーの埋込み代を確保するためコンクリートの増打ちをする。増打ちの量は、特記による。特記がなければ20mmとする。
　（２）ファスナー取付け用アンカーで、あと施工アンカーをコンクリートに打込む場合は、あと施工アンカー周囲の止水のため合成樹脂を同時に打込む。
　（３）コンクリート面へのあと施工アンカー打込みに際しては、正確に墨出しして、コンクリートの面外方向への傾きがないようグラインダーで平滑に仕上げ、あと施工アンカーの位置を壁面に対して角度が直角に精度良く保てるよう治具を用いる。
　（４）コンクリート面には、打継ぎ目地の他、縦横共約3m以内毎に伸縮調整目地を設け、目地部分にはシーリング材を充填する。シーリング材は特記仕様書9.11[シーリング]による。
（５）下地面の精度
　石材を取付ける下地面の寸法精度の標準値は、補表10.5.1による。

補表10.5.1　部位及び工法ごとの下地面の寸法精度　（単位:mm）

部位＼工法		湿式	乾式	空積	床張り
外　壁		±15	±10	－	－
内　壁		－	±10	±15	－
床		－	－	－	±10
特殊部位	ｱｰﾁ・上げ裏	－	±10	±15	－
	笠石・甲板	±15	±10	±15	±15
	浴室・水廻り	±15	±10	±15	－

（ｂ）取付け金物
（１）取付け金物は、特記による。
　金物は全てステンレス(SUS304)とし、取付け金物は、ルーズホールを持ったステンレスアングル、スレスプレートとステンレスだぼピンからなり、面内外方向の調整が出来るような金物とし、ボルトにて締めつけ後は固定の為に溶接を行う。溶接を行う時は石を養生する。
（２）取付け金物は、1枚の石に対して原則として4個の金物で取付け、内2個の金物は石の荷重を受ける形とする。
（ｃ）石の大きさ、加工
（１）石材の1枚の大きさは図示による。
　図示がなければ1㎡以下とする。
（２）石のだぼ穴及びだぼピン径は、特記による。
　特記がなければ、だぼ穴径は8mm、だぼピン径は6mmとする。
（３）だぼ穴は治具を用いて、位置、径及び垂直度等を精度良く工場で加工する。位置ずれ等で不要な穴が生じた石材は使用してはならない。
（４）固定だぼとルーズだぼの位置は下図を標準とする。



（５）固定だぼはエポキシ樹脂で固定する。
　ルーズだぼは、だぼの周囲にネオプレーンゴムチューブ(厚さ1.5mm)を差込む。
（６）石裏周囲には石材の破損による落下防止を目的として、ＦＲＰを張つけるなどの処理を講ずる。
（ｄ）石裏の結露対策として、壁面の頂部と下部に30φ程度の穴を3m内外に設ける。頂部の通気孔は雨仕舞いに注意し、下部の通気孔には排水処理を施す。
（ｅ）目地
（１）石張りの目地幅は、特記による。特記がなければ8mmとしシーリング材を充填する。空目地の場合は、特記による。
（ｆ）その他の工法は、湿式工法に準ずる。

補８節　石先付けプレキャストコンクリート工法

補10.8.1　適 用 範 囲
　石材を仕上げ材として先付けされたプレキャストコンクリートで施工する工事に適用する。

補10.8.2　部 材 性 能
　石先付けプレキャストコンクリート部材の性能は、特記仕様書17章[カーテンウォール]及び補17.1.3[性能]、補17.3[ＰＣカーテンウォール]に定められた要求性能を満足するものとする。

補10.8.3　材　　料
（ａ）石材
（１）種類
　石材の種類・表面仕上げは、JASS9.2.1[石材]及び[共仕]表10.2.1、表10.2.2によりその適用は、特記による。特記のない場合の外装用の石材は花こう岩とする。
（２）寸法・形状
　（ｉ）石材の厚さは25mm以下とする。
　（ⅱ）石材の形状は、矩形を標準とし、寸法は石材1枚の面積を0.8㎡以下とする。
（ｂ）定着用金物
　石先付けプレキャストコンクリート工法に用いる金物の材質は、すべてステンレス(SUS304)とする。
（ｃ）その他の材料
　「共仕]10.2.3[その他の材料]による。但し、シーリングに関しては、特記仕様書9.12[シーリング]による。

補10.8.4　製　　作
（ａ）定着金物
（１）必要数量の算出
　荷重としては負の風圧力の3倍以上の値をとり、定着金物の短期の許容応力が試験で得られた最大耐力の2/3以下の値をとる。
（２）定着金物の配置
　石材を固定する定着金物のうち、石材周囲の小口に挿入するかすがい(3.2～4φ)、裏面の各所に配置するシャーコネクター(3.2～4φ)及び裏面の中央部などに重点的に配置するあと施工アンカー(6φ)等は、石材の自重及び外力等を考慮して、十分に安全な数量を適正に配置する。この際、石材とコンクリートの付着強度は期待しないものとする。
（ｂ）裏面処理
　石材とコンクリートの界面が剥離して、水が浸入し、濡れ現象を呈するおそれがある石材には、適切な裏面処理を石材の敷込み前に行う。
（ｃ）石材の敷込み
　石材の敷込みは、石創付図に基づいて石材を損傷させないように敷込む。
（ｄ）ＰＣ版
　ＰＣ版は、「共仕」17章3節[ＰＣカーテンウォール]及び「補仕」17章補3節[ＰＣカーテンウォール]による。

１１章　タイル工事

補３節　陶磁器質タイル張り

補11.3.1　施　　工
（ａ）この項は、床タイル張りの工法を追加補充するもので、ここに規定する以外は「共仕」11.2.7(ｂ)[床タイル張り]による。
（ｂ）床タイル張り工法は、圧着張り、敷モルタル張り及び下地モルタル張りとし、車両等の重量物の通行する場所は圧着張り、大形床タイル及び張付け面積の小さいその他のタイルの場合は敷モルタル張りとする。一般床タイル及びユニットタイルを大面積に張る場合は、下地モルタル張りを基準とし、その適用は、特記による。

補４節　長期性能保証制度

補11.4.1　長期性能保証制度
（ａ）この項は、壁面・床面タイル張りにおける長期性能保障制度を追加するもので、適用は「特記仕様書11章タイル工事]による。
（ｂ）保証約款は建専連長期性能保証制度保証約款（社団法人全国タイル業協会用）による。
（ｃ）保証期間は補表11.4.1に、タイル張り工法は補表11.4.2による。

補表11.4.1　保証期間

保証対象部位	保証期間	保証性能基準
壁　面	10年	タイル・石・擬石等の剥離または剥落が発生してはいけない。
床　面	10年	タイル・石・擬石等の剥離が発生してはいけない。

補表11.4.2　タイル張り工法

区分	剥離防止工法											
工法	外装タイル有機系接着剤張り							ベースネット工法	インターネット工法	ループボンドﾈｯﾄﾜｲﾔｰﾝｸﾞ工法	ネットクロスユニット工法
躯体処理	躯体表面のレータンス、脆弱材付着物の除去	超高圧水洗浄	高圧水洗浄	サンダー掛け後水洗い	MCR工法			各工法の指定の処理方法			
適用下地	コンクリート(直張り)	左官モルタル			ＡＬＣパネル	押出成形セメント板(フラットパネル)	コンクリート（直張り）ＡＬＣパネル			コンクリート（直張り）ＡＬＣパネル押出成形セメント板	
下地精度	3mm/1m										
不陸調整	下地精度の基準を満たさない場合に行う	（社）全国タイル業協会およびその会員である施工業者の指定する材料・工法・仕様による施工				下地精度の基準を満たさない場合に行う		各工法の指定施工要領による			
不陸調整材料	ＪＩＳＡ６９１６建築用下地調整塗材等各品					ＪＩＳＡ６９１６建築用下地調整塗材等各品					
吸水調整											
材　料	タイル・接着剤 ： Ｑ－ＣＡＴ認定品官モルタル										
施工方法	（社）全国タイル業協会の指定する接着剤張り仕様による施工										
保証対象部位	壁　面										
保証性能基準	・タイルの剥離（1箇所0.25㎡以上）が、発生してはならない。 ・タイルの剥落が発生してはならない。										

区分	在来工法							パネル工法
工法	直張り				左官下地面へのタイル張り			パネルへの施工
躯体処理	超高圧水洗浄	高圧水洗浄	サンダー掛け後水洗い	MCR工法	超高圧水洗浄	高圧水洗浄	サンダー掛け後水洗い	MCR工法	
適用下地	コンクリート（直張り）				左官モルタル				ＡＬＣパネル 押出成形セメント板 （ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ）
下地精度	6mm/2m								
不陸調整	下地精度の基準を満たさない場合に行う				（社）全国タイル業協会およびその会員である施工業者の指定する材料・工法・仕様による施工				下地精度の基準を満たさない場合に行う
不陸調整材料	ＪＩＳＡ６９１６建築用下地調整塗材適合品								ＪＩＳＡ６９１６建築用下地調整塗材適合品
吸水調整	不陸調整箇所は、吸水調整剤を塗布（製造業者の指定方法）				モルタル下地面は吸水調整剤を塗布（製造業者の指定方法）				吸水調整剤を塗布（製造業者の指定方法）
材　料	JISA6916(建築用下地調整塗材)に規定する試験用タイル張付け用モルタル				（社）全国タイル業協会の指定する接着剤張り仕様による施工 公共建築工事標準仕様書第１１章タイル工事に定める仕様による施工 （社）日本建築学会建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ１９　陶磁器質タイル工事に定める仕様による施工				JISA6916（建築用下地調整塗材）に規定する試験用タイル張付け用モルタル
施工方法	（社）日本建築学会建築工事標準仕様書JASS19陶磁器質タイル工事に定める仕様による施工								（社）日本建築学会建築工事標準仕様書JASS19陶磁器質タイル工事に定める仕様による施工
保証対象部位	壁　面								
保証性能基準	・タイルの剥離（1箇所0.25㎡以上）が、発生してはならない。 ・タイルの剥落が発生してはならない。								

１４章　金 属 工 事

補２節　表面処理

補14.2.1　ステンレスの表面仕上げ
　この項は「共仕」14.2.1[ステンレスの表面仕上げ]として、JIS G 4305(冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯)によることになっているが、更にＡＩＳＩ(アメリカ鉄鋼協会規格)No.6,7,8の仕上げを追加する。

補９節　焼付け塗装

補14.9.1　適　用　範　囲
　この項は、金属工事のうち、各種金属の表面に工場で行われる焼付け塗装に適用する。但し、塗装鋼板[JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)、JIS G 3320(塗装ステンレス鋼板)]及びJIS H 4001(アルミニウム及びアルミニウム合金の塗装板及び条)は適用範囲外とする。

補14.9.2　素地ごしらえ
（ａ）亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえは「共仕」18.2.4の表18.2.3[亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ]のＡ種による。
（ｂ）ステンレス面の素地ごしらえは、補18.10.6(ｃ)の補表18.10.1[ステンレス面の素地ごしらえ]による。
（ｃ）アルミニウム面の素地ごしらえは、補18.10.6(ｄ)の補表18.10.2[アルミニウム面の素地ごしらえ]による。

補14.9.3　焼付形アクリル樹脂エナメル塗り（B-AE）
（ａ）この項は、金属系素地面における、耐候性及び美装性を目的とする箇所に用いる焼付形アクリル樹脂エナメル塗りに適用する。
（ｂ）焼付形アクリル樹脂エナメル塗り(ソリッドカラー)は補表14.9.1及び、補表14.9.2により、素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.1　亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の焼付形アクリル樹脂 エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm	
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による。	－	－
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による。		
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15
2	焼付け	170℃　15分	－	－
3	上塗り	焼付形アクリル樹脂エナメル	25～35	25～35
4	焼付け	170℃　15分	－	－
合計膜厚			40以上	35以上

補表14.9.2　アルミニウム面の焼付形アクリル樹脂エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm
素地ごしらえ		補表18.10.2による。	－
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20
2	上塗り	焼付形アクリル樹脂エナメル	25～35
3	焼付け	170℃　15分	－
合計膜厚			30以上

（ｃ）焼付形アクリル樹脂エナメル塗り(メタリックカラー)は補表14.9.3により、素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.3　亜鉛めっき鋼面、ステンレス面及びアルミニウム面の焼付形アクリル樹脂 エナメル塗り（メタリックカラー）

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm		
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面	アルミニウム面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による	－	－	－
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による			
		ｱﾙﾐﾆｳﾑ面:補表18.10.2による			
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15	10～15
2	中塗り	焼付形アクリル樹脂エナメル	20～25	20～25	20～25
3	焼付け	170℃　15分	－	－	－
4	上塗り	焼付形ｱｸﾘﾙ樹脂ｴﾅﾒﾙ･ﾒﾀﾘｯｸｺｰﾄ	25～35	25～35	25～35
5	焼付け	170℃　15分	－	－	－
合計膜厚			55以上	50以上	45以上

（ｄ）工法その他は、次による。
（１）裏面コートは原則として下塗りプライマーと同種塗料とし、1コート、1ベーク10μm以上とする。
（２）亜鉛鋼板の溶接部分はサンダー等の研磨後、熔融亜鉛系化成処理の上、ジンクリッチペイント20μm以上（強制乾燥の場合60～80℃20分間）を施す。
（３）焼付け温度は被塗装物の温度とし、又焼付け時間はキープ時間とする。

補14.9.4　焼付形1液ウレタン樹脂エナメル塗り（B-UE）
（ａ）この項は金属系素地面における、耐候性及び美装性を目的とする箇所に用いる焼付形１液ウレタン樹脂エナメル塗りに適用する。
（ｂ）焼付形１液ウレタン樹脂エナメル塗り(ソリッドカラー)は、補表14.9.4により、素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.4　亜鉛めっき鋼面、ステンレス面、アルミニウム面の焼付形1液ウレタン樹脂

エナメル塗り（ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ）

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm		
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面	アルミニウム面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による	－	－	－
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による			
		ｱﾙﾐﾆｳﾑ面:補表18.10.2による			
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15	5～10
2	上塗り1回目	焼付形1液ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	15～20	15～20	15～20
3	焼付け	170℃　15分	－	－	－
4	上塗り2回目	焼付形1液ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	20～25	20～25	20～25
5	焼付け	170℃　15分	－	－	－
合計膜厚			50以上	45以上	40以上

（ｃ）焼付形1液ウレタン樹脂エナメル塗り(メタリックカラー)は、補表14.9.5により素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.5　亜鉛めっき鋼面、ステンレス面及びアルミニウム面の焼付形1液ウレタン樹脂

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm		
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面	アルミニウム面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による	－	－	－
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による			
		ｱﾙﾐﾆｳﾑ面:補表18.10.2による			
1	下塗り	焼付形エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15	5～10
2	中塗り	焼付形1液ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	20～25	20～25	20～25
3	焼付け	170℃　15分	－	－	－
4	上塗り	焼付形1液ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	20～30	20～30	20～30
5	焼付け	170℃　15分	－	－	－
合計膜厚			55以上	50以上	45以上

（ｄ）工法その他は、補14.9.3(ｄ)による。

補14.9.5　中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り（B-FE（F））
（ａ）この項は、特に長期の耐候性、耐久性及び美装性を目的とする箇所に用いる中温焼付け形ふっ素樹脂エナメル塗り[フルオロオレフィン・ビニルエーテル共重合体(ＦＥＶＥ)]に適用する。
（ｂ）中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ソリッドカラー)は補表14.9.6、補表14.9.7及び補表14.9.8により、素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.6　亜鉛めっき鋼面の中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による	－
1	下塗り	中温焼付形エポキシ樹脂系プライマー	15～20
2	焼付け	170℃　15分	－
3	上塗り1回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	15～20
4	焼付け	170℃　15分	－
5	上塗り2回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	20～25
6	焼付け	170℃　15分	－
合計膜厚			50以上

補表14.9.7　ステンレス面の中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm
素地ごしらえ		ステンレス面:補表18.10.1による	－
1	下塗り	中温焼付形エポキシ樹脂系プライマー	10～15
2	上塗り1回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	15～20
3	焼付け	170℃　15分	－
4	上塗り2回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	20～25
5	焼付け	170℃　15分	－
合計膜厚			45以上

補表14.9.8　アルミニウム面の中温焼付形ふっ素 樹脂エナメル塗り(ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm
素地ごしらえ		補表18.10.2による	－
1	下塗り	中温焼付形エポキシ樹脂系プライマー	5～10
2	上塗り1回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	15～20
3	焼付け	170℃　15分	－
4	上塗り2回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	20～25
5	焼付け	170℃　15分	－
合計膜厚			40以上

（ｃ）中温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(メタリックカラー)は補表14.9.9により、素地種別の適用は特記による。

補表14.9.9　亜鉛めっき鋼面、ステンレス面及びアルミニウム面の中温焼付形ふっ素樹脂
エナメル塗り(ﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ)

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm		
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面	アルミニウム面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表17.2.3のＡ種による			
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表17.10.1による	—	—	—
		ｱﾙﾐﾆｳﾑ面:補表17.10.2による			
1	下塗り	中温焼付形エポキシ樹脂系プライマー	15～20	10～15	5～10
2	中塗り	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙ	20～25	20～25	20～25
3	焼付け	170℃　15分	—	—	—
4	上塗り 1回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	20～25	20～25	20～25
5	焼付け	170℃　15分	—	—	—
6	上塗り 2回目	中温焼付形1液ふっ素樹脂 ｸﾘﾔｰﾄｯﾌﾟｺｰﾄ	20～25	20～25	20～25
7	焼付け	170℃　15分	—	—	—
合計膜厚			75以上	70以上	65以上

（ｄ）中塗り及び上塗りに用いるふっ素樹脂塗料は、フルオロオレフィン、ビニルエーテル共重合体樹脂(ＦＥＶＥ)の熱溶融形塗料とし、三ふっ化モノマー配合とする。中塗り及び上塗り塗料樹脂分中のフルオロオレフィン、ビニルエーテル共重合体樹脂は、100%配合されていること。
（ｅ）工法その他は、次による。
（１）塗料の調合は、次による。
（ｉ）熟成時間や可使時間は製造所の指定による。
（ⅱ）シンナーは塗料製造所の指定する製品による。
（２）塗料の方法は原則としてスプレー式により、塗装ライン前処理と連続レクリーンボックスを有すること。
（３）裏面コートは原則として下塗りプライマーと同種塗料とし、１コート、１ベーク10μm以上とする。
（４）ふっ素樹脂焼付塗装工場は、塗料製造所の承認する工場とする。
（５）被塗装物である亜鉛鋼板は亜鉛付着量Ｚ－27(19μm)相当以上のノンスパングルとし、クロメート処理品は不可とする。
（６）亜鉛鋼板の溶接部分はショットブラストの上、亜鉛メタリコン70μm以上とし、燐酸亜鉛系化成処理または、エポキシ系ジンクリッチプライマー70μm(強制乾燥の場合60～80℃20分間)とする。
（７）焼付け温度は被塗装物の温度とし、又焼付け時間はキープ時間とする。

補14.9.6　高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り（Ｂ-ＦＥ（Ｐ））
（ａ）この項は、特に長期の耐候性、耐久性及び美装性を目的とする箇所に用いる高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り[ポリフッ化ビニリデン系(ＰＦＶｄ)]に適用する。
（ｂ）高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(ソリッドカラー)は補表14.9.10及び補表14.9.11により、素地種別の適用は、特記による。

補表14.9.10　亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り（ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ）

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm	
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3のＡ種による。	—	—
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による。		
1	下塗り	高温焼付形ふっ素樹脂含有エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15
2	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
3	上塗り	高温焼付形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	25～35	25～35
4	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
合計膜厚			40以上	35以上

補表14.9.11　アルミニウム面の高温焼付形ふっ素樹脂 エナメル塗り（ｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ）

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm
素地ごしらえ		補表18.10.2による	—
1	下塗り	高温焼付形ふっ素樹脂含有エポキシ樹脂プライマー	5～10
2	上塗り	高温焼付形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙｿﾘｯﾄﾞｶﾗｰ	25～35
3	焼付け	232～242℃　5～10分	—
合計膜厚			30以上

（ｃ）高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り(メタリックカラー)は補表14.9.12及び補表14.9.13により、素地種別の適用は特記による。

補表14.9.12　亜鉛めっき鋼面及びステンレス面の高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り（ﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ）

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm	
			亜鉛めっき鋼面	ステンレス面
素地ごしらえ		亜鉛めっき鋼面:「共仕」表18.2.3の　Ａ種による	—	—
		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.1による。		
1	下塗り	高温焼付形ふっ素樹脂含有エポキシ樹脂プライマー	15～20	10～15
2	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
3	上塗り 1回目	高温焼付形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ	25～35	25～35
4	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
5	上塗り 2回目	高温焼付形ふっ素樹脂ｸﾘﾔｰﾄｯﾌﾟｺｰﾄ	10～15	10～15
6	焼付け	232～242℃　5～10分	—	—
合計膜厚			50以上	45以上

補表14.9.13　アルミニウム面の高温焼付形ふっ素樹脂エナメル塗り（ﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ）

工　程		塗　料その他	乾燥膜厚 μm
素地ごしらえ		ｽﾃﾝﾚｽ面:補表18.10.2による	—
1	下塗り	高温焼付形ふっ素樹脂含有エポキシ樹脂プライマー	5～10
2	上塗り 1回目	高温焼付形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙﾒﾀﾘｯｸｶﾗｰ	25～35
3	焼付け	232～242℃　5～10分	—
4	上塗り 2回目	高温焼付形ふっ素樹脂ｸﾘﾔｰﾄｯﾌﾟｺｰﾄ	10～15
5	焼付け	232～242℃　5～10分	—
合計膜厚			40以上

（ｄ）上塗りに用いるふっ素樹脂塗料は、ポリフッ化ビニリデン樹脂(ＰＦＶd)の熱溶融形塗料とし、カイナー500配合とする。上塗り塗料樹脂分中のポリフッ化ビニリデン樹脂は、100%配合されていること。
（ｅ）工法その他は、次による。
（１）塗料の調合は、次による。
（ｉ）熟成時間や可使時間は製造所の指定による。
（ⅱ）シンナーは塗料製造所の指定する製品による。
（２）塗装の方法は原則としてスプレー式により、塗装ラインは前処理と連続レクリーンボックスを有すること。
（３）裏面コートは原則として下塗りプライマーと同種塗料とし、1コート、1ベーク10μm以上とする。
（４）ふっ素樹脂焼付塗装工場は、塗装製造所の承認する工場とする。
（５）被塗装物である亜鉛鋼板は亜鉛付着量Ｚ－27(19μm)相当以上のノンスパングルとし、クロメート処理品は不可とする。
（６）亜鉛鋼板の溶接部分はショットブラストの上、亜鉛メタリコン70μm以上とし、燐酸亜鉛系化成処理または、エポキシ系ジンクリッチプライマー70μm(強制乾燥の場合60～80℃20分間)とする。
（７）焼付け温度は被塗装物の温度とし、又焼付け時間はキープ時間とする。
（８）現場タッチアップは、Ｂ-ＦＥ(Ｐ)のホットエアーガン焼付又はＦＵＥないし、ふっ素系ＡＤＳ樹脂塗料とする。

補14.9.7　検　　査
（ａ）仕上り塗装の性能は、補表14.9.14による。

補表14.9.14　仕上り塗膜の性能

試験項目	焼付形 ｱｸﾘﾙ樹脂ｴﾅﾒﾙ	焼付形 1液ｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ	ふっ素樹脂エナメル 高温焼付形	 中温焼付形	試験項目
光　沢(ｸﾞﾛｽ)	80～30	90～30	25～35	80～30	60度鏡面 反射率
鉛筆硬度	H～2H	H～2H	H～2H	H～2H	三菱ユニ JIS K 5400
ｺﾞﾊﾞﾝ目 ﾃｰﾌﾟﾃｽﾄ	100/100	100/100	100/100	100/100	1 mm間隔 JIS K 5400
耐衝撃性	異常なし (0.5kg ×50cm)	異常なし (0.5kg ×50cm)	異常なし (1.0kg ×50cm)	異常なし (0.5kg ×50cm)	デュポン 式1/2φ
耐摩耗性	—	—	40mg以下	40mg以下	ﾃｰﾊﾞｰ CS-17 1000回転の損失量
耐 ソ ル ト ｽﾌﾟﾚｰ 性	1mm以内 (2,000H)	1mm以内 (2,000H)	1.5mm 以下 (3,000H)	1.5mm 以下 (3,000H)	JIS Z 2371
耐湿性	—	—	異常なし	異常なし	38℃×98%PH 3,000H
耐酸性	異常なし (5%× 500H)	異常なし (5%× 500H)	異常なし (10%× 1ヶ月)	異常なし (5%× 1ヶ月)	硫酸20℃
耐ｱﾙｶﾘ性	異常なし (5%× 120H)	異常なし (5%× 120H)	異常なし (10%× 1ヶ月)	異常なし (5%× 1ヶ月)	苛性ｿｰﾀﾞ20℃
耐ﾓﾙﾀﾙ性	—	—	異常なし	異常なし	耐湿試験 24H後 ﾓﾙﾀﾙ 塗布
耐洗剤性	—	—	異常なし	異常なし	「ﾎﾟﾌﾟﾗ」1% 水溶液 に72H浸漬 20℃
促進耐候性	70%以上 (750H)	90%以上 (1,000H)	90%以上 (4,000H)	90%以上 (4,000H)	ｻﾝｼｬｲﾝ ｳｪｻﾞｰﾒｰﾀ
天然暴露性	ﾁｮｰｷﾝｸﾞ	—	—	ASTM 8以上	—	ﾌﾛﾘﾀﾞ南面 45度 暴露5年
	色差	—	—	5以下	—	

注）（　）内Ｈは時間を表す

（ｂ）仕上り塗装の性能試験及び検査は次により、試験を行う場合は特記による。特記なき場合は塗料製造所による品質を証明する資料を提出し、監理者の承認を受ける。
（１）検査機関は公的試験所とする。但し監理者が認めた場合は、監理者の承認した試験所とすることが出来る。
（２）塗装の種別は、アルミニウム素地面の補14.9.3、補14.9.4、補14.9.5、及び補14.9.6の各塗装とし、各塗料の塗装系は、標準仕様による。
（３）検査項目は補表14.9.14の試験項目による。
（４）検査結果は報告書にまとめて監理者に提出する

補１０節　ステンレス鋼板の曲げ加工

補14.10.1　ステンレス鋼板の曲げ加工
（ａ）ステンレス鋼板の曲げ加工の適用は特記による。
特記がなければ普通曲げとし、角出し曲げは補表14.10.1による。

補表14.10.1　ステンレス鋼板の角出し曲げ加工の種類

区　分	残板厚　(mm)	備　　考
Ａ　角	0.3　～　0.5	変形の恐れが少ない化粧材
Ｂ　角	0.7	板厚　1.5mm　以上
Ｃ　角	1.0	板厚　1.5mm　以上

（ｂ）補強板等は、「共仕」16.3.3(ａ)(１)の表面処理亜鉛めっき鋼板又は亜鉛めっきを行ったものとし、補強板厚は A 角はステンレス鋼板厚と同等以上とし、Ｂ角及びＣ角は1.6mm以上とする。
（ｃ）補強板等は、「共仕」表18.2.3[亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ]の処理を行った上に、JIS K 5629C(鉛酸カルシウム錆止めペイント)を2回塗布する。

補１１節　エキスパンションジョイント(EXP.J)

補14.11.1　安全機構の設置
ａ）壁、天井、屋根：脱落防止ワイヤー等を設け、EXP.Jカバー金物に損傷が生じた場合に脱落、飛散の防止策を施し、人的被害を生じないように配慮する。(製造所のオプション)
ｂ）床：跳ね上がり、挟み込み、欠損による落下等の人的被害を生じないように配慮する。(製造所オプション)
補14.11.2　構造クリアランスと可動量の確認
ａ）床、壁、天井、屋根のEXP.Jカバーの製作図は、Ｘ・Ｙ方向共に（可動量±0・－最大・＋最大）作成し、構造クリアランスと可動量を確認の上、監理者の承認を得ること。

１５章　左官工事

補８節　薄塗り工法

補15.8.1　適　用　範　囲
この節は、セメント及び無機質系微細骨材を主原料とし、主として内外装仕上げ工事の下地調整に使用する、セメント系下地調整塗材及び合成樹脂エマルションプラスターを、塗り厚10mm以下に塗付ける工事(以下薄塗り工法という)に適用する。但し、合成樹脂エマルションプラスターは内部に使用する。

補表15.8.1　薄塗り工法の種別

種　別	摘　　要	塗　り　厚
Ａ　種	プレミックスセメントペースト	3mm以下
Ｂ　種	プレミックスセメントモルタル	3～10mm
Ｃ　種	合成樹脂エマルションプラスター	3～5mm

補15.8.2　工　法　の　種　別
薄塗り工法の種別は補表15.8.1により、適用は特記による。

補15.8.3　材　　料
（ａ）セメント系下地調整塗材(ﾌﾟﾚﾐｯｸｽｾﾒﾝﾄﾍﾟｰｽﾄ及びﾌﾟﾚﾐｯｸｽｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ)
（１）セメントはJIS R 5210(ポルトランドセメント)に準ずる。
（２）骨材は、JIS A 1102(骨材のふるい分け試験方法)に規定する網ふるい0.6mmをほぼ通過する程度の、硅砂又は寒水砂などとする。
（３）混和液はセメント混和用ポリマーディスパージョンを主成分とし、セメント混和用ポリマーディスパージョンはJIS A 6203(セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂)に適合するものとし、スチレンブタジエン系、アクリル系及びエチレン酢酸ビニル系共重合体とする。
（４）調合割合及び混練り方法は、製造所の仕様による。
（５）品質はJIS A 6916(仕上塗材用下地調整塗材)に規定する品質に適合するものとする。
（ｂ）合成樹脂エマルションプラスター
（１）種類は補表15.8.2により、適用は特記による。

補表15.8.2　合成樹脂エマルションプラスターの種類

種　類	摘　　要
１　種	アクリルエマルション系
２　種	エチレン酢酸ビニル系
３　種	酢酸ビニルエマルション系

（２）材料、調 合は製造所の仕様による。

補15.8.4　工　　法
（ａ）プレミックスセメントペースト

補表15.8.3　プレミックスセメントペースト塗り

工　程	塗　り　厚	塗り回数
1　シーラー塗り	0.1 ～ 0.2kg/㎡	1 ～ 2
2　ペースト塗り	1 ～ 3mm	1 ～ 2
注)製造所の仕様により、シーラー塗りを省略する場合には温度、湿度の条件を検討の上、 付着強度を確認すること。		

（ｂ）プレミックスセメントモルタル

補表15.8.4　プレミックスセメントモルタル塗り

工　程	塗　り　厚	塗り回数
1　シーラー塗り	0.1 ～ 0.2kg/㎡	1 ～ 2
2　ペースト塗り	3 ～ 10mm	1 ～ 2
注)製造所の仕様により、シーラー塗りを省略する場合には温度、湿度の条件を検討の上、付着強度を確認すること 。		

（ｃ）合成樹脂エマルションプラスター
（１）コンクリート下地等

補表15.8.5　コンクリート下地等の合成樹脂エマルションプラスター塗り

工　程	材　料	所要量(kg/㎡)	塗り回数
1　シーラー塗り	シーラー	0.1 ～ 0.25	1 ～ 2
2　下塗り	厚付け用	0.5 ～ 5	1 ～ 2
3　研磨紙ずり	#180～240	—	—
4　上塗り	薄付け用	1 ～ 2	1 ～ 2
注)下地となる場合は、厚付け用で仕上げてもよい。			

（２）ＡＬＣパネル下地

補表15.8.6　ＡＬＣパネル下地の合成樹脂エマルションプラスター塗り

工　程	材　料	所要量(kg/㎡)	塗り回数
1　シーラー塗り	シーラー	0.1 ～ 0.25	1 ～ 2
2　目地塗り	厚付け用	—	1
3　下塗り	厚付け用	1.0 ～ 1.2	—
4　研磨紙ずり	#180～240	—	1 ～ 2
5　中塗り	#180～240	1.0 ～ 1.2	1
6　上塗り	薄付け用	0.5 ～ 1.0	1

補15.8.5　仕上がり精度
仕上りの精度は補表15.8.7による。

補表15.8.7　仕上り精度

コンクリートの部位	平　た　ん　さ
外壁(仕上塗材仕上げ等)	3mにつき10mm以下
外壁(塗装仕上げ等)	3mにつき7mm以下
内壁	3mにつき7mm以下

１６章　建具工事

補７節　建具用金物

補16.7.1　鍵
鍵は3本一組とし、室名または建具位置を示す札を付け、目録書及び縮小版平面図による鍵のキープランを添え、一括して鍵箱に収納して引き渡す。必要により設備関係、操作ボックス関係の鍵類も併せて収納する。鍵箱は鍵の個数に相応した鋼製の既製品とする。

補１３節　防災建具

補16.13.1　適　用　範　囲
この節は、防災建具のうち、可動式防煙たれ壁に適用する。

補16.13.2　方　　式
可動式防煙たれ壁の方式は、鉛直降下式、回転式及びロール式とし、その適用は、特記による。

補16.13.3　材　　料
（ａ）防煙たれ壁本体は、鋼板、ガラスクロス塩化ビニル皮膜(不燃認定品)及びアルミニウム板の何れかとし、適用は、特記による。
（ｂ）ガイドレール、座板及びまぐさの材料は、ステンレス、アルミニウム及び鋼板の何れかとし、適用は、特記による。

補16.13.4　機　　構
（ａ）降下
急激に落下しないよう、ステイダンパー、ガバナー及びバランスウェイト等の緩衝装置を設け、降下後は圧力差2kgf/㎡において鉛直に保持すること。又、レールは固定とするが、可動の場合は、特記による。
（ｂ）開閉
（１）煙感知器の信号を受けて自動的に降下する。
（２）手動操作ボックスを設け、手動降下可能な機構とし、復旧は手動によるものとするが、電動の場合は、特記による。尚、何れの場合も取扱い方法を明示する。

１７章　カーテンウォール工事

補１節　一般事項

補17.1.1　適　用　範　囲
本章は、金属、ＰＣコンクリート(繊維補強セメント・コンクリート複合材を含む)及びガラスを主体としたカーテンウォール工事に適用する。本章に記載又は、特記ある事項以外は、「共仕」17章[カーテンウォール工事]による。
但し、「図示」、「共仕」、「補仕」及び特記仕様書に記載のない事項については次に準拠する。
（１）建築基準法、その他関係法令
（２）消防関連法令
（３）日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説」各章
（４）日本建築学会諸計算規準
（５）日本建築学会「非構造部材の耐震設計指針」

補17.1.3　性　　能
（ａ）耐風圧性能
（１）設計風圧力は、特記による。特記がなければ、建築基準法施行令82条の5、建設省告示第1458号により算定した数値以上とする。
（２）たわみ量は、支点間距離が4.0m以下の場合は次による。
（ｉ）メタルカーテンウォールでは、1/150以下かつ20mm以下とする。
（ⅱ）ＰＣカーテンウォールでは、1/600以下とする。
（３）支点間距離が4.0mを超える場合のたわみ量は、特記による。
（ｂ）層間変位追従性能及び耐震性能
（１）層間変位追従性能は、特記による。特記がなければ次による。
（ｉ）いっさいの補修なしに継続使用出来る限界は±H/300(H：階高)
（ⅱ）カーテンウォール部材に破損、脱落、及び残留変形の何れも起こらず、シーリング材の補修のみで継続使用出来る限界は±H/200
（ⅲ）カーテンウォールの部材に破損及び脱落が起こらない限界は±H/100
（２）耐震性能について、設計震度(K)は、水平方向はＫH＝1.0及び鉛直方向はＫv＝0.5とする。この震度に対する損傷の度合いはカーテンウォールの部材に破損、脱落及び残留変形が起こらず、シーリング材の補修のみで継続使用できるものとする。
（ｃ）水密性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ　　P:耐風圧性能に用いた最大正圧値(Pa)

性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1(低層)	2(低層)	3(31m市街地)	4(31m～60m,沿岸)	5(60m超)
FIX部 (圧力差Pa)	975未満	975	1500	Ｐ×0.5かつ 最低値1500	Ｐ×0.75かつ 最低値2250
可動部 (圧力差Pa)	525未満	525	750	1000	1500

＊可動部/FIX部

（ｄ）気密性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ

性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1(通常空調)	2(市街地・高層)	3(強風・超高層)	4
等級 (等級線) 通気量：圧力差10Pa	JIS等級A-3 (A－3等級線) 8(㎥/h・㎡)	JIS等級A-4 (A－4等級線) 2(㎥/h・㎡)	0.5等級 (0.5等級線) 0.5(㎥/h・㎡)	左記以外 特記 ・(㎥/h・㎡)

＊FIX部のみで構成の場合は気密性能は特記する。

（ｅ）耐火性能
（１）耐火性能は、建築基準法施行令第107条に基づく所定の耐火時間で、延焼の恐れのある部分では1時間とし、それ以外の部分では30分とする
（２）合成耐火構造と防火区画は、特記による。
（ｆ）耐温度差性能(熱安定性能)
（１）耐温度差性能は、ジョイント部や表面仕上げを含むカーテンウォール各部分及び構造体側の取付け部に破損及び有害な変形が発生しない限界の部材温度差で表示する。
（２）部材温度差は特記がなければ次による。
（ｉ）直射日光の当たる暗色の金属材の場合は80℃とする。
（ⅱ）直射日光の当たる明色の金属材の場合は70℃とする。
（ⅲ）その他の部材の場合は60℃とする。
（ｇ）遮音性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ

性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1（一般的）	2(市街地)	3(性能重視)	4(特殊構造)
等級	JIS等級T-1	JIS等級T-2	JIS等級T-3	JIS等級T-4
(等級線)	(T-1等級線)	(T-2等級線)	(T-3等級線)	(T-4等級線)
500Hz（db）	25	30	35	40

（ｈ）断熱性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ

性能ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1	2	3(暖冷房重視)	4(暖冷房重視)	5(寒冷地)
等級	JIS等級H-1	JIS等級H-2	JIS等級H-3	JIS等級H-4	JIS等級H-5
(熱還流抵抗 ㎡・K/W)	(0.215以上)	(0.246以上)	(0.287以上)	(0.344以上)	(0.430以上)

（１）耐久性能等その他の性能
（１）カーテンウォールは、通常の清掃及び保守を行うことにより、所要の性能を保持する耐久性能を有するものとする。
（２）異種金属等接触による腐食が生じ、美観その他の性能に欠陥を生じることのないものとする。

補17.1.4　技　術　検　討　会
カーテンウォールの詳細設計、性能試験、製作及び施工の技術的検討を行なうために、設計監理者及び施工者(受注者及びカーテンウォール関連の施工者（ガラス取付け施工者、シーリング施工者等を含む）)の技術者から成る技術検討会を設置する。

補17.1.5　見　　本
（ａ）実物大見本及び模型の製作は、特記による。
（ｂ）各種材料は、見本品を提出し監理者の承認を受け、必要に応じ品質証明書を提出する。
（ｃ）各部材の組立て試験を行う場合は、特記による。試験体は、監理者の承認を受けて、本工事に使用することが出来る。

補17.1.6　実　大　試　験
（ａ）実大試験を行う場合は、特記による。
（ｂ）実大試験を行う範囲及び規模は、特記による。
（ｃ）ガラスは、実際に使用するガラスと同種の強化ガラスとする。
補17.1.7　性　能　試　験
性能試験を行う項目は、特記による。
（ａ）試験荷重条件
試験に用いる数値は設計図書に基づくものとし、試験の方法等についてはＪＣＭＡ(日本カーテンウォール工業会)制定のカーテンウォール性能試験要領その他関係ＪＩＳの基準に準ずるものとする。
（ｂ）試験計画書
試験に先立ち、試験計画書を作成し、監理者の承認を受ける。
（ｃ）試験結果報告
（１）供試体の製作、取付け及び試験工程の中間で試験の進捗状況の検査記録書を作成し監理者の検査を受ける。
（２）試験終了後、速やかに試験結果報告書を監理者に提出する。
（３）試験結果に欠陥があった場合には、原因を究明するとともに対策を監理者と協議して定める。

補２節　メタルカーテンウォール

補17.2.1　適　用　範　囲
この節は、主要構成部材に金属系材料を用いたメタルカーテンウォールの各部に適用する。この節に記載又は、特記がある事項以外は、「共仕」2節[メタルカーテンウォール]による。

補17.2.2　材　　料
（ａ）アルミニウム及びアルミニウム合金材
（１）アルミニウム押出形材
（ｉ）材料は、JIS H 4100(アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材)のA 6063Sとする。
（ⅱ）形材の厚さは、特記による。特記がなければ2.5mm以上とする。
（２）アルミニウム板材
（ｉ）材料は、JIS H 4000(アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条)による。
（ⅱ）板の厚さは、特記による。特記がなければすべて2.5mm以上とする。

（3）表面処理は、特記による。特記がなければ、「共仕」表14.2.1[表面処理の種別]のA-2種とする。
（4）補強材、力骨及びアンカー等は、鋼製、ステンレス製又はアルミニウム合金製とする。
（b）鋼材
（1）鋼材は、JISの規格品とする。
（2）材料の厚さは、特記による。特記がなければ1.6mm以上とする。
（3）表面処理及び仕上げは、特記による。
（c）ステンレス鋼材
（1）ステンレス鋼材は、JISの規格品とし、種類は特記による。特記がなければ、SUS 304とする。
（2）材料の厚さは、特記による。特記がなければ鏡面仕上げの場合は2.0mm以上、その他は1.5mm以上とする。
（3）表面処理及び仕上げは、特記による。
（d）耐候性鋼材は、JISの規格品とする。厚さは1.6mm以上とし、表面処理及び仕上げは、特記による。
（e）カーテンウォールを耐火構造にするための材料は、建設省告示第1399号[耐火構造の指定]、又は特記仕様書7.1[耐火被覆・耐火構造]に適合するものとする。
（f）ガラス
（1）材料は、「共仕」16.13.2「材料」による。
（2）ガラス取り付け用材料
（ⅰ）ガラスとめ材は、特記による。
（ⅱ）構造ガスケットを使用する場合は、シーリング機能のほかにガラスを保持する機能を有し,かつ十分な耐久性のあるものとする。
（g）シーリング材
（1）不定形シーリングの種類は、特記仕様書9.12[シーリング]により、その適用は、特記による。
（2）定形シーリングの種類は、特記による。
（3）定形及び不定形シーリング材は、層間変位、風圧及び部材の熱変形による目地の変形に追従可能で、十分な弾性と耐久性をもつものを用いる。
（h）その他、カーテンウォールに先付けする部材もしくは材料は、カーテンウォールの性能に支障のない品質、形状、寸法精度及び剛性を有し、かつ適切な養生を施したものを用いる。

補17.2.3　形状及び仕上げ
（a）製品の寸法許容差は、特記による。特記がなければ、その標準値は「共仕」表17.2.1及び補表17.2.1による。

補表17.2.1　アルミニウム合金鋳物カーテンウォール製品の寸法許容差(単位：mm)

項　目	寸法許容差	項　目	寸法許容差
辺　長	＋2～－4	ねじれ、反り	4
対角線長の差	5	曲　が　り	3
板　厚	－2	見込み深さ	±2
開口部内法寸法	±3	ボルトピッチ	±3
注）製品の大きさは長辺≦4000mm、短辺≦2000mmの範囲内のものとする。			

（b）製品の仕上り面は、仕上げが均一で、著しく外観を損なう傷、色むら及び光沢むら、又は構造上及び防水上支障となるような、割れや損失があってはならない。

補17.2.4　メタルカーテンウォールの製作
（a）製作図書等
（1）受注者は、製作に先立ち製作計画書及び製作図を作成し、監理者に提出して承認を受ける。
（2）製作計画書には、次の事項を記載する。
（ⅰ）製作に当たる部署の組織表及び役割分担表
（ⅱ）製作日程
（ⅲ）使用材料(材料加工の方法、接合方法、防食処理、仕上塗料の材料及び工法)
（ⅳ）製作フローチャート及び組立て要領
（ⅴ）検査事項、精度及び検査方法
（ⅵ）養生、運搬、揚重及び保管計画
（ⅶ）清掃方法
（ⅷ）その他監理者の指示する事項
（3）製作図には次の事項を記載する。
（ⅰ）層間変位追従方式(構造体への取付部及びユニット間の接合部)
（ⅱ）パネル割付図及び取付け金物配置図
（ⅲ）耐火被覆(層間区画部分)
（ⅳ）結露水及び侵入水の排水処理ルート
（ⅴ）パラペット笠木との取合い
（b）材料及び部品
製作に用いる材料及び部品は、本仕様書及び特記に定められたものとし、これらに該当しない材料、部品についてはJISに規定する試験方法による試験に合格したものとする。
（c）取付け金物
（1）取付け金物は、仕上がりに影響を与えたり、強度低下をもたらす可能性のある変形や寸法誤差のないものを使用する。
（2）補17.1.3(a)[耐風圧性能]及び補17.1.3(b)[層間変位追従性能及び耐震性能]に規定する外力に対し十分な強度を有し、有害な変形を生じてはならない。
（d）製作
（1）製作は、製作図、製作計画書及び施工者の社内規格に基づき、十分な技術管理と作業管理の下に正確かつ丁寧に行う。
（2）メタルカーテンウォール(アルミニウム合金鋳物カーテンウォールを除く。)
（ⅰ）機械加工は正確に行い、加工による傷及び切削油による腐食等を生じないように十分に注意する。
（ⅱ）主要部材の接合は、原則として工場溶接とする。見掛り面の溶接ビードは研磨仕上げとする。
（ⅲ）工場及び現場での組立ては、次の諸事項に注意して行う。
① 接合部は、指示寸法に正確に合わせ、堅牢に接合する。
② シーリング材は正確に充填する。
③ ウェザーストリップは、切れ目なく完全にはめ合わす。
④ 補強材及び補助材の接合には、接触腐食防止の対策を施す。
⑤ 溶接部は、はねや酸化物を清掃や磨きによって取除いた後、防錆処理を施す。又、溶接によって仕上げ面が著しい変色やゆがみを起してはならない。
（ⅳ）結露により内部腐食や裏打材の剥落等が起こらないようにする。
（ⅴ）製品は、製作所による社内検査を行い、合格したものとし、検査成績書を監理者に提出し、承認を受ける。
（3）アルミニウム合金鋳物カーテンウォール
（ⅰ）アルミニウム合金は、溶解したものを適温に保って精練した溶湯を用い、鋳造に際しては、計器測温により溶湯温度を適正に管理する。
（ⅱ）鋳型から分離した製品は、湯口やばり等を除去後、冷却収縮によって生じたひずみを矯正する。
（ⅲ）製品は、製作所による社内検査を行い、合格したものとし検査成績書を監理者に提出し承認を受ける。
（e）製品検査
（1）製品検査は、補17.2.4(a)製作計画書に従って行う。検査の判定基準はJASS14.7.2.1、表7.1[製作過程におけるメタルカーテンウォールの検査]による。ただし、製品寸法については、補17.2.3[形状及び仕上げ]の(a)による。
（2）製品検査結果は、個体単位の検査成績表を作成し、監理者に提出して、承認を受ける。

補17.2.5　メタルカーテンウォールの取付け
（a）アルミニウム合金鋳物カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差は、特記による。特記がなければ、その標準値は補表17.2.2による。

補表17.2.2 アルミニウム合金鋳物カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差

項　目	寸法許容差 mm	
目地の幅	±5	
目地心の通り	3	
目地両側の段差	4	
各階の基準墨から各部材までの距離	±5	

（b）変位の吸収を要求されている取付け金物は、変位を吸収できるように、部材間の摩擦低減材の挿入やボルトの締付けトルクの適性管理等を行う。

補3節　PCカーテンウォール

補17.3.1　適　用　範　囲
この節はプレキャストコンクリート(繊維補強セメント・コンクリート複合材を含む)を用いたカーテンウォール工事に適用する。この節に記載又は、特記がある事項以外は、「共仕」17章3節[PCカーテンウォール]による。

補17.3.2　材　　料
（a）コンクリート
（1）軽量コンクリート
（ⅰ）調合
「共仕」17.3.2(a)(2)による他、下記に示す事項を考慮して所要の品質が得られるようにする。
① 設計基準強度
② 脱型時及び出荷時強度
③ コンクリート製造条件及び強度の標準偏差
④ 加熱養生条件
一般にPCカーテンウォール製作所では、基準とする標準調合を定めている。強度等の条件が満たされる場合は、PCカーテンウォール製作所の標準調合を適用する。
（2）繊維補強セメント・コンクリート複合材
（ⅰ）繊維補強セメント・コンクリート複合材を用いたカーテンウォールは、特記による。種別、材料、製法等については、補8.6[繊維補強セメント・コンクリート複合材]による。
（ⅱ）カーテンウォールパネルに適用される材種は次により、その適用は、特記による。
① 炭素繊維
② ガラス繊維補強セメント・コンクリート複合材(GRC)
（b）ガラス
（1）ガラス取付け用材料
（ⅰ）ガラスとめ材は、特記による。
（ⅱ）PC板開口部にY形ガスケットを使用する場合の取付け部分は、次を標準とする。
① 溝の寸法精度は、JASS17[ガラス工事]による。
② コンクリートパネル面から溝の中心までの寸法は60mm以上とする。
③ 溝の前後におけるコンクリート面の勾配は、5°(8/100)以内とする。溝幅、位置等の精度は、ガラスのはめ込みやガスケットのガラス保持性及び水密性に影響するので十分な精度管理を行う。
（c）シーリング材
（1）不定形シーリングの種類は、特記仕様書9.12[シーリング]により、その適用は、特記による。
（2）定形シーリングの種類は、特記による。
（3）定形及び不定形シーリング材は、層間変位、風圧及び部材の熱変形による目地の変形に追従可能で、十分な弾性と耐久性をもつものを用いる。
（d）先付けサッシの材料
（1）アルミニウム及びアルミニウム合金材
（ⅰ）アルミニウム押出形材
補17.2.2[材料]の(a)による。
（ⅱ）アルミニウム板材
補17.2.2[材料]の(a)による。
（ⅲ）表面処理
「共仕」表14.2.1[表面処理の種別]のB-2種とする。
（ⅳ）補強材、力骨、アンカー類は、鋼製、ステンレス製又はアルミニウム合金製とする。
（2）鋼材
補17.2.2[材料]の(b)による。
（3）ステンレス鋼材
補17.2.2[材料]の(c)による。
（e）カーテンウォールに先付けする仕上げ材、金物
（1）石材を先付けする場合においては、石材と裏打ちコンクリートとの挙動の差異を考慮して、この両者の接着は期待せず、定着金物のみで石材を固定する。
（2）その他のカーテンウォールに先付けする部材もしくは材料は、カーテンウォールの性能に支障のない品質、形状、寸法精度及び剛性を有し、かつ適切な養生を施したものを用いる。

補17.3.3　形状及び仕上げ
（a）標準(4m×2.5m程度)を大きく上回る板、リブ付き形状板、パラペット部を含む長大板ならびにL形コーナー板等では、PC板の形状、大きさ、建物の条件等を考慮し、製品の寸法許容差は、カーテンウォールの諸性能に影響しない数値とする。
（b）製品の仕上り面は、仕上げ均一で、著しく外観を損なう傷、色むら、光沢むら、構造上及び防水上支障となるような割れや破損等があってはならない。PC板に先付けする表面仕上げ材は、美観だけでなく、耐久性にも影響を与えるので、その選択には十分注意する。仕上げ材の種類や材料によっては、PC板製作に先立ち、試験体を製作して付着力、アンカー耐力等の確認を行う。

補17.3.4　PCカーテンウォールの製作
（a）製作図書等
（1）受注者は、製作に先立ち製作計画書及び製作図を作成し、監理者に提出し、承認を受ける。
（2）製作計画書には、次の事項を記載する。
（ⅰ）製作に当たる部署の組織表及び役割分担表
（ⅱ）製作日程
（ⅲ）使用材料(型枠加工の方法、材料加工の方法、先付け部材の製作方法及び打込み方法、金物類の防食処理、仕上げ塗材・塗料の工法、先付け仕上げ材の工法)
（ⅳ）製作フローチャート及び組立て要領
（ⅴ）検査事項、精度及び検査方法
（ⅵ）養生、運搬、揚重及び保管計画
（ⅶ）清掃方法
（ⅷ）その他監理者の指示する方法
（3）製作図には次の事項を記載する。
（ⅰ）層間変位追従方式(構造体への取付部及びユニット間の接合部)
（ⅱ）パネル割付及び取付け金物配置図
（ⅲ）取付け金物の摩擦低減材の材質及び取付け寸法
（ⅳ）PC板の配筋及び埋込み金物
（ⅴ）版相互のジョイント部の詳細及び耐火目地材の納まり
（ⅵ）構造ガスケットを使用する場合のPC部との納まり
（ⅶ）結露水及び侵入水の排水処理ルート
（ⅷ）パラペット笠木及び他部材との取合い
（b）材料及び部材
製作に用いる材料及び部品は、本仕様書及び特記に定められたものとし、これらに該当しない材料・部品についてはJISに規定する試験方法による試験に合格したものとする。
（c）取付け金物
（1）取付け金物は、仕上がりに影響を与えたり、強度低下をもたらす可能性のある変形や寸法誤差のないものを使用する。
（2）補17.1.3(a)[耐風圧性能]及び補17.1.3(b)[層間変位追従性能及び耐震性能]に規定する外力に対し十分な強度を有し、有害な変形を生じてはならない。
（d）製作
（1）製作は、製作図、施工計画書及び施工者の社内規格に基づき、十分な技術管理と作業管理の下に正確かつ丁寧に行う。
（2）せき板は、金属製の場合、厚さ4.5mm以上の鋼板、木製の場合は、「コンクリート型枠用合板日本農林規格」による1種合板とし、厚さ18mm以上で表面加工品とする。
（3）吊下げ用インサート・ナット等は、取付け後フォームポリスチレン材を充填した後シーリング材等で封鎖し、水密を確保する。
（e）製品検査
（1）製品検査は、製作計画書に従って行う。検査の判定基準はJASS14.7.2、表7.2[製作過程におけるプレキャストコンクリートカーテンウォールの検査]による。ただし、製品寸法については、「共仕」17.3.3[形状及び仕上げ]の(a)による。製品検査結果は、個体単位の検査成績表を作成し、監理者に提出し承認を受ける。

補17.3.5　PCカーテンウォールの取付け
（a）変位の吸収を要求されている取付け金物は、変位を吸収できるように、部材間の摩擦低減材の挿入やボルトの締付けトルクの適性管理等を行う。

補4節　設計条件の確認

補17.4.1　適　用　範　囲
この節は、メタルカーテンウォール及びPCカーテンウォールの各部の設計条件の確認に適用する。

補17.4.2　荷重、外力及び層間変位
（a）自重の算定に当たっては、吸湿及び吸水の恐れのある材料を使用する部分には、それによる自重の増加を考慮する。
（b）構造計算の対象とする風圧力は、補17.1.3(a)[耐風圧性能]による。
（c）構造計算の対象とする地震力は、補17.1.3(b)[層間変位追従性能及び耐震性能]による。
（d）温度応力は通常予想される部材の年間最高温度と最低温度との差を用いて算定する。
（e）カーテンウォール部材の設計に当っては、カーテンウォールの脱型、反転、場内運搬、ストック、場外運搬及び取付け等における荷重及び外力を考慮する。吊上げに用いる金物類は、自重の他に衝撃荷重も考慮する。

補17.4.3　構造上の設計
（a）カーテンウォール各部は、通常予測される各応力の繰返し作用に安全でなければならない。
（b）応力の組合わせ及び層間変位追従性
（1）各部に生ずる応力は、補17.4.2[荷重、外力及び層間変位]による各応力の組合わせのうち、最も大きなものをとる。
（2）層間変位追従性は、風圧力及び地震力によって生ずる層間変位のうち、最も大きい方に追従出来るようにする。
（3）ガラスは、熱応力計算値が許容応力を超えないよう熱割れ防止設計を行う。
（d）ガラスの取付け部の溝
（1）ガラスのはめ込みにおけるクリアランス及びかかり代などは、「共仕」表16.13.1[ガラス溝の大きさ]による。面クリアランスとかかり代については、補17.4.3(c)(2)に準じて熱割れ防止のための検討を行う。
（2）ガラスの取付けに不定形シーリングを用いる場合の、エッジクリアランスは、サッシの上下枠の相対水平変位の許容値を確認し、許容値が層間変位によるサッシの変形の大きさ以上になるように決定する。
（3）構造ガスケットを使用する場合で、施工中にガスケットを傷つけないようにガラスエッジの面取りを行う場合は、耐風圧及び熱割れ防止に必要なガラスエッジ強度を確保する。

補17.4.4　取付け金物の設計
（a）取付け用金物は、構造体の許容される範囲内の施工誤差及びカーテンウォールの製作誤差を吸収できるものとする。
（b）カーテンウォールに先付けする部材付け金物は、所定の耐力が十分に確保出来る様な位置に設置する。
（c）PCカーテンウォールに先付けする金物は、所定の耐力を確保するのに十分なコンクリート端面からの寸法及び定着長をとり、必要に応じて補強を行う。また、周囲に打込まれるコンクリートが容易に充填できるような形状、寸法及び配置にする。

補17.4.5　耐　　火
カーテンウォールは補17.1.3(e)[耐火性能]を満足すると共に、内部延焼を防止し、火災による脱落が生じないようにする。

補17.4.6　接　合　部　工　法
（a）接合部は、2重シールによるクローズドジョイント又は等圧オープンジョイントによるものとし、その適用は、特記による。
（b）接合部には、外部に排出するための有効な排水機構を設ける。
（c）接合部の目地部の部材端面の最小寸法は、1次シール材、耐火目地材(部材が耐火被覆材を兼ねる場合)、減圧空間及び2次シール材が無理なく設置出来る値とする。

補17.4.7　その他の設計上の配慮
（a）カーテンウォールの室内側及び壁体内に有害な結露を生じないように設計し、結露が生ずる恐れのあるときは適切な処理機能を取込む。結露水による錆や凍結などにより、性能の低下や機構上の欠陥が生じないようにする。
（b）竣工後、補修の必要が予想される部分及び清掃する必要のある部分は、作業が安全かつ容易に行われるようにする。清掃用機械器具を使用する場合は、カーテンウォールの構造耐力や機構が使用に支障のないようにする。
（c）異種金属の接触腐食により、美観その他の性能に欠陥を生ずる恐れのある時は、その部分における漏水や結露水などの発生もしくは異種金属の接触がないようにし、腐食の発生の恐れのある部分は絶縁処理もしくは防錆処理を行う。
（d）部材間にクリアランスをとることにより、各性能が低下する恐れのある場合は、その程度に応じた性能低下防止の処理をする。
（e）予測される風圧力、地震力及び熱応力による変形に起因して発生する機音や摩擦音は最小限に抑えるようにする。
（1）ファスナー部
金属衝動部にテフロン、りん青銅グラファイト、平滑なステンレス板等を挟む。
（2）方位接合部分
方位とジョイントスリーブの接触部分には、テフロンを挟んだり液状剤等を塗布する。
（3）方位・無目とスパンドレル
方位とスパンドレル、無目とスパンドレルの接合部にはゴム等のクッション材を挟む。
（4）パネル自体
パネルのべこつきを防ぐために板厚を大きくしたり、補強材を付ける。又はタール系の材料等を厚めに塗布する。補強材とパネルは、間にクッション材を挟むか、完全に一体に製作する。
（5）密閉閉部、排煙口等の召合わせ部やドライシールで納めた構成部材間の隙間を空気が流通することによる風切り音に対しては、召合わせの隙間を小さくし、通気量を抑える。その方法は、次による。
（ⅰ）吊り金物、締金具等の数を増やす。
（ⅱ）障子、枠断面の寸法、板厚を大きくする。
（6）カーテンウォールに組込まれた換気口からの通気による風切り音空気流に対し、抵抗性のないディテールを考慮する。
（f）乾燥収縮ひび割れの制御
（1）部材周囲の拘束が強過ぎないように、部材は出来るだけ平板状とし、やむを得ずリブ状部材とする場合は、リブで囲まれる平板部の面積を1.5㎡以下とする。
（2）変形した断面部は、応力集中を防ぐため出来るだけ鋭角状としない。
（3）平板部はダブル配筋とし、鉄筋もしくは溶接金網の間隔は部材の厚さの1.5倍以下とする。
（g）構造ガスケット取付け部分の設計
（1）開口部にH形定形シーリングを使用する場合の取付け部分については、JASS17[ガラス工事]を適用する。
（2）PCカーテンウォール等の開口部にY形定形シーリングを使用する場合の取付け部分は次を標準とする。
（ⅰ）溝の寸法精度は、JASS17[ガラス工事]による。
（ⅱ）コンクリート端面から溝の中心までの寸法は60mm以上とする。
（ⅲ）溝の前後におけるコンクリート面の勾配は、5°(8/100)以内とする。
（h）付帯工事部材取付け用先付け金物は、その用途に適した材質を用い、所定の強度ならびに耐久性を有するものとする。

補5節　施　　工

補17.5.1　適　用　範　囲
この節は、メタルカーテンウォール及びPCカーテンウォールの施工に適用する。

補17.5.2　施　工　図　書　等
（a）受注者は、施工に先立ち施工計画書及び施工図を監理者に提出し承認を受ける。
（b）施工計画書には、次の事項を記載する。
（1）施工関係者の組織表及び役割分担
（2）工程計画
（3）運搬単位による部材一覧表
（4）運搬、揚重及び保管計画
（5）取付け方法及び取付け順位
（6）養生及び清掃計画
（7）検査事項、精度及び検査方法
（8）安全対策
（9）その他監理者の指示する事項
（c）施工図には次の事項を記載する。
（1）構造体側金物配置図
（2）取付け方法、ジョイント、雨仕舞及びシーリング
（3）耐火被覆、層間ふさぎ及び防火壁区画の処理方法
（4）排水処理及び結露対策
（5）設備工事及び内装等その他工事との取合い

補17.5.3　清掃及び養生
（a）清　掃
（1）清掃は表面仕上げに異常を生じさせない方法で行う。
（2）清掃の時期及び範囲は、監理者と協議の上決定する。

補17.5.4　施　工　検　査
（a）施工検査は、補17.5.2(b)[施工計画書]に従って行い、検査の項目、方法及び判定基準はJASS14.7.3、表7.3[施工過程の検査]により、取付け位置の寸法許容差は補17.2.5[メタルカーテンウォールの取付け]及び補17.3.5[PCカーテンウォールの取付け]による。
（b）施工検査結果は、検査報告書を作成し、監理者に提出し承認を受ける。
（c）検査の結果、補修又は取替えを必要とする場合は、速やかに対処し、結果を監理者に報告する。

18章　塗装工事

補10節　アクリルシリコン樹脂塗装

補18.10.1　適　用　範　囲
この節は、主として比較的長期の耐候性、耐久性及び美装性を目的とする箇所に用いるアクリルシリコン樹脂塗装に適用する。

補18.10.2　素地ごしらえ
（a）ステンレス面の素地ごしらえは、補表18.10.1による。

補表18.10.1　ステンレス面の素地ごしらえ

工　程		面の処理	備　考
1	汚れ、付着物除去	汚れ、付着物をスチールウール布等で除去した後に溶剤拭き	
2	素地除去	ヘアライン又はダル処理	
3	油膜除去	弱アルカリ性脱脂剤で加熱処理後湯洗い、又は溶剤洗浄	
4	化成皮膜処理	クロム酸塩化成皮膜又は酸化皮膜処理後、水洗い乾燥	直ちに次の工程に移る

（b）アルミニウム面の素地ごしらえは、補表18.10.2による。

補表18.10.2　アルミニウム面の素地ごしらえ

工　程		面の処理	備　考
1	汚れ、付着物除去	汚れ、付着物をスチールウール布等で除去した後に溶剤拭き	
2	油膜除去	弱アルカリ性脱脂剤で加熱処理後湯洗い、又は溶剤洗浄	
3	化成皮膜処理	クロム酸塩化成皮膜又は酸化皮膜処理後、水洗い乾燥	直ちに次の工程に移る

補18.10.3　材　　料
上塗りに用いるアクリルシリコン樹脂エナメル、及びクリヤは、カネカゼウムラックを配合した非イソシアネート系塗料で、主剤にはアクリルシリコン樹脂（アルコキシシリン基含有ビニル共重合樹脂）及び硬化剤は、アルコキシシリル基に対する硬化触媒を主成分とする。

補18.10.4　金属系素地面のアクリルシリコン樹脂エナメル塗り（2-ASE）
（a）この項はステンレス面及びアルミニウム面の金属系素地面における、アクリルシルコン樹脂エナメル塗りに適応する。
（b）ステンレス面及びアルミニウム面のアクリルシリコン樹脂エナメル塗りは、製造所の仕様による。

補18.10.5　コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂エナメル塗り（2-ASE）
（a）この項は、コンクリート打放し面におけるシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂エナメル塗りに適用する。
（b）コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂エナメル塗りは、補表18.10.6により、シリコン系浸透性吸水防止材の材料規格は、特記による。

補表18.10.6　コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂エナメル塗り

工　程	塗料種別○種	塗料その他	塗布量 kg/㎡
素地ごしらえ	○	「共仕」表18.2.6による A種	－
1　下塗り	○	シリコン系浸透性吸水防止材	0.15～0.20
2　上塗り 1回目	○	(低汚染型)アクリルシリコン樹脂エナメル	0.10
3　上塗り 2回目	○	(低汚染型)アクリルシリコン樹脂エナメル	0.10
(注）低汚染型の場合は、工程2及び工程3に低汚染型アクリルシリコン樹脂エナメルを使用する。			

（c）工法その他は、製造所の仕様による。

補18.10.6　コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂クリヤ塗り（ASC）
（a）この項は、コンクリート打放し面におけるシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂クリヤ塗り(カラークリヤを含む)に適用する。
（b）コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂クリヤ塗りは、補表18.10.7により、塗料種別及びシリコン系浸透性吸水防止材の材料規格は、特記による。

改訂：2016.09.01

（ｃ）工法その他は、補表18.10.7による。

補表18.10.7　コンクリート打放し面のシリコン系浸透性吸水防止材使用のアクリルシリコン樹脂クリヤ塗り

工　程		塗料種別Ｃ種	塗料その他	塗布量 kg/㎡
素地ごしらえ		○	「共仕」表18.2.6によるＢ種	－
1	下塗り	○	シリコン系浸透性吸水防止材	0.15～0.20
2	上塗り 1回目	○	(低汚染型)アクリルシリコン樹脂クリヤ	0.10
3	上塗り 2回目	○	(低汚染型)アクリルシリコン樹脂クリヤ	0.10

(注) 低汚染型の場合は、工程2及び工程3に低汚染型アクリルシリコン樹脂クリヤを使用する。

補１１節　常温乾燥形ふっ素樹脂塗装

補18.11.1　適　用　範　囲

この節は、主として比較的長期の耐候性、耐久性及び美装性を目的とする箇所に用いる常温乾燥形ふっ素樹脂塗装に適用する。

補18.11.2　素地ごしらえ

ステンレス面、アルミニウム面の素地ごしらえは、補表18.10.1及び補表18.10.2による。

補18.11.3　材　　料

中塗り及び上塗りに用いるふっ素樹脂塗装は、フルオロオレフィンビニルエーテル共重合体樹脂（ＦＥＶＥ）の常温硬化型塗料とし、対汚染性を考慮して三フッ化モノマー配合とする。中塗り及び上塗りに用いるふっ素樹脂分中のフルオロオレフィンビニルエーテル共重合体樹脂が100%配合されていること。促進耐候性試験で4,000時間（ＧＲ90%以上）に耐えるものとする。（補表14.9.14）

補18.11.4　金属系素地面の常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗装（2-FUE）

（ａ）この項はステンレス面及びアルミニウム面の金属系素地面における、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りに適応する。

（ｂ）ステンレス面及びアルミニウム面の常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りは、製造所の仕様による。

補18.11.5　コンクリート打放し面の常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗り（FUC）

（ａ）この項は、コンクリート打放し面の漏れ肌防止用塗料の常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗りに適用する。

（ｂ）コンクリート打放し面の常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗りは、補表18.11.4により、塗料種別及びシリコン系浸透性吸水防止材の材料規格は特記による。

補表18.11.4　コンクリート打放し面の常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ塗り

工　程		塗料種別 A種	塗料種別 B種	塗料その他	標準膜厚 μm	塗布量 kg/㎡
素地ごしらえ		○	○	「共仕」表18.2.6によるＢ種	－	－
1	下塗り	○	○	浸透性吸水防止材	－	0.10～0.12
2	中塗り	○	－	コンクリート用(低汚染型)常温乾燥形ふっ素樹脂中塗り漏れ肌防止材	30～40	1.15～0.17
3	上塗り 1回目	○	○	コンクリート用(低汚染型)常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ(着色)	15～25	0.14～0.30
4	上塗り 2回目	○	○	コンクリート用(低汚染型)常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤ(着色)	15～25	0.10～0.13

(注)低汚染型の場合は、工程2,3及び工程4に低汚染型常温乾燥形ふっ素樹脂クリヤを使用する。

１９章　内　装　工　事

補２節　ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り

補19.2.1　材　　料

（ａ）ビニル床シート張り

（１）この項は、ビニル床シートの材料について追加補充するもので、ここに規定する以外は、「共仕」19章２節[ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り]による。

（２）ビニル床シートの材料はJIS Ａ 5705(ビニル系床材)による他、その他の床シートを含めた床シートの種類は、補表19.2.1により、材料、厚さは特記による。

補表19.2.1　ビニル床シート等の種類

種　類		名　称	記号	粘結材	構　成
ビニル床シート	発泡層のないビニル床シート	単層シート	NM	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂及び塩ﾋﾞﾆﾙ酢酸ﾋﾞﾆﾙ共重合樹脂	単体のもの
		長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ	NC		織布を積層したもの
		ｲﾝﾚｲﾄﾞｼｰﾄ	NF		不織布を積層したもの
		ｿﾌﾄｲﾝﾚｲﾄﾞｼｰﾄ	NO		織布、不織布以外の材料を積層したもの
	発泡層のあるビニル床シート	複合塩ビシート(タイプⅠ)	DC		織布を積層したもの
			DF		不織布を積層したもの
			DO		織布、不織布以外の材料を積層したもの
		ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱｰ(タイプⅡ)	PF		不織布を積層し、印刷柄を有するもの
			PO		織布、不織布以外の材料を積層したもので印刷柄をもつもの
ゴム床シート		ゴムシート		合成ゴム	織布
油脂系床シート		リノリウム		亜麻仁油	織布(麻布)、不織布以外のもの(紙)

Ｎ:None Foamﾀｲﾌﾟ　Ｍ:Mono(単体)　Ｃ:Cotton Wooven で代表される織布　Ｆ:Flet(不織布)
Ｏ:Other でＭ,Ｆ,Ｃ以外のもの　Ｄ:Durable use(重歩行用)　Ｐ:Print(印刷柄)

（ｂ）ビニル床タイル及びゴム床タイル張り

（１）この項は、ビニル床タイル及びゴム床タイルの材料について追加補充するもので、ここに規定する以外は、「共仕」19章2節[ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り]による。

（２）ビニル床タイルの材料はJIS Ａ 5705(ビニル系床材)による他、その他の床、タイル等を含めた床タイルの種類は、補表19.2.2により材料厚さは特記による。

補表19.2.2　ビニル床タイル等の種類

種　類		名　称		粘結材	構　成
ビニル床タイル	ﾎﾓｼﾞﾆｱｽﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	ﾎﾓｼﾞﾆｱｽ(HT)	ﾌﾟﾚｽ	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂及び塩ﾋﾞﾆﾙ酢酸ﾋﾞﾆﾙ共重合樹脂	単層のもの(ﾁｯﾌﾟ､ｼｰﾄ､板状)
			無地		積層したもの(板状)
			ﾏｰﾌﾞﾙ		
		ﾋﾞﾆﾙﾀｲﾙ			
		ﾋﾞｭｰﾋﾞﾆﾙﾀｲﾙ			単層のもの(ﾁｯﾌﾟ､板状)
	ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ 床ﾀｲﾙ	半硬質(CT) 軟質(CTS)	無地		半硬質 へこみ量 20℃ 0.15mm以上
			ﾏｰﾌﾞﾙ		
			ｽﾓｰﾁｯﾌﾟ		軟質 へこみ量 20℃ 0.25mm以上
		エンボスタイル			
	帯電防止、耐酸、耐油ﾋﾞﾆﾙﾀｲﾙ				
ゴム床シート		硬質ゴムタイル		天然、合成ゴム	積層(シート、ペレット状)
		軟質ゴムタイル		合成ゴム	単層(シート、コイン状)
ビニル幅木		硬質ビニル幅木 軟質ビニル幅木			

（ｃ）種類、色柄、寸法、厚さ及び寸法は、特記による。

補５節　フローリング張り

補19.5.1　材　　料

（ａ）この項は、フローリングの材料について追加補充するもので、ここに規定する以外は、「共仕」19章5節[フローリング張り]による。

（ｂ）フローリングの種類は補表19.5.1により、その適用は、特記による。

補表19.5.1　フローリングの種類　(単位:mm)

種　類		樹　種	裏うち	厚さ	大きさ	幅	長さ	工　法	塗　装
単層フローリング	特殊集成材	ナラ プナ カバ アサダ ｲﾀﾔｶｴﾃﾞ ﾄｱﾏﾂ ｽｷ ヒノキ 国産広葉樹		15～30	303×1818 455×1818	－	900 909	接着 釘どめ	なし
複合フローリング	特殊加工木化粧複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ		接着のみあり	6 ～30	－	50～450	600～2000	モルタル釘どめ接着	あり WPC
	天然木化粧複合ﾌﾞﾛｯｸ	国産 針葉樹	あり	6 ～30	240×240～303×303	－	－	接着	あり (なし)
	特殊加工木化粧複合ﾌﾞﾛｯｸ	外国産 広葉樹	あり	8 ～30	240×240～303×303	－	－	接着	あり WPC
	大型積層材複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	外国産 針葉樹		12 ～30	ﾌﾘｰｻｲｽﾞ	－	1818	接着 釘どめ	あり (なし)

ＷＰＣ:合成樹脂含浸木材
工法：モルタル＝モルタル埋込み工法　釘どめ＝釘どめ工法　接着＝接着工法

補１０節　ポリスチレンフォーム系床下地材

補19.10.1　適　用　範　囲

この節はコンクリート面に施工するポリスチレンフォーム系床下地材に適用する。

補19.10.2　種　　類

種類は畳下パネル及びフローリング類下パネル(桟付)とし、その適用は特記による。

補19.10.3　材　　料

（ａ）ポリスチレンフォーム床下地材はJIS Ａ 9511(発泡プラスチック保温材)に規定するＢ-2により、その寸法は幅600mm、長さ900mmとし、厚さは特記による。特記がなければ40mmとする。

（ｂ）コンクリート面に施工する場合に使用するモルタル及び接着剤、空隙りモルタルは、パネル製造所の仕様による。

補19.10.4　工　　法

（ａ）パネルの敷並べ時に、パネル上面に配管等の位置表示を行うこと。剖付により、パネルを切り欠く場合は、床仕上げ材へ支障のないようにする。

（ｂ）フローリング類下パネル(桟付)に木質系床材を釘打ちする場合は、接着剤併用とし、接着剤及び塗布方法はパネル製造所の仕様による。

補１１節　住宅用乾式遮音二重床下地材

補19.11.1　適　用　範　囲

この節は調整可能な支持脚により構成された遮音効果のある住宅用乾式遮音二重床について適用する。

補19.11.2　種　　類

種類は補表19.11.1により、適用箇所は、特記による。

補表19.11.1　住宅用乾式遮音二重床下地材の種類

種　類	Ａ　種	Ｂ　種
適用箇所	洋室、厨房、廊下等	洗面所、脱衣室等

補19.11.3　材　　料

（ａ）ベースパネル
パーティクルボードはJIS Ａ 5908に規定する18Mタイプ又は18Pタイプで、日本硬質繊維板工業会の下地用パーティクルボード規格表示のものとし、寸法は、特記による。特記がなければ25mm×1820mm×600mmとする。
又、ホルムアルデヒドの放散量は、Ｆ☆☆☆☆とし、その適用は、特記による。水廻りに使用する場合は、表・裏面及び小口面にパラフィン50g/㎡以上を含浸させたものとし、適用は特記による。

（ｂ）給板合板
木質系複合床板仕上の場合はなしとし、ビニル床シート、カーペット等の場合は普通合板１類でホルムアルデヒド放散量がＦ☆☆☆☆のＪＡＳ規格品厚5.5mmとし適用は特記による。

（ｃ）支持脚等
１．合板ブロック　　JAS TI
２．インサートナット　　JIS Ｇ 3507　クロームメッキ処理
３．支持ボルト　　JIS Ｇ 3507　クロームメッキ処理
４．防振ゴム　　JIS Ｋ 6386　Ａ種　　硬度60±5

補19.11.4　工法・その他

（ａ）支持ボルトのゆるみ防止対策
合板樹脂系接着剤を支持ボルト両端に塗布

（ｂ）家具等のゆれ防止対策
壁面から45.0mm以内に支持脚を設置する。開口部等の壁際は612mm以内とする。

（ｃ）施工仕様
（１）支持脚をベースパネルの固定はスクリューネイラーどめとする。
（２）木質系複合床板貼りはベースパネル上にスクリュー釘どめとし、接着剤は原則として使用しない。
（３）仕上材がカーペット、ビニル床シートの場合は捨張合板厚5.5mmとする。
施工はベースパネル上にスクリュー釘どめとし接着剤は原則として使用しない。

（ｄ）上記以外の項目については製造所仕様による

（ｅ）施工図
上記に基づき施工に先立ち仕上材の貼り方、方向、設備配管等との整合を図り、床きしみ等が生じないよう配慮した施工計画書及びタイプ別割付図を作成する。

補１２節　弾性床

補19.12.1 適 用 範 囲

この節は体育館等(一般体育館、柔道場、剣道場、柔剣道場、スポーツ競技場等)スポーツフロアーとしての強度、弾性、平滑性等を必要とする床工法に適用する。

補19.12.2 塗 り 床

（ａ）弾性塗り床の種別は、補表19.12.1.により、材料及び厚さは特記による。各層の材質及び塗工法は専門業者の仕様による。

補表19.12.1　弾性塗り床の種別

種　別	床下地の構造 コンクリート又はﾓﾙﾀﾙ	床下地の構造 鋼製床下地	寸　法 厚さ(mm)
ｺﾞﾑﾁｯﾌﾟ弾力層＋ｳﾚﾀﾝ保護層	○	○	15～18
ｺﾞﾑﾁｯﾌﾟ弾力層＋ｳﾚﾀﾝ仕上層	○	○	13～16
ｳﾚﾀﾝ厚塗り	○	○	4～10

（ｂ）下地のコンクリート面の仕上がりの平たんさは、3ｍにつき5mm以下を標準とし、他の仕様は「共仕」15.5.2による。

（ｃ）塗り床の表面仕上げは、耐摩耗性防滑つや消し仕上げとする。
この他の工法仕様は「共仕」19.4.3[工法]による。

補19.12.3 張 り 床

（ａ）張り床の種別は補表19.12.2により、材料及び厚さは特記による。

補表19.12.2　張り床の種別

種　別	床下地の構造 コンクリート又はﾓﾙﾀﾙ	床下地の構造 鋼製床下地	寸法 厚さ(mm)	寸法 幅・長さ(mm)
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ(発泡性・非発泡性)	○	○	2～5.5	1820・9000
タイルカーペット	○	○	5～12	915～1525 ・15000
合成ゴム系シート	○	－	7～11	500・500
パンチカーペット	○	－	4	1820～2730 ・10000
人工 芝(織物ﾀｲﾌﾟ・砂入ﾀｲﾌﾟ)	○	－	7～30	910～1800 5000～20000

（ｂ）下地は、コンクリート又は鋼製下地合板二重床とし、適用は特記による。下地のコンクリートの仕上がりの平たんさは、3ｍにつき5mm以下を標準とし、他の仕様は「共仕」15.3.2による。その他については、「共仕」19.2.3[施工]、19.2.4[寒冷地の施工]による。

補19.12.4 木　造　床

（ａ）材料は「フローリングの日本農林規格」合格品とし、樹種及び厚さは、特記による。

（ｂ）下張り板
下張り板は下記とし、適用は、特記による。
（１）合板
普通合板１類でホルムアルデヒド放散量がＦ☆☆☆☆の、コンクリート型枠用合板及び構造用合板の日本農林規格の規格品で防水性能を有し、厚さ12mm以上とする。但し、組床の柔道場、剣道場及び柔剣道場にあっては、15mm以上とし、その適用は特記による。
（２）パーティクルボード
JIS Ａ 5908に規格する18Mタイプ又は18Pタイプで日本硬質繊維板工業会の下地用パーティクルボード規格表示のもので、厚さは20mm以上とし、適用は特記による。又、ホルムアルデヒドの放散量はＦ☆☆☆☆とし、その適用は、特記による。

（ｃ）フローリングの張付工法
下地材に、接着剤併用で、隠し釘打ち又は隠し釘打ちと脳天ビスでとめるものとし、適用は、特記による。

（ｄ）研磨
研磨紙は、#30～#100以上を標準として用い、荒掛け、中掛け及び仕上げの3回掛けとする。研磨にて落ちない段差、キズ及び汚れ等は板の張替え及び薬品などで拭取りを行う。

（ｅ）塗装
塗装はポリウレタン樹脂塗装(油変性型、湿気硬化型、2液反応型)、酸硬化アミノアルキッド樹脂塗装又は、水性ウレタン樹脂塗装とし、適用は特記による。塗装工程は補表19.12.3による。

補表19.12.3　木造弾性床の塗装工程

工　程	作　業	G	乾燥養生期間(時間以上) 油性	湿硬	2液	AKP	水性ｳﾚﾀﾝ
素地ごしらえ	研磨された面をよく清掃し付着物を取除き油類は溶剤拭きする。	－	－	－	－	－	－
下塗り	塗料は塗料タイプに応じた量のうすめ液にて希釈し、刷毛又は羊毛刷毛にて塗布する。	60以上	10	8	8	8	8
研磨	研磨紙#100～120にて研磨し気泡をよくとる。	－	－	－	－	－	－
中塗り	下塗りに同じ	60	10	8	8	8	8
研磨	研磨紙#100～120にて研磨し気泡をよくとる。	－	－	－	－	－	－
ライン引		－	－	－	－	－	－
上塗り	下塗りに同じ	60	10	8	8	8	8

Ｇ:㎡当り塗布量ｇ　　ＡＫＰ:酸硬化アミノアルキッド樹脂塗装

（ｆ）完成した床の水平精度は床全体の公差±5mm以内とする。但し、局部的な辺部(出入口など)からくる制約による誤差、又、柔道場の量部分は除くものとする。

補19.12.5　鋼製床下地

（ａ）鋼製床下地は、JIS Ａ 6519(体育館用鋼製床下地構成材)の規格による。

（ｂ）構成区分及び使用目的による区分は補表19.12.4及び、補表19.12.5により、その適用は特記による。

補表19.12.4　構成による区分

区　分	記号	備　考
組床式	Ｆ	支持脚・大引・根太などを組合わせて構成されるもの。
置き床式	Ｓ	支持脚及び床パネルなどを組合わせて構成されるもの。

補表19.12.5　使用目的による区分

区　分	記号	備　考
一般体育館用	Ｇ	通常の体育館の構成材として使用するもの。
柔道場用	Ｒ	柔道場の構成材として使用するもの。
剣道場用	Ｋ	剣道場の構成材として使用するもの。
柔剣道場用	Ｒ･Ｋ	柔道場及び剣道場に兼用される構成材として使用するもの。

（ｃ）構成材の性能は、JIS Ａ 6519の表3(性能)に適合しなければならない。

（ｄ）構成材に使用する材料は、JIS Ａ 6519の表6(材料)により、床パネル及び支持板の種別は、特記による。

※天井下地における耐震性を考慮した補強は以下とする。（標準仕様書14.4.4(J)）（改修標準仕様書 6.6.4(J)）

1．一般事項

①設計地震力：建築工事特記仕様書（１）又は建築改修工事特記仕様書（１）のⅠ，設計概要による建築非構造部材水平震度及び垂直震度を適用する。

2．耐震補強を行う天井

１）内部天井：内部仕上表に記載する諸室（天井下地耐震補強欄に以下、Ａ・Ｂ・Ｃの区分を示す）

Ａ：500㎡を越える大規模天井。吹抜け他、室用途により高天井とする天井。
- ①耐震ブレースを設ける。
- ②ピスハンガー（開き止め）、ピスクリップ(外れ止め)を使用する。
- ③壁際にクリアランスを設ける。天井の段差部、柱型際も同様とする。

Ｂ：500㎡以下、特に耐震性を考慮する室の天井
- ①耐震ブレースを設ける。
- ②ピスハンガー（開き止め）、ピスクリップ(外れ止め)を使用する。
- ③壁際にクリアランスを設ける(Ｂ１)か、周囲が設計地震力を満たす剛性のある壁で囲われている場合は、天井下地壁際を固定する(Ｂ２)。

Ｃ：上記Ａ，Ｂ以外の天井
- ①耐震ブレースを設ける。
- ②天井下地壁際を固定する。

２）外部天井：屋外の軒天井，ピロティ天井等
- ①耐震ブレースを設ける。
- ②天井下地壁際を固定する。

3．耐震性を考慮した補強仕様

①耐震ブレース

ｲ）一対の耐震ブレース負担面積の目安

ａ）在来天井　：ブレース負担面積の目安は「耐震ブレースの設置目安表」による。

ｂ）システム天井：天井材が岩綿吸音板の場合は、XY方向に各１組／18㎡(水平震度1.0、垂直震度0.5の場合)

※システム天井の耐震補強は、［「システム天井　新耐震基準」（2015年版）2015年3月制定ロックウール工業会　吸音部会　工法分科会］を適用する。但し、天井ふところ寸法2000mm以下に適用する。
また、システム天井下に懸仕切りを設置する場合、懸仕切り補強用ブレースを設置する。設置要領は［「システム天井の懸仕切りブレース補強ガイドライン」2015年版ロックウール工業会］を適用する。

ﾛ）ブレース設置角度　・θ＝30.0°～45.0°～60.0°（45.0°が望ましい）

ﾊ）ブレース先端は専用取り付け金物、下端は野縁受にビス2本で固定する。
ビス径は計算により求める。

ﾆ）在来天井のブレース適用材の目安は「耐震ブレースの設置目安表」による。

②軽量鉄骨天井下地と耐震ブレースの吊り元は、スラブや鉄骨小梁等、剛性の高い部材から吊ること。

③水平補強：天井ふところが1.5mを超える場合は水平補強材(野縁受同材以上)をタテ・ヨコ@1.8mごとに設け、吊ボルトとの固定は振れ止め取り付け金具を使用する。

④天井下地材の組み立ては全てビス止め（4φ×16以上）とし、原則として溶接止めは使用してはならない。

⑤壁際にクリアランスを設ける場合：壁と天井構成部材とは以下のクリアランスを確保し、必要に応じてスライド可能な回り縁を設ける。
- ※ＲＣ，ＳＲＣ造の時：クリアランスδ＝xH／200×2＋10～15mm程度の余裕
- ※Ｓ造の時　　：クリアランスδ＝xH／100×2＋10～15mm程度の余裕
- xH＝天井ふところ高さ：上階スラブ下から野縁下端までの距離とする。

⑥壁際を固定する場合、その他：「壁際固定 基本要領図」「廊下等壁補強 基本要領図」「天井下懸仕切壁上部補強 基本要領図」による。

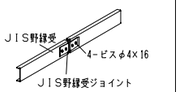
4．天井の落下防止処置

①在来天井　：※特殊な落下防止は図示による（別図）。

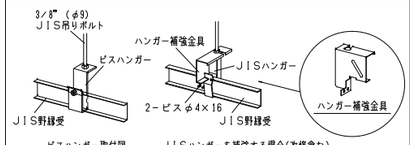
②システム天井　：※ボード落下防止クリップとワイヤーを設ける(樹脂製クリップは線径1.9mm以上とする)。
Ｔバーのジョイントは切り欠き差し込み式とし、クリップで固定する。

耐震補強使用標準部材参考図

①野縁受ジョイント補強

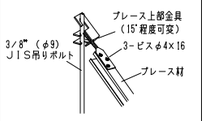


②ビスハンガー、ハンガー補強

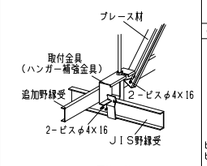


ビスハンガー取付図　　ＪＩＳハンガーを補強する場合(改修含む)

③耐震ブレース

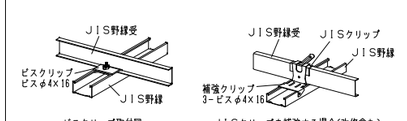


ブレース上端取付図



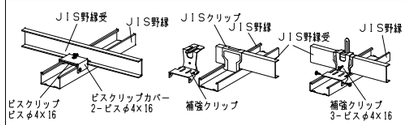
ブレース下端取付図

④ビスクリップ、補強クリップ



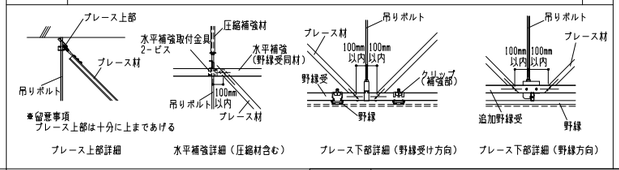
ビスクリップ取付図　　ＪＩＳクリップを補強する場合(改修含む)

⑤耐震ブレース周辺補強クリップ



ブレース周辺ビスクリップ補強図　　ブレース周辺ＪＩＳクリップを補強する場合(改修含む)

耐震ブレース設置 基本要領図



耐震ブレースの設置表

※耐震ブレースの設置面積とブレース適用材は以下とする。

ブレース負担面積（設置面積）の目安

天井重量（天井仕上の想定）	ブレース負担面積		
	水平震度1.0の場合	水平震度0.6の場合	水平震度0.4の場合
天井重量300N／㎡（石膏ボード3枚＋下地材又は金属パネル＋下地材程度）	8.6㎡	14.3㎡	21.5㎡
天井重量200N／㎡（捨貼り石膏ボード＋岩面吸音板＋下地材程度）	13.0㎡	21.6㎡	(30.0㎡)※
天井重量100N／㎡（化粧石膏ボード＋下地材又は軽金属パネル＋下地材程度）	26.0㎡	(30.0㎡)※	(30.0㎡)※

※仕上材料重量と水平震度によりブレース負担面積を算出、検証し提出すること。
※ブレースは出来るだけ多くバランス良く配置することが望ましいため約30㎡をブレース最大負担面積とする。

ブレース適用材の目安（許容圧縮耐力　2000N／一対の耐震ブレース）

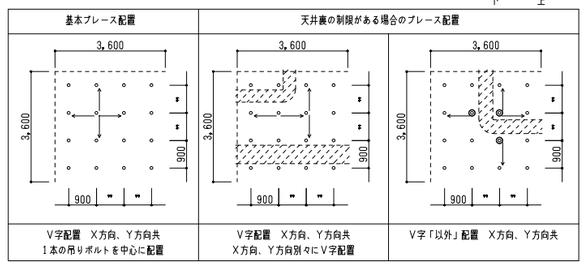
V字45°の場合の天井ふところ寸法	ブレース適用材	圧縮補強材	備考
530ｍｍ以下	C－38×12×1.2	□－19×19×1.2	全て細長比250以下
1060ｍｍ以下	L－30×30×3		
1370ｍｍ以下	L－40×40×3		
1900ｍｍ以下	C－60×30×10×1.6	□－25×25×1.2	

参考資料［「実務者のための既存体育館等の耐震改修の手引きと事例」平成16年(2004年) 8月 日本建築防災協会］

耐震ブレース設置 基本要領図（平面配置）

※ブレース配置例「3.6m×3.6m（約13㎡）の配置例」

凡例　○：吊りボルト　◯：圧縮補強材　→：ブレース　下　上

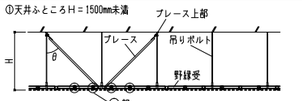


※ブレース配置留意事項
・ブレース相互の離れは、5.4m程度以内とする。[参考資料「体育館の天井の耐震設計ガイドライン」平成17年(2005年)5月（財)日本建築センター)]

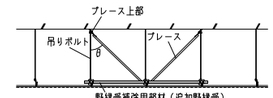
耐震ブレース設置 基本要領図（断面図）(注)補強クリップ、ハンガー補強は耐震補強区分Ｃの場合を示す

V字配置　θ＝30°～60°

①天井ふところH＝1500mm未満

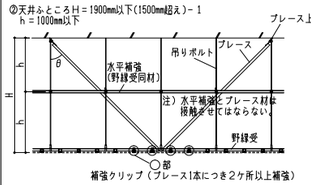


ブレース取付詳細1（野縁受方向）

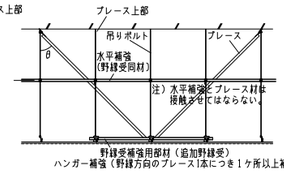


ブレース取付詳細1（野縁方向）

②天井ふところH＝1900mm以下(1500mm超え)－1
h＝1000mm以下

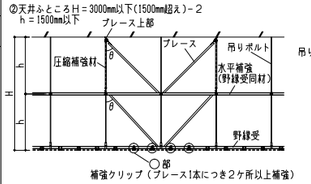


ブレース取付詳細2（野縁受方向）

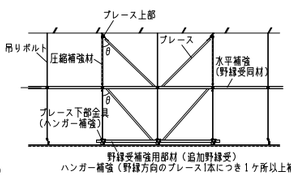


ブレース取付詳細2（野縁方向）

②天井ふところH＝3000mm以下(1500mm超え)－2
h＝1500mm以下

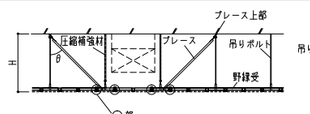


ブレース取付詳細3（野縁受け方向）

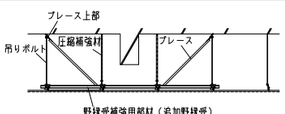


ブレース取付詳細3（野縁方向）

V字以外の配置　θ＝30°～60°



ブレース取付詳細4（野縁受け方向）
V字「以外」配置　※圧縮補強有り



ブレース取付詳細4（野縁方向）
V字「以外」配置　※圧縮補強有り

※屋外の軒天井，ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強は以下とする。（標準仕様書14.4.3(a)(b)、14.4.4(k)）（改修標準仕様書6.6.3(b)、6.6.4(k)）

1．一般事項

設計風圧力：外部仕上表の指示による。

2．屋外下地の形式及び寸法と耐風圧補強

※天井の下地適用部材は以下とする。

屋外天井下地適用部材表

設計風圧力			・2000N／㎡以下	・2500N／㎡以下	・3000N／㎡以下	・4000N／㎡以下
インサートピッチ			900	900	750	600
野縁受	部材		C－38×12×1.6	C－38×12×1.6	C－38×12×1.6	C－38×12×1.6
	ピッチ(単位mm)		900	600	750	600
野縁	部材		CW－25	CW－25	25形ダブル	25形ダブル
	ピッチ(単位mm)		225	300	300	300
ハンガー			耐風圧ハンガー	耐風圧ハンガー	耐風圧ハンガー	耐風圧ハンガー
クリップ			耐風圧クリップ（C38用）	耐風圧クリップ（C38用）	耐風圧クリップ（C38用）	耐風圧クリップ（C38用）
天井ふところ寸法（単位mm）	吊ボルト	9φ	400以下	450以下	400以下	430以下
		12φ	700以下	800以下	710以下	770以下
		9φ＋□-19×19×1.2	1900以下	2100以下	1900以下	2000以下

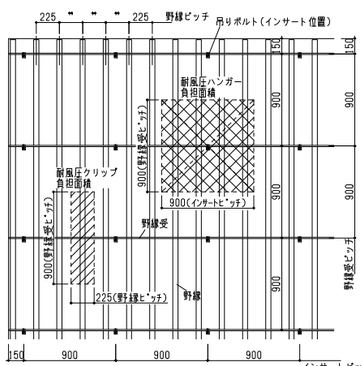
注）ケイ酸カルシウム板　t＝6mmの場合の部材選定目安（ケイ酸カルシウム板＋下地材：単位重量 100N／㎡）

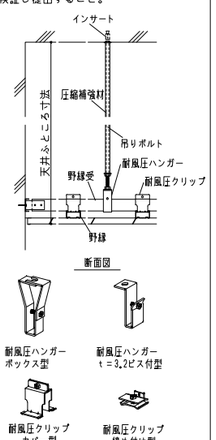
※仕上材料重量により、天井下地、天井取付けビスの強度計算書を作成、検証し提出すること。

「風圧力　2000N／㎡以下の場合の部材構成参考図」

・野縁受：［－38×12×1.6　@900mm

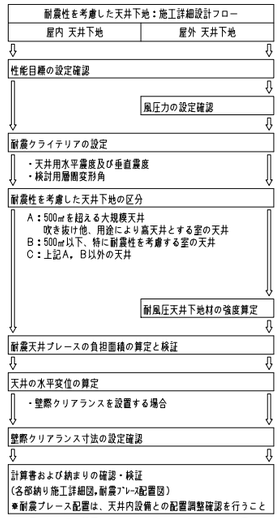
・野縁：CW－25　W－50×25×0.5　@225mm





※施工時詳細検討要領

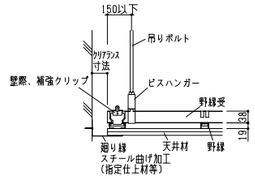
※以下のフローに基き、施工要領書，耐震，耐風圧計算書を作成、検証し提出すること。



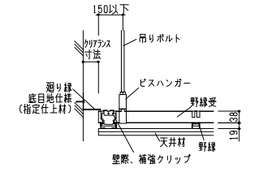
※耐震ブレースの設置は本図の各基本要領図によるが、耐震ブレースの設置が天井下地組立上困難な場合は、同等の効果のある部材補強等で代替処置を行って良いものとする。

壁際クリアランス設置 基本要領図

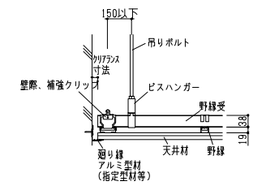
壁際クリアランス－1



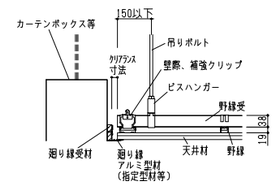
壁際クリアランス－2



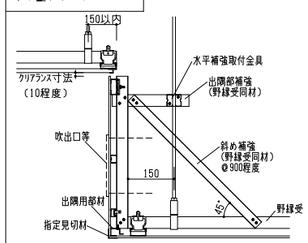
壁際クリアランス－3



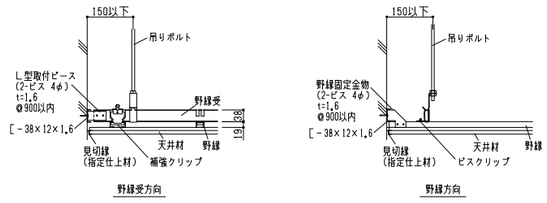
壁際クリアランス－4



下り壁クリアランス－1

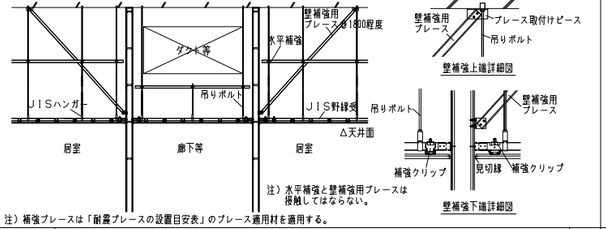


壁際固定 基本要領図



注）ロッキングする壁面へは固定してはならない。

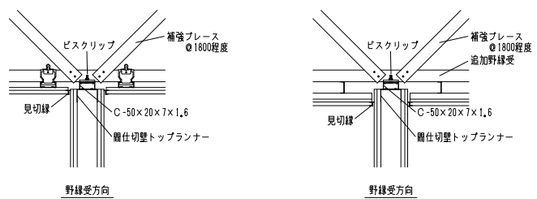
廊下等壁補強　基本要領図（廊下等で耐震ブレースの設置が難しい場合）



注）水平補強と壁補強用ブレースは接触してはならない。

注）補強ブレースは「耐震ブレースの設置目安表」のブレース適用材を適用する。

天井下懸仕切壁上部補強　基本要領図



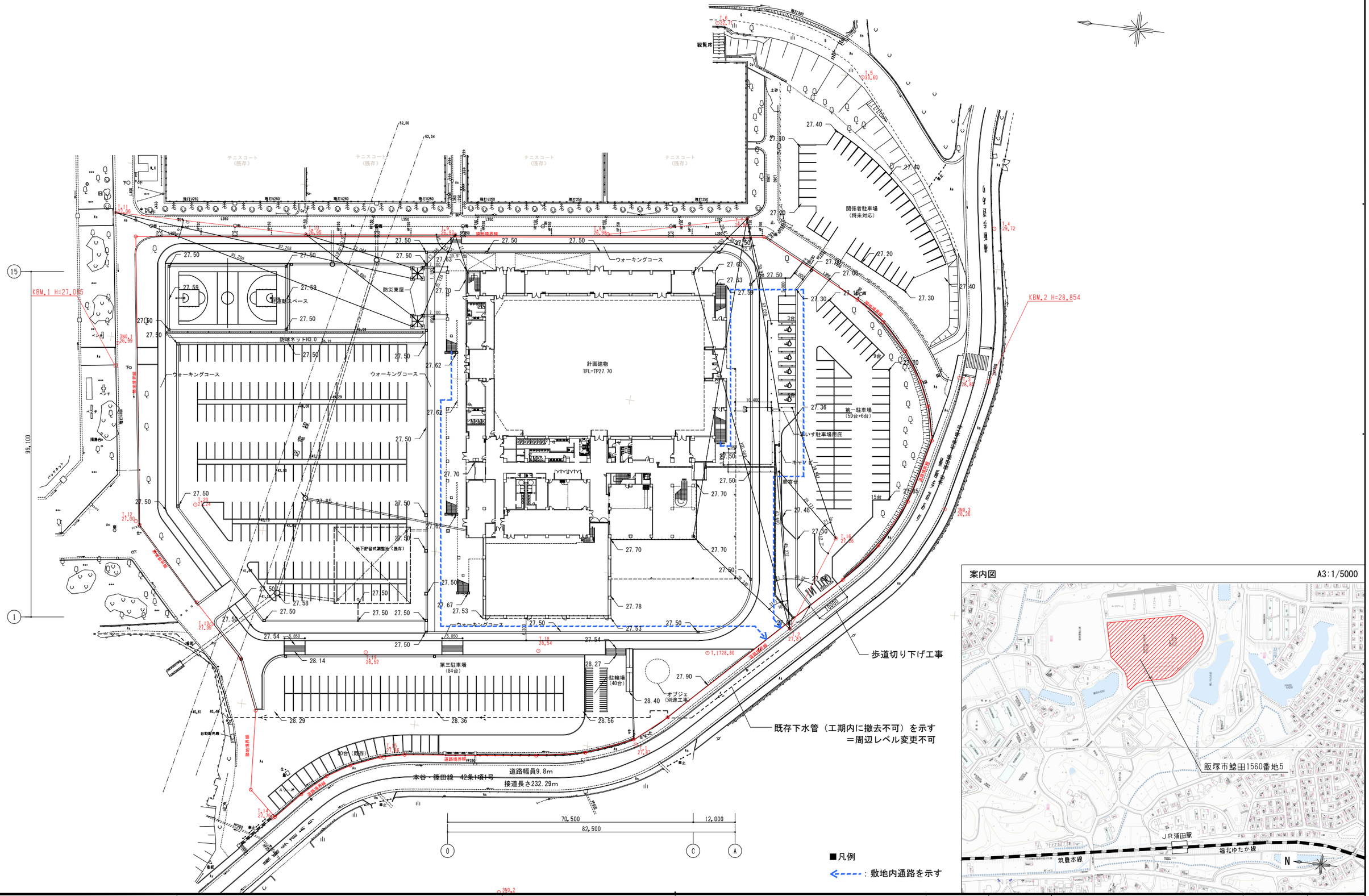
注）補強ブレースは「耐震ブレースの設置目安表」のブレース適用材を適用する。

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者						法適合確認欄		検証者
一級建築士		一級建築士		一級建築士		設備設計一級建築士		
第280187号		第336677号		第336801号		第5496号		
中川 崇		加野 正知		江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子		

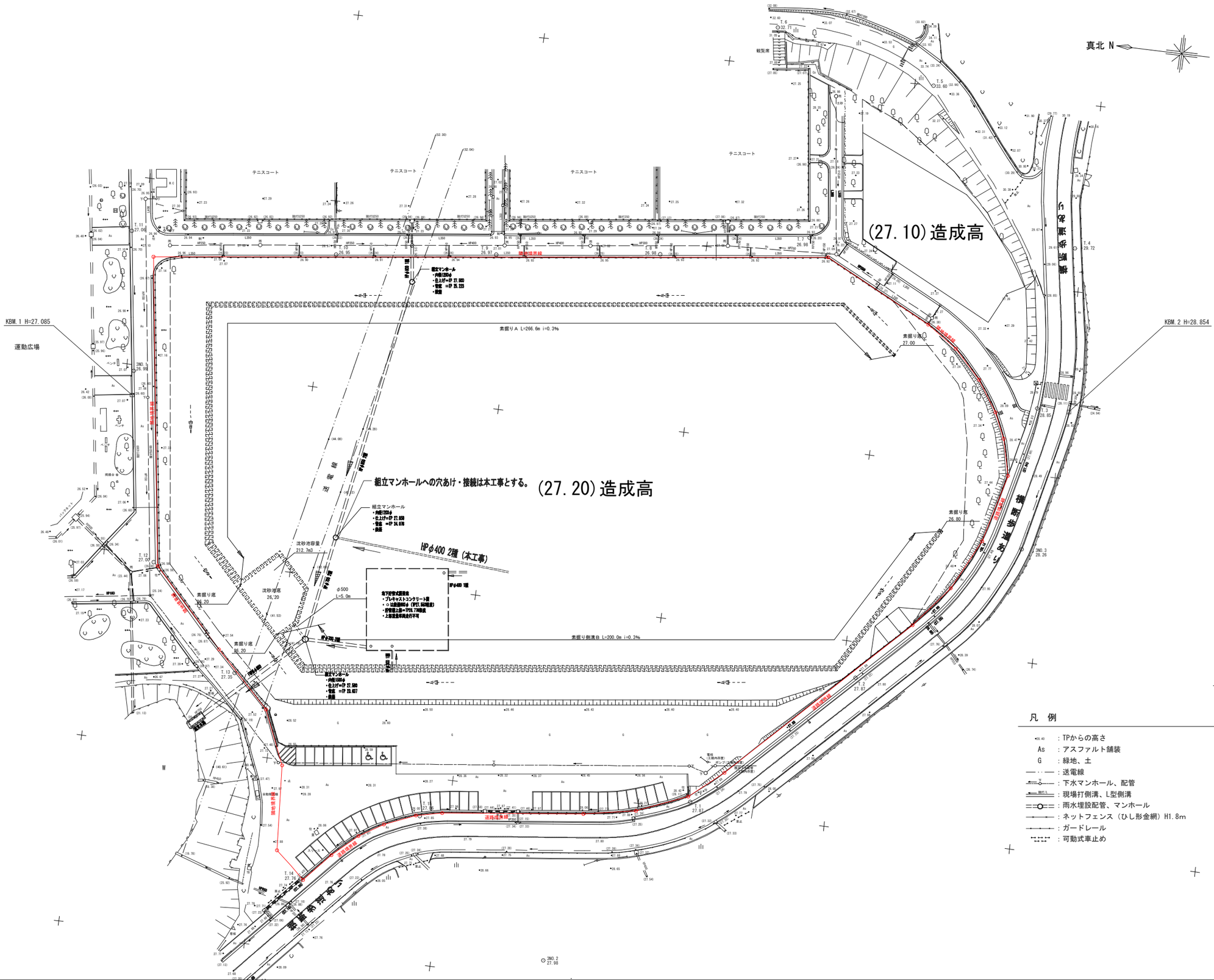
飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A － 017
耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図	縮尺 1／	日付 2019・11・15

制定：2012.07.20（2015.11.02改訂）

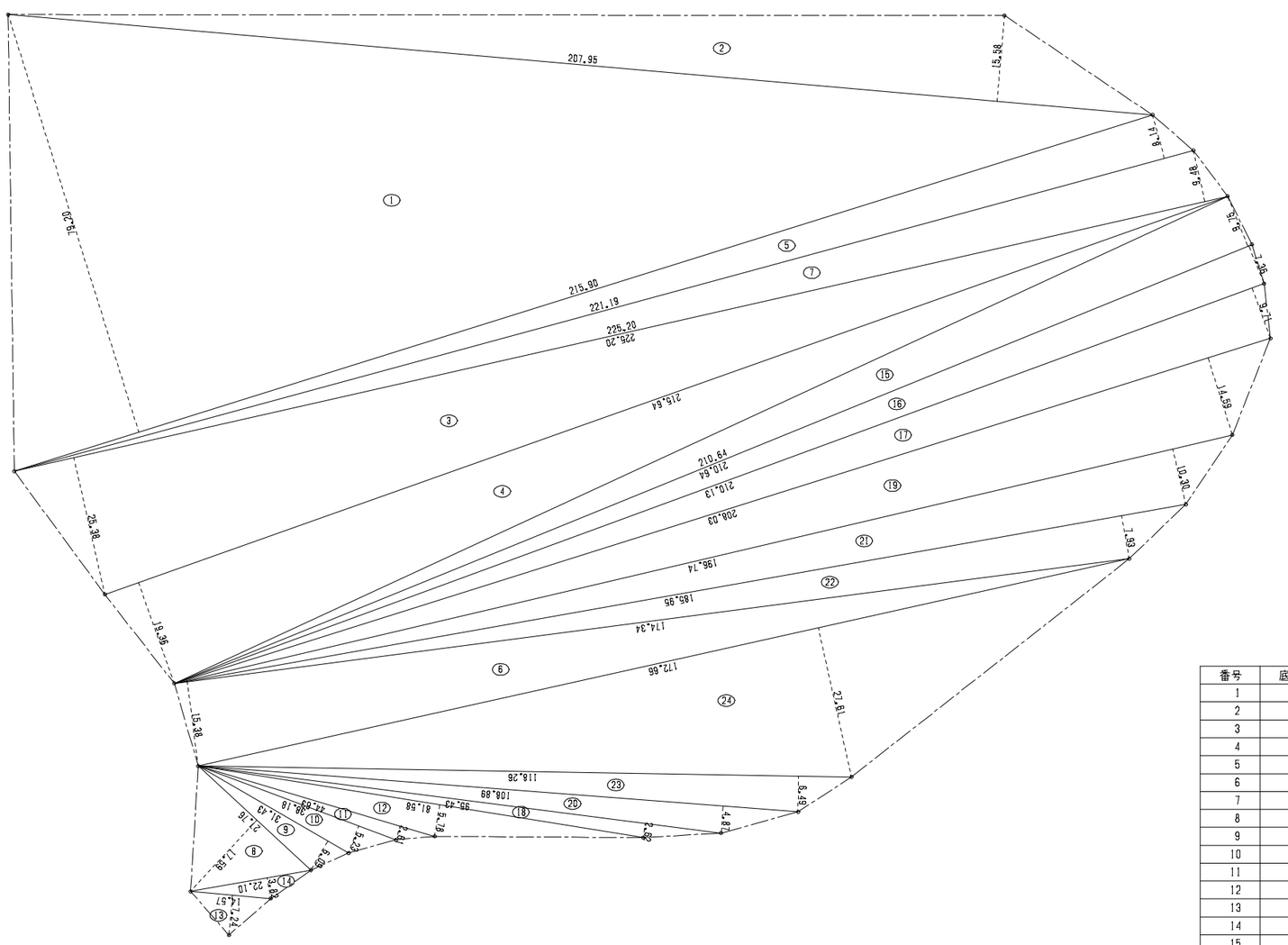


案内図　A3:1/5000

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者								法適合確認欄		検証者		飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 018
			一級建築士	一級建築士	一級建築士										配置図・案内図	縮尺 1/ A1:500 A3:1000	日付 2019・11・15
			第280187号	第336677号	第336801号						設備設計一級建築士						
			中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎				林 沙希子		椎葉 夏子						


真北 N
(27.10)造成高
(27.20)造成高
組立マンホールへの穴あけ・接続は本工事とする。
KBM.1 H=27.085
KBM.2 H=28.854
運動広場
テニスコート
素掘り A L=266.6m i=0.3%
素掘り側溝 B L=200.0m i=0.3%
HPφ400 2種（本工事）
既設雨水管
既設汚水管
既設道路境界線
既設建物
観覧席
沈砂池容量
212.7m3
素掘り底
26.20
素掘り底
26.80
素掘り底
27.00
組立マンホール
・内径1200φ
・仕上げ=IP 27.650
・管底 =IP 24.678
・鉄蓋
・内径1200φ
・仕上げ=IP 27.500
・管底 =IP 25.223
・鉄蓋
・内径1200φ
・仕上げ=IP 27.580
・管底 =IP 23.457
・鉄蓋
集水桝 1基
・プレキャストコンクリート製
・□ 内法300×300 (IP27.500固定)
・貯留管上端=IP25.770製品
・上部荷重車両走行不可
φ500
L=5.0m
T.1 27.87
T.2 27.87
T.3 27.80
T.4 29.72
T.5 33.60
T.6 32.71
T.7 26.98
T.8 26.98
T.9 26.97
T.10 26.95
T.11 27.04
T.12 27.00
T.13 27.35
T.14 27.76
3NO.1 26.99
3NO.2 27.98
3NO.3 28.26
凡 例
: TPからの高さ
As : アスファルト舗装
G : 緑地、土
: 送電線
: 下水マンホール、配管
: 現場打側溝、L型側溝
: 雨水埋設配管、マンホール
: ネットフェンス（ひし形金網）H1.8m
: ガードレール
: 可動式車止め

| | | |



番号	底　辺	高　さ	倍　面　積	面　積
1	215.90	79.20	17,099.2800	8,549.64000
2	207.95	15.58	3,239.8610	1,619.93050
3	225.20	25.38	5,715.5760	2,857.78800
4	215.64	19.36	4,174.7904	2,087.39520
5	221.19	8.14	1,800.4866	900.24330
6	174.34	15.38	2,681.3492	1,340.67460
7	225.20	9.48	2,134.8960	1,067.44800
8	27.76	17.59	488.2984	244.14920
9	31.43	6.09	191.4087	95.70435
10	38.18	5.23	199.6814	99.84070
11	44.63	2.61	116.4843	58.24215
12	81.58	5.78	471.5324	235.76620
13	14.57	7.24	105.4868	52.74340
14	22.10	3.82	84.4220	42.21100
15	210.64	9.75	2,053.7400	1,026.87000
16	210.64	7.36	1,550.3104	775.15520
17	210.13	9.71	2,040.3623	1,020.18115
18	95.43	2.62	250.0266	125.01330
19	208.03	14.59	3,035.1577	1,517.57885
20	108.89	4.87	530.2943	265.14715
21	196.74	10.30	2,026.4220	1,013.21100
22	185.95	7.93	1,474.5835	737.29175
23	118.26	6.49	767.5074	383.75370
24	172.66	27.61	4,767.1426	2,383.57130
合　計				28,499.55000
敷地面積				28,499.55 m52

飯塚新体育館

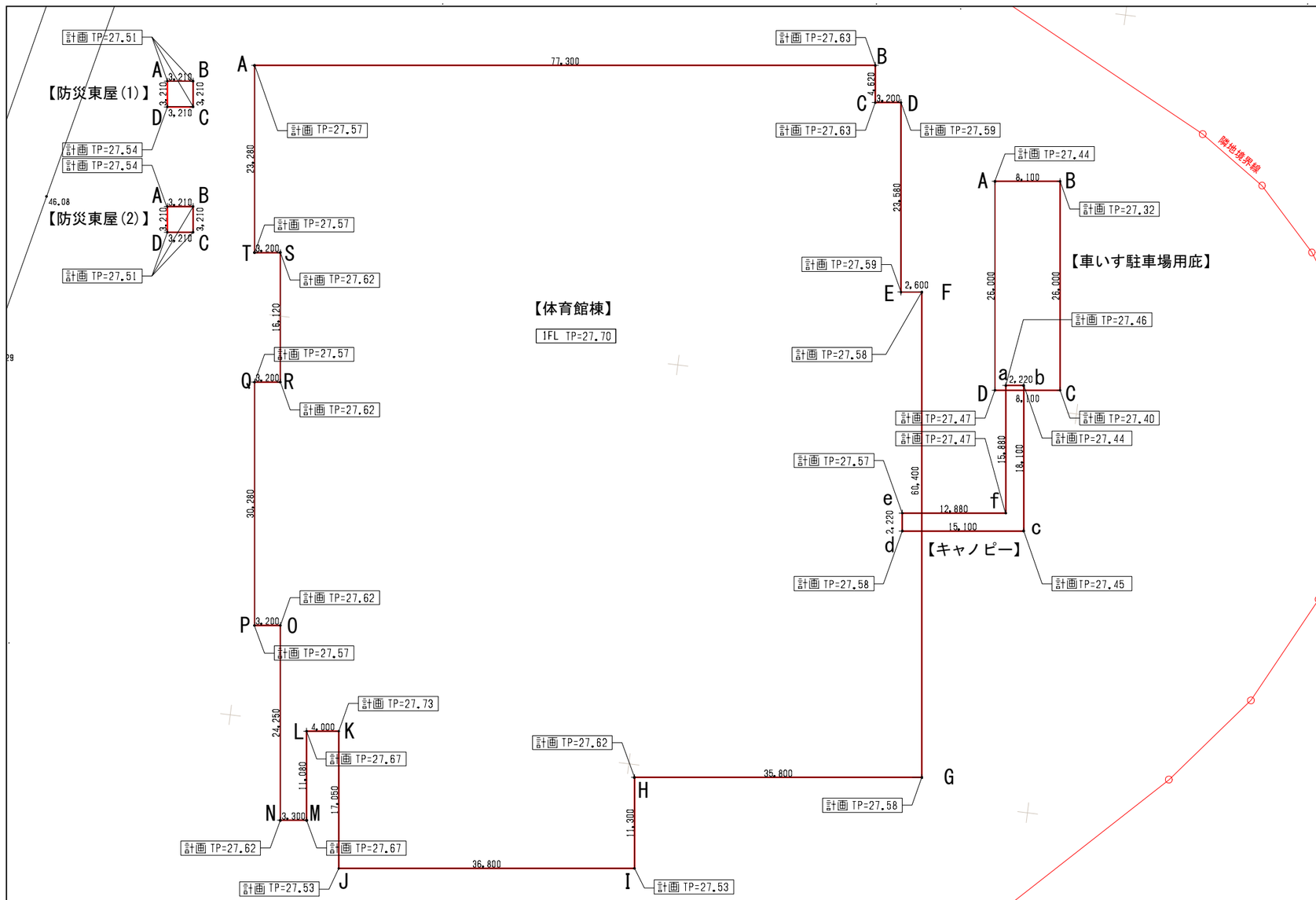
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士				設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号				第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子			椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 020
敷地求積図	縮尺 1/A1:300 A3:600	日付 2019・11・18



■日影用　全体平均地盤面

全周長＝	554.840	m
面積合計＝	1416.515	㎡
面積合計/全周長＝	2.55	m
平均地盤 TP＝	＋27.55	m （TP+25.(＋ 2.55 ）

■キャノピー　地盤面算定表

全周長＝	66.400	m
面積合計＝	164.988300	㎡
面積合計/全周長＝	2.48	m
平均地盤 TP＝	＋27.48	m （TP+25.00 ＋ 2.48 ）

ポイント	TP	高さ(m)	区間距離(m)		算定式 （A+B)×距離×1/2	面積(㎡)
a	27.46	2.460	a-b間	2.220	（ 2.460 ＋ 2.440)× 2.220 × 1/2	5.439000
b	27.44	2.440				
b	27.44	2.440	b-c間	18.100	（ 2.440 ＋ 2.450)× 18.100 × 1/2	44.254500
c	27.45	2.450				
c	27.45	2.450	c-d間	15.100	（ 2.450 ＋ 2.580)× 15.100 × 1/2	37.976500
d	27.58	2.580				
d	27.58	2.580	d-e間	2.220	（ 2.580 ＋ 2.570)× 2.220 × 1/2	5.716500
e	27.57	2.570				
e	27.57	2.570	e-f間	12.880	（ 2.570 ＋ 2.470)× 12.880 × 1/2	32.457600
f	27.47	2.470				
f	27.47	2.470	f-a間	15.880	（ 2.470 ＋ 2.460)× 15.880 × 1/2	39.144200
a	27.46	2.460				
			小計	66.400		164.988300

※高さはTP+25.00からの高さとする

■体育館棟　地盤面算定表

全周長＝	394.560	m
面積合計＝	1022.673500	㎡
面積合計/全周長＝	2.59	m
平均地盤 TP＝	＋27.59	m （TP+25.(＋ 2.59 ）

ポイント	TP	高さ(m)	区間距離(m)		算定式 （A+B)×距離×1/2	面積(㎡)
A	27.57	2.570	A-B間	77.300	（ 2.570 ＋ 2.630)× 77.300 × 1/2	200.980000
B	27.63	2.630				
B	27.63	2.630	B-C間	4.620	（ 2.630 ＋ 2.630)× 4.620 × 1/2	12.150600
C	27.63	2.630				
C	27.63	2.630	C-D間	3.200	（ 2.630 ＋ 2.590)× 3.200 × 1/2	8.352000
D	27.59	2.590				
D	27.59	2.590	D-E間	23.580	（ 2.590 ＋ 2.590)× 23.580 × 1/2	61.072200
E	27.59	2.590				
E	27.59	2.590	E-F間	2.600	（ 2.590 ＋ 2.580)× 2.600 × 1/2	6.721000
F	27.58	2.580				
F	27.58	2.580	F-G間	60.400	（ 2.580 ＋ 2.580)× 60.400 × 1/2	155.832000
G	27.58	2.580				
G	27.58	2.580	G-H間	35.800	（ 2.580 ＋ 2.620)× 35.800 × 1/2	93.080000
H	27.62	2.620				
H	27.62	2.620	H-I間	11.300	（ 2.620 ＋ 2.530)× 11.300 × 1/2	29.097500
I	27.53	2.530				
I	27.53	2.530	I-J間	36.800	（ 2.530 ＋ 2.530)× 36.800 × 1/2	93.104000
J	27.53	2.530				
J	27.53	2.530	J-K間	17.050	（ 2.530 ＋ 2.730)× 17.050 × 1/2	44.841500
K	27.73	2.730				
K	27.73	2.730	K-L間	4.000	（ 2.730 ＋ 2.670)× 4.000 × 1/2	10.800000
L	27.67	2.670				
L	27.67	2.670	L-M間	11.080	（ 2.670 ＋ 2.670)× 11.080 × 1/2	29.583600
M	27.67	2.670				
M	27.67	2.670	M-N間	3.300	（ 2.670 ＋ 2.620)× 3.300 × 1/2	8.728500
N	27.62	2.620				
N	27.62	2.620	N-O間	24.250	（ 2.620 ＋ 2.620)× 24.250 × 1/2	63.535000
O	27.62	2.620				
O	27.62	2.620	O-P間	3.200	（ 2.620 ＋ 2.570)× 3.200 × 1/2	8.304000
P	27.57	2.570				
P	27.57	2.570	P-Q間	30.280	（ 2.570 ＋ 2.570)× 30.280 × 1/2	77.819600
Q	27.57	2.570				
Q	27.57	2.570	Q-R間	3.200	（ 2.570 ＋ 2.620)× 3.200 × 1/2	8.304000
R	27.62	2.620				
R	27.62	2.620	R-S間	16.120	（ 2.620 ＋ 2.620)× 16.120 × 1/2	42.234400
S	27.62	2.620				
S	27.62	2.620	S-T間	3.200	（ 2.620 ＋ 2.570)× 3.200 × 1/2	8.304000
T	27.57	2.570				
T	27.57	2.570	T-U間	23.280	（ 2.570 ＋ 2.570)× 23.280 × 1/2	59.829600
A	27.57	2.570				
			小計	394.560		1,022.673500

※高さはTP+25.00からの高さとする

■車いす駐車場用庇　地盤面算定表

全周長＝	68.200	m
面積合計＝	164.203650	㎡
面積合計/全周長＝	2.40	m
平均地盤 TP＝	＋27.40	m （TP+25.(＋ 2.40 ）

ポイント	TP	高さ(m)	区間距離(m)		算定式 （A+B)×距離×1/2	面積(㎡)
A	27.44	2.440	A-B間	8.100	（ 2.440 ＋ 2.323)× 8.100 × 1/2	19.290150
B	27.32	2.323				
B	27.32	2.320	B-C間	26.000	（ 2.320 ＋ 2.400)× 26.000 × 1/2	61.360000
C	27.40	2.400				
C	27.40	2.400	C-D間	8.100	（ 2.400 ＋ 2.470)× 8.100 × 1/2	19.723500
D	27.47	2.470				
D	27.47	2.470	D-E間	26.000	（ 2.470 ＋ 2.440)× 26.000 × 1/2	63.830000
A	27.44	2.440				
			小計	68.200		164.203650

※高さはTP+25.00からの高さとする

■防災東屋(1)　地盤面算定表

全周長＝	12.840	m
面積合計＝	32.324700	㎡
面積合計/全周長＝	2.51	m
平均地盤 TP＝	＋27.51	m （TP+25.00 ＋ 2.51 ）

ポイント	TP	高さ(m)	区間距離(m)		算定式 （A+B)×距離×1/2	面積(㎡)
A	27.51	2.510	A-B間	3.210	（ 2.510 ＋ 2.510)× 3.210 × 1/2	8.057100
B	27.51	2.510				
B	27.51	2.510	B-C間	3.210	（ 2.510 ＋ 2.510)× 3.210 × 1/2	8.057100
C	27.51	2.510				
C	27.51	2.510	C-D間	3.210	（ 2.510 ＋ 2.540)× 3.210 × 1/2	8.105250
D	27.54	2.540				
D	27.54	2.540	D-A間	3.210	（ 2.540 ＋ 2.510)× 3.210 × 1/2	8.105250
A	27.51	2.510				
			小計	12.840		32.324700

※高さはTP+25.00からの高さとする

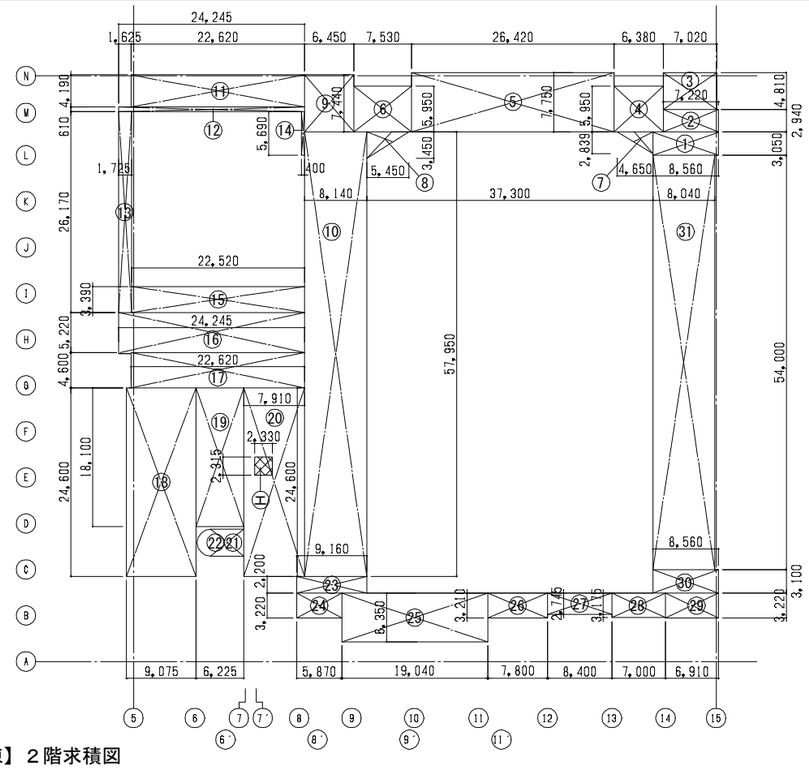
■防災東屋(2)　地盤面算定表

全周長＝	12.840	m
面積合計＝	32.324700	㎡
面積合計/全周長＝	2.51	m
平均地盤 TP＝	＋27.51	m （TP+25.00 ＋ 2.51 ）

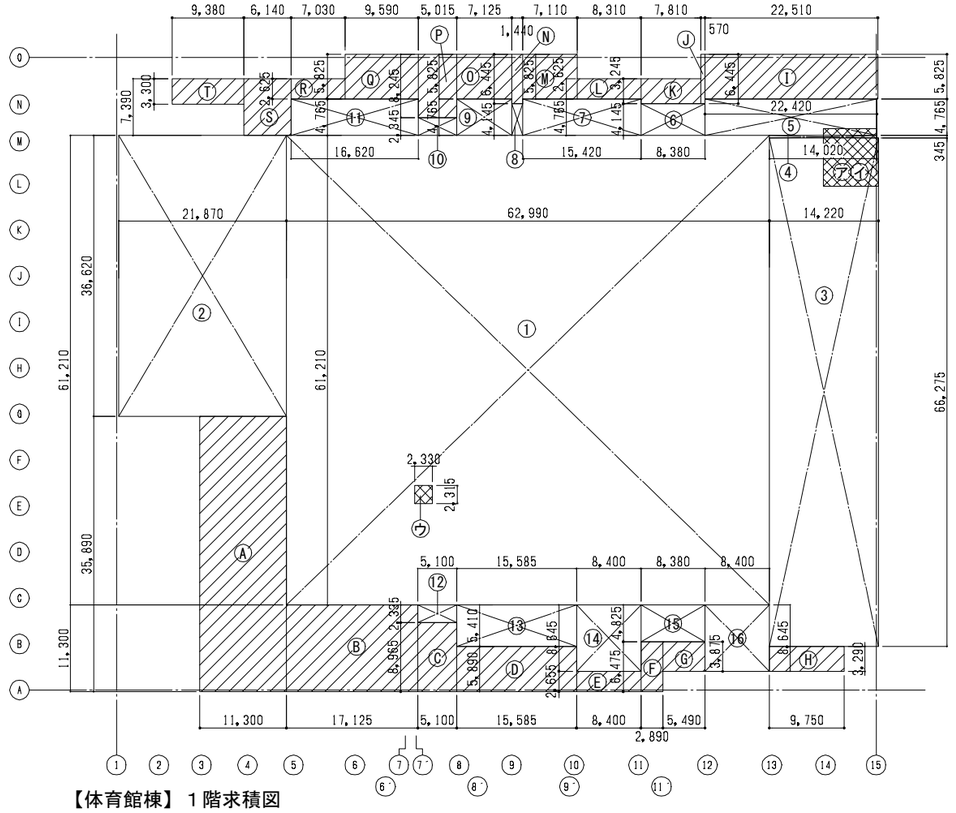
ポイント	TP	高さ(m)	区間距離(m)		算定式 （A+B)×距離×1/2	面積(㎡)
A	27.54	2.540	A-B間	3.210	（ 2.540 ＋ 2.510)× 3.210 × 1/2	8.105250
B	27.51	2.510				
B	27.51	2.510	B-C間	3.210	（ 2.510 ＋ 2.510)× 3.210 × 1/2	8.057100
C	27.51	2.510				
C	27.51	2.510	C-D間	3.210	（ 2.510 ＋ 2.510)× 3.210 × 1/2	8.057100
D	27.51	2.510				
D	27.51	2.510	D-A間	3.210	（ 2.510 ＋ 2.540)× 3.210 × 1/2	8.105250
A	27.54	2.540				
			小計	12.840		32.324700

※高さはTP+25.00からの高さとする

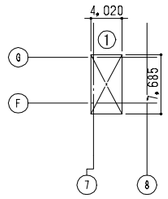
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者			法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 021
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎 / 林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		平均地盤面算定図	縮尺 1/150 1/300	日付 2019・11・15



【体育館棟】２階求積図

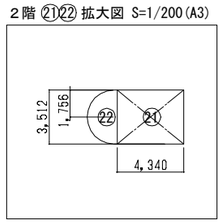


【体育館棟】１階求積図

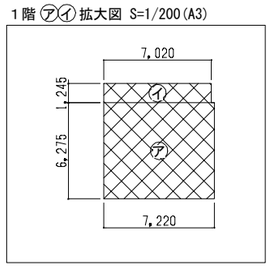


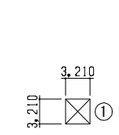
【体育館棟】PH階求積図

２階 ㉑㉒ 拡大図 S=1/200(A3)

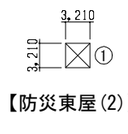


１階 ㋐㋑ 拡大図 S=1/200(A3)

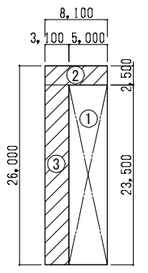




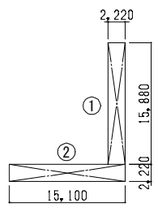
【防災東屋(1)】



【防災東屋(2)】



【車いす
駐車場用庇】



【キャノピー】

【体育館棟】
1階 求積表

番号	計算式				面積(㎡)
1	62.990	x	61.210	=	3855.6179
2	21.870	x	36.620	=	800.8794
3	14.220	x	66.275	=	942.4305
4	14.020	x	0.345	=	4.8369
5	22.420	x	4.765	=	106.8313
6	8.380	x	4.145	=	34.7351
7	15.420	x	4.765	=	73.4763
8	1.440	x	4.145	=	5.9688
9	7.125	x	4.765	=	33.9506
10	5.015	x	2.345	=	11.7602
11	16.620	x	4.765	=	79.1943
12	5.100	x	2.335	=	11.9085
13	15.585	x	5.410	=	84.3149
14	8.400	x	8.645	=	72.6180
15	8.380	x	4.825	=	40.4335
16	8.400	x	8.645	=	72.6180
1階床面積合計(あ)					6,231.5744
ア	7.220	x	6.275	=	45.3055
イ	7.020	x	1.245	=	8.7399
ウ	2.330	x	2.315	=	5.3940
1階容積対象外床面積合計(い)					59.4394
1階容積対象床面積合計(あ)-(い)					6,172.1348
					6,172.13

建築面積算入部分

番号	計算式				面積(㎡)
A	11.300	x	35.890	=	405.5570
B	17.125	x	11.300	=	193.5125
C	5.100	x	8.965	=	45.7215
D	15.585	x	5.890	=	91.7957
E	8.400	x	2.655	=	22.3020
F	2.890	x	6.475	=	18.7128
G	5.490	x	3.875	=	21.2738
H	9.750	x	3.290	=	32.0775
I	22.510	x	5.825	=	131.1208
J	0.570	x	6.445	=	3.6737
K	7.810	x	3.245	=	25.3435
L	8.310	x	2.625	=	21.8138
M	7.110	x	5.825	=	41.4158
N	1.440	x	6.445	=	9.2808
O	7.125	x	5.825	=	41.5031
P	5.015	x	8.245	=	41.3487
Q	9.590	x	5.825	=	55.8618
R	7.030	x	2.625	=	18.4538
S	6.140	x	7.390	=	45.3746
T	9.380	x	3.300	=	30.9540
建築面積算入部分合計(う)					1,297.0967
建築面積合計(あ)+(う)					7,528.6709
					7,528.67

【体育館棟】
2階 求積表

番号	計算式								面積(㎡)
1	8.560	x	3.050					=	26.1080
2	7.220	x	2.940					=	21.2268
3	7.020	x	4.810					=	33.7662
4	6.380	x	5.950					=	37.9610
5	26.420	x	7.750					=	204.7550
6	7.530	x	5.950					=	44.8035
7	4.650	x	2.839	x	1/2			=	6.6007
8	5.450	x	3.450	x	1/2			=	9.4013
9	6.450	x	7.440					=	47.9880
10	8.140	x	57.950					=	471.7130
11	22.620	x	4.190					=	94.7778
12	24.245	x	0.610					=	14.7895
13	1.725	x	26.170					=	45.1433
14	0.400	x	5.690					=	2.2760
15	22.520	x	3.390					=	76.3428
16	24.245	x	5.220					=	126.5589
17	22.620	x	4.600					=	104.0520
18	9.075	x	24.600					=	223.2450
19	6.225	x	18.100					=	112.6725
20	7.910	x	24.600					=	194.5860
21	4.340	x	3.512					=	15.2421
22	1.756	x	1.756	x	π	x	1/2	=	4.8436
23	9.160	x	2.200					=	20.1520
24	5.870	x	3.220					=	18.9014
25	19.040	x	6.350					=	120.9040
26	7.800	x	3.210					=	25.0380
27	8.400	x	2.745					=	23.0580
28	7.000	x	3.175					=	22.2250
29	6.910	x	3.220					=	22.2502
30	8.560	x	3.100					=	26.5360
31	8.040	x	54.000					=	434.1600
2階床面積合計(え)									2,632.0774
エ	2.330	x	2.315					=	5.3940
2階容積対象外床面積合計(お)									5.3940
2階容積対象床面積合計(あ)-(い)									2,626.6874
									2,626.68

【体育館棟】
PH階 求積表

番号	計算式				面積(㎡)
1	4.020	x	7.685	=	30.8937
					30.8937
3階床面積合計					30.89
3階容積対象床面積合計					30.89

【車いす駐車場用庇】
求積表

番号	計算式				面積(㎡)
1	5.000	x	23.500	=	117.5000
床面積					117.5000
2	8.100	x	2.500	=	20.2500
3	3.100	x	23.500	=	72.8500
建築面積算入部分合計					93.1000
建築面積合計					210.6000

【キャノピー】
求積表

番号	計算式				面積(㎡)
1	2.200	x	15.880	=	34.9360
2	15.100	x	2.200	=	33.2200
合計					68.1560

【防災東屋(1)(2)】
求積表

番号	計算式				面積(㎡)
1	3.210	x	3.210	=	10.3041

■建築面積

棟別	体育館棟	車いす駐車場用庇	キャノピー	防災東屋(1)	防災東屋(2)
	7,528.67	210.60	68.16	10.30	10.30
建築面積合計					7,828.03

■法定床面積

棟別	体育館棟	車いす駐車場用庇	キャノピー	防災東屋(1)	防災東屋(2)
PH階	30.89				
2階	2,632.07				
1階	6,231.57	117.50	-	10.30	10.30
計	8,894.53	117.50	-	10.30	10.30
法廷床面積合計					9,032.63

■容積対象外床面積

棟別	体育館棟	車いす駐車場用庇	キャノピー	防災東屋(1)	防災東屋(2)
PH階	-				
2階	5.39				
1階	59.44	-	-	-	-
計	64.83	-	-	-	-
容積対象外床面積合計					64.83

■容積対象床面積

棟別	体育館棟	車いす駐車場用庇	キャノピー	防災東屋(1)	防災東屋(2)
PH階	30.89				
2階	2,626.68				
1階	6,172.13	117.50	-	10.30	10.30
計	8,829.70	117.50		10.30	10.30
容積対象床面積合計					8,967.80

敷地面積			28,499.55	㎡
建ぺい率 (法定60%)	7828.03 ÷ 28499.55 × 100 =		27.47	%
容積率 (法定200%)	8967.80 ÷ 28499.55 × 101 =		31.47	%

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 幸	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

建物求積図・面積表

設計番号 16779

図面番号 A — 022

縮尺 1/1:400 A3:1/800

日付 2019・11・15

共通事項

内装材料（不燃・準不燃材料）認定番号

（材料名の○印は本工事に適用する）

	材料名	認定番号
不燃材料	・繊維強化セメント板（フレキシブル板）	NM-8576
	○繊維強化セメント板（けい酸カルシウム板（タイプ2））	NM-8576
	○化粧繊維強化セメント板（化粧フレキシブル板）	NM-8577
	○化粧繊維強化セメント板（化粧けい酸カルシウム板（タイプ2））	NM-8577
	○せっこうボード　⑦・12.5・15	NM-8619
	○強化せっこうボード⑦・12.5・15・21・	NM-8615
	○化粧せっこうボード⑦9.5（不燃せっこう繊層板）	NM-8613
	・化粧せっこうボード⑦12.5	NM-8614
	○ロックウール化粧吸音板	NM-8599
	・ロックウール保温材、吸音材	NM-8600
	・ロックウールガラスクロス張り	NM-8602

	材料名	認定番号
不燃材料	○グラスウール保温材、吸音材	NM-8605
	○グラスウールガラスクロス張り	NM-8606
	・吹付けロックウール	NM-8601
準不燃材料	○せっこうボード⑦9.5	QM-9828
	・化粧せっこうボード⑦9.5	QM-9824
	○シージングせっこうボード	QM-9826
	○吸音用あなあきせっこうボード	QM-9827
	・普通木片セメント板	QM-9705
	・硬質木片セメント板	QM-9706
	・木毛セメント板	QM-9701
	○化粧木毛セメント板	QM-9020

壁装材料（壁紙）認定番号

材料名	防火種別	材料名	防火種別
紙壁紙		無機質壁紙	第　号
織物壁紙			
ビニル壁紙			
化学繊維壁紙			

内装制限記号

仕上げ材 記号	内装制限区分	下地材 記号	内装制限区分
a	不燃以上	イ	不燃以上
b	準不燃以上	ロ	準不燃以上
c	難燃以上	ハ	制限なし
d	制限なし		

基材・工法・材料記号

	記号	基材・工法・材料名
基材	C	コンクリート
	LC	軽量コンクリート
	SB	鉄筋
	RS	一般構造用圧延鋼材
	LGS	一般構造用軽量形鋼材
	SF	建築用調製下地材（壁・天井下地材）
	CB	コンクリートブロック
	ALC	オートクレーブ軽量気泡コンクリート
	ECP	押出成形セメント板
	PC	プレキャストコンクリート
	M	モルタル
	ST	鋼板
	AL	アルミニウム
	SUS	ステンレス
	TB	テラゾーブロック
工法	T	金ゴテ仕上げ
	F	刷毛引き仕上げ
塗料	SOP	合成樹脂調合ペイント
	EP	合成樹脂エマルションペイント
	EP-T	合成樹脂エマルション模様塗料
	EP-G	つや有り合成樹脂エマルションペイント
	NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料
	AE	アクリル樹脂エナメル
	FE	フタル酸樹脂エナメル
	2-UE	2液形ポリウレタンエナメル
	CL	クリヤーラッカー
	UC	ウレタン樹脂ワニス
	2-ASE	アクリルシリコン樹脂エナメル
	2-FUE	常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル
	OS	オイルステイン
		マスチック塗材塗
		防塵用塗料塗り

	記号	基材・工法・材料名
塗料	B-AE	焼付形アクリル樹脂エナメル
	B-UE	焼付形1液ウレタン樹脂エナメル
	B-FE(F)	中温焼付形ふっ素樹脂エナメル(FEVE系)
	B-FE(P)	高温焼付形ふっ素樹脂エナメル(PFVd系)
	ASC	アクリルシリコーン樹脂クリア塗り
	FUC	常温乾燥形ふっ素樹脂クリア塗り
	DP	耐候性塗料塗り
	WP	木材保護塗料塗り
床	VS(1)	ビニル床シート
	VT(1)	ビニル床タイル
	CP(1)	カーペット
壁	CL(1)	壁紙
	PW(1)	合板
内装材料	GB(R)	せっこうボード
	GB(F)	強化せっこうボード
	GB(D)	化粧せっこうボード
	GB(S)	シージングせっこうボード
	GB(P)	吸音用あなあきせっこうボード
	GB(L)	せっこうラスボード
	GB(NC)	不燃積層せっこうボード
外装材料	F	繊維強化セメント板（フレキシブル板）
	FK	繊維強化セメント板（けい酸カルシウム板（タイプ2））
	FK(2)	化粧繊維強化セメント板（化粧けい酸カルシウム板（タイプ2））
	DR(1)	ロックウール化粧吸音板
	DR(2)	ロックウール化粧吸音板（立体成形模様）
	RWB	ロックウールボードガラスクロス張り
	GWB	グラスウールボードガラスクロス張り

特記事項

・内装工事に使用する材料は、原則フォースター認定品とする。
・特記なき限り、外部に露出する鉄鋼面は溶融亜鉛めっきのDP塗装とする。一般部屋内見えがかり部は一般錆止め塗料+SOP。
　また、見え隠れ部は一般錆止め塗料までとする。
・大庇の鉄骨柱の溶接ビート位置は、現場監理者の確認の上、決定すること。
・外壁に面するサブリーナ乾式壁壁面内、PS・EPS・DS内壁は仕上げは行わず断熱までとする。
・土に接するビット外壁・基礎部のコンクリート打継部には必要に応じ止水板（早川ゴム：スパンシールW200マ6回等品）を打ち込む。
・コンクリート外壁は、特記なき限り増打20mmとする。コンクリート内壁は、特記なき限り10mmとする。
・コンクリートスラブは、特記なき限り増打10mmとする。
・内部のコンクリート打放し塗装面は壁符号に関らず素地こしらえA種とする。クロス、EP仕上げ部は下地補修を見込むこと。
・PS、EPSは、特記なき限り各階毎にスラブを設ける。
・巾木高さは、特記なき限りH=60とする。
・塗装、クロス仕上のジョイント部は寒冷紗パテしごきとする。
・特記なき限り、見えがかりステンレスは、特記なき限りSUS304HL仕上げとする。
・防塵塗装はアクリル樹脂系（ABC商会カラートップU同等品）とする。
・外部に使用するボルト、ナット類は全てSUS304とする。
・防火区画壁に埋め込まれる消火栓、消火器ボックス、サイン等の裏面は、壁面と同性能の耐火性能を保持できるよう手当てする。
・消火水糟ピットは、ケイ酸質系浸透防水塗料(菊水化学：ソロシール同等品)、EVピットは床、立上り共ケイ酸系塗布防水とする。
・特記なき限り防火戸、EPS、PS点検扉、消火器ボックス等の仕上げについては、近接する壁面仕上げと同材で仕上げる。
・排水溝の防水は、ケイ酸質系防水（保土ヶ谷バンデックス建材、バンデックスS+PT法同等品）とする。
・告示1436第四号二の（ニ）による防煙壁は下地に不燃材で区画形成を行うこと。
・特記なき限り、アルミ材外部は、B-FE(F)、内部はB-AEとする。
・床下点検口は特記なき限り、T-2、防湿、防臭、化粧目地タイプ、蝶付き(600×600)とする。機械室は鋼鉄製マンホール(600φ)完全防水型とする。
・床下点検口にはすべてにタラップを設けること。ピット内人通口上部には、すべてに取手を設けること。
・押えコンクリート内は溶接金網100×100×6.0φ入りとし、3m内外に目地を設ける。
・床の仕上げの異なる部分には、特記なき限りSUS目地棒ア6を設ける。
・コンクリート化粧打放の内、OSB型枠範囲におけるPコンはチューブコーン等見付の小さなPコンとする。
・コンクリート化粧打放の伸縮目地、パネル目地、Pコン位置については事前に十分意匠性含めて検討の上、監修員の了承を得ること。
・RC出隅部はFL+1800まで面取り10とする。
・壁付の手すりや設備等は、補強を行うため取付け箇所の下地補強(構造用合板 t=12)を見込むこと。
・内部における RC打放面は、巾木無しとする。
・壁・石膏ボード・貼り部はジョイント工法を基本とし、部位によっては目地を設ける。
・ボードやパネル目地が出る場合は目地割付を行い設備プロットを調整の上、現場監督者に承認をとること。
・外部に面する壁における GL工法は、特記なき限り断熱工法(硬質ウレタンフォームt=25吹付)とする。
・天井補強区分は耐震・耐風圧・天井補強特記容量図によるものとする。
・RC表し部には@3m程度に誘発目地を設ける。コンクリートの打継は全て目地を設けて行うこと。目地位置は監理者の承認を受けること。
・大庇鉄骨梁の見えがかり接合部の添え板の位置は、監理者の承認を受けること。
・木巾木はタモ材H60×05とする。
・置き型の消火器(9か所)は消火器ﾎﾞｯｸｽUFB-3F-2401同等を見込むこと。
・鉄骨柱と外構舗装の取り合いは、監理者に承認をとること。
・コンクリート化粧型枠、タイル、金属パネル、天然木化粧合板等の割付が必要な材料の施工にあたっては、割付図を作成の上、係員に確認を行った上でせこうすること。
・コンクリート化粧打放し仕上げは、目違い、肌違い、色合い等の極めて少ない平坦な仕上がりとし、万一欠損が発生した場合には、
　係員の指示に従い、特殊補修工法により完全に補修するものとする。
・床の高止げコンクリートは全て溶接金網100×100 3.2φ入りとする。
・木材は、特記なき限りOSCLを見込むこと。
・屋内に設置する視覚障碍者用点字ブロックは、全て点字版とすること。

仕上表

外部仕上表

部位	仕様	認定番号
屋根	ﾒｲﾝｱﾘｰﾅ、多目的ﾎｰﾙ	上部：合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水断熱工法（S1-M2）ﾘﾍﾞｯﾄﾙｰﾌSW t=1.5	[屋根30分耐火構造
	弓道場的場、大庇	断熱材：硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑt=20+強化複合断熱ﾊﾟﾈﾙ t=20 両面ｱﾙｼｰﾄ貼り(15倍発泡)	FP030RF-0629]
		デッキ材：ガルバリウムカラー鋼板 t=1.0 H=90（JIS認定工場成型品）	
	弓道場射場上部	上部：嵌合立平葺 HT-45(JIS認定工場成型品)ガルバリウムカラー鋼板 t=0.5	[屋根30分耐火構造
		ゴムアスルーフィング t=1.0(片面接着)、耐火野地板 t=25(準不燃材料[QM-9022])	FP030RF-9037]
	RC屋根部	外断熱アスファルト保護防水(A1-2工法)	
		（断熱材：押出し法ポリスチレンフォーム保温板t=50,保護コンクリート t=80）	
	（その他）	太陽光発電パネル	
笠木	弓道場鉄骨屋根部	PL-4.5 W=225 溶融亜鉛メッキ(金属工事)	
	ACW部	AL-2.0CAC保工事)(笠木上防鳥ワイヤー設置　支柱φ2.000)	
	ﾊﾟﾗｺﾆｰ・屋外ﾃﾞｯｷ	C+超速硬化ウレタン吹付防水の上保護コンクリート t=80、磁器質タイル(1)貼	
	ﾍﾟﾗﾝﾀﾞ等	（断熱材：押出し法ポリスチレンフォーム保温板t=50,保護コンクリート t=80）	
	屋外階段	C+超速硬化ウレタン吹付防水の上磁器質タイル(1)貼	
	手摺(南側)	RC立ち上がり(上部は超速硬化ウレタン吹付防水)+StFB加工H300、溶融亜鉛めっきリン酸処理	
	手摺(北側)	StFB加工H110D、溶融亜鉛めっきリン酸処理	
	弓道場デッキ	合成木材サニーデッキNSW 1995×160×428　コイン落下防止・帯電防止タイプ同等品	
	矢取道	外部用防滑性ビニル床シート	
外壁	一般部	RC化粧打放(A種)+ASC	
	屋外階段(南側)部	RC化粧打放(A種)+OSB型枠+ASC	
	風除室①	RC化粧打放(A種)+ASC　（上部は超速硬化ウレタン吹付防水）	
	（断熱）	吹付硬質ウレタンフォームt=25(内断熱)	[壁1時間耐火構造
	弓道場射場上部	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ2.75K縦張り、ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑｶﾗｰ鋼板 t=0.5(JIS認定工場成型品)透湿防水ｼｰﾄ	：FP050NE-0184]
柱		木毛セメント板複合高性能フェノールフォーム壁ﾊﾟﾈﾙ、硬質木毛セメント板 t=25+フェノールフォーム断熱材t=20	
	RC柱	RC化粧打放(A種)+ASC	
	鉄骨柱	耐火シート+DP	[柱1時間耐火構造
			：FP050CN-0009]
外部建具	一般部	アルミニウム製　B-2アルマイト塗装	
	主要出入口部	ステンレス製　HL、ﾊﾟｲﾌﾟﾚｰｼｮﾝ、ﾊﾌ	
	その他	スチール製建具　SOP仕上げ	
	ガラス	複層ガラス、合わせガラス、衝突防止表示、光触媒	
軒天	大庇	アルミスパンドレル：難燃金属OF300型(ﾒｶﾞﾅｲﾝ)同等品	
	デッキ下	RC化粧打放(A種)+ASC	
その他	駐車場庇	RC屋根:塗膜防水(白)、DP(軒裏)、鉄骨柱:溶融亜鉛めっきの上DP	
	ｷｬﾋﾟﾃｰﾙ(歩行用)	ヒガノ　プロ・フィットシェード同等品	
外構	駐車場・車道	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装	
	歩道	脱色ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装	
	ﾗﾝﾆﾝｸﾞｺｰｽ(約540m)	ゴムチップ舗装(距離表示100m毎)	
	軽運動スペース	アスファルト舗装、固定式屋外型ﾊﾟｽｹｯﾄｺｰﾙ2台、一面防球ﾈｯﾄH3.0	
	築荻	クローバー種子吹付、既存樹木	

内部仕上下地略号

区分			区分		
床	F1	C+T	天井	C1	C下地補修
	F2	C+W+T		C2	C化粧打放(A種)
	F3	C+T+OAフロアH100		C3	SF
	F4	C+T+調製床用組H300		C4	SF+GB(NC)t9.5
	F5	C+T+調製床組H500C集中2ﾁｬﾈﾙﾀﾞｸﾄ+ﾗﾌﾀﾝ構造用合板t15		C5	SF+GB(R)t9.5
	F6	C+塗膜防水+W			
	F7	C+外断熱アスファルト保護防水(A1-2工法)			
壁	W1	SF+GB(F)t21+21（片面）［1時間耐火］		R1	C化粧打放(A種)
	W2	SF+(千鳥,GW24K+50充填)+GB(F)t12.5+12.5(両面)		R2	C+下地補修+(GWB)
		［遮音,1時間耐火］		R3	C+硬質ウレタンフォーム吹付t25+GB(R)t12.5(GL工法)
	W3	SF+GB(R)t12.5+12.5（SF,ボード共スラブまで）		R4	C+(木毛セメント板)
	W4	SF+GB(R)t12.5+12.5		R5	C+GB(R)t12.5(GL工法)
	W5	SF+GB(F)t15.0		R6	C+W+T
	W6	SF+GB(R)t12.5+12.5+(GWB)		R7	SF(高耐食亜鉛メッキ鋼板)+FK t6.0+6.0+M+T
	W7	SF+GWB(32K)t25+有孔シナ合板t9.0		R8	C+SF+硬質ウレタンフォーム吹付t25

軒天井：設計風圧力

階	部位	設計風圧力(N/㎡)	階	部位	設計風圧力(N/㎡)
1階	大庇	1860 N/㎡			

軽量鉄骨 天井下地 耐震補強 区分
耐震補強要領は「耐震・耐風圧 天井補強 特記・要領図」による。

A	500㎡を越える大規模天井。吹抜け他、室用途により高天井とする天井。
B1	500㎡以下、特に耐震性を考慮する室の天井。（壁際クリアランス有り）
B2	500㎡以下、特に耐震性を考慮する室の天井。（壁際固定）
C	上記A，B以外の天井。

内部仕上下地材料表

区分	
床	磁器質タイル（1）：平目タイル Xtreme Wono t12 300角　同等品
	磁器質タイル（2）：LIXIL IPF-310/MTG-2 300角　同等品
	FL(1)　：大型積層フローリングt18（カバ桜表層t6.0,ポリウレタン3回塗）
	FL(2)　：集成材フローリングt18（国内産松,研磨素地仕上）釘どめ工法
	FL(3)　：フローリングt15 ヒノキ化粧無地遮音 直貼
	FL(4)　：フローリングt15 アトランティス クラッシュ調オークブラッシュユニューエキル 直貼同等
	VS(1)：ビニル床シート t2.0（無地）
	VS(2)：ビニル床シート t2.5（フローリング柄）
	VS(3)：ビニル床シート t2.5（防滑仕様）
	VS(4)：ビニル床シート t2.0
	VS(5)：ビニル床タイル 東リ フォグライム　PST2019,2020,2021 ランダム貼り　同等品
	VS(6)：複層ビニル床シート　サンゲツFM-4392　同等品
	VS(7)：東リ アリーナフィット t4.5 同等品
	CP(1)：タイルカーペット サンゲツNT-70DPﾌﾟﾗｽﾁｯｸﾘｰｽ'程度
	CP(2)：タイルカーペット(帯電防止)
	塗床(1)：弾性ウレタン塗装
	塗床(2)：防塵塗装
	塗床(3)：ステイン系カラー塗料 Ashford Japanタフコート仕上げ同等
	塗床(4)：カラークリート
壁	化粧木毛セメント版：準不燃木毛セメント板(白)t=18(910×910)突付　(竹村工業株式会社、レノウット同等)
	有孔シナ合板(1)：有孔シナ合板t9.0(910×1820)ウレタンクリア塗装
	有孔シナ合板(2)：有孔シナ合板t12.0(910×1820)ウレタンクリア塗装
	繊維系内装材：ケイミュー リサイクル内装ボード SOLIDO(6尺品)同等　（不燃：NM-3812）
	有孔鋼製床材：ニッケンビルドファイン同等
	化粧ケイカル板：AICA ハイボードF不燃 SB-10115同等
	天然木ツキ板シート：HOXANサンフットホワイトオーク同等品　（準不燃：QM-0920）
天井	メッシュ天井：ABC、格子ﾙｰﾊﾞｰ天井スチール同等品
	木ルーバー：杉集成材25×50@50（飾り天井）天井内は素地
	CL(1)：サンゲツ　THシリーズ程度
	GWB(1)：グラスウールボード厚手ガラスクロス貼（32K）t=25（黒）
	GWB(2)：グラスウールボード薄手ガラスクロス貼（32K）t=25（白）

内部仕上表

区分		室名	内装制限	床高	床 仕上	床 下地	幅木	壁 仕上	壁 下地	天井 仕上	天井 下地	天井下地耐震補強区分	囲り縁	天井高	備考（）は備品
メインアリーナ	1階	メインアリーナ	b	±0	FL(1)、防塵塗装		木巾木	素地、EP、GWB(1)、聚業系内装材		GWB(1)、SOP		-	-	直天	防球ネット[可外し式] 美術用吊りバトン 暗幕カーテン[設備制気口部] 壁面固定式観覧席/移動式観客席 脱落防止ネット
			ハ	-40/-600	F2、F5		H=60	R1、R2、R3、W5、W6、		-					
		大会本部スペース	b	±0	FL(1)		木巾木	素地、FK(2)t=6.0		メッシュ天井		B2	-	2,600	電動ロールスクリーン
			ハ	-40	F2		H=60	R1、R3		C3					
		控室①	a	±0	VS(1)		ビニル巾木	素地、EP		DR(1)		C	塩ビ	2,600	(ロッカー)
			イ	-10	F1		H=60	R1、R3、W3		C4					
		控室②	a	±0	VS(1)		ビニル巾木	素地、EP		DR(1)		C	塩ビ	2,600	(ロッカー)
			イ	-10	F1		H=60	R1、R3、W3		C4					
		器具庫①	b	±0	VS(4)		-	素地		素地		-	-	直天	(防護マット)
			ハ	-10	F1		-	R1、R3		C2					
		移動式ＲＣ収納庫①/②	b	±0	FL(1)		-	素地		素地		C	-	直天	移動式観覧席
			ハ	-500/-40	F2、F5		-	R1、R3、W3		C2					
		男子ＷＣ⑦/女子ＷＣ②	b	±0	VS（1）		ビニル巾木	FK(2)t=6.0		GB(D)		C	塩ビ	2,600	パウダーコーナー 洗面台
			ハ	-10	F1		H=60	R1、R5、W2、W2-s		C3					
		通路①	b	±0	VS(2)		-	素地		DR(1)		B2	塩ビ	2,600	
			ハ	-10	F1		-	R1		C4					
		通路②	b	±0	VS(2)		-	素地		DR(1)		B2	塩ビ	2,600	
			ハ	-10	F1		-	R1		C4					
	2階	観客席(ジョギングスペース)	b	±0	VS(7):2FL±0部分 塗床（1）:段床部分		ビニル巾木	素地、聚業系内装材、EP（2FL～2FL+2,850まで） EP、GWB(1)(2FL+2,850～)		GWB(1)、SOP		-	-	直天	ジョギングコース ライン引き 暗幕カーテン 固定席 脱落防止ネット
			ハ	-10	F1		H=60	R1、W3、W5、W5'（2FL～2FL+2,850まで） R3、W6(2FL+2,850～)		-					
		男子ＷＣ④	c	±0	VS（1）		ビニル巾木	FK(2)t=6.0、素地		GB(D)		C	塩ビ	2,600	洗面台 ベビーチェア
			ハ	-10	F1		H=60	R1、R3-S、W2-s、W3-w		C3					
		女子ＷＣ④	c	±0	VS（1）		ビニル巾木	FK(2)t=6.0、素地		GB(D)		C	塩ビ	2,600	パウダーコーナー 独立洗面カウンター ベビーチェア
			ハ	-10	F1		H=60	R1、R3-S、W2-s、W3-w		C3					
		風除室③	b	±0	VS（7）		-	ASC		ASC		-	-	直天	
			ハ	-10	F1		-	R1		C2					
		風除室④	b	±0	VS（7）		-	ASC		ASC		-	-	直天	
			ハ	-10	F1		-	R1		C2					
		階段前室	b	±0	VS（2）、塗床（1）、VS（7）		ビニル巾木	EP、素地		GB(D)		B2	塩ビ	2,600	下足箱
			ハ	-10	F1		H=60	R1、W3		C3					
		倉庫	b	±0	VS（4）		ビニル巾木	EP、素地		素地		-	-	直天	
			ハ	-10	F1		H=60	R1、W3、W4		C2					
	1～2階	階段室①	b	±0	VS（4）		ビニル巾木	EP		GB(D)、EP		-	塩ビ	直天	
			ハ	-10	F1		H=60	R1、W3		C2、C3					
多目的ホール	1階	多目的ホール（体験スペース）	d	±0	FL（1）		木巾木	化粧木毛セメント板、素地、有孔シナ合板(1)(2)		GWB(1)、SOP 木ルーバー		-	-	直天 3200	可動間仕切り壁 段床 脱落防止ネット
			ハ	-300	F4、F2		H=60	W4、W7、R1		C3					
		控室③	b	±0	VS（1）		ビニル巾木	EP		DR(1)		C	塩ビ	2,600	
			ハ	-10	F1		H=60	R1+下地補修		C4					
		器具庫⑦	b	±0	VS（4）		-	素地		素地		-	-	直天	(置き型衝突防止マット)
			ハ	-10	F1		-	R1、W3		C1					
	2階	メンテナンス通路・階段	d	±0	VS（6）		木巾木	有孔シナ合板(1)		GWB(1)、SOP		-	-	直天	脱落防止ネット
			ハ	-10	F1		H=60	R3、W7		-					
多目的室	1階	多目的室	b	±0	FL（2）		-	化粧木毛セメント板		DR(1)		B2	塩ビ	3,600	可動間仕切り壁
			ハ	-300	F4		-	R1、R4、W4		C4					
		倉庫	b	±0	VS（4）		-	素地		素地		-	-	直天	
			ハ	-10	F1		-	R1		C1					
弓道場	2階	射場	b	±0	FL（3）		木巾木	素地、天然木ツキ板シート		化粧木毛セメント板		B2	木製	+4,000	
			ハ	-40、-90	F2		H=60	R1、W3		C3					
		審判席	b	+200	FL（3）		木巾木	天然木ツキ板シート		化粧木毛セメント板		C	木製	2,600	審判席カウンター
			ハ	-40	木組み		H=60	W3、R3		C3					
		射場控	b	±0	FL（3）		木巾木	EP、天然木ツキ板シート		化粧木毛セメント板、EP		B2	木製	3,000 +4,000	下足箱
			ハ	-40、-90	F2		H=60	W3、R3		C3、C2+下地補修					
		弓道更衣室①/弓道更衣室②	b	±0	FL（3）		ビニル巾木	CL（1）		DR(1)		C	塩ビ	3,000	姿見鏡 弓立て・荷物置き
			ハ	-40	F2		H=60	R1+下地補修、W3		C4					
		控室④	b	±0	FL（3）		ビニル巾木	CL（1）		DR(1)		C	塩ビ	2,600	流し台 吊戸棚 膳下収納棚
			ハ	-40	F2		H=60	R1+下地補修、W3		C4					
		看的室①/看的室②	a	±0	VS（1）		ビニル巾木	CL（1）		GB(D)		C	塩ビ	2,600	流し台 看的カウンター
			イ	-10	F1		H=60	R2、W1		C3					
		倉庫	b	±0	FL（3）		ビニル巾木	CL（1）		素地		-	-	直天	弓具庫
			ハ	-40	F2		H=60	R1+下地補修、W3		C1					
		的場	b	-70×±0	安土t=100～		-	ASC		FK(2)t=8.0		C	アルミ	2,965	木柱(衝生工事) 安土 幕(別工事)
			ハ	-310×-230	F7		-	R1(フカt=20)		C3					

（注）　内部仕上表床高さ欄の内、上段は床仕上げ面高さ（FL）を表し、無記入はZ±0とする。又下段はスラブ下がり面を表す。

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄		検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士		
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号		
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子		

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 023
外部仕上表・内部仕上表(1)	縮尺 1/A1:non A3:non	日付 2018・11・16

改訂：2012.07.20（2015.11.02改訂）

内 部 仕 上 表

区分		室 名	内装制限	床高	床	幅 木	壁	天 井	天井下地耐震補強区分	回り縁	天井高	備 考 ( )は備品
ニトレングリー	2階	トレーニングルーム	b	±0	FL(4)	-	素地	EP	-	-	直天	受付カウンター カーテンボックス 金網カーテン 下足箱
			ハ	-40	F2	-	R1	C2				
会議エリア	1階	会議室①	b	±0	VS(1)	ビニル巾木	EP	DR(1)	B2	塩ビ	3,000	スクリーンボックス (スクリーン(120インチ)) 可動置仕切り壁
			ハ	-10	F1	H=60	R1+下地補修	C4				
		会議室②	a	±0	CP(1)	ビニル巾木	EP	DR(1)	C	塩ビ	2,600	カーテンボックス
			イ	-10	F1	H=60	R1+下地補修、M3、W3	C4				
事務・管理	1階	事務室	a	±0	CP(1)	ビニル巾木	EP	DR(1)	B2	塩ビ	2,600	制御盤 受付カウンター
			イ	-10	F1	H=60	R1+下地補修、W3	C4				
		応接室	a	±0	CP(1)	ビニル巾木	素地、EP	DR(1)	C	塩ビ	2,600	
			イ	-10	F1	H=60	R1、W3	C4				
		清掃員室	b	±0	VS(1)	ビニル巾木	CL(1)	GB(D)	C	塩ビ	2,600	(ロッカー)
			ハ	-10	F1	H=60	R1+下地補修、W3	C3				
共用部	1階	風除室①	b	±0	VS(5)	-	ASC	ASC	-	-	直天	
			ハ	-50	F1	-	R1	C2				
		風除室②	b	±0	VS(5)	-	ASC	ASC	-	-	直天	
			ハ	-10	F1	-	R1	C2				
		ロビー①	b	±0	VS(5)	-	素地	素地 一部 SUS t=1.6 加工 吊下げ	-	-	3,200	カウンター
			ハ	-10	F1	-	R1	C2				
		休憩スペース/キッズスペース	b	±0	VS(5)	-	素地	素地、GWB(1)	-	-	3,200	ピクチャーレール カーテンボックス 金網カーテン
			ハ	-10	F1	-	R1	C2				
		共用通路①	b	±0	VS(5)	-	素地、EP、木毛セメント板	素地 一部 SUS t=1.6 加工 吊下げ	-	-	直天 (懐高天井3,700)	吊下げミラーパネル ホワイトボード
			ハ	-10	F1	-	R1、W3、W4	C2				
		通路③~④	b	±0	FL(1)、VS(5)	-	素地、木毛セメント板	DR(1)	C	塩ビ	2,600	下足箱
			ハ	-10/-40	F1	-	R1、R4、W4	C4				
		通路④	b	±0	FL(1)、VS(5)	-	素地、木毛セメント板	DR(1) 一部 SUS t=1.6 加工 吊下げ	-	-	2,600	下足箱
			ハ	-10/-40	F1	-	R1、R4、W4	C2,C4				
		男子WC①	b	±0	VS(1)	ビニル巾木	FK(2)t=6.0、EP、素地	GB(D)	C	塩ビ	2,600	パウダーコーナー ベビーチェア 洗面台
			ハ	-10	F1	H=60	R1、R5、W2-s、W3-w	C3				
		女子WC①	b	±0	VS(1)	ビニル巾木	FK(2)t=6.0、EP、素地	GB(D)	C	塩ビ	2,600	パウダーコーナー ベビーチェア 洗面台
			ハ	-10	F1	H=60	R1、R5、W2-s、W3-w	C3				
		男子更衣室/女子更衣室	b	±0	VS(3)	ビニル巾木	EP(防汚)	GB(D)	C	塩ビ	2,600	姿見鏡
			ハ	-10	F1	H=60	R1+下地補修、W3	C3				
		シャワー室(男女)	b	-10~-40	シャワー室:磁器質タイル(2)	ビニル巾木	磁器質タイル	アルミバスリブ	C	アルミ	2,600 勾配	ユニットシャワー 洗面台
			ハ	-150	F6	H=60	R1+下地補修	C3(SUS製)				
		授乳室	d	±0	VS(1)	ビニル巾木	CL(1)	DR(1)	C	塩ビ	2,600	流し台 (おむつ替えシート)
			ハ	-10	F1	H=60	R1+下地補修、W3	C4				
		給湯	b	±0	VS(5)	ビニル巾木	EP	DR(1)	C	塩ビ	2,600	流し台 吊戸棚 腰下収納棚 水飲栓
			ハ	-10	F1	H=60	W3、R1+下地補修	C4				
		多目的更衣室	b	±0	VS(1)	ビニル巾木	EP-0	GB(D)	C	塩ビ	2,600	手摺
			ハ	-10	F1	H=60	R1+下地補修	C3				
		多目的シャワー	b	-10~-40	磁器質タイル(2)	-	磁器質タイル(2)	アルミバスリブ	C	アルミ	2,600 勾配	手摺
			ハ	-150	F2	-	R6	C3(SUS製)				
		備蓄庫	b	±0	塗床(2)	-	素地	素地	-	-	直天	
			ハ	-10	F1	-	R1、R3	C1				
		機械室①	b	±0	塗床(2)	床材立上げ	GWB(2)、素地	GWB(2)	-	-	直天	設備基礎
			ハ	-10	F1	H300	R1、R2	C1				
		関係者控室	a	±0	CP(2)	ビニル巾木	EP	GB(P)	C	塩ビ	2,600	
			イ	-100	F3	H=60	R1+下地補修、W2	C1				
		医務室	a	±0	VS(1)	ビニル巾木	EP	GB(D)	C	塩ビ	2,600	
			イ	-10	F1	H=60	R1+下地補修、W2	C1				
		機械室②、③	d	±0	塗床(2)	床材立上げ	GWB(2)、素地	GWB(2)	-	-	直天	設備基礎
			ハ	-10	F1	H300	R1、R2	C1				
		機械室④	d	±0	塗床(2)	床材立上げ	素地	GWB(2)	-	-	直天	設備基礎
			ハ	-10	F1	H300	R1、R3	C1				
	2階	ロビー②	b	±0	VS(5)	-	素地、EP	素地	-	-	直天 (懐高天井3,700)	
			ハ	-10	F1	-	R1、R3、W3	C2				
		男子WC③	b	±0	VS(1)	ビニル巾木	FK(2)t=6.0、素地	GB(D)	C	塩ビ	2,600	洗面台 ベビーチェア
			ハ	-10	F1	H=60	R1、W2-s	C3				
		女子WC③	b	±0	VS(1)	ビニル巾木	FK(2)t=6.0、素地	GB(D)	C	塩ビ	2,600	パウダーコーナー 洗面台 ベビーチェア
			ハ	-10	F1	H=60	R1、W2-s	C3				
	1~2階	HCWC①~③	b	±0	VS(2)	ビニル巾木	FK(2)t=6.0	GB(D)	C	塩ビ	2,600	オストメイト ベビーチェア ベビーベッド 多目的ベッド
			ハ	-10	F1	H=60	W2-s	C3				
		階段室②	b	±0	VS(5)	ビニル巾木	EP	GB(D)、EP	-	-	直天	
			ハ	-10	F1	H=60	R1+下地補修、W3	C1、C3				
		PS/DS/EPS	d	±0	塗床(2)	-	表し	表し	-	-	直天	
			ハ	-10	F1	-	-	-				

内 部 仕 上 表

区分	室 名	内装制限	床高	床	幅 木	壁	天 井	天井下地耐震補強区分	回り縁	天井高	備 考

（注）・内部仕上表床高さ欄の内、上段は床仕上げ面高さ（FL）を表し、無記入はZ±0とする。又下段はスラブ下がり面を表す。

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第54956号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

内部仕上表（2）

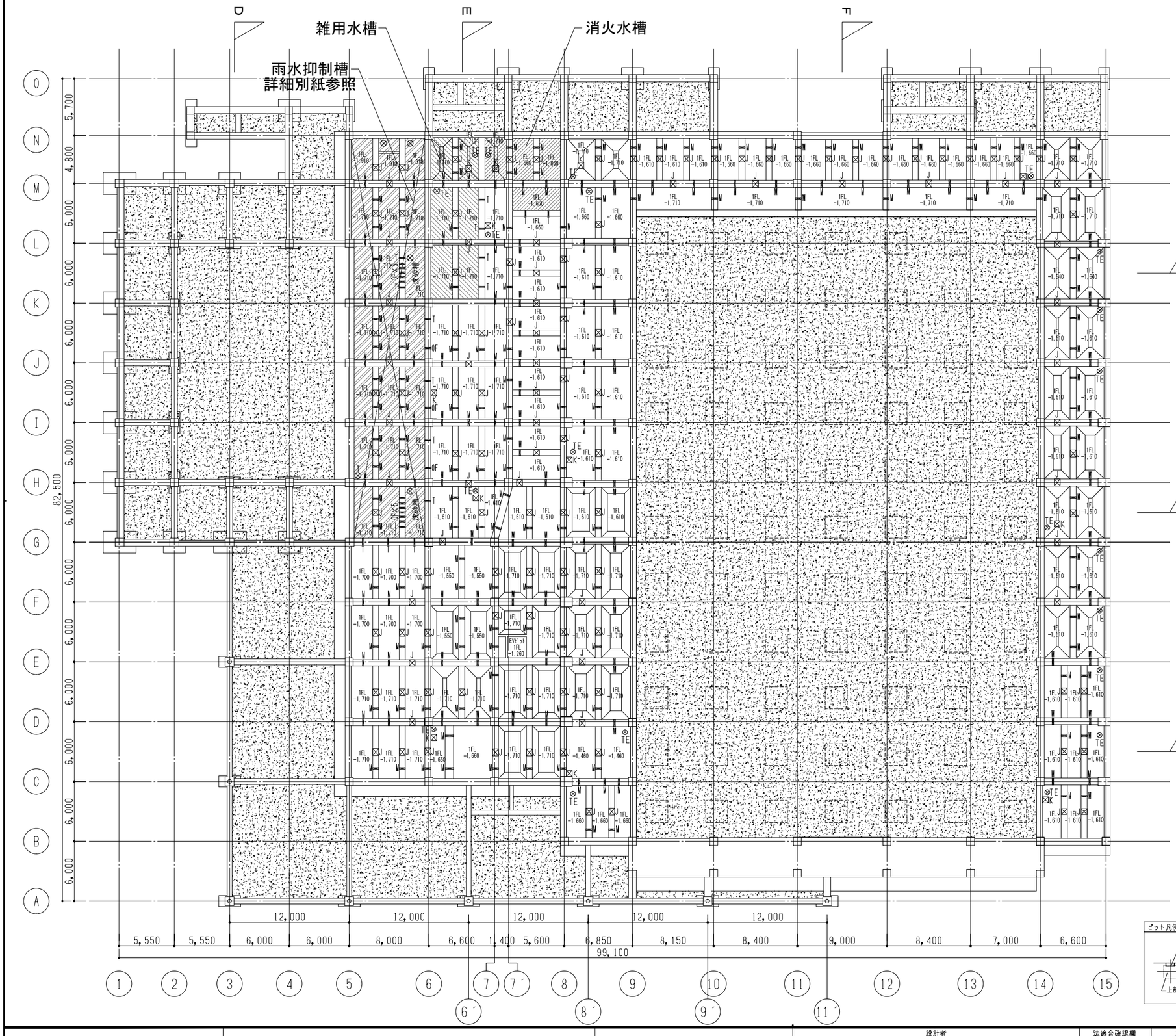
設計番号 16779

図面番号 A — 024

縮尺 1/A1:non A3:non

日付 2019・11・15

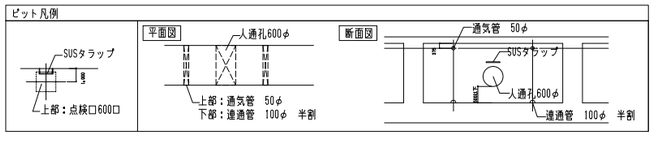
改訂：2012.07.20



凡例		
―	T	通気管50φ
―	M	通水管※特記無き限り100φ半割り（下部） 通気管50φ（上部）
⊠	J	人通口600φ 通気管50φ（上部） 通水管100φ半割（下部）
―	OF	オーバーフロー管150φ
⊠	K	釜場900×600×600h（床仕上同等）
⊗	TE	上部点検口600φ（SUS製タラップ付き）
→		勾配（特記なき限り1/200）
		埋め戻し
		消火水槽
		雑用水槽
		雨水抑制槽

※特記なきピットは配管ピット
※通気管、通水管、放流管はVP管とする
※人通口はボイド管とする
※点検口には全てタラップを設置すること
※特記なき限りピットレベルはFL-1,710とする

ピット凡例



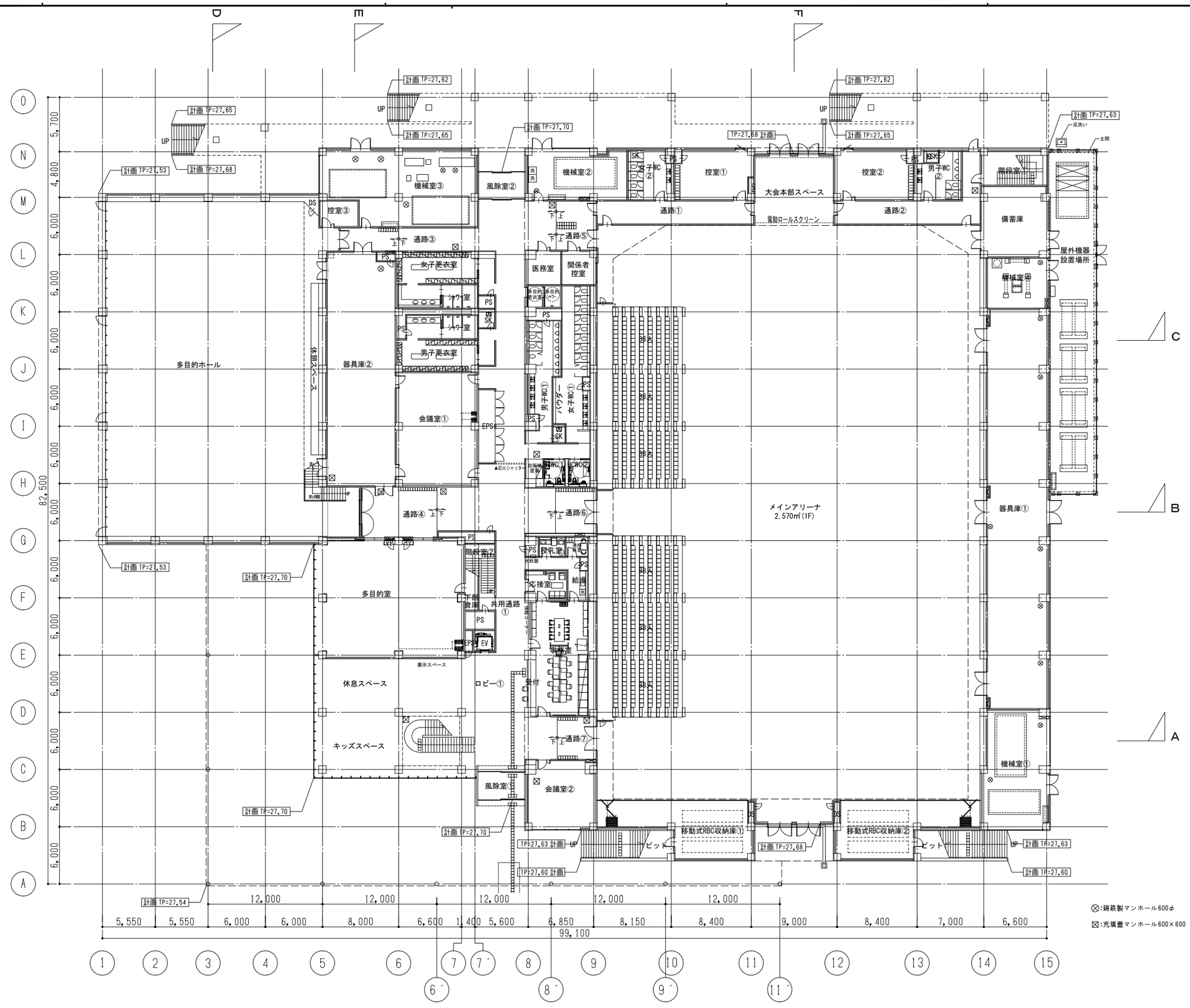
飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

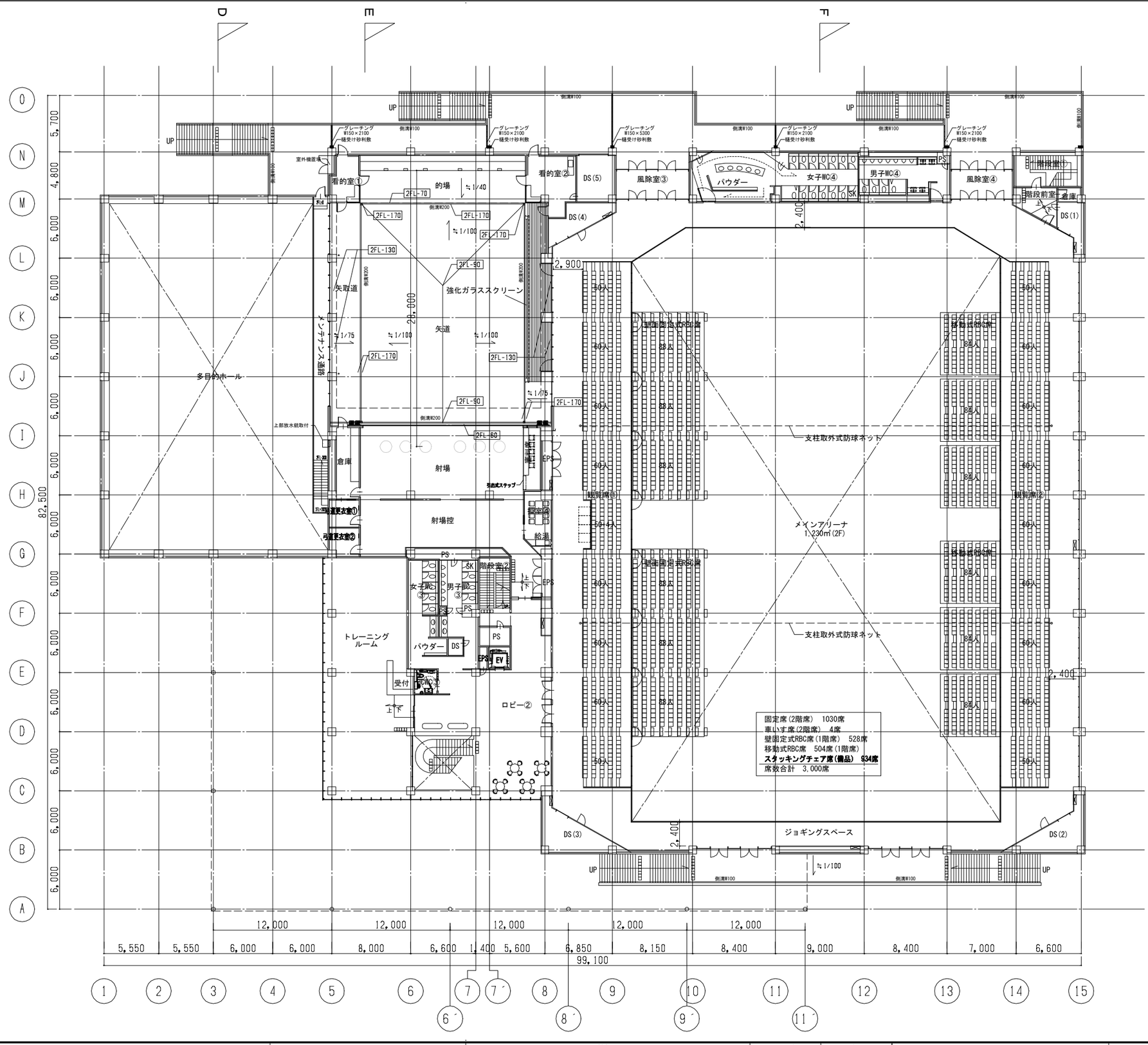
株式会社 梓設計 九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 025	
ピット階平面図	縮尺 1/A1:200 A3:400	日付 2019・11・15	



飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者								法適合確認欄		検証者		飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 026
			一級建築士	一級建築士	一級建築士										1階平面図	縮尺 1/A1:200 A3:400	日付 2019・11・15
			第280187号	第336677号	第336801号						第5496号						
			中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎				林 沙希子		椎葉 夏子						



飯塚新体育館

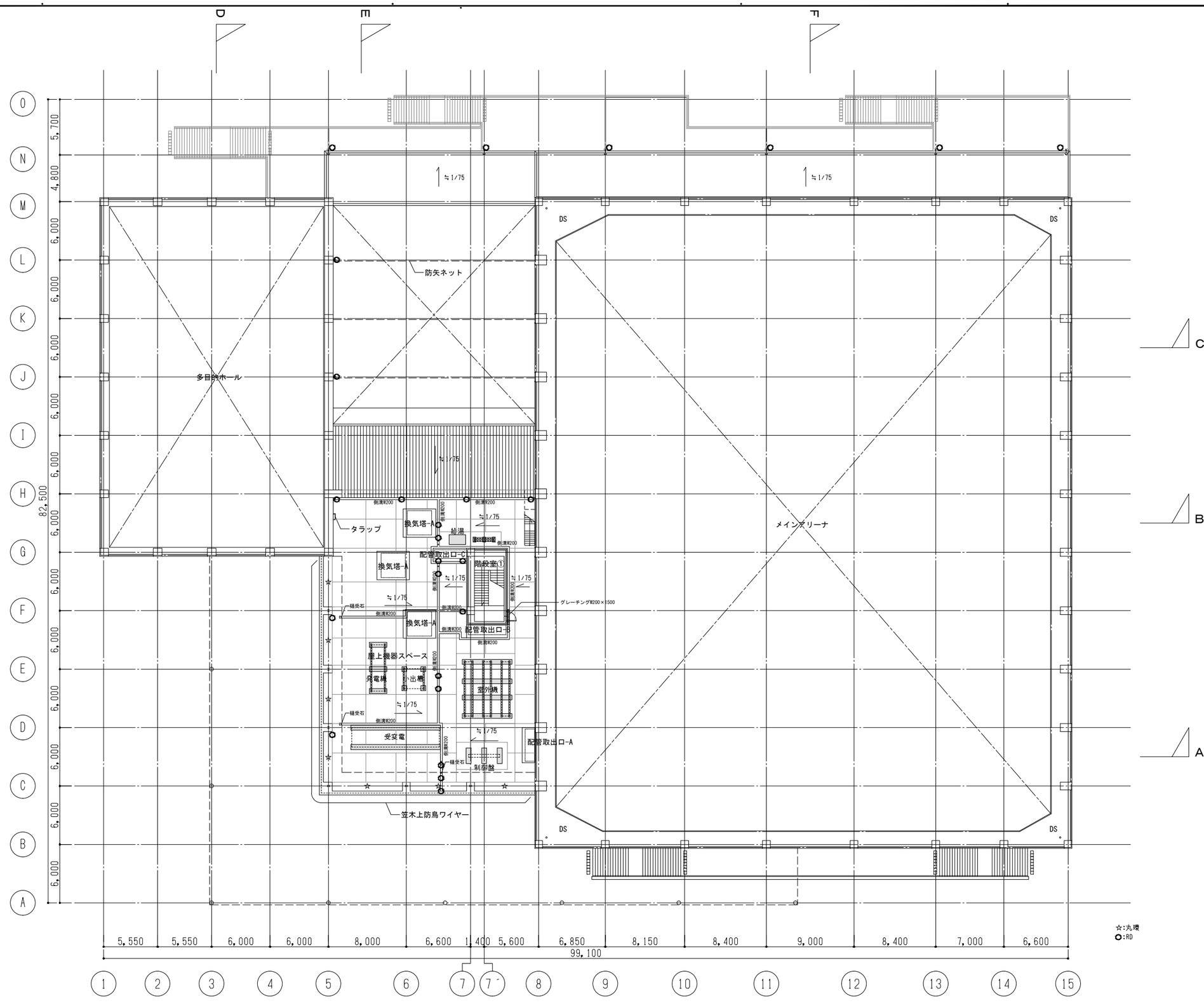
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

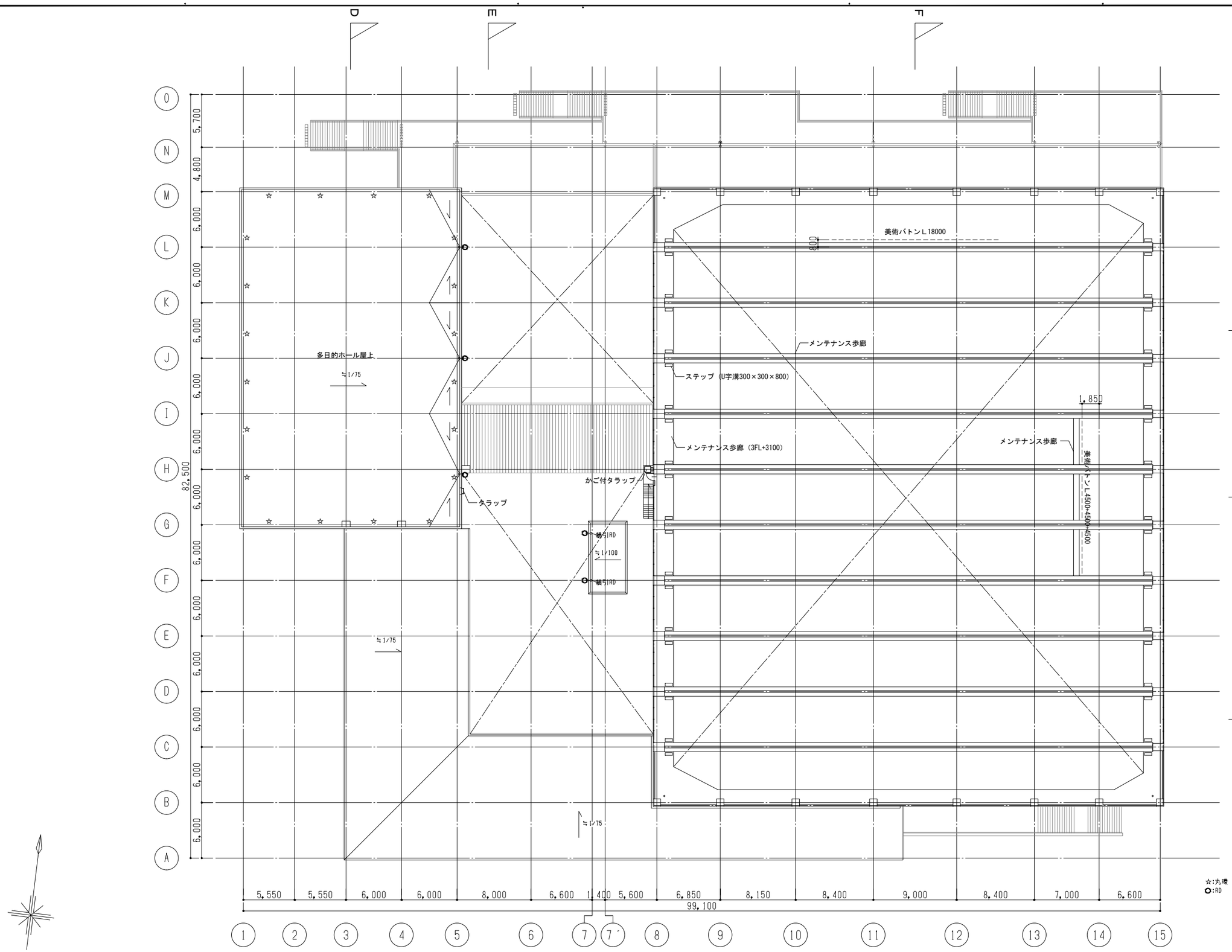
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

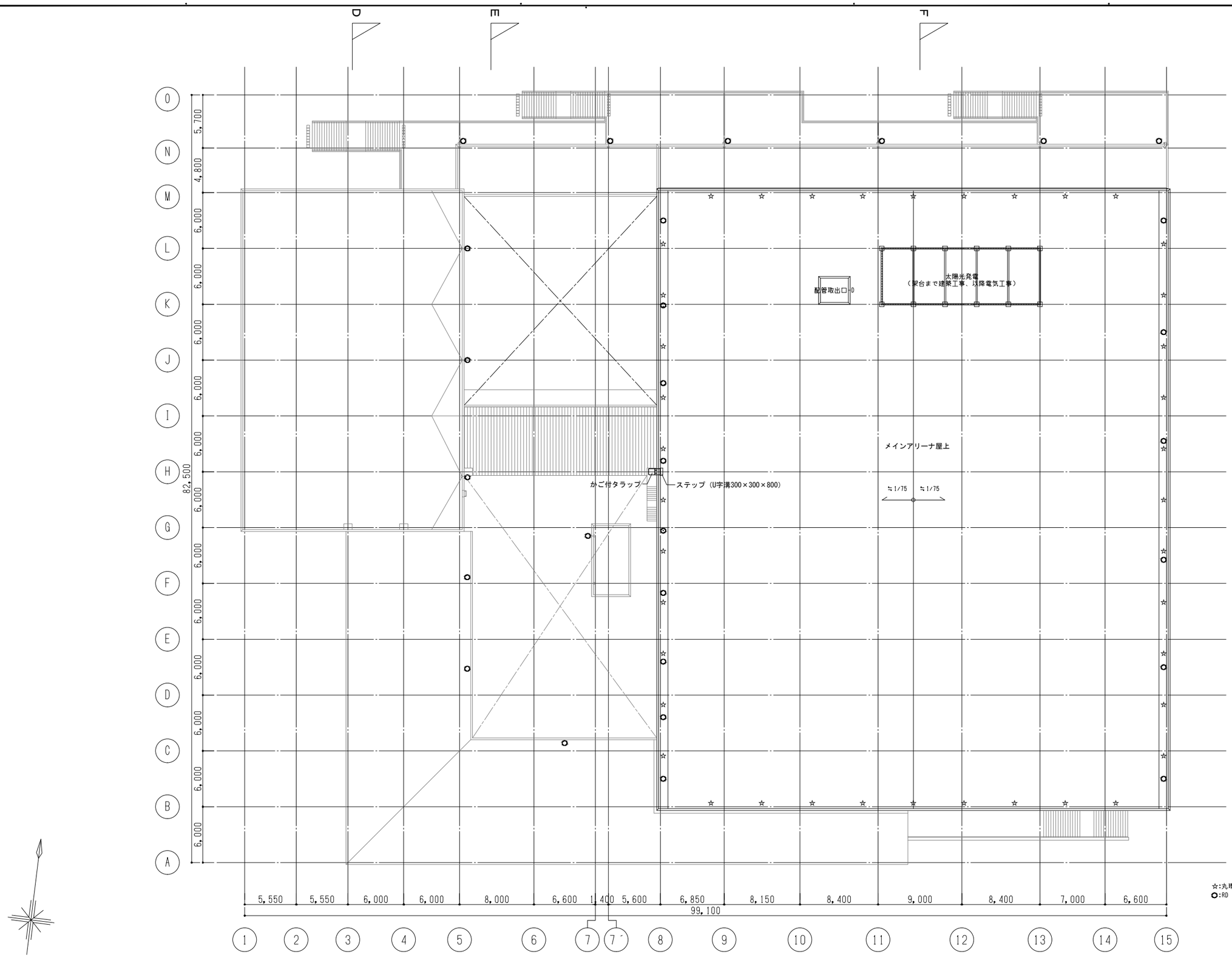
飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 027
2階平面図	縮尺 1/A1:200 A3:400	日付 2019・11・15


D
E
F
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
82,500
5,700
4,800
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
1/75
DS
防矢ネット
多目的ホール
メインアリーナ
タラップ
換気塔-A
給湯
配管取出口-C
階段室(1)
グレーチング W200×1500
換気塔-A
配管取出口-B
屋上機器スペース
発電機
出槽
室外機
受変電
制御盤
配管取出口-A
笠木上防鳥ワイヤー
側溝W200
縁受石
縁受石
☆:丸環
○:RD
5,550
5,550
6,000
6,000
8,000
6,600
1,400
5,600
6,850
8,150
8,400
9,000
8,400
7,000
6,600
99,100
1
2
3
4
5
6
7
7´
8
9
10
11
12
13
14
15
C
B
A

| | | |

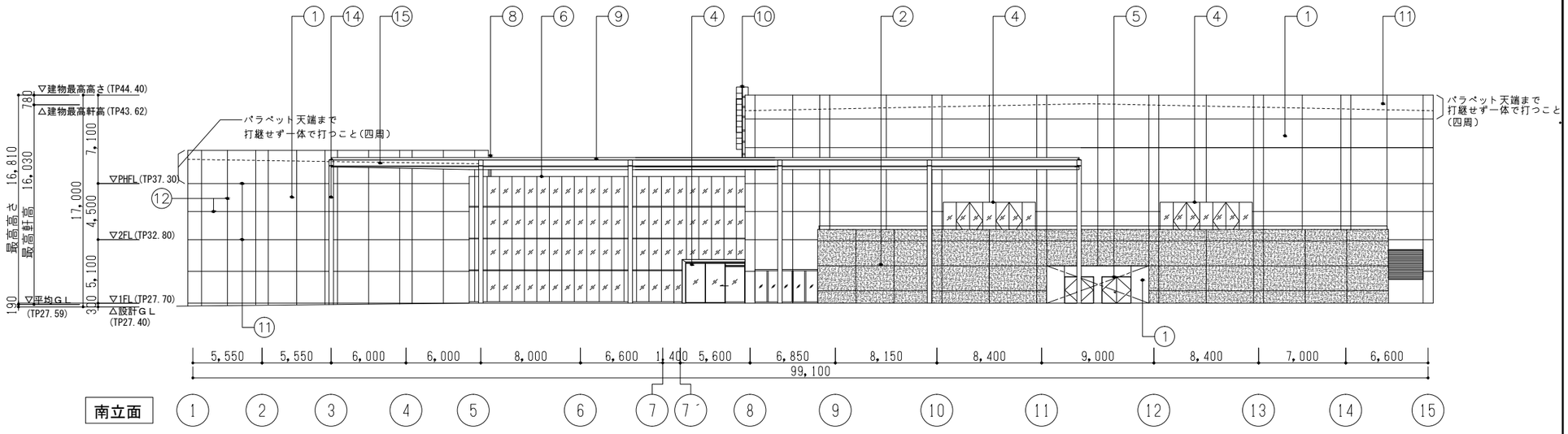

D
E
F
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
5,700
4,800
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
82,500
美術バトンL18000
メンテナンス歩廊
ステップ（U字溝300×300×800）
1,850
メンテナンス歩廊
メンテナンス歩廊（3FL+3100）
美術バトンL4500+4500+4500
多目的ホール屋上
1/75
かご付タラップ
タラップ
横引IRD
1/100
縦引IRD
1/75
1/75
C
B
A
☆:丸環
○:RD
5,550
5,550
6,000
6,000
8,000
6,600
1,400
5,600
6,850
8,150
8,400
9,000
8,400
7,000
6,600
99,100
1
2
3
4
5
6
7
7´
8
9
10
11
12
13
14
15

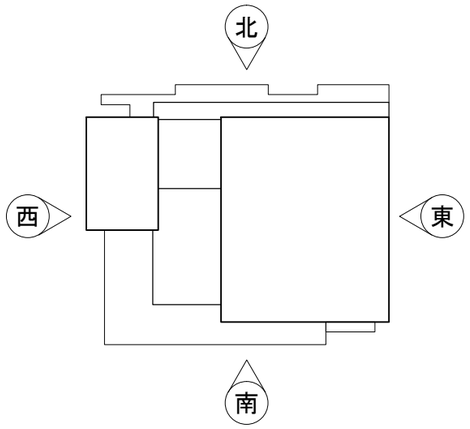
| | | |

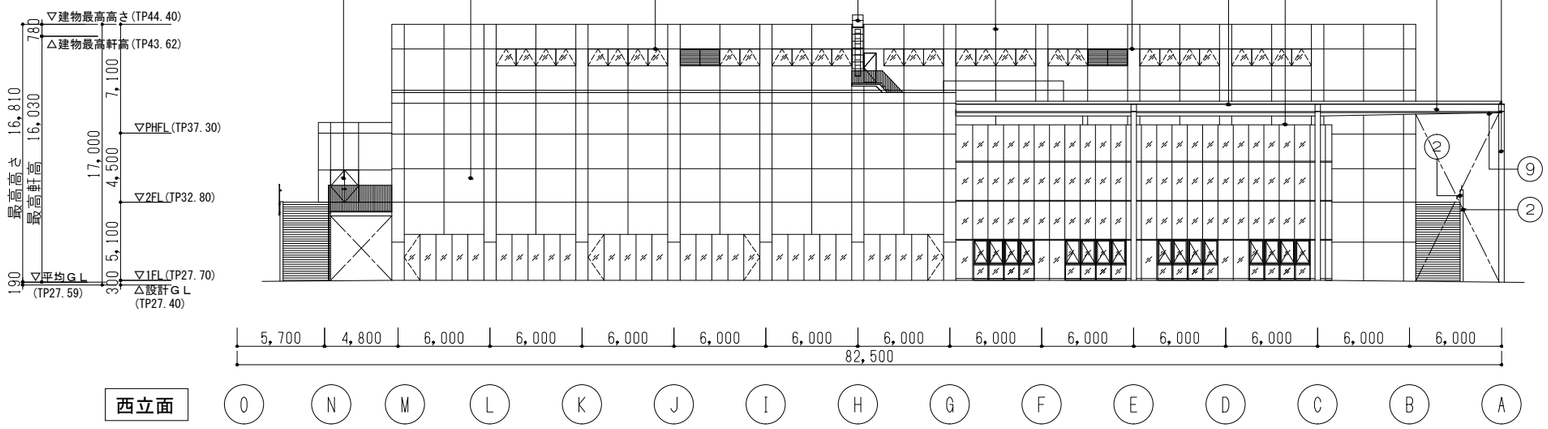

D
E
F
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
5,700
4,800
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
82,500
配管取出口
太陽光発電
（架台まで建築工事、以降電気工事）
メインアリーナ屋上
かご付タラップ
ステップ（U字溝300×300×800）
1/75
1/75
C
B
A
☆:丸環
○:RD
5,550
5,550
6,000
6,000
8,000
6,600
1,400
5,600
6,850
8,150
8,400
9,000
8,400
7,000
6,600
99,100
1
2
3
4
5
6
7
7´
8
9
10
11
12
13
14
15

| | | |

①	外壁：RC化粧打放(A種)+ASC
②	外壁：RC化粧打放(A種)+OSB型枠+ASC
③	アルミ製建具
④	ステンレス製建具
⑤	スチール製建具
⑥	アルミ笠木
⑦	スチール製手摺
⑧	竪樋
⑨	大庇：アルミスパンドレル
⑩	メンテナンスタラップ
⑪	打ち継ぎ目地
⑫	誘発目地
⑬	目隠しルーバー
⑭	鉄骨柱：耐火シート+DP
⑮	鉄骨梁：DP

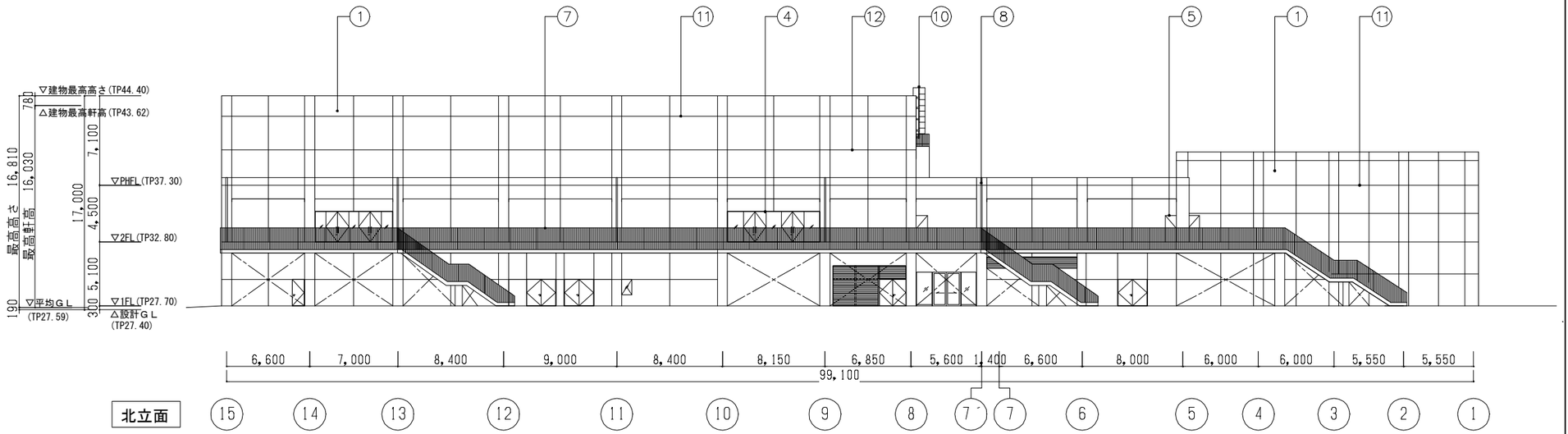


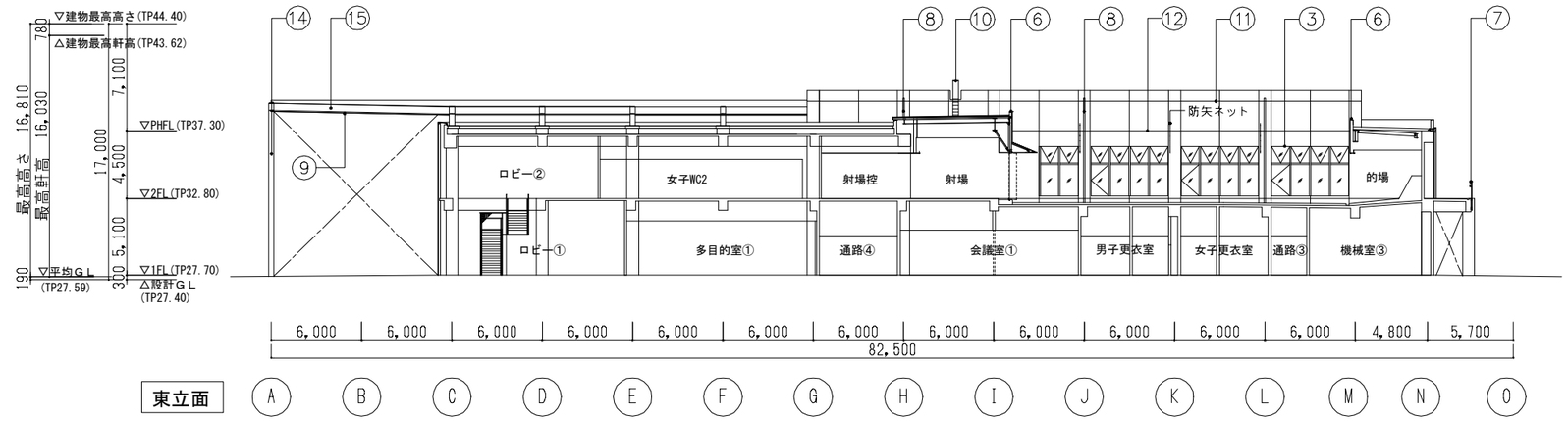


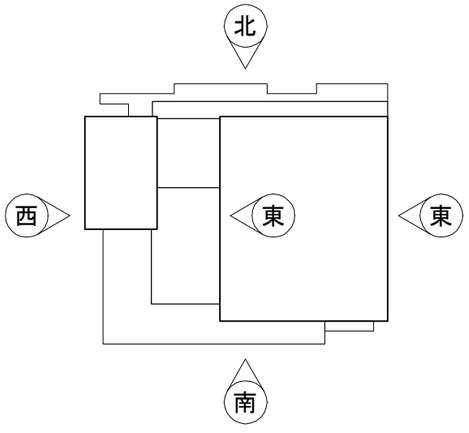


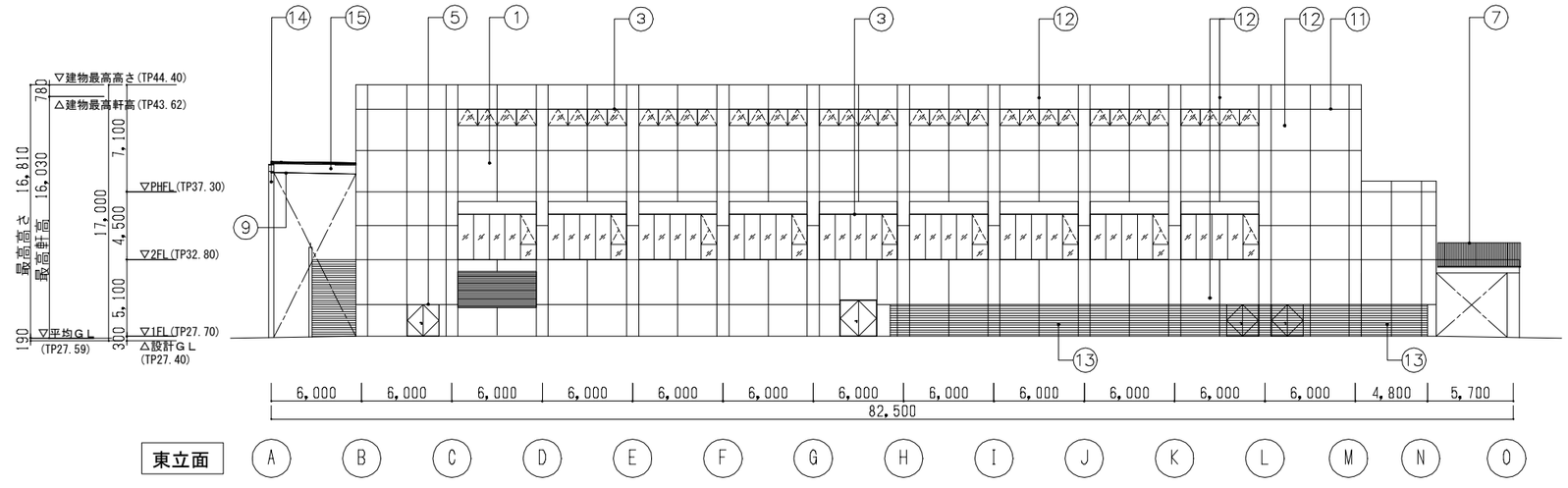
| | | |

①	外壁：RC化粧打放(A種)+ASC
②	外壁：RC化粧打放(A種)+OSB型枠+ASC
③	アルミ製建具
④	ステンレス製建具
⑤	スチール製建具
⑥	アルミ笠木
⑦	スチール製手摺
⑧	竪樋
⑨	大庇：アルミスパンドレル
⑩	メンテナンスタラップ
⑪	打ち継ぎ目地
⑫	誘発目地
⑬	目隠しルーバー
⑭	鉄骨柱：耐火シート+DP
⑮	鉄骨梁：DP









飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 幸	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

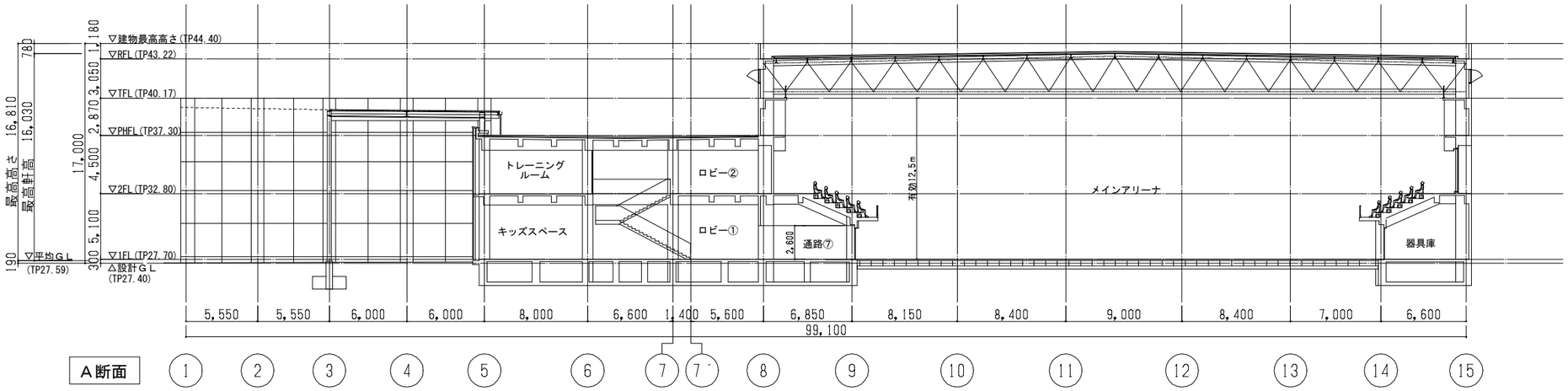
立面図（2）

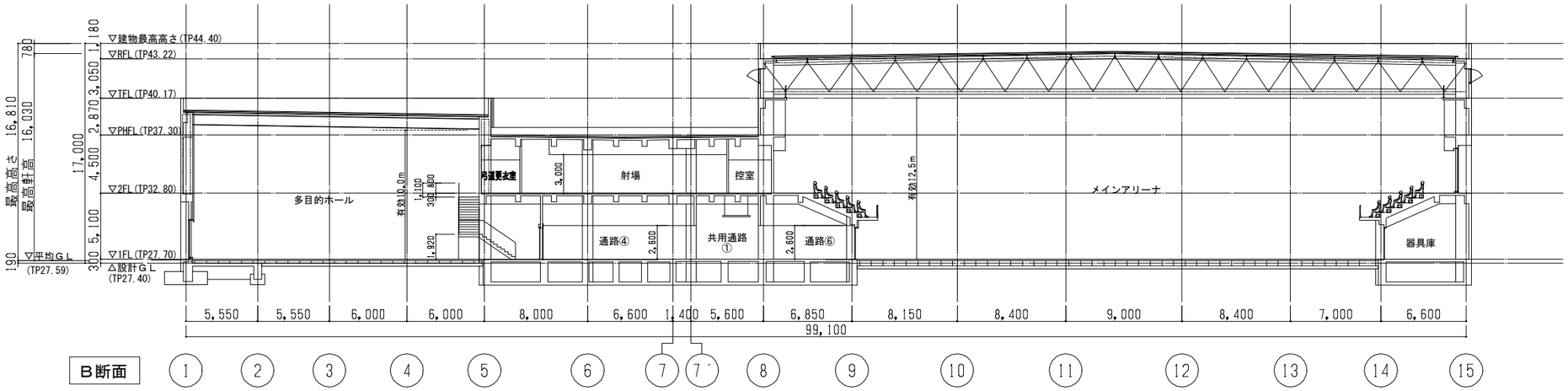
設計番号 16779

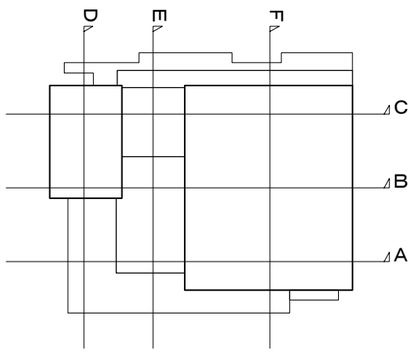
図面番号 A — 032

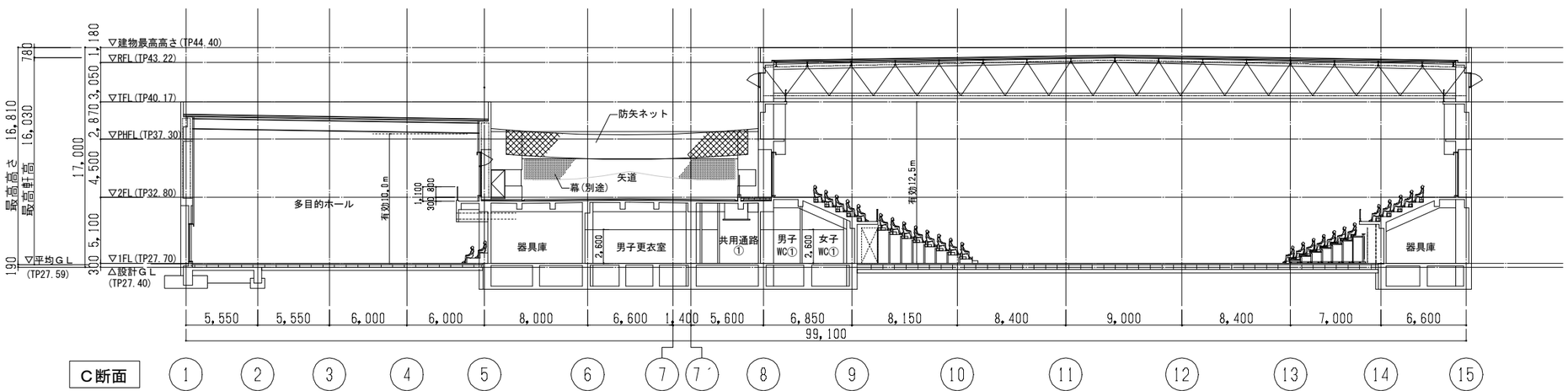
縮尺 1/A1:200 A3:400

日付 2019・11・15









飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI
Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 幸	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

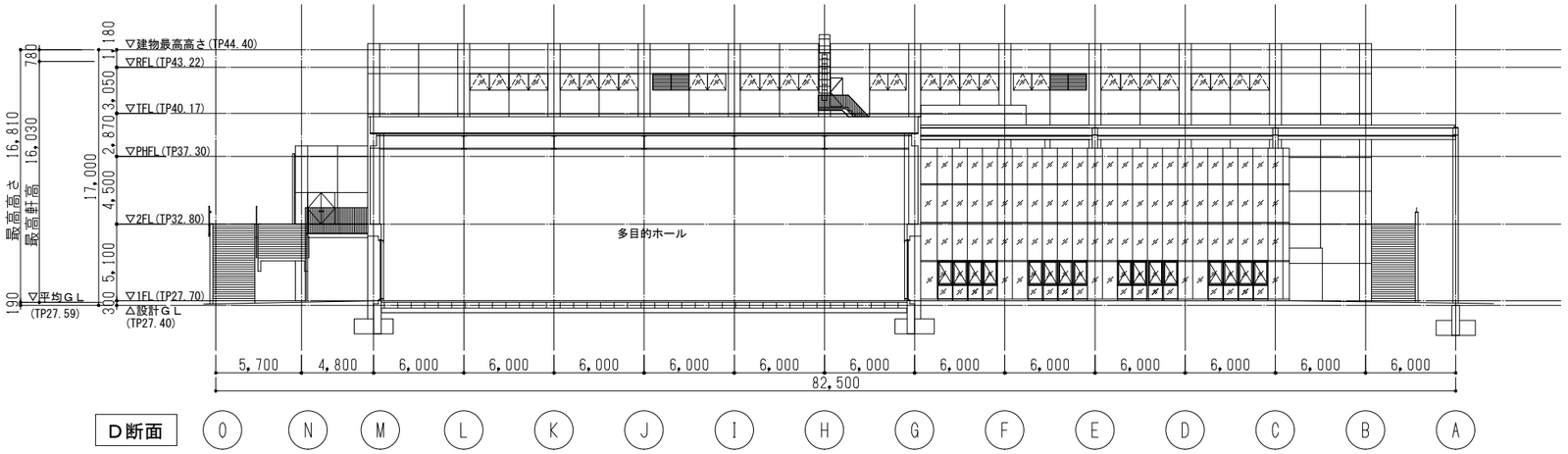
断面図（１）

設計番号 16779

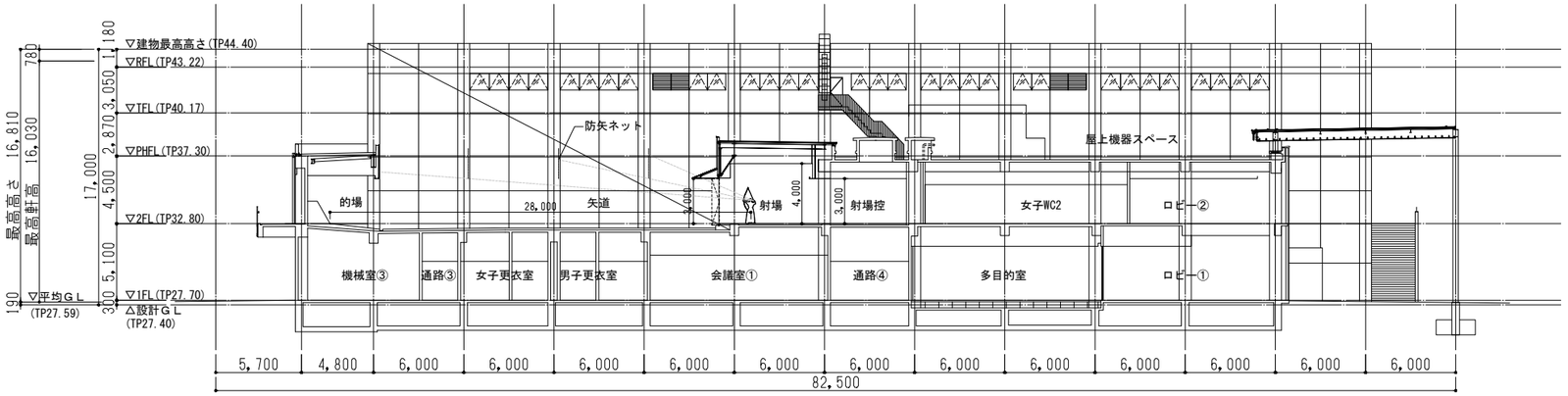
図面番号 A — 033

縮尺 1/A1:200 A3:400

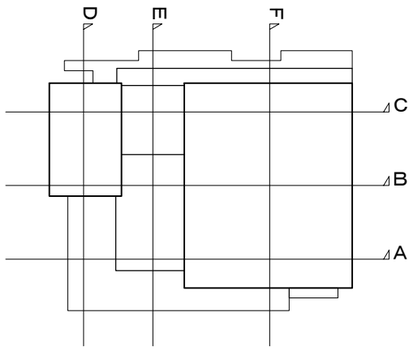
日付 2019・11・15

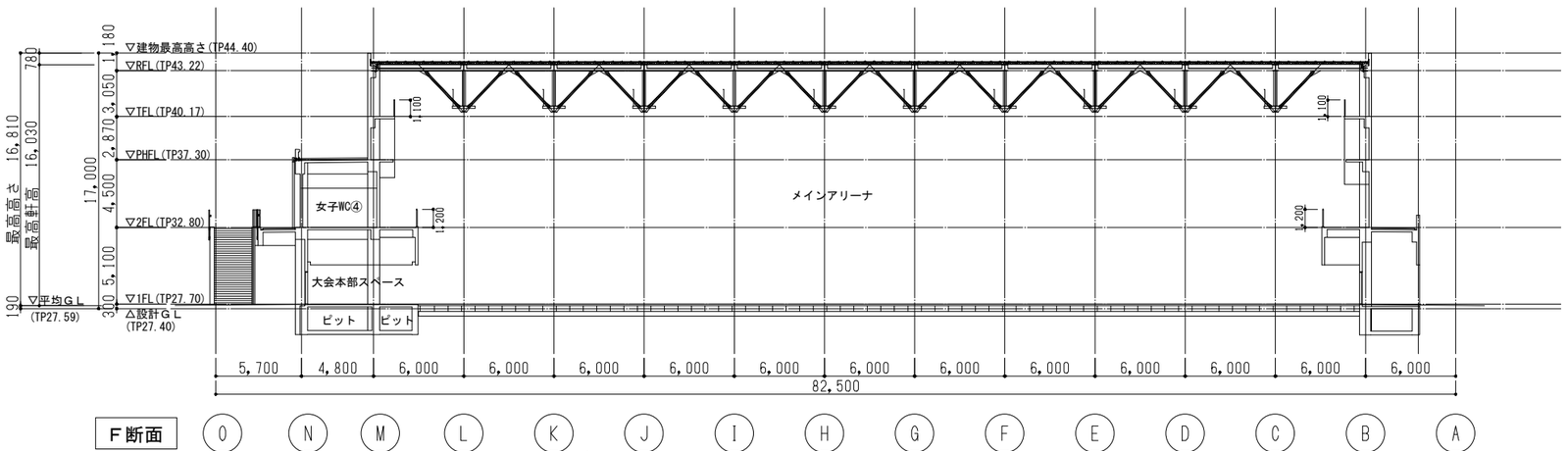

▽建物最高高さ(TP44.40)
▽RFL(TP43.22)
▽TFL(TP40.17)
▽PHFL(TP37.30)
▽2FL(TP32.80)
▽1FL(TP27.70)
△設計GL
(TP27.40)
▽平均GL
(TP27.59)
最高高さ 16,810
最高軒高 16,030
17,000
780
180
3,050
2,870
4,500
5,100
300
190
多目的ホール
5,700
4,800
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
82,500
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A

D断面


▽建物最高高さ(TP44.40)
▽RFL(TP43.22)
▽TFL(TP40.17)
▽PHFL(TP37.30)
▽2FL(TP32.80)
▽1FL(TP27.70)
△設計GL
(TP27.40)
▽平均GL
(TP27.59)
最高高さ 16,810
最高軒高 16,030
17,000
780
180
3,050
2,870
4,500
5,100
300
190
防矢ネット
的場
28,000
矢道
4,000
射場
4,000
3,000
射場控
屋上機器スペース
女子WC2
ロビー②
機械室③
通路③
女子更衣室
男子更衣室
会議室①
通路④
多目的室
ロビー①
5,700
4,800
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
82,500
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A

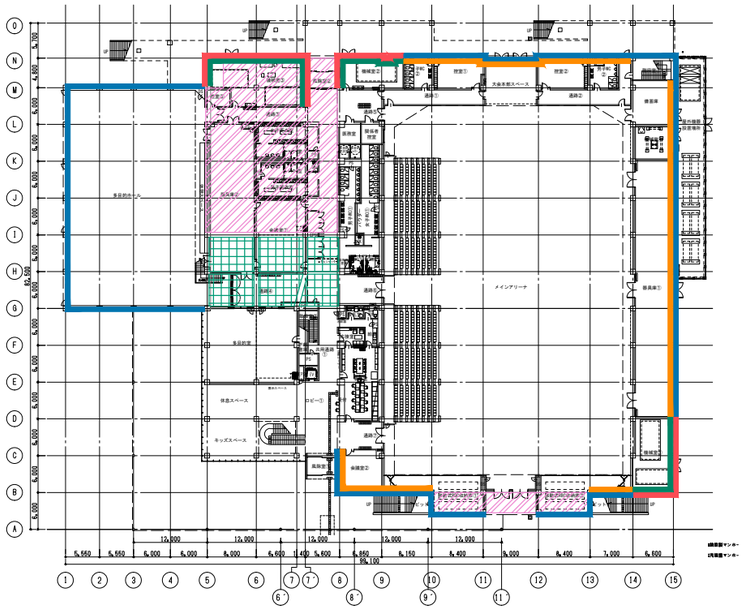
E断面


D
E
F
C
B
A

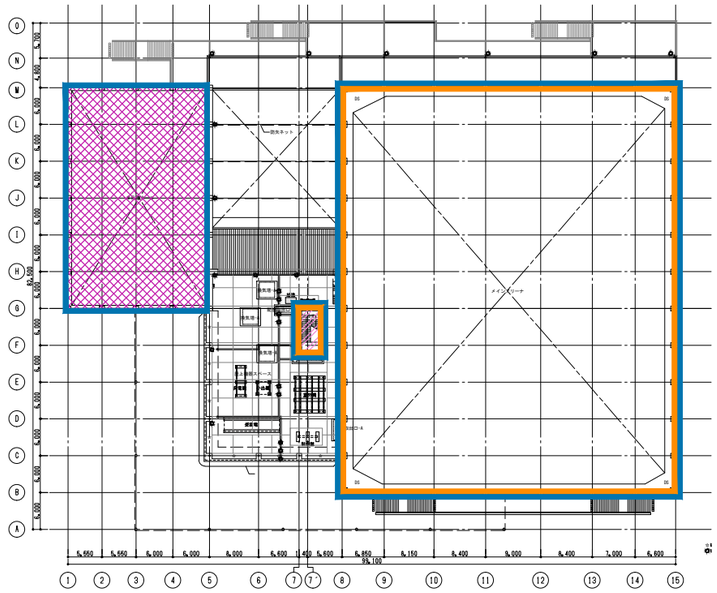

▽建物最高高さ(TP44.40)
▽RFL(TP43.22)
▽TFL(TP40.17)
▽PHFL(TP37.30)
▽2FL(TP32.80)
▽1FL(TP27.70)
△設計GL
(TP27.40)
▽平均GL
(TP27.59)
最高高さ 16,810
最高軒高 16,030
17,000
780
180
3,050
2,870
4,500
5,100
300
190
1,100
1,100
女子WC④
1,200
1,200
メインアリーナ
大会本部スペース
ピット
ピット
5,700
4,800
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
82,500
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A

F断面

| | | |



1階平面図

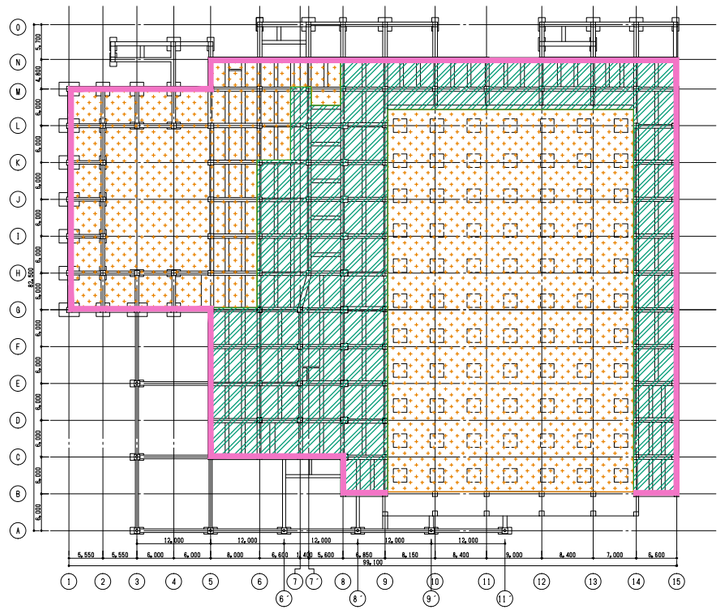


PH階平面図

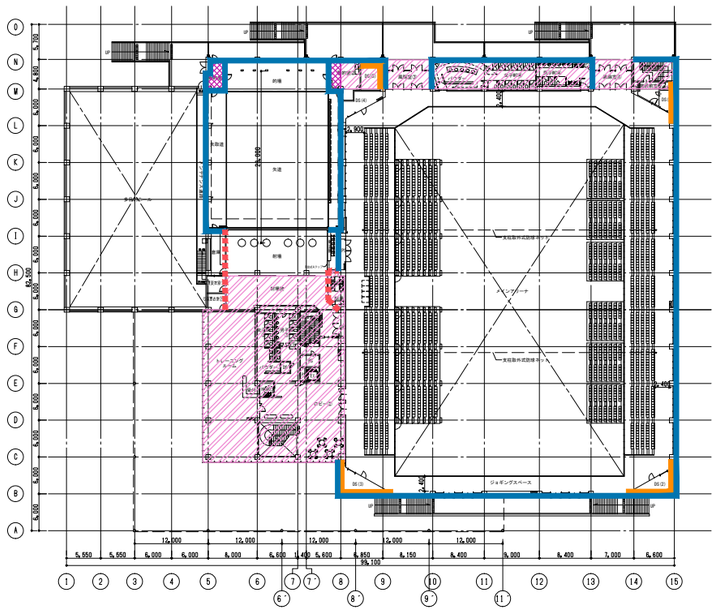
凡例

屋根部		：(ＲＣ部)Ａ種押出ポリスチレンフォーム保温板２種ｂ t=50
		：強化複合断熱パネルt=20 + 硬質ウレタンフォーム t=20
熱橋部		：(壁・梁)Ａ種押出ポリスチレンフォーム保温板２種ｂ t=30 W,H=600
		：(床下)吹付硬質ウレタンフォーム t=25 W=600
		：(床下)ＧＷＢ t=25 ※詳細は矩計図による
壁部		：吹付硬質ウレタンフォーム t=25
		：ＧＷＢ t=25
		：ＧＷ(20K) t=50
床部		：床裏部(１Ｆ見上部)Ａ種押出ポリスチレンフォーム保温板２種ｂ t=30
		：(スラブ下)Ａ種押出ポリスチレンフォーム保温板３種ｂ t=30
		：(ピット上部)Ａ種押出ポリスチレンフォーム保温板２種ｂ t=30

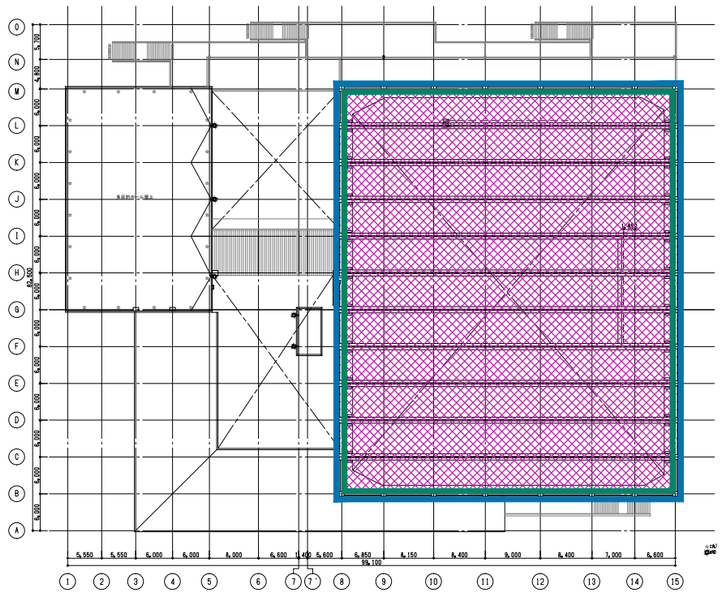
※床、壁断熱は見上げを示す。
※壁断熱はその階におけるものを示す。
※断熱補強は詳細図による。



ピット階平面図



２階平面図



トラス階平面図

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

断熱範囲図

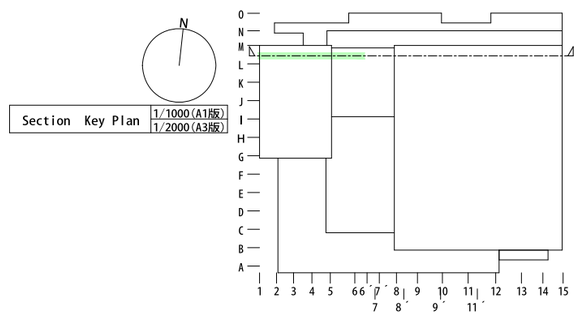
設計番号 16779

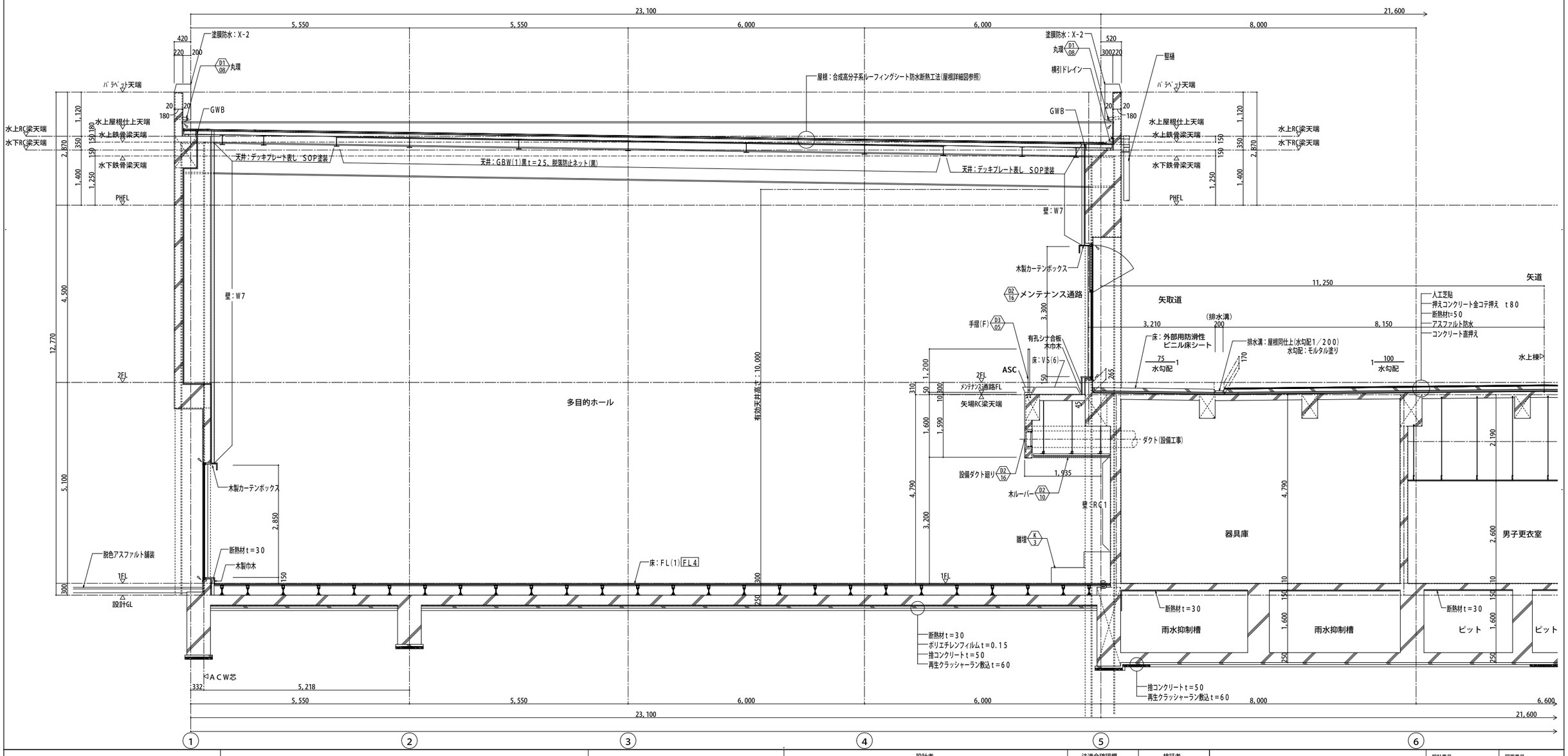
図面番号 A －034-2

縮尺 1/1:500 A3:1000

日付 2019・11・15

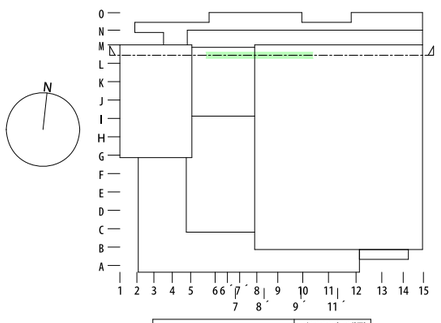
矩計図註記）
⊘ ：シーリング位置を示す。





| | | |

矩計図註記）
⊿ ：シーリング位置を示す。

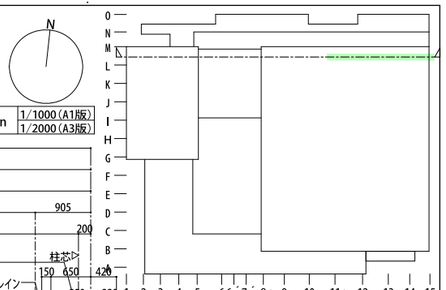


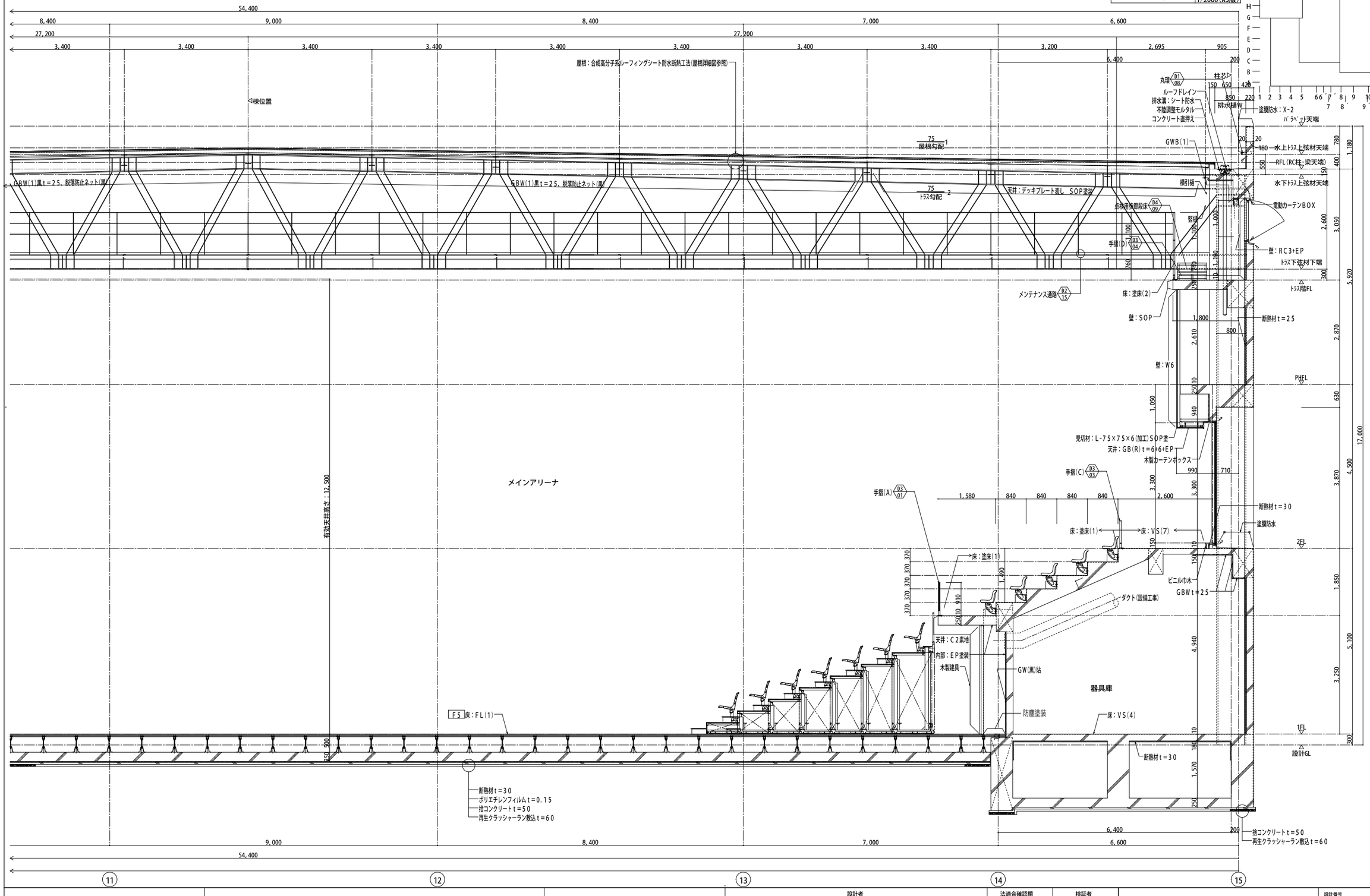
Section Key Plan | 1/1000 (A1版) 1/2000 (A3版)

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1－10078号	設計者					法適合確認欄		検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 158095	図面番号 A － 036
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子		設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子			矩計図（2）	縮尺 A1:1/50 A3:1/100	日付 2019-11-15

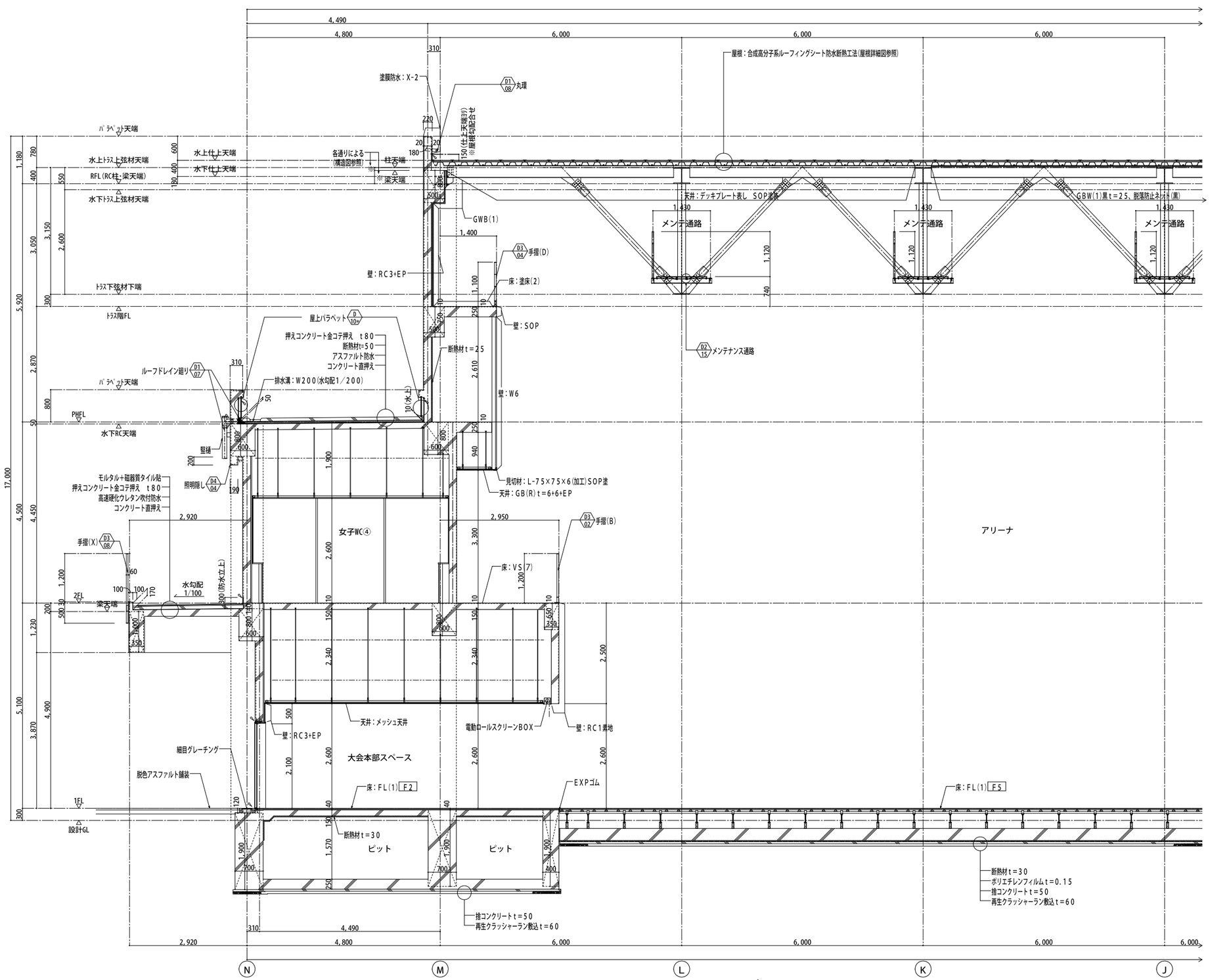
矩計図註記）
⊿ ：シーリング位置を示す。

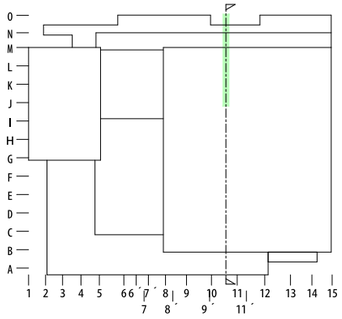
Section Key Plan 1/1000(A1版) 1/2000(A3版)





| | | |



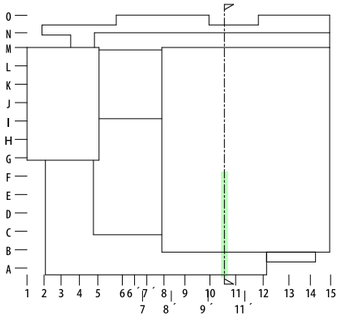


Section Key Plan 1/1000(A1版) 1/2000(A3版)

N

矩計図註記)
⇗ ：シーリング位置を示す。

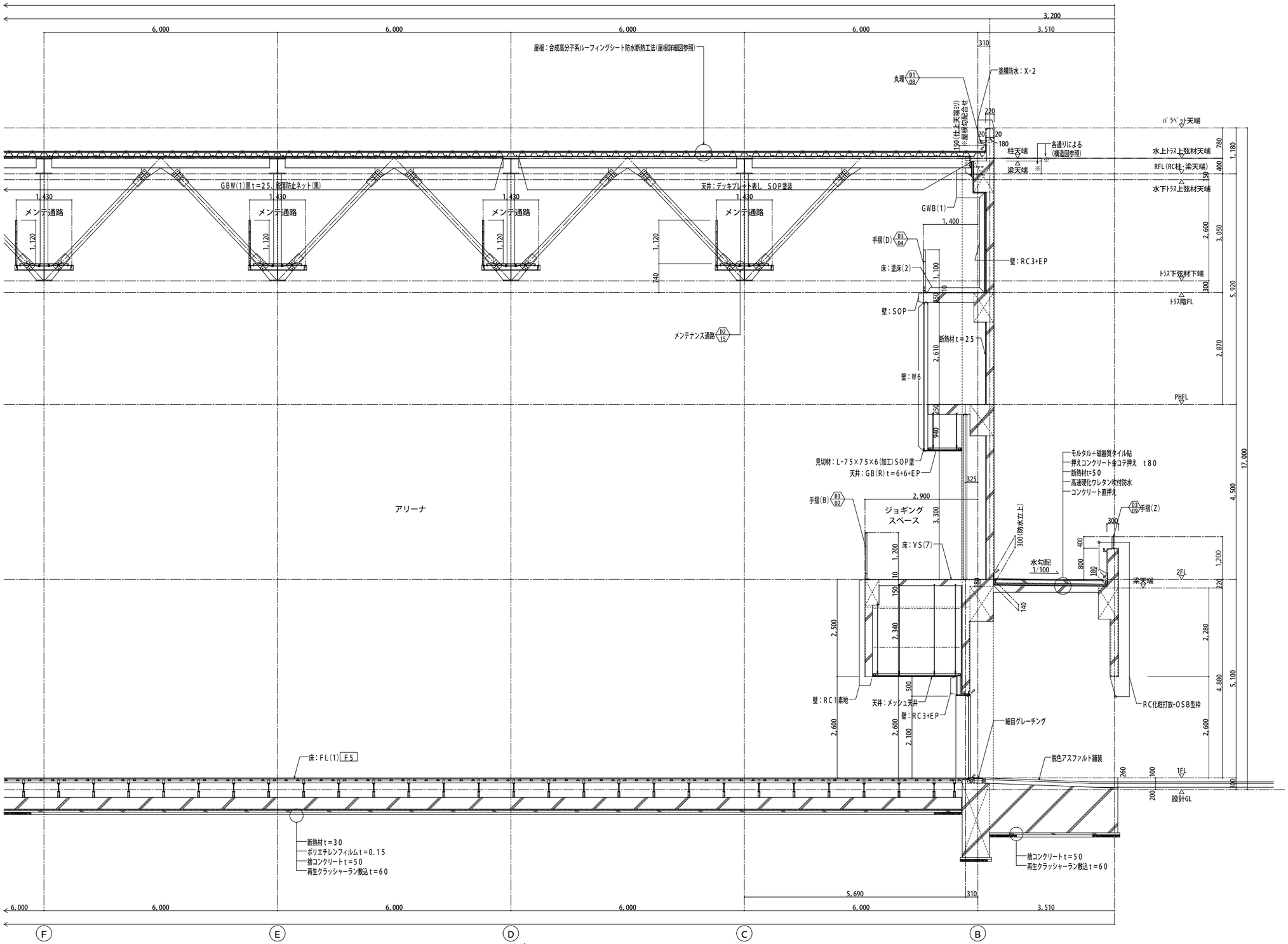
| | | |



Section Key Plan | 1/1000(A1版) 1/2000(A3版)

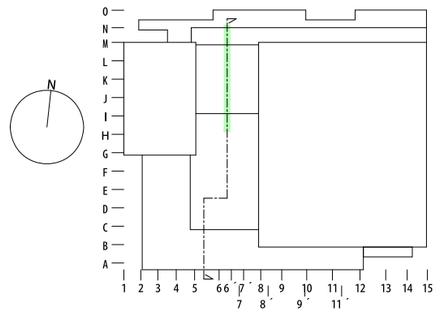
N

矩計図註記)
⊘ ：シーリング位置を示す。

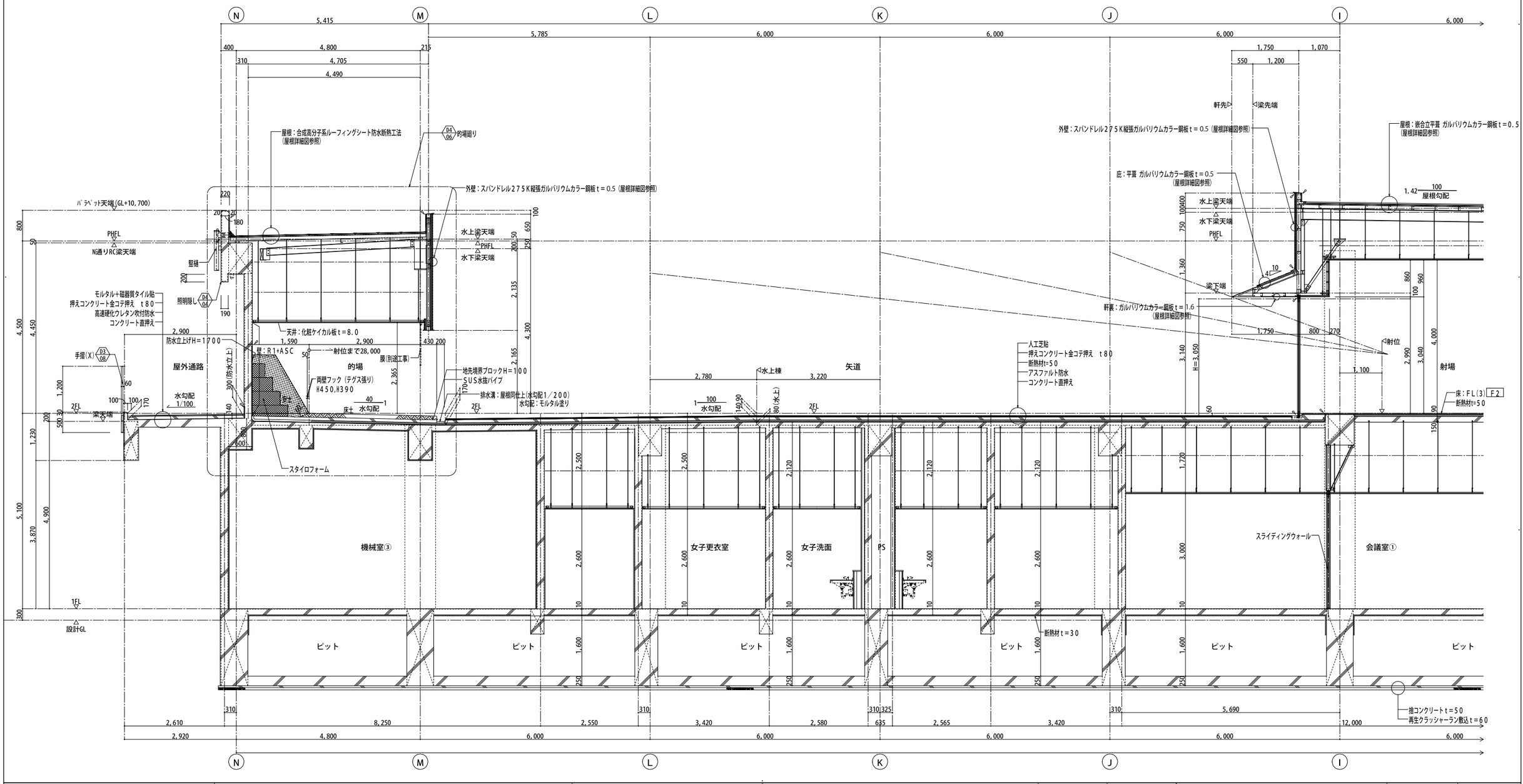


飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1－10078号	設計者					法適合確認欄		検証者	飯塚市新体育館等建設工事 矩計図（5）	設計番号 158095 縮尺 1/ A1:1/50 A3:1/100 日付 2019-11-15	図面番号 A － 039
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子		設備設計一級建築士 第5496号 権業 夏子					

矩計図註記）
⊿ ：シーリング位置を示す。

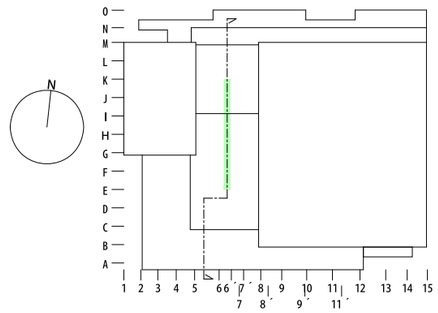


Section Key Plan　1/1000（A1版）1/2000（A3版）

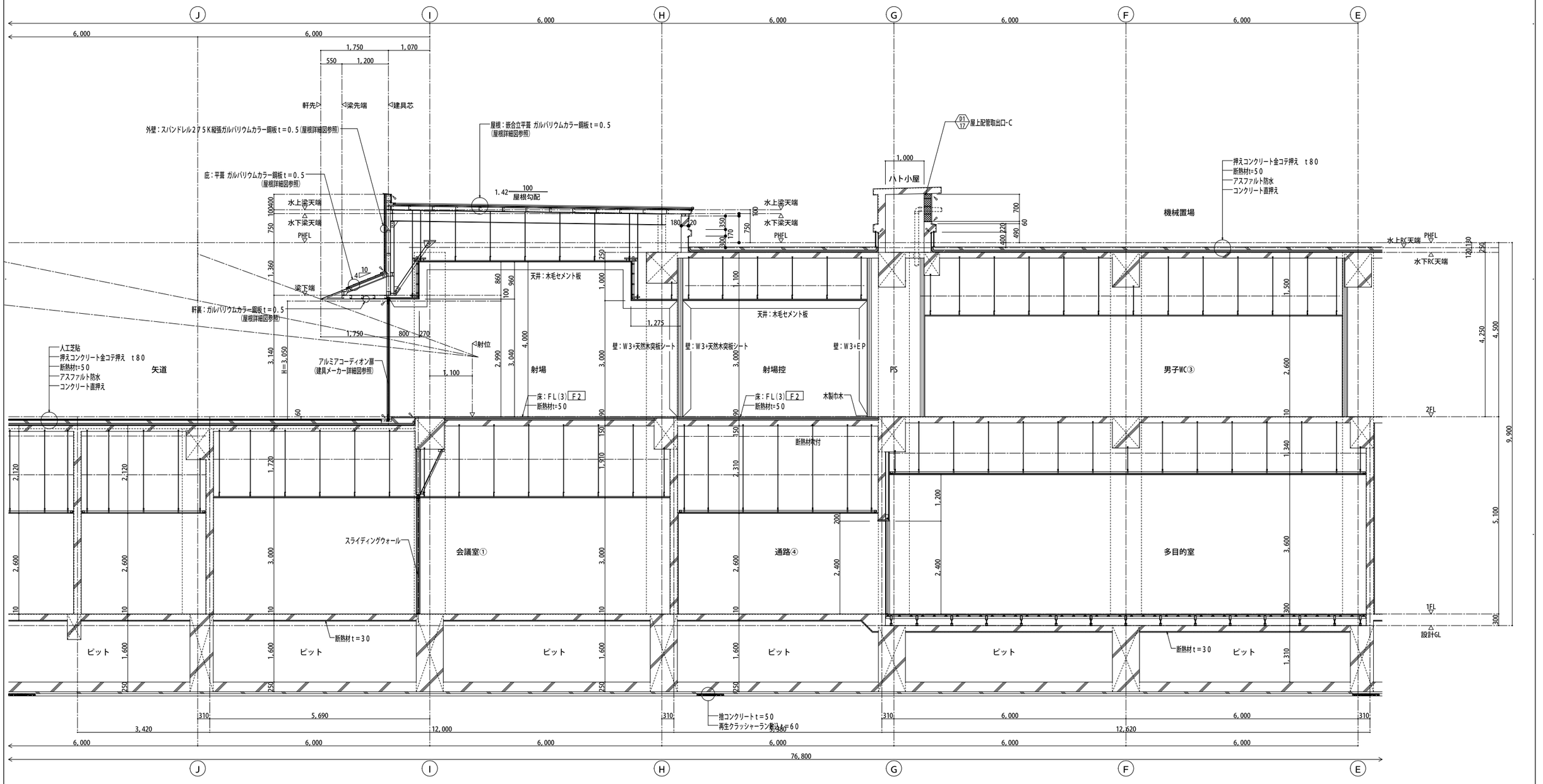


飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1－10078号	設計者					法適合確認欄		検証者		飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 158095	図面番号 A － 040
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子		設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子				矩計図（6）	縮尺 1/ A1:1/50 A3:1/100	日付 2019-11-15

矩計図註記）
／：シーリング位置を示す。

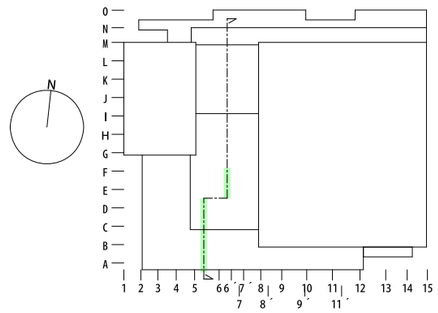


Section Key Plan　1/1000（A1版）1/2000（A3版）

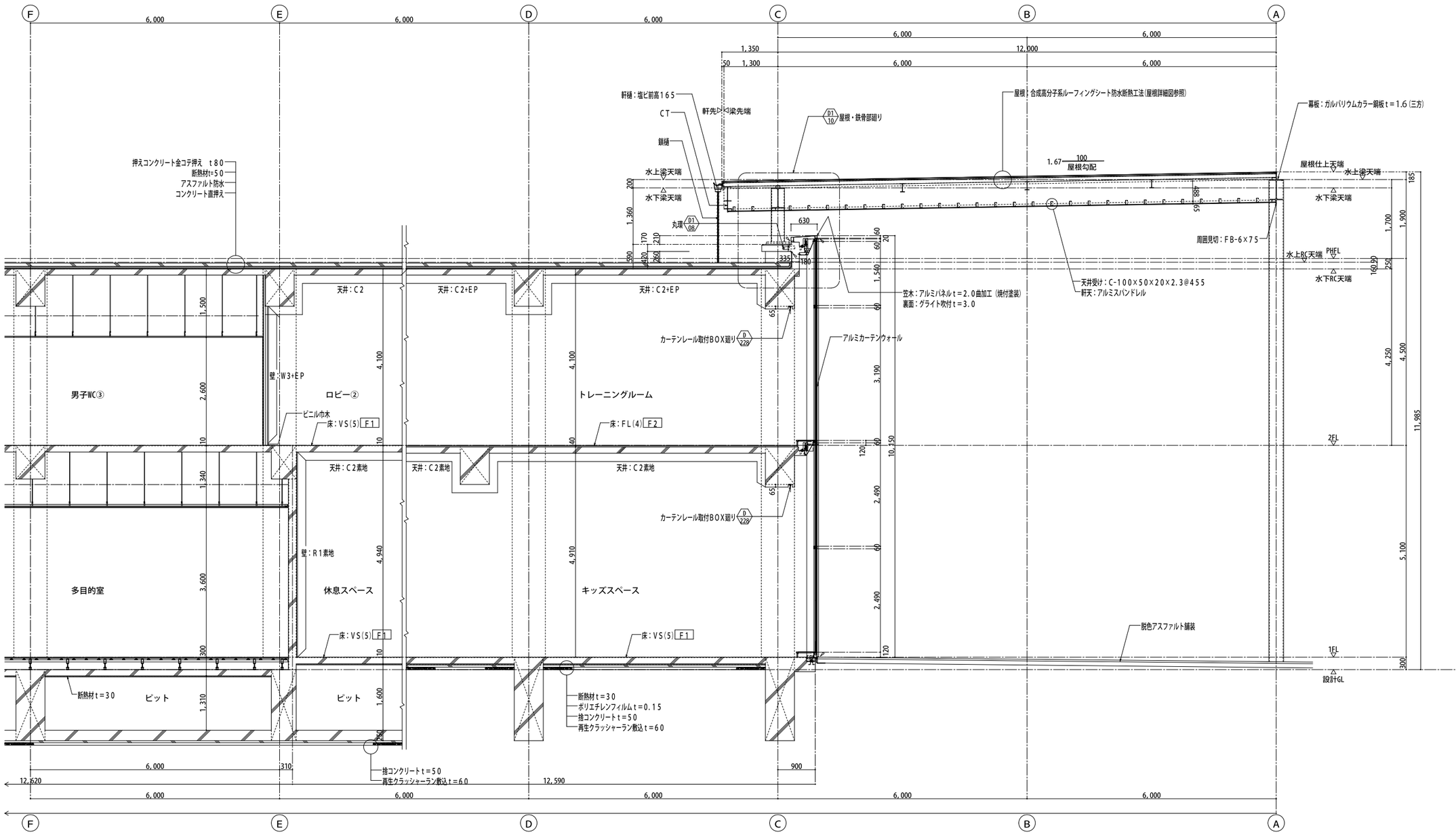


| | | |

矩計図註記）
／：シーリング位置を示す。

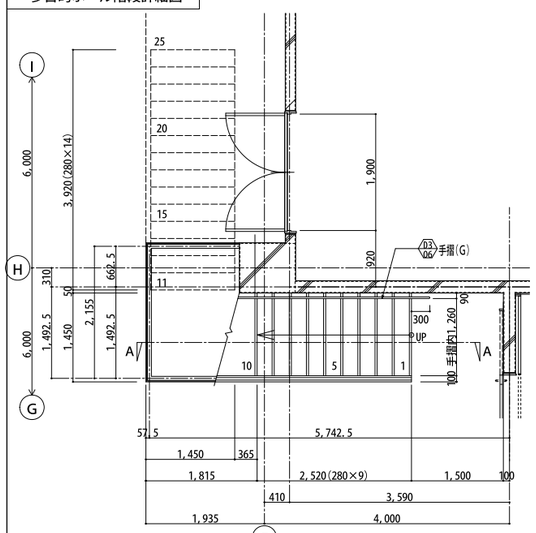


Section Key Plan | 1/1000（A1版） 1/2000（A3版）

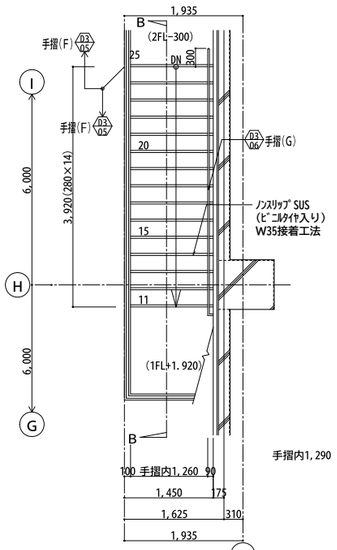


| | | |

多目的ホール階段詳細図

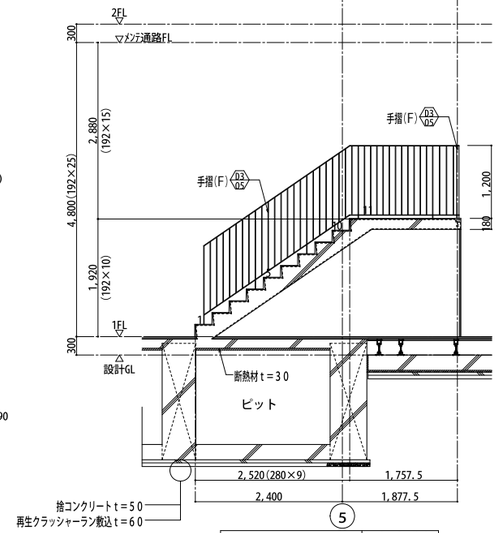


1階平面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

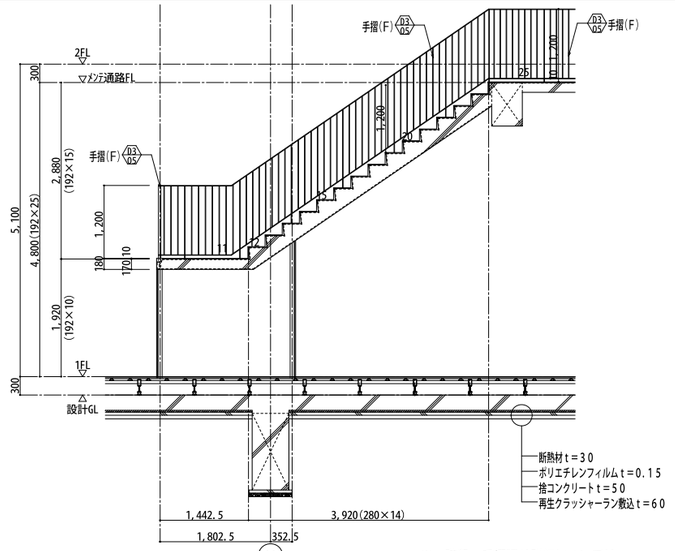


2階平面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

手摺内1,290



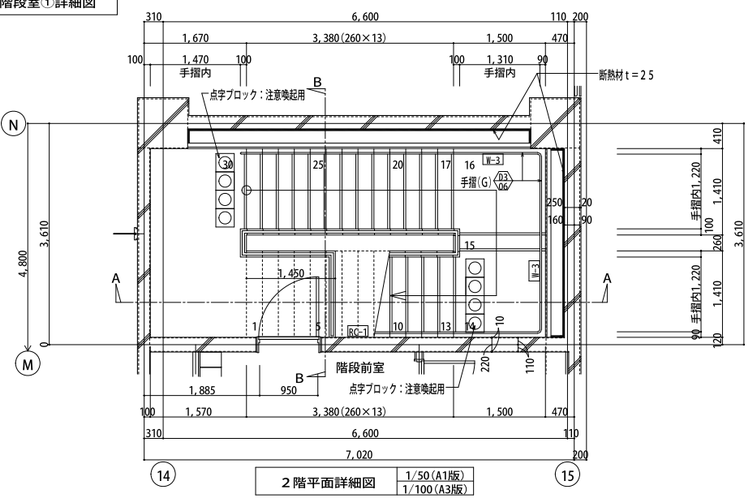
A〜A断面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)



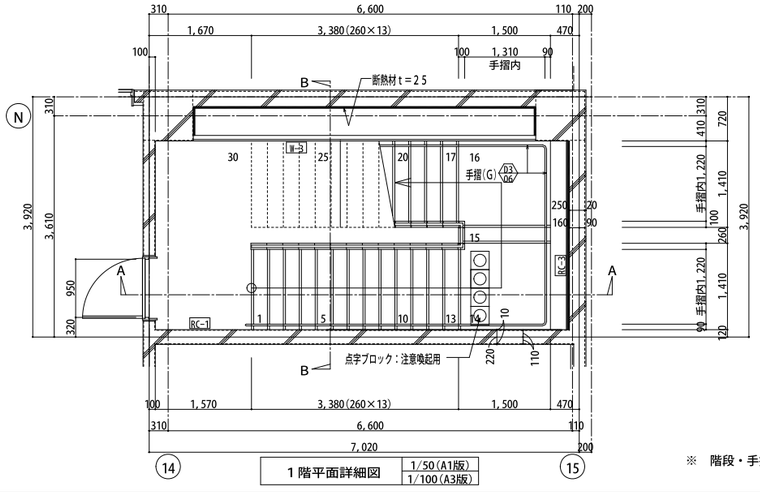
B〜B断面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

※　階段・手摺廻り詳細については、
階段室②：手摺・段廻り詳細にに準ずる物とする。

階段室①詳細図

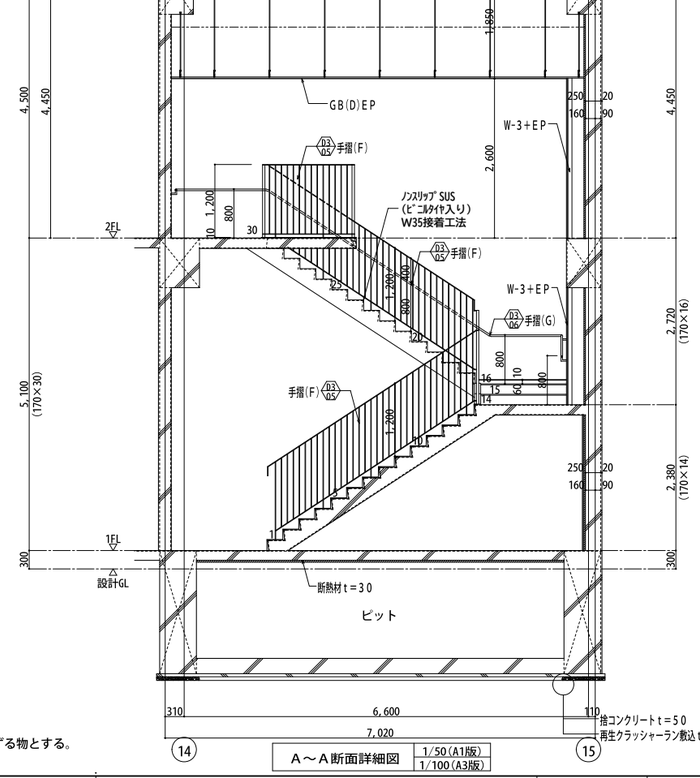


2階平面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

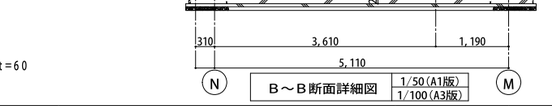


1階平面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

※　階段・手摺廻り詳細については、階段室②：手摺・段廻り詳細にに準ずる物とする。

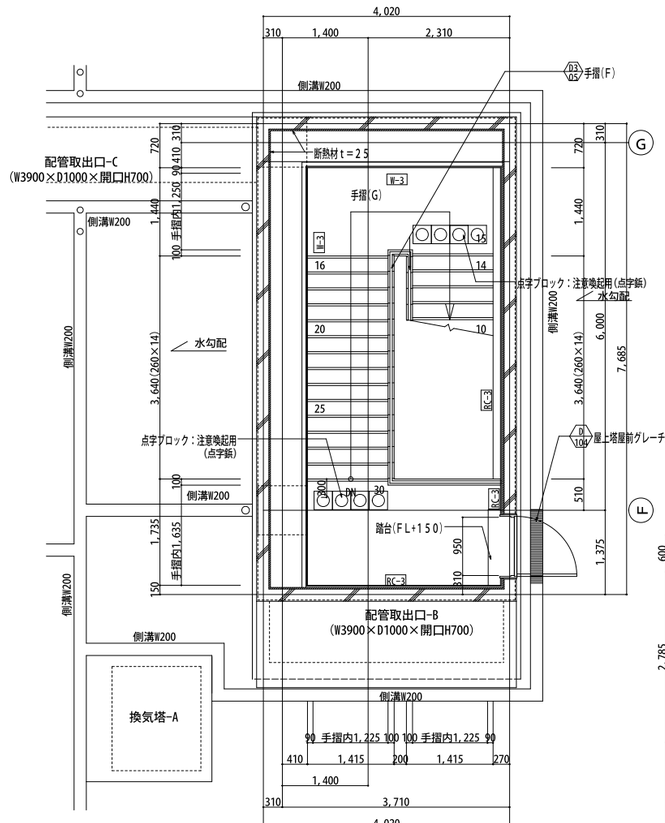


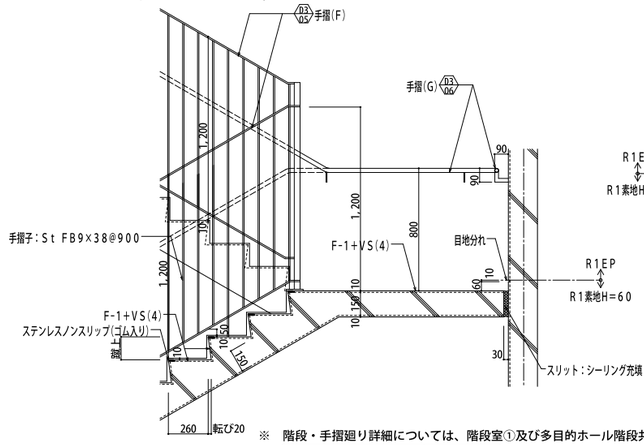
A〜A断面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)



B〜B断面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

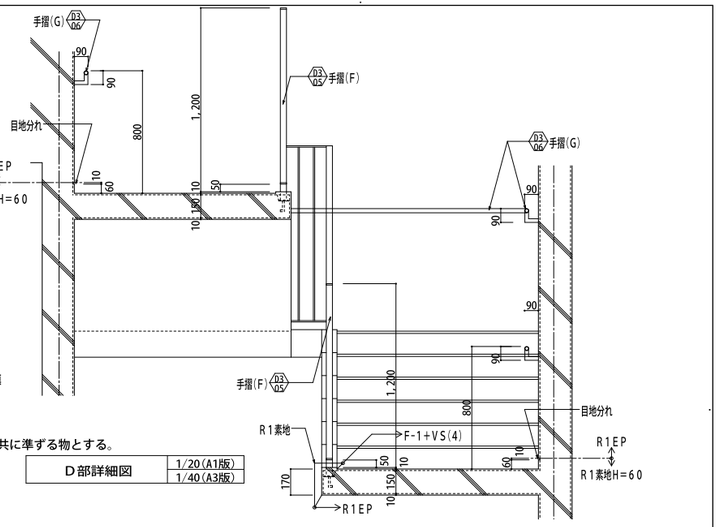
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1−10078号	設計者					法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 158095 / 図面番号 A − 043
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子		設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		階段詳細図(1)	縮尺 1/A1:1/50 A3:1/100 / 日付 2019-11-15



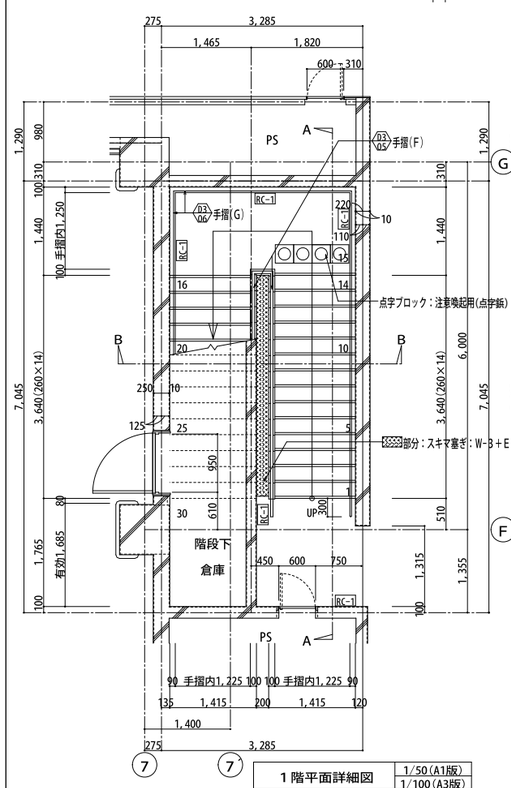


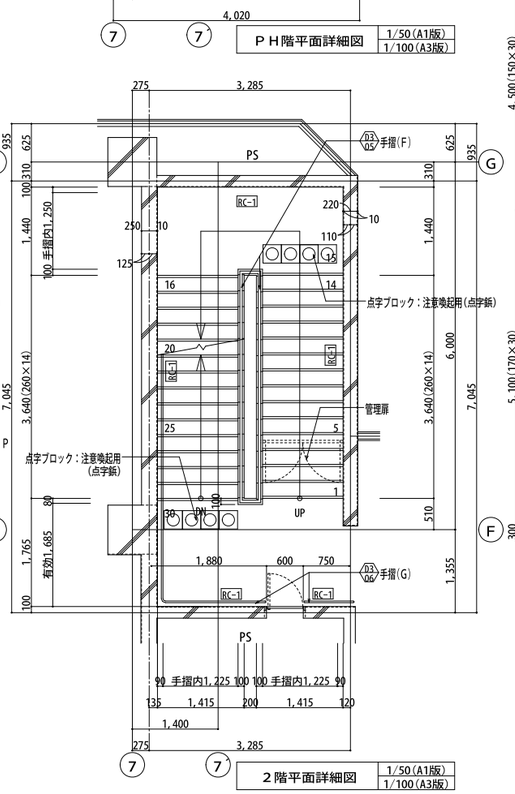
※ 階段・手摺廻り詳細については、階段室①及び多目的ホール階段共に準ずる物とする。

C部詳細図	1/20(A1版) 1/40(A3版)

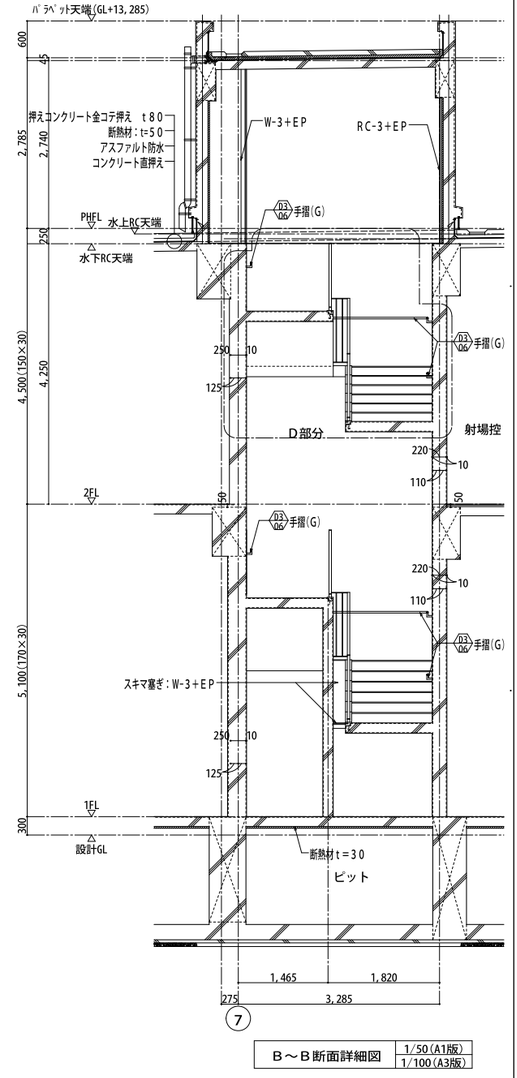


D部詳細図	1/20(A1版) 1/40(A3版)



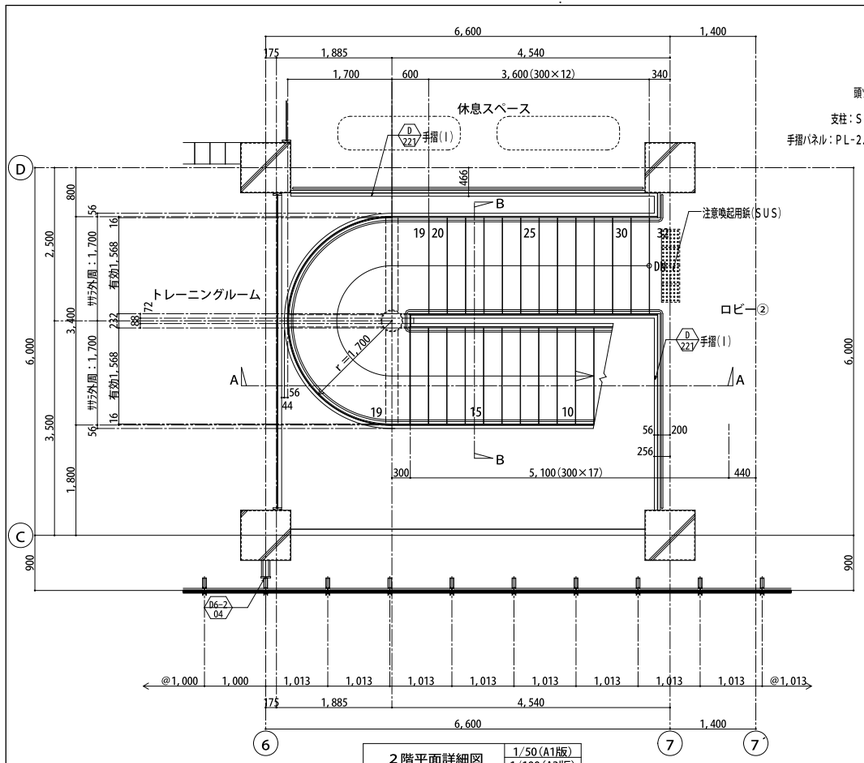


A～A断面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

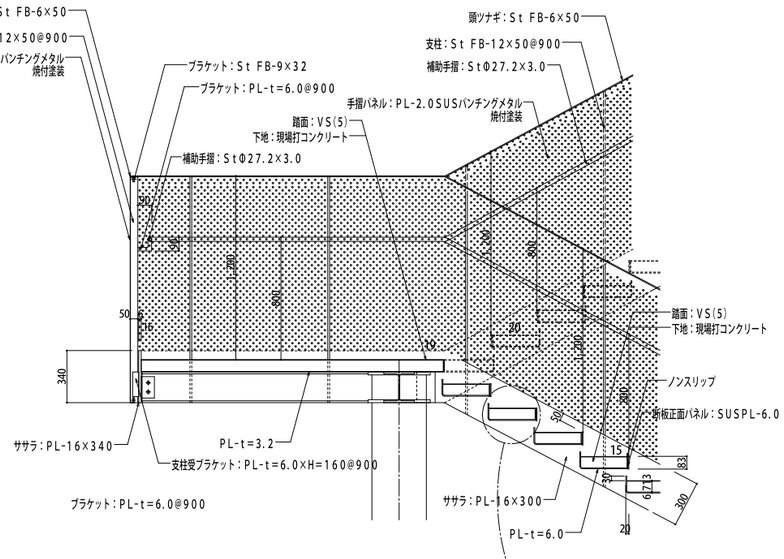


B～B断面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

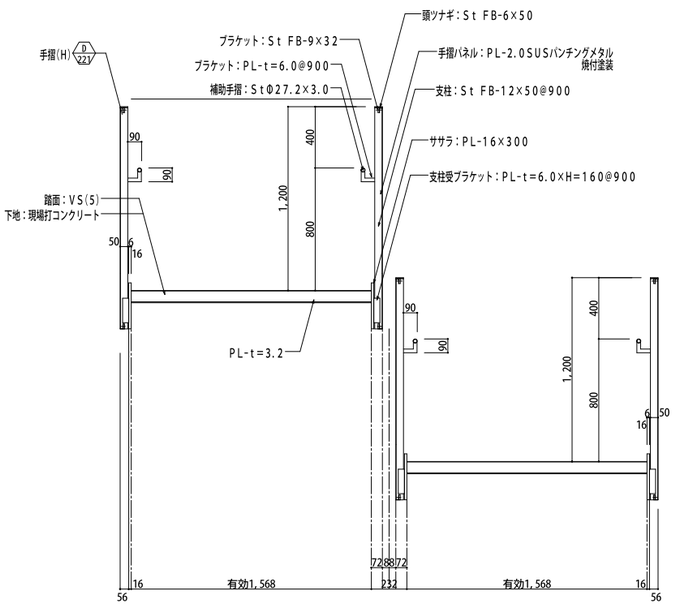
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1－10078号	設計者	法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 158095	図面番号 A － 044
			一級建築士 第280187号 中川 崇 / 一級建築士 第336677号 加野 正知 / 一級建築士 第336801号 江口 聡一郎 / 林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		階段詳細図(2)	縮尺 1/ A1:1/50 A3:1/100 / 日付 2019-11-15	



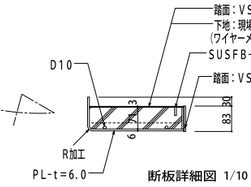
2階平面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)



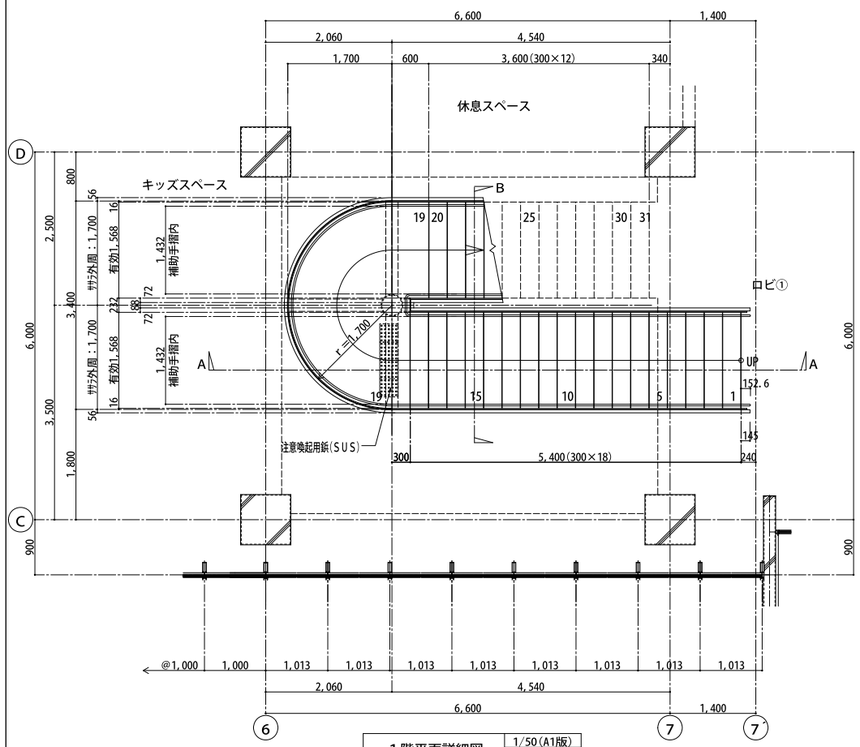
C部詳細図 | 1/20(A1版) 1/40(A3版)



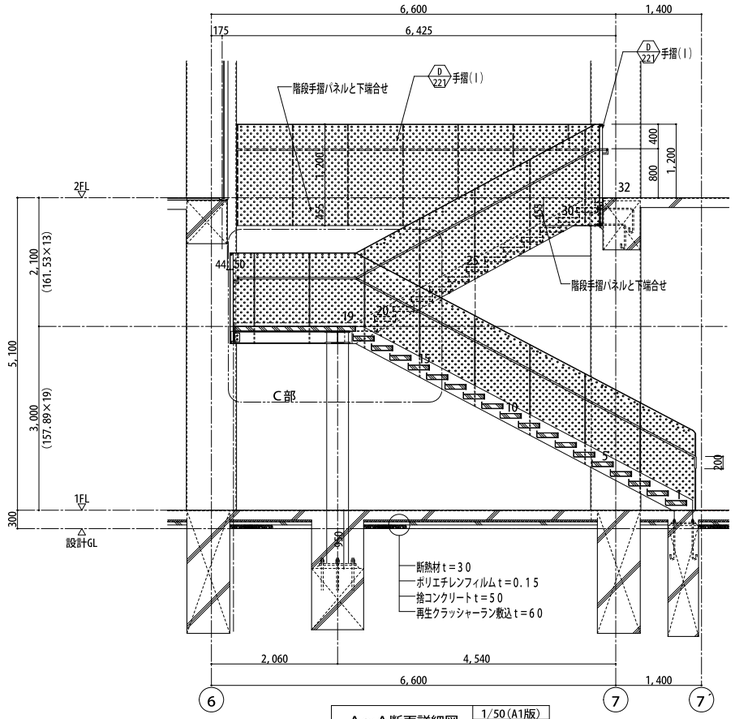
D部詳細図 | 1/20(A1版) 1/40(A3版)



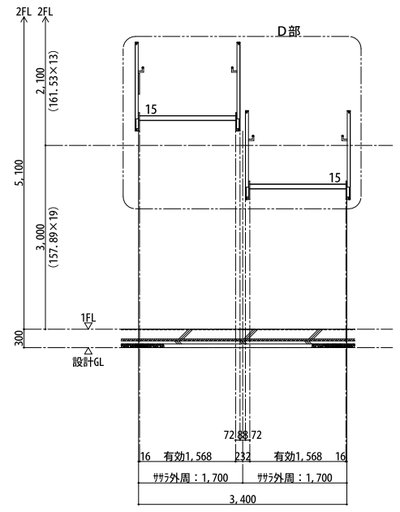
断板詳細図 1/10



1階平面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

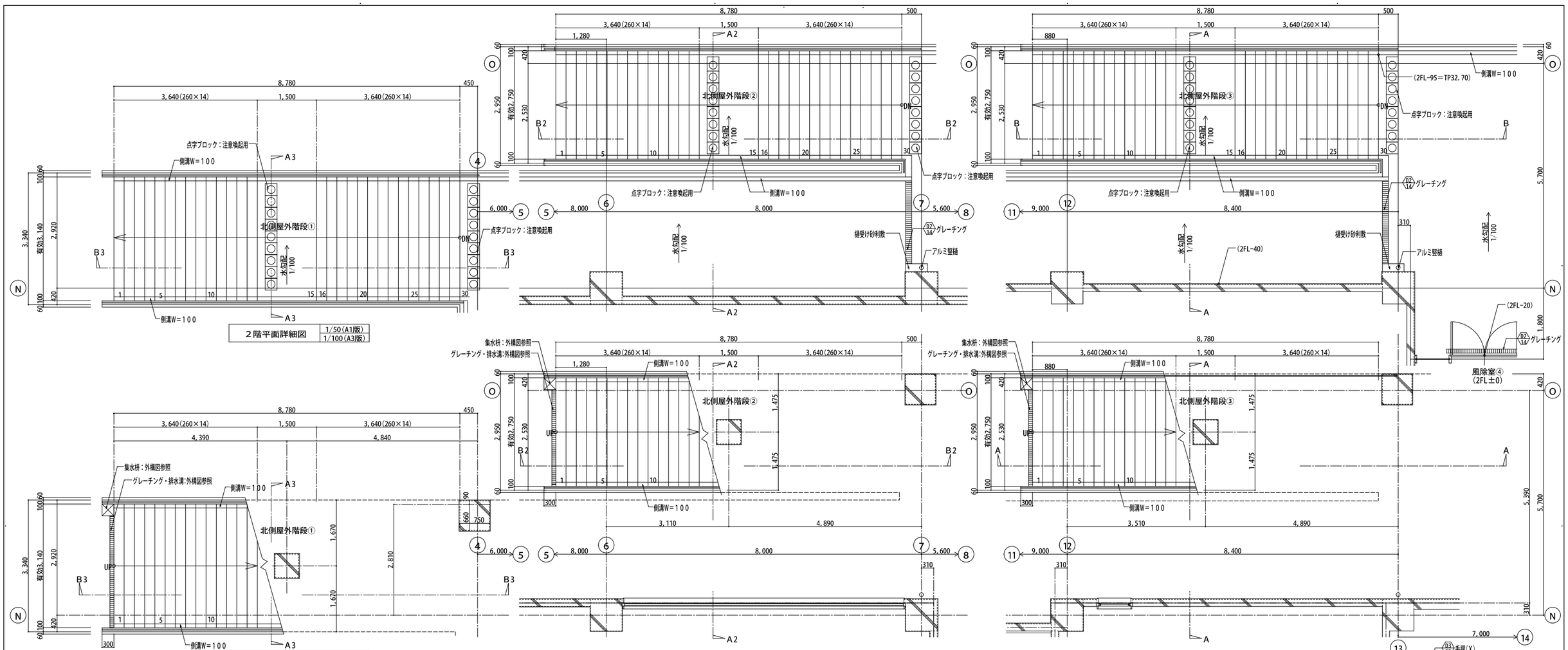


A～A断面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)



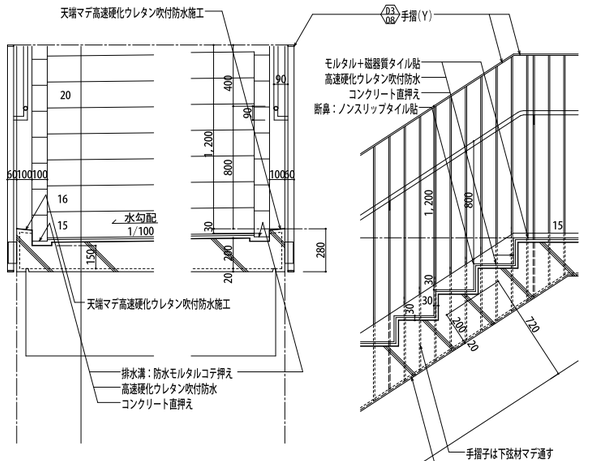
B～B断面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

| | | |



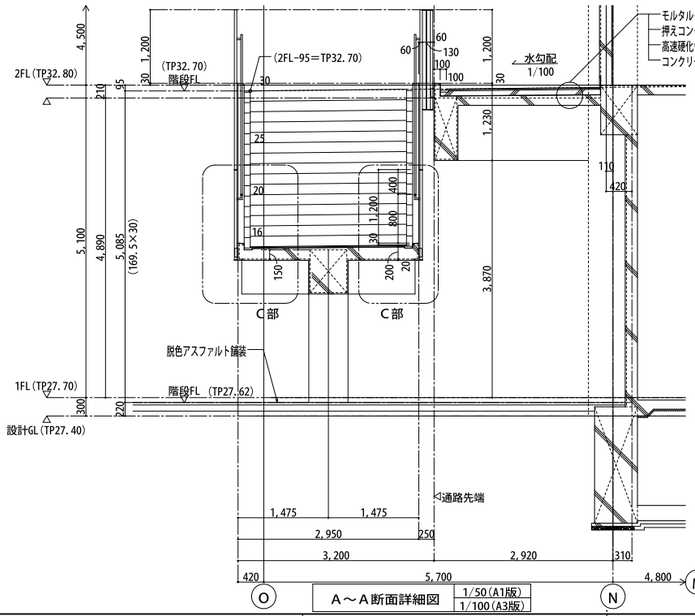
２階平面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

１階平面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

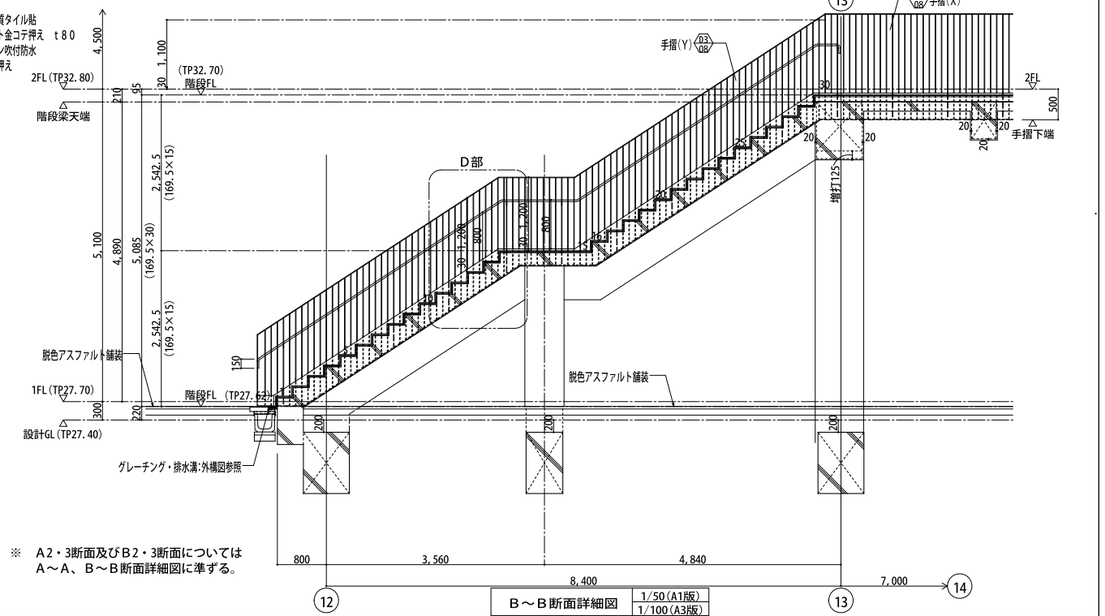


C部詳細図 | 1/20(A1版) 1/40(A3版)

D部詳細図 | 1/20(A1版) 1/40(A3版)



A～A断面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)



※ A2・3断面及びB2・3断面については
A～A、B～B断面詳細図に準ずる。

B～B断面詳細図 | 1/50(A1版) 1/100(A3版)

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1－10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 権業 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

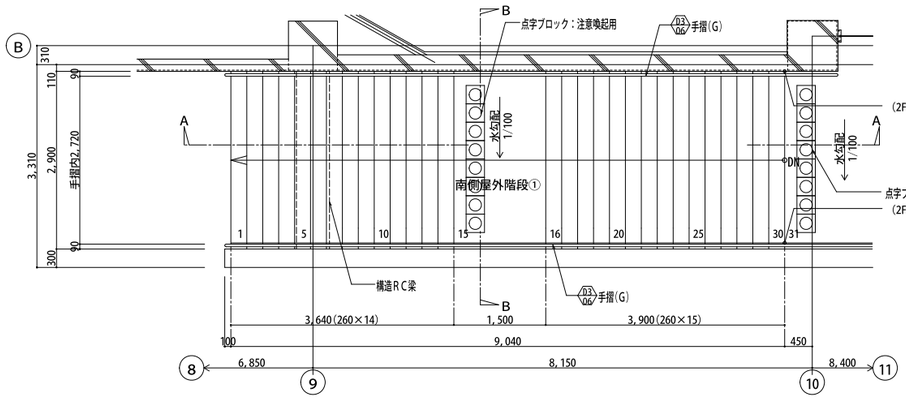
階段詳細図 (4)

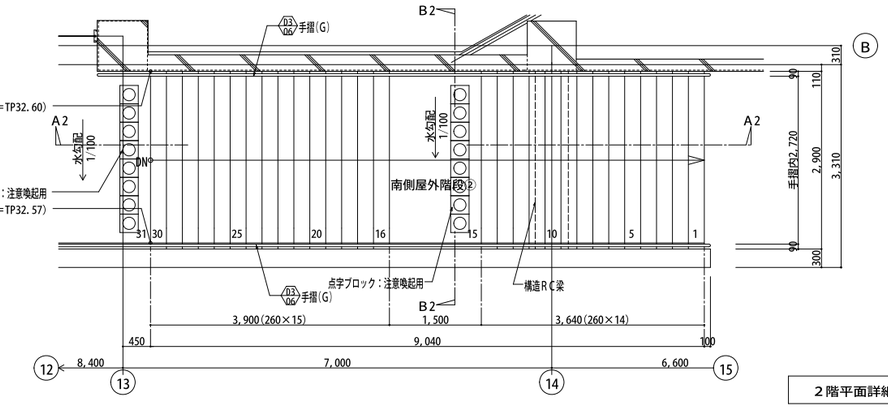
設計番号 158095

図面番号 A － 046

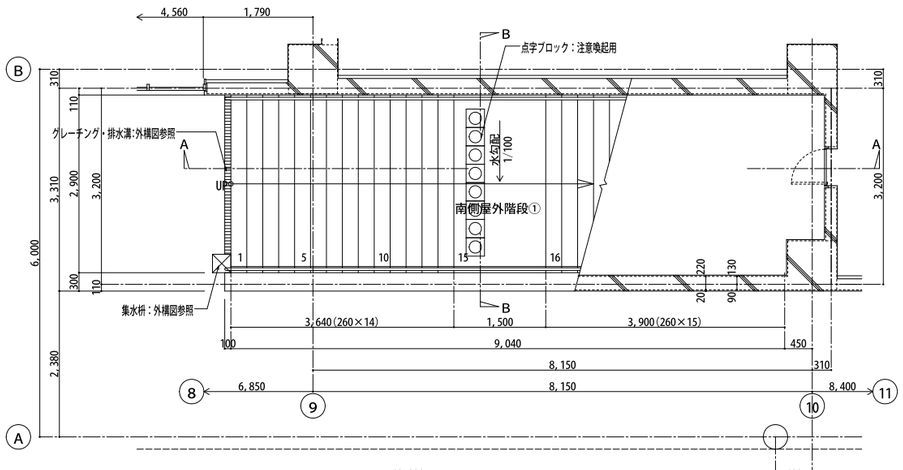
縮尺 1/ A1:1/50 A3:1/100

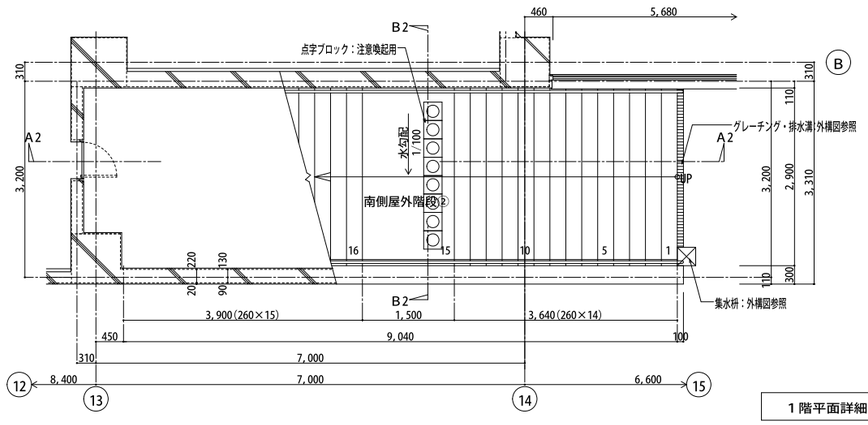
日付 2019・11・15



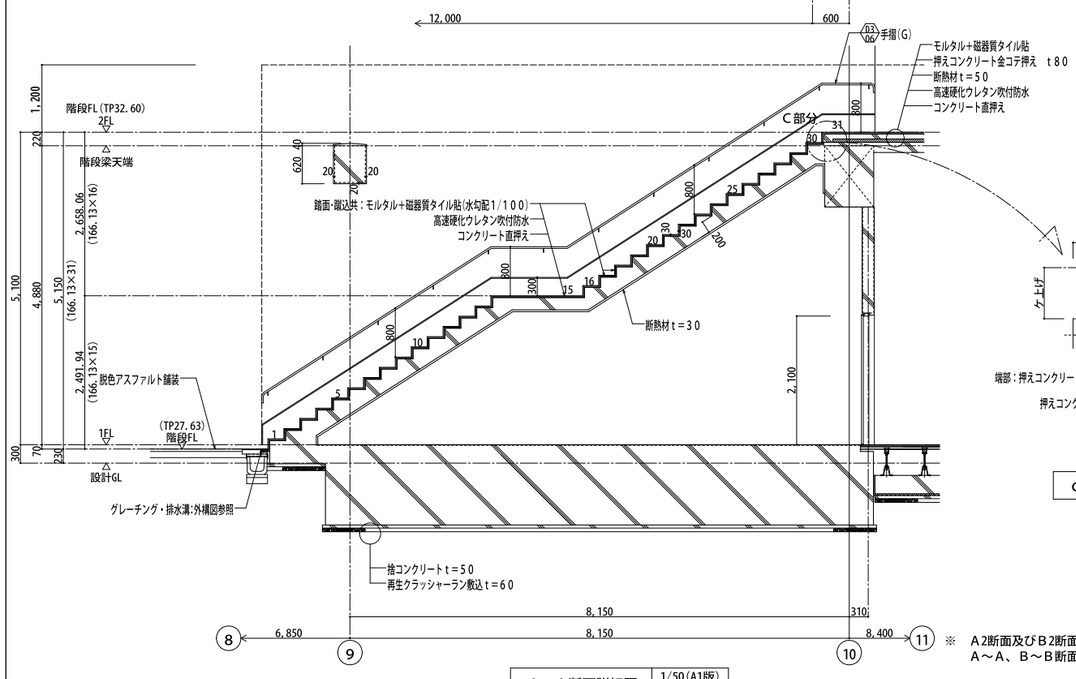


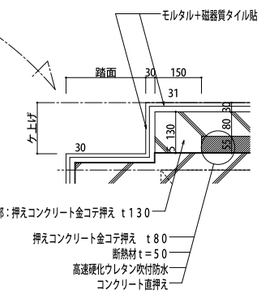
2階平面詳細図　1/50(A1版)　1/100(A3版)





1階平面詳細図　1/50(A1版)　1/100(A3版)

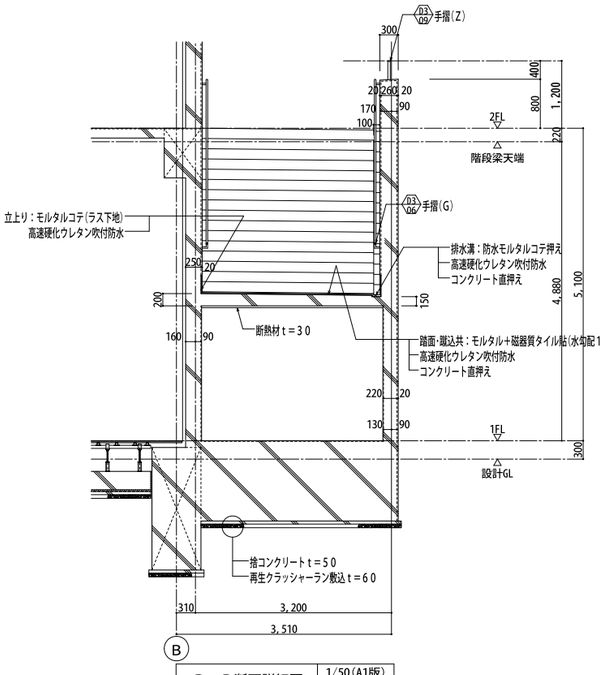




C部：断鼻詳細図　1/10(A1版)　1/20(A3版)

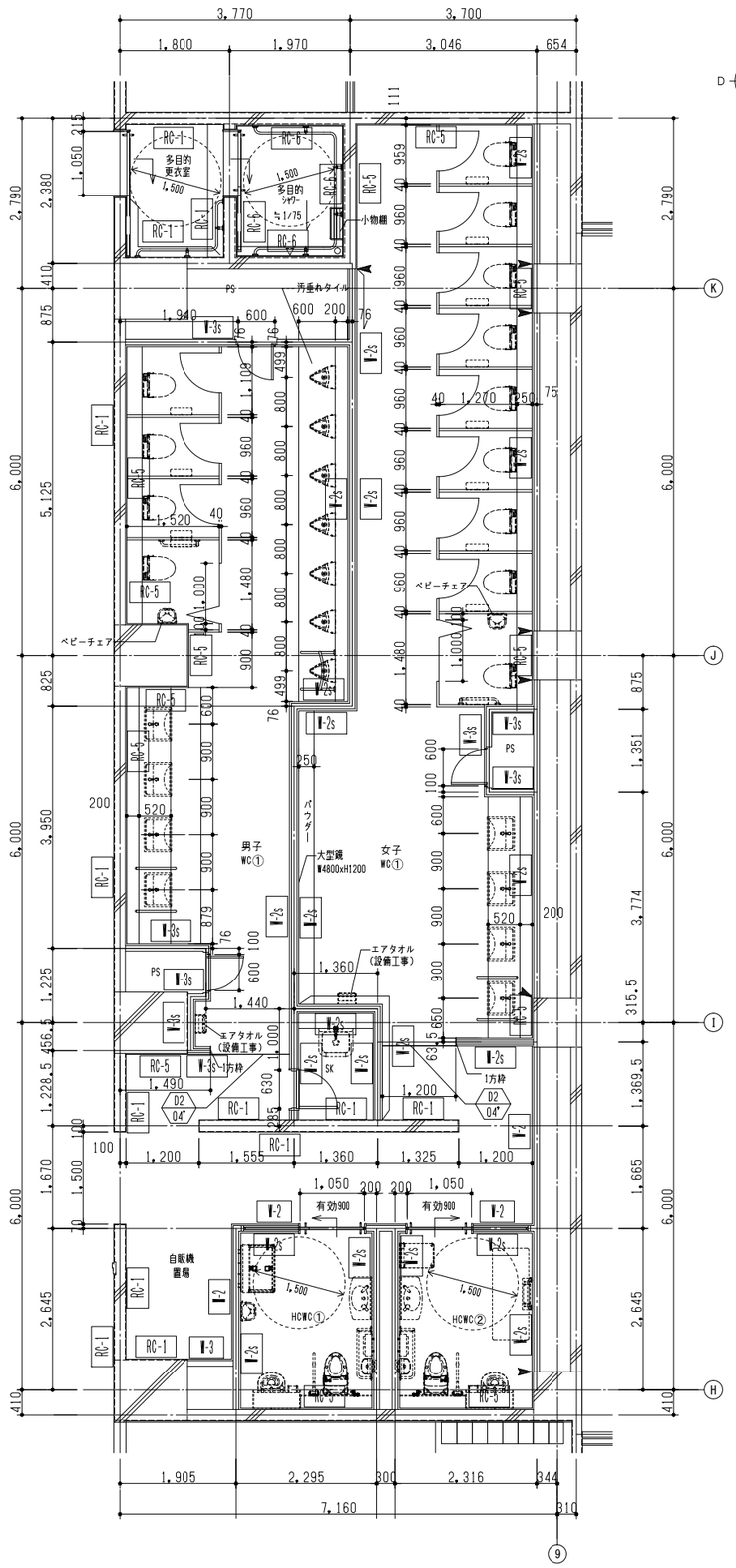
※ A2断面及びB2断面については
A～A、B～B断面詳細図に準ずる。

A～A断面詳細図　1/50(A1版)　1/100(A3版)

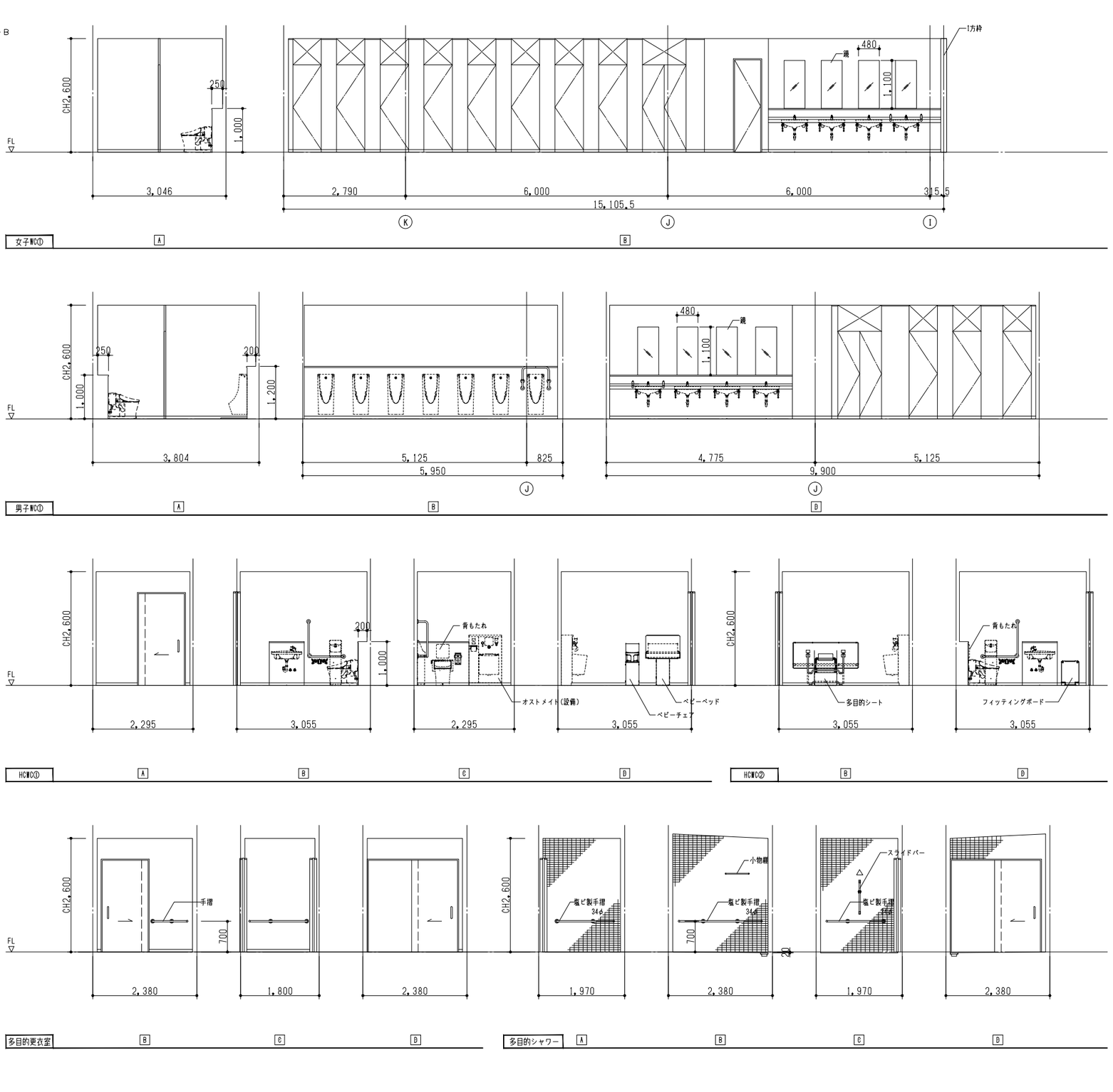


B～B断面詳細図　1/50(A1版)　1/100(A3版)

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1－10078号		設計者					法適合確認欄		検証者	飯塚市新体育館等建設工事 階段詳細図（5）	設計番号 158095	図面番号 A － 047
				一級建築士 第280187号 中川 崇		一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 権葉 夏子				縮尺 1/ A1:1/50 A3:1/100	日付 2019-11-15



男子WC①/女子WC①平面図 S=1/50(A1),1/100(A3)



飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

水廻り詳細図(1)

設計番号	図面番号
16779	A — 048
縮尺 1/A1:50 A3:100	日付 2019・11・15

男子WC④/女子WC④平面図 S=1/50(A1),1/100(A3)

女子WC④ A

パウダーコーナー C

女子WC④ C

男子WC④ A

トイレブース（内折れ戸タイプ） 1/5

折り戸縦断面詳細

折り戸横断面詳細

◇仕様表

項 目	部 材	材 料（板厚mm）
折り戸部品	折戸目板	アルミ押出形材 <指定色 焼付塗装>
	折戸ヒンジ	
	上レール	
	ロック	亜鉛ダイキャスト <塗装仕上>
	ヒンジ	グレビティヒンジ
	折戸用握り棒	ステンレス#25 <鏡面仕上>
	その他金物	円筒戸当り

トイレブース（吊引戸タイプ） 1/5

吊り戸縦断面詳細

吊り戸横断面詳細

◇仕様表

項 目	部 材	材 料（板厚mm）
吊り戸部品	ベース板	亜鉛めっき鋼板 2.3mm <無塗装仕上>
	点検カバー	冷間圧延鋼板 1.2mm <焼付塗装仕上>
	自閉装置	油圧制御装置
	吊戸用握り棒	ステンレス鏡面ハンドル#25 L=450
	その他金物	吊戸ロック

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者					法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号			第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子		椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

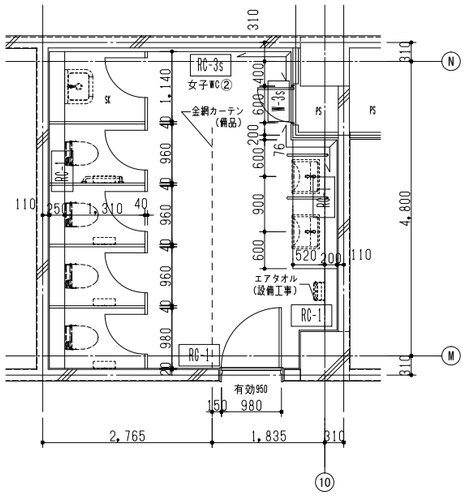
水廻り詳細図(2)

設計番号 16779

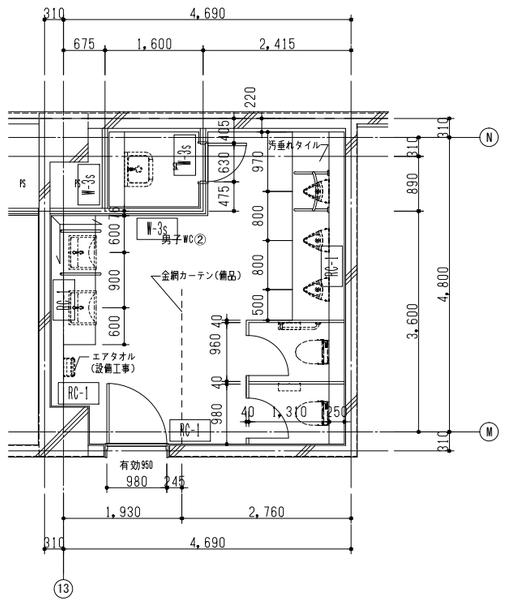
図面番号 A — 049

縮尺 1/A1:50 A3:100

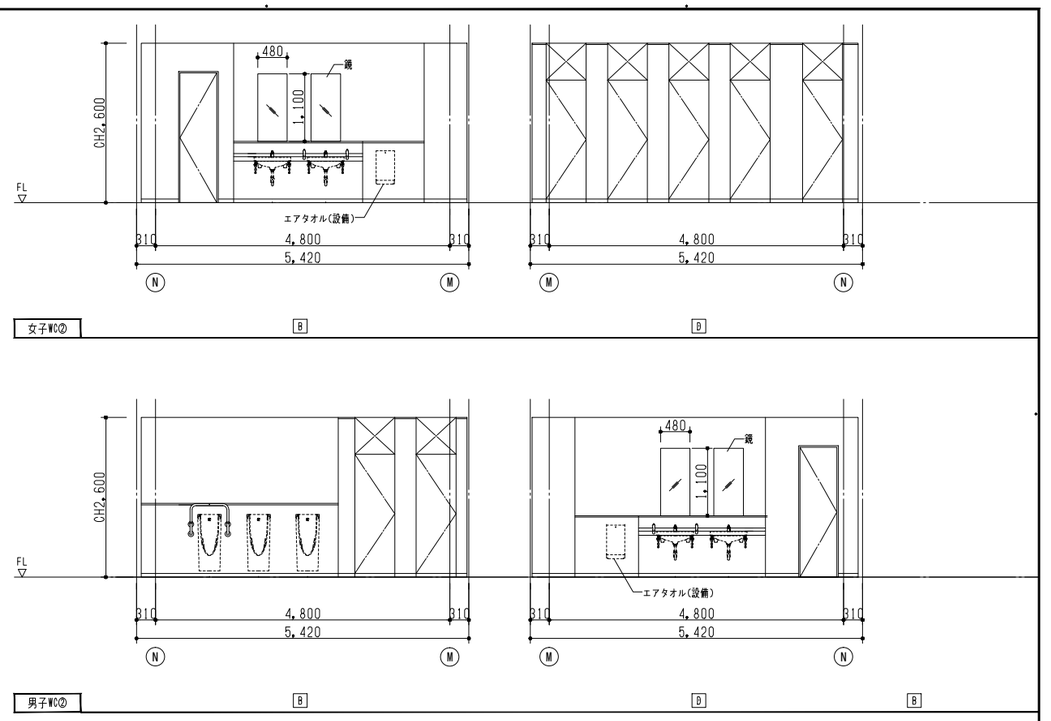
日付 2019・11・15



女子WC②平面図 S=1/50(A1),1/100(A3)



男子WC②平面図 S=1/50(A1),1/100(A3)



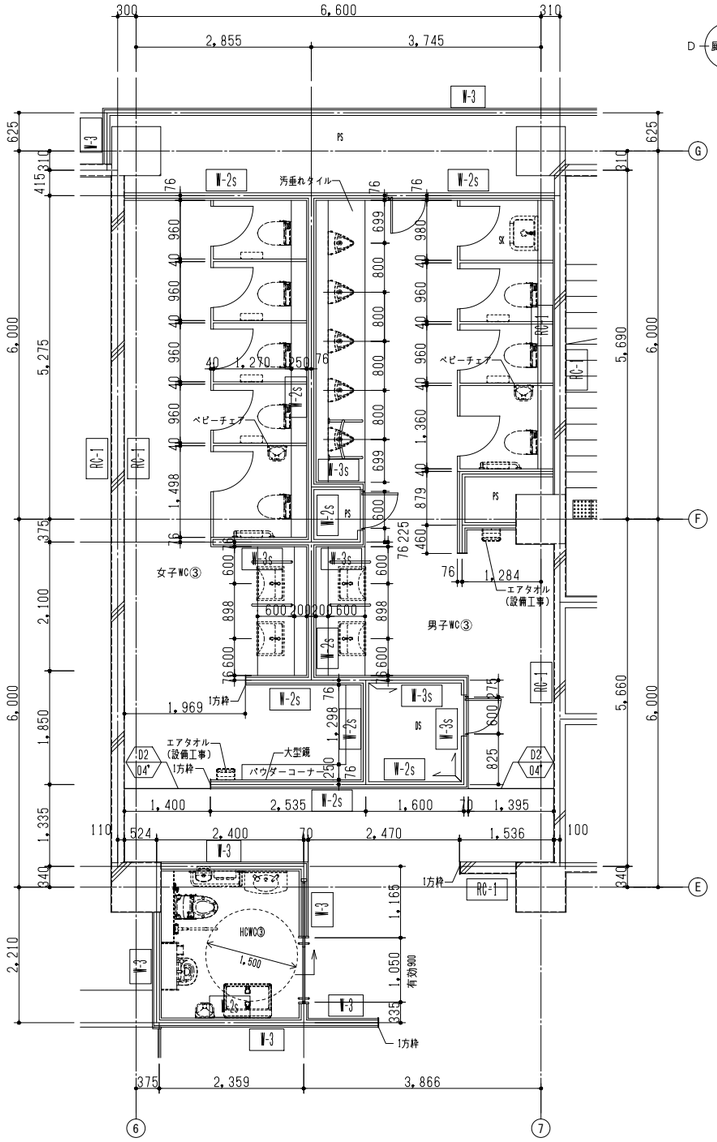
記号	器具名	仕様および付属品 ●衛生陶器は全て焼き付け筋入仕様とする (TOTO:セフィオンテクト LIXIL:アクアセラミック 同等品) 参考型番1	参考型番2	備考	電気容量 φ	V	KW 参考(TOTO)	1F 男子WC①	女子WC①	HOWC①	HOWC②	男子更衣室	女子更衣室	多目的シャワー室	授乳室	給湯	男子WC②	女子WC②	身障者(女)	共通通路	2F 男子WC③	女子WC③	HOWC③	看護師室	弓道更衣室①	弓道更衣室②	給湯	男子WC④	女子WC④	的場	3F 窓ふき機置場	屋外	足洗い場	合計	備考
C-1	パブリック用フラッシュタンク式大便器	CFS497BP, TCF5533AUYS, YH702	YBC-K21P, DV-K213GPFL-C, CF-63HST	床置式・壁排水、洗浄水量大:4.8L、小:3.6L、15A連結洗浄タイプ、タンク(壁固定式)	1	100	0.316	4	9								2	4														19	●発電機容器
				洗浄便座(便ふた無し、擬音装置付、発電式リモコン、管理清掃用リモコン対応品)、棚付二連紙巻器(ステンレス製・耐荷重)																															
C-2	パブリック用フラッシュタンク式大便器	CFS497BP, TCF5533AUYS, YH702	YBC-K21P, DV-K213GPFL-C, CF-63HST	床置式・壁排水、洗浄水量大:4.8L、小:3.6L、15A連結洗浄タイプ、タンク(壁固定式)	1	100	0.316														3	5					4	13					25	
				洗浄便座(便ふた無し、擬音装置付、発電式リモコン、管理清掃用リモコン対応品)、棚付二連紙巻器(ステンレス製・耐荷重)																															
C-3	パブリック用フラッシュタンク式大便器	CFS497BP, TCF5533AUPR, YH702	YBC-K21P, DV-K213GPFL-CK, CF-63HST	床置式・壁排水、洗浄水量大:4.8L、小:3.6L、15A連結洗浄タイプ、タンク(壁固定式)、洗浄便座(便ふた無し、	1	100	0.032			1	1																						2	●発電機容器
				金属ベースプレート仕様・乾燃機能付、発電式リモコン、管理清掃用リモコン対応品)、棚付二連紙巻器(ステンレス製・耐荷重)																															
C-4	パブリック用フラッシュタンク式大便器	CFS497BP, TCF5533AUPR, YH702	YBC-K21P, DV-K213GPFL-CK, CF-63HST	床置式・壁排水、洗浄水量大:4.8L、小:3.6L、15A連結洗浄タイプ、タンク(壁固定式)、洗浄便座(便ふた無し、	1	100	0.032																1									1	
				金属ベースプレート仕様・乾燃機能付、発電式リモコン、管理清掃用リモコン対応品)、棚付二連紙巻器(ステンレス製・耐荷重)																															
C-5	管理清掃用リモコン	TCA393	———	管理清掃用リモコン対応ウォシュレット用				1													1												2	
U-1	センサー一体型小便器	UFS900R	YUA11AP	壁掛小便器(低リップ、AC100V、インターバル配管洗浄)、ライニング高さ1100mm程度	1	100	0.5W	7									3											7					10	●発電機容器
U-2	センサー一体型小便器	UFS900R	YUA11AP	壁掛小便器(低リップ、AC100V、インターバル配管洗浄)、ライニング高さ1100mm程度	1	100	0.5W														5							7					12	
O-1	コンパクトオストメイトパック	UAS81R/LDB2, UTR141	YPTOW-A210TR/LW, PTOW-DSCR	W-550mm、電気温水器付、水石けん入れ、側板	1	100	0.63			1	1																						2	●発電機容器
O-2	コンパクトオストメイトパック	UAS81R/LDB2, UTR141	YPTOW-A210TR/LW, PTOW-DSCR	W-550mm、電気温水器付、水石けん入れ、側板	1	100	0.63															1										1	
L-1	カウンター式洗面器	L350C, TENA40A, TH752-3, T6PM1	YL-2149FC, AM-200CV1	セルフレミング式、D=450、自動水栓(単水栓)	1	100	0.6W	4	4								2	2															12	●発電機容器
L-2	カウンター式洗面器	L350C, TENA40A, TH752-3, T6PM1	YL-2149FC, AM-200CV1	セルフレミング式、D=450、自動水栓(単水栓)	1	100	0.6W														2	2					4					8	
L-3	カウンター式洗面器	L582CS, TLS04302JA, T7PM1	YL2094FC, LF-E340SY, LF-7PAL	アンダーカウンター式、D=600、シングルレバー混合栓								3	3																				6	
L-4	カウンター式洗面器	L700C, TENA12A, T6PM1	YL-2848FC, AM140C(AC100V)	ベッセル式、φ490、自動水栓(単水栓・コンテンポラリ)	1	100	0.6W																					5					5	
L-5	壁掛ハイパック洗面器	LSA125AA	YL-A951A2C	W=380、D=350mm、自動水栓(単水栓)、水石けん入れ(手動・0.35L)	1	100	0.6W			1	1																						2	●発電機容器
L-6	壁掛ハイパック洗面器	LSA125AA	YL-A951A2C	W=380、D=350mm、自動水栓(単水栓)、水石けん入れ(手動・0.35L)	1	100	0.6W																1										1	
L-7	壁掛手洗器(丸形)	LSE90AAPR	YL-A74UWC	W=300、D=175mm、自動水栓(単水栓)	1	100	0.6W			1	1																						2	●発電機容器
L-8	壁掛手洗器(丸形)	LSE90AAPR	YL-A74UWC	W=300、D=175mm、自動水栓(単水栓)	1	100	0.6W																1										1	
SK-1	掃除流し	SK22, T23AE20, TN114	YS202A/BN8, LF-7E-19	パック付、送り座付鋳水栓				1				1					1	1			1							1					6	
H-1	ハンドドライヤー	TYC420W	KS-570AH	高速両面タイプ 温風ヒーター付	1	100	1.015	1	1								1	1			1	1						1	1				8	
PW-1	洗濯機パン	PWP740N2W, PJ2009NW, TW11R	PF-7464AC/L11, JT-A2-S, LF-WJ50KQ	740サイズ、縦引トラップ、洗濯機用鋳水栓(緊急止水弁付)															2														2	
T-1	シングルレバー混合水栓	TKS05301J	SFWN420SYX	●流し台は建築工事										1	1								1		1							4	
T-2	立水栓(飲料熱湯用・スパウト回転)	T76D	SF-WCH120	スパウト190mm ●流し台は建築工事										1	1										1							3	
T-3	横水栓	T200SNR13C																										2			2	4	
	水栓柱																														2	2	
	散水栓ボックス			壁埋込型																								2					2	
T-4	キー式横水栓	T28AKUH13		カップリング式																									1				1	
	水栓柱																												1				1	
T-5	散水栓	T28UNH13		カップリング式																											13		13	
	散水栓ボックス			ドーム型、鍵付き、SUS製																											13		13	
	冷水器			冷水能力10ℓ(30ℓ/h)、参考寸法(502Lx333Wx1,035H) 参考型番(MW8SBF)	1	100	0.335												1														1	
	コイン式シャワーユニット			コーナー型パネルタイプ 参考型番(TP-64)	1	100	0.03					3	3	1																			7	
	化粧鏡	YMK52K	KF-5010AG	●建築工事 W480xH1100mm				4	4			3	3				2	2			2	2					4						26	
	大型鏡	MMA2		●建築工事 W900xH1200mm 程度 パウダーコーナー W寸法は図面参照					1				1									1						1					4	
	大型鏡(姿見)	MMA2		●建築工事 W450xH1500mm 程度								1	1												1	1							4	
	ベビーチェア	YKA15R	KFA12	●建築工事 平面取付タイプ				1	1	1											1	1	1				1	1					8	
	ベビーシート	YKA25R	AC-0K21F	●建築工事 側面使用タイプ						1													1										2	
	収納式多目的シート	EWC520ARR	AC-US-41(グリップ無)	●建築工事 長辺取付タイプ・グリップ付							1																						1	
	L型手すり	T112CL11	KF-926AE80D25	●建築工事 700mmx700mmx230mm						1	1												1										3	
	L型手すり	T112CL10		●建築工事 700mmx700mmx230mm				1	1								1	1			1	1					1	1					8	
	はね上げ手すり(ロック付)	T112HK7R	KF-H471EH70	●建築工事 L=700mm						1	1												1										3	
	背もたれ	EWC383CR	KFC-275T1U	●建築工事 ソフトタイプ						1	1												1										3	
	フック	YKH20R	KF-21	●建築工事						2	2			2									2										8	
	小便器用手すり	T112CU22	KF-H701AE	●建築工事				1									1				1							1					4	
	洗面器用手すり	T112CP5S/M268N	BB-HC(52)	●建築工事				1	1								1	1			1	1						1					8	
	小物棚			●建築工事 ステンレス製								4	4	1																			9	
	小便器用万歳れタイル	AB680EW/690EW		●建築工事 テーパー加工 光触媒工業会 PIAJ認定品 600x800角/900角				8									4				6							8					26	

設備工事

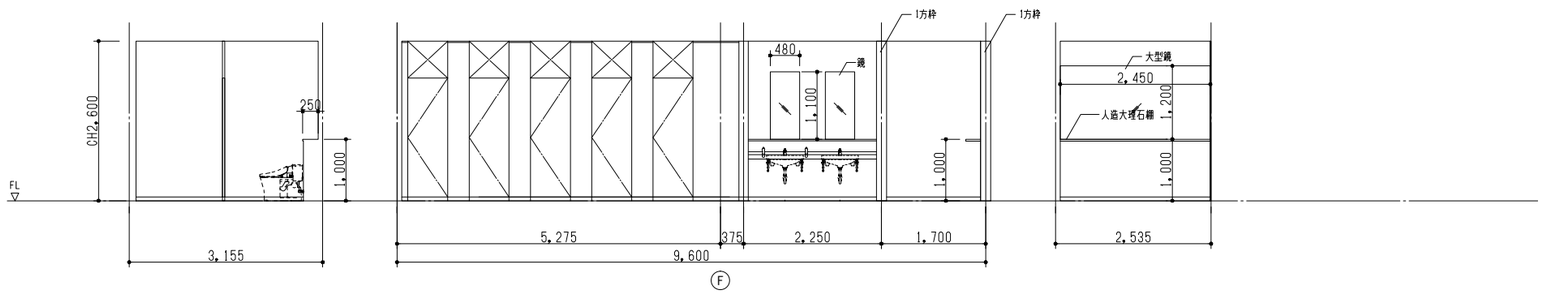
建築工事

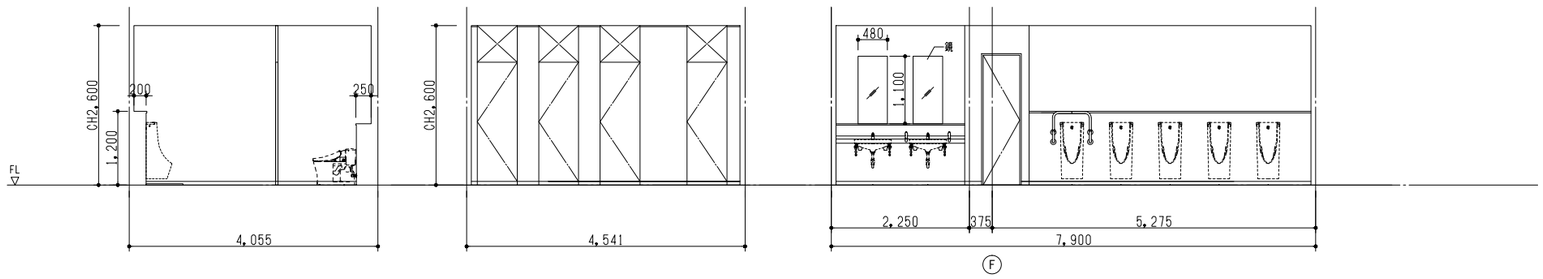
※手摺、鏡その他アクセサリーは建築工事とする。
※洗浄水は上水を利用する

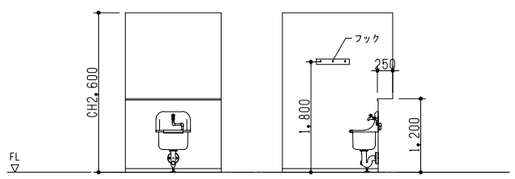
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



男子WC③/女子WC③平面図 S=1/50(A1),1/100(A3)



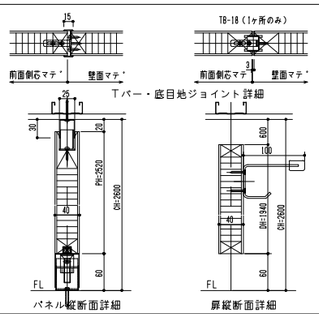


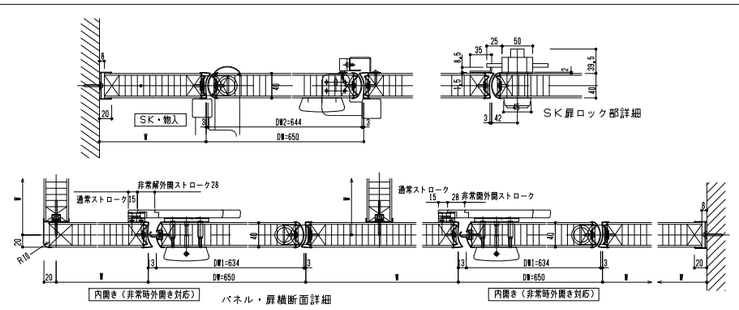


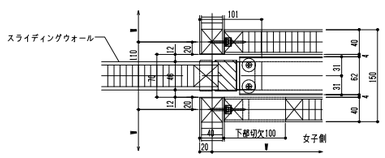
SK 〈標準展開図〉

トイレブース （片開きドアタイプ）

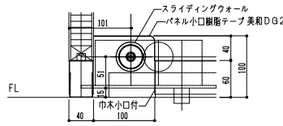
1/5







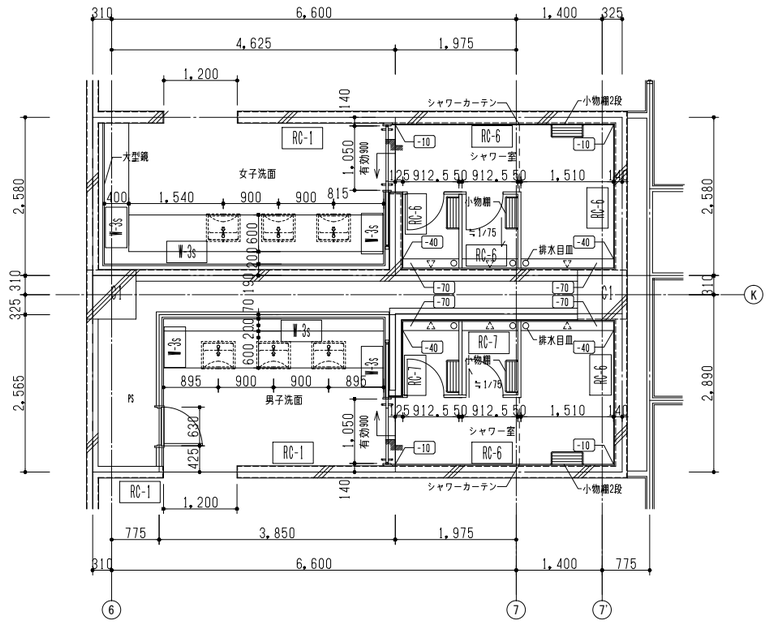
スライディングウォール取り合い詳細



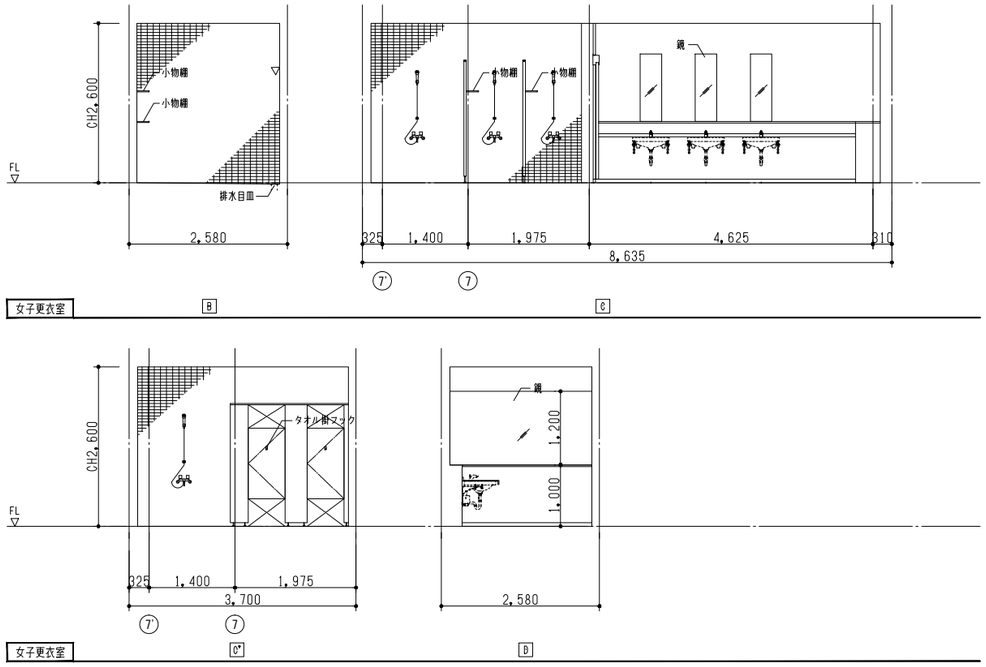
◇仕様表

項 目	部 材	材 料（板厚mm）
パネル	パネル表面材	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF)
	芯 材	ペーパーコア
	エッジ	アルミ押出形材 <指定色 艶付塗装>
付属品	脚 部	巾木：ステンレス 0.8mm <ヘアライン仕上>
	ロック	表示付スライドロック（コイン解錠外開き）
	ヒンジ	グレビティヒンジ
	天井レール	ステンレス 1.2mm <ヘアライン仕上>
	その他金物	戸当り帽子掛け・笠木レス戸当り

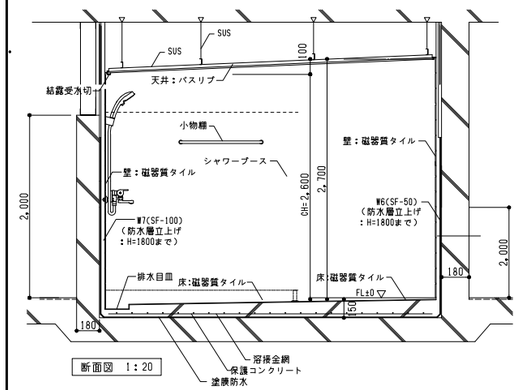
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号	設計者						法適合確認欄		検証者		飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 051
			一級建築士 第280187号 中川 崇		一級建築士 第336677号 加野 正知		一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号	椎葉 夏子			水廻り詳細図（4）	縮尺 1/1:50 A3:1/100	日付 2019・11・15



男子更衣室/女子更衣室水廻り平面図 S=1/50(A1),1/100(A3)

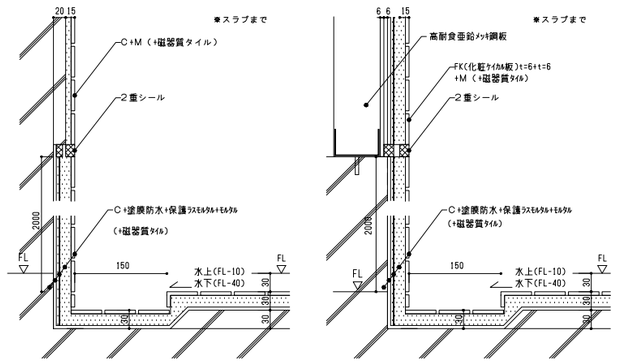


シャワー室　床・壁・防水納まり　1/20

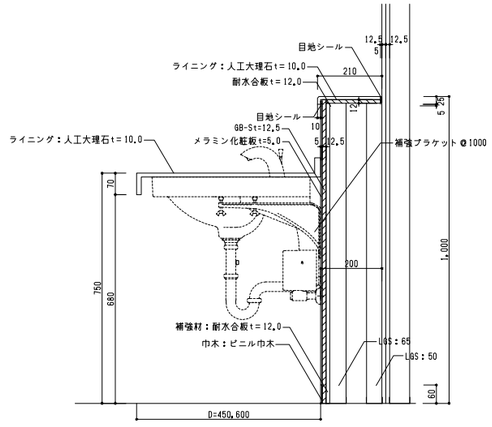


シャワー室　床排水溝　1/5

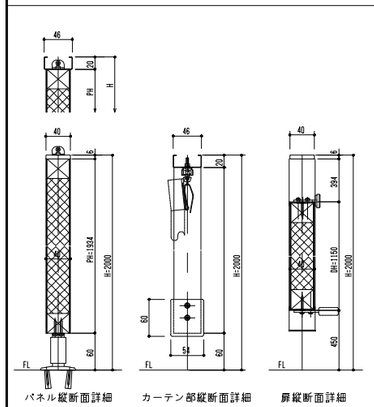
（車イス用シャワー室壁際も同様とする）



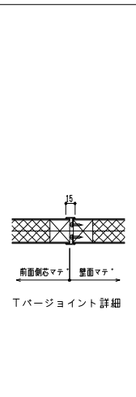
洗面カウンター詳細図　1/10

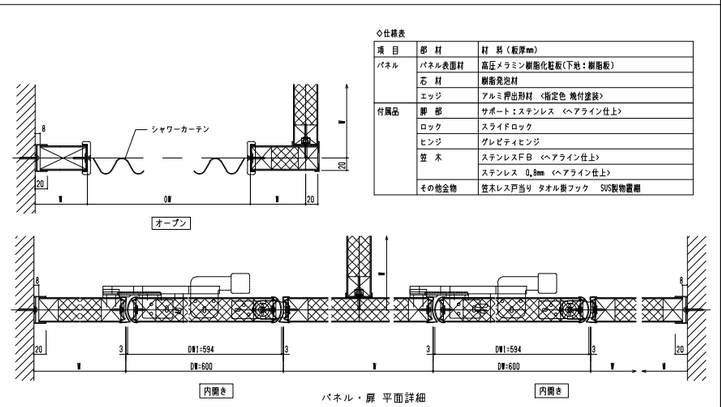


シャワーブース　1/5



パネル縦断面詳細　カーテン部縦断面詳細　扉縦断面詳細



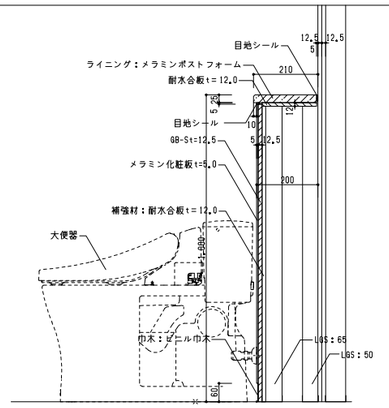


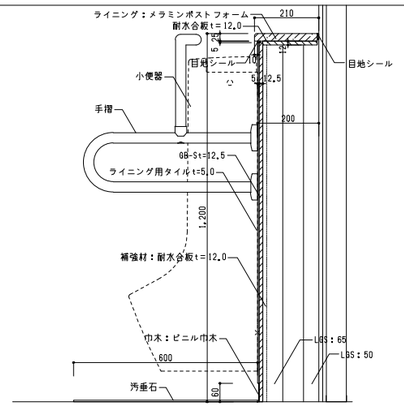
パネル・扉 平面詳細

◇仕様表

項目	部材	材料（板厚mm）
パネル	パネル表面材	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：樹脂板)
	芯材	樹脂発泡材
	エッジ	アルミ押出形材 〈指定色 焼付塗装〉
付属品	脚部	サポート：ステンレス 〈ヘアライン仕上〉
	ロック	スライドロック
	ヒンジ	グレビティヒンジ
	笠木	ステンレスFB 〈ヘアライン仕上〉
		ステンレス 0.8mm 〈ヘアライン仕上〉
	その他金物	笠木レス戸当り タオル掛フック SUS製物置棚

ライニング詳細図　1/10





（共通)SF壁と取り合う手摺、ベビーチェア、ベビーシート、ハンドドライヤー等は取付下地耐水用合板t=12を設置する。

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士				設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号				第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎		林 沙希子		椎葉 夏子	

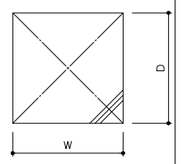
飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 052
水廻り詳細図(5)	縮尺 1/A1:50 A3:100	日付 2019・11・15

耐火構造詳細図

内部壁下地：間仕切壁仕様　　※:断熱材仕様、施工範囲は断熱範囲図による　1/5

柱

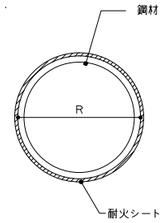
C１（RC）



ＷＸＤは構造図による

（柱１時間耐火）

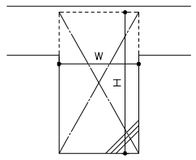
C３（S）外部見え掛り及び内部見え掛り（φ318.5×9以上）



（柱１時間耐火［FP060CN-0009］）

梁

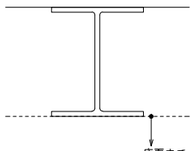
B１（RC）



ＷＸＤは構造図による

（梁１時間耐火）

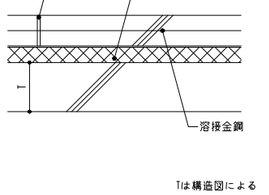
B２（S）床面から下端まで4m以上の小屋組



（梁１時間耐火）

屋根

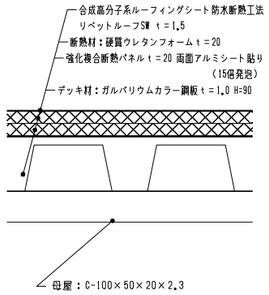
R１（RC）



Tは構造図による

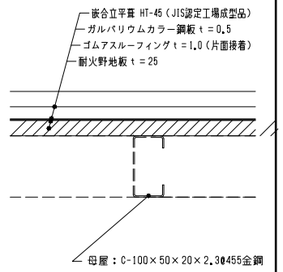
（屋根30分耐火）

R２（シート防水）



（屋根30分耐火［FP030RF-0529］）

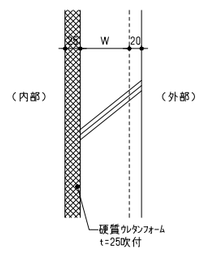
R３（シート防水）



（屋根30分耐火［FP030RF-9037］）

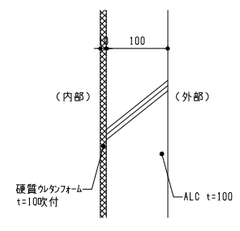
外壁

RC



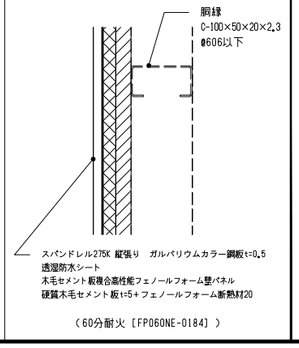
（Wは構造図による）

ALC



（30分耐火［FP060NE-9035］）

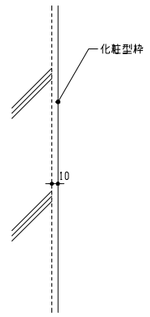
ガルバリウム鋼板



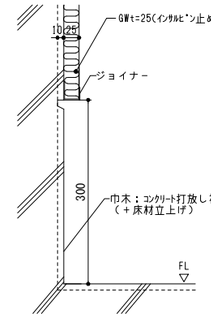
（60分耐火［FP060NE-0184］）

内部壁下地：間仕切壁仕様

RC１

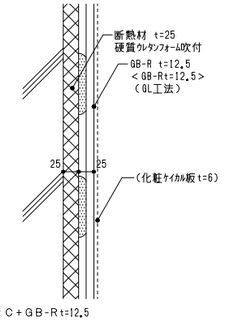


RC２



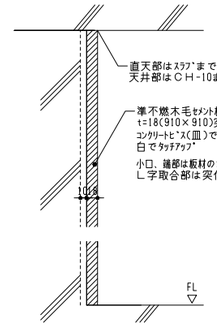
RC－2K：C＋GWB(1)t=25

RC３

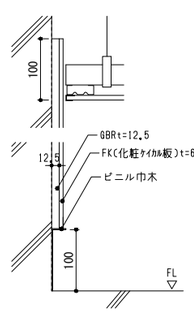


RC－３　：C＋GB-Rt=12.5
RC－3S：C＋GB-Rt=12.5+化粧ｹｲｶﾙt=6

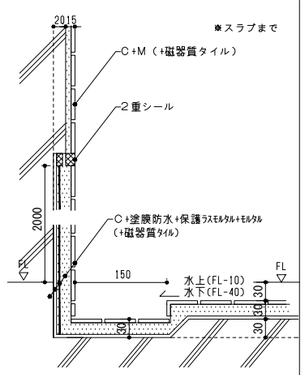
RC４



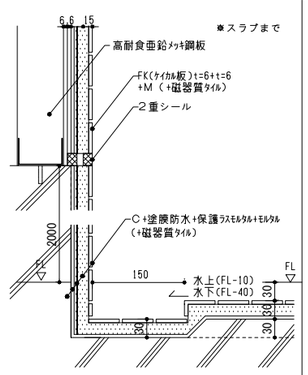
RC５



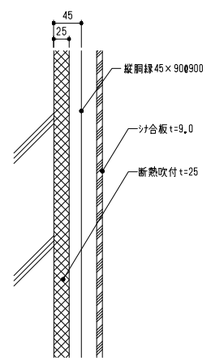
RC６



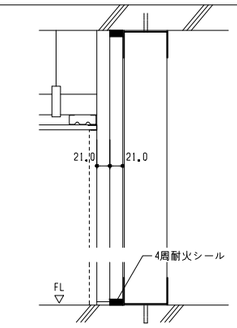
RC７



RC８

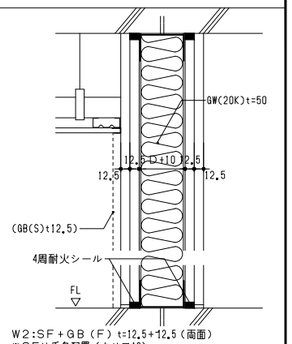


W１（１時間耐火）



W１:SF＋GB(F)t=21＋21（片面張り）
（１時間耐火）【FP060NP-0233】
W１－w:GB(S)t=12.5増し貼

W２（１時間耐火、遮音）



W２:SF＋GB（F）t=12.5+12.5（両面）
※SFは千鳥配置（クリア10）
（１時間耐火）【FP060NP-0175】（遮音）【S01-0110】（TLD50）
W２－s:化粧ｹｲｶﾙ板t:6.0

屋根

R１（RC）

Tは構造図による

（屋根30分耐火）

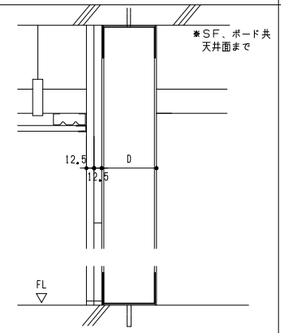
R２（シート防水）

（屋根30分耐火［FP030RF-0529］）

R３（シート防水）

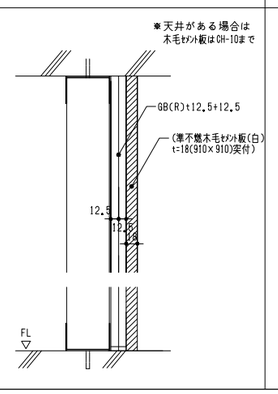
（屋根30分耐火［FP030RF-9037］）

W３

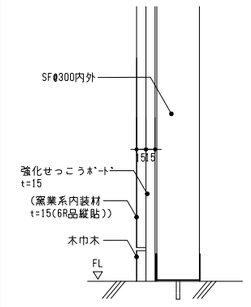


W－３　：SF＋GB-Rt=12.5+12.5
W－３s：SF＋GB-Rt=12.5+GB-St=12.5
W－３w：SF＋GB-Rt=12.5+12.5(+化粧ｹｲｶﾙ板t:6)

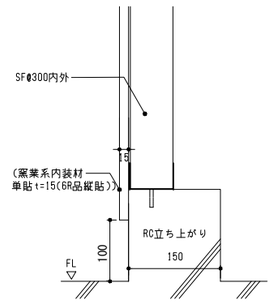
W４



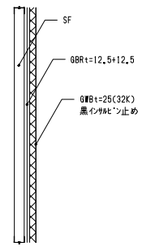
W５



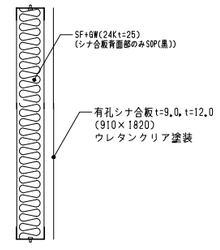
W５'



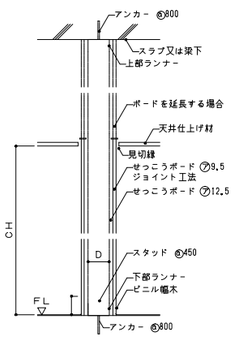
W６(メインアリーナ)　1/20



W７(多目的ホール)　1/10

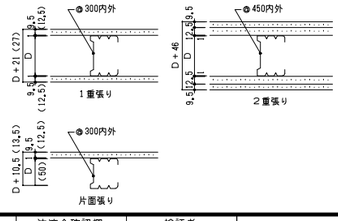


壁下地：軽量鉄骨間仕切壁　1/10　1/20

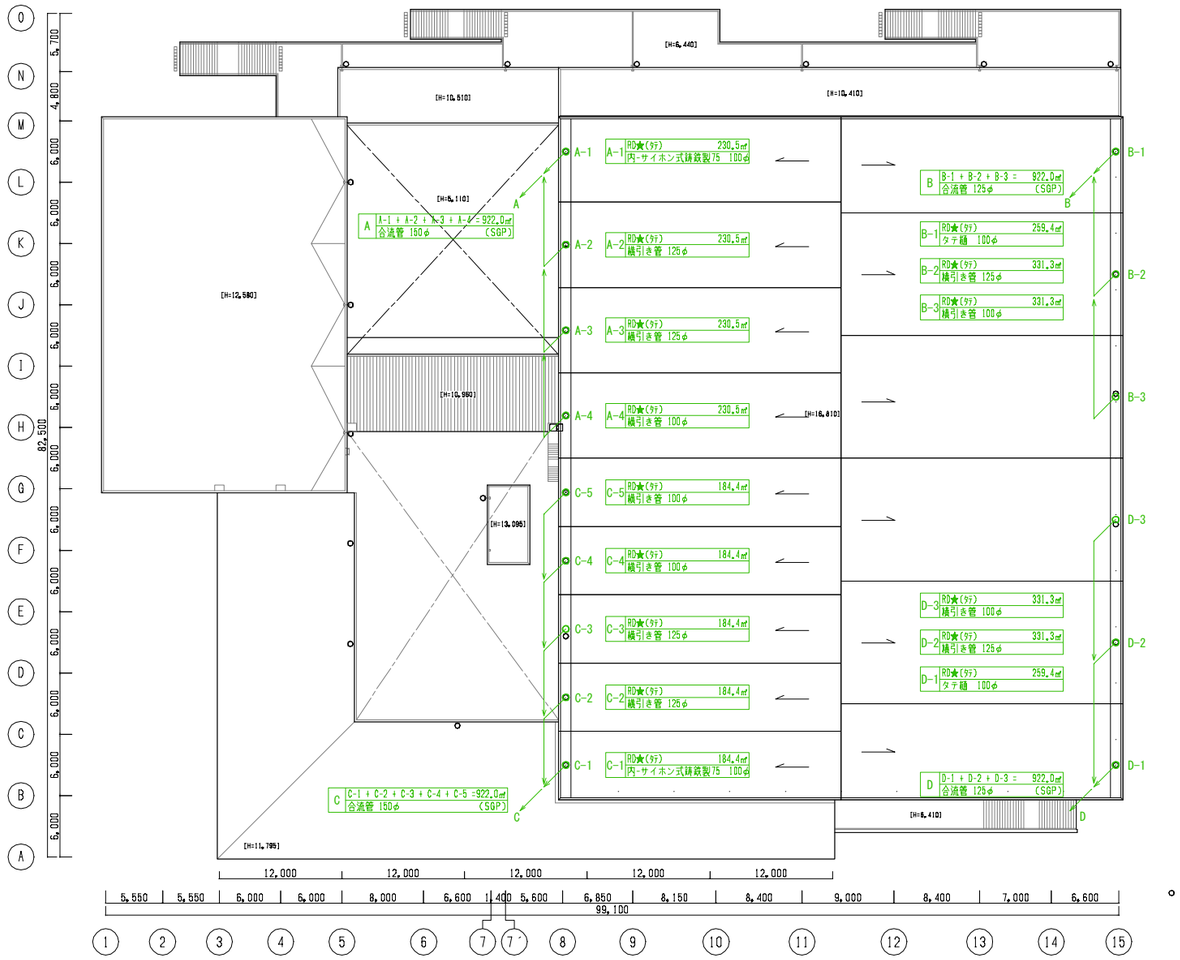


種別（D）	スタッド	ランナー	スタッド長さH
50形	50×45×0.8	52×40×0.8	2,700以下
65形	65×45×0.8	67×40×0.8	4,000以下
90形	90×45×0.8	92×40×0.8	4,500以下
100形	100×45×0.8	102×40×0.8	5,000以下

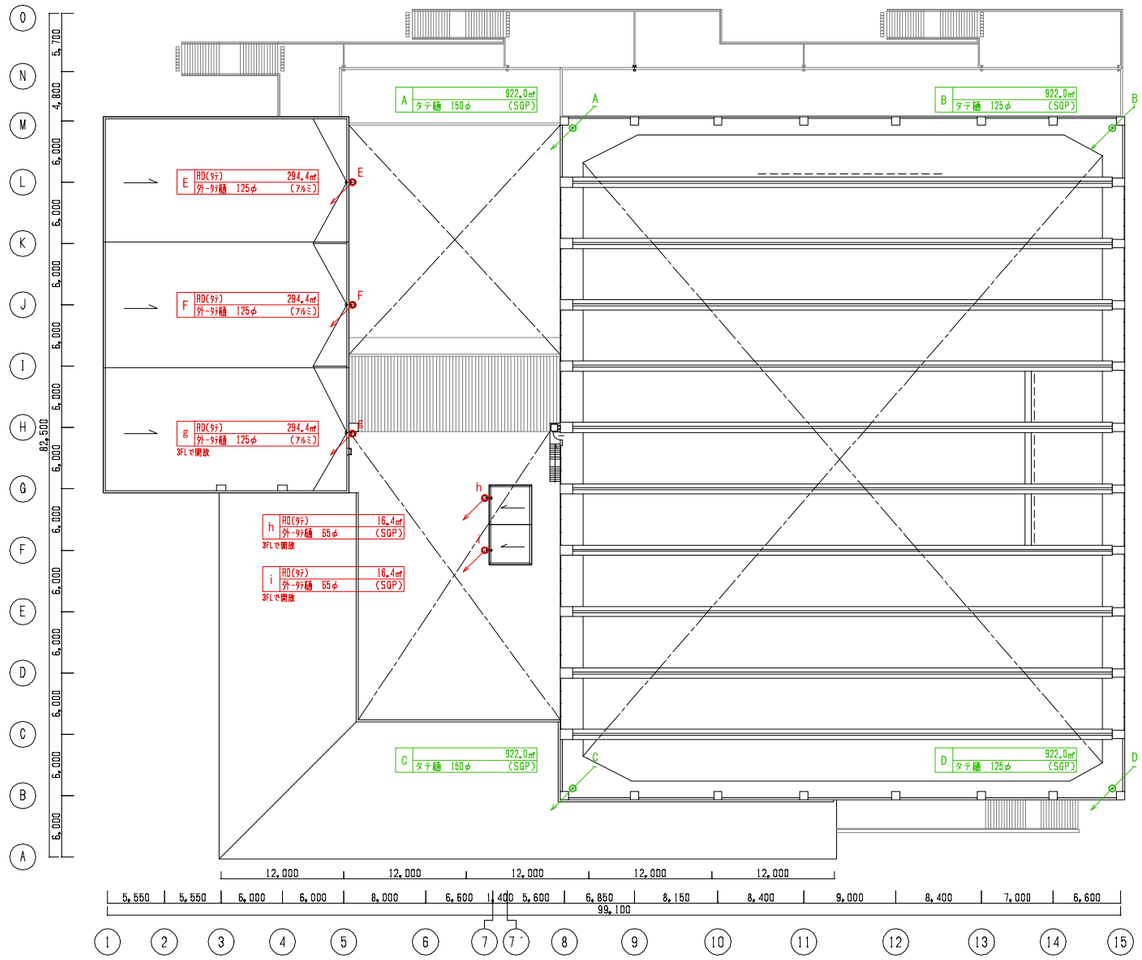
※50形は片面張り用とする
H5000を超える場合の補強
C-100×50×20×3.2@L1800
□-100×50×3.2@H5000以内



飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	W－７s:SF＋有孔ｼﾅ合板t=9.0, t=12.0	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 053
				一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		耐火構造詳細図・壁種別図	縮尺 1/A1:5,10 A3:10,20	日付 2019・11・15



屋根伏図



トラス階平面図

■凡例

系統 部材 負担面積㎡ / 管径 管種

RD★(ﾀﾃ)：サイホン式鋳鉄製ドレン75及び同配管系統を示す
：ドレンから配管80Aで取り出した直下で100Aに拡管し、以降ドレンが合流する手前で必要サイズに拡管
：横配管の勾配はすべて1/200とする
——→：屋根勾配（特記なき限り1/75とする）

FL-900：管底レベル

—□—□—→：雨水桝（点線は外構別途工事）
・桝の形状、材質、フタまで接続先の外構工事桝と同様とする

□雨水横管・縦管 管径（通常ドレン）

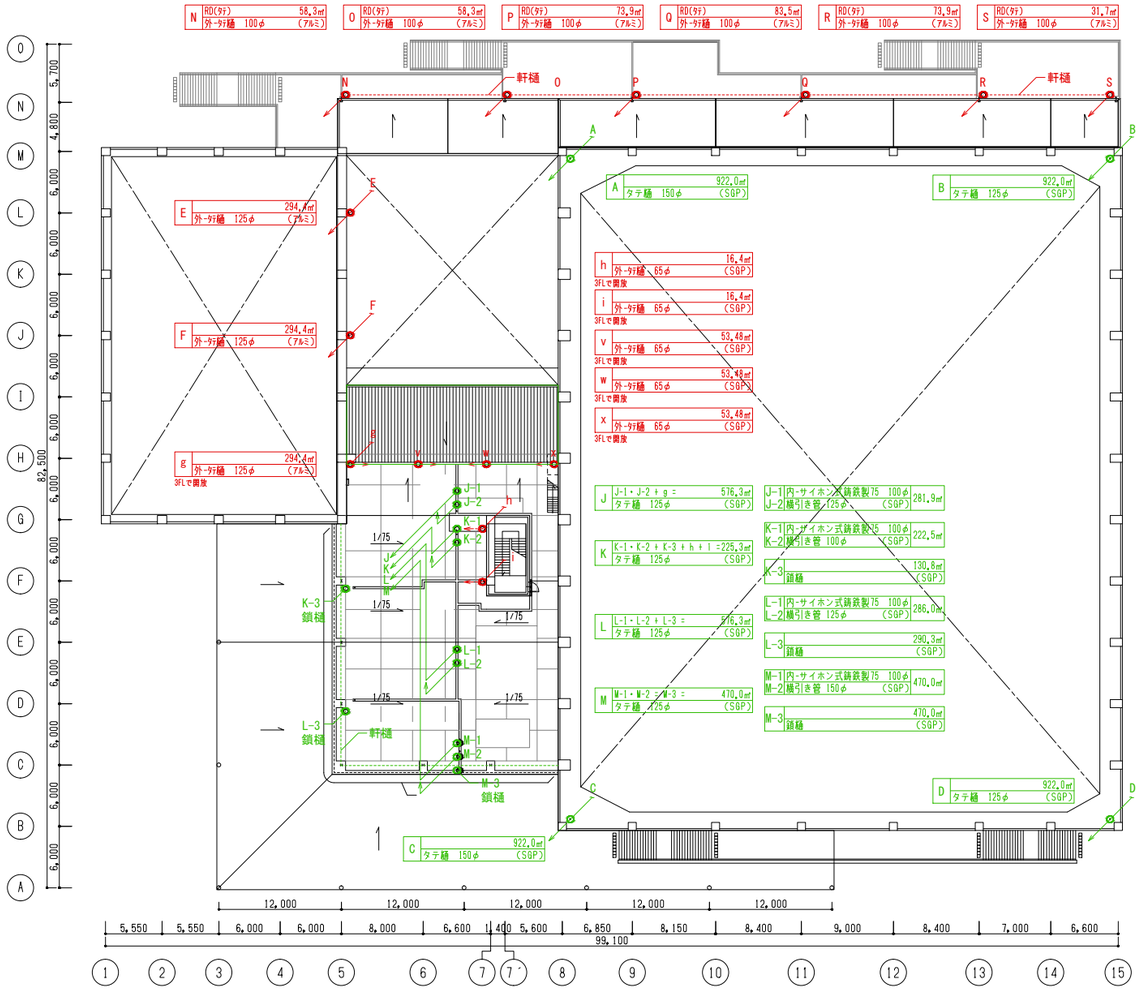
降雨強度：29.0(mm/10min)x6 =174(mm/h)

最大負担面積(㎡)

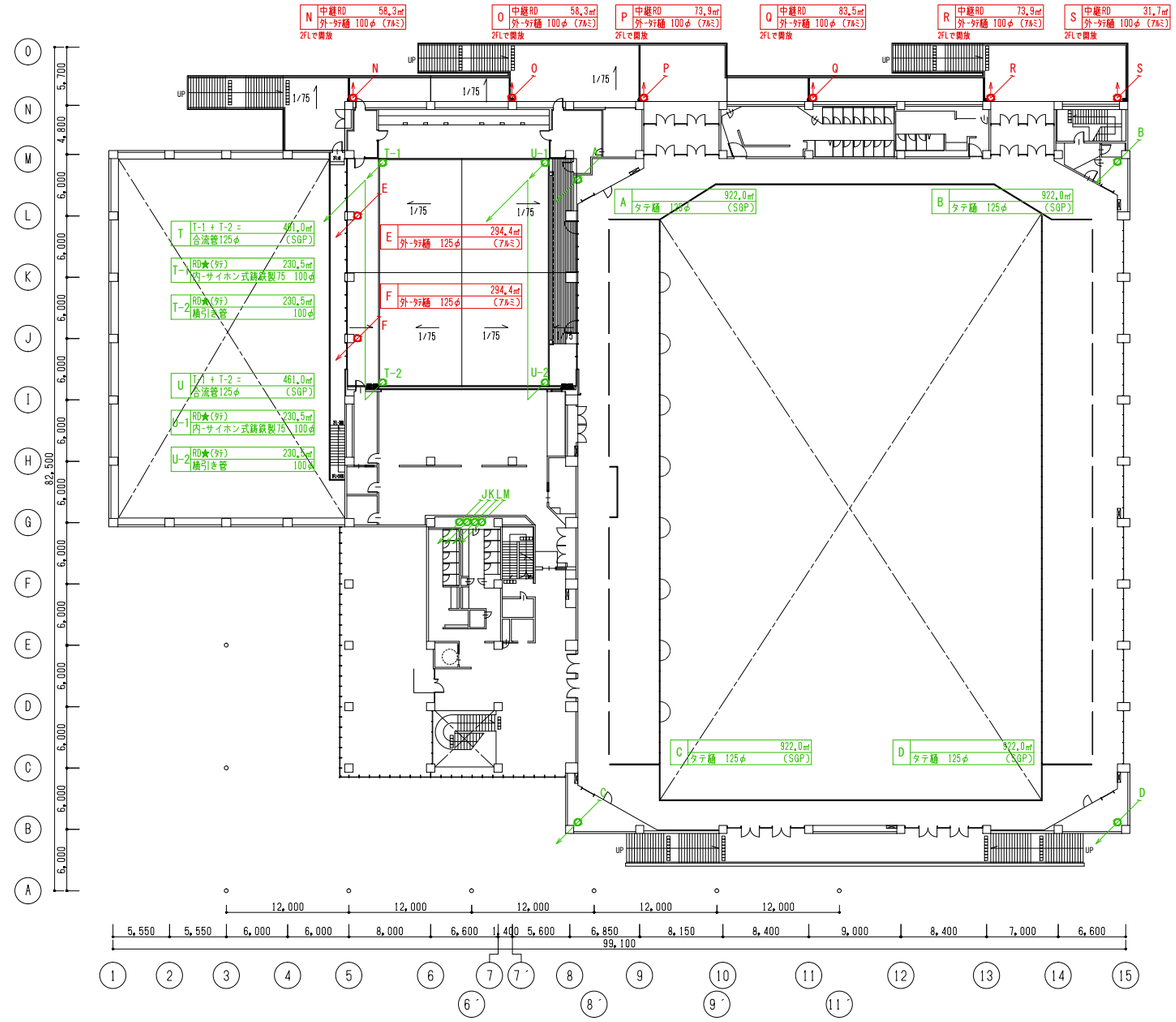
管径	タテ樋	横引き樋(1/100)
100	236	120
125	427	217
150	694	353
200	1500	766

・屋外の露出する配管材はすべてアルミ化粧樋（バンドレス）とする
・屋内の配管材はすべてSGPまたは耐火二層管とする
・SPSドレン系統の屋内配管材は、遮音シート巻きとする

| | | |



PH階平面図



２階平面図

■凡例

系統 部材 負担面積㎡
管径 管種

RD★(ﾀﾃ)：サイホン式鋳鉄製ドレン75及び同配管系統を示す
：ドレンから配管80Aで取り出した直下で100Aに拡管し、以降ドレンが合流する手前で必要サイズに拡管
：横配管の勾配はすべて1/200とする
：屋根勾配（特記なき限り1/75とする）
TPL-900：管底レベル
：雨水桝（点線は外構別途工事）
・桝の形状、材質、フタまで接続先の外構工事桝と同様とする

□雨水横管・縦管 管径（通常ドレン）

降雨強度：29.0(mm/10min)x6 =174(mm/h)

最大負担面積(㎡)

管径	タテ樋	横引き樋(1/100)
100	236	120
125	427	217
150	694	353
200	1500	766

・屋外の露出する配管材はすべてアルミ化粧樋（バンドレス）とする
・屋内の配管材はすべてSGPまたは耐火二層管とする
・SPSドレン系統の屋内配管材は、遮音シート巻きとする

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

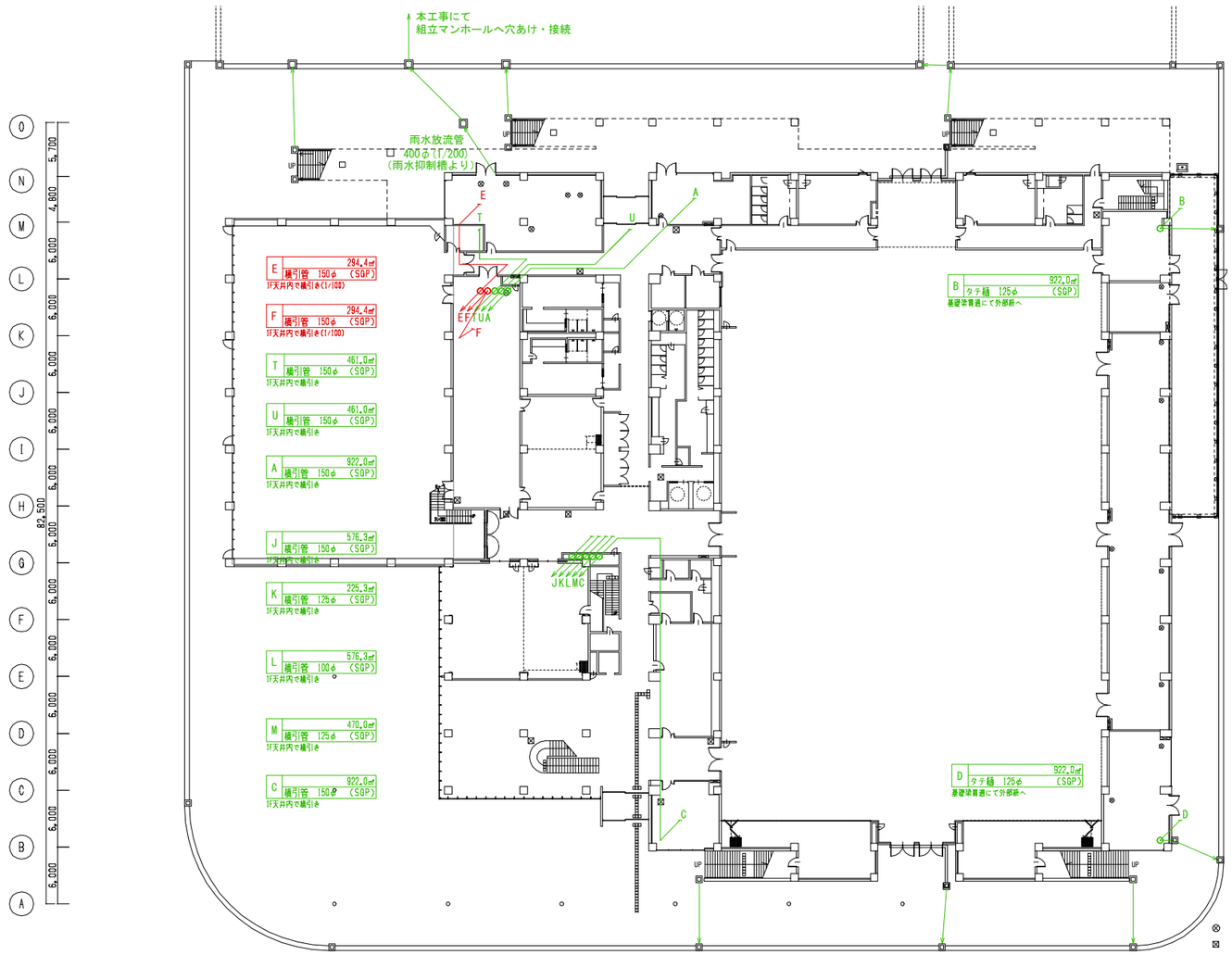
株式会社 梓設計 九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

雨水排水計画図（２）

設計番号 16779
図面番号 A — 055
縮尺 1/A1:100 A3:600
日付 2019・11・15



■凡例

系統	部材	負担面積㎡
	管径	管種

RD★(タテ)：サイホン式鋳鉄製ドレン75及び同配管系統を示す
：ドレンから配管80Aで取り出した直下で100Aに拡管し、以降ドレンが合流する手前で必要サイズに拡管
：横配管の勾配はすべて1/200とする
——→：屋根勾配（特記なき限り1/75とする）
FL-900：管底レベル
—□—→□→：雨水桝（点線は外構別途工事）
・桝の形状、材質、フタまで接続先の外構工事桝と同様とする

□雨水横管・縦管 管径（通常ドレン）

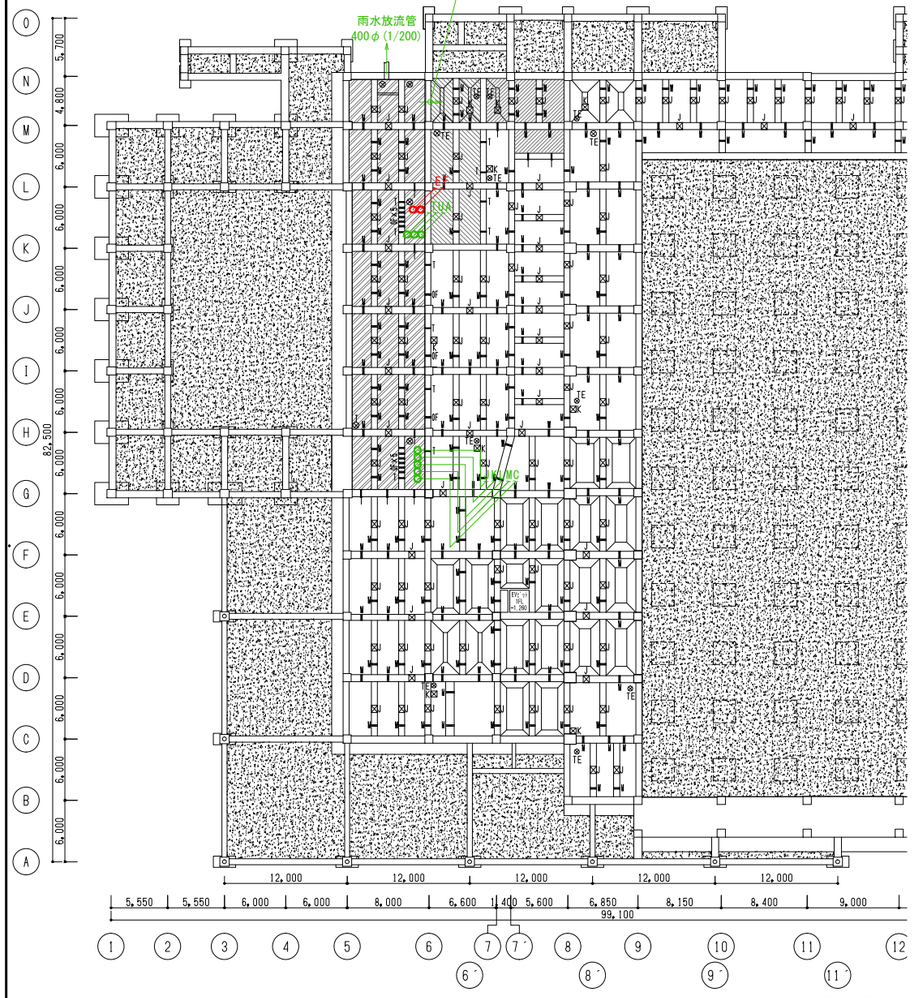
降雨強度：29.0(mm/10min)x6 =174(mm/h)

最大負担面積(㎡)

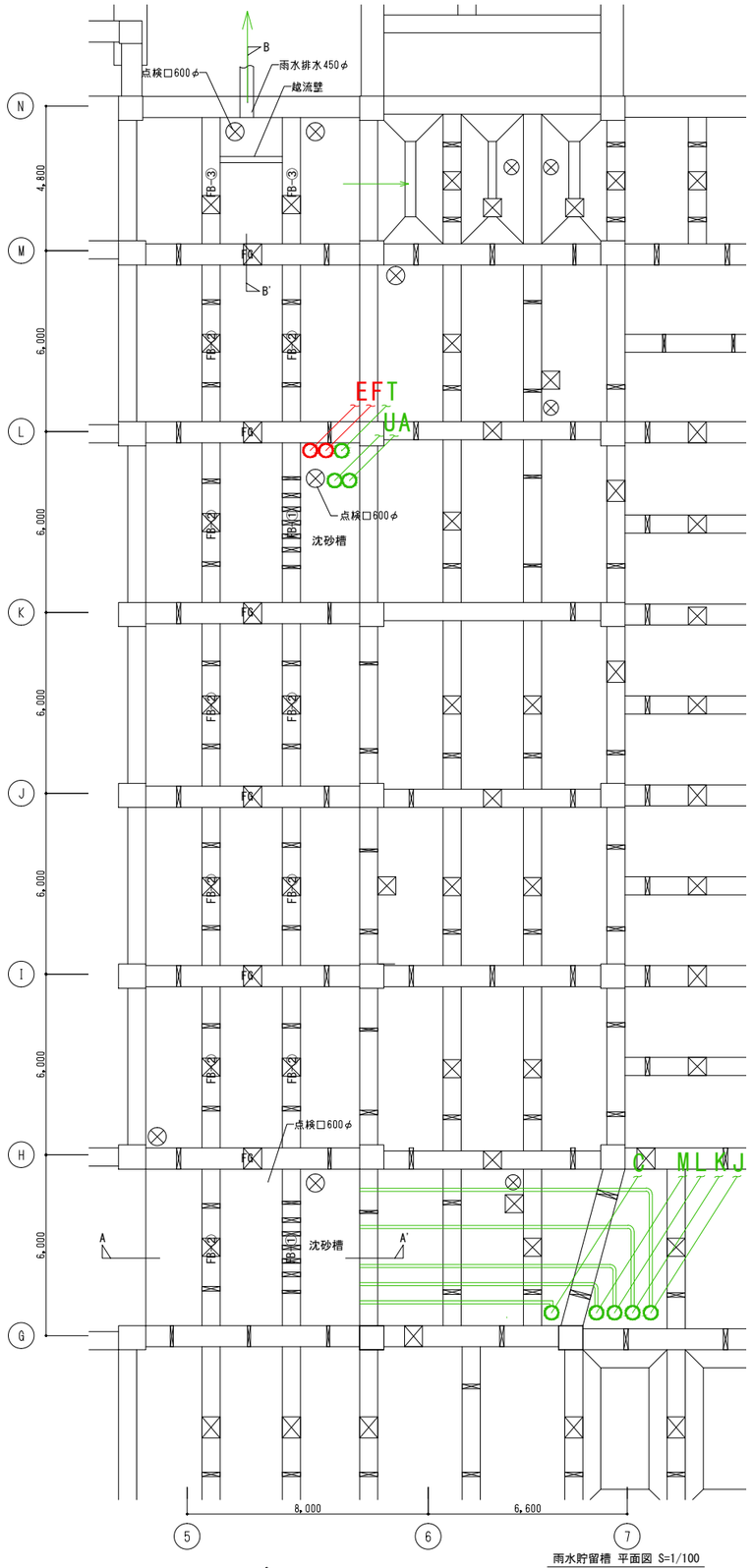
管径	タテ樋	横引き樋(1/100)
100	236	120
125	427	217
150	694	353
200	1500	766

・屋外の露出する配管材はすべてアルミ化粧樋（バンドレス）とする
・屋内の配管材はすべてSGPまたは耐火二層管とする
・SPSドレン系統の屋内配管材は、遮音シート巻きとする

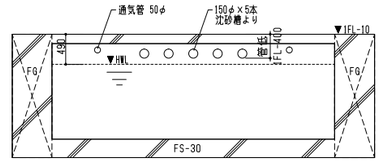
| | | |



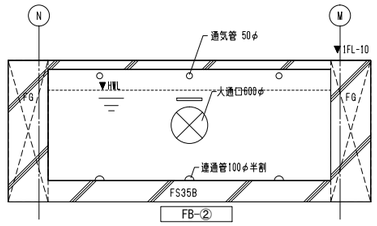
ピット階平面図



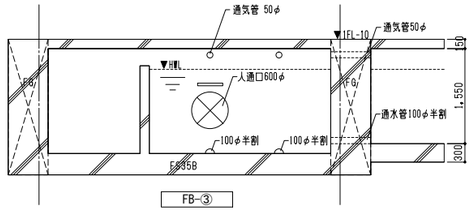
雨水貯留槽 平面図 S=1/100



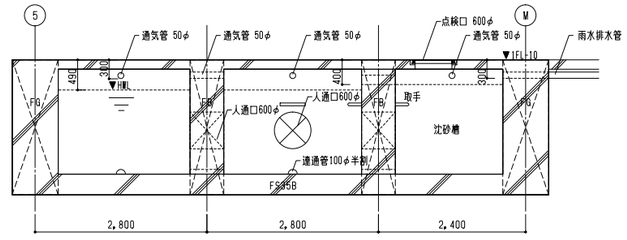
FB-①



FB-②

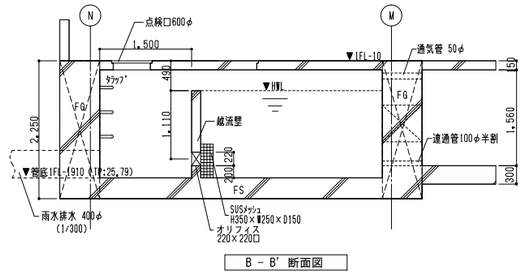


FB-③



A－A' 断面

スリーブ詳細図 S=1/50



B － B' 断面図

雨水抑制槽 詳細図 S=1/50

■凡例

系統	部材 / 管径	負担面積㎡ / 管種

RD★(タテ)：サイホン式鋳鉄製ドレン75及び同配管系統を示す
：ドレンから配管80Aで取り出した直下で100Aに拡管し、以降ドレンが合流する手前で必要サイズに拡管
：横配管の勾配はすべて1/200とする
——›：屋根勾配（特記なき限り1/75とする）

IFL-900：管底レベル

—○—○--›：雨水桝（点線は外構別途工事）
・桝の形状、材質、フタまで接続先の外構工事桝と同様とする

□雨水横管・縦管 管径（通常ドレン）

降雨強度：29.0(mm/10min)x6 =174(mm/h)

最大負担面積(㎡)

管径	タテ樋	横引き樋(1/100)
100	236	120
125	427	217
150	694	353
200	1500	766

・屋外の露出する配管材はすべてアルミ化粧樋（バンドレス）とする
・屋内の配管材はすべてSGPまたは耐火二層管とする
・SPSドレン系統の屋内配管材は、遮音シート巻きとする

■雨水流出抑制槽
（流入面積合計：5,489㎡）
必要貯留量 = 144㎥
計画貯留量 = 約200㎥
余水吐越流幅：2,000以上
オリフィス芯～HWL：1,000
オリフィス径：220×220口
余水吐越流水深：200以上
放流管径：400φ

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

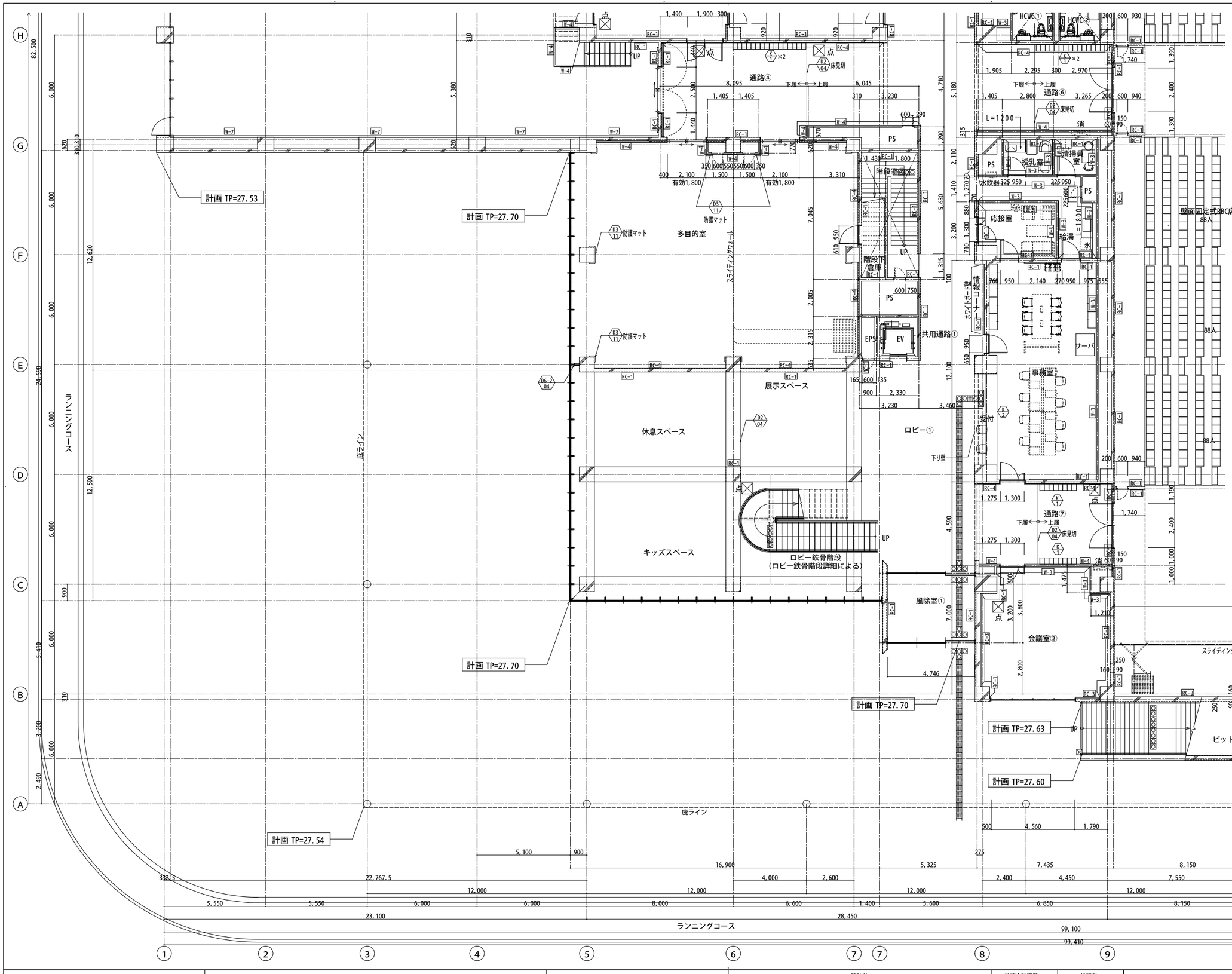
雨水排水計画図（４）

設計番号 16779

図面番号 A － 057

縮尺 1/ A1:1/100 A3:1/200

日付 2019・11・15



N

A
D 展開方向 B
C

凡　例	
±0	記入箇所については床仕上がり高さを示す。（ＦＬ基準） ※ 記入無きはＦＬ±0とする。
W-*	壁下地種別・仕様を示す。（仕上表共通事項参照） ※ 外壁廻り記入なきはW-*とする。
消	屋内消火栓を示す。
点	鋳鉄製マンホール600Φを示す。
点	充填蓋マンホール（600×600）を示す。
	点字ブロック：注意喚起用を示す。
	点字ブロック：誘導用を示す。
K *	壁下地異種部分：目地分れ位置を示す。 （見切目地W=5）
	家具符号を示す。 （家具詳細による）
タテ樋φ	特記以外：塩ビ製縦樋　φ***（外壁色合せ）を示す。 掴み金物：ＳＵＳ@1,200以内mm
トイレ・階段	左記表記：トイレ及び階段については 別図詳細図による。

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1－10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

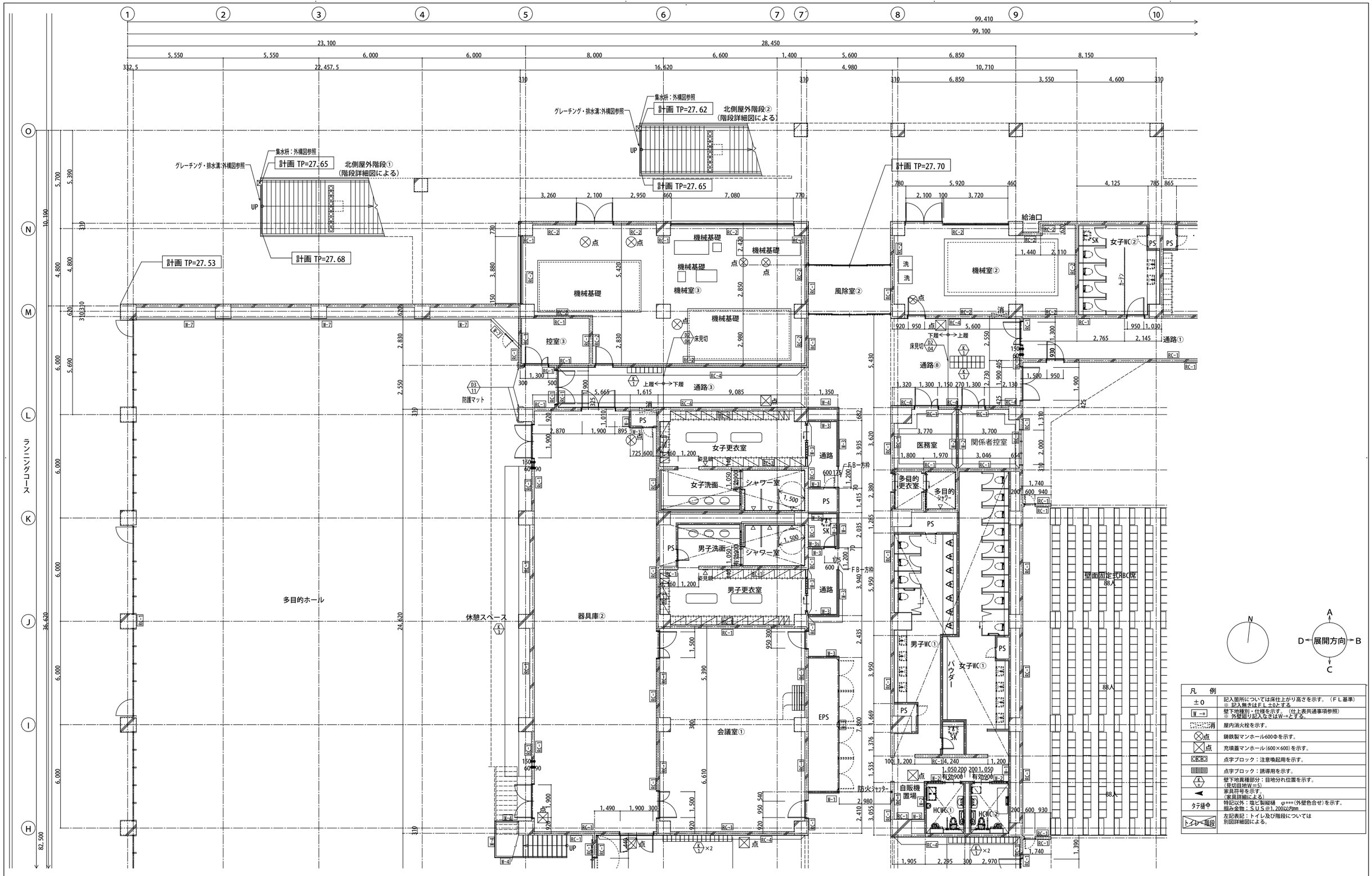
1階平面詳細図（1）

設計番号 158095

図面番号 A － 058

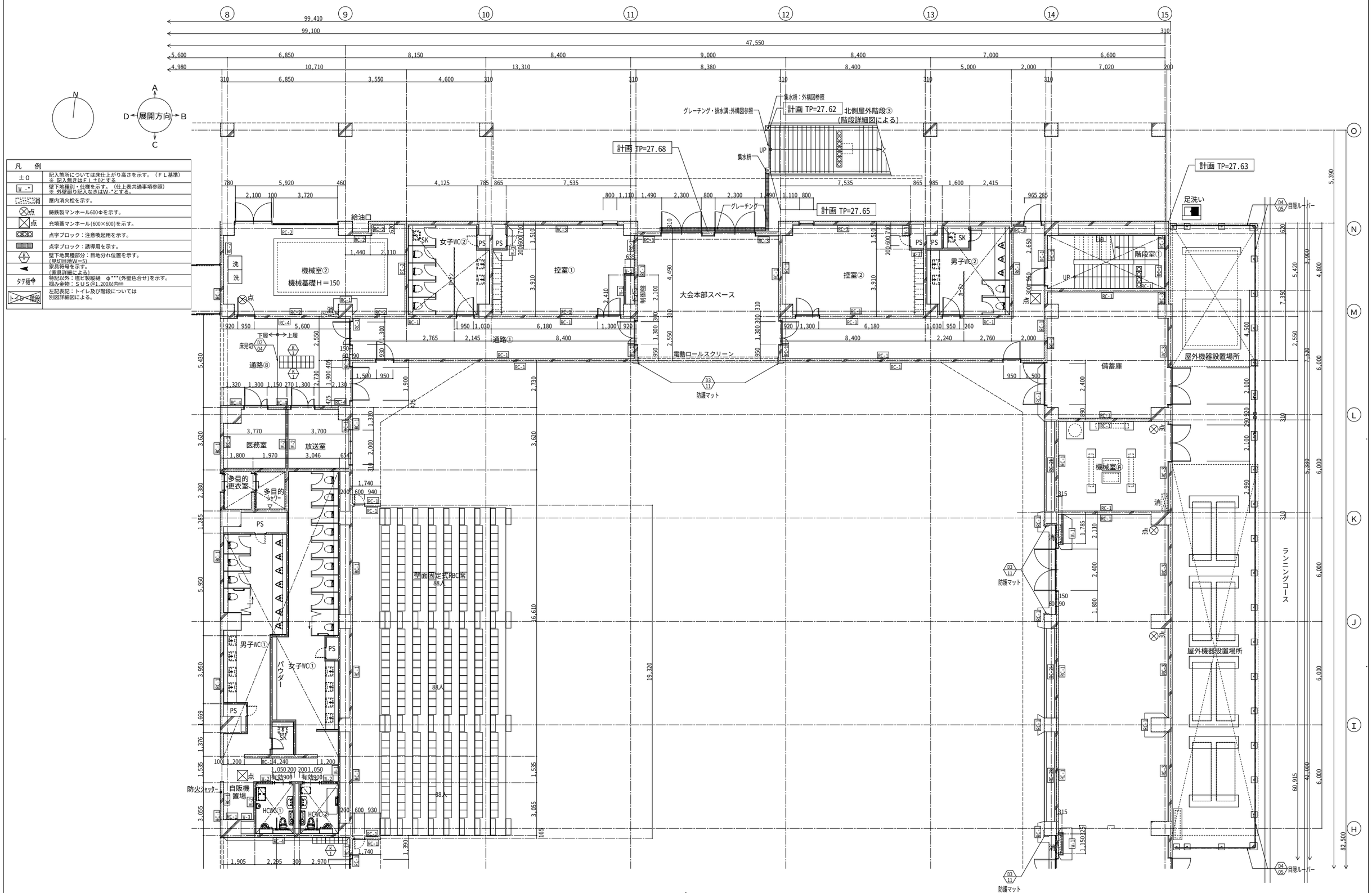
縮尺 1/ A1:1/100 A3:1/200

日付 2019・11・15

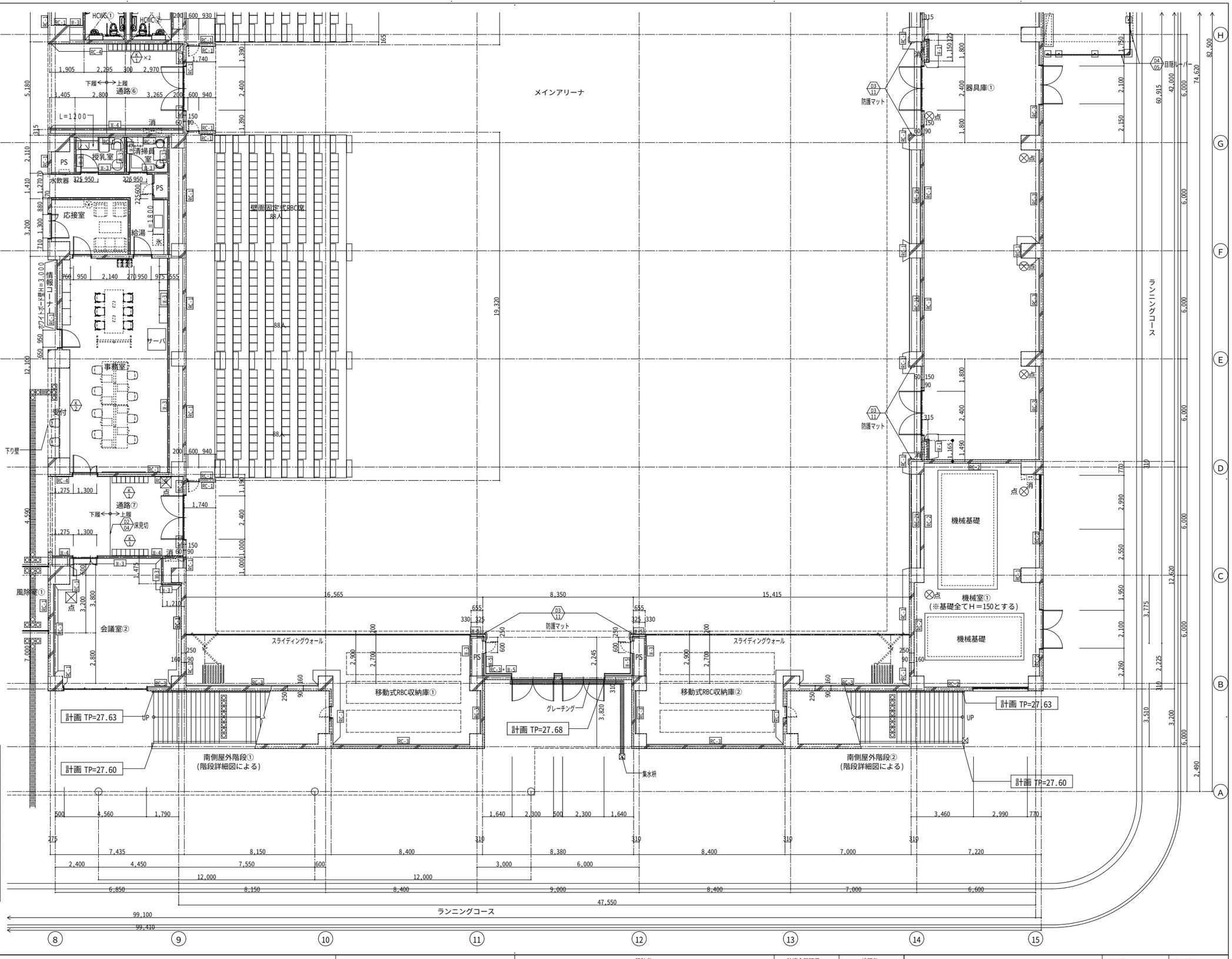


凡　例	
±0	記入箇所については床仕上がり高さを示す。（ＦＬ基準） ※ 記入無きはＦＬ±0とする。
Ⅱ－∗	壁下地種別・仕様を示す。（仕上表共通事項参照） ※ 外壁廻り記入なきはW－∗とする。
消	屋内消火栓を示す。
点	鋳鉄製マンホール600Φを示す。
点	充填蓋マンホール（600×600）を示す。
	点字ブロック：注意喚起用を示す。
	点字ブロック：誘導用を示す。
K－3	壁下地異種部分：目地分れ位置を示す。 （見切目地W＝5）
	家具符号を示す。 （家具詳細による）
タテ樋φ	特記以外：塩ビ製縦樋　φ***（外壁色合せ）を示す。 掘み金物：ＳＵＳ@1,200以内
トイレ・階段	左記表記：トイレ及び階段については 別図詳細図による。

| | | |



飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1－10078号	設計者			法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 158095	図面番号 A － 060
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		1階平面詳細図（3）	縮尺 1/ A1:1/100 A3:1/200　日付 2019・11・15



凡　例	
±0	記入箇所については床仕上がり高さを示す。（ＦＬ基準） ※ 記入無きはＦＬ±0とする。
W-*	壁下地種別・仕様を示す。（仕上表共通事項参照） ※ 外壁廻り記入なきはW-*とする。
消	屋内消火栓を示す。
⊗点	鋳鉄製マンホール600Φを示す。
⊠点	充填蓋マンホール(600×600)を示す。
	点字ブロック：注意喚起用を示す。
	点字ブロック：誘導用を示す。
K-*	壁下地異種部分：目地分れ位置を示す。 (見切目地W=5)
	家具符号を示す。 (家具詳細による)
タテ樋Φ	特記以外：塩ビ製縦樋　Φ***(外壁色合せ)を示す。 掴み金物：ＳＵＳ@1,200以内
トイレ 階段	左記表記：トイレ及び階段については 別図詳細図による。

飯塚新体育館

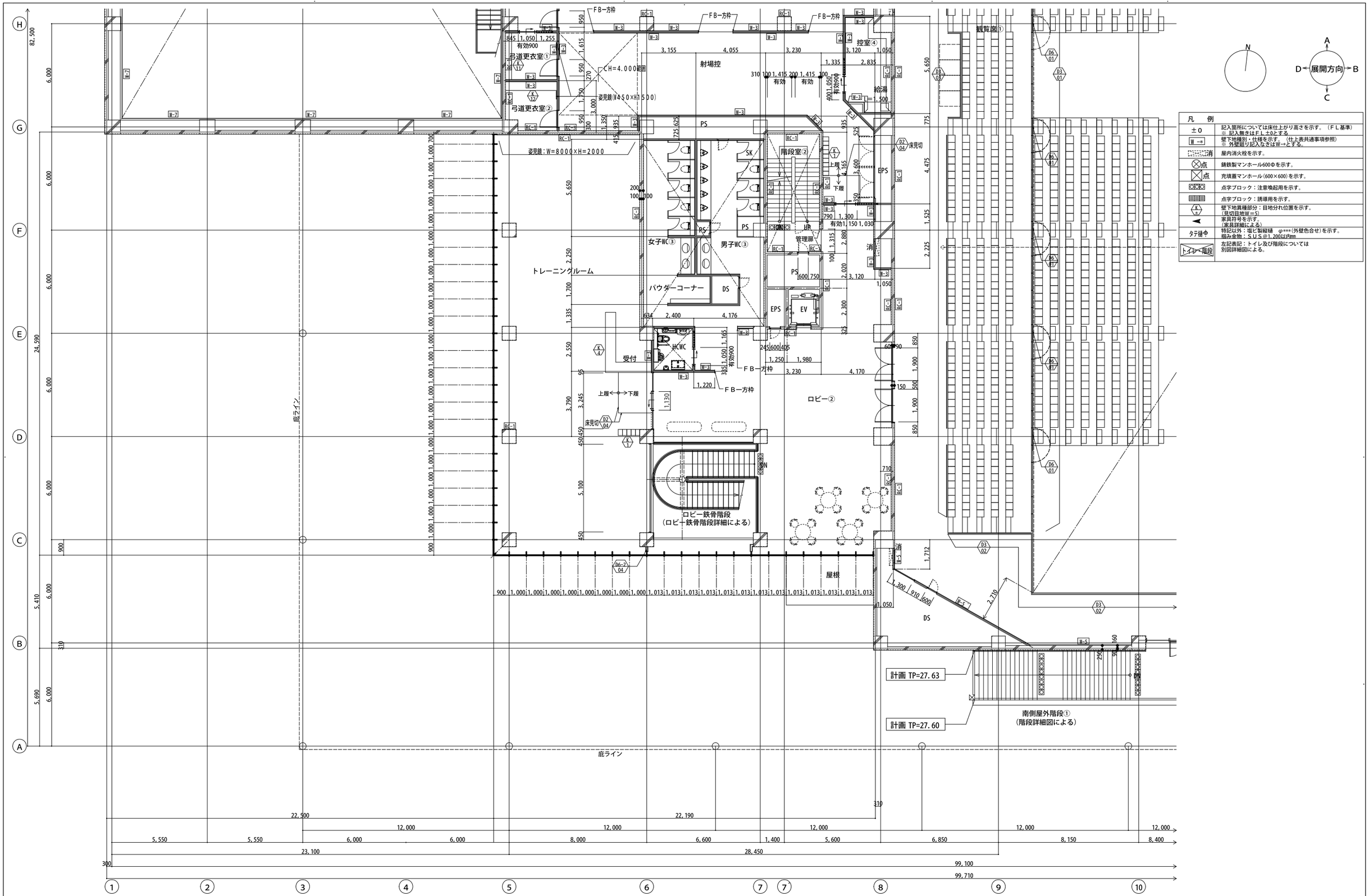
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

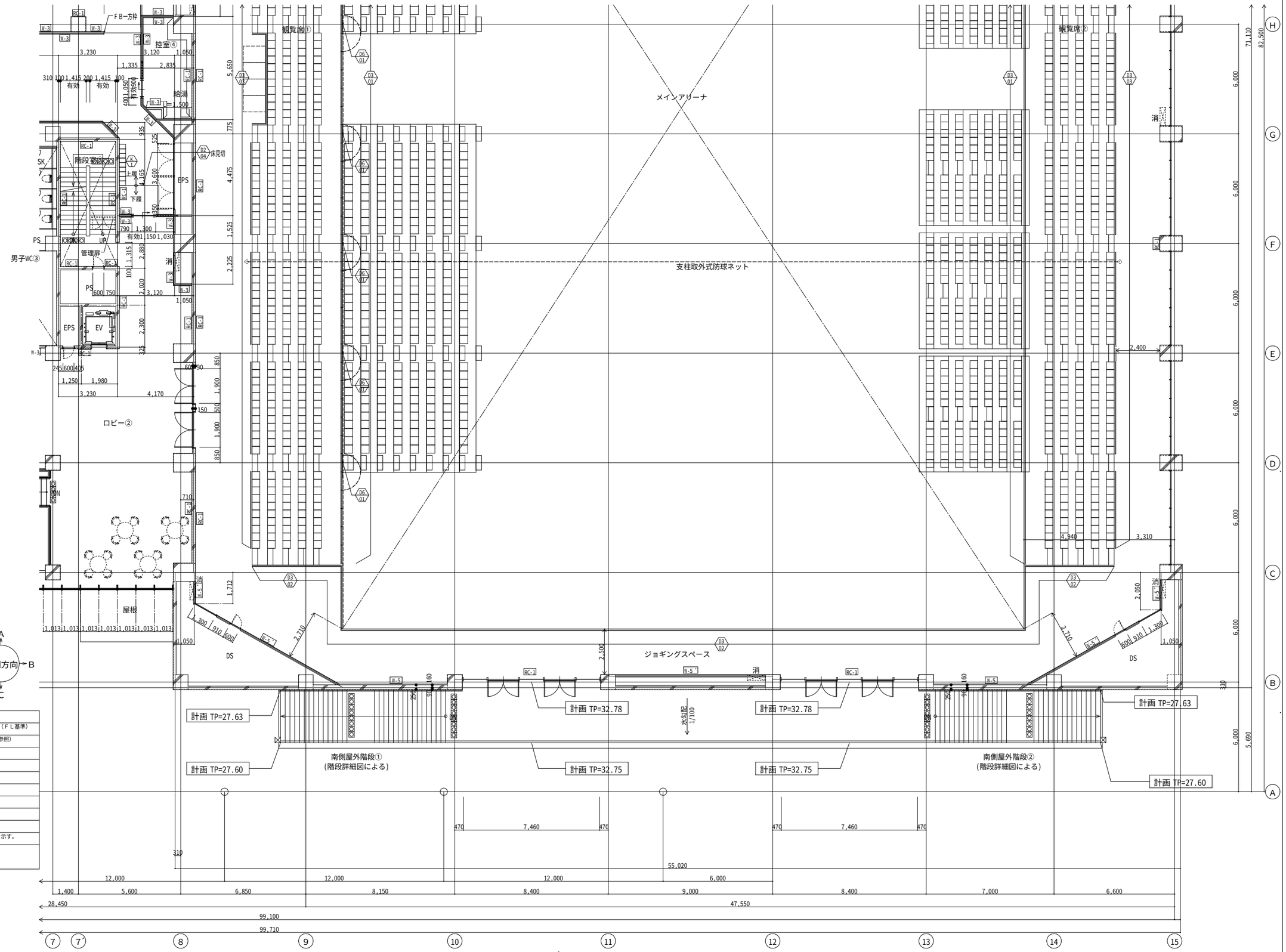
一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1－10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	158095	図面番号 A — 061
1階平面詳細図（4）	縮尺 1/ A1:1/100 A3:1/200	日付 2018・11・15	

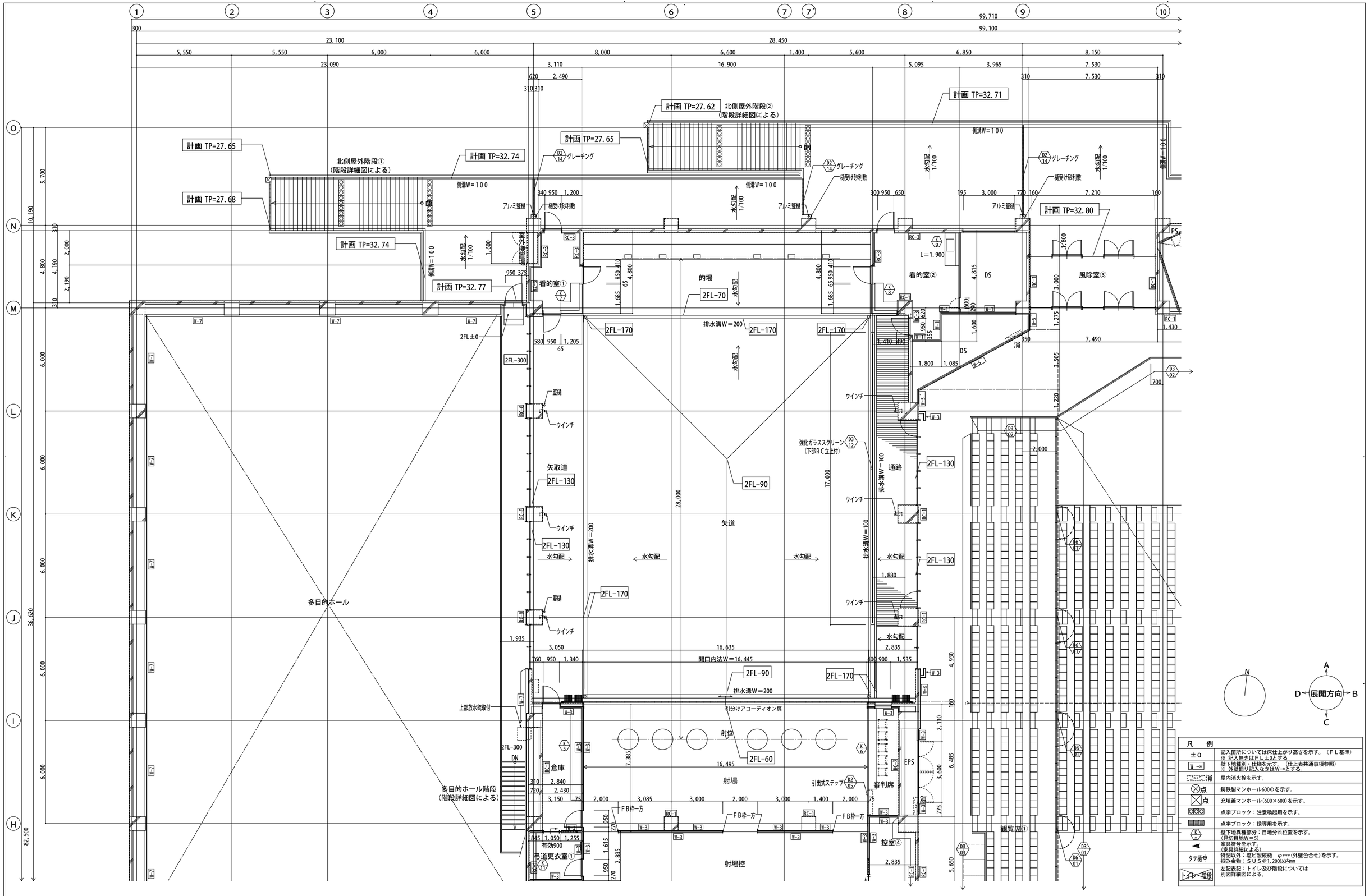

N
A
B
C
D
展開方向
凡　例
±０　記入箇所については床仕上がり高さを示す。（ＦＬ基準）
※ 記入無きはＦＬ±0とする。
W→∞　壁下地種別・仕様を示す。（仕上表共通事項参照）
※ 外壁張り記入なきはW→とする。
消　屋内消火栓を示す。
点　鋳鉄製マンホール600Φを示す。
点　充填蓋マンホール（600×600）を示す。
点字ブロック：注意喚起用を示す。
点字ブロック：誘導用を示す。
K　壁下地異種部分：目地分れ位置を示す。（見切目地W＝5）
家具符号を示す。（家具詳細による）
タテ樋Φ　特記以外：塩ビ製縦樋　φ***(外壁色合せ)を示す。掴み金物：ＳＵＳ※1,200以内mm
トイレ・階段　左記表記：トイレ及び階段については別図詳細図による。
射場控
控室④
弓道更衣室①
弓道更衣室②
姿見鏡(W450×H1500)
CH=4.000範囲
姿見鏡：W=8000×H=2000
給湯
階段室②
上履
下履
EPS
PS
SK
女子WC③
男子WC③
トレーニングルーム
パウダーコーナー
DS
UR
管理扉
EV
HCWC
受付
ロビー②
ロビー鉄骨階段
（ロビー鉄骨階段詳細による）
観覧席①
屋根
庇ライン
計画 TP=27.63
計画 TP=27.60
南側屋外階段①
（階段詳細図による）
床見切
FB一方枠

| | | |



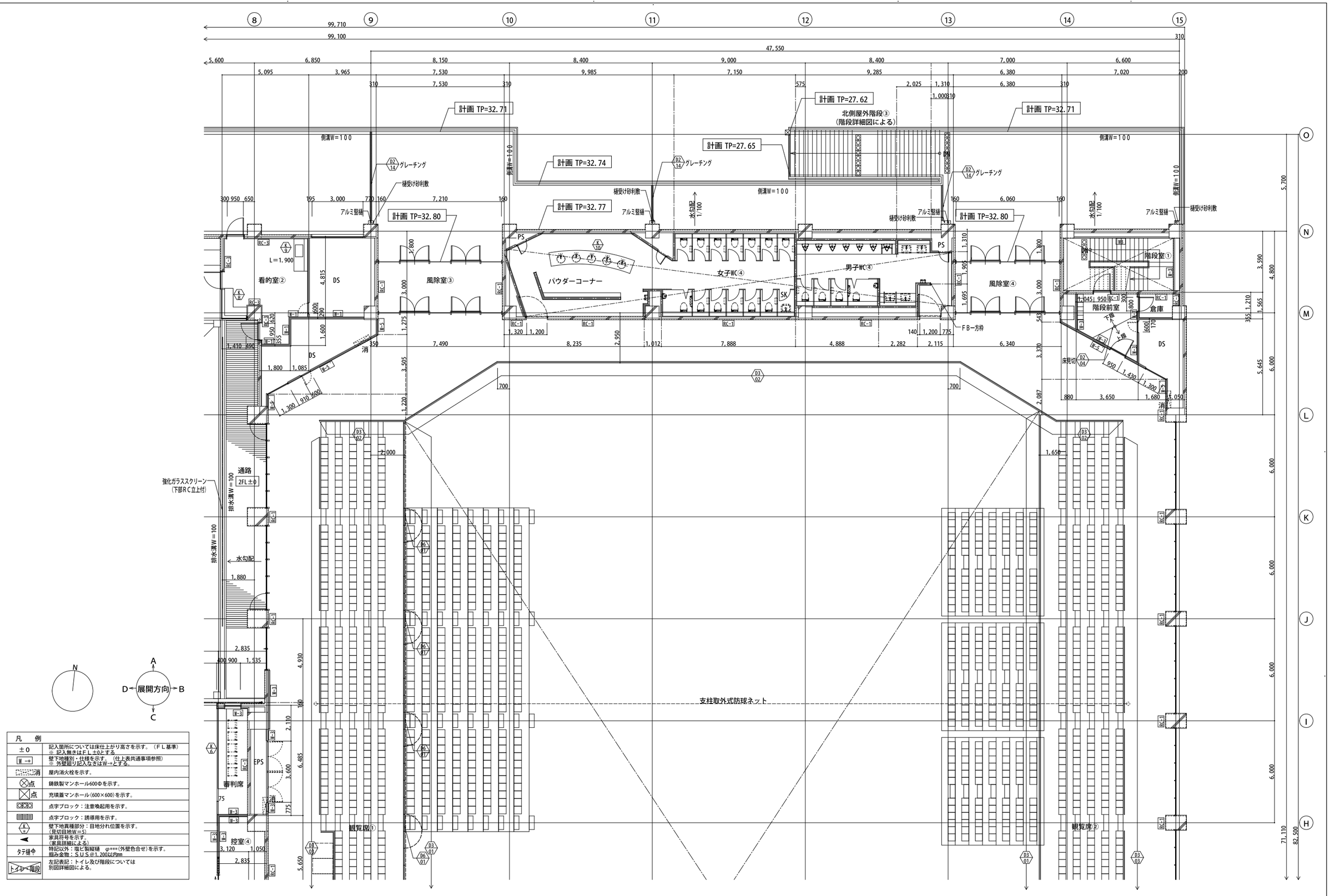
凡　例	
±0	記入箇所については床仕上がり高さを示す。（ＦＬ基準） ※ 記入無きはＦＬ±0とする
W-*	壁下地種別・仕様を示す。（仕上表共通事項参照） ※ 外壁扉り記入なさはW-*とする。
消	屋内消火栓を示す。
点	鋳鉄製マンホール600Φを示す。
点	充填蓋マンホール(600×600)を示す。
	点字ブロック：注意喚起用を示す。
	点字ブロック：誘導用を示す。
	壁下地異種部分：目地分れ位置を示す。 (見切目地W=5)
	家具符号を示す。 (家具詳細による)
タテ樋Φ	特記以外：塩ビ製縦樋　φ***(外壁色合せ)を示す。 掴み金物：ＳＵＳ@1,200以内mm
トイレ 階段	左記表記：トイレ及び階段については 別図詳細図による。

| | | |



凡　例	
±0	記入箇所については床仕上がり高さを示す。（ＦＬ基準） ※ 記入無きはＦＬ±0とする。
Ｗ→	壁下地種別・仕様を示す。（仕上表共通事項参照） ※ 外壁廻り記入なきはW→とする。
消	屋内消火栓を示す。
点	鋳鉄製マンホール600Φを示す。
点	充填蓋マンホール（600×600）を示す。
	点字ブロック：注意喚起用を示す。
	点字ブロック：誘導用を示す。
K	壁下地異種部分：目地分れ位置を示す。 （見切目地W＝5）
	家具符号を示す。 （家具詳細による）
タテ樋φ	特記以外：塩ビ製縦樋　φ***(外壁色合せ)を示す。 掘み金物：ＳＵＳ@1,200以内3mm
トイレ・階段	左記表記：トイレ及び階段については 別図詳細図による。

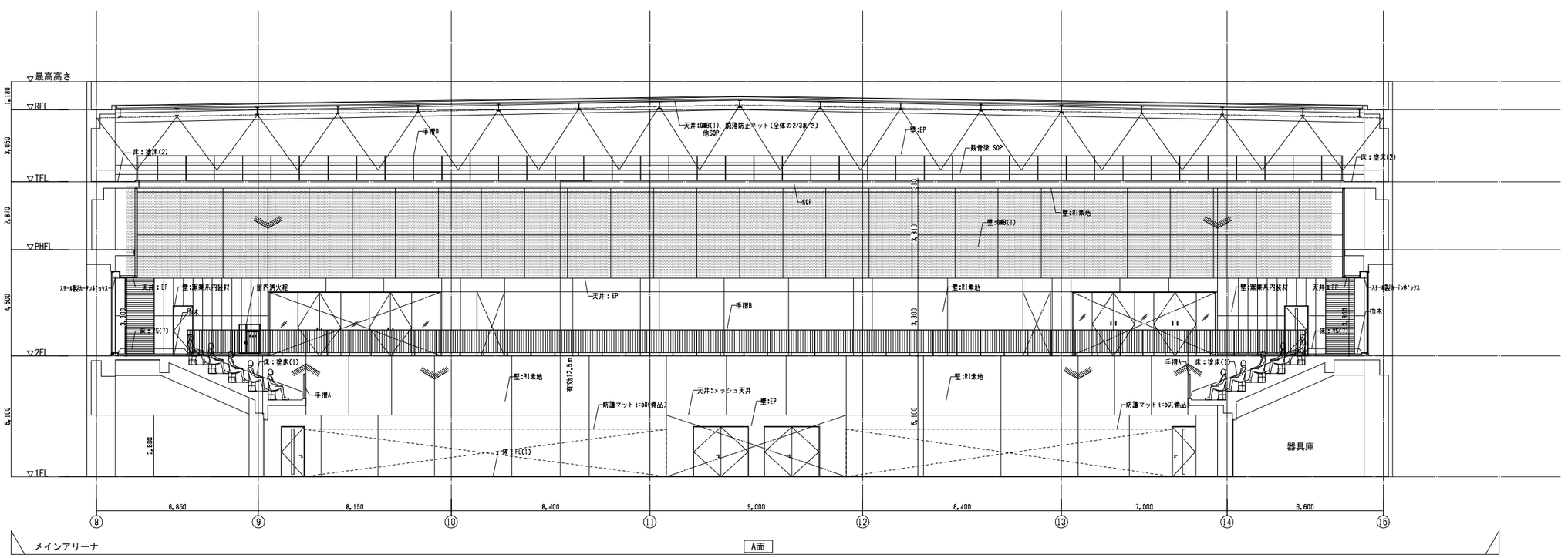
| | | |

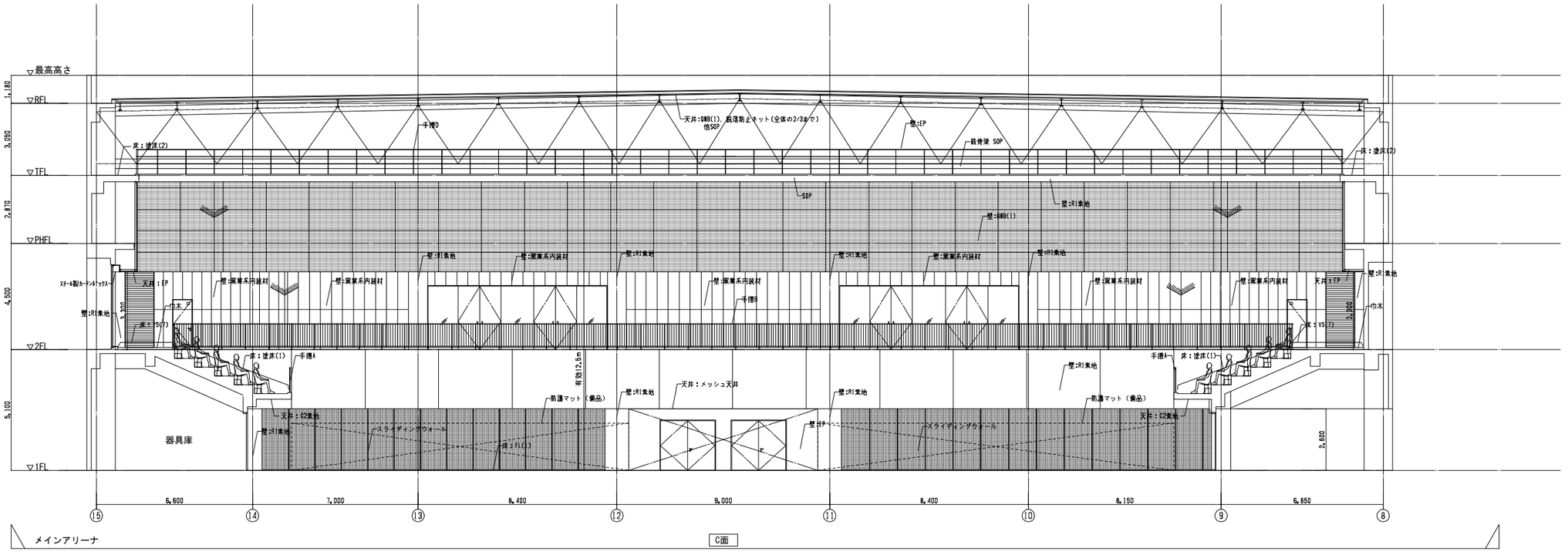


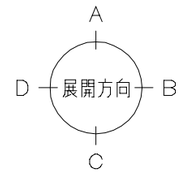
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所　福岡県知事登録　第1－10078号

設計者					法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号			第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎		林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 158095	図面番号 A － 065
2階平面詳細図（4）	縮尺 1/ A1:1/100 A3:1/200	日付 2019・11・15







飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI
Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 幸	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

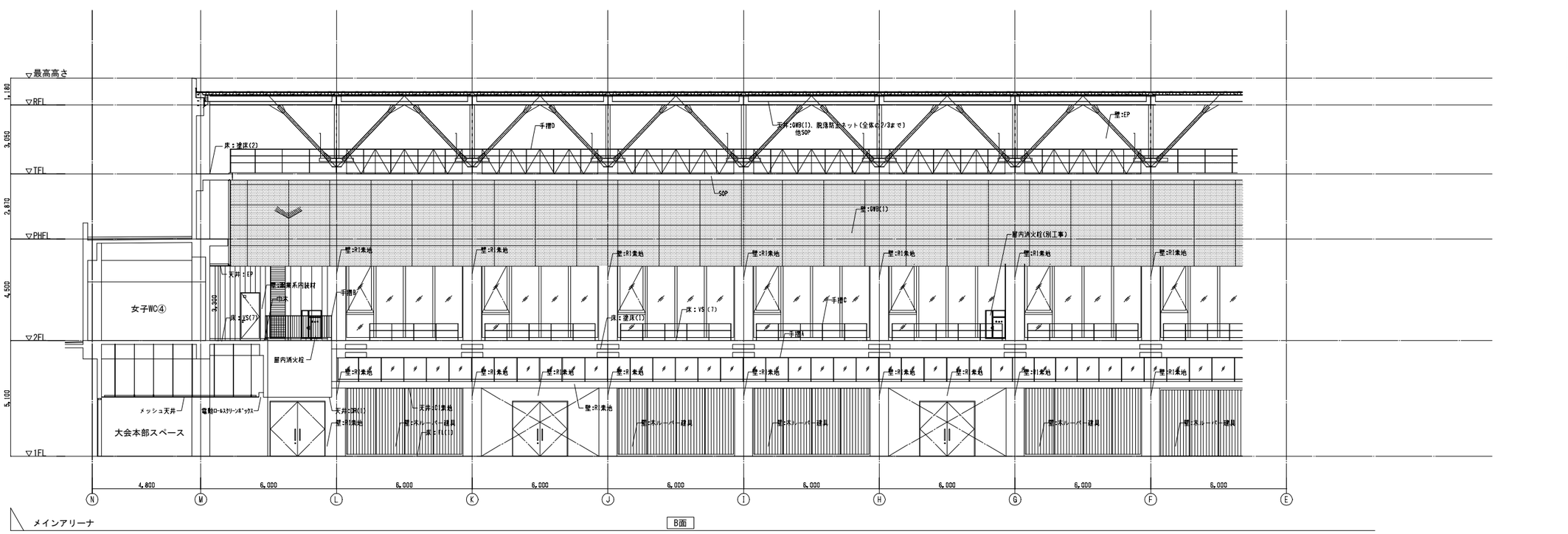
展開図（１）

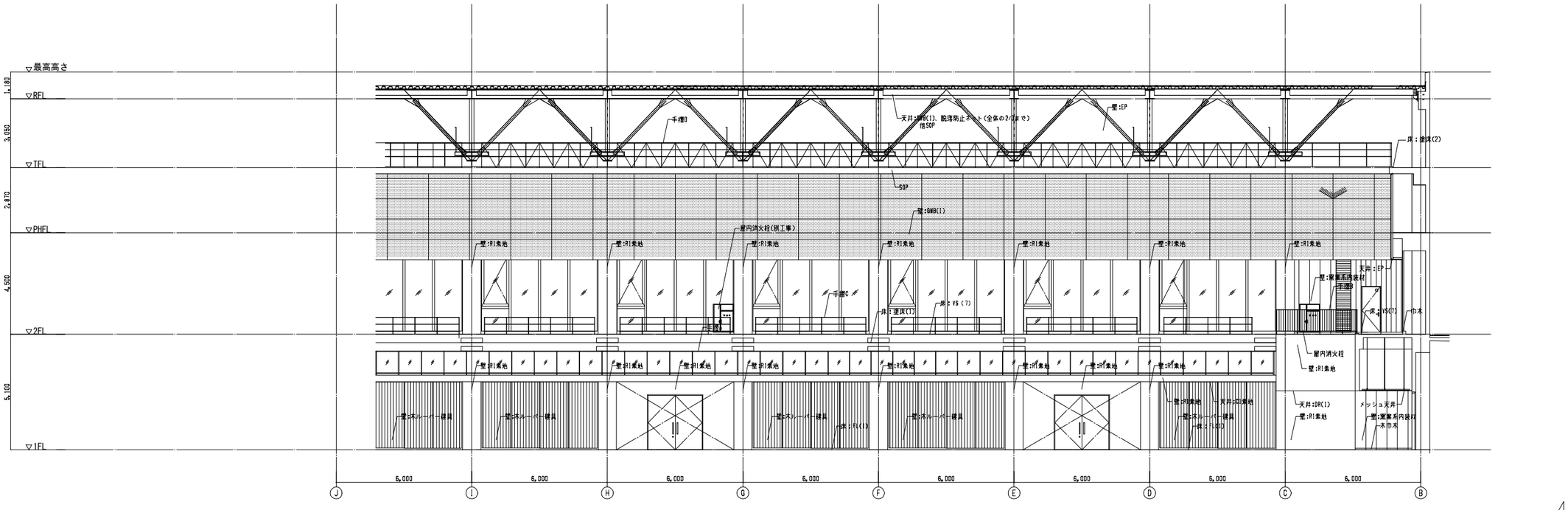
設計番号 16779

図面番号 A — 066

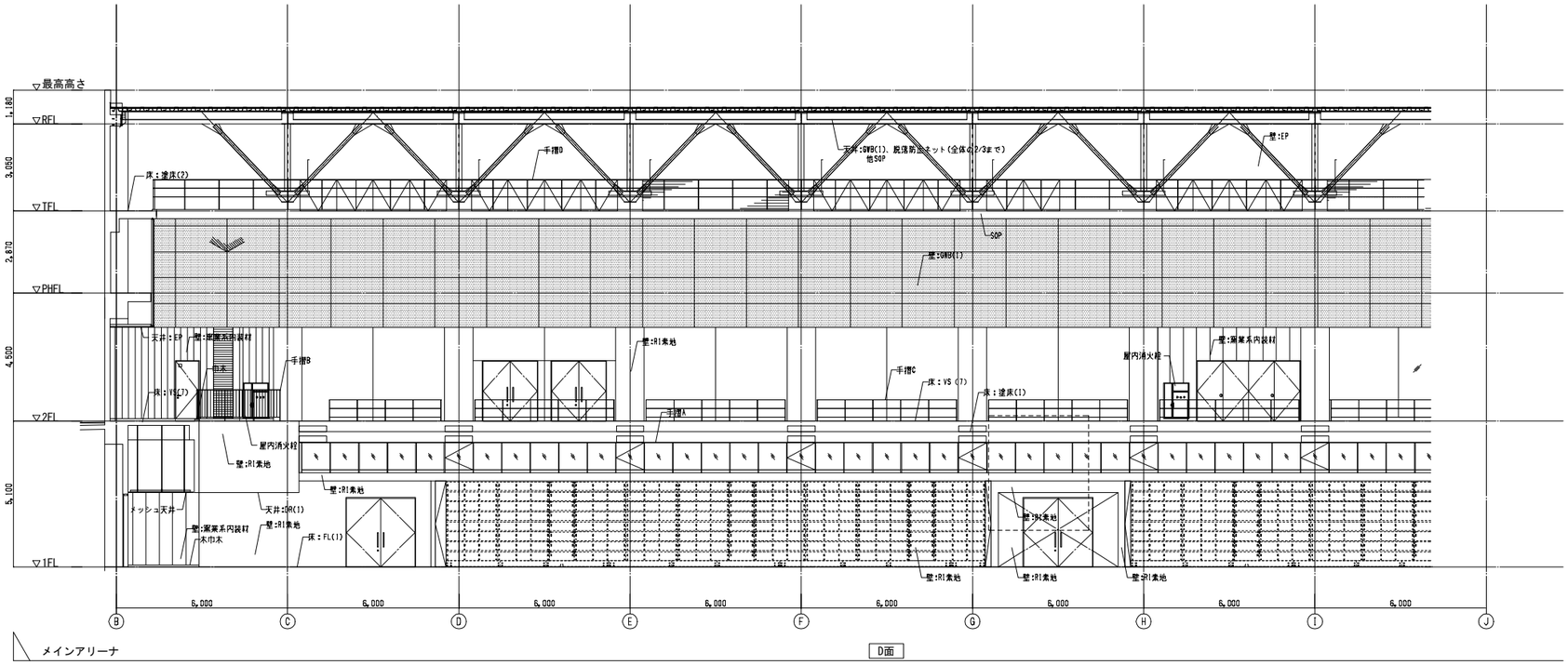
縮尺 1/A1:50 A3:100

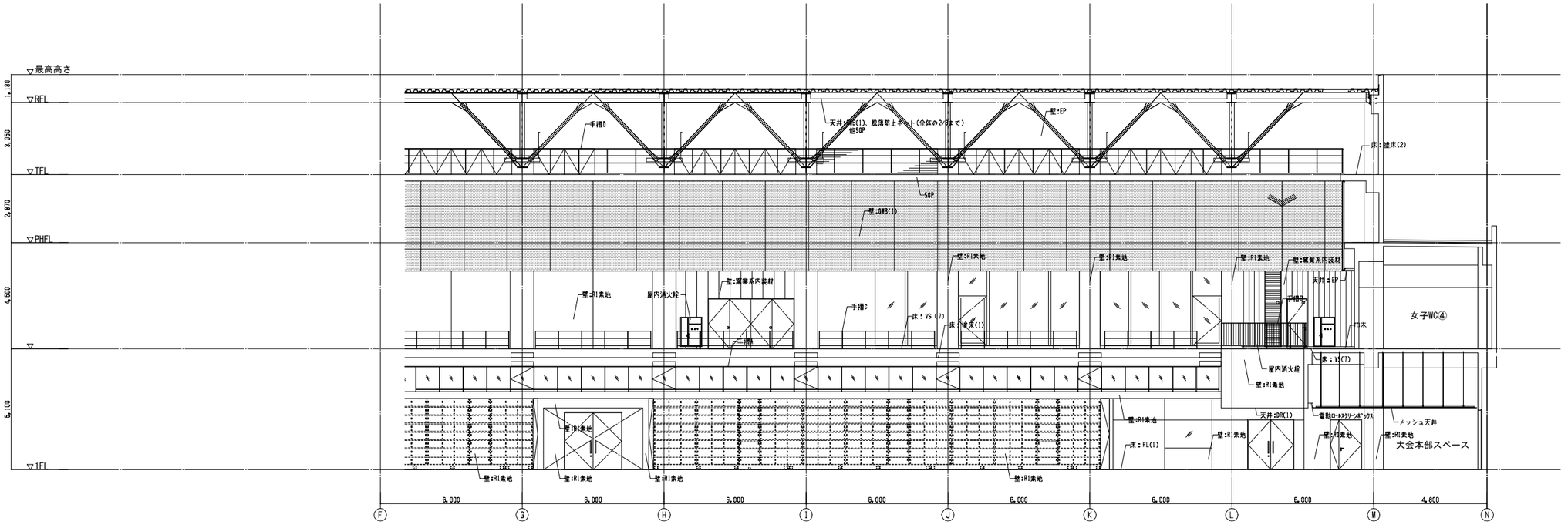
日付 2019・11・15





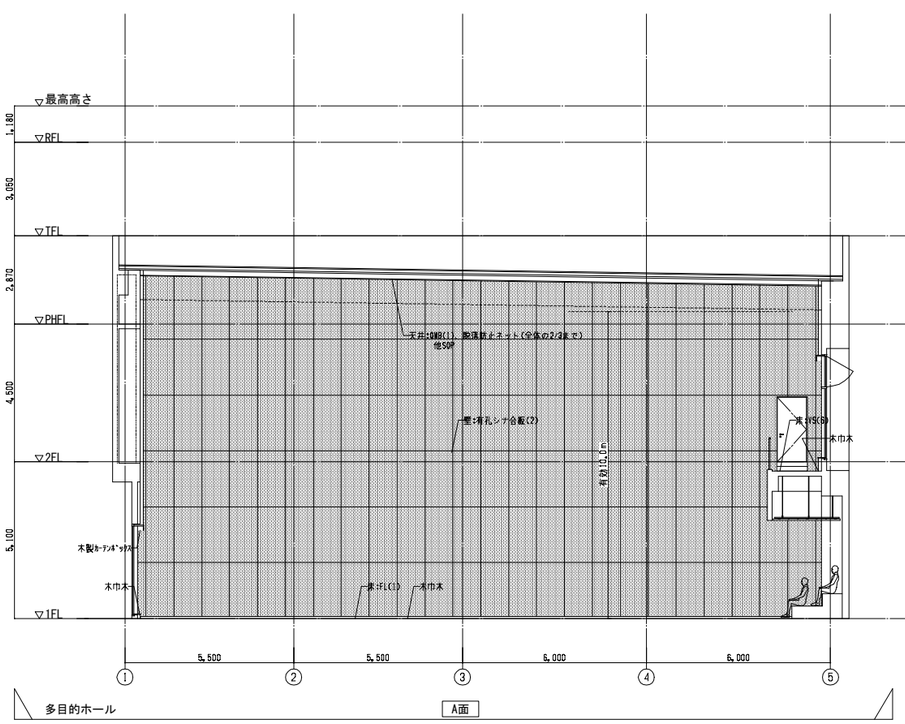
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者								法適合確認欄		検証者		飯塚市新体育館等建設工事 展開図（2）	設計番号 16779	図面番号 A — 067
			一級建築士 第280187号 中川 幸		一級建築士 第336677号 加野 正知		一級建築士 第336801号 江口 聡一郎		林 沙希子		設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子				縮尺 1/A1:50 A3:100	日付 2019・11・15	

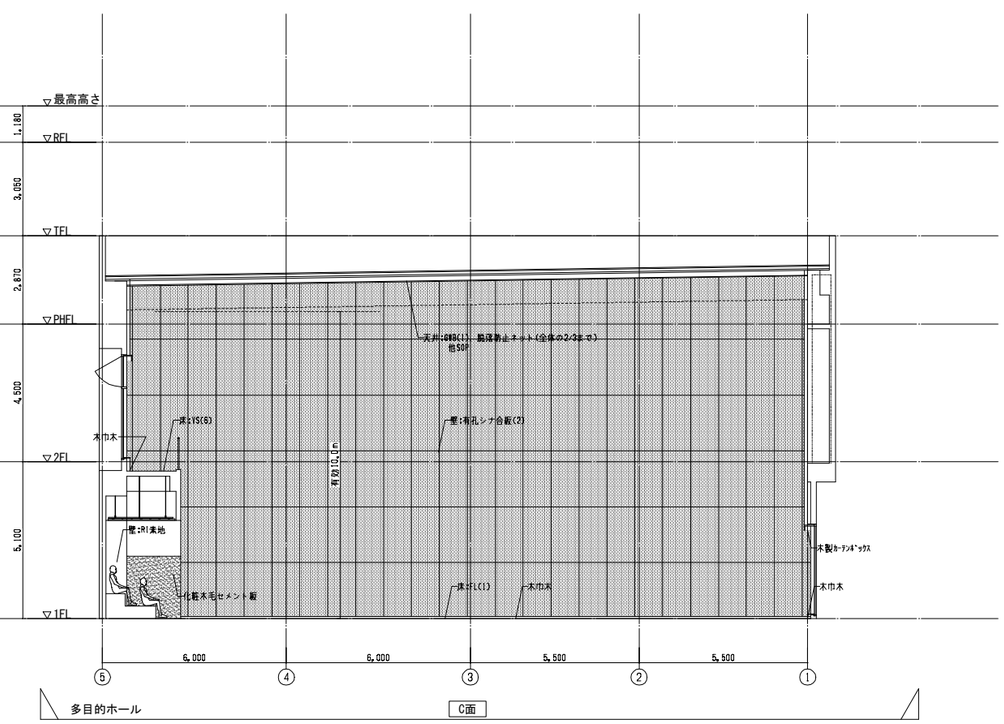


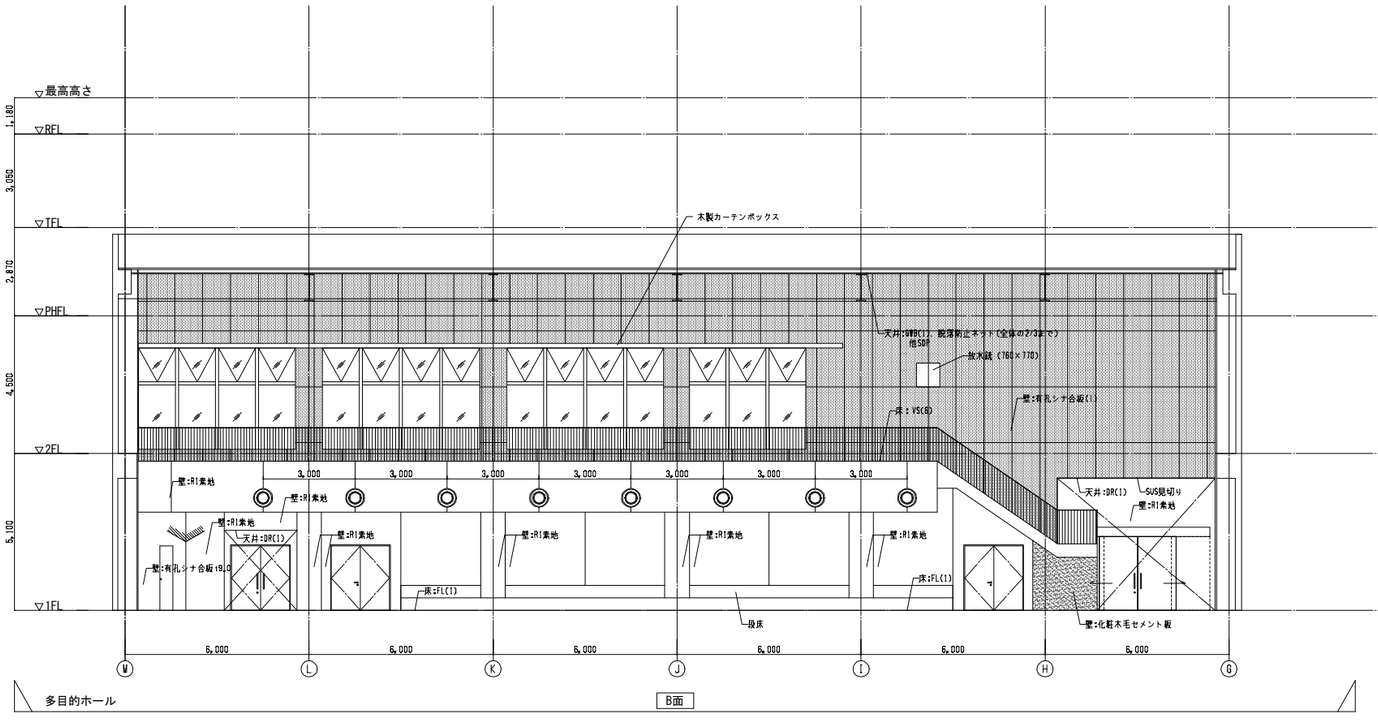


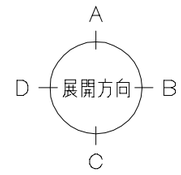
A
D 展開方向 B
C

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者					法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 068
			一級建築士 第280187号 中川 幸	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子		設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		展開図（3）	縮尺 1/A1:50 A3:100	日付 2019・11・15









飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI
Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

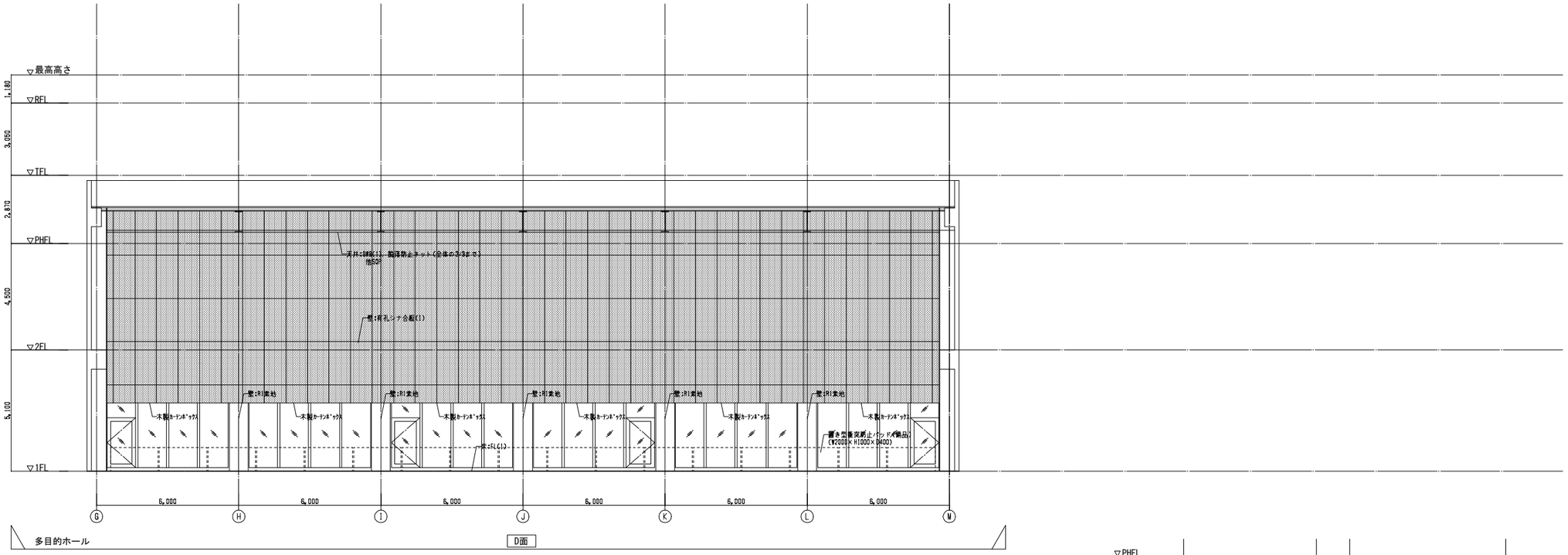
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 幸	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

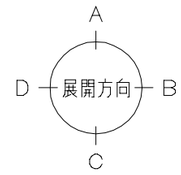
飯塚市新体育館等建設工事

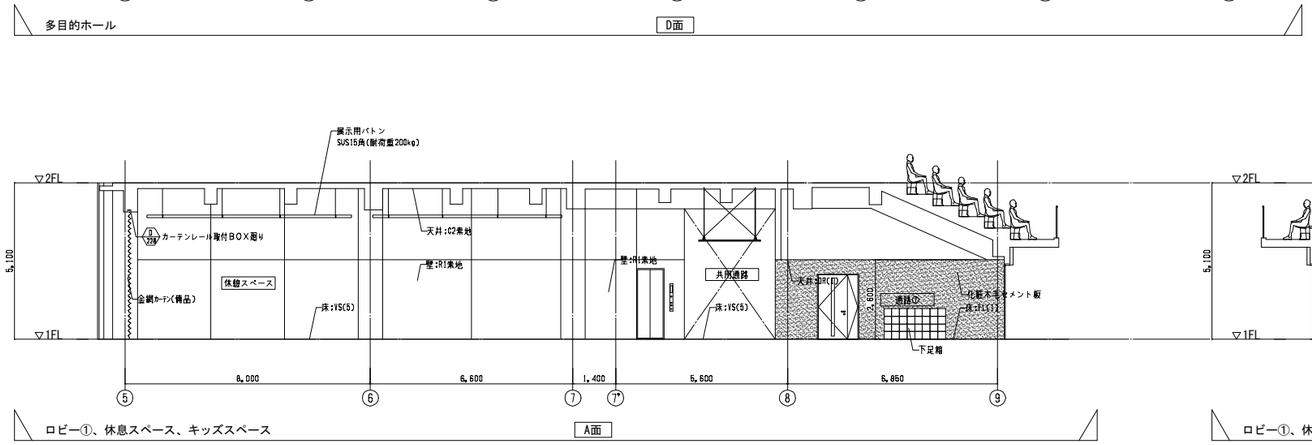
展開図（4）

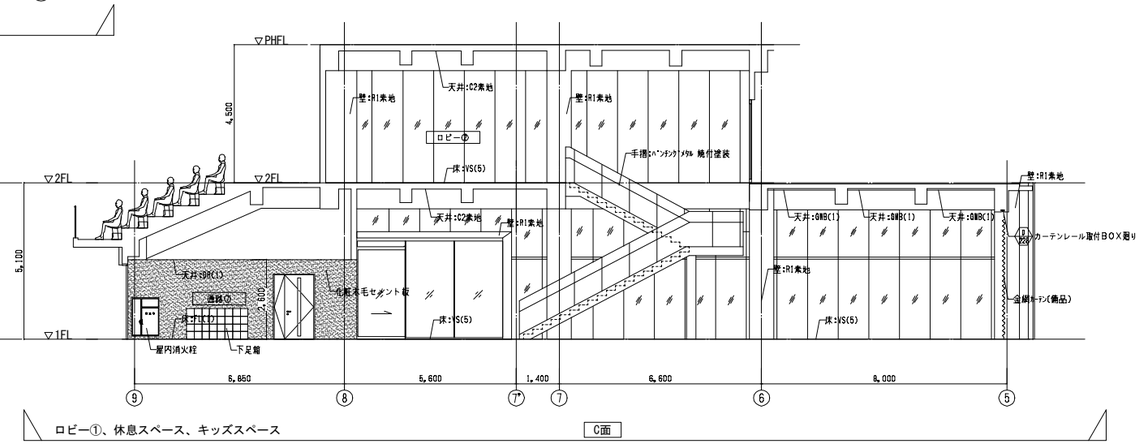
設計番号	図面番号
16779	A — 069

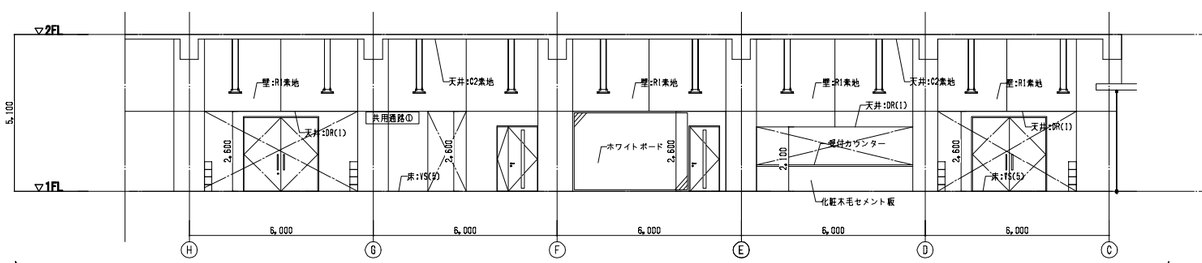
縮尺	日付
1/1:50 A3:100	2019・11・15

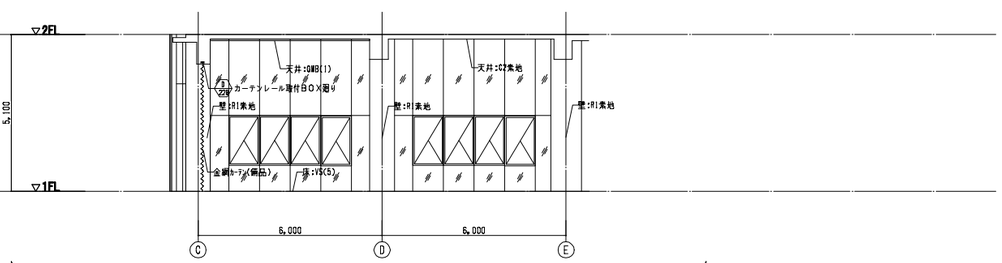




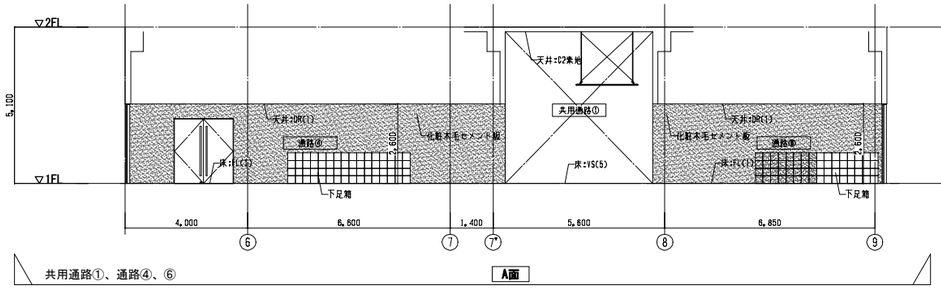






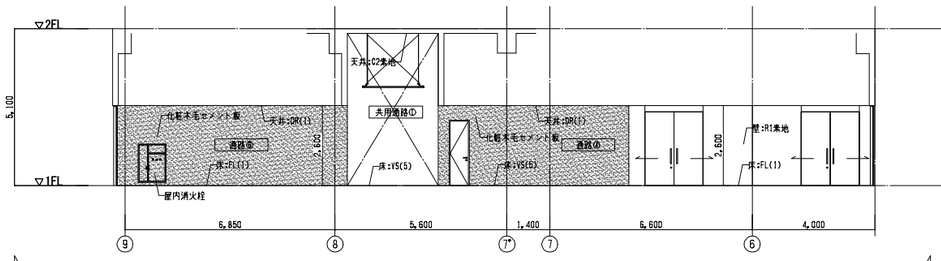


飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者					法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 070
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子		設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		展開図（5）	縮尺 1/A1:50 A3:100	日付 2019・11・18



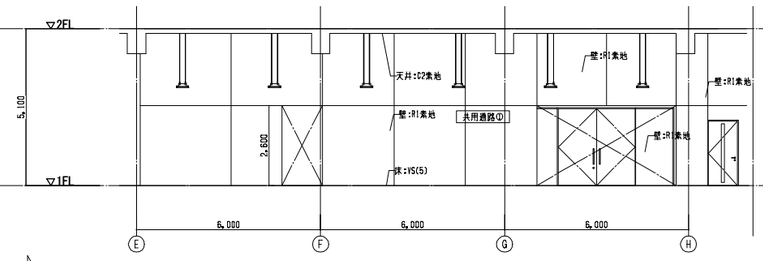
共用通路①、通路④、⑥

A面



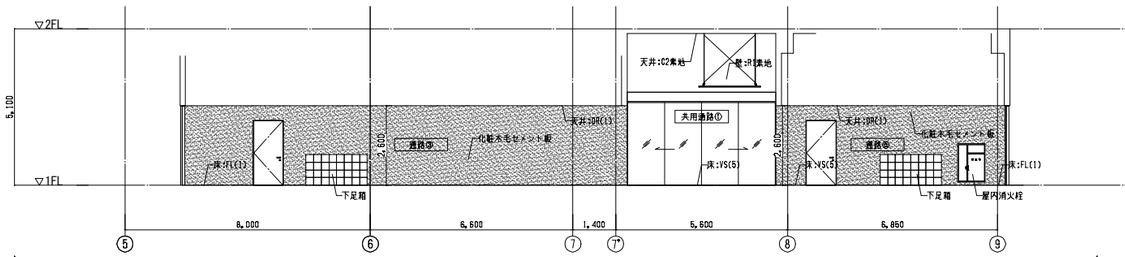
共用通路①、通路④、⑥

C面



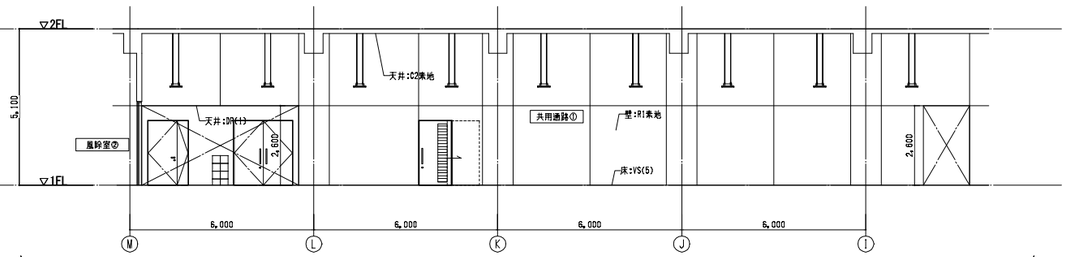
共用通路①、通路④、⑥

D面



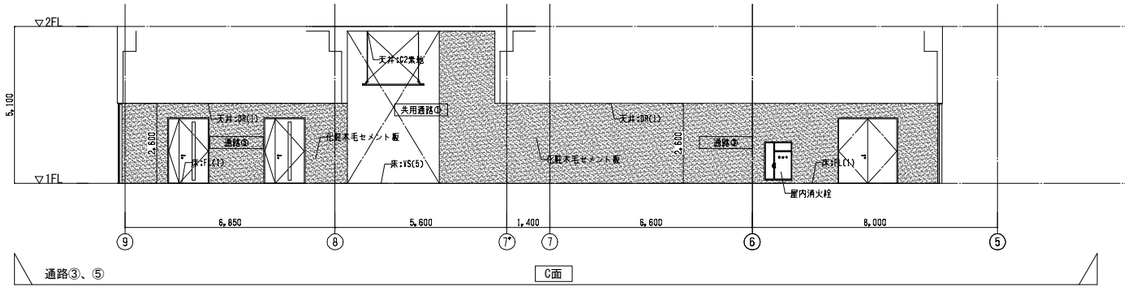
通路③、⑤

A面



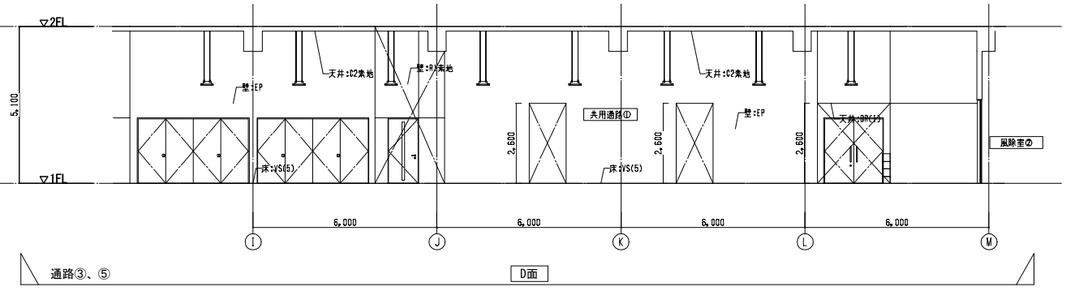
通路③、⑤

B面



通路③、⑤

C面



通路③、⑤

D面

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI
Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 幸	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

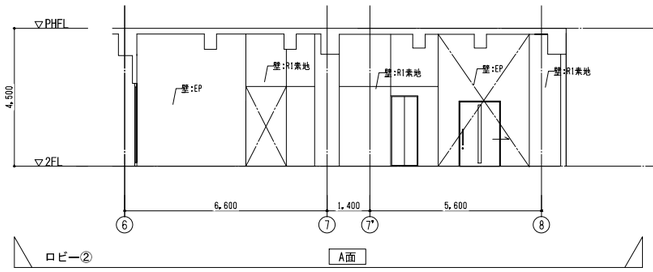
展開図（6）

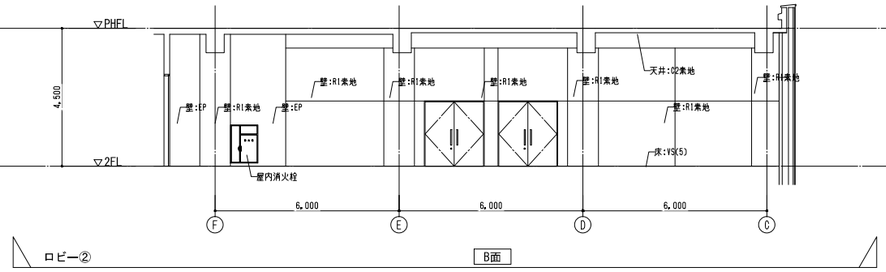
設計番号 16779

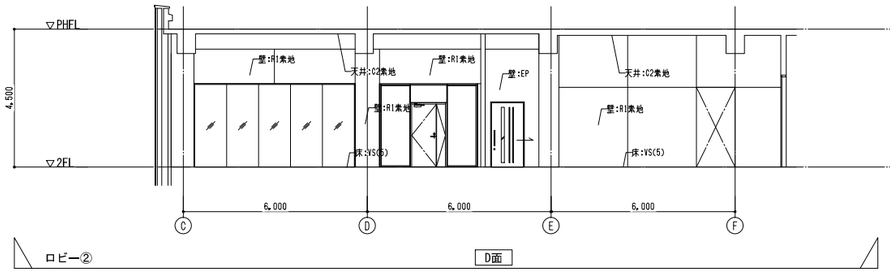
図面番号 A — 071

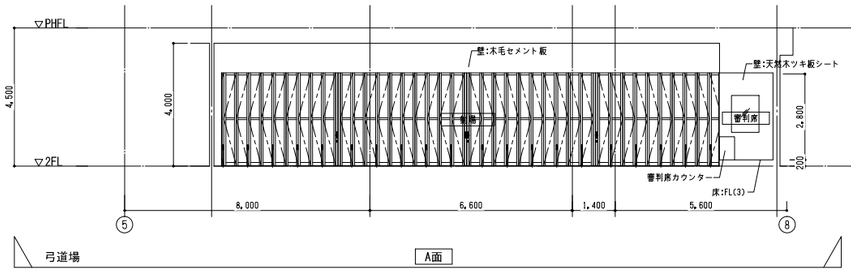
縮尺 1/A1:50 A3:100

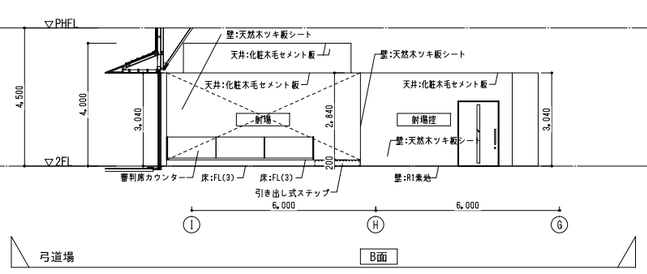
日付 2019・11・15

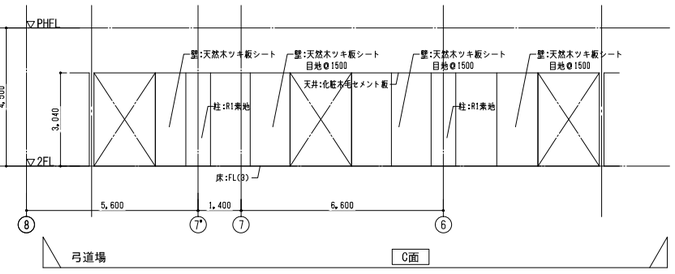


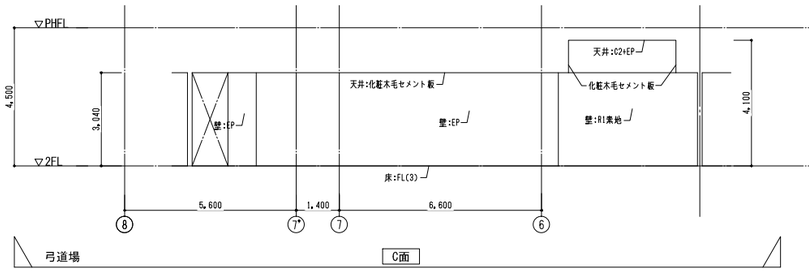


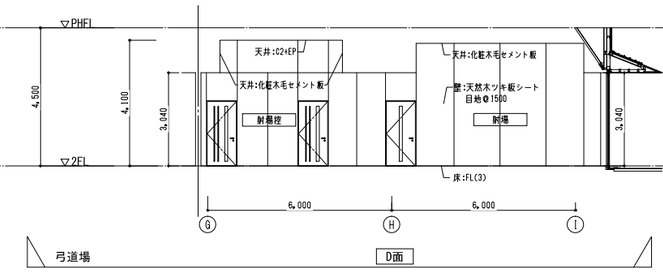


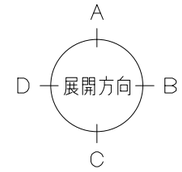












飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

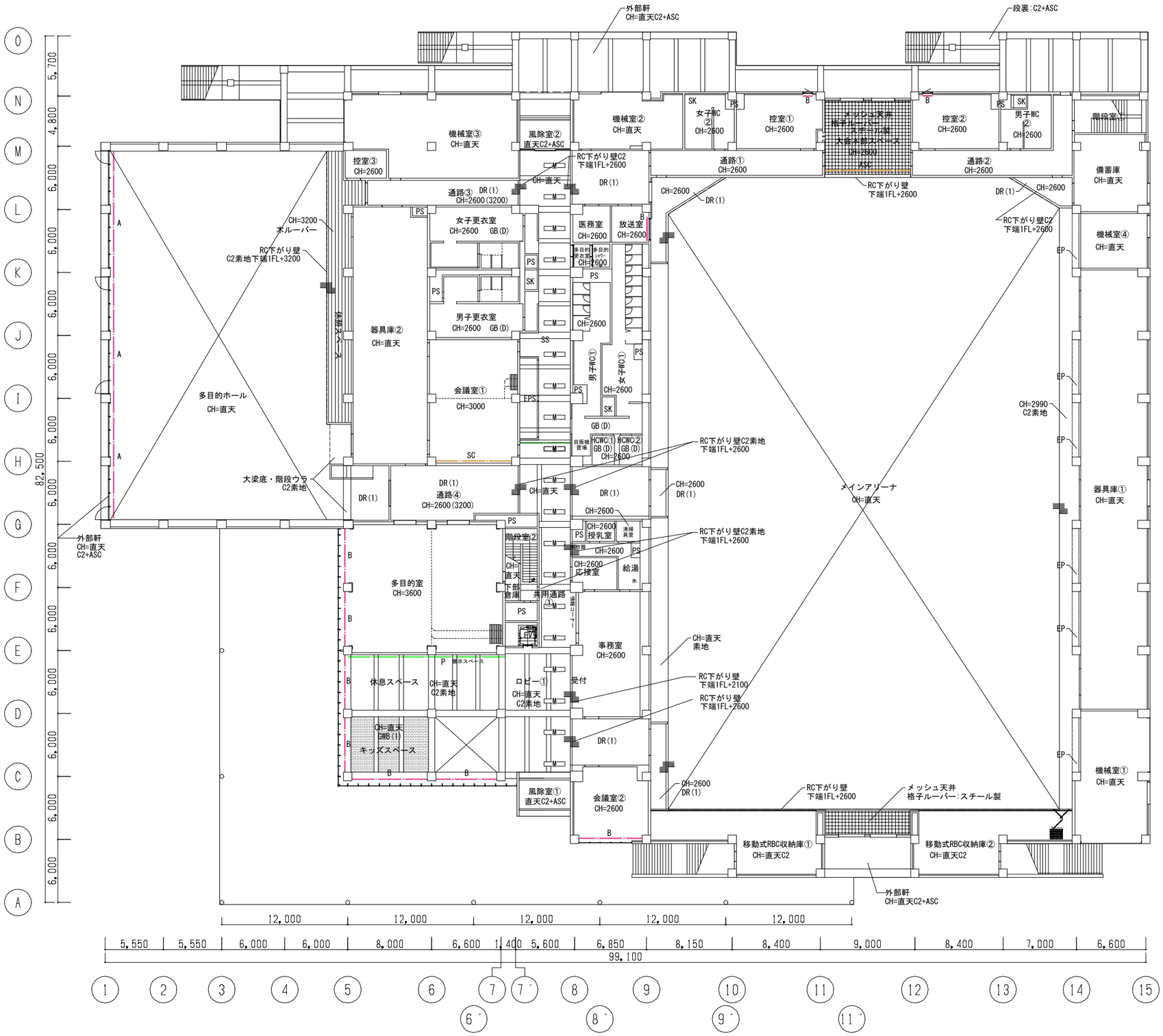
展開図（７）

設計番号 16779

図面番号 A — 072

縮尺 1/A1:50 A3:100

日付 2019・11・15



凡例

- M: SUS 鏡面天井吊仕上げ 2000x400
- A: 木製カーテンボックス(手動暗幕)
- B: スチール製カーテン・ブラインドボックス W120xH120
- D: 天井付カーテンレール
- E: 電動暗幕カーテンレール
- SC: スクリーンボックスW300xH150xD150
- ASC: スチール製電動ロールスクリーンボックスW160xH150 D-xxx
- L: 照明ボックス D-xxx
- P: ピクチャーレール D-xxx
- RS: ロールスクリーン
- SS: シャッターボックス

共通事項

- CH=直天：梁及びスラブ底露出部は素地
- CH=***/(***)：()内を仮想天高とする
- ：断熱材(GWB)範囲を示す

設備等開口リスト(全フロア)

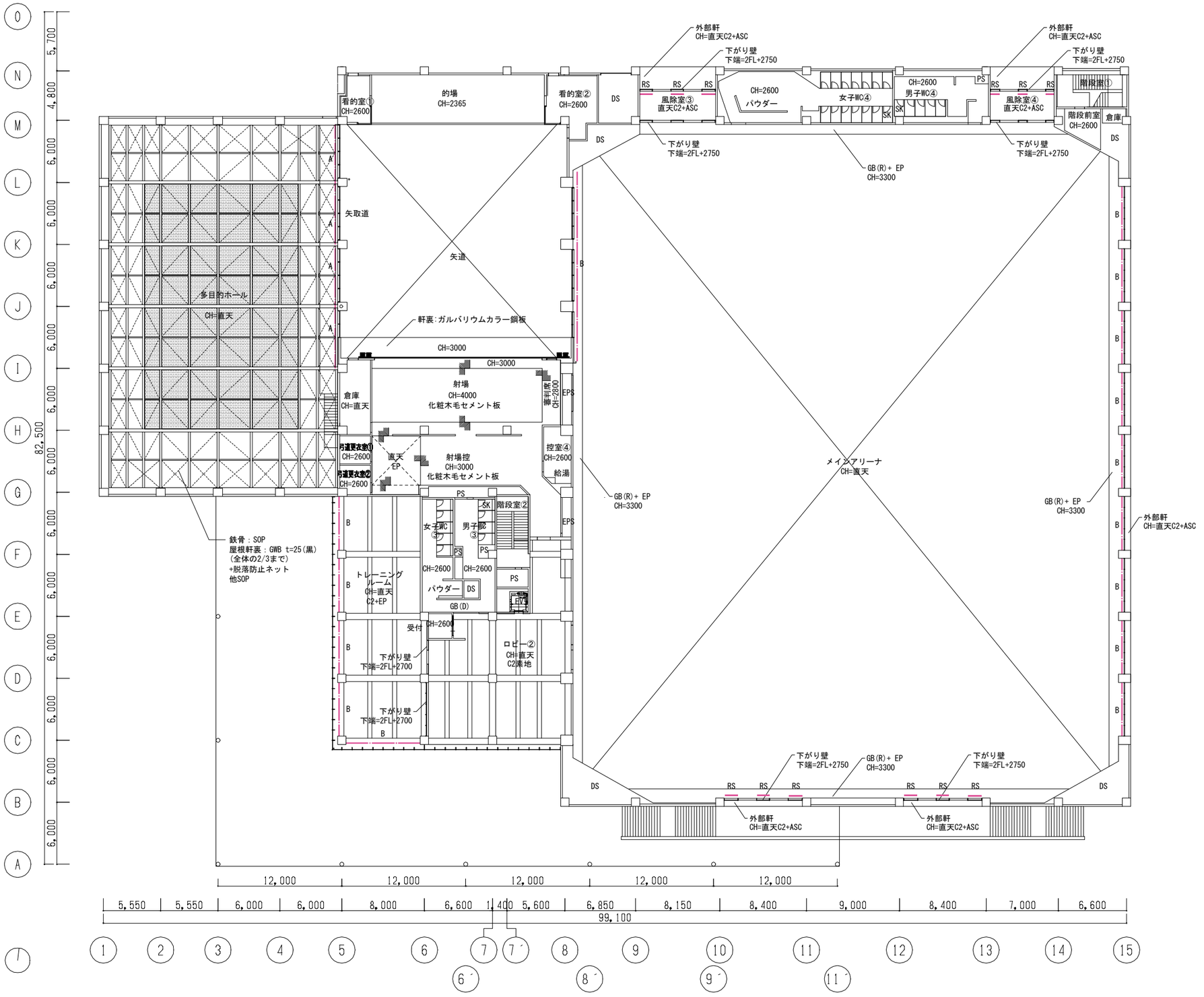
■開口補強

	1階	2階	トラス階	備考
150×150	44	48	0	
200×200	4	0	0	
250×250	6	2	0	
300×300	8	3	0	
350×350	9	0	0	
400×400	10	0	0	
450×450	5	0	0	
600×600	40	27	0	
400×200	12	0	0	
600×200	15	0	0	
1000×700	5	0	0	
1000×900	15	0	0	
1500×150	10	0	0	
＃8(250φ)	0	0	0	ノズル
＃16(450φ)	0	22	0	ノズル
＃20(550φ)	11	0	0	ノズル
＃30(350φ)	36	0	0	アネモ
600×600	82	44	3	点検口
750×1150	8	3	0	天カセ2方向
1000×1000	36	18	0	天カセ4方向

■点検口

	1階	2階	トラス階	備考
600×600	77	39	3	
450×450	5	5		

| | | |



凡例

- M□ SUS 鏡面天井吊仕上げ 2000x400
- A 木製カーテンボックス(手動暗幕)
- B スチール製カーテン・ブラインドボックス W120xH120
- D 天井付カーテンレール
- E 電動暗幕カーテンレール
- SC スクリーンボックスW300xH150xD150
- ASC スチール製電動ロールスクリーンボックスW160xH150 D-xxx
- L 照明ボックス D-xxx
- P ピクチャーレール D-xxx
- RS ロールスクリーン
- SS シャッターボックス

共通事項

- CH=直天：梁及びスラブ底露出部は素地
- CH=***/(***)：()内を仮想天高とする
- ：断熱材(GWB)範囲を示す

設備等開口リスト(全フロア)

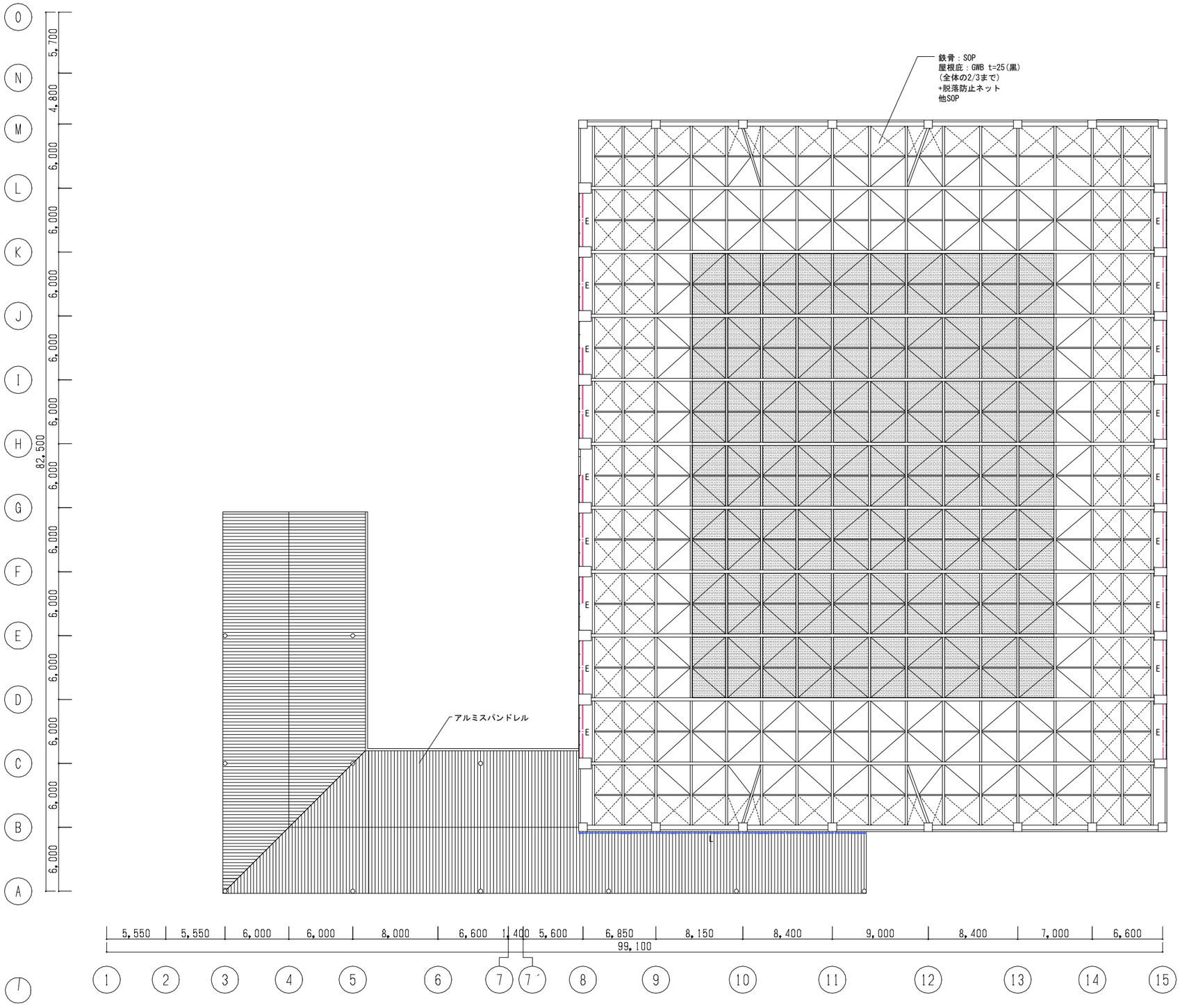
■開口補強

	1階	2階	トラス階	備考
150×150	44	48	0	
200×200	4	0	0	
250×250	6	2	0	
300×300	8	3	0	
350×350	9	0	0	
400×400	10	0	0	
450×450	5	0	0	
600×600	40	27	0	
400×200	12	0	0	
600×200	15	0	0	
1000×700	5	0	0	
1000×900	15	0	0	
1500×150	10	0	0	
＃8(250φ)	0	0	0	ノズル
＃16(450φ)	0	22	0	ノズル
＃20(550φ)	11	0	0	ノズル
＃30(350φ)	36	0	0	アネモ
600×600	82	44	3	点検口
750×1150	8	3	0	天カセ2方向
1000×1000	36	18	0	天カセ4方向

■点検口

	1階	2階	トラス階	備考
600×600	77	39	3	
450×450	5	5		

| | | |



凡例

- M□ SUS 鏡面天井吊仕上げ 2000x400
- A 木製カーテンボックス(手動暗幕)
- B スチール製カーテン・ブラインドボックス W120xH120
- D 天井付カーテンレール
- E 電動暗幕カーテンレール
- SC スクリーンボックスW300xH150xD150
- ASC スチール製電動ロールスクリーンボックスW160xH150 D-xxx
- L 照明ボックス D-xxx
- P ピクチャーレール D-xxx
- RS ロールスクリーン
- SS シャッターボックス

共通事項

- CH=直天：梁及びスラブ底露出部は素地
- CH=***/(***)：()内を仮想天高とする
- ：断熱材(GWB)範囲を示す

設備等開口リスト(全フロア)

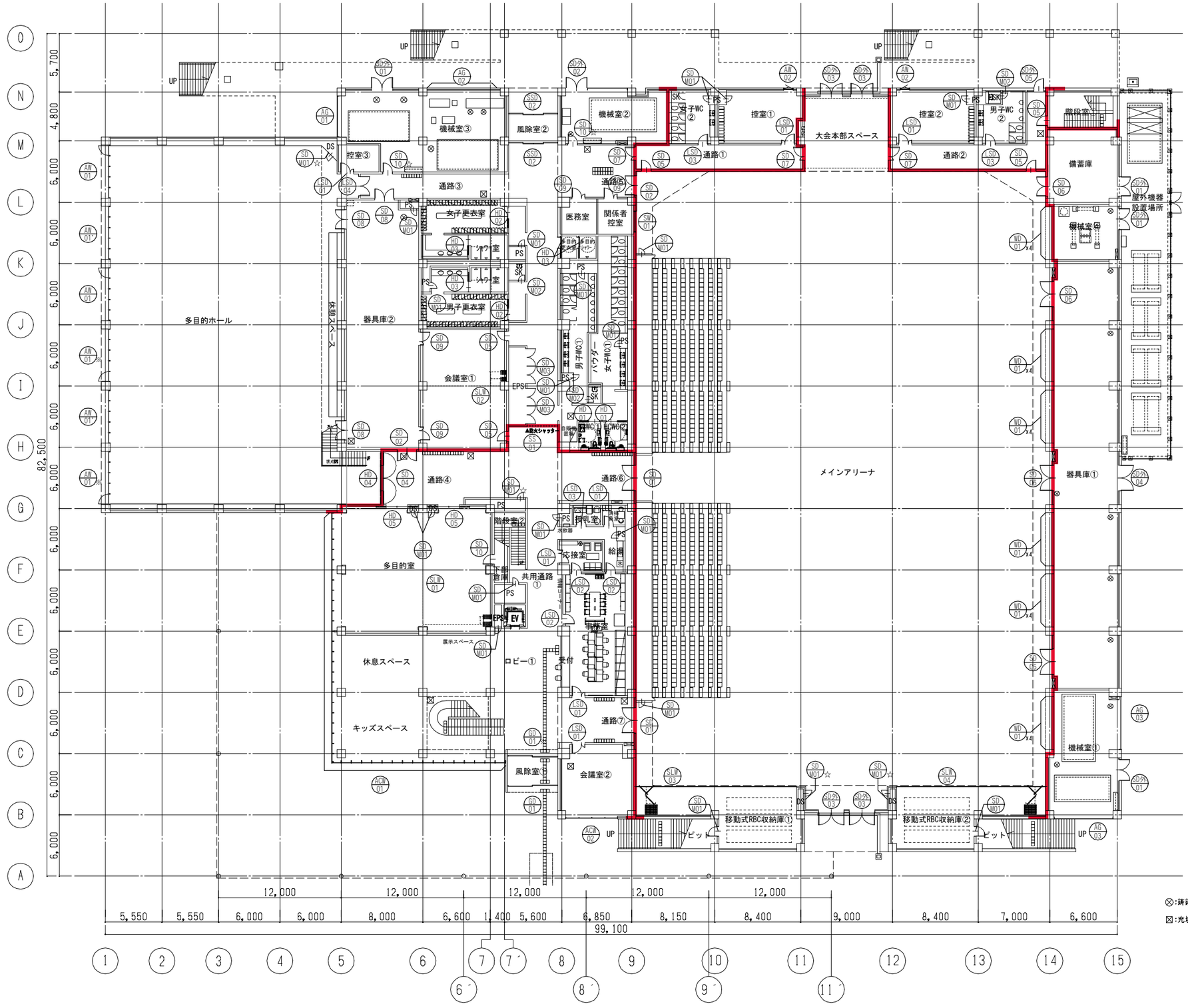
■開口補強

	1階	2階	トラス階	備考
150×150	44	48	0	
200×200	4	0	0	
250×250	6	2	0	
300×300	8	3	0	
350×350	9	0	0	
400×400	10	0	0	
450×450	5	0	0	
600×600	40	27	0	
400×200	12	0	0	
600×200	15	0	0	
1000×700	5	0	0	
1000×900	15	0	0	
1500×150	10	0	0	
＃8(250φ)	0	0	0	ノズル
＃16(450φ)	0	22	0	ノズル
＃20(550φ)	11	0	0	ノズル
＃30(350φ)	36	0	0	アネモ
600×600	82	44	3	点検口
750×1150	8	3	0	天カセ2方向
1000×1000	36	18	0	天カセ4方向

■点検口

	1階	2階	トラス階	備考
600×600	77	39	3	
450×450	5	5		

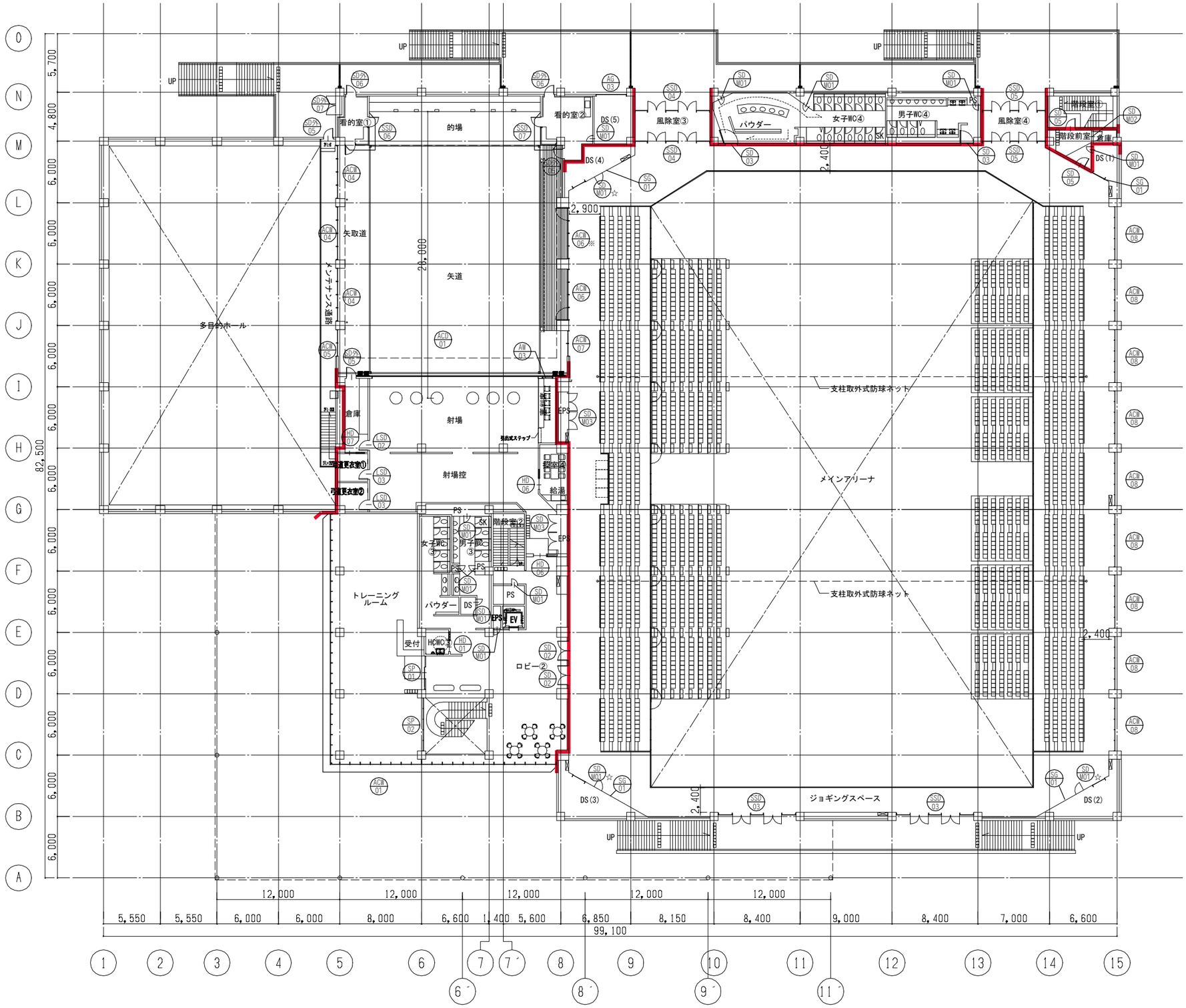
| | | |



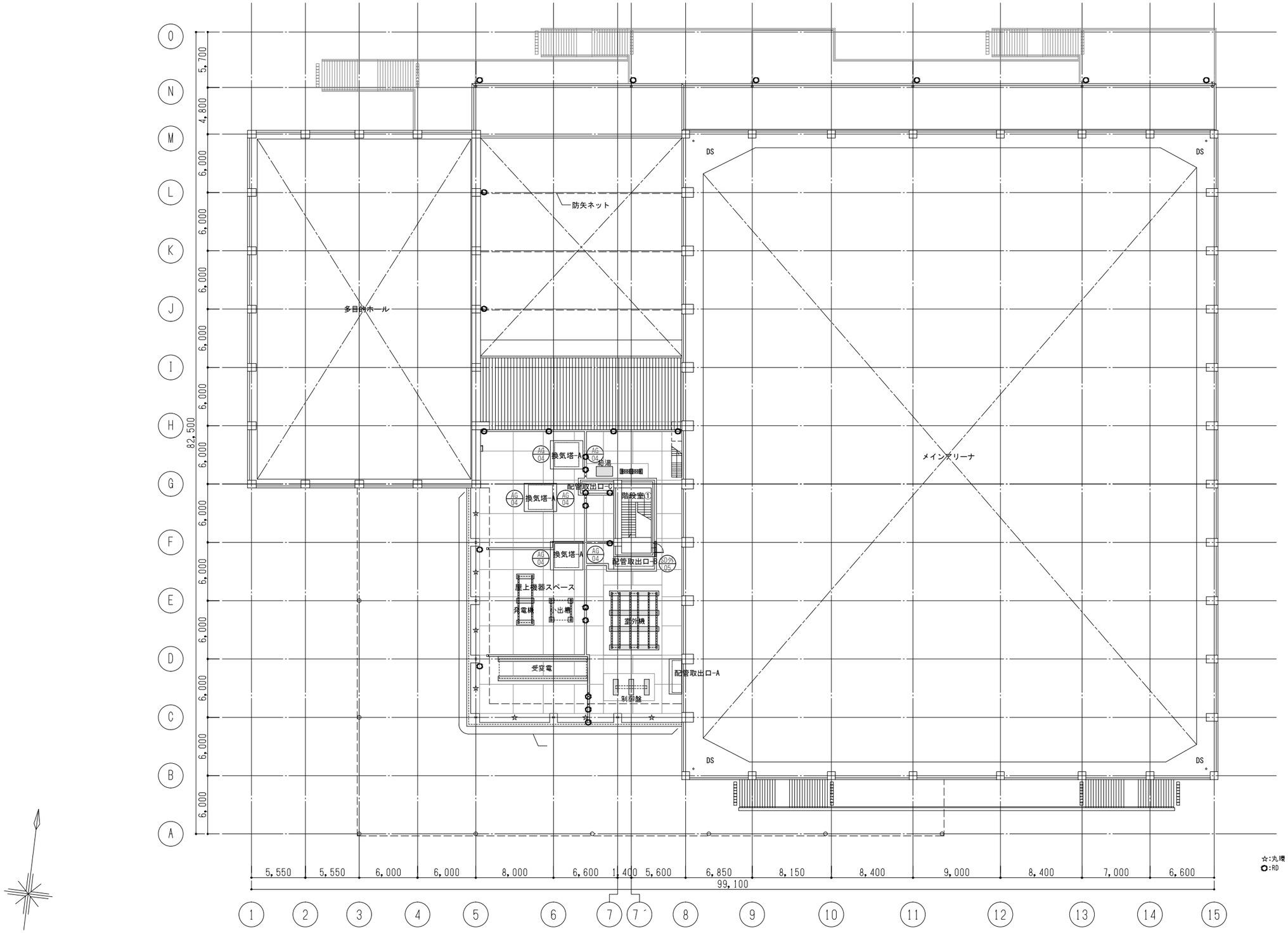
⊗:鋳鉄製マンホール600φ

⊠:充填蓋マンホール600×600

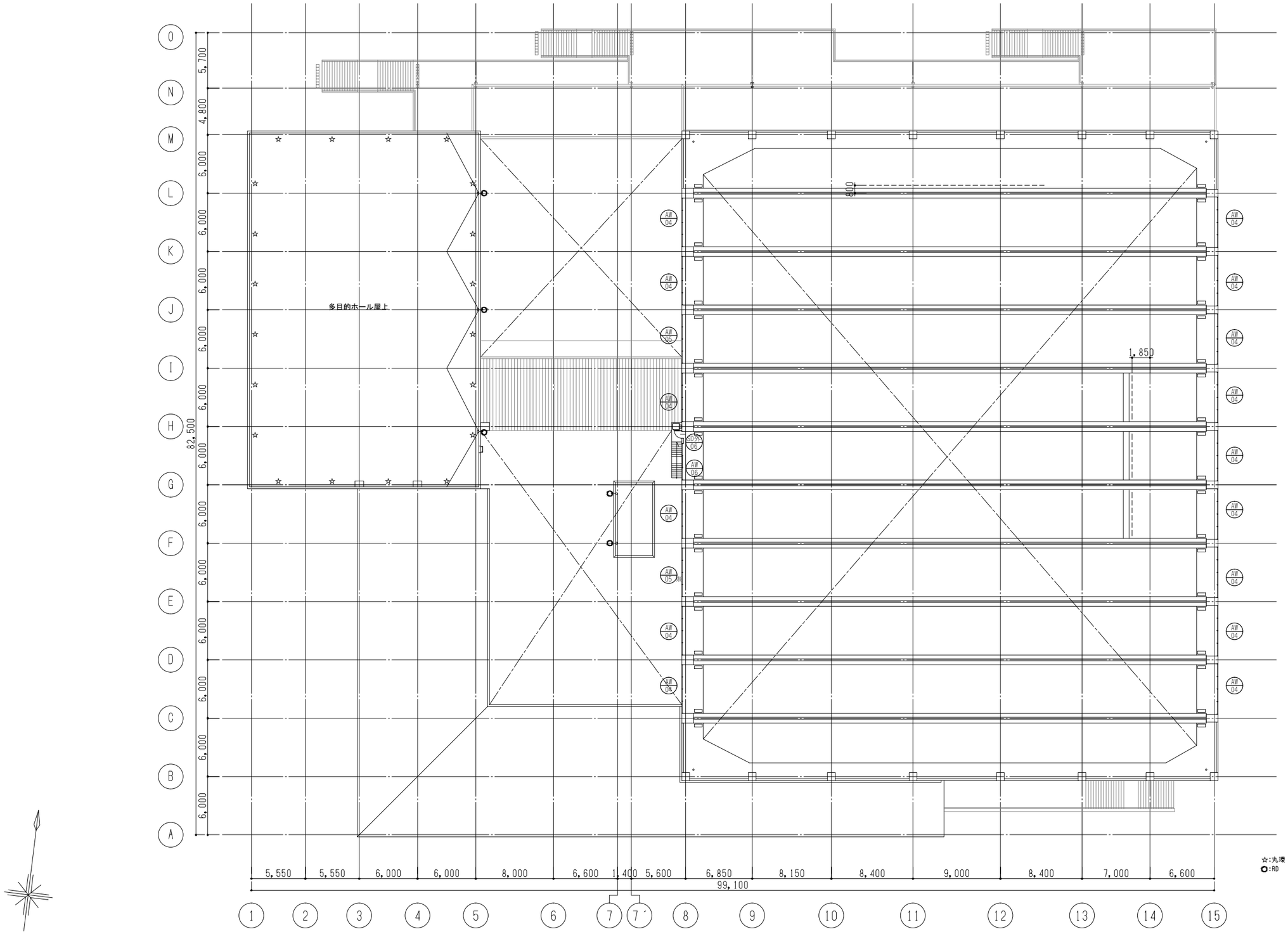
| | | |


UP
看的室①
的場
看的室②
DS (5)
風除室③
パウダー
女子WC④
男子WC④
風除室④
階段室①
階段前室・倉庫
DS (1)
DS (4)
矢取道
矢道
メンテナンス通路
多目的ホール
倉庫
射場
射場控
EPS
弓道更衣室①
弓道更衣室②
給湯
階段室②
女子WC③
男子WC③
トレーニングルーム
受付
ロビー②
支柱取外式防球ネット
メインアリーナ
ジョギングスペース
DS (3)
DS (2)
2,900
2,400
20,000
82,500
5,700
4,800
6,000
12,000
5,550
6,600
1,400
5,600
6,850
8,150
8,400
9,000
7,000
99,100
1
2
3
4
5
6
7
7´
8
8´
9
9´
10
11
11´
12
13
14
15
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O

| | | |


防矢ネット
多目的ホール
メインアリーナ
DS
DS
DS
DS
換気塔-A
給湯
配管取出口-C
階段室1
換気塔-A
換気塔-A
配管取出口-B
屋上機器スペース
発電機
出槽
室外機
受変電
制御盤
配管取出口-A
☆:丸環
○:RD
0
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
5,700
4,800
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
82,500
5,550
5,550
6,000
6,000
8,000
6,600
1,400
5,600
6,850
8,150
8,400
9,000
8,400
7,000
6,600
99,100
1
2
3
4
5
6
7
7´
8
9
10
11
12
13
14
15

| | | |


多目的ホール屋上
800
1,850
AW 04
AW 05
AW 06
SW 04
SW 05
SW 06
☆:丸環
○:RD
82,500
5,700
4,800
6,000
5,550
5,550
6,000
6,000
8,000
6,600
1,400
5,600
6,850
8,150
8,400
9,000
8,400
7,000
6,600
99,100
0
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
1
2
3
4
5
6
7
7´
8
9
10
11
12
13
14
15

| | | |

建築工事特記仕様書（16章 建具工事）

1．共通仕様 2．特記事項 3．適用基準等 4．設計図書の優先順位　これらの項目は、建築工事特記仕様書（2）による。

1. 建具見本の製作等

建具見本の製作　⊙製作する（建具番号 HL-NOW-SSD 3-■）・製作しない　(16.1.4(a))
特殊な建具の仮組　・仮組する（建具番号　　）⊙仮組しない　(16.1.4(b))

2. アルミニウム製建具

外部に面するアルミニウム製建具の性能　(16.2.2(b)(1)(16.2.4(b))(表16.2.1)

種別	耐風圧性（Pa）	気密性（等級線）	水密性（Pa）	枠見込　mm
・A種	S-4(2000)	A-3(A-3)	W-4(350)	※70
⊙B種	S-5(2400)			⊙60 ⊙100
・C種	S-6(2800)	A-4(A-4)	W-5(500)	※100
・	・	・	・	・

防音ドアセット、防音サッシの適用及び遮音性能　※図示　・　(16.2.2(b)(2))
⑨ 断熱ドアセット、断熱サッシの適用及び断熱性能　※図示　・　(16.2.2(b)(3))
耐震ドアセットの適用及び面内変形追随性能　※図示　・　(16.2.2(b)(4))
表面処理
・陽極酸化皮膜　JISH8601　(16.2.4(d))(表14.2.1)(補17.2.2(a)(3))

表面処理	種　別	皮膜厚μm	色　合	施工箇所
無着色陽極	・A-1種	※15	※標準	
酸化皮膜	・C-1種	※ 6	・標準　・標準外	
着色陽極	・A-2種	※15	※標準	
酸化皮膜	・C-2種	※ 6	・標準　・標準外	

⊙陽極酸化塗装複合皮膜　JISH8602

色　合	※標準（・無着色：B-1種 ⊙着色：B-2種）・標準外（・ホワイト）
塗装の艶	・あり　※なし
表面仕上（ダイスライン）	※標準（ダイスラインあり）・標準外（ダイスラインなし：梨地処理）

JISH8602 改正規格の種類（性能規格）

種類	複合耐食性		耐候性	
	紫外線室光ランプ耐候性試験	キャス試験	キセノンランプ式促進耐候性試験	サンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験
	試験時間 h			
・A1	240	120	4000	3000
・A2	240	120	2000	1500
※B	240	72	1000	750
・C	—	—	350	250
備考	紫外線室光ランプ耐候性試験を行った後、キャス試験を実施する。		キセノンランプ式促進耐候性試験又はサンシャインカーボンアーク灯式促進耐候性試験のいづれかを実施する。	

A1 過酷な環境で、かつ、紫外線露光量の多い地域の屋外
A2 過酷な環境の屋外
※B 一般的な環境の屋外
C 屋内
・過酷な環境とは、腐食・劣化の激しい地域で海浜及び沿岸
・一般的な環境とは、工業地域、都市地域及び田園地域
・海浜とは、海岸線から300m以内の地域
・沿岸とは、海岸線から300mを超えて2km以内の地域
・紫外線露光量の多い地域とは、垂燕帯海洋性気候に類似した地域（南西諸島等）

・着色塗装皮膜

表面処理	種　別	塗装厚	仕上がり	施工箇所
着色塗装皮膜	・B-FE(P)	・　μm	・ソリッド・メタリック	
	・B-FE(F)	・　μm	・ソリッド・メタリック	
	・	・	・	

注）B-FE(P)　：高温焼付熱ふっ素樹脂エナメル塗り　B-FE(F)　：中温焼付熱ふっ素樹脂エナメル塗り

網戸　⊙設ける　・設けない　(16.2.3(e))
網の材料　・SUS316　※合成樹脂　・ガラス繊維入り合成樹脂
形　式　※外部可動式　・固定式　⊙内部アコーディオン式
結露水の処理方法　※図示　⊙水抜きパイプにて外部へ　(16.2.4(g))

3. 樹脂製建具

外部に面する樹脂製建具の性能　(16.3.2(b))

種別	耐風圧性（Pa）	気密性（等級線）	水密性（Pa）	枠見込（mm）
・A種	S-4(2000)	A-4 (A-4)	W-4(350)	※図示
・B種	S-5(2400)		W-5(500)	
・C種	S-6(2800)			

防音ドアセット，防音サッシの適用及び遮音性の等級　※図示　・　(16.3.2(2))
上記サッシの外部に面する建具の遮音性能等級　・T-A種　・T-B種　(16.3.2(2))
断熱ドアセット，断熱サッシの適用及び断熱性の等級　※図示　・　(16.3.2(3))
上記サッシの外部に面する建具の断熱性能等級　・H-A種　・H-B種　・H-C種　(16.3.2(3))
ガラス　※複層ガラス　・単層ガラス　・三重ガラス　(16.3.3(f)(1))
建具の表面色　※標準色　・特注色　(16.3.4(f))
建具の木切り板，ぜん板等　※図示　・　(16.3.5(a)(4))

4. 鋼製建具

鋼製建具の仕様（鋼板厚さ・金物類他）　(16.4)
※標準仕様書16章4節鋼製建具　・図示
簡易気密扉の簡易気密型ドアセットの気密性、水密性の性能値　(16.4.2(b))(表16.4.1)
※適用する（※A-3及び※W-1　）・適用しない
外部に面する鋼製建具の耐風圧性能　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。　(16.4.2(b))(表16.2.1)
JIS Q 3302による付着量　※Z12又はF12以上　・　(16.4.3(a)(1)(ｲ))
JIS Q 3317による付着量　※Y08　・　(16.4.3(a)(ﾛ))
鋼板類の厚さ　※表16.4.2　(16.4.4(a))

5. 鋼製軽量建具

鋼製軽量建具の仕様（鋼板厚さ・金物類他）　(16.5)
※標準仕様書16章5節鋼製軽量建具　・図示
簡易気密扉の簡易気密型ドアセットの気密性の性能値　(16.5.2(b)(1))
※適用する（※A-3　）・適用しない
ビニル被覆鋼板　・適用する（箇所図示）⊙適用しない　(16.5.3(a)(2))
カラー鋼板　・適用する（箇所図示）⊙適用しない　(16.5.3(a)(3))
召合わせ、縦小口包み板の材種　※鋼板　・SUS304　・アルミニウム合金　(16.5.3(e))
鋼板類の厚さ　※表16.5.1　(16.5.4(a))

6. ステンレス製建具

ステンレス製建具の仕様（ステンレス鋼板厚さ・金物類他）　(16.6)
※標準仕様書16章6節ステンレス製建具　・図示
表面仕上げ　※図示　・　(16.6.4(d))(補14.2.1)
曲げ加工　※普通曲げ　(16.6.5(a)(1))
・角出し曲げ（・B角・C角）
外部に面するステンレス製建具の耐風圧性能　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。　(16.4.2(b))

7. 木製建具

建具材の加工、組立て時の含水率　・A種　※B種　・C種　(16.7.2(a))(表16.7.1)
フラッシュ戸
表面材の合板の種類、品質　※16.7.2(b)(1)による・　(16.7.2(b)(1))
合板のホルムアルデヒド放散量　※F ☆☆☆☆
表面板の厚さ　※表16.7.6による　・　(16.7.3(a)(2))(表16.7.6)
かまち戸の樹種　かまち　・　鏡板　・　(16.7.2(c)(1))
ふすま上張りの種類　・鳥の子　・新鳥の子程度又はビニル紙程度　(16.7.2(d))(表16.7.3)
縁　・カシュー　・生地　・　(16.7.4(c))(表16.7.9)

8. 建具用金物

金物の見掛かり部等の材質　※表16.8.1による・　(16.8.2(a))(表16.8.1)
金物の適用　※図示　・　(16.8.2(a))(表16.8.1)
樹脂製建具に使用する丁番　※表16.8.3　(16.8.2(h))
鍵 ⊙マスターキー　※製作する（3個／6組）・製作しない　(16.8.4(a))(補16.7.1)
⊙グランドマスターキー　⊙製作する（1個／3組）・製作しない
・
認定及び評価品　⊙BL　・防犯建物部品　・　・
鍵箱　※(補16.7.1)による

9. 自動ドア開閉装置

性能値　(16.9.2)(表16.9.1)(表16.9.2)

開閉方法	自動ドア開閉装置の性能値
※スライディングドア用	※表16.9.1による　・図示
・スイングドア用	※表16.9.2による　・図示

機構　(16.9.3)(表16.9.3)

開閉方法	センサの種類
※スライディングドア・スイングドア	・マットスイッチ　・多機能トイレスイッチ　・光線スイッチ ・音波スイッチ　・熱線スイッチ　・光電スイッチ ・タッチスイッチ　・ペダルスイッチ　・押ボタンスイッチ

寒冷地における凍結防止措置　※適用する　⊙適用しない　(16.9.3(f))

10. 自閉式上吊り引戸装置

性能値　※表16.10.1による　・　(16.10.3(b))

11. 重量シャッター

シャッターの種類　※図示　・　(16.11.2(a))
耐風圧性能　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。　(16.11.2(b))
開閉機構　※上部電動式（手動併用）・上部手動式　(16.11.2(c))(表16.11.1)
保護装置　※設ける　(16.11.2(d))
防火、防煙以外のシャッターケース　※設ける　・設けない　(16.11.2(f))
スラット及びシャッターケース用鋼板　・JIS G 3302　・JIS G 3312　(16.11.3(a))

12. 軽量シャッター

耐風圧性能　※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。　(16.12.2(b))
開閉機構　※手動式　・上部電動式（手動併用）　(16.12.2(c)(1))(表16.12.1)
スラット　材質　・JIS G 3312　・JIS G 3322　(16.12.3)
形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形　(16.12.4(b))
ガイドレール材料　※SUS304（厚さ1.5 mm　）・溶融亜鉛めっき鋼板　(16.12.4)

13. その他のシャッター

種類、材質、開閉機構　※図示　・

14. オーバーヘッドドア

セクション材料　※スチールタイプ　・アルミニウムタイプ　(16.13.2(a))
・ファイバーグラスタイプ
耐風圧性能(JIS A4715)※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。　(16.13.2(b))
開閉方式　※バランス式　・チェーン式　・電動式　(16.13.2(c))
収納形式　・スタンダード形　・ローヘッド形　(16.13.2(d))
・ハイリフト形　・バーチカル形
ガイドレール材料　※溶融亜鉛めっき鋼板　・SUS304　(16.13.3(b))

15. ガラス

・合わせガラス　(16.14.2(a)(4))

品　種	形　状	構成種類
※フロート合わせガラス	※平面合わせ ・曲面合わせ	・フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス
※網入磨き合わせガラス	※平面合わせ ・曲面合わせ	・網入磨き、フロート板合わせガラス ・網入磨き、熱線吸収合わせガラス

・強化ガラス　(16.14.2(a)(5))

材料板ガラスによる種類	形　状	種　類
※フロート強化ガラス	※平面強化 ・曲面強化	・フロート板強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス
・型板強化ガラス	・	・型板強化ガラス

・熱線吸収板ガラス　(16.14.2(a)(6))

品　種	色　調
※熱線吸収フロート板ガラス	・ブルー　・グレー　・ブロンズ　・グリーン
・熱線吸収網入磨き板ガラス	・グレー　・ブロンズ

・複層ガラス　(16.14.2(a)(7))

品　種	板ガラスの組み合わせ
・断熱複層ガラス ・日射熱遮へい複層ガラス	

・熱線反射ガラス　(16.14.2(a)(8))

材料板ガラスによる種類	種　類	反射皮膜面	色　調	映像調整
・熱線反射ガラス	・フロート板ガラス ・熱線吸収板ガラス	※内面 ・外面	・ブルー　・グレー ・ブロンズ　・シルバー	・行う ・行わない
・高性能熱線反射ガラス		※内面	・グリーン	

・倍強度ガラス　(16.14.2(a)(9))

材料板ガラスによる種類	色　調
・倍強度フロート板ガラス　・倍強度熱線吸収板ガラス	・ブルー　・グレー
・倍強度熱線反射ガラス　・倍強度高性能熱線反射ガラス	・ブロンズ

・ガラスブロック（※JIS A 5212による）　(16.14.5)

寸法　mm	色　調	パターン	防火認定
	・クリア・熱線反射 ・乳白　・カラー（　）		・防火設備 ・なし

その他上表以外の16.14.5による特記事項　・図示
・その他のガラス　※図示
ガラス留め材　(16.14.2(b))
※シーリング材：特記仕様書9.7による（適用箇所：　）
・ガスケット　：（適用箇所：　）
板ガラスをはめ込む溝の大きさ　※表16.14.1による　(16.14.3(a))(表16.14.1)
熱線反射ガラスの映像調整　・行う　・行わない　(16.14.4(b)(3))
網入りガラス等の小口処理　一般的建具　※16.14.4(e)(3)による　(16.14.4(a)(3))
トップライト　※全周研磨防錆塗装

⊙飛散防止フィルム貼り

厚さ　μ	貼付面	適用箇所
・	※内部用	・強化ガラス全て
・	・外部用	・

16. ガラスブロック積み

・材料　(16.14.5(a)(1))

表面形状（JIS A5212）	モジュール及び寸法による区分（長さ×高さ）		厚さによる区分
正方形	・125×125	・160×160	・80
	・200×200	・320×320	・95
長方形	・200×125	・320×160	・125

・品質等　(16.14.5(a)(2))

ガラスの種別	柄	目地色	金属枠	耐火性能
・一般ガラス ・乳白ガラス ・カラーガラス ・熱線反射ガラス	・無 ・有	・白 ・グレー	・アルミニウム製（表面処理：　） ・ステンレス製（表面仕上：　）	・規定なし ・30分耐火 ・1時間耐火

・力骨　材料　※SUS304　・　(16.14.5(a)(6))
※径　5.5mm　はしご形状複筋および単筋
・化粧目地モルタル　材料　※ガラスブロック製造場の指定するもの(16.14.5(a)(10))
・色　・
・シーリング材　※図示　(16.14.5(a)(11))
・金属製化粧カバー　材料　※図示　・　(16.14.5(a)(12))
寸法　※図示　・
形状　※図示　・

・工法　(16.14.5b（1）(2))

	目地幅	伸縮目地の設置	目地仕上げ
・平積み	※8mm以上15mm以下 ・図示	※6mm以下毎に幅10～25mm ・図示	※ガラスブロック製造所の仕様による。 ・図示
・曲面積み	※外側15mm以下、内側6mm以上		

17. 強化ガラスドア

指づめ防止スリット　・設ける　⊙設けない
衝突防止用目印　※設ける　・設けない
目印の材料　・シート両面貼付　・SUS304プレート　⊙図示

18. 防災建具

排煙窓の開閉方式　※図示　⊙煙感連動方式
・手動式オペレーター方式　⊙手動、自動併用方式
・固定式防煙たれ壁　材料　※図示　・網入り磨き板ガラス　・繰入り磨きガラス
寸法　※図示
・可動式防煙たれ壁　方式　※図示　・鉛直降下式　・回転式　・ロール式　(補16.13.2)
材料　本体　・鋼板　・アルミニウム板　(補16.13.3)
・ガラスクロス塩化ビニル皮膜（不燃認定品）
その他　・SUS304　・アルミニウム　・鋼製
機構　降下　・固定レール　・可動レール　(補16.13.4)
作動　※煙感連動　・
復旧　※手動　・電動

19. 性能試験

建具　(16.1.2)(補1.8.1(c)(7))

試験の方法	性能の区分	試験体の寸法	試験箇所
・耐風圧性能試験			
・気密性能試験			
・水密性能試験			
・遮音性能試験			
・断熱性能試験			
・耐露性能試験			

20. 基本性能

※建築工事特記仕様書（1）の設計気象条件による。

21. その他

※外壁同一面付き外部扉の上枠には水切りステンレス（SUS ⑦1.5 外壁面から40mm小口塞ぎ）を設ける

共通事項（下記事項は本工事に適用する。）

1．遮音扉　遮音性能を要求される扉の枠回りはモルタル充填とする。
2．外部扉　外部に面する扉の枠回りには、クロロプレンスポンジゴムを設ける。
3．外部ガラリ　特記なき限り防鳥網（20×20目程度）を設ける。
4．窓開口部　特記なき限り結露受けを設ける。
5．両開き戸　特記なき限り順位調整器を設ける。
6．ドアクローザー　防火防煙区画上の扉はストップ無し、その他はストップ付とする。
7．排煙オペレーター　特記なき限り配管及びボックスは埋込み型とする。
8．ガラリ　ガラリの幅が1.5mを超える場合、1.5m以内毎に離し方立を設ける。
9．防災建具　可動式防煙たれ壁は急激に落下しないように、ステイダンパー、ガバナー及びバランスウエイト等の緩衝装置を設け、降下後は圧力差2kg/㎡でも鉛直を保持すること。
10．以下同等品リスト
・カバー付点検口錠-ミワ：PCL01A　同等品
・押縁:UNION T51-01-024-A（L=2000以上），02930-51-691（L=600）　同等品
・レバーハンドル:ウエスト215L gg 同等品
・
11．防虫網　取り外し可能な仕様とする
12．衝突防止表示　衝突の恐れがあるガラス面には、衝突防止表示を設置する。

凡例

種別 番号 □□−□□　ただし、キープランは □□ 一種別 □□ 一番号

建具の種別と符号

符号	種別	符号	種別	符号	種別
AD	アルミニウム製扉	OD	オーバーヘッドドア	AG	アルミニウム製ガラリ
SD	鋼製扉	AW	アルミニウム製窓	SG	鋼製ガラリ
LSD	鋼製軽量扉	SW	鋼製窓	SSG	ステンレス製ガラリ
HD	自閉式上吊り引戸	SSW	ステンレス製窓	WG	木製ガラリ
SSD	ステンレス製扉	WW	木製窓	SSF	ステンレス製枠
WDS	木製扉（枠のみ鋼製）	SS	重量シャッター	SF	鋼製枠
F	襖	LSS	軽量シャッター	SLW	可動間仕切壁
S	障子	RSS	リングシャッター	SP	移動間仕切壁
TD	強化ガラス扉	SCS	スクリーンシャッター	ACD	アコーディオン建具

仕上げの種別と符号

符号	種別	符号	種別	符号	種別
A−1	アルミニウム A−1種	SOP	合成樹脂調合ペイント	B−AE	焼付形アクリル樹脂エナメル
A−2	アルミニウム A−2種	EP−G	つや有合成樹脂調合ペイント	B−UE	焼付形1液ウレタン樹脂エナメル
B−1	アルミニウム B−1種	CL	クリヤーラッカー	B-FE(F)	中温焼付形ふっ素樹脂エナメル(FEVE系)
B−2	アルミニウム B−2種	UC	ウレタン樹脂ワニス	B-FE(P)	高温焼付形ふっ素樹脂エナメル(PFVd系)
C−1	アルミニウム C−1種	OS	オイルステイン		
C−2	アルミニウム C−2種	2-ASE	アクリルシリコン樹脂エナメル		
D	アルミニウム D 種	2-FUE	常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル		
K−1	ステンレス鏡面仕上げ(No.7)	DP	耐候性塗料		
K−2	ステンレス鏡面仕上げ(No.8)				
BA	鏡面に近い光沢仕上げ				
HL	ステンレスヘアライン仕上げ				

建具の耐風圧性能の区分 （ Pa ）

等級	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6	S-7	S-8
対応値	800	1200	1600	2000	2400	2800	3600	U •

建具の遮音性能の区分 （等級線）

等級	T-1	T-2	T-3	T-4	T-5
対応値	25	30	35	40	U •

建具の気密性能の区分 （等級線）

等級	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
対応値	120	30	8	2	U •

建具の断熱性能の区分 （ m²・K/W ）

等級	H-1	H-2	H-3	H-4	H-5	H-6
対応値	0.215	0.246	0.287	0.344	0.430	U •

建具の水密性能の区分 （ Pa ）

等級	W-1	W-2	W-3	W-4	W-5	W-6
対応値	100	150	250	350	500	U •

建具の面内変形追随性能の区分 （ rad ）

等級	D1	D2	D3	D4
対応値	1/300	1/150	1/120	U •

重量シャッターの耐風圧性能（ Pa ）

軽量シャッターの耐風圧性能 （ Pa ）

オーバーヘッドドアーの耐風圧性能の区分（ Pa ）

等級	50	75	100	125	
対応値	500	750	1000	1250	U •

UはＪＩＳ規格を超えるものを示し、用いる場合は、数値を特記する。

扉の気密性能・遮音性能

符号	種別	通気量 （等級線）	透過損失 （dBA（※500HZ• ）
PAT	完全エアタイト	V< 2 (A-4等級線)	•35以上 • •気密性のみ
AT	エアタイト	(A-4等級線) 2≦V< 8 (A-3等級線)	※30以上 • •気密性のみ
SAT	セミエアタイト	(A-3等級線) 8≦V<30 (A-3等級線)	※25以上 • •気密性のみ

ガラスの種別と符号

符号	種別	符号	種別	符号	種別
FL	フロート板ガラス	H	熱線吸収板ガラス	T	強化ガラス
F	型板ガラス	HW	熱線吸収網入り磨き板ガラス	L	合わせガラス
PW	網入り磨き板ガラス	HWL	熱線吸収線入り板ガラス	A	複層ガラス
PWL	線入り磨き板ガラス	R	熱線反射ガラス	HS	倍強度ガラス
FW	網入り型板ガラス	HR	高性能熱線反射ガラス	TP	耐熱強化ガラス
FWL	線入り型板ガラス	RH	熱線吸収反射板ガラス		

くつずりの形状と符号

符号	B1	B2	B3	B4	B5
形状				t=6以上 t=6以上	
	(mm)	(mm)			

ガラリの形状と符号

符号	G1	G2	G3	G4	G5	G6
形状						

形態

形式	D11(片開き戸)	D12(片開き戸,ガラス入り)	D13(片開き戸,ガラリ付)	D14(片開き戸,ガラス,ガラリ)
姿図	H	(ガラス記入)	(ガラリ記入)	(ガラス,ガラリ記入)

形式	D21(親子開き戸)	D22(親子開き戸,ガラス入り)	D23(親子開き戸,ガラリ付)	D24(親子開き戸,ガラス,ガラリ)
姿図	H	(ガラス記入)	(ガラリ記入)	(ガラス,ガラリ記入)

形式	D31(両開き戸)	D32(両開き戸,ガラス入り)	D33(両開き戸,ガラリ付)	D34(両開き戸,ガラス,ガラリ)
姿図	H	(ガラス記入)	(ガラリ記入)	(ガラス,ガラリ記入)

形式	D41(片引き戸)	D42(引き違い戸)	D43(引き分け戸)	
姿図	H			

形式	D51(埋込み式片開き戸)	D52(埋込み式両開き戸)	S11(シャッター)	S12(シャッター,くぐり戸付)
姿図	H		H	

形式	W11(引き違い窓)	W12(片引き窓)	W13(はめ殺し窓)	W14(片開き窓)
姿図	H	FIX	FIX	

形式	W15(たて軸回転窓)	W16(横軸回転窓)	W17(すべり出し窓)	W18(突出し窓)
姿図	H	H		

形式	W19(内倒し窓)	W20(外倒し窓)
姿図	H	

金物の種類と符号

	符号	種類		符号	種類		符号	種類
支持金物	HH	丁番	操作金物	NB	握り玉（ステンレス製）	その他	DS	戸当り
	HH(B)	特殊丁番(BEST NO182同等)		NB( )	握り玉（ ）製		DS(F)	戸当り フック付
	FH	フロアヒンジ		LH	レバーハンドル		DS( )	戸当り
	AH	オートヒンジ			アルミニウム合金製		OPL	排煙用オペレーター
	PH	ピボットヒンジ		LH(W)	レバーハンドル		M	マグネットセンサー
	NH( )	軸吊りヒンジ			（ｳｴｽﾄ 215L gg 同等）		HP	ホース通過口
	NH	軸吊りヒンジ自閉装置付		CH	ケースハンドル		L1	施解錠表示付
		（スプリングヒンジ）		PP( )	押板、引き手		AS	付属金物一式
	HAH	ヒンジクローザー丁番形			（ ）製			
	PAH	ヒンジクローザーピボット形		XP( )	堀込み引き手			
		（ピボットオートヒンジ）			（ ）製			
				SH	特殊ハンドル			
					（図示）			
錠	ML	シリンダーモノロック	開閉調整	DC	ドアクローザー			
	DML	本錠付モノロック		CDC	ドアクローザー(隠蔽型)			
	DL	シリンダー本錠錠		DC(S)	ドアクローザー(煙感知器連動)			
	CL( )	シリンダー箱錠(ケースロック)		DC(F)	ドアクローザー(ヒューズ付)			
	CL	特殊シリンダー箱錠		MS	アームストッパー			
		（ 錠）		FR	フランス落し			
	OM	空錠			（ ）製			
	PL	引き戸錠		Z	閉鎖順位調整器			
	GL	グレモン錠		WS	ワイヤーストッパー			
	HL	点検口錠(平面ハンドル錠)						
	EL	電気錠						
	BH	非常錠						
	HL(T)	点検口錠(ｾﾝ: PCL01A 同等)						

扉の金物の組み合わせと符号

符号	扉の種類	支持金物	錠	操作金物	開閉調整	その他
K1	常時閉鎖式防火戸（片開き戸）	PAH	DL	LH(W)	DC	DS,AS
K2	常時閉鎖式防火戸（両開き戸）	PAH	DL	LH(W)	DC, Z	DS,AS
K3	随時閉鎖式防火戸（片開き戸）					
K4	随時閉鎖式防火戸（両開き戸）					
K5	防火戸以外の片開き戸（内部）					
K6	防火戸以外の両開き戸（内部）					
K7	外部片開き戸	PH	DL	LH(W)	DC	DS,AS
K8	外部両開き戸	PH	DL	LH(W)	DC, Z	DS,AS
K9	自動扉					
K10	防音扉					
K11	耐震扉					
K12						
K13						
K14						
K15						

法規則（特定防火設備及び防火設備の種類と符号） ※平成17年国土交通省告示1392号

符号	種類	符号	種類
特1	特定防火設備（常時閉鎖扉,令112条第14項一号適合）	網	防火設備（網入ガラス）
特2	特定防火設備（常時閉鎖扉,令112条第14項第二号適合）	耐	防火設備（耐熱強化ガラス）
特1	特定防火設備（随時閉鎖式扉,煙又は熱感知器連動、令112条第14項一号適合）	不	自閉式不燃扉
特2	特定防火設備（随時閉鎖式扉,煙感知器連動、令112条第14項二号適合）		
防1	防火設備（常時閉鎖扉,令112条第14項一号適合）		
防2	防火設備（常時閉鎖扉,令112条第14項二号適合）		
防S	防火設備（随時閉鎖式扉,煙感知器連動,令112条第14項）		
防T	防火設備（随時閉鎖式扉,煙又は熱感知器連動、令112条第14項）		
SS	特定防火設備（随時閉鎖式ｼｬｯﾀｰ、煙又は熱感知器連動、令112条第14項一号適合）		
SS	特定防火設備（随時閉鎖式ｼｬｯﾀｰ、煙感知器連動、令112条第14項二号適合）		

種別番号 個数	SLW 01 別紙詳細参照 1 箇所	SLW 02 別紙詳細参照 1 箇所
取付け場所・法規	1階 多目的室	1階 会議室①
姿図	別図 詳細図参照	別図 詳細図参照
建具寸法		
仕上げ・性能		
ガラス(種類・性能)		
取合（形状・材種仕上げ）	水切 / 議板 / 額縁 / (くつずり)	
ガラリ形状有効率H仕上げ		
金物		
備考		

種別番号 個数	SLW 03 別紙詳細参照 1 箇所	SLW 04 別紙詳細参照 1 箇所
取付け場所・法規	1階 メインアリーナ	1階 メインアリーナ
姿図	別図 詳細図参照	別図 詳細図参照
建具寸法		
仕上げ・性能		
ガラス(種類・性能)		
取合（形状・材種仕上げ）	水切 / 議板 / 額縁 / (くつずり)	
ガラリ形状有効率H仕上げ		
金物		
備考		

種別番号 個数		
取付け場所・法規		
姿図		
建具寸法		
仕上げ・性能		
ガラス(種類・性能)		
取合（形状・材種仕上げ）	水切 / 議板 / 額縁 / (くつずり)	
ガラリ形状有効率H仕上げ		
金物		
備考		

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

建具表（1）

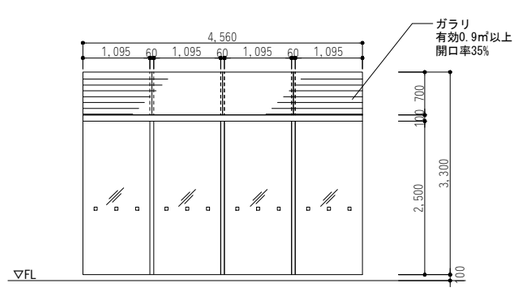
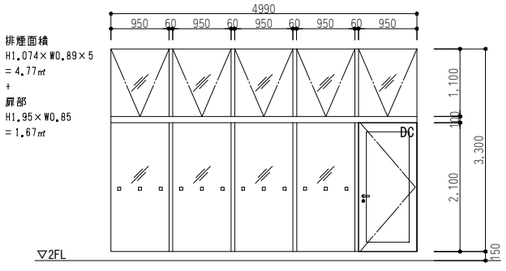
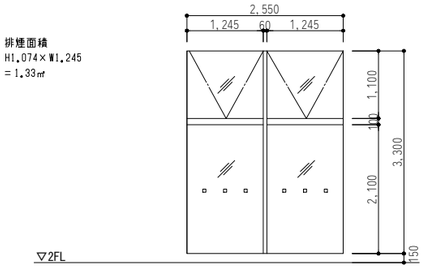
設計番号 16779

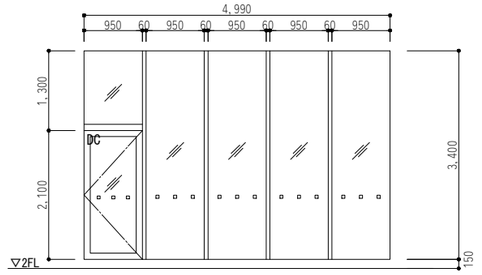
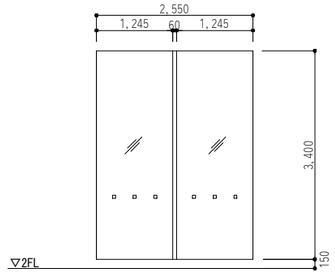
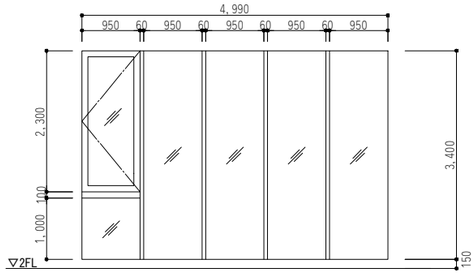
縮尺 1/A1:50 A3:100

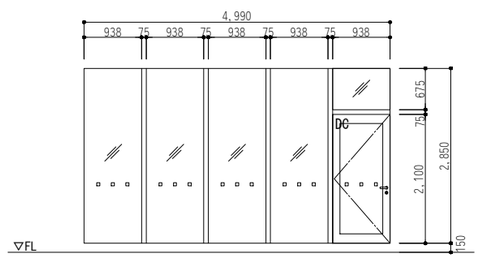
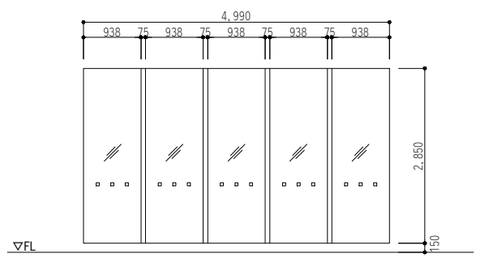
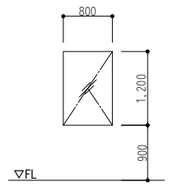
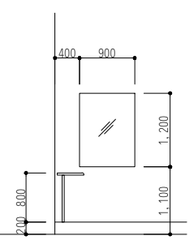
日付 2019・11・15

図面番号 A − 081

改訂：2016.09.01

種別番号 個数	ACW 01 別紙詳細参照	1 箇所	ACW 02	1 箇所	ACW 04	3 箇所	ACW 05	1 箇所
取付け場所・法規	１階 ロビー、２階 トレーニングルーム		１階 会議室②		２階 弓道場		２階 弓道場	
姿　図	別図　詳細図参照 ・方立割は平面詳細図参照 ・姿図は立面図参照 ・詳細は建具詳細図参照						
建具寸法			4,560　× 3,300　×　60　× 100		4,990　× 3,300　×　60　× 100		2,550　× 3,300　×　60　× 100	
仕上げ・性　能			B-2、T-2		B-2		B-2	
ガラス(種類・性能)			L-10:T5+T5		L-10:T5+T5		L-10:T5+T5	
取合（形状・材種 仕上げ） 水切			AL		AL		AL	
額縁			ST		ST		ST	
くつずり			ST		ST		ST	
			-		B-4		-	
ガラリ形状有効率H仕上げ			G2,SUS防虫網、ダクト受け		-		***	
金　物			AS		AS,DC,LH(W),DS(床付け),DL,HH		AS	
備　考			CH2600、階高5,100		電動排煙オペレーター、自然換気システム		電動排煙オペレーター、自然換気システム	

種別番号 個数	ACW 06 ※反転	2 箇所	ACW 07	1 箇所	ACW 08	9 箇所		箇所
取付け場所・法規	メインアリーナ		メインアリーナ		メインアリーナ			
姿　図								
建具寸法	5,120　× 3,400　×　60　× 100		2,630　× 3,400　×　60　× 100		5,120　× 3,400　×　60　× 100		×　×　×	
仕上げ・性　能	B-2		B-2		-			
ガラス(種類・性能)	L-10:T5+T5		L-10:T5+T5		L-10:T5+T5			
取合（形状・材種 仕上げ） 水切	AL		AL		AL			
額縁	ST		ST		ST			
くつずり	B-4		-		-			
ガラリ形状有効率H仕上げ	-		-		-			
金　物	AS,DC,LH(W),DS(床付け),DL,HH		AS		AS			
備　考	-		-		縦スベり出窓（開放制限付）、網戸			

種別番号 個数	A(W) 01 ※反転	4 箇所	A(W) 01'	2 箇所	A(W) 02	2 箇所	A(W) 03	1 箇所
取付け場所・法規	１階 多目的ホール		１階 多目的ホール		１階 控室①②		２階 審判席	
姿　図								
建具寸法	4,990　× 2,850　×　75　× 100		4,990　× 2,850　×　75　× 100		800　× 1,200　× D 1　×　70		900　× 1,200　× D 1　×　70	
仕上げ・性　能	B-2、T-2		B-2、T-2		B-2		B-2	
ガラス(種類・性能)	L-10:T5+T5		L-10:T5+T5		FL5+A+FL5		L-10:FL5+FL5	
取合（形状・材種 仕上げ） 水切	AL		AL		AL		AL	
額縁	ST		ST		ST		ST	
くつずり	B-4		B-4		-		-	
ガラリ形状有効率H仕上げ	-		-		-		-	
金　物	AS,DC,LH(W),DS(床付け),DL,HH		AS		AS		AS	
備　考	-		-		縦スベり出窓、網戸		-	

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

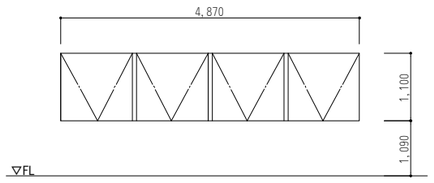
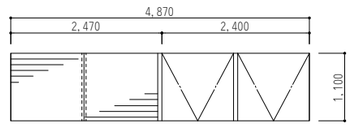
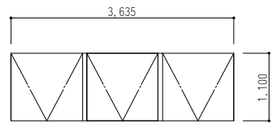
建具表（２）

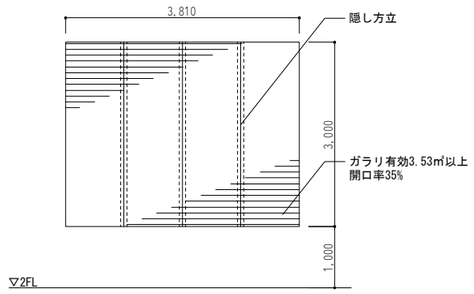
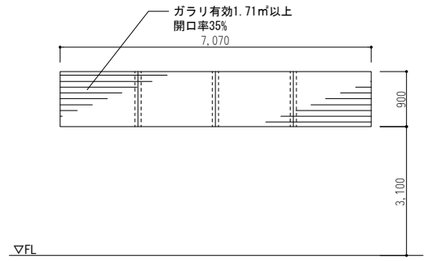
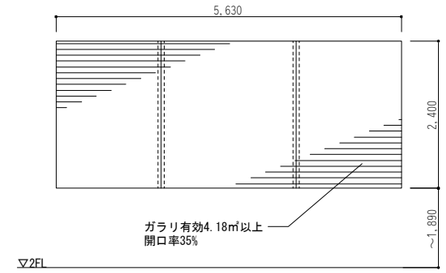
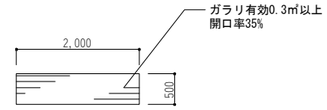
設計番号 16779

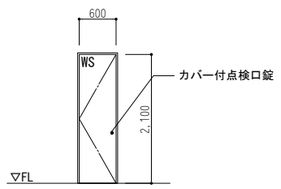
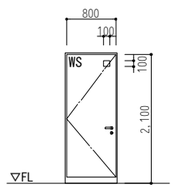
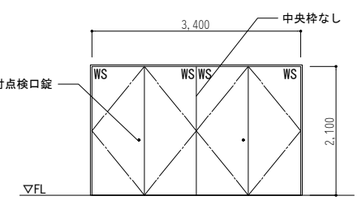
図面番号 A — 082

縮尺 1/A1:50 A3:100

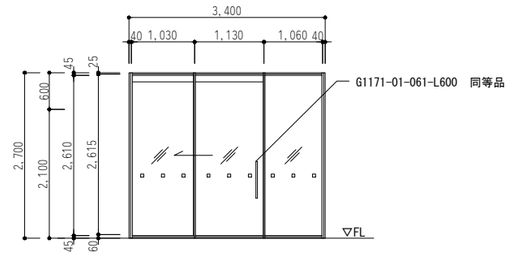
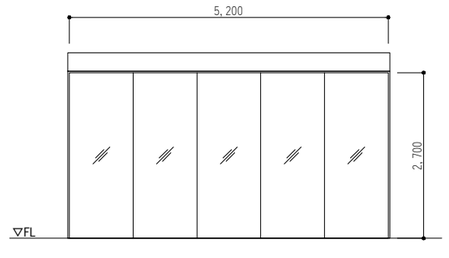
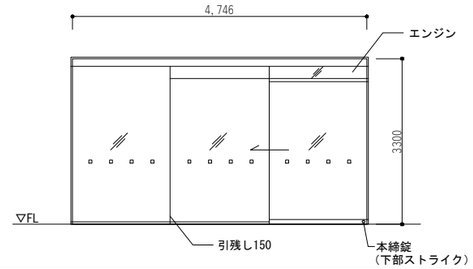
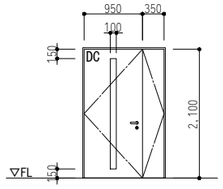
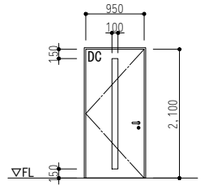
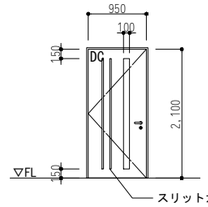
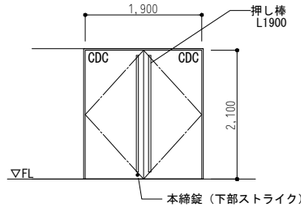
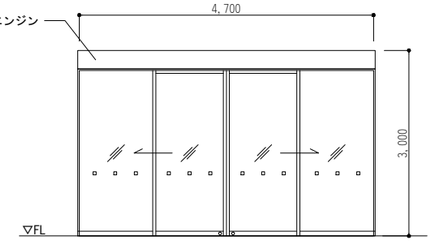
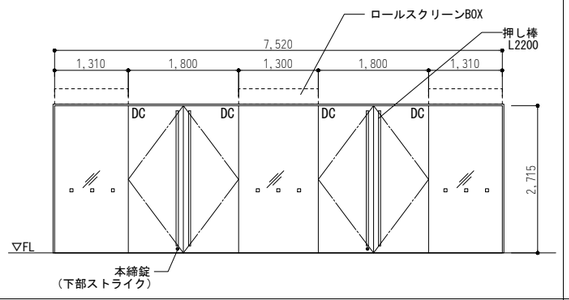
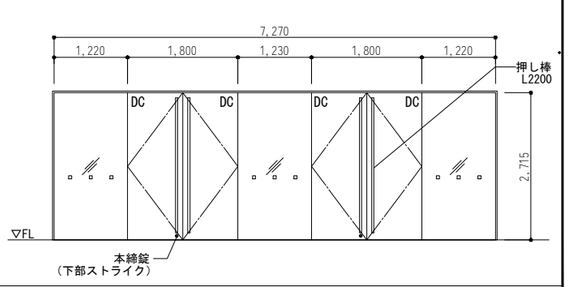
日付 2019・11・15

種別番号 個数	AW 04	15 箇所	AW 05 ※反転	2 箇所	AW 06	1 箇所	ACD 01 別紙詳細参照	1 箇所
取付け場所・法規	メインアリーナ上部		メインアリーナ上部		メインアリーナ上部		射場	
姿　図	排煙面積(有効) W1,105×H1,074×4 ＝4.74㎡ 		排煙面積(有効) W1,105×H1,074×2 ＝2.37㎡ 		排煙面積(有効) W1,105×H1,074×3 ＝3.56㎡ 		別図　詳細図参照	
建具寸法	4,870 × 1,100 × 70 × 70		4,870 × 1,100 × 70 × 70		3,635 × 1,100 × 70 × 70		× × ×	
仕上げ・性　能	B-2		B-2		B-2			
ガラス(種類・性能)	FL5+A+FL5		FL5+A+FL5		FL5+A+FL5			
取合（形状・材種 仕上げ）	水切 AL 議板 – 額縁 – くつずり –		AL – – –		AL – – –			
ガラリ形状有効率H仕上げ	–		G2,SUS防虫網		G2			
金　物	AS		AS、ダクト受け、SUS防虫網		AS			
備　考	電動排煙オペレーター、自然換気システム、光触媒（ガラスシールはIB-2）		電動排煙オペレーター、自然換気システム、光触媒（ガラスシールはIB-2）		電動排煙オペレーター、自然換気システム、光触媒（ガラスシールはIB-2）			

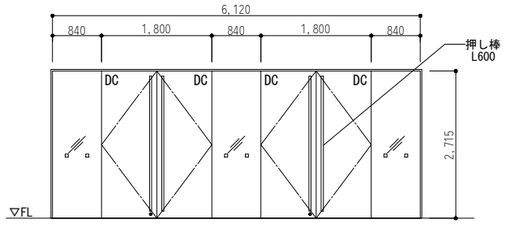
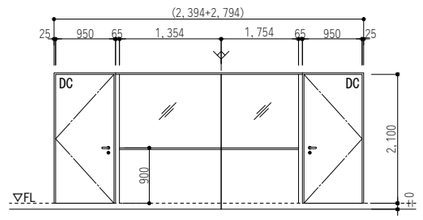
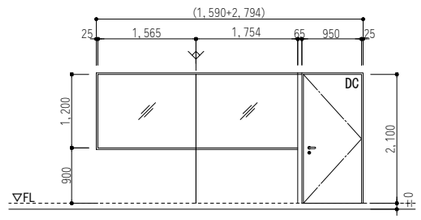
種別番号 個数	AG 01	1 箇所	AG 02	1 箇所	AG 03	3 箇所	AG 04	6 箇所
取付け場所・法規	1階 機械室③		1階 機械室③		1階 機械室①、2階 DS		屋上ハト小屋、メインアリーナ上部	
姿　図								
建具寸法	3,810 × 3,000 × D1 × 100		7,070 × 900 × D1 × 70		5,630 × 2,400 × D1 × 100		2,000 × 500 × D1 × 70	
仕上げ・性　能	B2		B-2		B-2		B-2	
ガラス(種類・性能)	–		–		–		–	
取合（形状・材種 仕上げ）	水切 AL 議板 – 額縁 – くつずり B2		AL – – –		AL – – –		AL – – –	
ガラリ形状有効率H仕上げ	G2		G2		G2		G2	
金　物	AS、ダクト受け、SUS防虫網		AS、ダクト受け、SUS防虫網		AS、ダクト受け、SUS防虫網		AS、ダクト受け、SUS防虫網	
備　考	–		–		–		–	

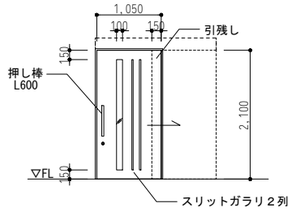
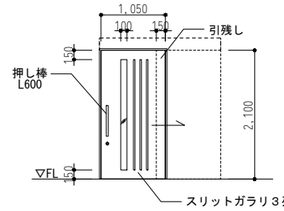
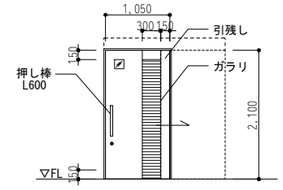
種別番号 個数	SD M01	36 箇所	SD M02	4 箇所	SD M03 別紙詳細参照	4 箇所		箇所
取付け場所・法規	1階2階 PS等		1階2階 SK、2階 階段前室		1階2階 EPS			
姿　図	☆:1箇所 							
建具寸法	600 × 2,100 × D1 × D2		800 × 2,100 × D1 × D2		3,400 × 2,100 × D1 × D2			
仕上げ・性　能	SOP		SOP		SOP			
ガラス(種類・性能)	–		FR-5		–			
取合（形状・材種 仕上げ）	水切 – 議板 – 額縁 – くつずり B2		– – – –		– – – B2			
ガラリ形状有効率H仕上げ	–		–		–			
金　物	HL(T),WS,HH(B),AS		LH(W),WS,HH(B),カムロック,AS		HL(T),WS,HH(B),WS,AS			
備　考	FB枠又はつぶし枠　☆付は仕上げ材増貼り（扉埋込）※仕上材は建具周囲と同仕上げとする。		FB枠又はつぶし枠、アンダーカット		FB枠又はつぶし枠			

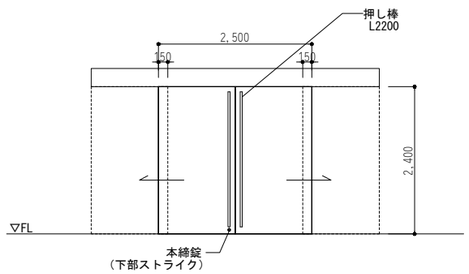
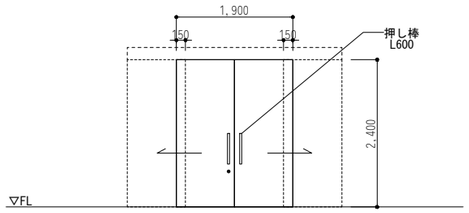
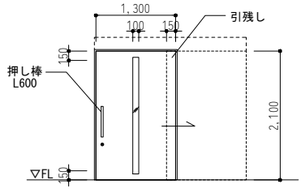
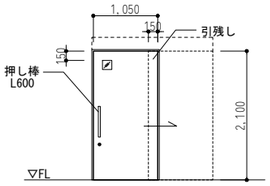
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 083
			一級建築士 第280187号 中川 幸	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		建具表（3）	縮尺 1/50 A3:1/100	日付 2019・11・15

種別番号 個数	SP 01 別紙詳細参照 1 箇所	SP 02 1 箇所	GD 01 ※反転 別紙詳細参照 2 箇所	箇所
取付け場所・法規	２階 トレーニングルーム	２階 トレーニングルーム	１階 風除室①	
姿 図				
建具寸法	3,400 × 2,700 × Ｄ１ × Ｄ２	5,200 × 2,700 × Ｄ１ × Ｄ２	4,746 × 3,300 × Ｄ１ × Ｄ２	× × ×
仕上げ・性 能	焼付塗装（メーカー仕様）	焼付塗装（メーカー仕様）	－	
ガラス(種類・性能)	L-10:T5+T5	L-10:T5+T5	L18:T10+T8、T5（可動部）+飛散防止フィルム	
取合（形状・材種 仕上げ） 水切	－	－	－	
額縁	－	－	－	
くつずり	B1	－	－	
ガラリ形状有効率H仕上げ	－	－	－	
金 物	半自動吊金物, FR, SH, AS	AS	AS, DL	
備 考	遮音タイプ	遮音タイプ	自動ドア装置一式、パニックオーブン、センサー式	
種別番号 個数	LSD 01 7 箇所	LSD 02 別紙詳細参照 4 箇所	LSD 03 別紙詳細参照 5 箇所	LSD 04 1 箇所
取付け場所・法規	１階 会議室②、事務室、清掃員室、応接室、控室①②③	１階 事務室、２階 弓道場	１階 男子女子WC②、授乳室、２階 弓道更衣室①②	１階 多目的ホール
姿 図				
建具寸法	1,300 × 2,100 × Ｄ１ × Ｄ２	950 × 2,100 × Ｄ１ × Ｄ２	950 × 2,100 × Ｄ１ × Ｄ２	1,900 × 2,100 × Ｄ１ × Ｄ２
仕上げ・性 能	SOP、SAT	SOP、SAT	SOP、SAT	SOP、T-2
ガラス(種類・性能)	FR-6	FR-6	FR-6	－
取合（形状・材種 仕上げ） 水切	－	－	－	－
額縁	－	－	－	－
くつずり	B1	B1	B1	－
ガラリ形状有効率H仕上げ	－	－	縦型スリットガラス	－
金 物	DS, LH(W), DS(床付け), Z, AS	DC, LH(W), DS(床付け), AS	DC, LH(W), DS(床付け), AS	CDC, めし合わせタイト, ボトムタイト, 押棒, PH, DL, DS(床付け), AS
備 考	FB枠又はつぶし枠	FB枠又はつぶし枠	FB枠又はつぶし枠	FB枠又はつぶし枠
種別番号 個数	SSD 01 箇所	SSD 02 別紙詳細参照 2 箇所	SSD 03 別紙詳細参照 2 箇所	SSD 04 別紙詳細参照 2 箇所
取付け場所・法規		１階 風除室②	２階 ジョギングスペース	２階 風除室③
姿 図				
建具寸法	× × ×	4,700 × 3,000 × Ｄ１ × Ｄ２	7,520 × 2,715 × Ｄ１ × Ｄ２	7,270 × 2,715 × Ｄ１ × Ｄ２
仕上げ・性 能		HL、SAT	バイブレーション、SAT	バイブレーション、ST
ガラス(種類・性能)		L10:T5+T5	L10:T5+T5	L10:T5+T5
取合（形状・材種 仕上げ） 水切		－	－	－
額縁		－	－	－
くつずり		－	－	－
ガラリ形状有効率H仕上げ		－	－	
金 物		AS, DL	CDC, DL, PH, DS(床付け), 押棒, AS	CDC, DL, PH, DS(床付け), 押棒, AS
備 考		自動ドア装置一式、パニックオーブン、センサー式	扉部フラッシュ	扉部フラッシュ

| | | |

種別番号 個数	SSD 05 別紙詳細参照	2 箇所	SSD 06 別紙詳細参照	1 箇所	SSD 07	1 箇所	箇所
取付け場所・法規	２階 風除室④		２階 看的室①		２階 看的室②		
姿　図						
建具寸法	6,120　× 2,715　× Ｄ１　× Ｄ２		(2,394+2,794) × 2,100　× Ｄ１　× 270		(2,794+1,590) × 2,100　× Ｄ１　× 270		×　×　×
仕上げ・性　能	バイブレーション、ST		バフ、SAT		バフ、SAT		
ガラス(種類・性能)	L10:T5+T5		L10:T5+T5		L10:T5+T5		
取合（形状・材種 仕上げ）	水切 – 建具 – 額縁 – くつずり –		SUS SUS SUS B3		SUS SUS SUS B3		
ガラリ形状有効率H仕上げ	–		–		–		
金　物	CDC, DL, PH, DS(床付け), 押棒, AS		DC, LH, DL, HH, AS		DC, LH, DL, HH, AS		
備　考	扉部フラッシュ		扉部フラッシュ		扉部フラッシュ		

種別番号 個数	HD 01	3 箇所	HD 02	2 箇所	HD 03	4 箇所	箇所
取付け場所・法規	１階２階 HCWC		１階 男子女子更衣室		１階 男子女子更衣室、多目的更衣室、多目的シャワー室		
姿　図							
建具寸法	1,050　× 2,100　× Ｄ１　× Ｄ２		1,050　× 2,100　× Ｄ１　× Ｄ２		1,050　× 2,100　× Ｄ１　× Ｄ２		×　×　×
仕上げ・性　能	SOP		SOP		SOP		
ガラス(種類・性能)	FR-6		FR-6		FR-5		
取合（形状・材種 仕上げ）	水切 – 建具 – 額縁 – くつずり B1		– – – B1		– – – B2		
ガラリ形状有効率H仕上げ	縦型スリットガラリ		縦型スリットガラリ		G4		
金　物	半自動吊金物, DL, 押棒, AS		半自動吊金物, DL, 押棒, AS		半自動吊金物, DL, 押棒, AS		
備　考							

種別番号 個数	HD 04	1 箇所	HD 05	2 箇所	HD 06	2 箇所	HD 07	1 箇所
取付け場所・法規	１階 多目的ホール		１階 多目的室		２階 ロビー、控室④		２階 弓道更衣室	
姿　図								
建具寸法	2,500　× 2,400　× Ｄ１　× Ｄ２		1,900　× 2,400　× Ｄ１　× Ｄ２		1,300　× 2,100　× Ｄ１　× Ｄ２		1,050　× 2,100　× Ｄ１　× Ｄ２	
仕上げ・性　能	SOP		SOP		SOP		SOP	
ガラス(種類・性能)	–		–		FR-6		FR-5	
取合（形状・材種 仕上げ）	水切 – 建具 – 額縁 – くつずり B1		– – – B1		– – – B1		– – – B1	
ガラリ形状有効率H仕上げ	–		–		–		–	
金　物	半自動吊金物, DL, 押棒, AS		半自動吊金物, DL, 押棒, AS		半自動吊金物, DL, 押棒, AS		半自動吊金物, DL, 押棒, AS	
備　考								

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

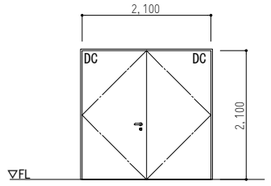
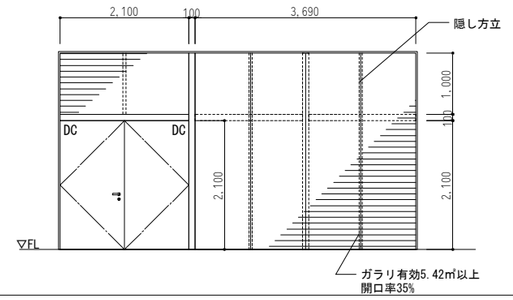
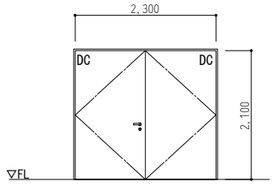
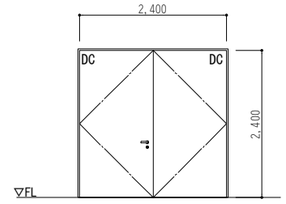
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

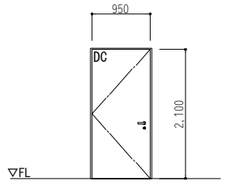
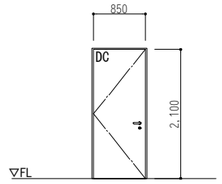
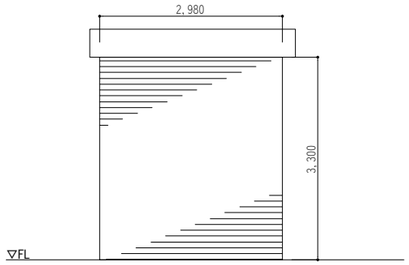
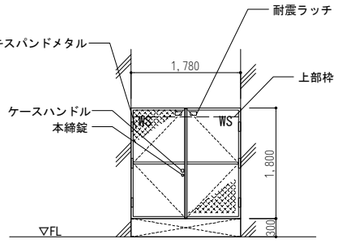
設計者					法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号			第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子		能栗 夏子	

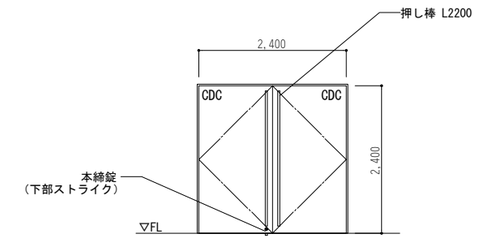
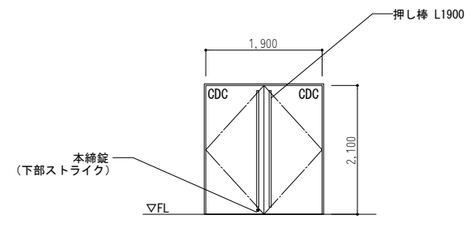
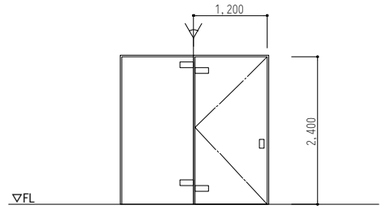
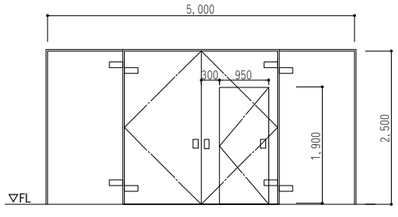
飯塚市新体育館等建設工事

建具表（５）

設計番号	図面番号
16779	A — 085
縮尺 1/A1:50 A3:100	日付 2019・11・15

種別番号 個数	SD2/01 別紙詳細参照 4 箇所	SD2/02 別紙詳細参照 1 箇所	SD2/03 4 箇所	SD2/04 1 箇所
取付け場所・法規	1階 備蓄庫、機械室①③④	1階 機械室②	1階 メインアリーナ、大会本部スペース	1階 器具庫①
姿 図				
建具寸法	2,100 × 2,100 × D1 × D2	5,890 × 3,200 × D1 × D2	2,300 × 2,100 × D1 × D2	2,400 × 2,400 × D1 × D2
仕上げ・性 能	DP、SAT	DP、SAT	DP、SAT	DP、SAT
ガラス(種類・性能)	–	–	–	–
取合（形状・材種仕上げ） 水切	–	–	–	–
額板	–	–	–	–
額縁	–	–	–	–
くつずり	SUS,B-4	SUS,B-4	SUS,B-4	SUS,B-4
ガラリ形状有効率H仕上げ	–	G2,SUS防虫網、ダクト受け	–	–
金 物	K8	K8	K8	K8
備 考				

種別番号 個数	SD2/05 5 箇所	SD2/06 3 箇所	SS/01 別紙詳細参照 1 箇所	SD2/07 1 箇所
取付け場所・法規	1階 通路②、2階 弓道場、PH階 階段室①、多目的ホール2階	2階 看的室、屋上	1階 共用通路① Ⓢ	2階 室外機置場
姿 図				
建具寸法	950 × 2,100 × D1 × D2	850 × 2,100 × D1 × D2	2,980 × 3,300 × D1 × D2	1,780 × 1,800 × D1 × D2
仕上げ・性 能	DP、SAT	DP、SAT	SOP,(スラットはサビ止め塗装グレー)	DP
ガラス(種類・性能)	–	–	–	–
取合（形状・材種仕上げ） 水切	–	–	–	–
額板	–	–	–	–
額縁	–	–	–	–
くつずり	SUS,B-4	SUS,B-4	–	–
ガラリ形状有効率H仕上げ	–	–	–	–
金 物	K7	K7	AS	ケースハンドル,耐震ラッチ,DL,PAH,AS
備 考			露出天井内全て塗装	

種別番号 個数	SD/01 別紙詳細参照 2 箇所	SD/02 4 箇所	SD/03 2 箇所	SD/04 1 箇所
取付け場所・法規	1階 メインアリーナ 特2	1階 メインアリーナ、通路④、2階 ロビー② 特2	2階 メインアリーナ 特2	1階 通路④ 特2
姿 図				
建具寸法	2,400 × 2,400 × D1 × D2	1,900 × 2,100 × D1 × D2	1,200 × 2,400 × D1 × D2	5,000 × 2,500 × D1 × D2
仕上げ・性 能	SOP,T-2	SOP,T-2	SOP	SOP
ガラス(種類・性能)	–	–	–	–
取合（形状・材種仕上げ） 水切	–	–	–	–
額板	–	–	–	–
額縁	–	–	–	–
くつずり	B-1	B-1	–	–
ガラリ形状有効率H仕上げ	–	–	–	–
金 物	CDC,めし合わせタイト,ボトムタイト,押棒,PH,Z,DL,DS(床付け),AS	CDC,めし合わせタイト,ボトムタイト,押棒,PH,Z,DL,DS(床付け),AS	堀込引手(ユニオンULS302-B同等品),AH,AS	堀込引手(ユニオンULS302-B同等品),AH,Z,AS
備 考			随時閉鎖式防火戸、FB枠またはつぶし枠	随時閉鎖式防火戸、潜戸下框なし、FB枠またはつぶし枠

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

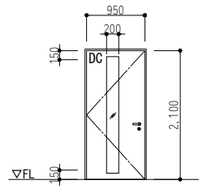
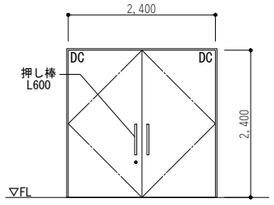
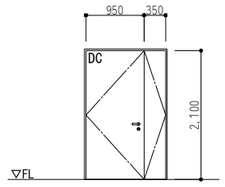
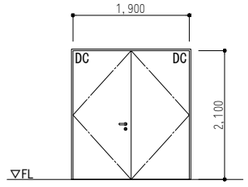
株式会社 梓設計 九州支社

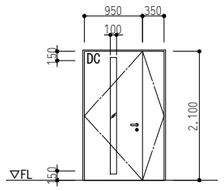
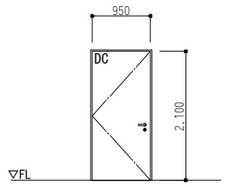
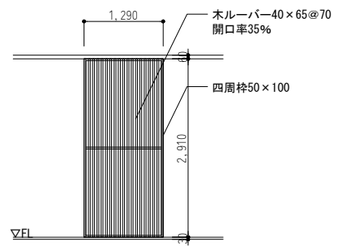
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

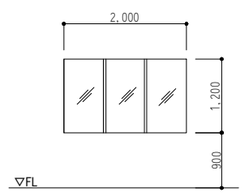
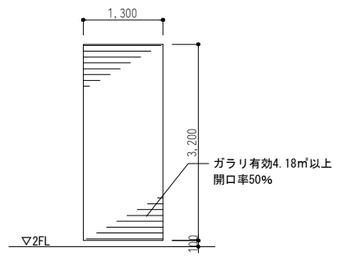
設計者

一級建築士	一級建築士	一級建築士		法適合確認欄	検証者
第280187号	第336677号	第336801号		設備設計一級建築士 第5496号	
中川 幸	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 086
建具表（6）	縮尺 1/50 A3:1/100	日付 2019・11・15

種別番号 個数	SD 05 別紙詳細参照 7 箇所	SD 06 4 箇所	SD 07 3 箇所	SD 08 3 箇所
取付け場所・法規	1階 会議室①、通路①②、2階 階段前室 特2	1階 器具庫①、備蓄庫 特2	1階 通路①② 特2	1階 器具庫②
姿　図				
建具寸法	950 × 2,100 × D1 × D2	2,400 × 2,400 × D1 × D2	1,300 × 2,100 × D1 × D2	1,900 × 2,100 × D1 × D2
仕上げ・性　能	SAT, SOP	SAT、SOP	SAT, SOP	SAT, SOP
ガラス(種類・性能)	TT-8(フィルム貼)	–	–	–
取合（形状・材種 仕上げ） 水切	–	–	–	–
取合（形状・材種 仕上げ） 議板	–	–	–	–
取合（形状・材種 仕上げ） 額縁	–	–	–	–
取合（形状・材種 仕上げ） くつり	–	–	–	–
ガラリ形状有効率H仕上げ	–	–	–	–
金　物	DC, LH(W), DL, HH	DC, 押棒, DL, DS(床付け), Z, PH, AS	DC, LH(W), DL, DS(床付け), Z, PH, AS	DC, LH(W), DL, DS(床付け), Z, PH, AS
備　考				

種別番号 個数	SD 09 4 箇所	SD 10 3 箇所	WD 01 24 箇所	箇所
取付け場所・法規	1階 会議室①、医務室、放送室	1階 多目的室、機械室②③ 特2	1階 メインアリーナ	
姿　図		☆:2箇所 		
建具寸法	1,300 × 2,100 × D1 × D2	950 × 2,100 × D1 × D2	1290 × 3,000 × D1 × D2	× × ×
仕上げ・性　能	SOP, T-2	SOP, T-2	クリアラッカー、タモ集成材	
ガラス(種類・性能)	防音合せガラス L-10:T5+T5	–	–	
取合（形状・材種 仕上げ） 水切	–	–	–	
取合（形状・材種 仕上げ） 議板	–	–	–	
取合（形状・材種 仕上げ） 額縁	–	–	–	
取合（形状・材種 仕上げ） くつり	–	–	–	
ガラリ形状有効率H仕上げ	***	***	***	
金　物	DC, LH(W), DL, DS(床付け), Z, AS	DC, LH(W), DL, DS(床付け), AS	–	
備　考		☆付は木毛セメント板増貼り（扉埋込）	ケンドン式建具	

種別番号 個数	SW 01 1 箇所	SG 01 4 箇所	箇所	箇所
取付け場所・法規	1階 放送室 特2	メインアリーナ観客席部		
姿　図				
建具寸法	2,000 × 1,200 × – × –	1,300 × 3,200 × D1 × D2	× × ×	× × ×
仕上げ・性　能	SOP	SOP		
ガラス(種類・性能)	TT-8	–		
取合（形状・材種 仕上げ） 水切	–	–		
取合（形状・材種 仕上げ） 議板	–	–		
取合（形状・材種 仕上げ） 額縁	–	–		
取合（形状・材種 仕上げ） くつり	–	–		
ガラリ形状有効率H仕上げ	–	–		
金　物	AS	AS		
備　考	FB四方枠付	FB四方枠付		

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

建具表（7）

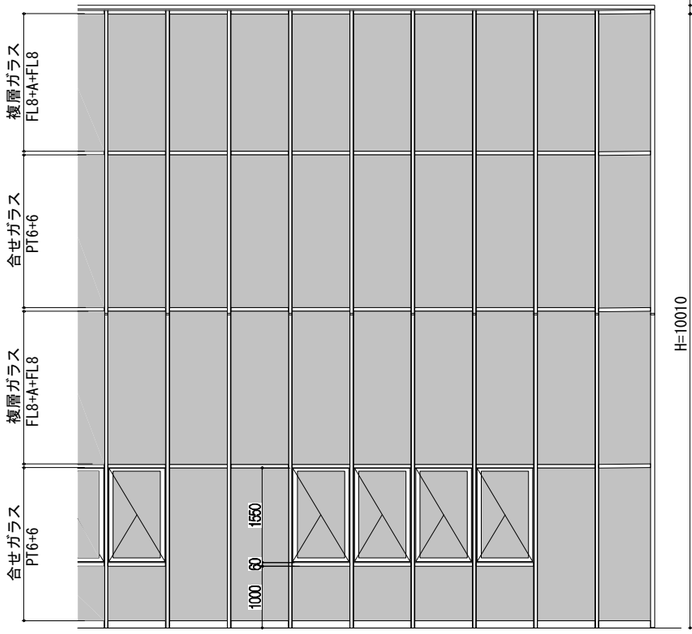
設計番号 16779

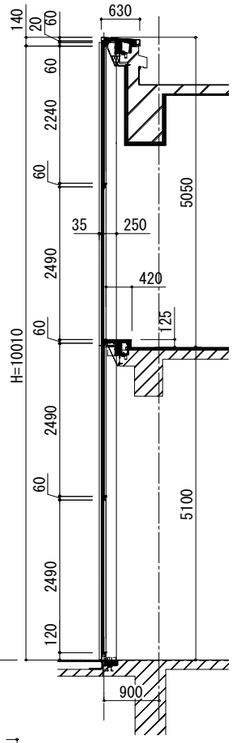
図面番号 A — 087

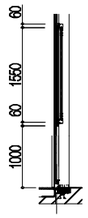
縮尺 1/A1:50 A3:100

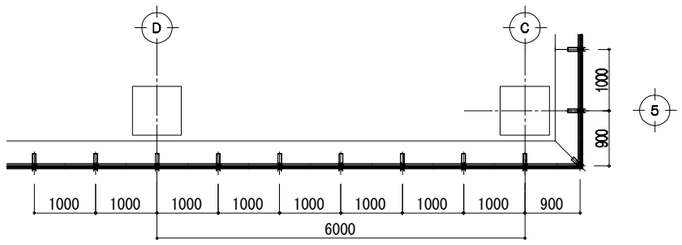
日付 2019・11・15

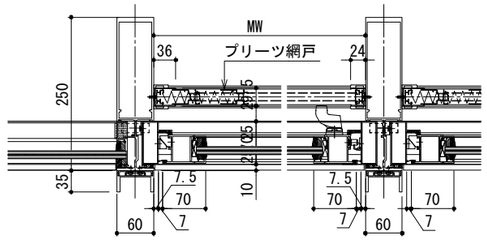
外観図

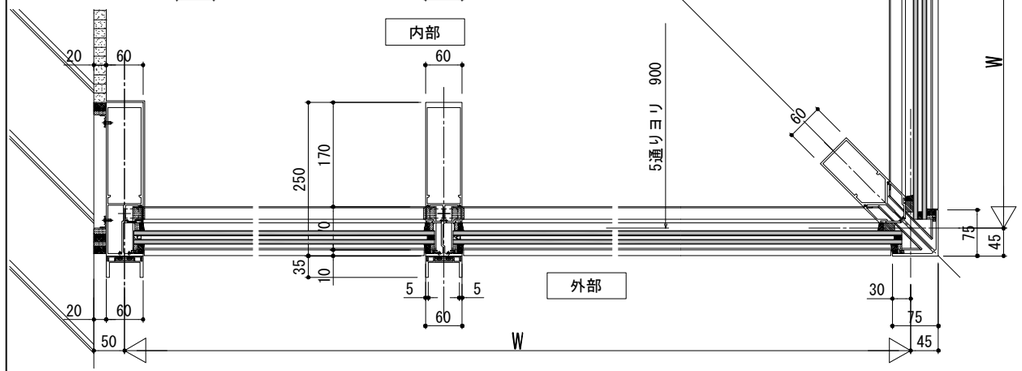


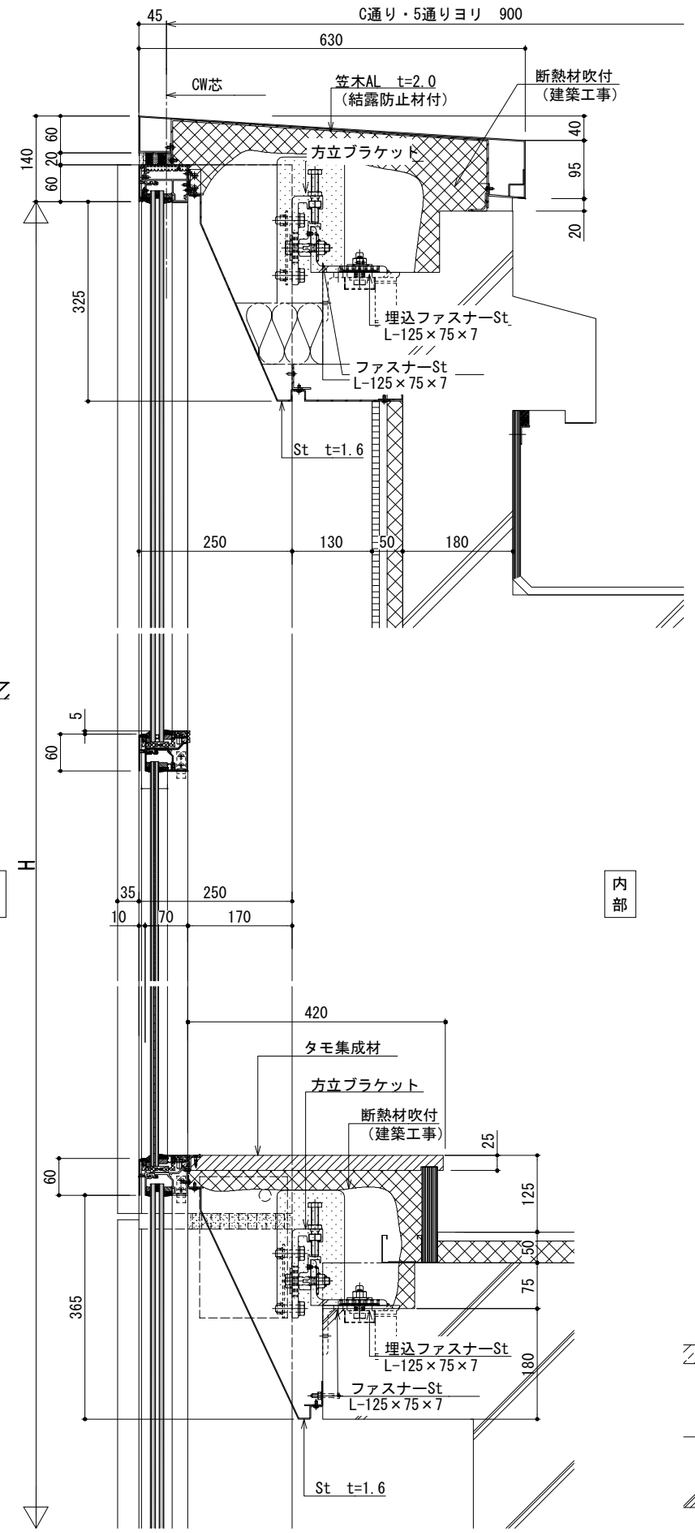


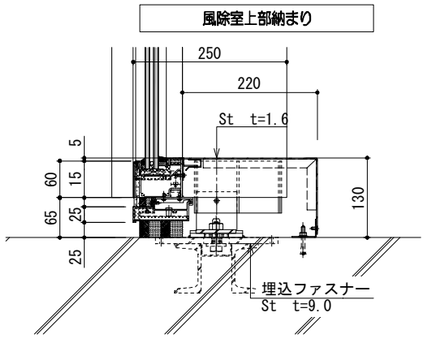


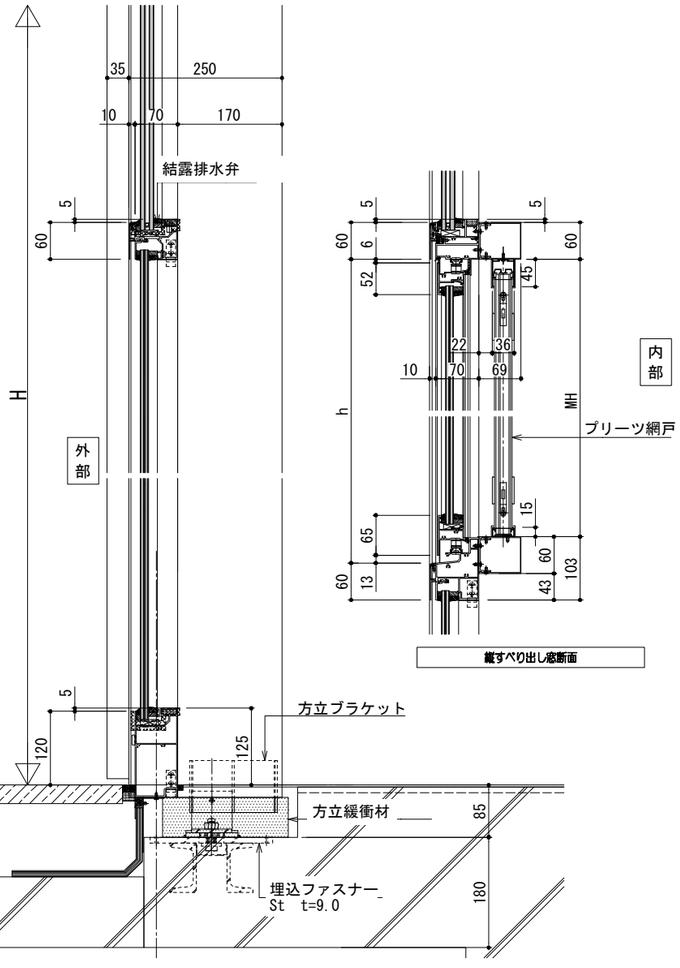




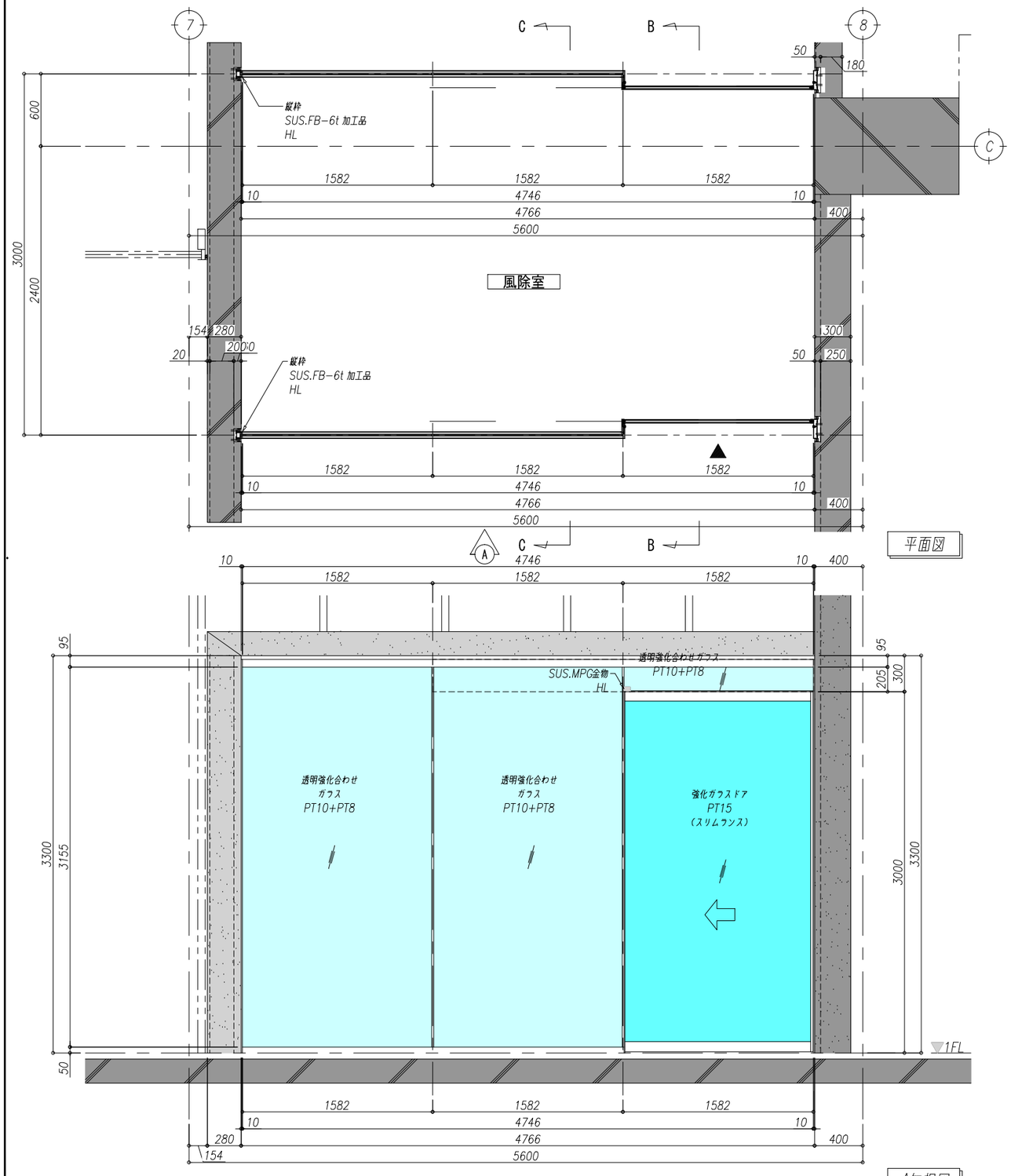






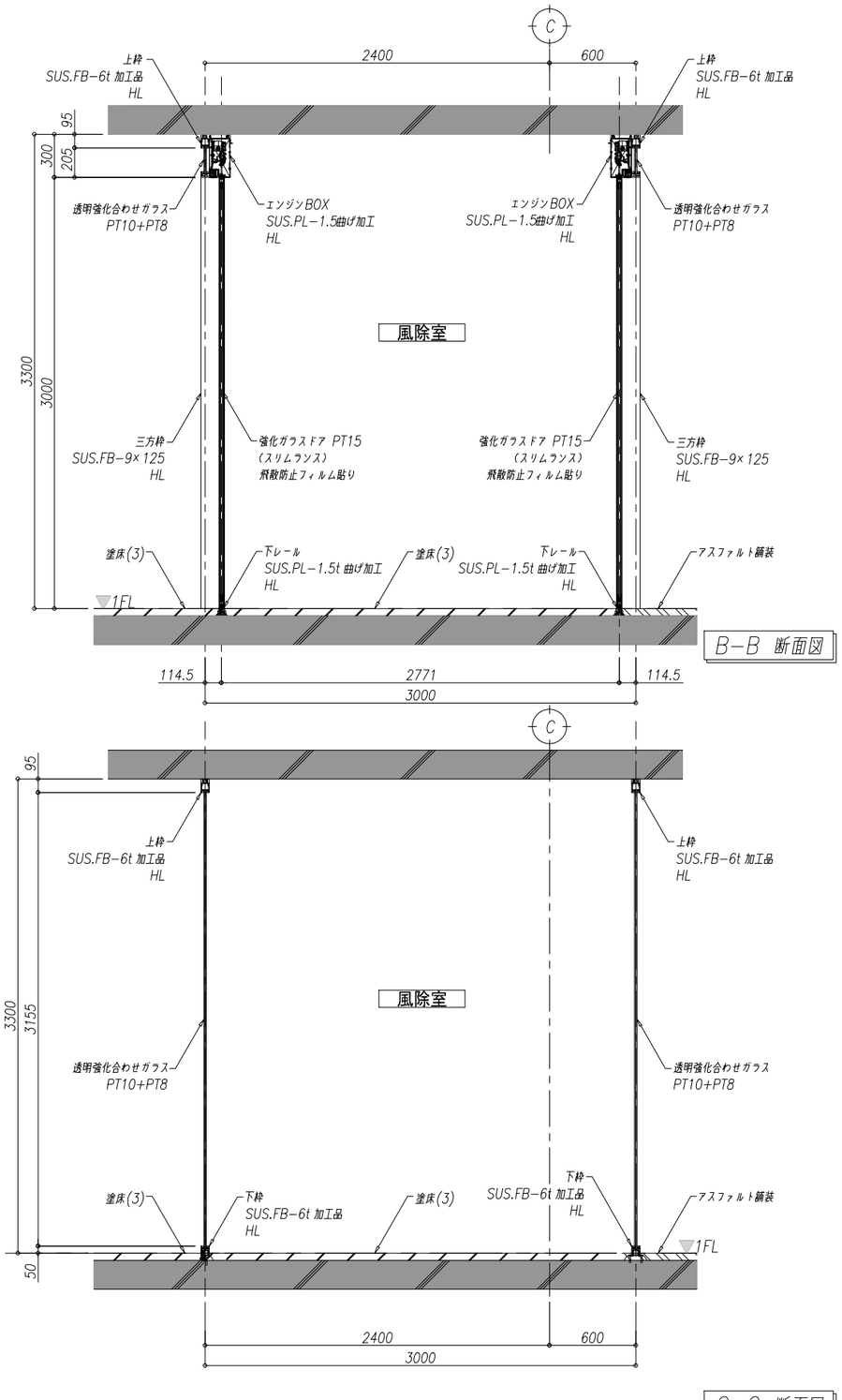


飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者					法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 088
			一級建築士	一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士		建具詳細図(1)	縮尺 1/5 1:50 A3:100	日付 2019・11・15
			第280187号	第336677号	第336801号			第5496号				
			中川 幸	加野 正知	江口 聡一郎		林 沙希子	椎葉 夏子				



平面図

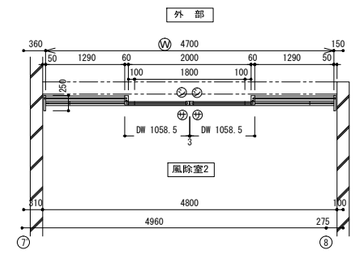
A矢視図

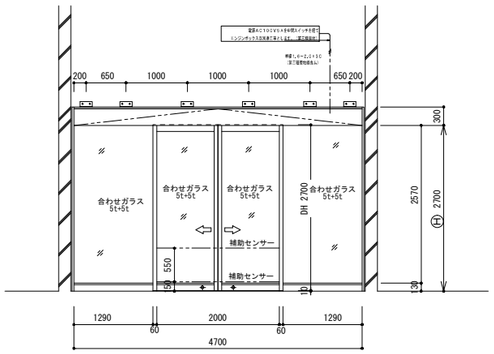


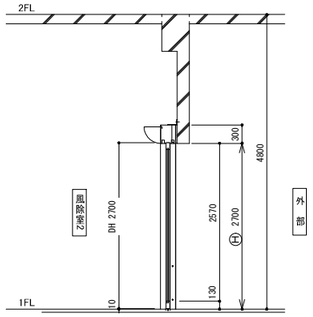
B−B 断面図

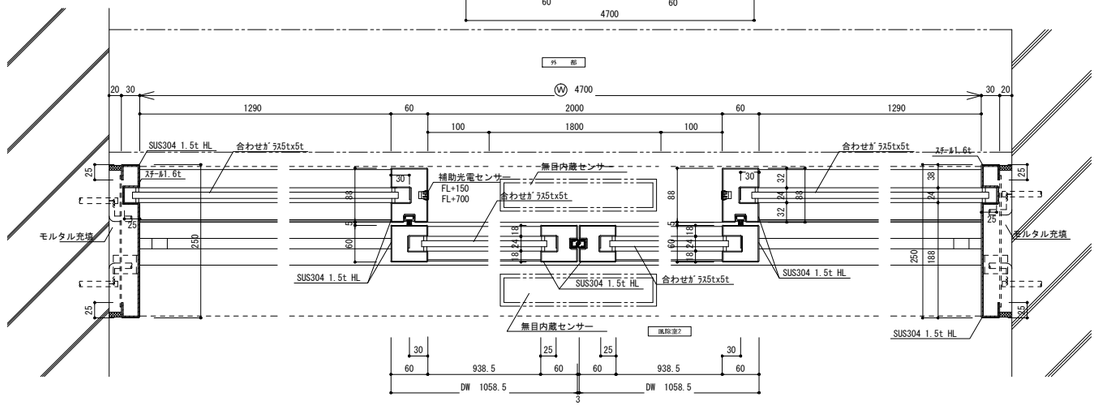
C−C 断面図

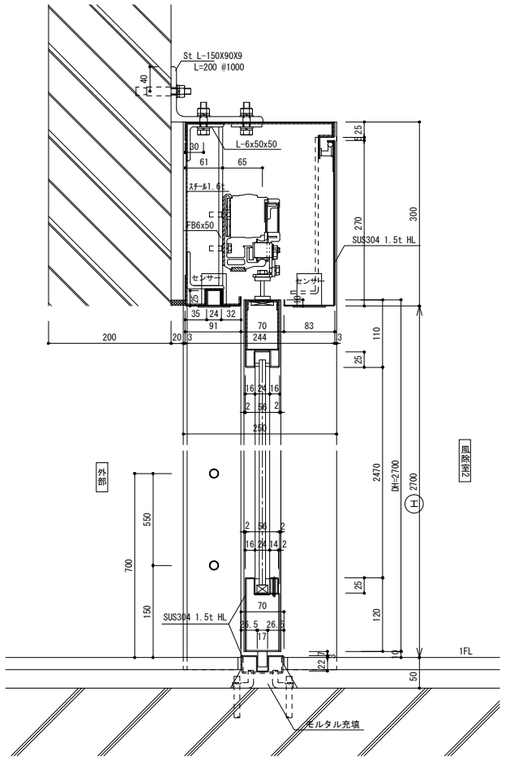
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号	設計者					法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 090
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子		設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		建具詳細図(3)	縮尺 1/A1: A3:	日付 2019・11・15

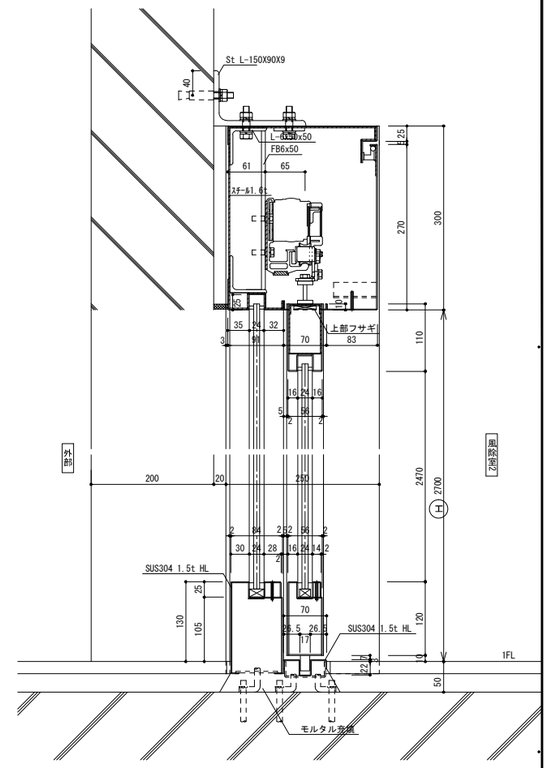


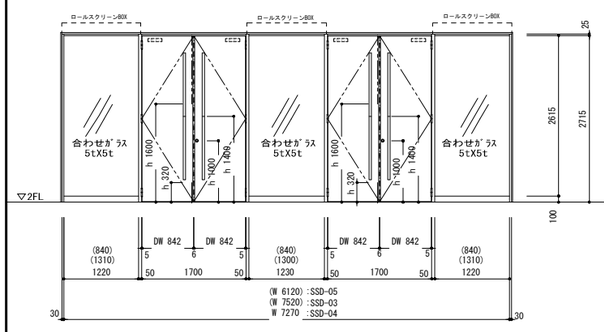


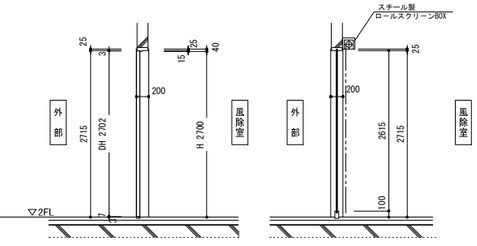


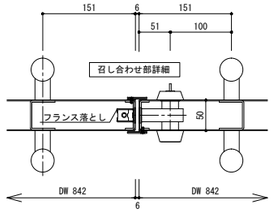


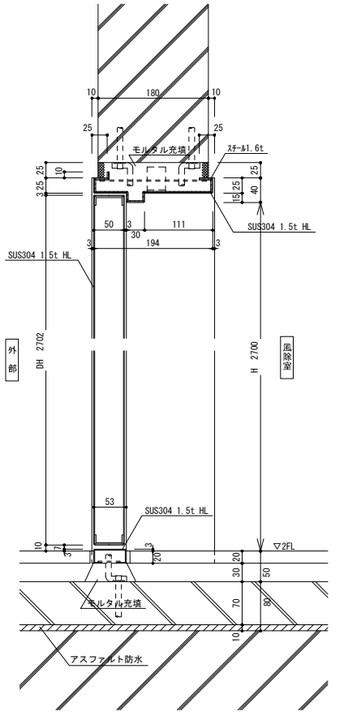


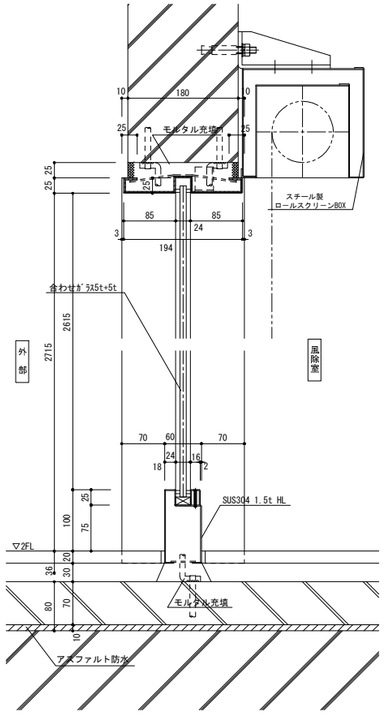


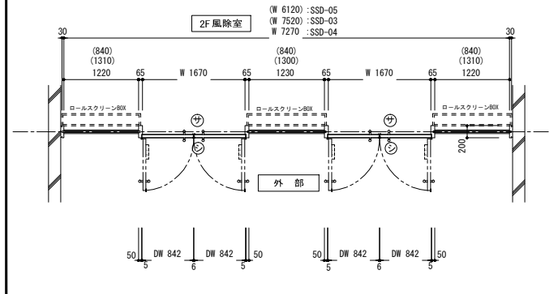


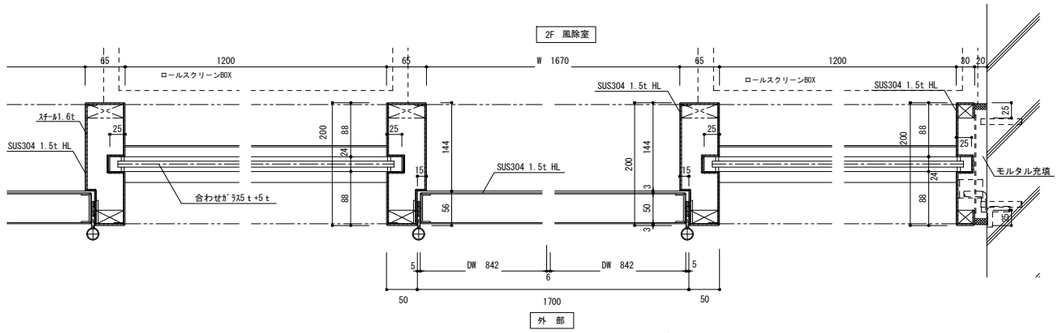




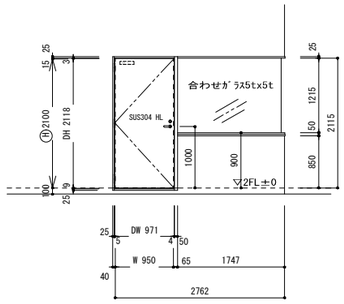


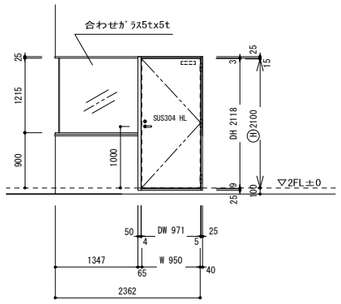


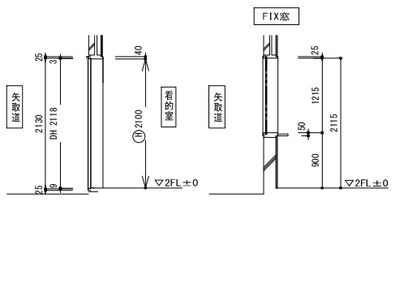


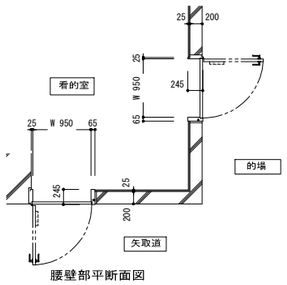


飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号	設計者					法適合確認欄		検証者	飯塚市新体育館等建設工事 建具詳細図(4)	設計番号 16779 縮尺 1/A1: A3: 日付 2019・11・15	図面番号 A — 091
			一級建築士	一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士					
			第280187号	第336677号	第336801号			第5496号					
			中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎		林 沙希子	椎葉 夏子					

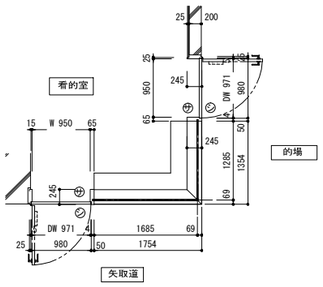




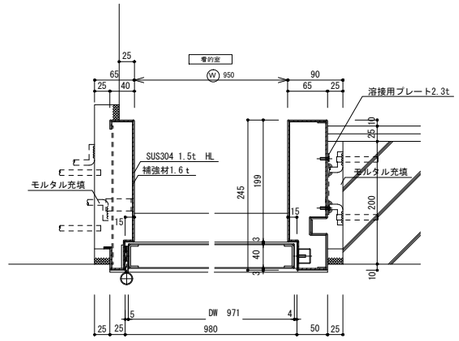


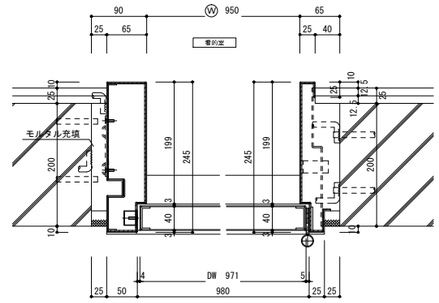


腰壁部平断面図

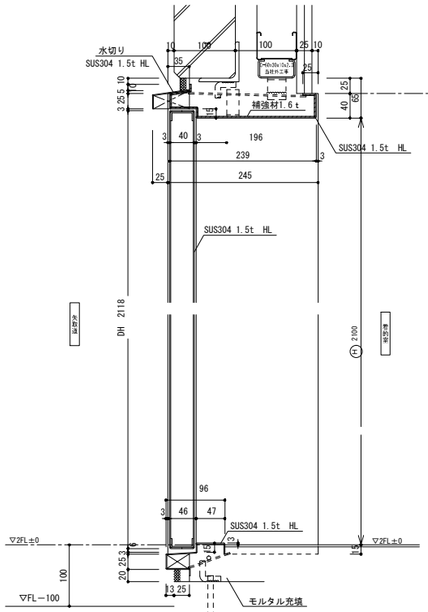


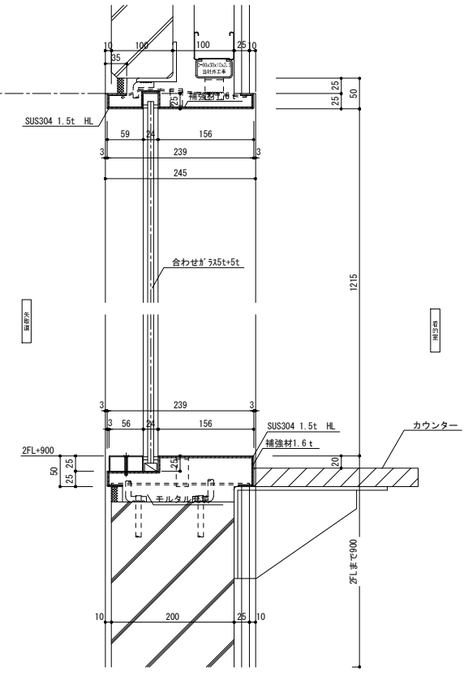
カウンター部平断面図

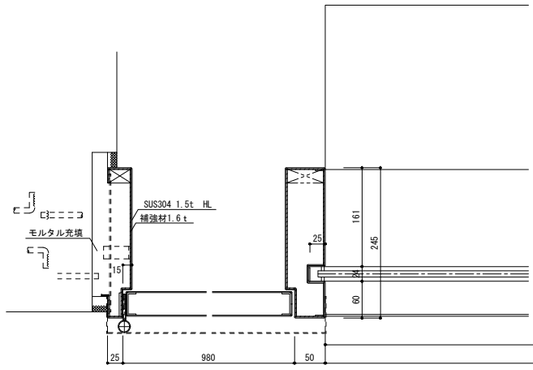


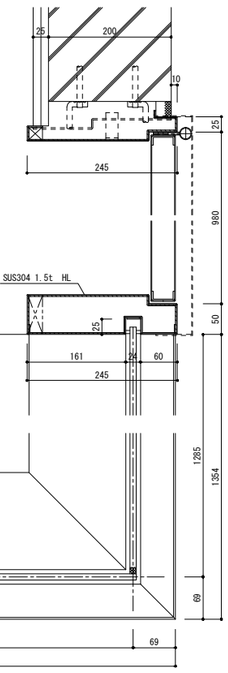


FIX窓詳細









飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

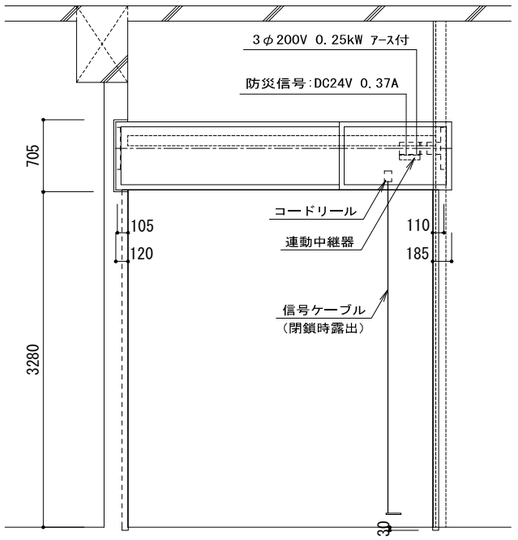
建具詳細図(5)

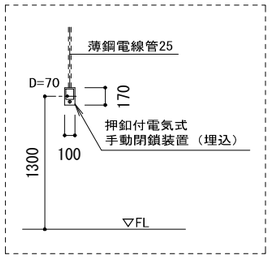
設計番号 16779

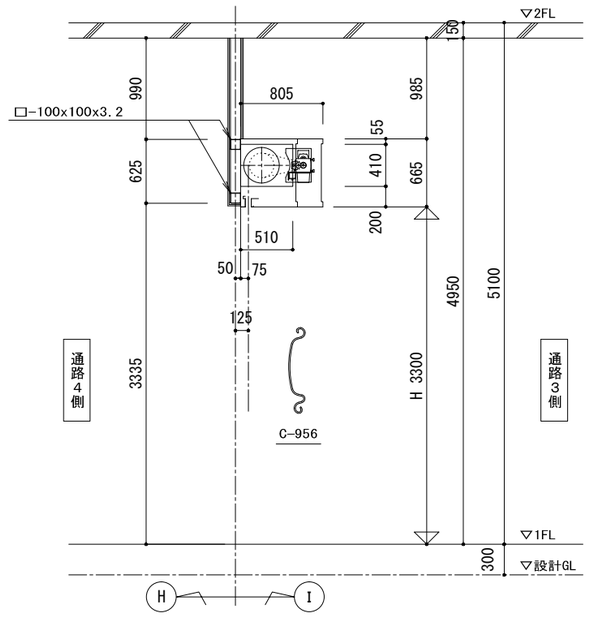
図面番号 A — 092

縮尺 1/ A1: A3:

日付 2019・11・15

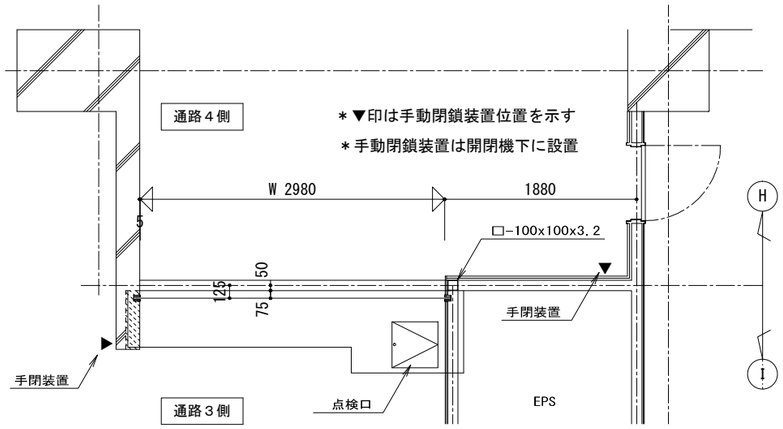


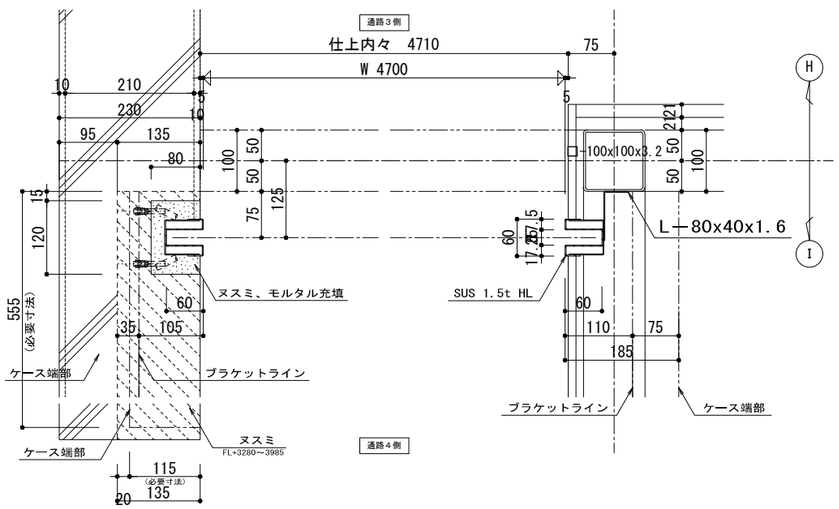


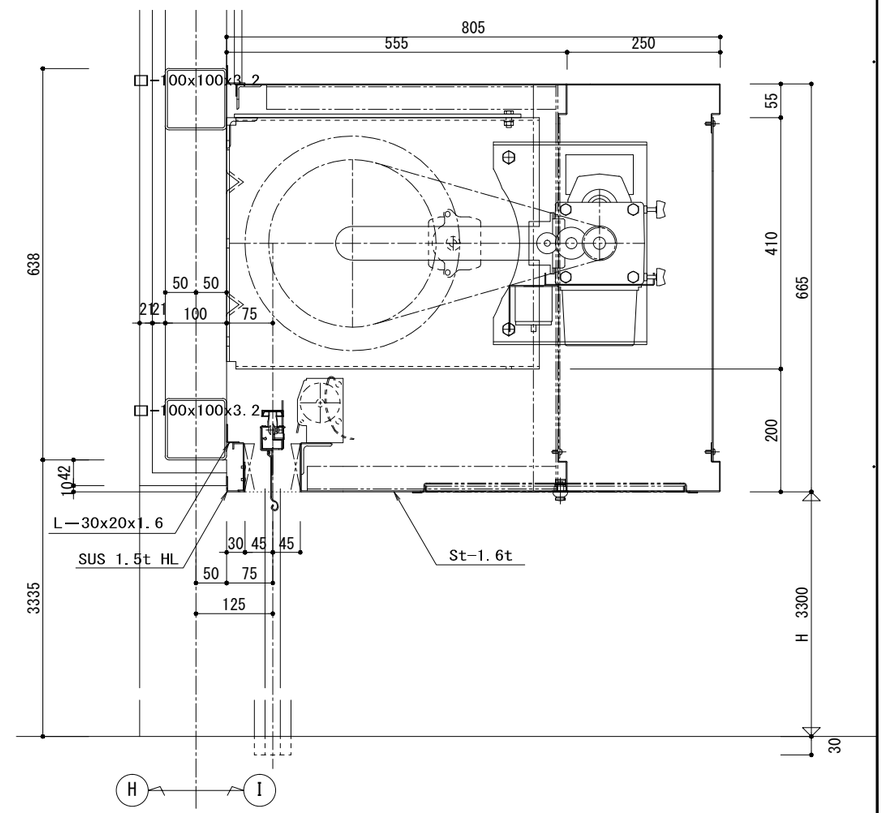


スラット:溶融亜鉛ﾒｯｷ鋼板素地(無塗装)

電動　特定防火設備(防火)				
符　号	SS-1	開閉機	型　式	EGLM-50-1SG
スラット	C-956　St -1.6 mm		手動時	ハンドル
座　板	FC-4040S1H	ブラケット	駆動側	110(185) mm
	下面SUS　SUS-1.5 mm	取付位置	従動側	105(120) mm
レール	SUS-1.5 mm	押釦・手閉器		EHD-1UBC
マグサ	SUS-1.5 mm	自動閉鎖装置		
ケース	St -1.6 mm	非常時安全装置		急降下停止
シャフト	4B-3530	障害物感知装置		ｺｰﾄﾞﾘｰﾙ
ブラケット	BRL-205-40B/BRL-205-35	本体総重量		1033kg
備考 ・ ・ ・				



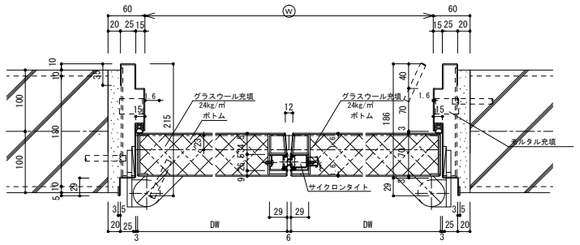




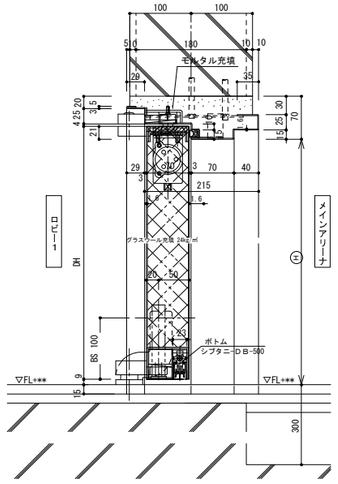
| | | | |

SD-01 1/5

メインアリーナ

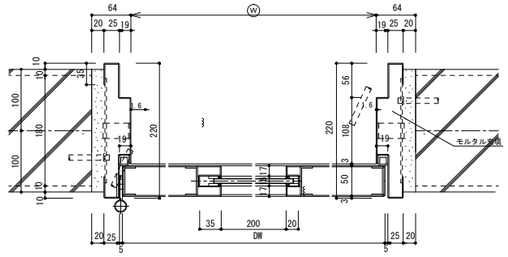


ロビー1

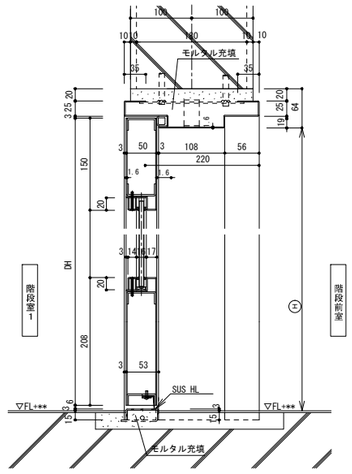


SD-05 1/5

階段前室

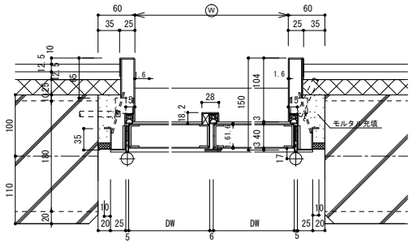


階段室1

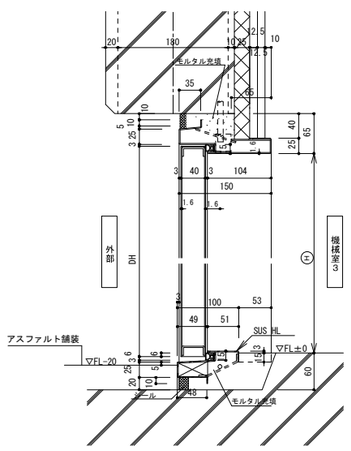


外SD-01 1/5

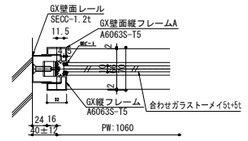
機械室3



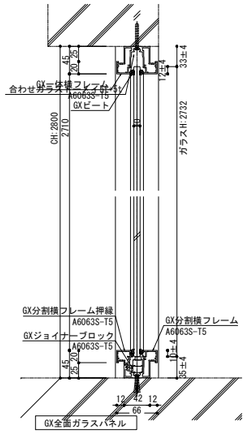
外部



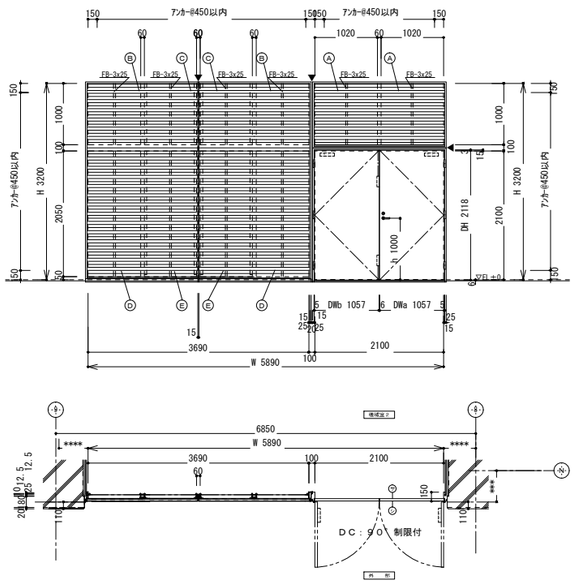
SP-01 1/5



壁面部　GX全面ガラス部平断面図



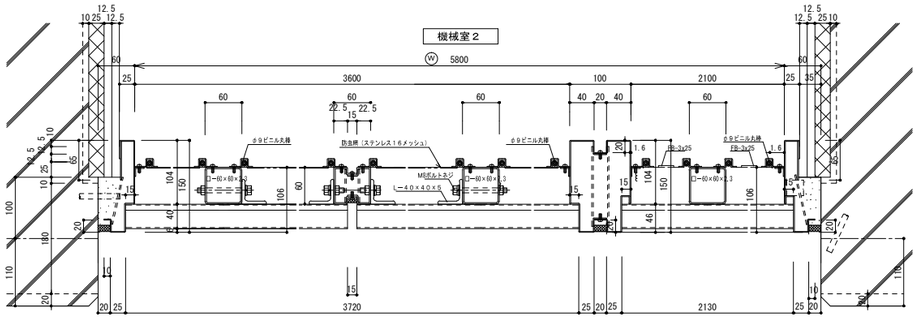
外SD-02 1/5 1/50



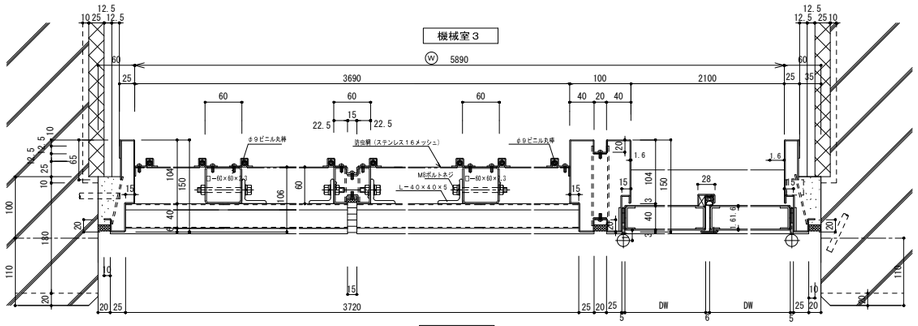
A	1020×25.7×19=0.498㎡ 1020×22.7×1=0.023㎡ フレ止めFB3×25：1000×25=0.025㎡ 0.521-0.025=0.496㎡×2=0.992㎡
B	859×25.7×20=0.441㎡ フレ止めFB3×25：1000×25=0.025㎡ 0.441-0.025=0.416㎡×2=0.832㎡
C	851×25.7×20=0.437㎡ フレ止めFB3×25：1000×25=0.025㎡ 0.437-0.025=0.412㎡×2=0.824㎡
D	859×25.7×40=0.883㎡ 859×25.5×1=0.021㎡ フレ止めFB3×25：2050×25=0.051㎡ 0.904-0.051=0.853㎡×2=1.706㎡
E	851×25.7×40=0.874㎡ 851×25.5×1=0.021㎡ フレ止めFB3×25：2050×25=0.051㎡ 0.895-0.051=0.844㎡×2=1.688㎡
	0.992+0.832+0.824+1.706+1.688=6.042㎡ 開口面積：6.042㎡ (L-40×40)：2980×40×4=0.476㎡

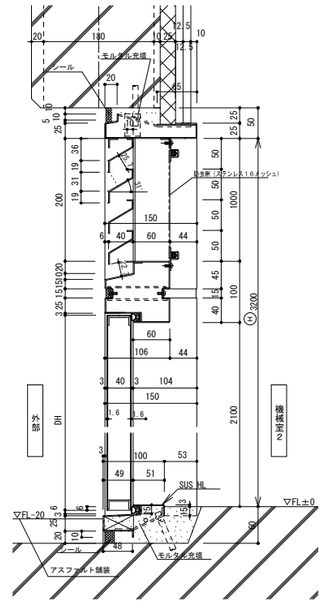
有効開口面積：6.042-0.476=5.566㎡
必要開口面積：5.42㎡≦　有効開口面積：5.566㎡

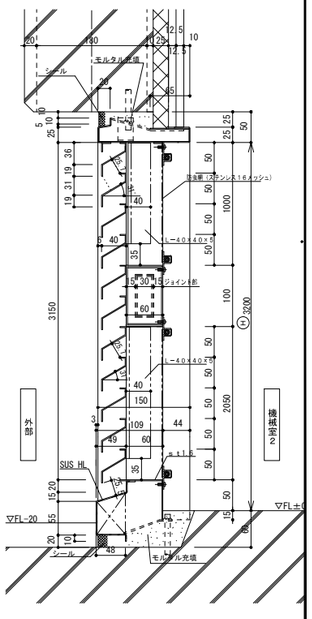
機械室2



機械室3



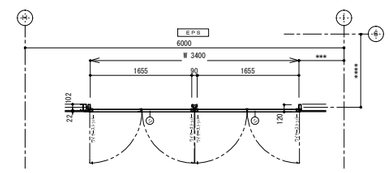


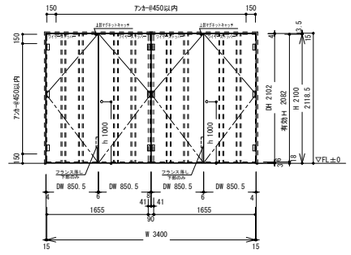


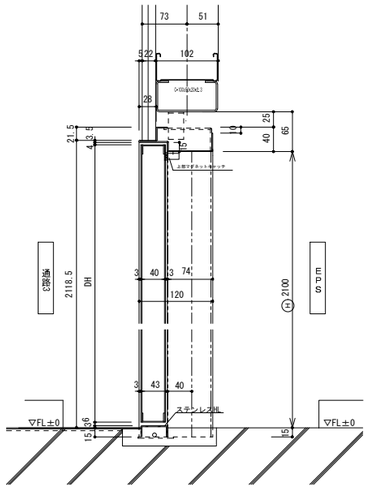
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

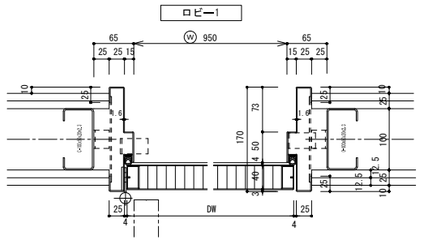
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

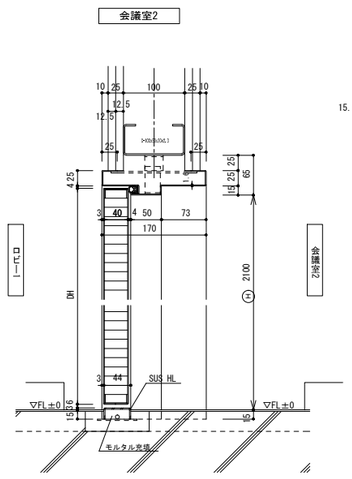
飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 094
建具詳細図(7)	縮尺 1/A1:50 A3:100	日付 2019・11・15

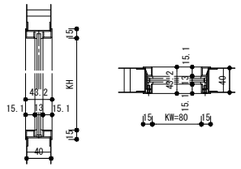


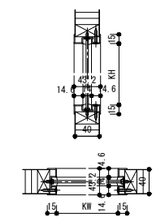


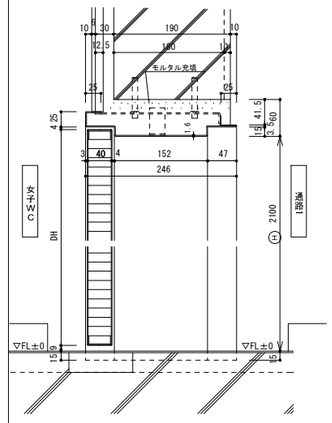


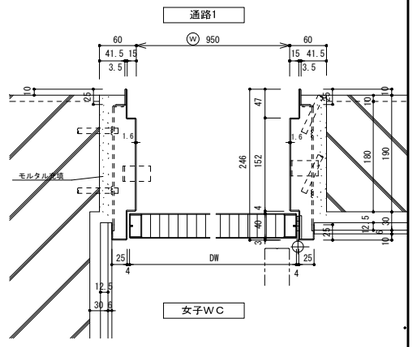












飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第54916号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

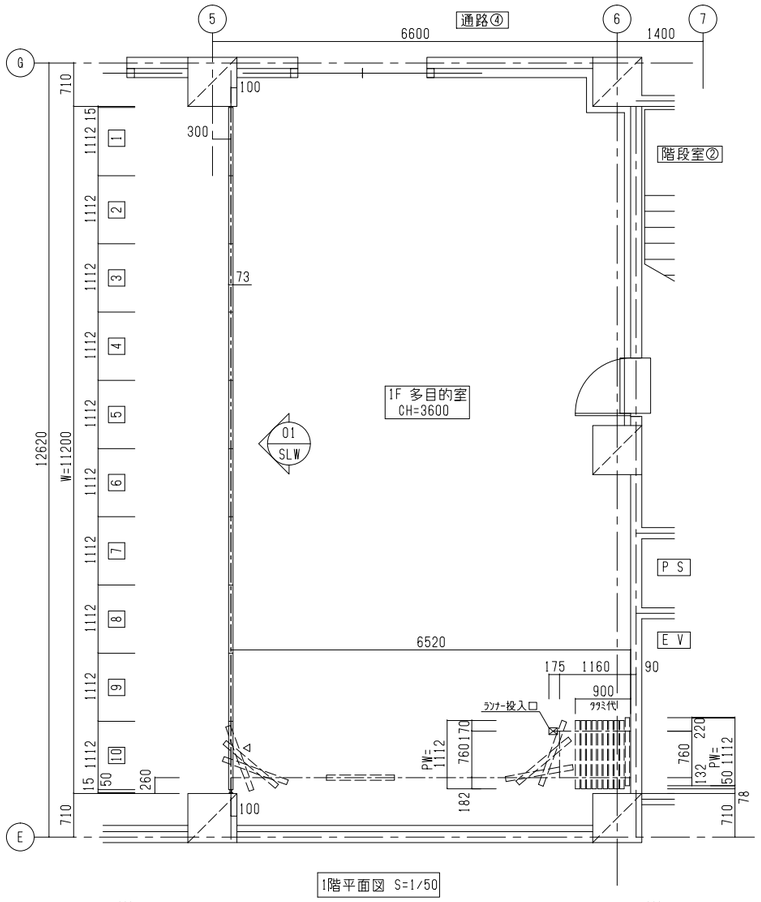
建具詳細図(8)

設計番号 16779

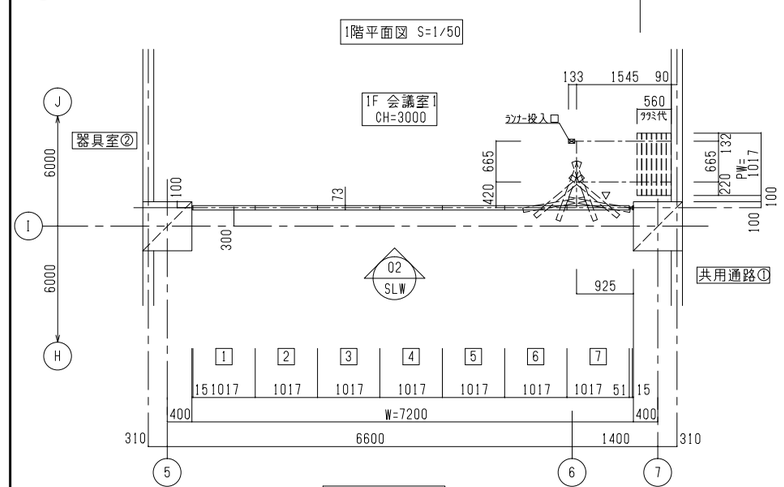
図面番号 A — 095

縮尺 1/A1:50 A3:1/100

日付 2019・11・15



1階平面図 S=1/50

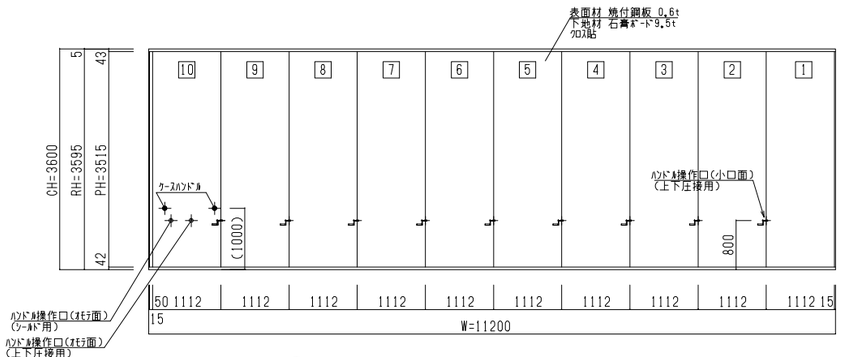


1階平面図 S=1/50

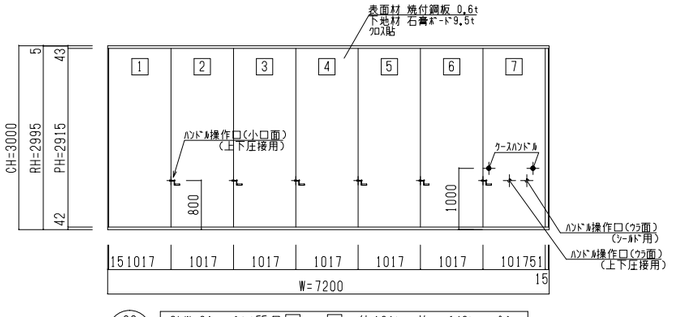
△:ハンドル操作口(面付)を示す

スライディングウォール仕様

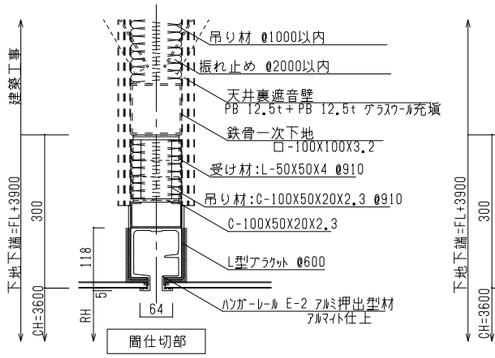
項目・種類	
遮音タイプ	(SS-65)
カマチ	アルミ押出型材(A6063S-T5)
ハンガーレール	アルミ押出型材(A6063S-T5)
ランナー	樹脂ランナー
表面材	標準色焼付鋼板 0.6t 石膏ボード 9.5t裏打 クロス貼(内装工事)
充填材	ロックウール 80kg/㎥ 充填
圧接装置	ギア式上下圧接
遮音性能	パネル単体遮音性能値：49.0dB (500Hz)_



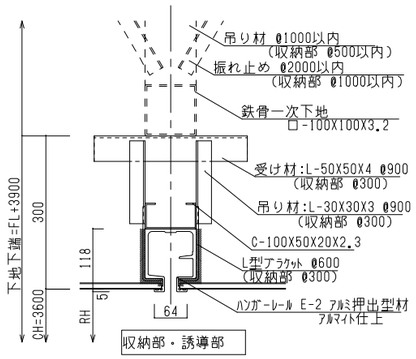
01 SLW　SLW-01　パネル質量 1 ～10　約170kg/枚　(43kg/㎡)
収納部集中荷重 約1700kg



02 SLW　SLW-01　パネル質量 1 ～7　約131kg/枚　(43kg/㎡)
収納部集中荷重 約917kg



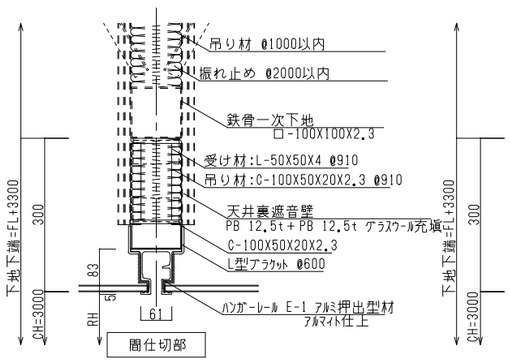
間仕切部



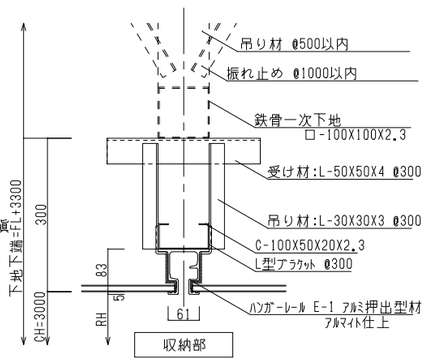
収納部・誘導部

レール取付詳細図 S=1/6

01 SLW



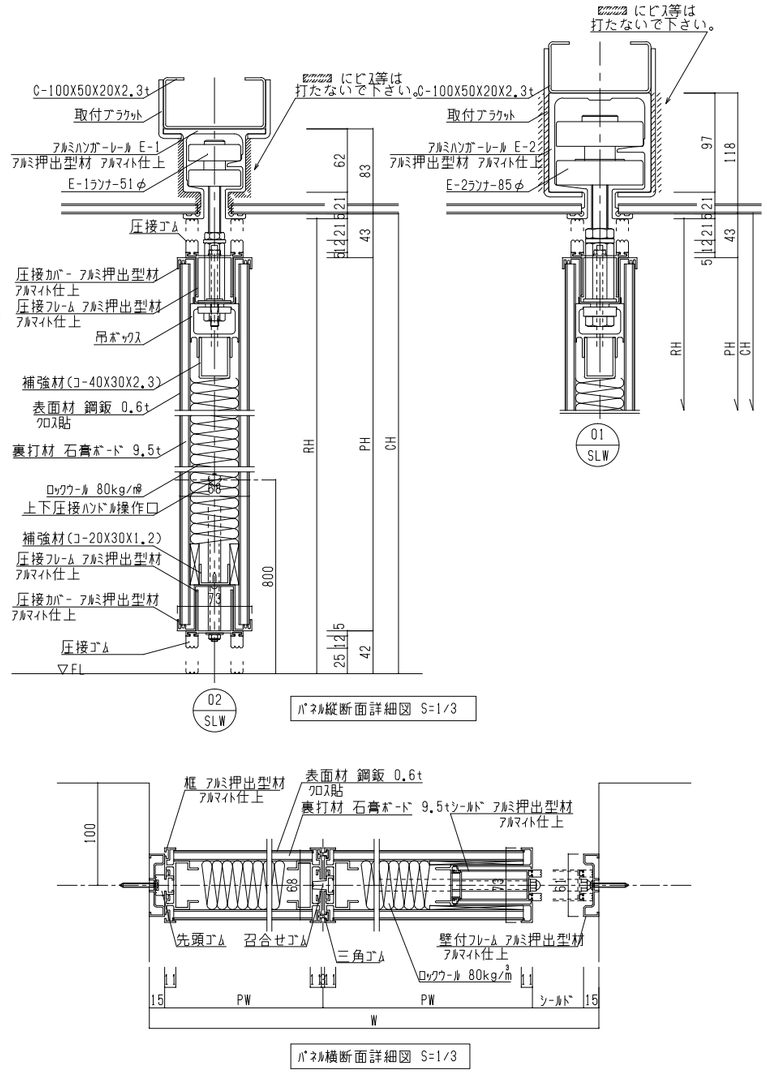
間仕切部



収納部

レール取付詳細図 S=1/6

02 SLW

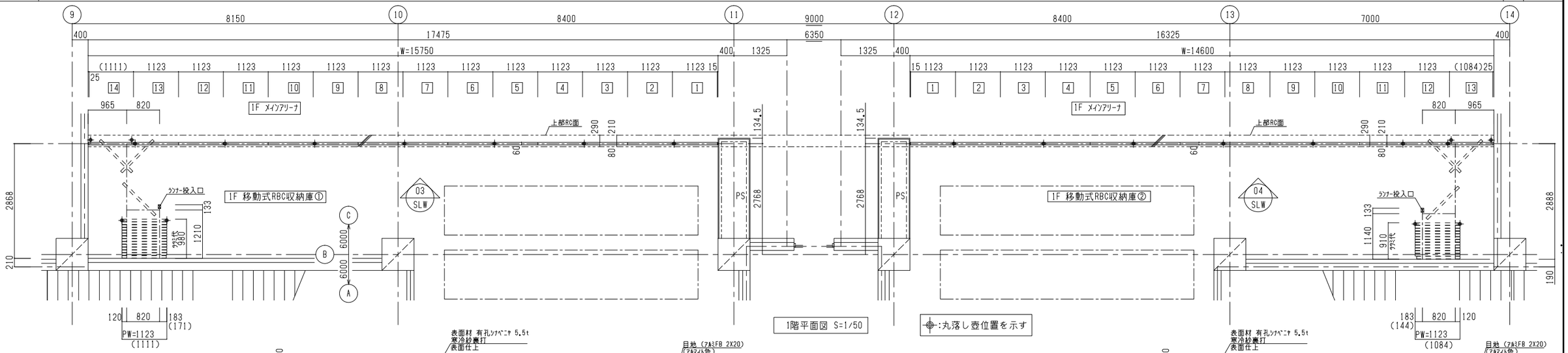


01 SLW

02 SLW　パネル縦断面詳細図 S=1/3

パネル横断面詳細図 S=1/3

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者					法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 096
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子		設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		建具詳細図(9)	縮尺 1/A1:50 A3:100	日付 2019・11・15



1階平面図 S=1/50

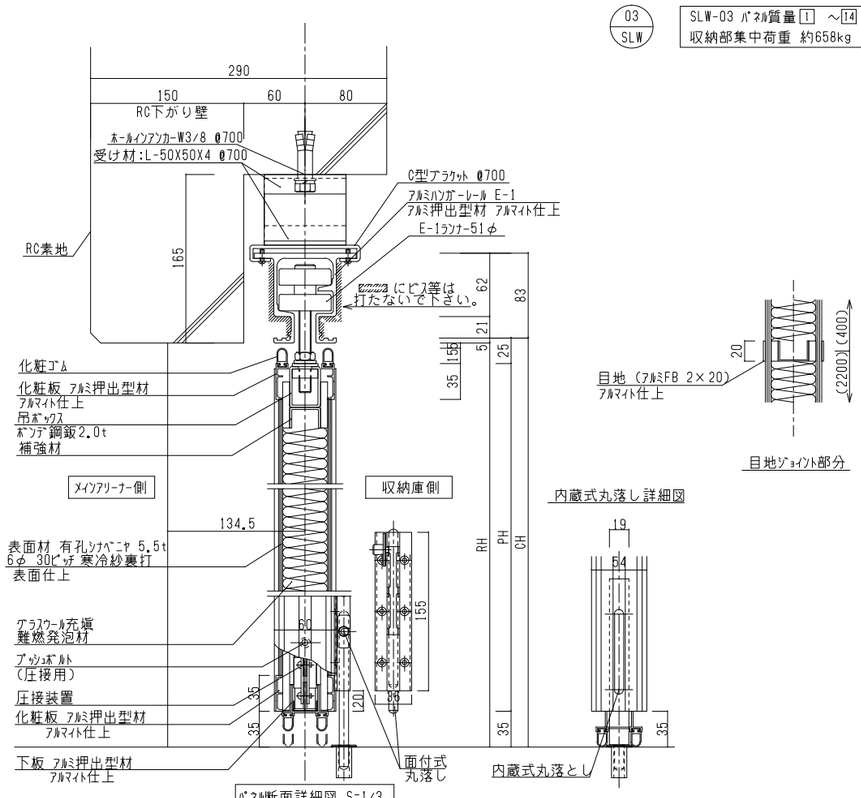
:丸落し壺位置を示す

03 SLW

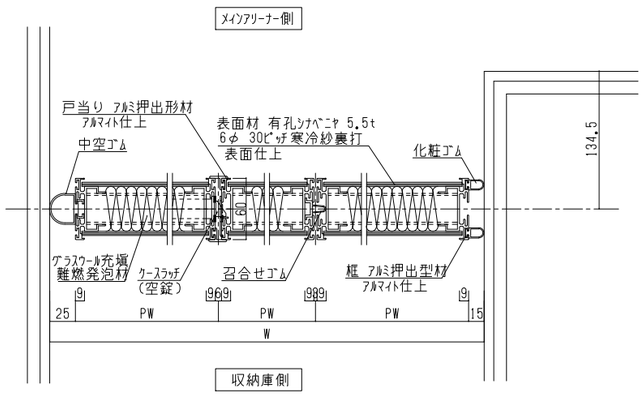
SLW-03 ﾊﾟﾈﾙ質量 1 ～14 約47kg/枚 (16kg/㎡)
収納部集中荷重 約658kg

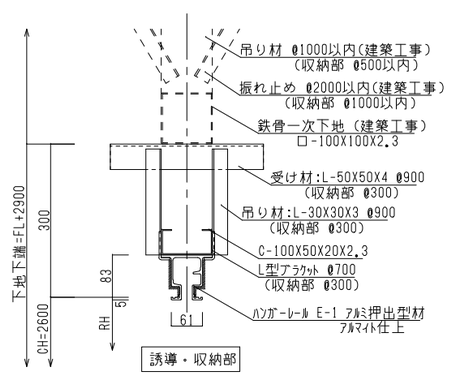
04 SLW

SLW-04 ﾊﾟﾈﾙ質量 1 ～13 約47kg/枚 (16kg/㎡)
収納部集中荷重 約611kg



パネル断面詳細図 S=1/3





レール取付詳細図 S=1/6

スライディングウォール仕様

項目・種類	
カ マ チ	アルミ押出型材(A6063S-T5)
ハンガーレール	アルミ押出型材(A6063S-T5)
ランナー	樹脂ランナー
表 面 材	有孔ｼﾅﾍﾞﾆｱ 5.5t 寒冷紗裏打 表面仕上
充 填 材	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填 + 難燃発泡材
圧接装置	ﾌﾟｯｼｭ式下部圧接

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

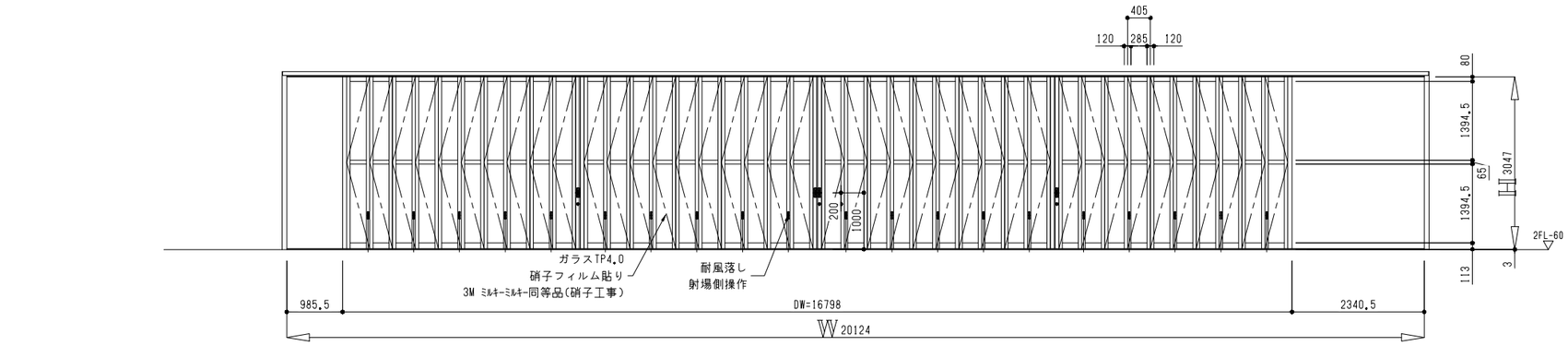
建具詳細図(10)

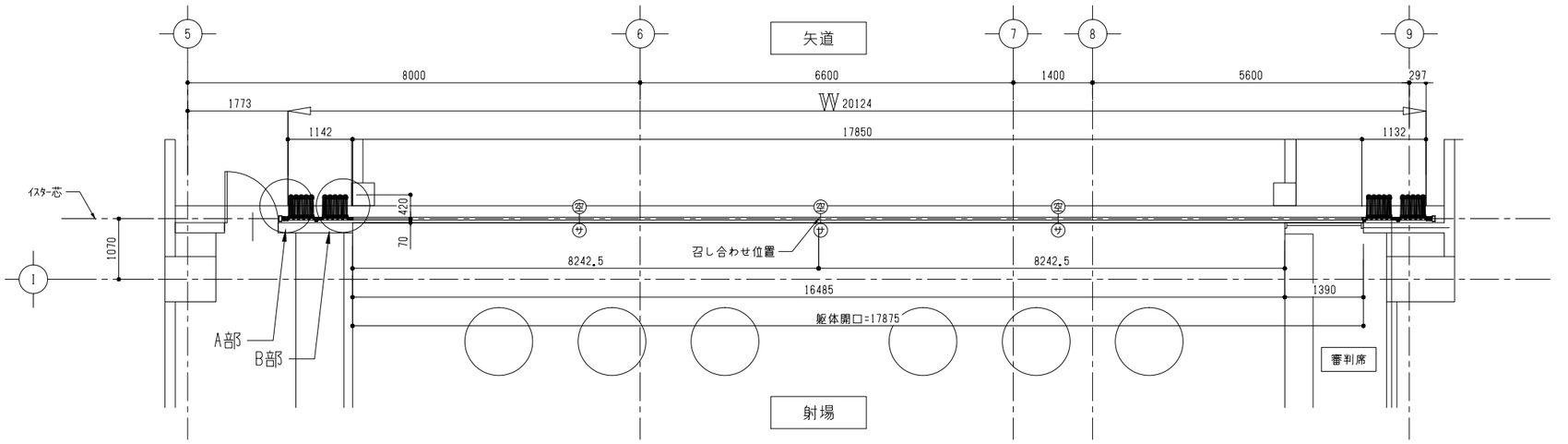
設計番号 16779

図面番号 A — 097

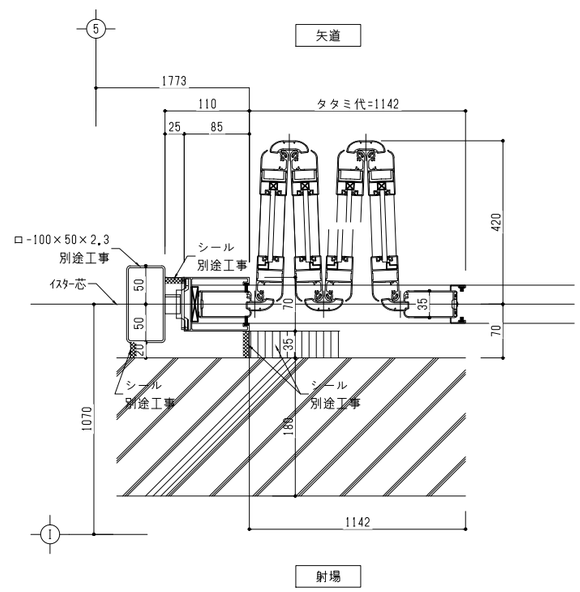
縮尺 1/A1:50 A3:100

日付 2019・11・15

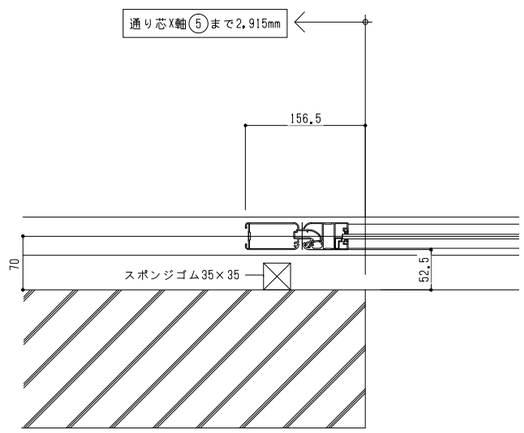


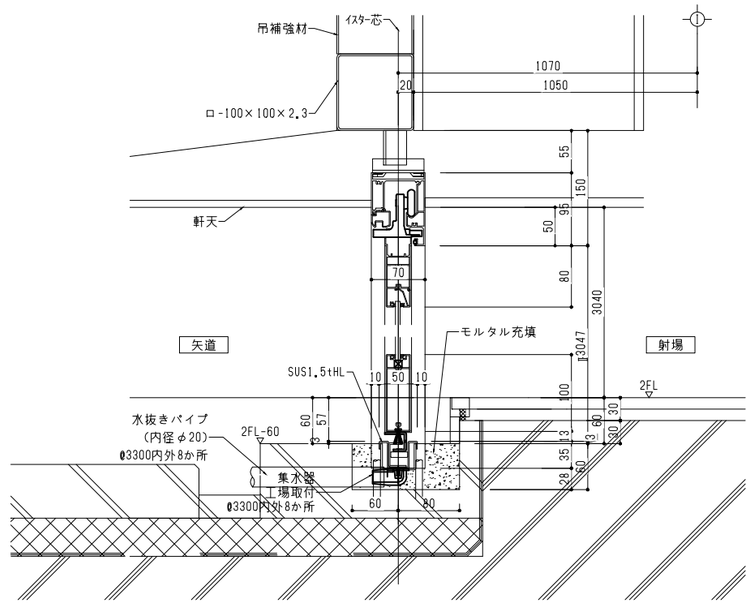


A部拡大図(扉開時) 1/4



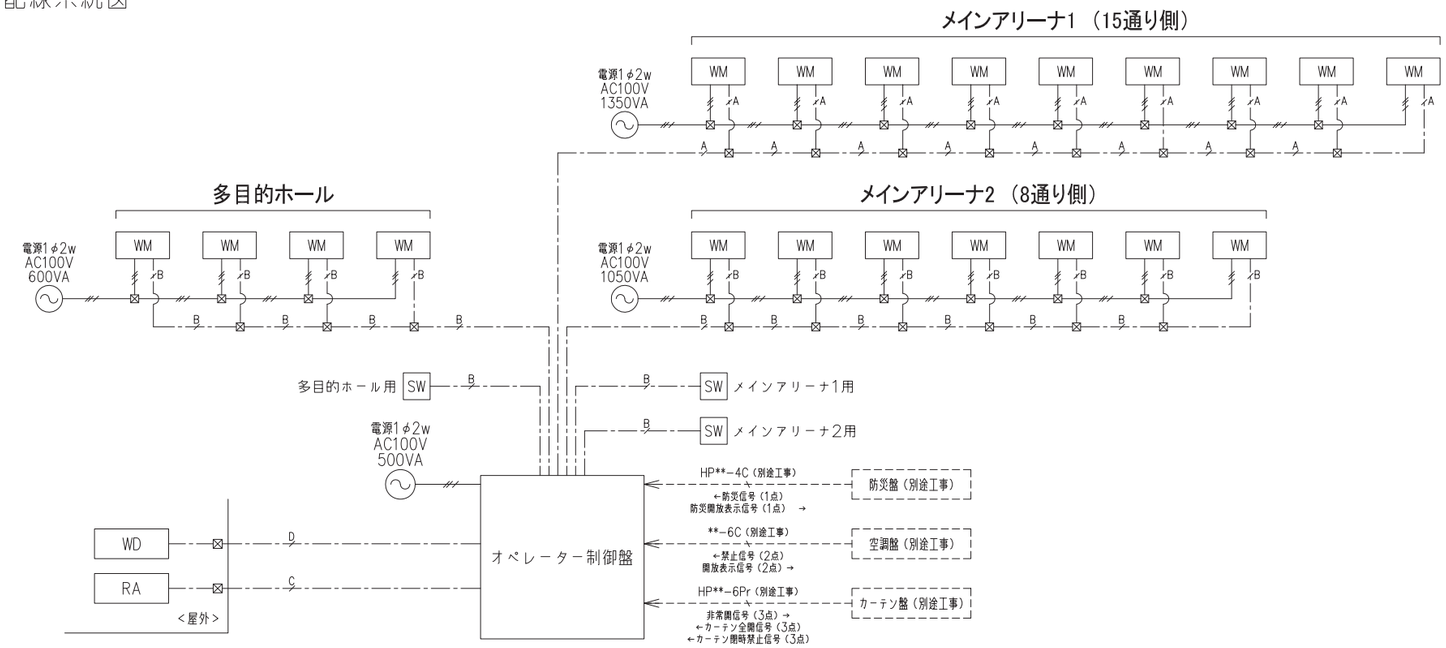
B部拡大図(扉開時) 1/4





飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号	設計者					法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 098
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎		林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		建具詳細図(11)	縮尺 1/A1:50 A3:100 日付 2019・11・15	

配線系統図



凡 例

WM	電動駆動装置（WM20）
SW	現地操作スイッチ（WN4500+SW11）
RA	降雨センサー
WD	風速センサー
⊠	ジョイントボックス又は防雨入線カバー

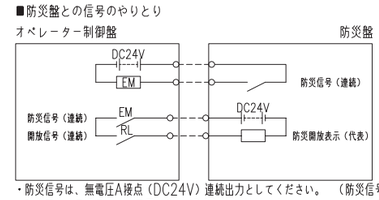
線 種

——//——	電源線 2C+E
——A———	信号線 HP1.6−6C
——B———	信号線 HP1.2−6C
——C———	信号線 VCT 1.25sq−3C MAX：100M
——D———	信号線 シールド付1.25sq−1Pr MAX：100M

施工区分

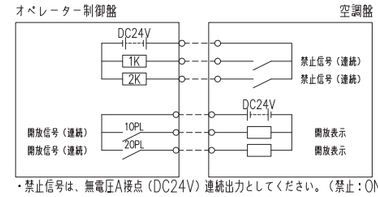
施 工 内 容	建築工事	電気設備工事
電源供給（AC100V）		○
一次側の配管配線・結線工事		○
二次側の配線・結線工事		○
ジョイントボックス又は防雨入線カバーの供給・取付・結線工事		○
埋込みスイッチボックス供給・取付工事		○
各センサーへの配管・配線工事		○
電動駆動装置の供給・取付・結線工事	○	
操作スイッチの供給・取付・結線工事	○	
窓廻り部品取付	○	
オペレーター制御盤の供給取付・結線工事	○	
各センサーの供給取付・結線工事	○	

■防災盤との信号のやりとり



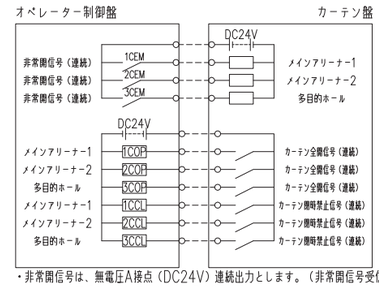
・防災信号は、無電圧A接点（DC24V）連続出力としてください。（防災信号起動：ON）
・防災開放表示信号は、無電圧A接点（DC24V）連続出力とします。（防災信号受信中：ON）

■空調盤との信号のやりとり



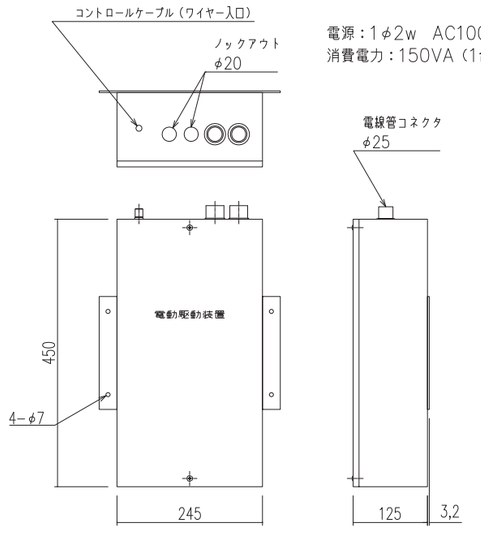
・禁止信号は、無電圧A接点（DC24V）連続出力としてください。（禁止：ON）
※1Kはメインアリーナ−用 2Kは多目的ホール用を示す。
・開放表示は、無電圧A接点（DC24V）連続出力とします。（開：ON 閉：OFF）
※10PLはメイナリーナ−用 20PLは多目的ホール用を示す。

■カーテン盤との信号のやりとり



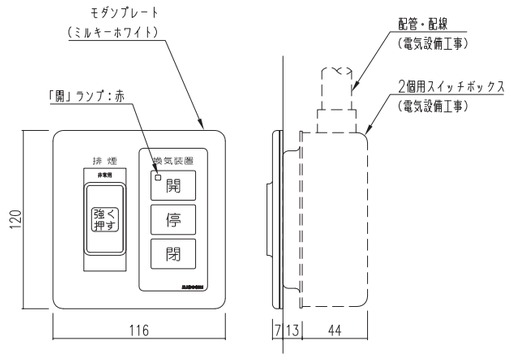
・非常開信号は、無電圧A接点（DC24V）連続出力とします。（非常開信号受信：ON）
・カーテン全開信号は、無電圧A接点（DC24V）連続出力としてください。（カーテン全開時：ON）
・カーテン閉時禁止信号は、無電圧A接点（DC24V）連続出力としてください。（カーテン閉時：ON）

電動駆動装置（WM−20） 姿図
排煙仕様



電源：1φ2w AC100V
消費電力：150VA（1台当り）

操作スイッチ（WN4500+SW11） 姿図



| | | |

システム概要

1.概略

電動駆動装置（WM20）

1）制御盤面に設けられた切替スイッチの「自動／メンテ」にて運用する。
2）制御盤内に設けられた年間タイマーによる強制閉鎖を行う。
3）降雨センサー、風速センサー作動時による強制閉鎖を行う。
4）空調盤からの禁止信号により強制閉鎖を行う。
5）現地操作スイッチ及び制御盤面に設けられた盤面スイッチにて該当する窓の開閉操作を行う。
6）防災盤からの防災信号及び盤面・現地操作スイッチの非常開スイッチにて全ての窓の強制開放を行う。
7）カーテン盤との連動により強制閉鎖を行う。

2.作動詳細

【電動駆動装置（WM20）について】

1）制御盤の切替スイッチで自動側を選択時の優先順位

防災盤からの防災信号による強制開放　＝　盤面及び現地操作スイッチの非常開スイッチによる強制開放　＞
降雨・風速センサーによる強制閉鎖　＝　年間タイマーによる設定範囲外の強制閉鎖　＝
空調盤からの禁止信号による強制閉鎖　＝　カーテン盤からのカーテン開時禁止信号による強制閉鎖　＞
盤面及び現地操作スイッチによる開閉操作

2）制御盤の切替スイッチでメンテ側を選択時の優先順位

防災盤からの防災信号による強制開放　＝　盤面及び現地操作スイッチの非常開スイッチによる強制開放　＞
盤面及び現地操作スイッチによる開閉操作
※メンテを選択時は空調盤からの禁止信号及びカーテン盤からの禁止信号、降雨・風速センサー、年間タイマーによる運転は行わない。
（雨滴の浸入、防犯等には弊社では責任を負いかねますので、十分に御注意下さい。）
※カーテンが全閉の場合は、盤面及び現地操作スイッチの開を押すと、カーテン盤へ非常開信号を出力し、カーテンが開放するものとします。カーテンが全開してからカーテン全開信号を受信しますと、窓が開放を行います。

3）停電時について

停電時でも制御盤内に設けたバッテリー（DC24V）にて、防災盤からの防災信号、盤面及び現地操作スイッチの非常開スイッチにて強制開放が可能。

●現地操作スイッチ・盤面スイッチによる基本動作

「非常開」スイッチを押すと全ての窓が強制開放を行う。
「開」スイッチを押すと該当する窓が開放を行う。
「停」スイッチを押すと閉作動中のみ該当する窓が途中停止を行う。
「閉」スイッチを押すと該当する窓が閉鎖を行う。
「開」ランプは窓が少しでも開いた状態で点灯し、全閉位置で消灯するものとする。

●降雨センサーについて

降雨センサーにより降雨感知時には、窓の強制閉鎖を行う。

●風速センサーについて

風速センサーにより設定風速以上で強制閉鎖を行なう。風速の設定は任意で行なうことが可能。
（※但し最大10m/sまでとする。）

各センサーの受信後の閉鎖保持時間は5～30分の間で設定できる。（初期設定：30分）
※停電時、各センサーは作動しません。

●年間タイマーについて

制御盤内の年間タイマーにより設定範囲外であれば強制閉鎖を行う。
（例：初期設定が5～12月の平日8：00～17：00のとき、設定範囲内で自動制御を有効にし、設定範囲外で閉鎖を維持とする。）

●防災盤について

防災盤から防災信号を受信すると一斉に強制開放を行う。（防災信号起動：ON）
防災信号受信中で窓が開放した時のみ防災開放表示信号を出力する。（防災信号受信中：ON）

●空調盤について

空調盤から禁止信号を受信すると部屋毎に強制閉鎖を行う。　（禁止：ON）
部屋毎に窓が少しでも開いた状態で開放表示信号を出力する。（開：ON　閉：OFF）

●カーテン盤について

カーテン盤からのカーテン閉時（禁止）信号を受信すると、強制閉鎖を行う。
防災盤からの防災信号の受信と現地操作スイッチ及び盤面の非常開スイッチの操作を行うと、非常開信号としてカーテン盤へ出力し、カーテンを開放する。（非常開信号受信中：ON）
カーテンが全開したとき、カーテン盤からのカーテン全開信号を受信し窓を強制開放する。

3.需給電源

オペレーター制御盤	1φ2w　AC100V　500VA
電動駆動装置（WM20）	1φ2W　AC100V　3000VA

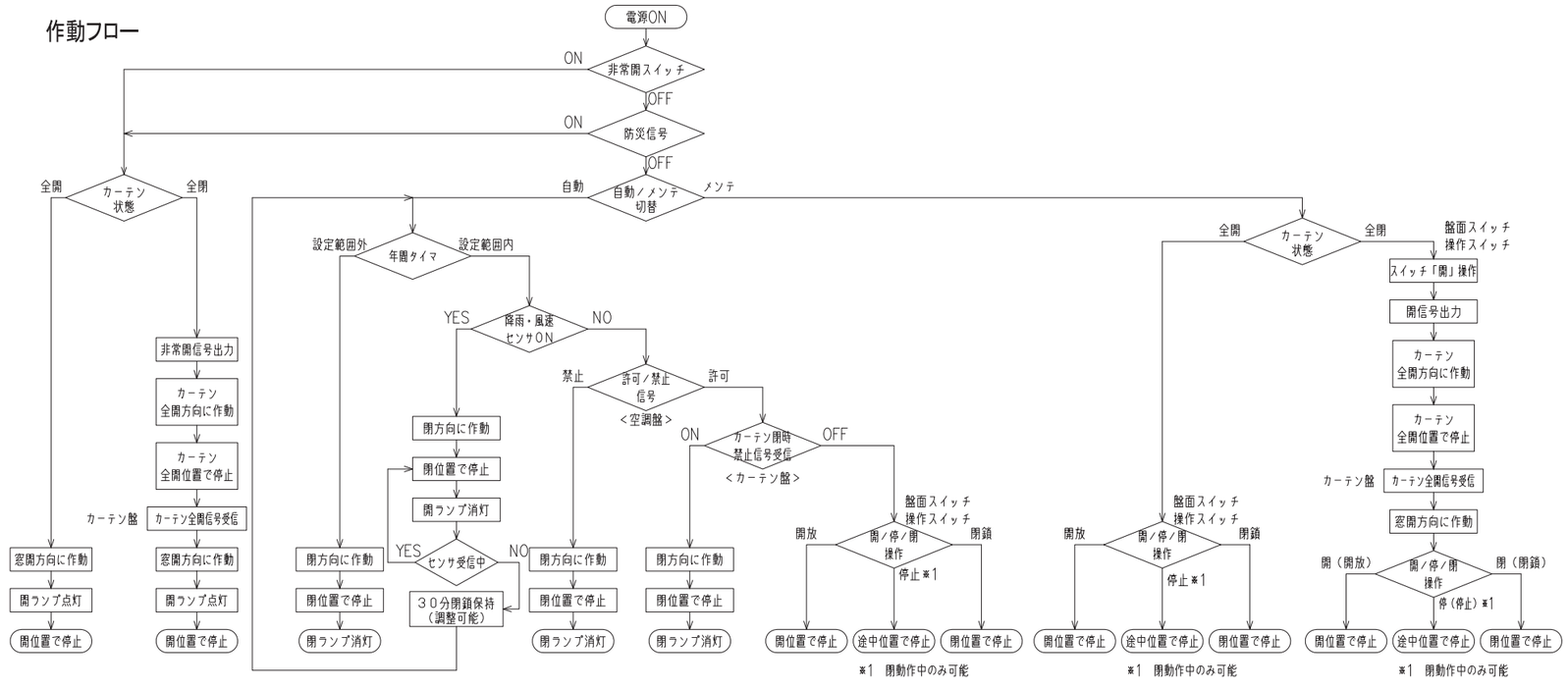
4.配線基準

・配線の一般基準事項「電気設備技術基準」及び「内線規程」とする。
・配線の耐熱基準は「新排煙設備技術指針1987年度版」及び「防火設備の電源と配線に関する指針・昭和57年度」による。
・電源線の線径は、電圧降下（5%以下）を考慮の上、電気設備工事にて決定して下さい。

5.その他

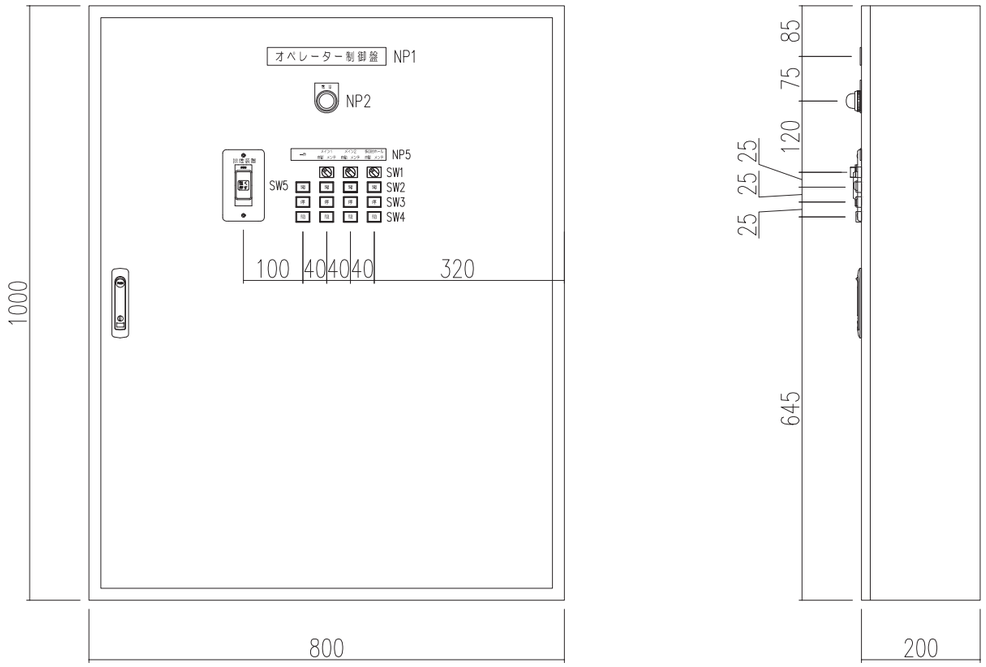
・電気設備工事（配管・配線・結線）一次側は電気設備工事にて行うものとする。
・電気設備工事（配管・配線）二次側は電気設備工事にて行うものとする。
・オペレーター制御盤・電動駆動装置・現地操作スイッチは水滴・結露等の影響がない場所に設置して下さい。
・現地操作スイッチは、避難通路側で水滴・結露等のない場所に設置して下さい。
・オペレーター制御盤は火災等の熱の影響が無い場所に設置して下さい。
・カーテン盤との信号取り合いは別途摺り合わせの上決定して下さい。

作動フロー

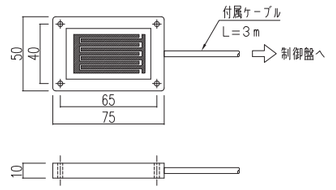


| | | |

オペレーター制御盤　姿図

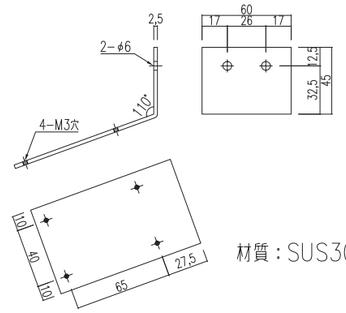


降雨センサー　姿図



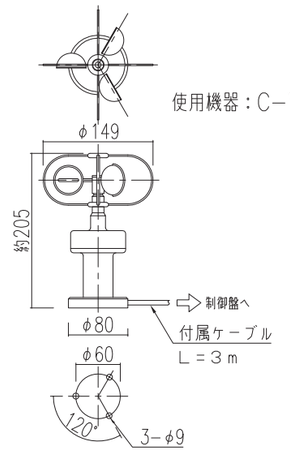
使用機器：AKI−1805

降雨センサーブラケット　姿図



材質：SUS304　t2.5

風速センサー　姿図



使用機器：C−V411K

※製作にあたっての注意
　盤面のスイッチ及びランプの配線は基板ー扉間に
　コネクターを使用すること。

部品リスト

記　号	内　容	記　入　文　字	寸　法	備　考
NP1	ﾈｰﾑﾌﾟﾚｰﾄ	ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ制御盤	30x200xt2	
NP2	ﾈｰﾑﾌﾟﾚｰﾄ	電源	φ30	ﾗﾝﾌﾟ（乳白）
NP3	ﾈｰﾑﾌﾟﾚｰﾄ	ﾒｲﾝ1　ﾒｲﾝ2　多目的ﾎｰﾙ 一斉 自動　ﾒﾝﾃ　自動　ﾒﾝﾃ　自動　ﾒﾝﾃ	20x120xt2	
SW1			φ16	切替
SW2	記銘板	開	φ16	照光式押釦（赤）
SW3	記銘板	停	φ16	押釦（白）
SW4	記銘板	閉	φ16	押釦（白）
SW5	SW−14	※盤面参照	70x120xt6.5	非常開ｽｲｯﾁ

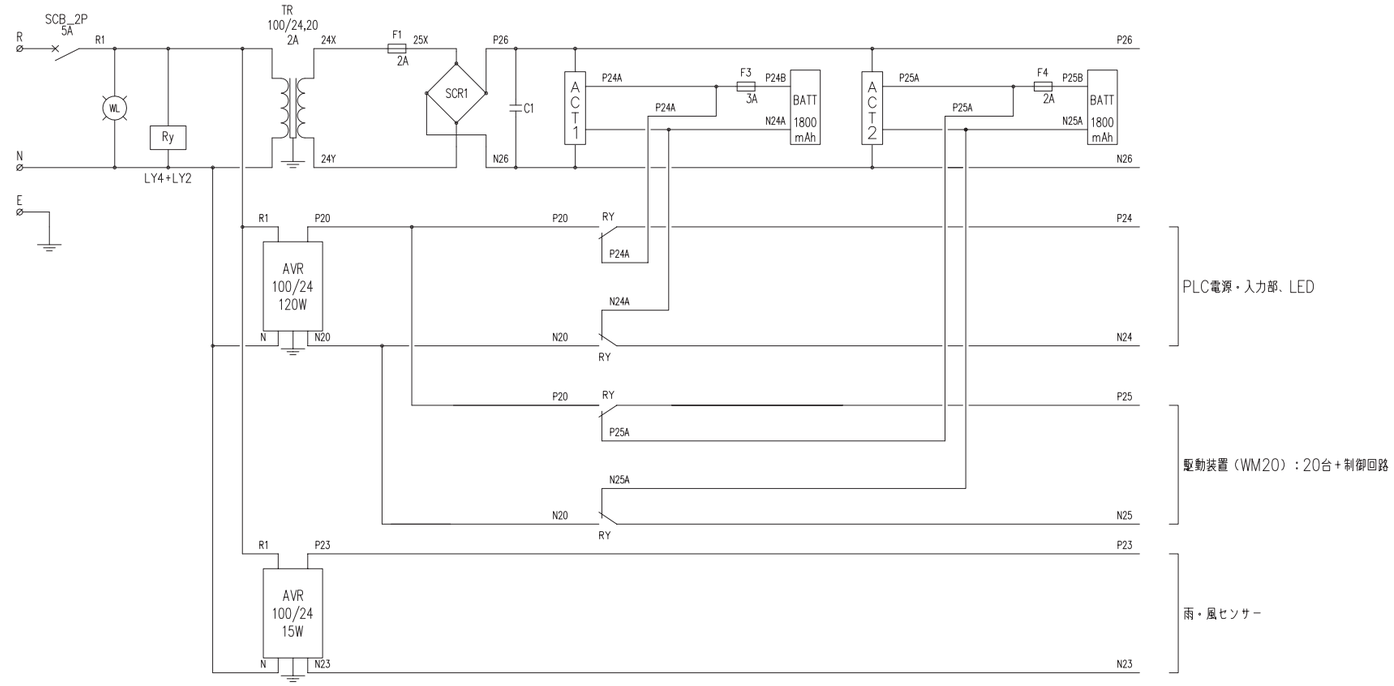
※ﾈｰﾑﾌﾟﾚｰﾄはｱｸﾘﾙ製、裏面より彫刻　文字黒色　下地白色

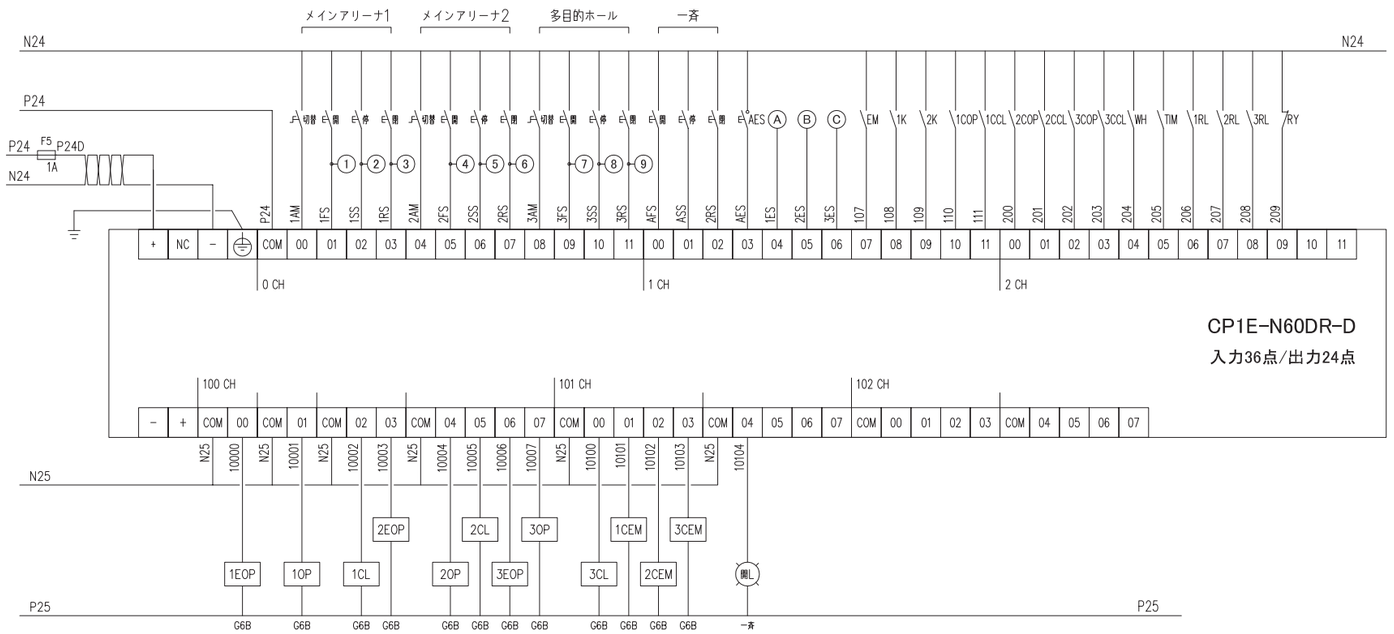
キャビネット仕様

形　式	壁掛型
ボディ	鋼板　t1.6
ド　ア	鋼板　t1.6
基　板	鋼板　t2.3
塗装色	クリーム（2.5Y9/1　半ツヤ）
鍵No.	No.200

| | | |

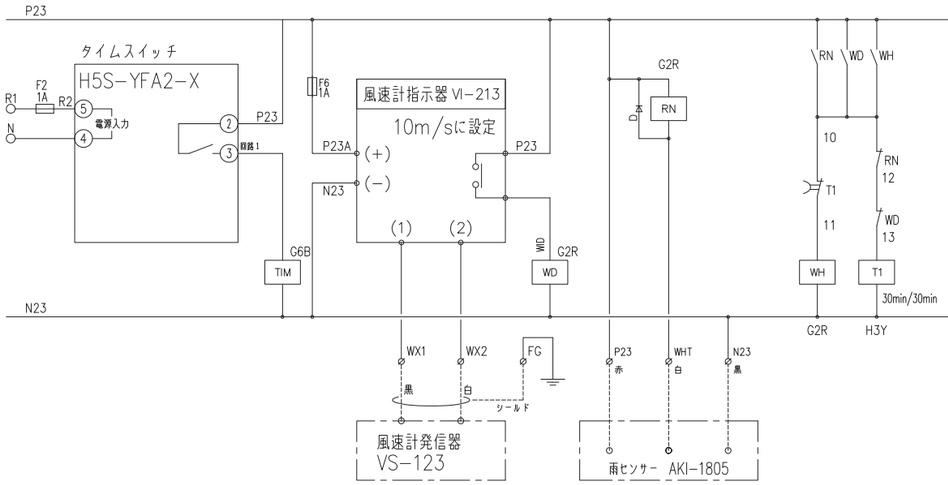
オペレーター制御盤　回路図_1

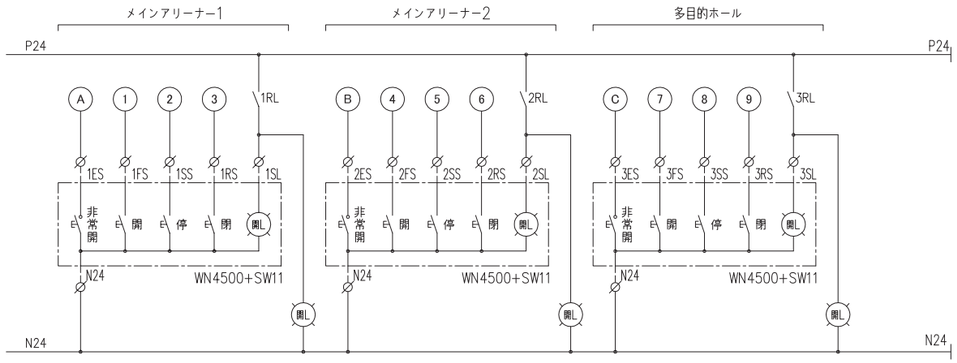


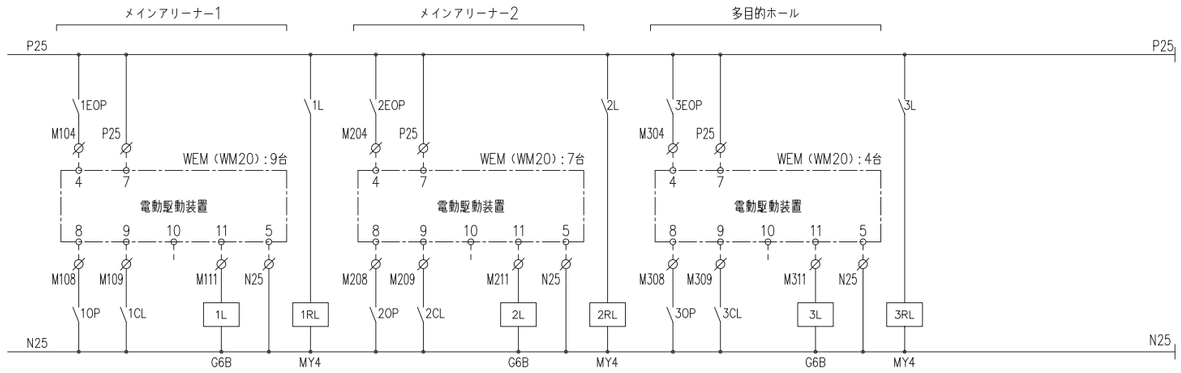


| | | |

オペレーター制御盤　回路図＿2

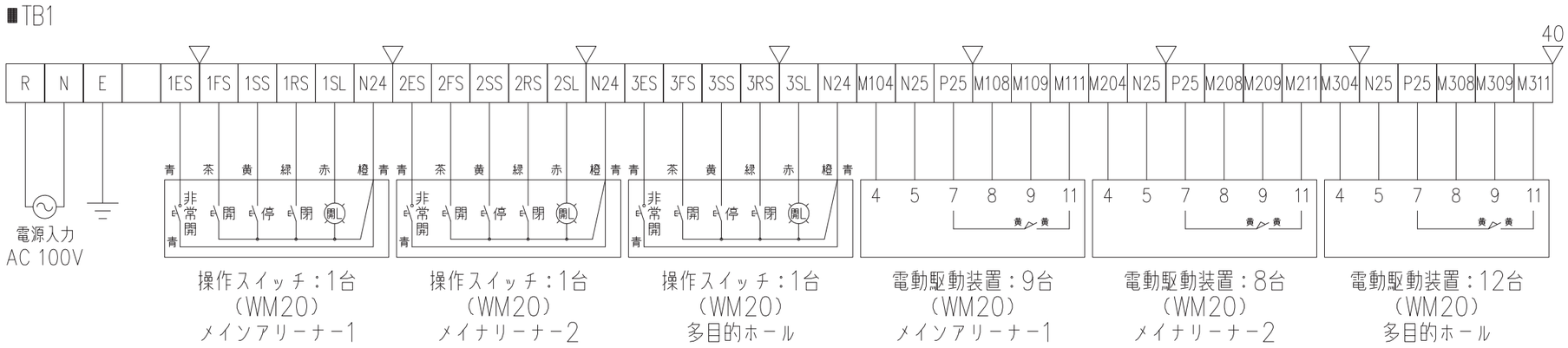


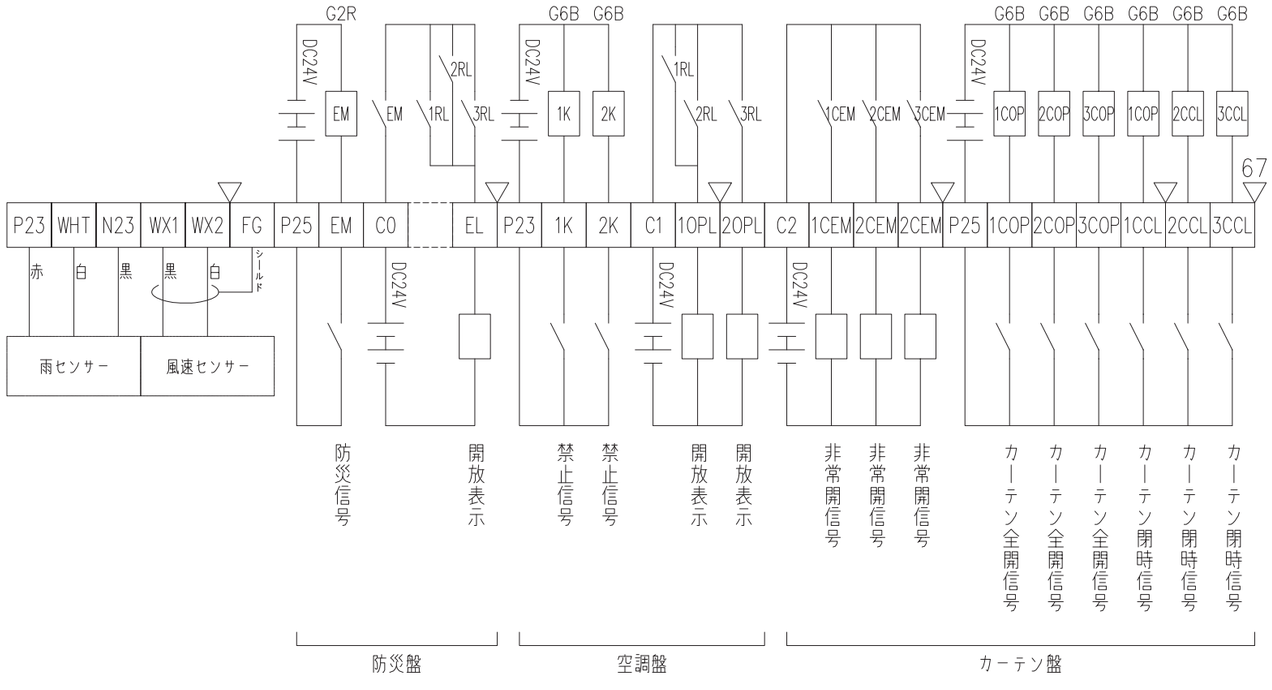




| | | |

オペレーター制御盤　端子台接続図





1K、1OPL・・・メインアリーナー1、2
2K、2OPL・・・多目的ホール

1＊＊＊・・・メインアリーナー1
2＊＊＊・・・メインアリーナー2
3＊＊＊・・・多目的ホール

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants
株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

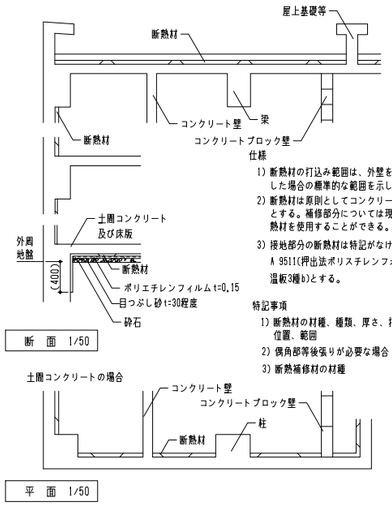
飯塚市新体育館等建設工事

オペレーターシステム図(6)

設計番号	図面番号
16779	A — 104

縮尺 1/ 原示　日付 2019・11・15　No

D1-01 断熱打込み範囲 1/40



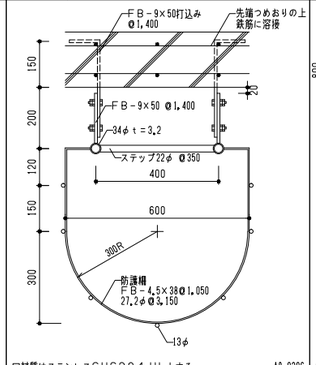
仕様

1) 断熱材の打込み範囲は、外壁を内断熱とした場合の標準的な範囲を示している。
2) 断熱材は原則としてコンクリート打込みとする。補修部分については現場発泡断熱材を使用することができる。
3) 接地部分の断熱材は特記がなければJIS A 9511(押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b)とする。

特記事項

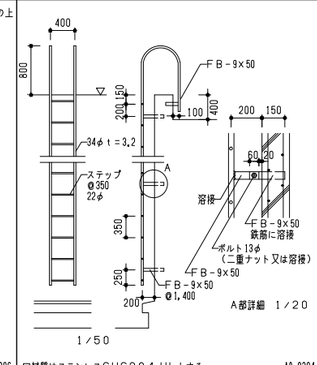
1) 断熱材の材種、種類、厚さ、打込み位置、範囲
2) 偶角部等後張りが必要な場合
3) 断熱補修材の材種

D1-02 タラップ防護柵（メインアリーナ） 1/10 1/50



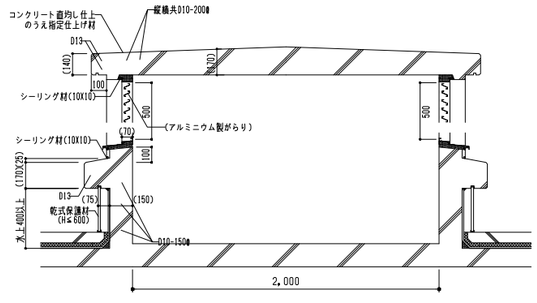
□材質はステンレスSUS304 HLとする A8-0206

D1-03 タラップ（サブアリーナ） 1/20 1/50

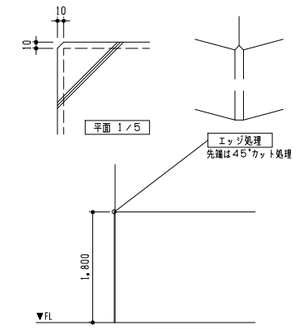


□材質はステンレスSUS304 HLとする A8-0204

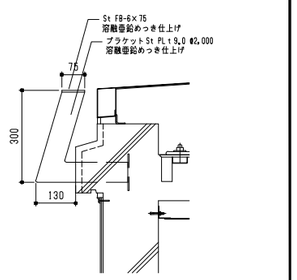
D1-04 換気塔-A 1/20



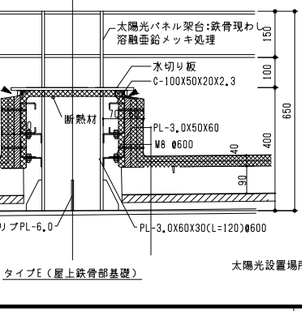
D1-05 RC柱壁コーナー面取り 1/5 1/50



D1-06 照明取り付け金具 (AC#01上部) 1/10



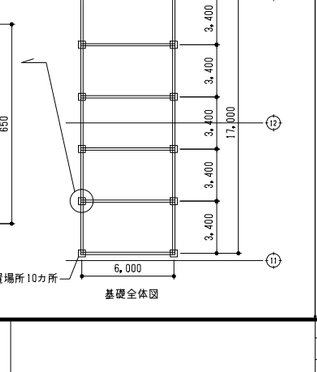
D1-07 ルーフドレン廻り（横型・外ぐい・保護防水・外断熱） 1/20



※縦どいの仕様は特記仕様書による。
※縦どいの断熱材範囲も同様とする。
※屋根廻り共通事項「A2-0101」を参照すること。 A2-0203

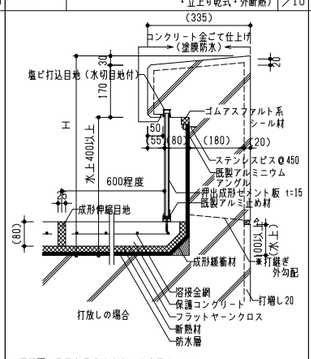
※参考：国土交通省建築工事標準詳細図（平成28年度版）5-32-1

D1-08 丸環 1/10



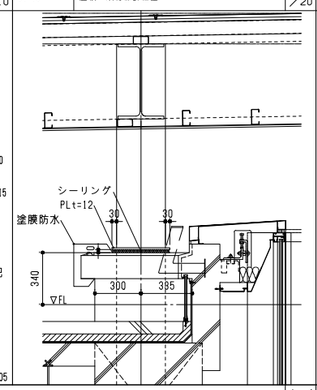
□ 想定荷重：300kg程度
平面 1/10 A8-0201

D1-09 屋上パラペット（保護防水・コンクリート笠木・立上り乾式・外断熱） 1/10

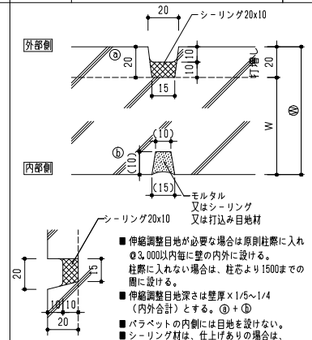


※屋根廻り共通事項「A2-0101」を参照すること。
※打ち継ぎする場合は、水上スラブ天端100mmで打継ぐこと。 A2-0305

D1-10 屋根・鉄骨部詳細図 1/20

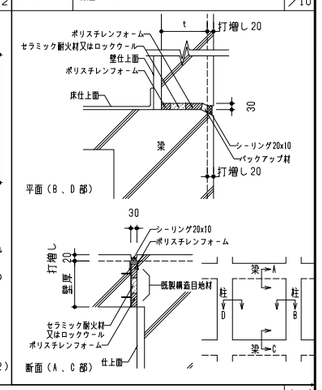


D1-11 コンクリート外壁目地 1/2



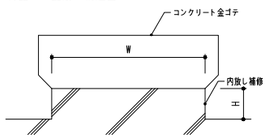
■ 伸縮調整目地が必要な場合は原則柱際に入れ@3,000以内毎に壁の内外に設ける。柱際に入れない場合は、柱芯より1500までの間に設ける。
■ 伸縮調整目地深さは壁厚×1/5～1/4（内外合計）とする。ⓐ＋ⓑ
■ パラペットの内側には目地を設けない。
■ シーリング材は、仕上げありの場合は、ポリサルファイド系(PS-2)とし、仕上げなしの場合は、変成シリコーン系(MS-2)とする。

D1-12 構造スリット 1/10

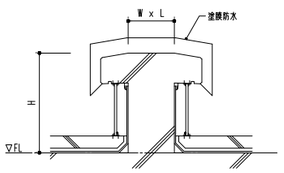


D1-13 屋上機械基礎 1/20

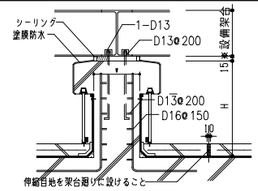
※特記ない配筋は構造図による



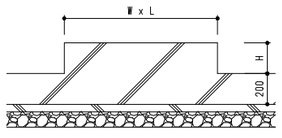
タイプA（屋内）



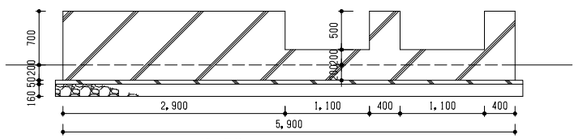
タイプB（屋外・防水立上げ）



伸縮目地を架台跨いで設けること
タイプC（設備架台）



タイプD（屋外）

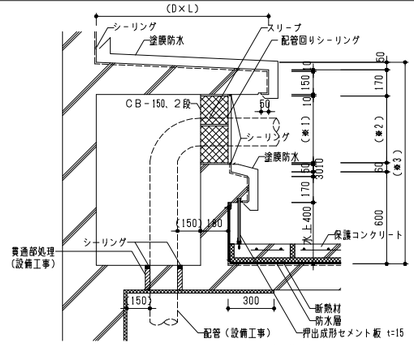


タイプE（屋外）

階	室名	タイプ	数	寸法 W x L x H
1	機械室①	A	1	2600 X 5500 X H150
	機械室①	A	1	3300 X 6600 X H150
	機械室①	A	1	500 X 1800 X H150
	機械室②	A	1	3300 X6600 X H150
	機械室②	A	1	500 X 1800 X H150
	機械室③	A	2	3000 X 6000 X H150
	機械室③	A	1	800 X 2000 X H300
	機械室④	A	1	900 X 3700 X H300
	機械室④	A	1	500 X 500 X H300
	機械室④	A	1	700 X 1200 X H300
	機械室④	A	1	450 X 600 X H300
	機械室⑤	A	1	500 X 1800 X H150
	機械室⑥	A	6	500 X 500 X H150
	機械室⑥	A	1	1000 X 1000 X H150
	機械室⑥	A	2	1050 X 700 X H300
	屋外機器設置場所	E	1	3400 X 5900 X H700
	屋外機器設置場所	D	8	700 X 2900 X H150
	屋外機器設置場所	D	1	500 X 1800 X H150
	屋外機器設置場所	D	1	500 X 1100 X H150
3	屋上機器スペース	B	2	300 X 9200 X H650
	屋上機器スペース	B	3	300 X 1600 X H650
	屋上機器スペース	C	4	300 X 5100 X H650
	屋上機器スペース	C	3	300 X 1800 X H650
	屋上機器スペース	C	7	300 X 500 X H650
	屋上機器スペース	B	1	1700 X 1000 X H650

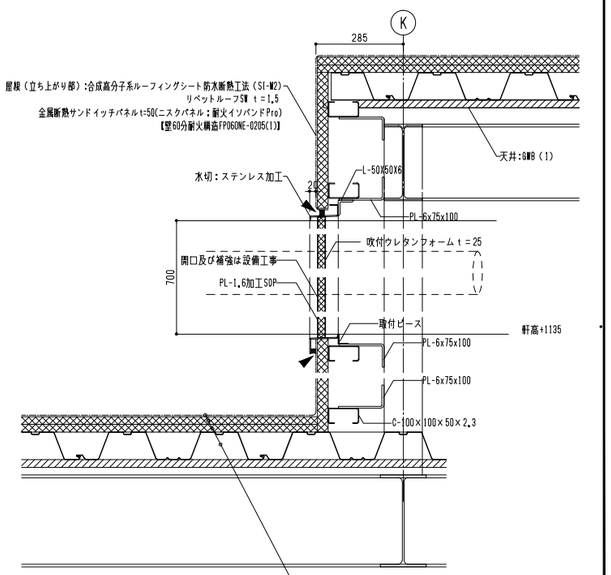
D1-14 メインアリーナ屋上機械基礎 1/10

D1-15 屋上配管取出口-A,-B 1/20

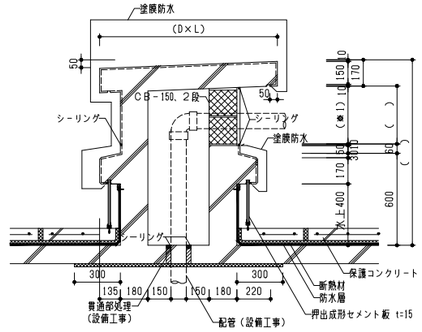


※配筋は構造図による
(※1)：=Min700＝点検口(600×600以上)を設けること。(※2)：屋上配管取出口-A=700、B=500
(※3)：屋上配管取出口-A=1580、B=1380 A2-0501

D1-16 配管取出口-D 1/10



D1-17 屋上配管取出口-C 1/20



※配筋は構造図による
(※1)：=Min700＝点検口600×600以上を設けること。 A2-0502

設計者					法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎		林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

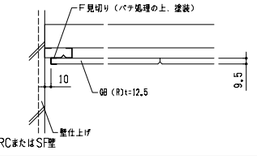
飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

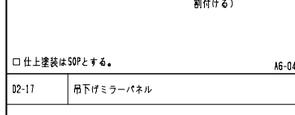
株式会社 梓設計 九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 105
部分詳細図(1)	縮尺 1/A1:50 A3:100	日付 2019・11・15

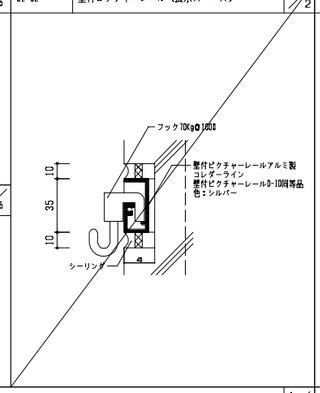
D2-01 天井：各ボード 1/5



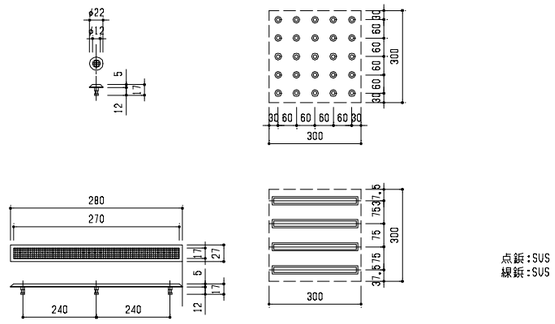
D2-01' 天井：各ボード・RC垂れ壁 1/5



D2-02 壁付ピクチャーレール（展示スペース） 1/2

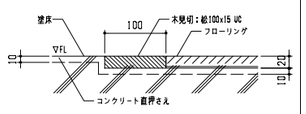


D2-03 誘導点字SUS鋲（UNIONアーキズムシリーズ同等品） 1/5 1/10

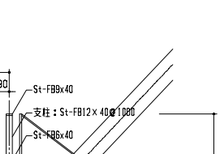


部品図 1/5　　断面図 1/10

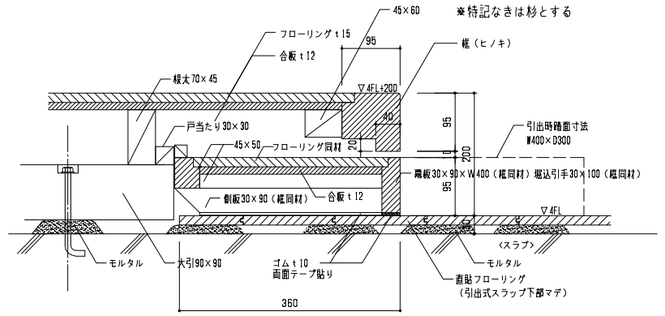
D2-04 床見切り（塗床-フローリング） 1/5



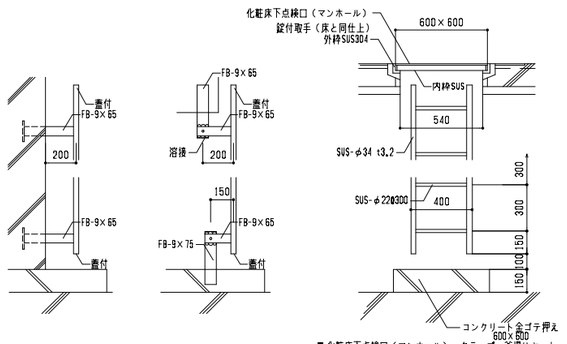
D2-04' 床見切り（塗床-ビニル床シート、塗床-塗床） 1/5



D2-05 書割床踏込 引出式ステップ 1/5

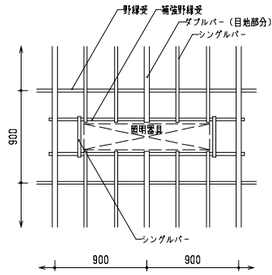


D2-06 床下点検口・タラップ 1/20



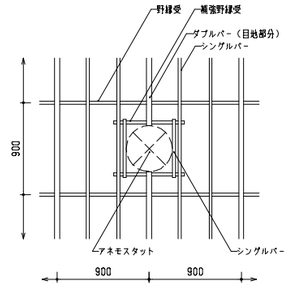
■化粧床下点検口（マンホール）・タラップ・蓋端はセット。
材質は　スチール溶融亜鉛メッキ仕上とする。

D2-07 照明器具取付け開口補強【A】 1/30



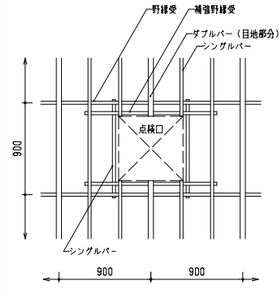
A6-0102

D2-08 アネモスタット取付け開口補強【B】 1/30



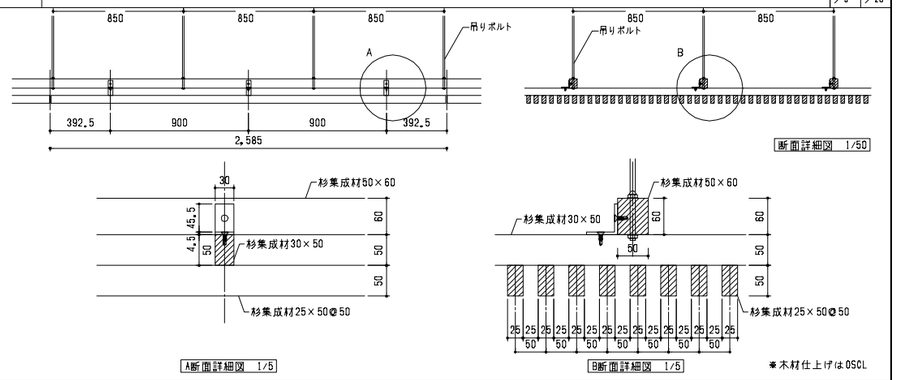
A6-0103

D2-09 天井点検口取付け開口補強【C】 1/30

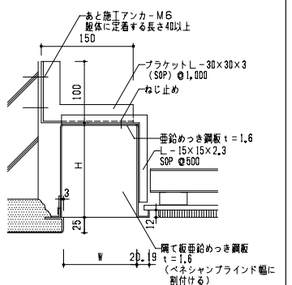


A6-0104

D2-10 木ルーバー詳細図 1/5 1/20



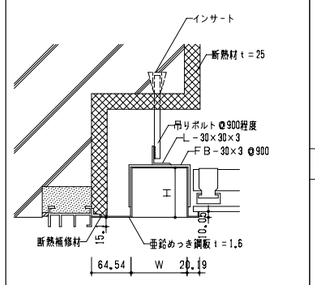
D2-11 カーテンボックス：スチール製 1/5



□仕上塗装はSOPとする。

A6-0404

D2-12 カーテンボックス：スチール製 1/5

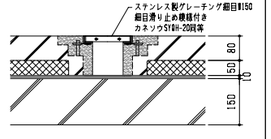


断熱材打込みの場合

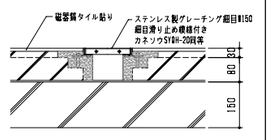
□仕上塗装はSOPとする。

A6-0403

D2-13 屋上塔屋廻グレーチング 1/10

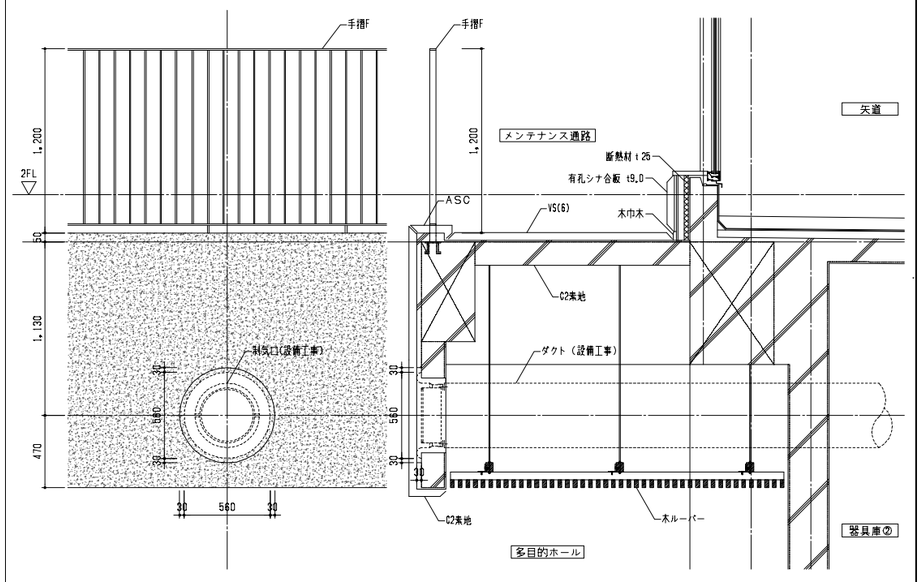


D-14 北側デッキグレーチング 1/10

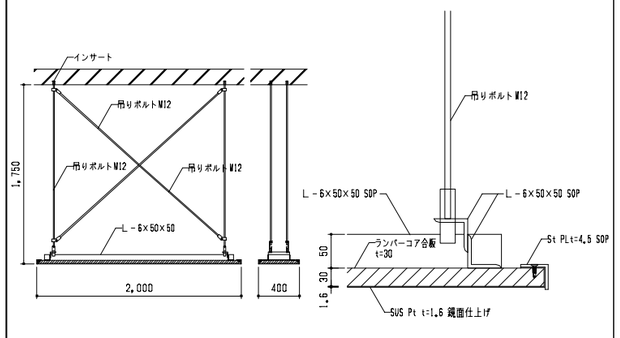


D2-15 メンテナンス用通路（メインアリーナ・トラス部） 1/20

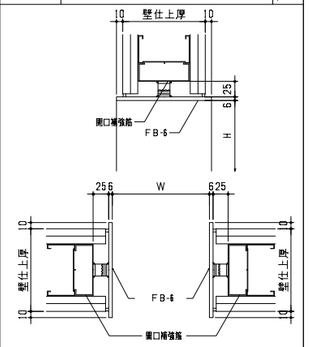
D2-16 多目的ホールメンテナンス通路部詳細図 1/20



D2-17 吊下げミラーパネル 1/5 1/30



D2-18 一方枠・三方枠（FBタイプ） 1/5



飯塚新体育館

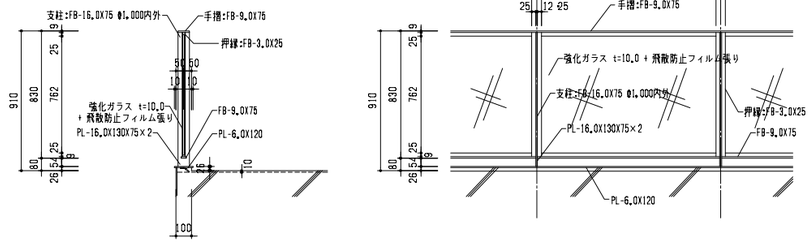
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 幸	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 106	
部分詳細図(2)	縮尺 1/1:50 A3:1/100	日付 2019・11・15	

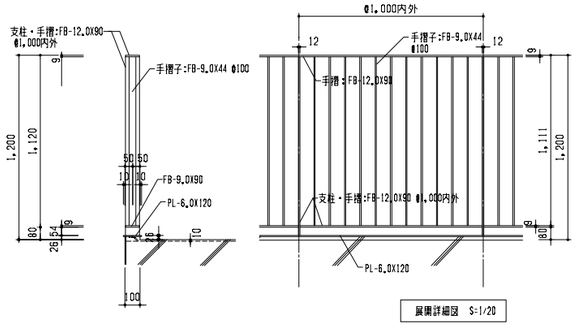
D3-01 手摺A(メインアリーナ) 1/20



断面詳細図 S=1/20　展開詳細図 S=1/20

*注 記
■鉄部は、全て水性シリコン皮脂軟化対策鉄部塗料とする。

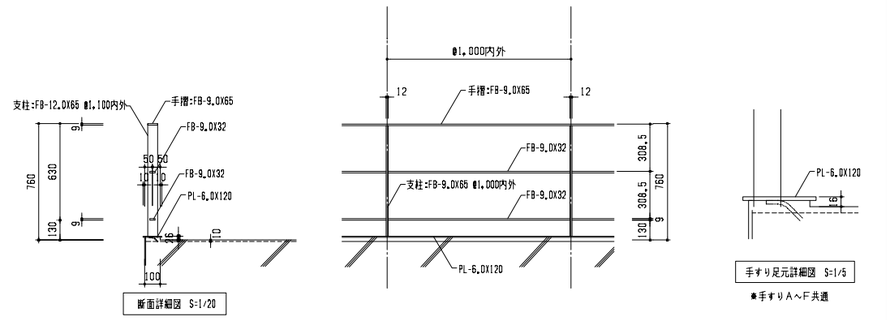
D3-02 手摺B(メインアリーナ) 1/20



断面詳細図 S=1/20　展開詳細図 S=1/20

*注 記
■鉄部は、全て水性シリコン皮脂軟化対策鉄部塗料とする。

D3-03 手摺C(メインアリーナ) 1/5 1/20

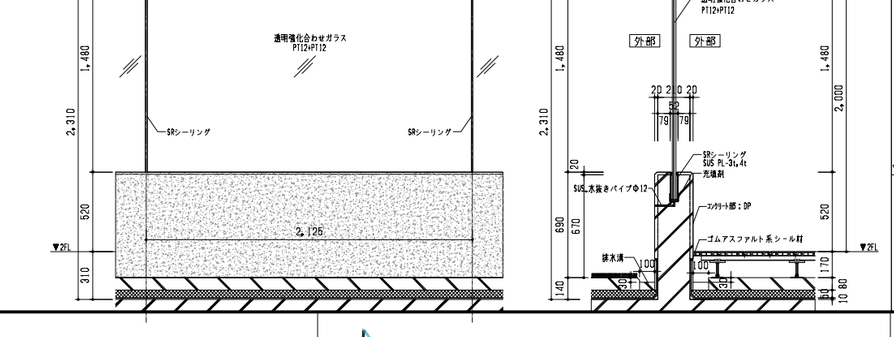


断面詳細図 S=1/20

*手すりA～F共通

*注 記
■鉄部は、全て水性シリコン皮脂軟化対策鉄部塗料とする。

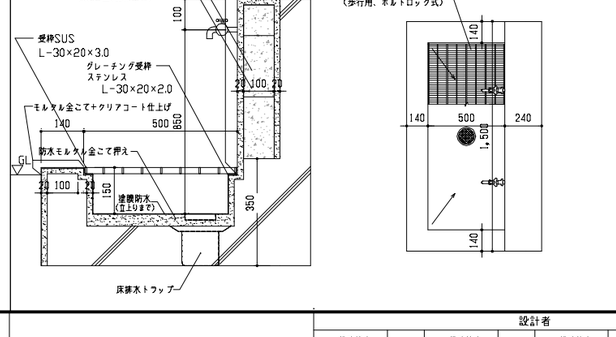
D3-04 手摺D(メンテナンス通路) 1/20



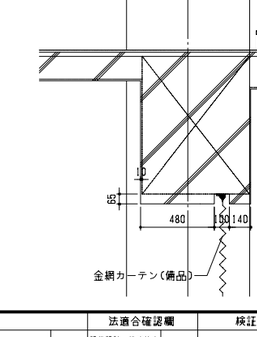
断面詳細図 S=1/20　展開詳細図 S=1/20

*注 記
■鉄部は、全て水性シリコン皮脂軟化対策鉄部塗料とする。

D3-05 手摺E,F(多目的ホール) 1/20

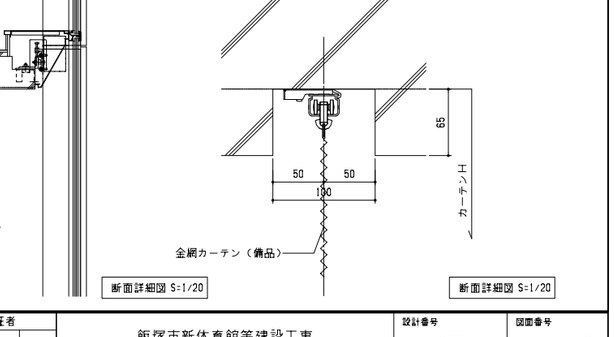


D3-06 手摺G(RC壁取付部) 1/20



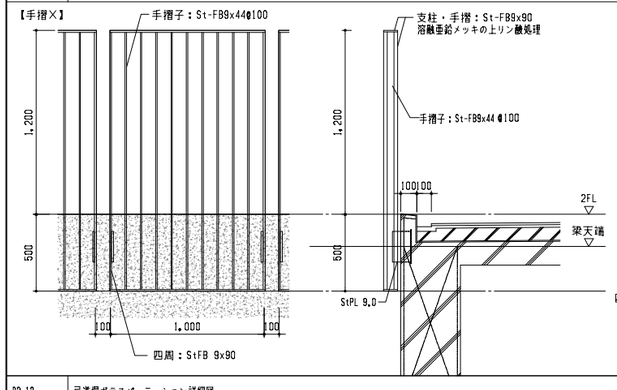
*注 記
■鉄部は、全て溶融亜鉛メッキの上リン酸処理とする。

D3-07 弓道場人工木デッキ断面詳細図 1/5



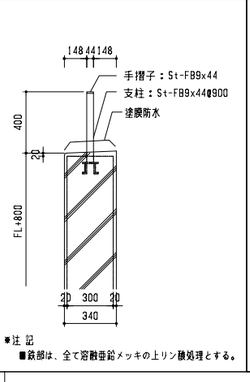
ウッドデッキ FL±0・H=100
鋼製床下地組
支持脚：勾配用デッキ支持脚 @900
根太鋼：29×40×67×t1.6 @500
仕 上：合成木材サニーデッキ
NSW 1995×160×t28
コイン落下防止・帯電防止タイプ
同等品

D3-08 手摺X,Y(南側外部階段) 1/20



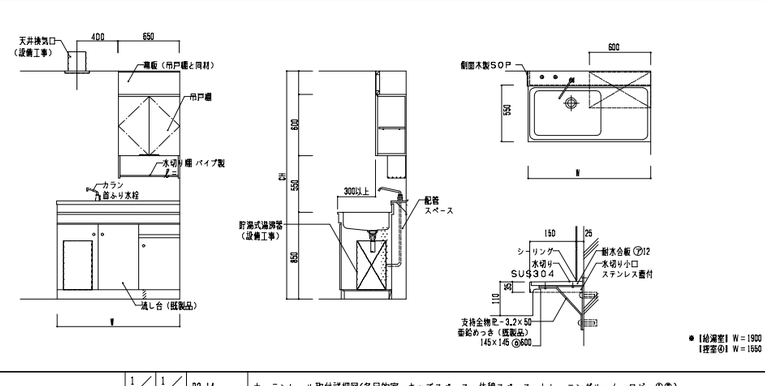
*注 記
■鉄部は、全て溶融亜鉛メッキの上リン酸処理とする。

D3-09 手摺Z(南側外部階段) 1/20

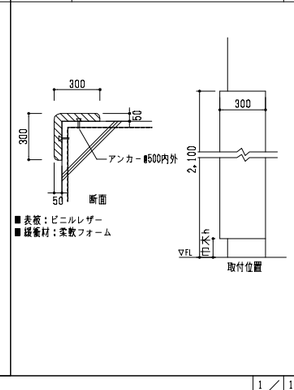


*注 記
■鉄部は、全て溶融亜鉛メッキの上リン酸処理とする。

D3-10 流し台 1/10 1/30



D3-11 防護マット 1/20



■表皮：ビニルレザー
■緩衝材：柔軟フォーム

D3-12 弓道場ガラスパーテーション詳細図 1/20

D3-13 足洗い 1/10 1/20

D3-14 カーテンレール取付詳細図(多目的室・キッズスペース・休憩スペース・トレーニングルーム・ロビー⑩⑫) 1/5 1/20

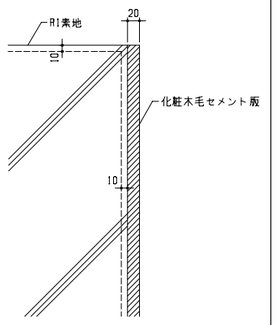
断面詳細図 S=1/20　断面詳細図 S=1/20

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

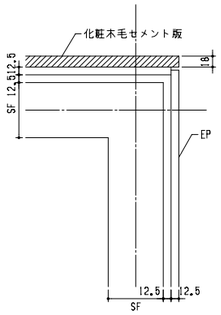
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 107
部分詳細図（3）	縮尺 1/A1:50 A3:100	日付 2019・11・15

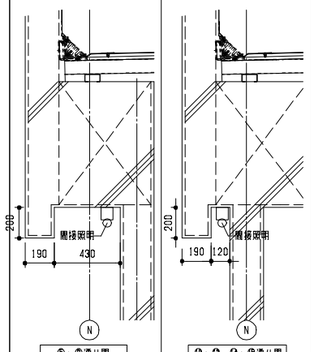
D4-01 壁コーナー部詳細(木毛セメント版・RC壁部) 1/5



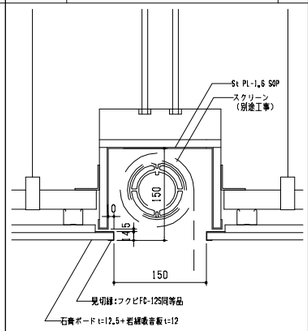
D4-02 壁コーナー部詳細(GB(R)・RC壁部) 1/5



D4-04 屋外周接照明詳細図 1/20

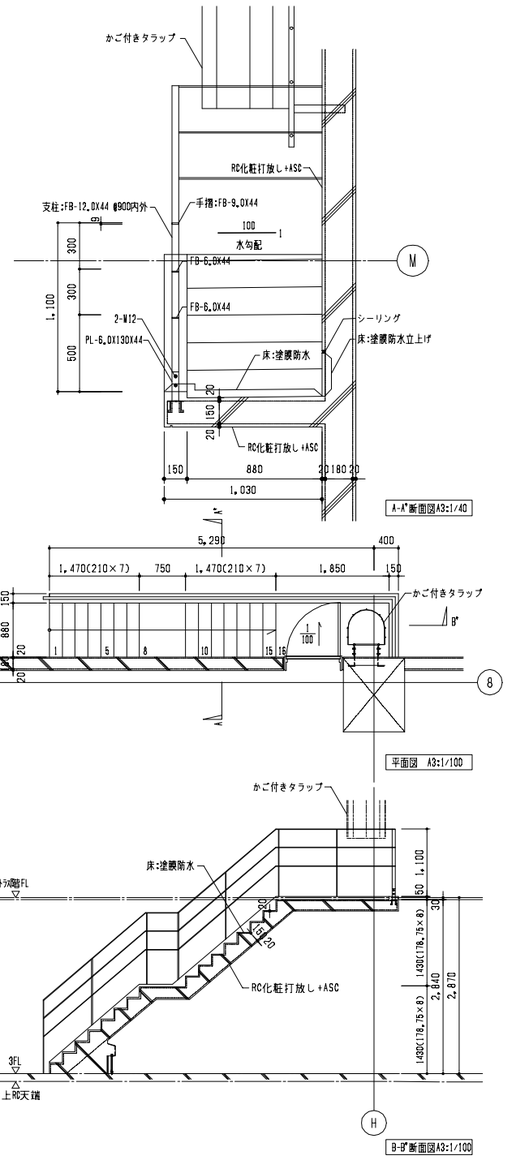


D4-07 天井スクリーンボックス 1/5

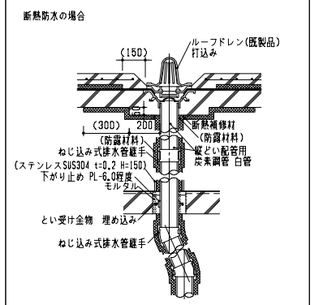


■印及び■は、天井伏図による。

D4-03 メンテナンス用屋外階段 1/20 1/50

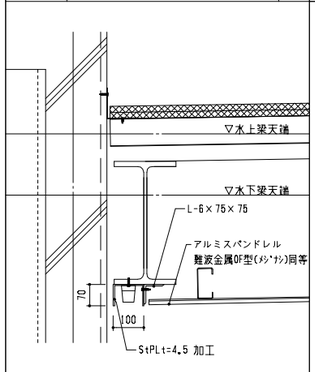


D4-05 ルーフドレン廻り(内どい・保護防水・外断熱) 1/20

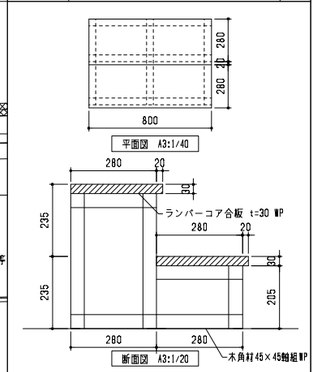


※参考:国土交通省建築工事標準詳細図【平成28年度版】5-32-1

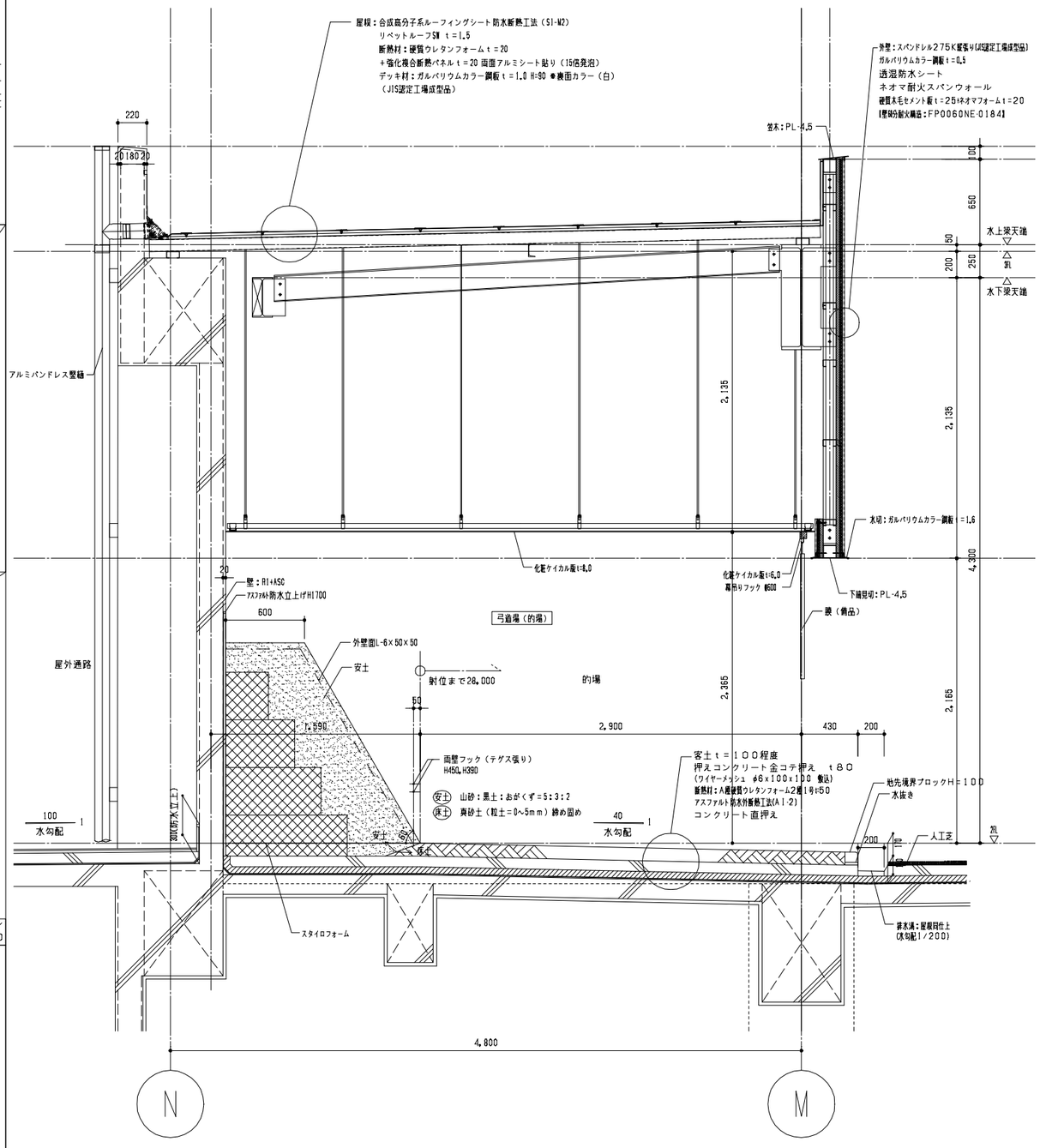
D4-08 大庇照明取り付け部詳細図 1/10



D4-09 メインアリーナ点検用歩廊段床詳細図 1/10

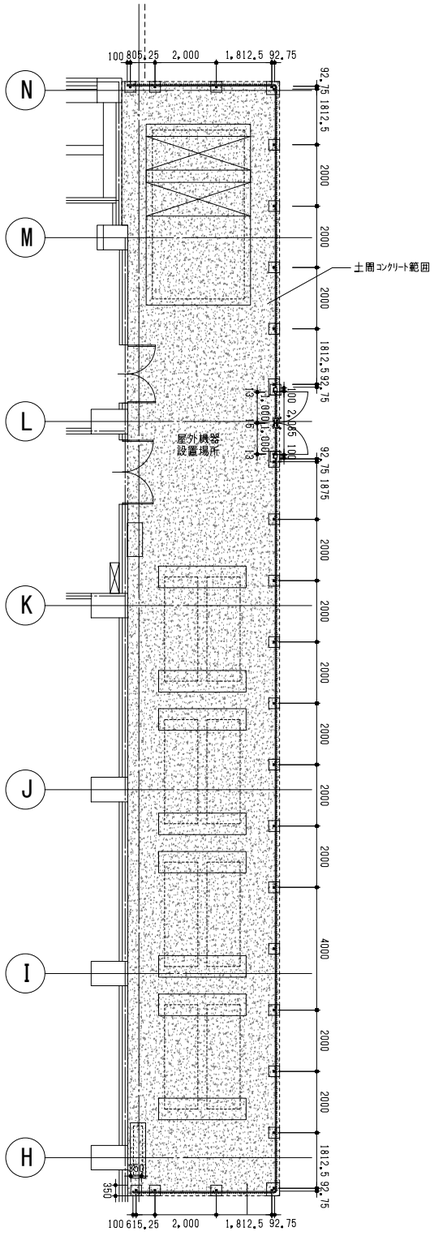


D4-06 的場詳細図 1/20

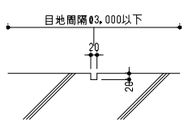


飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号	設計者					法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 108
			一級建築士 第28D187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子		設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		部分詳細図(4)	縮尺 1/A1:50 A3:100	日付 2019・11・15

目隠しフェンス全体平面図

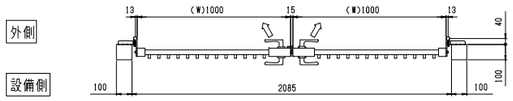


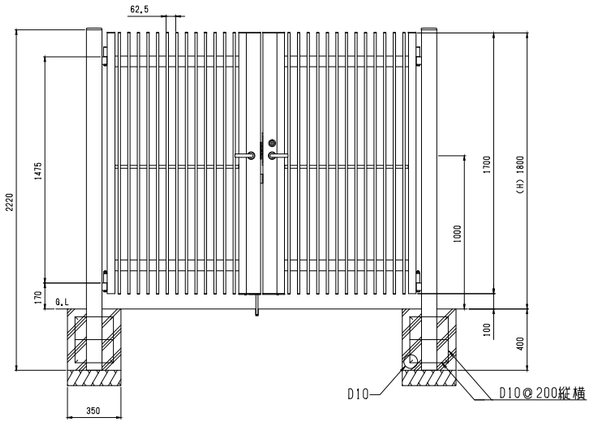
土間コンクリート誘発目地 1/10



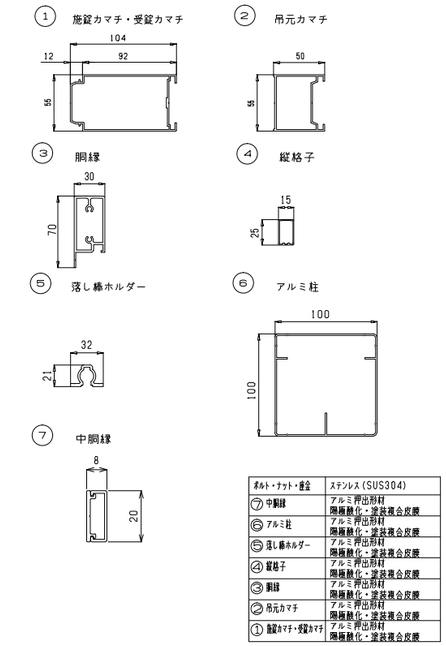
門扉詳細図 1/3 1/10 1/20

据付図 （S＝1／20）



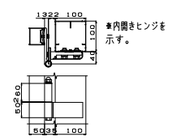


主要部材断面（S=1/3）

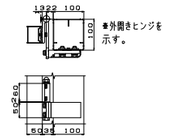


ボルト・ナット・座金	ステンレス(SUS304)
⑦ 中胴縁	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
⑥ アルミ柱	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
⑤ 落し棒ホルダー	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
④ 縦格子	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
③ 胴縁	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
② 吊元カマチ	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
① 施錠カマチ・受錠カマチ	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜

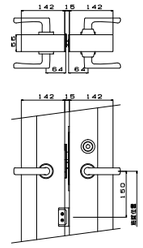
吊元上側詳細図（S＝1／10）



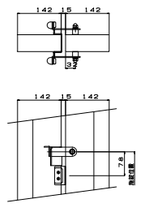
吊元上側詳細図（S＝1／10）



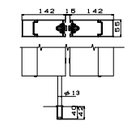
シリンダー錠詳細図（S＝1／10）



打断錠詳細図（S＝1／10）

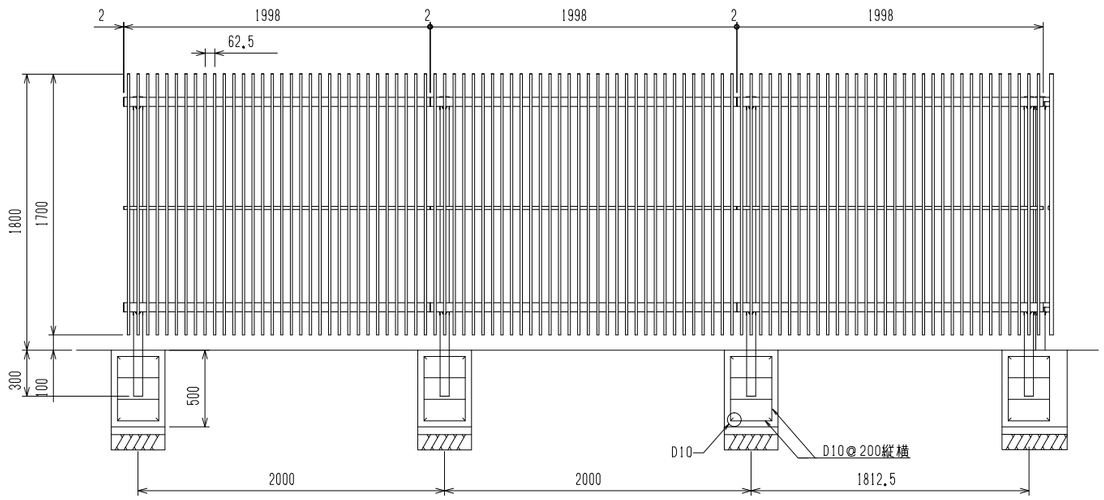


落し棒詳細図（S＝1／10）



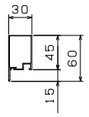
目隠しフェンス詳細図 1/4 1/20

据付図 （S＝1／20）

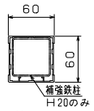


主要部材断面図

① 胴　縁（S=1／4）



② 自由支柱（S=1／4）

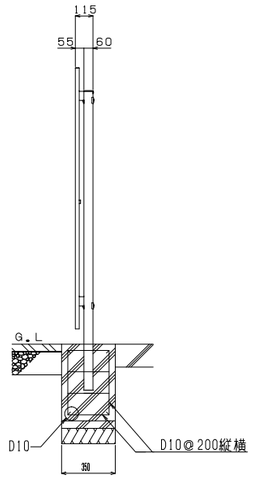


③ 縦　格　子（S=1／4）



④ 中　胴　縁（S=1／4）





④ 中　胴　縁	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
③ 縦　格　子	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
② 自由支柱	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜
① 胴　縁	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

部分詳細図(6)　参考図

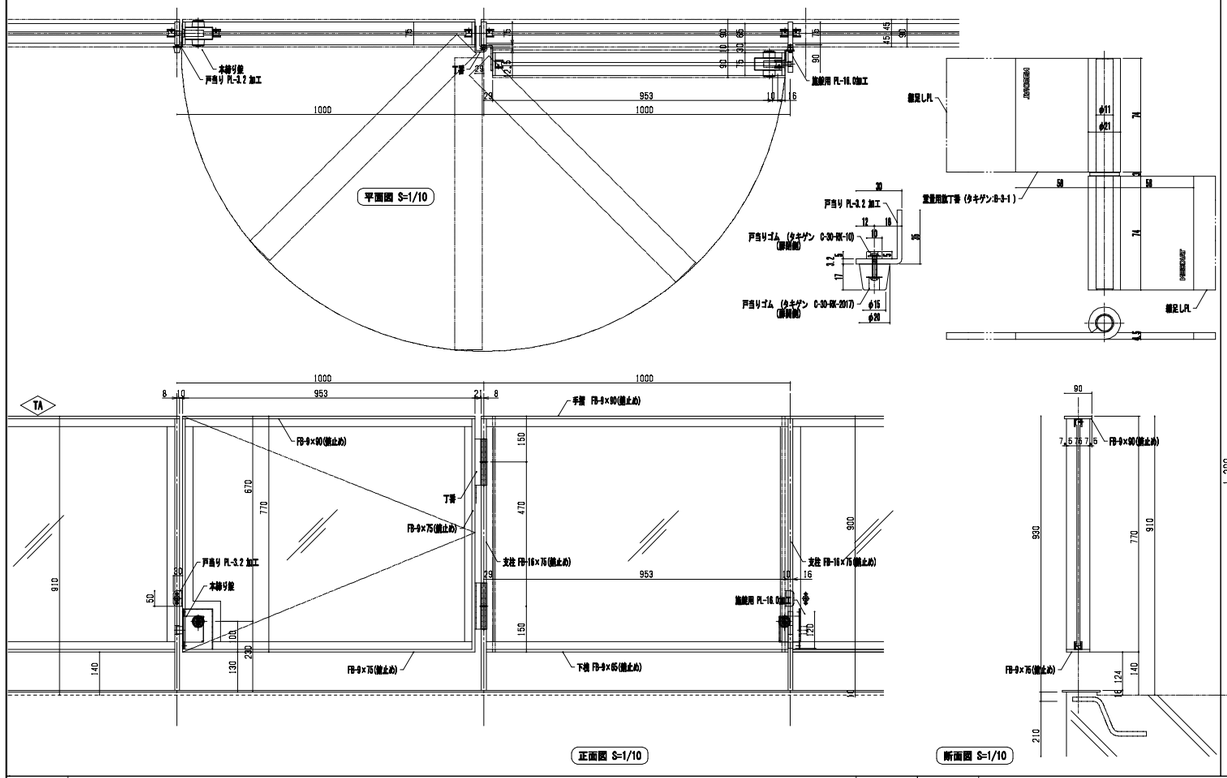
設計番号 16779

図面番号 A — 110

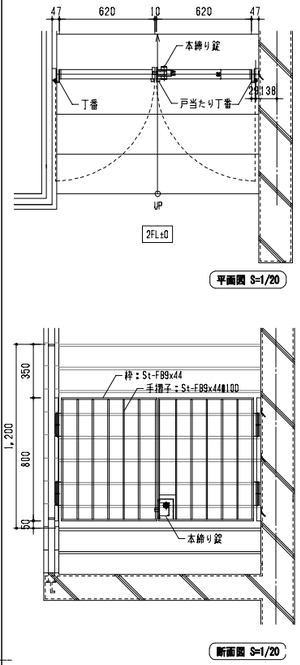
縮尺 1／A1:50 A3:100

日付 2019・11・15

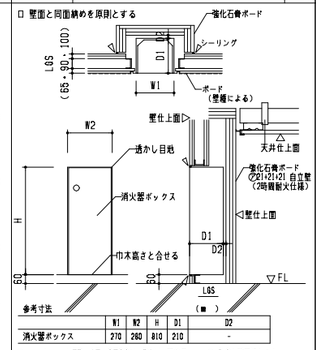
D6-2-01 メインアリーナ手摺扉詳細図 1/10



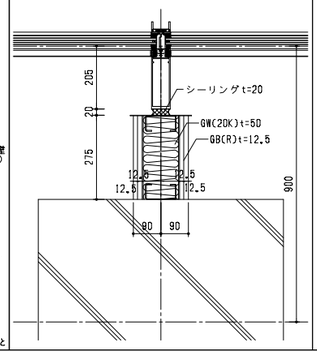
D6-2-02 階段室の管理用扉詳細図 1/20



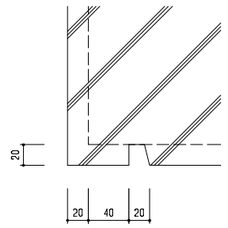
D6-2-03 全埋込型消火器ボックス（既製品） 1/20



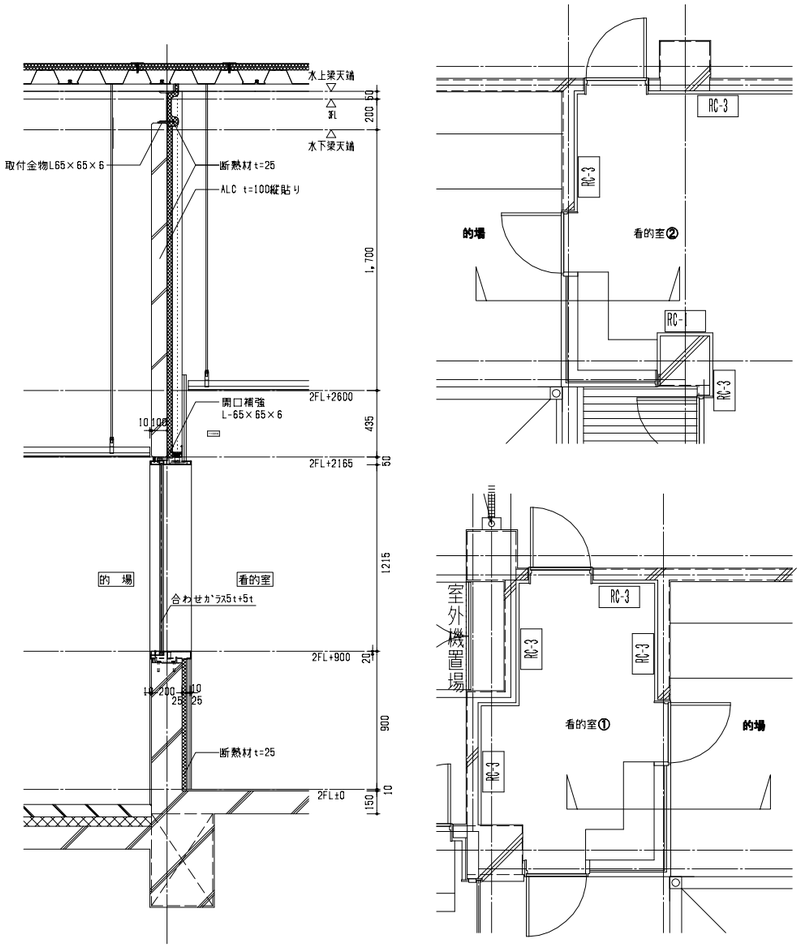
D6-2-04 ACW・RC柱周過音壁詳細図 1/10



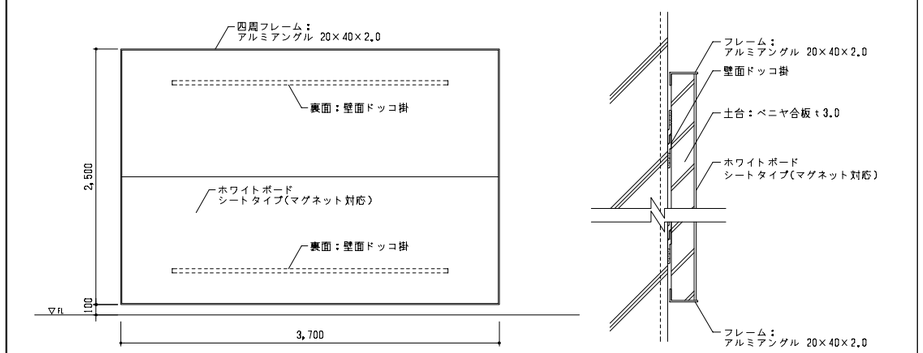
D6-2-05 外部RC端部水切り断面詳細図 1/3



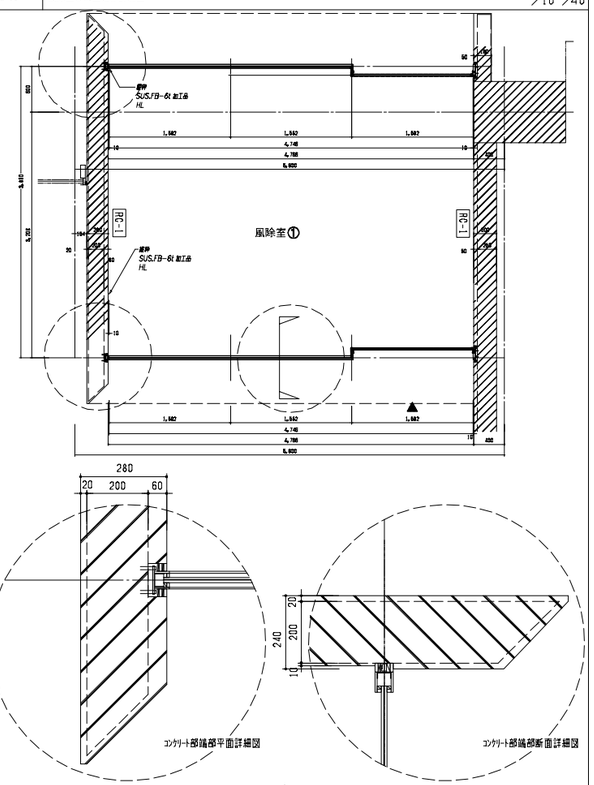
D6-2-11 看的室・的場界壁(ALC部)詳細図 1/20



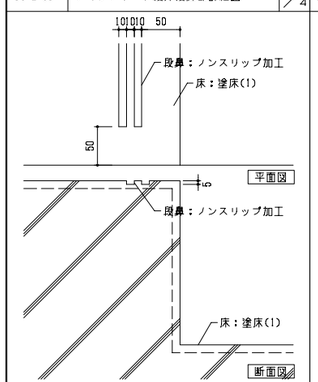
D6-2-09 メインアリーナ手摺扉詳細図 1/30 1/4



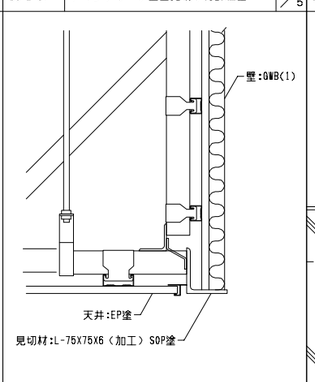
D6-2-10 風除室①RC壁端部詳細図 1/10 1/40



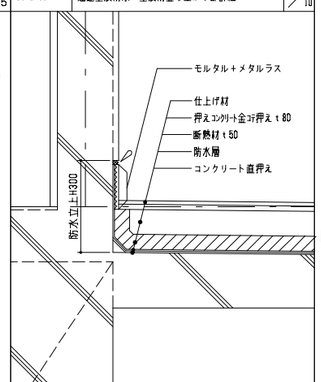
D6-2-06 メインアリーナ段床段鼻部詳細図 1/4



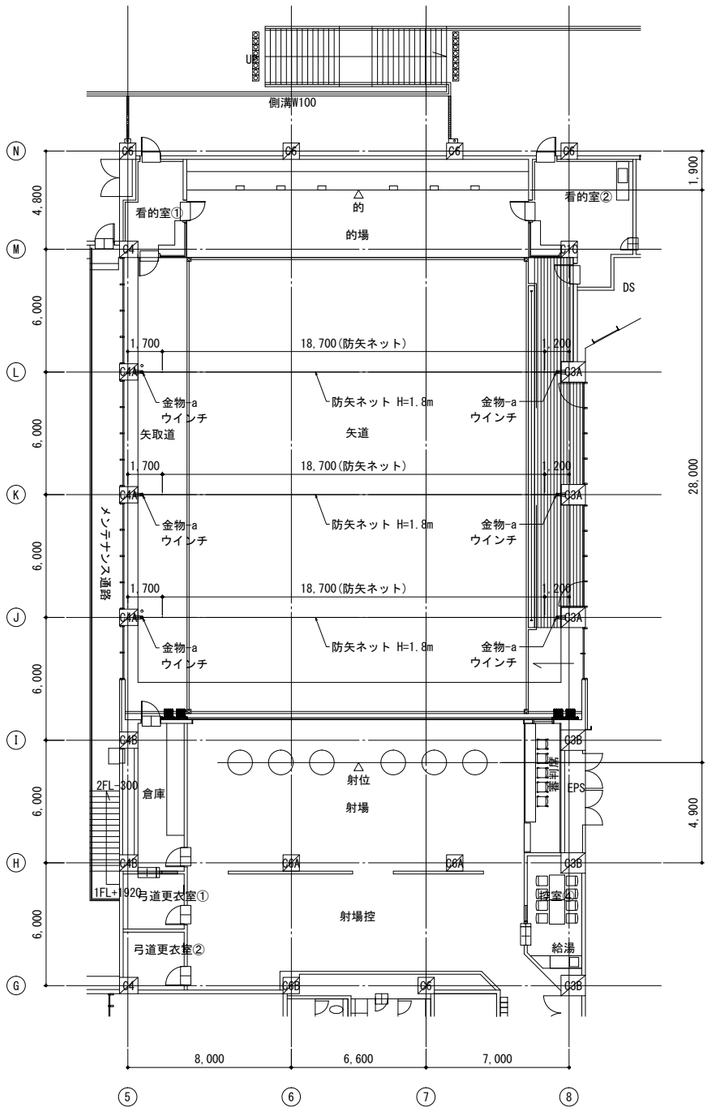
D6-2-07 メインアリーナ壁面見切り材詳細図 1/5



D6-2-08 超速塗膜防水・塗膜防立ち上がり部詳細 1/10



飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事 部分詳細図(6-2)	設計番号 16779 縮尺 1/A1:50 A3:100 日付 2019・11・15	図面番号 A −110-2
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子				



防矢ネット 平面図 (S=1/150)

【設計条件】
設計風速　15m/s （昇降式） 地表面粗度区分Ⅲ
速度圧 220.2N/㎡
ネット高　H=5.4m～3.6m（ネット取付高 GL+11.5m）
垂れネットの寸法　H=1.8m　L=18.7m
ワイヤ間口寸法　L=20.7m　ワイヤのたわみ量600mm
ネットの重量　ネット充実率　0.65

防矢ネット　全体重量(1枚あたり)

ネット重量	1.8m×18.7m×610g/㎡/1000	
周囲テープ	(1.8m+18.7m) ×2×70g/1000	
ワイヤφ14	0.65kg/m×30.75m	

防矢ネット単位重量
43.4Kg×9.80665/18.7m=22.75N/m　→　25N/m

【ワイヤ張力　長期：固定荷重】
防矢ネット単位重量
T=WL^2/(8×D)=0.025*20.7^2/8/0.6=2.25KN　=20.53Kg
=2.87kg
=20kg

【ワイヤ張力　短期：風時】
W=q×Cf×A×φ/L=220.2×1.4×1.8×18.7×0.65/20.7/1000=0.326KN/m
T=WL^2/(8×D)=0.326*20.7^2/8/0.6=29.1KN

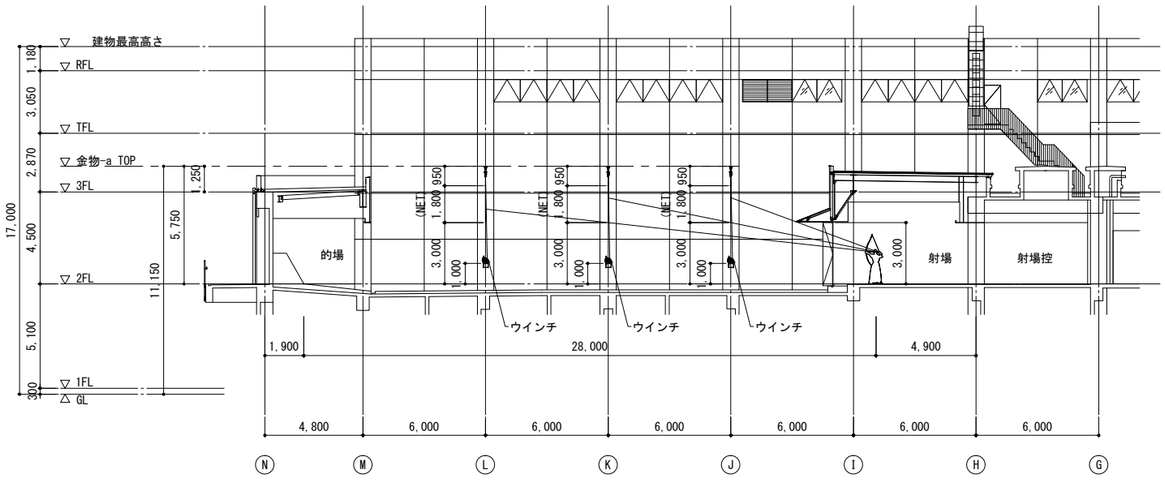
W ：ネットに作用する等分布荷重(N/m)
A ：ネットの受風面積(㎡)
Cf:ネットの風力係数
φ：ネットの充実率
L：ネットの間口
D：ネットのたわみ量（間口の約3%程度）

最大瞬間風速逆算 (220*2/1.196)^0.5=19.2m/s)

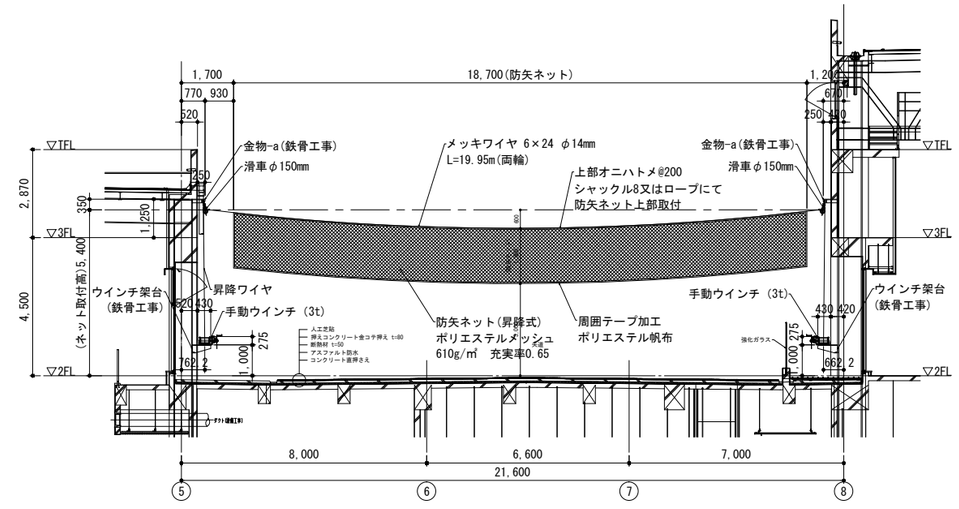
防矢ネット　数量表

項目	仕　様	数量	備考
防矢ネット H=1.8m L=18.7m	ポリエステルメッシュ	3枚	昇降着脱式
金物-a（5軸） 金物-a（8軸）	PL-16(SS400)	3ケ 3ケ	建築鉄骨へ取付 (鉄骨工事)
手動ウインチ 3t用	MR-30 ラチェットタイプ	6台	
ウインチ架台	PL-12(SS400)	6ケ	建築鉄骨へ取付 (鉄骨工事)
ワイヤ	メッキワイヤ　6×24　φ14mm	30.75m	ネット用19.95m 昇降用　5.4m×2

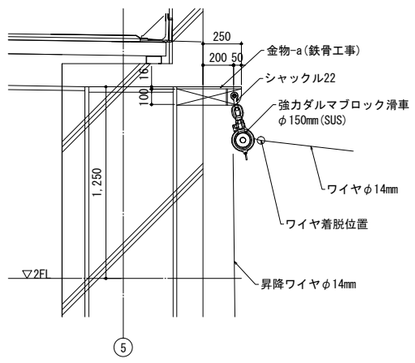
※防矢ネットは昇降着脱式とし、台風が接近している場合はネットを降下してご使用ください。



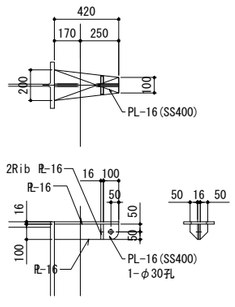
防矢ネット 断面取合図 (S=1/150)



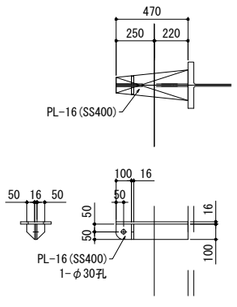
防矢ネット 取付詳細図 (S=1/100)



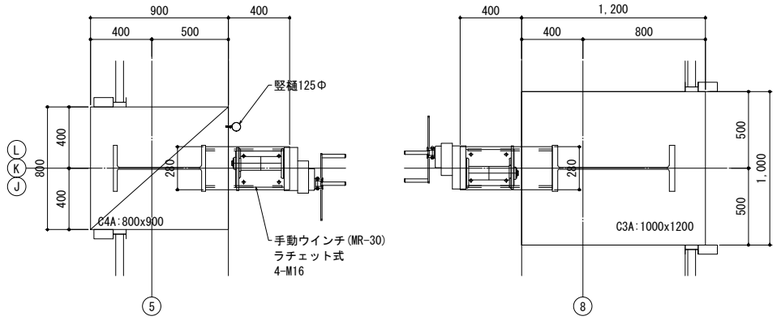
防矢ネット 上部詳細図(S=1/20)



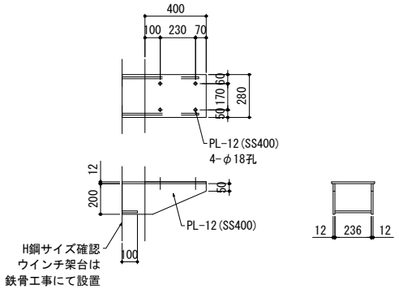
金物-a　詳細図(S=1/20)
5軸側



金物-a　詳細図(S=1/20)
8軸側



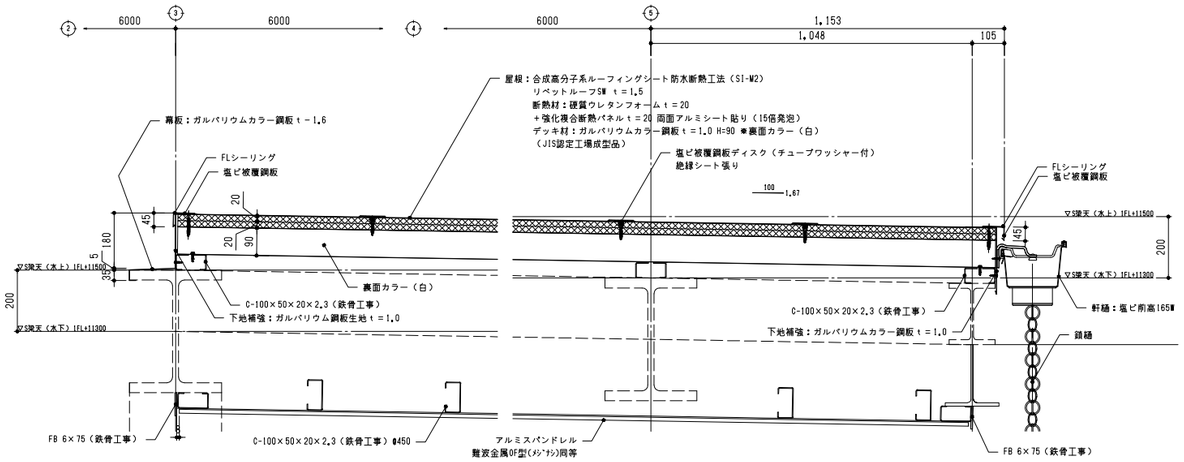
ウインチ　平面取合図(S=1/20)



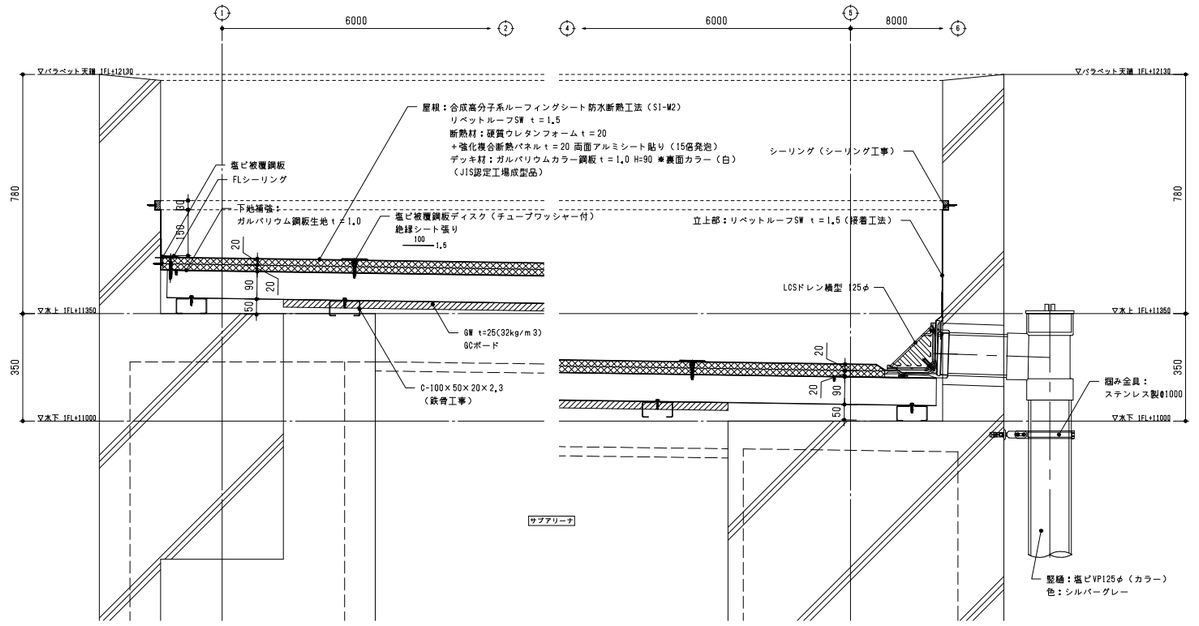
ウインチ架台詳細図(S=1/20)

| | | |

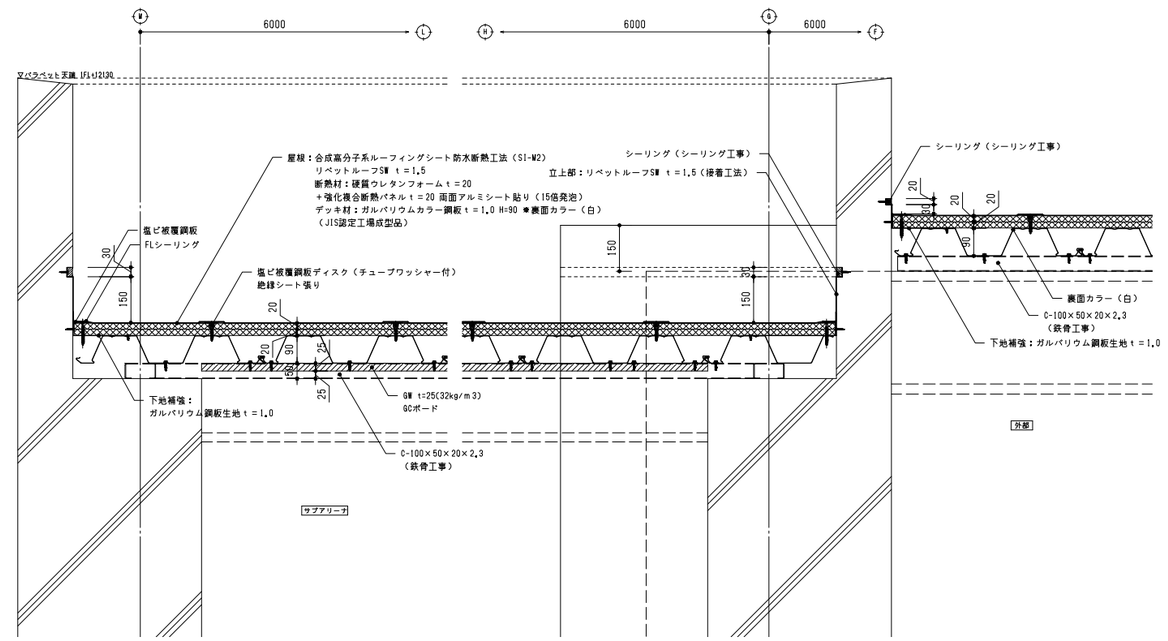
大庇 軒先・水上詳細図　S=1/10



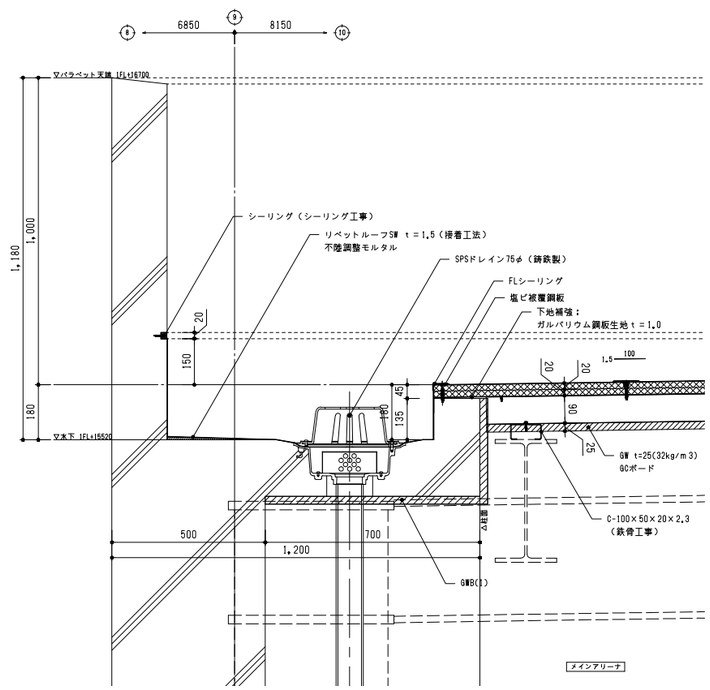
多目的ホール 軒先・水上詳細図　S=1/10



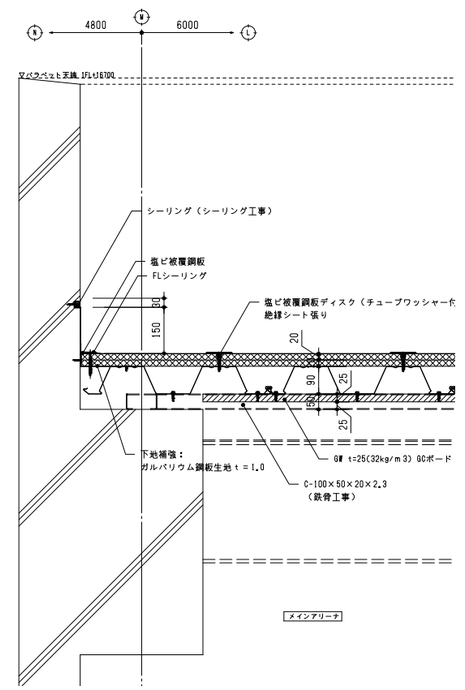
サブアリーナ ケラバ詳細図　S=1/10



メインアリーナ 箱樋詳細図　S=1/10



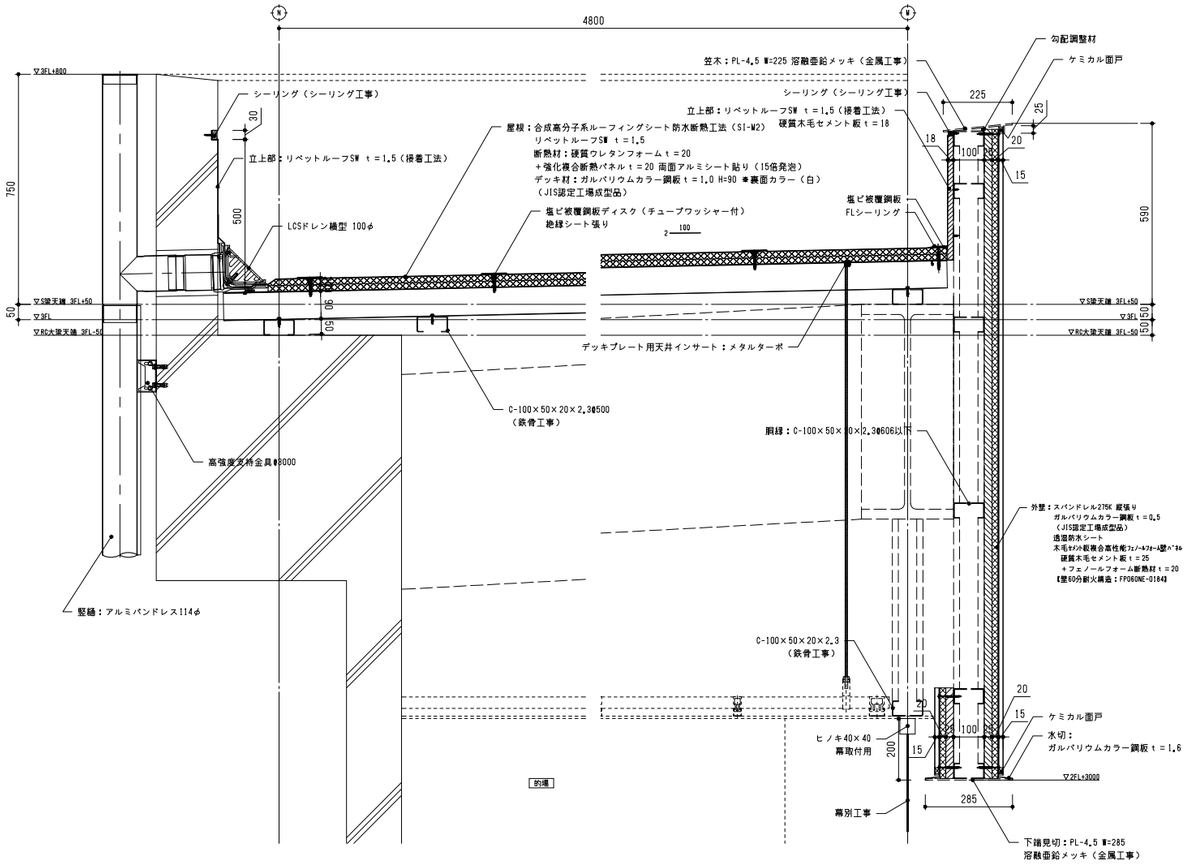
メインアリーナ　ケラバ詳細図　S=1/10



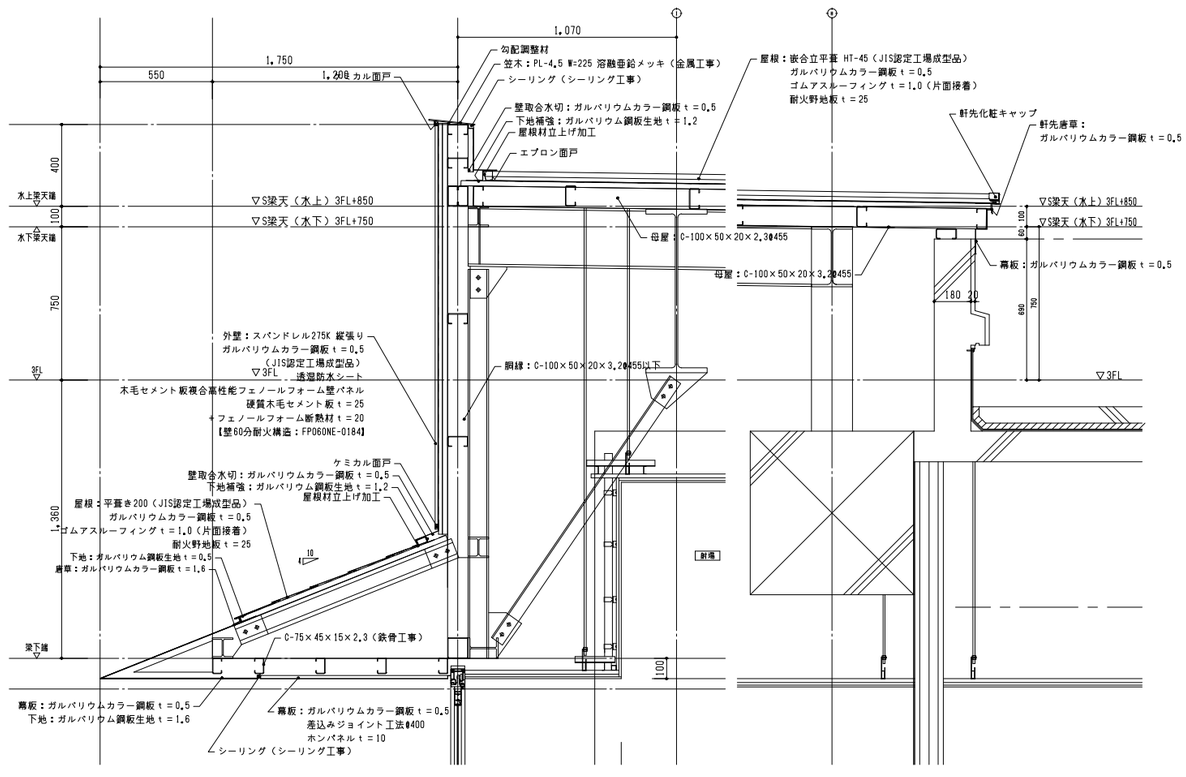
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants 株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779 / 図面番号 A — 111
		屋根詳細図(1)	縮尺 1/A1:50 A3:100 / 日付 2019・11・15

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士				設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号				第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子			椎葉 夏子	

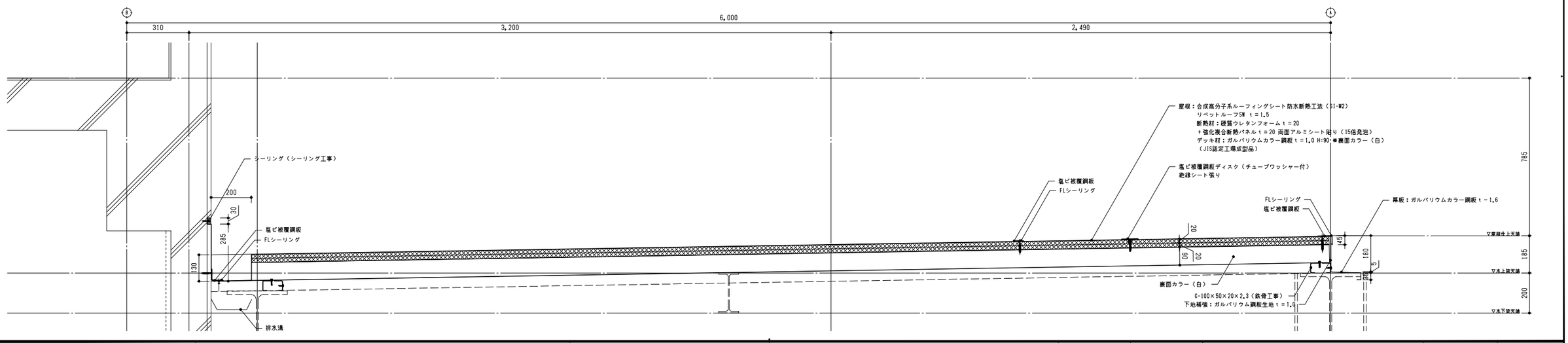
的場 軒先・水上詳細図　S=1/10



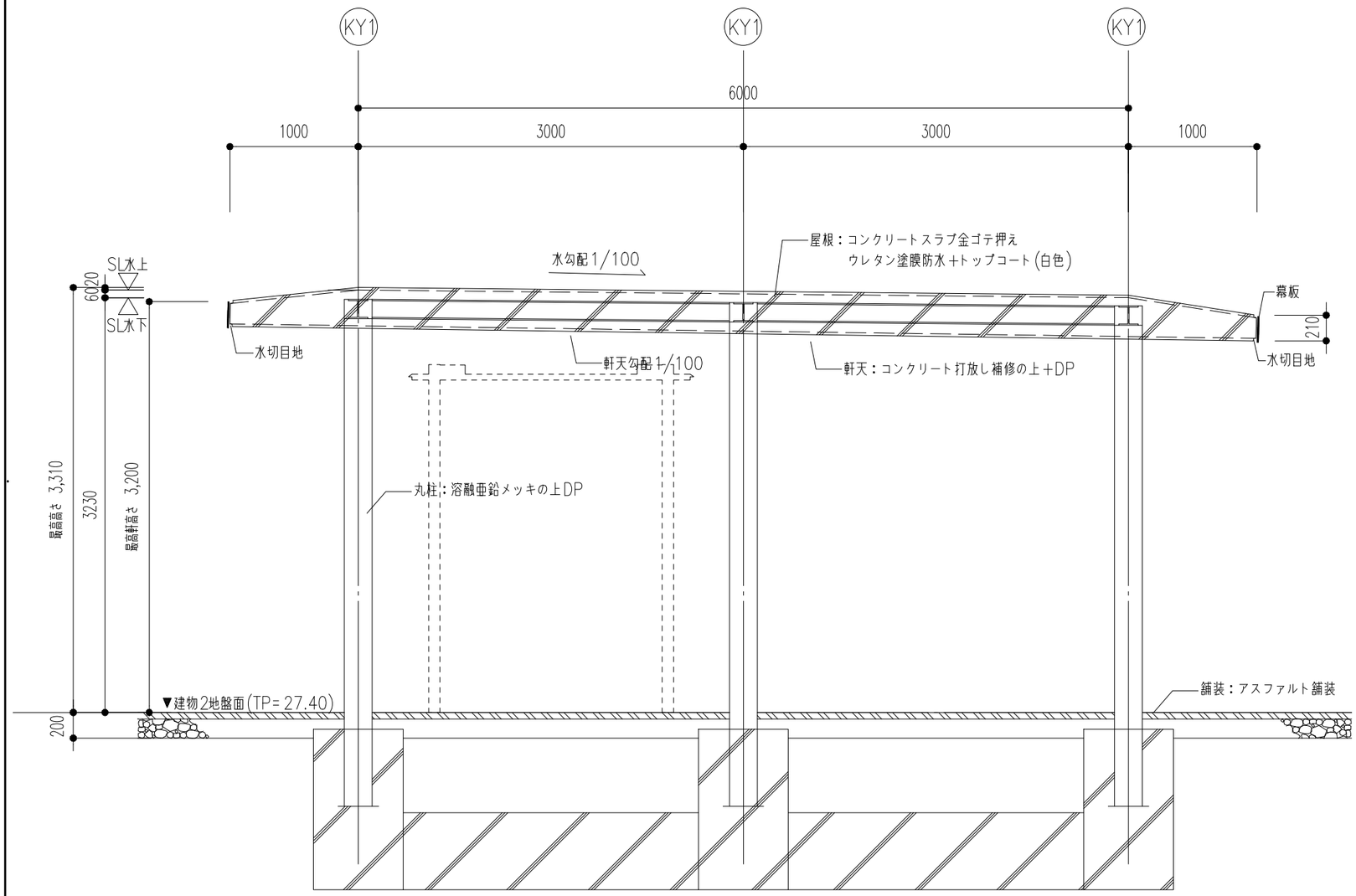
射場 軒先・水上詳細図　S=1/10



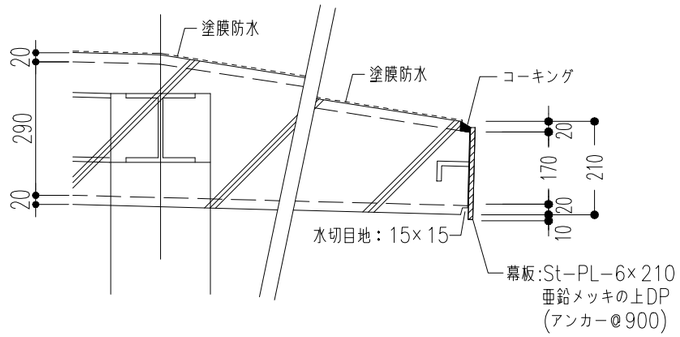
大庇 勾配部分詳細図　S=1/10



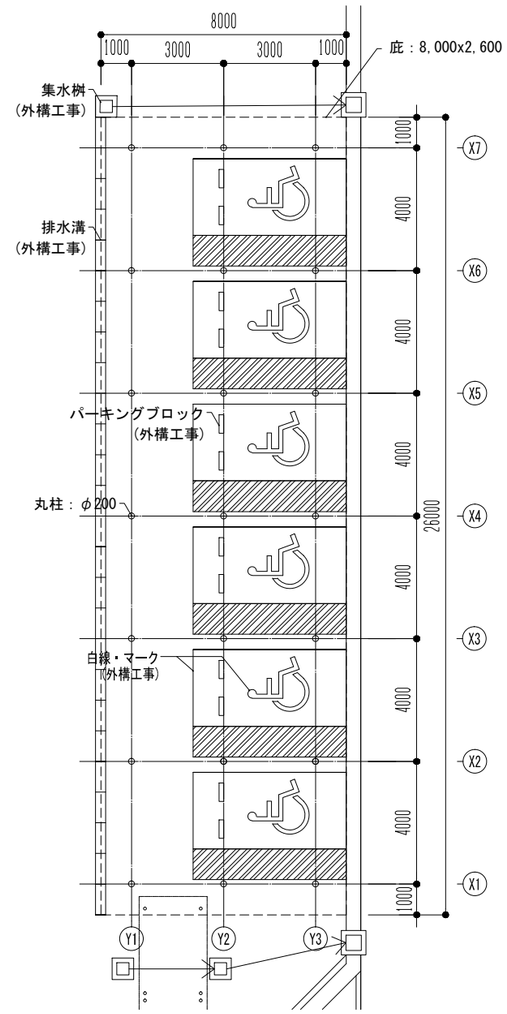
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者					法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 112
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子		設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		屋根詳細図(2)	縮尺 1/A1:100 A3:200	日付 2019・11・15



車いす駐車場庇詳細図 1/40

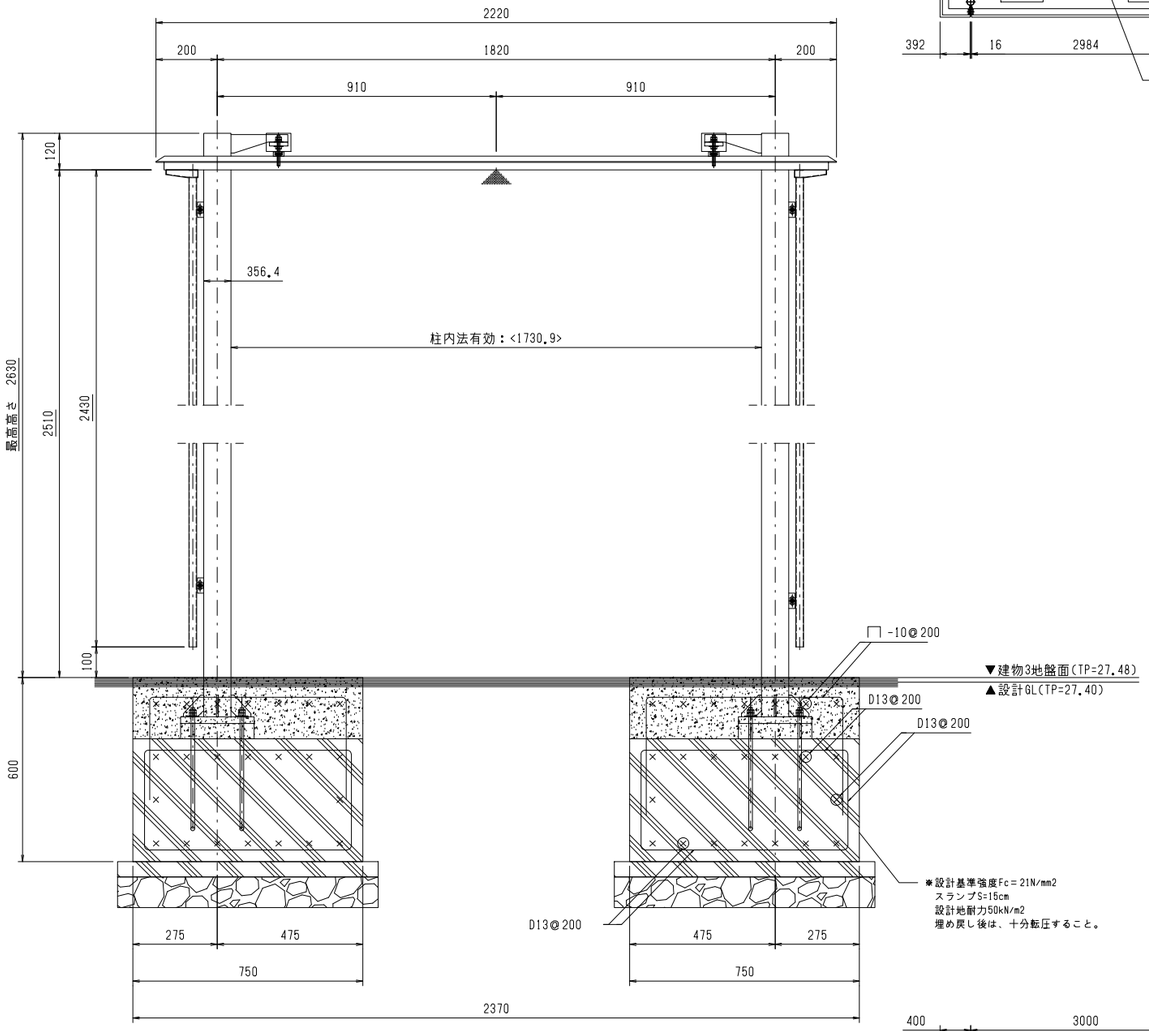


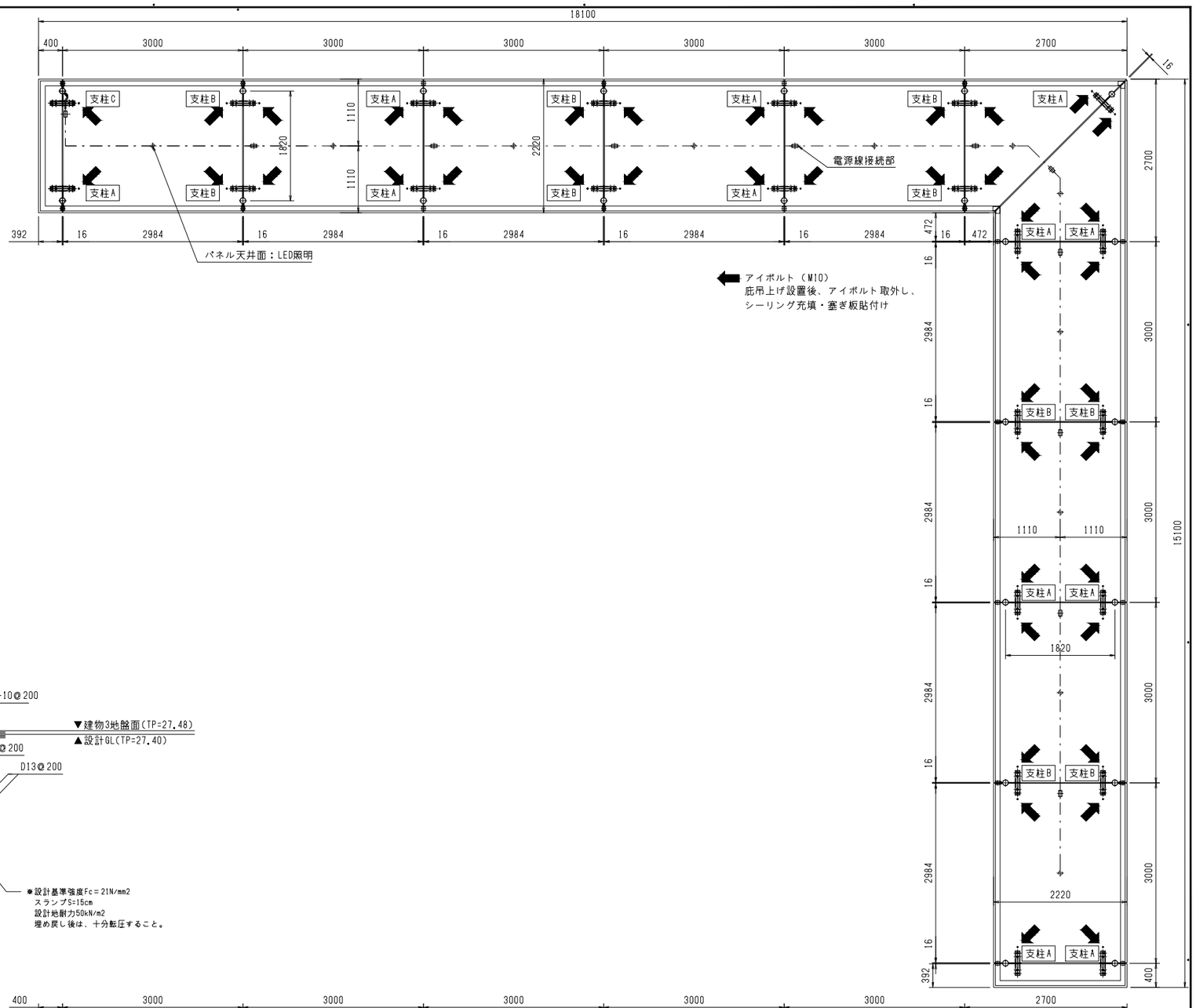
庇先端詳細図 （4面共通）

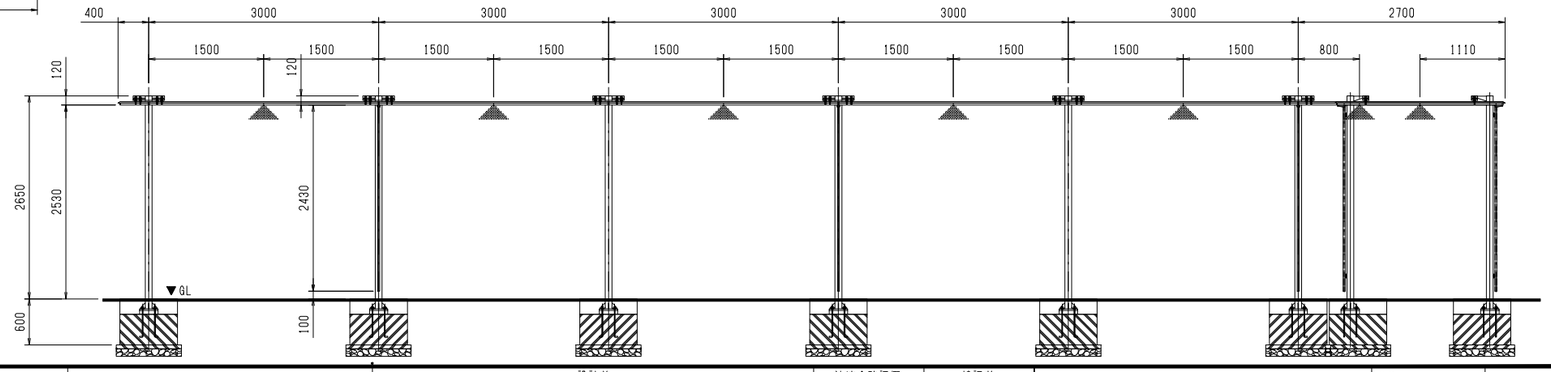


平面図 1/100

| | | |







支柱A	支持のみの支柱
支柱B	A ＋縦樋
支柱C	電源引込用支柱

PSSP0043

＜部材・仕上げ＞
＊ パ ネ ル： A6063S（フレーム）、A5052P（表面材）、フェノール樹脂含浸コア（芯材）
フッ素樹脂塗装ライトグレー
＊ 支　　柱： STK400、SS400
溶融亜鉛メッキの上、ウレタン樹脂塗装ライトグレー
＊ 縦　　樋： SUS304
ウレタン樹脂塗装ライトグレー
＊ 化粧カバー：SUS304
ウレタン樹脂塗装ライトグレー

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

キャノピー詳細図(1)　参考図

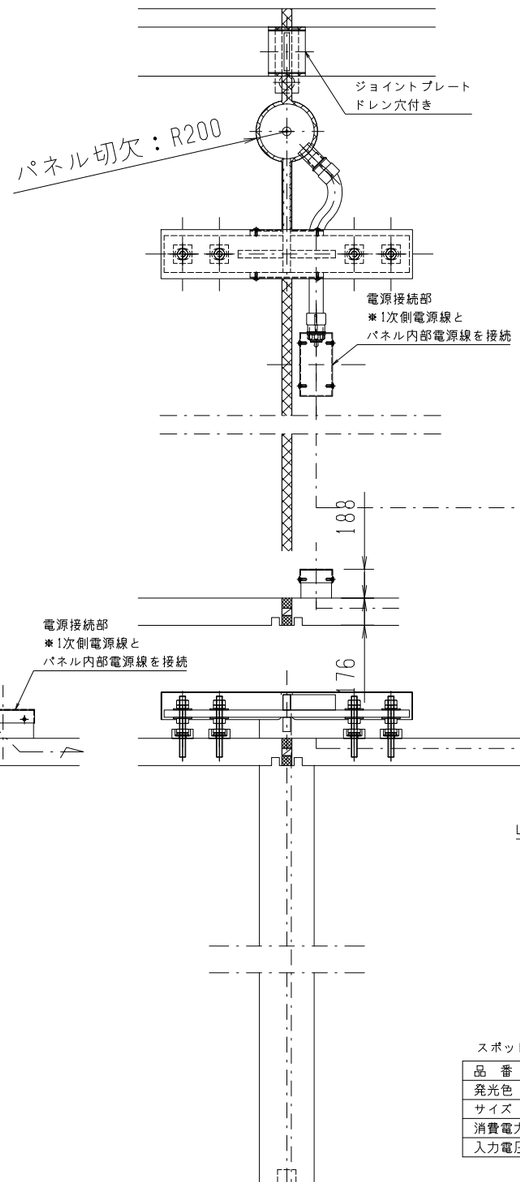
設計番号

図面番号 A — 114

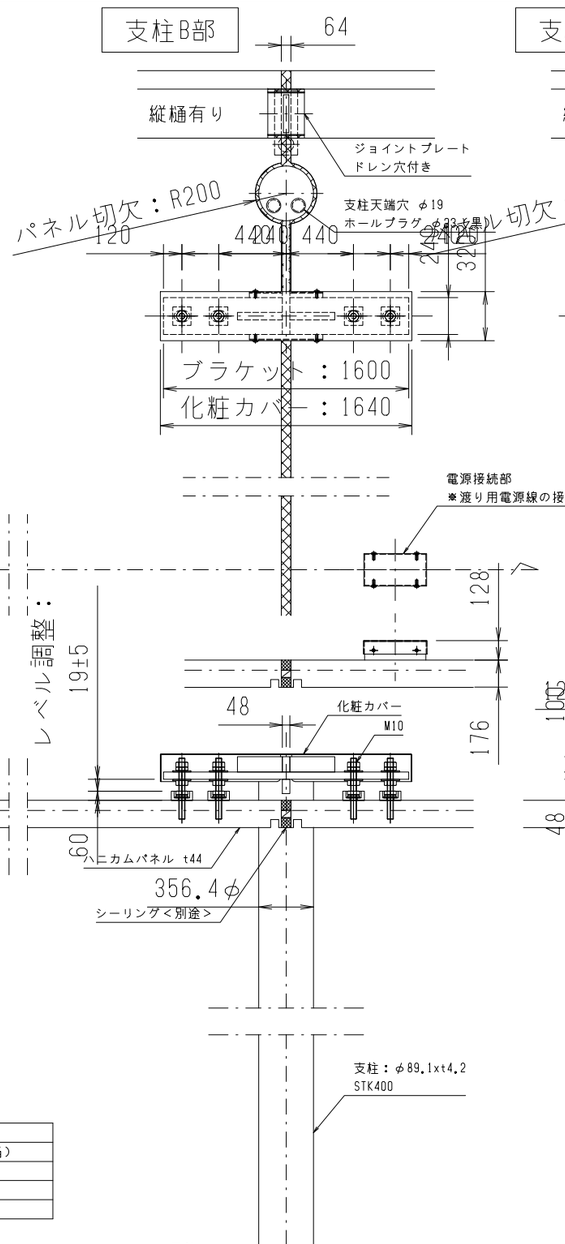
縮尺 1/A1:50 A3:100

日付 2019・6

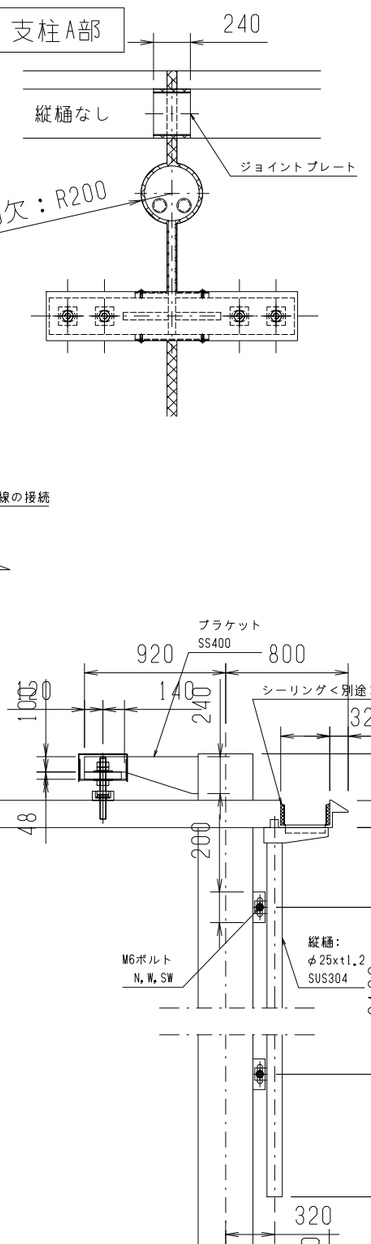
支柱C部

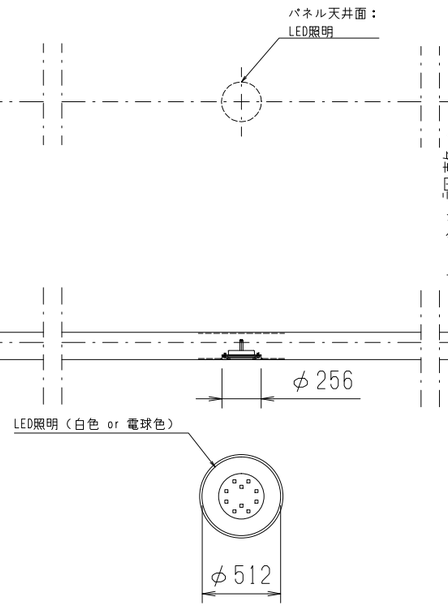


支柱B部



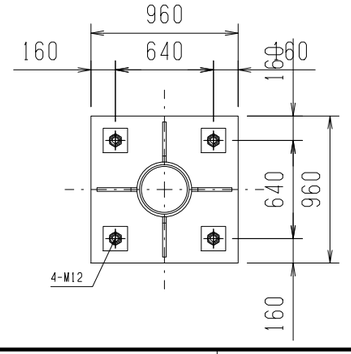
支柱A部



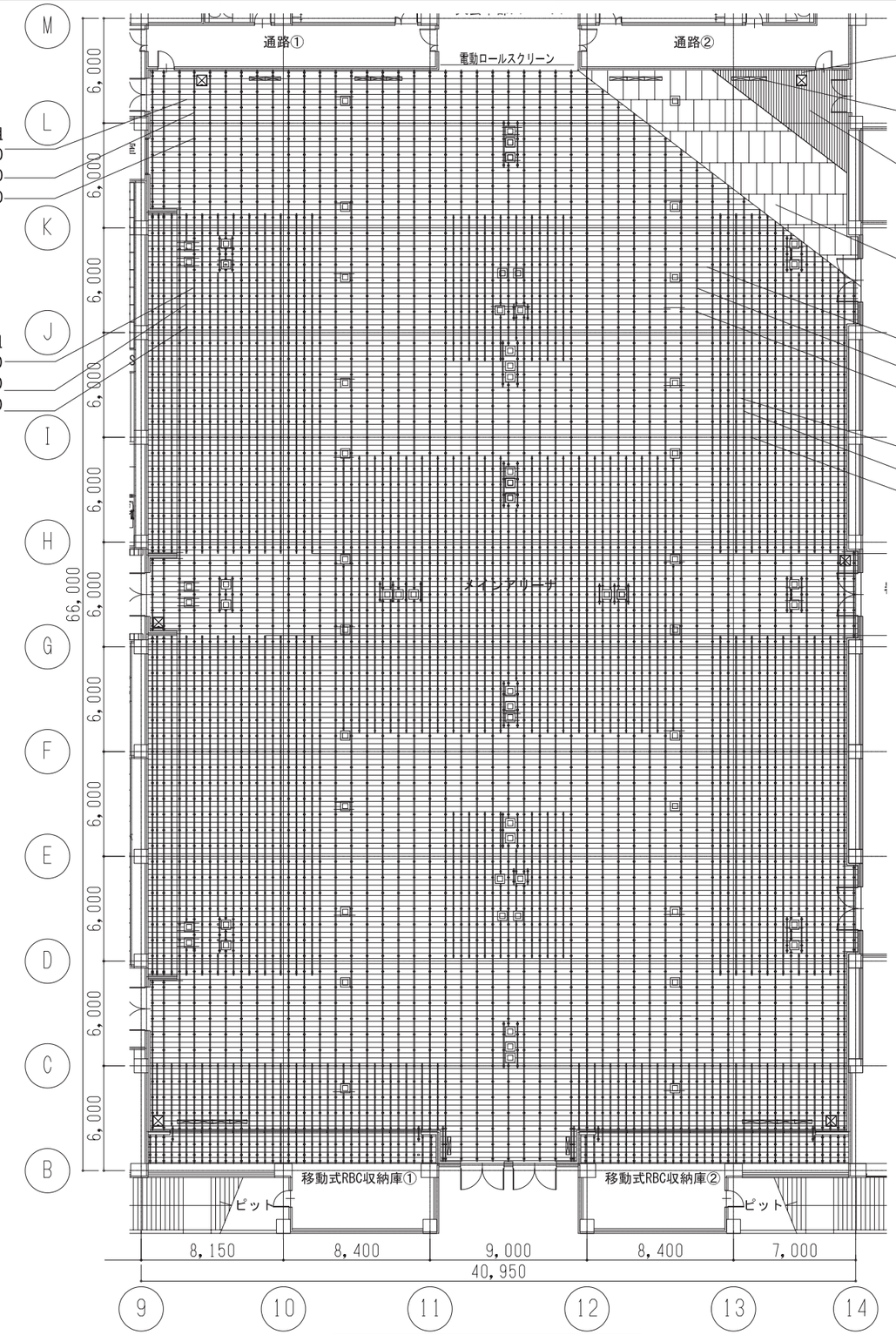


スポットLED

品　番	PFH-LED5000-S	PFH-LED2700-S
発光色	白色（5000ケルビン相当）	電球色（2700ケルビン相当）
サイズ	φ64mm（外径）	φ64mm（外径）
消費電力	1.2W	1.2W
入力電圧	AC100V	AC100V



飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者					法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	図面番号
			一級建築士	一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士		キャノピー詳細図（2）　参考図	縮尺 1/A1:40 A3:80	A — 115
			第280187号	第336677号	第336801号			第5496号			日付 2019・06	
			中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子		椎葉 夏子				



鋼製床下組
根太鋼：40x40x74x1.6t @300
大引鋼：50x50x2.3t @900
支持脚：高強度タイプ @900

補強鋼製床下組
根太鋼：40x40x74x1.6t @300
大引鋼：50x50x1.6t @450
支持脚：一般体育館用 @900

床下点検口
スリーハッチ F600
アルミ製 鍵付 600x600

床上換気口
ベースピット アルミ製 200x1000

大型積層フローリング
t18x145x1800 表層6mm カバ桜 研磨・塗装3回塗

ラワン構造用合板 t15

鋼製床下組
根太鋼：40x40x74x1.6t @300
大引鋼：50x50x2.3t @900
支持脚：高強度タイプ @900

補強鋼製床下組
根太鋼：40x40x74x1.6t @300
大引鋼：50x50x1.6t @450
支持脚：一般体育館用 @900

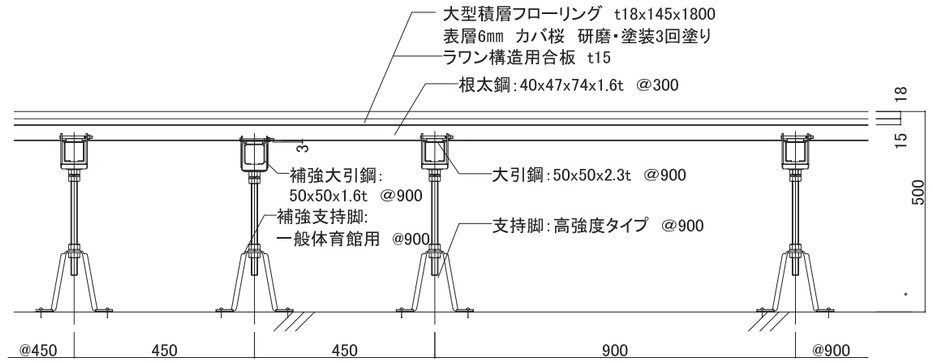
メインアリーナ 平面詳細図 S=1/300

メインアリーナ	H500
仕上	大型積層フローリング t18x145x1800 表層6mm カバ桜 研磨・塗装3回塗り
捨板	ラワン構造用合板 t18
根太鋼	40x40x74x1.6t @300
大引鋼	50x50x2.3t @900
支持脚	集中荷重2tタイプ @900

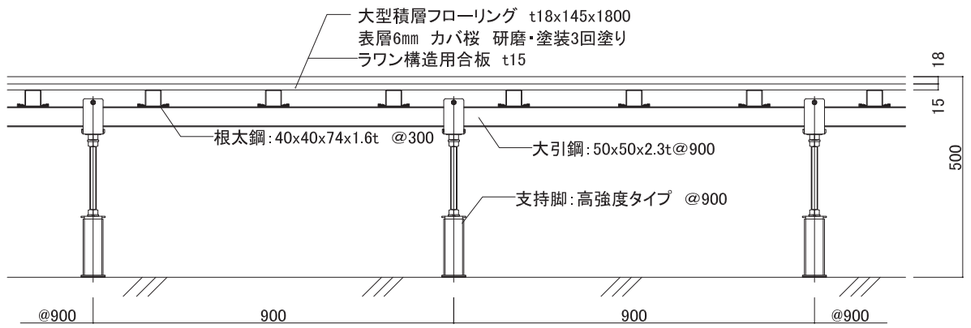
床下点検口	
仕様	スリーハッチ F600 アルミ製 鍵付 600x600

床上換気口	
仕様	ベースピット アルミ製 200x1000

※端部-躯体取合い部にはEXPゴムを見込むこと。



メインアリーナ 根太方向 断面詳細図 S=1/15



メインアリーナ 大引方向 断面詳細図 S=1/15

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants 株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号	設計者	法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	図面番号
		一級建築士 第280187号 中川 崇 / 一級建築士 第336677号 加野 正知 / 一級建築士 第336801号 江口 聡一郎 / 林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		鋼製床組詳細図(1)	縮尺 1/	日付 2019・11・15

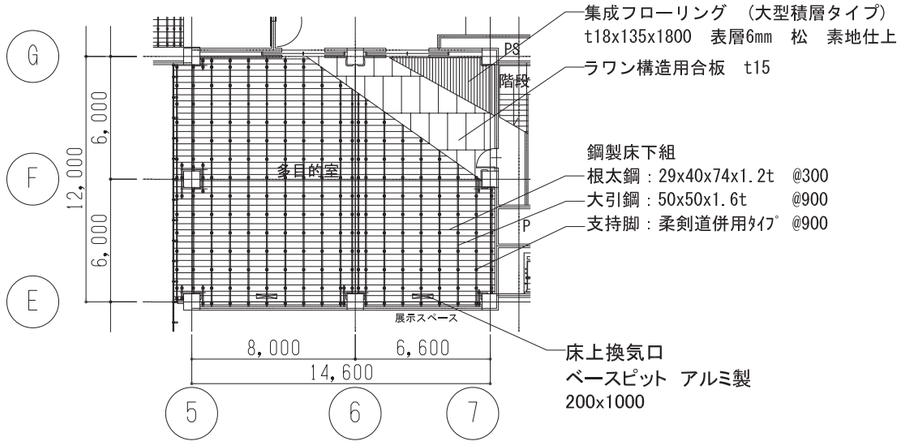
A －116

多目的室	H300
仕上	集成フローリング(大型積層タイプ) t18x135x1800　表層6mm　松　素地仕上
捨板	ラワン樹構造用合板　t15
根太鋼	29x40x74x1.2t　@300
大引鋼	50x50x1.6t　@900
支持脚	体育館用　@900

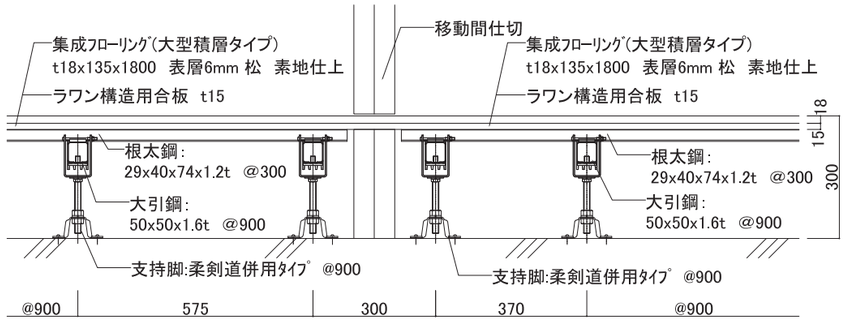
多目的ホール	H300
仕上	大型積層フローリング　t18x135x1800 表層6mm　カバ桜　研磨・塗装3回塗り
捨板	ラワン樹構造用合板　t15
根太鋼	29x40x74x1.2t　@300
大引鋼	50x50x1.6t　@900
支持脚	一般体育館用　@900

床上換気口	
仕様	ベースピット　アルミ製 200x1000

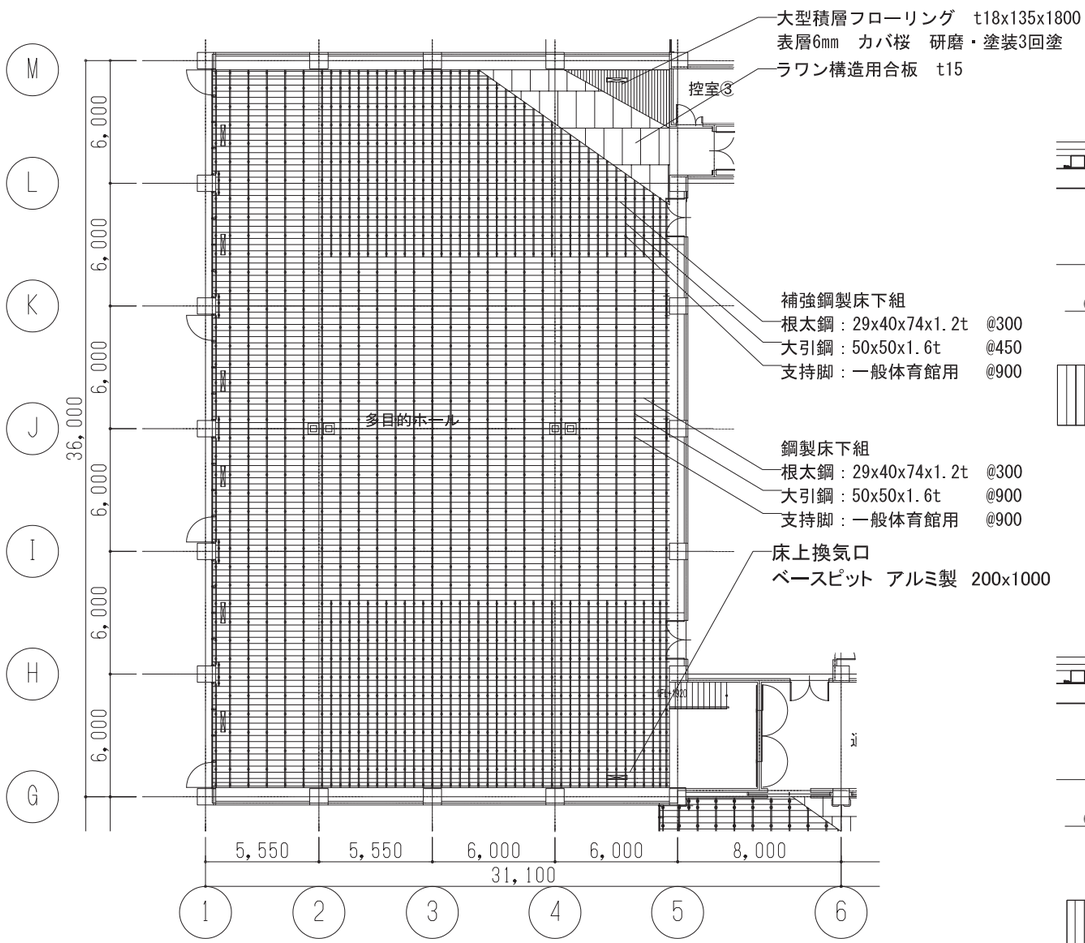
※端部-躯体取合い部にはEXPゴムを見込むこと。



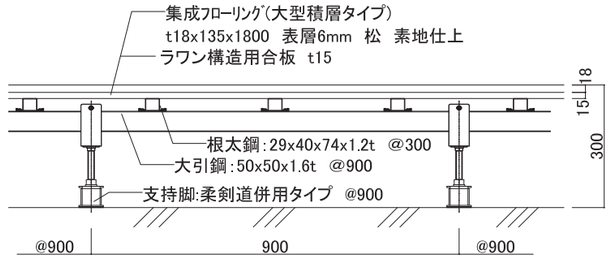
多目的室　平面詳細図　S=1/300



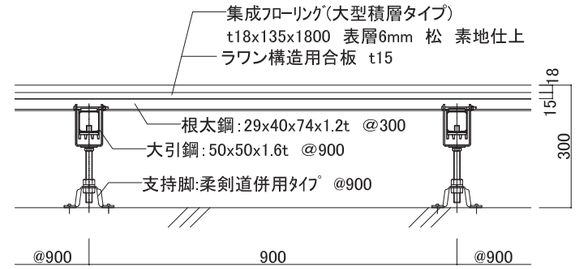
多目的室　大引方向　断面詳細図　S=1/15



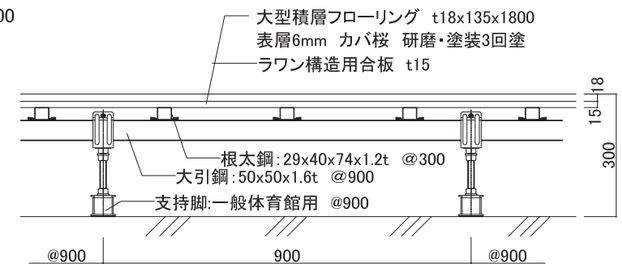
多目的ホール　平面詳細図　S=1/300



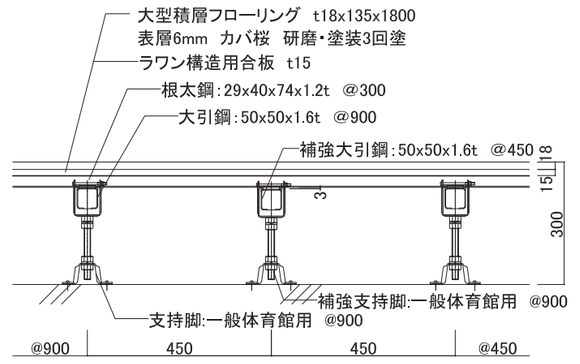
多目的室　大引方向　断面詳細図　S=1/15



多目的室　根太方向　断面詳細図　S=1/15

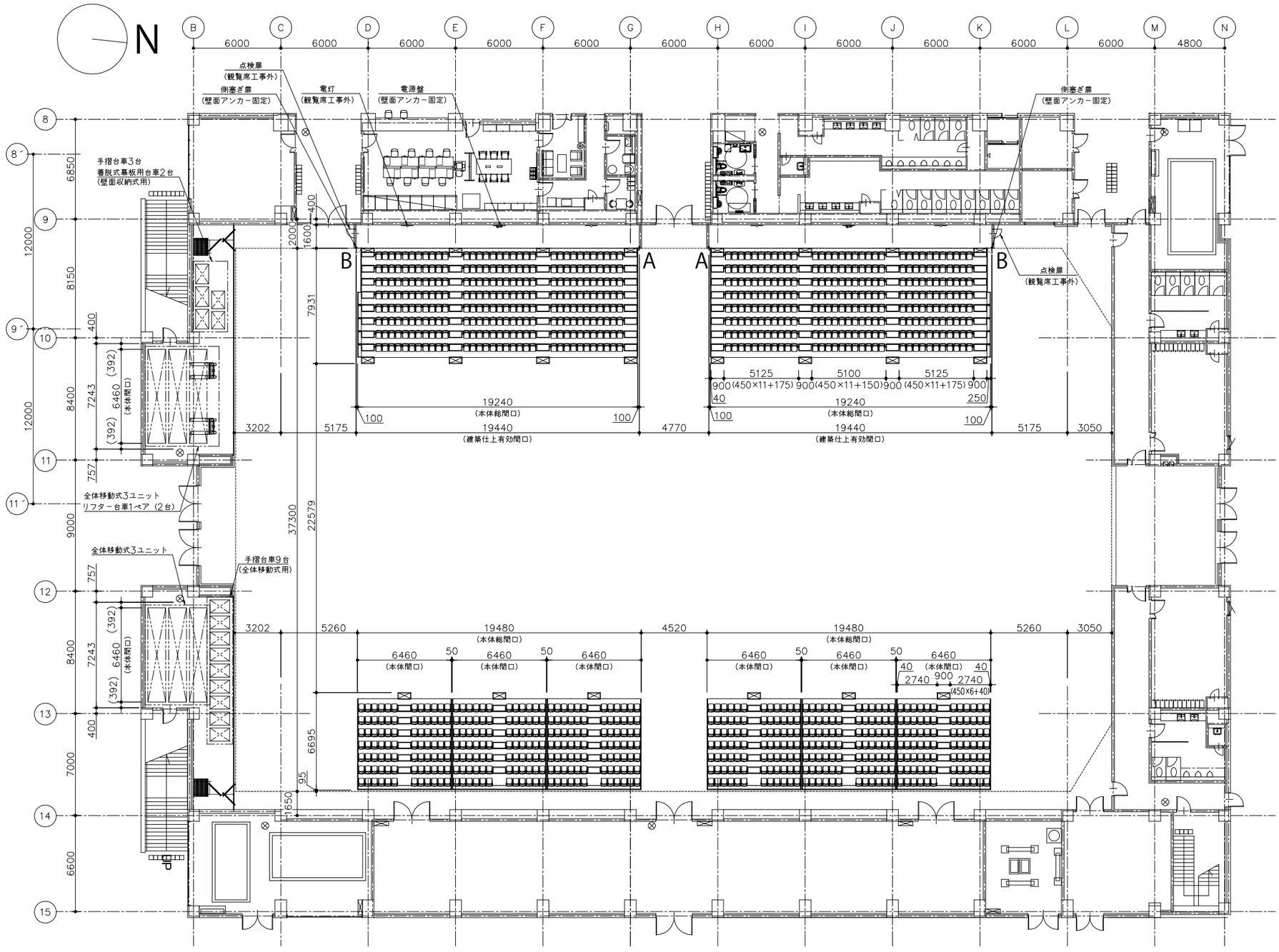


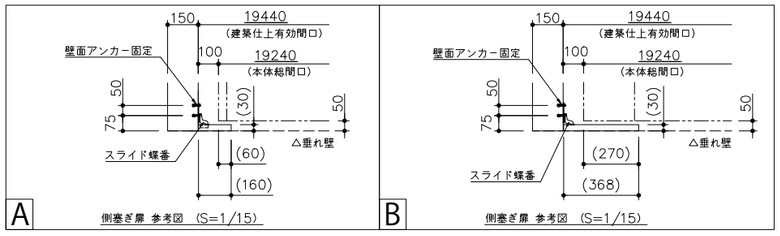
多目的ホール　大引方向　断面詳細図　S=1/15



多目的ホール　根太方向　断面詳細図　S=1/15

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社　一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	-	設計者	法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	図面番号
			一級建築士 第280187号 中川 崇 / 一級建築士 第336677号 加野 正知 / 一級建築士 第336801号 江口 聡一郎 / 林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		鋼製床組詳細図(2)	縮尺 1/	日付 2019・11・15	A －117





数量表

壁面収納式(電動式移動観覧席)	
（264席 × 2ユニット）	528 席
全体移動式(手動式移動観覧席)	
（84席 × 6ブロック）	504 席
合計	1032 席

移動観覧席				
本体タイプ	壁面収納式			
ユニット数	2 ユニット	席数	264	ユニット/席
		総席数	528	席
本体総間口	19240mm	段数	8	段
段差	340 mm			
奥行	900 mm			
椅子タイプ	VISION			
一人間口	450 mm			
椅子起立転倒操作	手動式			
本体タイプ	全体移動式			
ユニット数	6 ユニット	席数	84	ユニット/席
		総席数	504	席
本体間口	6460 mm	段数	7	段
段差	320 mm	奥行	850 mm	
椅子タイプ	VISION			
一人間口	450 mm			
椅子起立転倒操作	手動式			
		総席数	1032	席

本体主要部材			
支柱	角鋼管	合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
ローラーカバー	鋼板曲げ加工品	合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
アーム	ロール成型品	合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
走行ローラー	ウレタンゴム車輪		
フロントビーム	ロール成型品	合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
リアビーム	ロール成型品	合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
ブレーシング	ロール成型品	合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
整列リンク	角鋼管	合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
	等辺山型鋼	合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
床	プラスチック化粧合板		
	スベリ止めエンボス加工付		(ブラック)
ノンスリップ（通路部）		アルミ押出型材	(シルバー)

本体付属部品			
自動収納手摺		合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
着脱式手摺（壁面収納式用）	22本	合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
着脱式手摺（上階連絡用）	12本	合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
着脱式手摺（全体移動式用）	84本	合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
着脱式後部手摺	36本	合成樹脂焼付塗装仕上	(ブラックグレー)
中段固定ステップ,1段目前置式ステップ			
着脱式上階連絡用ステップ（本体床に収納）			
着脱式サイドカーテン（壁面収納式用）	32枚	(本体床に収納)	(ブラック)
着脱式サイドカーテン（全体移動式用）	84枚	(本体床に収納)	(ブラック)
着脱式バックカーテン（全体移動式用）	36枚	(本体床に収納)	(ブラック)
本体操作ハンドル			
本体リフター台車	1ペア 2台		
手摺用台車（壁面収納式用）	3台		
手摺用台車（全体移動式用）	9台		
前幕板	t15 高耐摩耗化粧合板（木目調）		(アイカBB)同等品以上
（全段通路部着脱式）	(両面貼り、木目方向：横、木口は同色塗潰し塗装仕上)		
側塞ぎ扉	総厚30 フラッシュ構造		
表面、裏面	t6 高耐摩耗化粧合板（木目調）		(アイカBB)同等品以上
	(両面貼り、木目方向：縦、木口は同色塗潰し塗装仕上)		
着脱式幕板（通路部）用台車	2台		
ブロック間塞ぎ（本体床に収納）	28個		
通路灯	非常電源内蔵型 64個 (白色 LEDランプ)		
	社団法人日本照明器具 認定品 カバー（ブラックグレー）		
	椅子側部に取付とする		
駆動装置：自走式	駆動モーター 3相200V 0.4kW		
リモートスイッチ			

観覧席工事外	
建築工事	
点検扉	W：600 H：1800 程度
電気工事	※ 一次側配線工事は制御盤端子台までの結線も含む
一次側電気容量	
駆動用電源	三相200V 4 KVA (アース込み)
通路灯用電源	単相100V 1 KVA (アース込み)
収納庫内電灯設備	6 箇所

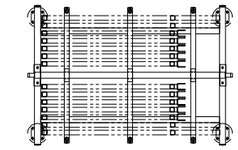
建築床仕上材	フローリング
移動観覧席の走行を安定させるための条件	
建築床について（建築工事）	
●移動観覧席最大荷重時、走行面及び収納庫面に段差が生じる場合は2mm以下とする	
●床仕上り面は良好な平坦さ 3/1000かつ7/3000以下とし、観覧席走行範囲において床仕上り面の最大高低差は、10mm以内とする	
●仕上材及び下地にクッション層無きこと	
※走行ローラーに掛かる荷重により、床材に凹みが生じ走行が安定しなくなる為	
※コンクリート直貼りの場合、下地にはセルフレベリング材を使用の事	
●見切りが発生する場合は、別途打合せ	
※エキスパンションゴムは幅15mm以下のこと、且つ 見切りのコンクリート端部には、欠け防止の保護アングル等施工のこと	
●床材の種類によっては、観覧席の走行による局部的な集中荷重によって何らかの凹み（走行跡）が残る場合があります	
また、床の不陸（うねり）によって、走行ローラーが床面に設置しないところが発生し、床材の凹みが大きくなる場合もあります	
●走行ローラーによる床材表面への影響確認試験が可能	
設置階数	1 階

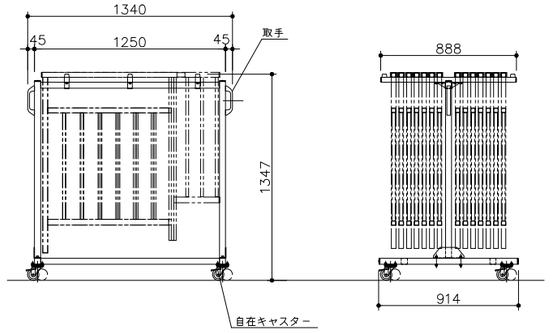
特記事項
・実際の最低必要通路幅は、適用法規により異なります。

B23655−061A 同等品以上

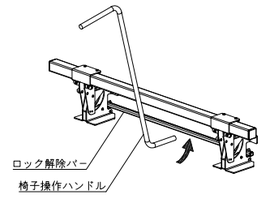
| | | | |

手摺・カーテン用台車			
台車主要部材			
フレーム			合成樹脂焼付塗装仕上（ブラックグレー）
取手		ポリプロピレン	（ブラック）
キャスター	φ75	ウレタンゴム車輪（自在）	
台数	手摺用台車（壁面収納式用）		3台
	手摺用台車（全体移動式用）		9台

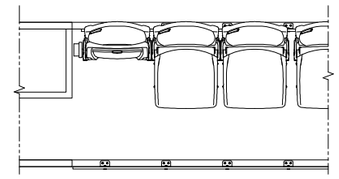


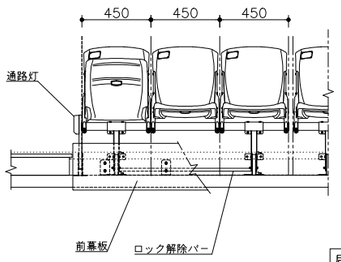


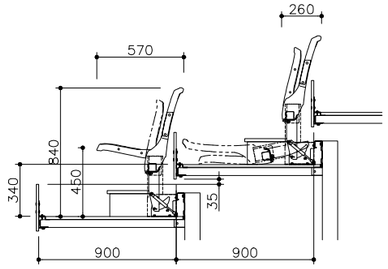
搭載椅子　VISION同等品以上　連結椅子（座自動跳ね上げ式）					
椅子主要部品					
背	高密度ポリエチレンブロー成形品				（標準色）
背固定金物	アルミ合金ダイキャスト			合成樹脂焼付塗装仕上	（ブラックグレー）
座	高密度ポリエチレンブロー成形品				
連結材	50×50×t2.3	角鋼管		合成樹脂焼付塗装仕上	（ブラックグレー）
脚支柱	t3.0	鋼板曲げ加工品		合成樹脂焼付塗装仕上	（ブラックグレー）
起立装置	ガススプリング補助機構付（手動起立転倒用）				
	転倒時、椅子操作ハンドルにてロック解除				



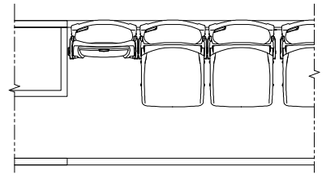
B23655−062A 同等品以上

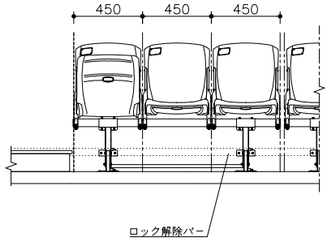


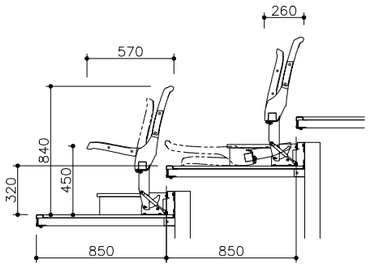




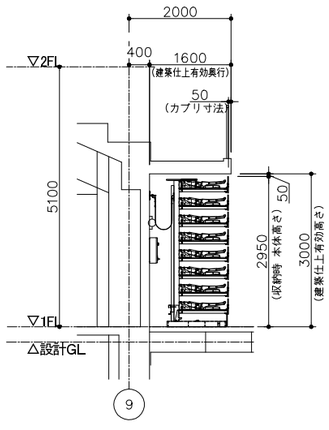
壁面収納式



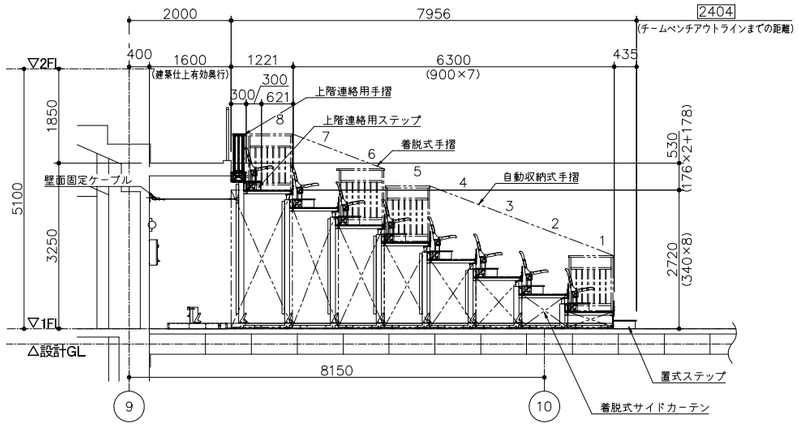




全体移動式

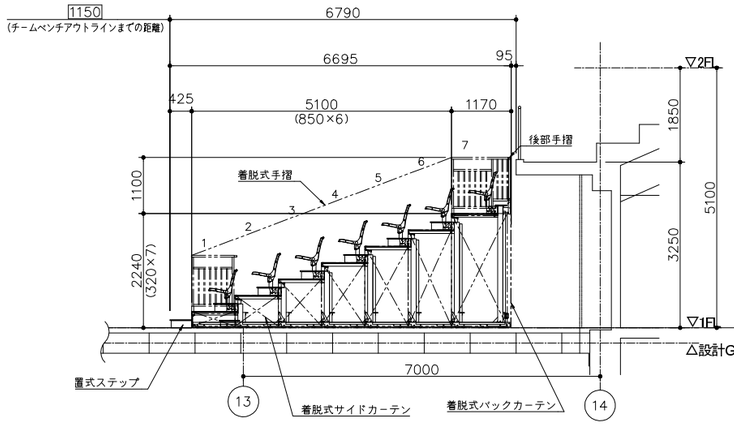


収納時側面図

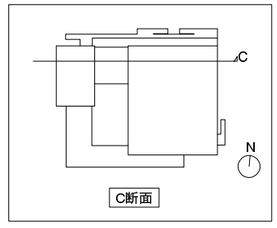


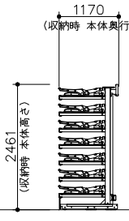
展開時側面図

壁面収納式

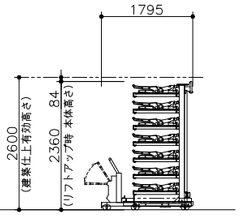


展開時側面図





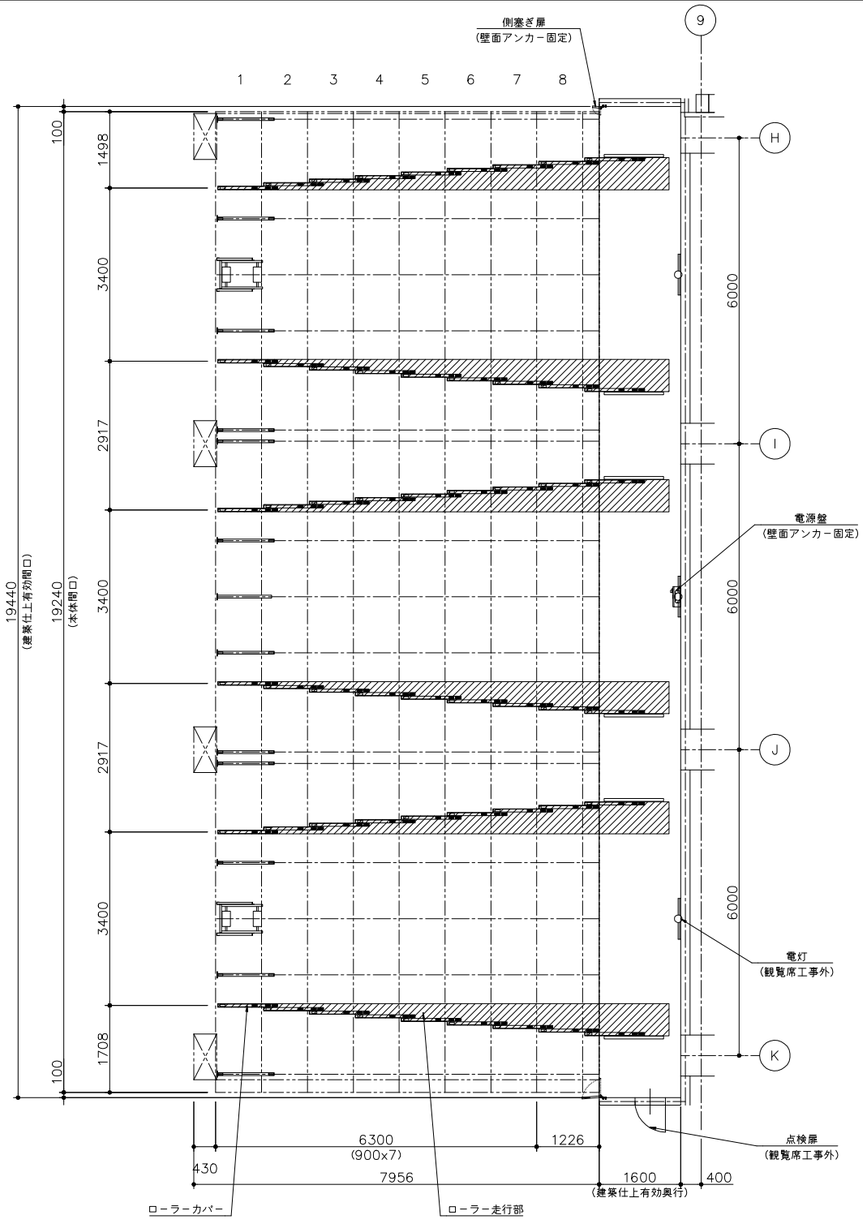
収納時側面図

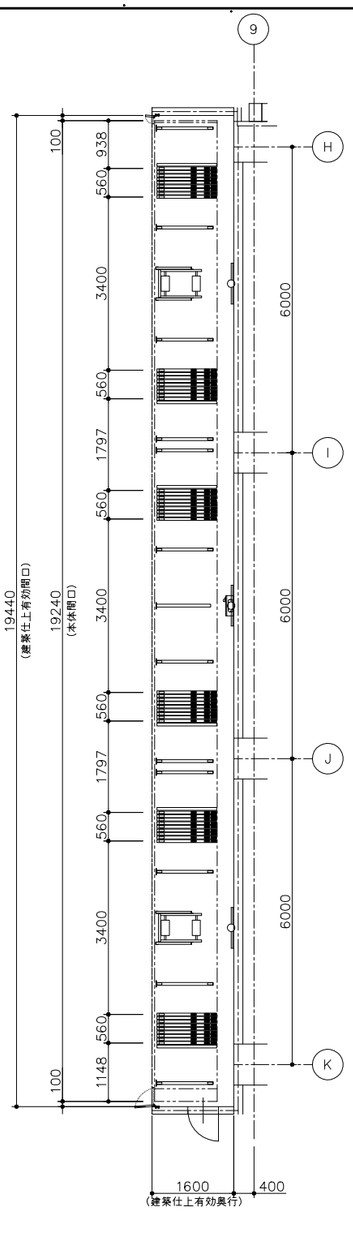


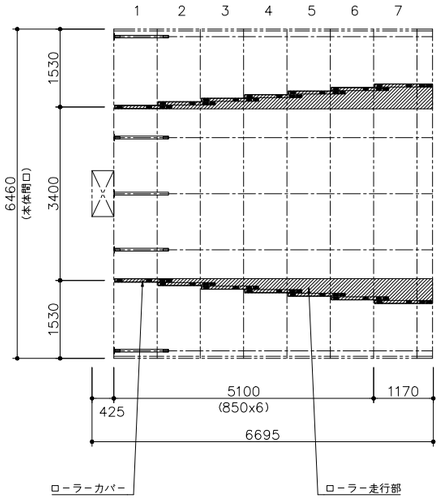
リフトアップ時側面図

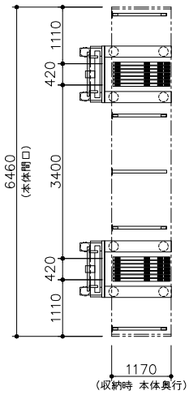
全体移動式

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社　一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	図面番号
		一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		移動式観覧席詳細図（2）　参考図	縮尺 1/ 日付 2019.11.15	A −120









壁面収納式

荷重分布表

【単位：kg】

段数	1段目	2段目	3段目	4段目	5段目	6段目	7段目	8段目
各段の重量	2027	1220	1236	1253	1269	1286	1303	1320
ローラーカバー１本当たりの重量	338	203	206	209	212	214	217	220
移動時のローラーカバー１群当たりの最大荷重	338	541	747	956	1168	1382	1599	1819
積載時（使用時）のローラーカバー1本当たりの最大荷重	695	561	564	566	569	572	575	577

本体総重量　10914Kg
積載時総重量　28074Kg（本体総重量+65Kg×264人）

移動観覧席は最大積載荷重300kg／m2に耐え得る製品であり、

使用勝手によっては建築床面にかかる荷重が上記「積載時（使用時）」よりも増加します。

目安として、「最大積載時」は「積載時（使用時）」の約3倍の荷重となることがあります。

全体移動式

荷重分布表

【単位：kg】

段数	1段目	2段目	3段目	4段目	5段目	6段目	7段目
各段の重量	386	396	401	406	411	416	422
ローラーカバー１本当たりの重量	193	198	200	203	206	208	211
移動時のローラーカバー１群当たりの最大荷重	193	391	591	794	1000	1208	1419
積載時（使用時）のローラーカバー1本当たりの最大荷重	583	588	590	593	596	598	601

B23655−063A 同等品以上

本体総重量　2837Kg
積載時総重量　8297Kg（本体総重量+65Kg×84人）

移動観覧席は最大積載荷重300kg／m2に耐え得る製品であり、

使用勝手によっては建築床面にかかる荷重が上記「積載時（使用時）」よりも増加します。

目安として、「最大積載時」は「積載時（使用時）」の約3倍の荷重となることがあります。

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

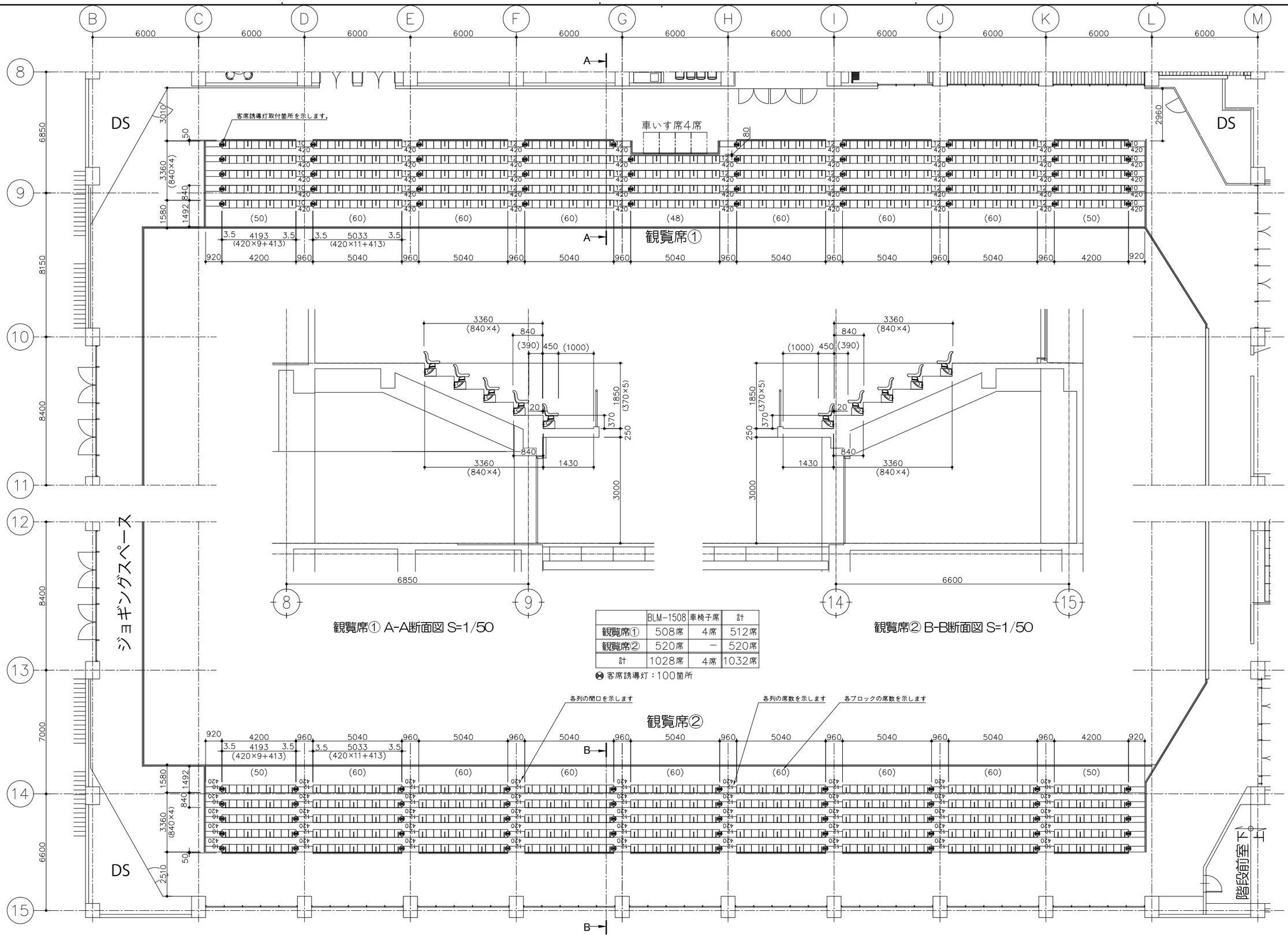
移動式観覧席詳細図（3）　参考図

設計番号

図面番号 A −121

縮尺 1/

日付 2019.11.15



	BLM-1508	車椅子席	計
観覧席①	508席	4席	512席
観覧席②	520席	—	520席
計	1028席	4席	1032席

⊗ 客席誘導灯：100箇所

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

固定式観覧席詳細図(1)　参考図

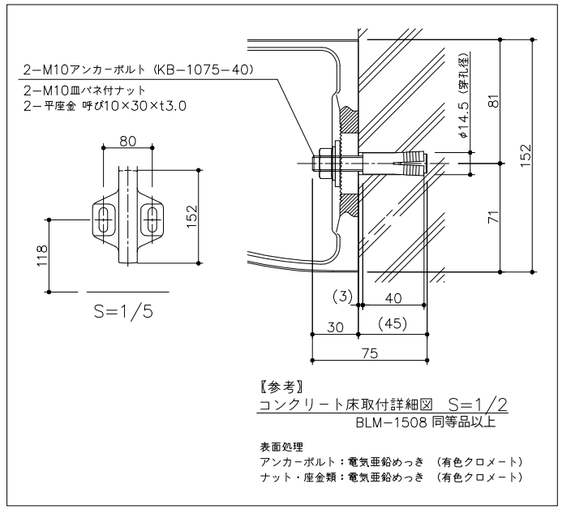
設計番号

図面番号 A －122

縮尺 1/

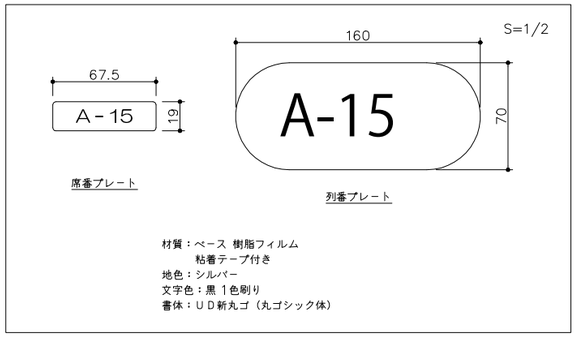
日付 2019.11.15

B23655－101E

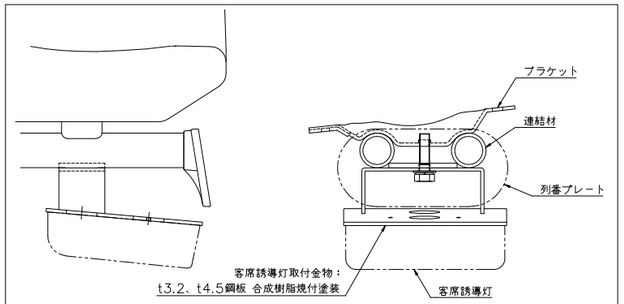


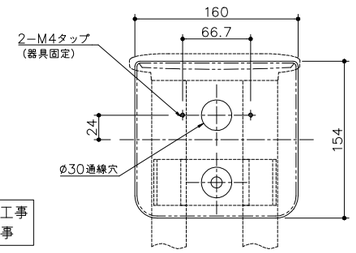
【参考】
コンクリート床取付詳細図　S=1/2
BLM−1508 同等品以上

表面処理
アンカーボルト：電気亜鉛めっき　（有色クロメート）
ナット・座金類：電気亜鉛めっき　（有色クロメート）



材質：ベース 樹脂フィルム
　　粘着テープ付き
地色：シルバー
文字色：黒 1色刷り
書体：ＵＤ新丸ゴ（丸ゴシック体）





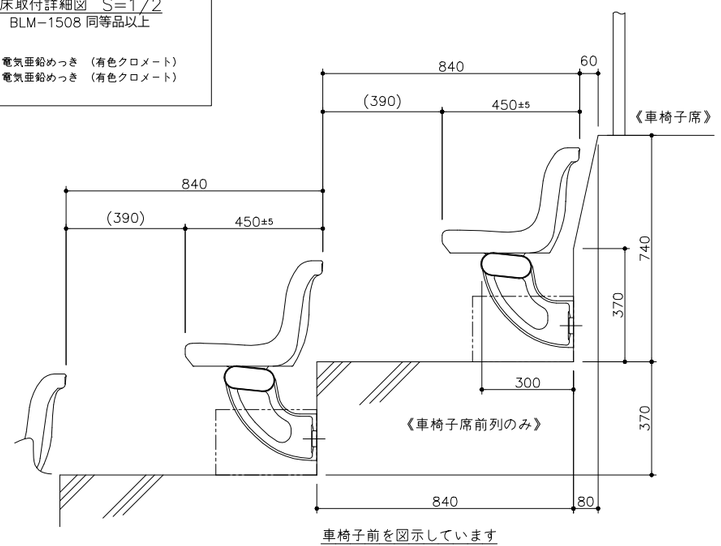
客席誘導灯取付金物：建築工事
器具・配線・結線：電気工事

客席誘導灯ブラケット詳細図 S=1/3

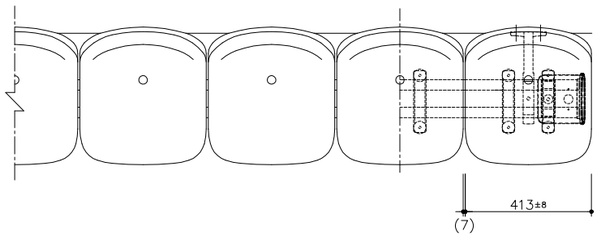
BLM−1508 同等品以上

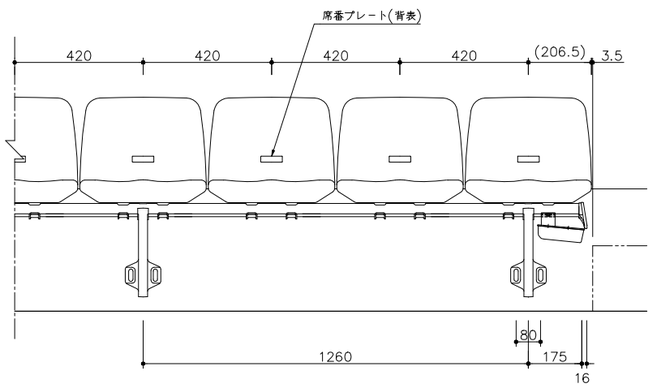
上台	高密度ポリエチレン　ブロー成形品　KB　水抜き穴付 同等品以上
連結材	φ34×t3.2鋼管　亜鉛めっき　透明被膜付
	ブラケット、クランプt3.2 鋼板プレス　溶融亜鉛めっき仕上
脚	アルミ合金ダイキャスト　屋外用合成樹脂焼付塗装　KC−230同等品以上
	床に固定
席番	：有り（背表・背裏）
列番	：有り

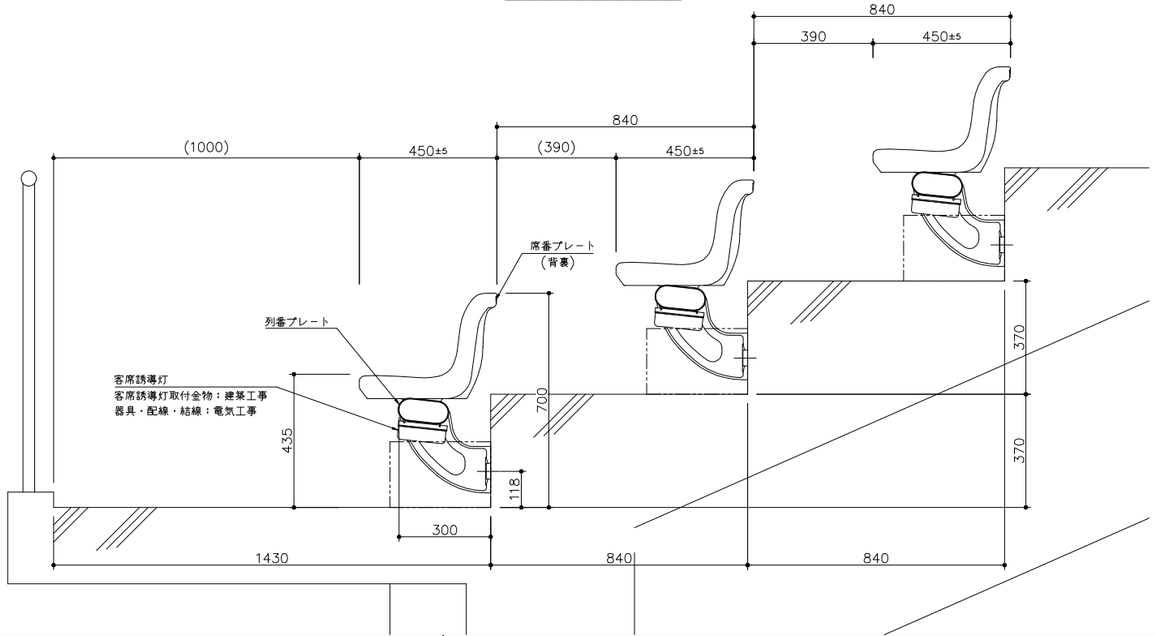
※ブロー成形品は、その製品特徴により伸縮があり、図中記入の寸法公差が発生します。



車椅子前を図示しています

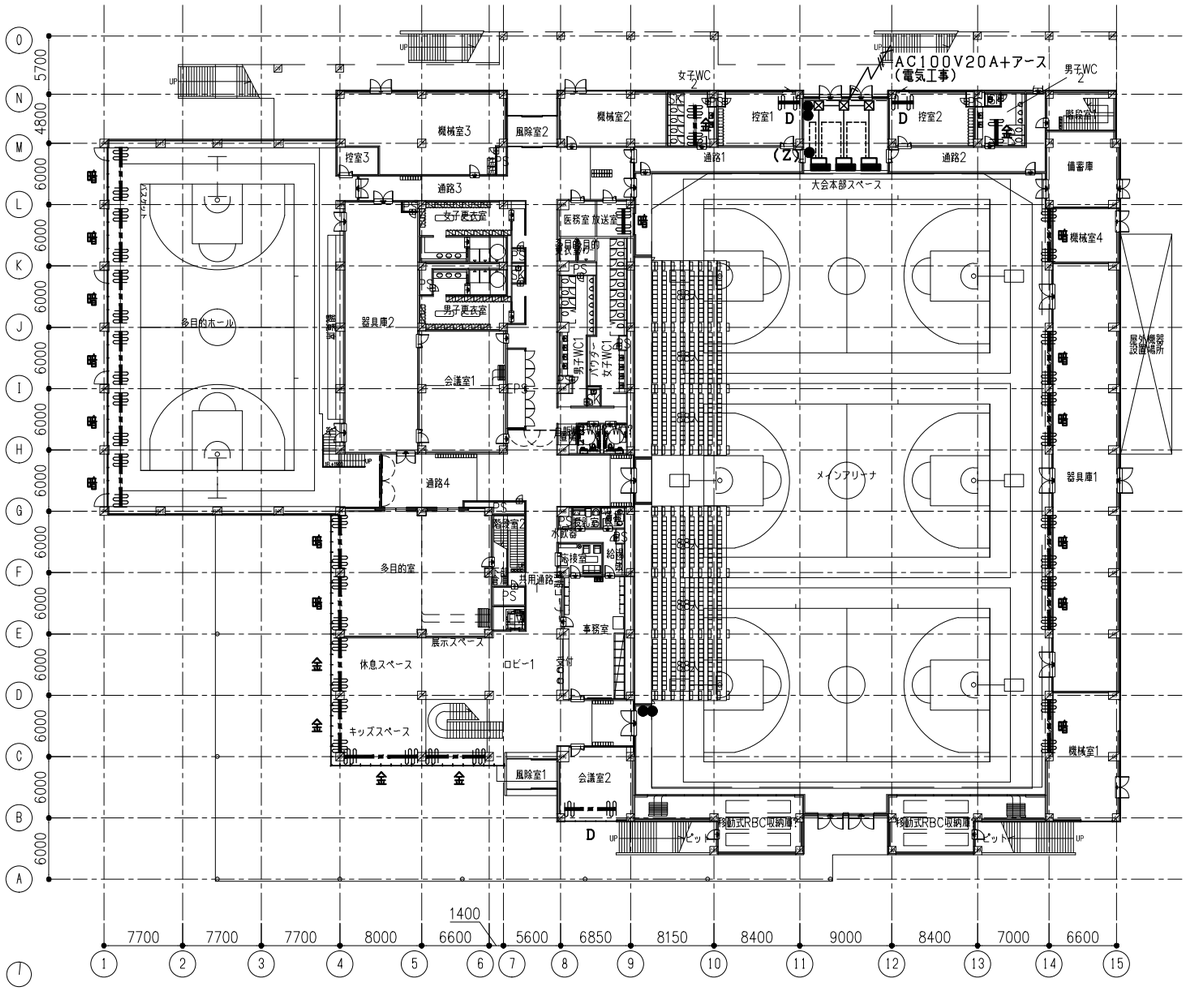






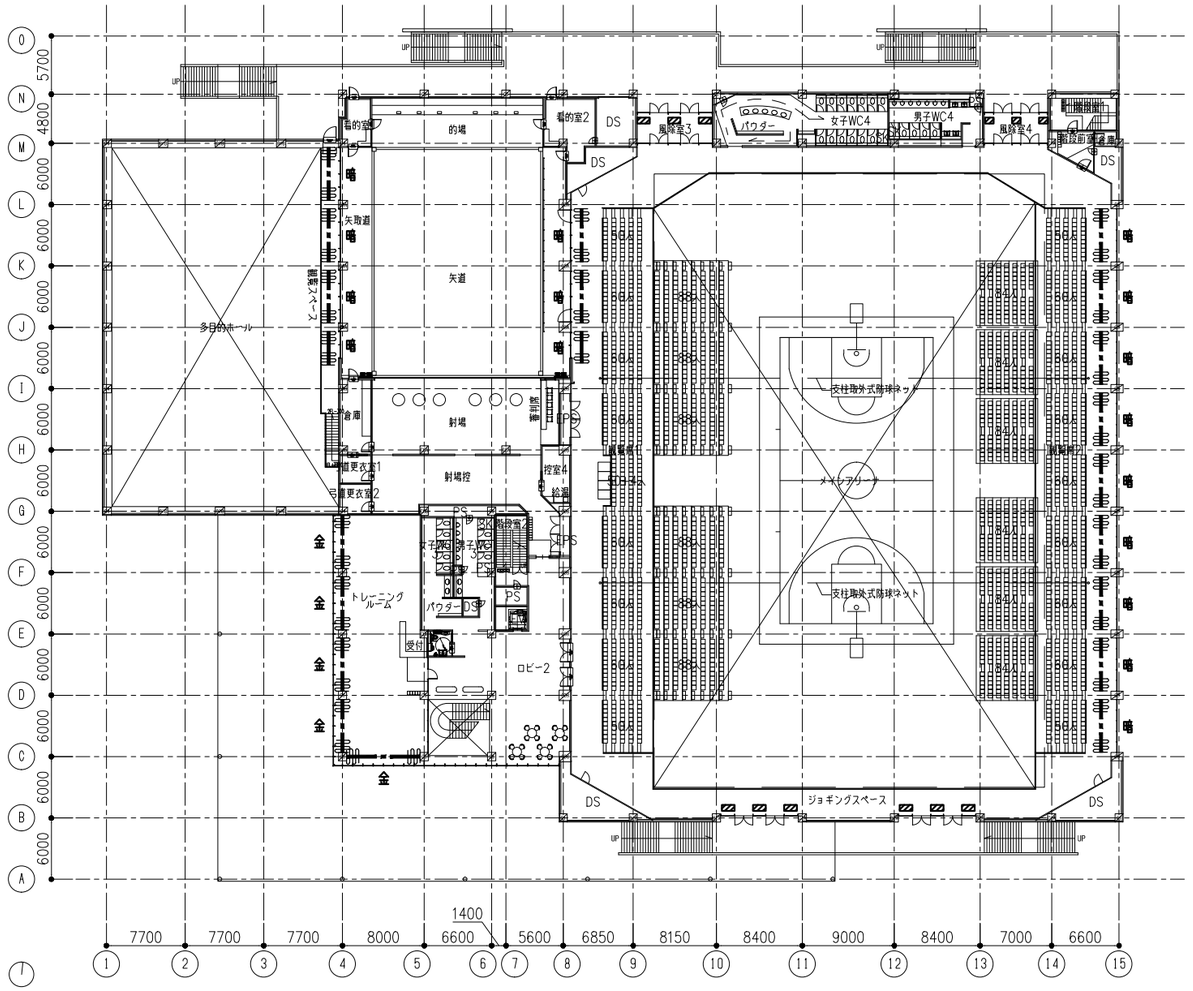
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	図面番号
			一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士				A −123
			第280187号	第336677号	第336801号		第5496号		固定式観覧席詳細図(2)　参考図	縮尺 1/	日付 2019.11.15
			中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子				

B23655−102E



配置・配線図　S=1／300

1階



配置・配線図　S=1／300

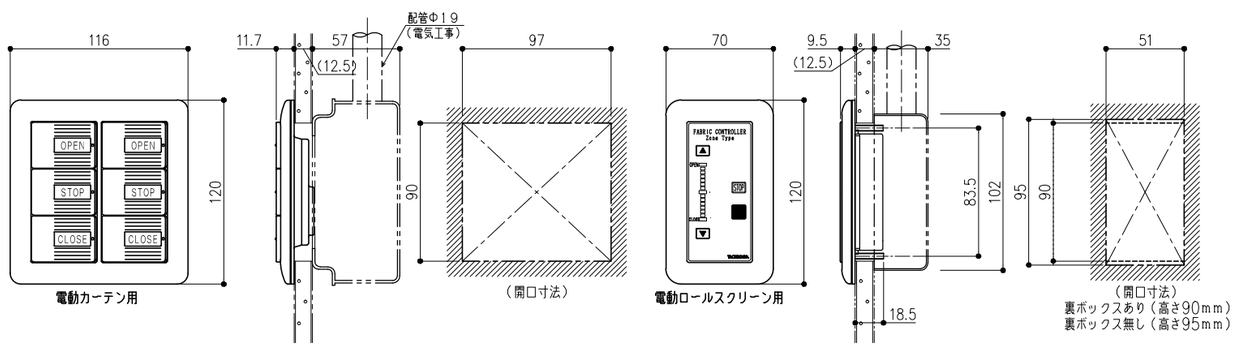
2階

凡　例

電動カーテンレール+暗幕カーテン	（立川　シエルド50　同等品）	コンセントプレート（裏ボックス付き）	3芯用（アース付コンセント）
	本体（40W／1台）		
	※カーテン生地適正重量：50kg以下	ジョイントボックス	（W230×H80×D38）
電動ロールスクリーン（パイプ径φ60）	（立川　RSE60クコスII　同等品）		
	本体（130W／1台）　待機電力0.3W（実測値）	モジュラプレート（裏ボックス付き）	1台用
	生地：立川　ミント　程度		
手動カーテンレール　ドレープ生地		コントローラ	（W230×H80×D38）
アルミ，耐加重30kg（片開き）・60kg（両開き）			
立川　V30　同等品	※‖はカーテンのタタミ込時を示す	電源 AC100V20A（アース付き）	<電気工事>
手動カーテンレール　暗幕生地		VVF　φ1．6-3C	（電源線）
アルミ，耐加重30kg（片開き）・60kg（両開き）			
立川　V30　同等品	※‖はカーテンのタタミ込時を示す	CPEV　φ0．65-4C	（スイッチ線）
手動カーテンレール　金網製			※モジュラープレート間及びモジュラープレート~カーテン制御盤間
アルミ，耐加重30kg（片開き）・60kg（両開き）		モジュラコード（6極6芯）	（信号線）
立川　V30　同等品	※‖はカーテンのタタミ込時を示す		※製品~モジュラープレート間
手動遮光ロールスクリーン（ガイドレール付）		LANケーブル（8極8芯）　カテゴリ5以上	（信号線・スイッチ線）
（立川　RSLガイドB仕様　同等品）			
生地：立川　ミント　程度		リレー制御盤	
電動カーテン用一斉スイッチ			
面毎一斉 操作用			
一斉スイッチ			
全一斉 操作用			

工事区分リスト

項　目	建築工事	ブラインド工事	電気工事
製品本体の取付け		○	
スイッチの取付け		○	
電源線・信号線・スイッチ線の配管			○
電源線・信号線・スイッチ線の配線			○
本体・スイッチとの結線		○	
電源（AC100V）の供給			○
コンセントプレート裏ボックスの設置			○
モジュラープレート裏ボックスの設置			○
B・BOX内のジョイントボックス取付		○	
B・BOX内のジョイントボックス内結線		○	
動作に必要な設定・調整		○	
カーテン制御盤の設置		○	
排煙連動信号の配線			○
スイッチ取付けに伴う仕上げ材の開口穴開け	○		
スイッチ設置に伴う裏ボックスの設置			○
B・BOX配線穴開け	○		
B・BOX設置	○		



スイッチ詳細図　S=1／2

飯塚新体育館

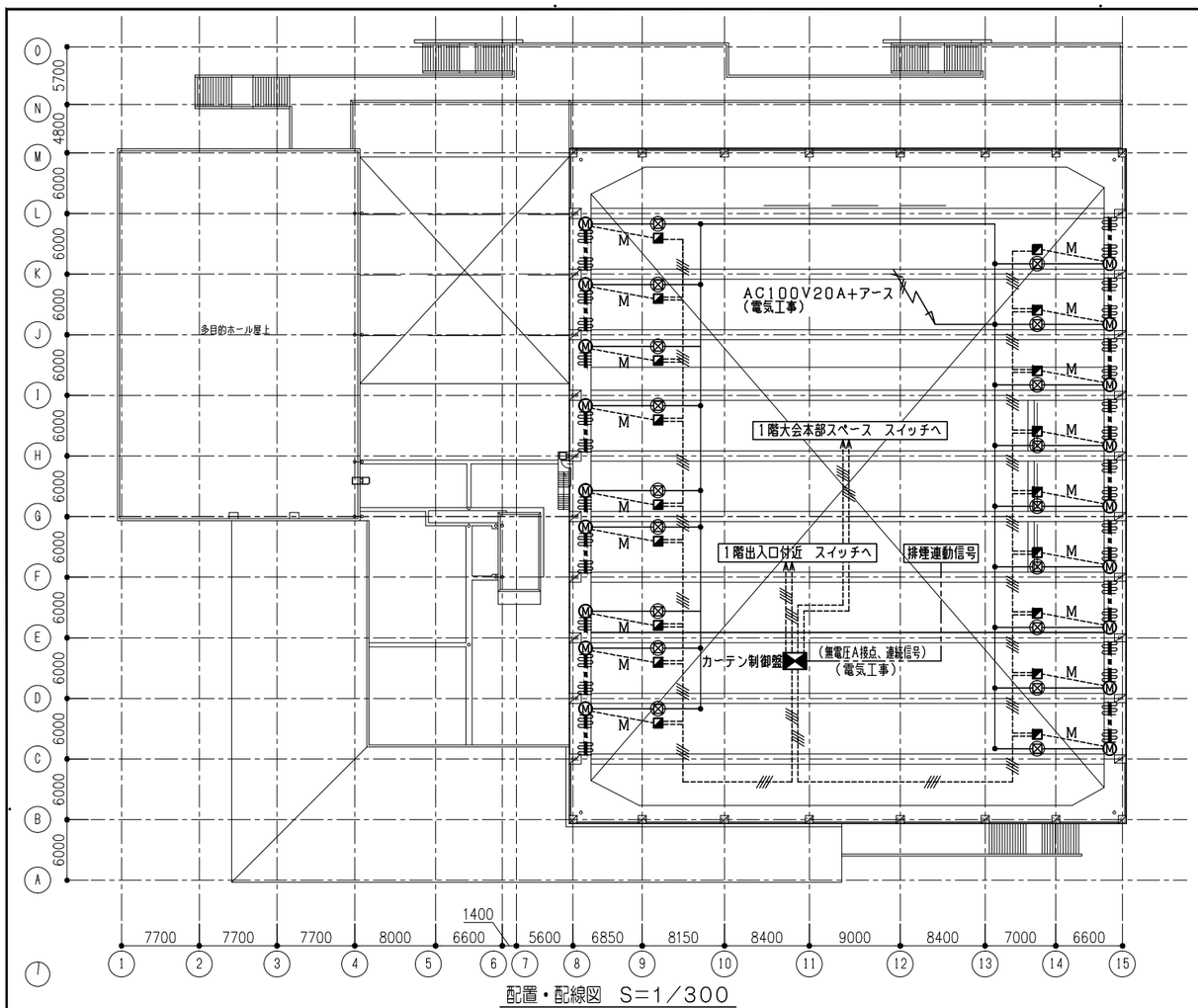
AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1ー10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号		図面番号 A ー124
カーテン・ロールスクリーンレール詳細図(1)	縮尺 1／	日付 2019・11・15	

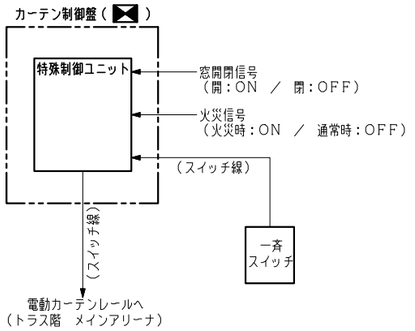


配置・配線図　S=1／300

トラス階

カーテン制御盤（排煙連動）

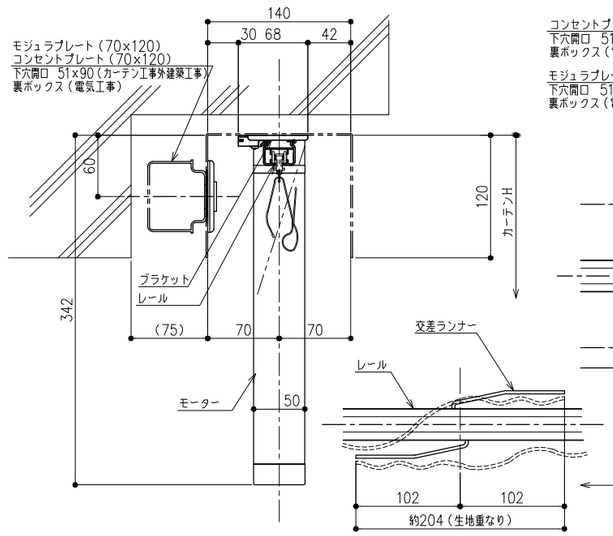
- 窓が閉じているときのみ動作しますが、開いているときはスイッチを押しても動作しません。
- 非常時（火災信号入力時）は全開かつスイッチ操作禁止となります。



※窓開閉信号、火災信号は「無電圧A接点、連続信号」とする。

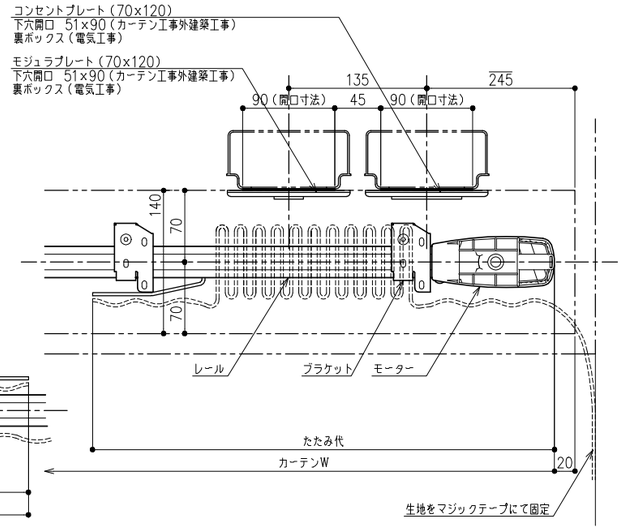
製品リスト　※暗幕カーテン用タッセルは、カーテン自体に縫い付けること。

階数	取り付け場所	製品仕様	W寸法	H寸法	台数	備考
1	多目的ホール	手動カーテンレール　暗幕生地	6，000	3，000	6	生地は建築工事外
	控室1	手動カーテンレール　ドレープ生地	800	1，200	1	〃
	控室2	手動カーテンレール　ドレープ生地	800	1，200	1	〃
	女子WC2	手動カーテンレール　金網製 原金網　Bタイプ金網　同等	4，000	2，600	1	〃
	男子WC2		2，600	2，600	1	〃
	多目的室	手動カーテンレール　暗幕生地	5，200	3，200	2	〃
	休息スペース キッズスペース	手動カーテンレール　金網製 原金網　Bタイプ金網　同等	5，200	4，400	2	〃
			7，200	4，400	1	〃
			5，800	4，400	1	〃
	会議室2	手動カーテンレール　ドレープ生地	5，000	2，600	1	〃
	放送室	手動カーテンレール　暗幕生地	2，000	900	1	〃
	大会本部スペース	電動ロールスクリーン（パイプ径φ60）	2，670	2，600	3	〃
2	多目的ホール	手動カーテンレール　暗幕生地	4，000	3，300	1	〃
			6，000	3，300	3	〃
	トレーニングルーム	手動カーテンレール　金網製 原金網　Bタイプ金網　同等	5，200	3，500	4	〃
			7，200	3，500	1	〃
	メインアリーナ ジョギングスペース	手動カーテンレール　暗幕生地	3，530	3，300	1	〃
			6，000	3，300	2	〃
			5，200	3，300	9	〃
		手動遮光ロールスクリーン	1，200	2，900	6	〃
	風除室3	手動遮光ロールスクリーン	1，150	2，900	3	〃
	風除室4	手動遮光ロールスクリーン	800	2，900	3	〃
トラス	メインアリーナ	電動カーテンレール+暗幕カーテン	5，200	1，400	15	〃
			2，700	1，400	3	〃



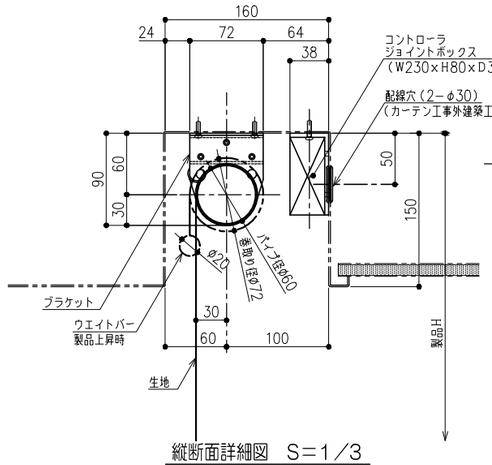
縦断面詳細図　S=1／3

電動カーテンレール



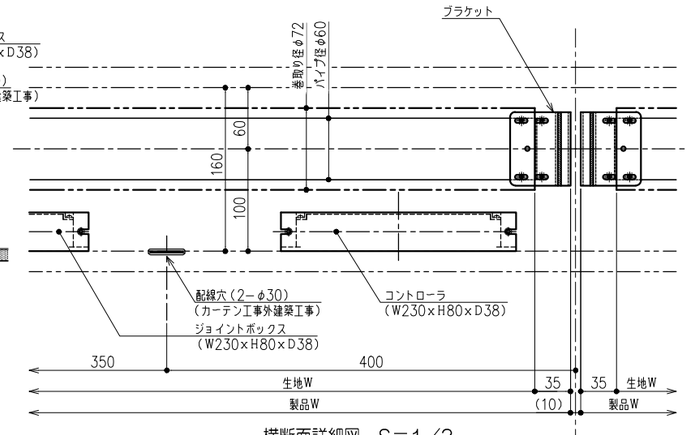
横断面詳細図　S=1／3

電動カーテンレール



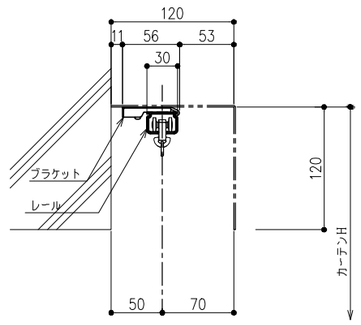
縦断面詳細図　S=1／3

電動ロールスクリーン



横断面詳細図　S=1／3

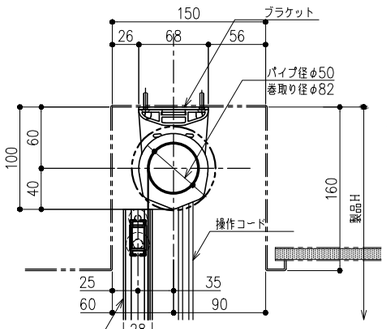
電動ロールスクリーン



縦断面詳細図　S=1／3

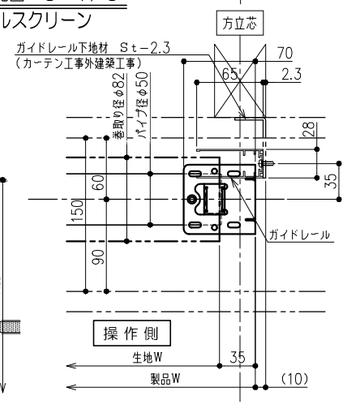
手動カーテンレール　暗幕生地

手動カーテンレール　ドレープ生地



縦断面詳細図　S=1／3

手動遮光ロールスクリーン



横断面詳細図　S=1／3

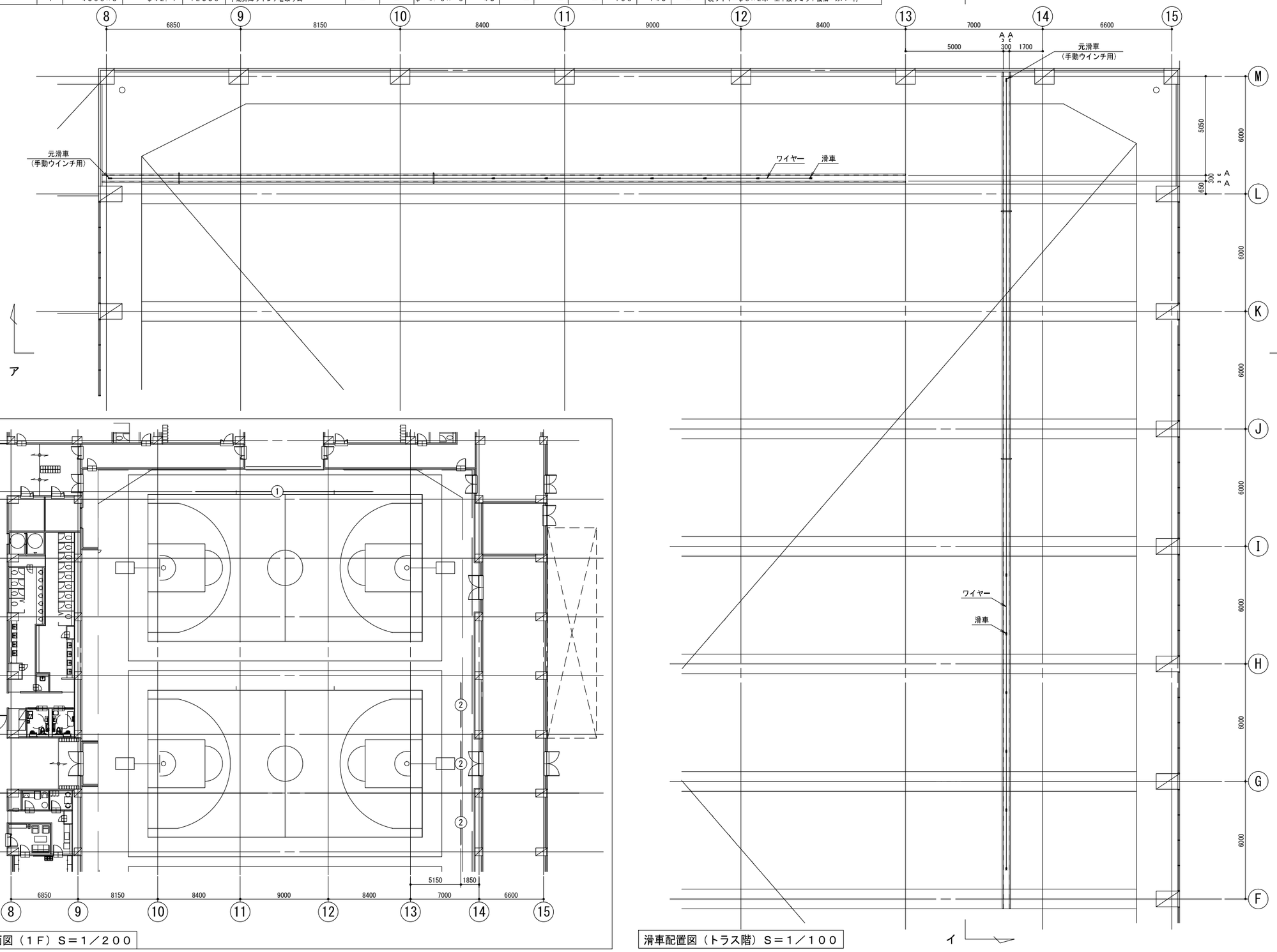
手動遮光ロールスクリーン

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者	法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	図面番号
		一級建築士 第280187号 中川 崇 / 一級建築士 第336677号 加野 正知 / 一級建築士 第336801号 江口 聡一郎 / 林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		カーテン・ロールスクリーンレール詳細図(2)	縮尺 1／ 日付 2019・11・15	A －125

舞台機構設備　仕様表

吊物機構設備

番号	装置名	数量	バトン等 長さ（mm）	バトン等 径等（mm）	ストローク（mm）	駆動方式	速度（m/min）	電動機 容量（kw）	吊ワイヤー 径×吊点数	質量（kg） バトン等	フライダクト等	幕地	その他	積載	合計	自動停止ヶ所	備考
1	吊物バトン－1	1	18000	φ42．7	12550	手動昇降ウインチ巻取り式	－	－	φ 4．0× 7	50	－	－	－	100	150	－	親ワイヤーφ6×2本　上下限リミット機構・カバー付
2	吊物バトン－2	1	4500×3	φ42．7	12550	手動昇降ウインチ巻取り式	－	－	φ 4．0× 6	45	－	－	－	100	145	－	親ワイヤーφ6×2本　上下限リミット機構・カバー付



吊物配置平面図（１Ｆ）Ｓ＝１／２００

滑車配置図（トラス階）Ｓ＝１／１００

荷重表（概算）

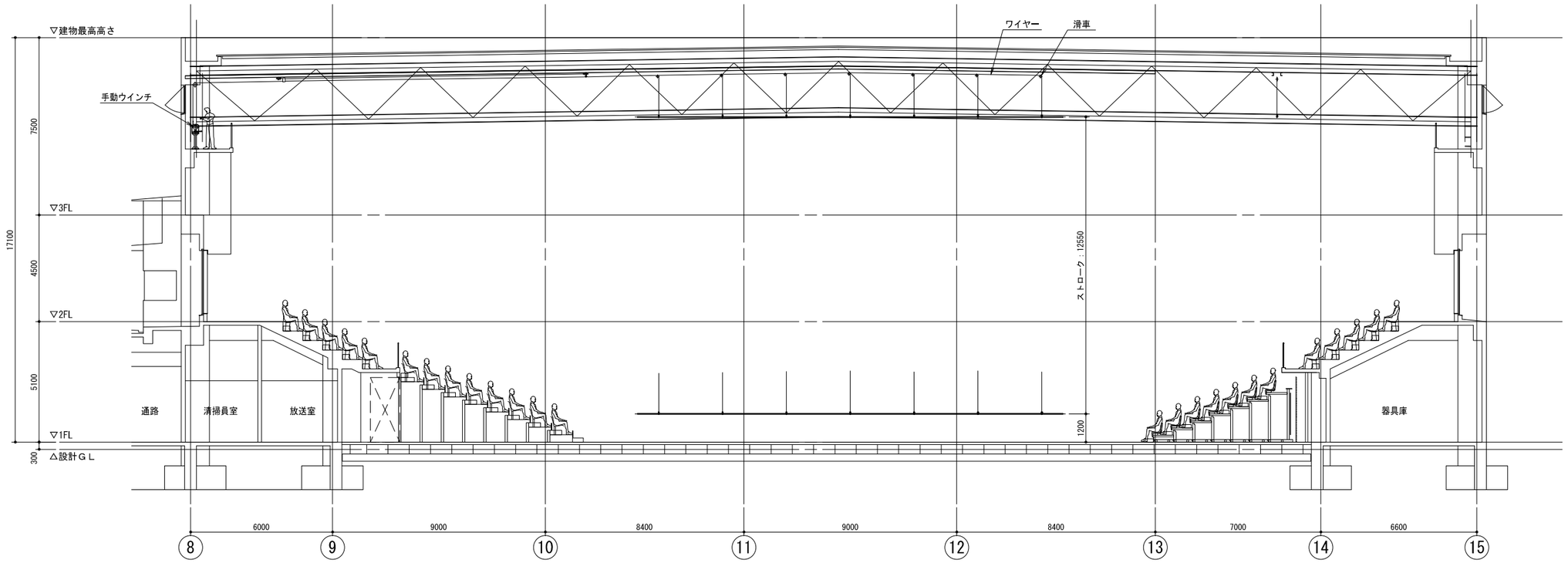
吊物		295kg
吊物機器 ブドウ棚上	マシン	－kg
吊物機器 ブドウ棚上	滑車他	285kg
滑車受け鉄骨（参考）		2550kg
合計		3130kg

注記）1．　荷重表に示すのは鉛直荷重を表す。
　　2．　荷重表はその他の設備重量は含まない。

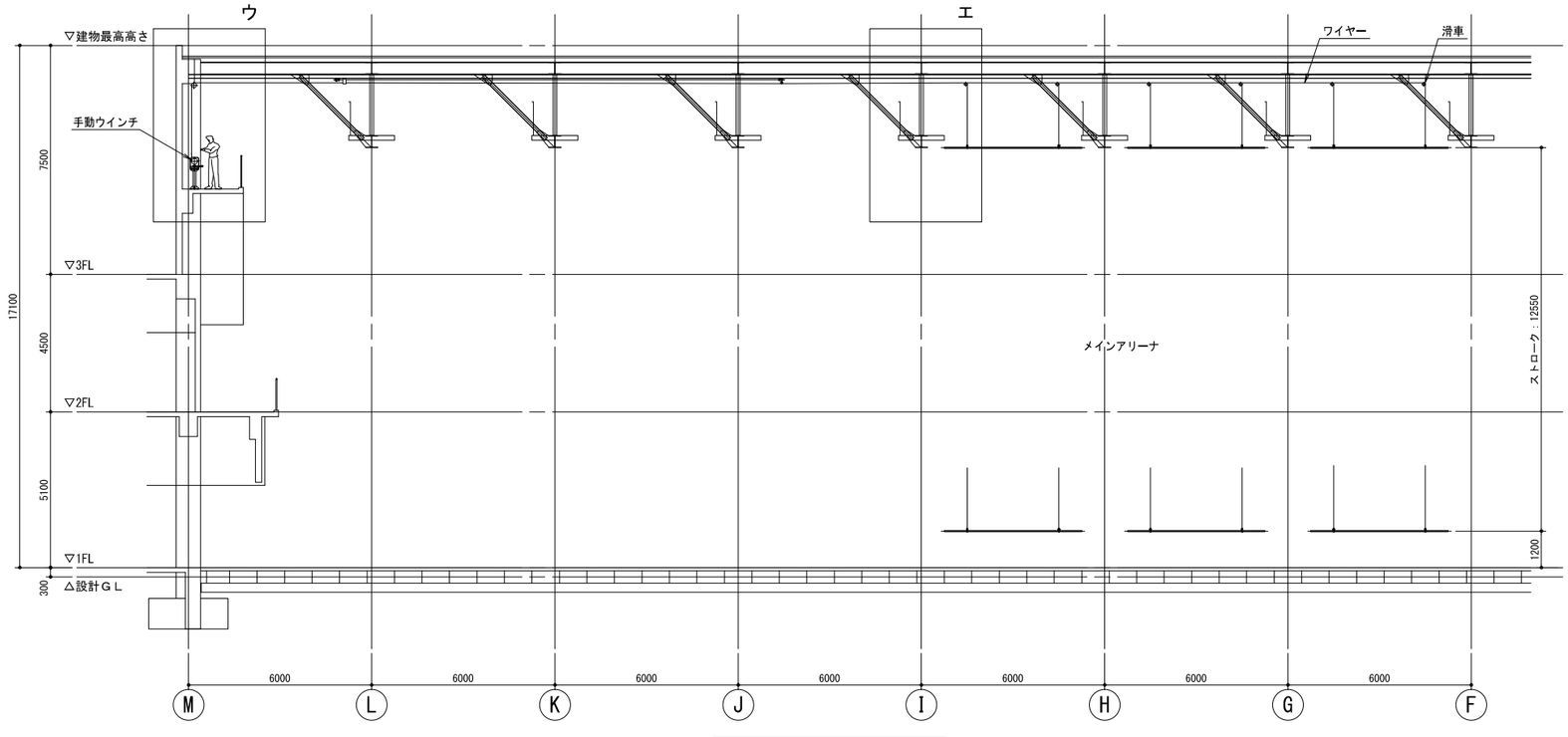
部材リスト　（建築工事）

記号	部材	備考
A	[－150×75×6.5×10	滑車受け

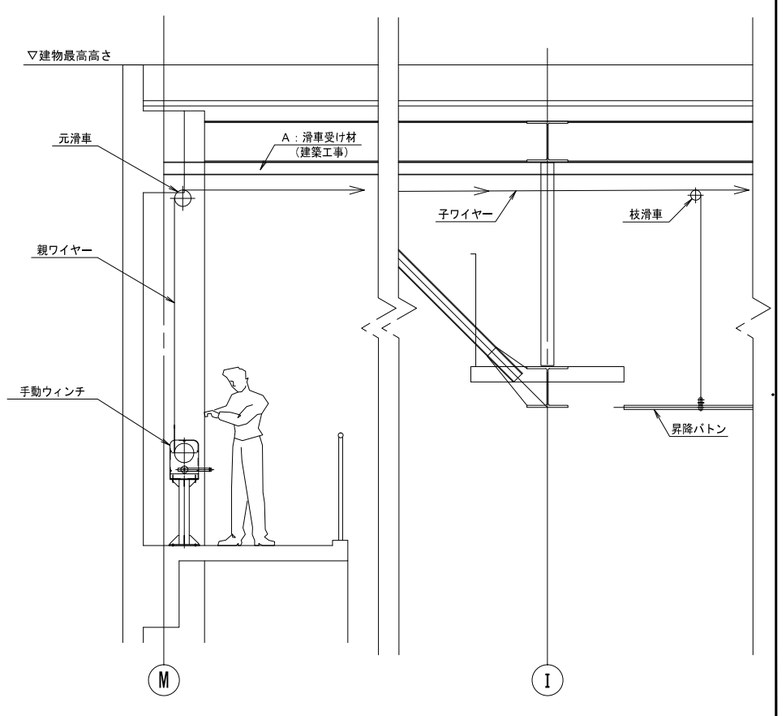
| | | |



アーア矢視　Ｓ＝１／１００



イーイ矢視　Ｓ＝１／１００



ウ部詳細図

エ部詳細図

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

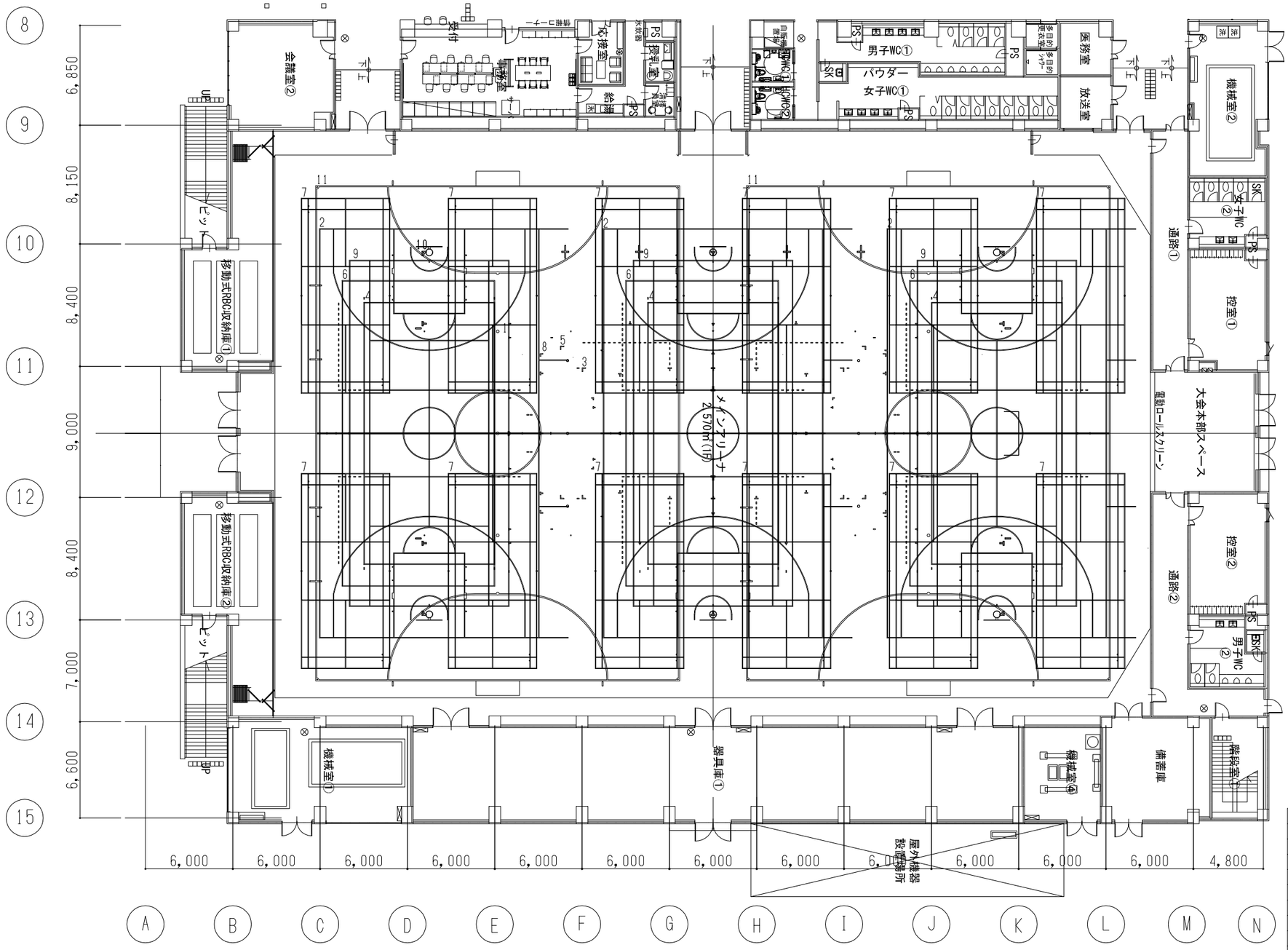
吊りバトン詳細図(2)

設計番号 16779

図面番号 A — 127

縮尺 1/11:100 A3:200

日付 2019・11・15

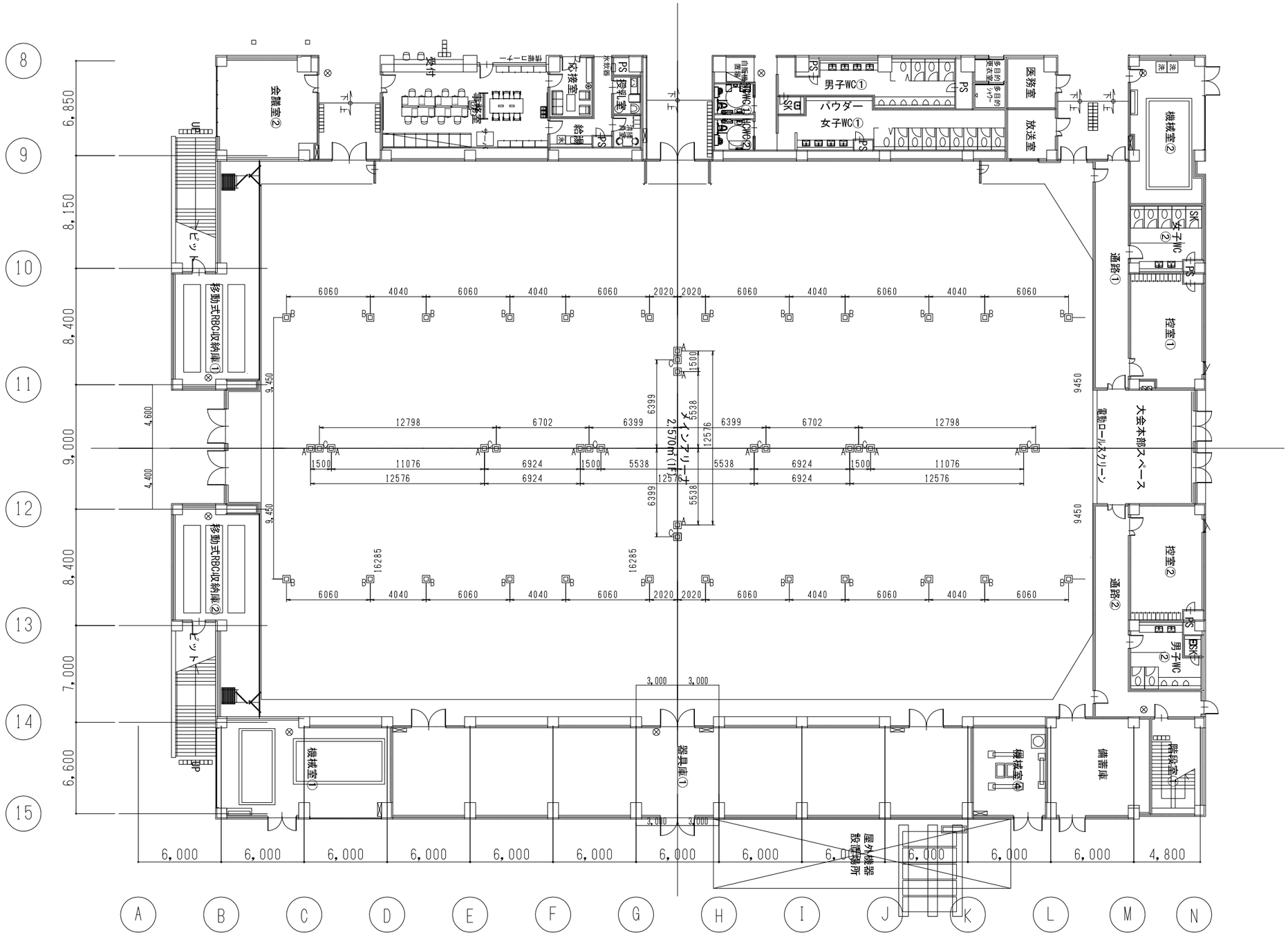


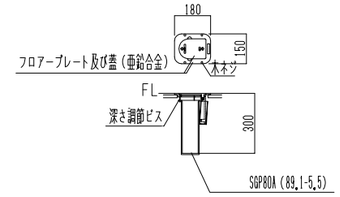
メインアリーナ　コートライン内訳表

記号	種別	寸法	面数	備考	ライン色	優先順位
1	メインバスケットボールコート	28000x15000	1面	コーナーポイント　ライン幅50m	・	・
2	サブバスケットボールコート	28000x15000	3面	実線　ライン幅50m	・	・
3	メインバレーボールコート（6人制）	18000x 9000	1面	コーナーポイント　ライン幅50m	・	・
4	サブバレーボールコート（6人制）	18000x 9000	3面	実線　ライン幅50m	・	・
5	メインバレーボールコート（9人制・一般男子）	21000x10500	1面	コーナーポイント　ライン幅50m	・	・
6	サブバレーボールコート（9人制・一般男子）	21000x10500	3面	実線　ライン幅50m	・	・
7	バドミントンコート	13400x 6100	12面	実線　ライン幅40m	・	・
8	メインテニスコート（硬式）	23770x10970	1面	コーナーポイント　ライン幅50m	・	・
9	サブテニスコート（硬式）	23770x10970	3面	実線　ライン幅50m	・	・
10	メインフットサルコート	40000x25000	1面	コーナーポイント　ライン幅80m	・	・
12	サブフットサルコート	34000x25000	2面	実線　ライン幅80m	・	・

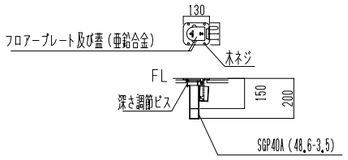
※コーナー及びポイントは、最優先ラインとする。
※ライン同士が接する箇所については、マスキングテープ幅分縁切りする。
※9人制バレーボールコート用床金具は、片側を6人制バレーボールと兼用する。

| | | |



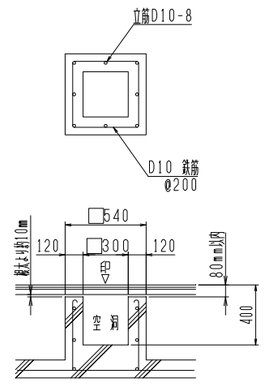


バレー用床金具
UT-150 S=1:10



バドミントン用床金具
UT-151 S=1:10

球技関係　床金具内訳表			
A	バレーボール用床金具	亜鉛合金製　落蓋式	12個
B	バドミントン用床金具	亜鉛合金製　落蓋式	24個
C	テニス用床金具	亜鉛合金製　落蓋式	8個
合　計			44個



基礎詳細（参考図）S=1/20
（基礎は躯体工事に含む）

球技関係　基礎内訳表		
A	バレーボール用基礎	12個
B	バドミントン用基礎	24個
C	テニス用基礎	8個
合　計		44個

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

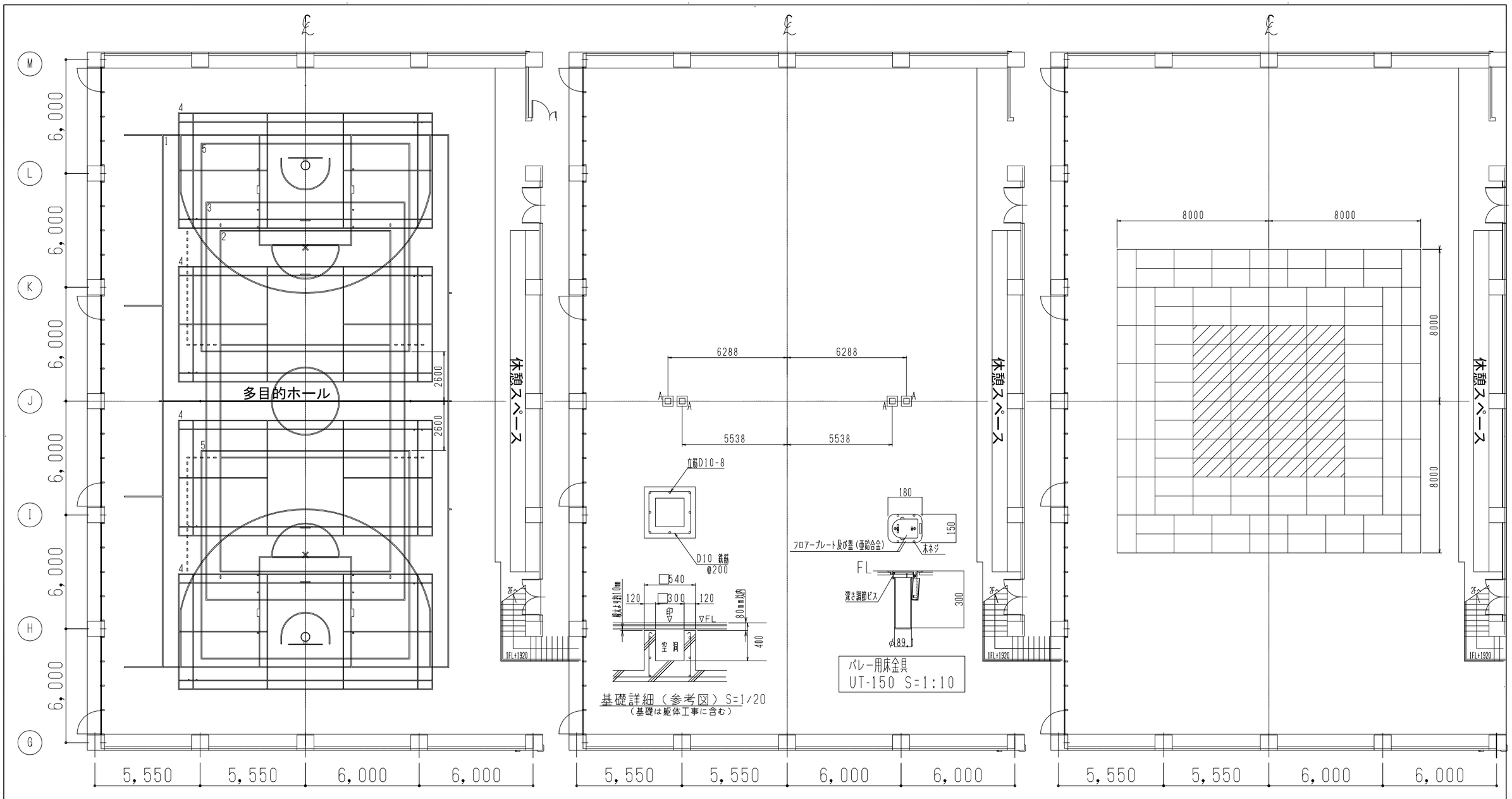
メインアリーナ基礎配置図

設計番号

縮尺 1/

日付 2019-11-15

図面番号 A －129



コート配置図　S=1/100

基礎詳細（参考図）S=1/20
（基礎は躯体工事に含む）

パレー用床金具
UT-150 S=1:10

基礎配置図　S=1/100

畳配置図　S=1/100

サブアリーナ　コートライン内訳表

記号	種別	寸法	面数	備考	ライン色	優先順位
1	メインバスケットボールコート	28000x15000	1面	実線 ライン幅50mm	·	·
2	メインバレーボールコート（6人制）	18000x 9000	1面	実線 ライン幅50mm	·	·
3	メインバレーボールコート（9人制・一般男子）	21000x10500	1面	実線 ライン幅50mm	·	·
4	バドミントンコート	13400x 6100	4面	実線 ライン幅40mm	·	·
5	副道コート	11000x11000	2面	実線 ライン幅50mm	·	·

※コーナー及びポイントは、最優先ラインとする。
※ライン同士が接する箇所については、マスキングテープ幅分縁切りします。

球技関係　基礎内訳表

A	バレーボール用基礎	4個
合計		4個

サブアリーナ畳内訳表（畳は別途）

品名	仕様	数量
柔道畳	2000x1000xt60 イエロー	32枚
柔道畳	2000x1000xt60 グリーン	96枚

飯塚新体育館

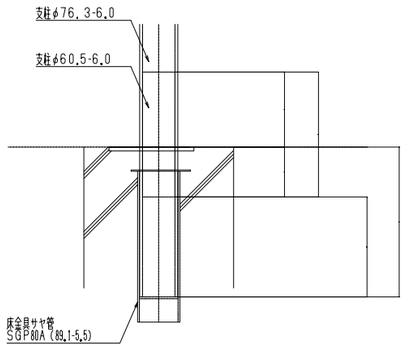
AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎 / 林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事
多目的ホール コート配置図・基礎配置図・畳配置図

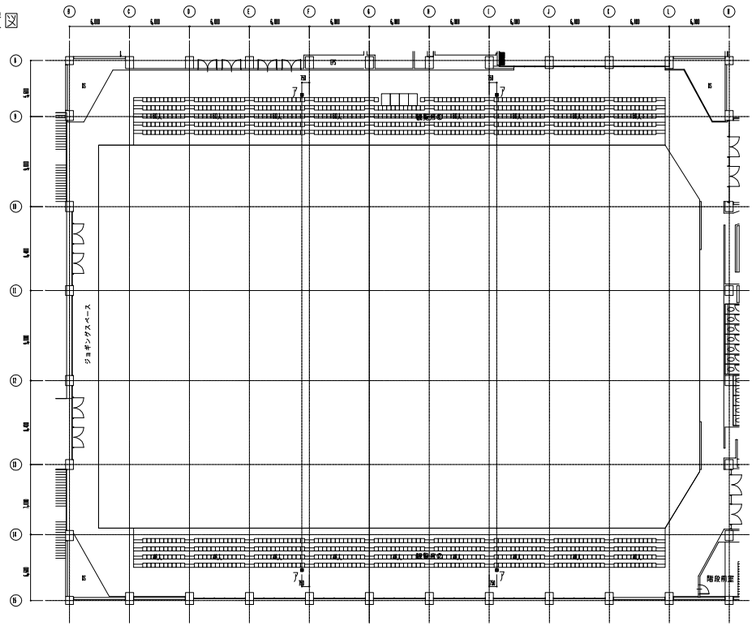
設計番号
図面番号 A — 130
縮尺 1/
日付 2019・11・15

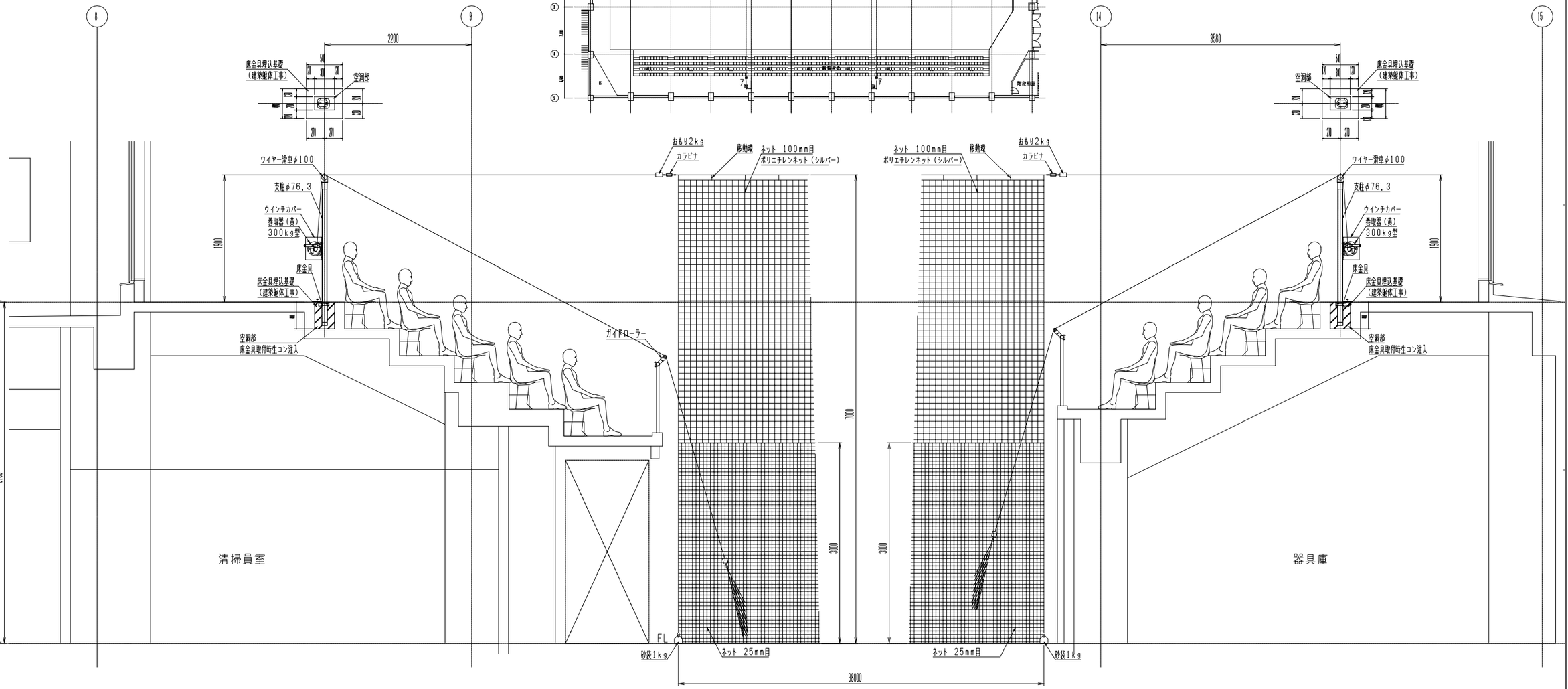


支柱詳細図　S＝1／6

セパレーターネット平面位置図

※記号7は、床金具用基礎を示す。
（建築躯体工事に含む）4ヶ所





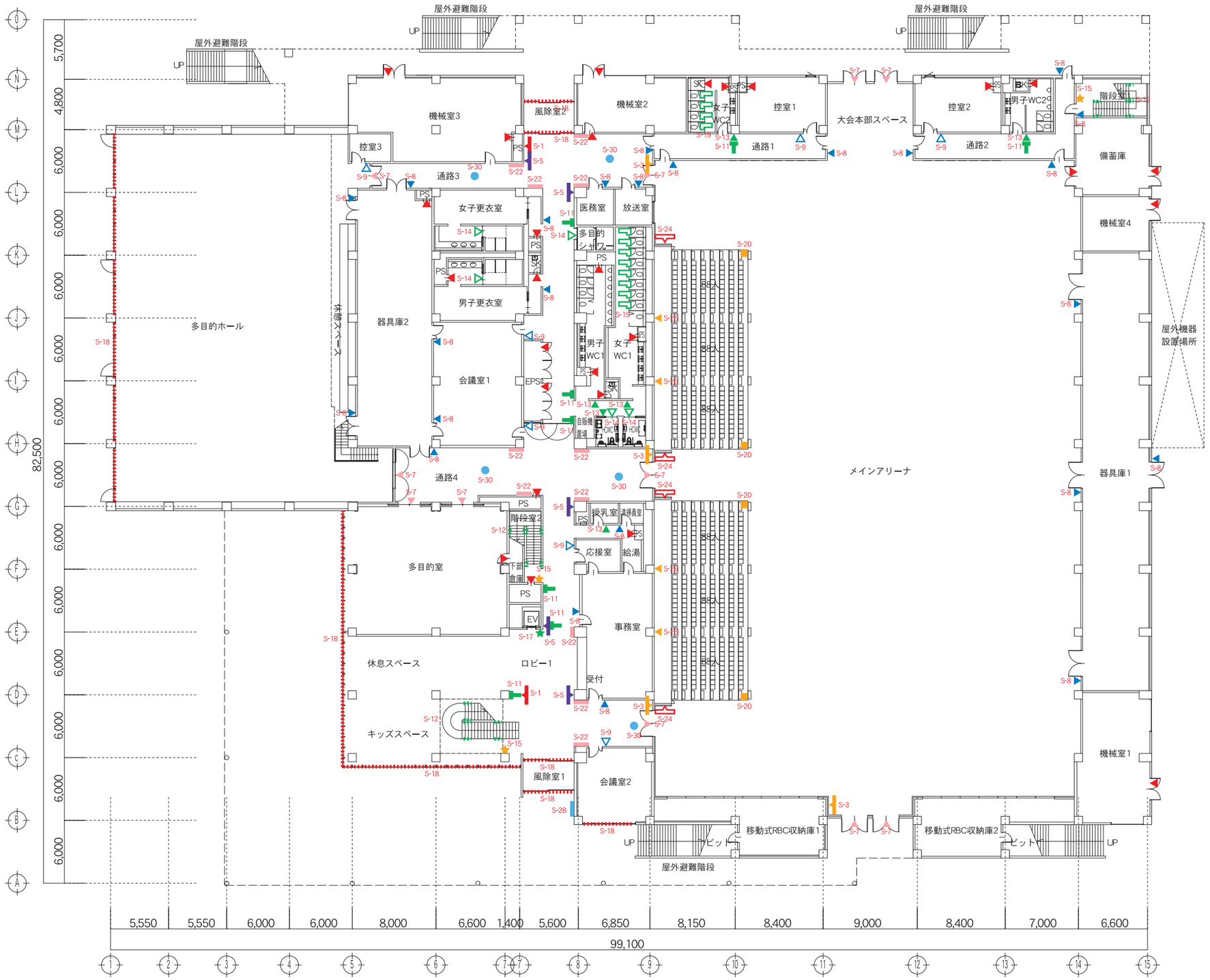
セパレーターネット図

ネット取外し式　S＝1／30

| | | |

1階サインキープラン

A3:S=1/400　A1:S=1/200



外部

符号	記号	名　　称	合計
EX-1	▬	案内板	2
EX-2	▬	利用案内	1
EX-3	▬	自立誘導	5
EX-4	▬	車椅子駐車場	1
EX-5	▬	駐輪場	1
EX-7	▬	入口名称サイン	2
EX-8	▬	自立館銘＋案内サイン（横型）	1
EX-9	▬	駐輪場サイン（横型）	2
EX-10	▬	ランニングコース距離表示	1

内部

符号	記号	名　　称	1F	2F	RF	合計
S-1	▬	総合案内サイン	2	-	-	2
S-2	▬	フロア案内サイン	-	4	-	4
S-3	▬	客席案内サイン	4	5	-	9
S-5	▬	壁面誘導サイン	5	2	-	7
S-7	▲	アリーナサイン	11	4	-	15
S-8	▲	室名サインA	24	8	-	32
S-9	△	室名サイン（在空）	7	1	-	8
S-10	▲	室名サインA（BY）	27	20	1	48
S-11	▬	突出サイン	8	8	-	16
S-12	▬	手摺点字サイン	18	20	-	38
S-13	▲	ピクトサインA（トイレ前）	6	5	-	11
S-14	△	ピクトサインB	5	1	-	6
S-15	★	階数表示サイン（当階）	3	3	-	6
S-16	★	階数表示サイン（踊場）	-	2	1	3
S-17	★	EV階数サイン	1	1	-	2
S-18	▬	衝突防止サイン	8ヶ所	9ヶ所	-	17ヶ所
S-19	▬	トイレ在空サイン	12	18	-	30
S-20	■	定員表示サイン	4	6	-	10
S-21	■	スタンドサイン	2	-	-	2
S-22	▬	グラフィックサイン	11	1	-	12
S-23	▬	ランニングコース距離表示	-	1	-	1
S-24	▬	避難経路図	4	4	-	8
S-25	■	消火ポンプ表示	-	-	-	5
S-26	▲	エリア表示	4	16	-	20
S-27	□	三禁表示	-	-	-	5
K-1	▬	掲示板	1	2	-	3
S-28	▬	館名サイン	1	-	-	1
S-29	▬	トレーニングルーム壁面	-	1	-	1
S-30	●	靴履き替えサイン	5	-	-	5

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

1階サインキープラン

設計番号 158095

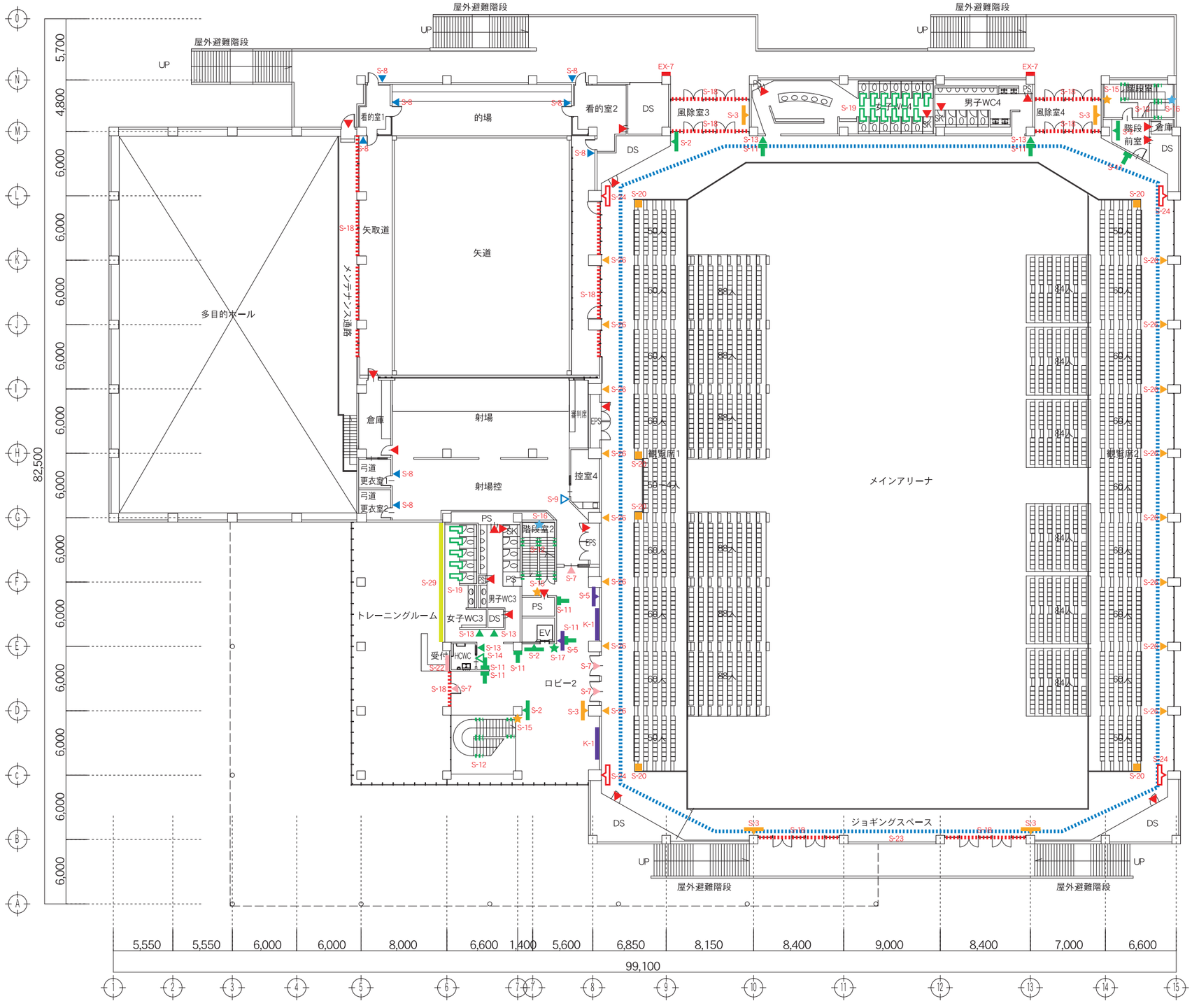
図面番号 A − 132

縮尺 1/ A1: A3:

日付 2019・11・15

2階サインキープラン

A3:S=1/400　A1:S=1/200



外部

符号	記号	名　　称	合計
EX-1	▬	案内板	2
EX-2	▬	利用案内	1
EX-3	▬	自立誘導	5
EX-4	▬	車椅子駐車場	1
EX-5	▬	駐輪場	1
EX-7	▬	入口名称サイン	2
EX-8	▬	自立館銘＋案内サイン（横型）	1
EX-9	▬	駐輪場サイン（横型）	2
EX-10	┅	ランニングコース距離表示	1

内部

符号	記号	名　　称	1F	2F	RF	合計
S-1	▲	総合案内サイン	2	-	-	2
S-2	▲	フロア案内サイン	-	4	-	4
S-3	▬	客席案内サイン	4	5	-	9
S-5	▬	壁面誘導サイン	5	2	-	7
S-7	▲	アリーナサイン	11	4	-	15
S-8	▲	室名サインA	24	8	-	32
S-9	△	室名サイン（在空）	7	1	-	8
S-10	▲	室名サインA（BY）	27	20	1	48
S-11	▙	突出サイン	8	8	-	16
S-12	┅	手摺点字サイン	18	20	-	38
S-13	▲	ピクトサインA（トイレ前）	6	5	-	11
S-14	△	ピクトサインB	5	1	-	6
S-15	★	階数表示サイン（当階）	3	3	-	6
S-16	★	階数表示サイン（踊場）	-	2	1	3
S-17	★	EV階数サイン	1	1	-	2
S-18	┅	衝突防止サイン	8ヶ所	9ヶ所	-	17ヶ所
S-19	▙	トイレ在空サイン	12	18	-	30
S-20	■	定員表示サイン	4	6	-	10
S-21	■	スタンドサイン	2	-	-	2
S-22	▬	グラフィックサイン	11	1	-	12
S-23	┅	ランニングコース距離表示	-	1	-	1
S-24	▭	避難経路図	4	4	-	8
S-25	■	消火ポンプ表示	-	-	-	5
S-26	▲	エリア表示	4	16	-	20
S-27	□	三禁表示	-	-	-	5
K-1	▬	掲示板	1	2	-	3
S-28	▬	館名サイン	1	-	-	1
S-29	▬	トレーニングルーム壁面	-	1	-	1
S-30	●	靴履き替えサイン	5	-	-	5

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

2階サインキープラン

設計番号 158095

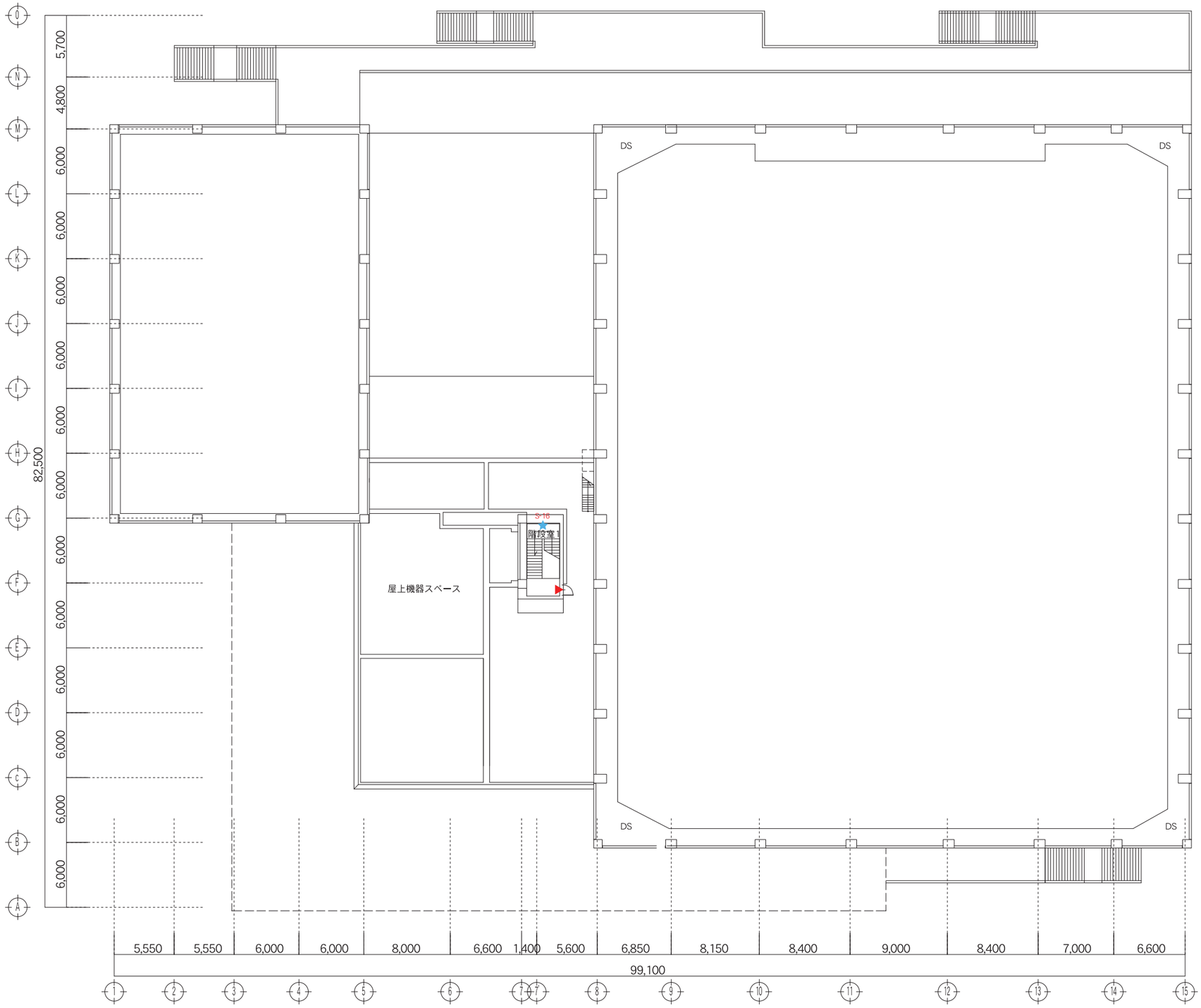
図面番号 A − 133

縮尺 1/ A1: A3:

日付 2019・11・15

3階サインキープラン

A3:S=1/400　A1:S=1/200



外部

符号	記号	名　　称	合計
EX-1	▬	案内板	2
EX-2	▬	利用案内	1
EX-3	▬	自立誘導	5
EX-4	▬	車椅子駐車場	1
EX-5	▬	駐輪場	1
EX-7	▬	入口名称サイン	2
EX-8	▬	自立館銘+案内サイン（横型）	1
EX-9	▬	駐輪場サイン（横型）	2
EX-10	┅	ランニングコース距離表示	1

内部

符号	記号	名　　称	1F	2F	RF	合計
S-1	▲	総合案内サイン	2	-	-	2
S-2	▲	フロア案内サイン	-	4	-	4
S-3	▲	客席案内サイン	4	5	-	9
S-5	▲	壁面誘導サイン	5	2	-	7
S-7	▲	アリーナサイン	11	4	-	15
S-8	▲	室名サインA	24	8	-	32
S-9	△	室名サイン（在空）	7	1	-	8
S-10	▲	室名サインA（BY）	27	20	1	48
S-11	▮	突出サイン	8	8	-	16
S-12	┅	手摺点字サイン	18	20	-	38
S-13	▲	ピクトサインA（トイレ前）	6	5	-	11
S-14	△	ピクトサインB	5	1	-	6
S-15	★	階数表示サイン（当階）	3	3	-	6
S-16	★	階数表示サイン（踊場）	-	2	1	3
S-17	★	EV階数サイン	1	1	-	2
S-18	┅	衝突防止サイン	8ヶ所	9ヶ所	-	17ヶ所
S-19	▮	トイレ在空サイン	12	18	-	30
S-20	■	定員表示サイン	4	6	-	10
S-21	■	スタンドサイン	2	-	-	2
S-22	▬	グラフィックサイン	11	1	-	12
S-23	┅	ランニングコース距離表示	-	1	-	1
S-24	▲	避難経路図	4	4	-	8
S-25	■	消火ポンプ表示	-	-	-	5
S-26	▲	エリア表示	4	16	-	20
S-27	□	三禁表示	-	-	-	5
K-1	▬	掲示板	1	2	-	3
S-28	▬	館名サイン	1	-	-	1
S-29	▬	トレーニングルーム壁面	-	1	-	1
S-30	●	靴履き替えサイン	5	-	-	5

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

PH階サインキープラン

設計番号 158095

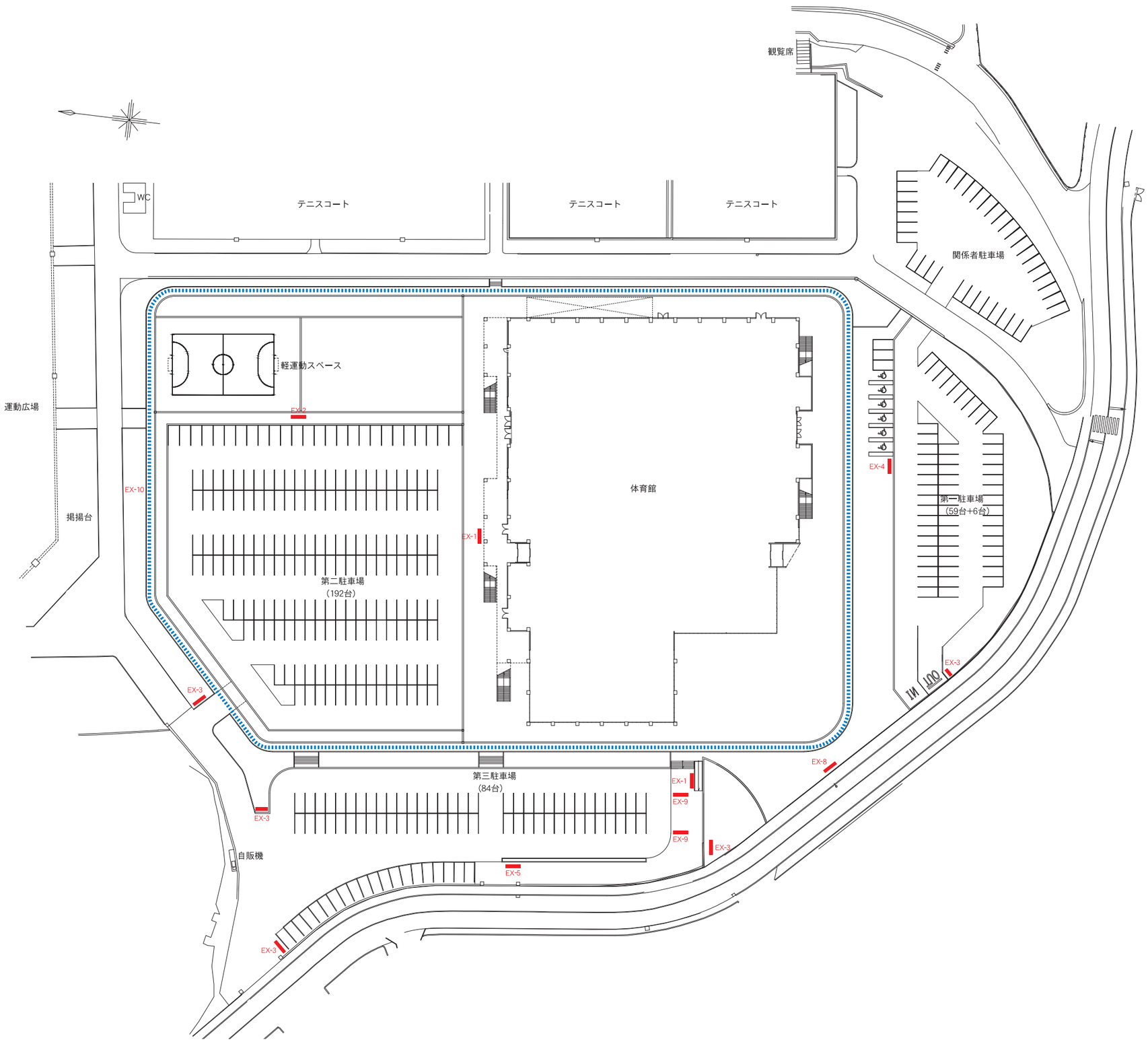
図面番号 A －134

縮尺 1/ A1: A3:

日付 2019-11-15

外構サインキープラン

A3:S=1/-　A1:S=1/-



外部

符号	記号	名　称	合計
EX-1	▬	案内板	2
EX-2	▬	利用案内	1
EX-3	▬	自立誘導	5
EX-4	▬	車椅子駐車場	1
EX-5	▬	駐輪場	1
EX-7	▬	入口名称サイン	2
EX-8	▬	自立館銘+案内サイン（横型）	1
EX-9	▬	駐輪場サイン（横型）	2
EX-10	▬	ランニングコース距離表示	1

内部

符号	記号	名　称	1F	2F	RF	合計
S-1	▬	総合案内サイン	2	-	-	2
S-2	▬	フロア案内サイン	-	4	-	4
S-3	▬	客席案内サイン	4	5	-	9
S-5	▬	壁面誘導サイン	5	2	-	7
S-7	▲	アリーナサイン	11	4	-	15
S-8	▲	室名サインA	24	8	-	32
S-9	△	室名サイン（在空）	7	1	-	8
S-10	▲	室名サインA（BY）	27	20	1	48
S-11	▮	突出サイン	8	8	-	16
S-12	▮▮▮	手摺点字サイン	18	20	-	38
S-13	▲	ピクトサインA（トイレ前）	6	5	-	11
S-14	△	ピクトサインB	5	1	-	6
S-15	★	階数表示サイン（当階）	3	3	-	6
S-16	★	階数表示サイン（踊場）	-	2	1	3
S-17	★	EV階数サイン	1	1	-	2
S-18	▮▮▮	衝突防止サイン	8ヶ所	9ヶ所	-	17ヶ所
S-19	▯	トイレ在空サイン	12	18	-	30
S-20	■	定員表示サイン	4	6	-	10
S-21	■	スタンドサイン	2	-	-	2
S-22	▬	グラフィックサイン	11	1	-	12
S-23	▮▮▮	ランニングコース距離表示	-	1	-	1
S-24	▭	避難経路図	4	4	-	8
S-25	■	消火ポンプ表示	-	-	-	5
S-26	▲	エリア表示	4	16	-	20
S-27	□	三禁表示	-	-	-	5
K-1	▬	掲示板	1	2	-	3
S-28	▬	館名サイン	1	-	-	1
S-29	▬	トレーニングルーム壁面	-	1	-	1
S-30	●	靴履き替えサイン	5	-	-	5

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

外構サインキープラン

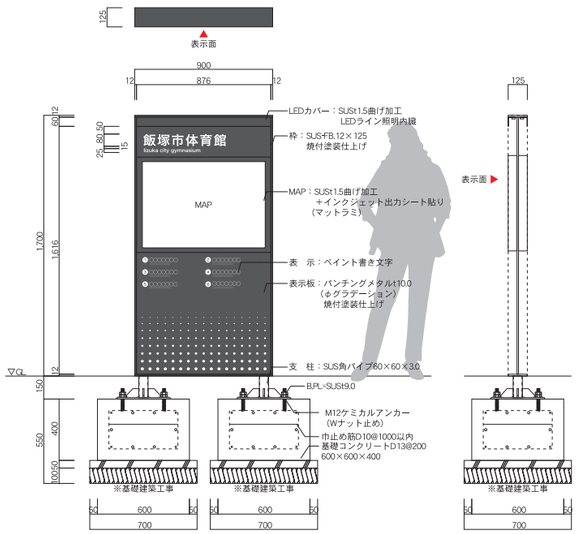
設計番号 158095

図面番号 A －135

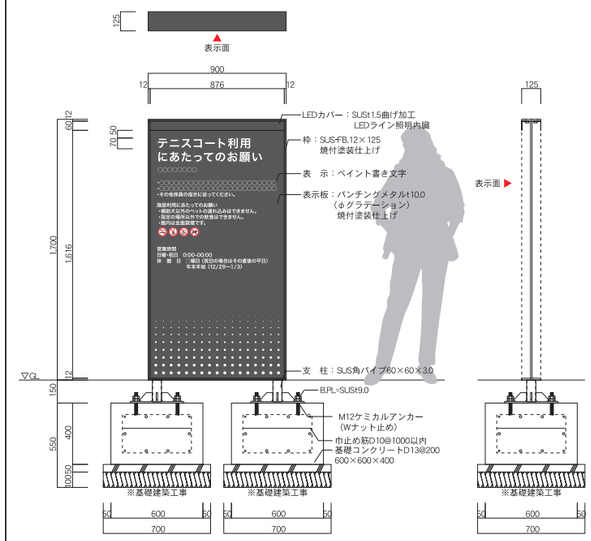
縮尺 1/A1: A3:

日付 2019-11-15

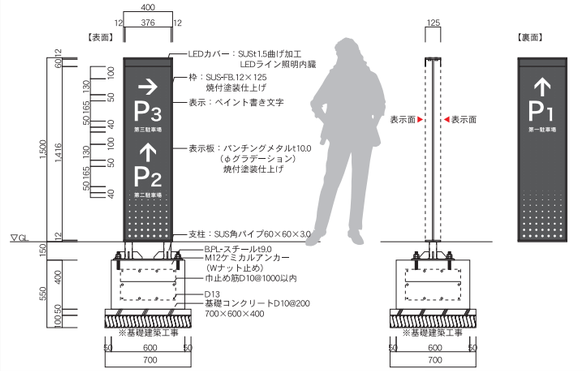
EX-1 案内板　A3:S=1/40　A1:S=1/20



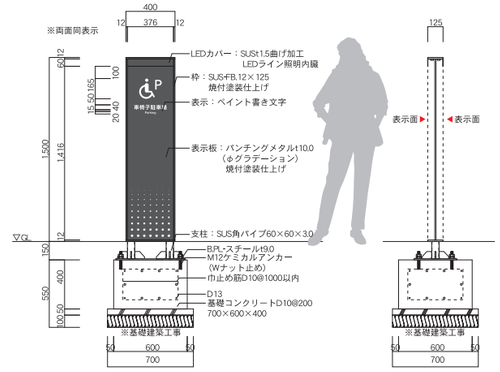
EX-2 利用案内　A3:S=1/40　A1:S=1/20



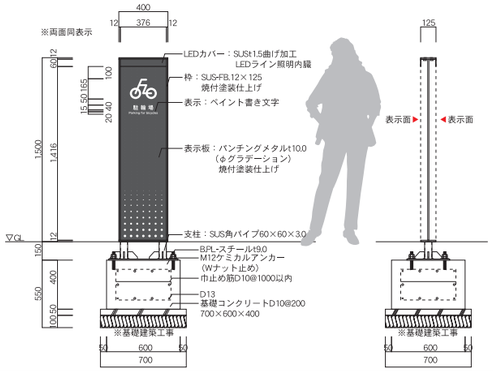
EX-3 自立誘導（両面）　A3:S=1/50　A1:S=1/25



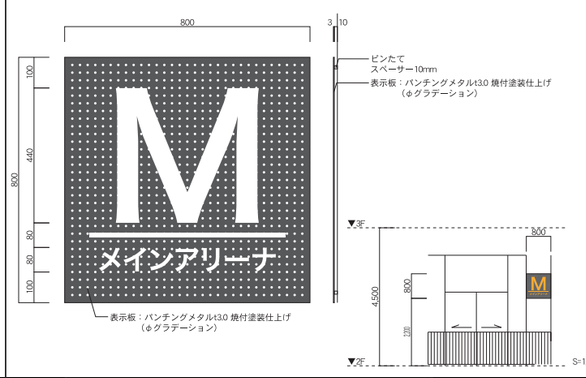
EX-4 車椅子駐車場（両面）　A3:S=1/50　A1:S=1/25



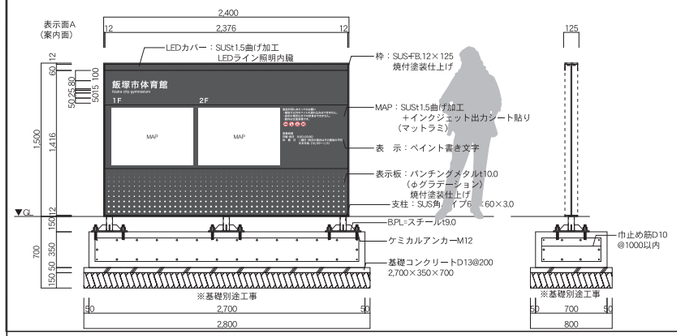
EX-5 駐輪場（両面）　A3:S=1/50　A1:S=1/25

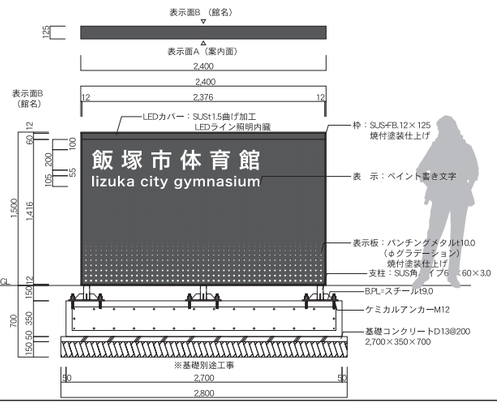


EX-7 入口名称サイン　A3:S=1/20　A1:S=1/10

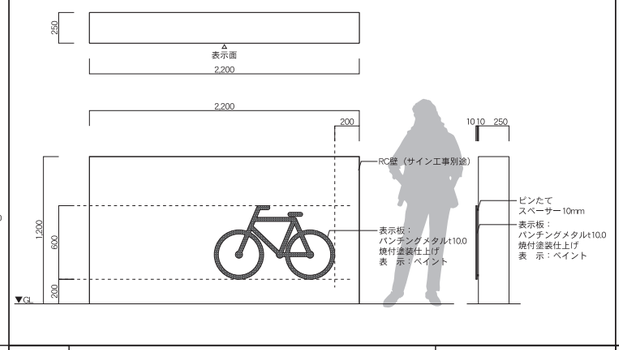


EX-8 自立館銘＋案内サイン（横型）（両面）　A3:S=1/60　A1:S=1/30

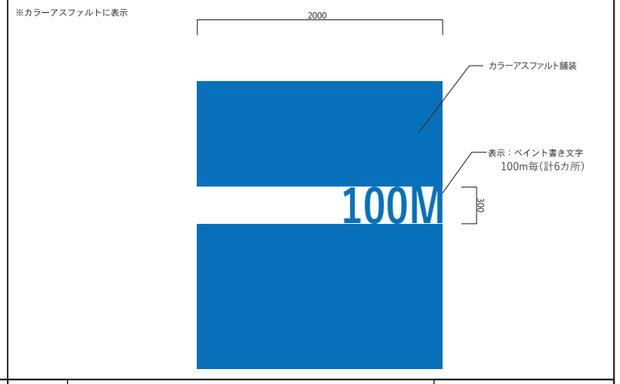




EX-9 駐輪場サイン（横型）　A3:S=1/50　A1:S=1/25



EX-10 ランニングコース距離表示　A3:S=1/20　A1:S=1/10



EX-- -　A3:S=1/-　A1:S=1/-

EX-- -　A3:S=1/-　A1:S=1/-

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

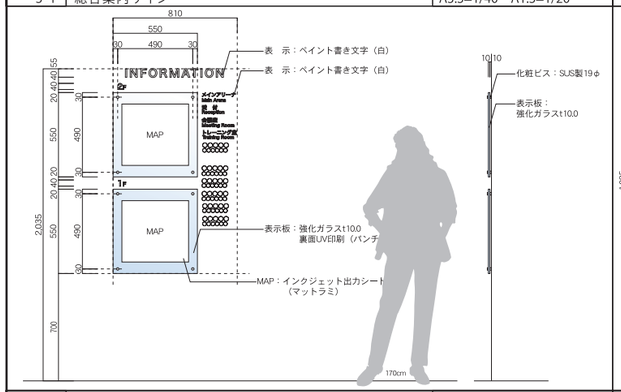
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

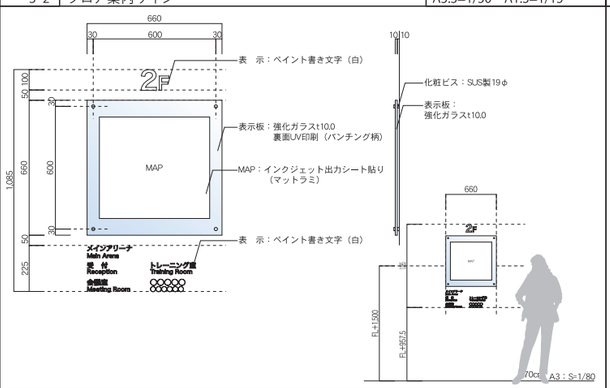
サイン詳細図（1）

設計番号	図面番号
158095	A － 136
縮尺 A1: 1/ A3:	日付 2019・11・15

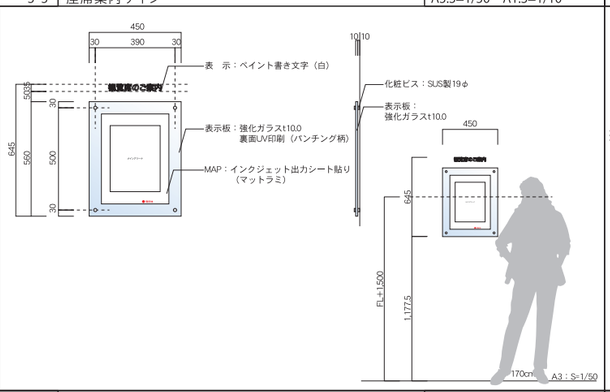
S-1 総合案内サイン　A3:S=1/40　A1:S=1/20



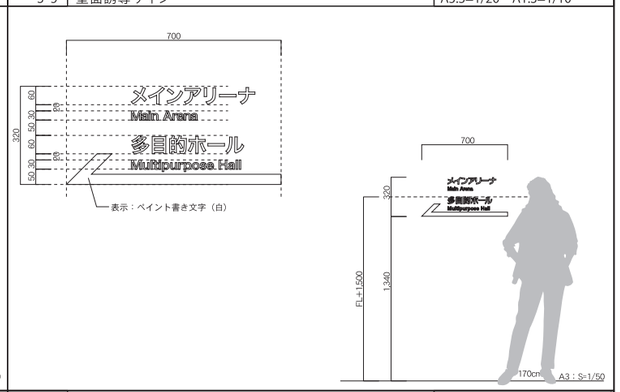
S-2 フロア案内サイン　A3:S=1/30　A1:S=1/15



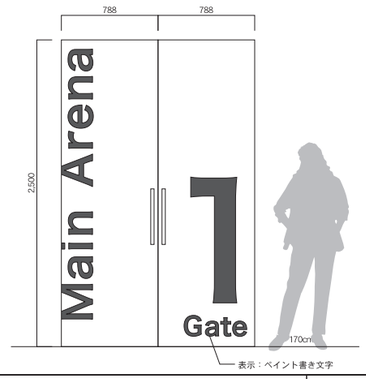
S-3 座席案内サイン　A3:S=1/30　A1:S=1/10



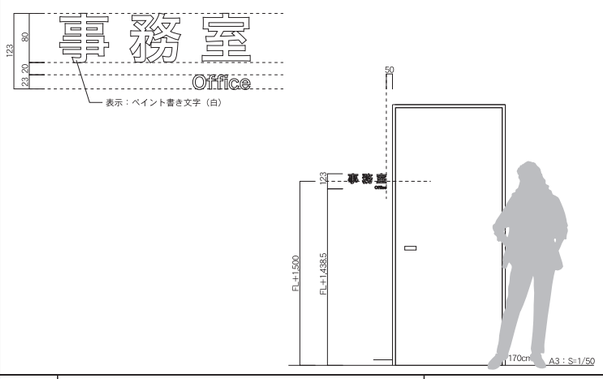
S-5 壁面誘導サイン　A3:S=1/20　A1:S=1/10



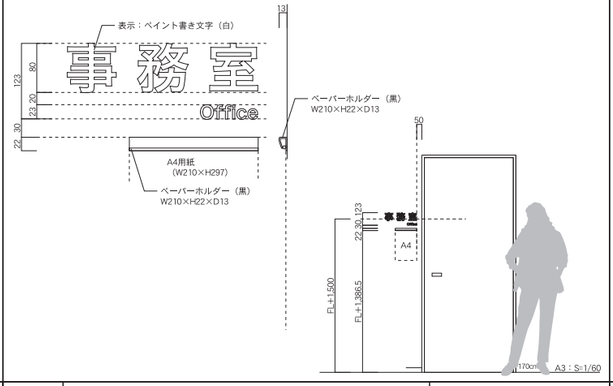
S-7 アリーナサイン　A3:S=1/50　A1:S=1/25



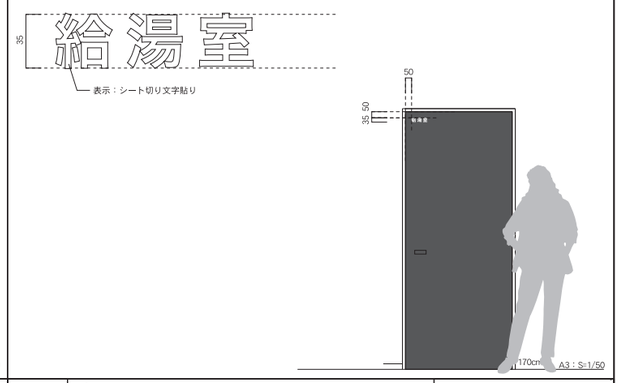
S-8 室名サインA　A3:S=1/6　A1:S=1/3



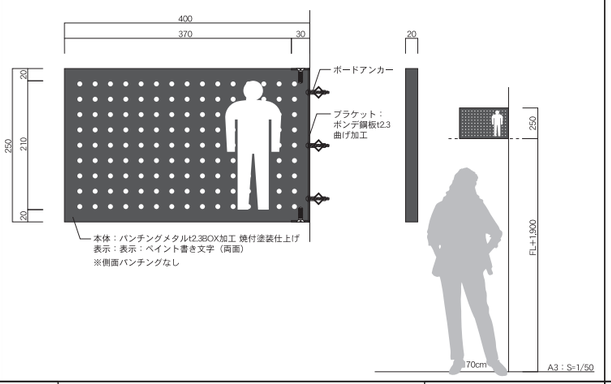
S-9 室名サイン（在空）　A3:S=1/10　A1:S=1/5



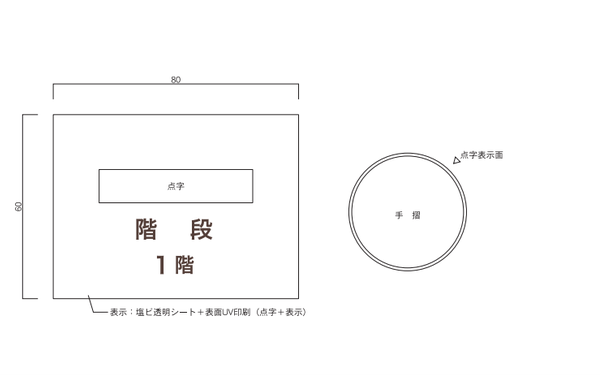
S-10 室名サインA（BY）　A3:S=1/4　A1:S=1/2



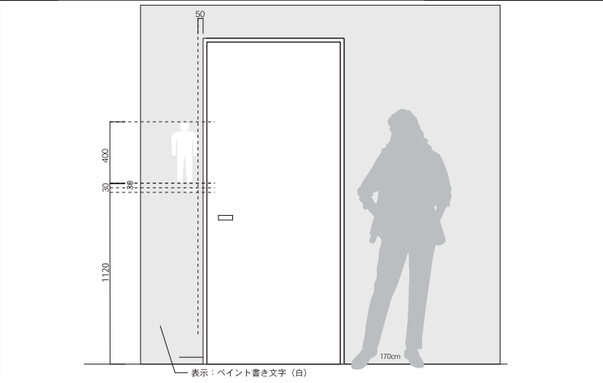
S-11 突出サイン　A3:S=1/10　A1:S=1/5



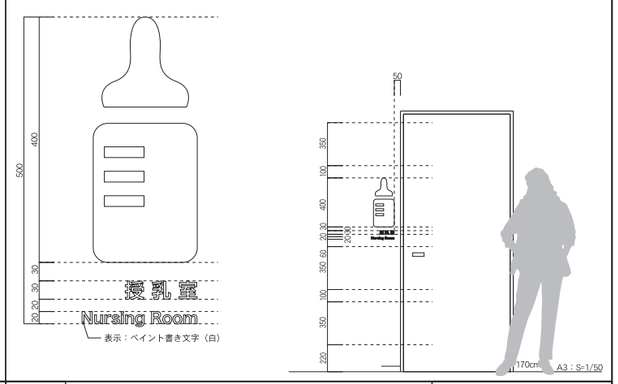
S-12 手摺点字サイン　A3:S=1/2　A1:S=1/1



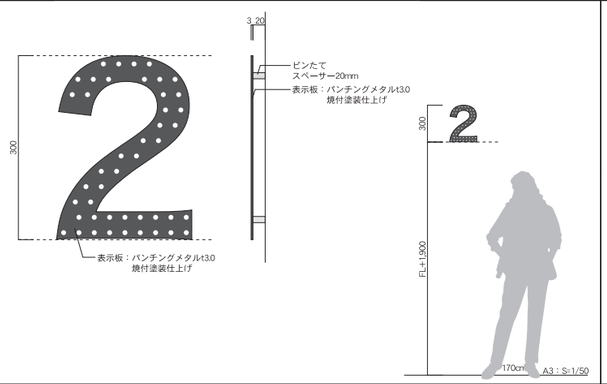
S-13 ピクトサインA（トイレ前）　A3:S=1/40　A1:S=1/5



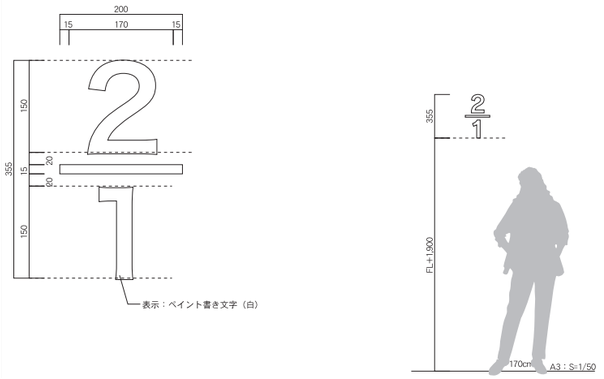
S-14 ピクトサインB　A3:S=1/10　A1:S=1/5



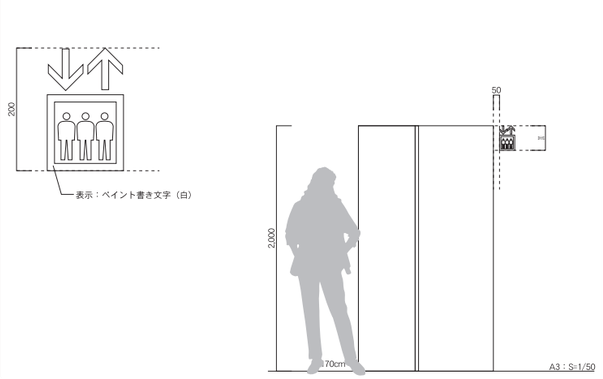
S-15 階数表示サイン（当階）　A3:S=1/10　A1:S=1/5



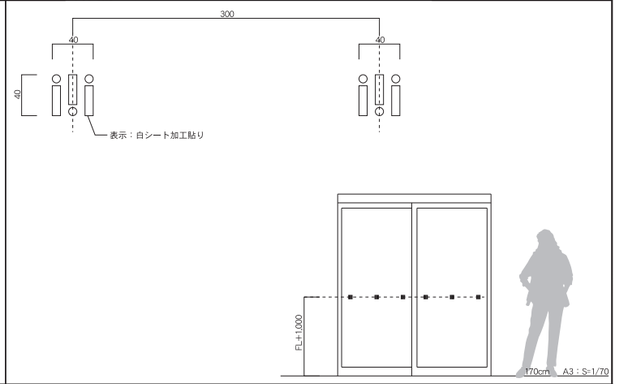
S-16 階数表示サイン（踊場）　A3:S=1/10　A1:S=1/5



S-17 EVマーク　A3:S=1/10　A1:S=1/5



S-18 衝突防止サイン　A3:S=1/6　A1:S=1/3



飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI
Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号

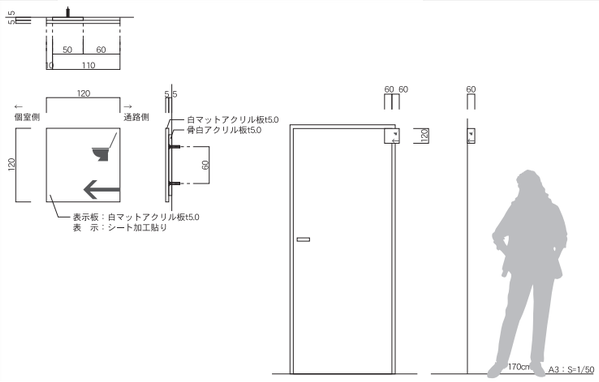
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

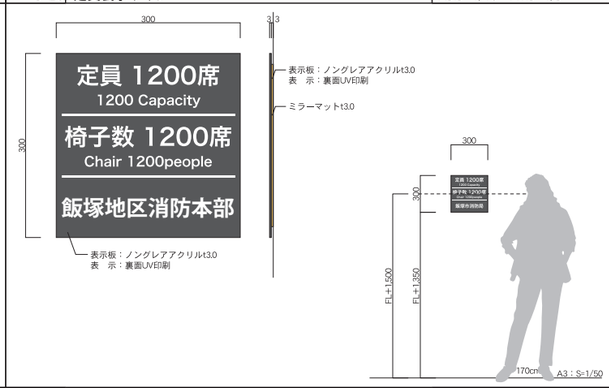
サイン詳細図（2）

設計番号	図面番号
158095	A − 137
縮尺 1/ A1: A3:	日付 2019・11・15

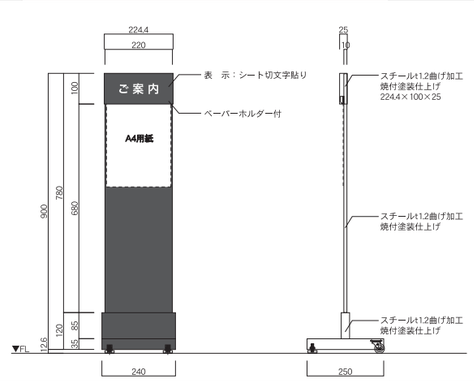
S-19 トイレ在空サイン　A3:S=1/10　A1:S=1/5



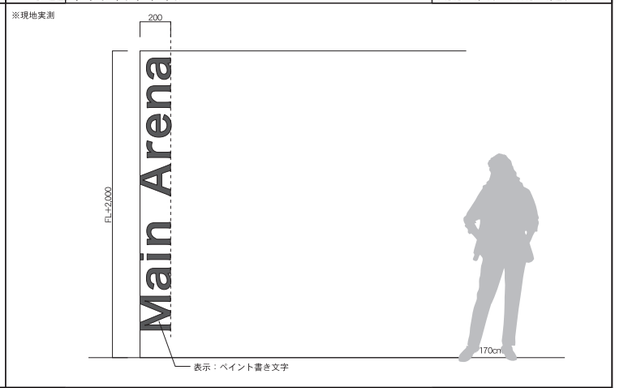
S-20 定員表示サイン　A3:S=1/10　A1:S=1/5



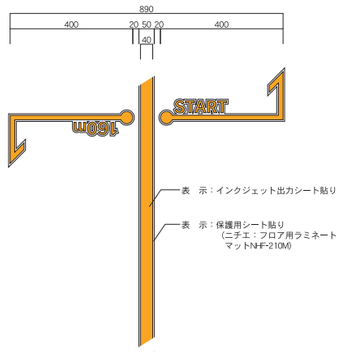
S-21 スタンドサイン　A3:S=1/10　A1:S=1/5



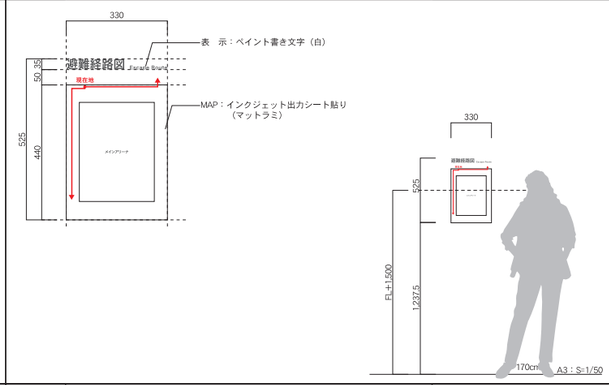
S-22 グラフィックサイン　A3:S=1/40　A1:S=1/20



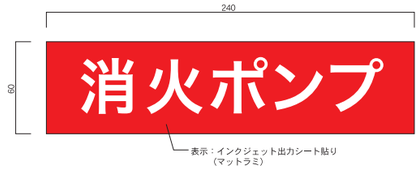
S-23 ランニングコース距離表示　A3:S=1/20　A1:S=1/10



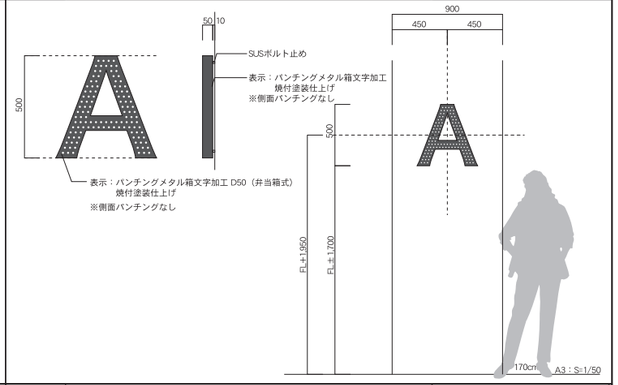
S-24 避難経路図　A3:S=1/20　A1:S=1/10



S-25 消火ポンプ表示　A3:S=1/4　A1:S=1/2



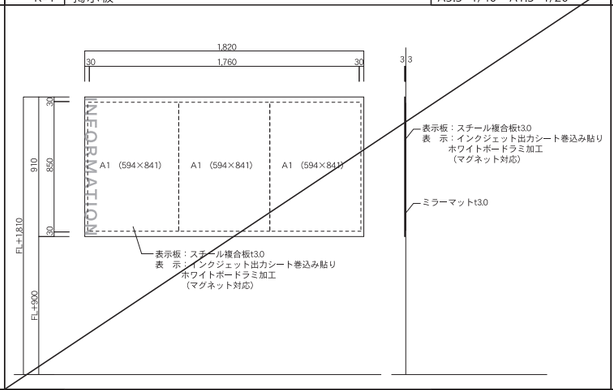
S-26 エリア表示　A3:S=1/30　A1:S=1/15



S-27 三禁表示　A3:S=1/10　A1:S=1/5



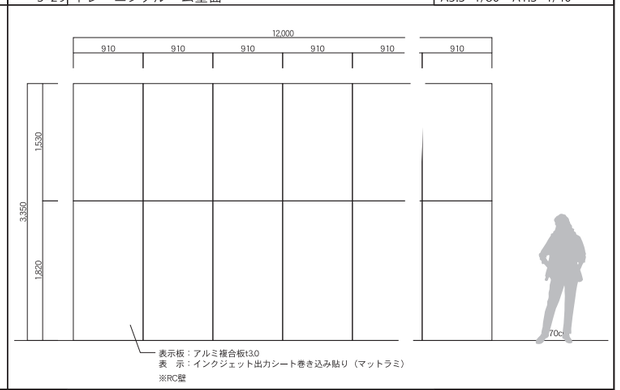
K-1 掲示板　A3:S=1/40　A1:S=1/20



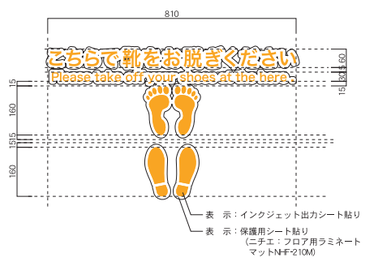
S-28 館名サイン　A3:S=1/20　A1:S=1/10



S-29 トレーニングルーム壁面　A3:S=1/80　A1:S=1/40



S-30 靴履き替えサイン　A3:S=1/20　A1:S=1/10



S-- -　A3:S=1/-　A1:S=1/-

S-- -　A3:S=1/-　A1:S=1/-

S-- -　A3:S=1/-　A1:S=1/-

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号

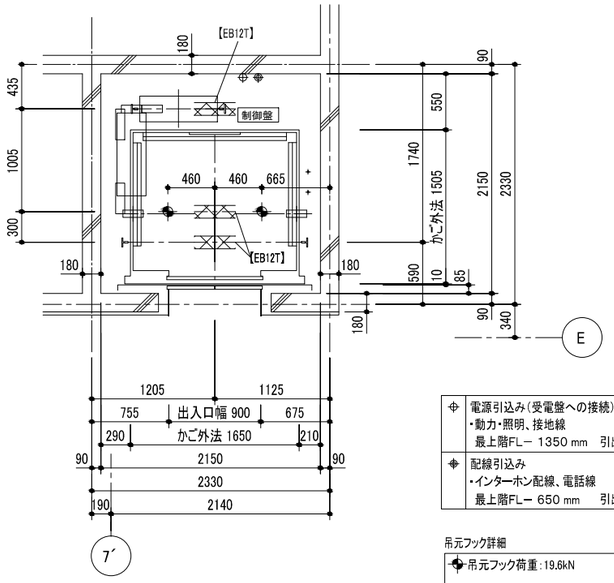
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

サイン詳細図（3）

設計番号	図面番号
158095	A − 138

縮尺 1/ A1: A3:　日付 2019・11・15



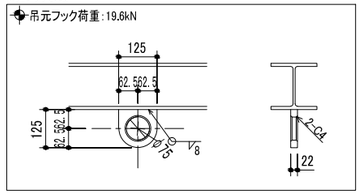
昇降路平面図（2FL）

1：30

鉄骨部材記号表（建築工事）		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EHST9	吊元（荷重9.8kN用）	t12（φ75穴付）
EB12T	トロリービーム	H-125x125x6.5x9

⊕	電源引込み（受電盤への接続） ・動力・照明、接地線 最上階FL－ 1350 mm　引出長さ 3 m	（電気工事）
⊕	配線引込み ・インターホン配線、電話線 最上階FL－ 650 mm　引出長さ 3 m	（電気工事）

吊元フック詳細



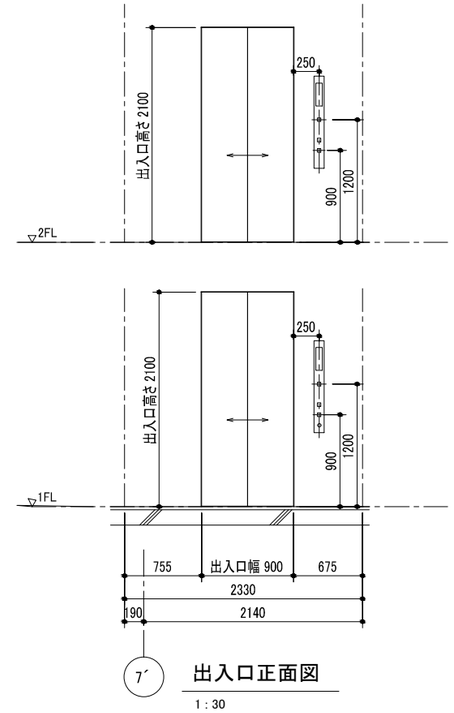
（1台1回線）

電源設備　（低圧）

号機名		No. 1		
電源設備容量	動力	210 V　4 kVA		
	照明	100 V　1. 5 kVA		
最大電流		23. 5 A		
動力線サイズ（mm²）		5. 5	8	14
最大引込み距離（m）		72	112	195
建屋側MCCB		40 A		
接地線最小サイズ		3. 5　mm²		
インターホン用配線		φ 0. 9 ×　10 本		
電話用配管・配線		φ 19 配管　・電話線 1 P		
ピットコンセント容量		1 kVA／台		

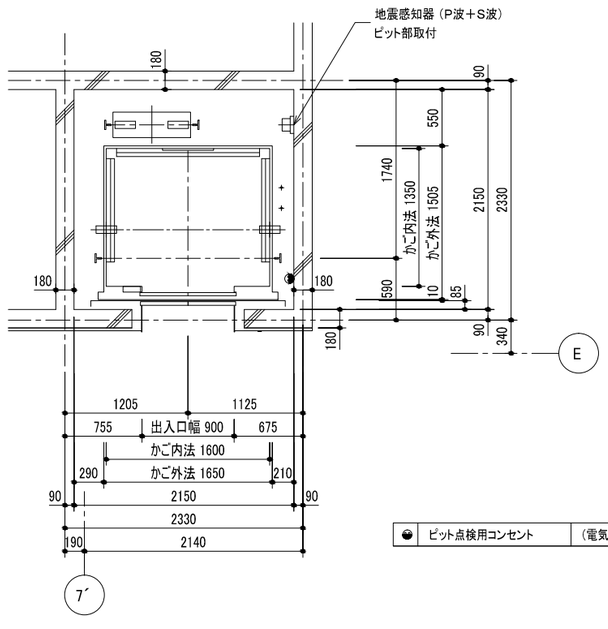
レール反力リスト（地震時作用荷重）			No. 1
Px / Py	かご側	Px	4. 50 kN
	一般階	Py	2. 30 kN
	かご側	Px	5. 50 kN
	最上階	Py	4. 00 kN
	おもり側	Px	7. 10 kN
	一般階	Py	3. 60 kN
	おもり側	Px	11. 00 kN
	最上階	Py	7. 50 kN

上記　荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定下さい。



出入口正面図

1：30



⊕	ピット点検用コンセント	（電気工事）

昇降路平面図（1FL）

1：30

エレベーター除外工事

[1] 建築関係

・各階乗場出入口周り（押ボタン用穴を含む）の穴明工事
　（昇降路壁は5cm²辺り300Nの外力が作用した時に
　15mmを超える変形及び塑性変形が生じない構造とする）
・乗場関係機器取付後の出入口周りの壁及び床仕上工事、耐火処理工事
・各階乗場出入口枠周辺のモルタル又はロックウール詰め工事
・ピット内防水工事、及びピットが深い場合の埋戻し工事
・ピット床下部使用の場合の建築対策工事
・ピットに段差がある場合、転落防止柵又は壁の設置工事
・昇降路天井フック又はトロリービーム設置工事（安全率5を確保する）
・通過階がある場合の昇降路救出口の設置工事（W750xH1200以上）
・昇降路内機器取付用ファスナー、ビーム、柱等の設置工事
・昇降路内建築構造梁の耐火被覆工事
・乗場関係機器取付用鋼材の設置工事
・開放廊下などの外気と接する乗場両水よけ対策工事
・乗場戸に近接して設ける防火シャッター等の防火区画工事
・昇降路の壁または囲いは隙間無きものとする
・その他建築に関する工事

[2] 電気関係

・ピット点検用コンセントの設備工事（照明用AC100Vとは別系統とする）
・昇降路内頂部の煙感知器設置工事（昇降路外部から保守点検できる構造）
・昇降路制御盤までの動力電源・照明電源・接地線の引込工事
　（つなぎ込み工事含む）
・昇降路制御盤までのインターホン用及び監視用配管・配線工事
　（昇降路制御盤から外部取付位置まで）
・昇降路制御盤までの遠隔監視保守システム用配管・電話線工事
・昇降路制御盤までの火災信号用の配管・配線工事
・昇降路制御盤までのかご内防犯カメラ用の配管・配線工事
・昇降路制御盤までのかご内放送スピーカー用の配管・配線工事
・昇降路制御盤までの故障接点支給用の配管・配線工事
・エレベーターと防火シャッター等の連動を要する場合は、接点信号の
　配管・配線の引込工事

遮煙のりばドア設置上の注意事項

・遮煙のりばドアの設置条件として建物の火災信号が必要です
　自動火災報知器の火災代表信号をエレベーター制御盤に供給してください
　（無電圧a接点　回路電圧 DC24V　接点容量 DC30V 0. 3A）
・自動火災報知器の設置義務のない建物では、自動火災報知器に
　代わるものから火災信号を供給してください
　　例）煙感知器＋防火扉連動制御盤の火災信号など
　遮煙のりばドアを設置する階の火災信号をエレベーター制御盤に
　供給してください　※接点仕様は自動火災報知器に準じます

(F0027)Y

エレベーター仕様

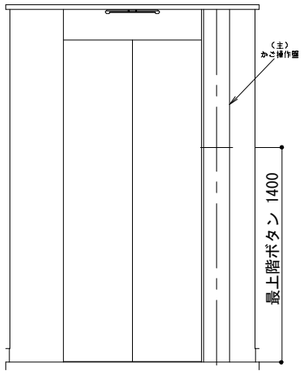
概略仕様	号機名（台数）		No. 1　（1台）	
	用途（形式）		乗用　（ SP13－CO45 ）車いす仕様	
	積載量（定員）		900 kg　（ 13 人）	
	速度		45 m／min	
	制御方式		交流インバータ制御方式（回生無）	
	操作方式		乗合全自動方式	
	停止ヶ所・出入口方向		（ 1,2FL ）　2ヶ所　1方向	
	かご内法（WxDxH）		1600 mm　X 1350 mm　X 2300 mm	
	出入口寸法（WxH）		900 mm　X 2100 mm	
	ドア方式		2枚戸中央開き（電動式）	
	電動機出力		AC－ 4. 5 kW　（ ギヤレス ）	
	電源	動力	三相3線　210 V　60 Hz	
		照明	単相　100 V　60 Hz	
	管制運転	地震	有（P波＋S波感知器（3段検知）リスタート機能付）	
		火災	有	
		自家発	無	
		ピット浸水	有	
	停電時自動着床装置		有	
	耐震クラス		A14	
	かご内連絡装置		24V同時通話インターホン	
	基本仕様 及び 標準装備仕様		ローラーガイド（かご、おもり） 照明・換気装置自動休止機能 長周期地震対策 2D多光軸（マルチビーム）ドアセフティ 反転時呼び一括キャンセル機能 戸開放時間自動設定 行先階取消し機能 気配りアナウンス機能 戸開走行保護装置 しきい間すきまレス 広角ミラー付操作盤	
乗場仕様	三方枠		全階	フラットバー（大枠タイプ）ステンレス製ヘアライン仕上
	ドア		全階	ステンレス製ヘアライン仕上
	敷居		全階	ステンレス製板曲げ
	乗場	ボタン	全階	クリックタッチボタン（C-06）
	インジケータ	インジケータ	全階	デジタル階床表示式
	ボタン	フェースプレート	全階	平板 ステンレス製ヘアライン仕上
かご仕様	天井照明		［STD－1L］アルミフレーム導光板LED照明	
	換気装置		ファン	
	リターンパネル		ステンレス製ヘアライン仕上	
	出入口柱		ステンレス製ヘアライン仕上	
	ドア		化粧鋼板	
	幕板		化粧鋼板	
	側板		化粧鋼板	
	幅木		化粧鋼板	
	床		ビニタイル（t2）	
	敷居		硬質アルミ製	
	操作盤	ボタン	抗菌凸文字ボタン（SIAA認証）	
		インジケータ	ドットデジタル	
		フェースプレート	標準（広角ミラー付） 抗菌樹脂成形品（SIAA認証・一部鋼鈑製）	

特記事項

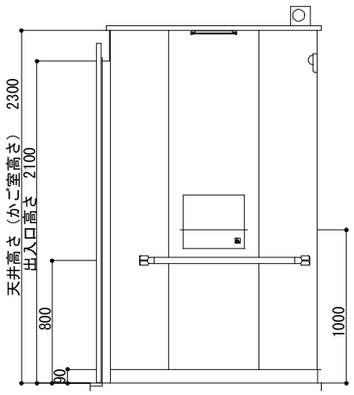
・スタンダード照明
・機械式ドアセフティ（両側）
・防犯カメラ（映像信号渡し）
・非常放送スピーカー付
・オートアナウンス付
　（到着階・戸の開閉・かごの
　昇降方向の音声案内）
・視覚障害者対策（点字銘板）
・高調波対策
・車いす仕様
・定格銘板「人荷用」表示
・聴覚障がい者用専用非常ボタン
・車椅子仕様一式
　専用乗場ボタン
　専用操作盤（主・副2面）
　背面鏡（フルハイトミラー）
　手摺（ステンレス製、Φ38・3方向）
　多光軸ドアセフティ（2D）
　戸開放時間延長（10秒）
・確認申請手数料・完了検査手数料を含むこと

0130075－2　V.16,1（ FB ）

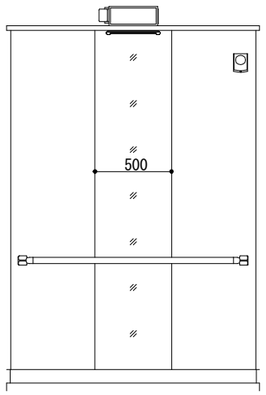
| | | | |



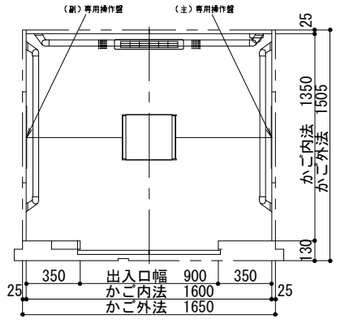
正面図



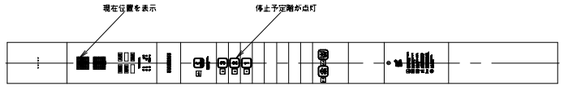
側面図



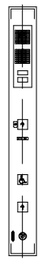
背面図



平面図



かご（主）操作盤



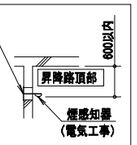
乗場インジケータ押ボタン

かご室意匠図
P13-CO [STD-1L]

煙感知器詳細

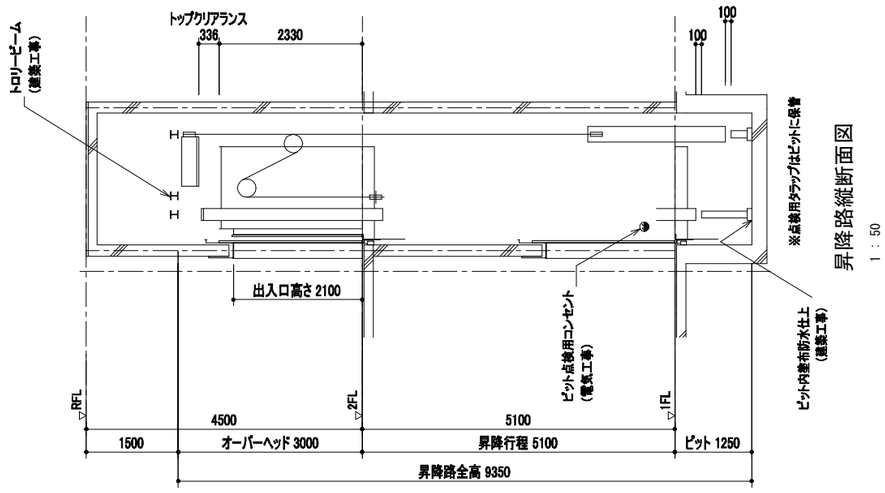
施錠装置付点検扉
1.5mm以上の鋼板製（電気工事）
リミットスイッチ付（エレベーター工事）

昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。
屋外の場合は、防水形点検扉とする。



点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用品として下さい。

- ・ホーチキ　（KUS-1B 同等品）
- ・能美防災　（FXS J001A-HU 同等品）
- ・ニッタン　（NID-T-G 同等品）
- ・パナソニック　（BV95351+BV95381H 同等品）



昇降路縦断面図
1：50

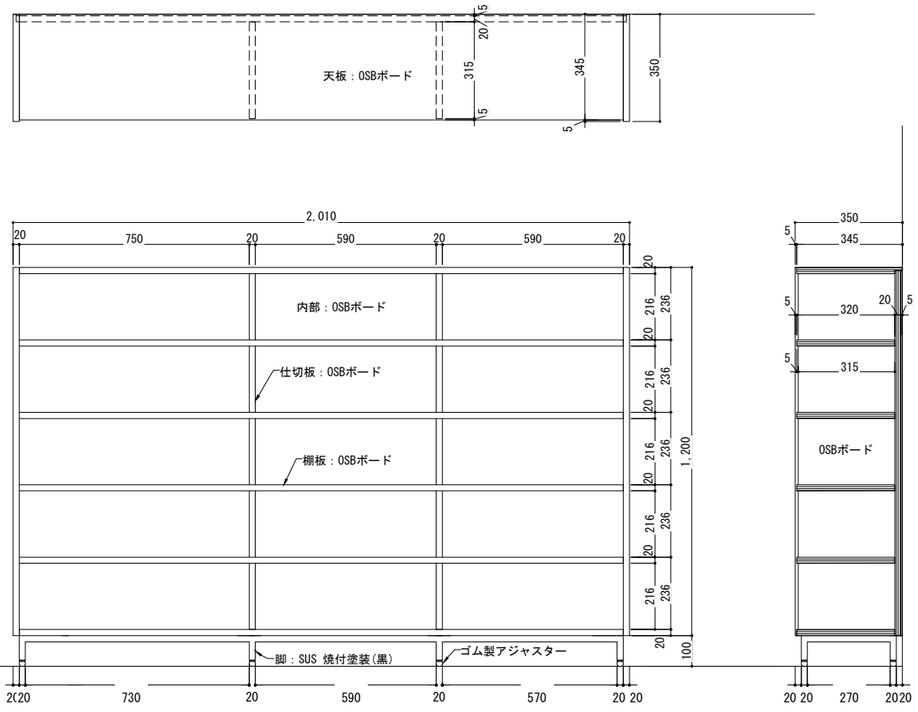
No. 1

ピット反力		82.60 kN
ピット衝撃荷重	かご側	69.40 kN
	C／W側	53.50 kN

| | | |

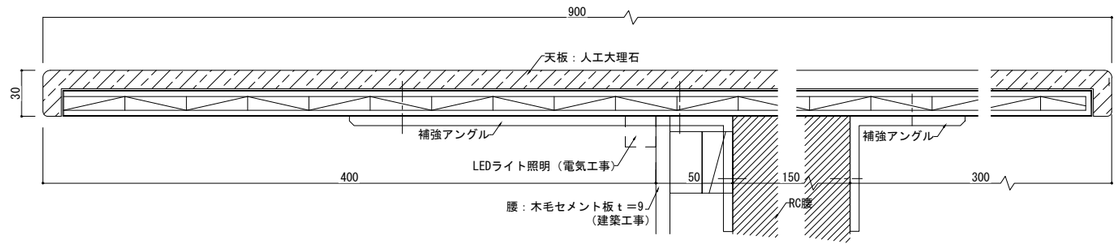
K-1　1,2階　下足箱　10箇所　1/10(A1)、1/20(A3)

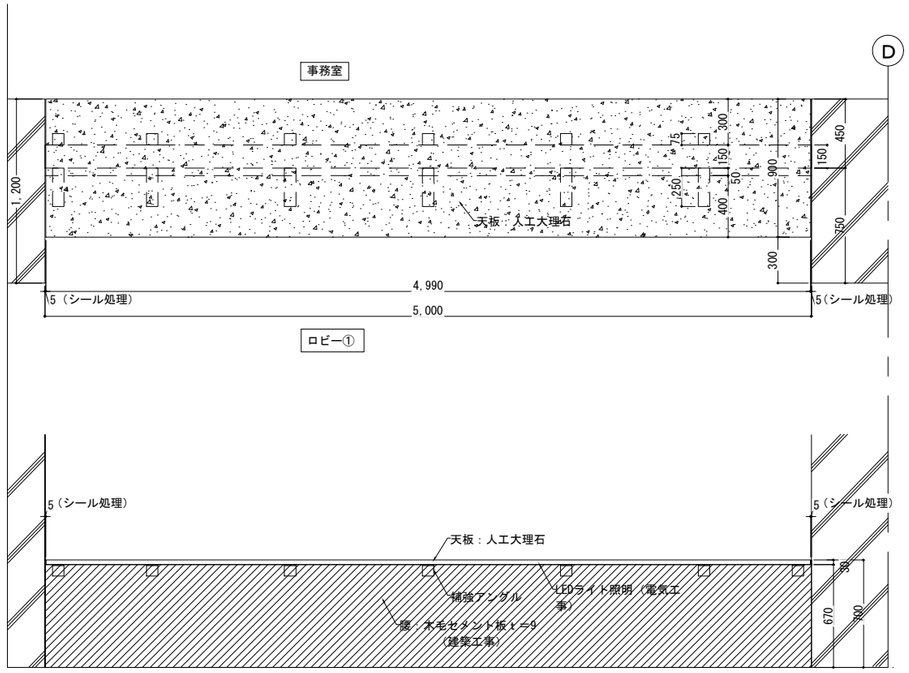
天板TOP	OSBボード	品番:
扉・引出		品番:
本体(表)	OSBボード	品番:
本体見付		品番:
戸袋内部		品番:
巾木・台輪		品番:
金物etc.		

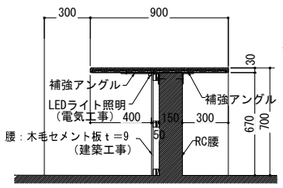


K-2　1F ロビ-①　受付カウンタ-　1箇所　1/20(A1)、1/40(A3)

天板TOP	人工大理石	品番:
扉・引出		品番:
本体(表)		品番:
本体見付		品番:
戸袋内部		品番:
巾木・台輪		品番:
金物etc.	Lアングル-75x75x6・75 x 250 x 6	

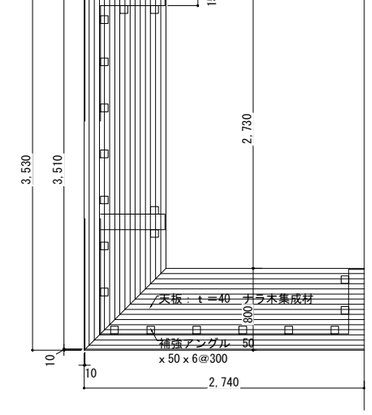


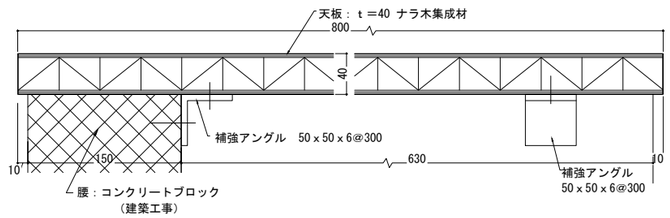


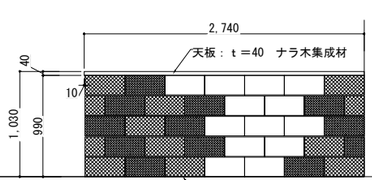


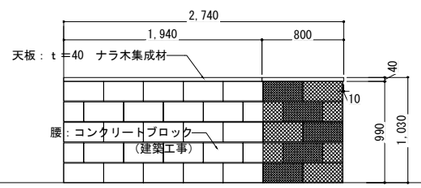
K-4　2F トレ-ニングルム 受付カウンタ-　1箇所　1/30(A1)、1/60(A3)

天板TOP	ｔ＝40　ナラ木集成材	品番:
扉・引出		品番:
本体(表)		品番:
本体見付		品番:
戸袋内部		品番:
巾木・台輪		品番:
金物etc.	Lアングル-50 x 50 x 6@300	

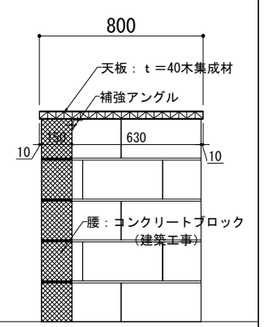








1/15(A1)、1/30(A3)



飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者			法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎 / 林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

家具詳細図(1)

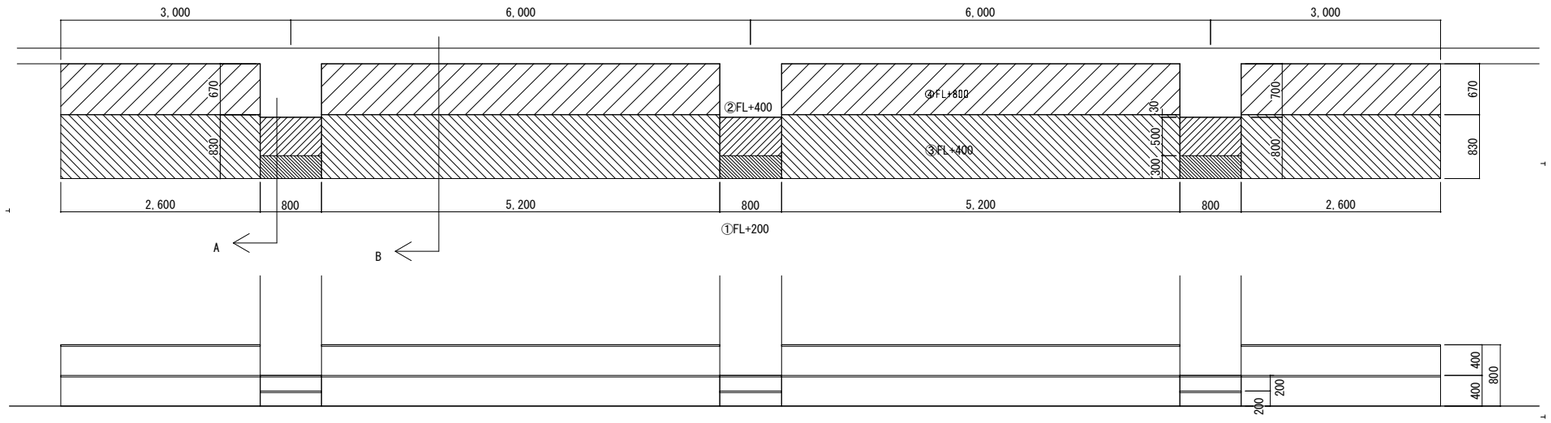
設計番号 16779

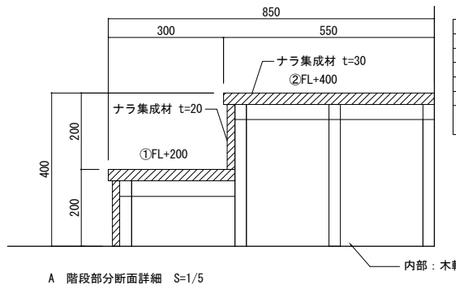
図面番号 A — 141

縮尺 1/ A1:限示 A3:限示

日付 2019・11・15

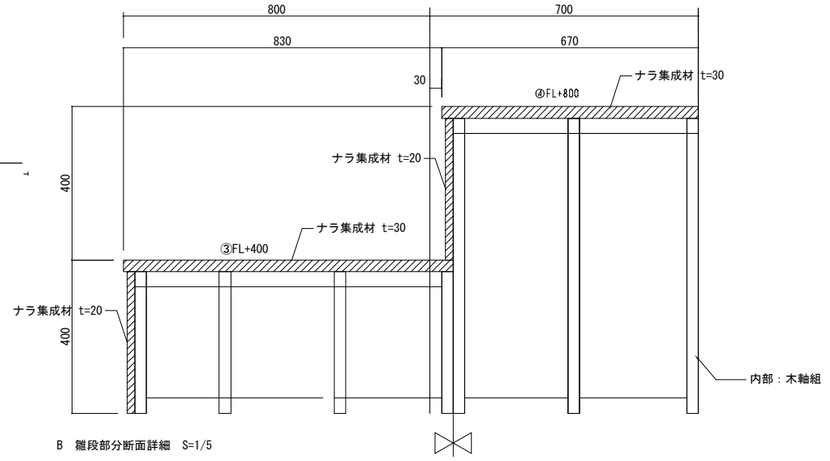
K-3	1階　多目的ホール段床	1箇所	1/40(A1)、1/80(A3)





A　階段部分断面詳細　S=1/5

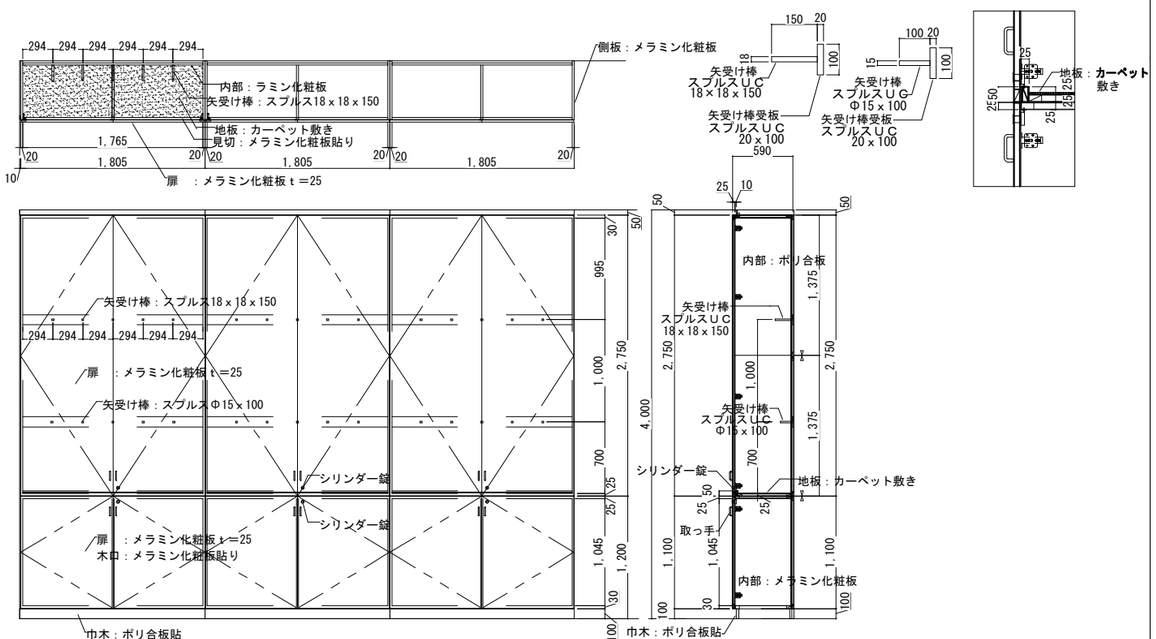
天板TOP	ナラ集成材	品番：
扉・引出		品番：
本体(表)		品番：
本体見付	ナラ集成材	品番：
戸袋内部		品番：
巾木・台輪		品番：
金物etc.		



B　雛段部分断面詳細　S=1/5

K-5	2階倉庫　弓具庫	1箇所	1/30(A1)、1/60(A3)

天板TOP		品番：
扉・引出	ポリ合板	品番：
本体(表)	ポリ合板	品番：
本体見付	メラミン化粧板	品番：
戸袋内部		品番：
巾木・台輪	ポリ合板	品番：
金物etc.	シリンダー錠・スライド丁番 一部カーペット敷き	



K-*	****	*箇所	***

特記なきは下記による。(家具共通)

見掛材、腰板	国産ナラ合板
見隠れ材	耐汚染性、耐摩耗性向上のため、耐磨耗シート消臭化粧板とする。
甲板、腰板 座板、笠木 天板	国産材相互矧ぎとする。
抽斗前板 側板、先板 底板	ポリ化粧合板Ｆ☆☆☆☆　または　無垢材（ナラ、シナ、その他）　ｔ１２ｍｍ以上 ポリ化粧合板Ｆ☆☆☆☆　または　抽斗側板に合わせて上記の突板合板貼とする
開き戸 引違戸	国産ナラ合板 扉框に硝子が入る時は　強化硝子ｔ４ｍｍとする
棚板	国産ナラ合板、耐磨耗シート消臭化粧板
側板	国産ナラ合板、耐磨耗シート消臭化粧板
背板	シナ合板Ｆ☆☆☆☆・耐磨耗シート消臭化粧板・ポリ化粧合板Ｆ☆☆☆☆
地板	ＴＮＣボード（耐磨耗シート消臭化粧板）　木口：樹脂テープ貼り 箱内部に　配管工事用工事フタが付く時は　ポリエステル化粧合板Ｆ☆☆☆☆貼りとし、ビス留めとする
台輪、巾木①	国産ナラ合板、②ポリエステル化粧板Ｆ☆☆☆☆
塗装	特記なきはＷＰ（木材保護塗料）とする。 着色ＵＣ：ウレタン塗装仕上げＦ☆☆☆☆
接着剤	※　接着剤・塗料は　厚生労働省より室内濃度指針値が出された物質の基準値を満たしたものとする。

※　製作は日本家具保証協会認定の企業とすること。
※　含水率１２%以下に乾燥させた材料を使用すること。
※　使用中に抜けそうな節（抜け節）はあらかじめ除去し無垢材による穴埋め部材にて埋め木処理すること。
※　扉は全て耐震ラッチ付とする。
※　出隅部は全てＲ加工とする。

飯塚新体育館

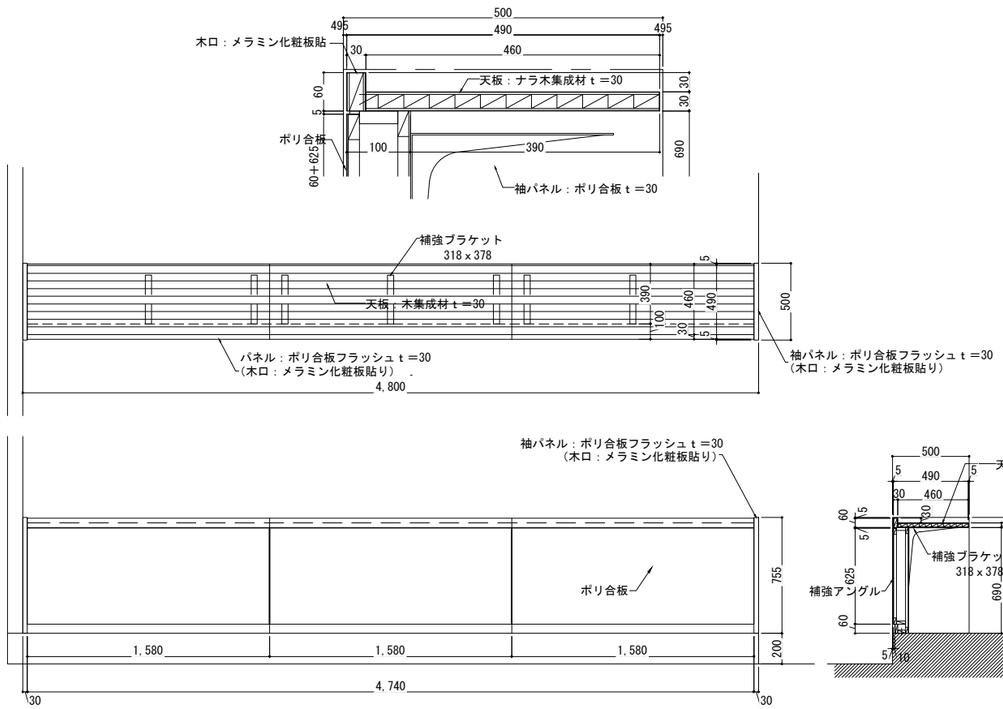
AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者						法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士				設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号				第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子			椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 142
家具詳細図（２）	縮尺 1/ A1:図示 A3:図示	日付 2019・11・15

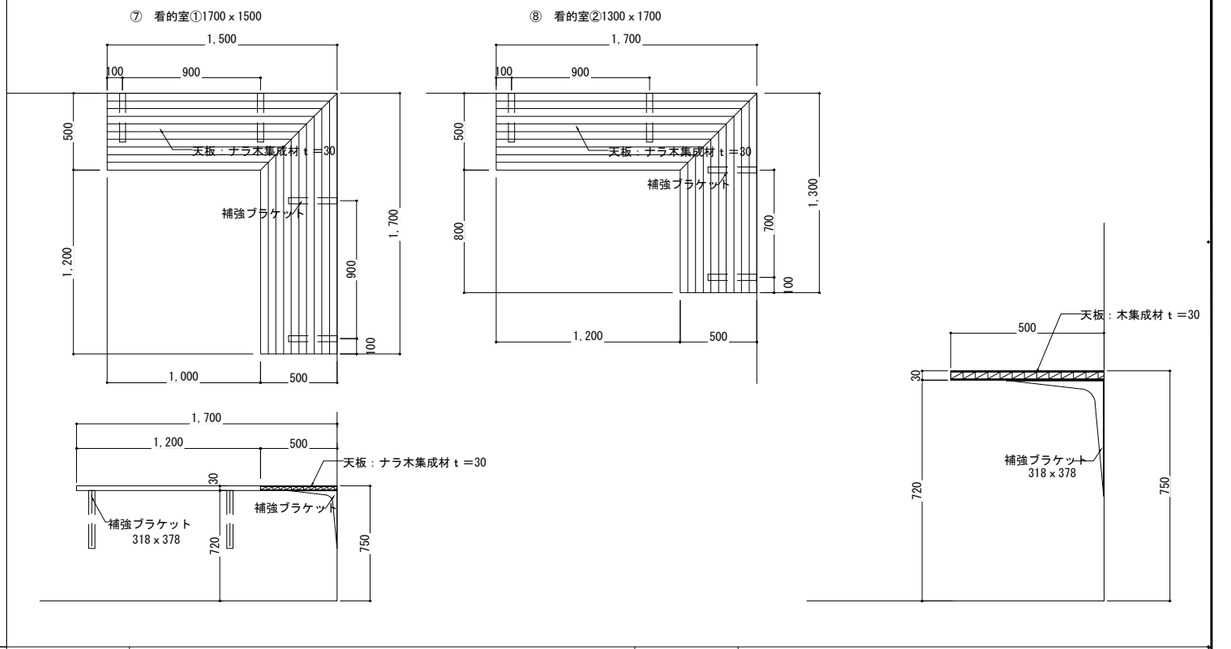
K-6	2階　射場　審判席カウンター	1箇所	1/20(A1)、1/40(A3)

天板TOP	木集成材 t＝30	品番：
扉・引出		品番：
本体(表)/HPL合板)、1/20(A3		品番：
本体見付メラミン化粧板		品番：
戸袋内部		品番：
巾木・台輪	ポリ合板	品番：
金物etc.	補強ブラケット318 x 378	



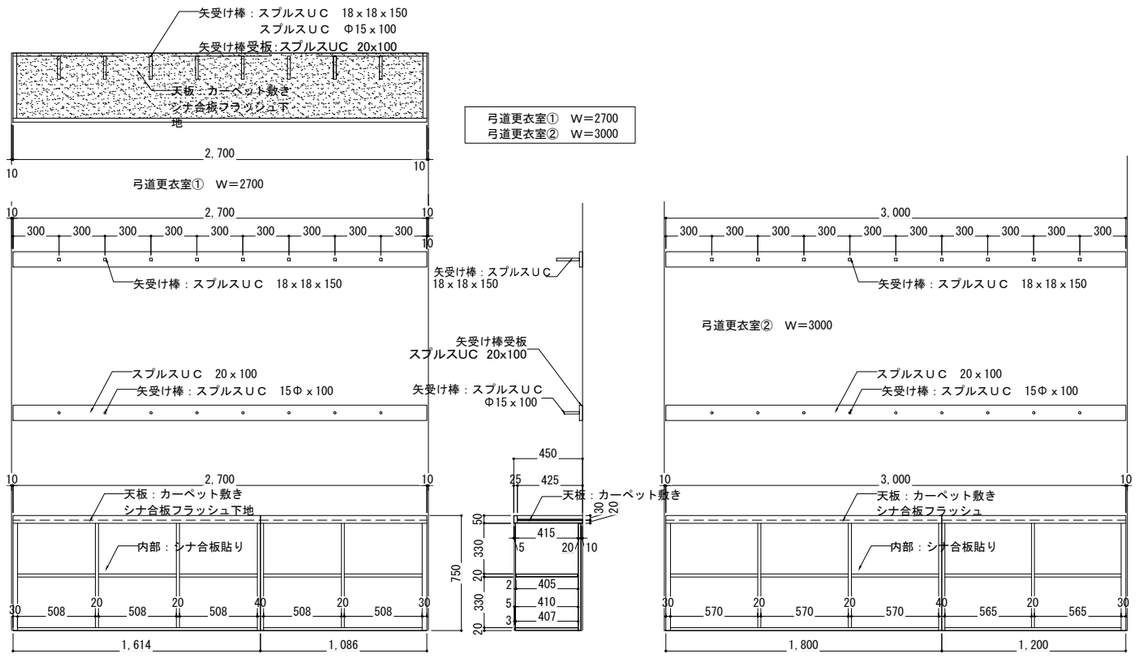
K-7,8	2階　看的室①②　看的カウンター	1箇所	1/20(A1)、1/40(A3)

天板TOP	木集成材 t＝30	品番：
扉・引出		品番：
本体(表)		品番：
本体見付		品番：
戸袋内部		品番：
巾木・台輪		品番：
金物etc.	補強ブラケット　318 x 378	



K-11,12	2階　弓道更衣室　弓立て・荷物置き	2箇所	1/10(A1)、1/20(A3)

天板TOP	カーペット敷き	品番：
扉・引出		品番：
本体(表)	シナ合板	品番：
本体見付	木ロンテープ　t＝0.5	品番：
戸袋内部		品番：
巾木・台輪		品番：
金物etc.	ｷｬｯﾁ付ｽﾗｲﾄﾞ丁番,	



K-*	****	*箇所	***

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

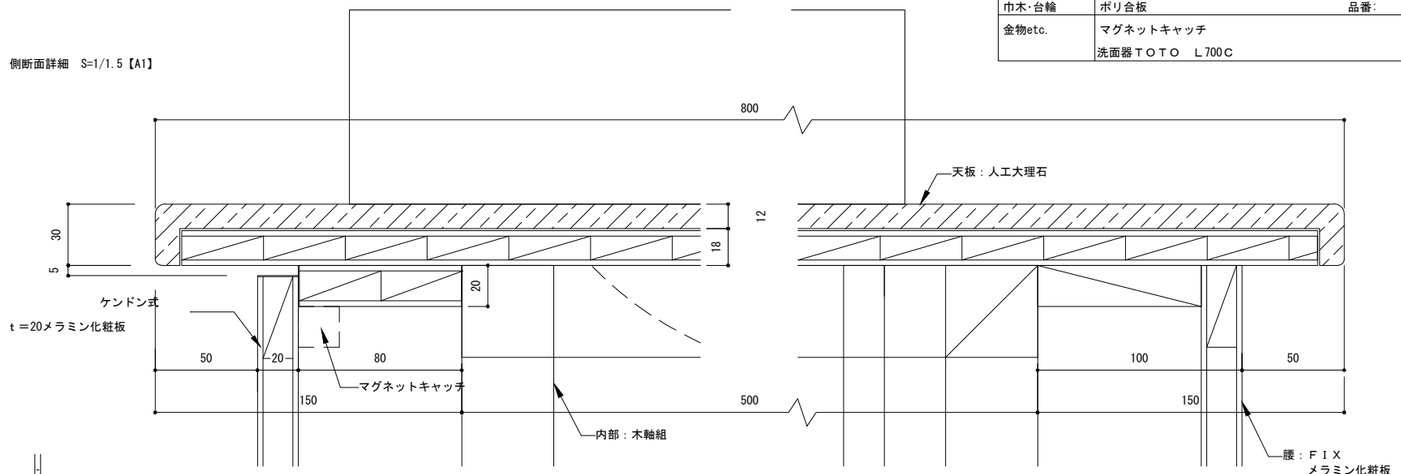
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

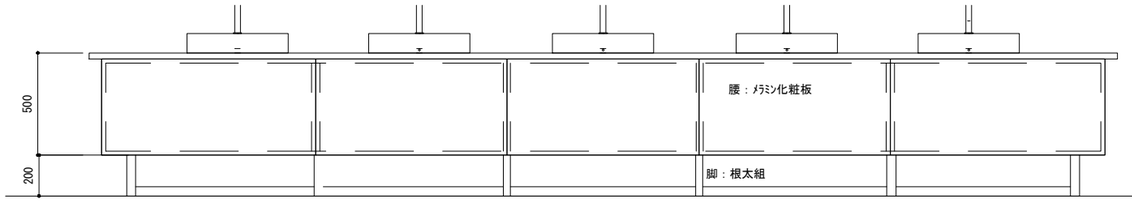
飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	16779	図面番号 A — 143
家具詳細図(3)	縮尺 1/ A1:図示 A3:図示	日付 2019・11・15	

K-10	2階　女子トイレ　独立洗面カウンター	1箇所	1/15(A1)、1/30(A3)

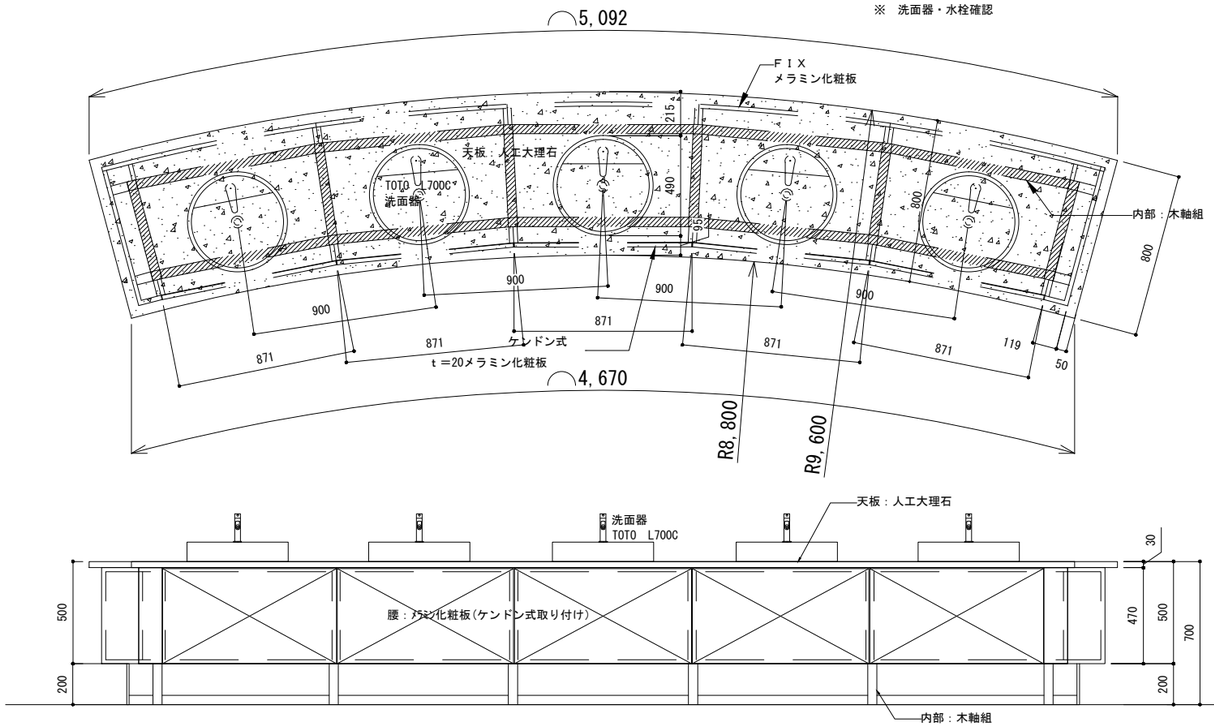
天板TOP	人工大理石	品番:
扉・引出	ﾒﾗﾐﾝ化粧板	品番:
本体(表)	ポリ合板	品番:
本体見付	ﾒﾗﾐﾝ化粧板	品番:
戸袋内部	ポリ合板(白)	品番:　5414(白)
巾木・台輪	ポリ合板	品番:
金物etc.	マグネットキャッチ 洗面器ＴＯＴＯ　Ｌ700Ｃ	

側断面詳細　S=1/1.5【A1】



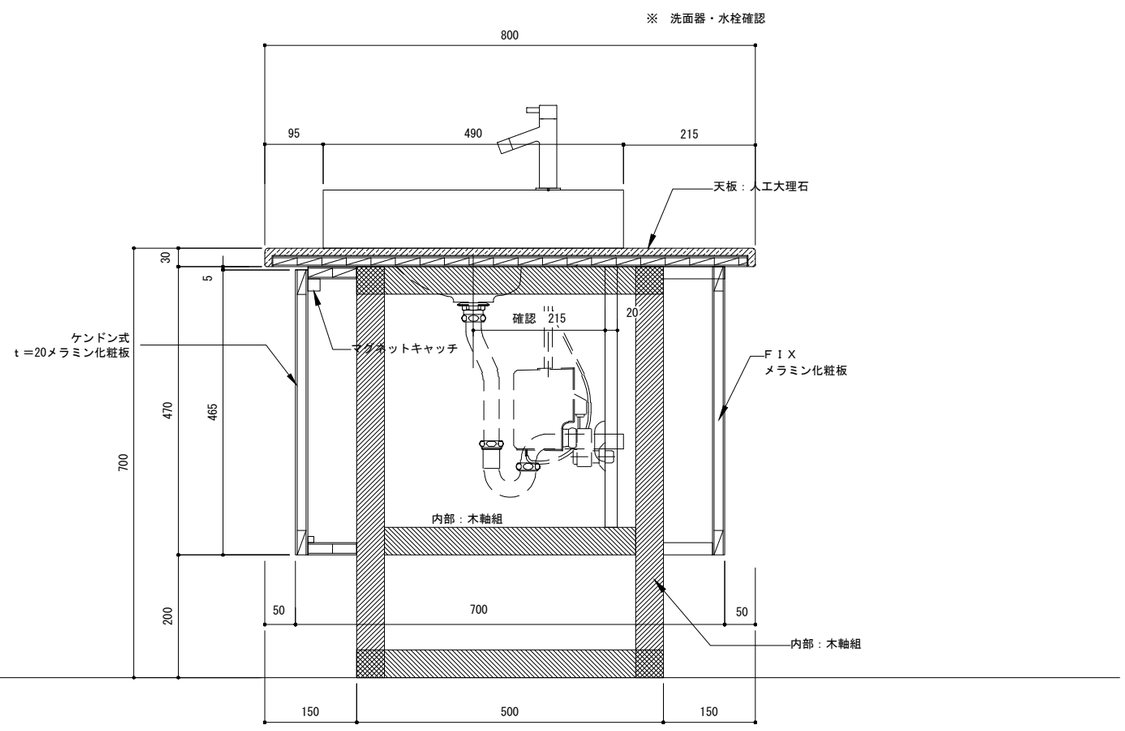


※　洗面器・水栓確認



側断面詳細　S=1/5

※　洗面器・水栓確認



飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社　一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者	法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 144
		一級建築士 第280187号 中川 崇 / 一級建築士 第336677号 加野 正知 / 一級建築士 第336801号 江口 聡一郎 / 林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		家具詳細図(4)	縮尺 1/ A1:現示 A3:現示 / 日付 2019・11・15	

参考図

※本工事は、特記仕様書・図書に基づくほか、以下に則り行う。

(1)交通誘導員を適切に配置し、施設関係者、通行者の安全に十分注意すること。

(2)工事着手前に、事前調査を十分に行い､事故防止及び環境保全に十分配慮した解体工法並びに建設廃棄物の処理等について具体的に定めた施工計画書を監理者に提出する､施工計画書には次の内容を記載すること。
（工事内容、実施工程表、現場組織表、緊急時連絡先、仮設計画図、安全管理計画）

(3)既存の電線（上部高圧電線）、地下貯留施設、埋設配管等に注意し、破損した場合は施工者の負担により復旧を行うこと。
特に５工区の地下貯留施設の上部には重量車両等を載せないこと。

(4)用水電力費は施工者の負担とする。

(5)埋め戻し等で利用する残土以外は場外への処分とする。

(6)付近の道路及び側溝等に損傷を生じさせたときには、監督職員に報告の上、速やかに復旧すること。
また、ほこりや汚れに対して水まき及び清掃を常に行うこと。

(7)発生した産業廃棄物等は廃棄物処理法や建設リサイクル法等の関係法令に従い、適正に処分すること。

(8)関係機関と調整を図り、関係法令を守り、必要な処置を講ずること。
工事に伴う官公庁への届出等の手続き（その費用を含む）及び工事用電気・水道の使用に係る費用は請負者の負担とする。

(9)請負業者は監理者と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗を図ること。

(10)工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合は、監理者に報告の上、指示に従うこと。
(汚染土壌､不発弾､有毒ガス､埋蔵文化財､電波障害等)

(11)工事で設置する仮囲い設置位置については、確認を行うこと。
※設置した仮囲いは、労働安全規則に基づき転倒・損傷等のない様に適切に点検・管理を行うこと。
※仮囲いは万能鋼板とし、控え幅1500、根入れ深さ900以上とすること。
※周囲既存メッシュフェンスの部分については、フェンスを利用してメッシュシート等で養生を行うことも可とする。

(12)工事関係車両の場内への出入り時間帯については監理者と協議を行うこと。

(13)歩道の切下げの際には、関係機関と打合せの上、申請を行うこと。

(14)工事は基本的に月曜から土曜とし、日曜・祝日には行わない。

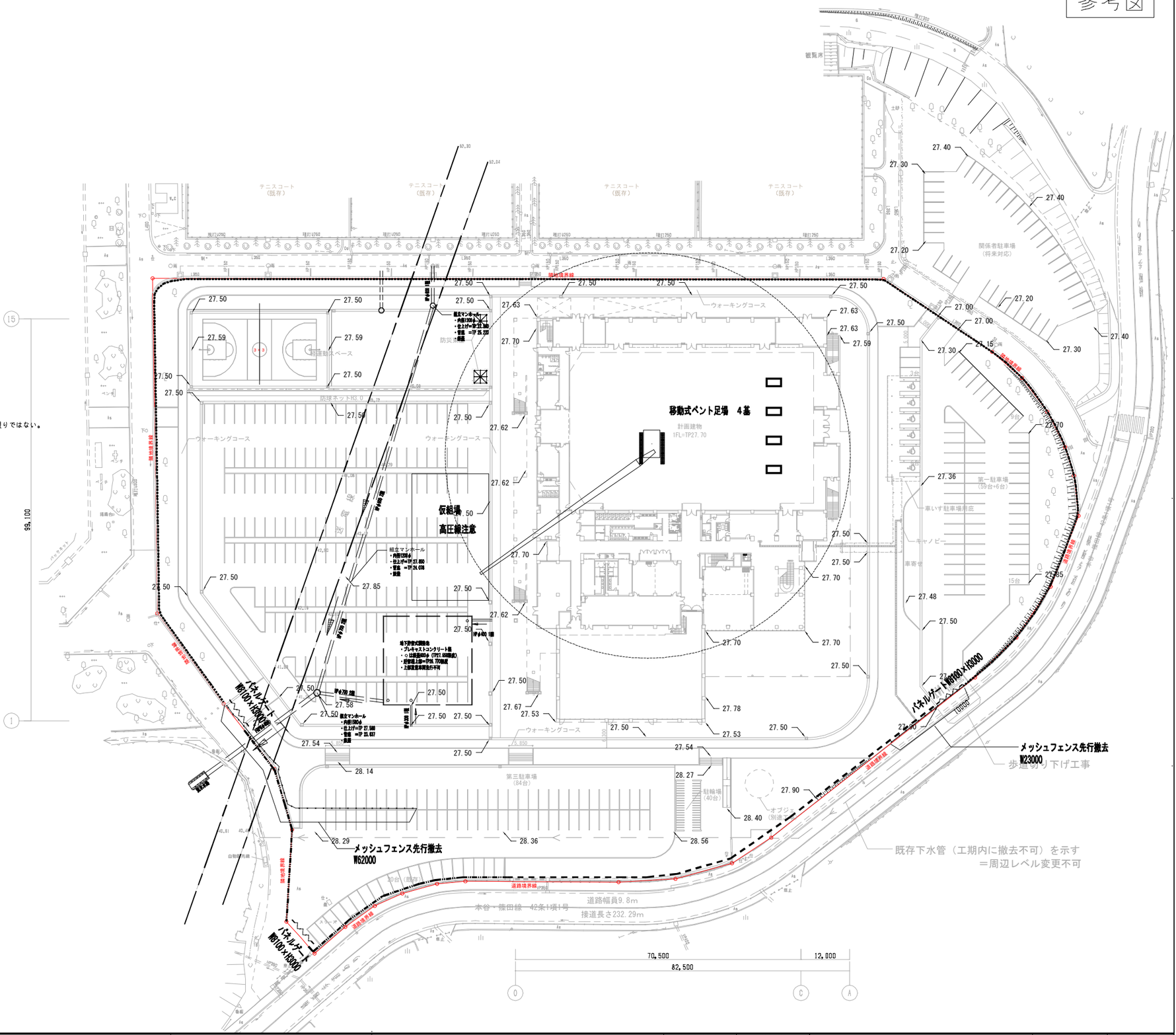
(15)作業時間は原則として午前8時から午後6時までとするが、作業準備や片付け等の振動・騒音の発生しない作業についてはこの限りではない。
※下記の場合には上記に係らず作業を行うものとする。
1) 暴風雨・地震等の緊急時の安全維持作業
2) 道路交通法等により、時間的に車両規制を受ける作業（所管警察署等の指導に基づき行う）
3) 交通渋滞・事故等の理由によりやむをえない事情が生じた場合の作業

(16)西側道路の下水本管を工事期間中に施工予定。市と必要な調整を行うこと。
本施設の下水は当該下水本管へ接続予定（別途工事）。事業者と調整を行うこと。

(17)本工事の工事用排水は既存マンホール等を活用し、貯水池へ排水するものとするが
ノッチタンクにより泥等を沈殿させて処理するものとする。

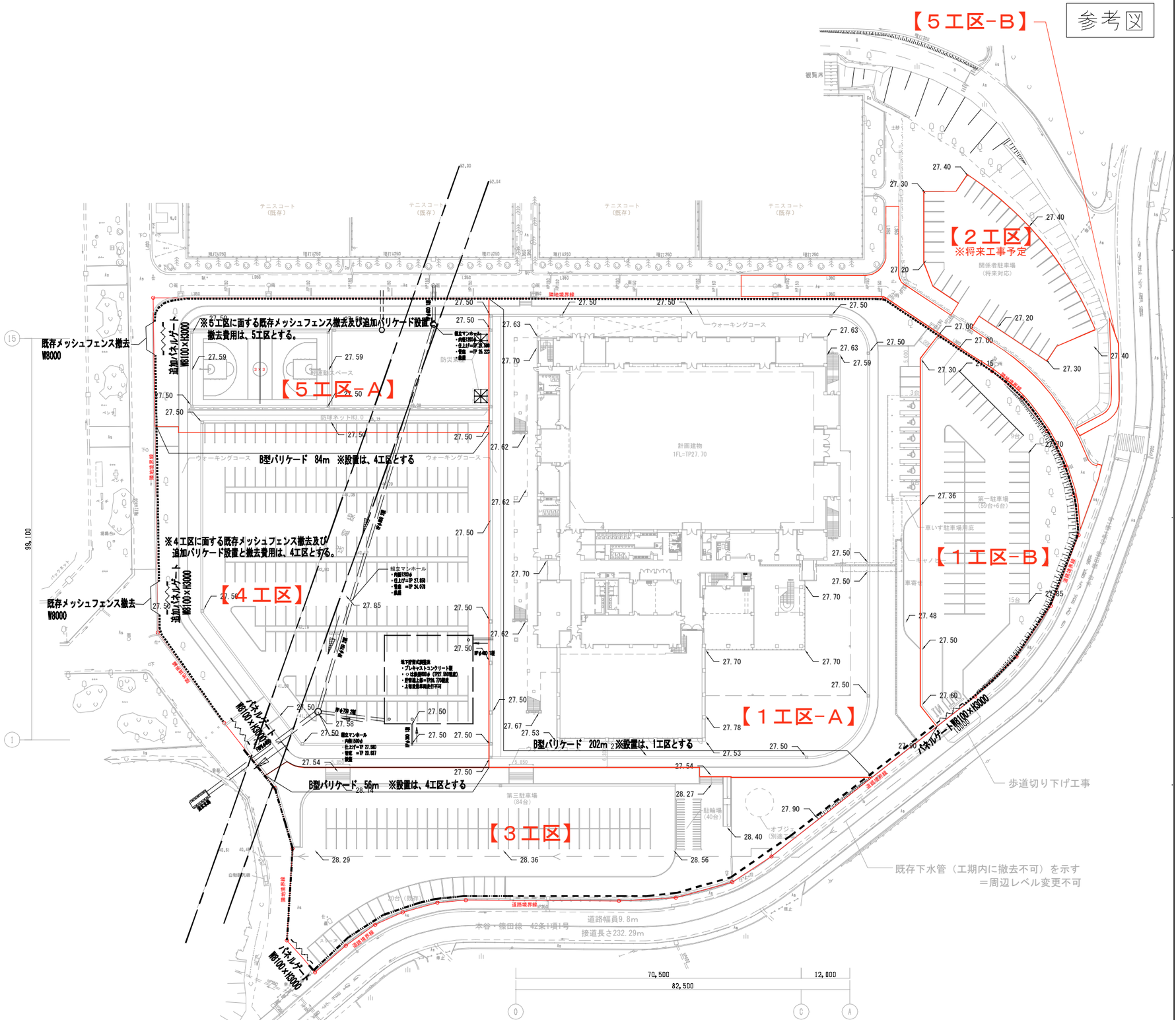
■工事範囲　・本工事では、1工区（A，B）の工事を行う。（2～5工区は別途工事）
■工期　・議会承認後(2020年3月末以降)～2022年2月28日までとする。
■仮設工事　・仮設計画（右図）は参考とする。
・アスファルト部の仮囲い支柱の穴は補修する。
・仮囲い（万能鋼板）を設置、既存フェンス部はメッシュシートにより養生する。
・工事車両出入口にはパネルゲートを設置し、高圧洗浄機、誘導員を配置する。
・誘導員は車両出入口ごとに配置すること。（参考：2名　着工～2022.2.28）
・全工区を利用可能な時期は着工～2021.9.30までとする。
2021.10.1以降は１工区-A，Bのみを工事ヤードとする。
雨水配管等、１工区-A，B以外の工区の本工事は当該期間までに完了するものとする。
・2021.10.1以降は外構工事業者（別途工事）が3～5工区の工事を行う。
各工事と取り合う部分について、B型バリケードを設けること。（2021.11.1～2022.2.28）
・警備員は車両出入口ごとに配置すること。（参考：2名　着工～2022.2.28）
・1工区-A，Bに面するフェンスおよびパネルゲート設置部のフェンスは、本工事にて撤去する。
・足場はメインアリーナ内はベント足場とし、その他は施工者提案によるものとする。

■凡例
：パネルゲート（W8100×H3000）
：仮囲い（万能鋼板H2000～）　119m
：仮囲い（万能鋼板H2000～、下地骨組基礎）　90m
：仮囲い（既存メッシュフェンスH1800+メッシュシート）　413m



| | | |

参考図

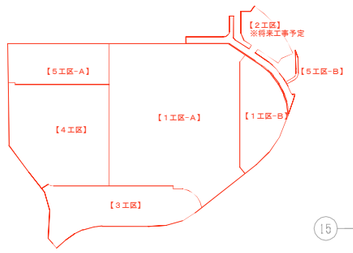


■工事範囲　・本工事では、1工区（A，B）の工事を行う。（2～5工区は別途工事）
■工期　・議会承認後（2020年3月末以降）～2022年2月28日までとする。
■仮設工事　・仮設計画（右図）は参考とする。
・アスファルト部の仮囲い支柱の穴は補修する事。
・仮囲い（万能鋼板）を設置、既存フェンス部はメッシュシートにより養生する。
・工事車両出入口にはパネルゲートを設置し、高圧洗浄機、誘導員を配置する。
・誘導員は車両出入口ごとに配置すること。（参考：2名　着工～2022.2.28）
・全工区を利用可能な時期は着工～2021.9.30までとする。
2021.10.1以降は１工区-A，Bのみを工事ヤードとする。
雨水配管等、１工区-A，B以外の工区の本工事は当該期間までに完了するものとする。
・2021.10.1以降は外構工事業者（別途工事）が3～5工区の工事を行う。
各工事と取り合う部分について、B型バリケードを設けること。（2021.11.1～2022.2.28）
・警備員は車両出入口ごとに配置すること。（参考：2名　着工～2022.2.28）
・１工区-A，Bに面するフェンスおよびパネルゲート設置部のフェンスは、本工事にて撤去する。
・足場はメインアリーナ内はベント足場とし、その他は施工者提案によるものとする。

■凡例
：パネルゲート（W8100×H3000）
：仮囲い（万能鋼板H2000～）
：仮囲い（万能鋼板H2000～、下地骨組基礎）
：仮囲い（既存メッシュフェンス+メッシュシート）

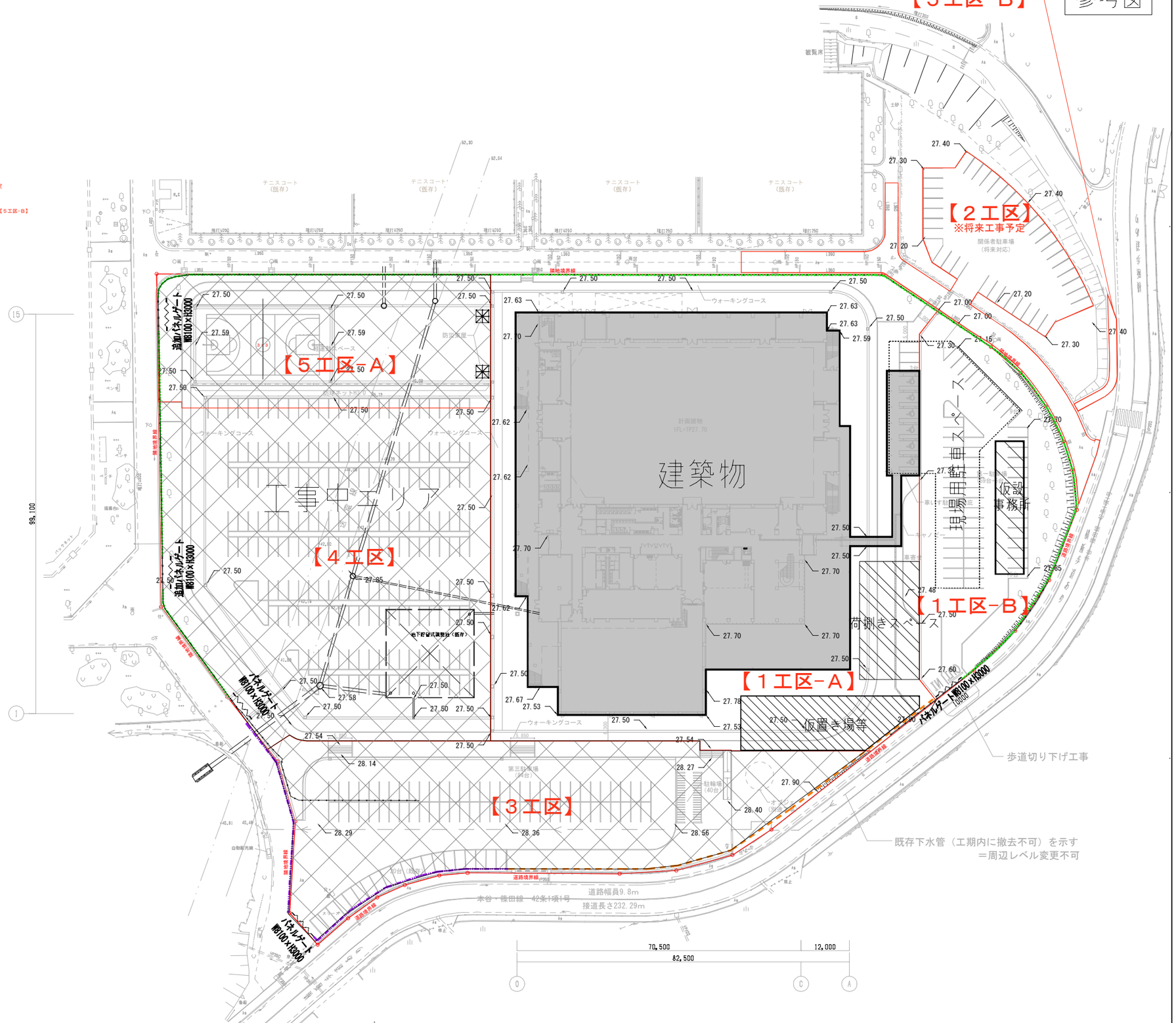
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者					法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 A — 146
			一級建築士 第280187号 中川 幸	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子		設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子		仮設計画図（２）	縮尺 1/1:原示 A3:原示 日付 2019・11・15	

参考図

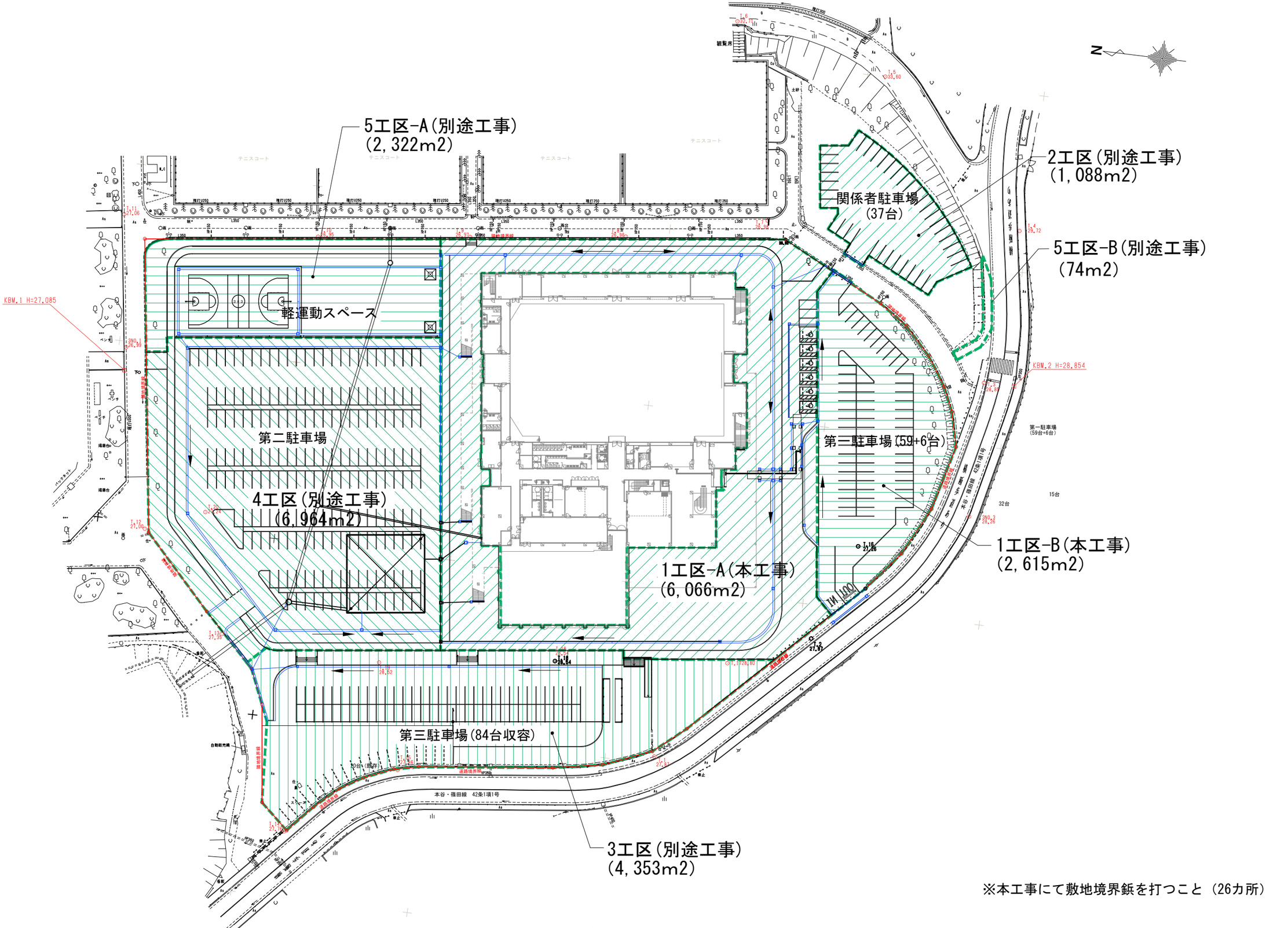


■工事範囲　・本工事では、1工区（A，B）の工事を行う。（2～5工区は別途工事）
■工期　・議会承認後(2020年3月末以降)～2022年2月28日までとする。
■仮設工事　・仮設計画（右図）は参考とする。
・アスファルト部の仮囲い支柱の穴は補修する事。
・仮囲い（万能鋼板）を設置、既存フェンス部はメッシュシートにより養生する。
・工事車両出入口にはパネルゲートを設置し、高圧洗浄機、誘導員を配置する。
・誘導員は車両出入口ごとに配置すること。（参考：2名　着工～2022.2.28）
・全工区を利用可能な時期は着工～2021.9.30までとする。
2021.10.1以降は１工区-A，Bのみを工事ヤードとする。
雨水配管等、１工区-A，B以外の工区の本工事は当該期間までに完了するものとする。
・2021.10.1以降は外構工事業者（別途工事）が3～5工区の工事を行う。
各工事と取り合う部分について、B型バリケードを設けること。（2021.11.1～2022.2.28）
・警備員は車両出入口ごとに配置すること。（参考：2名　着工～2022.2.28）
・１工区-A，Bに面するフェンスおよびパネルゲート設置部のフェンスは、本工事にて撤去する。
・足場はメインアリーナ内はベント足場とし、その他は施工者提案によるものとする。

■凡例
：パネルゲート（W8100×H3000）
：仮囲い（万能鋼板H2000～）
：仮囲い（万能鋼板H2000～、下地骨組基礎）
：仮囲い（既存メッシュフェンス+メッシュシート）

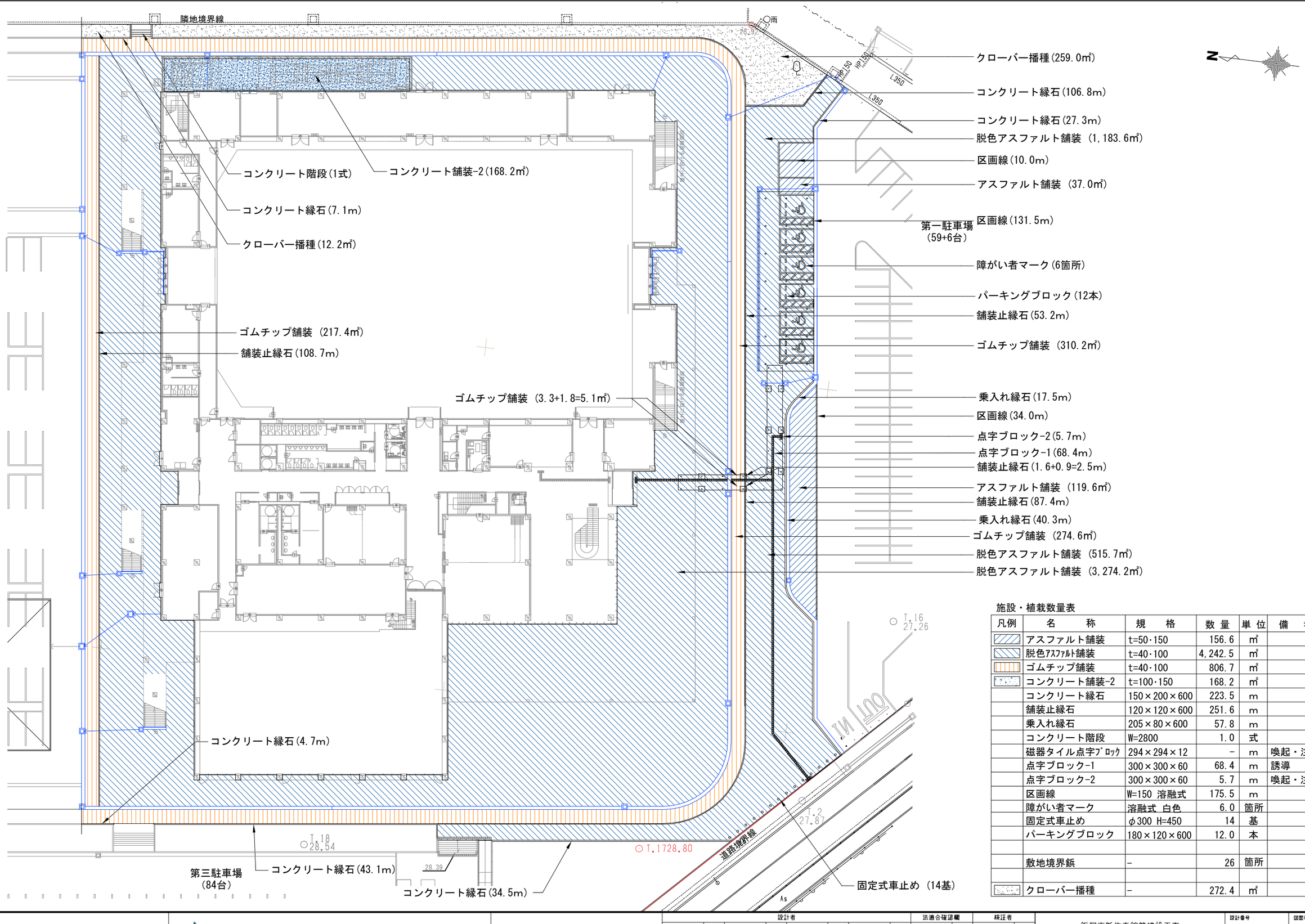


| | | |



※本工事にて敷地境界鋲を打つこと（26カ所）

| | | |



施設・植栽数量表

凡例	名　　称	規　　格	数 量	単 位	備　　考
	アスファルト舗装	t=50・150	156.6	㎡	
	脱色ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装	t=40・100	4,242.5	㎡	
	ゴムチップ舗装	t=40・100	806.7	㎡	
	コンクリート舗装-2	t=100・150	168.2	㎡	
	コンクリート縁石	150×200×600	223.5	m	
	舗装止縁石	120×120×600	251.6	m	
	乗入れ縁石	205×80×600	57.8	m	
	コンクリート階段	W=2800	1.0	式	
	磁器タイル点字ﾌﾞﾛｯｸ	294×294×12	-	m	喚起・注意
	点字ブロック-1	300×300×60	68.4	m	誘導
	点字ブロック-2	300×300×60	5.7	m	喚起・注意
	区画線	W=150 溶融式	175.5	m	
	障がい者マーク	溶融式 白色	6.0	箇所	
	固定式車止め	φ300 H=450	14	基	
	パーキングブロック	180×120×600	12.0	本	
	敷地境界鋲	-	26	箇所	
	クローバー播種	-	272.4	㎡	

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

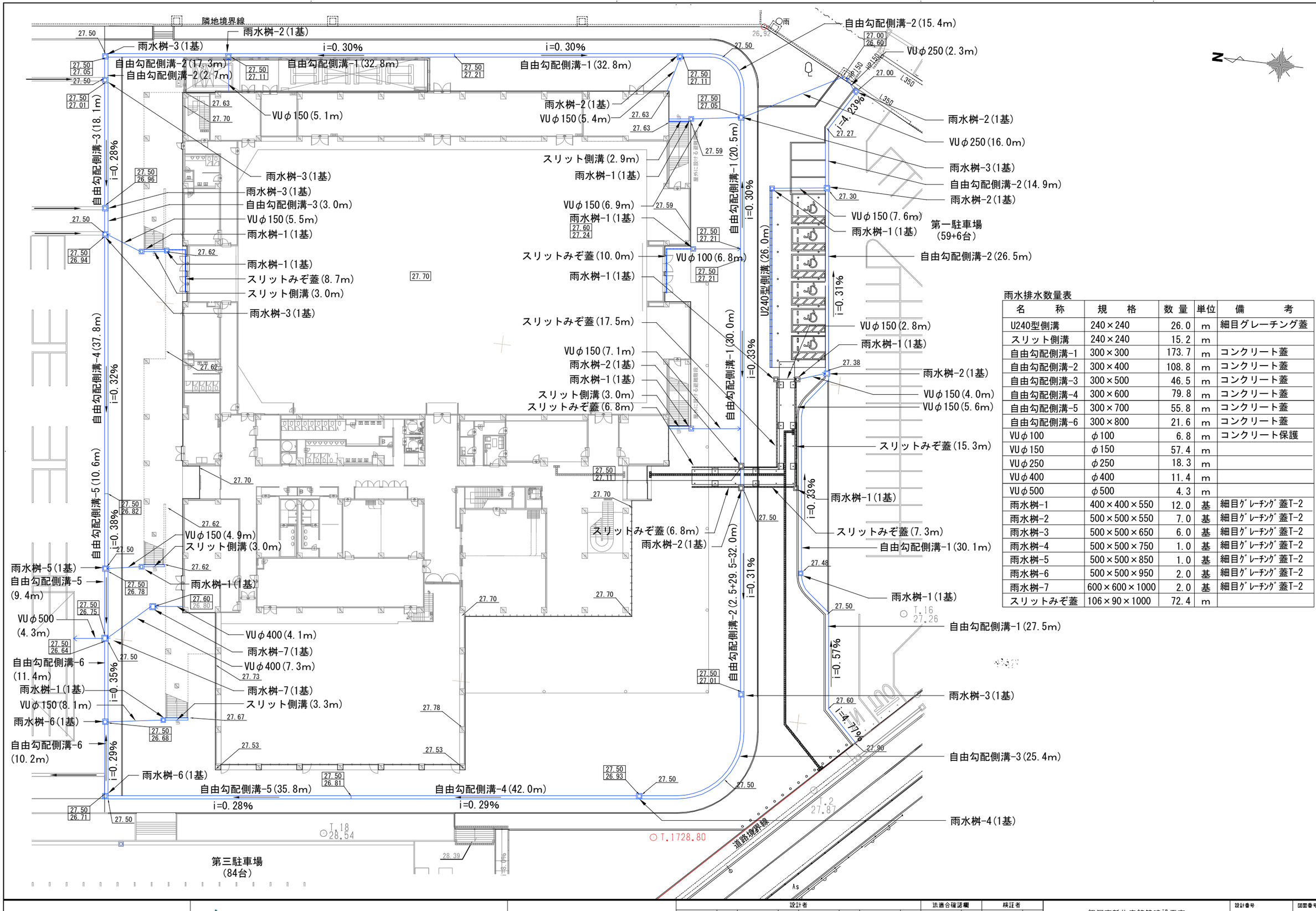
1 工区-A 施設・植栽平面図

設計番号 16779

図面番号 G — 002

縮尺 1/A1:250 A3:500

日付 2019・11・15



雨水排水数量表

名　　称	規　　格	数 量	単位	備　　考
U240型側溝	240×240	26.0	m	細目グレーチング蓋
スリット側溝	240×240	15.2	m	
自由勾配側溝-1	300×300	173.7	m	コンクリート蓋
自由勾配側溝-2	300×400	108.8	m	コンクリート蓋
自由勾配側溝-3	300×500	46.5	m	コンクリート蓋
自由勾配側溝-4	300×600	79.8	m	コンクリート蓋
自由勾配側溝-5	300×700	55.8	m	コンクリート蓋
自由勾配側溝-6	300×800	21.6	m	コンクリート蓋
VUφ100	φ100	6.8	m	コンクリート保護
VUφ150	φ150	57.4	m	
VUφ250	φ250	18.3	m	
VUφ400	φ400	11.4	m	
VUφ500	φ500	4.3	m	
雨水桝-1	400×400×550	12.0	基	細目ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2
雨水桝-2	500×500×550	7.0	基	細目ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2
雨水桝-3	500×500×650	6.0	基	細目ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2
雨水桝-4	500×500×750	1.0	基	細目ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2
雨水桝-5	500×500×850	1.0	基	細目ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2
雨水桝-6	500×500×950	2.0	基	細目ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2
雨水桝-7	600×600×1000	2.0	基	細目ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2
スリットみぞ蓋	106×90×1000	72.4	m	

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

1工区-A 雨水排水平面図

設計番号 16779

図面番号 G — 003

縮尺 1/A1:250 A3:500

日付 2019・11・15

関係者駐車場

道路境界線

本合・篠田線 42条1項1号

9台

32台

15台

第一駐車場
(59台+6台)

L型側溝乗入れタイプ(7.0m)

上下式車止め(3基)

区画線-1(40.0m)

KBM.2 H=28.854

コンクリート縁石(120.6m)

アスファルト舗装(1,797.6㎡)

上下式車止め (10基)

区画線(227.4m)

クローバー播種(743.4㎡)

区画線-1(70.0m)

区画線-1(17.2m)

区画線-3(13.7m)

区画線-2(4.0m)

区画線-3(10.4m)

上下式車止め(6基)

駐車場入口改修(1式)

施設・植栽数量表

凡例	名　　称	規　　格	数 量	単 位	備　　考
	アスファルト舗装	t=50･150	1,797.6	㎡	
	コンクリート縁石	150×200×600	120.6	m	
	区画線-1	W=150 溶融式	354.6	m	
	区画線-2	W=300 溶融式	4.0	m	
	区画線-3	W=150 文字	24.1	m	
	上下式車止め	H=700 φ114.3	19	基	
	L型側溝乗入れタイプ	170×700×500	7.0	m	
	駐車場入口改修	W=13800	1.0	式	
	クローバー播種	種子散布	743.4	㎡	

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 幸	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

1工区-B 施設・雨水排水平面図

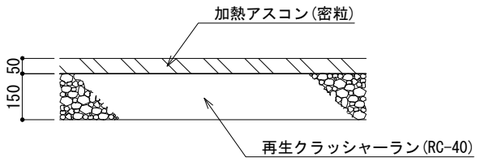
設計番号 16779

図面番号 G — 004

縮尺 1/250 A3:1/500

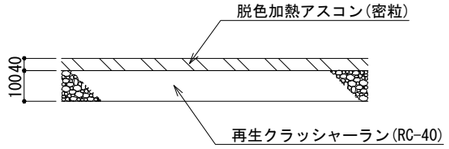
日付 2019・11・15

アスファルト舗装　A1:1/10　A3:1/20



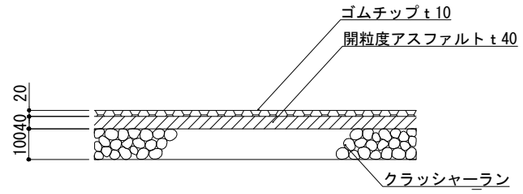
断面図

脱色アスファルト舗装　A1:1/10　A3:1/20



断面図

ゴムチップ舗装　A1:1/10　A3:1/20



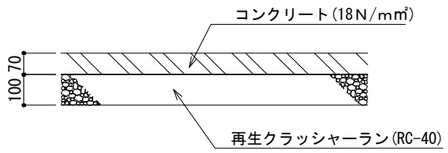
断面図

砂利舗装（2工区）　A1:1/10　A3:1/20



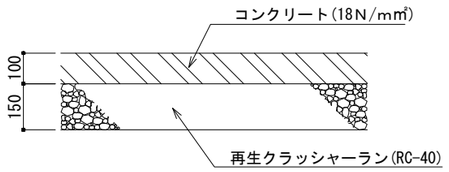
断面図

コンクリート舗装-1　A1:1/10　A3:1/20



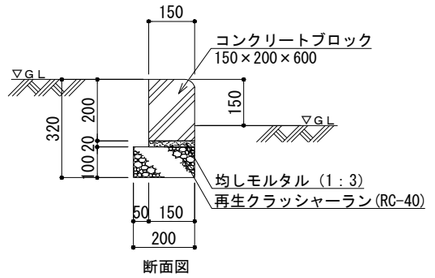
断面図

コンクリート舗装-2　A1:1/10　A3:1/20



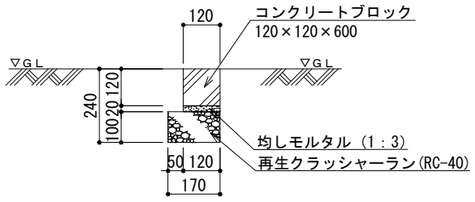
断面図

コンクリート縁石　A1:1/10　A3:1/20



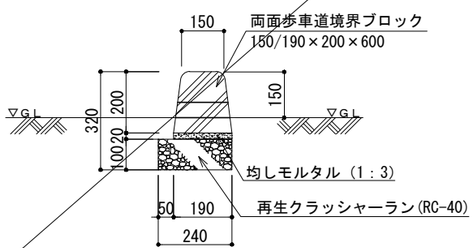
断面図

舗装止縁石　A1:1/10　A3:1/20



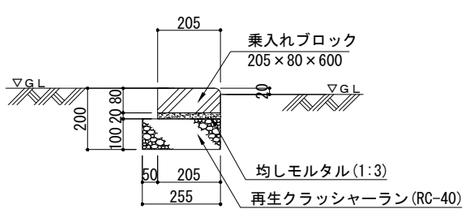
断面図

歩車道境界縁石（3工区）　A1:1/10　A3:1/20



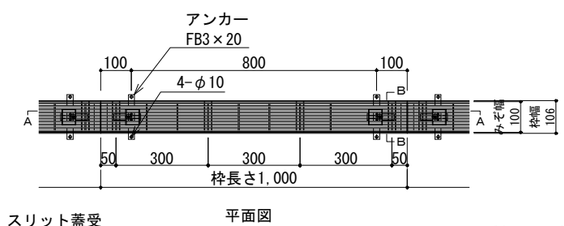
※フラット、水抜きタイプ

乗入縁石　A1:1/10　A3:1/20

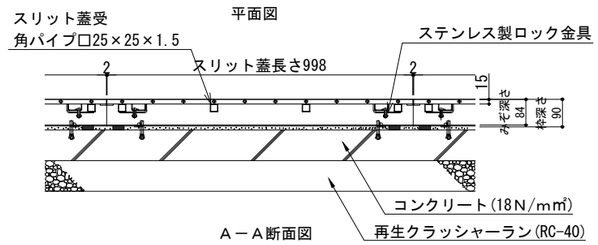


断面図

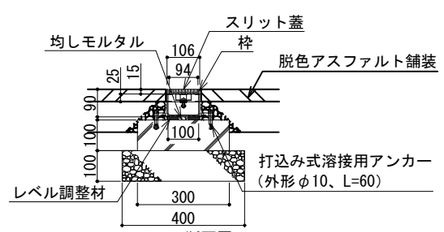
スリットみぞ蓋　A1:1/10　A3:1/20



平面図



Ａ－Ａ断面図



Ｂ－Ｂ断面図

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者					法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士			設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号			第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林 沙希子		椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

施設構造図(1)(全工区共通)

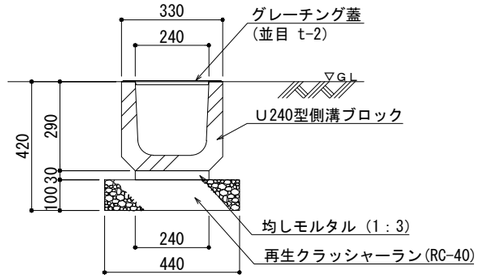
設計番号　16779

図面番号　G — 005

縮尺　1/10 1/20

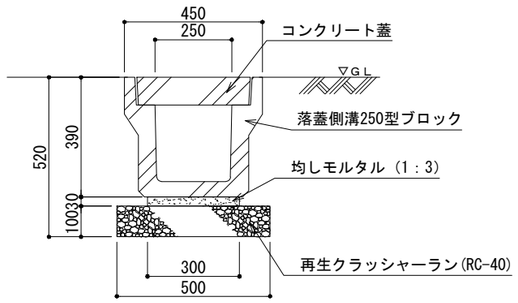
日付　2019・11・15

U240型側溝　A1:1/10　A3:1/20

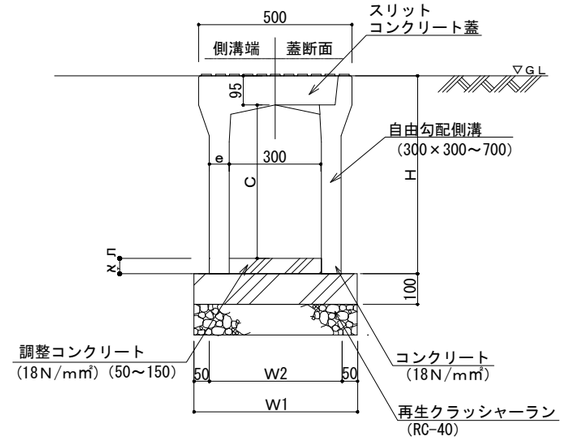


断面図

落蓋側溝　A1:1/10　A3:1/20



自由勾配側溝-1～6　A1:1/10　A3:1/20

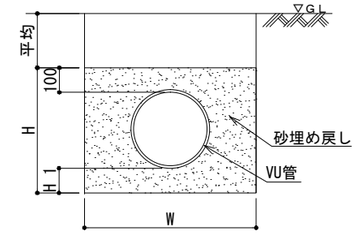


自由勾配側溝 300タイプ

呼び名	規　格	寸　法　(mm)					参考重量 (kgw)
		H	c	e	W1	W2	
自由勾配側溝-1	300×300	445	300	50	500	400	335
自由勾配側溝-2	400	545	400	55	510	410	412
自由勾配側溝-3	500	645	500				464
自由勾配側溝-4	600	745	600	65	530	430	568
自由勾配側溝-5	700	845	700				633
自由勾配側溝-6	800	945	800	75	550	450	768

※集水用蓋を10.0m当り2枚を設置する。

VUφ100・150・200・250・300・400・500　A1:1/10　A3:1/20

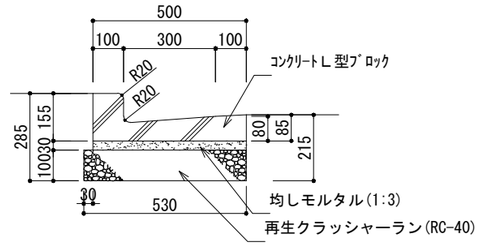


断面図

名　称	H	H 1	w	径
VUφ100	300	100	300	φ100
VUφ150	350	100	550	φ150
VUφ200	400	100	600	φ200
VUφ250	450	100	650	φ250
VUφ300	550	150	700	φ300
VUφ400	650	150	800	φ400
VUφ500	750	150	900	φ500

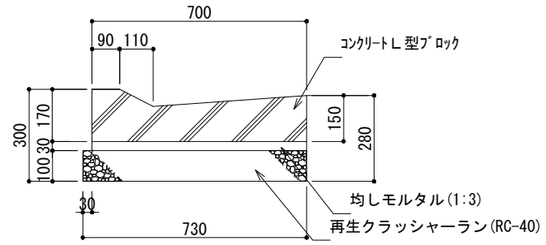
※VUφ100については舗装面から被りが少ないことからコンクリート(18N/mm2)による保護仕様とする。

L型側溝　A1:1/10　A3:1/20



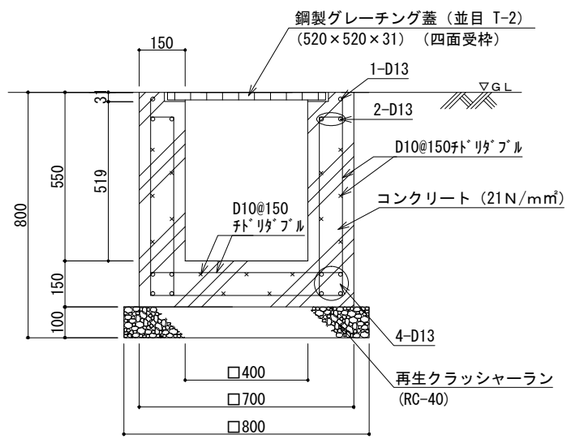
断面図

L型側溝(乗入れタイプ)　A1:1/10　A3:1/20



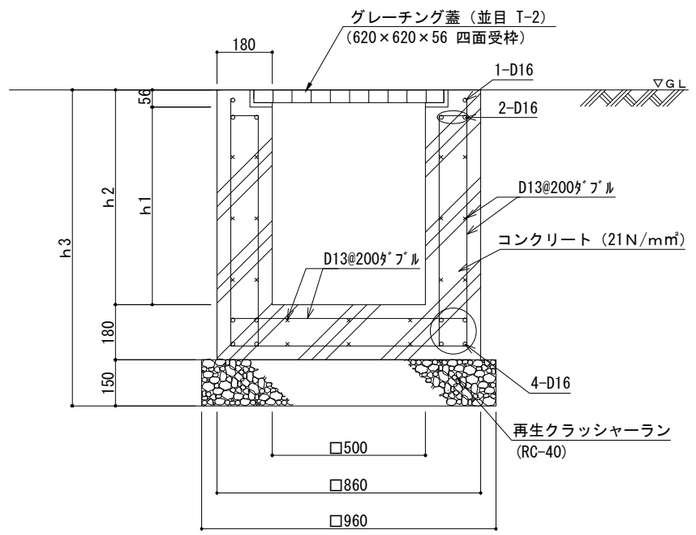
断面図

雨水桝-1　A1:1/10　A3:1/20



断面図

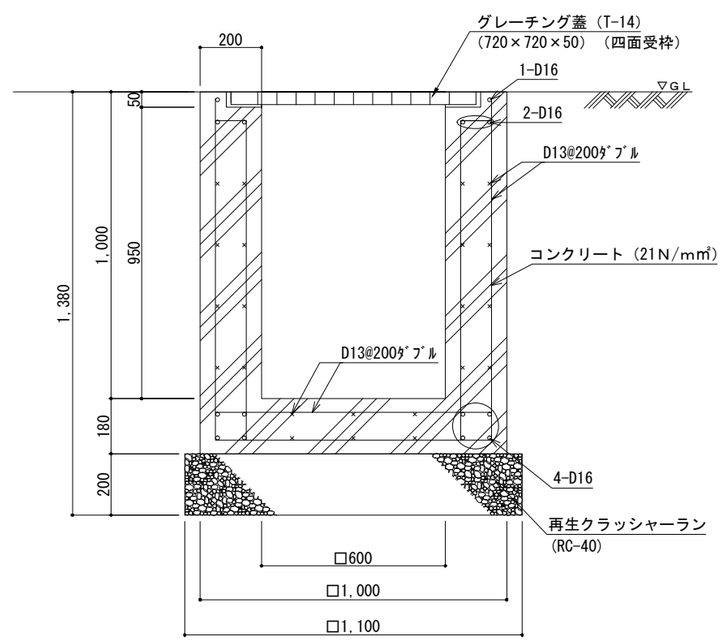
雨水桝-2～6　A1:1/10　A3:1/20



Ω　ﾑ

Ÿ　。			
5ぎ	494	550	880
5ぎ	594	650	980
5ぎ	694	750	1080
5ぎ	794	850	1180
5ぎ	894	950	1280

雨水桝-7（1工区）　A1:1/10　A3:1/20



Ω　ﾑ

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

施設構造図(2)(全工区共通)

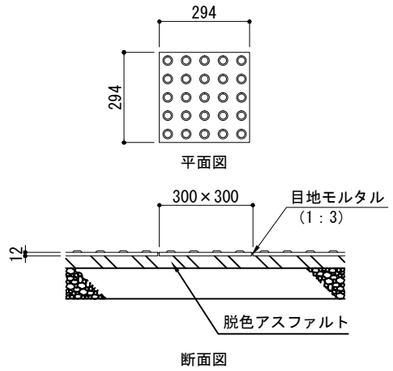
設計番号 16779

図面番号 G — 006

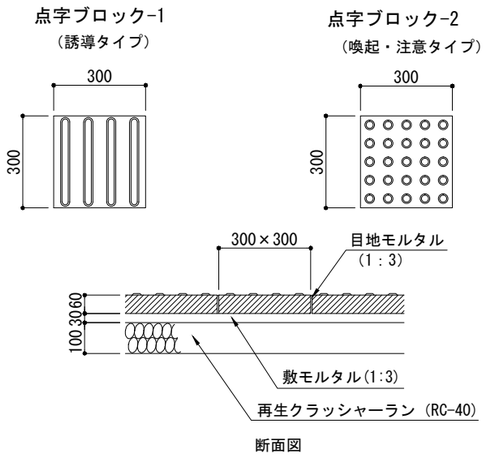
縮尺 1/10 1/20

日付 2019・11・15

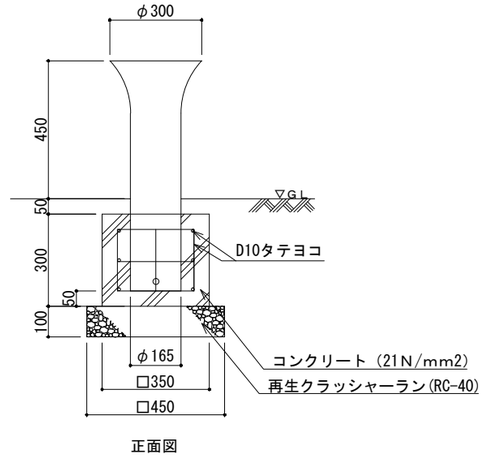
磁器タイル点字ブロック(1工区)　A1:1/10　A3:1/20



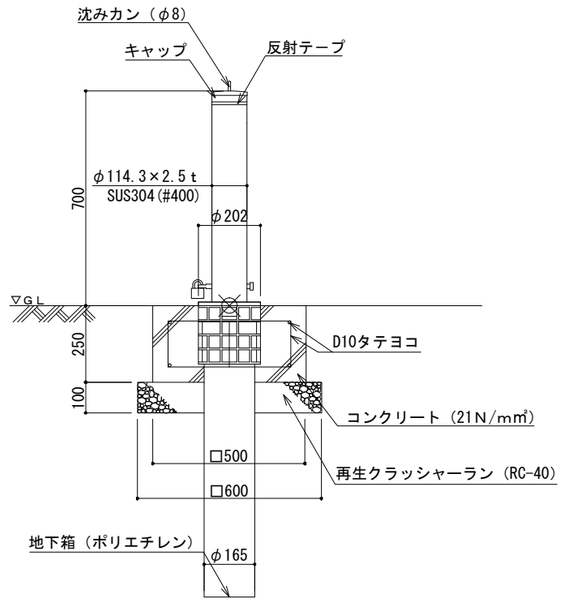
点字ブロック-1・2(1・3工区)　A1:1/10　A3:1/20



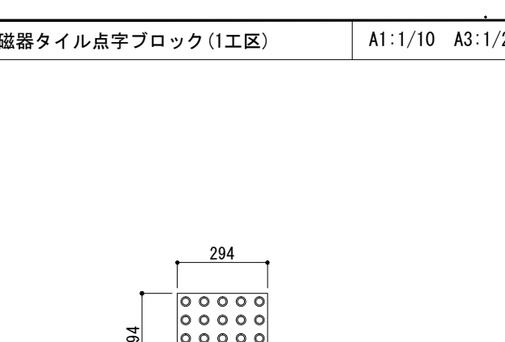
固定式車止め (1工区-A,B)　A1:1/10　A3:1/20



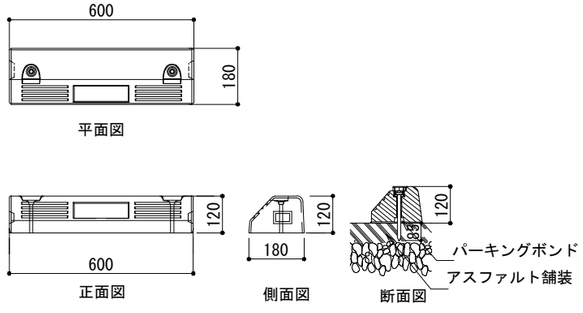
上下式車止め　A1:1/10　A3:1/20



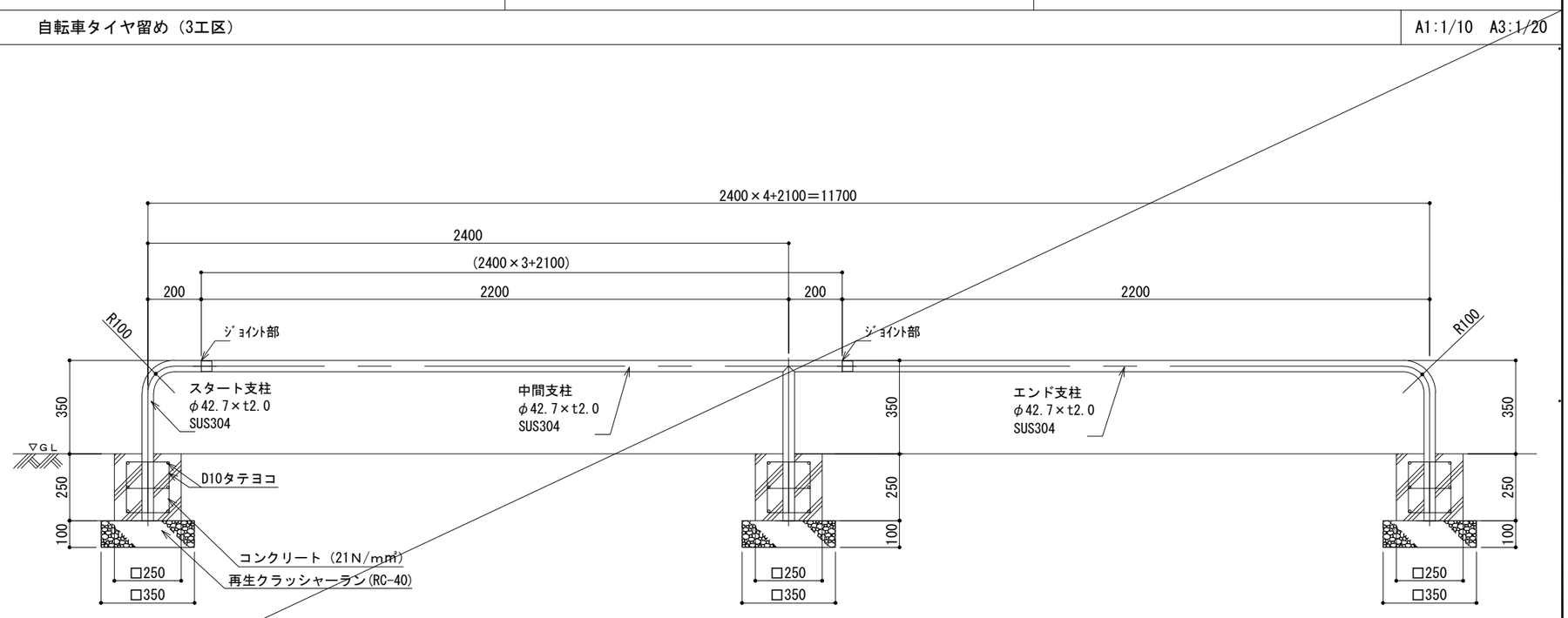
スリット側溝(1工区)　A1:1/10　A3:1/20



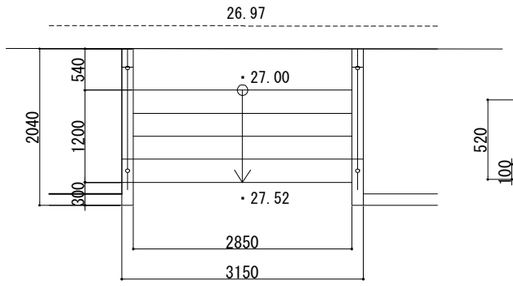
パーキングブロック(1工区-A)　A1:1/10　A3:1/20



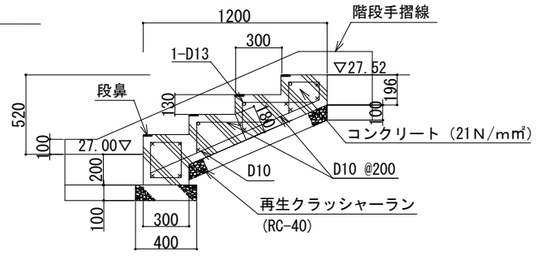
自転車タイヤ留め (3工区)　A1:1/10　A3:1/20



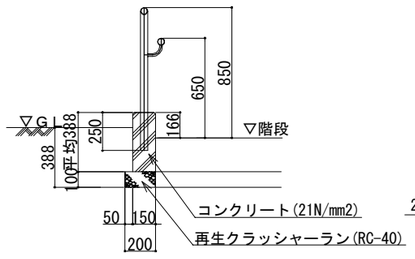
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者 一級建築士 第280187号 中川 崇 一級建築士 第336677号 加野 正知 一級建築士 第336801号 江口 聡一郎 林 沙希子	法適合確認欄 設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	検証者	飯塚市新体育館等建設工事 施設構造図(3)(全工区共通)	設計書号 16779 縮尺 1/10 20 日付 2019・11・15	図面番号 G — 007



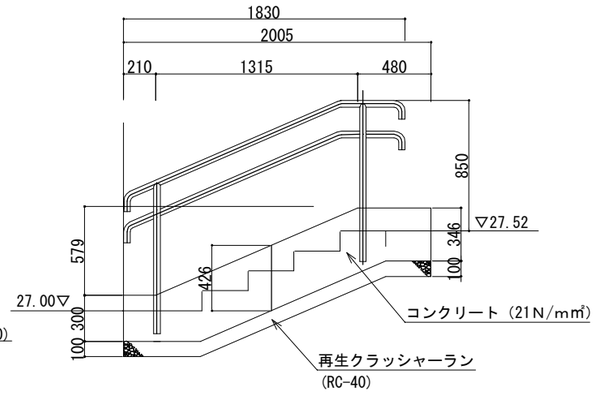
平面図 S=1/40



断面図 S=1/20

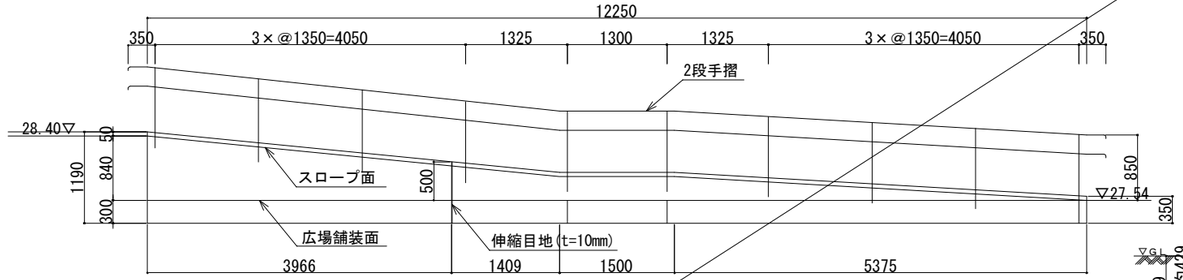


階段袖断面図

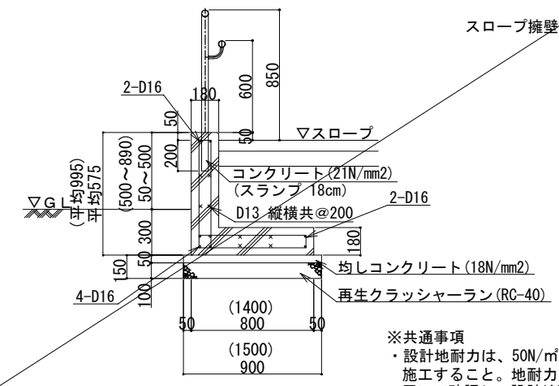


階段袖側面図 S=1/20

スロープ擁壁



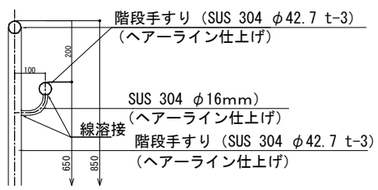
スロープ擁壁・手摺 展開図 S=1/40

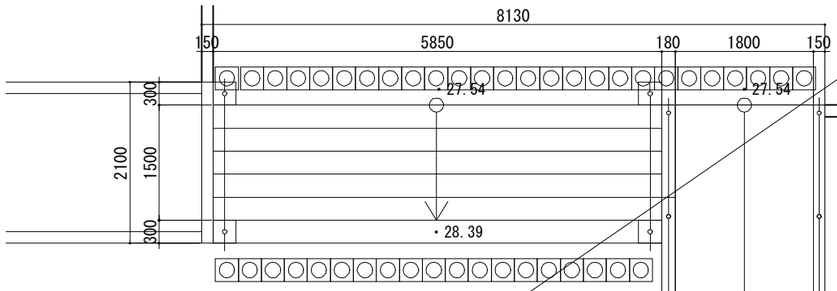


スロープ擁壁断面図 S=1/20

※共通事項
・設計地耐力は、50N/㎡と設定し現場にて耐力を確認の上施工すること。地耐力は簡易載荷試験(キャスボール等)を用いて確認し、設計地耐力満足しない場合は浅層地盤改良を行うこと。

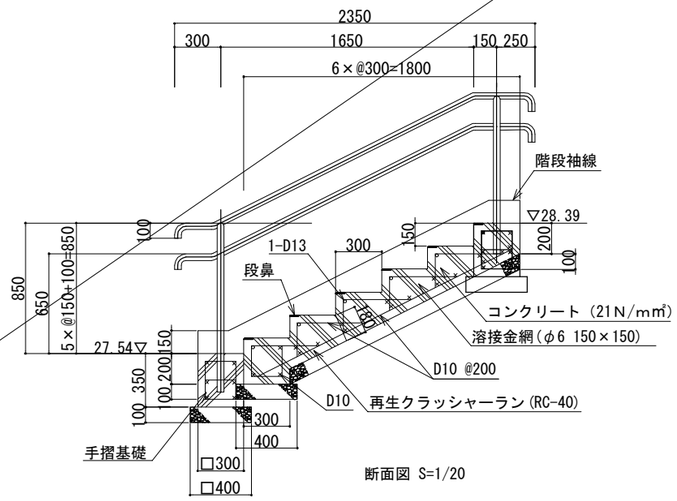
階段・スロープ 手すり上部詳細図 S= -



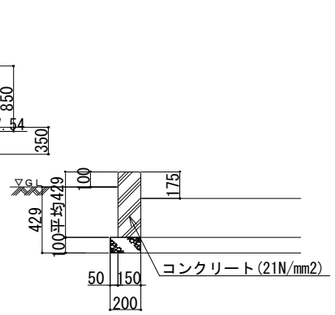


コンクリート階段・スロープ平面図 S=1/40

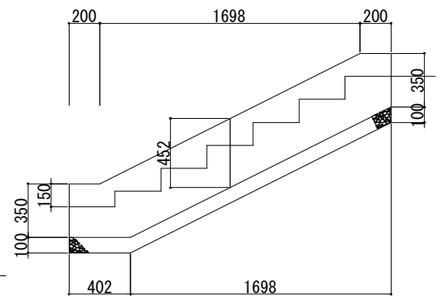
コンクリート階段



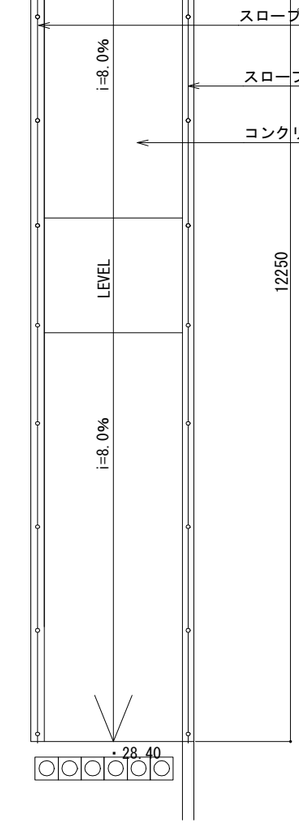
断面図 S=1/20



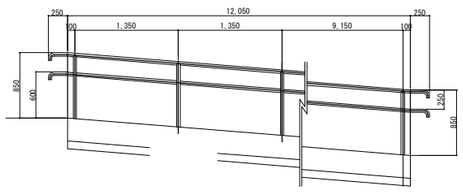
階段袖断面図 S=1/20



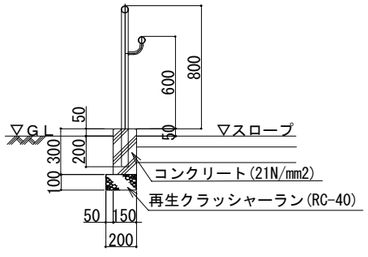
階段袖側面図 S=1/20



スロープ手摺



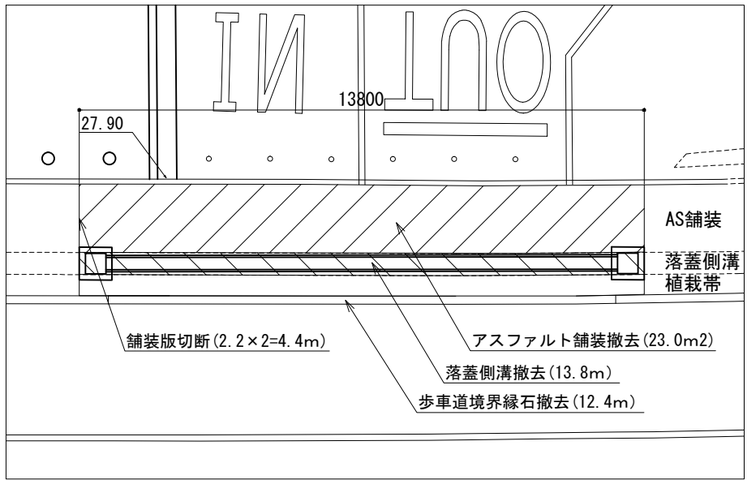
立面図 S=140



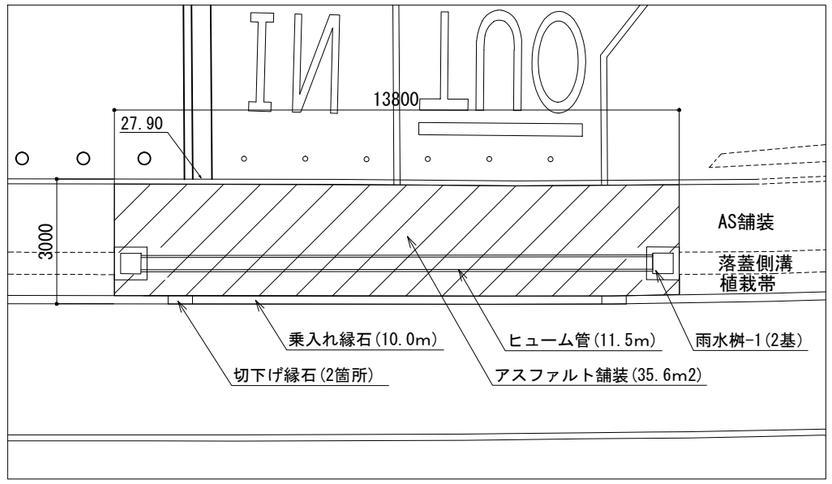
断面図 S=1/20

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者								法適合確認欄		検証者		飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	図面番号
			一級建築士		一級建築士		一級建築士				設備設計一級建築士					16779	G — 008
			第280187号		第336677号		第336801号				第5496号				施設構造図(4)(1工区-A・3工区)	縮尺 1/ 図示	日付 2019・11・15
			中川 崇		加野 正知		江口 聡一郎		林 沙希子		椎葉 夏子						

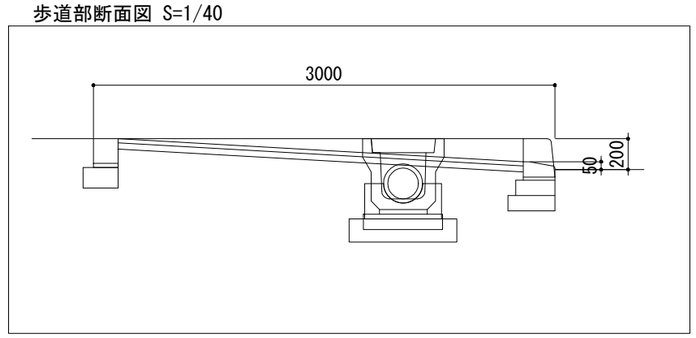
撤去平面図 S=1/150



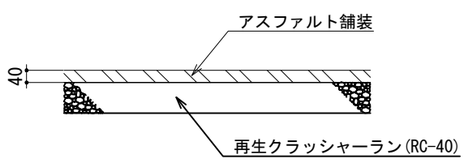
改良平面図 S=1/150



歩道部断面図 S=1/40

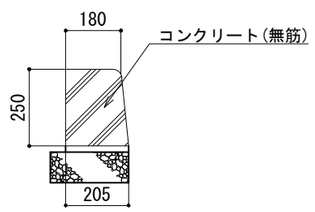


アスファルト舗装撤去　A1:1/10　A3:1/20



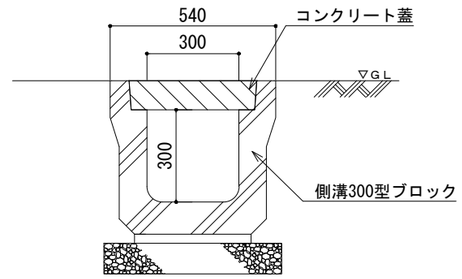
断面図

歩車道境界縁石撤去　A1:1/10　A3:1/20



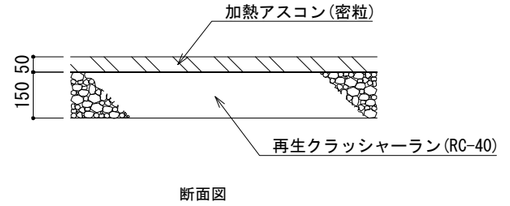
断面図

落蓋側溝撤去　A1:1/10　A3:1/20



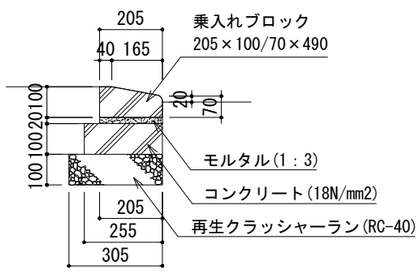
断面図

アスファルト舗装　A1:1/10　A3:1/20



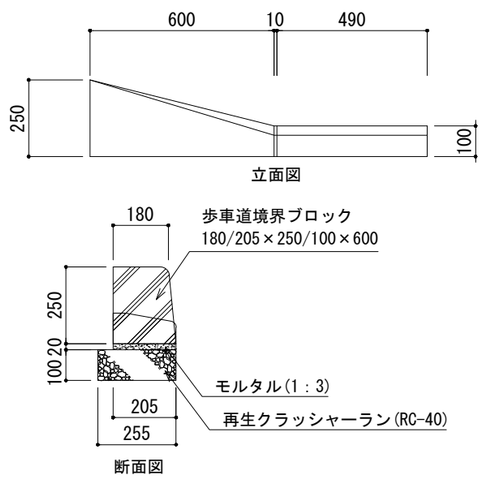
断面図

乗入れ縁石　A1:1/10　A3:1/20



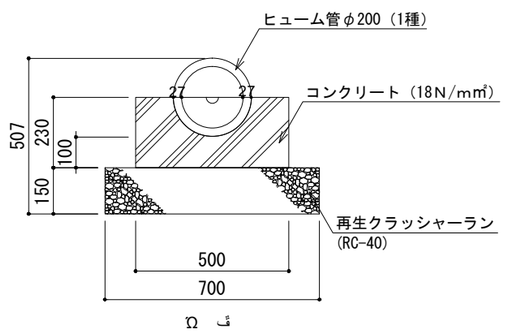
断面図

切下げ縁石　A1:1/10　A3:1/20



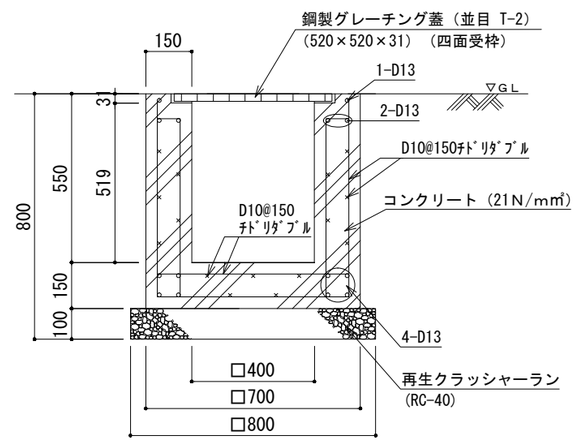
断面図

ヒューム管（コンクリート180° 巻）　A1:1/10　A3:1/20



Ω ق

雨水桝-1　A1:1/10　A3:1/20



断面図

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計書号 16779	図面番号 G — 009
第一駐車場入口部歩道改良図	縮尺 1/ 現示	日付 2019・11・15

	階段①
扉幅	800mm以上
幅員	1,200mm以上
蹴上	170 mm
踏面	260 mm
手摺	1,100mm以上
使用階	1階～2階

	階段②
扉幅	800mm以上
幅員	1,200mm以上
蹴上	150/170 mm
踏面	260 mm
手摺	1,100mm以上
使用階	1階～PH階

	階段③
扉幅	－ mm
幅員	1,200mm以上
蹴上	192 mm
踏面	280 mm
手摺	1,100mm以上
使用階	1階～2階

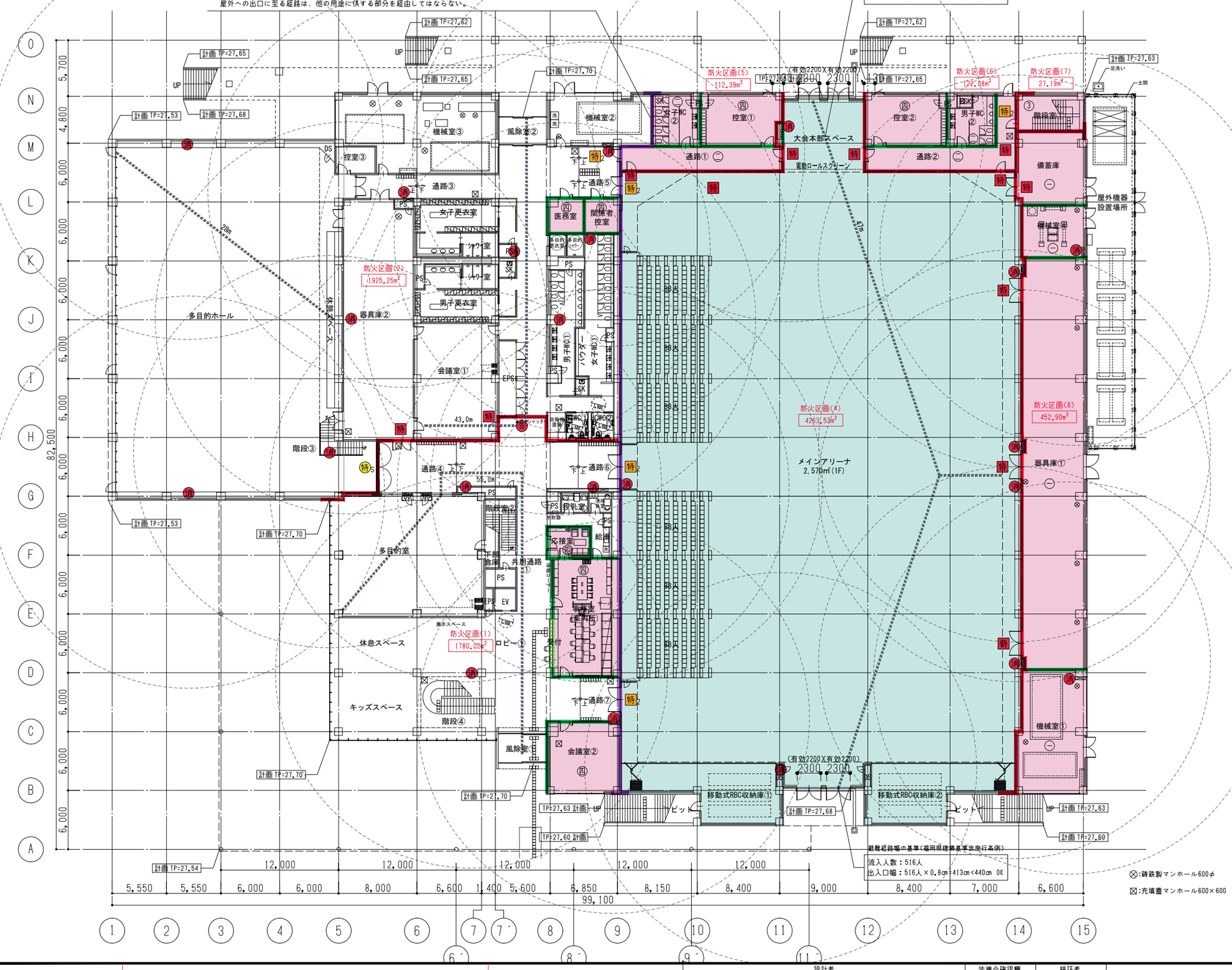
	階段④
扉幅	－ mm
幅員	1,400mm以上
蹴上	162mm以下
踏面	300 mm
手摺	1,100mm以上
使用階	1階～2階

	外階段(北)
扉幅	－ mm
幅員	2750 mm
蹴上	172 mm以下
踏面	260 mm
手摺	1,100mm以上
使用階	1階～2階

	外階段(南)
扉幅	－ mm
幅員	2,900 mm
蹴上	167 mm
踏面	260 mm
手摺	1,100mm以上
使用階	1階～2階

福岡県建築基準法施行条例
（劇場等の避難階における避難経路）
第九条の四　劇場等の直通階段の避難階における出口の幅は、当該階段の幅の十分の八以上としなければならない。
2　前項の階段が、避難階において建物内部に面している場合においては、避難階における当該階段の出口から屋外への出口に至る経路は、他の用途に供する部分を経由してはならない。

避難経路幅の基準（福岡県建築基準法施行条例）
流入人数：516人
出入口幅：516人×0.8cm=413cm<440cm　OK



凡　例	
	防火区画　（兼防煙区画）
	防火区画【異種用途区画】（兼防煙区画）
	防火区画　（消防指導）
	防火上主要な間仕切壁　（令114条）
	防煙区画　（間仕切壁）
	防煙区画　（垂れ壁　H= 500以上）
	延焼のおそれのある部分
特	特定防火設備（常時閉鎖扉、令112条第14項）
特2	特定防火設備（常時閉鎖扉、令112条第14項第二号適合）
特S	特定防火設備（随時閉鎖式扉・煙感知器連動、令112条第14項）
特2	特定防火設備（随時閉鎖式扉・煙感知器連動、令112条第14項第二号適合）
防	防火設備（常時閉鎖扉、令112条第14項第二号適合）
防S	防火設備（随時閉鎖式扉・煙感知器連動、令112条第14項第二号適合）
防T	防火設備（随時閉鎖式扉・熱感知器連動、令112条第14項）
防	防火設備
網	防火設備　（網入ガラス）
不	自閉式 不燃扉
特	特定防火設備（随時閉鎖式シャッター、煙・熱感知器連動、令112条第14項第二号適合）
特	特定防火設備（随時閉鎖式シャッター、煙感知器連動、令112条第14項）
消	壁掛ABC10型消火器（共通）歩行距離20m以内に1ヶ所設置
一	Ｈ１２ 告示１４３６号第四号ニの（一）（防火区画）
二	Ｈ１２ 告示１４３６号第四号ニの（二）（防煙区画）
三	Ｈ１２ 告示１４３６号第四号ニの（三）（防火区画）
四	Ｈ１２ 告示１４３６号第四号ニの（四）（不燃区画）
③	令126条の2第1項3号
	非常用進入口（非常用進入口にかわる窓）
	自然排煙開口
00.00m(00.00m)	避難距離（重複距離）
	機械排煙区域
	自然排煙区域
㎡	防火・防煙区画面積
00m	移動円滑化経路

※防火区画が接する外壁はすべて900mm以上の耐火の壁とする（開口部なし）＜例112条10項＞



※換気計算は、設備図による
※PS、EPSについては、水平区画とする（スラブあり）
※区間50mごとに車いす回転可能な場所を設けることとする。
※多機能トイレにはサイン設置することとする。
※移動円滑化経路は通路幅1200mm以上、開口800mm以上とする。
※区間50mごとに車いす回転可能な場所を設けることとする。
※移動円滑化経路は通路幅1200mm以上、開口800mm以上とする。
※屋外階段の踊場は、高さ3ｍ以内毎に設置することとする。
※階段手すり高さは、全て1100mm以上とする。
※多目的ホール、多目的室、及び会議室①は、体育館及び準備室として利用する。
※階段室①は観客用の階段として使用しない。
※観覧席最下段の通路は避難経路として使用しない。
※ｷｯｽﾞｽﾍﾟｰｽについてはﾛﾋﾞｰと一体的に利用する形態とする。

⊗:鋳鉄製マンホール600φ
⊠:充填置マンホール600×600

| | | |

	階段①
扉幅	800mm以上
幅員	1,200mm以上
蹴上	170 mm
踏面	260 mm
手摺	1,100mm以上
使用階	1階～2階

	階段②
扉幅	800mm以上
幅員	1,200mm以上
蹴上	150/170 mm
踏面	260 mm
手摺	1,100mm以上
使用階	1階～PH階

	階段③
扉幅	－ mm
幅員	1,200mm以上
蹴上	192 mm
踏面	280 mm
手摺	1,100mm以上
使用階	1階～2階

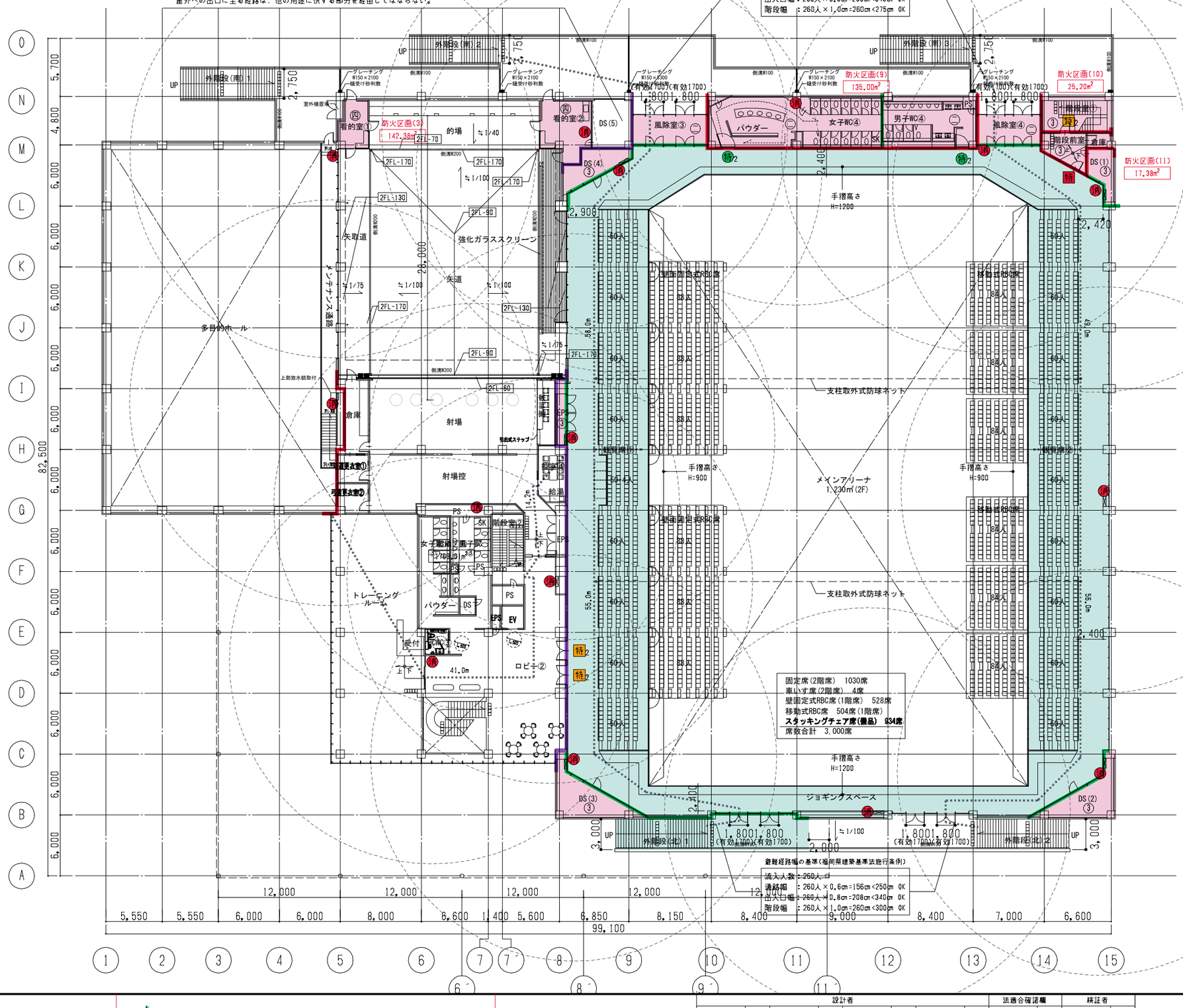
	階段④
扉幅	－ mm
幅員	1,400mm以上
蹴上	162mm以下
踏面	300 mm
手摺	1,100mm以上
使用階	1階～2階

	外階段(北)
扉幅	－ mm
幅員	2750 mm
蹴上	172 mm以下
踏面	260 mm
手摺	1,100mm以上
使用階	1階～2階

	外階段(南)
扉幅	－ mm
幅員	2,900 mm
蹴上	167 mm
踏面	260 mm
手摺	1,100mm以上
使用階	1階～2階

福岡県建築基準法施行条例
（劇場等の避難階における避難経路）
第九条の四　劇場等の直通階段の避難階における出口の幅は、当該階段の幅の十分の八以上としなければならない。
2　前項の階段が、避難階において建物内部に面している場合においては、避難階における当該階段の出口から屋外への出口に至る経路は、他の用途に供する部分を経由してはならない。

避難経路幅の基準（福岡県建築基準法施行条例）
流入人数：260人
通路幅　：260人×0.6cm=156cm<242cm　OK
出入口幅：260人×0.8cm=208cm<340cm　OK
階段幅　：260人×1.0cm=260cm<275cm　OK



凡　例	
	防火区画　（兼防煙区画）
	防火区画【異種用途区画】（兼防煙区画）
	防火区画　（消防指導）
	防火上主要な間仕切壁　（令114条）
	防煙区画　（間仕切壁）
	防煙区画　（垂れ壁　H= 500以上）
	延焼のおそれのある部分
特	特定防火設備（常時閉鎖扉、令112条第14項）
特2	特定防火設備（常時閉鎖扉、令112条第14項第二号適合）
特S	特定防火設備（随時閉鎖式扉・煙感知器連動、令112条第14項）
特2	特定防火設備（随時閉鎖式扉・煙感知器連動、令112条第14項第二号適合）
防	防火設備（常時閉鎖扉、令112条第14項第二号適合）
防S	防火設備（随時閉鎖式扉・煙感知器連動、令112条第14項第二号適合）
防↑	防火設備（随時閉鎖式扉・熱感知器連動、令112条第14項）
防	防火設備
網	防火設備　（網入ガラス）
不	自閉式 不燃扉
遮	特定防火設備（随時閉鎖式シャッター、煙・熱感知器連動、令112条第14項第二号適合）
遮	特定防火設備（随時閉鎖式シャッター、煙感知器連動、令112条第14項）
消	壁掛 ABC10型消火器（共通）歩行距離20m以内に1ヶ所設置
一	H12 告示1436号第四号ニの（一）（防火区画）
二	H12 告示1436号第四号ニの（二）（防煙区画）
三	H12 告示1436号第四号ニの（三）（防火区画）
四	H12 告示1436号第四号ニの（四）（不燃区画）
③	令126条の2第1項3号
	非常用進入口（非常用進入口にかわる窓）
	自然排煙開口
00.00m(00.00m)	避難距離（重複距離）
	機械排煙区域
	自然排煙区域
㎡	防火・防煙区画面積
00m	移動円滑化経路

＊防火区画が接する外壁はすべて900mm以上の耐火の壁とする（開口部なし）＜例112条10項＞

＊換気計算は、設備図による
＊PS,EPSについては、水平区画とする（スラブあり）
＊区画50mごとに車いす回転可能な場所を設けることとする。
＊多機能トイレにはサイン設置することとする。
＊移動円滑化経路は通路幅1200mm以上、開口800mm以上とする。
＊区画50mごとに車いす回転可能な場所を設けることとする。
＊移動円滑化経路は通路幅1200mm以上、開口800mm以上とする。
＊屋外階段の踊場は、高さ3m以内毎に設置することとする。
＊階段手すり高さは、全て1100mm以上とする。
＊多目的ホール、多目的室、及び会議室①は、体育館及び準備室として利用する。
＊階段室①は観客用の階段として使用しない。
＊観覧席最下段の通路は避難経路として使用しない。
＊キッズスペースについてはロビー②と一体的に利用する形態とする。

避難経路幅の基準（福岡県建築基準法施行条例）
流入人数：260人
通路幅　：260人×0.6cm=156cm<250cm　OK
出入口幅：260人×0.8cm=208cm<340cm　OK
階段幅　：260人×1.0cm=260cm<300cm　OK

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants
株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第336677号 加野 正知	一級建築士 第336801号 江口 聡一郎	林 沙希子	設備設計一級建築士 第5496号 椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事

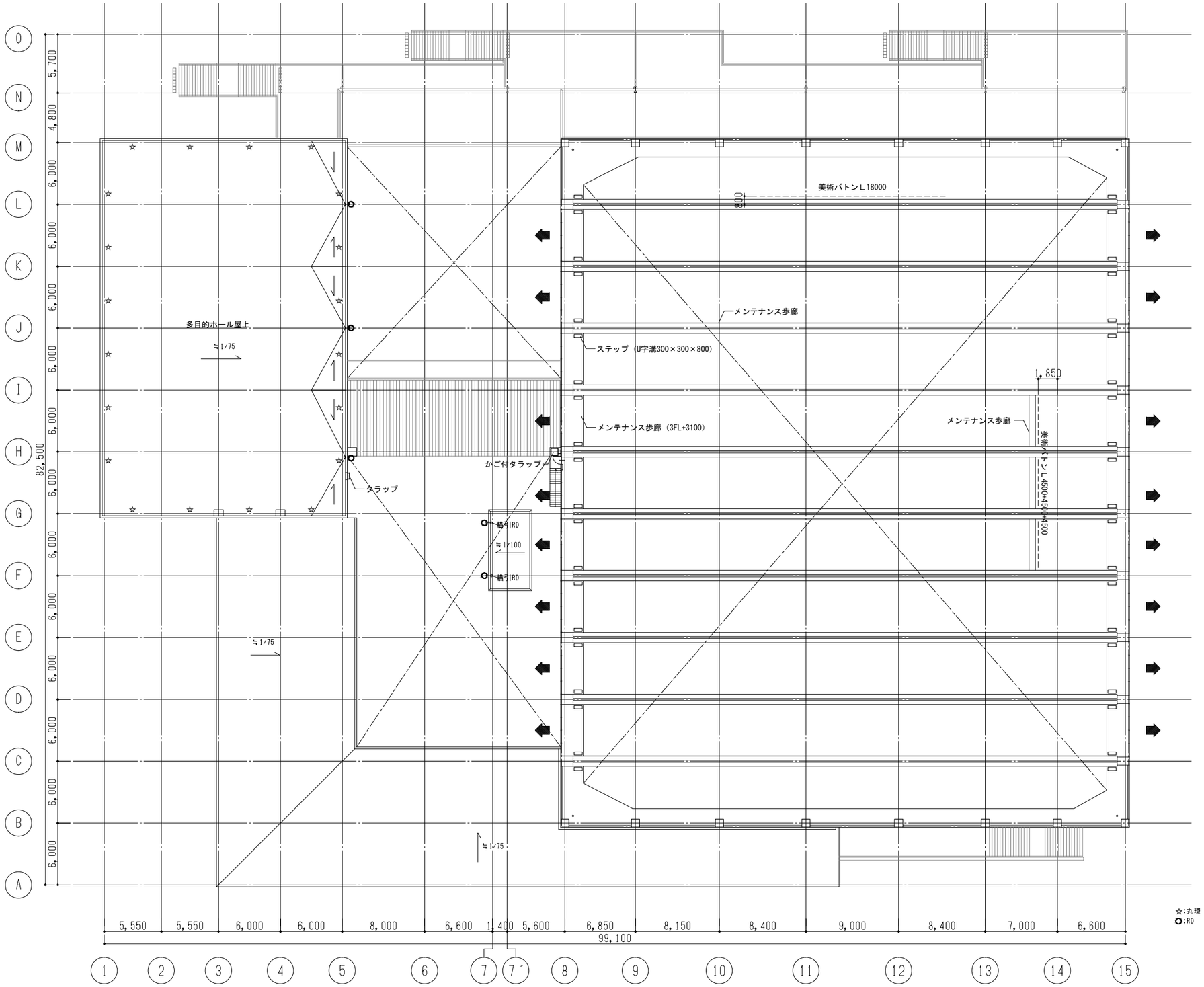
2階法チェック図

設計番号 16779

図面番号 L － 002

縮尺 1/A1:200 A3:400

日付 2019・11・15



凡　例

	防火区画　（兼防煙区画）
	防火区画【異種用途区画】（兼防煙区画）
	防火区画　（消防指導）
	防火上主要な間仕切壁　（令114条）
	防煙区画　（間仕切壁）
	防煙区画　（垂れ壁　H= 500以上）
	延焼のおそれのある部分
特	特定防火設備 （常時閉鎖扉、令112条第14項）
特2	特定防火設備 （常時閉鎖扉、令112条第14項第二号適合）
特S	特定防火設備 （随時閉鎖式扉・煙感知器連動、令112条第14項）
特2	特定防火設備 （随時閉鎖式扉・煙感知器連動、令112条第14項第二号適合）
防	防火設備 （常時閉鎖扉、令112条第14項第二号適合）
防S	防火設備 （随時閉鎖式扉・煙感知器連動、令112条第14項第二号適合）
防T	防火設備 （随時閉鎖式扉・熱感知器連動、令112条第14項）
防	防火設備
網	防火設備　（網入ガラス）
不	自閉式 不燃扉
S	特定防火設備 （随時閉鎖式シャッター、煙・熱感知器連動、令112条第14項第二号適合）
S	特定防火設備 （随時閉鎖式シャッター、煙感知器連動、令112条第14項）
消	壁掛ABC10型消火器（共通） 歩行距離20m以内に1ヶ所設置
一	Ｈ１２ 告示１４３６号第四号ニの（一） （防火区画）
二	Ｈ１２ 告示１４３６号第四号ニの（二） （防煙区画）
三	Ｈ１２ 告示１４３６号第四号ニの（三） （防火区画）
四	Ｈ１２ 告示１４３６号第四号ニの（四） （不燃区画）
3	令126条の2第1項3号
	非常用進入口 （非常用進入口にかわる窓）
	自然排煙開口
00.0m(00.0m)	避難距離（重複距離）
	機械排煙区域
	自然排煙区域
㎡	防火・防煙区画面積
00m	移動円滑化経路

※防火区画が接する外壁はすべて900mm以上の耐火の壁とする
（開口部なし）＜例112条10項＞



※換気計算は、設備図による
※PS,EPSについては、水平区画とする（スラブあり）
※区画50mごとに車いす回転可能な場所を設けることとする。
※多機能トイレにはサイン設置することとする。
※移動円滑化経路は通路幅1200mm以上、開口800mm以上とする。
※区画50mごとに車いす回転可能な場所を設けることとする。
※移動円滑化経路は通路幅1200mm以上、開口800mm以上とする。
※屋外階段の踊場は、高さ３ｍ以内毎に設置することとする。
※階段手すり高さは、全て1100mm以上とする。
※多目的ホール、多目的室、及び会議室①は、体育館及び
準備室として利用する。
※階段室①は観客用の階段として使用しない。
※観覧席最下段の通路は避難経路として使用しない。
※ｷｯｽﾞｽﾍﾟｰｽについてはﾛﾋﾞｰと一体的に利用する形態とする。

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士		設備設計一級建築士	
第280187号	第336677号	第336801号		第5496号	
中川 崇	加野 正知	江口 聡一郎	林　沙希子	椎葉 夏子	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	16779	図面番号 L — 003
トラス階法チェック図	縮尺 1/A1:200 A3:400	日付 2019・11・15	

物件名称：飯塚市新体育館等建設工事

一連番号	図面番号	図面名称	一連番号	図面番号	図面名称	一連番号	図面番号	図面名称	一連番号	図面番号	図面名称
01	S－000	図面リスト（構造）	51	S－050	柱リスト（3）	101			151		
02	S－001	建築工事特記仕様書（10）＜構造関係（1）＞	52	S－051	梁リスト（1）	102			152		
03	S－002	建築工事特記仕様書（11）＜構造関係（2）＞	53	S－052	梁リスト（2）	103			153		
04	S－003	建築工事特記仕様書（12）＜構造関係（追補）＞	54	S－053	梁リスト（3）	104			154		
05	S－004	鉄筋コンクリート造配筋規準図（1）	55	S－054	小梁・床版リスト	105			155		
06	S－005	鉄筋コンクリート造配筋規準図（2）	56	S－055	壁リスト	106			156		
07	S－006	鉄筋コンクリート造配筋規準図（3）	57	S－056	鉄骨部材リスト（1）	107			157		
08	S－007	鉄骨鉄筋コンクリート造規準図	58	S－057	鉄骨部材リスト（2）	108			158		
09	S－008	鉄骨規準図	59	S－058	鉄骨部材リスト（3）	109			159		
10	S－009	溶接規準図（1）	60	S－059	トラス部材リスト	110			160		
11	S－010	溶接規準図（2）	61	S－060	雑配筋詳細図	111			161		
12	S－011	配筋規準図（補足1）	62	S－061	雑詳細図（1）	112			162		
13	S－012	配筋規準図（補足2）	63	S－062	雑詳細図（2）	113			163		
14	S－013	配筋規準図（鉄骨造）	64	S－063	雑詳細図（3）	114			164		
15	S－014	梁貫通補強規準図	65	S－064	雑詳細図（4）	115			165		
16	S－015	浅層改良仕様書	66	S－065	雑詳細図（5）	116			166		
17	S－016	ソイルセメントコラム地業特記仕様書	67	S－066	E通架構配筋詳細図	117			167		
18	S－017	ボーリング柱状図（1）	68	S－067	階段配筋詳細図（1）	118			168		
19	S－018	ボーリング柱状図（2）	69	S－068	階段配筋詳細図（2）	119			169		
20	S－019	ボーリング柱状図（3）	70	S－069	トラス詳細図	120			170		
21	S－020	ボーリング柱状図（4）	71	S－070	鉄骨架構詳細図	121			171		
22	S－021	想定土質断面図	72	S－071	鉄骨階段詳細図	122			172		
23	S－022	支持層想定図	73	S－072	車いす駐車場詳細図	123			173		
24	S－023	基礎・コラム伏図	74	S－073	スリーブ位置図（1）	124			174		
25	S－024	ピット伏図	75	S－074	スリーブ位置図（2）	125			175		
26	S－025	1階床伏図	76	S－075	スリーブ位置図（3）	126			176		
27	S－026	2階床伏図	77	S－076	スリーブ補強リスト（1）	127			177		
28	S－027	PH階（3階）床伏図	78	S－077	スリーブ補強リスト（2）	128			178		
29	S－028	鉄骨屋根伏図・トラス階伏図	79	S－078	スリーブ補強リスト（3）	129			179		
30	S－029	メインアリーナ鉄骨屋根伏図	80	S－079	スリーブ補強リスト（4）	130			180		
31	S－030	軸組図（1）	81	S－080	ＭＡＸウェブレン標準仕様書	131			181		
32	S－031	軸組図（2）	82	S－081	鉄骨仮設図（1）	132			182		
33	S－032	軸組図（3）	83	S－082	鉄骨仮設図（2）	133			183		
34	S－033	軸組図（4）	84	S－083	デッキプレート標準仕様書	134			184		
35	S－034	軸組図（5）	85	S－084	案内図	135			185		
36	S－035	軸組図（6）	86			136			186		
37	S－036	軸組図（7）	87			137			187		
38	S－037	軸組図（8）	88			138			188		
39	S－038	軸組図（9）	89			139			189		
40	S－039	軸組図（10）	90			140			190		
41	S－040	基礎リスト	91			141			191		
42	S－041	耐圧版リスト	92			142			192		
43	S－042	マットスラブリスト	93			143			193		
44	S－043	基礎梁リスト（1）	94			144			194		
45	S－044	基礎梁リスト（2）	95			145			195		
46	S－045	基礎梁リスト（3）	96			146			196		
47	S－046	基礎小梁リスト	97			147			197		
48	S－047	柱芯線図	98			148			198		
49	S－048	柱リスト（1）	99			149			199		
50	S－049	柱リスト（2）	100			150			200		

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	配島 健夫	小林 紗矢	髙橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事

図面リスト（構造）

設計番号 16779

図面番号 S－000

縮尺 1／A1: NS A3: NS

日付 2019・11・15

1998.12.02 制定　2000.07.14 改訂

20191115 建築ビューロー登録7版

建 築 工 事 特 記 仕 様 書 〈構 造 関 係〉

1．共通仕様
a．図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、全て社団法人公共建築協会編「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款に適合した工事共通仕様書平成28年版(建築工事編)」（以下「共仕」という）による。
b．国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成28年版は以下「標準仕様書」という。

2．特記事項
a．項目は番号に○印の付いたものを適用する。
b．特記事項は○印の付いたものを適用する。⊙印の付かない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と◎印の付いた場合は共に適用する。
c．特記事項に記載の（ ． ． ）内の表示番号は「共仕」の当該項目、当該図及び当該表を示す。
特記事項に記載の（標仕参 ． ）内の標仕参は「標準仕様書（参考資料）各部配筋参考図」の当該項目、当該図及び当該表を示す。
d．特記事項で「図示」とあるは、設計図面記載事項を意味する。
e．「標準仕様書（参考資料）各部配筋参考図」は設計図書の一部とし、標準仕様書・同監理指針と同様の扱いとする。
f．特記事項で「配筋規準図」とあるは、「鉄筋コンクリート造配筋規準図（１）（２）（３）」の記載事項を意味する。

3．適用基準等
※ 営繕工事写真撮影要領（平成24年版）・同解説 工事写真の撮り方 建築編

4．設計図書の優先順位
設計図書に関する優先順位は次による。
1）質疑応答書及び補足訂正追加事項
2）工事見積要項書（現場説明書及び現場説明に対する議事録を含む。）
3）特記仕様書
4）３）以外の図面
5）設計説明書，設計品質伝達書
6）「共仕」，「標準仕様書（参考資料）各部配筋参考図」，
国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築工事監理指針平成31年版

項 目	特 記 事 項

4章 地 業 工 事

1．試験
試験杭 ※行う（本杭兼用） ・行わない (4.2.2)
位置，本数 ※図示 ・監理者の指示（ 本）
載荷試験 ・杭の載荷試験 試験種別（・鉛直 ・水平 ） (4.2.3)
（ ）箇所 最大荷重（ ）kN
⊙地盤の平板載荷試験 （ 7 ）箇所 最大荷重（ 150 kN/m² (4.2.4)
試験を行う深さ GL-（ 1.0 ）m 試験地盤（ 礫混じり砂 ）
載荷試験方法
※ 載荷試験方法は（社）地盤工学会の各種載荷試験方法に準拠し、試験位置は図示による。
・図示

2．既製コンクリート杭地業
施工管理技術者 ※基礎施工士（既製杭施工管理技士） ・
材料 (4.3.2)
・鉄筋コンクリート杭（JIS A 5372）
・プレストレストコンクリート杭（・A種 ・B種 ・C種 ・ 種 ※図示）
・JIS A 5373 ・BCJ評定品
・外殻鋼管付コンクリート杭（鋼板厚 ・t= mm ※図示）
・JIS A 5372（Ⅱ類） ・BCJ評定品
・鉄筋又は平鋼にて補強された杭（CPRC杭 ・ 種 ※図示）
・JIS A 5373 ・BCJ評定品
・拡径断面を有する遠心高強度プレストレスコンクリート杭（・ 種 ※図示）
・JIS A 5373 ・BCJ評定品
注）BCJ：(一財)日本建築センター
杭の寸法，継手の箇所数 ※図示 ・
先端部形状 ・閉そく型 ※開放型 ・

工法 (4.3.1)
・打込み工法 (4.3.3)
・打撃（直打ち）工法
・プレボーリング併用打撃工法
（プレボーリング深さ GL- m・掘削径 φ）
ハンマー種別 ・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー
ヤットコの使用 ・ mまで可とする
長期設計支持力 ・ kN/本 ※図示
支持地盤 ・
支持力の算定方法 ※Fノ(5S+0.1) ・
・埋込工法，特定埋込杭工法 (4.3.4)(4.3.5)
・セメントミルク工法 根固め液の範囲（・全長 ・杭頭－ mまで）
・中堀り打撃工法
・プレボーリング拡大根固め工法（大臣認定工法）
杭周固定液の使用（・する ・しない）
・中堀り拡大根固め工法（大臣認定工法）
・
試し掘り ・行う（ 箇所） ・行わない
ヤットコの使用 ・ mまで可とする
支持層位置の確認 ※積分電流計 ・電流計
長期設計支持力 ・ kN/本 ※図示
支持地盤 ・

継手 ・アーク溶接による溶接継手 ・無溶接継手（大臣認定品） (4.3.6)
杭頭の処理 ※図示 ・ (4.3.7)
杭の精度 ※水平方向の位置ずれは 100mm 以下 ・図示
高支持力杭（α>250）の試験杭に含む管理項目
※積分電流計による支持層位置および根入れ深さ
※拡大ヘッドの拡翼
※施工管理装置（自動記録）と実施施工との整合
・根固め部の未固結試料採取試験

3．鋼杭地業
材料 (4.4.2)
・鋼管杭（JIS A 5525） ・SKK400 ・SKK490
・H形鋼杭（JIS A 5526） ・SHK400 ・SHK490M
先端部形状 ※開放型 ・図示
先端部補強 ※補強は図4.4.1及び表4.4.2による ・図示

4．場所打ちコンクリート杭地業
継手 (4.4.5)
杭の現場継手の工法 鋼管杭 ※JIS A 5525 による ・図示
H形鋼杭 ※図示
溶接部の確認 ※4.3.6(e)に準じて行う ・

工法 (4.4.3)
・打込み工法（打撃工法）
ハンマー種別 ・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー
プレボーリング ・行う（深さ GL- m） ・行わない
ヤットコの使用 ・ mまで可とする
長期設計支持力 ・ kN/本 ※図示
支持地盤 ・
支持力の算定方法 ※Fノ(5S+0.1) ・
・特定埋込杭工法 (4.4.4)
・プレボーリング拡大根固め工法（大臣認定工法）
・中堀拡大根固め工法（大臣認定工法）
・
試し掘り ・行う（ 箇所） ・行わない
ヤットコの使用 ・ mまで可とする
支持層位置の確認 ※積分電流計 ・電流計
長期設計支持力 ・ kN/本 ※図示
支持地盤 ・

杭頭の処理 ※図示 ・ (4.4.6)
杭の精度 ※水平方向の位置ずれは 100mm 以下 ・図示
高支持力杭（α>250）の試験杭に含む管理項目は 2．既製コンクリート杭地業による。

施工管理技術者 ※基礎施工士 ・ (4.5.2)
材料その他 (4.5.3)
鉄筋仕様 ※5章鉄筋工事の項目 1．材料による ・図示
帯筋 ※各部配筋参考図2.2④丸形 ・図示
継手 組み立てた鉄筋の節ごとの継手
※5章鉄筋工事の項目 2．加工及び組立による ・図示
鉄筋かごの補強 ※4.5.3（Ⅱ）による
但し、主筋と補強リングとの接合部は原則無溶接工法とする
・図示
鉄筋のかぶり厚さ ※100mm ・図示
セメントの種類 ※高炉セメントB種
・普通ポルトランドセメント（JIS R 5210）
混和材料 ※6章コンクリート工事の項目 1．コンクリートの種類及び品質による
・図示
コンクリートの設計基準強度
※6章コンクリート工事の項目 1．コンクリートの種類及び品質による
・図示
構造体強度補正値(S) ※3 N/mm² ・ N/mm²
コンクリートの種別及び余盛り (表4.5.1)
・A種（無水掘り） ※B種（左記以外）

種別	水セメント比の最大値(%)	所要スランプ(cm)	粗骨材の最大寸法(mm)	単位セメント量の最小値(kg/m³)	余盛り(mm)
A種	60	21	25(20)	310	500以上
B種	55			340	800以上

工法 (4.5.1)(4.5.4)(4.5.5)
・アースドリル工法 ・リバース工法 ・オールケーシング工法（ベノト工法）
・アースドリル拡底工法（(財)日本建築センター評定工法）
・リバース拡底工法（(財)日本建築センター評定工法）
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び拡底工法（(財)日本建築センター評定工法）
・
安定液の種類 ※ポリマー系 ・ベントナイト系
一次スライム処理
底浚い完了後スライムクリーナー等により孔底のスライムを吸い上げ、良液の安定液と置換する。
安定液の砂分を掘削中は5%以下、コンクリート打込み前は1%以下とする。
超音波孔壁測定 ・行う（ 本） ・行わない
スライム沈殿試験 ・行う ・行わない
オールケーシング工法 孔内の水張り ・行う ・行わない
長期設計支持力 ・ kN/本 ※図示
支持地盤 ・
杭の精度 ※水平方向の位置ずれは 100mm以下 ・図示

5．砂利，砂及び捨コンクリート地業等
砂利及び砂地業 (4.6.2)(4.6.3)
厚さ（mm） ※60（材料：砕石 ⊙施工範囲：基礎、基礎梁）
・図示 土間コンクリートの下

捨コンクリート地業 (4.6.4)
コンクリートの材料 ※高炉セメントB種 ・普通ポルトランドセメント
粗骨材の最大寸法 ※25mm以下 ・
設計基準強度（N/mm²） ※18 ・
スランプ（cm） ※15 ・18
厚さ（mm） ※50 ・

6．置換コンクリート地業（ラップルコンクリート地業）
形状 ※図示 ・
支持地盤の長期設計支持力度 ⊙500 kN/m²
支持地盤 ⊙岩盤
コンクリートの仕様 設計基準強度（N/mm²） ※18 ・
スランプ（cm） ※15 ・18
型枠使用の有無 ※無し ・有り

7．地盤改良（セメント系固化材を用いた工法による改良）
工法 ⊙浅層混合処理工法 適用範囲、仕様は図示による
⊙深層混合処理工法 適用範囲、仕様は図示による
品質管理は「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針(2002)」による。
六価クロム溶出試験
セメント及びセメント系固化材を用いる場合は、六価クロム溶出試験を実施する。
試験方法は国土交通省「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）」による。

8．直接基礎
支持地盤の長期設計支持力度 ⊙500 kN/m²
支持地盤 ⊙岩盤

9．杭頭補強筋
鉄筋 ・開先付き異形棒鋼（・WSD390 ・WSD490） ・図示
溶接接合 ・7章鉄骨工事の項目11．杭頭補強筋の溶接接合（開先付き異形棒鋼）による
・図示
溶接施工試験 ・行う（試験内容：溶接施工，検査，引張試験） ・行わない

5章 鉄 筋 工 事

1．材料
鉄筋の種類 (5.2.1)

規 格	種類の記号	径（mm）
※JIS G 3112 鉄筋コンクリート用棒鋼	◎SD295A	D10～D16
	◎SD345	D19～D25
・建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたせん断補強筋	◎SD390	D29～
	⊙KSS785	S13

溶接金網（JIS G 3551溶接金網及び鉄筋格子） (5.2.2)
鉄線の径及び網目の形状，寸法 ※D10-100x100 ⊙φ6-100x100 ・
使用部位 ※防水層の保護コンクリート ※配管埋設用コンクリート
・

2．加工及び組立
鉄筋の継手 (5.3.4)
柱及び梁：D19以上 ※ガス圧接 ・重ね継手
D16以下 ※重ね継手 ・
重ね継手の長さ
・図示
⊙40d（軽量コンクリートの場合は50d）と2-9-1（重ね継手及び定着の長さ）の表のうち大きい値とする
その他：※重ね継手 ・
場所打ちコンクリート杭 ※重ね継手
機械式継手及び溶接継手（建設省告示1463号に適合するもの） (5.5.2)(5.5.3)
・使用する ※使用しない
（適用箇所 鉄筋相互のあき ）
機械式継手は「鉄筋継手工事標準仕様書・機械式継手工事」（2017年）
（（公社）日本鉄筋継手協会）による
溶接継手は「鉄筋継手工事標準仕様書・溶接継手工事」（2017年）
（（公社）日本鉄筋継手協会）による
隣合う継手の位置 ※表5.3.3による
・柱，梁の主筋を同一箇所に設ける（適用箇所 ）

鉄筋の定着 (5.3.4)
※鉄筋コンクリート造配筋規準図(1)の 2-9(重ね継手及び定着の長さ)による
・図示
鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (表5.3.6)(5.3.5)
鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ
※表5.3.6による
・軽量コンクリートの場合のかぶり厚さ（適用箇所 かぶり厚さ（mm） ）
・耐久性上不利な箇所のかぶり厚さ （適用箇所 かぶり厚さ（mm） ）
スペーサー
側面のかぶり ・鋼製 ⊙コンクリート製 ・合成樹脂製
スラブ ※鋼製 ・コンクリート製 ・合成樹脂製
その他 ※鋼製 ※コンクリート製 ・合成樹脂製
・鋼製 ・コンクリート製 ・合成樹脂製
※鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。
※コンクリート製のスペーサーは、打ち込まれるコンクリートと同等以上の強度を有するものとする。
各部の配筋 (標仕参 各部配筋)(5.3.7)
梁せいが1.5m以上の場合の腹筋及び幅止め筋 ※図示 ・ (標仕参3.2)
基礎梁梁成1.5m以上の場合のスペーサー ⊙鉄筋加工 ⊙既製品
柱の帯筋組立の形 ※H形 ・W－I形 ・SP形 ・丸形 (標仕参2.2)
柱の帯筋の割付け ※図示 ・5-3 帯筋の割付け
大梁のハンチの傾斜 ※図示 ・
壁梁の場合，腹筋の定着長さ及び重ね継手長さ
※定着長さL2，重ね継手長さL1 ・
コンセントボックスを壁に埋め込む場合の補強 ※図示 (標仕参4.4)
梁貫通補強 ⊙H形 ・MH型 ・M型 (標仕参7.1)(標仕参7.2)
⊙建設省技術評価又は（財）日本建築センター評価を受けたもの
（原則として無孔梁の終局せん断強度以上となる補強を行う）

3．ガス圧接
ガス圧接継手は「鉄筋継手工事標準仕様書・ガス圧接継手工事」（2017年） (5.4.1)
（（公社）日本鉄筋継手協会）による
圧接技能資格者 (5.4.2)
JIS Z 3881による技量及び（公社）日本鉄筋継手協会の技量資格を有する者
圧接完了後の試験 ※超音波探傷試験(※汎用探傷器・専用探傷器) ・引張試験 (5.4.9)
※外観試験
検査機関は（公社）日本鉄筋継手協会認定の優良鉄筋継手検査会社又は（社）CIW認定を受けた第三者機関とし、発注は建築元請業者の直発注，契約とする。
検査技術者は（公社）日本鉄筋継手協会の鉄筋継手部検査技術者（検査対象継手部に圧接継手部を含む者）で資格種別3種の資格者とする。
引張試験は原則として公的機関による。

6章 コ ン ク リ ー ト 工 事

1．コンクリートの種類及び品質
コンクリートの種類 (6.2.1)
※JIS A 5308 レディミクストコンクリート
・国土交通大臣の認定を受けたコンクリート（建築基準法第37条第二号）
コンクリートの気乾単位容積質量による種類 ※普通コンクリート ・軽量コンクリート
コンクリート仕様 (6.2.2,3,4)(6.3.1,2)(6.10.1)(6.14.1)

	使用区分	設計基準強度 Fc(N/mm²)	S (cm)	γ (kN/m³)	混和材料	備 考
構造体コンクリート	基礎・基礎梁～1階床	27	15	23	B	
	1階マットスラブ	24	15	23	B	メインアリーナ床
	3階(PH階)床・梁以下	27	18	23	G	
	3階(PH階)柱以上	24	18	23	B	
	設備基礎	21	15	23	B	
	外構	21	15	23	B	

混和材料	符号	名 称	符号	名 称	符号	名 称
	A	AE剤	D	防錆剤	G	高性能AE減水剤（I種）
	B	AE減水剤（I種）	E	防水材	H	AE減水剤・遅延形（I種）
	C	膨張材	F	流動化剤	I	下記による

混和材料I（種類 ） (6.3.1)
（使用方法 使用量 ）
レディーミクストコンクリートの類別 ※I類 ・II類 (表6.2.1)

2．コンクリートの材料
特殊な要求性能におけるコンクリート
・海塩粒子の影響を受けるおそれのある箇所、海水の作用を受ける箇所等におけるコンクリート
（適用箇所 措置 ）
・凍結融解作用を受けるおそれのある箇所におけるコンクリート
（適用箇所 措置 ）
・酸性土壌，硫酸塩及びその他の侵食性物質又は熱の作用を受ける箇所におけるコンクリート
（適用箇所 措置 ）
コンクリートの仕上がり (6.2.5)
コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容差，測定方法
許容差 ※表6.2.3による
測定方法 ・
セメントの種類 (表6.3.1)(6.3.1)

規格番号	規格名称	セメントの種類	使用部位
◎JIS R 5210	※普通ポルトランドセメント	——	※下記以外
	・ ポルトランドセメント		・
⊙JIS R 5211	高炉セメント	・A ⊙B ・C	・ラップルコンクリート
・JIS R 5212	シリカセメント	・A ・B ・C	・
・JIS R 5213	フライアッシュセメント	・A ・B ・C	・

注）高炉セメントB種又はフライアッシュセメントB種の品質は次による。
・高炉セメントB種の高炉スラグの混合比は40%以上とする。
・フライアッシュセメントB種のフライアッシュの混合比は15%以上とする。
・上記のベースセメントの混合比は、セメント製造業者のセメント試験成績表の値により確認する。
・
（使用部位 ）
・ポルトランドセメントでの低アルカリ系の使用(・する ※しない)
（使用部位 ）
骨材の種類
フェロニッケルスラグ細骨材，銅スラグ細骨材及び電気炉酸化スラグ骨材
・使用する( ) ※使用しない
再生骨材Hの使用 ・使用する( ) ※使用しない
骨材の品質
砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B
砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B
練混ぜ水 (6.4.2)
スラッジ水は原則使用しない
回収水は計画供用期間の級が長期，超長期の場合及び高強度コンクリートには使用しない

3．型枠
外部に面するコンクリートの打放し仕上げ（仕上塗材、塗装等の仕上げを行う場合を含む。）の打増し厚さ ※20mm ・図示 (6.8.2)
床コンクリート直均し仕上げの打増し厚さ ・無 ⊙10mm
支柱の最小存置期間 (6.8.5)
スラブ下，はり下 ※表6.8.3による
・ 日（片持梁、片持ちスラブ、長大スパン梁、大型スラブ）
・打設階の下階2層分の支柱は残しておく

4．試験
フレッシュコンクリートの試験 (6.9.2)
試料の採取場所 ※荷卸し地点 ・ポンプの筒先
試験 ※表6.9.1による ・
コンクリートの強度試験 ※行う ・行わない (6.9.3)
※表6.9.2による(※28日は原則として公的機関)
・

5．軽量コンクリート
常時土あるいは水に直接接する部分への使用 ※使用しない ・使用する (6.10.1)
軽量コンクリートの種類及び所要気乾単位容積質量は、1．コンクリートの種類及び品質による

6．寒中コンクリート
適用期間 ※JASS5による (6.11.1)
・ 月 日～ 月 日
初期養生を行う期間 ※コンクリートの圧縮強度が5N/mm²に達するまで (6.11.4)
・
試験 ※表6.11.1による(※28日は原則として公的機関) (6.11.6)
・

7．暑中コンクリート
適用期間 ※日平均気温の平年値が25℃を超える期間 (6.12.1)
・ 月 日～ 月 日
構造体強度補正値(S) ※6 N/mm² ・ N/mm² (6.12.2)

8．マスコンクリート
適用箇所 ・ (6.13.1)
セメントの種類 ・中庸熱ポルトランドセメント (6.13.2)
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・普通ポルトランドセメント
・
混和剤の種類 ※AE減水剤又は高性能AE減水剤 ・
混和材の種類 ※6.13.2(b)(2) ・
スランプ（cm） ※15 ・
調合強度を定める材令 ※28日 ・ 日 (6.13.5)

9．無筋コンクリート
適用箇所 ※防水層の保護コンクリート (6.14.1)
※配管埋設用コンクリート
・
設計基準強度（N/mm²） ※18 ・ ・
スランプ（cm） ※15 ・18 ・
粗骨材の最大寸法（mm） ※25mm以下 ・ (6.14.2)

10．高強度コンクリート
設計基準強度が36N/mm²を超える高強度コンクリートを使用する鉄筋コンクリート工事は建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事（2015）による。

第16版B 2019.02.08K

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants
株式会社 梓設計 九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者								法適合確認欄		検証者	
一級建築士		一級建築士		一級建築士		一級建築士		構造設計一級建築士			
第280187号		第312528号		第365088号		第138771号		第3038号		西田 修治	
中川 崇		酢島 健夫		小林 紗矢		高橋 敏夫		西田 修治			

飯塚市新体育館等建設工事	設計書号 16779	図面番号 S — 001
建築工事特記仕様書（10）＜構造関係（1）＞	縮尺 1/A1-A3-	日付 2019・11・15
		No

改訂：2016.09.01

7章　鉄骨工事

① 一般事項

鉄骨製作工場の加工能力等　(7.1.3)
※ 建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた（株）日本鉄骨評価センター及び（株）全国鉄骨評価機構（旧（社）全国鋼構工業協会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める（ Ｈ ）グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・

施工管理技術者　(7.1.3)(7.1.4)
鉄骨製作管理技術者の適用　※適用する　・適用しない

② 材料

鋼材の材質　※ＪＩＳ規格品（規格証明書付）・規格適合品（寸法、強度保証）　(7.2.1)

種類の記号	適用箇所	備考
・SN400A		
⊙SN400B	大梁、柱	
・SN400C		
⊙SN490B	柱、大梁、ベースプレート、内ダイヤフラム	
⊙SN490C	外ダイヤフラム	
⊙SS400	小梁、間柱等	
⊙SM490A	小梁	
・SM490B		
⊙SSC400	母屋、胴縁	
⊙STK400	メインアリーナ斜材	
・STK490		
・STKN400B		
⊙STKN490B	大底主柱	
⊙STKR400	間柱	
・STKR490		
・BCP235		材質 SN400・B ・C（内ダイアフラムの取付く仕口部）
・BCP325		材質 SN490・B ・C（内ダイアフラムの取付く仕口部）
・BCR295		材質 SN400B

注）40mmを超える板厚の場合にTMCP鋼とする鋼種
・SN490B
・SN490C
・

高力ボルト　(7.2.2)
㊙トルシア形高力ボルトセットの種類
２種（S10T、建築基準法に基づき認定を受けたもの）
・ＪＩＳ形高力ボルト（ＪＩＳ Ｂ 1186）セットの種類
２種（F10T）
⊙溶融亜鉛めっき高力ボルトセットの種類
１種（F8T相当、建築基準法に基づき認定を受けたもの）

普通ボルト　ボルト及びナット　※表7.2.3による　・　(7.2.3)
座金　※7.2.3(d)による　・

アンカーボルト　(7.2.4)
アンカーボルトの材質　構造用　※SNR400B　・SNR490B　⊙図示
建方用　※SS400　・　・
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格，ねじの等級の規格及び仕上げの程度
構造用　※ＪＩＳＢ1220 構造用転造両ねじアンカーボルトセット（アンカーボルト・ナット・座金のセット）
・
建方用　※表7.2.3による　・

溶接材料　※7.2.5(a)(b)による　・　(7.2.5)

ターンバックル（ＪＩＳ Ａ 5540）　(7.2.6)
ターンバックル胴　※割枠式　・パイプ式
ターンバックルボルト　※羽子板ボルト　・アイボルト　・両ねじボルト

デッキプレート　(6.8.3)(7.2.7)

種別	材質	めっき付着量
・キーストンプレート	※SDP1T　・SDP1TG	・Z12　・
・デッキプレート	・SDP1T　※SDP1TG ・SDP2	※Z12　・Z27
・合成スラブ用デッキプレート（建築基準法に基づき指定又は認定を受けたもの）	・SDP1T ・SDP2　※SDP2G	※Z12　・Z27
⊙床型枠用鋼製デッキプレート	※SGCC　・SGHC	※Z12　・Z27

頭付スタッド　※ＪＩＳ 1198　・

柱底均しモルタル　(7.2.9)
※ 無収縮モルタル　仕様（※ 製造所の仕様による　・　）
圧縮強度（⊙45 N/mm² 以上　）
品質は表7.2.6を確保する
・評定及び大臣認定を取得した露出半剛接柱脚は取得条件を満足する仕様及び強度とする

板厚方向引張力を受ける鋼板の試験　(7.2.10)
※ 行わない
・行う（ＪＩＳＧ0901による等級 ・Ｘ ・Ｙ ，適用部材　）

③ 工作一般

鉄骨の製作精度　※JASS6付則6鉄骨精度検査基準付表1～4による　(7.3.3)
仮組　※行わない　・行う（適用箇所　）　(7.3.10)

④ 高力ボルト接合 普通ボルト接合

高力ボルト
すべり係数試験　※行わない　・行う（試験方法等　）　(7.4.2)
締付け施工法の確認（現場軸力導入試験）　※行う　・行わない　(7.4.5)
締付け　(7.4.7)
ナット回転法でボルト長さが呼び径の５倍を超える場合の回転量　・図示
普通ボルト
母屋・胴縁の取り付けボルトは、ばね座金、皿座金を用いる

⑤ 溶接接合

施工管理技術者
溶接施工管理技術者の資格（WES 8103）　※１級　・２級　(7.6.2)

技量付加試験　工場溶接（鋼製，代替エンドタブ）　※行う　・行わない　(7.6.3)
現場溶接（鋼製，代替エンドタブ）　※行う　・行わない
ロボット溶接（オペレーター）　※行う　・行わない
鋼管溶接　※行う　・行わない
※ＡＷ検定協議会の検定試験に合格した溶接技能者は、原則として技量付加試験を免除する。但し、520 N/mm² 級を超える鋼種及び特殊鋼は原則として試験を行う。

技量付加試験方法　※ＡＷ検定協議会仕様による
・ＪＩＳＺ3801 ・ＪＩＳＺ3841 ・

スカラップの形状　※ノンスカラップ工法　・改良型スカラップ工法

エンドタブ　※鋼製エンドタブ　~~・代替エンドタブ~~
鋼製エンドタブの切除　※行う（適用箇所 **柱梁仕口部**　）　(7.6.7)
・行わない

溶接姿勢　※代替エンドタブを用いた場合の溶接姿勢は下向きとする
・

被覆アーク溶接棒　※溶接棒が被覆アーク溶接による場合は低水素系の溶接棒に統一する
・

ワイヤの使用区分

溶接条件		適用鋼材の引張強さ		
入熱（kJ/cm）	パス間温度（℃）	400 N/mm² 級	490 N/mm² 級	520 N/mm² 級 540 N/mm² 級
15～20	≦150	※YGW11 ・	※YGW18 ・	※YGW18 ・
15～30	≦250	※YGW11 ・	※YGW18 ・	※YGW18 ・
15～40	≦350	※YGW18 ・	※YGW18 ・	

各鋼材のB及びC材の溶接においては、入熱（溶接電流・電圧，溶接速度），パス間温度の管理値及び検査（確認）方法等を施工計画書に明記する。
冷間成形角形鋼管の溶接入熱とパス間温度は、日本建築センター「 2018 年版 冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」表5.4.2 及び表5.5.2 による。
冷間成形角形鋼管における溶接材料
400N/mm² 級の冷間成形角形鋼管に対しては 490 N/mm² 級の溶接材料
490N/mm² 級の冷間成形角形鋼管に対しては 540 N/mm² 級以上の溶接材料

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験及び外観検査　(7.6.11)
※ 行う　・行わない
原則として鉄骨製作工場の社内検査は 100% とする

完全溶込み溶接部以外の外観検査
※ 行う　・行わない　(7.6.11)

抜取率 抜取方法			
工場溶接の場合	※ 平均出検品質限界（AOQL）　※ 4.0%　・2.5%		
	※ 検査水準　※ 第６水準　・		
	・完全溶込み溶接部の超音波探傷試験及び外観検査		%
	・完全溶込み溶接部以外の外観検査		%
	・		
工事現場溶接の場合	※ 全数（100%）		
	・完全溶込み溶接部の超音波探傷試験及び外観検査		%
	・完全溶込み溶接部以外の外観検査		%
	・		
	・		

検査機関　※（社）日本溶接協会認定業者による第三者機関とし、発注は建築元請業者とし、次の各社との直発注，契約とする
※（株）ジャスト、エンジニアリングサービス（株）・
※ **監理者の承認した検査機関**
検査技術者　※ＪＩＳＺ2305・超音波探傷試験レベル３（UT3）及び（社）日本非破壊検査協会・超音波検査３種（UT3）の資格者
第三者機関　検査項目　※超音波探傷試験　※外観検査　※開先検査
※柱・梁仕口部のダイアフラムとフランジのずれ，突合せ継手の食違い，アンダーカットの確認
検査回数　・　1回／1節 ⊙ 3回

溶接施工試験　・行う（試験方法　）
※行わない
溶接接合部の写真の提出　※行う　溶接前の開先形状（スケール添え）ならびに代表的な箇所及び特殊な箇所の溶接写真（位置は監理者の指示による）
・行わない
放射線透過試験及びエンドタブを用いたマクロ試験　※行わない　・行う

⑥ スタッド溶接及びデッキプレート溶接

スタッド溶接技能者の技量付加試験　・行う　※行わない　(7.7.2)
スタッド溶接技能者（下向き，横向き）
スタッド協会「スタッド溶接技能者技術検定試験」の専門級Ｂ級の資格者

デッキプレートの溶接方法　※アークスポット溶接　・すみ肉溶接　(7.7.8)
・プラグ溶接　・焼抜栓溶接　・点溶接
合成スラブ用デッキプレートの溶接方法　※焼抜き栓溶接　・

⑦ 錆止め塗装

錆止め塗料及び素地ごしらえの種別　(表18.2.2)(表18.3.1)(表18.3.3)(7.8.3)

錆止め塗料				素地ごしらえ	適用箇所
塗料種別	規格番号	種類	塗り種別	種別	
A種	※ＪＩＳＫ5674	※1種	※A種	※B種	※屋外
	・	・	・	・	・
A種	※ＪＩＳＫ5674	※1種	※A種	※C種	※屋内露出部分（見え掛り部分）
	・	・	・	・	※屋内被覆部分（見え隠れ部分）
B種	※ＪＩＳＫ5674	※2種	※B種	※C種	・
	・	・	・	・	・

塗り回数　※工場２回　・工場１回　現場１回　(18.3.3)

耐火被覆部の錆止め塗装　(7.8.3)
※行う（範囲：耐火板張り工法，耐火材巻付け工法，合成工法の無耐火被覆部）
（錆止め塗料の種別 ※Ａ種 ・Ｂ種　）
・行わない
SRC造の鋼製スリーブの内面 ※Ａ種 ・Ｂ種　(7.8.3)

⑧ 工事現場施工

施工管理技術者　⊙鉄骨工事管理責任者　(7.10.1)
⊙建築高力ボルト接合管理技術者
⊙溶融亜鉛めっき高力ボルト接合施工技術者
・

建方等の精度　※ JASS6 付則6鉄骨精度検査基準付表5による　(7.10.2)
・

アンカーボルト　⊙構造用　⊙建方用　(7.10.3)
構造用アンカーボルトの設置は、施工計画書及び施工要領書を作成し監理者の承認を受けること。

アンカーボルトの保持及び埋込みの工法　(表7.10.1)(7.10.3)

種別	適用箇所
㊙Ａ種	**主柱**
⊙Ｂ種	**建方用鉄骨、鉄骨小梁のRC取付部**
・Ｃ種	

柱底均しモルタル工法　(表7.10.2)(7.10.3)

種別	適用箇所
㊙Ａ種	**主柱**
⊙Ｂ種	**建方用鉄骨、鉄骨小梁のRC取付部**

⑨ 溶融亜鉛めっき工法

亜鉛めっきの種別　(表14.2.2)(7.12.3)(14.2.3)

材料		種別	適用箇所
⊙形鋼、鋼板類	t≧6mm	※Ａ種 ・	**屋外露出鉄骨部**
	3.2≦t<6mm	※Ｂ種 ・	**屋外露出鉄骨部**
	1.6≦t<3.2mm	※Ｃ種 ・	**屋外露出鉄骨部**
⊙普通ボルト，ナット類，アンカーボルト等		※Ｃ種 ・	**屋外露出鉄骨部**
・			

溶融亜鉛めっき作業は ＪＩＳ Ｈ 8641（溶融亜鉛めっき）によるＪＩＳ表示認定工場で行う。　(7.12.3)
めっき作業は ＪＩＳ Ｈ 9124（溶融亜鉛めっき作業指針）により、めっきの品質等は ＪＩＳ Ｈ 8641（溶融亜鉛めっき）による。
酸化物の除去方法　※ 酸洗い　・ブラスト法
※ 鋳物の場合はブラスト法による
溶融亜鉛めっき高力ボルト接合部の摩擦面の処理　(7.12.4)
※ ブラスト処理　（すべり耐力試験　・行う　※行わない）
・りん酸塩処理　（すべり耐力試験　※行う）

JASS6・9.4 めっき部材の矯正，検査および補修による検査
寸法精度検査、外観検査、付着量検査　※行う　・行わない

冷間成形角形鋼管に溶融亜鉛めっきを行う場合の鋼材は、高炉材とする。

⑩ 食い違い・ずれ及びアンダーカットの検査・補強

※ 突合せ継手の食い違い、仕口のずれ及びアンダーカットの検査方法 及び補修・補強方法は、独立行政法人建築研究所監修「突合せ継手食違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。
・

11. 杭頭補強筋の溶接接合（開先付き異形鉄筋）

溶接形状
鉄筋コンクリート造配筋規準図（3） 18 杭頭補強筋の接合（開先付き異形棒鋼）による。
溶接方法、溶接材料及び溶接技能者

溶接方法	ガスシールドアーク半自動溶接		被覆アーク溶接	
鋼管又は鉄骨の材質(N/mm²)	400	490	400	490
鋼管又は鉄骨等のF値(N/mm²)	235	325	235	325
溶接材料	JIS Z 3313 T49J0T1-1CA-UH5		JIS Z 3211 E4916	
溶接技能者	JIS Z 3841 SA-2V，SA-3V以上又は AW検定工事現場溶接Ⅱ類以上		JIS Z 3801 A-2V，A-3V以上又は AW検定工事現場溶接Ⅱ類以上	
溶接姿勢	立向き（V）		立向き（V）	

溶接部の外観検査
溶接後は外観検査を行う。検査項目は、溶接長さ，のど厚寸法，余盛寸法，アンダーカット，ピート不整及びオーバーラップ，割れ とする。

建築工事指定業者及びメーカーリスト

工事区分	材料・施工部門	製造所名及び施工業者名
地業工事	既製コンクリート杭	（社）コンクリートパイル建設技術協会の会員会社
	場所打コンクリート杭	（社）日本基礎建設協会の会員会社
鉄筋工事	鉄筋	
	ガス圧接	（公社）日本鉄筋継手協会の認定会社
	溶接継手	（公社）日本鉄筋継手協会の認定会社
	継手部検査	（公社）日本鉄筋継手協会認定の優良鉄筋継手検査会社又は（社）ＣＩＷ 認定事業者
コンクリート工事	セメント	
	混和剤	
	混和材	
鉄骨工事	鉄骨製作工場	
	鋼材	
	高力ボルト	
	溶接材料	
	デッキプレート	
	無収縮モルタル	

建築工事特記仕様書 〈構造関係追加補足〉

本特記仕様書＜構造関係追加補足＞は、図面及び特記仕様書の追加補足事項を記載している。

特記事項（追加補足）の適用は、
- ⊙ 印の付いたものを適用する。
- ⊙ 印の付かない場合は※印のついたものを適用する。
- ⊙ 印と※印の付いた場合は共に適用する。

特記事項（補足）

1. 建物概要等

建物概要

		備考
工事名称	飯塚市新体育館等建設工事	
工事場所	福岡県飯塚市	
延べ面積	（　　）m^2　意匠図による	
建築面積	（　　）m^2　意匠図による	
階数	地上（ 2 ）階 地下（ － ）階　塔屋（ － ）階	
高さ関係	高さ（　）m　意匠図による 軒高（　）m　意匠図による	
工事種別	⊙新築　・増築　・改築　・移転 ・大規模の修繕　・大規模の模様替	

構造概要

			備考
構造種別	地上	（ 3 ）階（　）造	地下　（　）階（　）造
		（　）階（　）造	地下　（　）階（　）造
架構形式	X方向	（　　耐震壁付きラーメン　　）構造	
	Y方向	（　　耐震壁付きラーメン　　）構造	
耐震構造方式	⊙耐震構造　・制振構造		
基礎方式	⊙直接基礎 ◎連続 ⊙べた　・　（　　） （・場所打ちコンクリート杭　・既製コンクリート杭 ・鋼管杭　・　深層地盤改良コラム		適用箇所は図示による（　　）
耐震安全性の分類	⊙Ⅱ類(1.25)　・Ⅲ類(1.0)		

2. 構造設計条件等

計算方法

	X方向	Y方向	備　考
許容応力度計算（令第82条各号＋令第82条の4）【ルート1】			X方向、Y方向の適用する計算法に○を記載する
許容応力度等計算　【ルート2】			
保有水平耐力計算　【ルート3】	○	○	
限界耐力計算			
その他の計算法（官庁施設の総合耐震診断・改修基準による）			
告示免震（平成12年建設省告示第2009号第6）			
特別な検証法（時刻歴応答解析による）			
大臣認定（認定番号　　）			
指定性能評価機関名（　　）			
評価　・高層評価　・免震評価　・その他			
（評価番号　　）			

外力等

				備考
地震力	設計用一次固有周期	（　0.317　）秒		
	地震地域係数(Z)	Z=・1.0 ⊙0.8 ・0.7		
	地盤の種別	第（ 2 ）種地盤　Tc=（ 0.6 ）秒		
	標準せん断力係数	X方向	Y方向	
	一次設計	C_0=（ 0.2 ）	C_0=（ 0.2 ）	
	二次設計	C_0=（ 1.0 ）	C_0=（ 1.0 ）	
風圧力(施行令第87条)	地表面粗度区分	基準風速(V_0)	速度圧(q)	Ⅱ類
	・Ⅰ・Ⅱ⊙Ⅲ・Ⅳ	（ 34 ）m/s	1530（Z=1.15増）	
風圧力(施行令第82条の4)	地表面粗度区分	基準風速(V_0)	平均速度圧(q)	
	・Ⅰ・Ⅱ⊙Ⅲ・Ⅳ	（ 34 ）m/s		
積雪荷重	区域	・多雪区域　⊙多雪区域以外		
	設計垂直積雪量	（ 23 ）cm		
	単位荷重	（ 20 ）N/m^2/cm		
	垂直積雪量の低減	・低減する　⊙低減しない		

項目	特記事項（追加補足事項）

4章　地業工事

3節　既製コンクリート杭地業

4.3.1 適用範囲 4.3.3 打込み工法 4.3.4 セメントミルク工法 4.3.5 特定埋込工法	a.工法　・打込み工法　・セメントミルク工法　※特定埋込工法 b.支持力係数　・　$\alpha \geq$（　　）、$\beta Ns \geq$（　　）、$\gamma qu \geq$（　　） 拡大掘削率　ω=　　拡大掘削長=　　m ※　図示
4.3.2 材料	a.ネガティブフリクション対策杭頭の処理　※不要　・要（図示）
4.3.7 杭頭の処理	a.杭頭の処理　※レベル止め（切断しない） ・切りそろえ（主筋などの処理方法及び補強方法は、図示による） b.所定の切断面より100mm上がり程度の位置に鋼製バンドを締付け、杭頭切断機を用いて切断したのち、バンドを取り外し、所定の高さまで、はつりのみを用い、手はつりを行う。 c.杭頭の中詰め材量　※コンクリート（基礎コンクリートと同仕様）　・

5章　鉄筋工事

2節　材料

5.2.2 溶接金網

a.溶接金網及び鉄筋格子の網目の形状、寸法及び鉄線の径

種類	記号	使用部位	形状・寸法・径
溶接金網	WFP	※防水層の保護コンクリート ・	※6φ-100×100 ・
鉄筋格子	BFSD295A	・ ・	・ ・

3節　架構及び組立

5.3.3 組立

a.段取り筋ユニット工法（建築技術性能証明取得）を用いる場合
隣り合う継手の位置　（※同一箇所に設ける事は不可　・　　）
段取り筋に鉄筋の最少かぶり厚さの範囲まで防錆処理を施すこと

5.3.7 各部配筋

a.基礎梁主筋の継手、定着及び余長
・（a）基礎梁にスラブが付かない独立基礎
※（b）基礎梁にスラブが付く独立基礎
・（c）連続基礎及びべた基礎
b.打継部補強
※ 梁　　腹筋を含めて2-D10@200以下になるようにD10を配付ける
※ スラブ　スラブ上端筋と同径同間隔シングルを上端に配筋する
c.構造スリット
※ スリット材は耐火性能及び防水性能を有するものとする

5節　機械式継手及び溶接継手

5.5.2 機械式継手
5.5.3 溶接継手

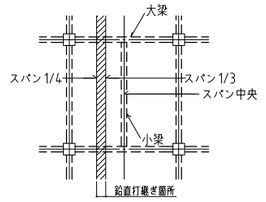
a.鉄筋の継手（平成12年建設省告示第1463号（建築基準法関係告示））を用いる場合
※建築工事特記仕様書（10）＜構造関係（1）＞　・　印の付いた場合に適用する。
技量付加試験（施工前試験）※行う　・
技量付加試験方法 ※「鉄筋継手工事標準仕様書　溶接継手工事（2017年）」に準拠する。
外観検査　抜取率、抜取方法　（※全数検査　・　　）
超音波探傷検査　抜取率、抜取方法　（※全数検査　・　　）
検査会社は優良鉄筋継手部検査会社又は登録鉄筋継手部検査会社とする。
隣り合う継手の位置　溶接継手　（※同一箇所に設ける事は不可　・　　）
機械式継手（・同一箇所に設ける事は不可　※図示　　）

6章　コンクリート工事

6節　コンクリートの工事現場内運搬並びに打込み及び締固め

6.6.3 打継ぎ

※ 鉛直打継ぎ位置は下図標準とする。



8節　型枠

6.8.4 型枠の加工及び組立

a.内部に面するコンクリートの打放し仕上げ（仕上塗材、塗装等の仕上げを行う場合を含む）の打増し厚さ　※10 mm　・図示
b.床スラブ下端面の打増し
対象範囲 ※普通型枠使用範囲（・適用する ※適用しない）
※デッキプレート　（・適用する ※適用しない）
c.外部庇下端面の打増し　※適用する　・適用しない
d.階段段裏の打増し　※適用する　・適用しない

9節　試験

6.9.2 フレッシュコンクリートの試験

※ コンクリートの単位水量測定は下記要領で必ず実施する事。
1.コンクリートの単位水量測定
(1)単位水量の測定は、150m^3に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(2)(iii)による。
(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
1)測定した単位水量が、配合計画書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/m^3の範囲にある場合はそのまま打設する。
2)測定した単位水量が設計値±15を超え±20kg/m^3の範囲にある場合は、その運搬車の生コンは打設してよいが、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示する。その後、設計値±15kg/m^3以内に安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
3)測定した単位水量が設計値±20kg/m^3を超える場合は、その運搬車は打込まずに持ち帰らせるとともに、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示する。その後、単位水量が設計値±20kg/m^3以内になるまで全運搬車の測定を行い、更に設計値±15kg/m^3以内に安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4)単位水量管理についての記録を書面(配合計画書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。
(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

6.9.3 コンクリートの強度試験の総則

※ 1日の普通コンクリートの打込み量に応じて下表を参考に供試体を採取する事。

表　供試体の採取例（普通ポルトランドセメントの場合）

試験の回数	コンクリート打込み量	試料を採取する運搬車	供試体の組 調合管理強度の管理試験用（標準養生）（個）	構造体コンクリートの圧縮強度推定用（現場水中養生：材齢28日）（個）	構造体コンクリートの圧縮強度推定用（現場封かん養生：材齢28日を超え91日以内）（個）(注)2	型枠取外し時期決定用圧縮強度推定（現場水中養生）（個）	1運搬車からの供試体採取合計（/台）
1	0～150m^3	0～50m^3間に1台	－	1	1	1	3
		51～100m^3間に1台	3	1	1	1	6
		101～150m^3間に1台	－	1	1	1	3
	1回の試験の供試体の数（個/回）		3	3	3	3	12
2	151m^3～270m^3（注）1	151～190m^3間に1台	－	1	1	1	3
		191～230m^3間に1台	3	1	1	1	6
		231～270m^3間に1台	－	1	1	1	3
	1回の試験の供試体の数（個/回）		3	3	3	3	12

（注）1.試料を採取する運搬車は、適切な間隔をあける（50m^3に一台程度）。ただし、150m^3を超える量がわずかな場合には、150m^3前後の量でほぼ等量にするとよい。
2.「標仕」6.9.5(a)(1)を満足しないと想定される場合。

13節　マスコンクリート

6.13.1 一般事項
6.13.2 材料及び調合

a.マスコンクリートの適用箇所が特記されている場合には、温度ひび割れの制御方法を定めた上で、施工計画に反映させること。

7章　鉄骨工事

2節　材料

7.2.3 普通ボルト

a.ボルト及びナットの材料等　※　表7.2.3による　・
b.ボルトの戻止め　※　緩み防止用特殊ナットを使用する　・

6節　溶接接合

7.6.9 仮設用部材の取付け等
7.6.9 関連工事による溶接

a.仮設材の取付は、工場にて溶接する事。
ディテールが未定等のため工場で溶接ができない場合は、捨てプレート等を工場で取付けて置き、仮設部材をその捨てプレートに現場溶接で取付けることができる。
b.完全溶込み溶接部の開先側の溶接部から、板厚の6倍の範囲内には、仮設部材を取付けてはならない。
c.本溶接（角溶接など）のビードに重ならない位置とする。

7.6.7 溶接施工
7.6.11 溶接部の試験

a.代替エンドタブの取り扱い
建築工事特記仕様書（11）＜構造関係（2）＞　・　印の付いた場合に適用する。
※本工事で代替エンドタブを用いる場合は、AW検定（代替エンドタブ）の技量試験を追加する。また、試験に合格した場合でも工場溶接姿勢は下向きとする
※超音波探傷検査方法は、「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説　付則2」及び「建築鉄骨梁端溶接部の超音波探傷検査指針JSS Ⅳ 08-2008」による。
b.鉄骨工事検査
第三者機関の検査項目の補足
※「鉄骨製作要領書類の内容確認（鉄骨製作要領書、現場施工要領書、各種試験要領書」、「材料検査の立会」、「工場製作中間検査」の確認も行うものとする。
c.溶接ビードの見え掛り部のグラインダー掛け
※行わない　・行う（適用部位：図示　仕上り程度：母材板厚と同じ厚さにフラット）

10節　工事現場施工

7.10.5 建方

※建方方法の選定
建方は、組立順序、建方中の構造体の補強の要否等について、十分検討した計画とする。
特に、仮支柱支持方式、吊上げ・押上げ方式（リフトアップ・プッシュアップ方式）等の施工方法を選定した場合には、施工プロセスを反映した施工段階解析を行い計測、管理をすること。

第1版 2018.08.14K

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants
株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	酒島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S — 003	
建築工事特記仕様書（１２）＜構造関係（追補）＞	縮尺 1/A1-A3-	日付 2019.11.15	No

1　適用範囲

(a)本配筋規準図は、鉄筋コンクリート造（鉄骨鉄筋コンクリート造を含む）における鉄筋の加工，組立の一般的な基準とする。
(b)本配筋規準図以外については設計図書及び監理者の指示による。
(c)本配筋規準図で「図示」とあるのは、設計図面記載事項を意味する。
(d)本配筋規準図で「特記」とあるのは、「建築工事特記仕様書　＜構造関係＞」の記載事項を意味する。
(e)本配筋規準図は、設計図面の一部とする。

2-1　鉄筋の断面表示

異形	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
記号	・	×	ø	●	○	⊙	⊠	◎	⊠	●

2-2　加工及び組立（一般事項）

(a)鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。
(b)異形鉄筋の径(d)は、呼び名に用いた数値とする。
(c)有害な曲がり又は損傷等のある鉄筋は使用してはならない。
(d)コイル状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。
(e)鉄筋には、点付け溶接，アークストライク等を行ってはならない。

2-3　加　工

(a)鉄筋の切断は、シャーカッター又はのこによって行う。ただし、やむを得ない場合は、ガス切断とすることができる。
(b)異形鉄筋の末端部のフックは、2-7（フック）による。
(c)鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、2-8（鉄筋の折曲げ）による。

2-4　組　立

(a)鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー，吊金物等を使用して行う。
なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として鋼製とする。また鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に、防錆処理を行ったものとする。
(b)前に打ち込まれたコンクリートから出ている鉄筋の位置を修正する場合は、鉄筋を急に曲げることなく、できるだけ長い距離で修正する。

2-5　継　手

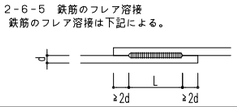
(a)鉄筋の継手は、重ね継手，ガス圧接継手又は機械式継手，溶接継手（建設省告示1463号に適合するもの）とし、適用は特記による。
(b)鉄筋の溶接は、アーク溶接とし、共仕7.6.5〔部材の組立〕（d）及び7.6.7〔溶接施工〕(a)による。又、溶接技能者は、共仕7.6.3〔技能資格者〕に準じ、工事に相応した技量を有する者とする。
(c)重ね継手及び定着の長さは、2-9（重ね継手及び定着長さ）による。
(d)隣り合う継手の位置は、2-10（隣り合う継手の位置）による。
(e)溶接金網、スパイラル筋の継手及び定着は、それぞれ2-11（溶接金網の継手及び定着）、2-12（スパイラル筋の継手及び定着）による。

2-6　溶　接

2-6-1　溶接材料の種類
溶接棒，ワイヤ及びフラックスの種類は下表により、母材の種類，寸法及び溶接条件に相応したものを選定する。

種　類	規格番号	規　格　名　称
被覆アーク溶接棒	JIS Z 3211	軟鋼，高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒
ガスシールドアーク溶接用ワイヤ	JIS Z 3312	軟鋼，高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ
セルフシールドアーク溶接用ワイヤ	JIS Z 3313	軟鋼，高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ

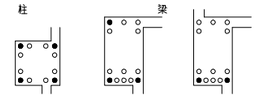
2-6-2　材料の取扱い
溶接材料は、丁寧に取扱い、被覆材のはく脱，汚損，変質，吸湿，著しい錆のあるもの等は使用しない。吸湿の疑いがあるものは、その種類に応じた乾燥条件で乾燥する。
2-6-3　溶接技能者
(a)溶接技能者は、工事に相応した次に示す試験等により（社）日本溶接協会が検定した技量資格を有する者とする。
(1) 炭素鋼の手溶接の場合は、JIS Z 3801(手溶接技術検定における試験方法及び判定基準)
(2) 炭素鋼の半自動溶接の場合は、JIS Z 3841(半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準)
(3) 組立溶接の場合は、上記(1)又は(2)の基本級以上とする。
(b)溶接技能者の技量に疑いを生じた場合は、工事に相応した試験を行い、その適否を判定し、監理者の承認を受ける。
2-6-4　溶接施工
(a)溶接機とその付属用具は、溶接条件に適した構造及び機能を有し、安全に良好な溶接が行えるものとする。
(b)溶接部は、有害な欠陥のないもので、表面は、できるだけ滑らかなものとする。
(c)溶接順序は、溶接による変形及び拘束が少なくなるように定める。
(d)材質，材厚、気温などを考慮のうえ、必要に応じて適切な溶接条件となるよう予熱を行う。
(e)溶接に支障となるスラグ及び溶接完了後のスラグは入念に除去する。
(f)著しいスパッタ及び塗装下地となる部分のスパッタは、除去する。
(g)アークストライクは行わない。ただし、アークストライクを起こした場合は、鋼材表面を平滑に仕上げる。
2-6-5　鉄筋のフレア溶接
鉄筋のフレア溶接は下記による。



dは鉄筋の呼び径

2-7　フック

異形鉄筋の末端部には、下記の場合にフックをつける。
(1) 柱の四隅にある主筋（●）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。
(2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（●）にある場合。
ただし、基礎梁を除く。
(3) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。
(4) 杭基礎のペース筋。
(5) 帯筋，あばら筋及び幅止め筋。



2-8　鉄筋の折曲げ

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は下記による。

末端部

折曲げ角度	折曲げ図	すべてのコンクリート 折曲げ内法直径(D) SD295A SD295B SD345 D16以下	すべてのコンクリート 折曲げ内法直径(D) SD295A SD295B SD345 D19～D38	すべてのコンクリート 折曲げ内法直径(D) SD390 D10～D38	使用箇所
180°	d, D≧4d, 4d以上	3d以上	4d以上	5d以上	柱・梁の主筋 杭基礎のペース筋
135°	d, D≧6d, 6d以上	3d以上	4d以上	5d以上	あばら筋，帯筋，スパイラル筋
90°	d, D≧8d, 8d以上	3d以上	4d以上	5d以上	T形及びL形の梁のあばら筋
135°及び90°(幅止め筋)	d, D≧4d, 4d以上	3d以上	4d以上	5d以上	90° 135° 幅止め筋

中間部

折曲げ角度	折曲げ図	すべてのコンクリート 折曲げ内法直径(D) SD295A SD295B SD345 SD390 D16以下	D19～D25	D29～D38	使用箇所
90°以下	d, D	3d以上	4d以上	——	あばら筋，帯筋，スパイラル筋
	d, D	4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

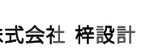
2-9　重ね継手及び定着の長さ

2-9-1　重ね継手及び定着の長さ
重ね継手及び定着の長さは下表による。
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(a)柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の継手の長さは、特記による。
耐力壁の鉄筋の継手の場合、特記がなければ、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と下表の重ね継手長さのうち大きい値とする。
(b)(a)以外の鉄筋の重ね継手の長さは、下表による。
Fcが18N/mm²の場合の、L_1，L_2，L_{1h} 及び L_{2h} は、下表のFcが21の場合の値に5dを加えたものとする。

重ね継手の長さと定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	フックなし（直線定着の長さ） L_1	L_2	L_3 小梁	L_3 スラブ	フックあり（フックあり定着の長さ） L_{1h}	L_{2h}	L_{3h} 小梁	L_{3h} スラブ
SD295A SD295B	21	40d	35d	20d	10dかつ150mm以上	30d	25d	10d	—
	24・27	35d	30d			25d	20d		
	30・33・36	35d	30d			25d	20d		
SD345	21	45d	35d			30d	25d		
	24・27	40d	35d			30d	25d		
	30・33・36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d	(25d)	(25d)	35d	30d		
	24・27	45d	40d			35d	30d		
	30・33・36	40d	35d			30d	25d		

(注)1．L_1，L_{1h}：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手長さとし、下記2．以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2．L_2，L_{2h}：剥裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3．L_3　：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ（基礎耐圧スラブ及び、これを受ける小梁は除く。）。なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とし、（　）内に示す。
4．L_{3h}　：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5．フックあり定着の場合は、下図に示すようにフック部分 ℓ を含まない。
また、中間部での折曲げは行わない。
6．軽量コンクリートの場合は表の値に5dを加えたものとする。



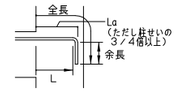
フックありの場合の重ね継手の長さ

定着の方法は下図による。

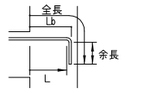


直線定着の長さ　　フックあり定着の長さ

2-9-2　定着の方法
仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、フックあり定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、下記の(a)，(b)及び(c)をすべて満足すること。
(a) 全長は2-9-1重ね継手及び定着長さに示す直線定着長さ以上とする。
(b) 余長を8d以上とする。
(c) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さ La 及び Lb は、下表の投影定着長さに示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3／4倍以上とする。



梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ



小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	La	Lb
SD295A SD295B	21	15d	15d
	24・27		20d
	30・33・36		
SD345	21	20d	15d
	24・27		
	30・33・36	15d	
SD390	21	20d	20d
	24・27		
	30・33・36		15d

(注)1．La：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
（基礎梁，片持ち梁及び片持スラブを含む。）
2．Lb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3．軽量コンクリートの場合は表の値に5dを加えたものとする。

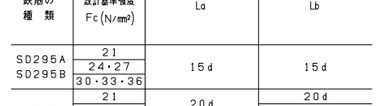
2-10　隣り合う継手の位置

隣合う継手の位置は下表による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。なお、先組み工法等で柱，梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

重ね継手 フックありの場合	a＝0.5L_{1h}	a≧0.5L_{1h}
重ね継手 フックなしの場合	a＝0.5L_1	a≧0.5L_1
圧接継手・溶接継手の場合	圧接継手 溶接継手	a≧400mm
機械式継手の場合	カップラー	a は、400mm以上、かつ、(b+40)mm以上

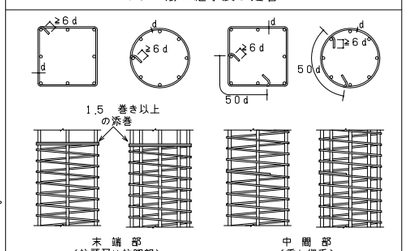
2-11　溶接金網の継手及び定着

溶接金網の継手及び定着は下図による。



重ね継手　　スラブの場合　　壁の場合

2-12　スパイラル筋の継手及び定着



末端部（柱頭又は柱脚部）　　中間部（重ね継手）

2-13　鉄筋のかぶり厚さ

(a)鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、特記による。特記がなければ下表による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを、径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。
(b)柱，梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

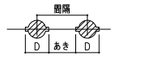
鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

構造部分の種別				鉄筋の最小かぶり厚さ（mm）
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			*40（50）
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			*60（70）
煙突等高熱を受ける部分				60

(注)1．*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は（　）内の数値による。
2．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上塗材，吹付け又は塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。
3．スラブ，梁，基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4．杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
5．塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は特記による。
(c)鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
(d)貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。

2-14　鉄筋相互のあき

(a)鉄筋相互のあきは、下記の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。
(1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 25mm
(3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値d）の1.5倍

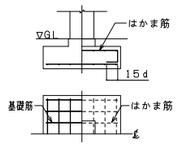


Dは鉄筋の最大外径

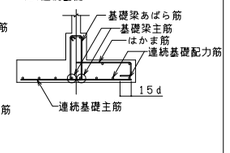
(b)鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(a)による。

3-1　基礎の配筋及び杭頭補強の方法

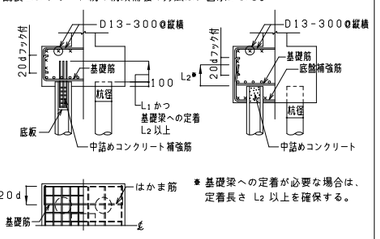
3-1-1　直接基礎
直接基礎の場合の配筋は下図による。はかま筋の有無は図示による。
(a)独立基礎



(b)連続基礎

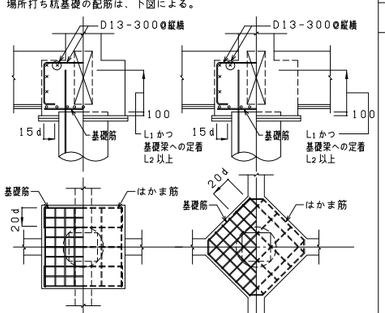


3-1-2　既製コンクリート杭基礎
既製コンクリート杭の杭頭補強の方法は、図示による。



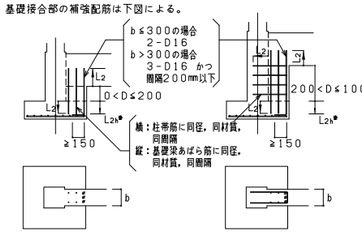
＊基礎梁への定着が必要な場合は、定着長さ L_2 以上を確保する。

3-1-3　場所打ち杭基礎
場所打ち杭基礎の配筋は、下図による。



3-2　基礎接合部の補強

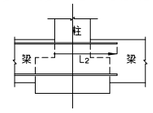
基礎接合部の補強配筋は下図による。



(注)＊ L_{2h} を確保できない場合は、2-9-2（定着の方法）によることができる。

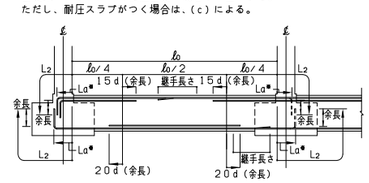
4-1　基礎梁主筋の継手及び定着（一般事項）

(a)梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
(b)梁筋を柱内に定着する場合は、柱の中心軸を越えてから定着させる。



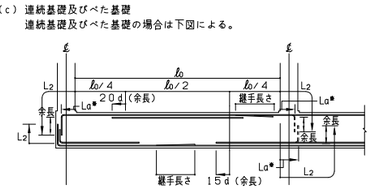
4-2　基礎梁主筋の継手、定着及び余長

(a) 基礎梁にスラブが付かない独立基礎
基礎梁にスラブが付かない独立基礎の場合は下図による。



(b) 基礎梁にスラブが付く独立基礎
基礎梁にスラブが付く独立基礎の場合は下図による。
ただし、耐圧スラブがつく場合は、(c)による。

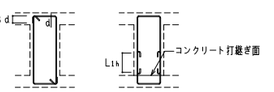
(c) 連続基礎及びべた基礎
連続基礎及びべた基礎の場合は下図による。



(注)1．上図にない事項は、6［大梁］による。
2．＝＝＝＝ 印は、継手及び余長位置を示す。
3．破線は柱内定着の場合を示す。
＊ La の数値は、原則として、柱せいの3／4倍以上とする。

4-3　基礎梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

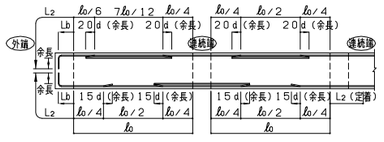
4-3-1　あばら筋
(a)あばら筋の径及び間隔は図示による。
(b)あばら筋組立ての形及びフックの位置は、6-4（あばら筋組立ての形及びフックの位置）による。ただし、梁の上下にスラブが付く場合で、かつ梁せいが1.5m以上の場合は下図によることができる。



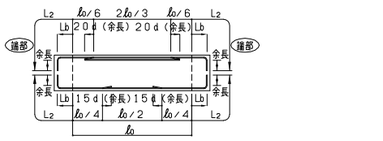
4-3-2　あばら筋の割付け
あばら筋の割り付けは、6-6（あばら筋の割付け）による。
4-3-3　腹筋及び幅止め筋
腹筋及び幅止め筋は、6-3（あばら筋，腹筋及び幅止め筋（一般事項））及び6-5（腹筋及び幅止め筋）による。ただし、梁せいが1.5mを超える場合は特記による。

4-4　べた基礎の基礎小梁主筋の継手、定着及び余長

4-4-1　べた基礎の連続小梁
連続する小梁の継手、定着及び余長は下図による。



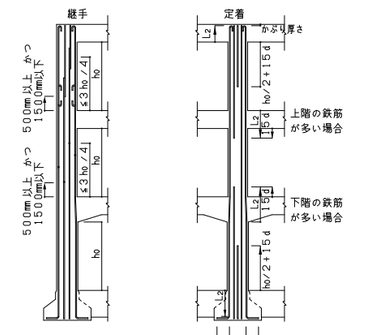
4-4-2　べた基礎の単独小梁
単スパンの小梁の継手、定着及び余長は下図による。



(注) 1．＝＝＝＝ 印は、余長位置を示す。
2．上図にない事項は、4［基礎梁］による。

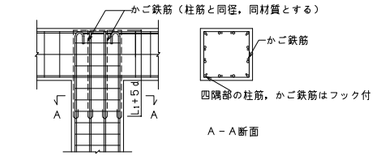
5-1　柱主筋の継手、定着及び余長

5-1-1　一般事項
(a)継手中心位置は、梁上端から500mm以上かつ1500mm以下から $3h_o/4$（h_oは柱の内法高さ）以下とする。
(b)最下階主筋の継手中心位置は、梁上端から柱せい以上かつ1500mm以下から $3h_o/4$（h_oは柱の内法高さ）以下とする。
(c)継手，定着及び余長は下図による。ただし、柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合は5-1-2（柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合）による。

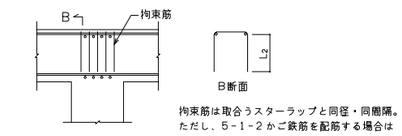


(注)1．2-7で定めた鉄筋には、フックをつける。
2．隣合う継手の位置は2-10による。
3．継手，定着は、すべての階に適用する。

5-1-2　柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合



5-1-3　最上階のT形接合部



拘束筋は取合うスターラップと同径・同間隔。ただし、5-1-2かご鉄筋を配筋する場合は不要。

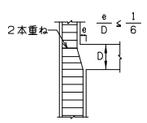
第13版D 2018.04.02

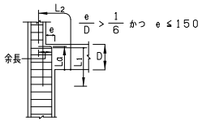
Ver.2018.10 Oct.10th 7:25:5

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者 一級建築士 第280187号 中川　崇	一級建築士 第312528号 髭島　健夫	一級建築士 第365088号 小林　紗矢	一級建築士 第138771号 高橋　敏夫	法適合確認欄 構造設計一級建築士 第3038号 西田　修治	検証者 西田　修治	飯塚市新体育館等建設工事 鉄筋コンクリート造配筋規準図（1）	設計番号 16779	図面番号 S — 004
										縮尺 1/41/2	日付 2019.11.15
											No

20181025 建築ビューロー標準用下図

5-1-4 柱上下の断面寸法が異なる場合





5-1-5 柱2段配筋

2段筋のスペーサーは下図による。



・図中の ⌒ 印のあるものは2段配筋とする。
・aは1.5dかつ粗骨材の最大寸法の1.25倍かつ25mmの最大のものとする。



5-2 帯筋

(a)帯筋の種類及び間隔は、図示による。
(b)帯筋組立ての形は、下図とし、適用は特記による。特記がなければ下記による。
(1)H形とする。
(2)フック及び継手の位置は、交互とする。
(3)H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W－I形とする。
(4)溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。フレア溶接要領は2-6(溶接)による。

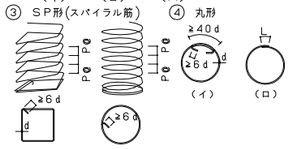
① H形



② W－I形(注)溶接は、鉄筋の組立前に行う。



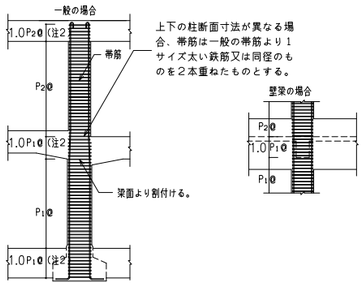
③ SP形(スパイラル筋)　④ 丸形



(注)SP形において柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻を行う。

5-3 帯筋の割付け

帯筋の割り付けは図示による。図示がなければ、下図による。

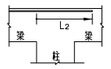


(注) 1．上図にない事項については、一般の場合に同じ。
2．柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.0P1(P2)φを超え1.5P1(P2)φ以内とする場合の範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
なお、P1φ,P2φは図示された帯筋の間隔を示す。

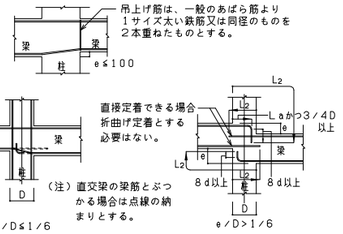
6-1 大梁主筋の継手及び定着（一般事項）

(a)継手中心位置は、下記による。
上端筋：中央 $l_0/2$ 以内
下端筋：柱面より梁せい(D)以上離し、$l_0/4$ を加えた範囲以内
(b)継手，定着及び余長は、6-2(大梁筋の継手、定着及び余長)による。

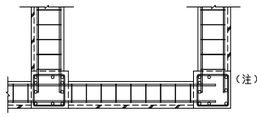
(c)梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。



(d)梁主筋を柱内に定着する場合は、次による。
なお、定着の方法は、2-9(重ね継手及び定着の長さ)による。
上端筋：曲げ降ろす。
下端筋：原則として曲げ上げる。
(e)梁にハンチをつける場合、その傾斜は、特記による。特記がなければ、1：4とする。
(f)段違い梁は、監理者の承諾を受けて、下図によることができる。

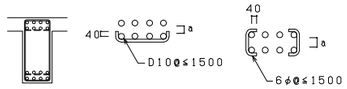


(g)柱と梁側面が同一の場合の配筋は下図による。



(注)梁の主筋は柱の主筋の内側に配筋する。
この場合、スターラップの幅を狭めて加工する。

(h)2段筋のスペーサーは下図による。

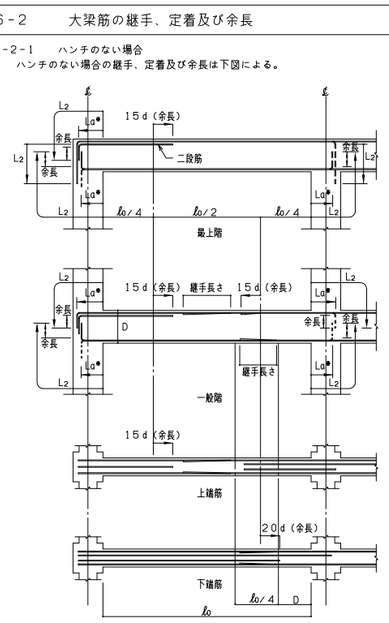


・aは1.5dかつ粗骨材の最大寸法の1.25倍かつ25mmの最大のものとする。

6-2 大梁筋の継手、定着及び余長

6-2-1 ハンチのない場合

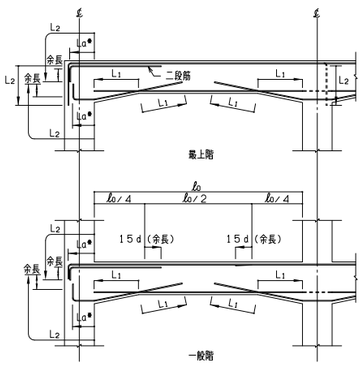
ハンチのない場合の継手、定着及び余長は下図による。



(注) 1．2-5(継手)で定めた鉄筋には、フックをつける。
2．——— 印は、継手及び余長を示す。
3．破線は柱内定着の場合を示す。
＊ La の数値は、原則として、柱せいの 3／4 倍以上とする。

6-2-2 ハンチのある場合

ハンチのある場合の定着及び余長は下図による。



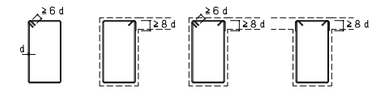
(注) 1．2-5(継手)で定めた鉄筋には、フックをつける。
2．——— 印は、継手及び余長を示す。
3．梁内定着の端部下端筋が接近するときは、－－－－のように引き通すことができる。
4．破線は柱内定着を示す。
＊ La の数値は、原則として、柱せいの 3／4 倍以上とする。

6-3 あばら筋、腹筋及び幅止め筋（一般事項）

(a)あばら筋の種類，径及び間隔は、図示による。
(b)幅止め筋及び受け用幅止め筋は D10-1000φ 程度とする。
(c)腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
(d)壁梁の場合、腹筋の定着長さは L_2 、重ね継手長さは L_1 とする。

6-4 あばら筋組立ての形及びフックの位置

(a)形は、下図(イ)とする。ただし、L形梁の場合は(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は(ロ)～(ニ)とすることができる。

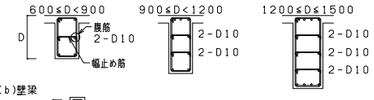


(b)フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合はL形ではスラブのつく側、T形では交互とする。
なお、(ハ)の場合はスラブのつく側を 90° 折曲げとする。

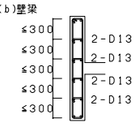
6-5 腹筋及び幅止め筋

(a)一般の梁

注）基礎梁の腹筋の径は、D13とする。

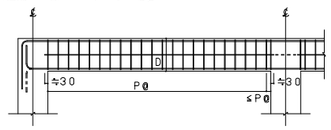


(b)壁梁

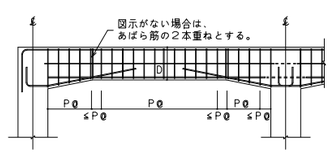


6-6 あばら筋の割付け

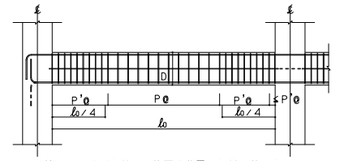
(a)間隔が一様でハンチのない場合



(b)間隔が一様でハンチのある場合



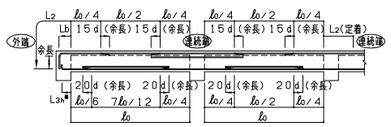
(c)梁の端部で間隔の異なる場合



7-1 小梁主筋の継手、定着及び余長

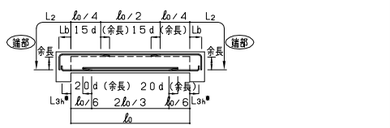
7-1-1 連続小梁

連続する小梁の継手、定着及び余長は下図による。



7-1-2 単独小梁

単スパンの小梁の継手、定着及び余長は下図による。

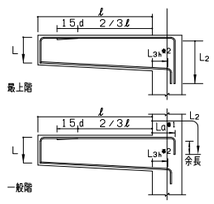


(注) 1．——— 印は、余長位置を示す。
2．梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
3．上図にない事項は、4［基礎梁］及び6［大梁］による。
＊ L3h を確保できない場合は、2-9-2（定着の方法）によることができる。

7-2 片持ち梁主筋の定着及び余長

7-2-1 先端に小梁のない場合

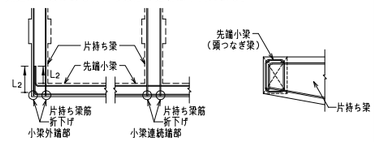
先端に小梁のない片持ち梁筋の定着及び余長は下図による。



(注) 1．——— 印は、余長を示す。
2．先端の折曲げの長さL1は、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
3．上図にない事項は、6［大梁］による。
＊1 La の数値は、原則として、柱せいの 3／4 倍以上とする。
＊2 L3h を確保できない場合は、2-9-2（定着の方法）によることができる。直線定着の場合は 25d 以上とする。

7-2-2 先端に小梁のある場合

先端に小梁のある片持ち梁筋の定着は下図による。

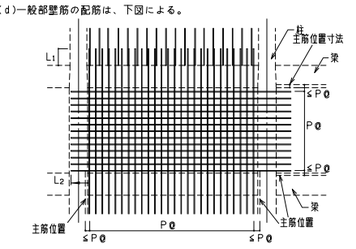


(注) 1．上図にない事項は、上記 7-2-1（先端に小梁のない場合）による。
2．先端小梁終端部の主筋は、片持ち梁内に水平定着する。
3．先端小梁の連続端は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

8-1 壁配筋（一般事項）

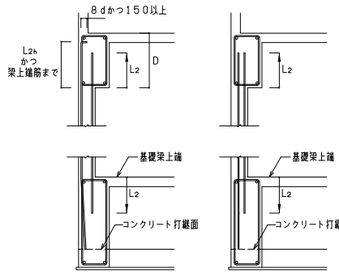
(a)壁配筋の重ね継手の長さは L_1 、定着長さは L_2 とする。
但し、耐力壁の重ね継手の長さは、2-9-1（重ね継手及び定着長さ）(a)による。
(b)重ね継手及び定着の長さがとれない場合は、監理者の承諾を受けて、フレア溶接とすることができる。フレア溶接長さは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
フレア溶接要領は 2-6(溶接)による。
(c)幅止め筋は、縦，横ともD10-1000φ 程度とする。

(d)一般部壁筋の配筋は、下図による。



(注) 1．Pφ は、図示された壁筋の間隔を示す。

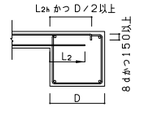
(e)地下外壁の壁配筋の定着は、下図による。



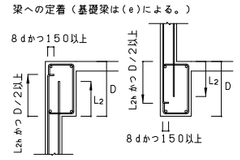
(注) 1．地下外壁の外側鉄筋は、耐圧スラブ上端まで下げる。

(f)壁筋の柱・梁への定着は、下図による。（片側のみ壁がある場合）

柱への定着

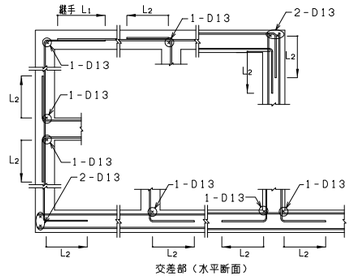


梁への定着（基礎梁は(e)による。）



8-2 壁の交差部および端部の配筋

壁の交差部及び端部の配筋は、下図による。

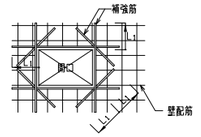




（垂直及び水平断面を示す。）

8-3 壁開口部の補強

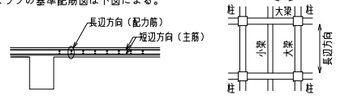
(a)壁開口部の補強は、図示による。
(b)壁開口部の補強の定着長さは、下図による。



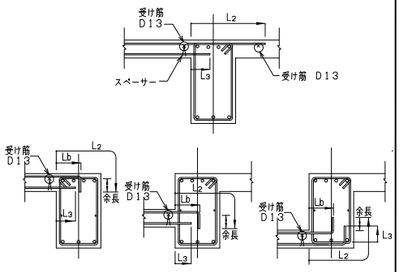
(c)開口部が柱及び梁に接する部分又は最大径が300mm以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

9-1 スラブの配筋（一般事項）

(a)スラブの配筋は図示による。
(b)スラブの基準配筋図は下図による。



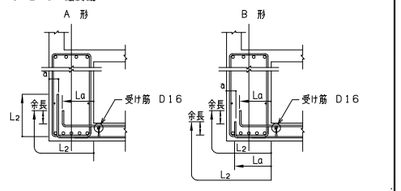
(c)配筋の割付けは中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
(d)重ね継手長さは、L_1 とする。
(e)定着長さ及び受け筋は、下図（上段）による。ただし、引き通すことができない場合は、下図（下段）により、梁内に定着する。
なお、片持ちスラブの場合は9-5 による。



一般スラブ

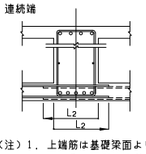
9-2 耐圧スラブの配筋

9-2-1 最終端



(注) 1．A形又はB形の適用は、図示による。図示がなければ、ベタ基礎はA形とする。
ベタ基礎以外の耐圧スラブはB形とする。
2．aは150mm程度とする。
3．基礎梁の幅が大きく、下端筋が直線定着となる場合の定着長さは L_2 かつ基礎梁幅の 1／2 以上とし、先端に 8d 以上の 90°フックを設ける。

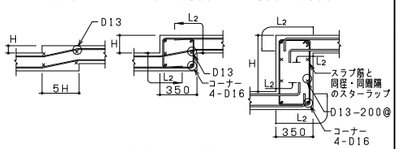
9-2-2 連続端



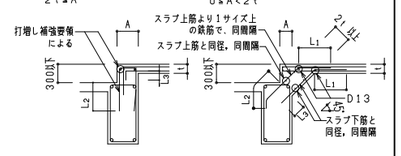
(注) 1．上端筋は基礎梁面より定着長さをとるか、引き通し配筋とする。下端筋は連続して引き通すか、又は基礎梁コンクリート面より定着長さをとる。
2．基礎梁幅が大きく、左右のスラブ筋の定着長さが十分でも、基礎梁下のスラブ筋の 1／2 以上は連続させる。

9-3 段差のあるスラブの補強

300mm以下の段差のあるスラブの補強は、下図による。



スラブ端部に段差がある場合の補強は、下図による。

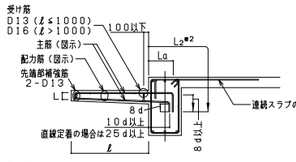


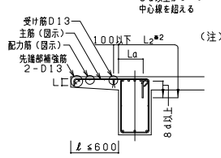
第13版D 2018.04.02

| | | |

9－4　片持ちスラブの配筋

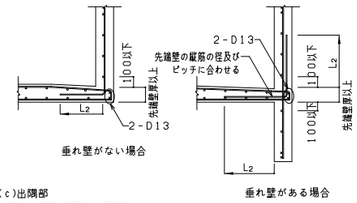
スラブの配筋は図示による。
（a）一般部



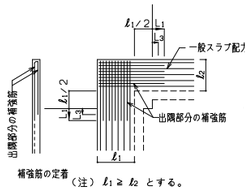


（注）1．先端の折曲げ長さL1は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
2．スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。（※2）
3．主筋径は D16 以下とする。
4．連続スラブの補強筋は図示よる。（※4）

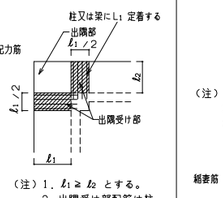
（b）先端に壁が付く場合



（c）出隅部
（1）補強の配筋は図示による。
配筋方法は、下図による。
（2）出隅受け部（下図のハッチ部分）の配筋は図示による。



（注）$\ell_1 \geq \ell_2$ とする。

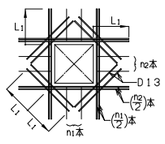


（注）1．$\ell_1 \geq \ell_2$ とする。
2．出隅受け部配筋は柱又は梁に L_1 定着する。

出隅部分補強配筋　　出隅受け部配筋

9－5　スラブ開口部の補強

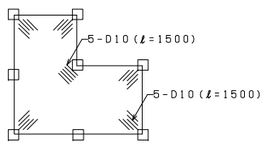
スラブ開口部の補強は図示による。図示がなければ下記による。
（a）スラブ開口の最大径が 700㎜ 以下の場合は、下図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2－D13（ℓ=2L_1）シングルを上下筋の内側に配筋する。



（b）スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

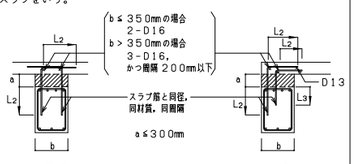
9－6　屋根スラブの補強筋

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



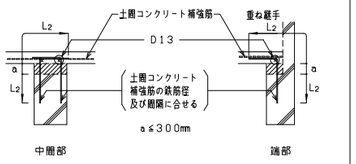
9－7　土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、下記による。ただし、土間スラブとは、土（捨コンクリート等の場合を含む）に接する構造スラブをいう。



9－8　土間コンクリートの補強筋

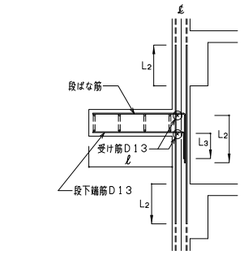
土間コンクリートの補強筋は図示による。
なお、基礎梁との接合部は下図による。



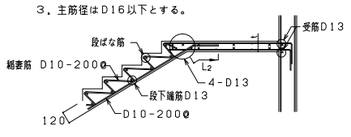
10－1　階段の配筋

階段の配筋は図示による。図示がなければ下表による。
階段の基準配筋は下図による。

10－1－1　片持ちスラブ形（KA）



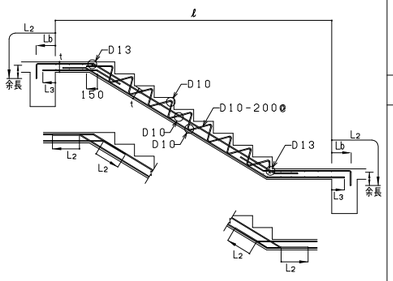
（注）1．階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降ろす。
2．踊場主筋，配力筋の継手及び定着の長さは、9－1による。
3．主筋径はD16以下とする。



階段配筋リスト（片持ちスラブ形）

設計条件：積載荷重 3500N/㎡　片持ち先端、手摺自重考慮				
符　号	段ばな筋	踊　場		スパン ℓ（㎜）
		スラブ厚さ（t）	主筋・配力筋（上，下端筋）	
KA11	2－D13	150	D10，D13－200@	ℓ≦1500
KA12	2－D16	150	D13－200@	1500＜ℓ≦2000

10－1－2　二辺固定スラブ形（KB）

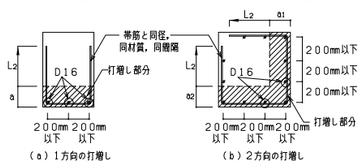


階段配筋リスト（二辺固定スラブ形）

設計条件：積載荷重 3500N/㎡　手摺自重無視				
符　号	床版厚さ（t）	主　筋	配力筋（踊場）	スパン ℓ（㎜）
		上，下端筋	上，下端筋	
KB11	180	D16－125@	D13－200@	4000＜ℓ≦5000
KB12	200	D16－100@	D13－200@	5000＜ℓ≦6000

11－1　柱の打増し補強

柱の打増し補強は、下図により、打増し幅が70㎜ 以上200㎜ 以下の場合に適用する。200㎜を超える場合は、図示による。
なお、梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

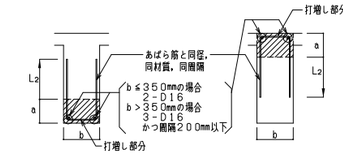


（a）1方向の打増し　　（b）2方向の打増し

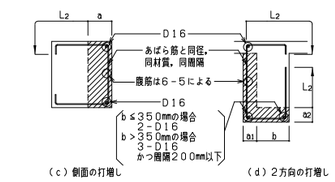
（70㎜≦a，a1，a2 ≦200㎜の場合）

11－2　梁の打増し補強

梁の打増し補強は、下図により、打増し幅が70㎜ 以上200㎜ 以下の場合に適用する。200㎜を超える場合は、図示による。
なお、小梁，耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



（a）下端の打増し　　（b）上端の打増し

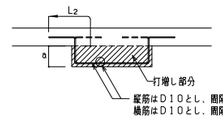


（c）側面の打増し　　（d）2方向の打増し

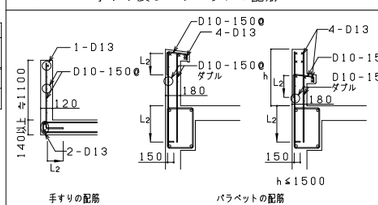
（70㎜≦a，a1，a2 ≦200㎜の場合）

11－3　壁の打増し補強

壁の打増し補強配筋は下図により、打増し厚さaが50㎜以上200㎜以下に適用する。200㎜を超える場合は図示による。

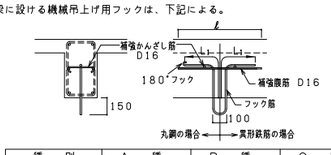


12－1　手すり及びパラペットの配筋



12－2　機械吊上げ用フック

梁に設ける機械吊上げ用フックは、下記による。



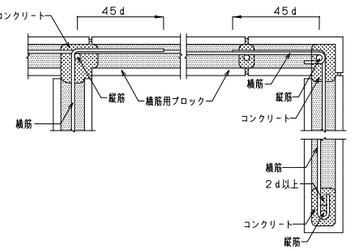
種　別	A　種	B　種	C　種
部　位			
フック筋	φ25又はD25	φ22又はD22	φ19又はD19
曲げ内法直径（㎜）	100		
補強かんざし筋	2－D16		
補強腹筋（㎝）	D16，ℓ＝900	D16，ℓ＝750	D16，ℓ＝600
吊上げ荷重W（kN）（ton）	50≧W＞30 5≧W＞3	30≧W＞10 3≧W＞1	10≧W 1≧W

（注）丸鋼の材質は、SS400 とする。

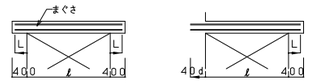
13－1　補強コンクリートブロック造

13－1－1　一般事項
下記に定める以外の事項は1～12による。
（a）壁縦筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、上下端は、がりょう、基礎等に定着する。なお、壁縦筋に継手を設けない。
（b）壁横筋は、壁端部縦筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着又は直交壁の横筋に重ね継手とする。
（c）壁鉄筋のかぶり厚さの最小値は、20㎜ とする。ただし、ブロックフェイスシェルは、かぶり厚さに含まない。
（d）壁鉄筋の重ね継手長さは 45ｄ とし、定着長さは 40ｄ とする。

13－1－2　各部の配筋
（a）各部の配筋は、図示による。
（b）図示がなければ交差部，端部（開口部）の配筋は、下図による。



（c）まぐさは鉄筋コンクリート造とし、配筋は図示による。ただし、図示がなければ下図による。
なお、既製まぐさを使用する場合は、監理者の承認を受ける。
（I）一般の場合　　（II）開口部が鉄筋コンクリートの柱又は壁に接する場合



（注）L はかぶり厚さを除いた長さを示す。

まぐさの配筋



（注）まぐさの幅は、ブロック厚さと同じとする。

14－1　コンクリートブロック帳壁

14－1－1　一般事項
（a）主筋は、原則としてブロック中心部に配筋し、構造体に定着する。
なお、主筋には継手を設けない。ただし、両面 5ｄ 以上又は片面 10ｄ 以上のアーク溶接を行う場合は、継手を設けることができる。
（b）壁横筋は、壁端部縦筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着又は直交壁の横筋に重ね継手とする。
（c）壁鉄筋の重ね継手長さは 40ｄ とし、定着長さは下記による。
（1）帳壁配力筋の構造体部分への定着長さは 25ｄ とする。
ただし、監理者の承認を受けて、あと施工アンカーとすることができる。
（2）（1）以外の定着長さは 40ｄ とする。
（d）ブロック積みのスパン及び高さは、下記による。

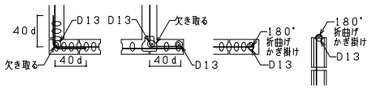
ブロック厚さ	スパン及び高さ
100	2500
150	3500

14－1－2　各部の配筋
（a）壁の配筋は図示による。ただし、図示がなければ下表による。

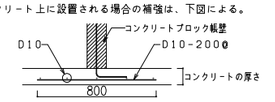
壁の配筋

縦　筋	横　筋	開口補強筋（縦横筋）	端部補強筋
D10－400@	D10－400@	1－D13	1－D13

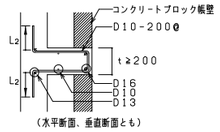
（b）帳壁の交差部，端部（開口部）の配筋は、下図による。



（c）帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。



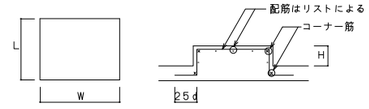
（d）コンクリートブロック帳壁との取合い
（1）控壁の配置は、図示による。
（2）配筋は、下図による。



（水平断面、垂直断面とも）

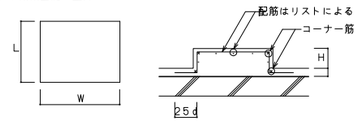
15　機械基礎の配筋

（a）機械基礎（室内）



W	L	H	鉄筋補強	ｺｰﾅｰ筋	箇所数
			D10－200@	D13	
			D10－200@	D13	
			D10－200@	D13	

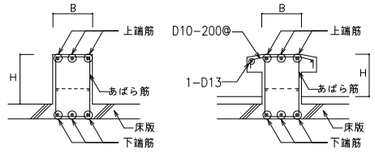
（b）機械基礎（室外）



W	L	H	鉄筋補強	ｺｰﾅｰ筋	箇所数
			D10－200@	D13	
			D10－200@	D13	
			D10－200@	D13	

（注）アスファルト防水層にかかる面圧≦1.0t/㎡の場合に適用。

（c）機械基礎
（I）床にアスファルト防水を施さない場合　　（II）床にアスファルト防水を施す場合

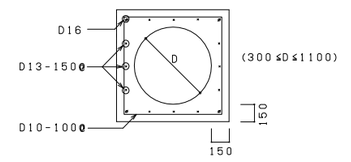


B×H			
上端筋			
下端筋			
あばら筋			
備考			

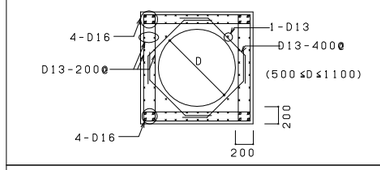
なお、腹筋，幅止め筋は 6－3（b）及び 6－5 による。

16　煙突の配筋

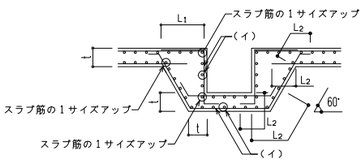
煙突の配筋は図示による。図示がなければ、下記による。
（a）最上階床よりの突出長さが 1.5ｍ 以下の場合



（b）最上階床よりの突出長さが 1.5ｍ を超え、3ｍ 以下の場合

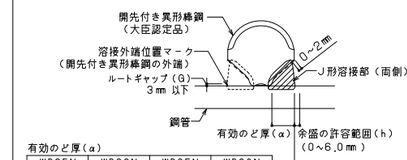


17　釜場の配筋



（注）1．（イ）は耐圧スラブと同径・同間隔とする。

18　杭頭補強筋の溶接（開先付き異形棒鋼）



有効のど厚（a）

WD25N	WD32N	WD35N	WD38N
6.0㎜ 以上	10.0㎜ 以上	10.5㎜ 以上	12.5㎜ 以上

第13版D 2018.04.02

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants
株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者								法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号					
中川　崇	酛島　健夫	小林　紗矢	髙橋　敏夫	西田　修治				西田　修治	

飯塚市新体育館等建設工事	設計書号 16779	図面番号 S — 006
鉄筋コンクリート造配筋規準図（3）	縮尺 1/11-12	日付 2019.11.15
		No

S-006_RC3-HOR_20181002.dwg
2018XIS 無償ビューワー登録不可

一 般 事 項

本規準図は、鉄骨鉄筋コンクリート造に適用し、かつ鋼材の厚さが 40㎜ 以下のものとする。
本規準図及び設計図書に記載なき事項は、建設大臣官房官庁営繕部監修「建築鉄骨設計基準及び同解説 平成１０年版」及び「共仕／平成２８年版」による。

仕口部水平スチフナ(HS⊮) 縦スチフナ(VS⊮) 仕口パネル(P⊮) のプレート厚さ、材質

1．水平スチフナ（HS⊮）の形状及び大きさは右図を標準とし、板厚は下記による。
a.HS⊮（1）は、仕口に取付くはりフランジプレートの最大厚さの２サイズ上かつ、上下柱のフランジプレートの最大厚以上の厚さとする。
b.HS⊮（2）は、仕口に取付くはりフランジプレートの最大厚さと同厚以上で、かつ 9㎜ 以上とする

2．縦スチフナ VS⊮（1）の幅は、取付く上下柱のフランジプレートの最大幅以上とし、厚さはいずれか最も厚いものと同厚以上とする。
縦スチフナ VS⊮（2）の幅は、取付くはりフランジプレートと同幅かつ上下柱のフランジプレートの最大幅以上とし、厚さは取付くはり及び上下柱のフランジプレートの最大厚さと同厚以上とする。

3．仕口パネルプレート（P⊮）厚は、特記による。但し、特記なき場合は仕口に取付く柱・はりのウェブプレートのうち最大厚さの２サイズ上の厚さとする。

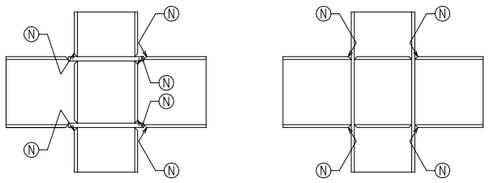
4．水平スチフナHS⊮（1）、縦スチフナVS⊮（2）の材料は取付くはりフランジ材及び柱材のうち強度の最も優れたものと同一のものとし、材質は原則としてSN材のC種材か、それと同等以上の材質のものとする。

5．水平スチフナHS⊮（2）の材料及び材質は、取付くはりフランジ材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等以上で、かつSN材のB種材以上とする。
縦スチフナVS⊮（1）の材料及び材質は、上下柱フランジ材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等以上で、かつSN材のB種材以上とする。
仕口パネルプレート（P⊮）の材料及び材質は、取付くはり及び柱のウェブ材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等以上のものとする。

6．板厚が１サイズ上と表現してある板厚は＋3㎜ 、２サイズ上と表現してある板厚は＋6㎜以上とする。

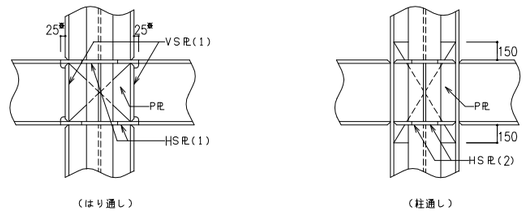
7．仕口まわりのはり及びH形断面柱の端部の完全溶け込み溶接部は、ノンスカラップ工法とする。
（適用箇所は右図による）

ノンスカラップ工法の適用個所（ Ⓝ と表示した個所）



H形断面柱の通しﾀﾞｲｱﾌﾗﾑ形式仕口　　H形断面柱の柱通し型仕口

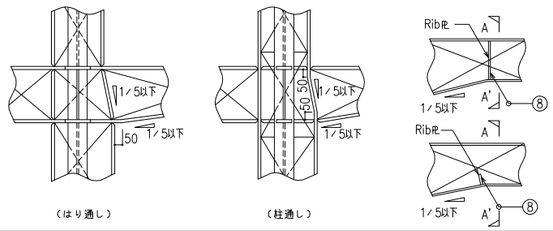
水平スチフナ(HS⊮)、縦スチフナ(VS⊮及び仕口パネル(P⊮)



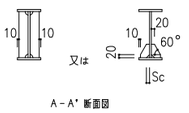
（はり通し）　　（柱通し）

（注）
1. VS⊮－（2は段差部の縦スチフナを示す。
2. 25㎜部分の通しダイアフラムの出寸法は25㎜を標準とするが、柱フランジの板厚が28㎜ 以上の場合は30㎜ 以上かつダイアフラム厚以上とする。

はり及び柱のしぼり及びリブプレート(Rib⊮)

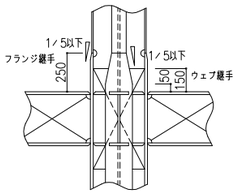


（はり通し）　　（柱通し）

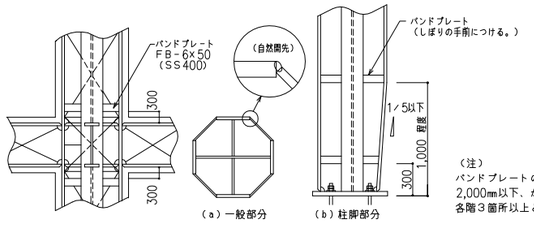


A－A' 断面図

柱のフランジ幅及び板厚の異なる場合のしぼり



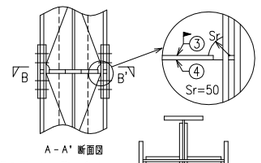
バンドプレートの位置及び大きさ、柱脚部のしぼり



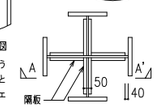
（a）一般部分　　（b）柱脚部分

（注）
バンドプレートの間隔は、2,000㎜以下、かつ各階3箇所以上とする。

ウェブ継手現場溶接用隔板



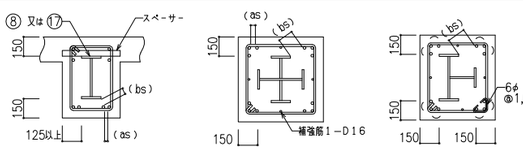
A－A' 断面図



B－B' 断面図

隔板の厚さは、取り合うウェブの最大厚と同厚とし、材質も取り合うウェブと同材質とする。

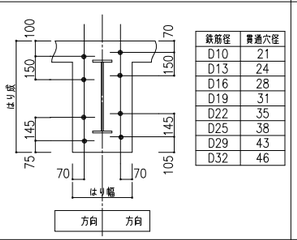
鉄骨のかぶり厚及びスペーサー



（はりの場合）　　（柱の場合）

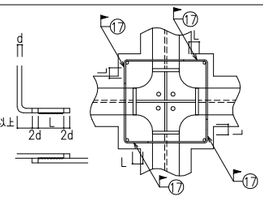
（注１）鉄筋相互のあき（ as ）は「共仕」による。
（注２）鉄筋と鉄骨のあき（ bs ）は組骨材の最大寸法の1.25倍以上とする。
（注３）〈 は２段筋を示す。

仕口部の鉄筋位置及び貫通穴径



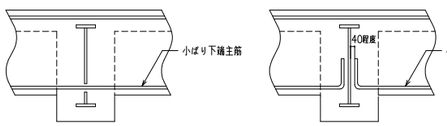
鉄筋径	貫通穴径
D10	21
D13	24
D16	28
D19	31
D22	35
D25	38
D29	43
D32	46

仕口部の帯筋の加工及び組立て



（注１）Lは、片面溶接の有効長さを示し鉄筋径の10倍以上とする。
（注２）⑰によらない場合は、135°の折曲げとする。

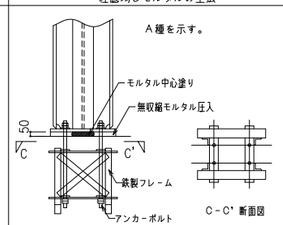
小 ば り 下 端 主 筋



（a）貫通タイプ　　（b）貫通しないタイプ

（注）定着長さは「共仕」による。

アンカーボルトの保持埋め込み工法及び柱底均しモルタルの工法



C－C' 断面図

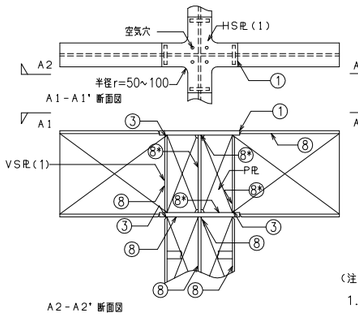
ボルトピッチ（P）、へりあき（e）

軸　径	M12	M16	M20	M22
P	50	60	60	60
e	25	40	40	40

仕口部および柱脚詳細

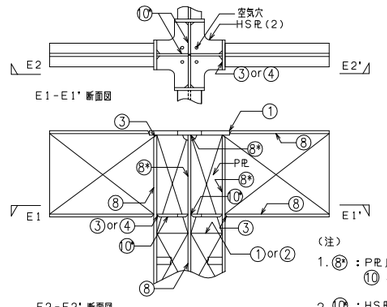
柱頭部

十 字 形 は り 通 し



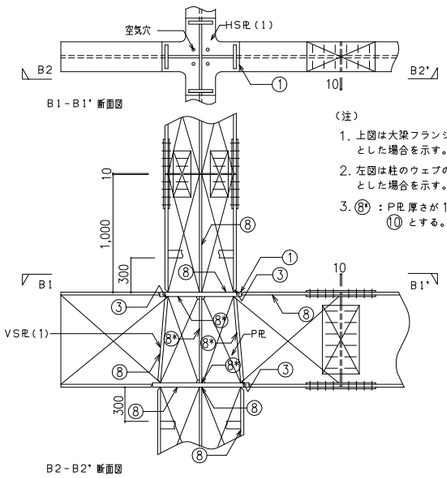
（注）
1. 8* ：P⊮ 厚さが16㎜ 以上の場合は⑩ とする。

十 字 形 柱 通 し

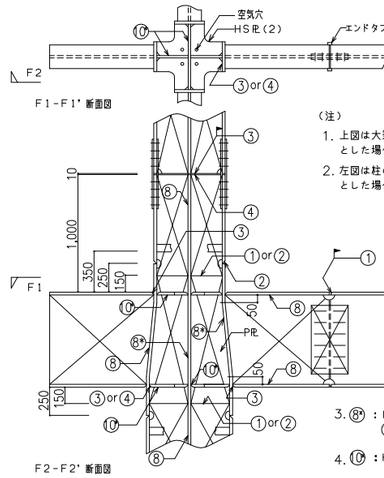


（注）
1. 8* ：P⊮ 厚さが16㎜ 以上の場合は⑩ とする。
2. ⑩ ：HS⊮ 厚さが12㎜ 以下の場合は⑧ とする。

一般部

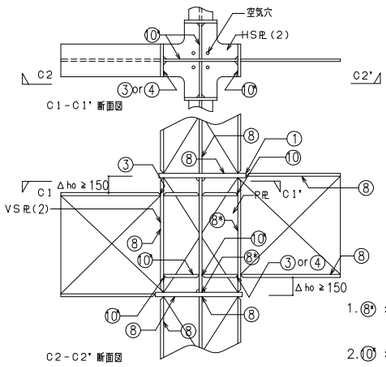


（注）
1. 上図は大梁フランジの接合をボルト接合とした場合を示す。
2. 左図は柱のウェブの接合をボルト接合とした場合を示す。
3. 8* ：P⊮ 厚さが16㎜ 以上の場合は⑩ とする。

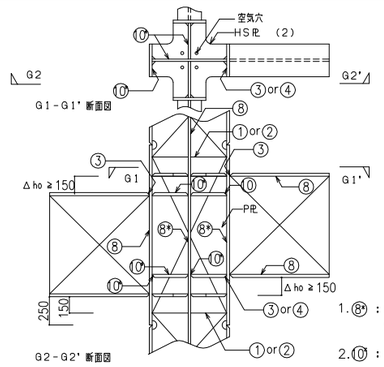


（注）
1. 上図は大梁フランジの接合を現場溶接とした場合を示す。
2. 左図は柱のウェブの接合を現場溶接とした場合を示す。
3. 8* ：P⊮ 厚さが16㎜ 以上の場合は⑩ とする。
4. ⑩ ：HS⊮ 厚さが12㎜ 以下の場合は⑧ とする。

段差部

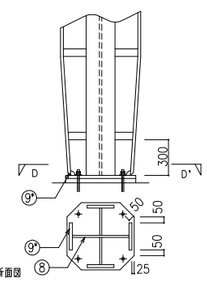


1. 8* ：P⊮ 厚さが16㎜ 以上の場合は⑩ とする。
2. ⑩ ：HS⊮ 厚さが12㎜ 以下の場合は⑧ とする。



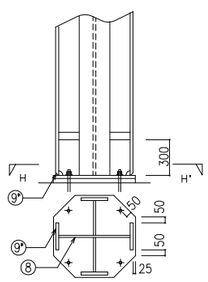
1. 8* ：P⊮ 厚さが16㎜ 以上の場合は⑩ とする。
2. ⑩ ：HS⊮ 厚さが12㎜ 以下の場合は⑧ とする。

柱脚部



D－D' 断面図

（注）
1. 左図は柱脚をしぼる場合を示す。
2. 9* ：フランジ厚さが12㎜ 以下の場合は⑧ とする。



H－H' 断面図

（注）
1. 9* ：フランジ厚さが12㎜ 以下の場合は⑧ とする。

第12版 2016.09.01

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	藍島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S — 007
鉄骨鉄筋コンクリート造規準図	縮尺 1／A1-A3-	日付 2019.11.15
		No

S-007.JWC-HQA.dwg

改訂：2016.09.01

鉄骨工事（S造）

1．一般事項

（a）本規準図は、鉄骨造に適用し、かつ鋼材の厚さが40㎜以下のものとする。

（b）本規準図及び設計図書に記載なき事項は、建設大臣官房官庁営繕部監修「建築鉄骨設計基準及び同解説　平成１０年版」及び「共仕／平成２８年版」による。

（c）社内検査の検査成績書には、社内超音波探傷試験の結果を添付する。

2．材料及び検査

建築工事特記仕様書〈構造関係〉による。

3．工作一般

（a）鉄骨製作及び施工の要領をまとめた「鉄骨工事施工計画書」を提出し、監理者の承認を得る。

（b）鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。

（c）ひずみの矯正は、材質を損なわない矯正法とする。

4．高力ボルト接合

本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。

5．仕口部及び柱脚詳細

（a）H形柱の柱通し形式の仕口部に設ける水平スチフナの形状及び大きさは、右図を標準とし、材料は取付くはりフランジ材の強度と同等以上の強度を有するものを用い、材質ははりフランジと同材質以上でかつSN材のB種材以上とする。板厚は、はりフランジ厚以上かつ９㎜以上とする。但し、柱頭部のトッププレートは下記の（ｂ）に準ずる。なお、はり幅が300㎜以上の場合は、スニップカットの代わりにスカラップとすることができる。

（b）鋼管柱及びH形柱のはり通し形式の仕口部に設けるダイアフラムの形状及び大きさは右図を標準とし、通しダイアフラムの場合の材料は、取付くはりフランジ材及び柱材のうち、強度の最も優れたものと同一のものを用い、材質は原則としてSN材のC種材か、それと同等以上の材質のものとする。板厚は、同じレベルに集まるはりフランジのうち最大厚さの２サイズ上の厚さ以上かつ上下柱の最大厚以上の厚さとする。
　また、内ダイアフラムの場合の材料は取付くはりフランジ材の強度と同等以上の強度を有するものを用い、材質ははり材と同材質以上でかつSN材のB種材以上のものとする。板厚は同じレベルに集まるはりフランジのうち最大厚さの２サイズ上の厚さ以上かつ９㎜以上とする。鋼管柱のダイアフラム中心部には最上部を除いて空気穴（約 30㎜ 程度）を設ける。ただし、スニップカットの代わりにスカラップを設ける場合には、空気穴を省略することができる。
なお、内ダイアフラムの場合で、はりフランジ材の板厚が柱材の板厚より９㎜ 以上厚い場合は、内ダイアフラムを通しダイアフラムとする。

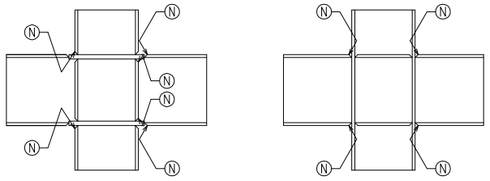
（c）鋼管柱の仕口部に設ける柱の形状は、右図を標準とし、柱の大きさは、上下柱のうち大きいものと同一とし、材質は、上下柱のうち強度及び溶接性の最も優れたものと同等以上のものとする。

（d）板厚が１サイズ上と表現してある板厚は＋3㎜、２サイズ上と表現してある板厚は ＋6㎜ 以上とする。

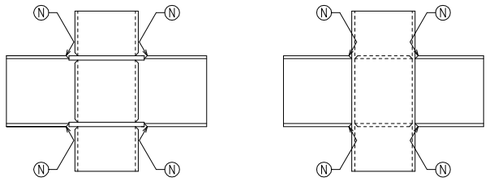
（e）仕口まわりのはりおよびH形断面柱の端部の完全溶込み溶接部は、ノンスカラップ工法とする。（適用箇所は右図による）

（f）冷間成形角形鋼管における溶接材料は、加工後の角形鋼管材の強度と同等な強度になるものを選定する。
400N/㎟ 級の冷間成形角形鋼管に対しては 490N/㎟ 級の溶接材料、
490N/㎟ 級の冷間成形角形鋼管に対しては 540N/㎟ 級以上の溶接材料を使用する。

ノンスカラップ工法の適用個所（ Ⓝ と表示した個所）

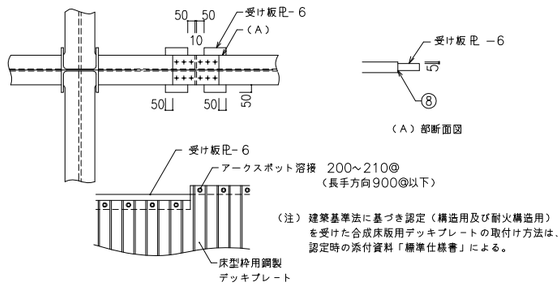


H形断面柱の通しﾀﾞｲｱﾌﾗﾑ形式仕口　　H形断面柱の柱通し形式仕口



角形鋼管柱の通しﾀﾞｲｱﾌﾗﾑ形式仕口　　角形鋼管柱の内ﾀﾞｲｱﾌﾗﾑ形式仕口

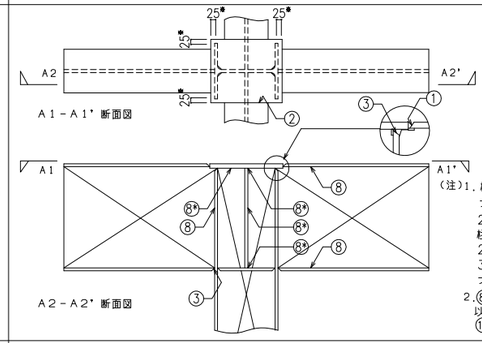
デッキプレートの取付け



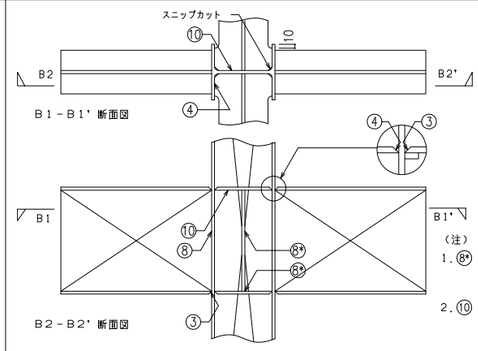
（注）建築基準法に基づき認定（構造及び耐火構造用）を受けた合成床版用デッキプレートの取付け方法は、認定時の添付資料「標準仕様書」による。

仕口部および柱脚詳細

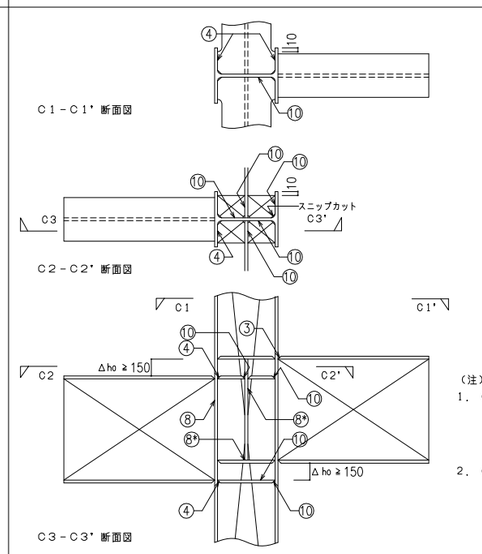
H 形 柱



（注）1．柱部分の通しダイアフラムの出寸法は 25㎜ を標準とするが柱フランジの板厚が 28㎜ 以上の場合は 30㎜ 以上かつダイアフラム厚以上とする。
2．(8*)：ウェブ厚が 16㎜ 以上のものについては (10) とする。



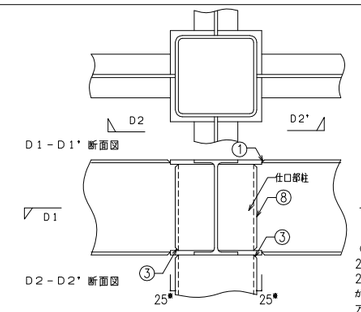
（注）
1．(8*)：ウェブ厚が 16㎜ 以上のものについては (10) とする。
2．(10)：水平スチフナ厚が 12㎜ 以下の場合は (8) とする。



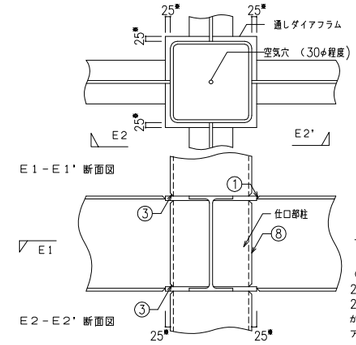
（注）
1．(8*)：ウェブ厚が 16㎜ 以上のものについては (10) とする。
2．(10)：水平スチフナ厚が 12㎜ 以下の場合は (8) とする。

（注）(9*)：露出型柱脚とする場合は (4) とする。ただし、埋込み型および根巻き型柱脚でフランジ厚が 12㎜ 以下の場合は (8)，13㎜ 以上の場合は (10) とすることができる。

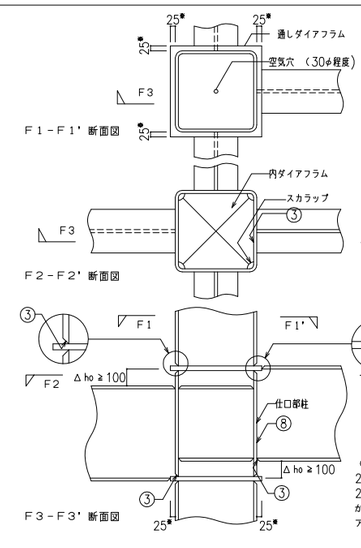
角 形 鋼 管 柱



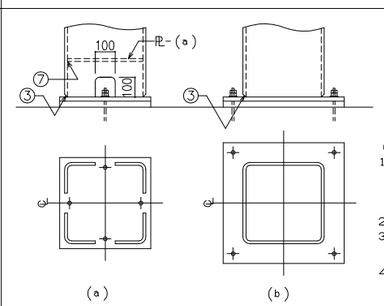
（注）25* 部分の通しダイアフラムの出寸法は、25㎜ を標準とするが、柱フランジの板厚が 28㎜ 以上の場合は 30㎜ 以上かつダイアフラム厚以上とする。



（注）25* 部分の通しダイアフラムの出寸法は、25㎜ を標準とするが、柱フランジの板厚が 28㎜ 以上の場合は 30㎜ 以上かつダイアフラム厚以上とする。

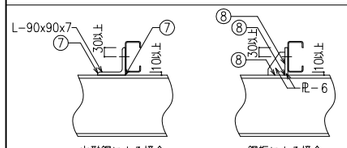


（注）25* 部分の通しダイアフラムの出寸法は、25㎜ を標準とするが、柱フランジの板厚が 28㎜ 以上の場合は 30㎜ 以上かつダイアフラム厚以上とする。

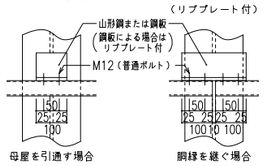


（注）
1．図（a）は、埋込み型ならびに根巻き型に使用し、露出型に使用する場合は PL-（a）厚さ 6㎜ 程度を取付ける。
2．図（b）は、露出型に適用する。
3．(3)：柱板厚が 6㎜ 以下の場合は (7) とすることができる。
4．一般構造用炭素鋼鋼管柱の柱脚部溶接は角形鋼管柱に倣う。

母屋・胴縁の接合



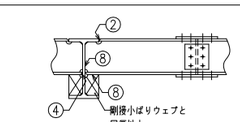
山形鋼による接合　　鋼板による接合（リブプレート付）



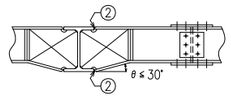
母屋を引通す場合　　胴縁を継ぐ場合

（注）普通ボルトは座金を用いること。

小ばりの剛接合

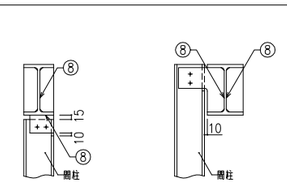


直交するはりとせいの差が100㎜以上の場合



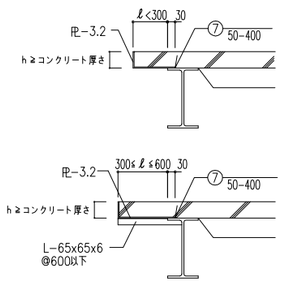
直交するはりとせいの差が100㎜未満の場合

間柱の接合

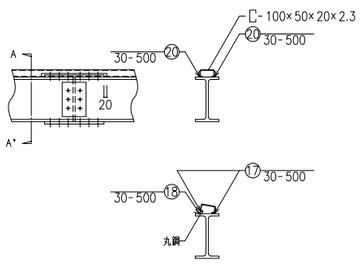


はり直下に取付く場合　　はり側面に取付く場合

コンクリート止め（デッキスラブ部分）

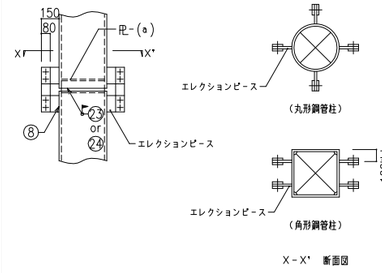


折版受材の取付け



A－A' 断面図

鋼管柱のＪＯＩＮＴ詳細



（注）PL－（ａ）は厚さ９㎜ 以上とし、柱径 400㎜以下の場合は省略してもよい。溶接 (24) の場合の PL－（ａ）は上下柱に設ける。

第12版 2016.09.01

| | | |

一般事項

1．本規準図及び設計図書に記載なき事項は、建設大臣官房官庁営繕部
監修「建築鉄骨設計基準及び同解説平成１０年版」による。

2．溶接方法の種類は、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、
セルフガスシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接、
エレクトロスラグ溶接及びアークスタッド溶接とする。

3．部材の板厚の適用範囲は40㎜以下とする。

4．冷間成形角形鋼管による製作は、日本建築センター「２００８年版
冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」（平成２０年１２月）による。

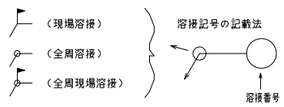
溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分類			記号
溶接方法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接 セルフガスシールドアーク半自動溶接		H
	サブマージアーク自動溶接		A
	エレクトロスラグ溶接		ES
	アークスタッド溶接		SW
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		Ｔ形継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フレア溶接		FL
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接（注）		2
	その他		3

（注）両面溶接とは、裏はつりの有無にかかわらず、鋼材の
表側と裏側の両面より溶接を行うことをいう。

溶接記号の記載方法

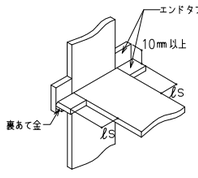
溶接記号の記載方法は、下図による。



（注）基準線及び引出し線は、溶接記号（JIS Z 3021-87）
に準ずる。

エンドタブ

エンドタブの材質は、母材と同等以上のものとし、形状は母材と同厚・同開先のものを用い、長さは下表による。ただし、あらかじめ溶接端部に欠陥が生じないことが確認された材質及び形状のものを用いる場合は、この限りではない。
エンドタブは、５㎜ 残して切断し、グラインダー仕上げをすること。

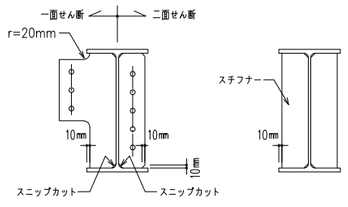


エンドタブの長さ（単位㎜）

溶接工法	ℓs
手溶接	35 以上
半自動溶接	38 以上
自動溶接	70 以上

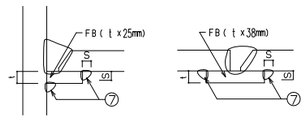
ガセットプレート、スチフナー

ガセットプレート、スチフナー端部を、取り付けるフランジのこば面から控えて、まわし溶接を行う。



裏当て金

1）完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は、原則としてフランジ内側に設置し、取付方法は、下図による。
裏当て金の組立溶接は、「３）裏当て金の組立溶接位置」による。



2）裏当て金の厚さ及び隅肉溶接のサイズは、下表により、材質は、原則として、母材と同等以上のものとする。

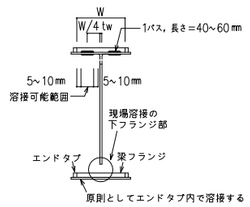
裏当て金の厚さ　（単位：㎜）

溶接方法	t
手溶接	6 以上
半自動溶接	9 以上
自動溶接	12 以上

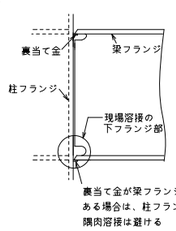
溶接のサイズ　（単位：㎜）

裏当て金の厚さ	S
t ≦ 9	5
t ＞ 9	9

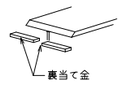
3）裏当て金の組立溶接位置



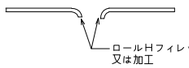
エンドタブの仮付け溶接は
裏当て金に溶接し、母材に
溶接してはならない



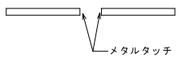
4）ノンスカラップ工法の裏当て金形状



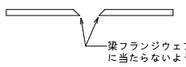
裏当金の形状
１．圧延Ｈ形鋼



２．同時組溶接組立てＨ形鋼



３．先組溶接組立てＨ形鋼



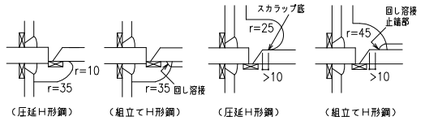
裏はつり

完全溶込み溶接を両面溶接とする場合は、裏溶接の前に裏はつりを行う。
裏はつりは、健全な溶着部分が現れるまではつり取るものとする。但し、
自動溶接において完全な溶込みが得られたことが確認できる場合には、
裏はつりを省略することができる。

スカラップ

ノンスカラップ工法を適用しない個所のスカラップ形状は下記とする。
スカラップの円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、
複合円は滑らかに仕上げる。

（単位：㎜）



スニップカット

溶接の交差部をスニップカット（Ｓｃ）で処理する場合の標準寸法は、鋼材の板厚に応じて下表によるものとし、スニップカット部は溶接により埋めることとする。
ただし、既製形鋼のスニップカットはＳｃ＝ｒ＋2 により求めるものとする。

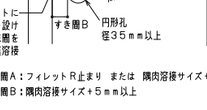
スニップカット　（単位：㎜）

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15



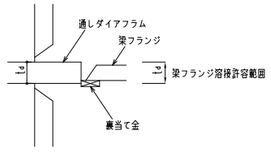
溶接板の段差

完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが 10㎜ を超える場合は、下図による。



通しダイアフラムと梁フランジの突合わせ溶接継手の食い違い

通しダイアフラムと梁フランジの突合わせ溶接継手にあっては、梁フランジは通しダイアフラムの板厚内で溶接しなければならない。



余盛り

完全溶込み溶接（突合わせ継手、かど継手）、隅肉溶接及びフレア溶接の溶接部は、余盛りを行う。余盛りの高さの限度は、下表による。
完全溶込み溶接（Ｔ形継手）の溶接部は、ビード表面が滑らかになるように仕上げる。

余盛りの高さの限度　（単位：㎜）

溶接継手	溶接工法	余盛りの高さの限度
突合わせ継手 かど継手	手溶接	3
	半自動溶接	4
	自動溶接	4
隅肉溶接 フレア溶接	手溶接	3
	半自動溶接	3

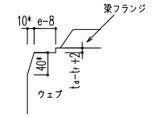
溶接垂鉛めっき工法の完全溶込み溶接

すき間Ａ：フィレットＲ止まり　または　隅肉溶接サイズ＋５㎜以上
すき間Ｂ：隅肉溶接サイズ＋５㎜以上

梁通しタイプノンスカラップ工法（工場溶接）

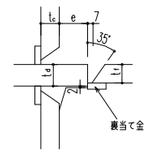
（１）裏当て金方式の場合
（ａ）同時組みによる溶接組立てＨ形断面梁の場合

・BH組立て



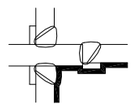
（注）10*,40*：柱板厚により変化する。

・大組立て,裏当て金取付け



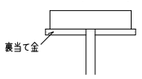
（注）ｅ：通しダイアフラムの出寸法は
25㎜を標準とするが、
柱フランジ厚ｔｃが28㎜
以上の場合は、30㎜以上かつ
通しダイアフラム厚ｔｄ以上
とする。

・隅肉溶接

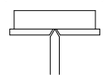


・裏当て金形状

（一般の場合）

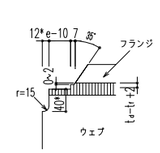


（ウェブに開先がある場合）



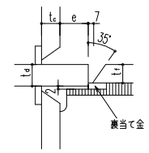
（ｂ）先組みによる溶接組立てＨ形断面梁および圧延Ｈ形鋼梁の場合

・開先加工



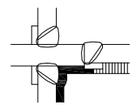
（注）12*,40*：柱板厚により変化する。

・大組立て、裏当て金取付け



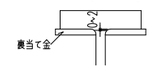
（注）ｅ：通しダイアフラムの出寸法は
25㎜を標準とするが、
柱フランジ厚ｔｃが28㎜
以上の場合は、30㎜以上かつ
通しダイアフラム厚ｔｄ以上
とする。

・隅肉溶接



・裏当て金形状

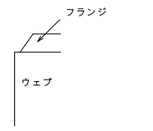
（一般の場合）



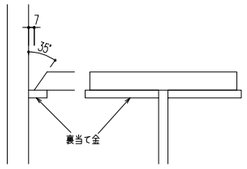
柱通しタイプノンスカラップ工法（工場溶接）　※（ａ－1），（ｂ－1）を標準とする

（ａ－1）同時組みによる溶接組立てＨ形断面梁の場合

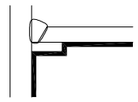
・開先加工



・組立て、裏当て金取付け

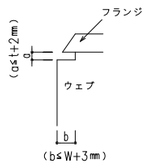


・(隅肉溶接)

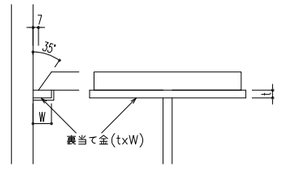


（ａ－2）同時組みによる溶接組立てＨ形断面梁の場合

・開先加工

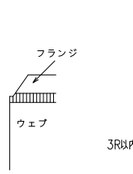


・組立て、裏当て金取付け

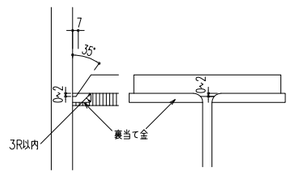


（ｂ－1）先組みによる溶接組立てＨ形断面梁および圧延Ｈ形鋼梁の場合

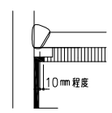
・開先加工



・組立て、裏当て金取付け

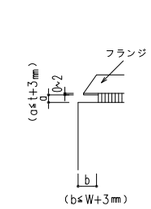


・隅肉溶接

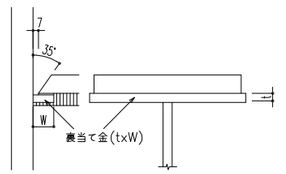


（ｂ－2）先組みによる溶接組立てＨ形断面梁および圧延Ｈ形鋼梁の場合

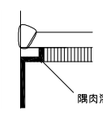
・開先加工



・組立て、裏当て金取付け



・隅肉溶接



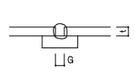
第12版 2016.09.01

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社　一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者	法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S — 009
		一級建築士 第280187号 中川　崇 / 一級建築士 第312528号 藪島　健夫 / 一級建築士 第365088号 小林　紗矢 / 一級建築士 第138771号 高橋　敏夫	構造設計一級建築士 第3038号 西田　修治	西田　修治	溶接基準図（１）	縮尺 1/任意 / 日付 2019.11.15	No

2019035 建築CAシステム標準作業

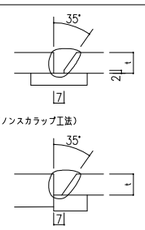
① HB1

t ≦ 6

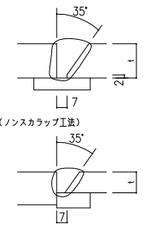


G = t

6 < t ≦ 19

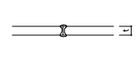


19 < t

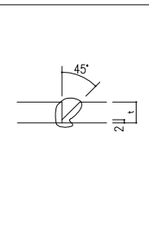


② HB2

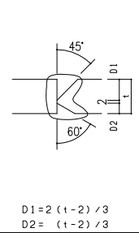
t ≦ 6



6 < t ≦ 19



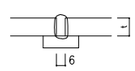
19 < t



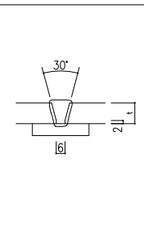
D1 = 2 (t - 2) / 3
D2 = (t - 2) / 3

⑪ AB1

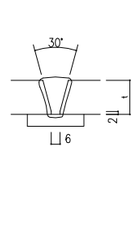
t ≦ 12



12 < t ≦ 22

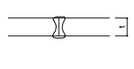


22 < t

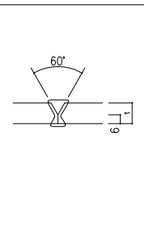


⑫ AB2

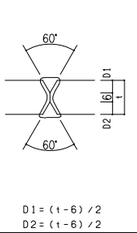
t ≦ 12



12 < t ≦ 22



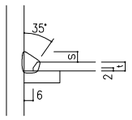
22 < t



D1 = (t - 6) / 2
D2 = (t - 6) / 2

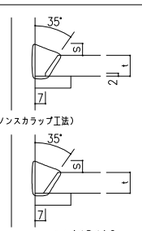
③ HT1

t ≦ 6



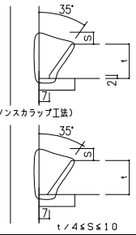
t / 4 ≦ S ≦ 10

6 < t ≦ 19



t / 4 ≦ S ≦ 10

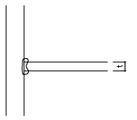
19 < t



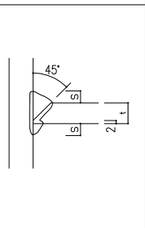
t / 4 ≦ S ≦ 10

④ HT2

t ≦ 6

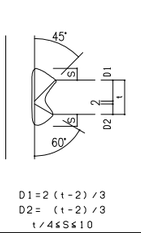


6 < t ≦ 19



t / 4 ≦ S ≦ 10

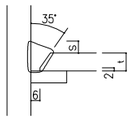
19 < t



D1 = 2 (t - 2) / 3
D2 = (t - 2) / 3
t / 4 ≦ S ≦ 10

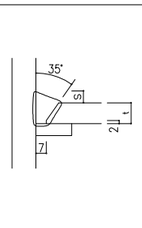
⑬ AT1

t ≦ 12



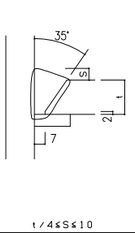
t / 4 ≦ S ≦ 10

12 < t ≦ 22



t / 4 ≦ S ≦ 10

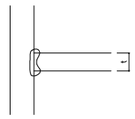
22 < t



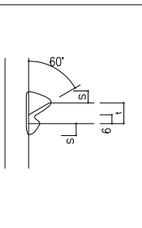
t / 4 ≦ S ≦ 10

⑭ AT2

t ≦ 12

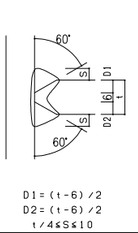


12 < t ≦ 22



t / 4 ≦ S ≦ 10

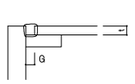
22 < t



D1 = (t - 6) / 2
D2 = (t - 6) / 2
t / 4 ≦ S ≦ 10

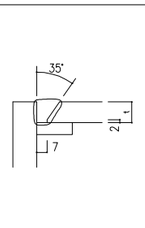
⑤ HL1

t ≦ 6

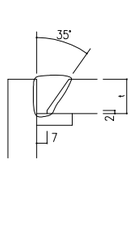


G = t

6 < t ≦ 19

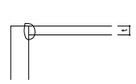


19 < t

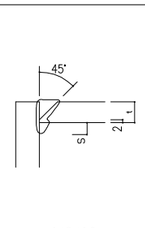


⑥ HL2

t ≦ 6

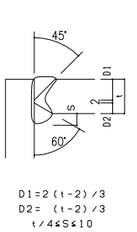


6 < t ≦ 19



t / 4 ≦ S ≦ 10

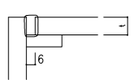
19 < t



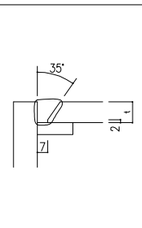
D1 = 2 (t - 2) / 3
D2 = (t - 2) / 3
t / 4 ≦ S ≦ 10

⑮ AL1

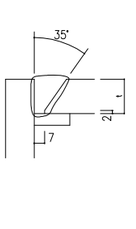
t ≦ 12



12 < t ≦ 19

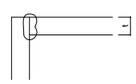


19 < t

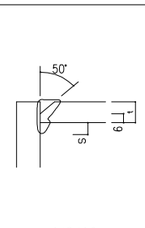


⑯ AL2

t ≦ 12

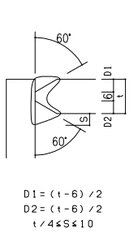


12 < t ≦ 19



t / 4 ≦ S ≦ 10

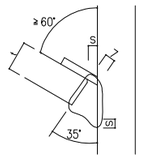
19 < t



D1 = (t - 6) / 2
D2 = (t - 6) / 2
t / 4 ≦ S ≦ 10

㉕ HT1 (ハンチ部)

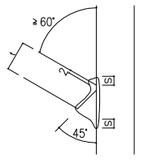
6 < t



t / 4 ≦ S ≦ 10

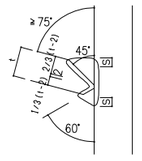
㉖ HT2 (ハンチ部)

6< t ≦ 19



t / 4 ≦ S ≦ 10

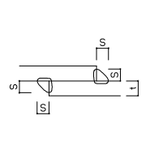
19 < t



t / 4 ≦ S ≦ 10

⑦ HF1

t ≦ 16



t	3.2	4.5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	28	30	32	36	38	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	10	11	11	12	13	13	14	14	15	16	17	18	19	21	22	24

t	12	16	19	22	25	28	32	36	38	40
D	10	11	12	13	14	15	15	16	16	

⑧ HF2

t ≦ 16

16 < t

⑨ HP1

12 ≦ t

t / 4 ≦ S ≦ 10

⑩ HP2

16 ≦ t

D1 = (t - 2) / 2
D2 = (t - 2) / 2
t / 4 ≦ S ≦ 10

⑰ HFL1

丸調等

⑱ HFL2

⑲ HFL3

t ≦ 6

t ≧ 3 のとき S = t
t < 3 のとき S = 3

⑳ HFL3

t ≧ 3 のとき S = t
t < 3 のとき S = 3

㉑ BOX柱かど雌手

仕口部の範囲

一般部

仕口部

t < 40

( ) 内は自動溶接

t ≧ 40

( ) 内は自動溶接

㉒ BOX柱 エレクトロスラグ溶接

S：3mm 以上とする

t1	t2	a	b
22~28	25	25	50
32~36	28		

㉓ BOX柱 現場溶接

㉔ 鋼管・コラム・H柱の現場溶接

第12版 2016.09.01

| | | |

2－13　鉄筋のかぶり厚さ（補足）

（e）その他鉄筋の加工・組立てに関する補足

・鉄筋には点付け溶接、アークストライクを行ってはならない。

・鉄筋の台直しは鉄筋の付け根で急に曲げないで勾配1/6以下のできるだけ長い距離で修正を行うこと（監理者の承認を得ること）。

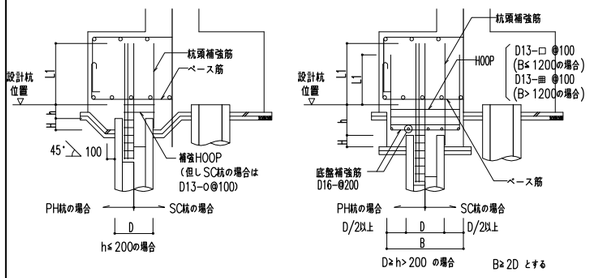
3－3　杭が所定の位置より深く止まった場合の処置（参考）

3-3　杭が所定の位置より深く止まった場合の処理（高く止まった場合は、直ちに監理者と協議する）

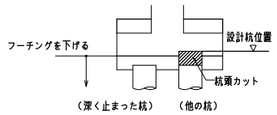
杭が所定の位置より深く止まった場合の処理は監理者の指示による（下記を参考にする）。

（１）深く止まった杭のみ処理する場合（H：杭の埋め込み深さ、D：杭径、h：杭の下がり量）

杭頭補強筋はLかつ基礎梁中心より上まで延ばす



（２）他の杭を深く止まった杭の高さに切りそろえる場合



4－4　基礎部柱型

4-4 主筋、帯筋の配筋

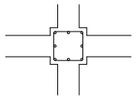


図4-4-1

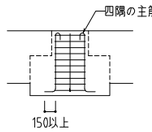


図4-4-2

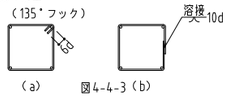
注1）柱型の断面寸法は図示による。

図示の無い場合は、取り付く地中梁幅+100mm以上として監理者の承認を得ること。

2）主筋、帯筋の径・本数・ピッチは図示による。

図示の無い場合は、主筋D19-@200以内、帯筋D13-□@150とする。

4-2 帯筋の加工



8－1　壁配筋一般事項（補足）

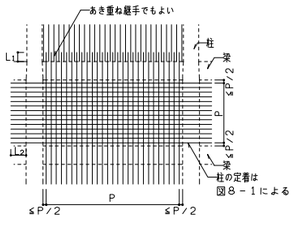
8－1（追）一般事項

（１）土圧を受ける地下壁は図示の無い限り縦筋を外側に配筋する。

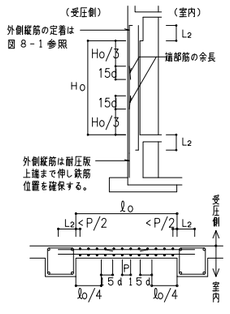
Ho：　有効内法階高　　lo：　有効内法スパン　　P：　壁主筋間隔

<D13>：D13　　かつ壁主筋径以上

（a）一般壁

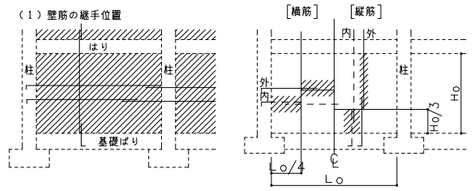


（b）耐圧（土圧水圧）壁



継手

（１）壁筋の継手位置

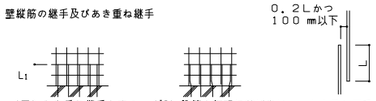


（a）一般壁の継手位置　　（b）土圧を受ける地下壁の継手位置

注１）原則として、はり・柱の中には壁筋の継手を設けないこと。

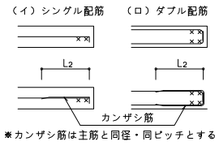
２）横筋の場合は、１スパンごとに柱に定着することは差し支えない。

（２）壁縦筋の継手及びあき重ね継手



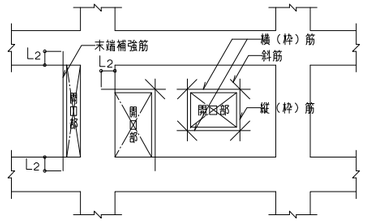
8－2（追）交差部及び端部の配筋

壁の末端部及び開口により切断される鉄筋にはフックを付けるか、カンザシ筋による補強を設ける。

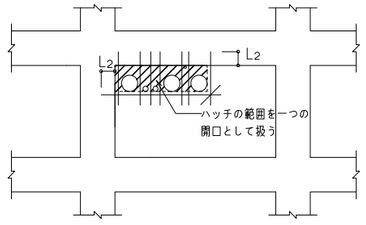


※カンザシ筋は主筋と同径・同ピッチとする

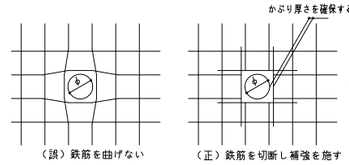
8－3（追）壁開口部の補強



a）一般の場合



b）図示されている場合



単独円形小開口（≦最大径300㎜程度）の場合

注１）隣合う開口のあきはかぶり厚さを考慮してすくなくとも７０ｍｍ以上かつ「2－13　鉄筋のかぶり厚さ」以上を確保する事。

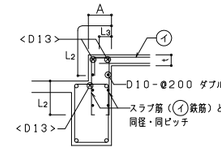
２）スリーブ材質に拘わらずスリーブ材と鉄筋は「2－13　鉄筋のかぶり厚さ」以上を確保する事。

３）スリーブ材を拘束する固定筋は防錆処理を行ったものとする。

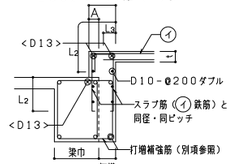
9（追）スラブ

9－3（追）段差スラブの補強

両側の床版に高低差がある場合

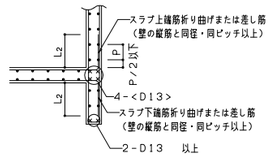


２００かつスラブ厚（ｔ）以上



9－4（追）片持ち床版の基準配筋

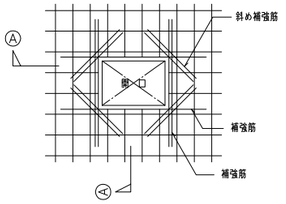
（b－2）先端に壁が付く場合



9－5（追）床版開口部の補強

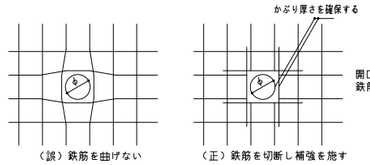
床版開口の端部には下図に示す補強を施す事。

開口部を避けるため、配筋を無理に曲げず、必ず補強筋を施すこと。

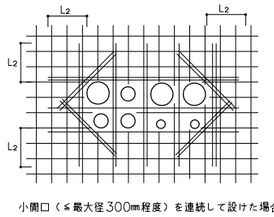


※カンザシ筋は主筋と同径・同ピッチとする

開口の最大径が700㎜程度以下の場合



単独円形小開口（≦最大径300㎜程度）の場合



小開口（≦最大径300㎜程度）を連続して設けた場合

注１）隣合う開口のあきはかぶり厚さを考慮してすくなくとも７０ｍｍ以上かつ「2－13　鉄筋のかぶり厚さ」以上を確保する事。

２）スリーブ材質に拘わらずスリーブ材と鉄筋は「2－13　鉄筋のかぶり厚さ」以上を確保する事。

３）スリーブ材を拘束する固定筋は防錆処理を行ったものとする。

9-6（追）床版の補強筋

（１）出隅入隅部補強要領（各階に適用する）。屋根スラブは9-6屋根スラブの補強筋による。

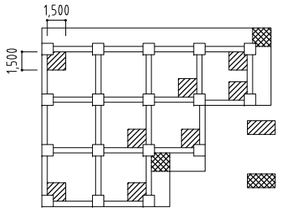
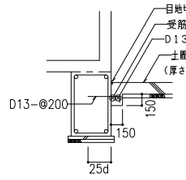


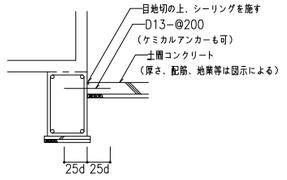
表7-1出入隅部補強筋

	径	ピッチ
入隅部分補強筋	・主筋と同径 ・主筋の１サイズアップ	・主筋と同ピッチ （主筋に加えて主筋量と同量の補強筋を加える） ・主筋の1/2ピッチ （主筋に加えて主筋量の2倍の補強筋を加える）
	・図示（　　）	

9－9（追）外周土間コンクリートと本体（地中梁等）との取合い



（a）一般の場合



（b）下記個所の場合

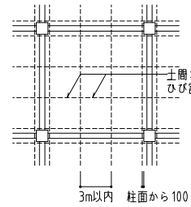
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

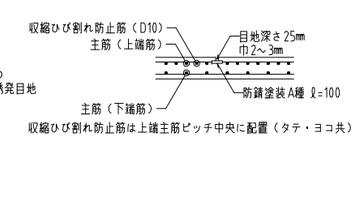
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

9－10（追）土間コンクリート

土間コンの目地は下図のように、3m以内に設ける。（カッター目地）

土間コンの上端の補強筋は7-7（２）に準じる。



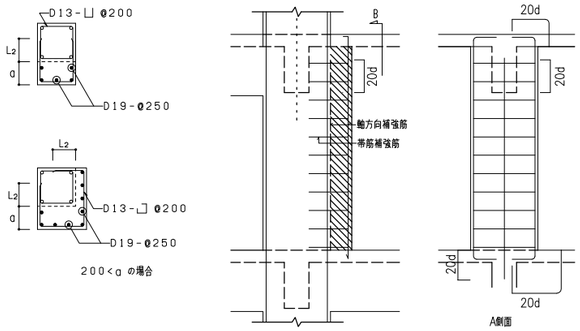


第1版K 2018.08.15

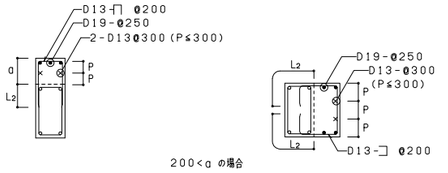
| | | |

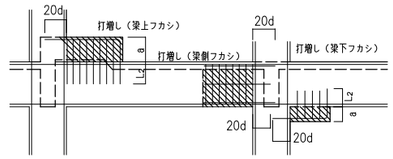
11（追）打増補強

11－1（追）柱の打増

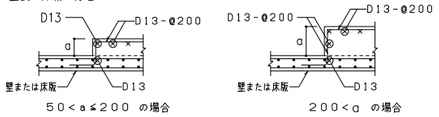


11－2（追）梁の打増





11－3（追） 壁及び床版の打増



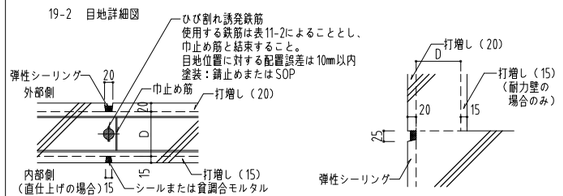
19. ひび割れ誘発目地

19-1 壁のひび割れ誘発目地

（1）外壁のひび割れ誘発目地の位置・形状は意匠図による。意匠図に図示の無い場合は下図による。

（2）内壁のひび割れ誘発目地は下図による。

19-2 目地詳細図



＊内壁でボード仕上げがある場合は、打増し・目地とも不要とする。

耐力壁の外壁内側は仕上の種類に拘らず打増し15mm、目地深さ15mmとする。

垂直目地　　水平目地

図19-2-1 目地詳細図

表11-2 ひび割れ誘発鉄筋

壁種	目地	壁厚 D (mm)	外目地深さ (mm)	内目地深さ (mm)	ひび割れ誘発鉄筋
外壁	両面	150	20	15	1-D13
		180	20	15	1-D19
		200	20	15	1-D25
		220	20	15	1-D29
		250	20	15	2-D19
		300	20	15	2-D25
内壁	片面	150	—	15	1-D25
		180	—	15	2-D16
		200	—	15	2-D19
		220	—	15	2-D22
		250	—	15	2-D25
		300	—	15	2-D29
	両面	150	—	15+15	1-D16
		180	—	15+15	1-D25
		200	—	15+15	1-D29
		220	—	15+15	2-D16
		250	—	15+15	2-D22
		300	—	15+15	2-D29

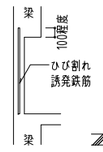


図19-2-2
ひび割れ誘発鉄筋
配筋要領

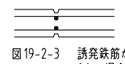


図19-2-3 誘発鉄筋が
2本の場合

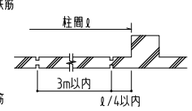


図19-2-4 縦目地の位置

19-3 はね出しスラブ及び外部立上り壁のひび割れ誘発目地

（1）庇、バルコニー等のはね出しスラブ及びパラペット、手摺壁等の立上り壁には3m以内毎にひび割れ誘発目地を設け、雨掛り部分には防水措置をほどこす。

（2）パラペット、手摺壁等のコンクリートは原則として下部躯体と一体打ちとする。但し、打継ぎを行う場合はコンクリート打設時にスラブより100mm上までをスラブと一体に打設し、打継ぎ部分には水平目地を設け防水措置を施す。

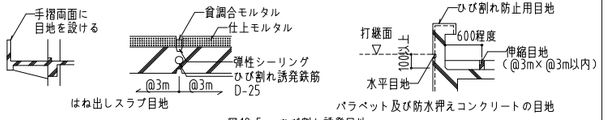
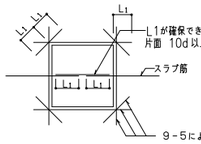


図19-5 ひび割れ誘発目地

20 雑配筋　（構造図に配筋詳細図の無い場合、当配筋図による）

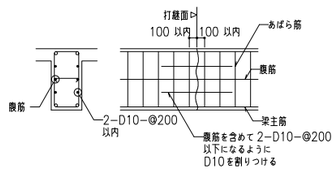
型枠撤去用等のダメ穴の補強



注1）後打コンクリートは無収縮コンクリートとする。

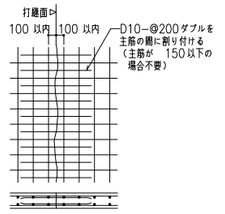
打継ぎ部の処理

（1）梁

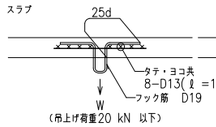


注）基礎梁の場合はD13とする

（2）床スラブ



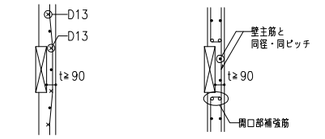
躯体吊上げ用フック



（吊上げ荷重20 kN 以下）

注）スラブ配筋等は監理者の
承認を得ること。

コンセントボックス等埋込の補強（耐震壁は除く）



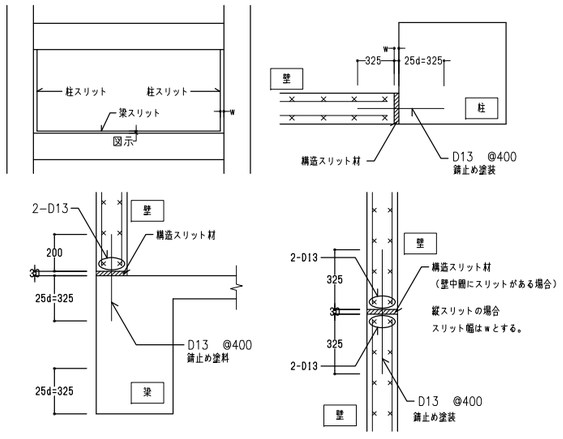
注1）壁に埋込む場合で t＜90 となる場合はコンクリートは打設せず開口部とし、裏面は乾式仕上材でふさぐこと。

2）外壁には原則として設けない。

スリット詳細図

注）構造スリット材は耐火性能及び防水性能を有するものとすること

W：腰壁・そで壁高さの1/100かつ30以上。原則、図示による。



タテ・ヨコ断面 共通

・錆止め塗料（標準仕様書 表 18.3.1 A種）または溶融亜鉛メッキ

・構造スリット参考メーカー

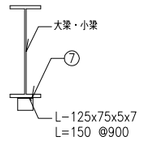
同部株式会社 FR/RWRタイプ　　ロンビックジャパン ZOOMスリット・LHソフト

あさひ建装 イージースリット

21 仕上材取り付け要領

21－1 仕上材溶接用部材

＜大梁・小梁＞



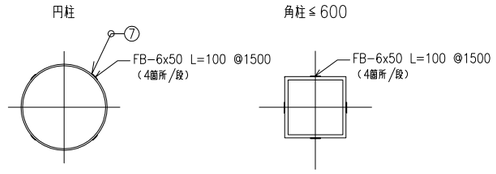
特記なき限り　1. 鉄骨材質

無 印：SS400

2. HTB ：S10T

＊開仕切り用先行ピース取付け金具は、使用不可

＜柱＞

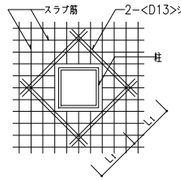


第1版K 2018.08.15

| | | |

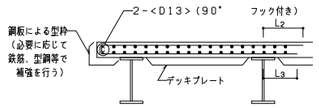
２０　鉄骨造との取合い

コンクリートスラブと鉄骨柱との取合い（図中 <D13>は D13かつスラブ主筋径以上を示す）。



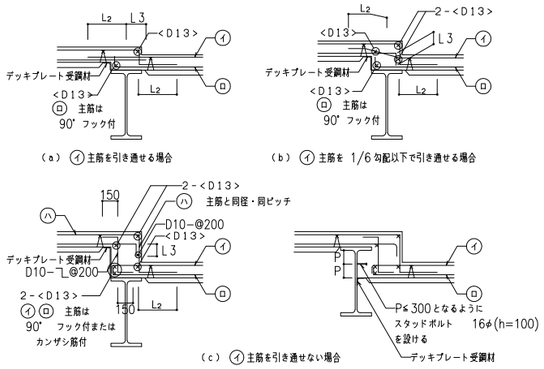
コンクリートスラブと鉄骨梁との取合い（図中 <D13>は D13かつスラブ主筋径以上を示す）

（１）一般部



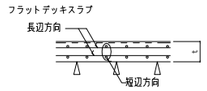
注１）主・配力筋共、鉄骨梁の位置に
にかかわらず床全面で設計ピッチ
以内に配筋する。

（２）段差のある場合



注）　⋀は受筋　<D13>とバーサポートを示す。

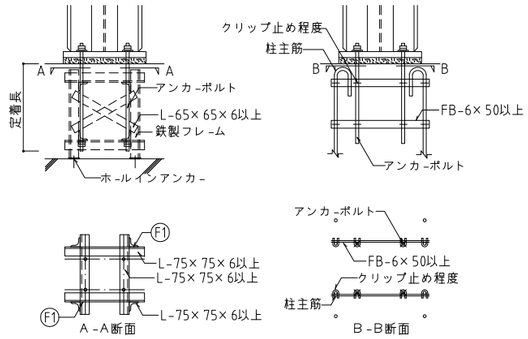
床型枠用鋼製デッキプレート板厚選定表



スラブ厚 t（mm）	デッキプレート板厚（mm）				
	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6
140	2480	2790	2960	3060	3170
150	2420	2750	2900	3020	3130
160	2370	2700	2860	2980	3080
170	2320	2640	2820	2940	3040
180	2270	2590	2790	2900	3010
190	2230	2540	2750	2870	2970
200	2180	2490	2720	2830	2940
210	2140	2440	2680	2800	2900

中間支保工を設ける場合は上表によらなくても良い。

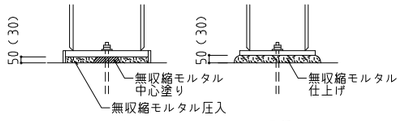
アンカ-ボルトの保持及び埋込み方法（間柱・開口補強部材）



＜A種＞　　＜B種＞

・A種　（　　）
※B種　（　　）

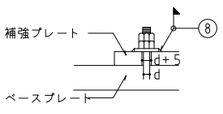
柱底均しモルタル工法



＜A種＞　　＜B種＞

・A種　（　　）
※B種　（　　）

露出柱脚の補強（座金と補強プレ-トの全周溶接）



補強プレート：ボルト孔クリアランス0.5ｍｍとした鋼板で板厚12ｍｍ以上。

アンカ-ボルトは二重ナット締めとする。
座金の全周溶接　※行う　（　　）

定着板寸法

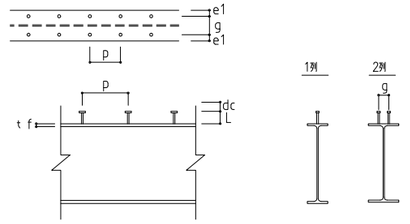
素材はJIS　G　3101のSS400とする。（単位：ｍｍ）
構造用アンカーボルト ABR400

ボルト径	丸型			四角型		
	外径（D）	内径（d）	厚さ（t）	外径（D）	内径（d）	厚さ（t）
	標準寸法	標準寸法	標準寸法	標準寸法	標準寸法	標準寸法
M16	48	18	10	50	18	9
M20	60	22	13	60	22	12
M22	72	26	15	70	24	12
M24	72	26	15	75	26	16

頭付きスタッド溶接

イ.材料　　頭付きスタッドの材料はJIS B1198（頭付きスタッド）を使用する。
ロ.はしあき、かぶり等

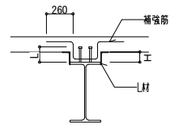
項　目	寸　法
間　隔　（p）	呼び名の7.5倍以上かつ 600mm 以下
最小ゲ-ジ（g）	呼び名の 5 倍以上
へりあき　（e1）	40mm 以上
かぶり　（dc）	30mm 以上（あらゆる方向）
径　　（d）	2.5×ｔf以下（鉄骨はりウェブ直上に溶接される場合をのぞく）
長さ径比	L/d≧４



RCスラブと取り合う鉄骨大梁、小梁上端には、下記に従い頭付スタッドを打設する事。

部位	梁　幅	ピッチ
大梁	B ≦ 250	1列 @200
	B ＞ 250	2列 @200
小梁	B ≦ 250	1列 @300
	B ＞ 250	2列 @300

H	頭付スタッド	補強筋	L 材
0	19φ　L=100	———	
50	19φ　L=130	———	L-60x60x4
70	19φ　L=150	D13 @ 200	L-75x75x6
100	19φ　L=150	D13 @ 200	L-125x75x7



H	頭付スタッド	補強筋	L 材
0	16φ　L=100	———	
50	16φ　L=130	———	L-60x60x4
70	16φ　L=150	D13 @ 200	L-75x75x6
100	16φ　L=150	D13 @ 200	L-125x75x7

第12版 2016.09.13

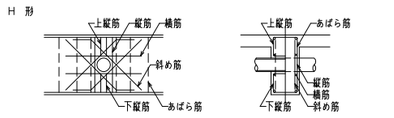
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社　一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者								法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S — 013
		一級建築士 第280187号 中川　崇	一級建築士 第312528号 藪島　健夫	一級建築士 第365088号 小林　紗矢	一級建築士 第138771号 高橋　敏夫					構造設計一級建築士 第3038号 西田　修治	西田　修治	配筋規準図（鉄骨造）	縮尺 1/Ａ1-Ａ3- 日付 2019.11.15	No

鉄筋コンクリート造梁の梁貫通孔補強要領

1　梁貫通孔の補強（一般事項）

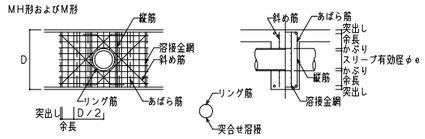
梁貫通孔の補強は下記による。
（a）梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。

H 形

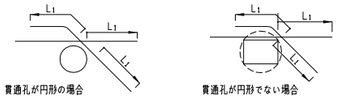


φ：補強検討孔径（φ≦D／3）
φe：スリーブ有効径
D：RC梁せい

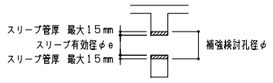
MH形およびM形



（b）孔の径は、梁せいの１／３以下とし、補強検討孔径φとする。孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
（c）孔の設置位置は、２－３　設置範囲　による。
（d）孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の３倍以上とし、上下に配置してはならない。
（e）人通孔は、スパン中央部（ℓo／２）範囲内に配置することを原則とする。
（f）縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
（g）補強筋は主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。



（h）溶接金網の余長は、１格子以上とし、突出しは１０mm 以上とする。
（i）溶接金網の普通孔部分には、鉄筋１－１３φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に４箇所以上溶接する。
（j）溶接金網の割付け始点は、縦筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では普通孔の中心とする。
（k）スリーブ有効径φeは管内径であり、補強検討孔径φとは異なる。
　梁貫通補強検討に用いる孔径φはスリーブ有効径φe＋スリーブ管厚ｘ２とする。



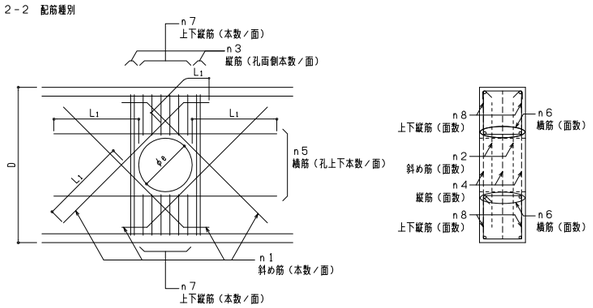
（l）大臣認定を取得した梁貫通補強材を用いて貫通補強を行う場合は、以下の設計条件で行うこと。
　・基礎梁は塑性ヒンジが発生していない部分とする。
　・既製品、検討内容等に関しては、設計者・監理者の承認を得ること。
（m）基礎梁に塑性ヒンジが発生する場合は、別途図示すること。

2　補強要領

2－1　補強の形式と種類

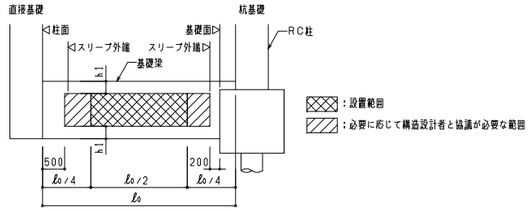
補強配筋種別	斜め筋（n1－n2－鉄筋径）	縦　筋（n3－n4－鉄筋径）	横　筋（n5－n6－鉄筋径）	上下縦筋（n7－n8－鉄筋径）
H1	2－2－D13	なし	なし	なし
H2		2－2－D13		
H3	4－2－D13	2－2－D13	2－2－D13	2－2－D13
H4	4－2－D16			
H5	4－2－D16	4－2－D13	2－2－D13	3－2－D13
H6	4－2－D19			
H7	4－2－D22			

2－2　配筋種別



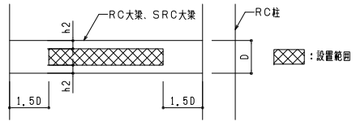
2－3　設置範囲

（a）基礎梁



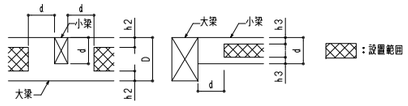
（注）１．基礎梁は塑性ヒンジが発生していない部分とする。
　　２．h１≧２００mm かつ梁主筋のかぶり厚さを確保した寸法

（b）基礎梁以外



（注）１．h２≧２００mm かつ梁主筋のかぶり厚さを確保した寸法

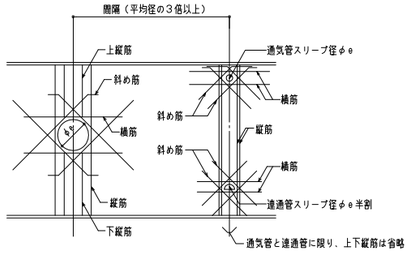
（c）大梁・小梁　接合部



（注）１．h２≧２００mm かつ梁主筋のかぶり厚さを確保した寸法
　　２．h３≧２００mm かつ梁主筋のかぶり厚さを確保した寸法

2－4

人通孔、通気管、連通管、配水管　補強要領



（注）１．通気管と連通管に限り上下の配置は可とする。

■RC補強リスト　　＊数量は、電気設備・機械設備・空気調和設備・給排水衛生設備の各工事図による。

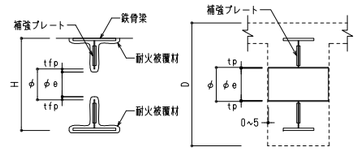
階	梁符号	B（mm）	D（mm）	スリーブ有効径φe（mm）	補強配筋種別

鉄骨造梁の梁貫通孔補強要領（鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨部共通）

1　梁貫通孔の補強（一般事項）

梁貫通孔の補強は下記による。
（a）梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。

S造　　SRC造

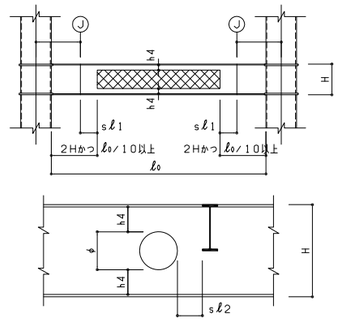


φ：補強検討孔径（鉄骨部貫通孔径）
　S造（φ≦H／２）
　SRC造（φ≦H／２かつφ≦D／３）
φe：スリーブ有効径
tfp：耐火被覆厚さ
tp：管厚
H：S梁せい
D：RC梁せい

（b）スリーブ最大径は、S造　鉄骨梁せいH／２以下、SRC造　鉄骨梁せいH／２以下およびRC梁せいD／３以下のうち小さい値とする。
（c）孔の設置位置は、２－１　設置範囲　による。
（d）孔中心間隔は、S造は平均φの２倍以上、SRC造は平均φの３倍以上とする。
（e）施工者は、スリーブ径φとスリーブ有効径φeとの関係を確認し、質疑等が生じた場合は監理者と協議し、適切な径にしなければならない。
（f）tfp は、建築工事特記仕様書（２）に示された材料により決定する。
（g）大臣認定を取得した梁貫通補強材を用いて貫通補強を行う場合は、設計者・監理者の承認を得ること。

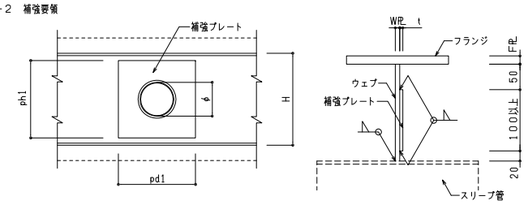
2　補強要領（S・SRC造共）

2－1　設置範囲



h４：補強プレートなしの場合、１００以上
　　補強プレートありの場合、１７０以上
sℓ１：３００ mm 以上かつウェブスプライスプレートから補強プレート端まで５０mm 以上
sℓ２：H／２以上かつ補強プレート端から５０mm 以上
Ⓙ：鉄骨継手位置
：設置範囲

2－2　補強要領



（注）１．pdl は、phl または、３ｘφ　の小さい方とする。
　　２．phl は、図示とする。
　　３．補強プレート厚さｔ≧１６mm　となる場合は、片面補強は行わず両面補強とする。

■S・SRC補強リスト　　＊数量は、電気設備・機械設備・空気調和設備・給排水衛生設備の各工事図による。

H（mm）	WR（mm）	FR（mm）	スリーブ有効径φe（mm）	補強プレート（mm）

参考

1　スリーブ径

（a）スリーブ管の外径および管厚（RC造）

ボイド	
呼径（mm）	管厚（mm）
50	2,0
75	2,5
90	3,0
100	3,0
125	3,0
150	3,5
175	3,5
200	4,0
250	4,5
300	5,5
350	6,0
400	6,5
450	7,0
500	7,5

VP管			
呼径（mm）	外径（mm）	管厚（mm）	近似内径（mm）
13	18	2,2	13
16	22	2,7	16
20	26	2,7	20
25	32	3,1	25
30	38	3,1	31
40	48	3,6	40
50	60	4,1	51
65	76	4,1	67
75	89	5,5	77
100	114	6,6	100
125	140	7,0	125
150	165	8,9	146
200	216	9,2	196
250	267	9,2	247

VU管			
呼径（mm）	外径（mm）	管厚（mm）	近似内径（mm）
40	48	1,8	44
50	60	1,8	56
65	76	2,2	71
75	89	2,7	83
100	114	3,1	107
125	140	4,1	131
150	165	5,1	154
200	216	6,5	202
250	267	7,8	250
300	318	9,2	298
350	370	10,5	347
400	420	11,8	394
450	470	13,2	441
500	520	14,6	488

SU管			
呼径（mm）	外径（mm）	管厚（mm）	近似内径（mm）
25x28	28	1,5	25
32x35	35	1,5	32
50x54	54	2,0	50
63x68	68	2,5	63
75x80	80	2,5	75
100x106	106	2,5	100
125x134	134	3,0	125
LP150	156	3,0	150
157x165	165	4,5	157
206x216	216	5,0	206

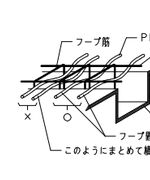
（b）スリーブ呼径および鋼管（S・SRC造）

呼径（mm）	鋼　管（mm）	鋼管有効径（mm）
100	φ－114,3x3,2	107,9
130	φ－139,8x3,2	133,4
150	φ－165,2x3,8	157,6
200	φ－216,3x4,5	207,3
250	φ－267,4x6,0	255,4
300	φ－318,5x6,0	306,5
350	φ－355,6x6,4	342,8
400	φ－406,4x6,4	393,6
450	φ－457,2x6,4	444,4

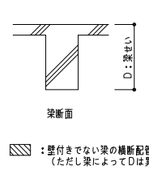
（注）１．鋼管材質はＳＴＫ４００とする。

2　PF管及びCD管の配管基準図

2－1　梁横断の配管方法
（a）ダブル配筋の壁・スラブの配管は、ボックス近辺を除きダブル配筋の間に入れる。
（b）床配筋及び壁配筋に平行の埋設配管は、盤・ボックス近辺を除き、平行する配筋と３０mm 以上の間隔をあけて布設する。
（c）配管が集中する盤の上下部、ＥＰＳ等において配管相互間隔（３０mm 以上）が不足するおそれがある場合は、別の場所でプルボックス等を使用して配線処理を行い、他の配線方法にて盤及びＥＰＳに配線する。
（d）梁に平行の埋設配管は、梁面より１００mm 以上の間隔をあけて布設する。また、梁材の中の軸方向の配管は出来るだけ避けること。
（e）壁付でない梁の横断配管は次の事項に留意して布設する。
　・多数の配管をまとめて横断させないようにする。（下図参照）
　・柱から梁せい以内の部分の横断は避ける。（下図参照）

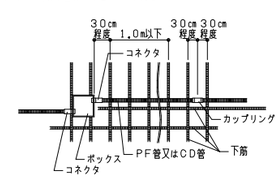


梁横断の配管方法

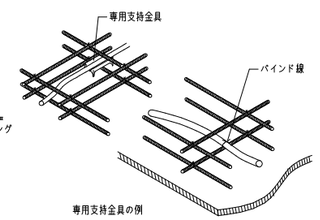


壁付きでない梁の横断配管を避ける部位

2－2　コンクリート埋設部の配管支持
（a）コンクリート埋設配管の結束間隔は下図による。
（b）曲がり部分等ではコンクリート打設時の移動や管の浮き上がりを防止するため、０.５ｍ以下の間隔とする。
（c）配管相互の間隔は３０ mm 以上とする。
（d）埋設配管の支持結束には、バインド線又は専用支持金具を使用する。
（e）専用支持金具の例を下図に示す。



コンクリート埋設配管の結束間隔



専用支持金具の例

2016.08.24

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者						法適合確認欄		検証者	
一級建築士		一級建築士		一級建築士		一級建築士			
第280187号		第312528号		第365088号		第138771号	構造設計一級建築士 第3038号		
中川　崇		藪島　健夫		小林　紗矢		高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治	

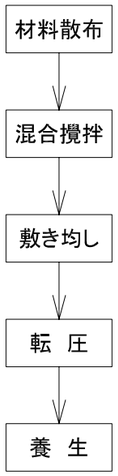
飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S － 014
梁貫通補強規準図	縮尺 1／A1-A3-	日付 2019.11.15
		No

S-014_SEIHE_FJTOK.dwg

浅層混合処理工法特記仕様書

1 工法概要

本工法は現地盤土とセメント系固化材及びセメントとをバックホウで混合し、所要の強度を有する改良体を造成する工法である。



2 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか、「改訂版　建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針　平成17年2月」((財)日本建築センター)による。
改良厚さ、土量、位置および固化材の配合等は、土質や地盤状況により変更することがある。
本工事に先立ち、施工計画書を提出し監督員の承認を得るものとする。施工計画書には次の事項を明記する。

(1) 工事内容(改良厚さ、土量、位置、設計基準強度等)
(2) 工程表
(3) 施工方法(仕様固化材、配合量等)
(4) 施工機械
(5) 施工管理方法
(6) 品質管理方法
(7) 安全管理方法
(8) 請負業者の本工事責任者名
(9) 本工事施工業者名および施工責任者名

3 特記事項

(1) 改良厚さ、位置等は設計図による。
(2) 改良体の設計基準強度:Fc= 150 kN/m^2
(3) 必ず事前に配合試験を行い配合量の妥当性を確認する。

4 固化材配合量

(1) 固化材
セメント系固化材及びセメント
(2) 推定配合
1) 固化材量: 100 kg/m3
(上記配合は推定値であり、実施工における配合は、室内配合試験により決定する。)

5 施工機械

(1) 施工機械本体は、改良厚さに見合った掘削、混合能力を有すること。

6 施工

(1) 施工
改良対象地盤にマーキングしできあがった升目に改良材を散布する。
混合した改良土は、状況を見てできるだけ早期に転圧を行う。
改良土は、転圧完了後所定の強度を得るまで養生する。
施工に対して疑義が生じた場合は、直ちに監督員と協議し、その指示を受ける。
施工精度を満足しない場合は、監督員と協議しその指示を受け適切な処置をする。

7 施工管理

施工過程における管理方法は次の通りとする。
(1) 固化材散布量
マーキングに基づき1tフレコンを所定面積内に均一に散布する。
(2) 改良厚さ
混合中に機械を止めて、改良厚さをスタッフ等により測定する。
(3) 混合程度
固化材と改良対象土の色むらがなくなるまで混合する。

8 報告

工事完了後、次の事項について報告書をまとめて　部を監督員に提出する。
(1) 施工日報(改良厚さ、位置、土量、配合量、固化材使用量等)
(2) 固化材散布量、改良厚さの状況写真
(3) 管理試験結果

9 管理試験

(1) 一軸圧縮試験

管理試験	ﾓｰﾙﾄﾞｺｱ採取	3ヶ所

1)現場採取供試体(ﾓｰﾙﾄﾞｺｱ採取)
5ヶ所から改良土を採取し、寸法φ5cm×10cmの供試体を3個/箇所作成し、一軸圧縮試験を行う。
2)材令28日で各箇所の圧縮強度の平均値が設計基準強度を上回ること。

| | | |

ソイルセメントコラム地業特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、ソイルセメントコラム工法による地盤改良地業である。ソイルセメントコラム工法は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した撹拌装置を用いて、原地盤土と機械的に撹拌混合し、固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体（以下、コラムと称す）を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」(日本建築センター)による。

3. 特記事項

(1) コラムの径、掘削深度（設計コラム長＋空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
(2) コラムの設計基準強度はFc＝ 1,200（独立基礎部）、1,300（マット基礎部）、1,650（べた基礎部） kN/m2とする。
(3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
(4) 本工事工法は、改良体強度の品質が変動係数25%以下であることを「建設技術審査証明協議会（平成13年1月10日設立）」に属する機関で証明された技術審査証明取得工法とし、事前にその証明書を監理者に提出し、承認を得ることとする。
又、品質確保の為、技術審査証明取得業者が常駐管理の元に施工を行う。

4. 施工計画

(1) 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したものとする。
(2) 施工計画書
工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- 工事件名及び工事場所
- コラム仕様及び数量
〔コラム径、掘削深度（設計コラム長＋空掘長）、本数、
設計基準強度 〕
- 工事期間及び工程
- 工事の組織(建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名及び責任者、各種作業の主たる従事者)
- 施工手順
- 施工管理項目
- 固化材配合条件
- 施工機器
- 品質検査
- 安全衛生対策
- 土質柱状図
- コラム伏図
- 技術審査証明書（写）

5. 施工

(1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
(2) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
a. 撹拌混合装置をコラム心に合わせる。
b. 固化材液を吐出せずに、空掘り部を所定の深度まで掘進する。
c. 固化材液を吐出しながら掘進・撹拌混合する。
d. 注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の練り返しを行う。
e. 先端練り返し工程が終了したら、撹拌軸を逆回転し引上げ撹拌混合する。
(3) 設計図書に示された支持地盤に着底する長さを実施コラム長という。
(4) 本工事により排出される発生残土は場内処分を原則とする。
(5) 施工に対して疑義が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6. 施工機械

(1) 共回り現象を防止する機構を有し、固化材と原位置土を確実に撹拌混合できる撹拌装置を用いること。
(2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
(3) 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
(4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

(1) 固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。
(2) 配合強度
変動係数を25%と想定し、9項に規定する抜き取り箇所数N、合格確率 80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4～6	7～8	9
α	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

Xf＝α×Fc ［α:割り増し係数、Xf:配合強度］

(3) 室内配合試験
固化材液の配合（W／C）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。
設計段階で想定する添加量 【 400 kg／m3 】

8. 施工管理

(1) 施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。

① 形状・寸法	:鉛直性	改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する
	コラム芯	事前にコラム芯にマークを設ける
	掘削深度	深度計で計測し記録する
	コラム径	撹拌装置の形状・寸法を記録する
② 固化材	:材料計量	水、固化材の重量
	固化材液の密度	マッドバランス等
	固化材液の吐出量	流量計で計測し、記録する
③ 撹拌混合度	:掘進・引上げ速度	速度計で計測し、記録する
④ 支持地盤	:掘進速度・オーガー電流値（又はトルク値）	
	速度計・電流計（又はトルク計）で計測し、記録する	
（着底判定(電流値・トルク値)は、先行コラムの施工状況により、監督員と協議して決定する）		

(2) コラムの芯ズレ
コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員（監理者）と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると判断した場合、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。
(3) 施工の立会い
建築工事の請負者は、本地業責任者(請負業者の中から選定)及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9. 品質検査

(1) 検査対象群、検査対象層及び調査箇所数
① 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。
② 検査対象層は【盛土】【強風化泥岩・炭質泥岩】【石炭】 であり、設計対象層を 【盛土】 とする。
ただし、設計対象層以外の平均強度が設計対象層の平均強度より小さい場合は、
最も小さい平均強度の層を設計対象層とする。
③ 調査箇所数（1検査対象群に対して）
頭部コア 100コラムに1ヶ所
深度コア 100コラムに1ヶ所
深度コアについては、内1ヶ所については、コアボーリングによるコア採取率を調査し、他の箇所については、モールドコアによってもよい。
(2) コア採取率による調査
コアボーリング調査の内、検査対象群に1ヶ所の割合でコア採取率を調査する。
コア採取率が、全長に対して粘性土で90%、砂質土で95%以上、深さ1m毎に粘性土85%以上、砂質土で90%以上あることを確認する。
コア抜きした穴はセメントミルク等で充填する。
(3) 合否の判定
① 設計対象層についての抜取箇所数をNとする。1ヶ所あたりは3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
② 一軸圧縮試験は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
③ 検査手法は品質のバラツキを想定する場合の検査手法Aによる。
④ 検査手法Aによる品質検査
合否の判定は検査対象層におけるNヶ所（抜取箇所数）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。

$\overline{X}N \geqq XL = Fc + ka \cdot \sigma$
$\overline{X}N$: Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値(kN/m2)
XL: 合格判定値(kN/m2)
Fc: 設計基準強度(kN/m2)
ka: 合格判定係数
σ：標準偏差(kN/m2)＝v・qud　（v：変動係数、品質確認書により想定する　qud:想定した平均一軸圧縮強さ(kN/m2)）

抜き取りヶ所数N	1	2	3	4～6	7～8	9
合格判定係数 ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10. 報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に3部提出する。

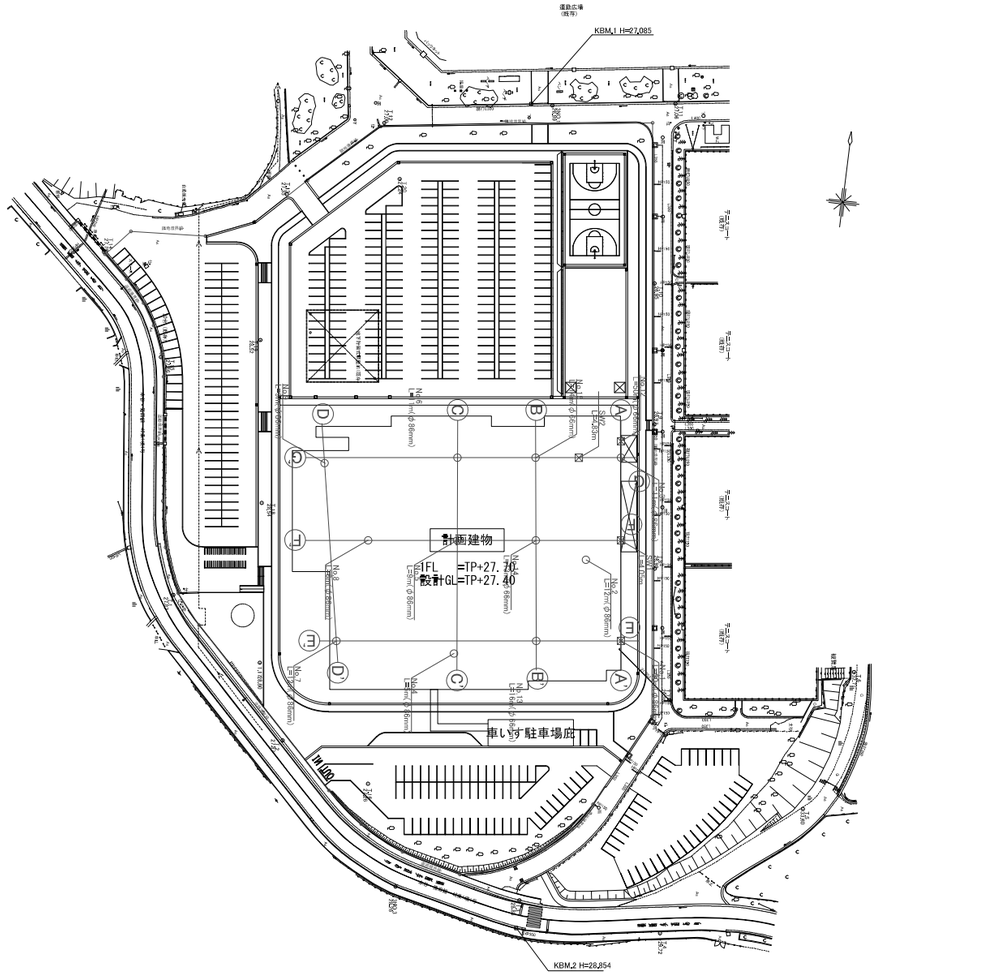
① コラムの伏図及び番号
② コラムの施工日
③ コラムの径及び実施コラム長
④ 掘削深度
⑤ 掘進速度及び引き上げ速度
⑥ 掘進速度及び電流値（又はトルク値）
⑦ 固化材液の配合と固化材の使用量
⑧ コア供試体の一軸圧縮強度試験結果及びボーリングコアを用いたコア採取率
⑨ 合否判定結果

11. 六価クロム溶出試験

本工事は、施工前において六価クロム溶出試験を行い、その結果が満足することを確認する。
試験方法はセメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）による。

調査位置平面図

飯塚市鯰田地内



調査位置凡例

- ⊕ ボーリング位置(No.2No.4～No.9,No.13～No.15)（追加）
- ⊠ ボーリング位置（炭素深度調査）(No.1No.12)（追加）
- △ CBR調査地点(No.10～NO.11)（No.10は浅所より岩盤が出現したため中止）
- ⊠ スウェーデン式サウンディング（追加）(SW1～SW2)

ボーリング調査位置図

※1FL=設計GL+0.3m(H=27.700m)
※設計GL H=27.400m

ボーリング柱状図

調査名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	Bor. No. 1	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内	北緯	33° 39′ 23.22″
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 31年 2月 28日	東経	130° 42′ 17.95″
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092-571-2764）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進
孔口標高	27.29m	角度	上 180° 90° 0° 下	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°
総掘進長	30.00m	地盤勾配	鉛直 45° 90° 0°	使用機種	
コア鑑定者	井上　進	ボーリング責任者	本田　昌弘		
試錐機	東邦D1-B				
エンジン	NFAD13	ポンプ	NS200-A		

▽設計GL =27.40m

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分
1	26.79	0.50		礫混じり土	褐						GL~0.60mまで製握。 礫混じり 砂主体。	
2	25.84	1.45		礫混じり粘土	黒褐						黒褐色のボタ主体で礫混じり粘土質砂状を呈す。	
3	23.29	4.00		礫混じり砂質粘土	褐灰						礫混じり 砂質粘土主体。 部分的に泥岩の風化残孤礫を少量混入する。	
4	22.29	5.00		砂質粘土	白～褐						強風化した泥岩起源の礫土でコアはカッターナイフが容易に突き刺さる程度。深さ4.80付近は黒褐色のボタ土主体。	
5	21.29	6.00		強風化泥質岩	黒褐～灰	D	VI	d	δ		軟質で固結土状コア。指圧で容易に砕ける。石炭を薄く挟在する。	
6	19.94	7.35		泥岩	暗緑灰	C	II	b	γ		岩片～短柱状コアで採取される。 岩片はハンマー錘打で砕ける。	
7	18.64	8.65					I		β		20～30cmの長柱状コアで採取される。岩片はハンマー錘打で割れる程度。岩片はカッターナイフで傷が付く程度。	
8	18.34	8.95		砂岩	灰	C	I	a	β		細粒砂岩で柱状コアで採取される。礫石前部である	
9				泥岩	緑灰	C	I	b	β		20～50cm以上の長柱状に採取される。 岩片はカッターナイフで傷が付く程度。	

（ルジオン 標準貫入）試験

GL-1.71m
孔内水平載荷試験
最大圧 3.69MPa
GL-5.6m

孔内水位 (m)	測定月日	N値
3	12/26	12

掘進	掘進速度（cm/時）	孔径 mm	コアチューブ・ビット・孔壁保護	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)
1	200	140	ノンコアリング	0.4	60	0	0	0
2	200	116	ダブルチューブコアリング	0.4	60	0	0	0
3	150	86		0.4	60	0	14	14
4	100	66		0.2	60	0	14	14
5	100	66		0.2	80	0	14	14
6	80	66	ノンコアリング	0.2	80	0.05	14	14
7	70	66		0.2	80	0.1	14	10
8	70	66		0.2	120	0.1	14	10

ボーリング柱状図

調査名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	Bor. No. 2	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内	北緯	33° 39′ 23.97″
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 31年 2月 28日	東経	130° 42′ 17.43″
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092-571-2764）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進
孔口標高	27.29m	角度	上 180° 90° 0° 下	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°
総掘進長	12.00m	地盤勾配	鉛直 45° 90° 0°	使用機種	
コア鑑定者	井上　進	ボーリング責任者	小浜　美希		
試錐機	YBM-05				
エンジン	NFAD8	ポンプ	GP-3		

▽設計GL =27.40m

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分
1	26.59	0.70		礫混じり	褐灰						GL~0.60mまで製握。 礫混じり 砂主体。	
2				礫混じり砂質粘土（礫混じり砂質粘土）	淡黄褐						礫混じり砂質粘土主体で柔らかい。 GL~4.60mから ボタ土を挟む。 GL~5.0m付近、木片、草根を混入する。	
3					黒灰							
4												
5	21.24	5.45		強風化泥質岩	暗灰	E	II	d	ε		風化著しく固結土状コアを呈すが、カッターナイフが突き刺さり、脆くボロボロに崩れる程度。	
6	20.84	6.45		強風化泥質岩	白灰	E	II	d	ε		強風質泥岩で固結土状コア カッターナイフで削れ、岩石部まで突き刺さる。 深さ7.0付近では採進中に湧水がみられた。	
7	19.65	7.65		砂岩	黄灰	D	I	c	γ		細粒砂岩で固結土状コアで採取される。 一部は岩片主体コアで採取される。風化面は茶色を呈する。岩片も褐色化している。	
8	19.39	7.90										
9	19.09	8.20										

（ルジオン 標準貫入）試験

GL-0.80m
孔内水平載荷試験
最大圧 3.69MPa
GL-7.6m

孔内水位 (m)	測定月日	N値
1.8	12/26	50

掘進	掘進速度（cm/時）	孔径 mm	コアチューブ・ビット・孔壁保護	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)
1	150	116	ノンコアリング	0.4	60	0	0	0
2	150	86	ダブルチューブコアリング	0.4	60	0	0	0
3	150	86		0.4	60	0	0	0
4	150	86		0.4	60	0	0	0
5	150	86		0.4	60	0	0	0
6	100	86		0.2	200	0	0	0
7	100	86		0.2	200	0.1	15	15
8	100	86		0.2	200	0.1	15	15

| | | | | | | | | | | | |

ボーリング柱状図

調　査　名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託

事業・工事名

ボーリング名	Bor. No. 3	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内		北緯	33° 39′ 25.01″	
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 31年 2月 28日		東経	130° 42′ 17.69″	
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092-571-2764）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進	コア鑑定者	井上　進	ボーリング責任者	本田　昌弘
孔口標高	27.34m	角度	上90° 下0°	方向	北0° 東90° 南180° 西270°	地盤勾配	自由90° 80° 0°	使用機種	
総掘進長	11.00m								
試錐機	東邦D1-D								
エンジン	NFAD8	ポンプ	GP-3						

▽設計GL =27.40m

GL-1.70m
改良長 4.100
GL-5.8m

ボーリング柱状図

調　査　名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託

事業・工事名

ボーリング名	Bor. No. 4	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内		北緯	33° 39′ 22.89″	
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 31年 2月 28日		東経	130° 42′ 16.02″	
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092-571-2764）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進	コア鑑定者	井上　進	ボーリング責任者	百田　忠義
孔口標高	27.43m	角度	上90° 下0°	方向	北0° 東90° 南180° 西270°	地盤勾配	自由90° 90° 0°	使用機種	
総掘進長	5.00m								
試錐機	東邦D0-D型								
エンジン	ヤンマー製 NFD-10	ポンプ	クボタSD31						

▽設計GL =27.40m

GL-1.7m
GL-6.6m

ボーリング柱状図

調　査　名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託

事業・工事名

ボーリング名	Bor. No. 5	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内		北緯	33° 39′ 24.00″	
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 30年 2月 28日		東経	130° 42′ 15.89″	
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092-571-2764）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進	コア鑑定者	井上　進	ボーリング責任者	野田　好之介
孔口標高	27.47m	角度	上90° 下0°	方向	北0° 東90° 南180° 西270°	地盤勾配	自由90° 80° 0°	使用機種	
総掘進長	9.00m								
試錐機	YBM-05								
エンジン	EA7-NB	ポンプ	GP-3						

▽設計GL =27.40m

GL-1.71m
GL-6.6m

ボーリング柱状図

調　査　名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託

事業・工事名

ボーリング名	Bor. No. 6	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内		北緯	33° 39′ 24.83″	
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 31年 2月 28日		東経	130° 42′ 15.78″	
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092-571-2764）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進	コア鑑定者	井上　進	ボーリング責任者	貞弘　史郎
孔口標高	27.48m	角度	上90° 下0°	方向	北0° 東90° 南180° 西270°	地盤勾配	自由90° 90° 0°	使用機種	
総掘進長	11.00m								
試錐機	YBM-05								
エンジン	NFAD8	ポンプ	GP-3						

▽設計GL =27.40m

GL-1.71m
孔内水位 GL-4.46m 観測日 12/27
GL-6.6m

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	葩島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	16779	図面番号 S — 018
ボーリング柱状図（2）	縮尺 A1:NS A3:NS	日付 2019. 11. 15	

2019101015資料ビューロ審査終了図

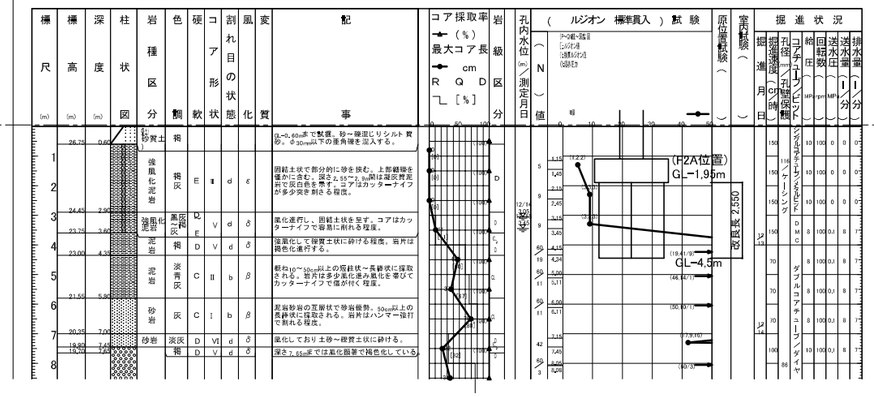
ボーリング柱状図

調査名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託　　ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	Bor. No. 7	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内		北緯	33° 39′ 22.87″
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 31年 2月 28日		東経	130° 42′ 14.63″
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092－571－2764）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進	コア鑑定者 井上　進	ボーリング責任者 百田　忠義
孔口標高	27.35m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配 鉛直	使用機種
総掘進長	12.00m	試錐機	東邦D0－D型				
		エンジン	ヤンマー製　N F D －10	ポンプ	クボタSD31		

▽設計GL ＝27.40m



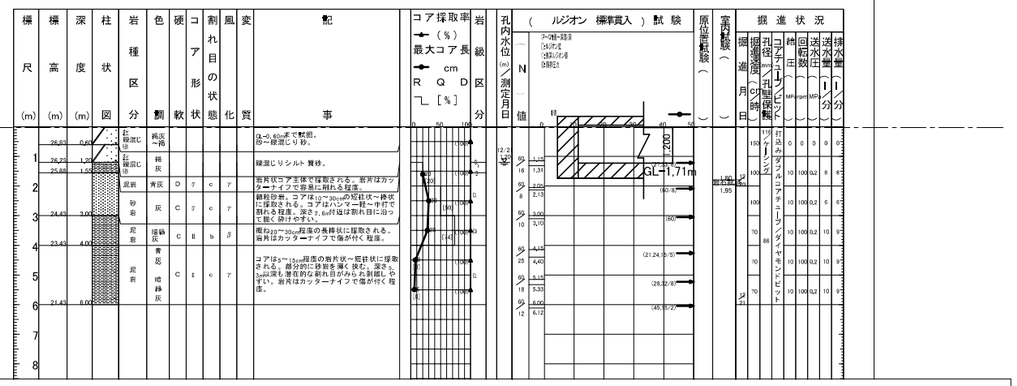
ボーリング柱状図

調査名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託　　ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	Bor. No. 8	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内		北緯	33° 39′ 23.90″
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 31年 2月 28日		東経	130° 42′ 14.85″
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092－571－2764）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進	コア鑑定者 井上　進	ボーリング責任者 百田　忠義
孔口標高	27.43m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配 鉛直	使用機種
総掘進長	6.00m	試錐機	東邦D0－D型				
		エンジン	ヤンマー製　N F D －10	ポンプ	クボタSD31		

▽設計GL ＝27.40m



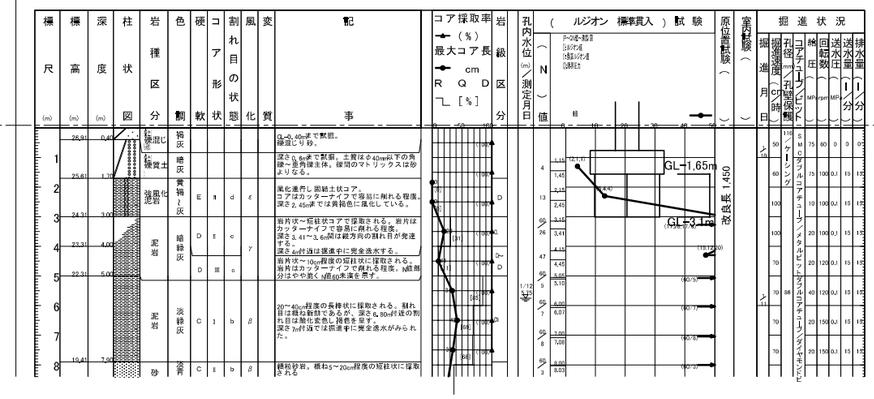
ボーリング柱状図

調査名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託　　ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	Bor. No. 9	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内		北緯	33° 39′ 24.59″
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 31年 2月 28日		東経	130° 42′ 14.22″
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092－571－2764）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進	コア鑑定者 井上　進	ボーリング責任者 小浜　美希
孔口標高	27.31m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配 鉛直	使用機種
総掘進長	9.00m	試錐機	YBM－05				
		エンジン	NFAD8	ポンプ	GP－3		

▽設計GL ＝27.40m



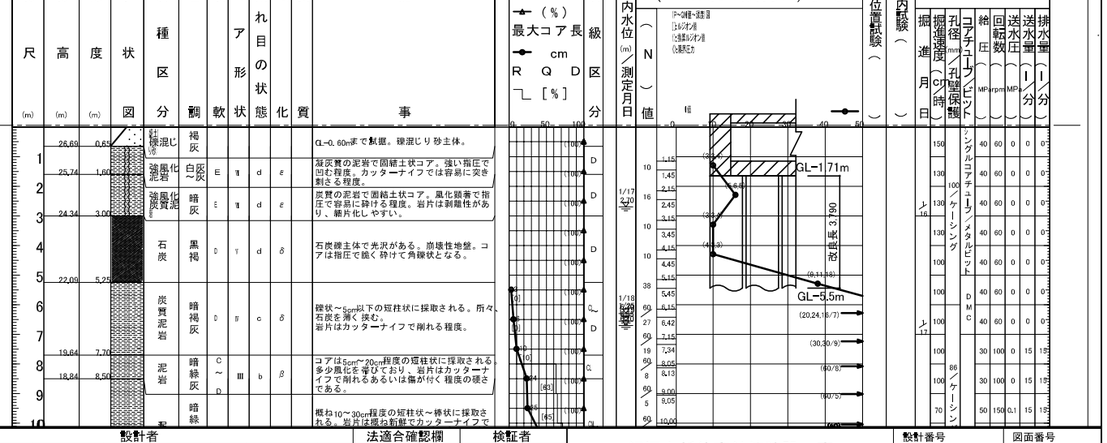
ボーリング柱状図

調査名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託　　ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	Bor. No. 12	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内		北緯	33° 39′ 25.18″
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 31年 2月 28日		東経	130° 42′ 17.67″
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092－571－2764）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進	コア鑑定者 井上　進	ボーリング責任者 小浜　美希
孔口標高	27.34m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配 鉛直	使用機種
総掘進長	50.00m	試錐機	YBM－05				
		エンジン	NFAD8	ポンプ	GP－3		

▽設計GL ＝27.40m



飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1－10078号	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第312528号 葩島 健夫	一級建築士 第365088号 小林 紗矢	一級建築士 第138771号 高橋 敏夫	構造設計一級建築士 第3038号 西田 修治	西田 修治	ボーリング柱状図（3）

設計番号 16779　図面番号 S － 019　縮尺 1/A1:NS A3:NS　日付 2019. 11. 15

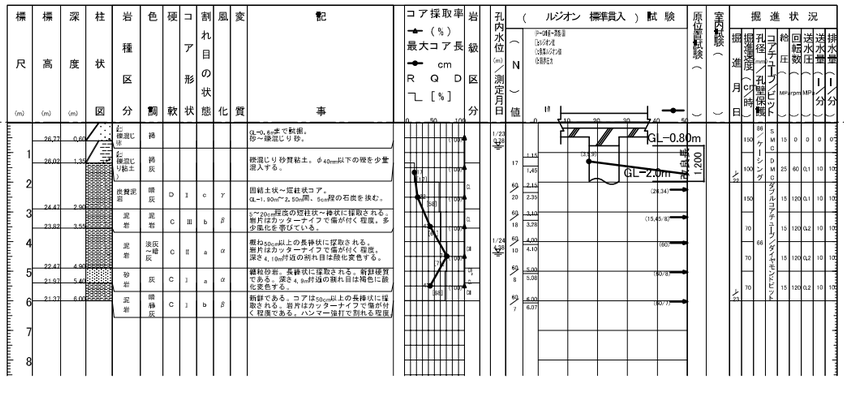
20191015資料ビューロー搬変終了図

ボーリング柱状図

調　査　名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託　　ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	Bor. No. 13	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内	北緯	33° 39′ 23.12″
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 31年 2月 28日	東経	130° 42′ 16.97″
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092−571−2784）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進
孔口標高	27.37m	角度	上180° 90° 下0° 0°	方向	北0° 90°東 180°南 270°西	地盤勾配	鉛直90° 0°	使用機種	コア確定者	井上　進	ボーリング責任者	田代　守
総掘進長	6.00m							掘削機エンジン	東邦D0−D型 NFAD8	ポンプ	GP−3

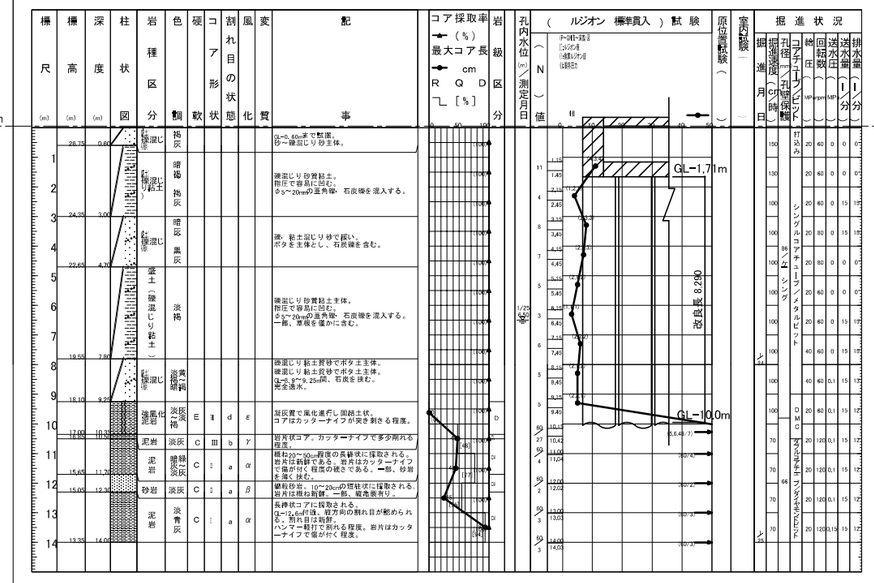


ボーリング柱状図

調　査　名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託　　ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	Bor. No. 15	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内	北緯	33° 39′ 24.91″
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 31年 2月 28日	東経	130° 42′ 16.70″
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092−571−2764）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進
孔口標高	27.35m	角度	上180° 90° 下0° 0°	方向	北0° 90°東 180°南 270°西	地盤勾配	鉛直90° 45°	使用機種	コア確定者	井上　進	ボーリング責任者	本田　昌弘
総掘進長	14.00m							掘削機エンジン	東邦D1−D NFAD8	ポンプ	GP−3

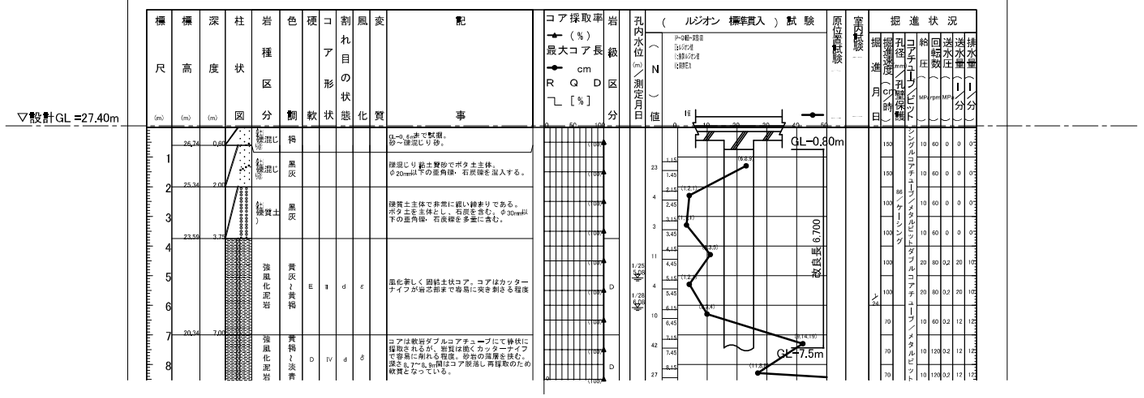


ボーリング柱状図

調　査　名　飯塚市新体育館等建設工事地盤調査業務委託　　ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	Bor. No. 14	調査位置	福岡県飯塚市鯰田地内	北緯	33° 39′ 24.11″
発注機関	飯塚市役所　都市建設部　建築課	調査期間	平成 30年 11月 28日 ～ 31年 2月 28日	東経	130° 42′ 16.83″
調査業者名	日本地研株式会社 電話（092−571−2784）	管理技術者	川崎　新吾	現場代理人	井上　進
孔口標高	27.34m	角度	上180° 90° 下0° 0°	方向	北0° 90°東 180°南 270°西	地盤勾配	鉛直90° 0°	使用機種	コア確定者	井上　進	ボーリング責任者	田代　守
総掘進長	13.00m							掘削機エンジン	東邦D0−D型 NFAD8	ポンプ	GP−3



飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号

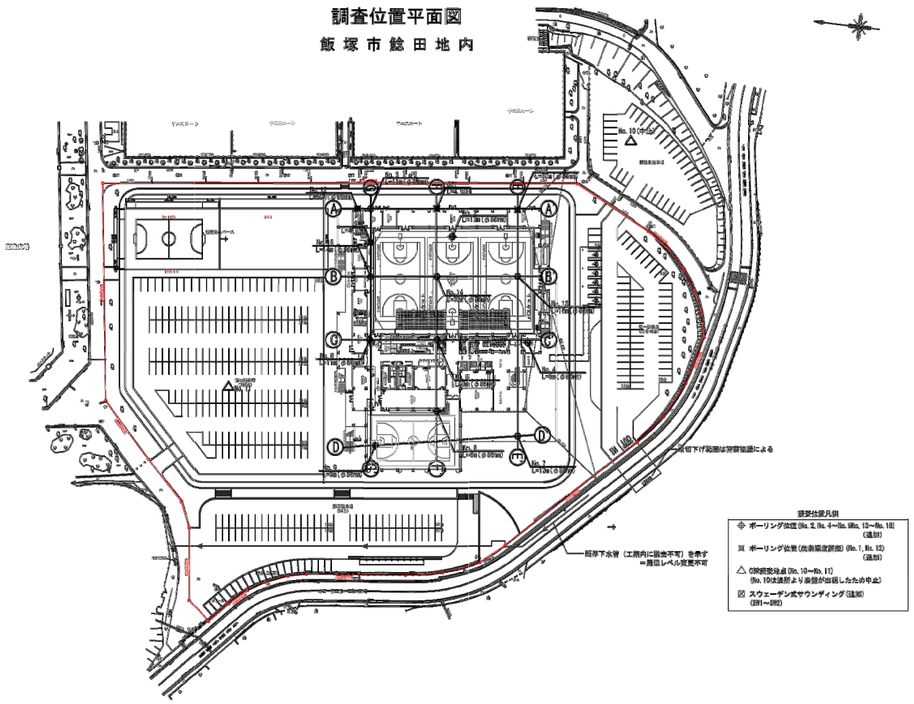
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造動計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	酷島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S − 020
ボーリング柱状図（4）	縮尺 A1:NS A3:NS	日付 2019. 11. 15

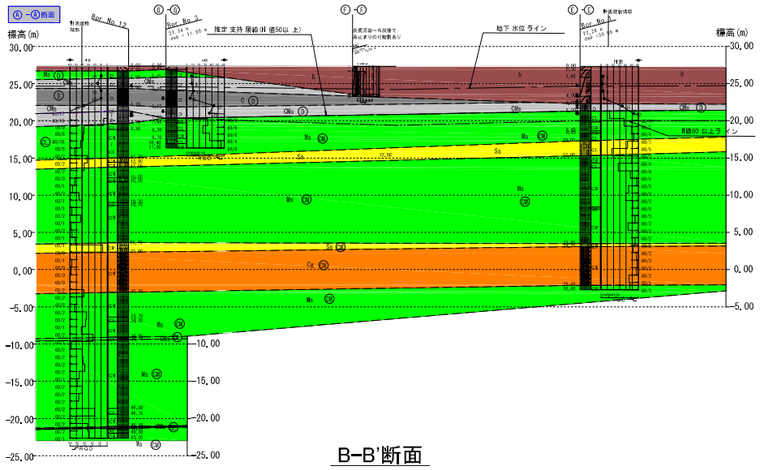
20191015過材ビュー印審査終了図

調査位置平面図

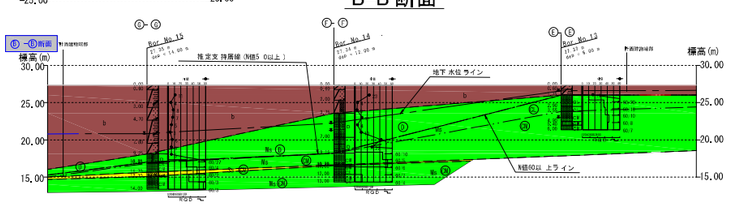
飯塚市鯰田地内



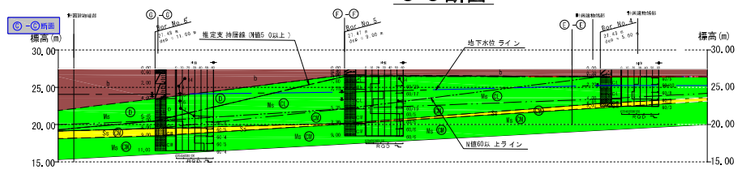
A–A'断面



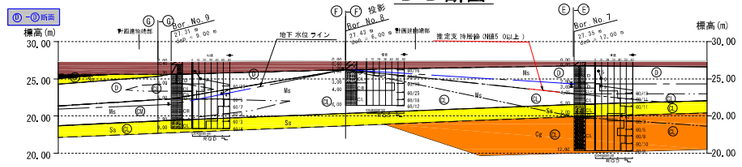
B–B'断面



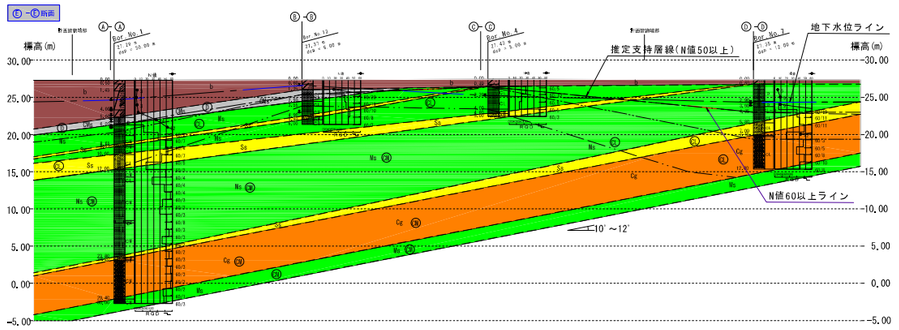
C–C'断面



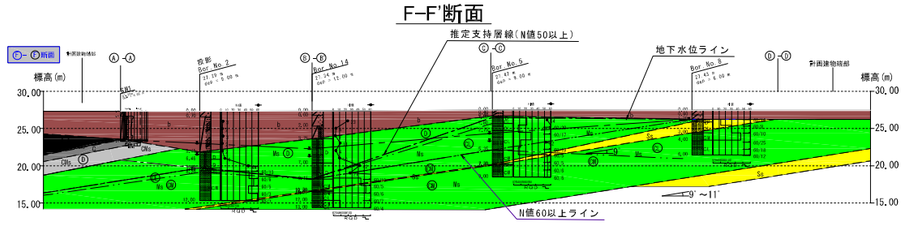
D–D'断面



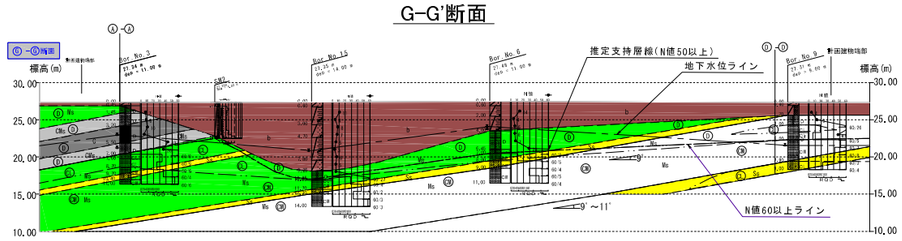
E–E'断面



F–F'断面



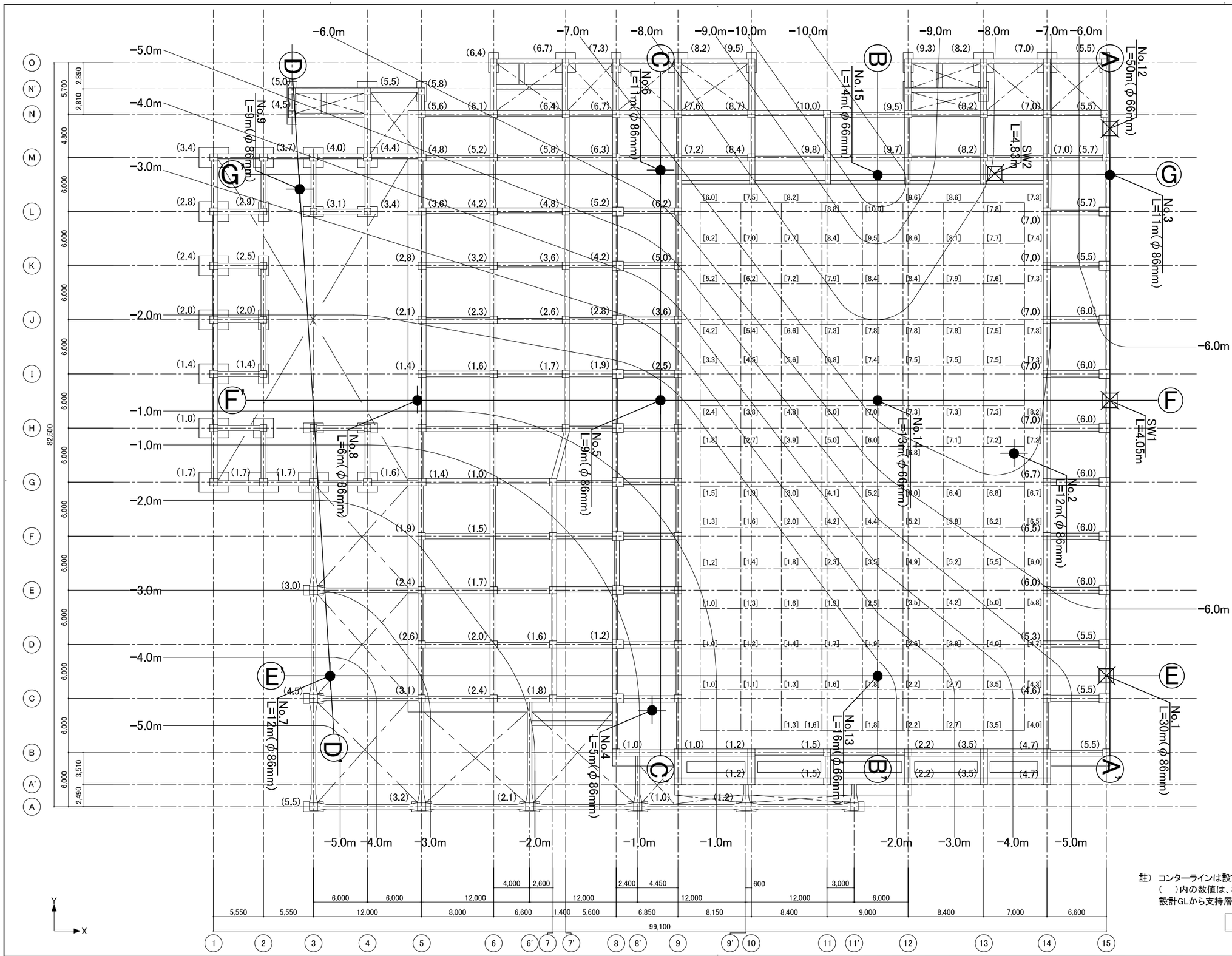
G–G'断面



地質凡例

地質時代			地層名	記号	記事
新生代	第四紀	完新世	盛土b		敷地造成に伴う盛土。 主に泥岩や砂岩の強風化岩土起源の礫混じり粘土～礫混じり土より成る。部分的に黒褐色のボタ土を含む。 層厚は概ね0.5m前後～4m程度が多いが、Bor.No.15では最大9m程度が確認された。N値は概ね10未満を示し、軟らかい～中位のコンシステンシーを示す。敷地北側付近では透水性の良い known まった帯状～サラサラした砂が分布する。
		更新世	泥岩	Ms	敷地の基盤岩で最も主体に分布する。 新鮮部では暗灰～淡灰色を呈し50cm以上の長持状に採取される。 風化部では軟質化進み、固結土状を呈し、N値は10未満である。
	第三紀	始新世	石炭	C	ボーリングNo.1孔、No.3孔、No.12孔で確認された。層厚はNo.3孔とNo.12孔で最も厚く2.3m程度である。No.15ではO.2mと非常に薄い。 コアは礫喋～角礫状に砕けやすく指圧にてバラバラに崩壊する。 色調は黒褐色で光沢がある。
			炭質泥岩	CMs	薄い石炭層を挟む泥岩層で、ボーリングNo.1孔、No.3孔、No.12孔で確認された。石炭層の上下に分布し、一部No.12孔の深部でも薄く分布している。強酵の炭質泥岩は強風化しており、カッターナイフで容易に削れる程度である。深部では多少高さを帯びているが岩片状～角礫状を呈す。
			砂岩	Ss	泥岩層内に層厚数10cm～2m程度で薄層状に分布する。概ね細粒砂岩が多く比較的新鮮で暗灰～青灰色を示す。風化部では褐色を帯びて割れ目が発達し岩片状～短柱状コアを呈す。
			礫岩	Cg	ボーリングNo.1孔、No.7 孔、No.12孔が確認された。No.1孔とNo.12孔では分布深度が深いため新鮮岩である。No.7孔では、10~30cm程度の短柱状～長持状に採取されるが、褐色に風化を帯びている。含まれる礫は直径30mm以下の円礫が多い。

| | | |

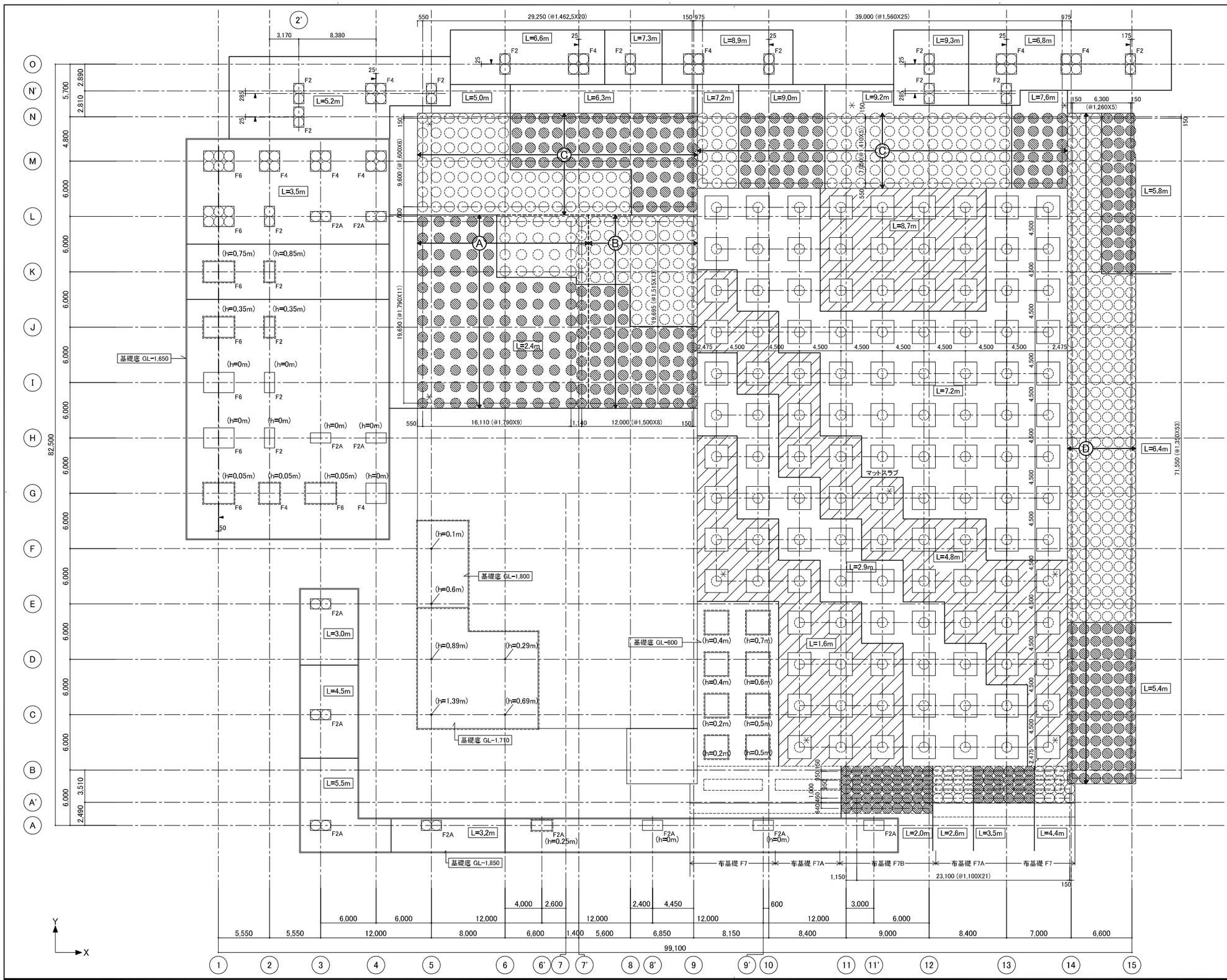


註） コンターラインは設計GLから支持層（泥岩層）までの想定深さを示す
（　）内の数値は、柱位置（建物）改良コラム位置（マットスラブ部）の
設計GLから支持層までの想定値を示す

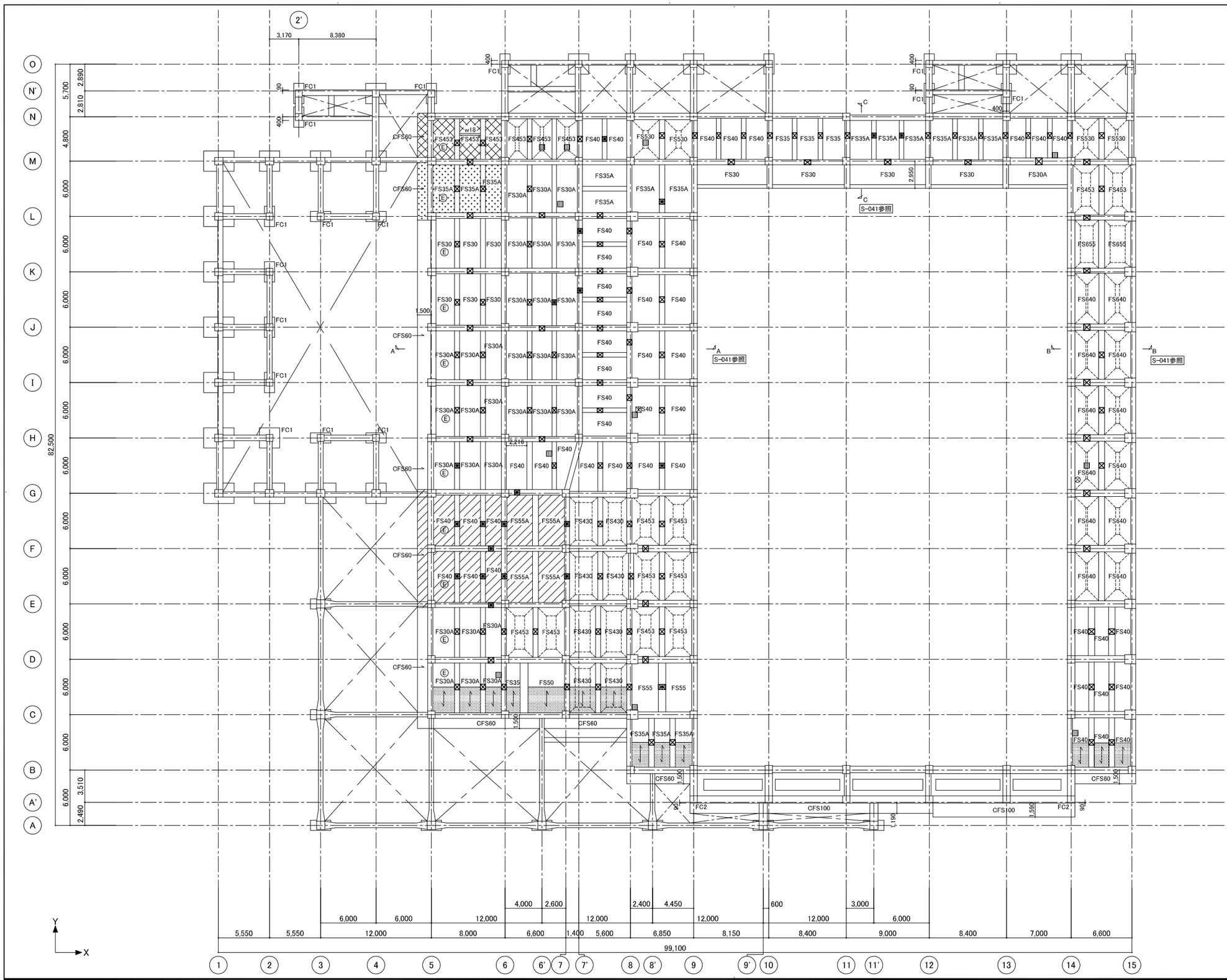
支持層想定図　　S＝1/200

※本図は地質調査報告書より想定

| | | |


凡 例
ラップルコンクリートを示す
（仕様は基礎リストによる）
（h= ** m） ラップルコンクリート長を示す
h=0はラップル無しを示す
柱状改良仕様
工 法 深層混合処理工法
改良径 1,100φ
本 数 1,168本
改良底L 図 示
設計支持力（長期）
コラムの無いヵ所 Fe= 500 KN/㎡
独立基礎 Fe= 300 KN/㎡
マットスラブ Fe= 50 KN/㎡
ベタ基礎 Ⓐ Fe= 150 KN/㎡
Ⓑ Fe= 200 KN/㎡
Ⓒ Fe= 210 KN/㎡
Ⓓ Fe= 270 KN/㎡
布基礎 Fe= 350 KN/㎡
設計基準強度 独立基礎 Fc=1,200KN/㎡
（地盤改良コラム） ベタ・布基礎 Fc=1,650KN/㎡
マットスラブ Fc=1,300KN/㎡
独立基礎 (F2・F2A・F4・F6)
ベタ基礎
マットスラブ
布基礎 (F7・F7A・F7B)
L= ** m は設計GLからの平均改良杭下端レベル（改良底）を示す
F2 1,100 X 2,200 D=800
F2A 2,200 X 1,100 D=800
F4 2,200 X 2,200 D=900
F6 3,300 X 2,200 D=1,000
（駐）特記ナキ限り
設計GL= 27.40m
基礎底 GL-1,000
基礎芯＝柱芯とする
▶ は基礎芯を示す
特記ナキヵ所は通り芯振り分けとする
※ 印は試験コラム(支持層レベル確認)を示し10ヶ所と設定
基礎・コラム伏図 S＝1/200

| | | |



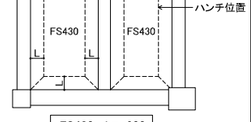
耐圧版 下端筋の補強要領

CFS60・CFS75の応力を本体建物耐圧版へ伝達させるため
耐圧版下端筋を補強する

1. Ly / Lx　範囲は長辺方向 下端筋 D19 @100とする
   Ly/2かつLx以上
2. Ⓔ 部は短辺方向 下端筋 D19 @100とする

凡 例

端部のせん断力に対してハンチを設け
設計必要厚さを確保する



FS430	L= 600
FS453	L= 900
FS530	L=1,200
FS640	L=1,200
FS655	L= 600

（註）特記ナキ限り

FS下端レベル	1FL−2,010 (GL−1,710)
	1FL−2,060 (GL−1,760)
	1FL−2,100 (GL−1,800)
	1FL−2,310 (GL−2,010)
FCは通り芯振り分けとする	
FC1	750X750
FC2	800X800

- は埋戻し範囲を示す
- は人通口600φを示す
- は人通口550φを示す
- 釜場 (W900 X D600 X H600)を示す

ピット 伏 図　　S=1/200

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号

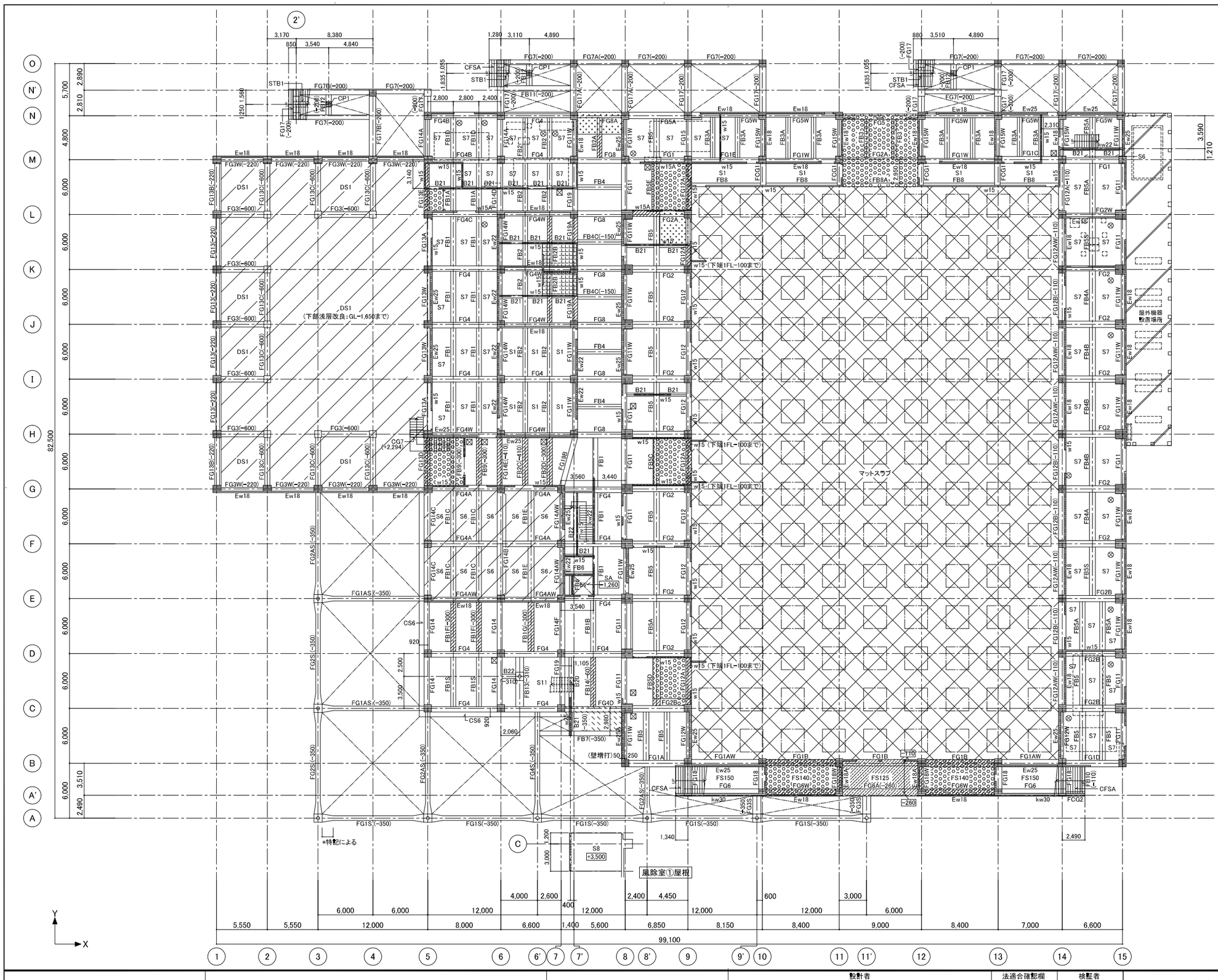
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	葭島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

飯塚市新体育館等建設工事

ピット伏図

設計番号	図面番号
16779	S − 024
縮尺 1/A1:200 A3:400	日付 2019. 11. 15
	No

20191015過程ビュー印著者終了図



部材レベル表記		1FL=設計GL+300
記号	スラブ(S) 小梁(B) 天端	基礎梁(FG) 基礎小梁(FB) 天端
	1FL− 10	1FL− 10
	1FL− 40	1FL− 110
	1FL− 50	1FL− 60
	1FL−100	1FL−110
	1FL−150	1FL−150
	1FL−300	1FL−300
	1FL−500	――
	図 示	1FL−110
±○ は1FLからのスラブ天端レベルを示す		
(±○) は1FLからの梁天端レベルを示す		

(註)特記ナキ限り
壁符号 w18
スラブ符号 S2
小梁位置はスパン等分割とする
[ ] は設備基礎を示す
＊FG1S・FG1AS・FG2S・FG2AS・FG4S
水平ハンチ位置は 柱端より 1,200とする
は増打コンクリートを示す
は土間コンクリートを示す

※ 壁スリット位置は軸組図による

※ 柱符号は軸組図・柱芯線図による

（1階柱壁・基礎梁床伏図 見下げ図）

1 階 床 伏 図　　S=1/200

⊗ マンホール（600φ） ⊠ マンホール（600X600）

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

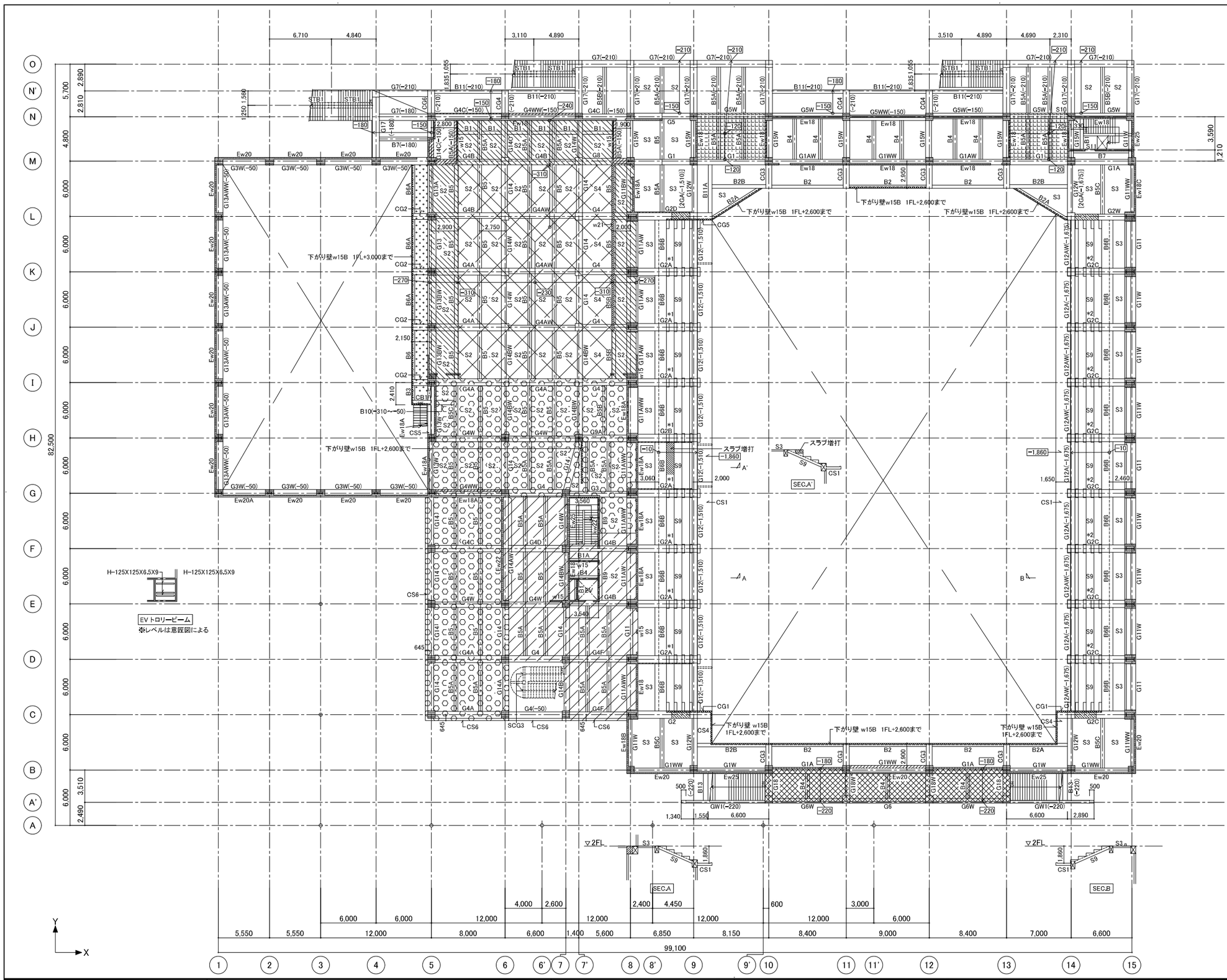
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	酢島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事

1階床伏図

設計番号	図面番号
16779	S − 025
縮尺 1/A1:200 A3:400	日付 2019.11.15
	No

20191015通材ビューの審査終了図



部材レベル表記			
記 号	スラブ(S) 天端	梁(G・CG) 天端	小梁(B) 天端
	2FL− 10	2FL− 10	2FL− 10
	2FL− 10	2FL− 50	2FL− 50
	2FL− 40	2FL− 50	2FL− 50
	図 示	2FL−150	2FL−150
	図 示	2FL−220	2FL−220
	図 示	2FL−310	2FL−310
	図 示	2FL−310	2FL−310
	2FL−310	2FL−310	2FL−310
±○ は2FLからのスラブ天端レベルを示す			
(±○) は2FLからの梁天端レベルを示す			
*1 梁天端 2FL−10〜−1,510			
*2 梁天端 2FL−1,675〜−10			

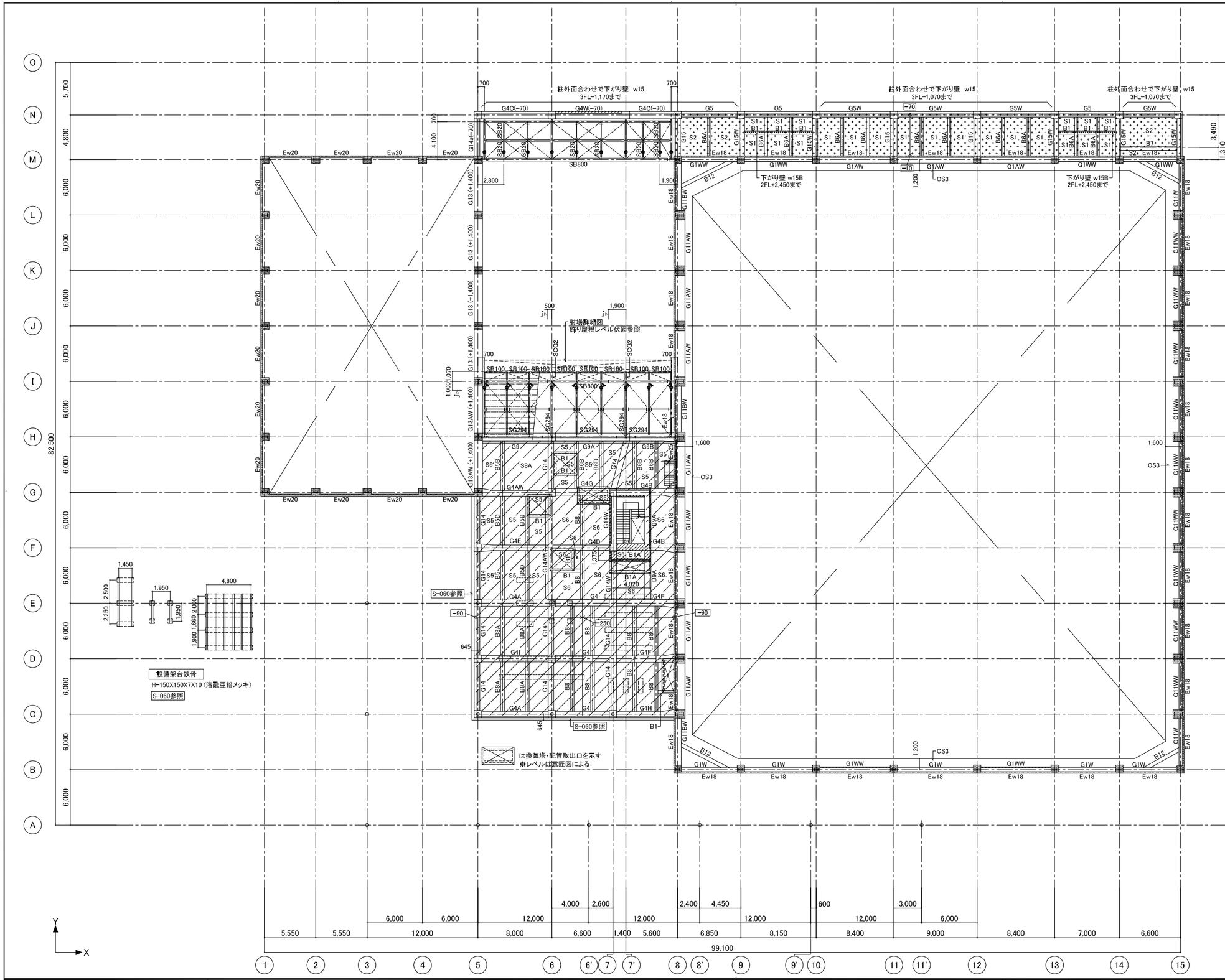
(註)特記ナキ限り
壁 符 号 w18
スラブ符号 S1
[ ] 内梁符号は下部梁を示す
小梁位置はスパン等分割とする
は下端増打コンクリートを示す
は増打コンクリートを示す

※ 壁スリット位置は軸組図による
※ 柱符号は軸組図・柱芯線図による

(2階柱壁・2階梁床伏図 見下げ図)

2 階 床 伏 図　　S=1/200

| | | |



（註）特記ナキ限り【的場（M−N 間）】

鉄骨小梁符号	SB30
鉄骨天端レベル	3FL+50 (M通り)〜±0 (N通り)
小梁天端レベルは取り合う梁天端に合わせる	
小梁位置はスパン等分割とする	
⊢⊣	は 補剛材（b1）を示す
●	は 小梁下部 L1 取付位置を示す
≻≺	は V4A (2L−65X65X6)を示す

（註）特記ナキ限り【射場（H−I 間）】

鉄骨小梁符号	SB25
鉄骨天端レベル	3FL+835（I通り)〜+750 (H通り)
SB100天端レベル	3FL+850
⊢⊣	は 補剛材（b1）を示す
◥	は 剛接合位置を示す
●	は 小梁下部 L1 取付位置を示す
⊢⊣	は モヤ C−100X50X20X2,3 @606 を示す
≻≺	は V4 (L−65X65X6)を示す
鉄骨ジョイント位置は柱・梁芯より 1,000とする	
ｉｊ	は鉄骨ジョイント位置を示す

部材レベル表記

記 号	スラブ(S) 天端	梁(G)・小梁(B) 天端
	3FL−50	3FL−50
	3FL−10〜−70	3FL−70
	3FL−90〜−250	3FL−250
土○	は3FLからのスラブ天端レベルを示す	
（土○）は3FLからの梁天端レベルを示す		

（註）特記ナキ限り

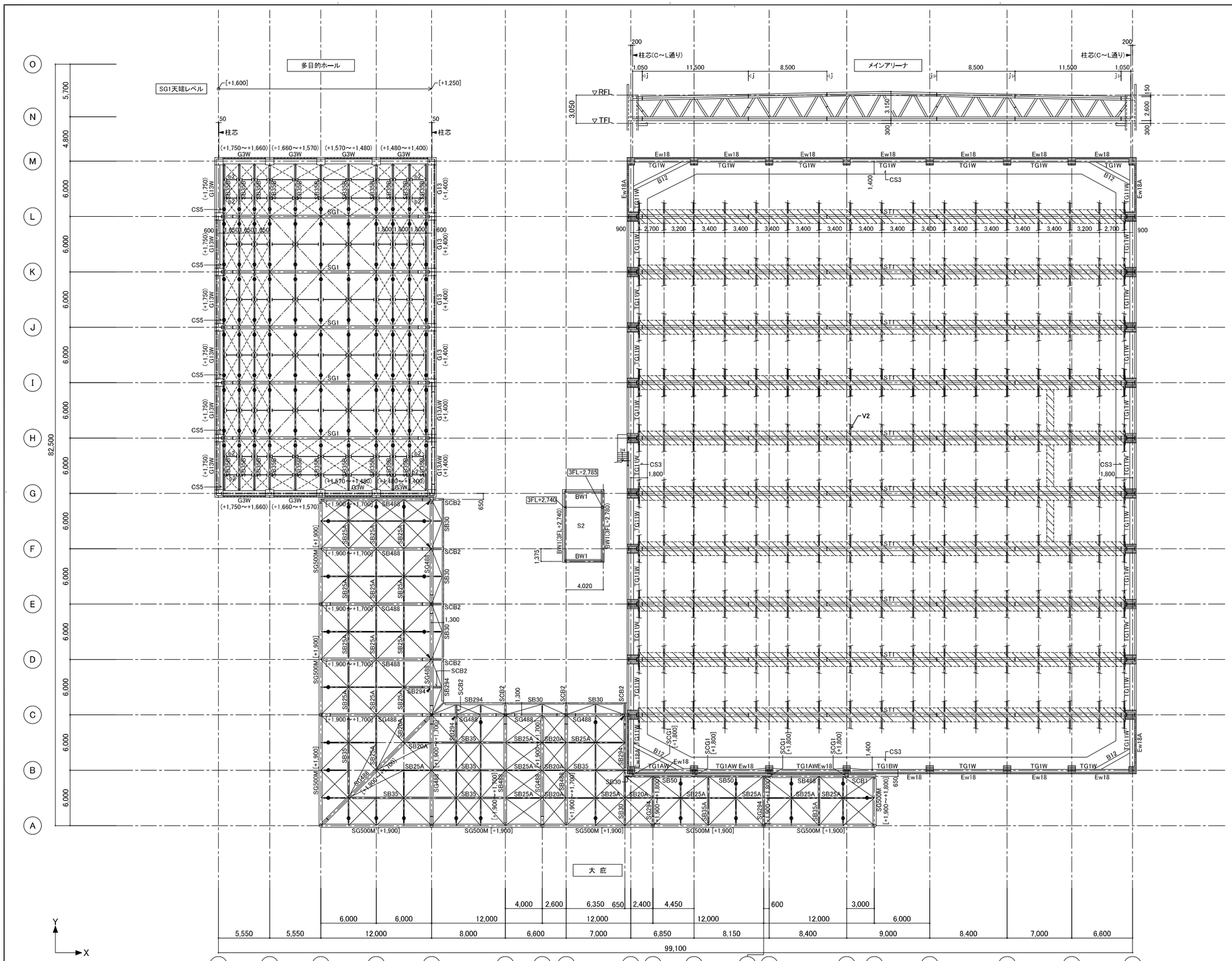
スラブ符号	S7A
水平ハンチ位置は柱端より1,200とする	
	は増打コンクリートを示す
	は設備基礎を示す

※ 壁スリット位置は軸組図による
※ 柱符号は軸組図・柱芯線図による

（3階柱壁・3階梁床伏図 見下げ図）

PH階（3階）床 伏 図　　S＝1/200

| | | |



（註）特記ナキ限り（多目的ホール）

鉄骨小梁符号	SB25
[±○]は3FLからの鉄骨天端レベルを示す	
SB25天端レベルは SG1天端 +50とする	
小梁位置はスパン等分割とする	
⊢⊣ は 補剛材 (b1)を示す	
⊐><⊏ は V10 (2L-90X90X13)を示す	
≻-≺ は V10A (○-165.2X6.0)を示す	
● は 小梁下部 L1 取付位置を示す	
鉄骨ジョイント位置は柱芯より SG1:1,500	
G13AW:1,000とする	

（註）特記ナキ限り（大庇）

鉄骨小梁符号	SB20
大梁天端レベル	3FL+1,700
[±○]は3FLからの鉄骨天端レベルを示す	
小梁天端レベルは取り合う大梁天端±0とする	
( ) はRC天端レベルを示す	
小梁位置はスパン等分割とする	
◣ は 剛接合位置を示す	
⊢⊣ は 補剛材 (b1)を示す	
⤫ は V1 (2L-75X75X6)を示す	
● は 小梁下部 L1 取付位置を示す	
鉄骨ジョイント位置は柱・梁芯より 1,000とする	

TFL = 3FL+2,870

（註）特記ナキ限り（メインアリーナ）

壁 符 号	w18
スラブ天端レベル	TFL±0
[±○] はTFLからのスラブ天端レベルを示す	
梁天端レベル	TFL±0
ST1下端レベル	TFL+300
G1AW・G1BW 水平ハンチ位置は	
柱端より 1,200とする	
▨ は点検歩廊を示す（詳細図参照）	
┤J├ は鉄骨ジョイント位置を示す	

※ 壁スリット位置は軸組図による

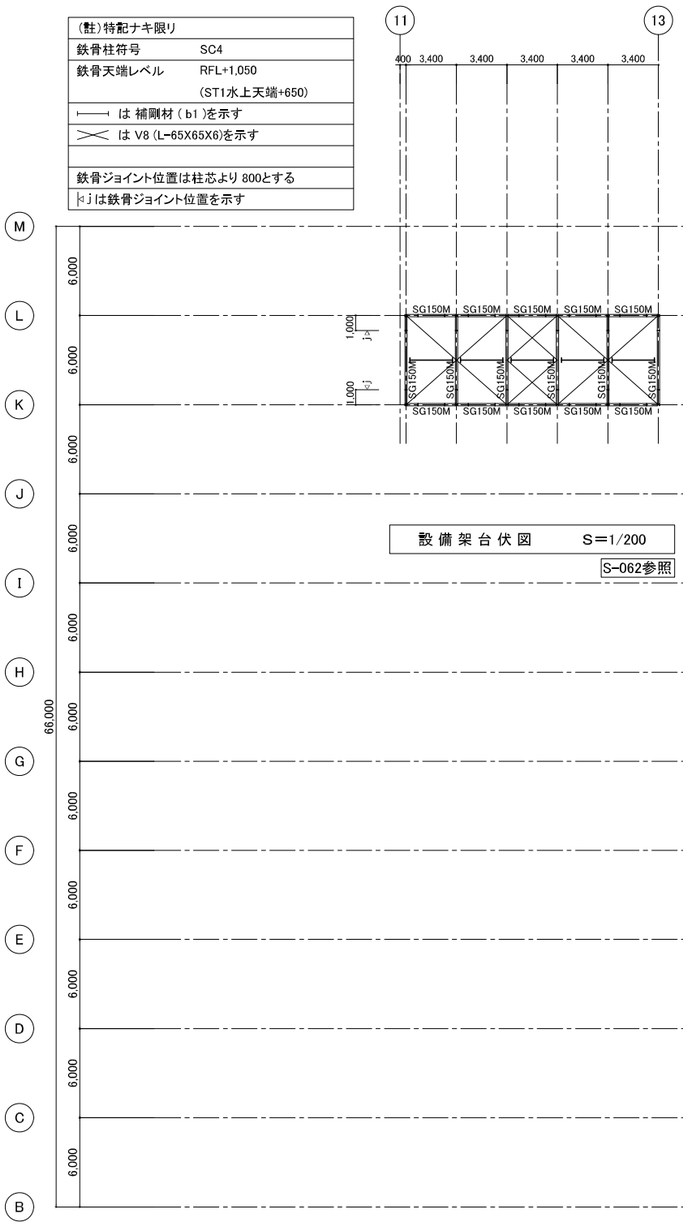
※ 柱符号は軸組図・柱芯線図による

（トラス階柱壁・トラス階梁床伏図 見下げ図）

鉄骨屋根伏図・トラス階伏図 S＝1/200

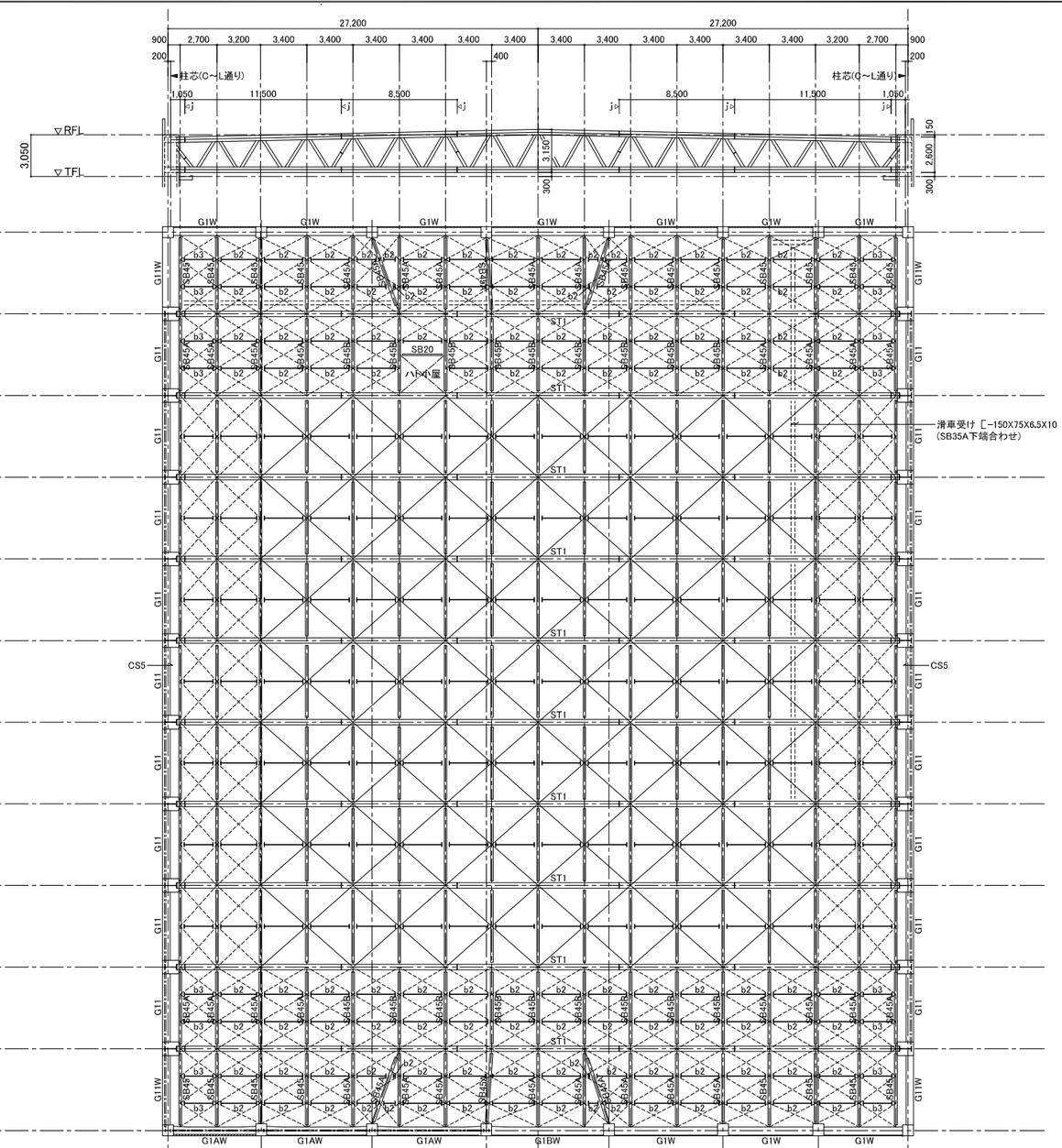
| | | |

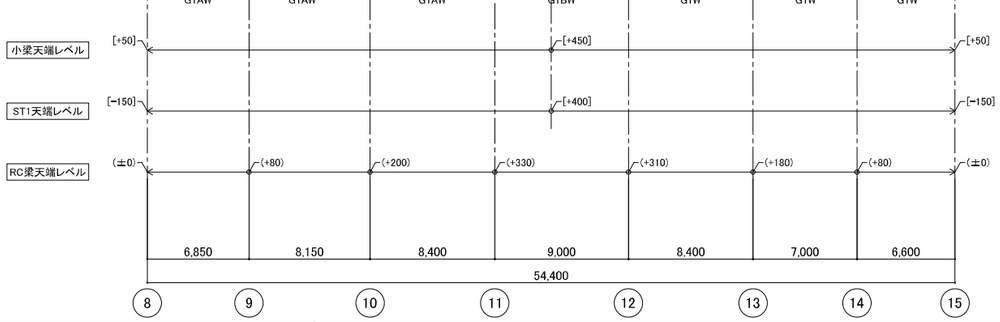
(駐)特記ナキ限り
鉄骨柱符号　SC4
鉄骨天端レベル　RFL+1,050
(ST1水上天端+650)
⊢⊣ は 補剛材 (b1)を示す
><　は V8 (L-65X65X6)を示す
鉄骨ジョイント位置は柱芯より 800とする
◁j▷は鉄骨ジョイント位置を示す



設備架台伏図　S=1/200

S-062参照





(駐)特記ナキ限り
鉄骨小梁符号　SB35A
(±○)はRFLからのRC梁天端レベルを示す
[±○]はRFLからの鉄骨天端レベルを示す
⊢⊣ は 補剛材 (b1)を示す
><　は V9 (2[-200X90X8X13,5)を示す
><　は V9A (○-216,5X5,8)を示す
G1AW・G1BW 水平ハンチ位置は 柱端より 1,000とする
◁j▷は鉄骨ジョイント位置を示す
▨ は増打コンクリートを示す

メインアリーナ鉄骨屋根伏図　S=1/200

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

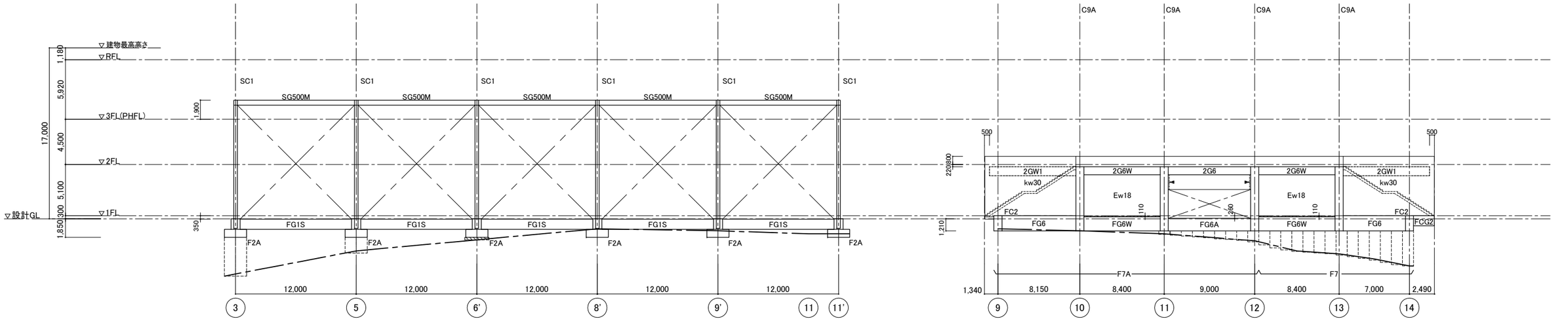
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	龍島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

飯塚市新体育館等建設工事

メインアリーナ鉄骨屋根伏図

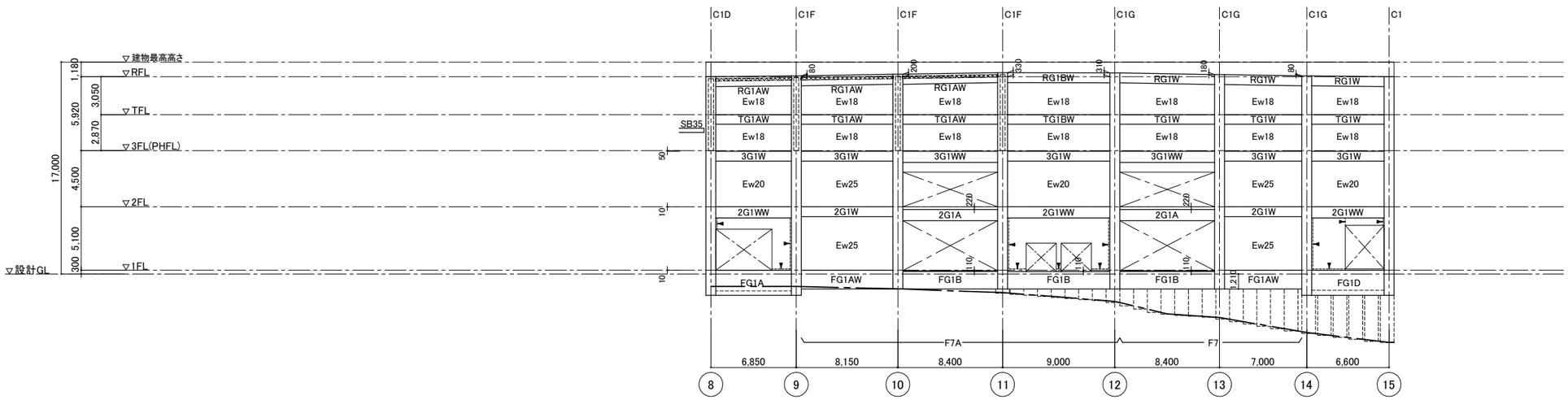
設計番号	図面番号
16779	S － 029
縮尺 A1:1/200 A3:1/400	日付 2019. 11. 15
	No

20191015通村ピュー印審査終了図

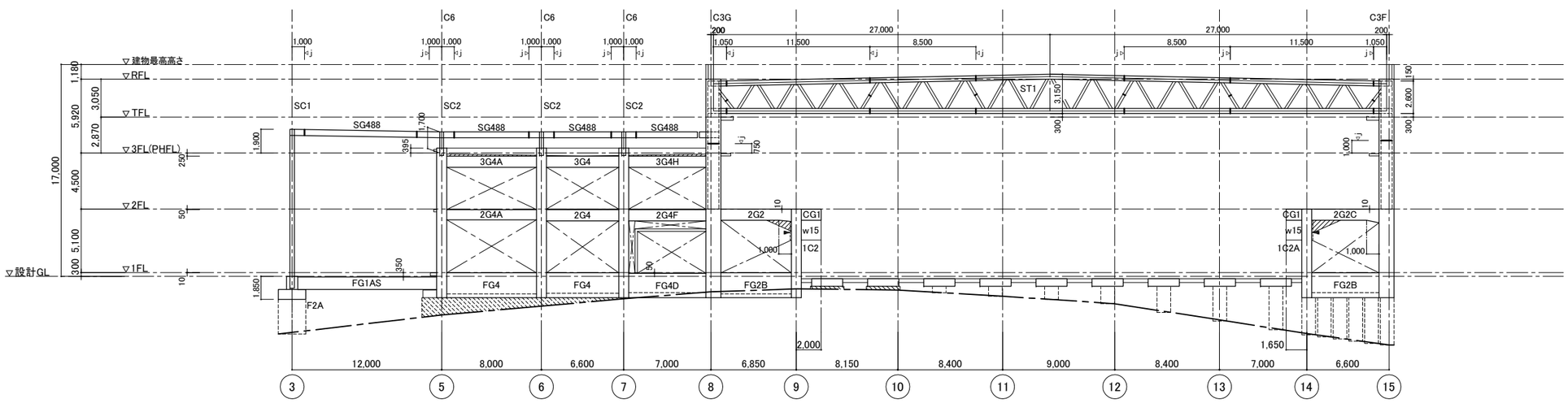


A 通り軸組図　S=1/200

A' 通り軸組図　S=1/200

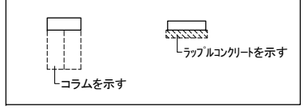


B 通り軸組図　S=1/200



C 通り軸組図　S=1/200

凡例



（註）特記ナキ限り	
壁符号	w18
SC1 B.PL下端	GL-950
部材は仮設鉄骨材を示す	
は構造スリット（完全スリット）を示す	
は増打コンクリートを示す	
ｊは鉄骨ジョイント位置を示す	

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	酢島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

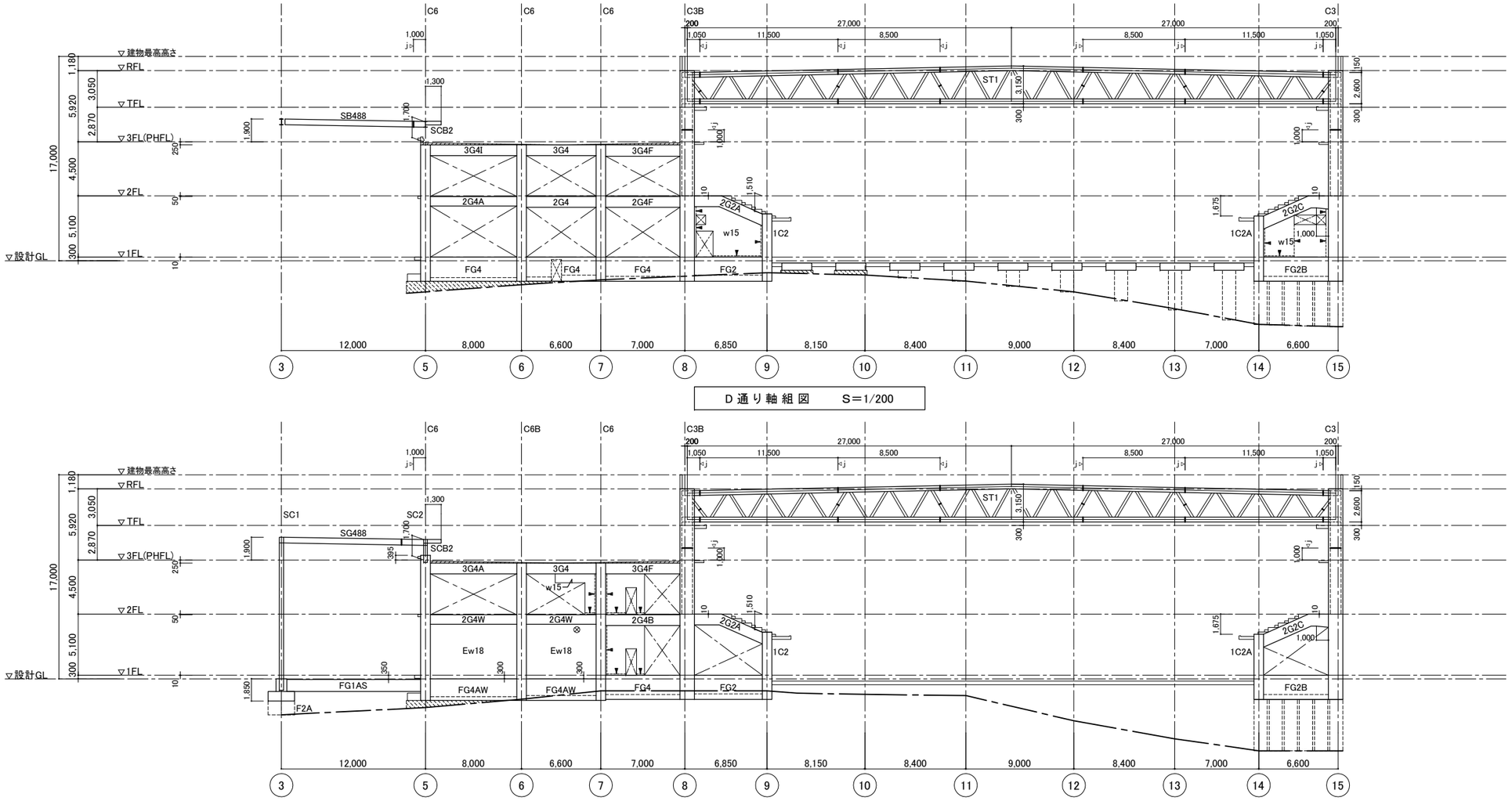
飯塚市新体育館等建設工事

軸組図（1）

設計番号	図面番号
16779	S － 030

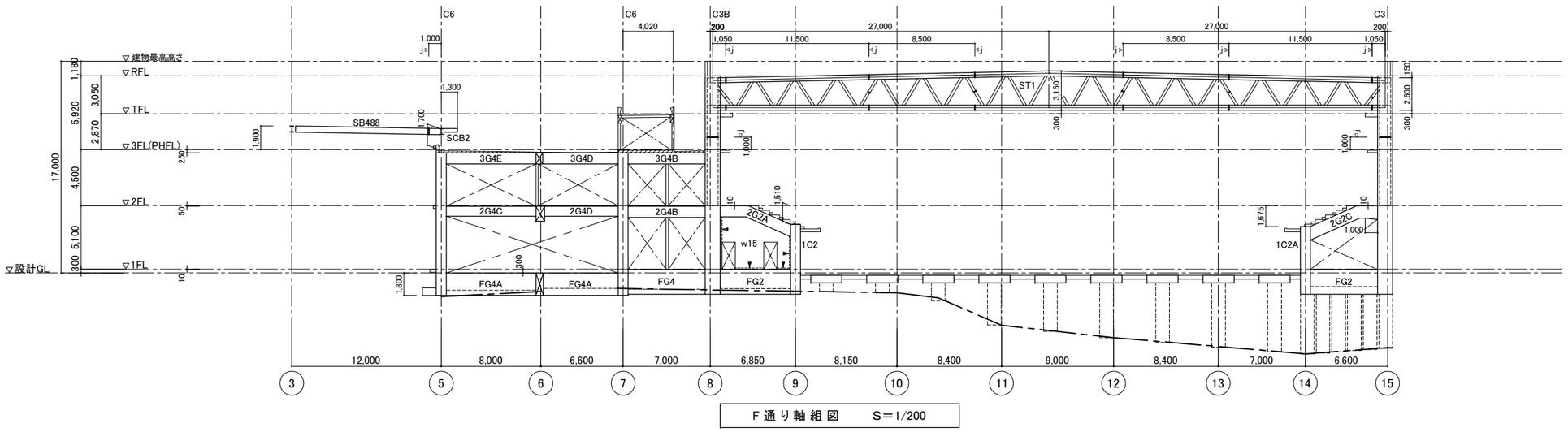
縮尺 1/A1:200 A3:400　日付 2019・11・15　No

20191015通判ビューロー審査終了図



D 通り軸組図　　S=1/200

E 通り軸組図　　S=1/200



F 通り軸組図　　S=1/200

凡 例

コラムを示す

ラップルコンクリートを示す

(註)特記ナキ限り	
壁符号	w18
SC1 B.PL下端	GL-950
◀ は構造スリット(完全スリット)を示す	
▨ は増打コンクリートを示す	
◁ j は鉄骨ジョイント位置を示す	

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	酢島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

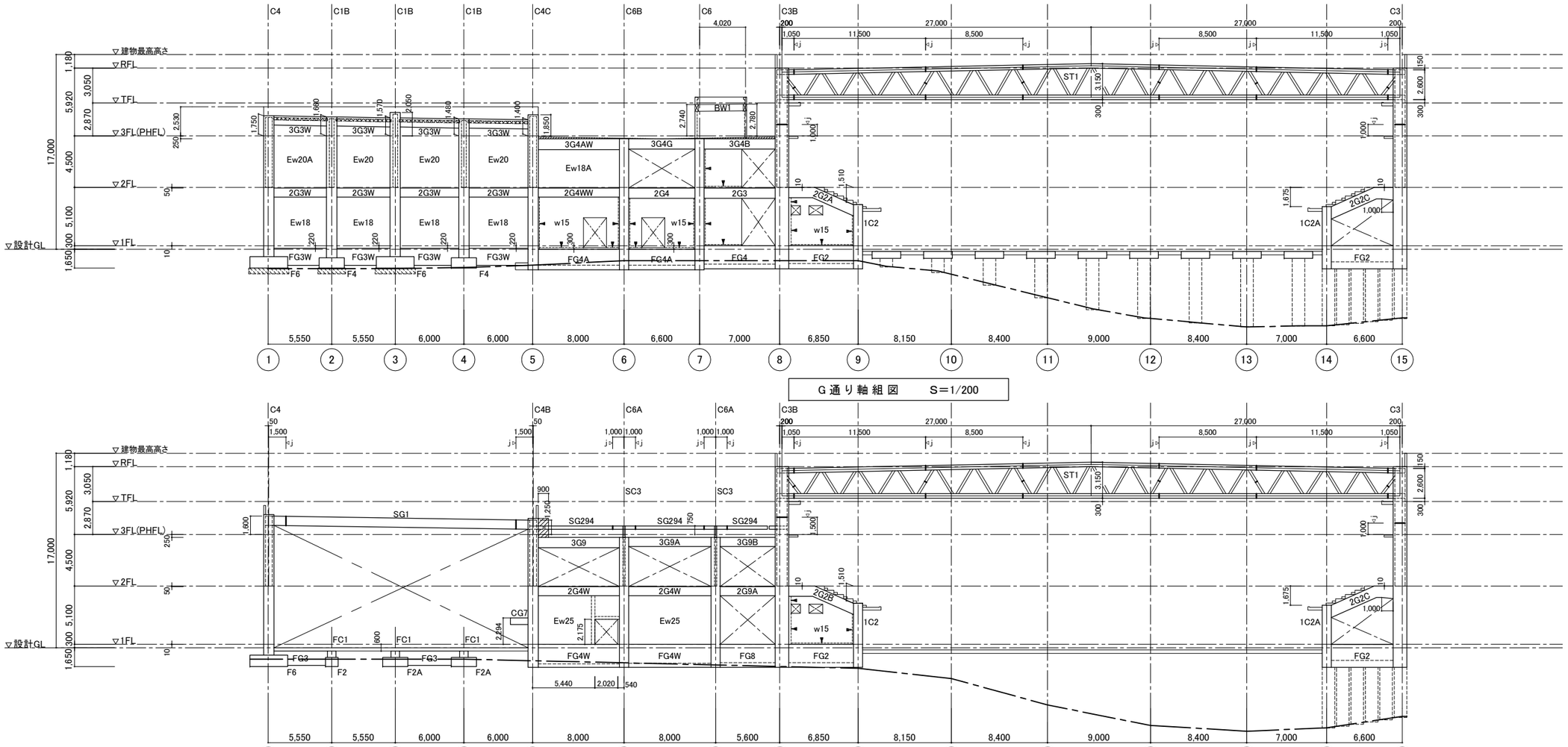
飯塚市新体育館等建設工事

軸 組 図（2）

設計番号	図面番号
16779	S — 031

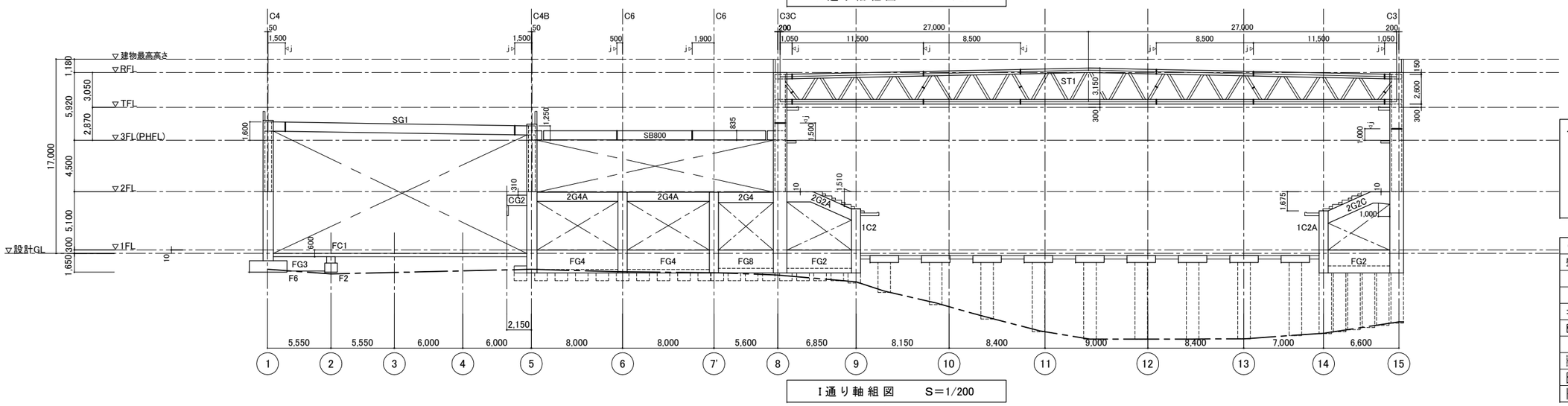
縮尺	日付	No
1/A1:200 A3:400	2019・11・15	

2019101済有ビューロー審査終了図



G通り軸組図　S=1/200

H通り軸組図　S=1/200



I通り軸組図　S=1/200

凡例

コラムを示す

ラップルコンクリートを示す

(註)特記ナキ限り
壁符号　w18
====== はEW開口補強リブ柱、枠梁を示す
部材は仮設鉄骨材を示す
は構造スリット(完全スリット)を示す
は増打コンクリートを示す
◇jは鉄骨ジョイント位置を示す

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

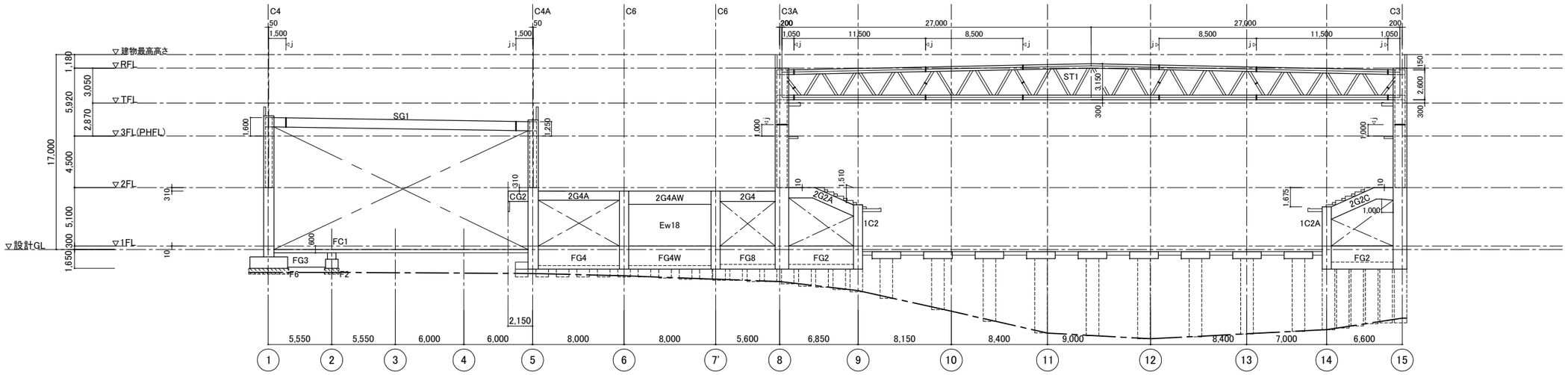
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	酢島　健夫	小林　紗矢	髙橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

飯塚市新体育館等建設工事

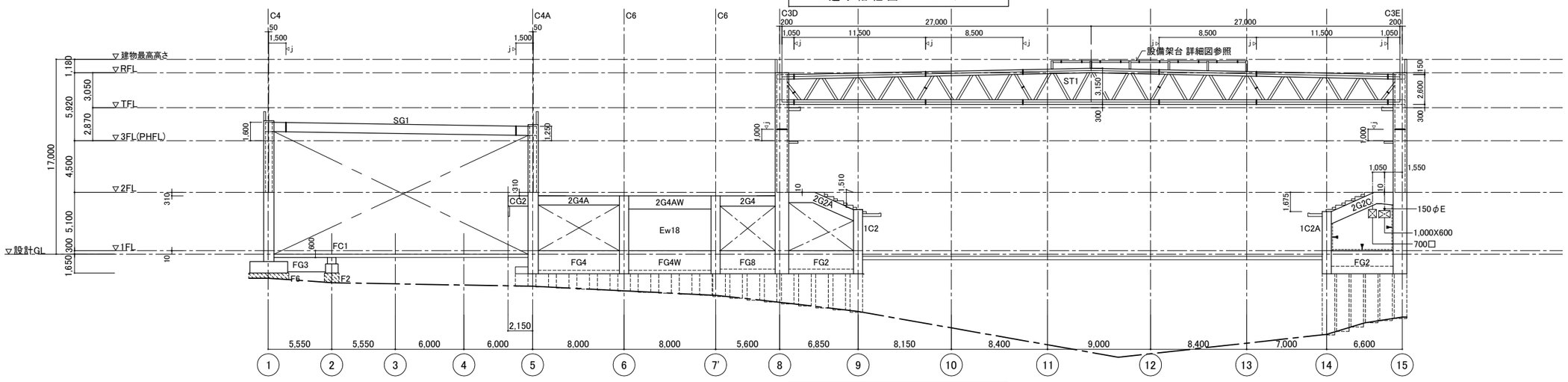
軸組図（3）

設計番号	図面番号
16779	S － 032
縮尺 1/A1:200 A3:400	日付 2019・11・15
	No

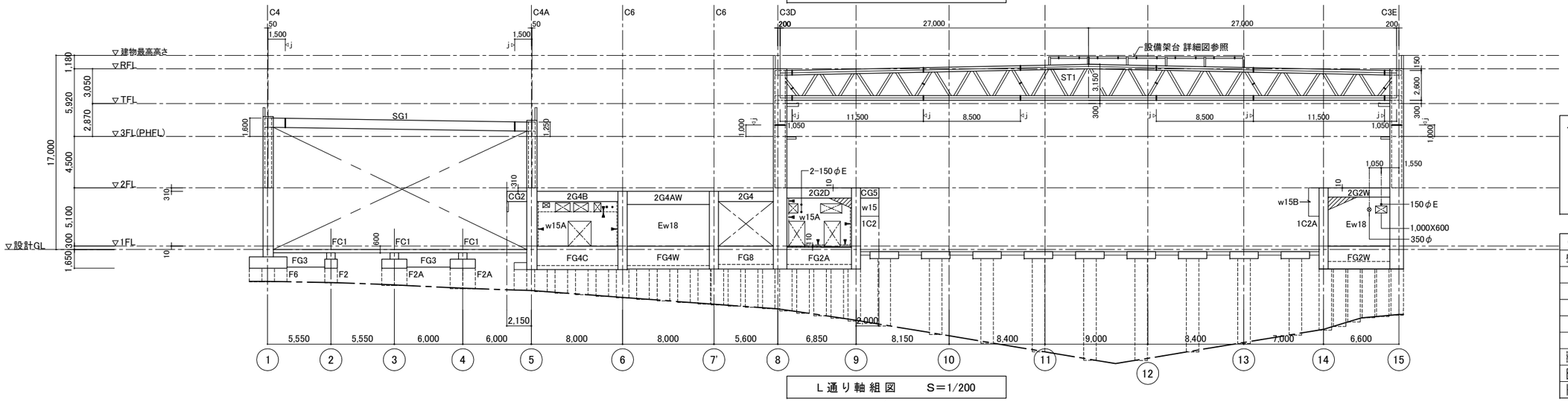
20191015透判ビューロー審査終了図



J通り軸組図　S=1/200



K通り軸組図　S=1/200



L通り軸組図　S=1/200

凡例

コラムを示す

ラップルコンクリートを示す

(註)特記ナキ限り

壁符号	w18

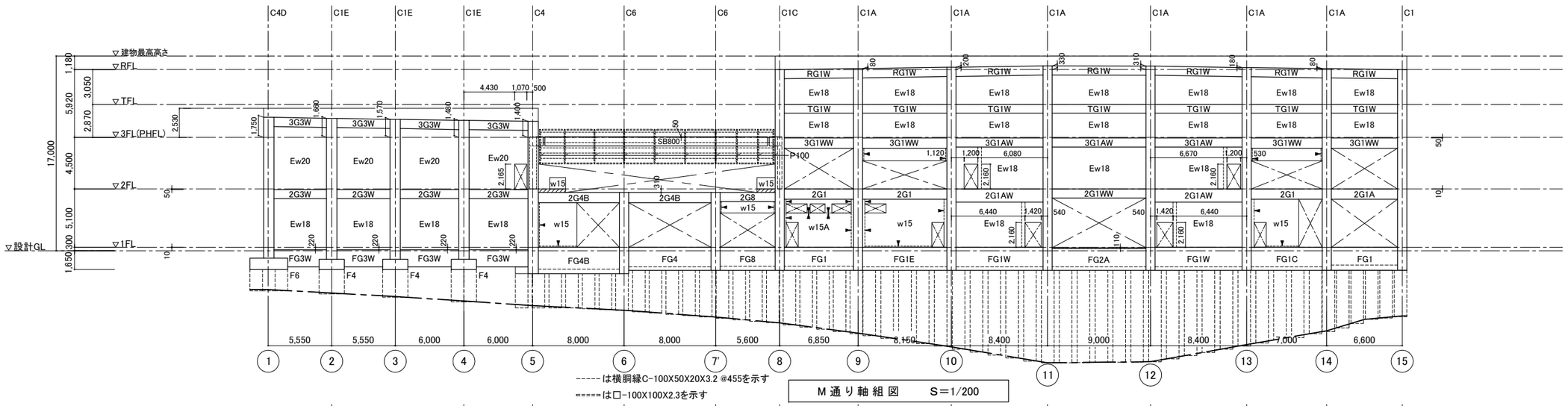
は構造スリット(完全スリット)を示す

は増打コンクリートを示す

◇jは鉄骨ジョイント位置を示す

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号		設計者												法適合確認欄		検証者		飯塚市新体育館等建設工事		設計番号	16779	図面番号	S － 033
				一級建築士		一級建築士		一級建築士		一級建築士						構造設計一級建築士									
				第280187号		第312528号		第365088号		第138771号						第3038号				軸組図（4）		縮尺 A1：1/200 A3：1/400	日付 2019・11・15	No	
				中川　崇		酢島　健夫		小林　紗矢		高橋　敏夫						西田　修治		西田　修治							

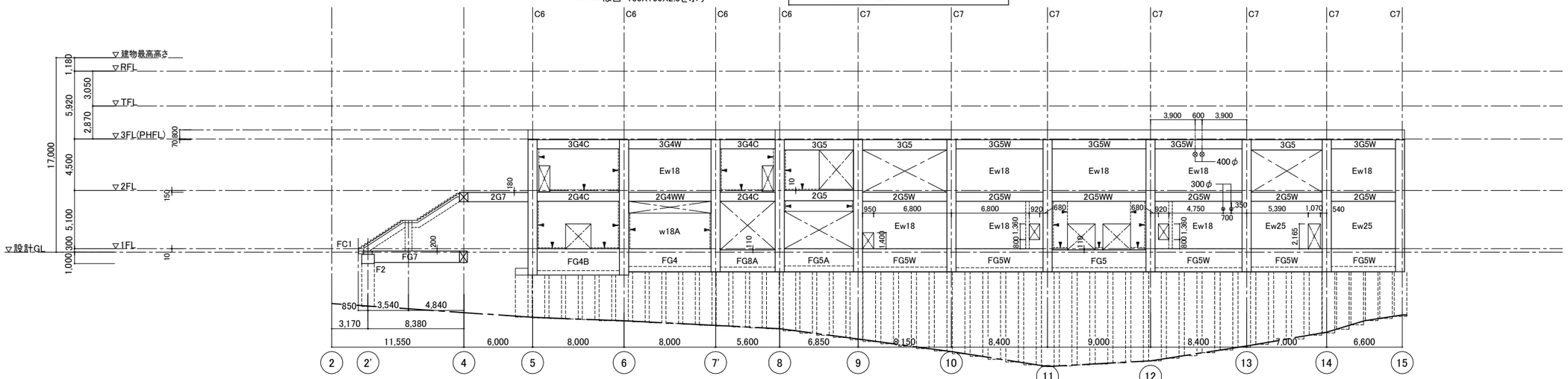
20191015透明ビューロ審査終了図



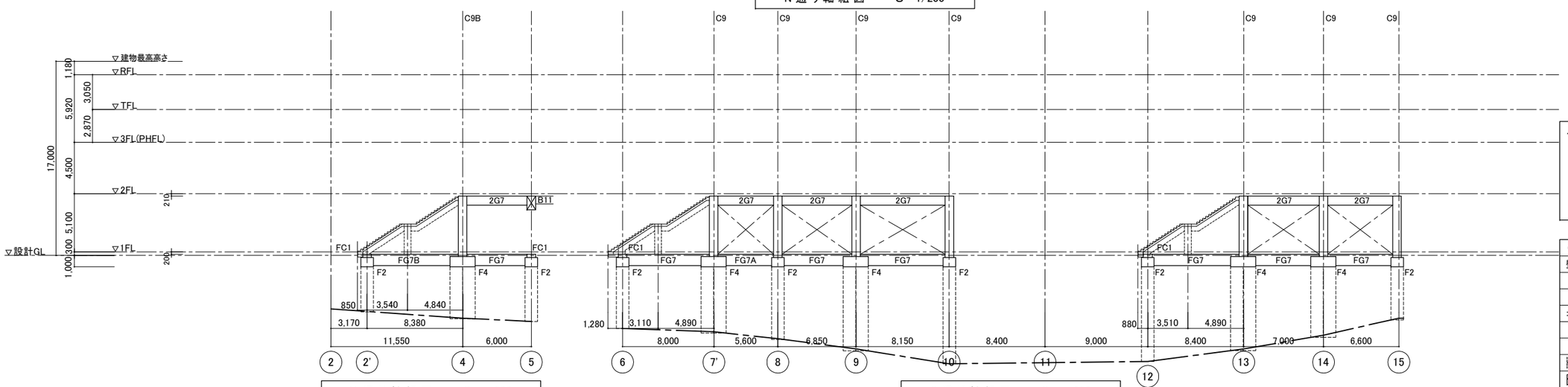
-----は横胴縁C-100X50X20X3.2 @455を示す

=====は□-100X100X2.3を示す

M 通り軸組図　　S＝1/200



N 通り軸組図　　S＝1/200



N' 通り軸組図　　S＝1/200

O 通り軸組図　　S＝1/200

凡 例

コラムを示す

ラップルコンクリートを示す

（註）特記ナキ限り

壁符号　w18

====== はEW開口補強リブ柱、枠梁を示す

◀ は構造スリット（完全スリット）を示す

▨ は増打コンクリートを示す

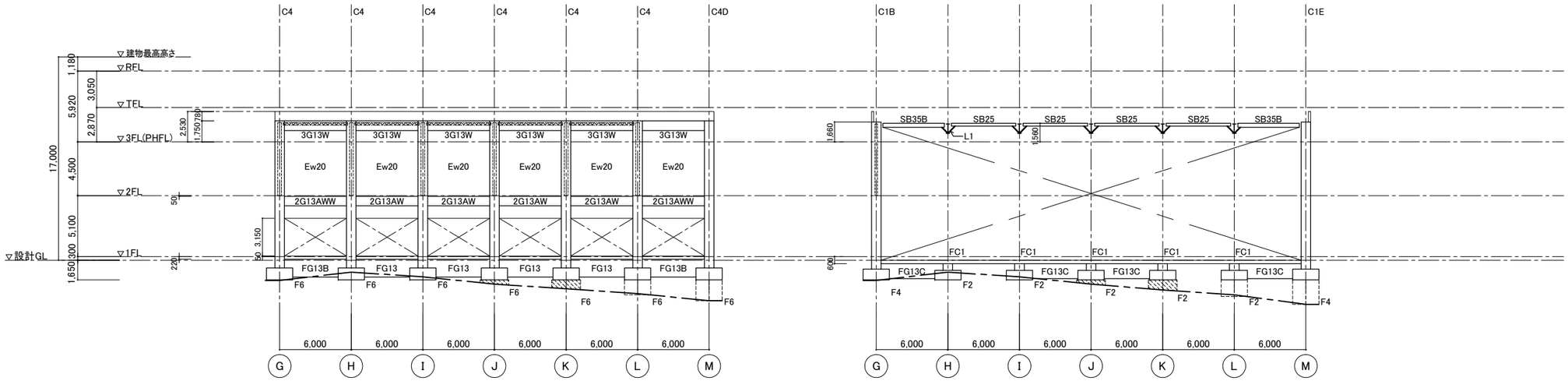
◁j▷は鉄骨ジョイント位置を示す

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	酢島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

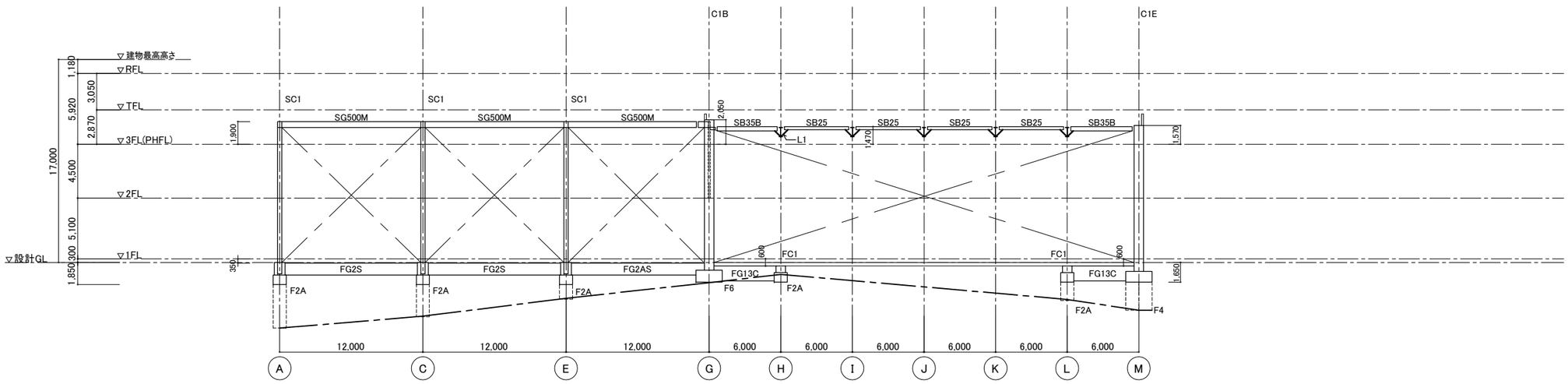
飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S － 034
軸組図（5）	縮尺 1/A1:200 A3:400	日付 2019・11・15
		No

2019101S透判ビュー印書変終了図

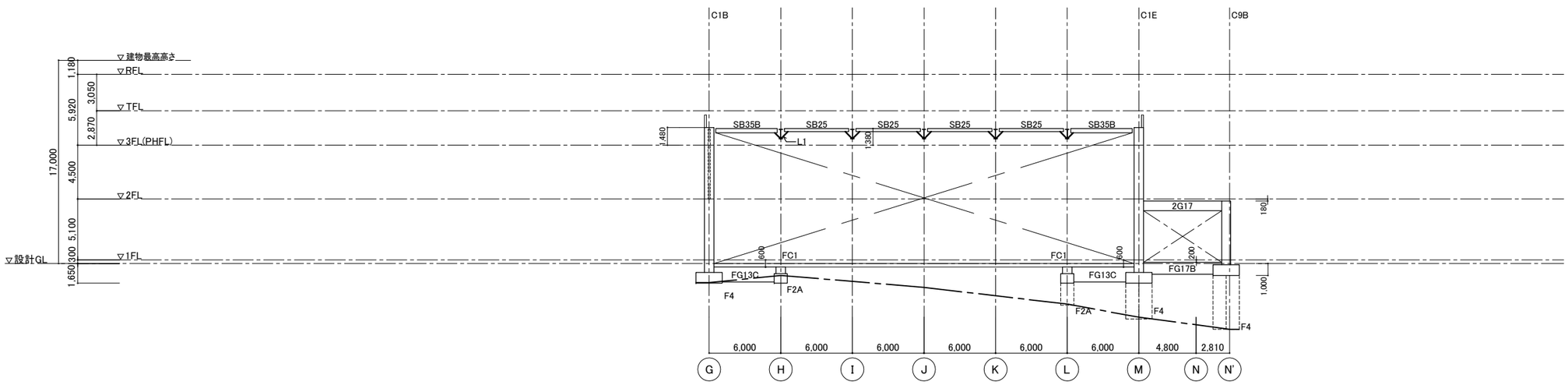


1 通り軸組図　　S＝1/200

2 通り軸組図　　S＝1/200

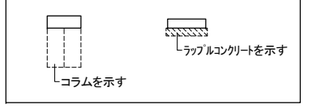


3 通り軸組図　　S＝1/200



4 通り軸組図　　S＝1/200

凡 例



(註)特記ナキ限り
壁符号　　w18
SC1 B.PL下端　　GL−950
部材は仮設鉄骨材を示す
は構造スリット(完全スリット)を示す
は増打コンクリートを示す
は鉄骨ジョイント位置を示す

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	酢島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

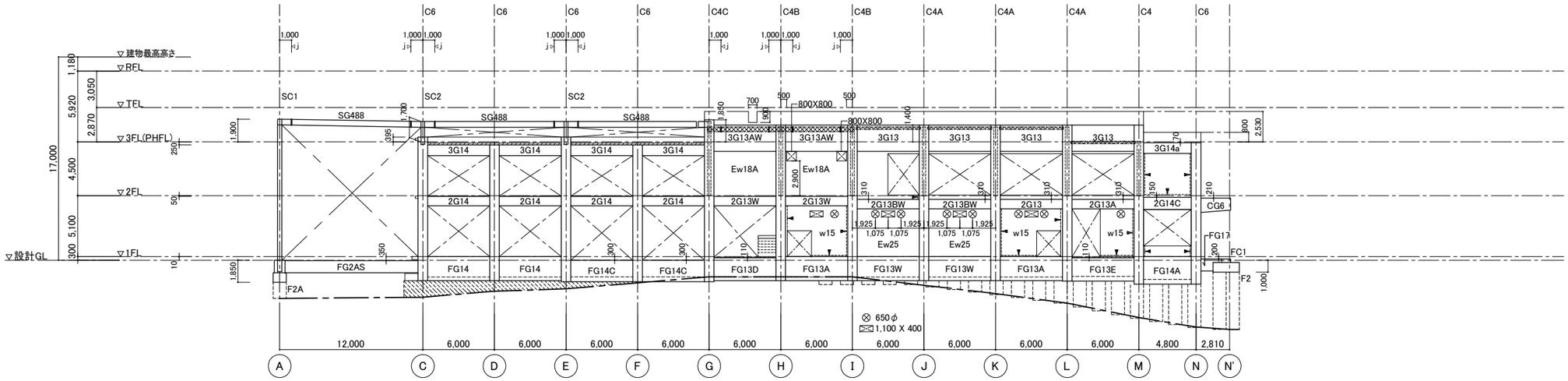
飯塚市新体育館等建設工事

軸組図（6）

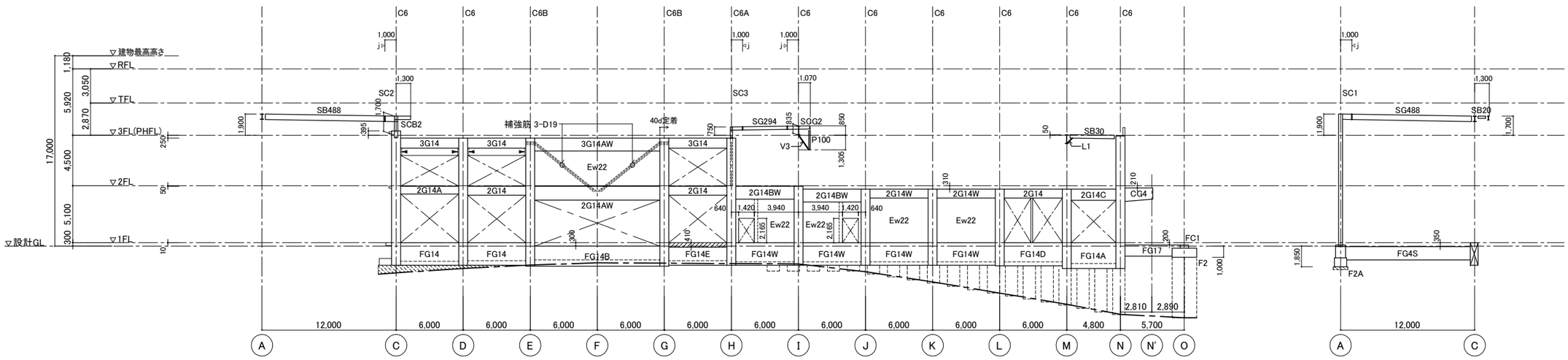
設計番号	図面番号
16779	S − 035

縮尺 1/A1:200 A3:400　日付 2019・11・15　No

2019105号資料ビューロー審査終了図

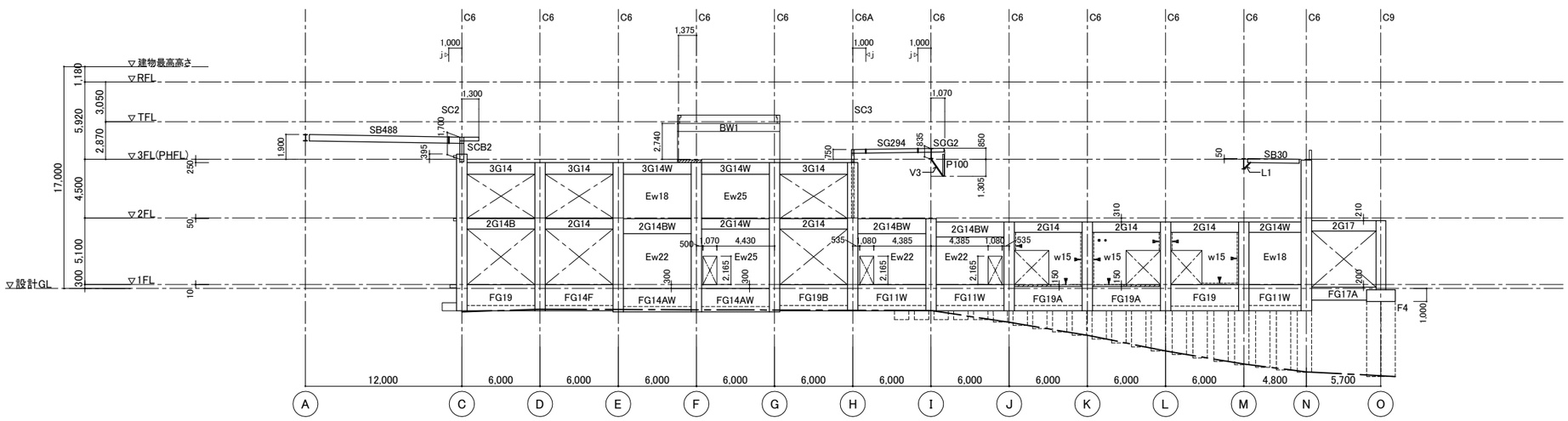


5通り軸組図　S=1/200



6通り軸組図　S=1/200

6'通り軸組図　S=1/200



7+7'通り軸組図　S=1/200

凡例

コラムを示す

ラップルコンクリートを示す

(註)特記ナキ限り	
壁符号	w18
SC1 B.PL下端	GL-950
====== はEW開口補強リブ柱、枠梁を示す	
部材は仮設鉄骨材を示す	
は構造スリット(完全スリット)を示す	
は増打コンクリートを示す	
▽jは鉄骨ジョイント位置を示す	

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

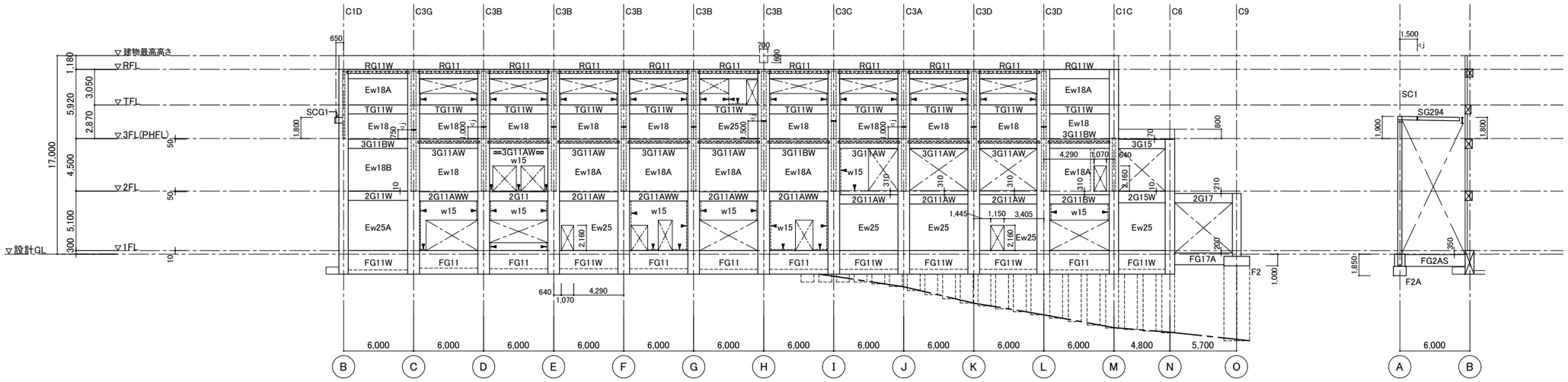
設計者								法適合確認欄	検証者
一級建築士		一級建築士		一級建築士		一級建築士		構造設計一級建築士	
第280187号		第312528号		第365088号		第138771号		第3038号	
中川　崇		酢島　健夫		小林　紗矢		高橋　敏夫		西田　修治	西田　修治

飯塚市新体育館等建設工事

軸組図（7）

設計番号	図面番号
16779	S － 036
縮尺 1/A1:200 A3:400	日付 2019・11・15
	No

20191015通判ビューロー審査終了図



(註)特記ナキ限り	
壁符号	w18
SC1 B.PL下端	GL-950
------ はEW開口補強リブ柱、枠梁を示す	
部材は仮設鉄骨材を示す	
は構造スリット(完全スリット)を示す	
は増打コンクリートを示す	
は鉄骨ジョイント位置を示す	

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	藪島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

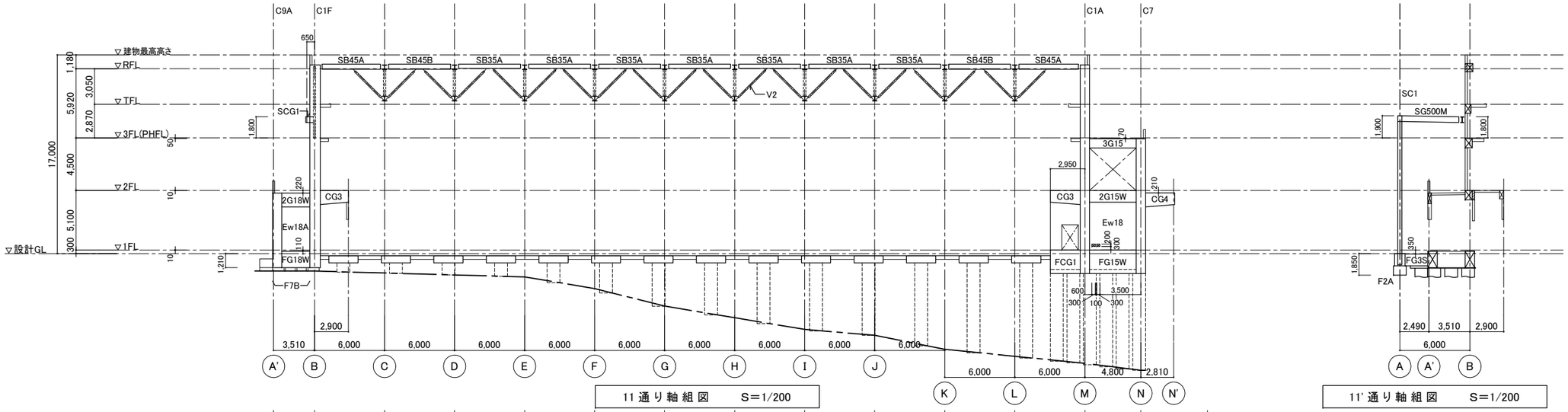
飯塚市新体育館等建設工事

軸組図(8)

設計番号	図面番号
16779	S — 037

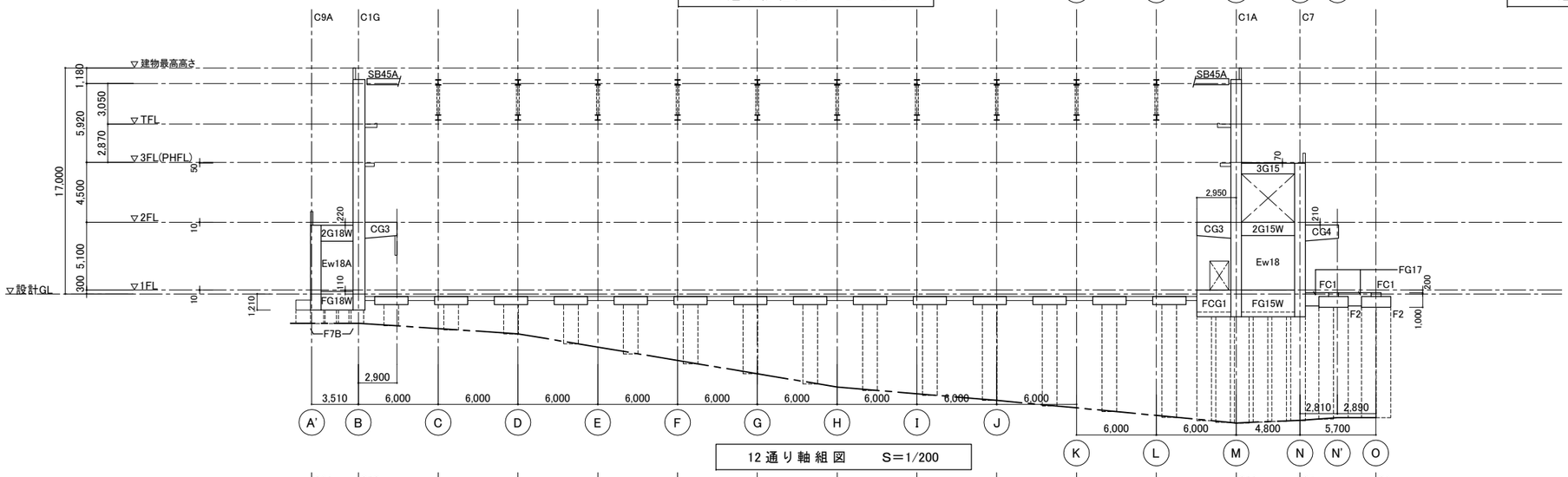
縮尺	日付	No
1/A1:200 A3:400	2019・11・15	

20191015透判ビューロ審査終了図

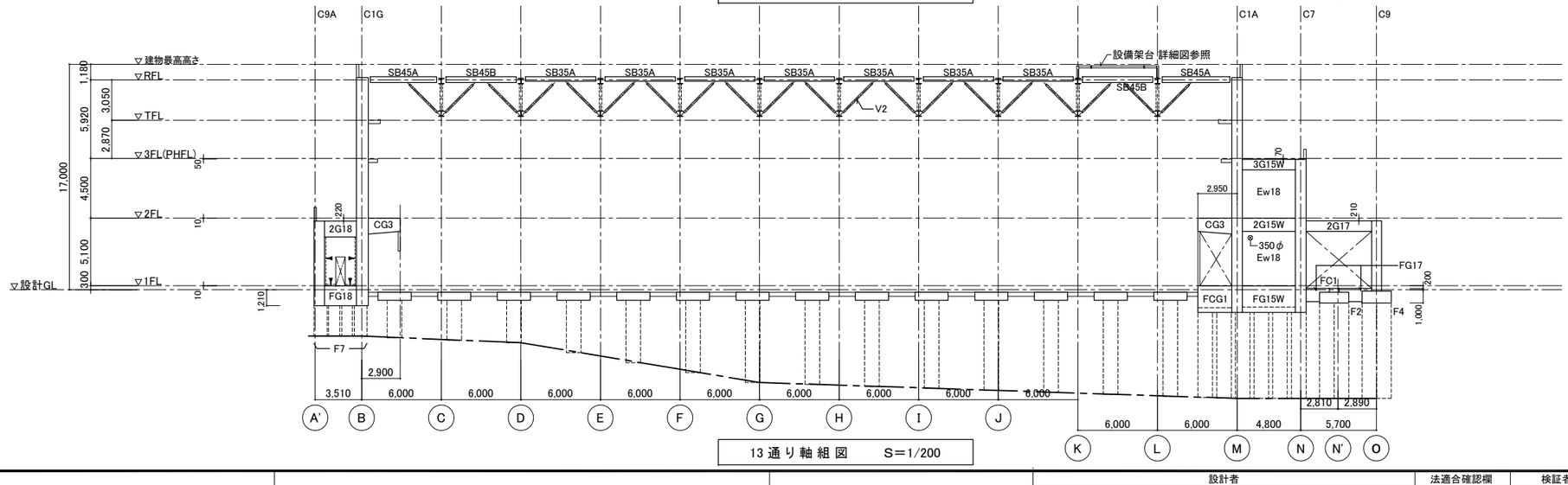


11 通り軸組図　S=1/200

11' 通り軸組図　S=1/200



12 通り軸組図　S=1/200



13 通り軸組図　S=1/200

凡例

コラムを示す

ラップルコンクリートを示す

(註)特記ナキ限リ	
壁符号	w18
SC1 B.PL下端	GL-950
部材は仮設鉄骨材を示す	
は構造スリット(完全スリット)を示す	
は増打コンクリートを示す	
は鉄骨ジョイント位置を示す	

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	酢島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

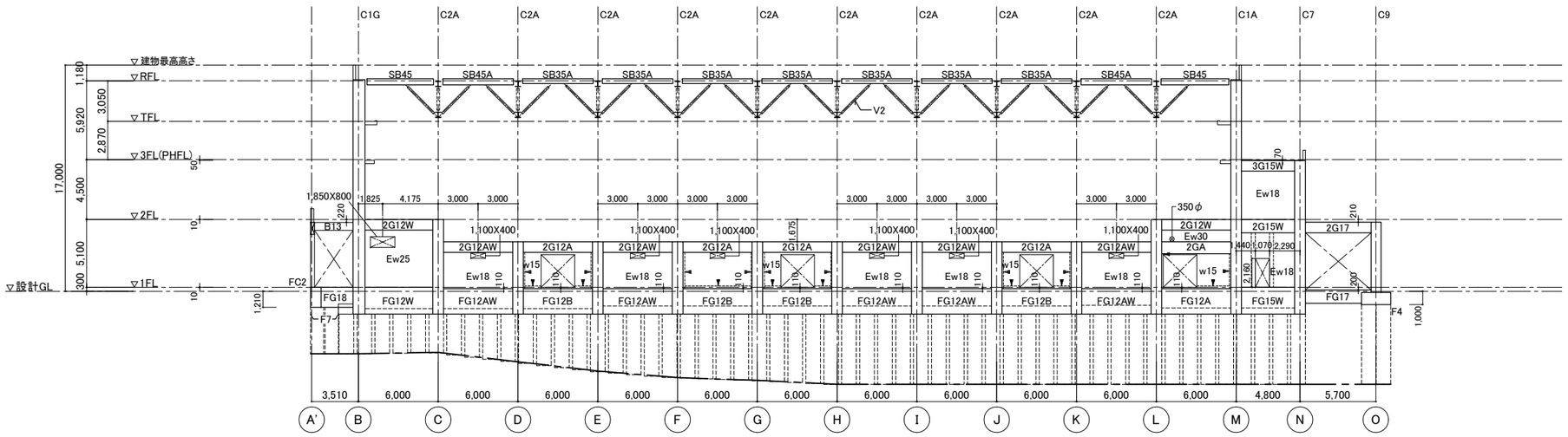
飯塚市新体育館等建設工事

軸組図（9）

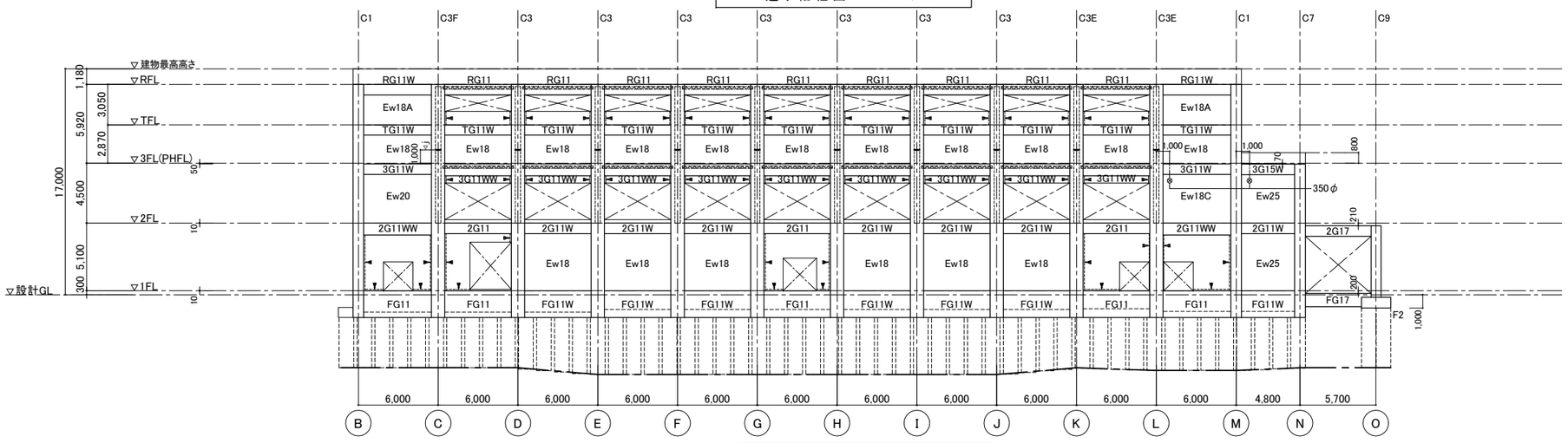
設計番号	図面番号
16779	S － 038

縮尺 1/A1:200 A3:400　日付 2019・11・15　No

20191015通判ビューロ審査終了図



14 通り軸組図　　S=1/200



15 通り軸組図　　S=1/200

凡 例

コラムを示す

ラップルコンクリートを示す

(註)特記ナキ限り
壁符号　　w18
部材は仮設鉄骨材を示す
は構造スリット(完全スリット)を示す
は増打コンクリートを示す
は鉄骨ジョイント位置を示す

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	酣島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

飯塚市新体育館等建設工事

軸 組 図（１０）

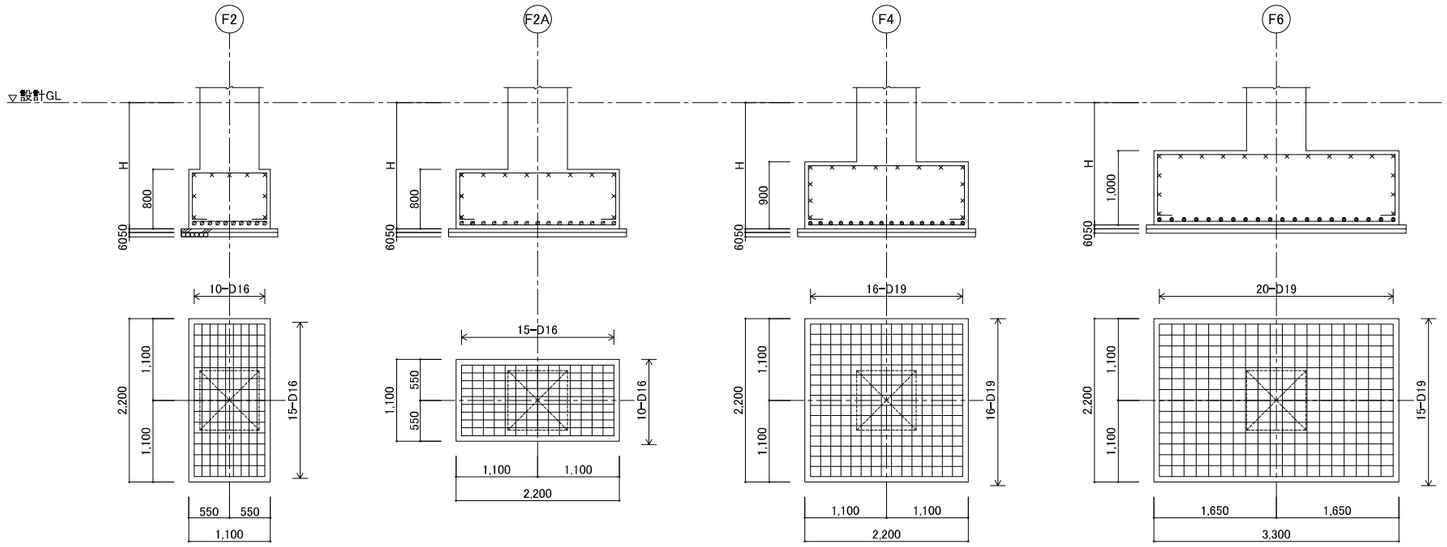
設計番号	図面番号
16779	S － 039

縮尺 1/A1:200 A3:400　日付 2019・11・15　No

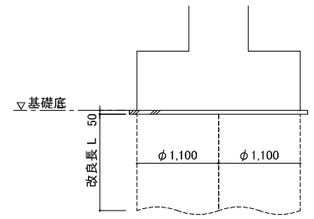
20191015透判ビューロ審査終了図

基 礎 リ ス ト　　S＝1/40

(駐)特記ナキ限リ　はかま筋は D13 @300以下とする　Hは基礎・コラム伏図による　地業:捨てコンクリート ㋐ 50，敷砂利 ㋐ 60（コラムのある箇所は捨てコン㋐50のみ(右図コラム地業要領参照)）

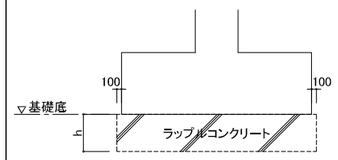


コラム地業要領



※ 改良長 L は基礎・コラム伏図による

ラップルコンクリート地業要領



※ hは基礎・コラム伏図による

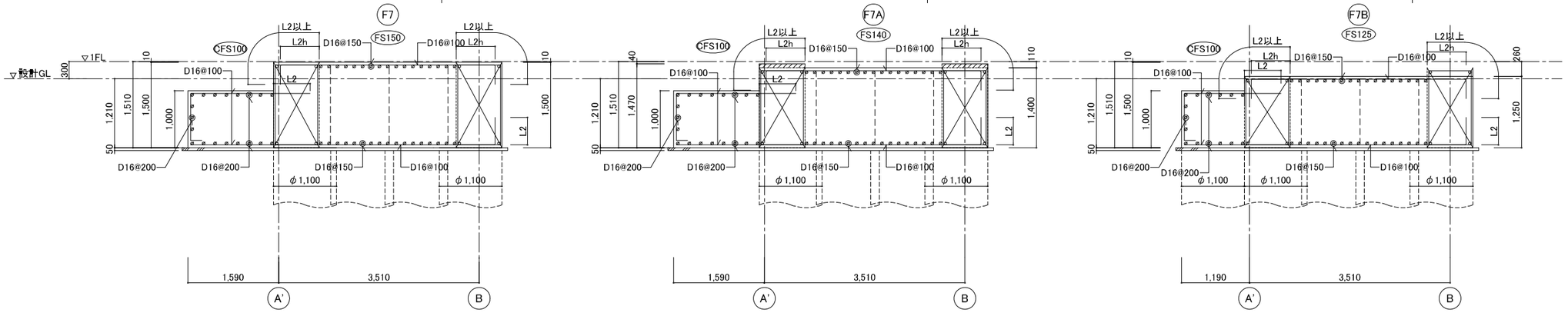
- ラップルコンクリート
  普通コンクリート　Fc=18N/mm²　スランプ 15
- 支持層の深さは場所によって異なる為、試堀ゾーン計画による試掘により監理者が検査して決定する。

  支持層に 10cm程度根入れする。
  支持層はN値 50以上の泥岩層とする。
- 設計支持力(長期)　fe= 500kN/㎡

13−14通り間　F7　は巾止メ筋 D13 @1,000以下を示す

12−13通り間　F7A　は巾止メ筋 D13 @1,000以下を示す

11−12通り間　F7B　は巾止メ筋 D13 @1,000以下を示す



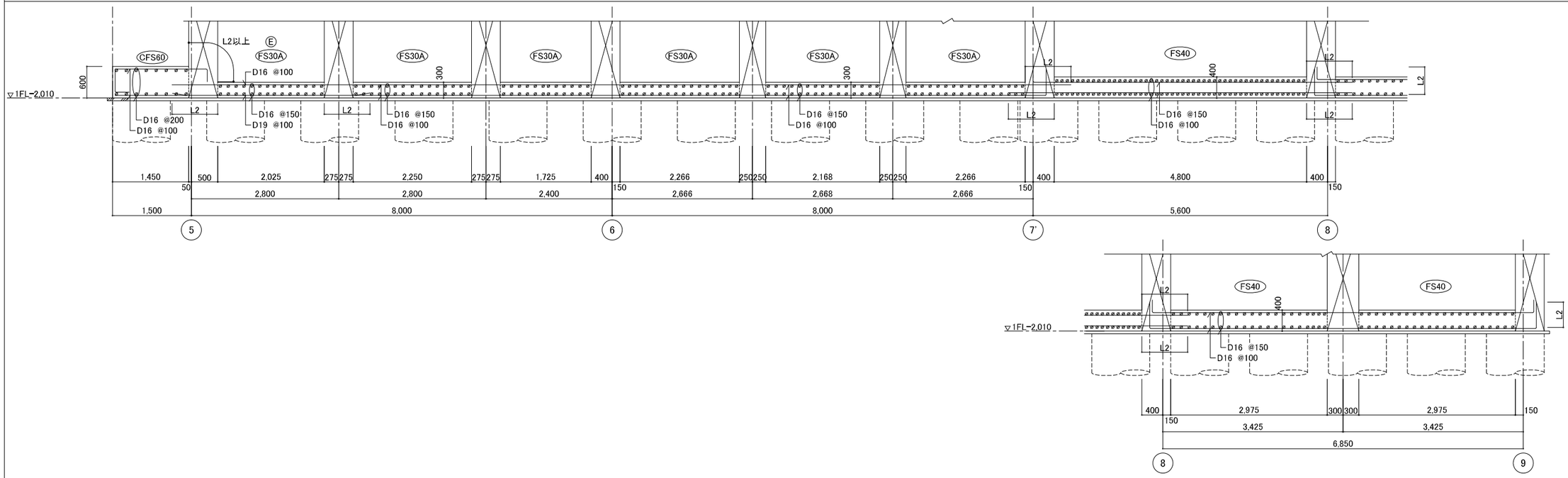
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社　一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1−10078号	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S − 040
		一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第312528号 酣島 健夫	一級建築士 第365088号 小林 紗矢	一級建築士 第138771号 高橋 敏夫	構造設計一級建築士 第3038号 西田 修治	西田 修治	基礎リスト	縮尺 1／A1:40 A3:80	日付 2019. 11. 15

2019101S過材ビュー印審査終了図

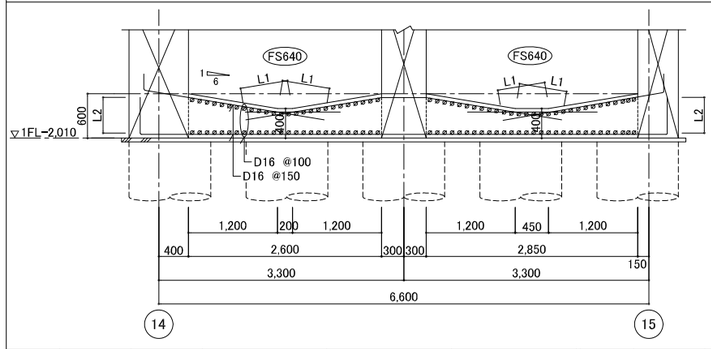
耐圧版リスト　S=1/40

(駐)特記ナキ限リ　巾止メ筋　D13 @1,000以下

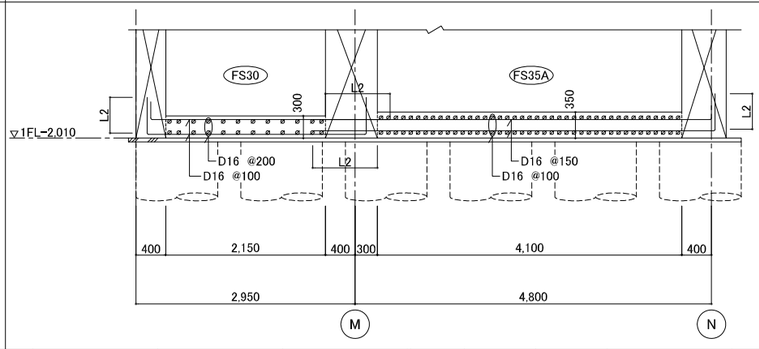
SEC. A－A



SEC. B－B

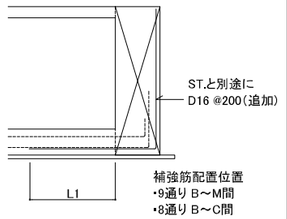


SEC. C－C



外周部縦筋補強要領

※ 耐圧版外端部は固定度を考慮しているので、地中梁縦筋と補強筋で応力を処理している



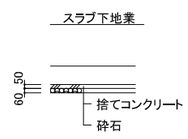
補強筋配置位置
- 9通り B～M間
- 8通り B～C間
- 14通り B～M間
- 15通り B～N間
- M−2,950通り 9～14間

符号	版厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
FS30	300	上端筋	D16	@100	D16	@200	
		下端筋	D16	@100	D16	@200	
FS30A	300	上端筋	D16	@100	D16	@150	
		下端筋	D16	@100	D16	@150	
FS35	350	上端筋	D16	@150	D16	@200	
		下端筋	D16	@150	D16	@200	
FS35A	350	上端筋	D16	@100	D16	@150	
		下端筋	D16	@100	D16	@150	
FS40	400	上端筋	D16	@100	D16	@150	
		下端筋	D16	@100	D16	@150	
FS50	500	上端筋	D16	@100	D16	@150	
		下端筋	D16	@100	D19	@100	
FS55	550	上端筋	D16	@100	D16	@150	
		下端筋	D16	@100	D16	@150	
FS55A	550	上端筋	D16	@100	D16	@150	
		下端筋	D19	@100	D16	@150	

符号	版厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
FS655	650～550	上端筋	D16	@100	D16	@150	
		下端筋	D16	@100	D16	@150	
FS430	400～300	上端筋	D16	@100	D16	@150	
		下端筋	D16	@100	D16	@150	
FS453	450～ 300	上端筋	D16	@100	D16	@150	
		下端筋	D16	@100	D16	@150	
FS530	500～300	上端筋	D16	@100	D16	@150	
		下端筋	D16	@100	D16	@150	
FS640	600～400	上端筋	D16	@100	D16	@150	
		下端筋	D16	@100	D16	@150	

符号	版厚	位置	主筋方向		配力筋方向		備考
CFS60	600	上端筋	D16	@100	D16	@200	
		下端筋	D16	@100	D16	@200	
CFS75	750	上端筋	D16	@100	D16	@200	
		下端筋	D16	@100	D16	@200	
CFS100	1,000	上端筋	D16	@100	D16	@200	
		下端筋	D16	@100	D16	@200	

スラブ下地業



※コラムがある箇所は捨てコン50のみ

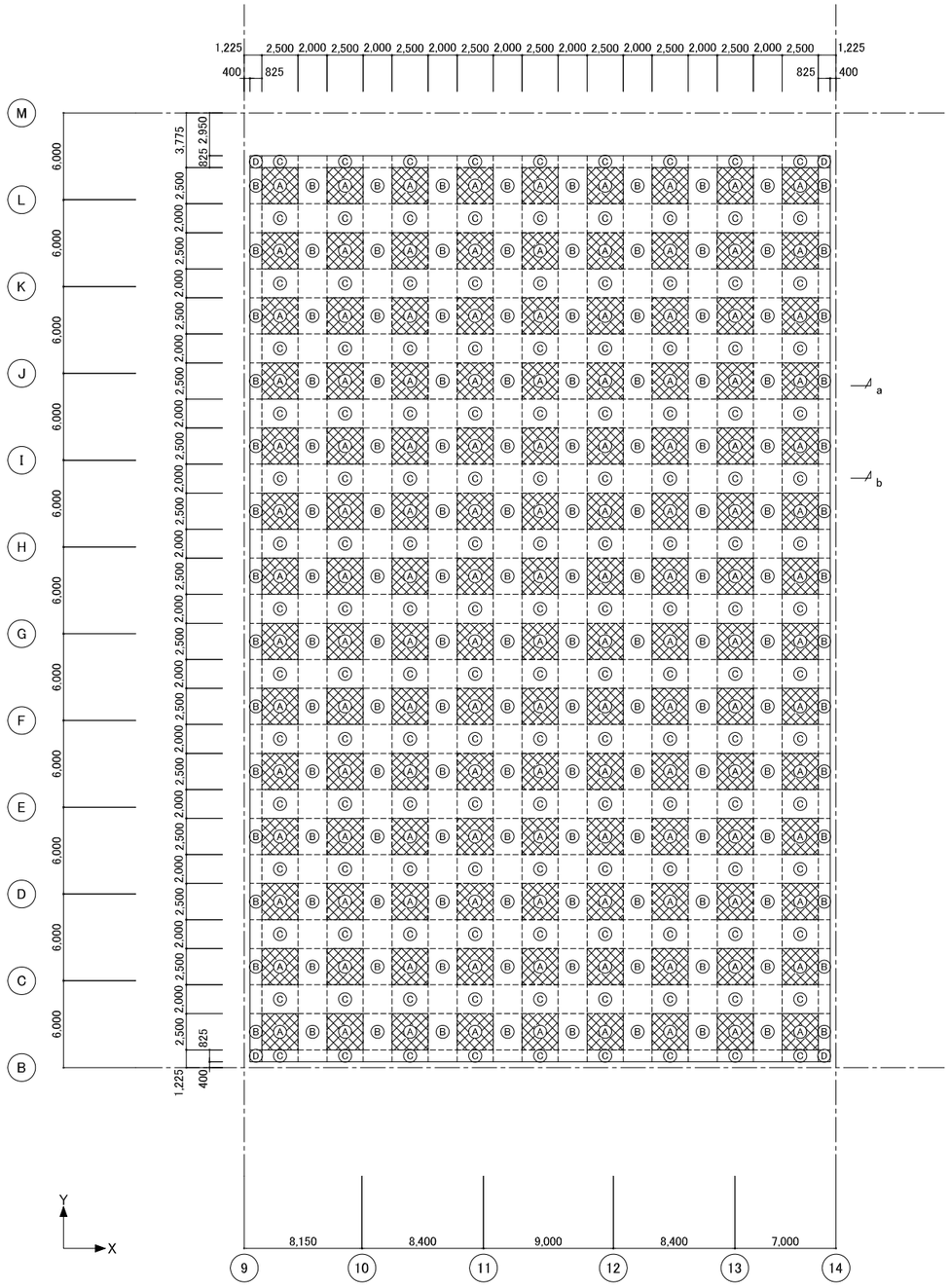
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号																					
			設計者																				
			一級建築士		一級建築士		一級建築士		一級建築士														
			第280187号		第312528号		第365088号		第138771号														
			中川　崇		龍島　健夫		小林　紗矢		高橋　敏夫														
			法適合確認欄		検証者																		
			構造動計一級建築士																				
			第3038号																				
			西田　修治		西田　修治																		

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S－041
耐圧版リスト	縮尺 1/A1:40 A3:80	日付 2019. 11. 15	No

20191015通時ビューロ審査終了図

マットスラブ　キープラン

（甦）特配外範囲は Ⓔ とする



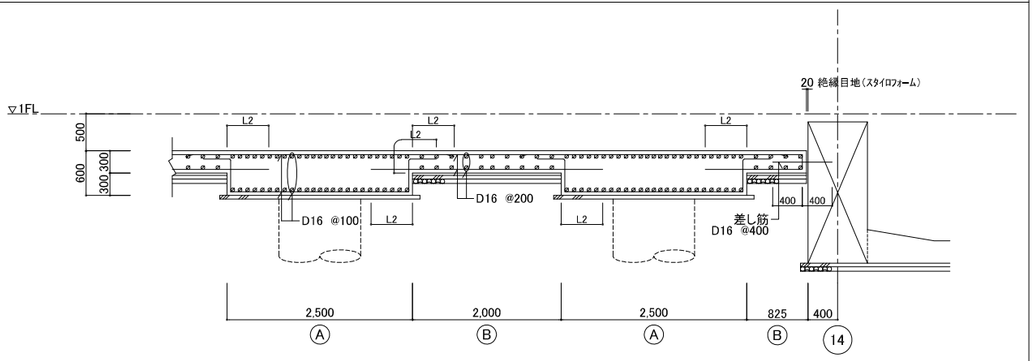
マットスラブ　リスト

符号	版厚	位置	X方向 配筋	Y方向 配筋	地業
Ⓐ	600	上端筋	D16 @100	D16 @100	捨てコンクリート t=50
		下端筋	D16 @100	D16 @100	
Ⓑ	300	上端筋	D16 @200	D16 @200	硬質ポリスチレンフォーム t=30
		下端筋	D16 @200	D16 @200	防湿フィルム t=0.15
Ⓒ	300	上端筋	D16 @200	D16 @200	捨てコンクリート t=50
		下端筋	D16 @200	D16 @200	砕石転圧 t=60
Ⓓ	300	上端筋	D16 @200	D16 @200	
		下端筋	D16 @200	D16 @200	
Ⓔ	300	上端筋	D16 @200	D16 @200	
		下端筋	D16 @100	D16 @100	

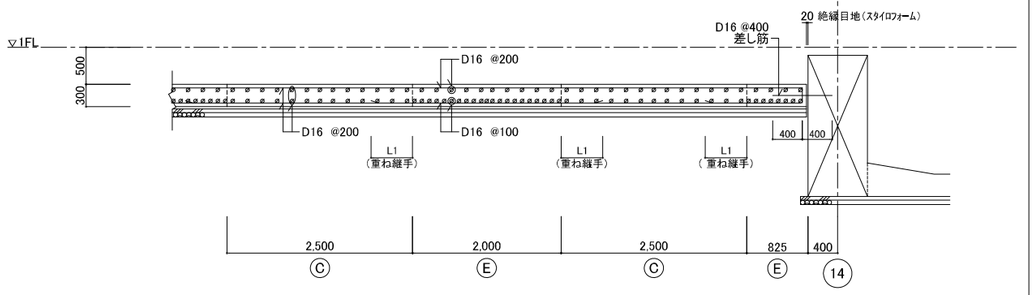
（甦）特配ナキ限リ

1. 重ね継手を可とする。
2. 重ね継手のイモ継手は原則不可とする。
3. バー型スペーサーを使用する。@900以内とする。

SEC. a　　S＝1/40



SEC. b　　S＝1/40



飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI
Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	酯島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

飯塚市新体育館等建設工事

マットスラブリスト

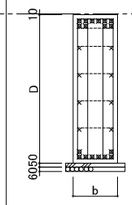
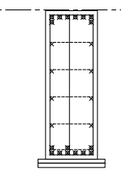
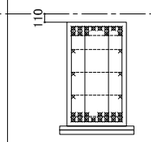
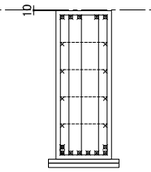
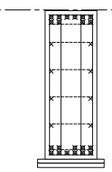
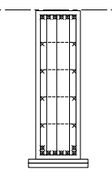
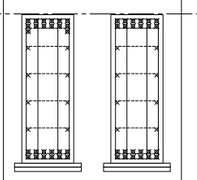
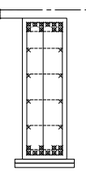
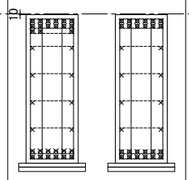
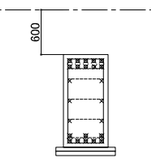
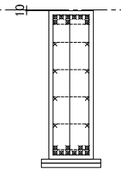
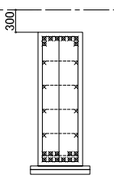
設計番号	図面番号
16779	S － 042

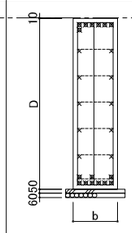
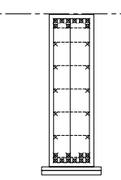
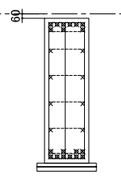
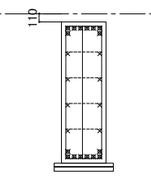
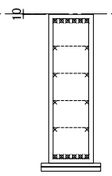
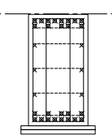
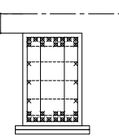
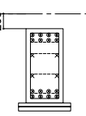
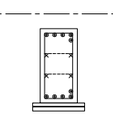
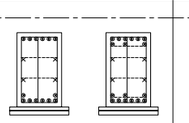
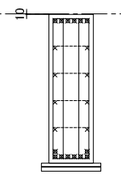
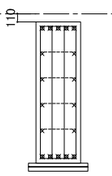
縮尺	日付	No
1/A1:40 A3:80	2019. 11. 15	

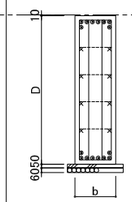
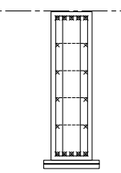
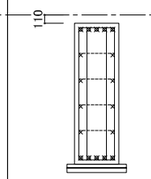
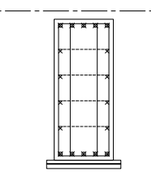
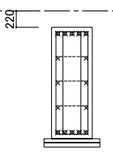
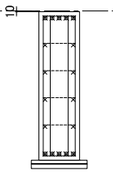
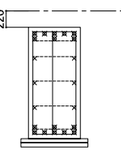
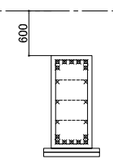
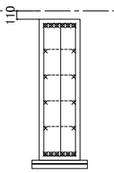
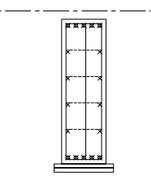
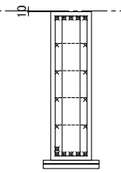
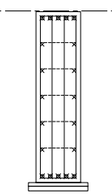
20191015通村ピュー印審査終了図

基礎梁リスト(1)　S=1/40

(註)特記ナキ限り　スタラップ　□-D13 @200　腹筋　8-D13　巾止メ筋　D10 @1,000以下　地業:捨てコンクリート ㋐ 50，敷砂利 ㋐ 60　＊主筋径に注意すること

符　号	FG1	FG1A	FG1B	FG1C	FG1D	FG1E	FG2		FG2A	FG2B		FG3	FG4	FG4A
位　置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	8･15通り端･中央	9･14通り端	全断面	8･15通り端･中央	9･14通り端	全断面	全断面	全断面
断面 Fc=27														
b X D	600 X 2,000	700 X 2,000	800 X 1,400	750 X 2,000	700 X 2,000	600 X 2,000	700 X 2,000		600 X 1,900	700 X 2,000		600 X 1,250	600 X 2,000	600 X 1,800
上端筋	10-D29	8-D29	13-D29	5-D29	10-D29	6-D29	14-D29	12-D29	10-D29	15-D29	12-D29	10-D29	9-D29	8-D29
下端筋	8-D29	9-D29	15-D29	8-D29	11-D29	8-D29	12-D29	12-D29	10-D29	12-D29	12-D29	8-D29	10-D29	11-D29
スタラップ	▥-D13@100		▥-D13@100	▥-D16@100	▥-D13@100	▥-D13@100	▥-D13@125			▥-D13@100		□-D13@200		
腹　筋			6-D13									6-D13		

符　号	FG4B	FG4C	FG4D	FG5	FG5A	FG6	FG6A	FG7	FG7A	FG7B		FG8	FG8A
位　置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	2'通り端	中央･4通り端	全断面	全断面
断面 Fc=27													
b X D	600 X 2,300	600 X 2,050	600 X 1,950	600 X 1,900	600 X 2,000	800 X 1,500	800 X 1,250	500 X 1,000	500 X 1,000	600 X 1,000		600 X 2,000	600 X 1,900
上端筋	7-D29	9-D29	9-D29	8-D29	6-D29	13-D29	13-D29	＊8-D25	＊5-D25	＊6-D25	＊9-D25	6-D29	5-D29
下端筋	9-D29	10-D29	10-D29	8-D29	6-D29	13-D29	13-D29	＊8-D25	＊5-D25	＊8-D25	＊9-D25	8-D29	5-D29
スタラップ					□-D13@200	▥-D13@100	▥-D13@100	□-D13@200	□-D13@200			▥-D13@100	▥-D13@200
腹　筋	10-D13	10-D13				6-D13	6-D13	4-D13	4-D13	4-D13			

符　号	FG11	FG12	FG12A	FG12B	FG13	FG13A	FG13B	FG13C	FG13D	FG13E	FG14	FG14A
位　置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面 Fc=27												
b X D	550 X 2,000	550 X 2,000	600 X 1,900	800 X 1,900	550 X 1,500	550 X 2,000	700 X 1,500	550 X 1,250	650 X 1,900	600 X 1,950	550 X 2,000	600 X 2,300
上端筋	＊8-D25	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	8-D29	7-D29	6-D29	5-D29	5-D29	5-D29
下端筋	＊8-D25	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	8-D29	7-D29	6-D29	5-D29	6-D29	5-D29
スタラップ	▥-D13@100	▥-D13@100	▥-D13@100	▥-D13@100	▥-D13@100	▥-D13@100		□-D13@200			▥-D13@100	▥-D13@100
腹　筋					6-D13		6-D13	6-D13				10-D13

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	詫島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事

基礎梁リスト（1）

設計番号 16779

図面番号 S — 043

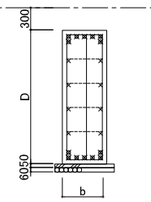
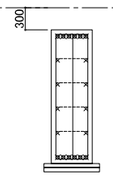
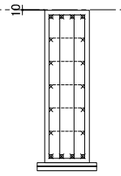
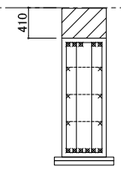
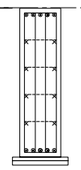
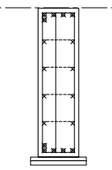
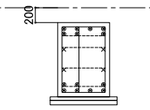
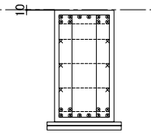
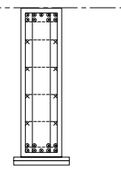
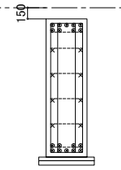
縮尺 1/A1:40 A3:80

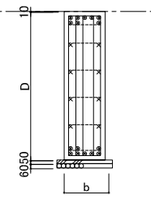
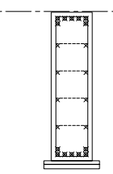
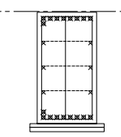
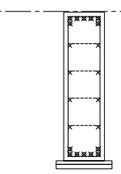
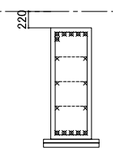
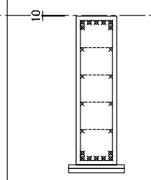
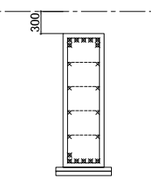
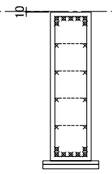
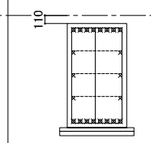
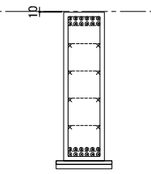
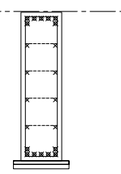
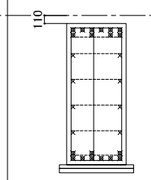
日付 2019. 11. 15

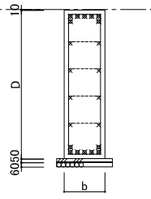
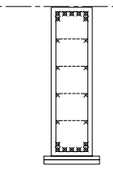
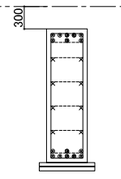
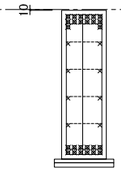
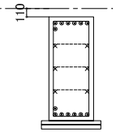
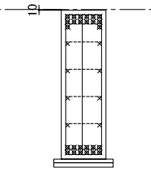
20191015通材ビュー申請者許可図

基礎梁リスト(2)　S=1/40

(註)特記ナキ限リ　スタラップ　□-D13 @200　腹筋　8-D13　巾止メ筋　D10 @1,000以下　地業:捨てコンクリート ㋐ 50，敷砂利 ㋐ 60　＊主筋径に注意すること

符号	FG14B	FG14C	FG14D	FG14E	FG14F	FG15	FG17	FG17A	FG17B	FG18	FG19	FG19A
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面 Fc=27												
b X D	600 X 1,800	650 X 1,800	600 X 2,050	600 X 1,600	550 X 2,000	550 X 2,000	700 X 1,000	600 X 1,000	700 X 1,000	800 X 1,500	550 X 2,000	550 X 1,860
上端筋	7-D29	6-D29	4-D29	5-D29	＊5-D25	5-D29	＊7-D25	＊7-D25	＊8-D25	＊10-D25	＊9-D25	＊9-D25
下端筋	7-D29	6-D29	4-D29	6-D29	＊5-D25	5-D29	＊7-D25	＊7-D25	＊8-D25	＊10-D25	＊9-D25	＊9-D25
スタラップ			□-D13@100	□-D16@125	□-D16@125	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D16@100	□-D13@100	□-D13@100
腹筋			10-D13	6-D13			4-D13	4-D13	4-D13	6-D13		

符号	FG19B	FG1W	FG1AW	FG2W	FG3W	FG4W	FG4AW	FG5W	FG6W	FG11W	FG12W	FG12AW
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面 Fc=27												
b X D	550 X 2,000	550 X 2,000	800 X 1,500	550 X 2,000	550 X 1,500	550 X 2,000	550 X 1,800	550 X 2,000	800 X 1,400	550 X 2,000	550 X 2,000	800 X 1,900
上端筋	＊8-D25	7-D29	9-D29	7-D29	6-D29	7-D29	7-D29	7-D29	8-D29	＊12-D25	7-D29	10-D29
下端筋	＊8-D25	7-D29	9-D29	7-D29	5-D29	7-D29	6-D29	7-D29	8-D29	＊12-D25	7-D29	9-D29
スタラップ	□-D13@100	□-D13@200	□-D13@100	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@100	□-D13@200	□-D13@100		□-D13@100	□-D13@150	
腹筋			6-D13		6-D13				6-D13			

符号	FG13W	FG14W	FG14AW	FG15W	FG18W		FCG1	FCG2				
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面				
断面 Fc=27												
b X D	550 X 2,000	550 X 2,000	550 X 1,800	600 X 2,000	600 X 1,400		600 X 2,000	450 X 1,000				
上端筋	7-D29	7-D29	＊8-D25	14-D29	＊7-D25		14-D29	5-D29				
下端筋	7-D29	7-D29	＊8-D25	12-D29	＊7-D25		12-D29	4-D29				
スタラップ	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@150		□-D13@200		□-D13@100	□-D13@200				
腹筋					6-D13			4-D13				

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	酘島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事

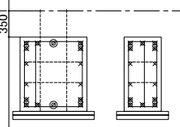
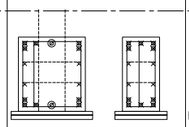
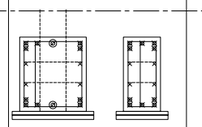
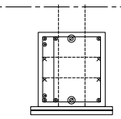
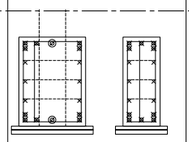
基礎梁リスト（2）

設計番号	図面番号
16779	S — 044
縮尺 1/A1:40 A3:80	日付 2019. 11. 15

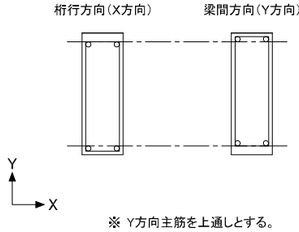
20191015通村仁ュー中審査終了図

基礎梁リスト(3)　S=1/40

(註)特記ナキ限り　スタラップ　□-D13 @200　腹筋　4-D13　巾止メ筋　D10 @1,000以下　地業:捨てコンクリート ㋐ 50 , 敷砂利 ㋐ 60　＊主筋径に注意すること　○ はひび割れ防止筋を示す (D16@200以下とする)　ひび割れ防止筋の定着は腹筋と同様とする

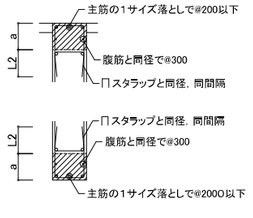
符　号	FG1S		FG1AS		FG2S		FG2AS		FG3S	FG4S						
位　置	両　端	中　央	3通り端	中央・5通り端	両　端	中　央	A・E通り端	中央・他端	全断面	A通り端	中央・C通り端					
▽1FL 350 断　面 Fc=27																
b X D	900～500X1,000	500 X 1,000	900～500X1,000	500 X 1,000	900～500X1,000	500 X 1,000	900～500X1,000	500 X 1,000	900 X 1,000	900～500X1,200	500 X 1,200					
上 端 筋	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	＊4-D25	5-D29	5-D29					
下 端 筋	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	＊4-D25	5-D29	5-D29					
スタラップ																
腹　筋										6-D13						

梁主筋位置図



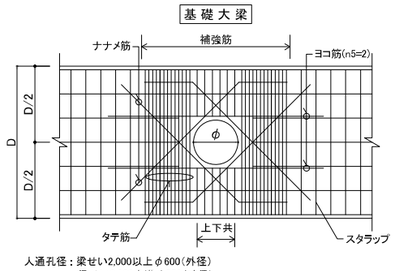
※ Y方向主筋を上通しとする。

増打補強要領



人通口補強要領

基礎大梁



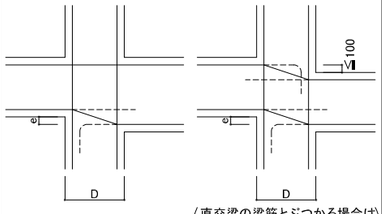
人通孔径：梁せい2,000以上 φ600(外径)
梁せい2,000未満 φ550(外径)

(　)は1段目の主筋が5本の場合

補強配筋種別	地中梁符号	斜め筋 (n1-n2-鉄筋径)	縦　筋 (n3-n4-鉄筋径)	横　筋 (n5-n6-鉄筋径)	上下縦筋 (n7-n8-鉄筋径)
A	FG1W・FG4W・FG4AW FG14B	4-4-D29	2×▥-D13	2-5-D13	▥-D13@100
B	FG2W・FG14AW	4-4-D29	3×▥-D13	2-5-D13	▥-D13@100
C	FG2A・FG4・FG4A FG4B・FG4C FG11W・FG14W・FG15 FG15W・FG19A	4-4-D29	10×▥-D16 (12×▥-D16)	2-6-D16 (2-5-D16)	▥-D16@100 (▥-D16@100)
D	FG1・FG2・FG8 FG11・FG14・FG19	4-4-D29	12×▥-D16 (13×▥-D16)	2-6-D16 (2-5-D16)	▥-D16@100 (▥-D16@100)
E	FG1C	4-5-D29	15×▥-D16	2-5-D16	▥-D16@100

梁段差要領

① e/D≦1/6のとき



(直交梁の梁筋とぶつかる場合は点線の納まりとする。)

| | | | | | | | | | | | | | | | |

基礎小梁リスト　S=1/40

(駐)特記ナキ限リ　スタラップ　□-D13 @200　腹筋　8-D13　巾止メ筋　D10 @1,000以下　地業:捨てコンクリート ㋐ 50，敷砂利 ㋐ 60

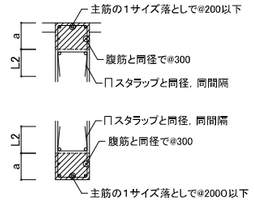
符号	FB1		FB1A		FB1B		FB1C		FB1D		FB1E		FB1F		FB1G		FB1S		FB2		FB2A		FB2B
位置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断面
b X D	550 X 2,000		550 X 2,050		550 X 2,000		550 X 1,800		550 X 2,300		650 X 1,800		550 X 1,710		650 X 1,710		550 X 2,000		500 X 2,000		500 X 1,900		500 X 1,860
上端筋	6-D25	6-D25	5-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	7-D25	5-D25	5-D25	11-D25	11-D25	6-D25	6-D25	9-D25	9-D25	6-D25	9-D25	5-D25	8-D25	5-D25	8-D25	5-D25
下端筋	9-D25	6-D25	6-D25	5-D25	9-D25	6-D25	9-D25	6-D25	6-D25	5-D25	14-D25	7-D25	9-D25	6-D25	12-D25	9-D25	10-D25	6-D25	9-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25
スタラップ							□-D13@100				⫼-D13@100		□-D13@100		⫼-D13@100		□-D13@100						
腹筋			10-D13						10-D13														

符号	FB2C		FB2D		FB3	FB3A	FB4	FB4A		FB4B		FB4C	FB5		FB5A		FB5C		FB5D	
位置	両端	中央	両端	中央	全断面	全断面	全断面	両端	中央	両端	中央	全断面	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央
b X D	600 X 1,600		600 X 1,710		500 X 1,900	500 X 2,000	500 X 2,000	650 X 2,000		650 X 2,000		600 X 1,860	600 X 2,000		600 X 2,000		600 X 1,900		800 X 1,900	
上端筋	7-D25	10-D25	6-D25	9-D25	6-D25	9-D25	11-D25	7-D25	8-D25	7-D25	8-D25	14-D25	7-D25	10-D25	7-D25	10-D25	7-D25	7-D25	9-D25	12-D25
下端筋	12-D25	7-D25	11-D25	9-D25	5-D25	5-D25	8-D25	14-D25	7-D25	11-D25	7-D25	10-D25	10-D25	7-D25	12-D25	7-D25	10-D25	7-D25	13-D25	9-D25
スタラップ	⫼-D13@100		⫼-D13@100					⫼-D13@100		⫼-D13@100		⫼-D13@200	□-D13@100		⫼-D13@100				□-D13@100	
腹筋	6-D13																			

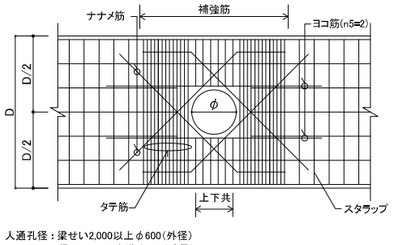
符号	FB5E		FB5S		FB6	FB7	FB8	FB8A	FB9		FB10	FB11		FB12	FB13	FB14	
位置	両端	中央	両端	中央	全断面	両端	中央	全断面	両端	中央	全断面	両端	中央	全断面	全断面	両端	中央
b X D	600 X 1,900		650 X 2,000		400 X 1,600	500 X 1,200	400 X 2,000	400 X 1,900	550 X 1,710		400 X 700	600 X 1,000		600 X 1,000	850 X 1,700	550 X 1,950	
上端筋	7-D25	7-D25	7-D25	10-D25	5-D25	5-D22	5-D22	5-D22	6-D25	9-D25	3-D22	5-D25	5-D25	5-D25	11-D25	6-D25	6-D25
下端筋	10-D25	7-D25	14-D25	7-D25	5-D25	5-D22	6-D22	6-D22	8-D25	6-D25	3-D22	5-D25	8-D25	5-D25	8-D25	9-D25	6-D25
スタラップ			⫼-D13@100						□-D13@150			□-D13@150			⫼-D13@100		
腹筋					6-D13	4-D13					2-D13	4-D13		4-D13			

符号	B20		B21	B22
位置	両端	中央	全断面	全断面
b X D	500 X 700		350 X 650	450 X 700
上端筋	5-D22	5-D22	4-D19	6-D22
下端筋	5-D22	7-D22	4-D19	6-D22
スタラップ				
腹筋	2-D13		2-D13	2-D13

増打補強要領



人通口補強要領（基礎小梁）



人通孔径：梁せい2,000以上 φ600(外径)
梁せい2,000未満 φ550(外径)

(　)は1段目の主筋が5本の場合

補強配筋種別	地中小梁符号	斜め筋 (n1-n2-鉄筋径)	縦筋 (n3-n4-鉄筋径)	横筋 (n5-n6-鉄筋径)	上下縦筋 (n7-n8-鉄筋径)
A	FB1・FB1B・FB2・FB2A FB2B・FB3 FB3A・FB5E	4-4-D25	6×⫼-D13	2-5-D13	⫼-D13@100
B	FB1C・FB1S・FB4・FB5 FB5A・FB5D・FB13 FB2D・FB1F・FB9	4-4-D29	10×⫼-D16 (12×⫼-D16)	2-6-D16 (2-5-D16)	⫼-D16@100 (⫼-D16@100)
C	FB4B・FB1G	4-4-D29	12×⫼-D16	2-6-D16	⫼-D16@100

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

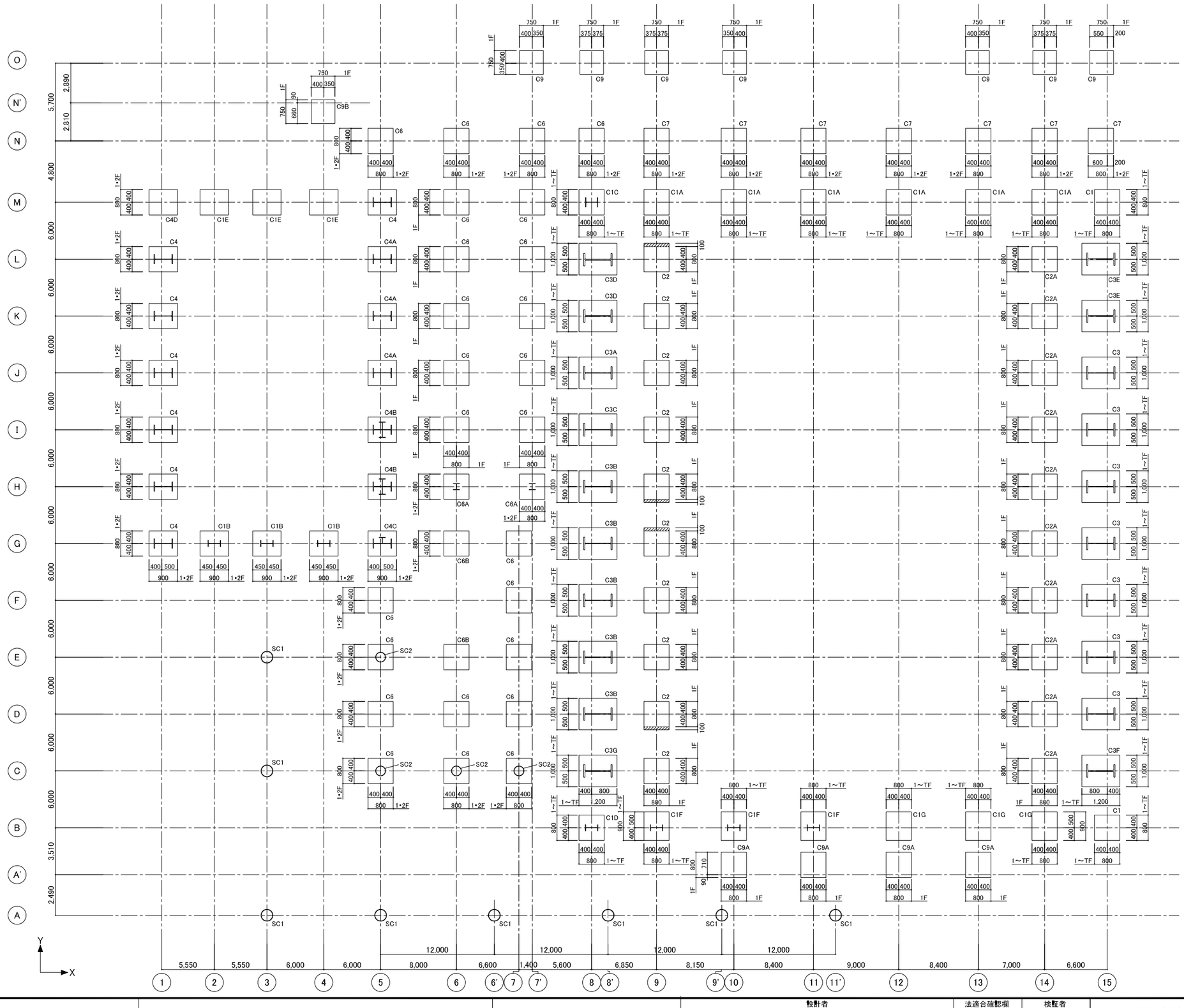
設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	酣島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事

基礎小梁リスト

設計番号	図面番号
16779	S — 046
縮尺 A1:1/40 A3:1/80	日付 2019.11.15

20191015通検ビュー中塚委終了図



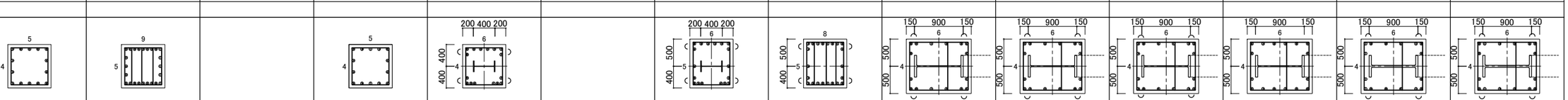
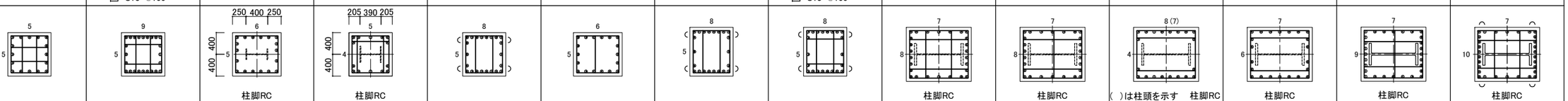
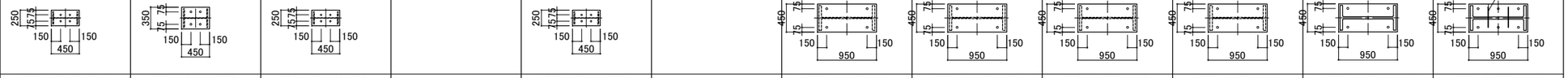
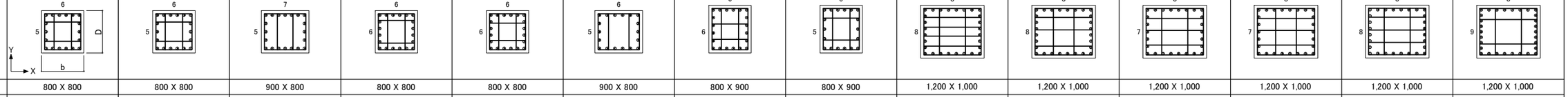
(註)特配ナキ限り
鉄骨部材は柱リストによる
鉄骨芯＝RC柱芯とする
▨ は増打コンクリートを示す

柱 芯 線 図　　S＝1/60

| | | |

柱 リ ス ト（1）　　S＝1/40

（註）特記ナキ限リ　フープ　□-D13 @100　仕口内ﾌｰﾌﾟ　□-D13 @100　　鋼材材質　Ⓑ 印：SN490B　B 印 ：SN400B　へ は寄せ筋を示す　フープにてS表示は高強度せん断補強筋（KSS785 785 N/ mm² 級）を示す　*はカバープレート付き,詳細は鉄骨リストによる C3F.C3G T階の内部鉄骨は ③BH-900X400X36X40とする

符　号	C1	C1A	C1B	C1C	C1D	C1E	C1F	C1G	C3 *(C3F)	C3A	C3B *(C3G)	C3C	*C3D	*C3E
位　置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面
仕口内ﾌｰﾌﾟ														
T 階 断 面 Fc=24														
B X D	800 X 800	800 X 800		800 X 800	800 X 800		800 X 900	800 X 900	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000
鉄　骨	―――	―――		―――	B H-400×200×8×13		B H-400×200×8×13	―――	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ BH-900×400×36×40	Ⓑ BH-900×400×36×40
主　筋	14-D25	24-D25		14-D25	16-D25		18-D25	22-D25	16-D25	16-D25	16-D25	16-D25	16-D25	16-D25
フ ー プ		▥-S13 @100						▥-S13 @100	◫ -D13 @90	◫ -D13 @90	◫ -D13 @90	◫ -D13 @90	◫ -D13 @90	◫ -D13 @90
仕口内ﾌｰﾌﾟ		□-S13 @100						□-S13 @100						
3(PH)階 柱 頭 断 面 Fc=24														
B X D	800 X 800	800 X 800		800 X 800	800 X 800		800 X 900	800 X 900	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000
鉄　骨	―――	―――		―――	B H-400×200×8×13		B H-400×200×8×13	―――	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ BH-900×400×36×40	Ⓑ BH-900×400×36×40
主　筋	16-D25	24-D25		14-D25	18-D25		18-D25	22-D25	18-D25	18-D25	18-D25	18-D25	18-D25	18-D25
フ ー プ		▥-S13 @100						▥-S13 @100						
仕口内ﾌｰﾌﾟ		□-S13 @100						□-S13 @100						
3(PH)階 柱 脚 断 面 Fc=24														
B X D	800 X 800	800 X 800		800 X 800	800 X 800		800 X 900	800 X 900	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000
鉄　骨	―――	―――		―――	柱脚RC		柱脚RC	―――	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ BH-900×400×36×40	Ⓑ BH-900×400×36×40
主　筋	16-D25	24-D25		14-D25	18-D25		18-D25	22-D25	18-D25	18-D25	18-D25	18-D25	18-D25	18-D25
フ ー プ		▥-S13 @100						▥-S13 @100						
仕口内ﾌｰﾌﾟ		□-S13 @100						□-S13 @100						
2 階 断 面 Fc=27														
B X D	800 X 800	800 X 800	900 X 800	800 X 800	800 X 800	900 X 800	800 X 900	800 X 900	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000
鉄　骨	―――	―――	B H-400×200×8×13	B H-390×300×10×16	―――	―――	―――	―――	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ H-900×400×19×40	B H-900×400×19×36	Ⓑ H-900×400×19×40	Ⓑ BH-900×400×36×40	Ⓑ BH-900×400×36×40
主　筋	16-D25	24-D25	18-D25	14-D25	22-D25	18-D25	22-D25	22-D25	26-D25	26-D25	20-D25(18-D25)	22-D25	28-D25	30-D25
フ ー プ	▦-S13 @100	▦-S13 @100		▦-D13 @100	◫-D13 @100	◫-D13 @100	◫-D13 @100	▦-S13 @100	▦-D13 @100	▦-D13 @100	▤ -D13 @80	▤ -D13 @80	▦-D13 @100	▦-D13 @100
仕口内ﾌｰﾌﾟ	□-S13 @100	□-S13 @100		□-S13 @100	□-S13 @100		□-S13 @100	□-S13 @100	⊞-S13 @100	⊞-D13 @100	⊞-S13 @100	⊞-D13 @100	⊞-D13 @100	⊞-S13 @100
2･3(PH)階 ベースプレート 断 面														
ベースプレート			B.PL-32X450X250 (SN400B)	B.PL-40X450X350 (SN400B)	B.PL-32X450X250 (SN400B)		B.PL-32X450X250 (SN400B)		B.PL-40X950X450 (SN490B)	B.PL-40X950X450 (SN490B)	B.PL-40X950X450 (SN490B)	B.PL-40X950X450 (SN490B)	B.PL-40X950X450 (SN490B)	B.PL-40X950X450 (SN490B)
アンカーボルト			4-M24 (ABR400) L=720 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締ﾒ, 定着板)	4-M24 (ABR400) =720 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締ﾒ, 定着板)	4-M24 (ABR400) L=720 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締ﾒ, 定着板)		4-M24 (ABR400) L=720 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締ﾒ, 定着板)		4-M33 (ABR400) L=990 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締ﾒ, 定着板)	4-M33 (ABR400) L=990 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締ﾒ, 定着板)	4-M33 (ABR400) L=990 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締ﾒ, 定着板)	4-M33 (ABR400) L=990 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締ﾒ, 定着板)	4-M33 (ABR400) L=990 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締ﾒ, 定着板)	6-M33 (ABR400) L=990 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締ﾒ, 定着板)
1 階 断 面 Fc=27														
B X D	800 X 800	800 X 800	900 X 800	800 X 800	800 X 800	900 X 800	800 X 900	800 X 900	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000	1,200 X 1,000
鉄　骨	―――	―――	―――	―――	―――	―――	―――	―――	―――	―――	―――	―――	―――	―――
主　筋	18-D25	18-D25	20-D25	20-D25	20-D25	18-D25	20-D25	18-D25	28-D25	28-D25	26-D25	26-D25	28-D25	30-D25
フ ー プ	▦-S13 @100	▦-S13 @100	◫-D13 @100	▦-S13 @100	▦-S13 @100	◫-D13 @100	▦-S13 @100	▦-S13 @100	▦-S13 @100	▦-D13 @100	▦-S13 @100	▦-D13 @100	▦-D13 @100	▦-S13 @100
仕口内ﾌｰﾌﾟ	□-S13 @100	□-S13 @100		□-S13 @100	□-S13 @100		□-S13 @100	□-S13 @100	⊞-S13 @100	⊞-D13 @100	⊞-S13 @100	⊞-D13 @100	⊞-D13 @100	⊞-S13 @100

符　号	C1	C1A	C1B	C1C	C1D	C1E	C1F	C1G	C3 *(C3F)	C3A	C3B *(C3G)	C3C	*C3D	*C3E

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	蔀島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事

柱リスト（1）

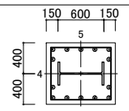
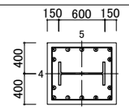
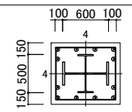
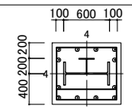
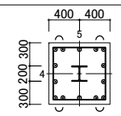
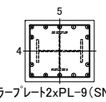
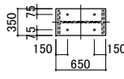
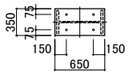
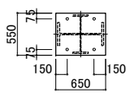
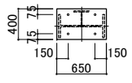
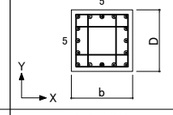
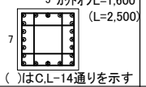
設計番号 16779　図面番号 S － 048

縮尺 1/A1:40 A3:80　日付 2019・11・15

2019105図面ビューロ審査終了図

柱 リ ス ト（2）　S＝1/40

（註）特記ナキ限リ　フープ　□-D13 @100　仕口内ﾌｰﾌﾟ　□-D13 @100　　鋼材材質　Ⓑ印：SN490B　B印：SN400B　∩は寄せ筋を示す　フープにてS表示は高強度せん断補強筋(KSS785 785 N/mm² 級)を示す

符号	C2	C2A	C4	C4A	C4B	C4C	C4D	C6	C6A	C6B	C7	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
仕口内ﾌｰﾌﾟ												
3(PH)階 柱脚 断面 Fc=24												
B X D												
鉄骨												
主筋												
フープ												
仕口内ﾌｰﾌﾟ												
2階 柱頭 断面 Fc=27					 ﾀﾞﾌﾞﾗｰﾌﾟﾚｰﾄ2xPL-9(SN490B)							
B X D			900 X 800	900 X 800	900 X 800	900 X 800	900 X 800	800 X 800	800 X 800	800 X 800	800 X 800	
鉄骨			Ⓑ H-600×300×16×25	Ⓑ H-600×300×12×25	X: Ⓑ H-600×300×16×25 Y: Ⓑ H-500×200×10×16	X: B H-600×300×16×25 Y: B T-200×200× 8×13	———	———	B H-200×200×8×12	———	———	
主筋			14-D25	14-D25	12-D25	12-D25	18-D25	18-D25	14-D25	14-D25	**16-D25**	
フープ						田-D13 @100				田-D13 @100		
仕口内ﾌｰﾌﾟ												
2階 柱脚 断面 Fc=27			 柱脚RC	 柱脚RC	 ﾀﾞﾌﾞﾗｰﾌﾟﾚｰﾄ2xPL-9(SN490B) 柱脚RC	 柱脚RC	同上	同上	 柱脚RC	同上	同上	
B X D			900 X 800	900 X 800	900 X 800	900 X 800			800 X 800			
鉄骨			Ⓑ H-600×300×16×25	Ⓑ H-600×300×12×25	X: Ⓑ H-600×300×16×25 Y: Ⓑ H-500×200×10×16	X: B H-600×300×16×25 Y: B T-200×200× 8×13			B H-200×200×8×12			
主筋			18-D25	18-D25	14-D25	18-D25			16-D25			
フープ						田-D13 @100						
2・3(PH)階 ベースプレート 断面												
ベースプレート			B.PL-32X650X350 (SN490B)	B.PL-32X650X350 (SN490B)	B.PL-32X650X550 (SN490B)	B.PL-32X650X400 (SN490B)			B.PL-32X250X250 (SN400B)			
アンカーボルト			4-M24 (ABR400) L=720 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め, 定着板)	4-M24 (ABR400) L=720 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め, 定着板)	4-M24 (ABR400) L=720 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め, 定着板)	4-M24 (ABR400) L=720 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め, 定着板)			2-M24 (ABR400) L=720 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め, 定着板)			
仕口内ﾌｰﾌﾟ	□-S13 @100	□-S13 @100	□-S13 @100		□-S13 @100	□-S13 @100		□-S13 @100	□-S13 @100	□-S13 @100	□-S13 @100	
1階 柱頭 断面 Fc=27												
B X D	800 X 800	800 X 800	900 X 800	900 X 800	900 X 800	900 X 800	900 X 800	800 X 800	800 X 800	800 X 800	800 X 800	
鉄骨	———	———	———	———	———	———	———	———	———	———	———	
主筋	16-D25	18-D25	22-D25	18-D25	18-D25	18-D25	22-D25	18-D25	20-D25	20-D25	18-D25	
フープ	田-S13 @100	田-S13 @100	田-S13 @100	田-D13 @100	田-S13 @100	田-S13 @100	田-S13 @100	田-S13 @100	田-S13 @100	田-S13 @100	田-S13 @100	
仕口内ﾌｰﾌﾟ												
1階 柱脚 断面 Fc=27	同上	 ( )はC,L-14通りを示す	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
B X D		800 X 800										
鉄骨		———										
主筋		20-D25										
フープ		田-S13 @100										
仕口内ﾌｰﾌﾟ	□-S13 @100	□-S13 @100	□-S13 @100		□-S13 @100	□-S13 @100	□-S13 @100	□-S13 @100	□-S13 @100	□-S13 @100	□-S13 @100	

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	藪島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事

柱リスト（2）

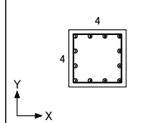
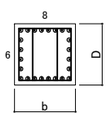
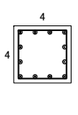
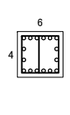
設計番号 16779　図面番号 S － 049

縮尺 1/A1:40 A3:80　日付 2019・11・15

20191015透判ビューロ審査終了図

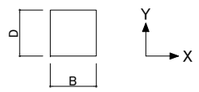
柱 リ ス ト（3）　　S＝1/40

（註）特記ナキ限リ　フープ　□-D13 @100　仕口内ﾌｰﾌﾟ　□-D13 @100

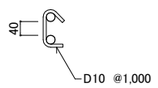
符　号	C9	C9A	C9B		CP1	
位　置	全 断 面	全 断 面	全 断 面		全 断 面	
仕口内ﾌｰﾌﾟ						
3(PH)階 Fc=24						
B X D						
鉄　骨						
主　筋						
フープ						
仕口内ﾌｰﾌﾟ						
2 階 柱 頭 断 面 Fc=27						
B X D						
鉄　骨						
主　筋						
フープ						
仕口内ﾌｰﾌﾟ						
2 階 柱 脚 断 面 Fc=27						
B X D						
鉄　骨						
主　筋						
フープ						
仕口内ﾌｰﾌﾟ						
2・3(PH)階 ベースプレート 断 面						
ベースプレート						
アンカーボルト						
1 階 柱 頭 断 面 Fc=27						
B X D	750 X 750	800 X 800	750 X 750		600 X 600	
鉄　骨	―――	―――	―――		―――	
主　筋	12-D25	24-D25	12-D25		16-D22	
フープ		□-D13 @100			□-D13 @100	
仕口内ﾌｰﾌﾟ						
1 階 柱 脚 断 面 Fc=27	同上	同上	カットオフL=1,600 		同上	
B X D			750 X 750			
鉄　骨			―――			
主　筋			18-D25			
フープ						
仕口内ﾌｰﾌﾟ						

符　号	FC1	FC2
位　置	全 断 面	全 断 面
断 面 Fc=27		
B X D	750 X 750	800 X 800
主　筋	12-D22	16-D22
フープ	□-D13 @100	□-D13 @100

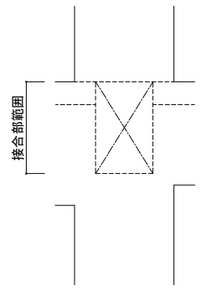
凡　例



よ せ 筋 要 領



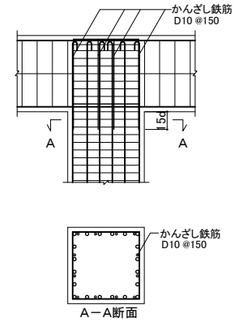
仕口内フープ範囲図



接合部に集まる全ての梁のうち
最も低い梁天端と最も高い梁下端の
範囲を接合部範囲とする。

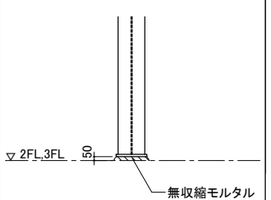
柱頭 かんざし筋 配筋要領

柱頭主筋L2定着する柱の柱頭補強筋

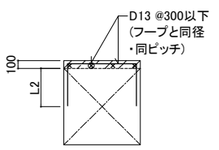


・柱筋はすべてフック付きL2定着とする
・L2定着出来ない場合は柱頭かご鉄筋配筋要領による

SRC柱柱脚要領

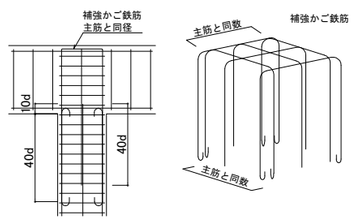


柱増打要領



柱頭 かご鉄筋 配筋要領

※補強カゴ鉄筋の隅部分はフックを設けること。



飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	藍島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事

柱リスト（3）

設計番号	図面番号
16779	S － 050
縮尺 1/A1:40 A3:80	日付 2019・11・15

2019101S透明ビュー印書登終了図

梁 リ ス ト（1）　S＝1/40

（註）特記ナキ限り　スタラップ　□−D13 @200　腹筋　2−D13　巾止メ筋　D10 @1,000以下　鋼材材質　B 印 ：SN400B　へ は寄せ筋を示す
＊は仮設用鉄骨を示す（電炉材）　○ はひび割れ防止筋を示す(D16@200以下とする) ひび割れ防止筋の定着は鉄骨手前までとする　腹筋(35d定着)は鉄骨と干渉する場合はフック付定着可とする　ハンチ長さは柱面からの長さを示す

符　号	RG1W	RG1AW		RG1BW			RG11	RG11W	TG1W	TG1AW		TG1BW			TG11W	3G1W	3G1WW
位　置	全 断 面	両　端	中 央	11通り端	中 央	12通り端	全 断 面	全 断 面	全 断 面	両　端	中 央	11通り端	中 央	12通り端	全 断 面	全 断 面	全 断 面
断 面 Fc=24		ハンチ=1,000		ハンチ=1,000				鉄骨は8通りB−C間のみ		ハンチ=1,000		ハンチ=1,000					
b X D	600 X 800	650〜600X800	600 X 800	650〜600X800	600 X 800		550 X 800	550 X 800	500 X 750	600〜500X750	500 X 750	600〜500X750	500 X 750		700 X 750	600 X 800	600 X 900
鉄　骨	---	＊H−200X100X5.5X8		---			＊H−200X100X5.5X8	＊H−200X100X5.5X8	---	---		---			---	---	---
上 端 筋	4−D29	4−D29	4−D29	4−D29	4−D29	4−D29	3−D29	3−D29	4−D25	4−D25	4−D25	4−D25	4−D25	4−D25	4−D29	4−D25	8−D25
下 端 筋	4−D29	4−D29	4−D29	4−D29	4−D29	4−D29	3−D29	3−D29	4−D25	4−D25	4−D25	4−D25	4−D25	4−D25	4−D29	4−D25	12−D25
スタラップ	□−D13@100	□−D13@100		□−D13@100				□−D13@150	□−D13@150	□−D13@150		□−D13@150			□−D13@100	□−D13@100	□−D13@150
腹　筋	6−D29(40d定着)	6−D29(40d定着)		6−D29(40d定着)			6−D16(35d定着)	6−D16(35d定着)	4−D16(35d定着)	4−D16(35d定着)		4−D16(35d定着)			4−D16(35d定着)	4−D16(35d定着)	8−D29(40d定着)

符　号	3G1AW	3G3W	3G4		3G4A			3G4B			3G4C	3G4D	3G4E			3G4F			3G4G
位　置	全 断 面	全 断 面	6通り端・中央	7通り端	5 通り端	中 央	6 通り端	7通り端	中 央	8通り端	全 断 面	全 断 面	5通り端	中 央	6通り端	7通り端	中 央	8通り端	全 断 面
断 面 Fc=27								片側ハンチとする ハンチ=1,200					ハンチ=1,200			片側ハンチとする ハンチ=1,200		カットオフL=2,000	
b X D	800 X 800	600 X 800	700 X 900		700 X 900			700 X 950		700〜900X950	800 X 900	600 X 900	800〜600X900	600 X 900		700 X 950		700〜900X950	700 X 900
鉄　骨	---	＊H−200X100X5.5X8	---		---			---			---	---	---			---			---
上 端 筋	6−D25	4−D25	13−D25	10−D25	7−D25	13−D25	13−D25	10−D25	10−D25	9−D25	7−D25	9−D25	8−D25	9−D25	9−D25	10−D25	10−D25	8−D25	9−D25
下 端 筋	5−D25	4−D25	7−D25	7−D25	7−D25	12−D25	12−D25	10−D25	10−D25	8−D25	7−D25	8−D25	8−D25	8−D25	8−D25	8−D25	8−D25	5−D25	7−D25
スタラップ	四−D13@150	□−D13@150	□−D13@100		四−D13@100			四−D13@100			□−D13@150	□−D13@150	□−D13@150			四−D13@100			□−D13@100
腹　筋		4−D16(35d定着)	4−D13		4−D13			4−D13			4−D13	4−D13	4−D13			4−D13			4−D13

符　号	3G4H		3G4I			3G4W	3G4AW		3G5		3G5W	3G9			3G9A	3G9B		3G11W	3G11WW
位　置	7通り端・中央	8通り端	5 通り端	中 央	6 通り端	全 断 面	5通り端	中央・6通り端	両　端	中 央	全 断 面	5通り端	中 央	6通り端	全 断 面	7'通り端・中央	8通り端	全 断 面	全 断 面
断 面 Fc=27	片側ハンチとする ハンチ=1,200						ハンチ=1,200		カットオフL=2,300							ハンチ=1,200			
b X D	700 X 950	700〜900X950	700 X 900			600 X 800	800〜600X950	600 X 950	600 X 900		600 X 800	800 X 900			800 X 800	800 X 800	800〜900X800	550 X 800	700 X 900
鉄　骨	---		---			---	---		---		---	---			---	---		---	＊H−200X100X5.5X8
上 端 筋	7−D25	5−D25	8−D25	13−D25	13−D25	4−D25	6−D25	6−D25	5−D25	4−D25	4−D25	6−D25	6−D25	6−D25	8−D25	6−D25	6−D25	4−D29	8−D29
下 端 筋	7−D25	5−D25	7−D25	12−D25	12−D25	4−D25	6−D25	6−D25	5−D25	5−D25	4−D25	4−D25	6−D25	5−D25	8−D25	6−D25	6−D25	4−D29	9−D29
スタラップ	四−D13@100		四−D13@100			□−D13@150	□−D13@150		四−D13@200		□−D13@150	□−D13@150			□−D13@150	□−D13@100		□−D13@150	□−D13@150
腹　筋	4−D13		4−D13				4−D13		8−D29(40d定着)		8−D29(40d定着)	4−D13(35d定着)							4−D13

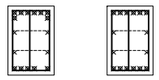
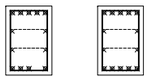
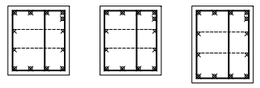
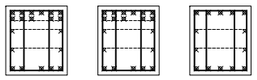
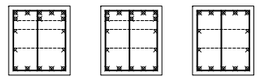
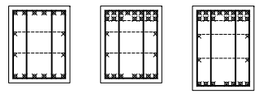
符　号	3G11AW	3G11BW	3G13	3G13W	3G13AW	3G14	3G14a	3G14W	3G14AW	3G15		3G15W	
位　置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	M通り端・中央	N通り端	全 断 面	
断 面 Fc=27	鉄骨は8通りC−H間のみ	鉄骨は8通りH−I間のみ											
b X D	1,200 X 800	800 X 800	900 X 2,200	550 X 800	900 X 2,200	600 X 900	600 X 900	550 X 900	550 X 1,050	800 X 800		550 X 800	
鉄　骨	＊H−200X100X5.5X8	＊H−200X100X5.5X8	＊H−200X100X5.5X8	＊H−200X100X5.5X8	B H−400X200X8X13	---	---	---	---	---		---	
上 端 筋	6−D29	4−D29	4−D25	3−D29	4−D25	5−D25	5−D25	5−D25	10−D25	9−D25	6−D25	4−D25	
下 端 筋	8−D29	4−D29	4−D25	3−D29	4−D25	5−D25	5−D25	5−D25	10−D25	6−D25	6−D25	4−D25	
スタラップ	□−D13@100	□−D13@150	□−D13@100	□−D13@150	□−D13@100	四−D13@150	四−D13@150	□−D13@100	四−D13@100	□−D13@100		□−D13@150	
腹　筋	4−D16(35d定着)	4−D16(35d定着)	10−D25(35d定着)		10−D13	4−D13(35d定着)	6−D16(35d定着)	4−D13	4−D13	2−D13(35d定着)			

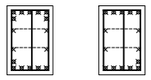
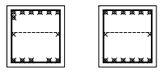
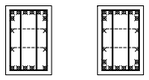
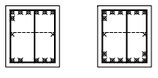
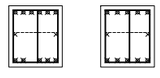
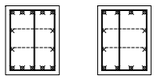
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社　一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号	設計者	法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S − 051
		一級建築士 第280187号 中川 崇 / 一級建築士 第312528号 藪島 健夫 / 一級建築士 第365088号 小林 紗矢 / 一級建築士 第138771号 高橋 敏夫	構造設計一級建築士 第3038号 西田 修治	西田 修治	梁リスト（1）	縮尺 1/A1:40 A3:80 / 日付 2019・11・15	

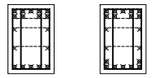
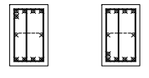
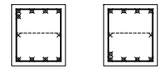
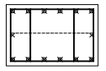
20191015透判ビューロ審査終了図

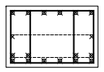
梁 リ ス ト（2）　S＝1/40

（註）特記ナキ限り　スタラップ　□-D13 @200　腹筋　2-D13　巾止メ筋　D10 @1,000以下　※はスタラップにてS表示は高強度せん断補強筋（KSS785 785 N/㎟ 級）を示す　ハンチ長さは柱面からの長さを示す

符号	2G1		2G1W	2G1WW	2G1A		2G1AW	2G2			2G2A			2G2B			2G2C			2G2D
位置	両端	中央	全断面	全断面	両端	中央	全断面	8通り端	中央	9通り端	8通り端	中央	9通り端	8通り端	中央	9通り端	14通り端	中央	15通り端	全断面
断面 Fc=27																				
	カットオフL=2,000									鉛直ハンチl=1,000									鉛直ハンチl=1,000	
b X D	600 X 900		600 X 800	600 X 800	600 X 900		600 X 1,150	800 X 900		800X900～1,000	800 X 900			800 X 900			800 X 1,000		800X1,000～1,100	800 X 900
鉄骨	---		---	---	---		---	---			---			---			---			---
上端筋	8-D29	6-D29	4-D29	8-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	11-D29	11-D29	5-D29	8-D29	8-D29	5-D29	6-D29	15-D29	15-D29	11-D29
下端筋	5-D29	6-D29	4-D29	8-D29	4-D29	5-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	6-D29	7-D29	7-D29	5-D29
スタラップ	田-D13@100		□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150		□-D13@150	田-D13@100			皿-D13@100			田-D13@100			※ 皿-S13@100			皿-D13@100
腹筋	4-D13				4-D13		4-D13	4-D13(35d定着)			4-D13(35d定着)			4-D13(35d定着)			4-D13(35d定着)			4-D13(35d定着)

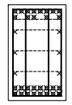
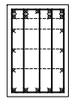
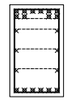
符号	2G2W	2G3		2G3W	2G4	2G4A		2G4B		2G4C		2G4D		2G4F		2G4W	2G4WW	2G4AW
位置	全断面	両端	中央	全断面	全断面	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	7通り端・中央	8通り端	全断面	全断面	全断面
断面 Fc=27																		
		カットオフL=2,000				カットオフL=2,300						カットオフL=2,000						
b X D	650 X 800	600 X 900		800 X 800	700 X 900	750 X 800		600 X 900		700 X 800		700 X 800		700 X 900		600 X 800	600 X 800	600 X 1,150
鉄骨	---	---		---	---	---		---		---		---		---		---	---	---
上端筋	5-D29	7-D29	5-D29	4-D29	6-D29	7-D29	6-D29	8-D29	8-D29	7-D29	7-D29	6-D29	5-D29	5-D29	4-D29	4-D29	9-D29	5-D29
下端筋	4-D29	6-D29	6-D29	4-D29	5-D29	5-D29	6-D29	5-D29	8-D29	5-D29	8-D29	5-D29	5-D29	5-D29	4-D29	4-D29	9-D29	4-D29
スタラップ	□-D13@150	田-D13@100		□-D13@150	田-D13@100	□-D13@150		皿-D13@100		田-D13@100		田-D13@100		田-D13@100		□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150
腹筋		4-D13			4-D13(35d定着)			4-D13						4-D13(35d定着)				4-D13

符号	2G5		2G5W	2G5WW	2G6		2G6W	2G7		2G8	2G9A	2G11	2G11W	2G11WW	2G11AW
位置	両端	中央	全断面	全断面	両端	中央	全断面	両端	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面 Fc=27															
					カットオフL=2,500			カットオフL=2,300							
b X D	600 X 900		600 X 800	600 X 800	500 X 800		500 X 800	700 X 800		700 X 800	700 X 800	550 X 800	550 X 800	550 X 900	1,200 X 800
鉄骨	---		---	---	---		---	---		---	---	---	---	---	---
上端筋	9-D29	9-D29	4-D29	8-D29	5-D29	4-D29	4-D29	5-D29	4-D29	6-D29	4-D29	4-D29	4-D29	8-D29	6-D29
下端筋	5-D29	7-D29	4-D29	8-D29	4-D29	5-D29	4-D29	4-D29	5-D29	5-D29	4-D29	4-D29	4-D29	9-D29	6-D29
スタラップ	皿-D13@200		□-D13@100	□-D13@100	田-D13@100			□-D13@150		皿-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	皿-D13@100
腹筋	4-D13											10-D29(40d定着)		4-D13	

符号	2G11AWW	2G11BW	2G12		2G12A	2G12W	2G12AW	2G13	2G13A	2G13W	2G13AW	2G13AWW	2G13BW
位置	全断面	全断面	両端	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面 Fc=27													
			カットオフL=1,800										
b X D	1,200 X 800	800 X 800	550 X 800		450 X 800	600 X 800	450 X 800	900 X 800	550 X 800	550 X 800	900 X 800	900 X 800	900 X 800
鉄骨	---	---	---		---	---	---	---	---	---	---	---	---
上端筋	6-D29	6-D29	5-D29	4-D29	5-D25	4-D29	4-D25	5-D29	4-D29	6-D29	8-D29	13-D29	6-D29
下端筋	10-D29	6-D29	4-D29	4-D29	5-D25	4-D29	4-D25	5-D29	4-D29	6-D29	8-D29	13-D29	6-D29
スタラップ	皿-D13@100	皿-D13@150	皿-D13@100		※ 田-S13@100	皿-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	田-D13@150	田-D13@150	田-D13@100
腹筋			4-D16(35d定着)		10-D29(40d定着)		4-D16(35d定着)						

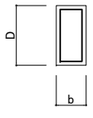
梁 リ ス ト（3）　　S＝1/40

（註）特記ナキ限り　スタラップ　□-D13 @200　腹筋　2-D13　巾止メ筋　D10 @1,000以下　∩ は寄せ筋を示す　※はスタラップにてS表示は高強度せん断補強筋（KSS785　785 N/ mm² 級）を示す

符　号	2G14	2G14A	2G14B	2G14C	2G14W	2G14AW	2G14BW	2G15W	2G17		2G18	2G18W	
位　置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	N通り端・中央	O通り端	全 断 面	全 断 面	
断 面 Fc=27													
b X D	650 X 800	650 X 700	600 X 800	800 X 1,000	550 X 800	750 X 1,250	550 X 1,150	700 X 1,000	750 X 800		800 X 1,200	700 X 1,200	
鉄　骨	---	---	---	---	---	---	---	---	---		---	---	
上 端 筋	6-D29	5-D29	6-D29	8-D29	4-D29	13-D29	4-D29	12-D29	6-D29	5-D29	9-D29	10-D29	
下 端 筋	5-D29	5-D29	4-D29	6-D29	4-D29	16-D29	4-D29	6-D29	5-D29	5-D29	5-D29	6-D29	
スタラップ	4-D13@150	2-D13@200	2-D13@150	4-D13@100	□-D13@150	4-D13@100	□-D13@150	□-D13@150	2-D13@100		※ 4-S13@100	□-D13@150	
腹　筋				4-D13(35d定着)		6-D13	4-D13	4-D13	2-D13(35d定着)		6-D13(35d定着)	6-D13	

符　号	2GA	2GW1				CG1	CG2	CG3		CG4		CG5	CG6		CG7
位　置	全 断 面	全 断 面				全 断 面	全 断 面	元 端	先 端	元 端	先 端	全 断 面	元 端	先 端	全 断 面
断 面 Fc=27															
b X D	600 X 900	300 X 900				800 X 900	650 X 900	700X1,200～1,000		700X1,200～1,000		800 X 900	750X1,200～1,000		
鉄　骨	---	---				---	---	---		---		---	---		---
上 端 筋	8-D29	2-D19				9-D29	7-D29	10-D29		9-D29		11-D29	6-D29		4-D25+3-D25
下 端 筋	8-D29	2-D19				7-D29	5-D29	9-D29		8-D29		7-D29	6-D29		5-D25
スタラップ	4-D13@100	□-D13@100				□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100		2-D13@150		2-D13@100	4-D13@100		2-D13@200
腹　筋	4-D13	12-D19(35d定着)				4-D13	4-D13	6-D13	4-D13	6-D13	4-D13	4-D13	6-D13	4-D13	1-D13

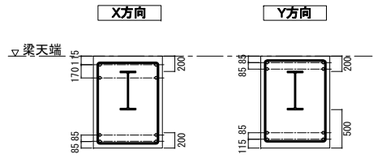
凡　例



梁 主 筋 位 置 図

※ Y方向主筋を上通しとする。

n階鉄筋納まり要領図



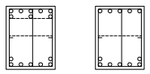
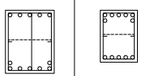
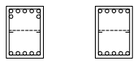
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社　一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者	法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S － 053
		一級建築士 第280187号 中川 崇 / 一級建築士 第312528号 酣島 健夫 / 一級建築士 第365088号 小林 紗矢 / 一級建築士 第138771号 高橋 敏夫	構造設計一級建築士 第3038号 西田 修治	西田 修治	梁リスト（3）	縮尺 1/A1:40 A3:80 / 日付 2019・11・15	

2019101S透析ビューロ審査終了図

小 梁 リ ス ト　　S=1/40

（註）特記ナキ限リ　スタラップ　□-D13 @200　腹筋　2-D10　巾止メ筋　D10 @1,000以下

符 号	B1		B1A		B2		B2A		B2B		B3		B4		B5		B5A		B5B		B5C		B5D	
位 置	全断面		全断面		両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央
断 面 Fc=27																								
b X D	350 X 600		350 X 600		350 X 700		350 X 750		400 X 800		350 X 750		400 X 600		400 X 600		400 X 600		400 X 650		400 X 750		400 X 600	
上 端 筋	3-D19		3-D22		7-D22	3-D22	6-D22	3-D22	5-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22	3-D22	6-D22	3-D22	4-D22	3-D22	5-D22	3-D22
下 端 筋	3-D19		3-D22		5-D22	5-D22	4-D22	5-D22	4-D22	5-D22	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	5-D22	3-D22	6-D22	4-D22	4-D22
スタラップ							□-D13 @100		□-D13 @100										□-D13@150					
腹 筋																								

符 号	B6		B6A		B6B		B7		B8		B8A		B9		B9A		B10		B11		B11A		B12	
位 置	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央
断 面 Fc=27																								
																							Fc=24.27	
b X D	350 X 650		350 X 650		400 X 700		400 X 800		400 X 750		400 X 850		450 X 850		660 X 850		500 X 700		350 X 750		400 X 800		400 X 750	
上 端 筋	8-D22	3-D22	4-D22	3-D22	5-D22	4-D22	5-D22	4-D22	8-D22	5-D22	8-D22	5-D22	8-D22	5-D22	8-D22	5-D22	7-D22	5-D22	5-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22
下 端 筋	5-D22	5-D22	3-D22	5-D22	4-D22	5-D22	4-D22	7-D22	6-D22	6-D22	5-D22	5-D22	7-D22	7-D22	7-D22	7-D22	5-D22	5-D22	4-D22	4-D22	3-D22	7-D22	3-D22	5-D22
スタラップ									□-D13 @100		□-D13@100		□-D13@100		□-D13@100									
腹 筋																							4-D16(35d定着)	

符 号	B13	BW1	CB1	STB1
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面 Fc=27				
b X D	500 X 600	200 X 600	500 X 700	600 X 600
上 端 筋	4-D22	3-D16	7-D22	5-D22
下 端 筋	4-D22	3-D16	5-D22	5-D22
スタラップ		□-D13 @150	□-D13 @150	□-D13@150
腹 筋	2-D16(35d定着)			

床 版 リ ス ト

（註）土に接するスラブは地業を施すこと。

符 号	版 厚	位 置	短辺方向（主筋方向）	長辺方向（配力筋方向）	備 考
S1	150	上端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
		下端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S2	150	上端筋	D10・D13 @150	D10・D13 @200	
		下端筋	D10・D13 @150	D10・D13 @200	
S3	150	上端筋	D13 @150	D10・D13 @200	
		下端筋	D13 @150	D10・D13 @200	
S4	150	上端筋	D13 @100	D13 @150	
		下端筋	D13 @100	D13 @150	
S5	180	上端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
		下端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S6	180	上端筋	D10・D13 @150	D10・D13 @200	
		下端筋	D10・D13 @150	D10・D13 @200	
S7	180	上端筋	D13 @125	D13 @200	
		下端筋	D13 @125	D13 @200	
S7A	180	上端筋	D13 @100	D13 @150	
		下端筋	D13 @100	D13 @150	
S8	300	上端筋	D13 @100	D13 @200	一方向板
		下端筋	D13 @100	D13 @200	
S8A	200	上端筋	D13 @150	D13 @150	
		下端筋	D13 @150	D13 @150	
S9	250	上端筋	D16 @100	D13 @100	
		下端筋	D13・D16 @100	D13 @100	
S10	180	上端筋	D16 @100	D10・D13 @200	
		下端筋	D13・D16 @100	D10・D13 @200	
S11	180	上端筋	D13 @150	D13 @150	
		下端筋	D13 @150	D13 @150	

符 号	版 厚	位 置	短辺方向（主筋方向）	長辺方向（配力筋方向）	備 考
CS1	250	上端筋	D16 @100	D13 @100	端部 4-D19
		下端筋	D13・D16 @100	D13 @100	Lmax=1,600
CS2	180	上端筋	D13 @150	D10 @150	端部 2-D16
		下端筋	D13 @150	D10 @150	Lmax=245
CS3	180	上端筋	D13 @100	D10・D13 @100	端部 4-D16
		下端筋	D13 @100	D10 @100	Lmax=1,450
CS4	250	上端筋	D16 @100	D16 @100	端部 4-D16
		下端筋	D13・D16 @100	D13・D16 @100	Lmax=1,600
CS5	150	上端筋	D13 @150	D10・D13 @100	端部 2-D16
		下端筋	D13 @150	D10 @100	Lmax=350
CS6	250	上端筋	D13 @200	D10・D13 @200	端部 2-D16
		下端筋	D13 @200	D10 @200	Lmax=245
SA	250	上端筋	D13 @100	D13 @100	EVピット
		下端筋	D13 @100	D13 @100	
土間コン DS1	300	上端筋	D13 @200	D13 @200	多目的ホール
		下端筋	D13 @200	D13 @200	浅層改良

（土に接するスラブ）

DS1詳細図　S=1/40

CS端部配筋拘束要領図　S=1/40

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	詫島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S — 054
小梁リスト・床版リスト	縮尺 1/A1:40 A3:80	日付 2019. 11. 15

20191015資料ビューワ書類終了印

壁 リ ス ト　　S=1/40

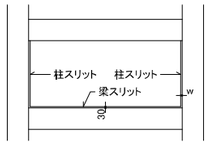
(駐)特記ナキ限リ　巾止メ筋　D10 @1,000以下　　ナナメ筋は D6-75X75(ﾒｯｼｭ筋)

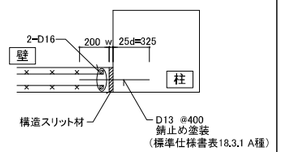
符　号		w15	w15A	w15B	w18	w18A	w25	kw22	kw30		Ew開口補強リブ柱、枠梁
タテ断面		200 / 150	200 / 150	200 / 150	200 / 180	200 / 180	150 / 250	100 / 220	100 / 300		D13 @100 / 250 / 300 ※位置は軸組図による
タ テ 筋		D10・D13@150ﾁﾄﾘﾀﾞﾌﾞﾙ	D13@100ﾁﾄﾘﾀﾞﾌﾞﾙ	D13@150ﾁﾄﾘﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @200 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @100 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @100 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @100 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @100 ﾀﾞﾌﾞﾙ		
ヨ コ 筋		D10・D13@200ﾁﾄﾘﾀﾞﾌﾞﾙ	D10・D13@200ﾁﾄﾘﾀﾞﾌﾞﾙ	D10@200ﾁﾄﾘﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @200 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @200 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @150 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @100 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @100 ﾀﾞﾌﾞﾙ		
開口端部補強筋	タテ筋	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16		
	ヨコ筋	2-D16	2-D16	2-D13	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16		
	ナナメ筋	1-D13	1-D13	1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13		

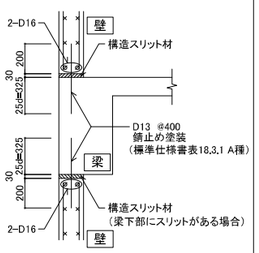
符　号		Ew18	Ew18A	Ew18B	Ew18C	Ew20	Ew20A	Ew22	Ew25	Ew25A	Ew30	
タテ断面		200 / 180	125 / 180	150 / 180	100 / 180	150 / 200	125 / 200	150 / 220	100 / 250	100 / 250	100 / 300	
タ テ 筋		D13 @200 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @150 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @150 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @200 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @150 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @125 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @150 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @150 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @100 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D16 @100 ﾀﾞﾌﾞﾙ	
ヨ コ 筋		D13 @200 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @125 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @150 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @100 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @150 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @125 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @150 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @150 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13 @100 ﾀﾞﾌﾞﾙ	D16 @100 ﾀﾞﾌﾞﾙ	
開口端部補強筋	タテ筋	6-D16	6-D16	6-D16	6-D16	6-D16	6-D16	4-D19	6-D19	4-D19	4-D19	
	ヨコ筋	6-D16	6-D16	6-D16	6-D16	6-D16	6-D16	4-D19	6-D19	4-D19	4-D19	
	ナナメ筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	

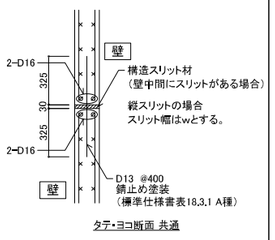
スリット詳細図

W:腰壁・そで壁高さの1/100かつ30以上







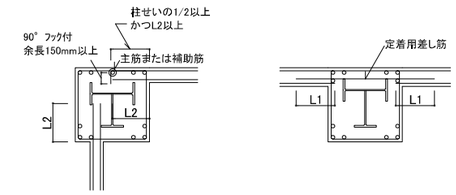


タテ・ヨコ断面 共通

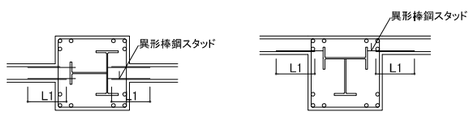
耐震壁定着要領

(異形棒鋼スタッドは壁筋と同径・同ピッチとする)

柱への定着の例



異形棒鋼スタッドなどを溶接する例



※　柱フランジと壁筋が干渉する場合には異形棒鋼スタッドを使用してもよい

構造スリット（完全スリット）　要領図

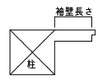
構造スリット配置

構造スリット配置は原則下記とする。番号は下図の①②・・・を示す。

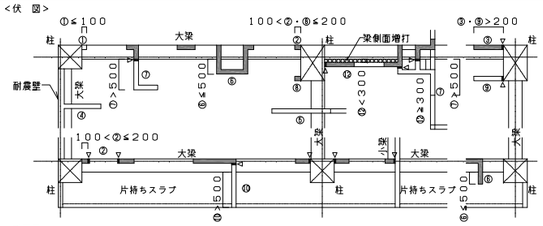
① 柱面からの袖壁長さが100以下の場合は、水平構造スリット、鉛直構造スリット共に設けなくてよい。
② 柱面からの袖壁長さが100を超え200以下の場合は、水平構造スリットのみを上下に設ける。
③ 柱面からの袖壁長さが200を超える場合は、柱際に鉛直構造スリット、壁下端(梁上面)に水平構造スリットを設ける。
④ 耐震壁に直交する壁は構造スリットを設けなくてよい。
⑤ 大梁に単独で直交する壁は構造スリットを設けなくてよい。
⑥ 剛接架構内の壁から連続して直交する壁が、梁面から500以内の場合は水平構造スリットを設ける。
⑦ 剛接架構内の壁から連続して直交する壁が、梁面から500を超える場合は梁面に鉛直構造スリットを設ける。
⑧ 梁上(梁側面増打部含む)にない袖壁で、柱面からの袖壁長さが100を超え200以下の場合は、水平構造スリットのみを上下に設ける。
⑨ 梁上(梁側面増打部含む)にない袖壁で、柱面からの袖壁長さが200を超える場合は、柱際に鉛直構造スリットを設ける。
⑩ 最下、バルコニー等の片持ちスラブ側に、剛接架構内の壁から連続して直交する壁が、大梁面から500を超える場合は大梁側面に鉛直スリットを設けるのではなく、直交となった壁位置に鉛直スリットを設ける。
⑪ 大梁に直交する壁の大梁側面に鉛直スリットを設ける場合は、上部のスラブの下面までとする。また、その位置は壁の上部の大梁側面に合わせる。
⑫ 大梁と壁の有効距離(空き)が300未満の場合は、大梁の側面を原則増しコンとする。

注)軸組図には主架構内の構造スリットのみを表示(表示されていない構造スリットもあるので注意の事)。
注)構造スリット位置は下図を参考に施工図にて確認し、監理者と協議の上で決定の事。
注)袖壁長さは右図参照。

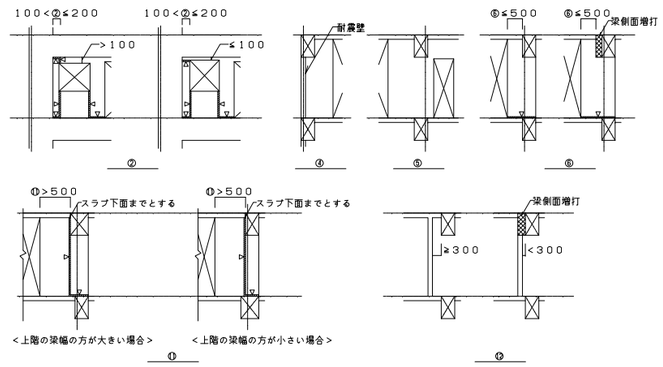
□: 水平構造スリットなし　▭: 水平構造スリットあり　▽: 鉛直構造スリット



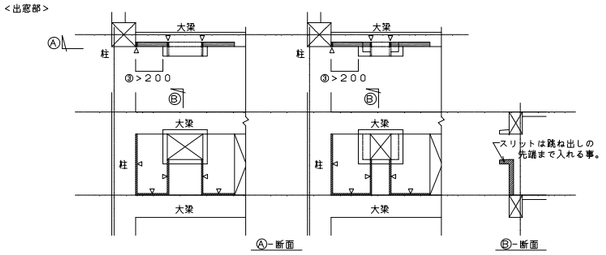
<伏 図>



<断面図>



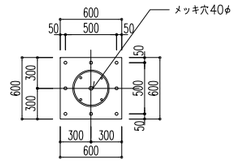
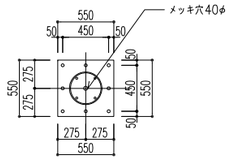
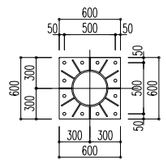
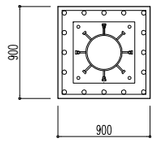
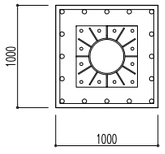
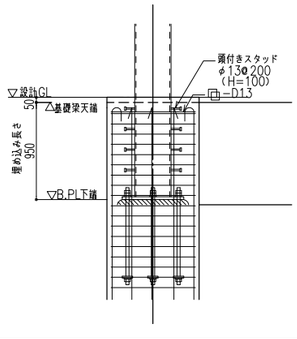
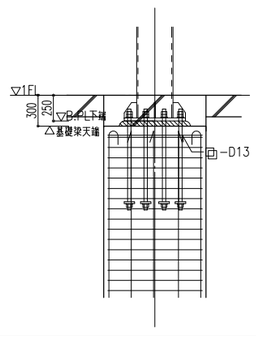
<出窓部>



飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社　一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者	法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S — 055
		一級建築士 第280187号 中川 崇 / 一級建築士 第312528号 詫島 健夫 / 一級建築士 第365088号 小林 紗矢 / 一級建築士 第138771号 高橋 敏文	構造設計一級建築士 第3038号 西田 修治	西田 修治	壁リスト	縮尺 1/A1:40 A3:80	日付 2019.11.15

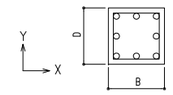
2019101S過検ビュー印審査終了図

鉄骨柱断面リスト　S=1/30

符　号	SC1	SC2	SC3	SC4	SC5
断　面　形　状	○	○	I	I	○
	φ355.6x 12.7(STKN490B) (溶融亜鉛めっき)	φ318.5x 10.3(STKN490B) (溶融亜鉛めっき)	B H-200x200x8x12	B H-200x200x8x12 (溶融亜鉛めっき)	φ355.6x12.7(STKN400B)
柱　脚	 空気穴φ10x 4箇所設ける	 空気穴φ10x 4箇所設ける	S-**(C6A)による		
ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ	B B.PL-28x600x600 (SN490B)	B B.PL-28x550x550 (SN490B)			B B.PL-36x600x600 (SN490B)
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	8-M30(ABR400),定着長さ L=750 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め)	8-M27(ABR400),定着長さ L=700 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め)			12-M33(ABR490),定着長さ L=850 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め)
定　着　板	PL-16x100x100	PL-16x90x90			PL-16x100x100
ﾘﾌﾞﾌﾟﾚｰﾄ					PL-12 (H=150)
柱　型					
B x D	900 x 900				1000 x 1000
主　筋	16-D25				16-D25
ﾌｰﾌﾟ	□-D13@100 (頂部補強筋 ▣-D13)				□-D13@100 (頂部補強筋 ▣-D13)
柱脚部配筋要領					
備考	大庇 埋め込み部は、非メッキとする	大庇	射場	設備架台	内部鉄骨階段

特記なき限り

1.BxD表示

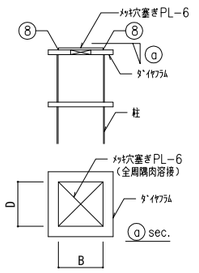


2. フープ ：□-D10 @100

3. 最上部のフープは2重巻とする

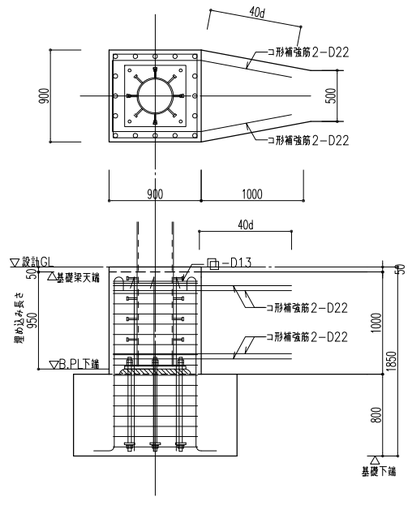
4. 鉄骨材質
   無 印：SS400
   B 印：SN400B
   C 印：SN400C
   Ⓑ 印：SN490B

柱頭部ﾒｯｷ穴塞ぎ要領図



PLｻｲｽﾞ (B x D)
SC1 ： BxD=250x250
SC2 ： BxD=200x200

側柱埋込柱脚コ型補強筋 要領図



鉄骨鉄筋コンクリート柱　鉄骨継手リスト

符　号	部材断面寸法	剛接合										ピン接合						備　考
		フランジ継手				ウェブ継手						ウェブ継手						
		H.T.BOLT	S 記号- 1	S 記号- 2	S 記号- L	H.T.BOLT	N	M	E1	P1	S 記号- 3	継手タイプ	H.T.BOLT	N・M		P1	記号-A	2S 記号- B	
C3A,C3B,C3C,C3F,C3G	B H-900x400x19x40	16 -M22	B 記号-25x400	B 2記号-25x160	500	20 -M22	2	10	105	60	B 2記号-19x620x290								
C3D,C3E	B H-900x400x36x40	16 -M22	B 記号-29x400	B 2記号-29x160	500	20 -M22	2	10	105	60	B 2記号-19x620x290								

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

鉄骨大梁・継手リスト

符号	部材断面寸法	剛接合										ピン接合							備考
		フランジ継手				ウェブ継手						ウェブ継手							
		H.T.BOLT	S PL− 1	S PL− 2	S PL− L	H.T.BOLT	N	M	E1	P1	S PL− 3	継手タイプ	H.T.BOLT	N・M		P1	PL−A	2S PL− B	
ST1																			S−59による
SG1	B H−800x300x14x26	10 −M22	B PL−19x300	B 2PL−19x110	530	10 −M22	1	10	105	90	B 2PL−12x620x170								
3G13AW	B H−400x200x 8x13	6 −M20	B PL− 9x200	B 2PL− 9x 80	410	4 −M20	1	4	105	60	B 2PL− 9x260x170								
建て方用鉄骨 ※	H−200x100x5.5x8											A	2−M20	1	2	60	PL − 9	−	使用箇所は、梁リスト(S−51~53)による
SG150M	B H−150x150x 7x10	6 −M16	B PL−16x150	−	410	2 −M20	1	2	45	60	B 2PL− 6x 80x290	A	3−M20	1	3	60	PL − 9	−	溶融亜鉛めっき、高力ボルトF8T
SG294	B H−294x200x 8x12	6 −M20	B PL− 9x200	B 2PL− 9x 80	410	3 −M20	1	3	105	60	B 2PL− 9x200x170	A	6−M20	2	3	60	PL − 9	−	
SG488・SCG1	B H−488x300x11x18	8 −M22	B PL−12x300	B 2PL−12x110	440	5 −M22	1	5	66	60	B 2PL−12x370x170	A	10−M22	2	5	60	PL − 12	−	
SG500M	B BH−500x350x12x19	現 場 溶 接										A	10−M22	2	5	60	PL − 12	−	溶融亜鉛めっき、高力ボルトF8T
SCG2	B H−294x200x 8x12	6 −M20	B PL− 9x200	B 2PL− 9x 80	410	3 −M20	1	3	105	60	B 2PL− 9x200x170								
SCG3	B H−200x200x 8x12	現 場 溶 接																	

鉄骨小梁リスト

符号	部材断面寸法	継手タイプ	ピン接合						剛接合										備考
			ウェブ継手						フランジ継手				ウェブ継手						
			H.T.BOLT	N・M		P1	PL−A	2S PL− B	H.T.BOLT	S PL− 1	S PL− 2	S PL− L	H.T.BOLT	N	M	E1	P1	S PL− 3	
SB100	H− 100x 100x 6x 8	A	2−M16	2	1	60	PL − 6	−											
SB194	H− 194x 150x 6x 9	A	2−M16	1	2	80	PL − 6	−											
SB20	H− 200x 100x 5.5x 8	A	2−M16	1	2	80	PL − 6	−											
SB20A	H− 200x 100x 5.5x 8	A	4−M20	2	2	60	PL − 12	−											
SB25	H− 250x 125x 6x 9	A	3−M16	1	3	60	PL − 6	−	6 −M20	B PL− 9x200	B 2PL− 9x 80	410	3 −M20	1	3	105	60	B 2PL− 9x200x170	剛接端部 B H−250x125x6x9
SB25A	H− 250x 125x 6x 9	A	6−M16	2	3	60	PL − 6	−											
SB294	H− 294x 200x 8x 12	A	3−M20	1	3	90	PL − 9	−	6 −M20	B PL− 9x200	B 2PL− 9x 80	410	3 −M20	1	3	105	60	B 2PL− 9x200x170	剛接端部 B H−294x200x8x12
SB30	H− 300x 150x 6.5x 9	A	3−M20	1	3	90	PL − 9	−											
SB35	H− 350x 175x 7x 11	A	3−M20	1	3	90	PL − 9	−											
SB35A	H− 350x 175x 7x 11	A	8−M20	2	4	60	PL − 9	−											
SB35B	A H− 350x 175x 7x 11	A	8−M20	2	4	60	A PL − 9	−											
SB488	H− 488x 300x 11x 18	A	8−M20	2	4	60	PL − 12	−	8 −M20	B PL−12x300	B 2PL−12x110	440	8 −M20	2	4	105	90	B 2PL−12x350x290	剛接端部 B H−488x300x14x26
SB50	H− 500x 200x 10x 16	A	5−M20	1	5	60	PL − 12	−											
SB800	H− 800x 300x 14x 26	A	14−M20	2	7	90	PL − 16	−	10 −M22	PL−19x300	2PL−19x110	530	10 −M22	1	10	105	60	2PL−12x620x170	むくり+80mm
SCB1	B H− 488x 300x 11x 18	A	8−M20	2	4	60	PL − 12	−											
SCB2	B H− 294x 200x 8x 12	A	3−M20	1	3	90	PL − 6	−											
SCB3	PL− 12x580~110x100																		S−61による
SB45	A BH− 450x 200x 19x 22	A	15−M24	3	5	60	A PL − 19												
SB45A	A BH− 450x 200x 16x 16	A	15−M22	3	5	60	A PL − 16												
SB45B	A BH− 450x 200x 12x 16	A	12−M22	2	6	60	A PL − 12												

共通事項

特記なき限り

1. 鉄骨材質
   - 無 印：SS400
   - B 印：SN400B
   - C 印：SN400C
   - Ⓑ 印：SN490B
   - Ⓒ 印：SN490C
   - A 印：SM490A

2. 小梁・間柱・耐風梁・仮設部材、その他二次部材のみ電炉材を可とする。
   上記以外（柱・梁材等）は高炉材とする。

鉄骨継手基準図

1 継手に於ける基本事項

1. 継手部のボルト本数，スプライスプレートは、
   中央断面及び、小さい方の母材断面により決定し、
   継手表より選択する。
2. 継手表に示すボルト本数は、継手面の片側について示す。
3. 継手部のクリアランスは、10mmとする。
4. 継手部に於いて母材の板厚差が、1mmを越える場合は、
   フィラープレートにて板厚を調整する。
   （フィラープレートの材質は、SS400とする）
5. 継手表に明記なき場合は、詳細図による。
6. 継手表と詳細図が異なる場合は、詳細図を優先する。
7. 鉄骨材質　無 印：SS400
   - A 印：SN400A
   - B 印：SN400B
   - Ⓑ 印：SN490B

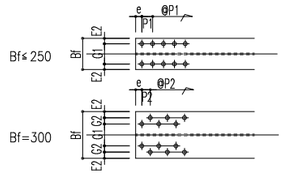
8. スプライスプレートの材質は、母材材質と同等とする。
9. 高力ボルトは、S10Tとする。

2 高力ボルトピッチの仕様

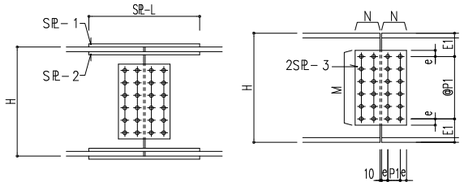
呼 径	ピッチ(P)	はしあき(e)	孔 径	種 類
M22	60	40	24.0	トルシアタイプ S10T
M20	60	40	22.0	
M16	60	40	18.0	

剛接合継手要領

フランジ接合部



ウェブ接合部



Bf	G1	G2	E2	備考
150	90	−	30	P1=60 , e=40
175	105	−	35	P1=60 , e=40
200	120	−	40	P1=60 , e=40
225	135	−	45	P1=60 , e=40

Bf	G1	G2	E2	備考
250	150	−	50	P1=60 , e=40
300*	150	40	35	P2=45 , e=40
350	140	70	35	P1=60 , e=40
400	140	90	40	P1=60 , e=40

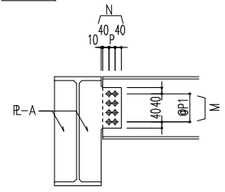
※印は、千鳥配列とする。

ピン接合継手要領

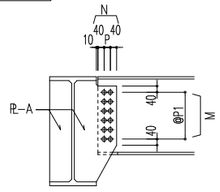
特記なき限り

1. 鉄骨の同一材種・同一板厚のH、SH、BHへの変更は行ってもよいこととする。
   ただし、当該部分の工事着手前に監理者および構造設計者へ報告および確認を行うこと。

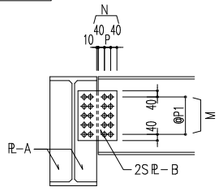
TYPE A



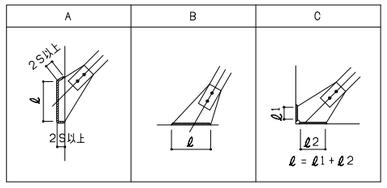
TYPE B



TYPE C



ブレース溶接要領図



飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	配島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事

鉄骨部材リスト （2）

設計番号	図面番号
16779	S − 057

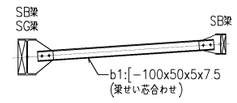
縮尺 1/ A1:1/30 A3:1/60　日付 2019・11・15

2019/08/05 最終ビューロー管理終了版

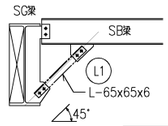
鉄骨部材リスト

符 号	部材断面寸法	継手タイプ	ウェブ継手 H.T.BOLT A.BOLT	N-M		P1	G － ℄	備 考
P100	H－100x100x6x8	A	2－M16	2	1	60	G℄－6	
HB100	H－100x100x6x8	A	2－M16	2	1	60	G℄－6	構使い
HB148	H－148x100x6x9	A	2－M16	1	2	60	G℄－6	構使い
Sb11	[－100x50x5x7.5	A	2－M16	2	1	60	G℄－6	構使い
P1	[－100x50x5x7.5	A	2－M16	2	1	60	G℄－6	
横胴縁	C－100x50x20x3.2@455	A	2－M12	2	1	60	G℄－6	普通ボルト、SSC400 （射場、、的場）
	目地位置は、2C－100x50x20x3.2とする							
母屋	C－100x50x20x3.2@455	A	2－M12	2	1	60	G℄－6	普通ボルト、SSC400 （大庇天井受け、射場屋根）
母屋	C－100x50x20x2.3@600	A	2－M12	2	1	60	G℄－6	普通ボルト、SSC400 （射場勝り屋根）
縦胴縁	C－100x50x20x2.3@455	A	2－M12	2	1	60	G℄－6	普通ボルト、SSC400 （的場）
	目地位置は、2C－100x50x20x2.3とする							
胴縁領つなぎ材,a	□－100x100x2.3	A	2－M16	2	1	60	G℄－6	STKR400
b1	[－100x50x5x7.5	A	2－M16	2	1	80	G℄－6	
b2	[－150x75x6.5x10	A	3－M16	3	1	60	G℄－9	
b3	[－150x75x6.5x10	A	3－M20	3	1	80	G℄－9	
V1	2L－75x75x6	A	5－M16	5	1	60	G℄－9	溶接長さℓ：480mm以上
V2	φ139.8 x3.6	A	3－M20	3	1	60	G℄－9	STK400
V3	L －75x75x6	A	2－M16	2	1	60	G℄－9	溶接長さℓ：210mm以上
V4	L －65x65x6	A	5－M16	5	1	60	G℄－9	溶接長さℓ：170mm以上
V4A	2L －65x65x6	A	5－M16	5	1	60	G℄－9	溶接長さℓ：400mm以上
V5	L －75x75x6	A	5－M16	5	1	60	G℄－9	溶接長さℓ：210mm以上
V6	1－M20 （TB付）	A	1－M20	1	1	－	G℄－9	溶接長さℓ：100mm以上
V7	1－M16 （TB付）	A	1－M16	1	1	－	G℄－9	溶接長さℓ：100mm以上
V8	L －65x65x6	A	5－M16	5	1	60	G℄－9	溶接長さℓ：170mm以上 溶融亜鉛めっき、高力ボルトF8T
V9	2[－200x90x8x13.5	A	12－M22	6	2	60	G℄－19	溶接長さℓ：700mm以上 はさみ板:PL－19@400 HTB 1－M16
V9A	φ －216.3x5.8	A	6－M20	3	2	60	G℄－19	STK400
V10	2L －90x90x13	A	7－M20	7	1	60	G℄－12	溶接長さℓ：200mm以上 はさみ板:PL－12@400 HTB 1－M12
V10A	φ －165.2x6.0	A	3－M20	3	1	60	G℄－12	STK400
L1	L －65x65x6	A	2－M16	2	1	60	G℄－6	溶接長さℓ：170mm以上
滑車受け	[－150x75x6.5x10	A	2－M16	2	1	60	G℄－6	
f1	[－100x50x5x7.5	A	2－M16	2	1	60	G℄－6	
f2	[－125x65x6x8	A	2－M16	2	1	60	G℄－9	
f3	H－200x100x5.5x8							
ササラ桁	PL－16x300	A	3－M20	3	1	60	G℄－19	ルーズホール位置は、普通ボルトとする

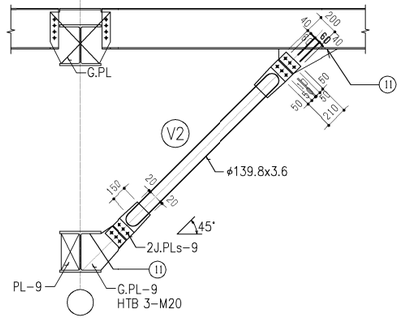
横補剛材取合要領図 S=1/30



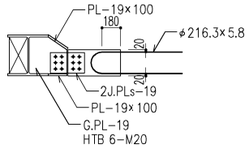
L1取合要領図 S=1/30



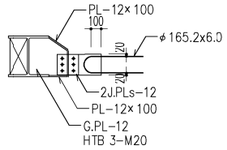
V2材取合要領図 S=1/30



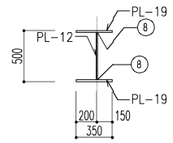
V9A材取合要領図 S=1/30



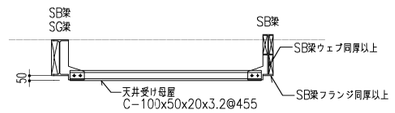
V10A材取合要領図 S=1/30



SG500M 詳細図 S=1/30



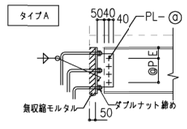
大庇天井受け取合要領図 S=1/30

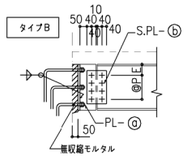


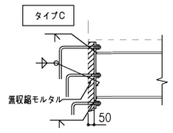
S小梁のRC取付詳細図

特記なき限り

1. 鉄骨材質
   - 無 印：SS400
   - B 印：SN400B
   - C 印：SN400C
   - A 印：SM490A
   - B 印：SN490B
   - C 印：SN490C
2. 添板の材質は母材と同材質とする







符号	部材断面寸法	タイプ	ウェブ継手表 高力ボルト	nxm	P	E	PL－ⓐ	S.PL－ⓑ	RC取付け部			備考
SB25	H －250x125x6x9	A	3－M16	1x 3	60	55	PL－6	——		ベースプレート	B PL－16x300x300	
										ボルト	A.BOLT 4－M20 （ABR400） L=800 ダブルナット締め,フック付き	
SB30	H－300x150x6.5x 9	A	3－M20	1x 3	60	90	PL－9	——		ベースプレート	B PL－16x300x300	
										ボルト	A.BOLT 4－M20 （ABR400） L=800 ダブルナット締め,フック付き	
SB35B	Ⓐ H－350x175x7x11	A	8－M20	2x 4	60	90	PL－9	——		ベースプレート	B PL－25x300x310	
										ボルト	A.BOLT 4－M20(ABR400) L=600 ダブルナット締め,フック付き	
SB45	Ⓐ BH－450x250x19x22	B	10－M22	2x 5	60	90	PL－19	2PL－19		ベースプレート	B PL－32x450x500	リブプレートPL-9(H=100)
										ボルト	A.BOLT 6－M24(ABR400) L=650 ダブルナット締め,フック付き	2面せん断
SB45A	Ⓐ BH－450x200x16x16	B	10－M22	2x 5	60	90	PL－16	2PL－16		ベースプレート	B PL－32x450x500	リブプレートPL-9(H=100)
										ボルト	A.BOLT 6－M24(ABR400) L=650 ダブルナット締め,フック付き	2面せん断

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	菴島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S － 058
鉄骨部材リスト （3）	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	日付 2019.11.15

2019/11/5 建築ビューロー管理用7版

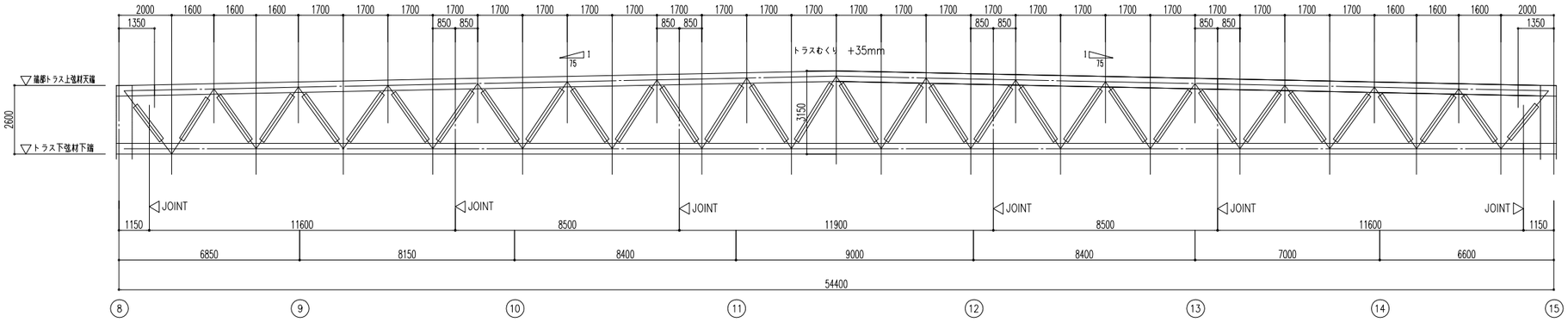
トラス部材断面表

特記なき限り
1.鉄骨材質
無印：SS400
Ⓑ印：SN490B
Ⓗ印：SN400B

2.継手要領は、S-57鉄骨継手基準図および剛接合継手要領による

ST1

断面



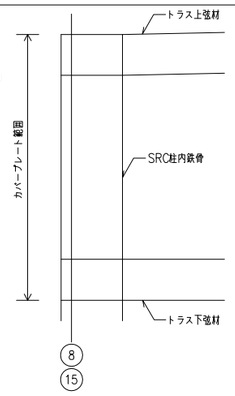
トラス断面リスト

符 号	部材断面寸法	剛接合 フランジ継手 H.T.BOLT	S 記-1	S 記-2	S 記-L	ウェブ継手 H.T.BOLT	N	M	E1	P1	S 記-3	備 考
上弦材、下弦材	Ⓑ H-400x400x13x21	16 -M22	Ⓑ記-12x300	Ⓑ2記-16x170	530	8 -M22	2	4	105	60	Ⓑ 2P-12x260x290	
斜材	Ⓑ H-200x200x 8x12	4 -M20	Ⓑ記- 9x200	Ⓑ2記- 9x 80	290	4 -M20	2	2	105	60	Ⓑ 2記- 6x140x290	

SRC柱内鉄骨カバープレート要領図

適用箇所
・C-8通,C-15通,K-8通,K-15通,L-8通,L-15通





ST1建て方仮設要領図

鉄骨建方及び注意事項

前工程
（1）支保工上で鉄骨建方を行う。
（2）計画書
・工事に先立ち、本建設を踏まえて建方計画書、ジャッキダウン計画書を提出し監督職員の承認を受ける。
・本図の既設物を参考とし施工順序に応じて、必要な安全対策を盛り込むこと。
（3）疑義・変更
・設計内容に疑義がある場合は速やかに監督職員に連絡し、指示を受ける。
・本建設は原則を示すもので、要求する品性、性能を損保しうる施工改良案がある場合は、監督職員の承認を受けてそれを採用することができる。

↓

鉄骨建方
（1）ST1建方時は図に示す仮設サポート等を設ける。この仮設サポートはジャッキ等により、レベル調整可能なものとする。

↓

8通側 ST1本締め

↓

小梁、ブレース、仮取付

↓

15通側 ST1の固定
（1）ジャッキを外しRC躯体に荷重を移行する。その時水平移動量を測定し、設計値と対比、位置・精度の調整を行う。

↓

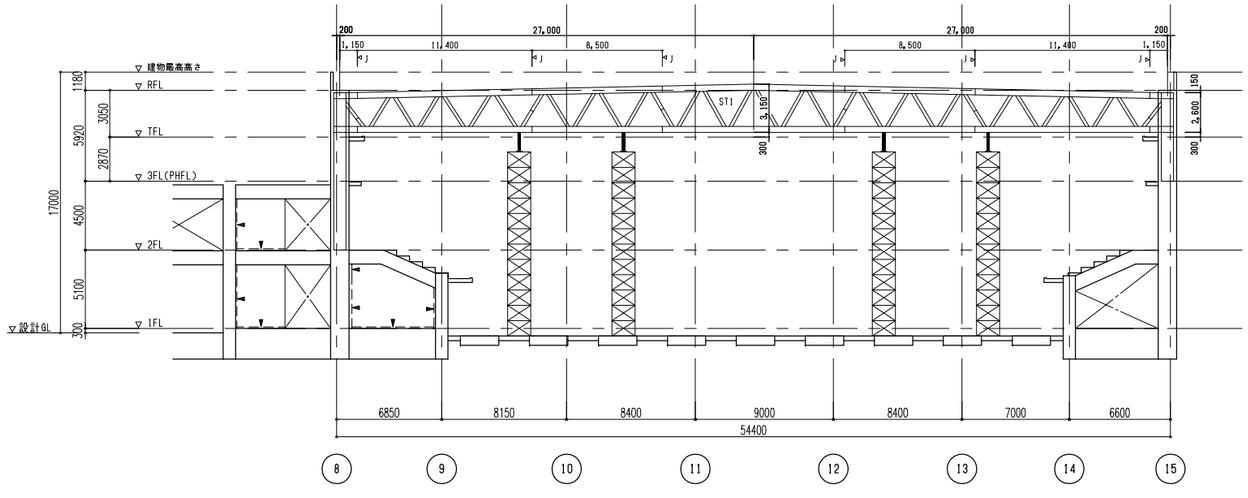
小梁、ブレース本締め

↓

屋根仕上げ

↓

後工程
（1）測定の結果を報告書にまとめ提出する事。
その他：仮設サポート等に伴う補強に関しては、本工事に含むものとする。

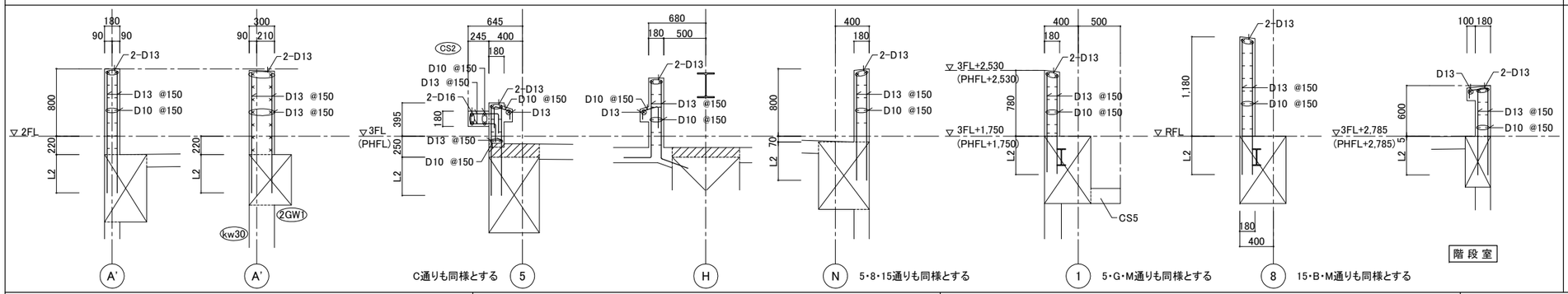


飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants 株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号	設計者 一級建築士 第280187号 中川 崇 / 一級建築士 第312528号 藪島 健夫 / 一級建築士 第365088号 小林 紗矢 / 一級建築士 第138771号 高橋 敏夫	法適合確認欄 構造設計一級建築士 第3038号 西田 修治	検証者 西田 修治	飯塚市新体育館等建設工事 / トラス部材リスト	設計番号 16779 / 縮尺 1/A1:1/30 A3:1/60 / 日付 2019・11・15	図面番号 S — 059

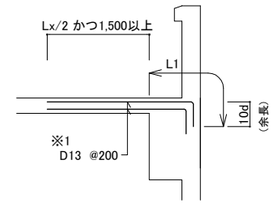
2019/11/15 管理ビューワー登録下版

雑配筋詳細図　　S＝1/30

パラペット



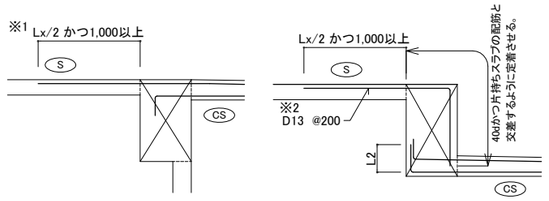
スラブ補強要領（パラペット）



※1　スラブ筋に加えてD13 @200（上下端筋共）の補強を施す。

※2　スラブ筋の間隔が@150の場合は、補強間隔も@150とする。

スラブ補強要領（片持ちスラブ）

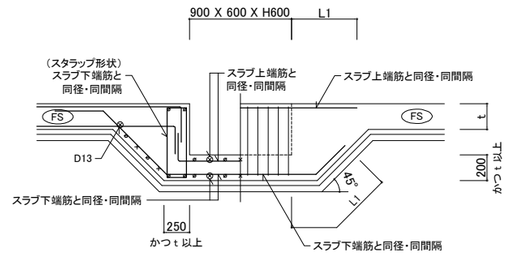


※1　片持ちスラブの上端筋を通せる場合は上記の図より
L=Lx/2かつ1,000以上のスラブ内定着とする。

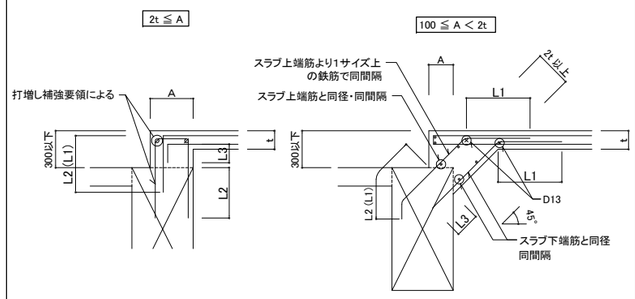
※2　スラブ筋に加えてD13 @200（上端筋のみ）の補強を施す。

※3　スラブ筋の間隔が@150の場合は、補強間隔も@150とする。

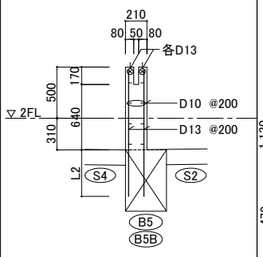
釜場配筋要領



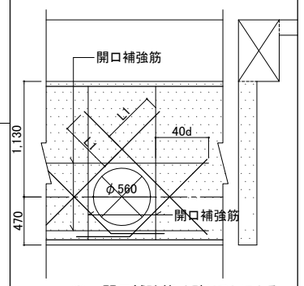
スラブ端部　段差補強要領



矢道 立上り壁 w21

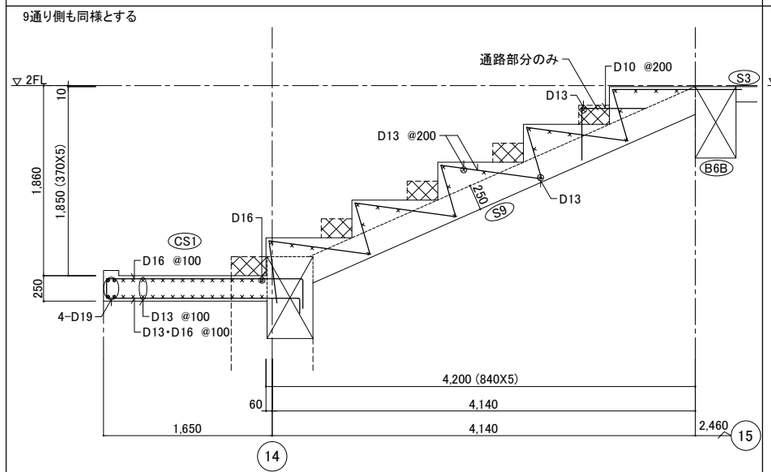


垂れ壁開口補強要領

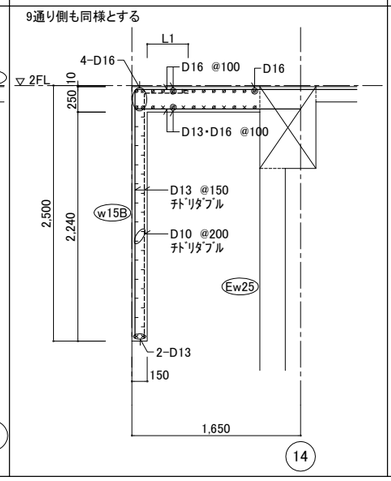


※　開口補強筋は壁リストによる

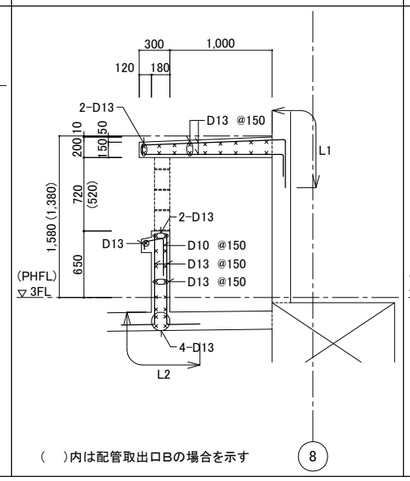
観覧席



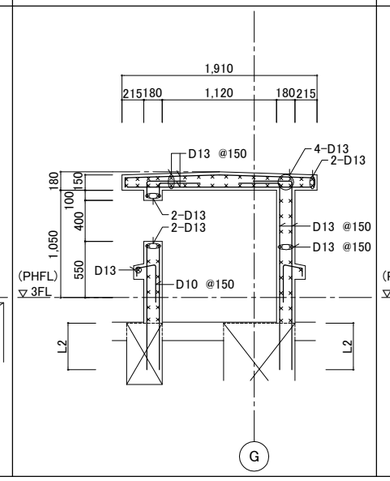
CS4 + 下がり壁w15B



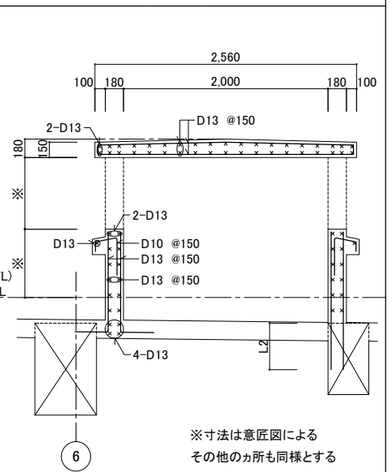
配管取出口 A・B



配管取出口 C

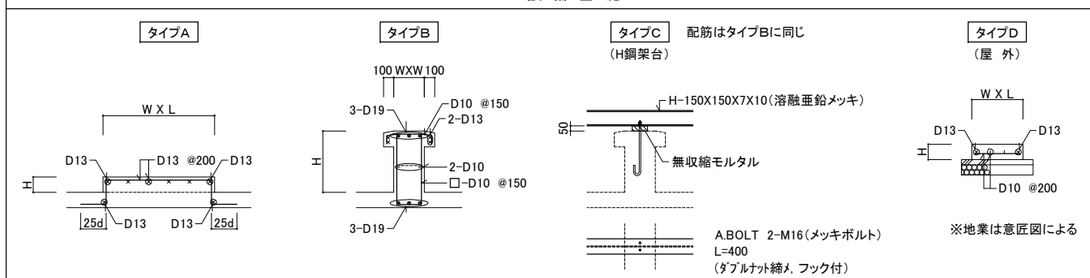


換気塔



※寸法は意匠図による
その他のヵ所も同様とする

設備基礎



※地業は意匠図による

階	室 名	タイプ	数	寸法：W X L X H
1	機械室①	A	1	2,600 X 5,500 X 150
		A	1	3,300 X 6,600 X 150
		A	1	500 X 1,800 X 150
	機械室②	A	1	3,300 X 6,600 X 150
		A	1	500 X 1,800 X 150
	機械室③	A	2	3,000 X 6,000 X 150
		A	1	800 X 2,000 X 300
		A	1	900 X 3,700 X 300
		A	1	500 X 500 X 300
		A	1	700 X 1,200 X 300
		A	1	450 X 600 X 300
		A	1	500 X 1,800 X 150

階	室 名	タイプ	数	寸法：W X L X H
1	機械室④	A	6	500 X 500 X 150
		A	1	1,000 X 1,000 X 150
		A	2	1,050 X 700 X 300
	屋外機器設置場所	E	1	3,400 X 5,900 X 700
		D	8	700 X 2,900 X 150
		D	1	500 X 1,800 X 150
		D	1	500 X 1,100 X 150
3	屋上機器スペース	B	2	300 X 9,200 X 650
		B	3	300 X 1,600 X 650
		C	4	300 X 5,100 X 650
		C	3	300 X 1,800 X 650
		C	4	300 X 500 X 650

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants
株式会社 梓設計　九州支社
一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	酢島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

飯塚市新体育館等建設工事

雑配筋詳細図

設計番号 16779

図面番号 S － 060

縮尺 1/A1:30 A3:60

日付 2019・08・30

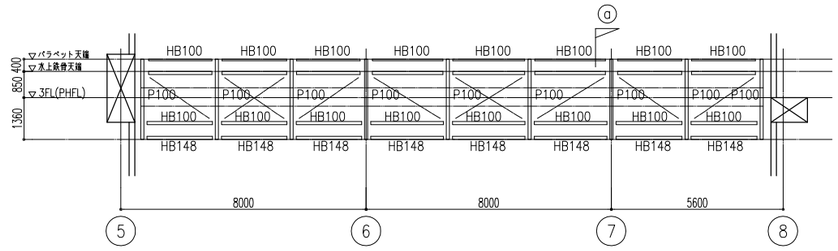
No

20191015透判ビューロ審査終了図

雑詳細図（1）

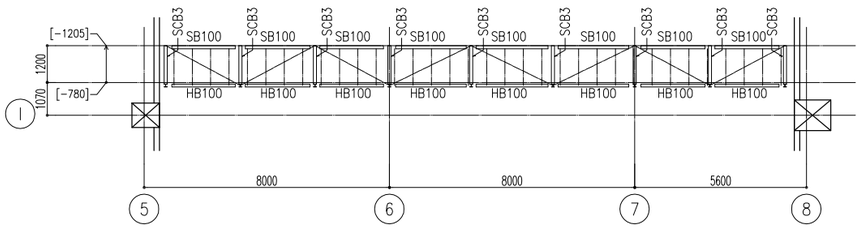
特記なき限り
1. 鉄骨材質　無 甲：SS400　A 甲：SN400A　B 甲：SN400B　Ⓑ 甲：SN490B　Ⓒ 甲：SN490C

射場　詳細図



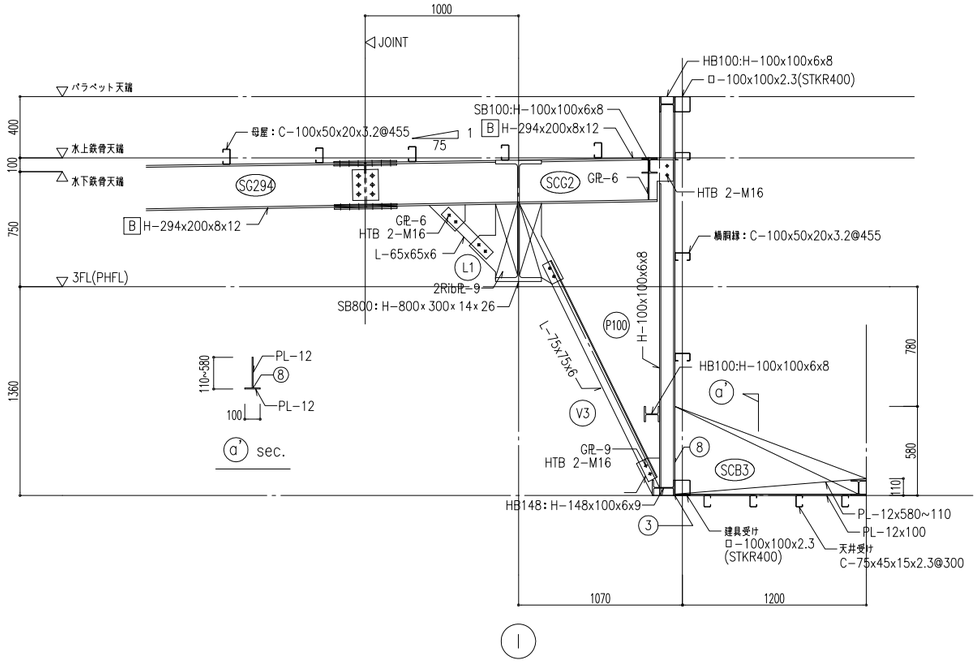
I+1070通軸組図　1/100

特記なき限り
1.小梁符号：SB100
2.鉛直ブレース：V6(1-M20（TB付）)
3.橋胴縁：C-100x50x20x3.2@455

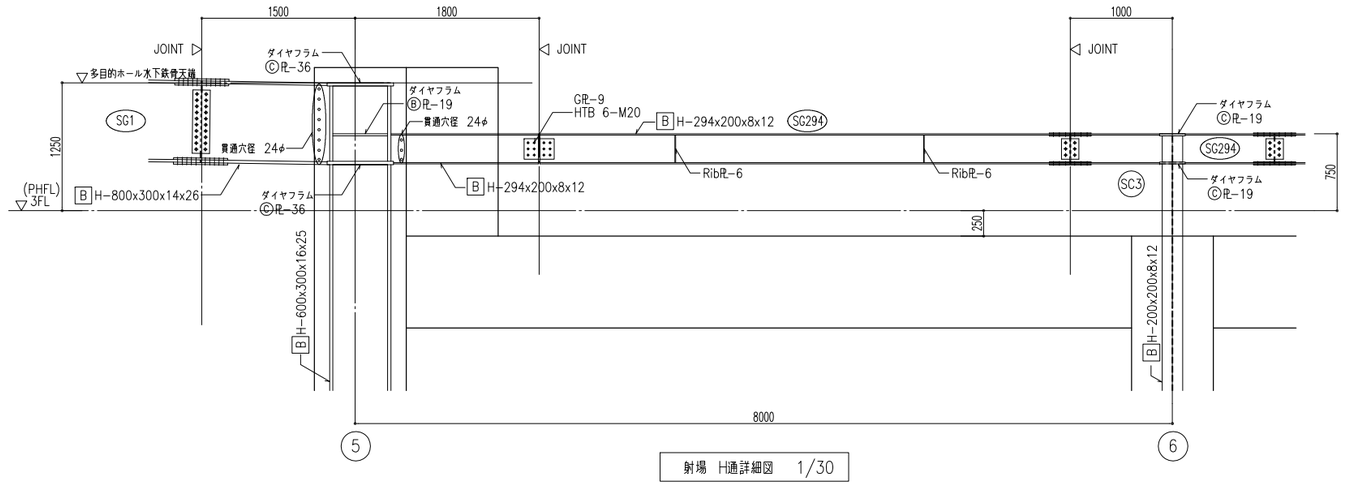


飾り屋根レベル(3FL(PHFL)-780レベル)伏図　1/100

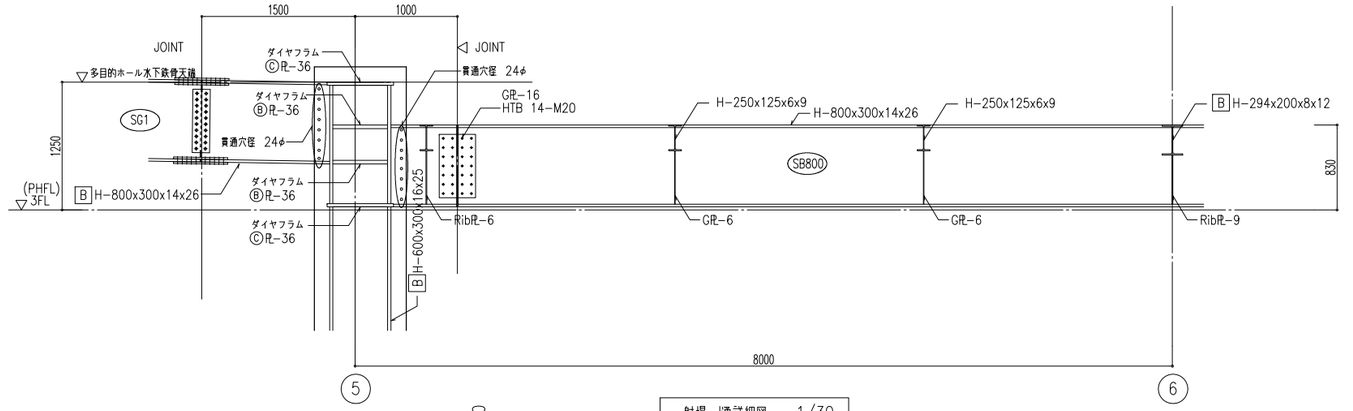
特記なき限り
1.母屋：C-100x50x20x2.3@600
2.[　] は、3FL(PHFL)からの鉄骨天端を示す
3.水平ブレース：V6(1-M20（TB付）)



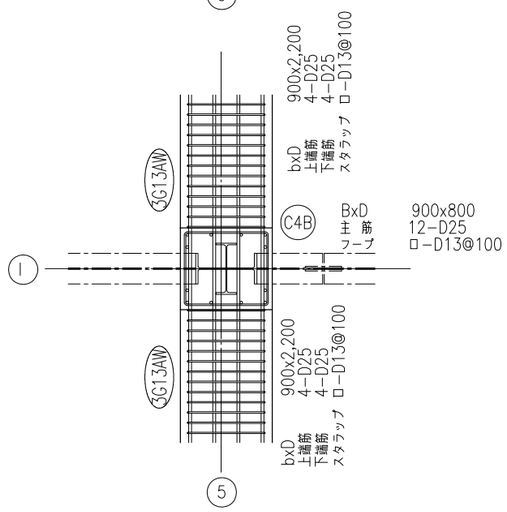
ⓐ sec.　1/20



射場　H通詳細図　1/30



射場　I通詳細図　1/30



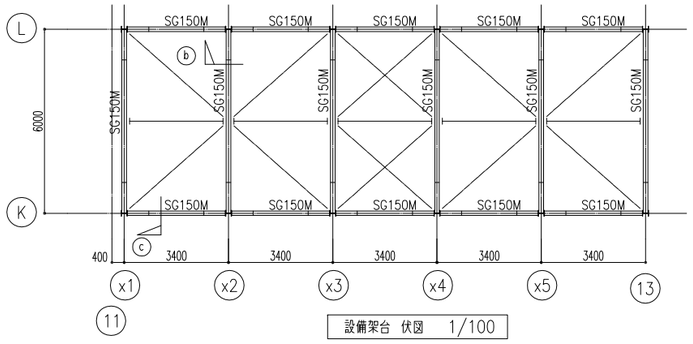
I-5通　SRC接合部詳細図　1/30

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第I-10078号	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S — 061
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第312528号	一級建築士 第365088号 小林 紗矢	一級建築士 第138771号 高橋 敏夫	構造設計一級建築士 第3038号 西田 修治	西田 修治	雑詳細図（1）	縮尺 1/A1:1/30 A3:1/60	日付 2019・11・15

雑詳細図（2）

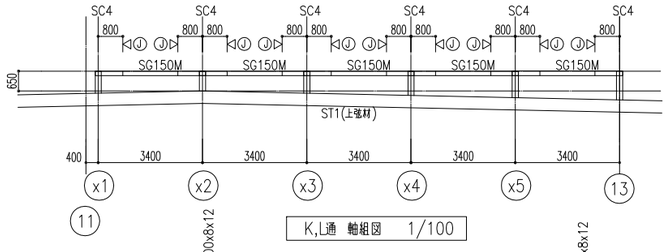
特記なき限り
1. 鉄骨材質
無 印：SS400　Ⓑ 印：SN400B　Ⓒ 印：SN490C
Ⓐ 印：SN400A　Ⓑ 印：SN490B　◇Ⓐ 印：SM490A

設備架台　詳細図

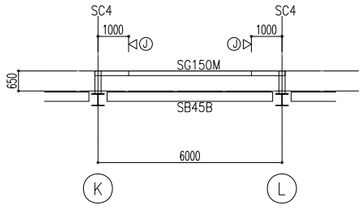


設備架台　伏図　1/100

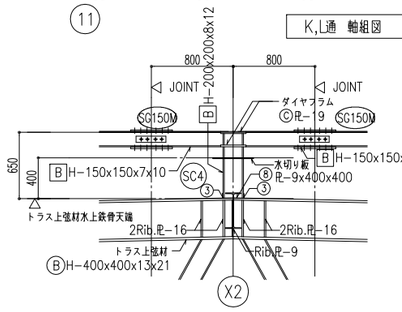
特記なき限り
1.Ⓙは、ジョイント位置を示す
2.水平ブレースは、V8(L-65x65x6)とする
3.部材は溶融亜鉛めっきとし、ボルトはF8Tとする
ただし、SC4柱脚溶接部は、非メッキとする



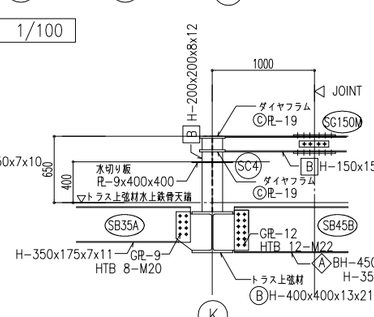
K,L通　軸組図　1/100



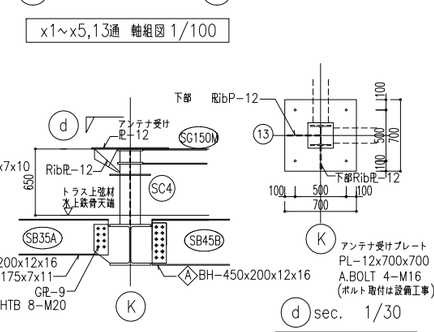
x1～x5,13通　軸組図 1/100



b sec.　1/30



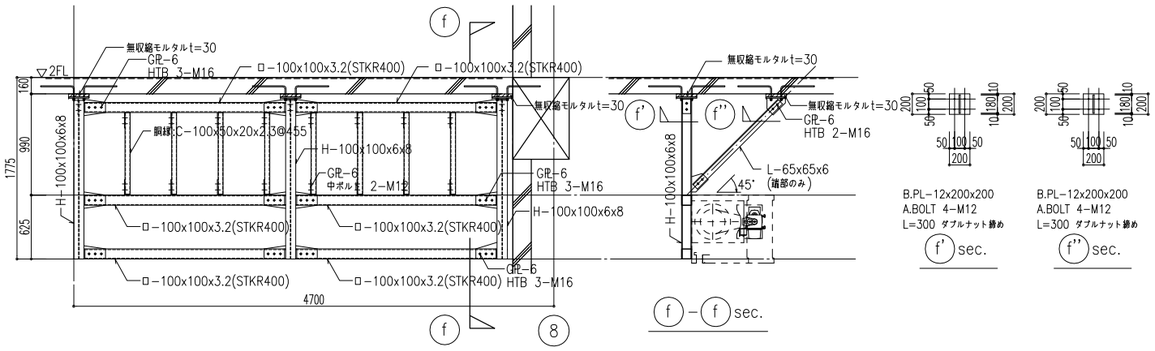
c sec.　1/30



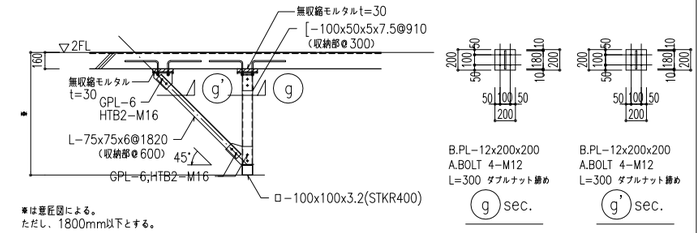
d sec.　1/30

13通柱頭アンテナ受け詳細図　1/30

シャッター受け詳細図

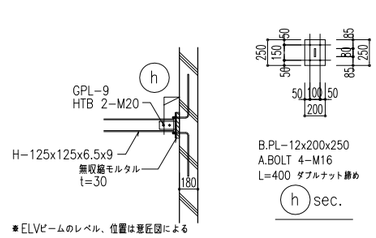


スライディングウォール受け　詳細図



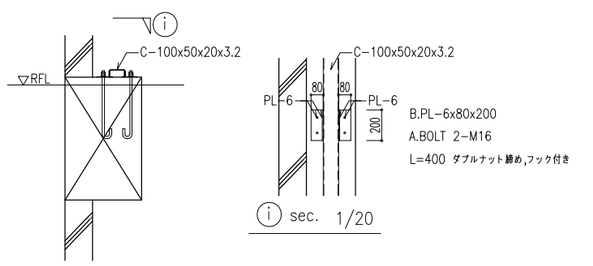
※は意匠図による。
ただし、1800mm以下とする。

ELVビーム鉄骨受け　詳細図

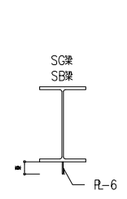


※ELVビームのレベル、位置は意匠図による

メインアリーナ屋根、多目的ホール屋根外周部屋根材受け　要領図　1/20

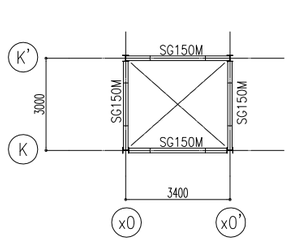


大庇外周部ふさぎPL　要領図　1/20

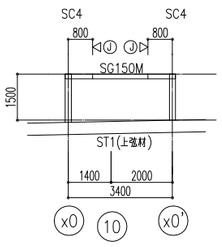


※は意匠図による

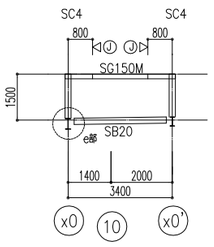
ハト小屋　詳細図



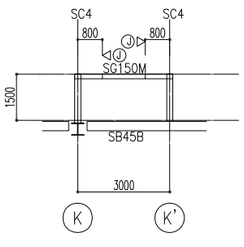
ハト小屋　伏図　1/100



K通　軸組図　1/100

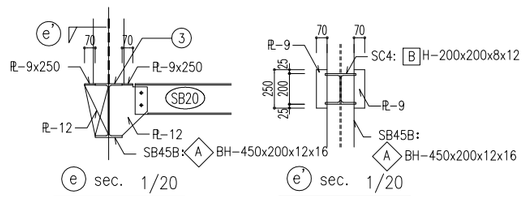


K'通　軸組図　1/100



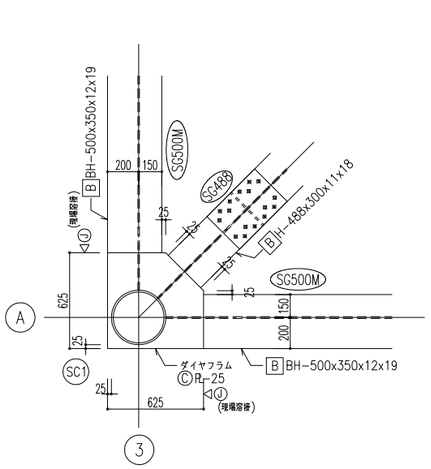
x0,x0'通　軸組図　1/100

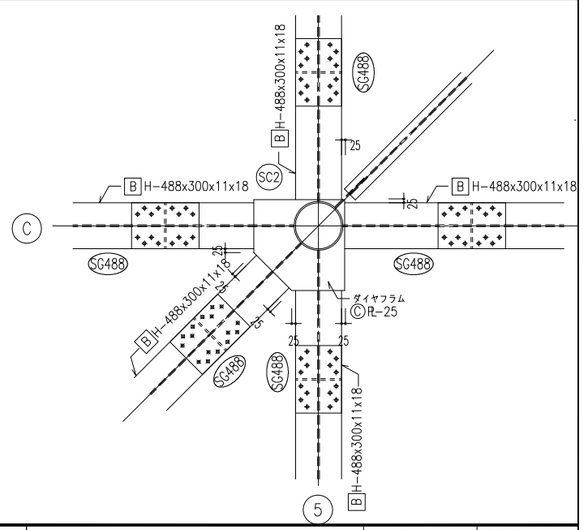
特記なき限り
1.Ⓙは、ジョイント位置を示す
2.水平ブレースは、V8(L-65x65x6)とする
3.部材は溶融亜鉛めっきとし、ボルトはF8Tとする



e sec.　1/20　　e' sec.　1/20

大庇柱梁接合部　詳細図　1/20





飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	酢島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

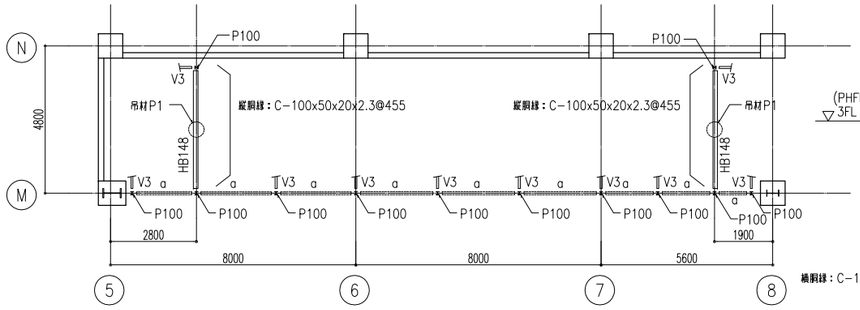
飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S — 062
雑詳細図（2）	縮尺 1/A1:1/30 A3:1/60	日付 2019・11・15

2019/11/15 梓ｱｲﾋﾞｰﾛｰ管理第7版

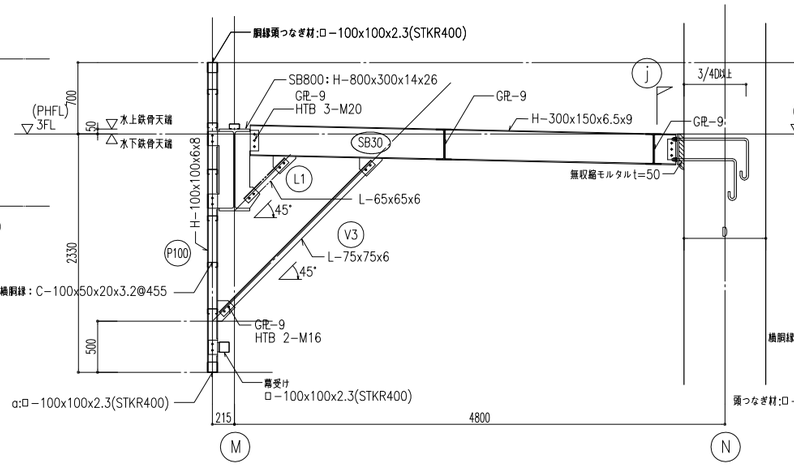
雑詳細図（3）

特記なき限り
1. 鉄骨材質
無 印：SS400　[B] 印：SN400B　Ⓒ 印：SN490C
[A] 印：SN400A　Ⓑ 印：SN490B

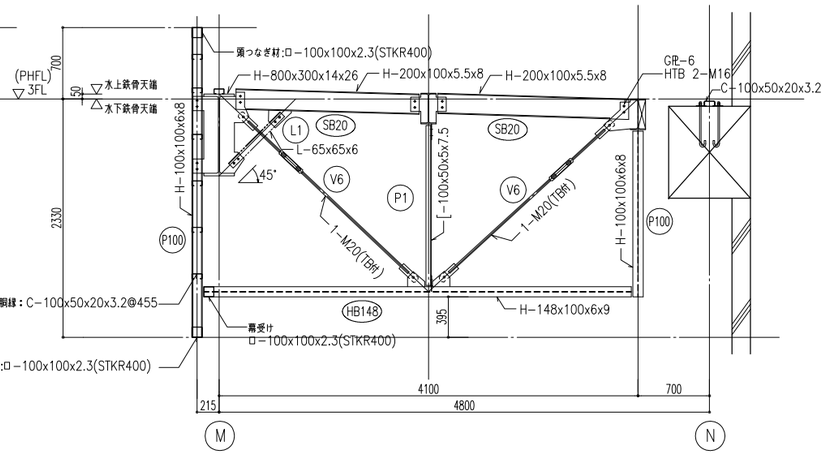
看的室下がり壁　詳細図　1/30



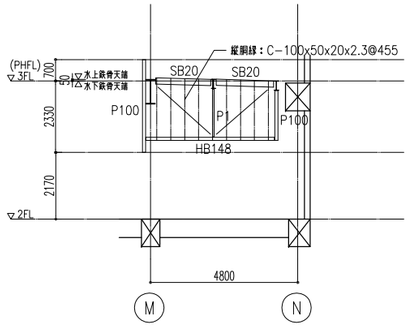
看的室下がり壁下端レベル（3FL(PHFL)−2150レベル）伏図　1/100



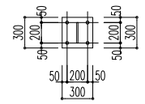
6通　詳細図



5+2800通,8−1900通　詳細図



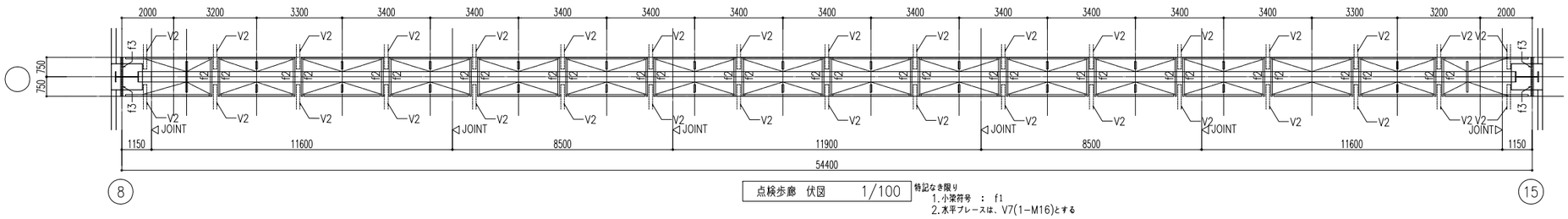
5+2800通,8−1900通　軸組図　1/100



[B] B.PL−16x300x300
A.BOLT 4−M20
L=800 ダブルナット締め,フック付き

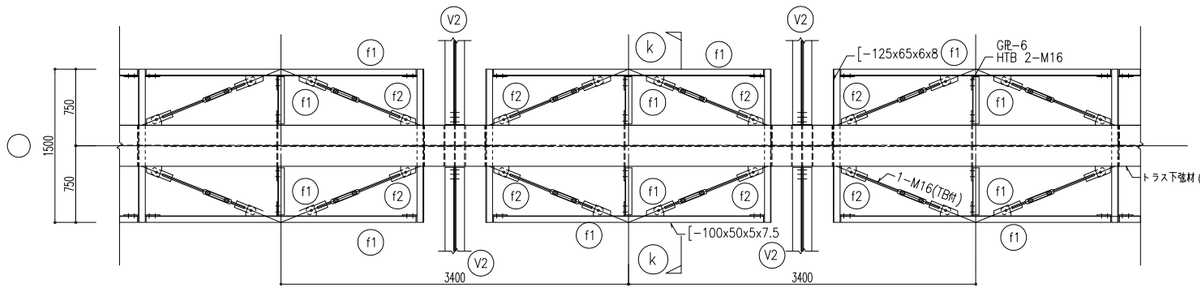
j sec.

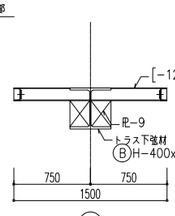
点検歩廊　詳細図　1/30

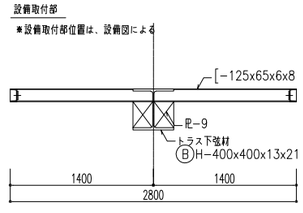


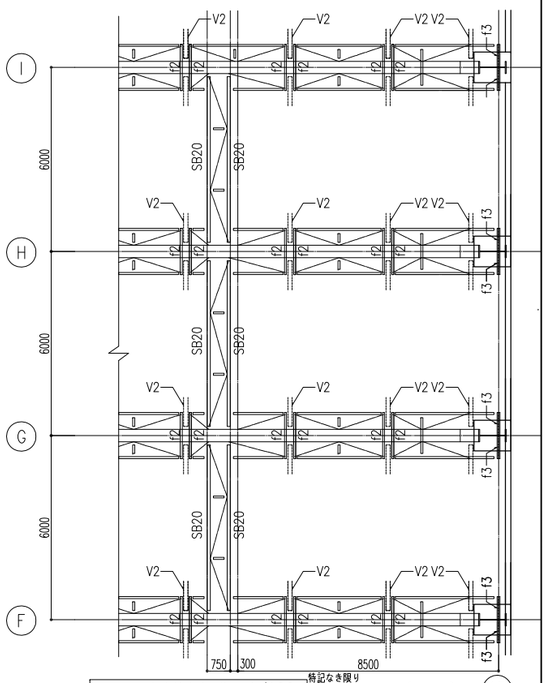
点検歩廊　伏図　1/100

特記なき限り
1. 小梁符号　：　f1
2. 水平ブレースは、V7(1−M16)とする









吊バトン部点検歩廊　伏図　1/100

特記なき限り
1. 水平ブレースは、V7(1−M16)とする
2. 小梁符号はf1とする。

15

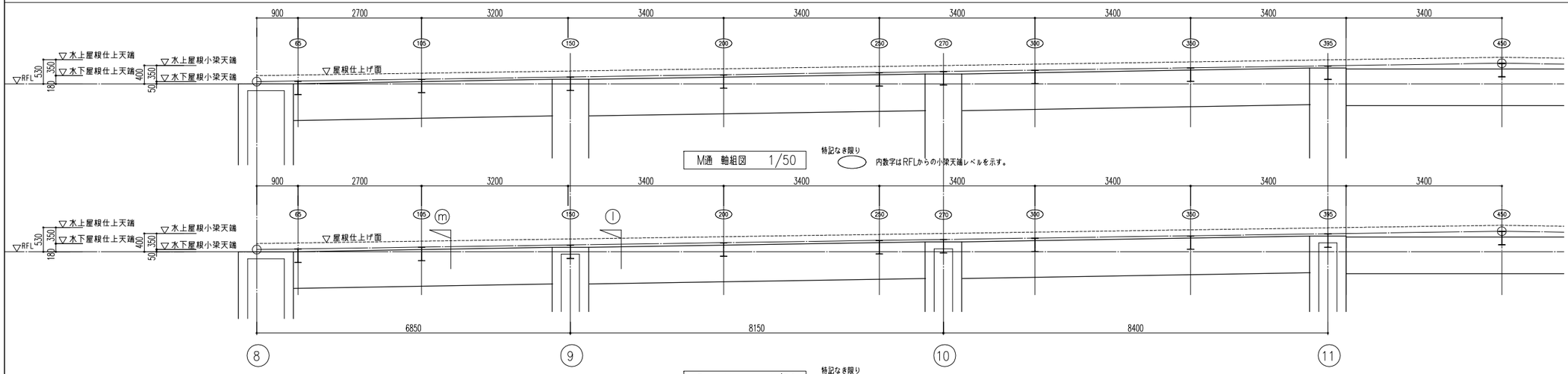
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号	設計者	一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第312528号 藪島 健夫	一級建築士 第365088号 小林 紗矢	一級建築士 第138771号 高橋 敏夫	法適合確認欄 構造設計一級建築士 第3038号 西田 修治	検証者 西田 修治	飯塚市新体育館等建設工事 雑詳細図　（3）	設計番号 16779 縮尺 1／A1:1/30 A3:1/60 日付 2019・11・15	図面番号 S — 063

雑詳細図（4）

特記なき限り
1. 鉄骨材質

無 印：SS400　Ⓑ 印：SN400B　Ⓒ 印：SN490C
Ⓐ 印：SN400A　Ⓑ 印：SN490B　Ⓐ 印：SM490A

メインアリーナ妻側（B,M通）、多目的ホール妻側（G,M通）小梁取合要領図

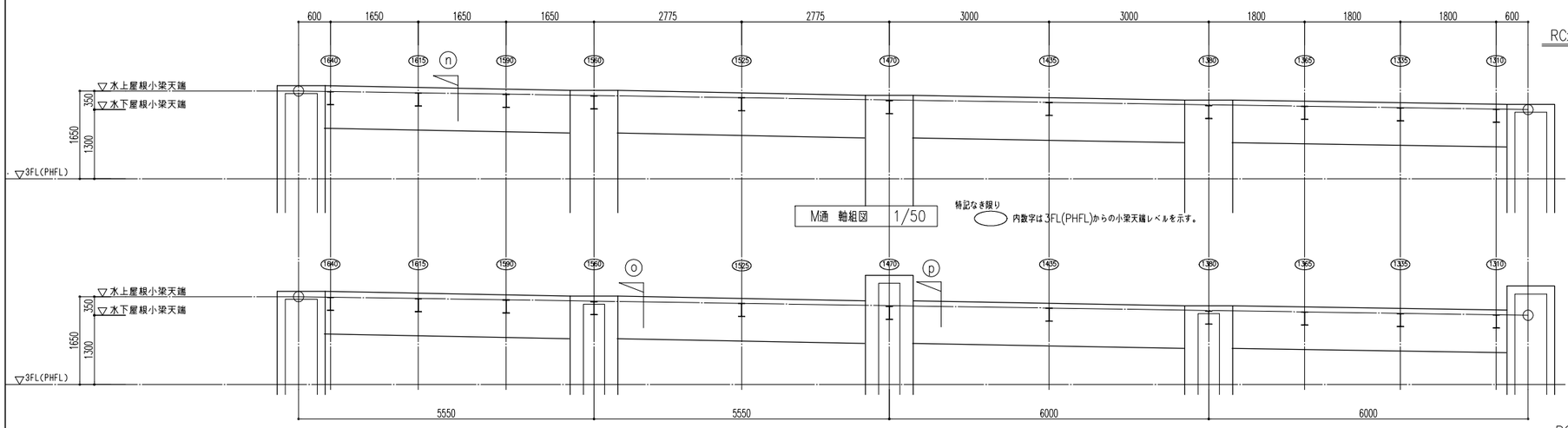


M通　軸組図　1/50

特記なき限り　内数字はRFLからの小梁天端レベルを示す。

B通　軸組図　1/50

特記なき限り　内数字はRFLからの小梁天端レベルを示す。



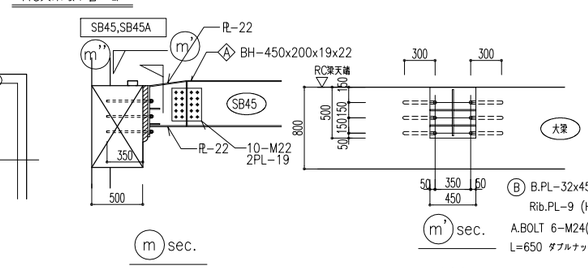
M通　軸組図　1/50

特記なき限り　内数字は3FL(PHFL)からの小梁天端レベルを示す。

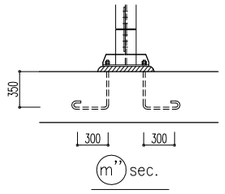
G通　軸組図　1/50

特記なき限り　内数字は3FL(PHFL)からの小梁天端レベルを示す。

RC大梁取り合い部

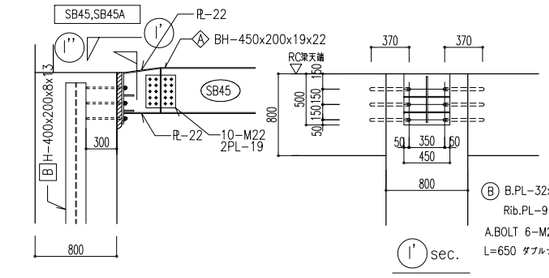


m sec.　m' sec.

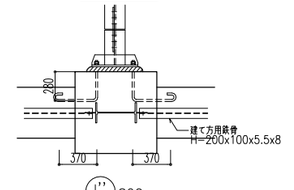


m'' sec.

RC柱取り合い部

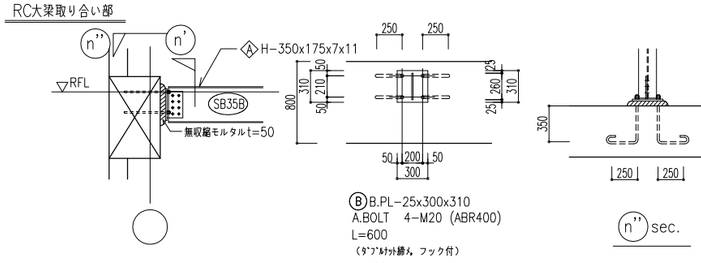


l sec.　l' sec.



l'' sec.

RC大梁取り合い部

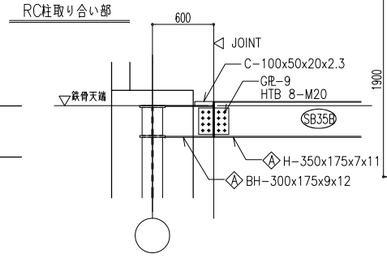


B.PL-25x300x310
A.BOLT 4-M20 (ABR400)
L=600
（ダブルナット締め，フック付）

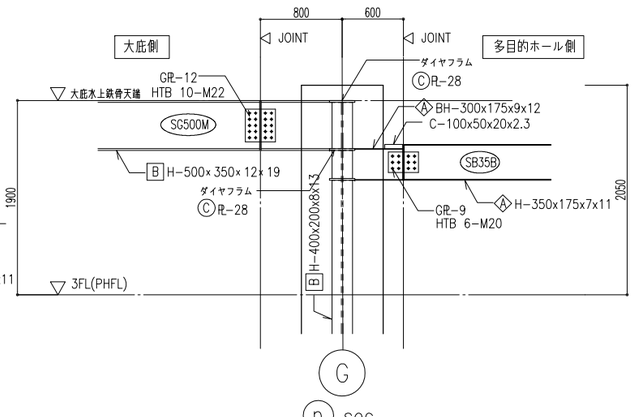
n sec.　n' sec.

n'' sec.

RC柱取り合い部



o sec.



p sec.

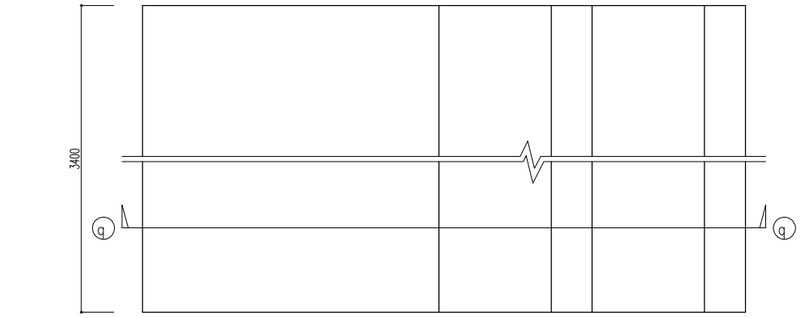
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社　一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S — 064
		一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第312528号 配島 健夫	一級建築士 第365088号 小林 紗矢	一級建築士 第138771号 高橋 敏夫	構造設計一級建築士 第3038号 西田 修治	西田 修治	雑詳細図 （4）	縮尺 1/11:1/30 A3:1/60	日付 2019・11・15

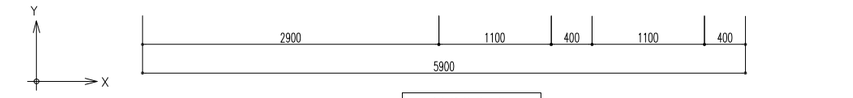
雑詳細図（5）

特記なき限り
1. 鉄骨材質　無 印：SS400　Ⓑ 印：SN400B　Ⓒ 印：SN490C
Ⓐ 印：SN400A　Ⓑ 印：SN490B

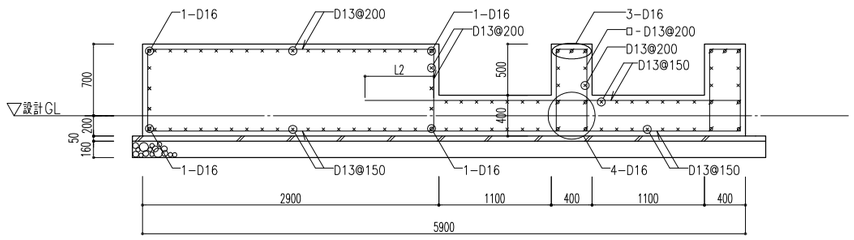
受水槽基礎　配筋図

・コンクリート強度：Fc=21N/㎟、スランプ18cm
・長期設計地耐力　50kN/㎡
・現場にて地耐力を確認の上施工すること。
　地盤耐力は簡易載荷試験（キャスポル等）を用いて確認し、設計地耐力を満足しない場合は、浅層地盤改良を行うこと。
・床付け面は30cm毎に水締めを行い、十分転圧すること。





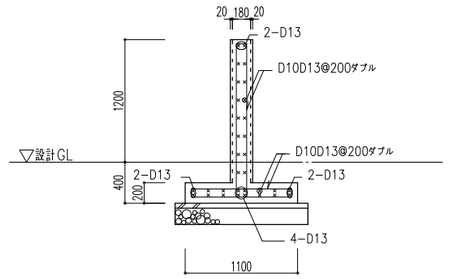
受水槽基礎　伏図



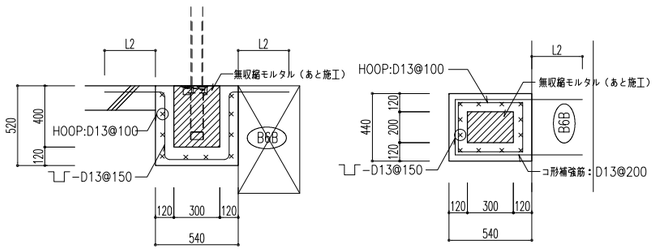
q sec.

駐輪場堺　配筋詳細図

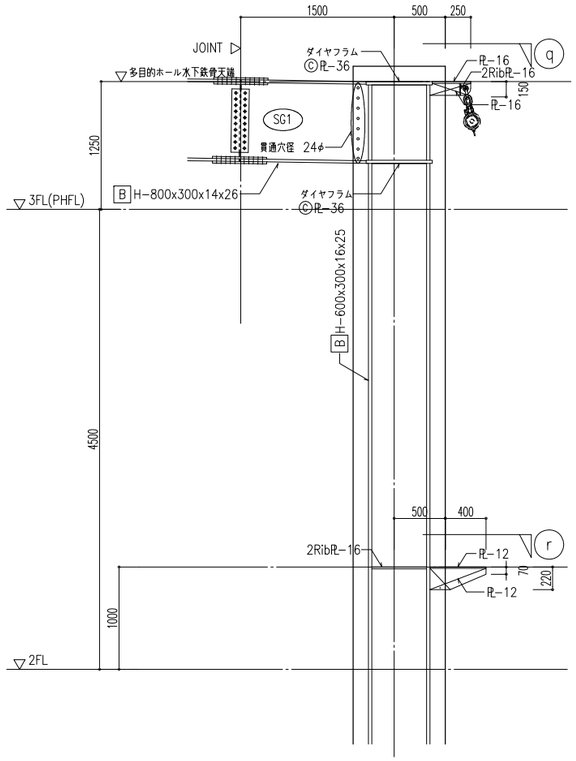
・コンクリート強度：Fc=21N/㎟、スランプ18cm
・長期設計地耐力　50kN/㎡
・現場にて地耐力を確認の上施工すること。
　地盤耐力は簡易載荷試験（キャスポル等）を用いて確認し、設計地耐力を満足しない場合は、浅層地盤改良を行うこと。
・床付け面は30cm毎に水締めを行い、十分転圧すること。

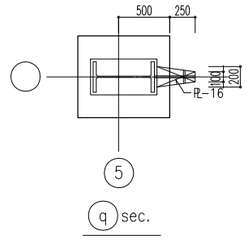


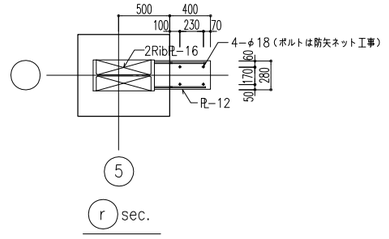
セパレーターネット埋込基礎　配筋詳細図　1/20



防矢ネット取り合い部詳細図　1/30

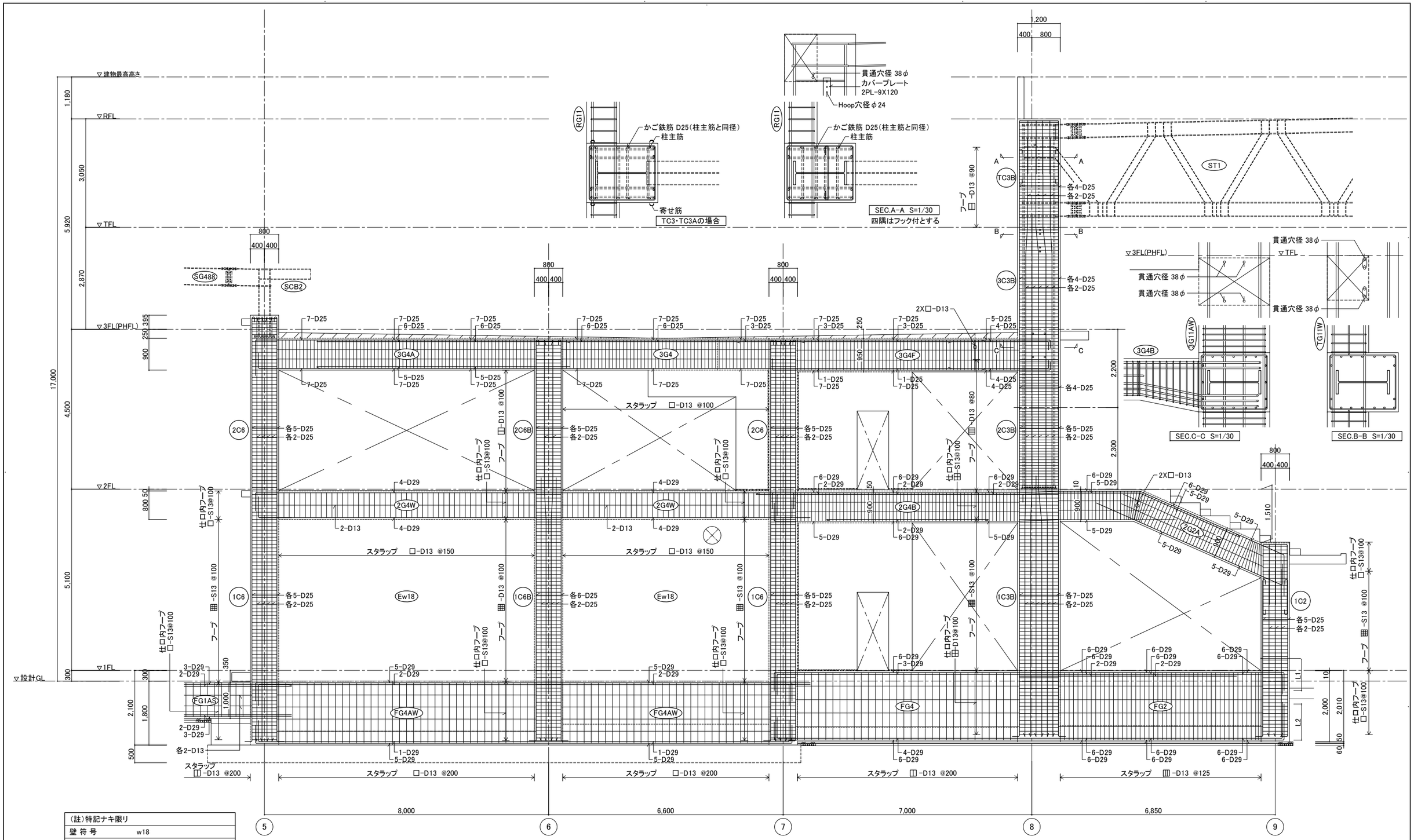






射場　H通詳細図　1/30

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者	一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第312528号 配島 健夫	一級建築士 第365088号 小林 紗矢	一級建築士 第138771号 高橋 敏夫	法適合確認欄 構造設計一級建築士 第3038号 西田 修治	検証者 西田 修治	飯塚市新体育館等建設工事 雑詳細図　（5）	設計書号 16779 縮尺 1/1:1/50 A3:1/60 日付 2019・11・15	図面番号 S — 065



(註)特記ナキ限り	
壁 符 号	w18
スタラップ	田-D13 @100
腹 筋	4-D13 (2G・3G)
	8-D13 (FG)
巾止メ筋	D10 @1,000以下
フ ー プ	□-D13 @100
接合内フープ	□-D13 @100
▨ は増打コンクリートを示す	

E通り架構配筋詳細図 S＝1/50

※鉄骨は鉄骨詳細図参照

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	酢島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事

E通り架構配筋詳細図

設計番号 16779

図面番号 S － 066

縮尺 1/A1:50 A3:100

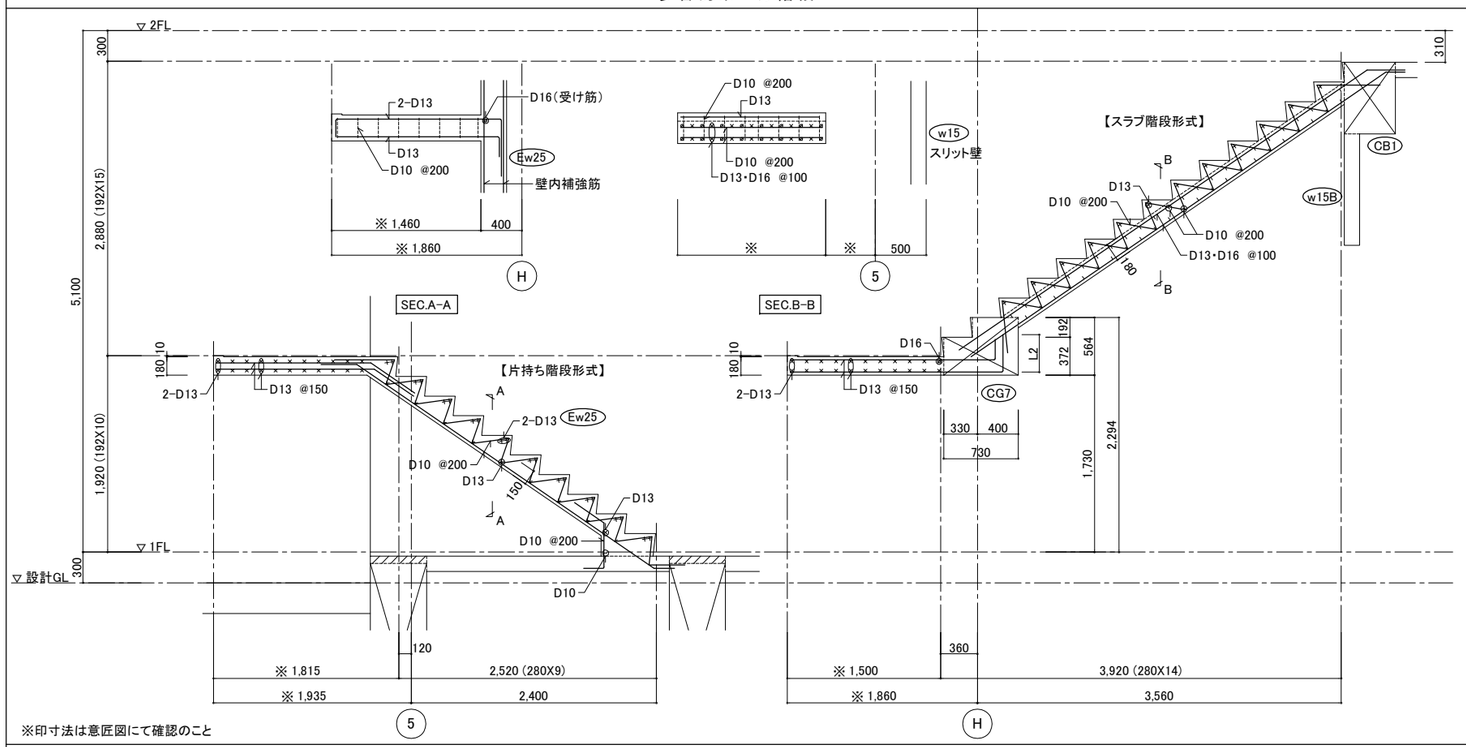
日付 2019・11・15

No

2019101S透明ビュー印書換了図

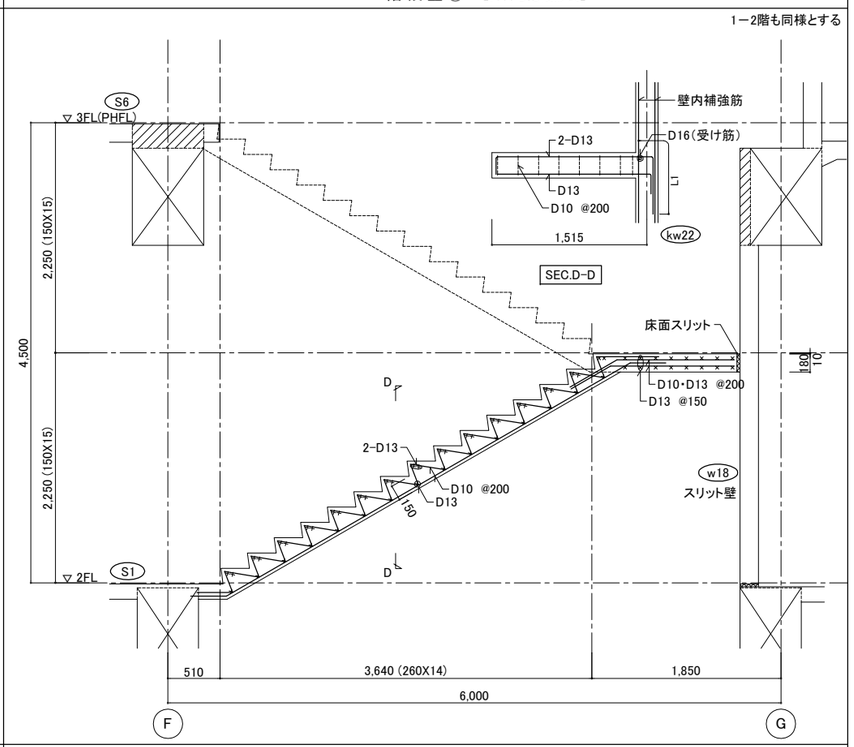
階段配筋詳細図（1）　S=1/30

多目的ホール階段

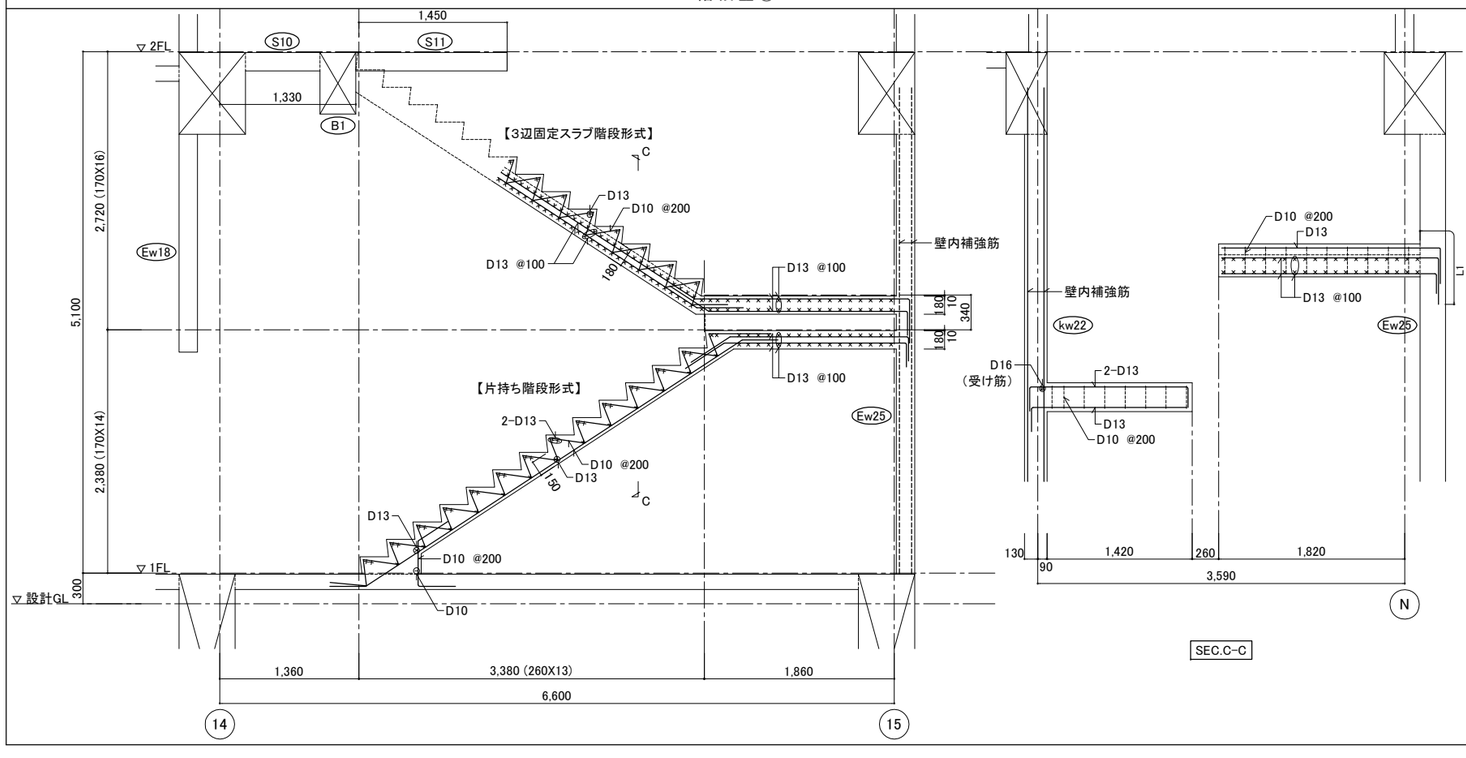


※印寸法は意匠図にて確認のこと

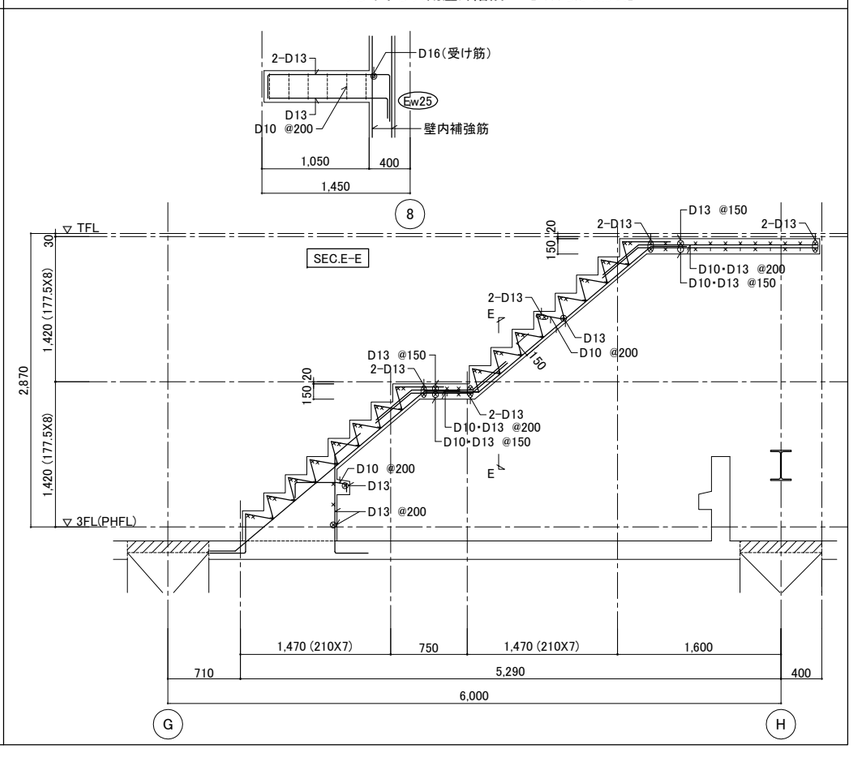
階段室②　【片持ち階段形式】



階段室①



メンテナンス用屋外階段　【片持ち階段形式】



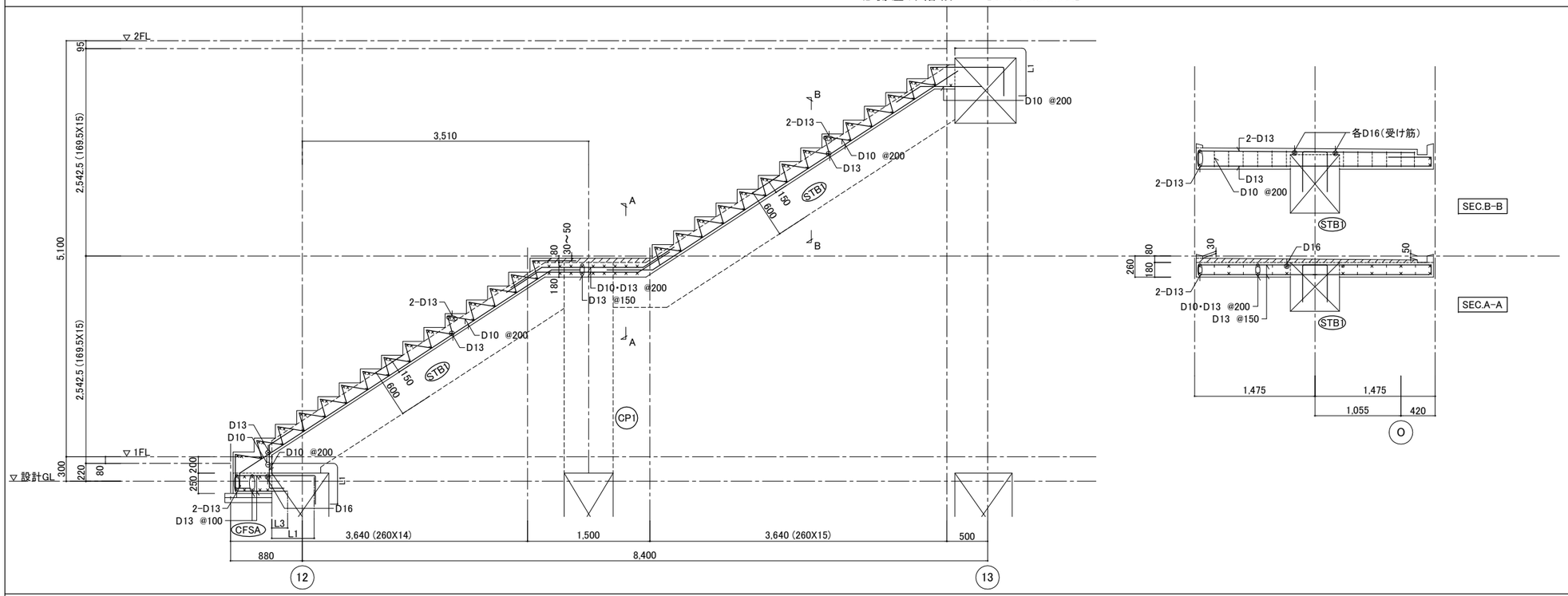
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者					法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S ― 067
			一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士		構造設計一級建築士		階段配筋詳細図（1）	縮尺 1/A1:30 A3:60	日付 2019・11・15	No
			第280187号	第312528号	第365088号	第138771号		第3038号					
			中川　崇	酷島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫		西田　修治	西田　修治				

20191015透判ビューロ審査終了図

階段配筋詳細図(2)　S=1/30

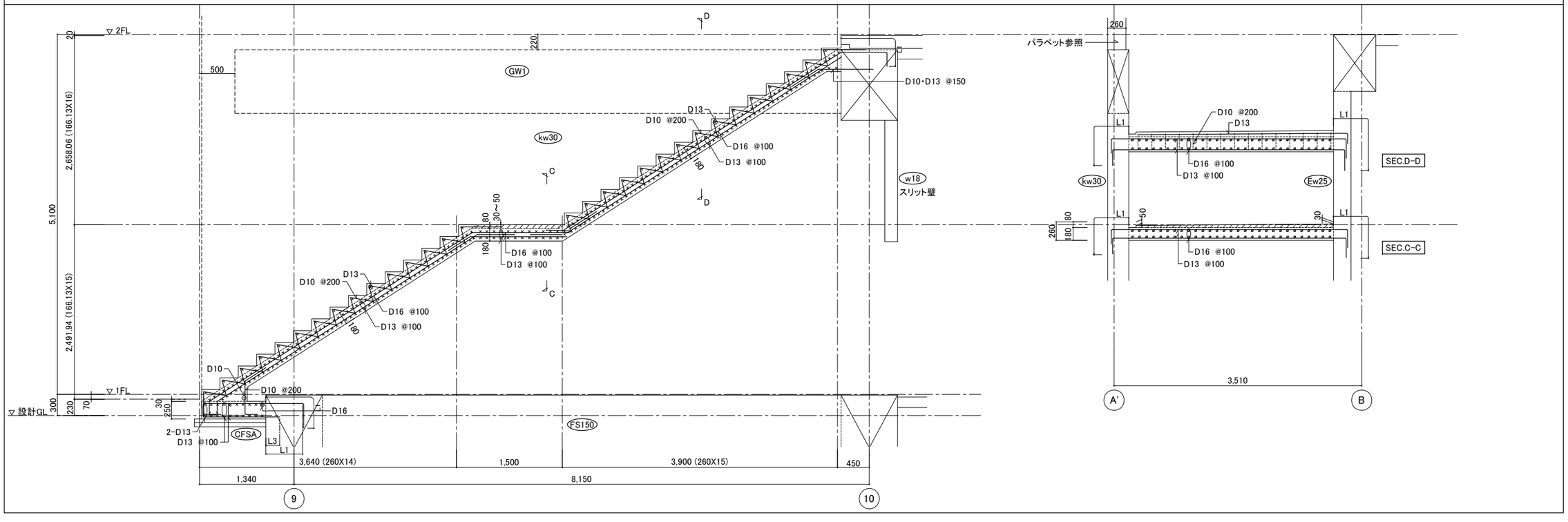
北側屋外階段　【梁片持ち階段形式】

2'－4･6－7'通り間も同様とする



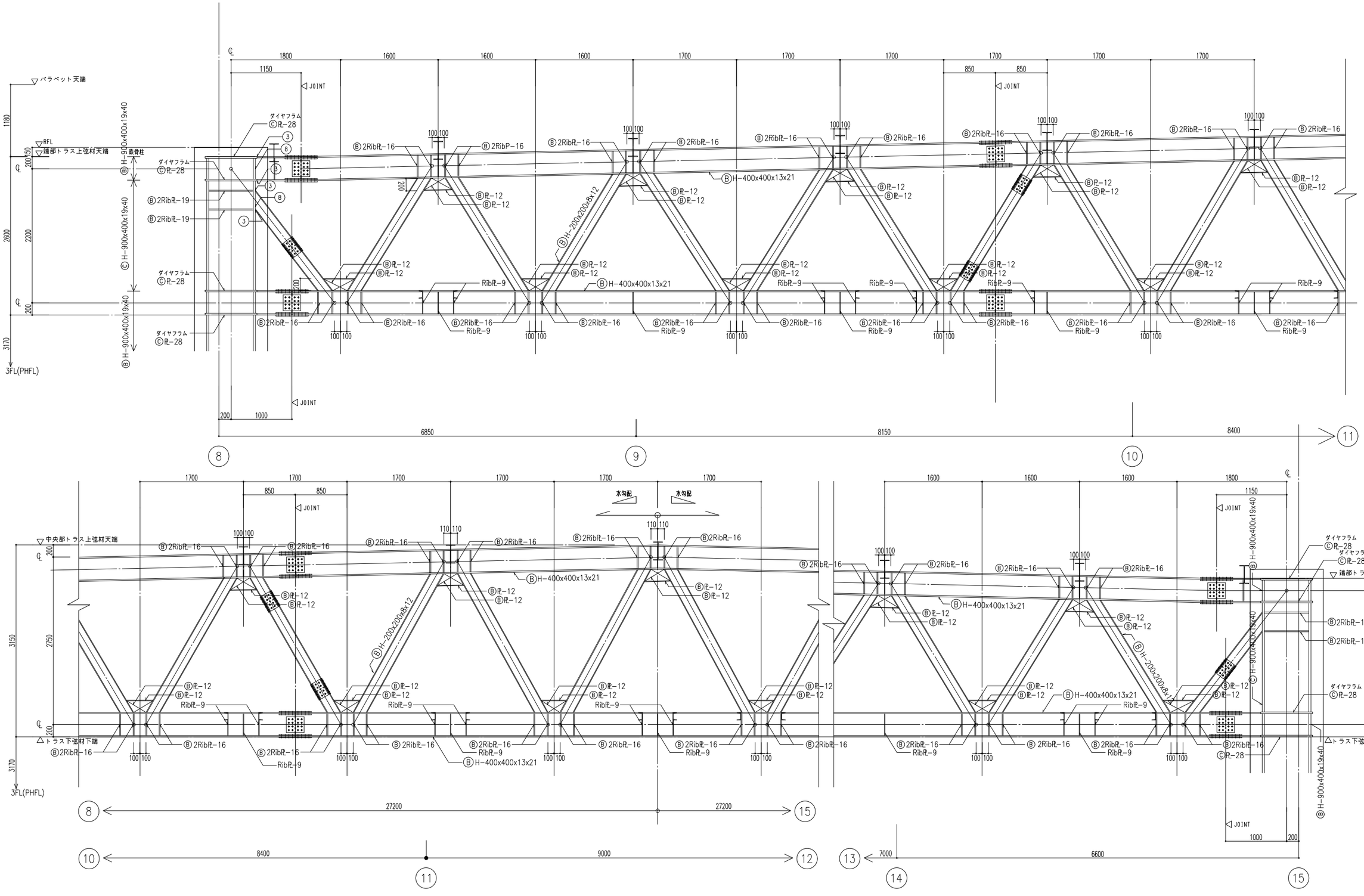
南側屋外階段　【スラブ階段形式】

13通り側も同様とする



飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	図面番号
			一級建築士 第280187号 中川　崇	一級建築士 第312528号 酷島　健夫	一級建築士 第365088号 小林　紗矢	一級建築士 第138771号 高橋　敏夫	構造設計一級建築士 第3038号 西田　修治	西田　修治	階段配筋詳細図（2）	16779	S － 068
										縮尺 A1:30 A3:60 / 日付 2019・11・15	No

2019101S透明ビューロ審査終了図



特記なき限り

1. 鉄骨材質

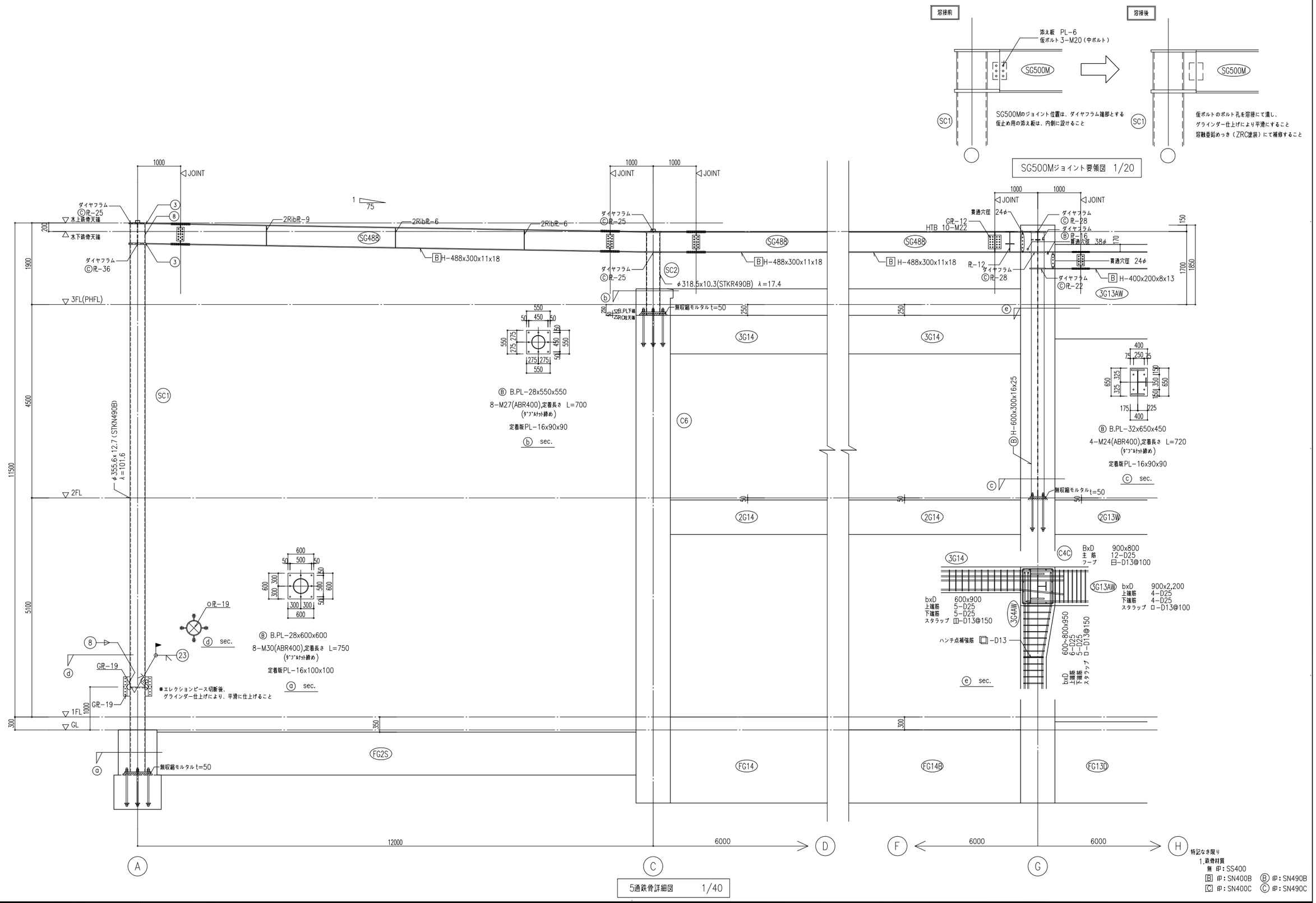
無 印：SS400

Ⓑ 印：SN400B　Ⓑ 印：SN490B

Ⓒ 印：SN400C　Ⓒ 印：SN490C

トラス詳細図(E通)　1/30

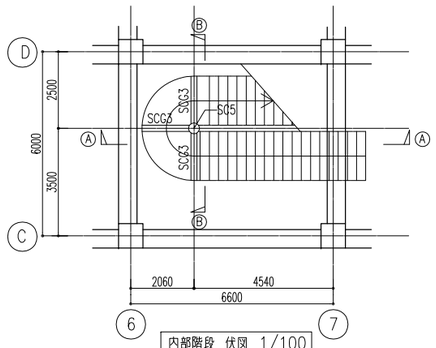
| | | |



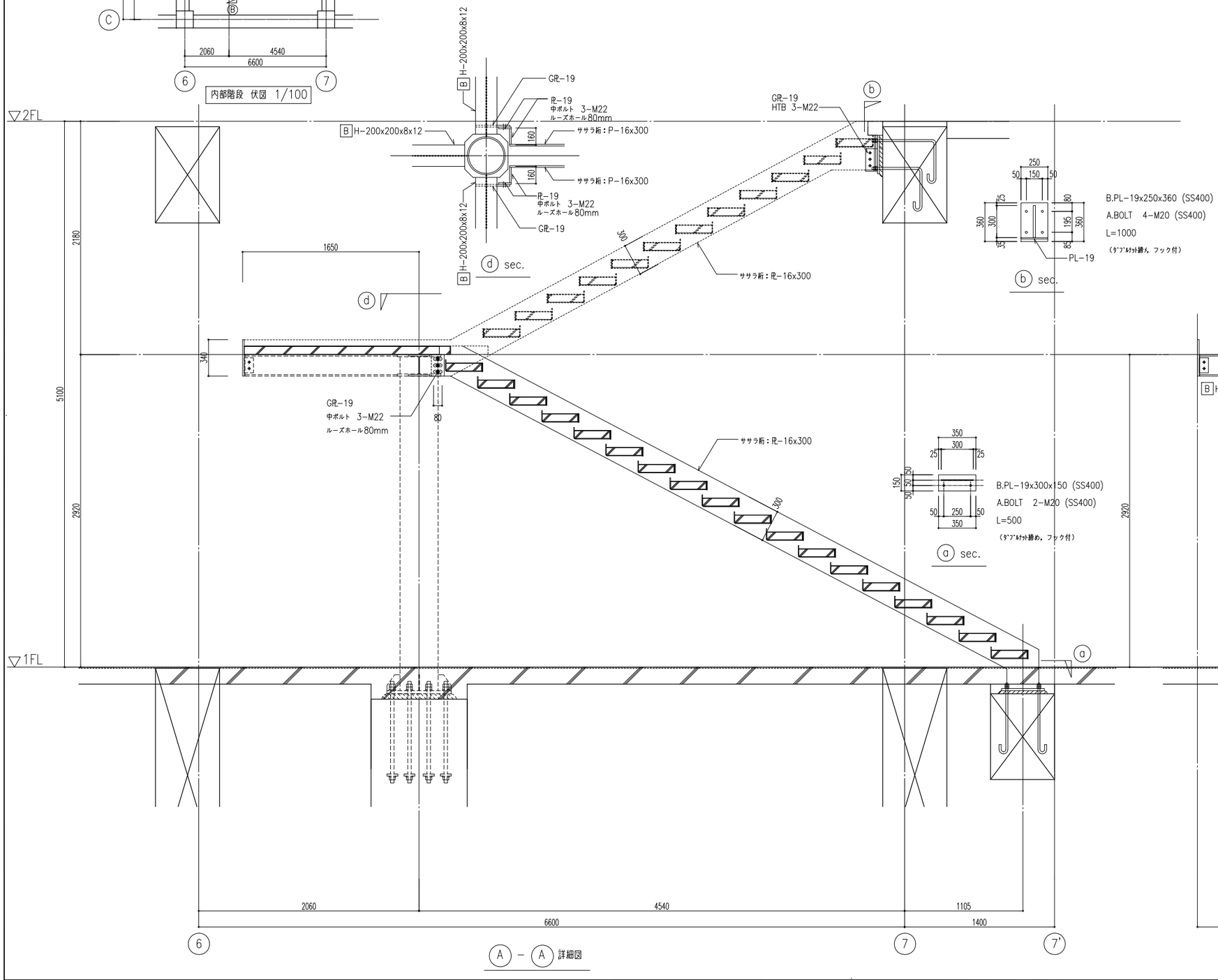
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1−10078号	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779	図面番号 S − 070
			一級建築士 第280187号 中川 崇	一級建築士 第312528号	一級建築士 第365088号 小林 紗矢	一級建築士 第138771号 高橋 敬夫	構造設計一級建築士 第3038号 西田 修治	西田 修治	鉄骨架構詳細図	縮尺 1/A1:1/40 A3:1/80	日付 2019・11・15

2019/11/15 建築CAD ユーロー建築工房

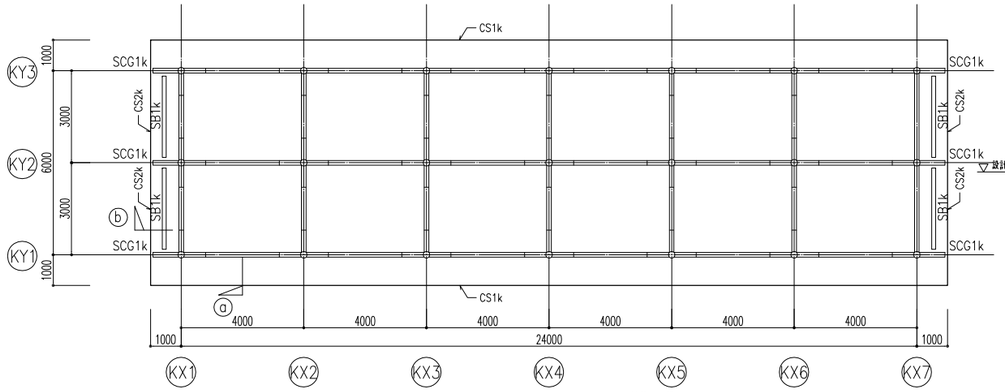
特記なき限り
1.鉄骨材質
無 印：SS400
Ⓑ 印：SN400B　Ⓑ 印：SN490B
Ⓒ 印：SN400C　Ⓒ 印：SN490C



内部階段 伏図 1/100

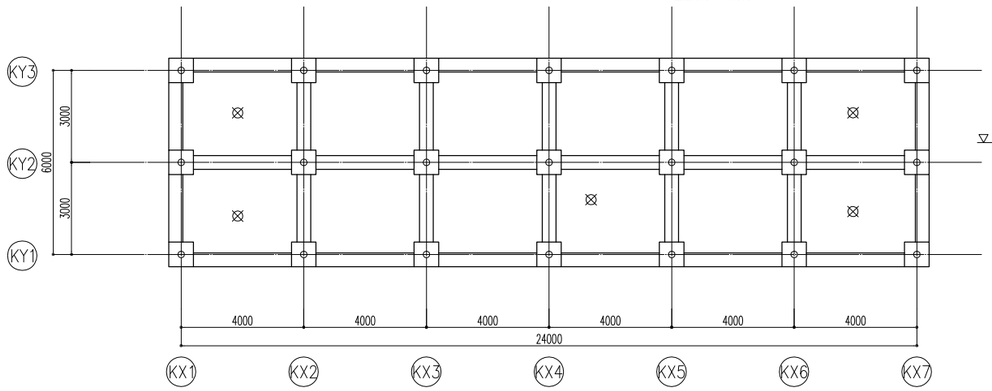


飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計 九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号	設計者				法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計書号	図面番号
			一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士			16779	S — 071
			第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号		鉄骨階段詳細図	縮尺 1/1:1/20 A3:1/40	日付 2019. 11. 15
			中川 崇	廻島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治			



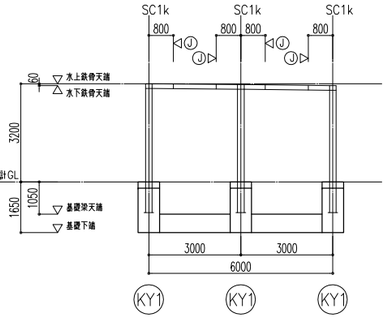
屋根伏図 1/100

特記なき限り
1.柱符号 ： SC1k
2.大梁符号： SG1k
3.スラブ符号： S1k
4.スラブ主筋方向は、Y方向とする



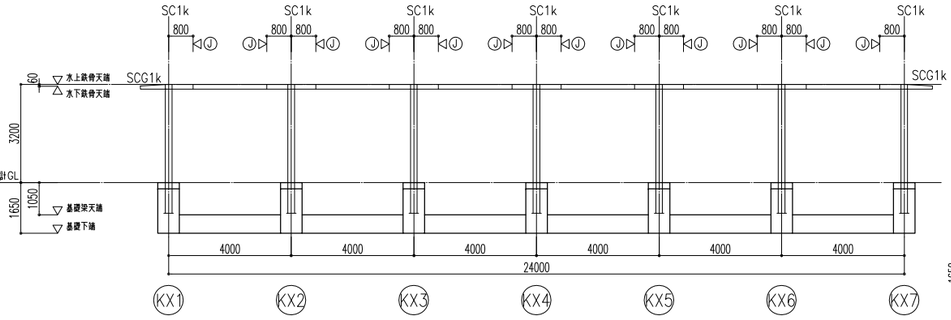
基礎伏図 1/100

特記なき限り
1.基礎梁天端＝設計GL−1050
2.基礎下端＝設計GL−1650
3.RC基礎柱符号 ： FC1k
4.マットスラブ符号 ： FS1k
5.基礎梁符号 ： FG1k
6.長期地耐力は55kN/㎡と設定し、現場の土耐力をること。
地盤耐力は、簡易載荷試験（キャスポ確認）を用い
設定地耐力を満足しない場合は、浅層地盤改良を行
7.⊠は、簡易載荷試験位置(5箇所)を示す。



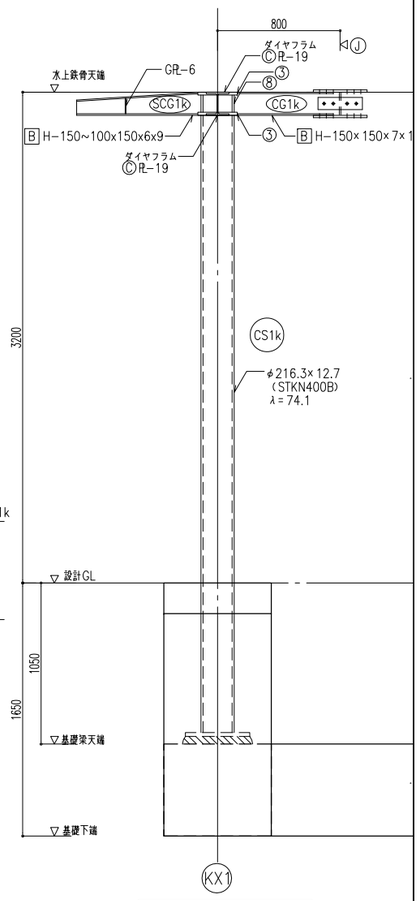
KX1〜KX7通軸組図 1/100

特記なき限り
1.B.PL下端＝GL−1000
2.基礎梁符号 ： FG1k
3.RC基礎柱符号 ： FC1k
4.大梁符号 ： SG1k



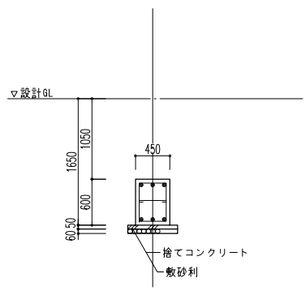
KY1〜KY3通軸組図 1/100

特記なき限り
1.B.PL下端＝GL−1000
2.基礎梁符号 ： FG1k
3.RC基礎柱符号 ： FC1k
4.大梁符号 ： SG1k



KY1通鉄骨詳細図 1/20

基礎梁リスト 1/40



上 端 筋	3-D19
下 端 筋	3-D19
スタラップ	□-D13 @200
腹 筋	2-D10
中止メ筋	D10 @1,000以下

柱リスト 1/40

アンカーボルト本締め後、座金とナット、座金ベースプレートを隅肉溶接すること

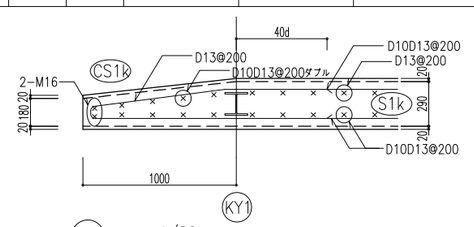
符 号	SC1k	符 号	根巻き柱脚 FC1k
鉄骨部材	φ - 216.3 X 12.7 (STKN400B) (溶融亜鉛メッキ)	RC柱型	主 筋 12-D19 (四隅フック付き) フープ □-D13 @100 頂部フープ 田-D13
ベースプレート	空気穴10φは、柱側面に設ける		
	B.PL-28X400X400		
	A.BOLT 4-M24		
	L=700 (ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締ﾒ, フック付)		

鉄骨部材リスト 1/40

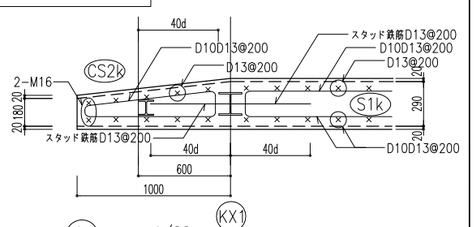
符 号	鉄 骨 部 材	FLG JOINT		WEB JOINT		備 考
		H.T.B(ﾎﾞﾙﾄ本数)	外 側 添 板	H.T.B(ﾎﾞﾙﾄ本数)	添 板	
SG1k	H - 150 X 150 X 7 X 10	6-M16	PL- 16X150X350	2-M16	2PL- 9X 80X290	SN490B , F10T
SCG1k	H - 150~100 X 150 X 6 X 9		-			SN490B , F10T
SB1k	H - 100 X 100 X 6 X 8			2-M16	PL- 6	

スラブリスト 1/40

符 号	版 厚	位 置	短辺方向	長辺方向	備 考
S1k	290	上端筋	D13 @200	D10D13 @200	
		下端筋	D10D13 @200	D10D13 @200	
CS1k	290〜170	上端筋	D13 @200	D10D13 @200	
		下端筋	D10D13 @200	D10D13 @200	
CS2k	290〜170	上端筋	D10D13 @200	D13 @200	長辺方向配筋を外側に配筋する
		下端筋	D10D13 @200	D10D13 @200	
FS1k	250	上端筋	D13 @150	D13 @150	長期地耐力は55kN/㎡と設定し、現場にて耐力を確認の上施工すること。
		下端筋	D13 @150	D13 @150	



a sec. 1/20

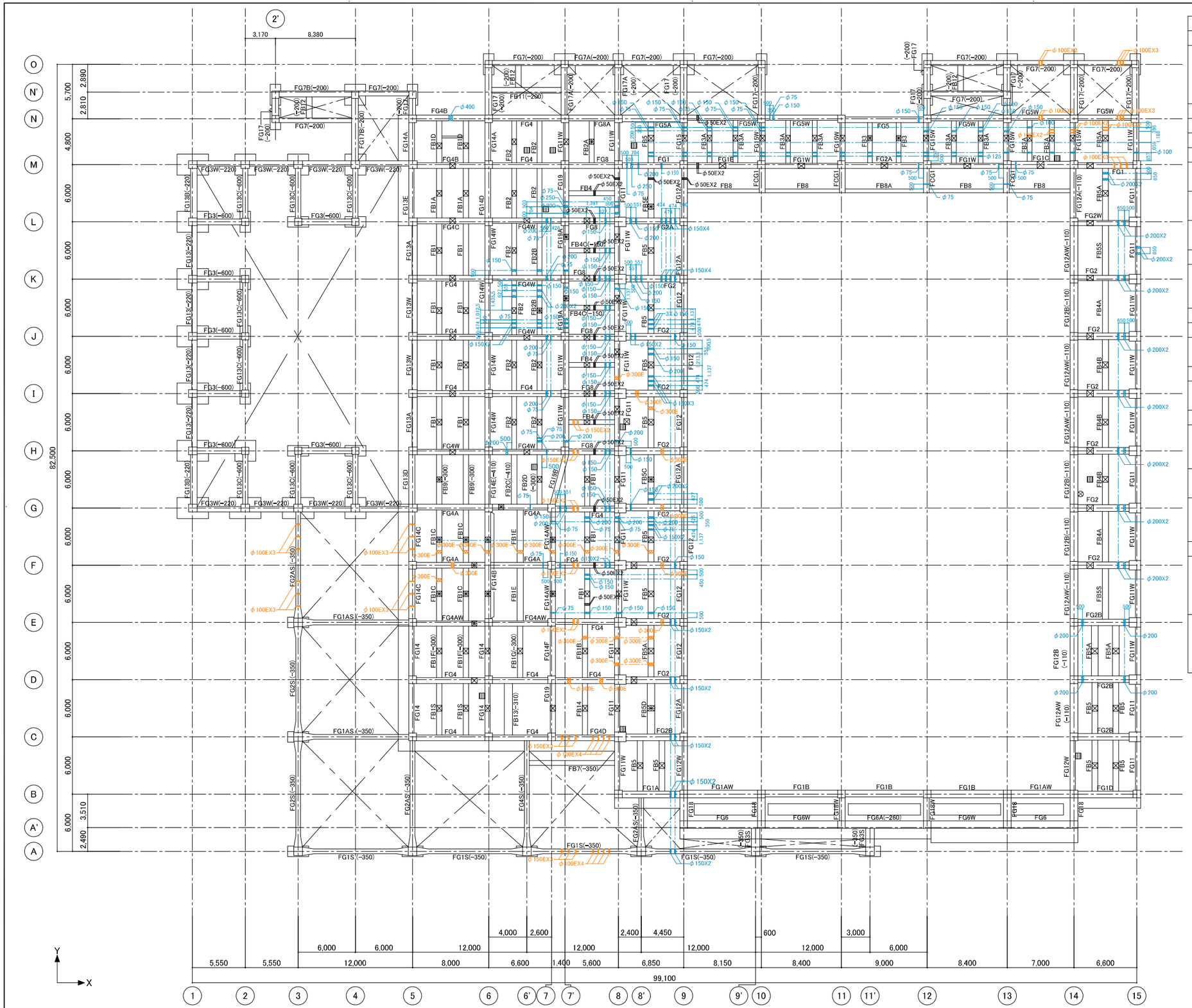


b sec. 1/20

共通事項

1. コンクリート
コンクリート強度： Fc21
スランプ ： 15cm
2. 鉄骨材質
無印 ： SS400

| | | | | | |



設備スリーブ

梁符号	スリーブ径	本数	梁符号	スリーブ径	本数
FG1	φ250(φ260)	1	FB1	φ200(φ209)	1
	φ200(φ209)	1		φ150(φ158)	3
	φ150(φ158)	1		φ75	1
	φ75	1	FB2	φ200(φ209)	3
FG1A	φ150(φ158)	2		φ150(φ158)	4
FG1C	φ75	1		φ75	2
FG1W	φ75	1	FB2B	φ200(φ209)	2
FG1S	φ150(φ158)	2		φ150(φ158)	4
FG2	φ200(φ209)	13		φ75	1
	φ150(φ158)	16	FB3	φ125(φ132)	2
FG2A	φ200(φ209)	1		φ100(φ106)	2
	φ150(φ158)	5	FB3A	φ150(φ158)	4
FG2B	φ200(φ209)	4		φ125(φ132)	6
	φ150(φ158)	2		φ100(φ106)	10
FG2W	φ200(φ209)	2		φ75	2
FG4	φ200(φ209)	2	FB4	φ150(φ158)	4
	φ150(φ158)	6	FB5	φ200(φ209)	2
	φ75	1		φ150(φ158)	11
FG4A	φ75	2		φ125(φ132)	1
FG4B	φ400(φ420)	1		φ100(φ106)	1
FG4W	φ200(φ209)	4		φ75	2
	φ75	5	FB5A	φ100(φ106)	1
FG5	φ150(φ158)	1	FB5C	φ200(φ209)	2
FG5W	φ150(φ158)	1			
	φ75	1			
FG8	φ150(φ158)	10			
FG11	φ250(φ260)	1			
	φ200(φ209)	3			
	φ75	2			
FG11W	φ150(φ158)	2			
	φ200(φ209)	1			
FG19	φ200(φ209)	1			
	φ250(φ260)	1			
	φ75	1			
FG19A	φ150(φ158)	5			
FG15	φ150(φ158)	1			
	φ125(φ132)	1			
	φ100(φ106)	1			
	φ75	1			
FG15W	φ150(φ158)	3			
	φ125(φ132)	3			
	φ100(φ106)	5			
	φ75	1			

電気スリーブ

梁符号	スリーブ径	本数
FG1	φ100E(φ106)	3
FG1E	φ50E	2
FG2	φ300E(φ312)	5
FG4	φ300E(φ312)	2
	φ150E(φ158)	6
	φ50E	4
FG4A	φ300E(φ312)	1
FG4D	φ150E(φ158)	3
	φ100E(φ106)	4
FG5W	φ100E(φ106)	5
	φ50E	2
FG7	φ100E(φ106)	5
FG8	φ150E(φ158)	2
	φ50E	10
FG11	φ300E(φ312)	3
	φ50E	2
FG11W	φ300E(φ312)	1
FG12A	φ50E	2
FG14AW	φ300E(φ312)	1
FG14B	φ300E(φ312)	1
FG14C	φ100E(φ106)	6
FG15W	φ100E(φ106)	2
FG1S	φ150E(φ158)	3
	φ100E(φ106)	4
FG2AS	φ100E(φ106)	6
FB1	φ300E(φ312)	1
	φ50E	2
FB1B	φ300E(φ312)	1
FB1C	φ300E(φ312)	3
FB1E	φ300E(φ312)	1
FB3A	φ100E(φ106)	2
FB4	φ150E(φ125)	2
	φ50E	6
FB4C	φ50E	4
FB5	φ300E(φ312)	2
FB5A	φ300E(φ312)	2
	φ100E(φ106)	2
FB5E	φ50E	2

（註）特記ナキ限り

- ⊠ は人通口600φを示す
- ⊠ は人通口550φを示す
- □ 釜場（W900 X D600 X H600)を示す

φ○○○E ： 電気関係

φ○○○雨 ：雨水排水関係

その他は設備関係を示す

通気管、連通管は意匠ピット図参照

電気配線小径管は電気図参照

ピット 伏 図　　S=1/200

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants 株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1−10078号	

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	藍島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

飯塚市新体育館等建設工事		設計番号 16779	図面番号 S − 073
スリーブ位置図（1）	縮尺 A1:1/200 A3:1/400	日付 2019. 11. 15	No

2019/10/15 通株ビュー印審査終了図



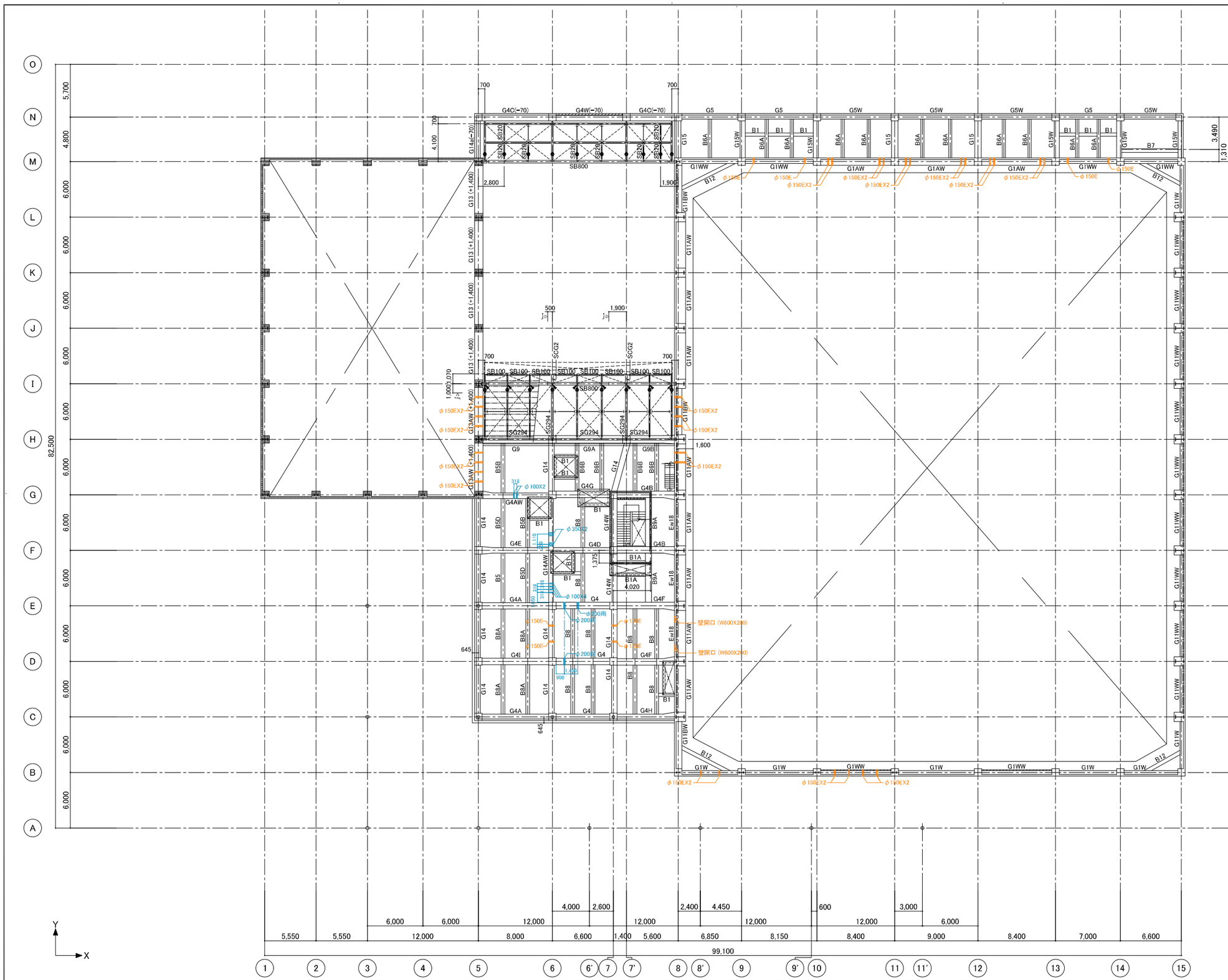
整備スリーブ		
梁符号	スリーブ径	本数
2G4	φ100(φ106)	1
2G4W	φ100(φ106)	3
2G4AW	φ350(φ370)	9
2G14BW	φ300(φ312)	5
	φ100(φ106)	1
2G15W	φ100(φ106)	6
B4	φ100(φ106)	18
B5	φ150(φ158)	1
	φ100(φ106)	5
B5A	φ100(φ106)	17
電気関係スリーブ		
2G1AW	φ150E(φ158)	8
2G2A	φ150E(φ158)	2
2G2B	φ150E(φ158)	2
2G2C	φ150E(φ158)	1
2G2D	φ150E(φ158)	2
2G2W	φ150E(φ158)	1
2G4W	φ150E(φ158)	10
2G4WW	φ150E(φ158)	4
2G4AW	φ150E(φ158)	2
2G5WW	φ150E(φ158)	4
2G11W	φ150E(φ158)	8
2G11AW	φ150E(φ158)	12
2G12W	φ150E(φ158)	4
2G12AW	φ150E(φ158)	8
2G14	φ150E(φ158)	8
2G14W	φ300E(φ312)	4
2G14BW	φ300E(φ312)	4
	φ150E(φ158)	2
2G17	φ50E	12
2G7	φ50E	2
CG4	φ50E	6
CG6	φ50E	2
B5A	φ50E	10
B5B	φ50E	4

(駐)特記ナキ限り
φ○○○E ： 電気関係
φ○○○雨：雨水排水関係
その他は設備関係を示す
通気管、連通管は意匠ピット図参照
電気配線小径管は電気図参照

（2階柱壁・2階梁床伏図 見下げ図）

2 階 床 伏 図　　S=1/200

| | | |



設備スリーブ		
梁符号	スリーブ径	本数
3G14AW	φ100(φ106)	4
	φ350	2
3G4AW	φ100(φ106)	4
雨水配管スリーブ		
3G4	φ200雨(φ209)	3
電気関係スリーブ		
3G1W	φ150E(φ158)	2
3G1WW	φ150E(φ158)	8
3G1AW	φ150E(φ158)	12
3G11AW	φ150E(φ158)	2
3G13AW	φ150E(φ158)	8
3G13BW	φ150E(φ158)	4
3G14	φ150E(φ158)	4

(註)特記ナキ限り
φ○○○E ： 電気関係
φ○○○雨：雨水排水関係
その他は設備関係を示す
通気管、連通管は意匠ピット図参照
電気配線小径管は電気図参照

(3階柱壁・3階梁床伏図 見下げ図)

3階(PH階) 床 伏 図 S=1/200

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計 九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川 崇	蔭島 健夫	小林 紗矢	高橋 敏夫	西田 修治	西田 修治

飯塚市新体育館等建設工事

スリーブ位置図（３）

設計番号	図面番号
16779	S － 075
縮尺 1/A1:200 A3:400	日付 2019.11.15
	No

20191015通例ビュー印審査終了図

梁貫通孔補強リスト（MAXウェブレン）

	開孔径	106φ				132φ				158φ				183φ				209φ				233φ				260φ				283φ				312φ				333φ				350φ				370φ				420φ				550φ				600φ			
梁符号	一般部あばら筋	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	孔際S 追加S	型式	製品種	枚数
FG1	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-140φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	6	2 0	d50-225φ	S16-3R	6	2 0	d50-250φ	S16-3R	6	2 0	d50-275φ	S16-3R	6	2 0	d50-300φ	S16-3R	6	2 0	d50-325φ	S16-3R	6																		
FG1A	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-140φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	5	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FG1B	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	5	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FG1D	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	5	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-140φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	6	2 0	d50-225φ	S16-3R	6	2 0	d50-250φ	S16-3R	6	2 0	d50-275φ	S16-3R	6																										
FG1E	5-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-140φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	5	2 0	d50-225φ	S16-3R	5	2 0	d50-250φ	S16-3R	5	2 0	d50-275φ	S16-3R	6	2 0	d50-300φ	S16-3R	6	2 0	d50-325φ	S16-3R	6					2 0	d50-350φ	S16-3R	6								
FG2	4-D13@125	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-140φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	5	2 0	d50-225φ	S16-3R	5	2 0	d50-250φ	S16-3R	5	2 0	d50-275φ	S16-3R	6	2 0	d50-300φ	S16-3R	6	2 0	d50-325φ	S16-3R	6																		
FG2A	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	2	2 0	d50-140φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	2	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	3	2 0	d50-325φ	S16-3R	3					2 0	d50-350φ	S16-3R	4	3 0	d50-550φ	S16-3R	4				
FG2B	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	5	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-140φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	6	2 0	d50-225φ	S16-3R	6																																						
FG3	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S13-2R	2	1 0	d50-125φ	S13-2R	2	2 0	d50-140φ	S16-2R	2	2 0	d50-175φ	S16-2R	2	2 0	d50-200φ	S16-2R	2	2 0	d50-225φ	S16-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-3R	2	2 0	d50-325φ	S16-3R	2					2 0	d50-350φ	S16-3R	2								
FG4	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FG4A	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	5	3 0	d50-550φ	S16-3R	6				
FG4B	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5	3 0	d50-400φ	S16-3R	5				
FG4C	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4					3 0	d50-600φ	S16-3R	6
FG4D	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4					3 0	d50-600φ	S16-3R	5
FG5	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4								
FG5A	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	3	2 0	d50-325φ	S16-3R	3					2 0	d50-350φ	S16-3R	4								
FG6	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4								
FG6A	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-2R	3	1 0	d50-125φ	S16-2R	3	2 0	d50-140φ	S16-2R	3	2 0	d50-175φ	S16-2R	3	2 0	d50-200φ	S16-2R	3	2 0	d50-225φ	S16-2R	3	2 0	d50-250φ	S16-2R	4	2 0	d50-275φ	S16-2R	4	2 0	d50-300φ	S16-2R	4	2 0	d50-325φ	S16-2R	4					2 0	d50-350φ	S16-2R	4								
FG7	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S13-2R	2	1 0	d50-125φ	S13-2R	2	2 0	d50-140φ	S13-2R	2	2 0	d50-175φ	S13-2R	2	2 0	d50-200φ	S13-2R	2	2 0	d50-225φ	S13-2R	2	2 0	d50-250φ	S13-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-2R	2	2 0	d50-325φ	S16-2R	2																		
FG7A	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S10-2R	2	1 0	d50-125φ	S10-2R	2	2 0	d50-140φ	S10-2R	2	2 0	d50-175φ	S10-2R	2	2 0	d50-200φ	S13-2R	2	2 0	d50-225φ	S13-2R	2	2 0	d50-250φ	S13-2R	2	2 0	d50-275φ	S13-2R	2	2 0	d50-300φ	S13-2R	2	2 0	d50-325φ	S13-2R	2																		
FG7B	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S13-2R	2	1 0	d50-125φ	S13-2R	2	2 0	d50-140φ	S10-2R	2	2 0	d50-175φ	S13-2R	2	2 0	d50-200φ	S13-2R	2	2 0	d50-225φ	S13-2R	2	2 0	d50-250φ	S13-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-2R	2	2 0	d50-325φ	S16-2R	2																		
FG8	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	5	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-140φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	6	2 0	d50-225φ	S16-3R	6	2 0	d50-250φ	S16-3R	6	2 0	d50-275φ	S16-3R	6	2 0	d50-300φ	S16-3R	6																										
FG8A	4-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FG11	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-140φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	5	2 0	d50-225φ	S16-3R	5	2 0	d50-250φ	S16-3R	6	2 0	d50-275φ	S16-3R	6	2 0	d50-300φ	S16-3R	6	2 0	d50-325φ	S16-3R	6																		
FG12	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FG12A	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-140φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	5	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FG12B	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-140φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FG13	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-2R	3	1 0	d50-125φ	S16-2R	3	2 0	d50-140φ	S16-2R	4	2 0	d50-175φ	S16-2R	4	2 0	d50-200φ	S16-2R	4	2 0	d50-225φ	S16-2R	4	2 0	d50-250φ	S16-2R	4	2 0	d50-275φ	S16-2R	4	2 0	d50-300φ	S16-2R	5	2 0	d50-325φ	S16-2R	5					2 0	d50-350φ	S16-2R	5								
FG13A	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-140φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	5	2 0	d50-225φ	S16-3R	5	2 0	d50-250φ	S16-3R	5																										
FG13B	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-2R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	2	2 0	d50-140φ	S16-2R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	2	2 0	d50-200φ	S16-3R	2	2 0	d50-225φ	S16-3R	2	2 0	d50-250φ	S16-3R	2	2 0	d50-275φ	S16-3R	2	2 0	d50-300φ	S16-3R	3	2 0	d50-325φ	S16-3R	3					2 0	d50-350φ	S16-3R	3								
FG13C	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S13-2R	2	1 0	d50-125φ	S13-2R	2	2 0	d50-140φ	S13-2R	2	2 0	d50-175φ	S13-2R	2	2 0	d50-200φ	S16-2R	2	2 0	d50-225φ	S16-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-2R	2	2 0	d50-325φ	S16-2R	2					2 0	d50-350φ	S16-2R	2								
FG13D	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4								
FG13E	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4								
FG14	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-140φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	5	2 0	d50-225φ	S16-3R	5																										
FG14A	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	5	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-140φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	5																																				
FG14B	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S13-2R	2	1 0	d50-125φ	S13-2R	2	2 0	d50-140φ	S13-2R	2	2 0	d50-175φ	S13-2R	2	2 0	d50-200φ	S16-2R	2	2 0	d50-225φ	S16-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-2R	2	2 0	d50-325φ	S16-2R	2					2 0	d50-350φ	S16-2R	2	3 0	d50-550φ	S16-2R	3				
FG14C	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	3	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4								
FG14D	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-140φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4																										
FG14E	4-D16@125	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-140φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	5	2 0	d50-250φ	S16-3R	5	2 0	d50-275φ	S16-3R	5	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5																		
FG14F	4-D16@125	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-140φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	5	2 0	d50-225φ	S16-3R	5	2 0	d50-250φ	S16-3R	5	2 0	d50-275φ	S16-3R	5																										
FG15	3-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-140φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4																																						
FG17	3-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4																										
FG17A	3-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-2R	2	1 0	d50-125φ	S16-2R	2	2 0	d50-140φ	S16-2R	2	2 0	d50-175φ	S16-2R	2	2 0	d50-200φ	S16-2R	2	2 0	d50-225φ	S16-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	3	2 0	d50-300φ	S16-2R	3	2 0	d50-325φ	S16-2R	3																		
FG17B	3-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-2R	2	1 0	d50-125φ	S16-2R	2	2 0	d50-140φ	S16-2R	2	2 0	d50-175φ	S16-2R	2	2 0	d50-200φ	S16-2R	2	2 0	d50-225φ	S16-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	3	2 0	d50-300φ	S16-2R	3	2 0	d50-325φ	S16-2R	3																		
FG18	4-D16@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	5	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-140φ	S16-3R	6	2 0	d50-175φ	S16-3R	6	2 0	d50-200φ	S16-3R	6																																				
FG19	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-140φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	5	2 0	d50-225φ	S16-3R	5	2 0	d50-250φ	S16-3R	5																										
FG19A	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-140φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FG19B	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-140φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	5	2 0	d50-275φ	S16-3R	5	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
備考	※孔際あばら筋組数：100～125φ1組，150～350φ2組，400φ～：3組（各径は製品型式の呼び径） ※孔材の外径に応じてサイズアップ(ex.塩ビ管使用の場合、1サイズアップ)																																																								

スリーブ補強リスト（1）

飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号	設計者 一級建築士 第280187号 中川　崇 / 一級建築士 第312528号 酢島　健夫 / 一級建築士 第365088号 小林　紗矢 / 一級建築士 第138771号 高橋　敏夫	法適合確認欄 構造設計一級建築士 第3038号 西田　修治	検証者 西田　修治	飯塚市新体育館等建設工事 スリーブ補強リスト（1）	設計番号 16779 縮尺 1／A1:200 A3:400 日付 2019・11・15	図面番号 S － 076 No

20191015過年ビュー印豪奥特了図

梁貫通孔補強リスト（MAXウェブレン）

梁符号	開孔径 一般部あばら筋	106φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	132φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	158φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	183φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	209φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	233φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	260φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	283φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	312φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	333φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	350φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	370φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	420φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	550φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	600φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数
FG1W	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-2R	2	1 0	d50-125φ	S16-2R	2	2 0	d50-150φ	S16-2R	2	2 0	d50-175φ	S16-2R	2	2 0	d50-200φ	S16-2R	2	2 0	d50-225φ	S16-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-2R	2	2 0	d50-325φ	S16-3R	2					2 0	d50-350φ	S16-3R	2					3 0	d50-600φ	S16-3R	2
FG1AW	3-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-2R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	2	2 0	d50-150φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	2	2 0	d50-200φ	S16-3R	2	2 0	d50-225φ	S16-3R	2	2 0	d50-250φ	S16-3R	2	2 0	d50-275φ	S16-3R	2	2 0	d50-300φ	S16-3R	3	2 0	d50-325φ	S16-3R	3					2 0	d50-350φ	S16-3R	3								
FG2W	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	2	2 0	d50-150φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	2	2 0	d50-200φ	S16-3R	2	2 0	d50-225φ	S16-3R	2	2 0	d50-250φ	S16-3R	2	2 0	d50-275φ	S16-3R	2	2 0	d50-300φ	S16-3R	2	2 0	d50-325φ	S16-3R	3					2 0	d50-350φ	S16-3R	3					3 0	d50-600φ	S16-3R	4
FG3W	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-2R	2	1 0	d50-125φ	S16-2R	2	2 0	d50-150φ	S16-2R	2	2 0	d50-175φ	S16-2R	2	2 0	d50-200φ	S16-2R	2	2 0	d50-225φ	S16-3R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-3R	2	2 0	d50-325φ	S16-3R	2					2 0	d50-350φ	S16-3R	2								
FG4W	2-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	2	2 0	d50-150φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	2	2 0	d50-200φ	S16-3R	2	2 0	d50-225φ	S16-3R	2	2 0	d50-250φ	S16-3R	2	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	3	2 0	d50-325φ	S16-3R	3					2 0	d50-350φ	S16-3R	3					3 0	d50-600φ	S16-3R	4
FG4AW	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-2R	2	1 0	d50-125φ	S16-2R	2	2 0	d50-150φ	S16-2R	2	2 0	d50-175φ	S16-2R	2	2 0	d50-200φ	S16-2R	2	2 0	d50-225φ	S16-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-3R	2	2 0	d50-275φ	S16-3R	2	2 0	d50-300φ	S16-3R	2	2 0	d50-325φ	S16-3R	2					2 0	d50-350φ	S16-3R	2					3 0	d50-550φ	S16-3R	3
FG5W	2-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	3	2 0	d50-325φ	S16-3R	3					2 0	d50-350φ	S16-3R	3								
FG6W	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S13-2R	2	1 0	d50-125φ	S13-2R	2	2 0	d50-150φ	S13-2R	2	2 0	d50-175φ	S13-2R	2	2 0	d50-200φ	S16-2R	2	2 0	d50-225φ	S16-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-2R	2	2 0	d50-325φ	S16-2R	2					2 0	d50-350φ	S16-2R	2								
FG11W	2-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-150φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	5	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FG12W	2-D13@150	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	2	2 0	d50-150φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	2	2 0	d50-200φ	S16-3R	2	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	3	2 0	d50-325φ	S16-3R	3					2 0	d50-350φ	S16-3R	3								
FG12AW	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	2	2 0	d50-150φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	2	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	3	2 0	d50-325φ	S16-3R	3					2 0	d50-350φ	S16-3R	4								
FG13W	2-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	3	2 0	d50-325φ	S16-3R	3					2 0	d50-350φ	S16-3R	4								
FG14W	2-D13@150	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	2	2 0	d50-150φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	2	2 0	d50-200φ	S16-3R	2	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	3	2 0	d50-325φ	S16-3R	3					2 0	d50-350φ	S16-3R	3					3 0	d50-600φ	S16-3R	4
FG14AW	2-D13@150	1 0	d50-100φ	S16-2R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	2	2 0	d50-150φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	2	2 0	d50-200φ	S16-3R	2	2 0	d50-225φ	S16-3R	2	2 0	d50-250φ	S16-3R	2	2 0	d50-275φ	S16-3R	2	2 0	d50-300φ	S16-3R	2	2 0	d50-325φ	S16-3R	3					2 0	d50-350φ	S16-3R	3					3 0	d50-550φ	S16-3R	3
FG15W	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FG18W	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	2	2 0	d50-150φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4								
FCG1	3-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-150φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	5	2 0	d50-225φ	S16-3R	6	2 0	d50-250φ	S16-3R	6	2 0	d50-275φ	S16-3R	6	2 0	d50-300φ	S16-3R	6																												
FG1S	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S13-2R	2	1 0	d50-125φ	S13-2R	2	2 0	d50-150φ	S10-2R	2	2 0	d50-175φ	S13-2R	2	2 0	d50-200φ	S13-2R	2	2 0	d50-225φ	S13-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-2R	2	2 0	d50-325φ	S16-2R	2																
FG1AS	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S13-2R	2	1 0	d50-125φ	S13-2R	2	2 0	d50-150φ	S13-2R	2	2 0	d50-175φ	S13-2R	2	2 0	d50-200φ	S13-2R	2	2 0	d50-225φ	S13-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-2R	2	2 0	d50-325φ	S16-2R	2																
FG2S	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S13-2R	2	1 0	d50-125φ	S13-2R	2	2 0	d50-150φ	S10-2R	2	2 0	d50-175φ	S13-2R	2	2 0	d50-200φ	S13-2R	2	2 0	d50-225φ	S13-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-2R	2	2 0	d50-325φ	S16-2R	2																
FG2AS	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S13-2R	2	1 0	d50-125φ	S13-2R	2	2 0	d50-150φ	S13-2R	2	2 0	d50-175φ	S13-2R	2	2 0	d50-200φ	S16-2R	2	2 0	d50-225φ	S16-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-2R	2	2 0	d50-325φ	S16-2R	2																
FG3S	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	2	2 0	d50-150φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3																												
FG4S	3-D13@200	1 1	d50-100φ	S13-2R	2	1 1	d50-125φ	S13-2R	2	2 0	d50-150φ	S13-2R	2	2 0	d50-175φ	S13-2R	2	2 0	d50-200φ	S13-2R	2	2 0	d50-225φ	S13-2R	2	2 0	d50-250φ	S16-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-2R	2	2 0	d50-325φ	S16-2R	2					2 0	d50-350φ	S16-2R	2								
FB1	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4					3 0	d50-600φ	S16-3R	6
FB1A	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4					3 0	d50-600φ	S16-3R	5
FB1B	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4					3 0	d50-600φ	S16-3R	6
FB1C	2-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	5	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FB1D	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4					3 0	d50-600φ	S16-3R	5
FB1E	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	5	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-150φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	6	2 0	d50-200φ	S16-3R	6	2 0	d50-225φ	S16-3R	6	2 0	d50-250φ	S16-3R	7	2 0	d50-275φ	S16-3R	7	2 0	d50-300φ	S16-3R	7	2 0	d50-325φ	S16-3R	7																
FB1F	2-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FB1G	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	5	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-150φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	6	2 0	d50-225φ	S16-3R	6	2 0	d50-250φ	S16-3R	6	2 0	d50-275φ	S16-3R	6	2 0	d50-300φ	S16-3R	7	2 0	d50-325φ	S16-3R	7																
FB1S	2-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-150φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	5	2 0	d50-275φ	S16-3R	5	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FB2	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4								
FB2A	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	3	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4					3 0	d50-600φ	S16-3R	5
FB2B	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4								
FB2C	3-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-150φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	5	2 0	d50-225φ	S16-3R	5	2 0	d50-250φ	S16-3R	5	2 0	d50-275φ	S16-3R	6	2 0	d50-300φ	S16-3R	6	2 0	d50-325φ	S16-3R	6																
FB2D	3-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-150φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	5	2 0	d50-225φ	S16-3R	5	2 0	d50-250φ	S16-3R	5	2 0	d50-275φ	S16-3R	6	2 0	d50-300φ	S16-3R	6	2 0	d50-325φ	S16-3R	6																
FB3	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	3	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4					3 0	d50-550φ	S16-3R	5
FB3A	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	4								
FB4	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 0	d50-350φ	S16-3R	5								
FB4A	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	5	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-150φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	6	2 0	d50-200φ	S16-3R	6	2 0	d50-225φ	S16-3R	6	2 0	d50-250φ	S16-3R	7	2 0	d50-275φ	S16-3R	7	2 0	d50-300φ	S16-3R	7																
FB4B	4-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	5	1 0	d50-125φ	S16-3R	5	2 0	d50-150φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	6	2 0	d50-225φ	S16-3R	6	2 0	d50-250φ	S16-3R	6	2 0	d50-275φ	S16-3R	7	2 0	d50-300φ	S16-3R	7	2 0	d50-325φ	S16-3R	7																
FB4C	3-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-150φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	5	2 0	d50-275φ	S16-3R	5	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	6					3 0	d50-550φ	S16-3R	7
FB5	2-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	3	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-150φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	4	2 0	d50-200φ	S16-3R	4	2 0	d50-225φ	S16-3R	4	2 0	d50-250φ	S16-3R	5	2 0	d50-275φ	S16-3R	5	2 0	d50-300φ	S16-3R	5	2 0	d50-325φ	S16-3R	5					2 0	d50-350φ	S16-3R	6								
FB5A	3-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-150φ	S16-3R	5	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	5	2 0	d50-225φ	S16-3R	5	2 0	d50-250φ	S16-3R	6	2 0	d50-275φ	S16-3R	6	2 0	d50-300φ	S16-3R	6	2 0	d50-325φ	S16-3R	6					2 0	d50-350φ	S16-3R	7								
FB5C	2-D13@200	1 1	d50-100φ	S16-3R	3	1 1	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	4	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 1	d50-350φ	S16-3R	5	3 0	d50-550φ	S16-3R	6				
FB5D	3-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	4	1 0	d50-125φ	S16-3R	4	2 0	d50-150φ	S16-3R	4	2 0	d50-175φ	S16-3R	5	2 0	d50-200φ	S16-3R	5	2 0	d50-225φ	S16-3R	5	2 0	d50-250φ	S16-3R	5	2 0	d50-275φ	S16-3R	6	2 0	d50-300φ	S16-3R	6	2 0	d50-325φ	S16-3R	6					2 0	d50-350φ	S16-3R	7	3 0	d50-550φ	S16-3R	9				
FB5E	2-D13@200	1 1	d50-100φ	S16-3R	3	1 1	d50-125φ	S16-3R	3	2 0	d50-150φ	S16-3R	3	2 0	d50-175φ	S16-3R	3	2 0	d50-200φ	S16-3R	3	2 0	d50-225φ	S16-3R	3	2 0	d50-250φ	S16-3R	3	2 0	d50-275φ	S16-3R	4	2 0	d50-300φ	S16-3R	4	2 0	d50-325φ	S16-3R	4					2 1	d50-350φ	S16-3R	5	3 0	d50-550φ	S16-3R	6				
FB5S	5-D13@100	1 0	d50-100φ	S16-3R	5	1 0	d50-125φ	S16-3R	6	2 0	d50-150φ	S16-3R	6	2 0	d50-175φ	S16-3R	6	2 0	d50-200φ	S16-3R	7	2 0	d50-225φ	S16-3R	7	2 0	d50-250φ	S16-3R	7																												
FB7	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S13-2R	2	1 0	d50-125φ	S13-2R	2	2 0	d50-150φ	S13-2R	2	2 0	d50-175φ	S13-2R	2	2 0	d50-200φ	S13-2R	2	2 0	d50-225φ	S13-2R	2	2 0	d50-250φ	S13-2R	2	2 0	d50-275φ	S16-2R	2	2 0	d50-300φ	S16-2R	2	2 0	d50-325φ	S16-2R	2					2 0	d50-350φ	S16-2R	2								
FB8	2-D13@200	1 0	d50-100φ	S16-3R	2	1 0	d50-125φ	S16-3R	2	2 0	d50-150φ	S16-3R	2	2 0	d50-175φ	S16-3R	2	2 0	d50-200φ	S16-3R	2	2 0	d50-225φ	S16-3R	2	2 0	d50-250φ	S16-3R	2	2 0	d50-275φ	S16-3R	2	2 0	d50-300φ	S16-3R

梁貫通孔補強リスト（MAXウェブレン）

梁符号	開孔径 一般部あばら筋	106φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	132φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	158φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	183φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	209φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	233φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	260φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	283φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	312φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	333φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	350φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	370φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	420φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	550φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	600φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数
2G1	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	3																									
2G1W	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G1WW	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G1A	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2																									
2G1AW	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2	2 0	d40-300φ	S16-2R	2	2 0	d40-325φ	S16-2R	2				2 0	d40-350φ	S16-2R	2								
2G2	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	3	2 0	d40-175φ	S16-2R	3	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																									
2G2A	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	3	2 0	d40-175φ	S16-2R	3	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																									
2G2B	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																									
2G2C	4-S13@100	1 0	d40-100φ	S16-3R	3	1 0	d40-125φ	S16-3R	3	2 0	d40-150φ	S16-3R	3	2 0	d40-175φ	S16-3R	4	2 0	d40-200φ	S16-3R	4	2 0	d40-225φ	S16-3R	4	2 0	d40-250φ	S16-3R	4	2 0	d40-275φ	S16-3R	4	2 0	d40-300φ	S16-3R	4	2 0	d40-325φ	S16-3R	5													
2G2D	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	3	2 0	d40-175φ	S16-2R	3	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																									
2G2W	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																									
2G3	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																									
2G3W	2-D13@150	1 1	d40-100φ	S10-2R	2	1 1	d40-125φ	S13-2R	2	2 1	d40-150φ	S13-2R	2	2 1	d40-175φ	S13-2R	2	2 1	d40-200φ	S13-2R	2	2 1	d40-225φ	S13-2R	2	2 1	d40-250φ	S13-2R	2																									
2G4	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	3	2 0	d40-175φ	S16-2R	3	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																									
2G4A	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G4B	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																									
2G4C	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3																									
2G4D	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	3																									
2G4F	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																									
2G4W	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G4WW	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G4AW	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2	2 0	d40-300φ	S16-2R	2	2 0	d40-325φ	S16-2R	2				2 0	d40-350φ	S16-2R	2								
2G5	4-D13@200	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2																									
2G5W	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G5WW	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G6	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G6W	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S8-2R	2	1 0	d40-125φ	S8-2R	2	2 0	d40-150φ	S10-2R	2	2 0	d40-175φ	S10-2R	2	2 0	d40-200φ	S10-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																									
2G7	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G8	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3																									
2G9A	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G11	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G11W	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G11WW	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2																									
2G11AW	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3																									
2G11AWW	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	3	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3																									
2G11BW	4-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G12	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3																									
2G12A	3-S13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3																									
2G12W	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3																									
2G12AW	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G13	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 1	d40-225φ	S16-2R	2	2 1	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G13A	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G13W	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																									
2G13AW	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G13AWW	3-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G13BW	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3																									
2G14	4-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G14A	3-D13@200	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S10-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2																									
2G14B	3-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																									
2G14C	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	3	2 0	d40-150φ	S16-2R	3	2 0	d40-175φ	S16-2R	3	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	4	2 0	d40-250φ	S16-2R	4	2 0	d40-275φ	S16-2R	4	2 0	d40-300φ	S16-2R	4																									
2G14W	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																									
2G14AW	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	3	1 0	d40-125φ	S16-2R	3	2 0	d40-150φ	S16-2R	3	2 0	d40-175φ	S16-2R	3	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	4	2 0	d40-300φ	S16-2R	4	2 0	d40-325φ	S16-2R	4				2 0	d40-350φ	S16-2R	4								
2G14BW	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2	2 0	d40-300φ	S16-2R	2	2 0	d40-325φ	S16-2R	2				2 0	d40-350φ	S16-2R	2								
2G15W	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2	2 0	d40-300φ	S16-2R	2																									
2G17	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3																									
2G18	5-S13@100	1 0	d40-100φ	S16-3R	5																		

梁貫通孔補強リスト（MAXウェブレン）

梁符号	開孔径 一般部あばら筋	106φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	132φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	158φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	183φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	209φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	233φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	260φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	283φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	312φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	333φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	350φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	370φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	420φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	550φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数	600φ 孔際S 追加S	型式	製品種	枚数
3G1W	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																													
3G1WW	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2																													
3G1AW	3-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																													
3G3W	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																													
3G4	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																													
3G4A	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	3	2 0	d40-175φ	S16-2R	3	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																													
3G4B	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	3	1 0	d40-125φ	S16-2R	3	2 0	d40-150φ	S16-2R	3	2 0	d40-175φ	S16-2R	3	2 0	d40-200φ	S16-2R	4	2 0	d40-225φ	S16-2R	4	2 0	d40-250φ	S16-2R	4	2 0	d40-275φ	S16-2R	4	2 0	d40-300φ	S16-2R	4																													
3G4C	2-D13@150	1 1	d40-100φ	S13-2R	2	1 1	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 1	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																													
3G4D	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2																													
3G4E	2-D13@150	1 1	d40-100φ	S13-2R	2	1 1	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 1	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2																													
3G4F	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	3	1 0	d40-125φ	S16-2R	3	2 0	d40-150φ	S16-2R	3	2 0	d40-175φ	S16-2R	3	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	4	2 0	d40-250φ	S16-2R	4	2 0	d40-275φ	S16-2R	4	2 0	d40-300φ	S16-2R	4																													
3G4G	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																													
3G4H	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	3	1 0	d40-125φ	S16-2R	3	2 0	d40-150φ	S16-2R	3	2 0	d40-175φ	S16-2R	3	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	4	2 0	d40-275φ	S16-2R	4	2 0	d40-300φ	S16-2R	4																													
3G4I	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	3	2 0	d40-175φ	S16-2R	3	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																													
3G4W	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																													
3G4AW	2-D13@150	1 2	d40-100φ	S13-2R	2	1 2	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2	2 2	d40-300φ	S16-2R	2																													
3G5	3-D13@200	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2																													
3G5W	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																													
3G9	2-D13@150	1 1	d40-100φ	S13-2R	2	1 1	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 1	d40-250φ	S16-2R	2	2 1	d40-275φ	S16-2R	2																													
3G9A	2-D13@150	1 1	d40-100φ	S13-2R	2	1 1	d40-125φ	S13-2R	2	2 1	d40-150φ	S13-2R	2	2 1	d40-175φ	S13-2R	2	2 1	d40-200φ	S13-2R	2	2 1	d40-225φ	S13-2R	2	2 1	d40-250φ	S16-2R	2																													
3G9B	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 1	d40-250φ	S16-2R	2																													
3G11W	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																													
3G11WW	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2																													
3G11AW	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	3																													
3G11BW	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																													
3G13	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-3R	4	1 0	d40-125φ	S16-3R	4	2 0	d40-150φ	S16-3R	4	2 0	d40-175φ	S16-3R	4	2 0	d40-200φ	S16-3R	4	2 0	d40-225φ	S16-3R	4																													
3G13W	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																													
3G13AW	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-3R	3	1 0	d40-125φ	S16-3R	3	2 0	d40-150φ	S16-3R	3	2 0	d40-175φ	S16-3R	3	2 0	d40-200φ	S16-3R	3	2 0	d40-225φ	S16-3R	3	2 0	d40-250φ	S16-3R	4	2 0	d40-275φ	S16-3R	4	2 0	d40-300φ	S16-3R	4																													
3G14(3G14a)	3-D13@150	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																													
3G14W	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2																													
3G14AW	4-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3	2 0	d40-300φ	S16-2R	3	2 0	d40-325φ	S16-2R	4	2 0	d40-350φ	S16-2R	4											
3G15	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 1	d40-250φ	S16-2R	2																													
3G15W	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																													
B1	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S10-2R	3	1 0	d40-125φ	S10-2R	3	2 0	d40-150φ	S10-2R	3	2 0	d40-175φ	S10-2R	3																																											
B1A	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S8-2R	2	1 0	d40-125φ	S8-2R	2	2 0	d40-150φ	S8-2R	2	2 0	d40-175φ	S8-2R	2																																										
B2	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S8-2R	2	2 0	d40-175φ	S10-2R	2	2 0	d40-200φ	S10-2R	2	2 0	d40-225φ	S10-2R	2																													
B2A	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2																													
B2B	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2																													
B3	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2																													
B4	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S10-2R	2	2 0	d40-175φ	S10-2R	2																																										
B5	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S8-2R	2	1 0	d40-125φ	S8-2R	2	2 0	d40-150φ	S8-2R	2	2 0	d40-175φ	S8-2R	2																																									
B5A	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S8-2R	2	1 0	d40-125φ	S8-2R	2	2 0	d40-150φ	S8-2R	2	2 0	d40-175φ	S8-2R	2																																									
B5B	2-D13@150	1 1	d40-100φ	S10-2R	2	1 1	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S10-2R	2	2 0	d40-175φ	S10-2R	2	2 0	d40-200φ	S10-2R	2																																									
B5C	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S8-2R	2	2 0	d40-175φ	S10-2R	2	2 0	d40-200φ	S10-2R	2	2 0	d40-225φ	S10-2R	2																													
B5D	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S8-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S8-2R	2	2 0	d40-175φ	S8-2R	2																																									
B6	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S8-2R	2	2 0	d40-175φ	S8-2R	2	2 0	d40-200φ	S10-2R	2																																									
B6A	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S8-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S8-2R	2	2 0	d40-175φ	S8-2R	2	2 0	d40-200φ	S8-2R	2																																									
B6B	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S8-2R	2	2 0	d40-175φ	S8-2R	2	2 0	d40-200φ	S10-2R	2	2 0	d40-225φ	S10-2R	2																													
B7	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S8-2R	2	1 0	d40-125φ	S8-2R	2	2 0	d40-150φ	S10-2R	2	2 0	d40-175φ	S10-2R	2	2 0	d40-200φ	S10-2R	2	2 0	d40-225φ	S10-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																													
B8	2-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2																													
B8A	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	2																													
B9	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2	2 0	d40-250φ	S16-2R	2	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																													
B9A	3-D13@100	1 0	d40-100φ	S16-2R	2	1 0	d40-125φ	S16-2R	2	2 0	d40-150φ	S16-2R	2	2 0	d40-175φ	S16-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	3	2 0	d40-225φ	S16-2R	3	2 0	d40-250φ	S16-2R	3	2 0	d40-275φ	S16-2R	3																													
B10	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S13-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S13-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S16-2R	2	2 0	d40-225φ	S16-2R	2																													
B11	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S8-2R	2	2 0	d40-175φ	S10-2R	2	2 0	d40-200φ	S10-2R	2	2 0	d40-225φ	S10-2R	2																													
B11A	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S8-2R	2	1 0	d40-125φ	S8-2R	2	2 0	d40-150φ	S10-2R	2	2 0	d40-175φ	S10-2R	2	2 0	d40-200φ	S10-2R	2	2 0	d40-225φ	S10-2R	2	2 0	d40-250φ	S13-2R	2																													
B12(Fc=24)	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S10-2R	2	2 0	d40-175φ	S10-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2																													
B12(Fc=27)	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S13-2R	2	2 0	d40-150φ	S10-2R	2	2 0	d40-175φ	S10-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2																													
B13	2-D13@200	1 0	d40-100φ	S8-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S8-2R	2	2 0	d40-175φ	S8-2R	2																																									
CB1	2-D13@150	1 0	d40-100φ	S10-2R	2	1 0	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S10-2R	2	2 0	d40-175φ	S13-2R	2	2 0	d40-200φ	S13-2R	2	2 0	d40-225φ	S13-2R	2																													
STB1	2-D13@150	1 1	d40-100φ	S10-2R	2	1 1	d40-125φ	S10-2R	2	2 0	d40-150φ	S10-2R	2	2 0	d40-175φ	S10-2R	2																																									
備考	※孔際あばら筋組数：100～125φ1組，150～350φ2組，400φ～:3組（各径は製品型式の呼び径） ※孔材の外径に応じてサイズアップ(ex.塩ビ管使用の場合、1サイズアップ)																																																										

スリーブ補強リスト（4）

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者							
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	法適合確認欄	検証者	飯塚市新体育館等建設工事	設計番号 16779 / 図面番号 S－079
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号			
中川　巣	酢島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治	スリーブ補強リスト（4）	縮尺 1/A1:NS A3:NS / 日付 2019・11・15 / No

20191015通知ビューロー審査終了図

梁貫通孔補強材　# ＭＡＸウエブレン標準仕様書

1．一般事項

（１）本仕様書は、〈財〉日本建築センターの一般評定「BCJ評定-RC0097-04」に適合するように標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。

（２）本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」及び「建築工事標準仕様書・同解説（JASS5）鉄筋コンクリート工事」による。

2．適用範囲

（１）使用材料

ａ）コンクリート設計基準強度

$21 \leqq Fc \leqq 80 N/mm^2$

ｂ）主筋

普通鉄筋のうち以下の種類

SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490

高強度鉄筋のうち以下の種類

SD590, SD685 ただし、建築基準法第37条第二号の規定に基づく国土交通大臣認定品

ｃ）あばら筋

普通鉄筋のうち以下の種類

SD295A, SD295B, SD345, SD390

高強度鉄筋のうち以下の種類

685N/mm²,785N/mm²級または1275N/mm²級高強度鉄筋のうち、建築基準法第37条第二号の規定に基づく国土交通大臣認定品

ｄ）開孔補強筋

ストロングフープ用棒鋼（MSRB-0005）KSS785

（２）開孔径および位置

ａ）開孔径　H

あばら筋に普通強度鉄筋を用いる梁　　100mm≦H≦750mm

あばら筋に高強度鉄筋を用いる梁　　100mm≦H≦450mm

開孔の形状は円形または多角形とし、梁成の1/3以下とする。

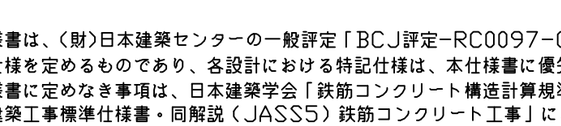
（多角形の場合は外接する円形とみなす。）

ｂ）開孔中心間距離　L

開孔中心間距離は、開孔径の3倍以上とする。また、隣り合う開孔径が異なる場合には、双方の開孔径の平均値の3倍以上とする。

ｃ）柱際から開孔中心までの距離　L'**（但し、基礎梁でヒンジが生じない場合には本項は適用しない）**

柱面から梁せい以上離すこととする。



ｄ）へりあきの最小寸法

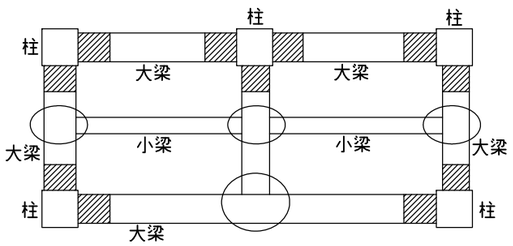
梁せい	450mm≦D＜700mm	へりあき 175mm
梁せい	700mm≦D＜900mm	へりあき 200mm
梁せい	900mm≦D	へりあき 250mm

ｅ）梁が交差する場合の梁面から開孔中心までの距離

開孔補強筋が直交する梁の配筋と干渉しない範囲で開孔を設けることができる。

：柱面から梁せい以上離す。

：大梁、小梁とも開孔補強筋が直交する梁の配筋に干渉しない範囲で開孔可。



3．標準配筋図

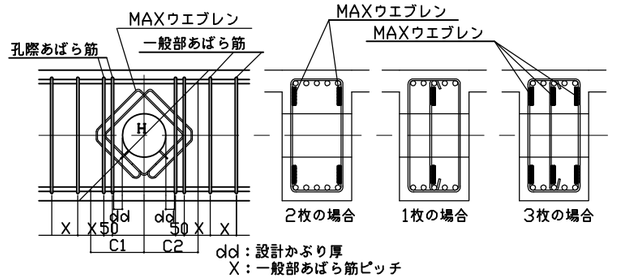
（１）ＭＡＸウエブレンの取り付け位置

ＭＡＸウエブレンはあばら筋の内側に取り付ける。

3枚以上施工する場合は中子筋へ取り付けるか、開孔補強筋を連続固定できるＪ筋（ジョイント金具）により施工する。

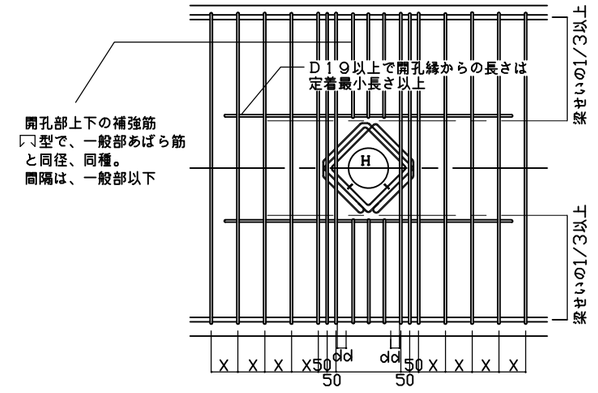
（２）孔際あばら筋

孔際あばら筋は、原則として一般部あばら筋と同種、同径、同本数とし、開孔部の両側に１組以上配筋する。位置は開孔縁から設計かぶり厚さを確保した位置に１組目を配筋し、複数組配筋する場合は、その間隔を50ｍｍとする。



4．大開孔時の補強方法

開孔径が400ｍｍ以上で主筋とＭＡＸウエブレンの最外位置との間隔が梁せいの1/3以上となる場合は右図に示す補強を行う。なお、この補強が必要となる条件は〈財〉日本建築センターの評定時に指導された最低基準であるので、開孔位置等の状況によっては図に示す数値以下であっても補強が必要となる場合がある。従って開孔部の上下補強を行う。



5．計算条件

（1）設計せん断力（QuD）と開孔部せん断終局強度算定式〈QHu〉

◉ 補強設計用せん断力〈QuD〉

- 保有の終局せん断力（①）と両端降状曲げ時のせん断力（②）の小さい方とします。（基礎梁）
- 保有の終局せん断力（①）とします。（一般階大梁）
- 両端降状曲げ時のせん断力（②）の小さい方とします。

（小梁および、あばら筋に高強度鉄筋を使用する大梁の場合）

①保有の終局せん断力（無孔梁せん断強度）

$$QD1=\left\{\frac{0.068\cdot Pt^{0.23}\cdot(Fc+18)}{M/Qd+0.12}+0.85\sqrt{Pw\cdot s\sigma y}\right\}b\cdot j$$

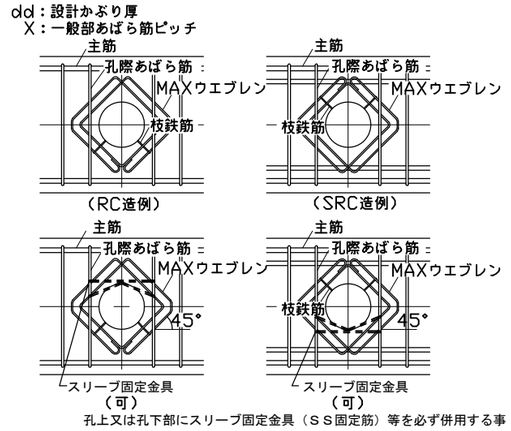
② 両端降状曲げ時のせん断力

$Qy = (LMy+RMy)/Lo$　$QD2=Qo+n\cdot Qy$

◉ 開孔部せん断終局強度〈QHu〉算定式：広沢式に強度低減係数（α）を乗じた下記式とします。（評定算定式）

$$Q_{HU}=\alpha\left\{\frac{0.053\cdot Pt^{0.23}\cdot(Fc+18)}{M/Qd+0.12}\left(1-\frac{1.61H}{D}\right)+0.85\sqrt{wPw\cdot w\sigma y+sPwo\cdot s\sigma y}\right\}b\cdot j$$

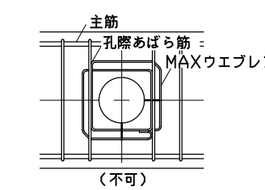
$$=\alpha\ (\ {}_tQ_{HU}+{}_tQ_{Hu}\ )\ b\cdot j \qquad \sigma=1.0$$



（２）補強設計せん断力〈QuD〉と開孔部せん断終局強度〈QHu〉の算定条件

（※補強量に係わる重要事項です。）

◉ 設計余裕率（補強設計用せん断力〈QuD〉に乗ずる割増率）	：1.1
◉ 主筋の降状曲げモーメント計算時の材料強度上昇係数	：1.1
◉ スラブ筋の降状曲げモーメント計算時の材料強度上昇係数	：1.1
◉ 梁上端の降状曲げモーメント及び引張鉄筋比の計算時に付加するスラブ筋量	：10本-D13（SD295A）・・・上部躯体
◉ 両端部降状曲げ時のせん断力に乗ずる割増係数（n）<QuD=Qo+n*Qy>	：1.1



メーカーを変更する場合には、上記計算条件および当該評定等の内容に基づき検討する事。

2015.11.13

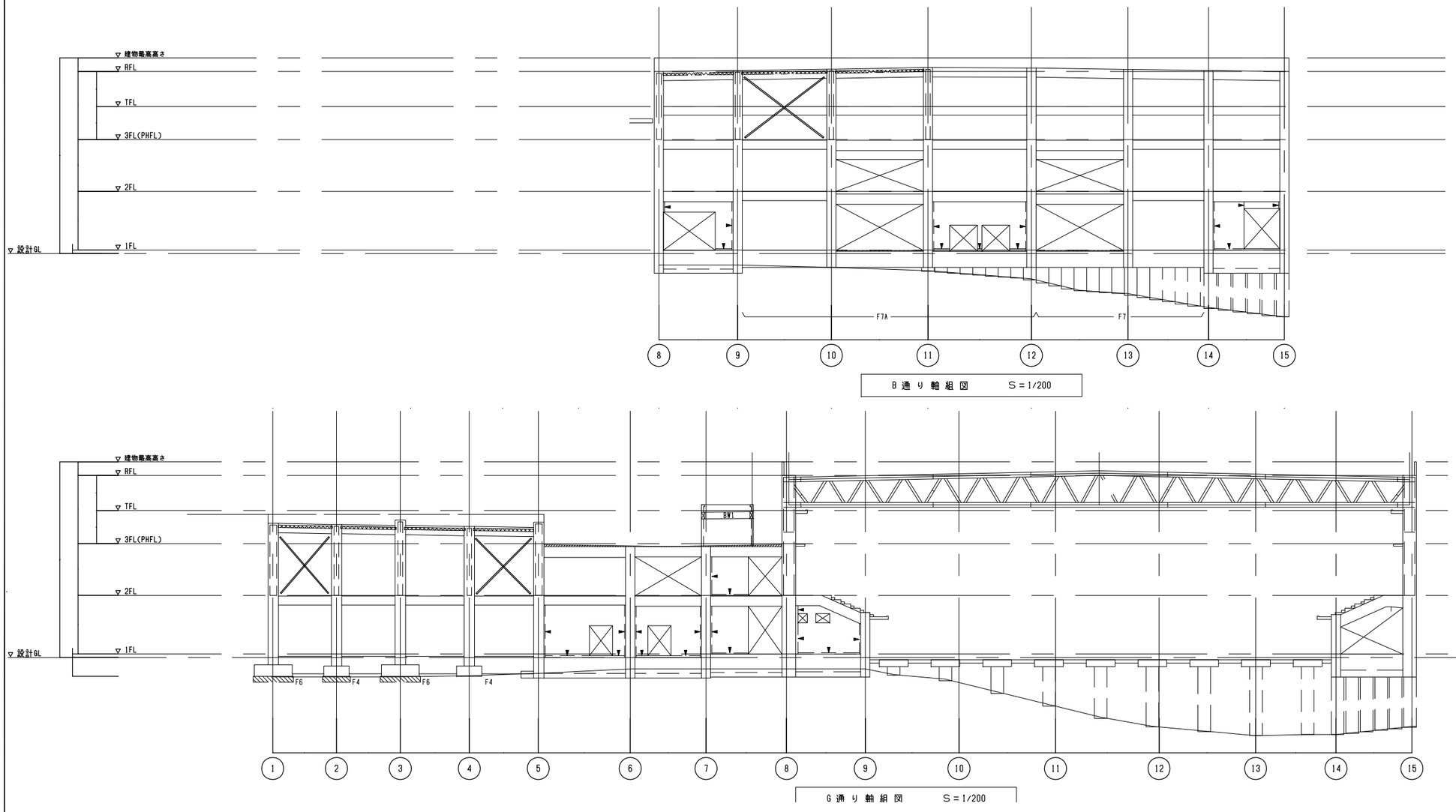
飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants　株式会社 梓設計　九州支社　一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者								法適合確認欄		検証者	
一級建築士		一級建築士		一級建築士		一級建築士		構造設計一級建築士			
第280187号		第312528号		第365088号		第138771号		第3038号			
中川 崇		?島 健夫		小林 紗矢		髙橋 敏夫		西田 修治		西田 修治	

飯塚市新体育館等建設工事	設計番号	16779	図面番号 S － 80
MAXウェブレン標準仕様書（参考図）	縮尺 A1: A3:	日付 2019.11.15	No

改訂：2016.09.01



B 通 り 軸 組 図　　S＝1/200

G 通 り 軸 組 図　　S＝1/200

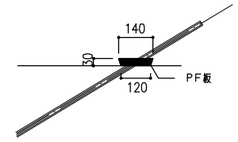
共通事項

1. ▨: 仮設梁を示す。
   断面は、部材リストによる。
   鉄骨材質　SS400
2. ✕: 鉛直ブレース　1−M22（ターンバックル付）
   G.PL−9　HTB 1−M22
3. 仮設補強材の露出部については、施工上の品質及び安全性が確認された後に切断すること。

鉛直ブレース切断要領

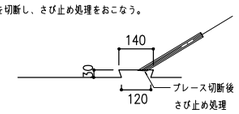
STEP1

・コンクリート打設前に切断位置にPF板を設置する。



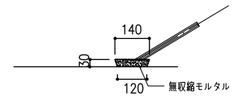
STEP2

・コンクリート打設後PF板を外す
・鉛直ブレースを切断し、さび止め処理をおこなう。

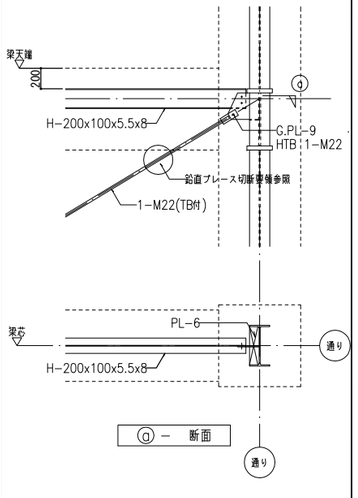


STEP3

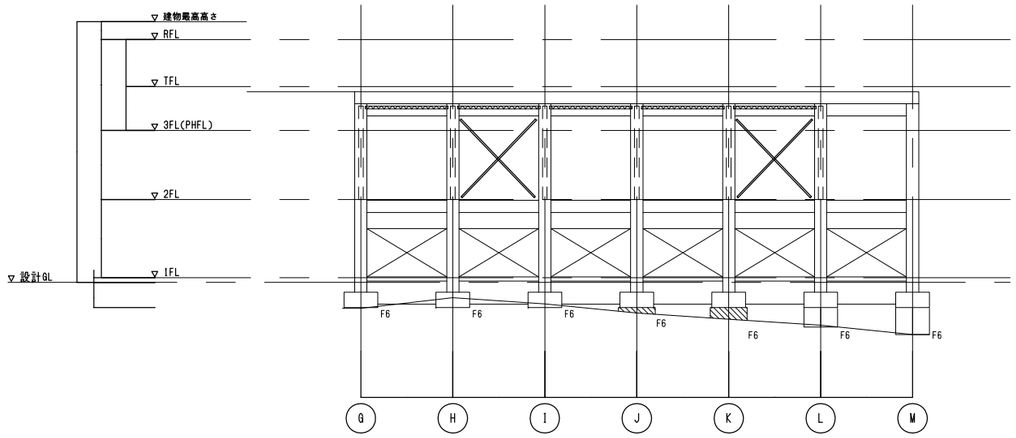
・無収縮モルタルで穴埋めする



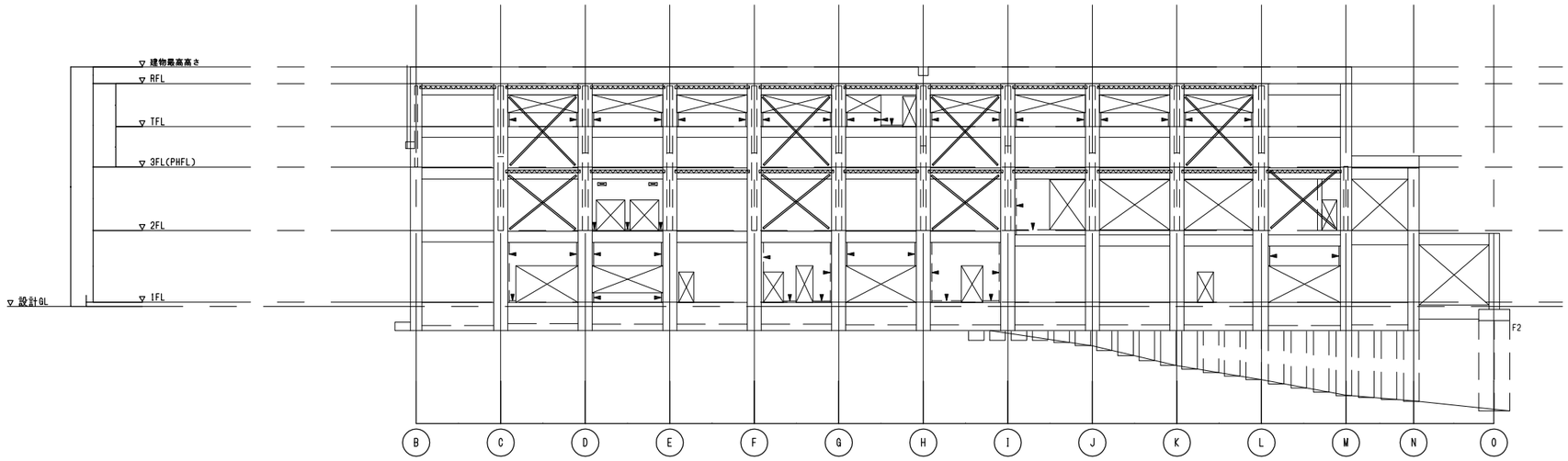
接合部詳細図　1/30



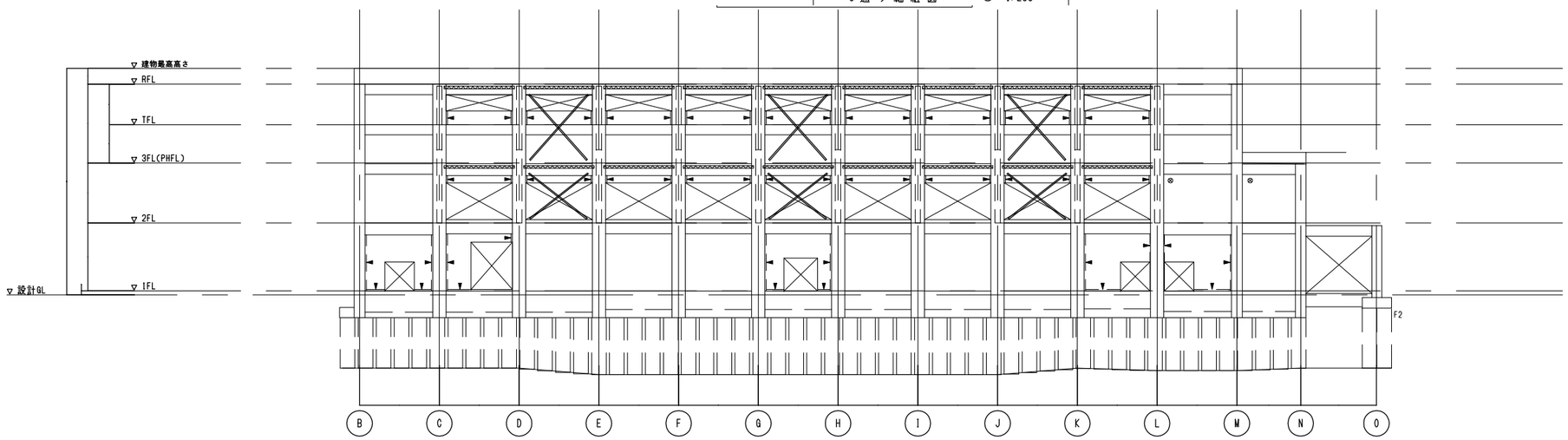
| | | |



1 通 り 軸 組 図　　S = 1/200



8 通 り 軸 組 図　　S = 1/200



15 通 り 軸 組 図　　S = 1/200

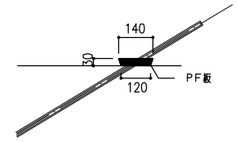
共通事項

1. ▨: 仮設梁を示す。
   断面は、部材リストによる。
   鉄骨材質　SS400
2. ✕: 鉛直ブレース　1−M22（ターンバックル付）
   G.PL−9　HTB 1−M22
3. 仮設補強材の露出部については、施工上の品質及び安全性が確認された後に切断すること。

鉛直ブレース切断要領

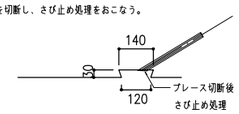
STEP1

・コンクリート打設前に切断位置にPF板を設置する。



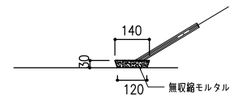
STEP2

・コンクリート打設後PF板を外す
・鉛直ブレースを切断し、さび止め処理をおこなう。

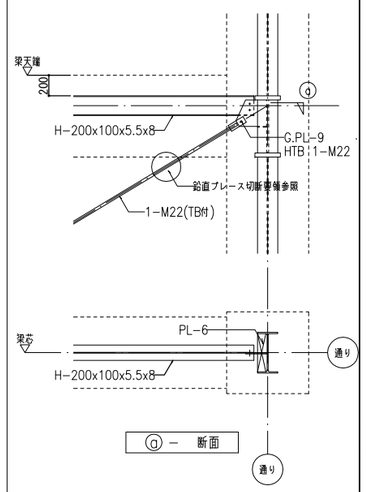


STEP3

・無収縮モルタルで穴埋めする



接合部詳細図　1/30



ⓐ − 断面

| | | |

Zルーフ Ⅱ 型屋根設計・施工標準（30分耐火）

設計・施工は、日本鉄鋼連盟「デッキプレート床構造設計・施工規準」による。

※デッキプレートは本図記載の同等品使用のこと。

設　　計

1．材料／デッキプレート屋根

デッキ名	材　　質	品　　種
■Z-02-1.0（同等品） □Z-02-1.2	■SGLC400	溶融55%アルミニウム－ 亜鉛合金めっき鋼板
□ZC-02-1.0 □ZC-02-1.2	□CGLC400	塗装溶融55%アルミニウム －亜鉛合金めっき鋼板
□裏張材	□ﾌｫﾑｴｰｽ4mm	無機質高充てん フォームプラスチック

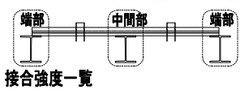
2．梁（母屋）との接合

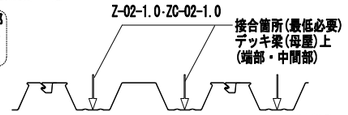
■焼抜き栓溶接（φ18以上）	梁（母屋）板厚（t）≧6mm	下記の接合箇所の項によって決定する。
□発射打込みびょう		
□ドリリングタッピンネジ（φ6、L=25mm以上）	梁（母屋）板厚（t）≦6mm	
□ドリリングタッピンネジ（φ6、L=35mm以上）	梁（母屋）板厚（t）≦12mm	
□その他		

注）発射打込みびょうの場合、「梁（母屋）板厚」の最大値は32mm。

接合箇所
デッキ幅方向

接合部の作用する荷重に応じて接合箇所の個数を決定する。
デッキ端部梁（母屋）上　Ns=Ws×100/1.5Paかつ2ケ所/デッキ1枚以上
デッキ中間部梁（母屋）上　Nc=Wc×100/1.5Paかつ2ケ所/デッキ1枚以上
Pa：接合部1個当りの長期許容引張り力(N)
Ws：デッキ端部梁（母屋）上部に作用する設計最大荷重(N/m)
Wc：デッキ中間部梁（母屋）上部に作用する設計最大荷重(N/m)
Ns：デッキ端部梁（母屋）上の接合箇所数/1m幅
Nc：デッキ中間部梁（母屋）上の接合箇所数/1m幅



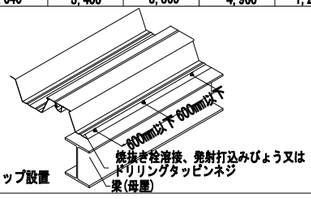


接合強度一覧

接合部固定強度　(N/箇所)

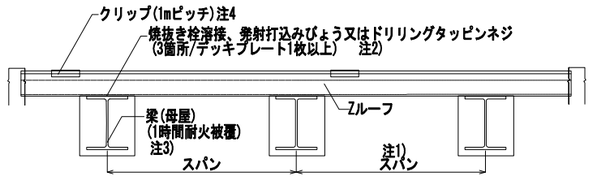
梁の厚み	板厚	ﾄﾞﾘﾘﾝｸﾞﾀｯﾋﾟﾝﾈｼﾞ6X25以上		発射打ち込み鋲		焼抜き栓溶接	
		端部	中間部	端部	中間部	端部	中間部
2.3mm以上	1.0mm	1,250	1,570	－	－	－	－
	1.2mm	1,250	1,570	－	－	－	－
3.2mm以上	1.0mm	1,250	2,330	－	－	－	－
	1.2mm	1,250	2,630	－	－	－	－
6mm以上	1.0mm	1,250	2,960	2,620	4,360	1,120	2,480
	1.2mm	1,640	3,400	3,360	4,960	1,290	2,480

デッキスパン方向



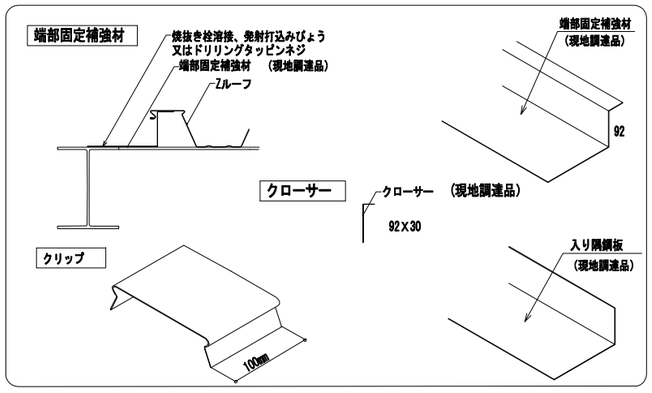
3．耐火仕様

耐火30分認定番号	デッキ名	デッキの板厚	デッキ敷き込み条件	支持スパン
FP030RF-0209 FP030RF-1716（裏張付）	Z-02-1.0 Z-02-1.2	1.0mm	単純支持	3.5m以下
FP030RF-0529 FP030RF-1718（裏張付）	ZC-02-1.0 ZC-02-1.2	1.2mm	連続支持	4.0m以下



注1）スパンとは梁（母屋）の中心間距離を言う。
注2）梁（母屋）との接合は、焼抜き栓溶接、発射打込みびょう又はドリリングタッピンネジを用いる。
注3）梁（母屋）の耐火被覆　梁（母屋）に1時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じ耐火被覆を施す。
注4）クリップは、1mピッチでデッキ凸部に嵌合設置する。

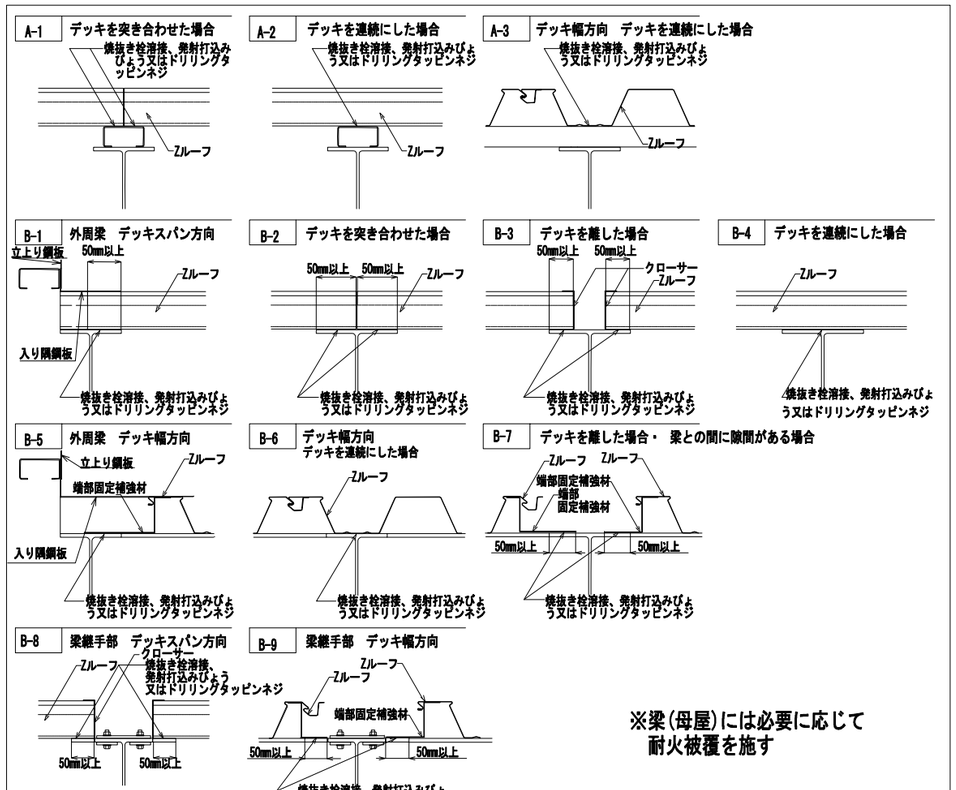
4．アクセサリー



特　　記　クリップ設置

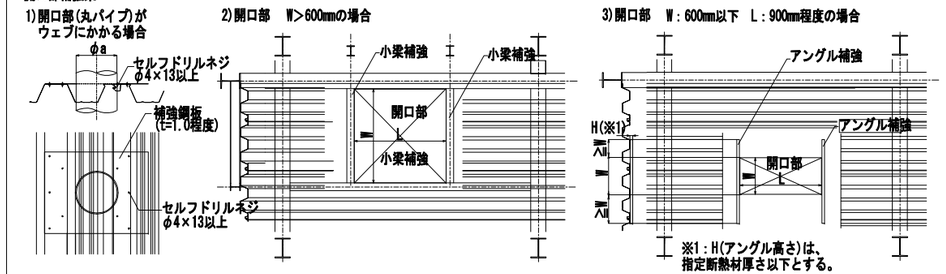
その他	Zルーフ凸部分には、クリップを1mピッチで嵌合設置する。

標　準　納　ま　り



※梁（母屋）には必要に応じて
耐火被覆を施す

開口部補強案



2016/10/24

施工

施工順序

墨出し
↓
クリップ設置
敷込み仮止め溶接
↓
デッキと梁（母屋）との接合
1）焼抜き栓溶接
2）発射打込みびょう
3）ドリリングタッピンネジ
↓
検査

敷　込　み

1）墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数（5～10枚）ごとに敷き並べ、所定箇所にクリップを設置し仮止め溶接する。

2）デッキプレートの溝部が各梁（母屋）上に乗るように敷込む。（50mm以上）

3）デッキプレートの長さ方向の梁（母屋）上のかかり幅は、50mm以上に敷込む。

デッキと梁（母屋）との接合

焼抜き栓溶接[SPW]
ーアーク手溶接ー

平成14年4月16日国土交通省告示第326号に基づき、下記の仕様とする。

(1) 溶接機：交流アーク溶接機　AW250A以上　エンジン溶接機　230A以上
(2) 溶接棒：JIS D 4316、D 5016に定める低水素系被覆アーク溶接棒
　　棒径　4mmφのもの
(3) 標準溶接条件：右表

梁フランジ板厚	溶　接　電　流
6mm以上	190～230A（標準210A）

＊室内側のカラー塗装面の溶接焼けに注意し梁から溶接部がはみ出さない様に溶接願います。

(4) 溶接工の資格：JIS Z 3801、JIS Z 3841における基本級の有資格者
(5) 手順・要領：以下の1～4の順に行う。　(6)裏張り付は溶接での施工は不可です。

	工　程	手順・要領
1	アーク発生	デッキを梁（母屋）になじませ（隙間2mm以下）溶接棒をデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	デッキ焼抜き	溶接棒を若干引上げてアークを飛ばし、径10mm弱で“の”の字を描いてデッキを焼き抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁（母屋）上まで押込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ2～3回転しながら溶着。
4	整　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安：電流値210A（標準）の場合8秒程度

発射打込みびょう
ーヒルティーびょうー

(1) 使用工具：びょう打ち機（発射打込みびょう専用工具）
(2) びょう：ヒルティーびょう（X-EMP-19　L15ピン：JIS G 3502ピアノ線相当）
(3) 施工指導及び施工：びょうメーカーが責任施工又は施工指導を行う。
(4) 作業資格：びょうメーカーの作業者資格認定制度に基づき施工技術を修得した作業員が施工する。
(5) 手順・要領：以下の1～3の順に行う。

	工　程	手順・要領
1	びょう打ち機調整	梁（母屋）板厚に合った空砲と威力レベルをセットする。
2	びょう打ち	デッキを梁（母屋）になじませびょうを打つ。
3	立上がり長さ確認	検査用測定ゲージを用いて立上がり長さを確認する。

注1：開静な場所では発射音の対策に注意。
注2：詳細はびょうメーカーの施工要領に従って施工並びに検査を行う。

ドリリングタッピンネジ

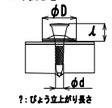
(1) 使用材料：鉄
(2) ネジ寸法：φ6×25mm以上
母屋板厚が厚い場合は、デッキと母屋に下穴を開けた後に、ネジを取り付ける。

検　　査

【焼抜き栓溶接（SPW）】
□事前検査
SPW：適性な溶接を行うため下記の方法で電流値をチェックする。
1）検波計での計測
2）溶接棒の消費長さによる確認　　未使用の規定の溶接棒を用いてアーク長さを約3mm保持し、10mm程度の円を描いて10秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが45～53mmであること。
□溶接後の外観検査
1）溶接箇所の確認　2）焼き切れ、余盛り不足の有無
3）標準余盛り径　SPW：19mm以上
□不良部の補修
SPWの場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。不具合箇所に溶接金属を流し込む要領で補修。
【その他】
1）デッキ相互の嵌合状況　2）開口部の補強状況
3）SPW施工結果報告提出：工事写真及び溶接技術者資格証写しを添付

【発射打込みびょう】
□事前検査
梁（母屋）板厚に合った空砲と威力をセットする。
空砲の種類及び選定についてはメーカーに確認。
□接合後の外観検査
1）検査用測定ケージを用いて立上がり長さを確認する。

ヒルティーびょう	
D	15
d	4.5
ℓ	8.2～9.8

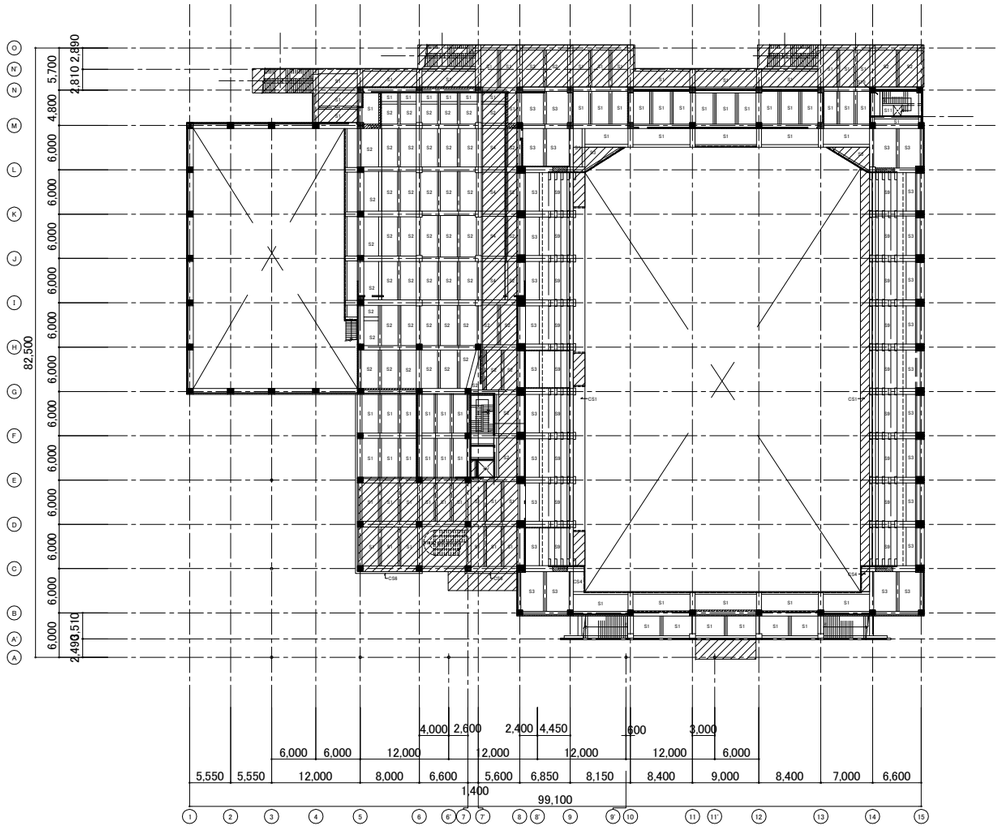


2）検査で不合格の場合は増打ちをする。
□不良部の補修
打びょうに失敗したびょうの頭部がじゃまして増し打ちができない場合は、グラインダーにてそのびょうの頭部とワッシャを取り除き、その隣でデッキスパン方向に10mm以内の増し打ちをする。

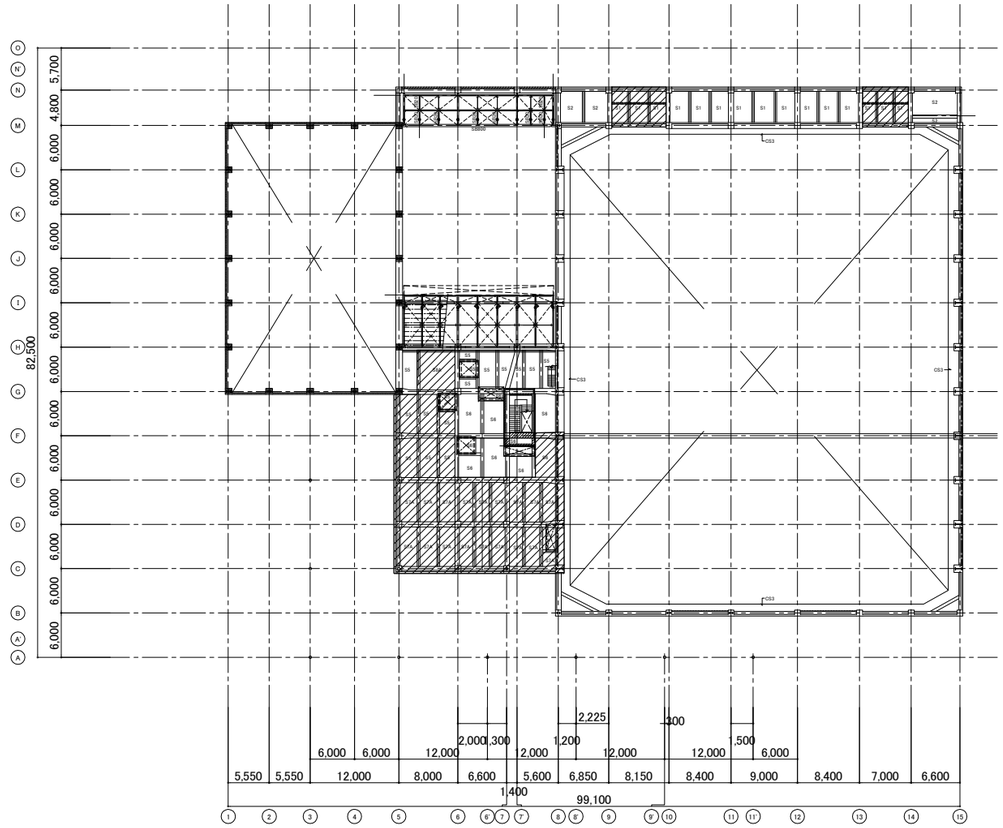
飯塚新体育館	AZUSA SEKKEI Architects,Engineers & Consultants	株式会社 梓設計　九州支社 一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号		設計者								法適合確認欄		検証者		飯塚市新体育館等建設工事		設計番号	図面番号
				一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士					構造設計一級建築士						16779	S － 083
				第280187号	第312528号	第365088号	第138771号					第3038号				デッキプレート標準仕様書		縮尺 1／A1：NS A3：NS	日付 2019.11.15
				中川 崇	酢島 健夫	小林 紗矢	髙橋 敏夫					西田 修治		西田 修治					

1998.12.02 制定　　2000.07.14 改訂

20191115 森村ビューロー管理用7版



（2階床伏図 ）



（2階床伏図 ）

(註)特記ナキ限リ
エリアは普通型枠

案 内 図　　S＝1/400

飯塚新体育館

AZUSA SEKKEI Architects, Engineers & Consultants

株式会社 梓設計　九州支社

一級建築士事務所 福岡県知事登録　第1-10078号

設計者				法適合確認欄	検証者
一級建築士	一級建築士	一級建築士	一級建築士	構造設計一級建築士	
第280187号	第312528号	第365088号	第138771号	第3038号	
中川　崇	酢島　健夫	小林　紗矢	高橋　敏夫	西田　修治	西田　修治

飯塚市新体育館等建設工事

案 内 図

設計番号	図面番号
16779	S － 084
縮尺 1／A1：400 A3：800	日付 2019.11.15
	No

20191015通刊ビューロ審査終了図